

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (日) &lt;\*A&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1) 日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) データ収集、データ分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習(予習・復習)

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
- 第2回 チームによる日本語分析(1)
- 第3回 チームによる日本語分析(2)
- 第4回 分担の決定+データ収集の方法
- 第5回 データについての報告
- 第6回 担当項目のチーム内検討(1)
- 第7回 担当項目のチーム内検討(2)
- 第8回 担当項目のチーム内検討(3)
- 第9回 受講生による報告(1)
- 第10回 受講生による報告(2)
- 第11回 受講生による報告(3)
- 第12回 受講生による報告(4)
- 第13回 受講生による報告(5)
- 第14回 受講生による報告(6)
- 第15回 レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも、さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (日) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

『南総里見八犬伝』を読む

授業の到達目標

・現代まで人気を保ち続ける馬琴の小説に触れ、読むことの面白さを体感する。・作品を提供することと享受することについて考える。・ベストセラーが生み出すサブカルチャーのありようを考える。

授業の概要

少しずつ読み進めながら、各回「私の読み方＝発見(八犬)伝」を披露していただきます。

準備学習(予習・復習)

教科書は全巻が収録されているわけではないので、興味をもった所は現代語訳の本文を読んでください。ネットサイトも充実しています。(下記参照)

内 容

- 第1回 導入(進め方やレジュメの作り方の説明)
- 第2回 八房と伏姫
- 第3回 信乃と額蔵
- 第4回 芳流閣
- 第5回 犬士見八と小文吾
- 第6回 玉の由来
- 第7回 五犬士集結
- 第8回 一角と妖怪
- 第9回 荘介、小文吾
- 第10回 毛野の仇討ち
- 第11回 犬江親兵衛の活躍
- 第12回 八犬士集結
- 第13回 連合軍結成
- 第14回 国府台、洲崎の戦い
- 第15回 大団円とまとめ

履修上の注意点

忘れずテキストを持参すること。事前に目を通してくること。

教科書

ビギナーズ・クラシックス『南総里見八犬伝』

著者: 石川博編

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2007

ISBN: 9.78404E+11

参考書

岩波文庫『南総里見八犬伝』1～10

著者: 小池藤五郎校訂

出版社: 岩波書店

出版年: 1990

ISBN:

新潮日本古典集成別巻『南総里見八犬伝』1～12

著者: 濱田啓介校訂

出版社: 新潮社

出版年: 2003-2004

ISBN:

ちくま学芸文庫『完本 八犬伝の世界』

著者: 高田 衛

出版社: 筑摩書房

出版年: 2005

ISBN: 448008940

復興する八犬伝

著者： 諏訪春雄、高田 衛

出版社： 勉誠出版

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

参加度には受講態度(積極性)を含みます。

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (日) &lt;\*C&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 福嶋 昭治	
テーマ 源氏物語のことばと心	
授業の到達目標 古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとって も、人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。	
授業の概要 前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ね ていく。	
準備学習(予習・復習) 予習としては、梗概書・便覧などによって授業で取り上げる巻巻の概要を確認しておくこと。復習としては、授業で取り上げた内 容を400字程度にまとめるという作業をすること。	
内 容 第1回 前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス 第2回 源氏物語という作品について 第3回 源氏物語が描く人生 第4回 源氏物語を読む方法 第5回 源氏物語を読む その1(光源氏の恋 理想と現実) 第6回 源氏物語を読む その2(光源氏の人生 栄耀も苦悩も豊かな人生) 第7回 源氏物語を読む その3(源氏物語の女君 その賢明さ) 第8回 後半の演習形式の授業についてのガイダンス 第9回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その1 第10回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その2 第11回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その3 第12回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その4 第13回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その5 第14回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その6 第15回 授業のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施する。	

## 履修上の注意点

## 教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

源氏物語評釈 全14冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他各種源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:



源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (日) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

書の基本の総合的学習

授業の到達目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識、技法の修得をめざす。

授業の概要

書の基本に関する講義と実習。

準備学習(予習・復習)

多くの書に接し鑑賞する機会を持つこと。特に古典の臨書をしっかりとすること、書の参考書を多く読むこと。

内 容

- 第1回 ミーティングと基本的知識調査。  
 第2回 基本的知識調査内容の解説。書学習のための心構え。  
 第3回 書とは何か。書の性格。  
 第4回 書とは何か。書の特徴。  
 第5回 書の今日的意味。これからの書。  
 第6回 書の線、造形について  
 第7回 墨の魅力。墨色について  
 第8回 姿勢、執筆の研究。  
 第9回 用筆、運筆の研究。  
 第10回 筆について。  
 第11回 表具について。  
 第12回 臨書と鑑賞。  
 第13回 臨書と創作。  
 第14回 書の創作とは。  
 第15回 まとめ。※なお、この授業では必要に応じて学外授業および外部講師による講演会を行うことがあります。

履修上の注意点

教科書

書の古典と理論

著者： 全国大学書道学会

出版社： 光村図書

出版年：

ISBN：

参考書

授業で紹介

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 30 )

レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(日) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

近現代小説の研究

授業の到達目標

1. 小説作品および参考文献の読解。2. 調査研究、資料収集。3. 収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4. 意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習(予習・復習)

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内 容

- 第1回 導入1(自己紹介、発表作品と日程の決定)
- 第2回 導入2(作品読解と調査研究の方法)
- 第3回 導入3(レジュメの作り方、発表準備)
- 第4回 発表1 芥川龍之介「杜子春」
- 第5回 発表2 梶井基次郎「冬の日」
- 第6回 発表3 太宰治「ヴィヨンの妻」
- 第7回 発表4 宮沢賢治「風の又三郎」
- 第8回 発表5 前半まとめ、レポートの書き方
- 第9回 発表6 宮沢賢治「注文の多い料理店」ほか
- 第10回 発表7 太宰治「桜桃」ほか
- 第11回 発表8 芥川龍之介「蜘蛛の糸」ほか
- 第12回 発表9 芥川龍之介「トロッコ」ほか
- 第13回 発表10 梶井基次郎「檸檬」ほか
- 第14回 発表11 梶井基次郎「城のある町にて」
- 第15回 発表12 後半まとめ、レポート提出

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

蜘蛛の糸

著者: 芥川龍之介

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3540

檸檬

著者: 梶井基次郎

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3544

桜桃

著者: 太宰治

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3547

注文の多い料理店

著者: 宮沢賢治

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2012

ISBN: 978-4-7584-3656

---

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 40% )  
参加度 ( 20% )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 40% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)〈\*B〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語のことばと心

授業の到達目標

古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとって、人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。

授業の概要

前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ねていく。

準備学習(予習・復習)

予習としては、梗概書・便覧などによって授業で取り上げる巻巻(授業のたびごとに次回の分を通知する)の概要を確認しておくこと。復習としては、授業で取り上げた内容を400字程度にまとめるという作業をすること。

内 容

- 第1回 前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス  
 第2回 源氏物語という作品について  
 第3回 源氏物語が描く人生  
 第4回 源氏物語を読む方法  
 第5回 源氏物語を読む その1(光源氏の恋 理想と現実)  
 第6回 源氏物語を読む その2(光源氏の人生 栄耀も苦悩も豊かな人生)  
 第7回 源氏物語を読む その3(源氏物語の女君 その賢明さ)  
 第8回 後半の演習形式の授業についてのガイダンス  
 第9回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その1  
 第10回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その2  
 第11回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その3  
 第12回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その4  
 第13回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その5  
 第14回 源氏物語に関わる課題の個人発表 その6  
 第15回 授業のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施する。

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全14冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他各種源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(日) &lt;\*C&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1) 日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) データ収集、データ分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習(予習・復習)

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
- 第2回 チームによる日本語分析(1)
- 第3回 チームによる日本語分析(2)
- 第4回 分担の決定+データ収集の方法
- 第5回 データについての報告
- 第6回 担当項目のチーム内検討(1)
- 第7回 担当項目のチーム内検討(2)
- 第8回 担当項目のチーム内検討(3)
- 第9回 受講生による報告(1)
- 第10回 受講生による報告(2)
- 第11回 受講生による報告(3)
- 第12回 受講生による報告(4)
- 第13回 受講生による報告(5)
- 第14回 受講生による報告(6)
- 第15回 レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも、さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(20)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(40)

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)〈\*D〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

書の基本の総合的学習

授業の到達目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識と技法の修得をめざす。

授業の概要

書の基本に関する講義と実習。特に王羲之を中心に据えて、これから学ぶための基礎的な用法を習得する

準備学習(予習・復習)

多くの書に接する機会を持つこと。臨書をしっかりすること。また書に関する参考書を多く読み、書への理解を深めること。

内 容

第1回 書体と書風

第2回 篆書の鑑賞と表現。

第3回 隷書の鑑賞と表現。

第4回 王羲之の書 姨母帖と初月帖

第5回 王羲之の書 喪乱帖

第6回 王羲之の書 孔侍中帖

第7回 王羲之の書 蘭亭序

第8回 王羲之の書 集王聖教序

第9回 王羲之の書 興福寺断碑

第10回 王羲之の書 十七帖

第11回 王羲之の書 淳化閣帖

第12回 王羲之の書 楽毅論

第13回 王羲之を学んだ歴代の書人(1)

第14回 王羲之を学んだ歴代の書人(2)

第15回 まとめ。 ※なお、この授業では必要に応じて外部講師による特別講演会を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

書聖 王羲之の書

著者: 吉川蕉仙

出版社: 二玄社

出版年: 2013

ISBN:

参考書

授業で紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 30 )

レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。



## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅰ〈\*a〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 20
履修条件	クラス指定
担当者 尾西 正成	
テーマ	
楷書の書法を理解し、表現力を身につける	
授業の到達目標	
初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。―書は人なり―と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書之美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。	
授業の概要	
楷書法の基本用筆と様々な個性的な楷書古典の魅力を探る	
準備学習(予習・復習)	
条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞、又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり	
内 容	
第1回	ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕
第2回	楷書の成立と変遷
第3回	孔子廟堂碑の基本点画
第4回	孔子廟堂碑の基本点画①
第5回	孔子廟堂碑 半紙臨書②
第6回	孔子廟堂碑 半紙臨書③
第7回	孔子廟堂碑 半切臨書①
第8回	孔子廟堂碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
第9回	関中本千字文 基本点画
第10回	関中本千字文 半紙臨書①
第11回	関中本千字文 半紙臨書②
第12回	関中本千字文 半紙臨書③
第13回	関中本千字文 半切臨書①
第14回	関中本千字文 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
第15回	倣書作品の制作 *条幅臨書作品の互評会を行う
履修上の注意点	
教科書	
中国法書選32孔子廟堂碑	
著者:	
出版社: 二玄社	
出版年: 1990	ISBN:
中国法書選28関中本千字文	
著者:	
出版社: 二玄社	
出版年: 1990	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (80)	授業中発表等 (0)
参加度 (20)	
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい	

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅰ〈\*b〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 20
履修条件	クラス指定
担当者 尾西 正成	
テーマ	
楷書の書法を理解し、表現力を身につける	
授業の到達目標	
初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。一書は人なり—と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書之美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。	
授業の概要	
楷書法の基本用筆と様々な個性的な楷書古典の魅力を探る	
準備学習(予習・復習)	
条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞、又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり	
内 容	
第1回 ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕	
第2回 楷書の成立と変遷	
第3回 孔子廟堂碑の基本点画	
第4回 孔子廟堂碑の基本点画①	
第5回 孔子廟堂碑 半紙臨書②	
第6回 孔子廟堂碑 半紙臨書③	
第7回 孔子廟堂碑 半切臨書①	
第8回 孔子廟堂碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う	
第9回 関中本千字文 基本点画	
第10回 関中本千字文 半紙臨書①	
第11回 関中本千字文 半紙臨書②	
第12回 関中本千字文 半紙臨書③	
第13回 関中本千字文 半切臨書①	
第14回 関中本千字文 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う	
第15回 倣書作品の制作 *条幅臨書作品の互評会を行う	
履修上の注意点	
教科書	
中国法書選32孔子廟堂碑	
著者:	
出版社: 二玄社	
出版年: 1990	ISBN:
中国法書選28関中本千字文	
著者:	
出版社: 二玄社	
出版年: 1990	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (80)	授業中発表等 (0)
参加度 (20)	
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい	

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅱ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と・遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の概要

楷書法の多様な展開を学び、個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習(予習・復習)

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画
- 第4回 張猛龍碑 半紙臨書①
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書②
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書①
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書② \*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第8回 ※遂良の楷書について
- 第9回 雁塔聖教序の基本点画
- 第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書①
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書② \*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第14回 魏晉小楷・王羲之
- 第15回 顔真卿の楷書 \*条幅臨書作品の互評会を行う

履修上の注意点

教科書

中国法書選23張猛龍碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選34雁塔聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅱ &lt;\* b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 20
履修条件	クラス指定
担当者 尾西 正成	
テーマ	
楷書の書法を理解し、表現力を身につける。	
授業の到達目標	
初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と・遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。	
授業の概要	
楷書法の多様な展開を学び、個性的な楷書古典の魅力を探る	
準備学習(予習・復習)	
展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。	
内 容	
第1回 北魏の書について	
第2回 張猛龍碑について	
第3回 張猛龍碑の基本点画	
第4回 張猛龍碑 半紙臨書①	
第5回 張猛龍碑 半紙臨書②	
第6回 張猛龍碑 半切臨書①	
第7回 張猛龍碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う	
第8回 ※遂良の楷書について	
第9回 雁塔聖教序の基本点画	
第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①	
第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②	
第12回 雁塔聖教序 半切臨書①	
第13回 雁塔聖教序 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う	
第14回 第14回 魏晉小楷・王羲之	
第15回 第15回 顔真卿の楷書 *条幅臨書作品の互評会を行う	
履修上の注意点	
教科書	
中国法書選23張猛龍碑	
著者:	
出版社: 二玄社	
出版年: 1990	ISBN:
中国法書選34雁塔聖教序	
著者:	
出版社: 二玄社	
出版年: 1990	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (80)	授業中発表等 (0)
参加度 (20)	
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい	

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅲ &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	20
履修条件	クラス指定	
担当者 橋本 二三		
テーマ	臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。	
授業の到達目標	基本的なかな書法の修得。	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)	豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅ですべて復習と予習を重ねること。	
内 容	<p>第1回 高野切について</p> <p>第2回 高野切第三種の書について</p> <p>第3回 高野切第三種の臨書①&lt;用字・造形・連綿法等&gt;</p> <p>第4回 高野切第三種の臨書②&lt;用字・造形・連綿法等&gt;</p> <p>第5回 高野切第三種の臨書③&lt;用字・造形・連綿法等&gt;</p> <p>第6回 高野切第三種の臨書①&lt;線運動・墨法・構成等&gt;</p> <p>第7回 高野切第三種の臨書②&lt;線運動・墨法・構成等&gt;</p> <p>第8回 高野切第三種の臨書③&lt;線運動・墨法・構成等&gt;</p> <p>第9回 高野切第三種の背臨</p> <p>第10回 高野切第三種の集字</p> <p>第11回 高野切第三種の倣書</p> <p>第12回 高野切第一種の書について</p> <p>第13回 高野切第一種の臨書①&lt;用字・造形・連綿法等&gt;</p> <p>第14回 高野切第一種の臨書②&lt;用字・造形・連綿法等&gt;</p> <p>第15回 高野切第一種の臨書③&lt;用字・造形・連綿法等&gt;</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>日本名筆選「高野切第三種」</p> <p>著者:</p> <p>出版社: 二玄社</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>日本名筆選「高野切第一種」</p> <p>著者:</p> <p>出版社: 二玄社</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>参考書</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (80) 授業中発表等 (0)</p> <p>参加度 (20)</p> <p>授業中課題には提出物とレポートを含む 授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅲ &lt;\* b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 20
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 二三	
テーマ 臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。	
授業の到達目標 基本的なかな書法の修得。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 豊かな表現力に養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。	
内 容 第1回 高野切について 第2回 高野切第三種の書について 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等> 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等> 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等> 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等> 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等> 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等> 第9回 高野切第三種の背臨 第10回 高野切第三種の集字 第11回 高野切第三種の倣書 第12回 高野切第一種の書について 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等> 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等> 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>	
履修上の注意点	
教科書 日本名筆選「高野切第三種」 著者： 出版社：二玄社 出版年： ISBN： 日本名筆選「高野切第一種」 著者： 出版社：二玄社 出版年： ISBN：	
参考書	
成績評価 試験・レポート（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。	

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅳ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的な書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内 容

- 第1回 高野切第一種の臨書①〈線運動・墨法・構成等〉  
 第2回 高野切第一種の臨書②〈線運動・墨法・構成等〉  
 第3回 高野切第一種の臨書③〈線運動・墨法・構成等〉  
 第4回 高野切第一種の背臨  
 第5回 高野切第一種の集字  
 第6回 高野切第一種の倣書  
 第7回 寸松庵色紙について  
 第8回 寸松庵色紙の臨書①〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉  
 第9回 寸松庵色紙の臨書②〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉  
 第10回 寸松庵色紙の臨書③〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉  
 第11回 寸松庵色紙の臨書④〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉  
 第12回 寸松庵色紙の集字  
 第13回 寸松庵色紙の倣書  
 第14回 寸松庵色紙の倣書  
 第15回 寸松庵色紙の倣書

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第一種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選「寸松庵色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅳ〈\*b〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 20
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 二三	
テーマ 臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。	
授業の到達目標 基本的なかな書法の修得。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。	
内 容 第1回 高野切第一種の臨書①〈線運動・墨法・構成等〉 第2回 高野切第一種の臨書②〈線運動・墨法・構成等〉 第3回 高野切第一種の臨書③〈線運動・墨法・構成等〉 第4回 高野切第一種の背臨 第5回 高野切第一種の集字 第6回 高野切第一種の倣書 第7回 寸松庵色紙について 第8回 寸松庵色紙の臨書①〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉 第9回 寸松庵色紙の臨書②〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉 第10回 寸松庵色紙の臨書③〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉 第11回 寸松庵色紙の臨書④〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉 第12回 寸松庵色紙の集字 第13回 寸松庵色紙の倣書 第14回 寸松庵色紙の倣書 第15回 寸松庵色紙の倣書	
履修上の注意点	
教科書 日本名筆選「高野切第一種」 著者： 出版社：二玄社 出版年： ISBN： 日本名筆選「寸松庵色紙」 著者： 出版社：二玄社 出版年： ISBN：	
参考書	
成績評価 試験・レポート（0） 小テスト（0） 授業中課題（80） 授業中発表等（0） 参加度（20） 授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。	



## 2017 Syllabus

科目名 日本語学概説 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 鳥谷 善史	

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する。

授業の到達目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「音声・音韻」「文字・表記」について、それぞれの研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の概要

日本語学の研究分野である「音声・音韻」「文字・表記」について講義をおこなう。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習:それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス 日本語と日本語学 言語研究とその分野1
- 第2回 言語研究とその分野2 日本語の系統
- 第3回 音声・音韻1
- 第4回 音声・音韻2
- 第5回 音声・音韻3
- 第6回 音声・音韻4
- 第7回 音声・音韻5
- 第8回 音声・音韻6
- 第9回 音声・音韻7 まとめと小テスト
- 第10回 文字・表記1
- 第11回 文字・表記2
- 第12回 文字・表記3
- 第13回 文字・表記4
- 第14回 文字・表記5
- 第15回 文字・表記6 まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

図解日本語

著者: 沖森卓也他著

出版社: 三省堂

出版年: 2006

ISBN: 9.78439E+12

参考書

日本語概説

著者: 沖森卓也編

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 9.78425E+12

日本語学のしくみ

著者: 町田健編

出版社: 研究社

出版年: 2001

ISBN: 432738304X

改訂版日本語要説

著者: 工藤浩他著

出版社: ひつじ書房

出版年: 2009

ISBN: 9.78489E+12

日本語概説

著者： 渡辺実著

出版社： 岩波書店

出版年： 1996

ISBN： 4000260022

ベーシック現代の日本語学

著者： 日野資成

出版社： ひつじ書房

出版年： 2009

ISBN： 9.78489E+12

朝倉日本語講座全10巻

著者： 北原保雄監修

出版社： 朝倉書店

出版年： May-02

ISBN： 9.78425E+12

概説日本語学 改訂版

著者： 飯田晴巳他編

出版社： 明治書院

出版年： 2007

ISBN： 9.78463E+12

---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（60）

授業中課題（）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語学概説Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 鳥谷 善史	

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する

授業の到達目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語(待遇表現、位相語、文章と文体、他)」について、その研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の概要

日本語学の研究分野である、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語(待遇表現、位相語、文章と文体、他)」について講義を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習:それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス 語彙1
- 第2回 語彙2
- 第3回 語彙3
- 第4回 語彙4
- 第5回 語彙5
- 第6回 語彙6
- 第7回 語彙7 まとめと小テスト
- 第8回 文法1
- 第9回 文法2
- 第10回 文法3
- 第11回 文法4
- 第12回 文法5
- 第13回 文法6
- 第14回 現代生活と日本語1(待遇表現)
- 第15回 まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

図解日本語

著者: 沖森卓也他著

出版社: 三省堂

出版年: 2006

ISBN: 9.78439E+12

参考書

日本語概説

著者: 沖森卓也編

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 9.78425E+12

日本語学のしくみ

著者: 町田健編

出版社: 研究社

出版年: 2001

ISBN: 432738304X

改訂版日本語要説

著者： 工藤浩他著

出版社： ひつじ書房

出版年： 2009

ISBN： 978489476468-2

日本語概説

著者： 渡辺実著

出版社： 岩波書店

出版年： 1996

ISBN： 4000260022

ベーシック現代の日本語学

著者： 日野資成

出版社： ひつじ書房

出版年： 2009

ISBN： 9.78489E+12

朝倉日本語講座全10巻

著者： 北原保雄監修

出版社： 朝倉書店

出版年： May-02

ISBN： 9.78425E+12

概説日本語学 改訂版

著者： 飯田晴巳他編

出版社： 明治書院

出版年： 2007

ISBN： 9.78463E+12

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 30 )

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本文学史 I

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本の古典文学と芸能について学ぶ

授業の到達目標

日本の古典文学に対する幅広い教養を身につける。日本語による文化の豊かさにふれ自らの感性でとらえる。

授業の概要

上代、中古、中世、近世という時代区分に従いつつ、日本文学の歴史と特質を学ぶ。なお具体的な内容については適宜変更することもありうる。

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの解説に目を通しておくこと。授業後は用意された課題に取り組むこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
- 第2回 上代文学1 『古事記』
- 第3回 上代文学2 『万葉集』
- 第4回 中古文学1 『竹取物語』
- 第5回 中古文学2 『源氏物語』
- 第6回 中世文学1 『新古今和歌集』
- 第7回 中世文学2 『平家物語』
- 第8回 中世文学3 『徒然草』
- 第9回 近世文学1 松尾芭蕉
- 第10回 近世文学2 近松門左衛門
- 第11回 近世文学3 上田秋成
- 第12回 写本と版本
- 第13回 芸能と文学 《能》
- 第14回 芸能と文学 《浄瑠璃・歌舞伎》
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。遅刻と途中退出をしないように。課題は必ず提出すること。

教科書

新編これからの日本文学

著者：丸山顕徳、西端幸雄ほか

出版社：金壽堂出版

出版年：2007

ISBN:

参考書

岩波講座日本文学史

著者：久保田淳、藤井貞和ほか

出版社：岩波書店

出版年：1995-97

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(20)

授業中課題(60)

授業中発表等(0)

参加度(20)

小テストは授業の進捗状況に応じて適宜実施する

## 2017 Syllabus

科目名 日本文学史Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本近代文学史

授業の到達目標

①近代文学について、主要作家・作品についての知識を得て、おおよその流れを理解する。②近代文学を研究する際の問題意識を養う。③小説作品を分析的・批評的に読む読解力を養う。④作品についての自分の感想や意見を発表する発信力を養う。

授業の概要

明治時代に書かれた日本近代文学について、知識と理解を深めること、合わせて主な作品を読み味わうことを目標に授業を行う。また、近代文学の影響下に成立した現代小説についても、解説的に言及する。主として講義形式を進めるが、随時、グループでの意見交換とその発表の機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品については通読すること。その作家の他作品、同時代の他の作家、時代背景などについても、積極的に学習すること。(予習・復習の成果を小レポートで報告することも課題とする。)

内 容

- 第1回 ガイダンス及び概説
- 第2回 近代文学の曙 坪内逍遙と二葉亭四迷
- 第3回 森鷗外『舞姫』
- 第4回 森鷗外『舞姫』
- 第5回 樋口一葉『たけくらべ』
- 第6回 樋口一葉『たけくらべ』
- 第7回 泉鏡花『高野聖』
- 第8回 泉鏡花『高野聖』
- 第9回 夏目漱石『三四郎』
- 第10回 夏目漱石『三四郎』
- 第11回 夏目漱石『三四郎』
- 第12回 谷崎潤一郎『刺青』
- 第13回 谷崎潤一郎『刺青』
- 第14回 大正文学への潮流
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

板書や配布資料に頼りすぎずに、講義内容をノートに控えること。要点を聞き取ろうと努め、自分の文章でまとめることが理解を助けます。

教科書

明治文藝名作散歩

著者：みぎわ書房 編

出版社：白地社

出版年：

ISBN：4-89359-237-8

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (10%)

期末試験はレポート形式とする。

## 2017 Syllabus

科目名 中学書写 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 大江 加津雄	
テーマ	
中学校学習指導要領における「書写」の学習。	
授業の到達目標	
漢字の楷書や行書の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書の基本と応用を学習する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許(国語)習得に役立てる。	
授業の概要	
中学書写で必要な知識とともに、書写の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習など積極的に取り組んでほしい。	
内 容	
第1回	小中学校における書写教育の現状と課題①
第2回	小中学校における書写教育の現状と課題②
第3回	楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)①
第4回	楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)②
第5回	楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)③
第6回	行書の学習 I (中学書写2.3年テキストを使って)①
第7回	行書の学習 I (中学書写2.3年テキストを使って)②
第8回	行書の学習 I (中学書写2.3年テキストを使って)③
第9回	行書の学習 II (中学書写2.3年テキストを使って)①
第10回	行書の学習 II (中学書写2.3年テキストを使って)②
第11回	行書の学習 II (中学書写2.3年テキストを使って)③
第12回	学習指導案の作成①
第13回	学習指導案の作成②
第14回	学習指導案の作成③
第15回	学習指導案の作成④
履修上の注意点	
書の実習に伴う書道用具を持参のこと	
教科書	
中学書写一年	
著者:	井上輝夫他
出版社:	光村図書
出版年:	ISBN:
中学書写二三年	
著者:	井上輝夫他
出版社:	光村図書
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (20)	小テスト (0)
授業中課題 (40)	授業中発表等 (20)
参加度 (20)	
課題に対して積極的に取り組む態度、授業での意欲的な学習態度、出席率を総合的に判断し、評価する	

## 2017 Syllabus

科目名 中学書写 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 吉見 靖子	
テーマ	
中学校学習指導要領における「書写」の学習。	
授業の到達目標	
漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。	
授業の概要	
中学書写で必要な知識とともに、書の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対する予習や復習に努めてほしい	
内 容	
第1回	書写と書道について
第2回	小中学校教育における現状を知る
第3回	平仮名の学習
第4回	片仮名の学習
第5回	仮名と漢字との調和について
第6回	楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)①
第7回	楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)②
第8回	楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)③
第9回	行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)①
第10回	行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)②
第11回	行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)③
第12回	中学教育における古典の位置と意義
第13回	用具用材の工夫による学習①
第14回	用具用材の工夫による学習②
第15回	書写と書道の関わりと問題点について
履修上の注意点	
書の実習に伴う書道用具を持参のこと	
教科書	
中学書写一年	
著者:	井上輝夫他
出版社:	光村図書
出版年:	ISBN:
中学書写二三年	
著者:	井上輝夫他
出版社:	光村図書
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (60)	授業中発表等 (20)
参加度 (20)	
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する	



## 2017 Syllabus

科目名 中学書写Ⅱ〈a〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	大江 加津雄	
テーマ	中学校学習指導要領における「書写」の学習	
授業の到達目標	前期で習得した楷書・行書の実技力を活かして学習指導案を作成し、その学習指導案を元に実践的な授業研究を実施する。文部科学省が作成した中学校学習指導要領の目的に沿って、実践力を身に付け、中学校教員免許(国語)習得に役立てる。	
授業の概要	模擬授業を行い、中学校での実践的な書写指導力を身につける。	
準備学習(予習・復習)	前期で学んだ実技力を活かし、各授業に対して積極的に謙虚に取り組んでほしい。	
内 容	第1回 中学書写1年生模擬授業① 第2回 中学書写1年生模擬授業② 第3回 中学書写1年生模擬授業③ 第4回 中学書写1年生模擬授業④ 第5回 中学書写1年生模擬授業⑤ 第6回 中学書写2年生模擬授業① 第7回 中学書写2年生模擬授業② 第8回 中学書写2年生模擬授業③ 第9回 中学書写2年生模擬授業④ 第10回 中学書写2年生模擬授業⑤ 第11回 中学書写3年生模擬授業① 第12回 中学書写3年生模擬授業② 第13回 中学書写3年生模擬授業③ 第14回 中学書写3年生模擬授業④ 第15回 中学書写3年生模擬授業⑤	
履修上の注意点	中学校での書写授業を想定して、想像力を活かして模擬授業に積極的に取り組んでほしい。	
教科書	中学書写一二三年 著者： 宮澤正明他 出版社： 光村図書 出版年： ISBN:	
参考書		
成績評価	試験・レポート (20) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (20) 参加度 (20)	
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する 2/3以上の出席がないと認定しない。		

## 2017 Syllabus

科目名 中学書写Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 吉見 靖子	
テーマ 中学校学習指導要領における「書写」の学習	
授業の到達目標 漢字と仮名の調和した書き方を理解し、その実技の習得を目的とする。授業研究によって現場における効果的な指導法を模索する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。中学校の教科書「中学書写」を用いて、楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。	
授業の概要 授業は実習を伴い、実際に書ける力を養う。	
準備学習(予習・復習) 書の実技に関しては、それまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対する予習や復習に努めてほしい。	
内 容 第1回 漢字と仮名の調和とは 第2回 半紙による楷書と仮名の調和(1) 第3回 半紙による行書と仮名の調和(2) 第4回 仮名の美について(1) 第5回 仮名の美について(2) 第6回 細字による仮名の学習～平安古筆をヒントとして～(1) 第7回 細字による楷書の学習～平安古筆をヒントとして～(2) 第8回 細字による行書の学習～平安古筆をヒントとして～(3) 第9回 半紙による漢字仮名交じりの書(1) 第10回 条幅による漢字仮名交じりの書(2) 第11回 実用に即した書(1) 第12回 実用に即した書(2) 第13回 実用に即した書(3) 第14回 生活の中に生きる芸術書 第15回 現代における書の必要性和これから	
履修上の注意点 書の実習に伴う書道用具を持参のこと	
教科書 中学書写一二三年 著者： 宮澤正明他 出版社： 光村図書 出版年： 参考書	ISBN:
成績評価 試験・レポート (0) 授業中課題 (60) 参加度 (20) 課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する 2/3以上の出席がないと認定しない	小テスト (0) 授業中発表等 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 漢文学Ⅰ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岩本 真利絵

テーマ

漢文学概説

授業の到達目標

中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の概要

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説(西遊記のようなもの)も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 漢文学を学ぶにあたって(プレゼンテーション)
- 第2回 中国の創生神話(伏羲・女媧・神農・黄帝のお話)
- 第3回 占いと漢字の誕生(殷・甲骨文字)
- 第4回 詩経と楚辞
- 第5回 歴史書の成立(春秋→史記→正史の確立)
- 第6回 儒学と経学
- 第7回 五言詩の登場
- 第8回 『世説新語』と『文選』
- 第9回 隠逸思想の系譜(老荘思想・竹林の七賢・陶淵明)
- 第10回 桃源郷と『搜神記』(志怪小説)
- 第11回 竟陵八友の詩と文
- 第12回 仏教の中国伝来と『高僧伝』
- 第13回 韓国・ベトナムの漢文学
- 第14回 日本の漢文学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

参考文献、参考書等は、授業中にその都度紹介する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (80)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 漢文学Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

漢文学概説

授業の到達目標

漢文学Ⅰを継続する。中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の概要

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説(西遊記のようなもの)も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているので、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。

内 容

- 第1回 後期授業の内容紹介
- 第2回 朝鮮半島の漢文学
- 第3回 小説の発生
- 第4回 日本の小説
- 第5回 長安と詩人Ⅰ
- 第6回 長安と詩人Ⅱ
- 第7回 日本の古典小説と中国
- 第8回 中国の音楽と詞
- 第9回 印刷術の発展
- 第10回 中国のオペラ
- 第11回 都市の繁栄と通俗小説
- 第12回 読書の歴史
- 第13回 水滸伝と民衆反乱
- 第14回 文学革命
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(80)

小テスト(0)

授業中課題(10)

授業中発表等(0)

参加度(10)

## 2017 Syllabus

科目名 篆刻Ⅰ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	小早川 修治	
テーマ	篆刻の歴史と印式・印例の理解	
授業の到達目標	篆刻理論の修得	
授業の概要	篆刻の歴史を通覧し、その後、印の種類・印式などを順を追って解説、篆刻に対する理解を深めるとともに、印のあり方を実作を通して習得する。	
準備学習(予習・復習)	篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。	
内 容	第1回 篆刻の歴史の解説 第2回 篆刻の種類と解説 第3回 篆刻の種類と解説 第4回 印式の解説 第5回 篆刻の手順の解説、印材の調整 第6回 白文＝字印の布字 第7回 " 刻と鈐印 第8回 朱文＝字印の布字 第9回 " 刻と鈐印 第10回 白文＝字印の布字 第11回 " 刻と鈐印 第12回 朱文＝字印の布字 第13回 " 刻と鈐印 第14回 白文＝字印の布字 第15回 " 刻と鈐印	
履修上の注意点		
教科書	新装版「書道講座」⑥篆刻 著者：西川 寧(編) 出版社：二玄社 出版年：2010 ISBN: 9.78454E+12	
参考書		
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 80 ) 授業中発表等 ( 10 ) 参加度 ( 10 )	

## 2017 Syllabus

科目名 篆刻Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 小早川 修治	
テーマ 刻印の技術の習得	
授業の到達目標 篆刻技術の習得	
授業の概要 「篆刻Ⅰ」で習得した印の理解の上に立ち、それらを実際に制作し、その技術の習得を目的とする。篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。それ故、普段から篆書に慣れ親しんでおくことが、技術習得の上で重要になってくる。「篆刻Ⅰ」を履修していることが望ましい。	
準備学習(予習・復習) 篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。	
内 容 第1回 側款の文章表現(漢文)、誰が、いつ刻したか 第2回 " どこで、誰の為に刻したか 第3回 側款の刻し方 第4回 白文四字印の布字 第5回 " 刻と鈐印 第6回 朱文四字印の布字 第7回 " 刻と鈐印 第8回 白文四字印の布字 第9回 " 刻と鈐印 第10回 朱文四字印の布字 第11回 " 刻と鈐印 第12回 白文四字印の布字 第13回 " 刻と鈐印 第14回 朱文四字印の布字 第15回 " 刻と鈐印	
履修上の注意点	
教科書 新装版「書道講座」⑥篆刻 著者：西川 寧(編) 出版社：二玄社 出版年：2010 ISBN: 9.78454E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト( ) 授業中課題(80) 授業中発表等(10) 参加度(10)	

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期前半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

日本の伝統文化への理解を深める

授業の到達目標

伝統文化それぞれの特質と歴史について知る。発表を通して読解力やプレゼンテーション能力を高める。

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、弓道、箏曲、居合道について学び、2限目はサークルの協力を得て体験します。なお、順序と一部の内容が変更する可能性があります。

準備学習(予習・復習)

グループごとに文献で調べた知識をどのようにまとめ、伝えるのかを十分話し合うこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 図書館で調べ方を学ぶ
- 第3回 弓道について
- 第4回 弓道体験
- 第5回 華道について
- 第6回 華道体験
- 第7回 箏曲について
- 第8回 箏曲体験
- 第9回 居合道について
- 第10回 居合道体験
- 第11回 書道について
- 第12回 書道体験
- 第13回 茶道について
- 第14回 茶道体験
- 第15回 まとめと後半の進め方について

履修上の注意点

グループ発表は全員で行うこと。体験学習はそれぞれの作法を守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期前半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 10代20代向けの小説	
授業の到達目標 1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行う。	
授業の概要 10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行いません。	
準備学習(予習・復習) 授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分(週に2時間程度)とする。学期末までにテキストを読了すること。	
内 容 第1回 ライトノベルとは何か 第2回 文庫化、漫画化による変化 第3回 香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」 第4回 荻原規子「RDG(レッドデータガール)」 第5回 あさのあつこ「NO. 6(ナンバーシックス)」 第6回 桜庭一樹「GOSICK(ゴシック)」 第7回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章 第8回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章 第9回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章 第10回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章 第11回 坂木司「和菓子のアン」第1章 第12回 坂木司「和菓子のアン」第2章 第13回 坂木司「和菓子のアン」第3章 第14回 坂木司「和菓子のアン」第4章 第15回 まとめ	
履修上の注意点 この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので、注意すること。	
教科書 和菓子のアン 著者： 坂木司 出版社： 光文社文庫 出版年： 2012 ISBN： 9.78433E+12 神去なあなあ日常 著者： 三浦しをん 出版社： 徳間文庫 出版年： 2012 ISBN： 9.7842E+12	
参考書 NO. 6 著者： あさのあつこ 出版社： 講談社文庫 出版年： ISBN：	



妖怪アパートの幽雅な日常

著者： 香月日輪

出版社： 講談社文庫

出版年： ISBN:

RDG

著者： 荻原規子

出版社： 角川文庫

出版年： ISBN:

GOSICK

著者： 桜庭一樹

出版社： 角川文庫

出版年： ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 60% )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日中言語比較

授業の到達目標

(1)外国語と比較して日本語の特徴を理解する (2)英語以外の外国語に触れる (3)海外の社会や文化に興味を持つ

授業の概要

グループワークを通じて外国語と比較したときに浮かび上がる日本語の特徴をまなぶ

準備学習(予習・復習)

はじめて中国語に触れる学生がほとんどだと予想されるので、とくに復習をちゃんとやっておくこと

内 容

- 第1回 日中言語比較 名詞(1)
- 第2回 課題への取り組みと小テスト
- 第3回 日中言語比較 名詞(2)
- 第4回 課題への取り組みと小テスト
- 第5回 日中言語比較 動詞(1)
- 第6回 課題への取り組みと小テスト
- 第7回 日中言語比較 動詞(2)
- 第8回 課題への取り組みと小テスト
- 第9回 日中言語比較 疑問文
- 第10回 課題への取り組みと小テスト
- 第11回 日中言語比較 打消
- 第12回 課題への取り組みと小テスト
- 第13回 日中言語比較 形容詞
- 第14回 課題への取り組みと小テスト
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

NHKの語学教材でいいので、授業を並行して中国語の学習をすることが望ましい(「テレビで中国語」がおすすめ)

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 安達 太郎	
テーマ 声の復権を目指す	
授業の到達目標 1)生き生きとしたプレゼンテーションができる。2)相互批評性を身につける。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。	
授業の概要 自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。	
内 容 第1回 言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～ 第2回 生き生きとしたプレゼンテーションとは 第3回 タスク1 ビブリオバトル(1)導入 第4回 タスク1 ビブリオバトル(2)グループワーク 第5回 タスク1 ビブリオバトル(3)本戦1 第6回 タスク1 ビブリオバトル(4)本戦2 第7回 タスク1 ビブリオバトル(5)本戦4 第8回 タスク1 ビブリオバトル(6)本戦5とビブリオバトルの振り返り 第9回 タスク2 歌合(1)導入 第10回 タスク2 歌合(2)グループワーク 第11回 タスク2 歌合(3)歌合本戦1 第12回 タスク2 歌合(4)歌合本戦2 第13回 タスク2 歌合(5)歌合本戦3 第14回 タスク2 歌合(6)歌合本戦4 第15回 タスク2 歌合(7)歌合本戦5と歌合の振り返り	
履修上の注意点 この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので、注意すること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 短歌パラダイス 著者: 小林恭二 出版社: 岩波書店 出版年: 1997 ISBN: 4-00-430498-9 ビブリオバトル 著者: 谷口忠大 出版社: 文藝春秋 出版年: 2013 ISBN: 4-16-660901-7	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (20%) 参加度 (30%)	小テスト ( ) 授業中発表等 (50%)



## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期後半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

京都・滋賀・大阪を舞台にした小説を読む

授業の到達目標

作品を通して、京都・滋賀・大阪の歴史と文化について学ぶ たくさん読書をする 読解力を付ける プレゼンテーション力を向上させる

授業の概要

グループで担当作品を選び、発表する。1限目に発表、2限目は全員で意見を述べ合う読書会形式とする。

準備学習(予習・復習)

担当作品については、どうすればよいプレゼンができるかをグループで十分話し合う。

内 容

- 第1回 図書館ガイダンス
- 第2回 グループワーク
- 第3回 グループ発表①
- 第4回 討論
- 第5回 グループ発表②
- 第6回 討論
- 第7回 グループ発表③
- 第8回 討論
- 第9回 グループ発表④
- 第10回 討論
- 第11回 グループ発表⑤
- 第12回 討論
- 第13回 グループ発表⑥
- 第14回 討論
- 第15回 振り返り

履修上の注意点

発表しない回の作品も必ず読んで授業に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期後半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 現代小説における古典芸能	
授業の到達目標 1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行なう。	
授業の概要 現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。	
準備学習(予習・復習) テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分(週あたり2時間)とする。	
内 容 第1回 古典芸能入門 第2回 歌舞伎、文楽、組踊 第3回 歌舞伎鑑賞 第4回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」序幕、二幕目 第5回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」三幕目 第6回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」四幕目 第7回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」五幕目 第8回 落語、浪曲、講談 第9回 落語鑑賞 第10回 田中啓文「ハナシがちがう!」第一話前半 第11回 田中啓文「ハナシがちがう!」第一話後半 第12回 田中啓文「ハナシがちがう!」第二話 第13回 田中啓文「ハナシがちがう!」第三話 第14回 池上永一「竹富島」前半 第15回 池上永一「竹富島」後半	
履修上の注意点	
教科書 カブキブ! 1 著者: 榎田ユウリ 出版社: 角川文庫 出版年: 2013 ISBN: 9.78404E+11 ハナシがちがう(笑酔亭梅寿謎解晰1) 著者: 田中啓文 出版社: 集英社文庫 出版年: 2006 ISBN: 9.78409E+12	
参考書 続ばる島(すばるしま) 著者: 池上永一 出版社: 角川文庫 出版年: ISBN: 仏果を得ず 著者: 三浦しをん 出版社: 双葉文庫 出版年: ISBN:	

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 60% )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

近代の俳句・短歌を鑑賞する

授業の到達目標

近代の俳句短歌の鑑賞を通じて、日本の言語文化に関して理解を深めるとともに、豊かな日本語表現力を修得する

授業の概要

近代日本の代表的な俳句・短歌を鑑賞すると同時に、自らも実作を行う。講義中、2回学外に出て吟行を行い、フォト俳句を作成する

準備学習(予習・復習)

随時課題の提出を求めていく

内 容

第1回 俳句と短歌の違い

第2回 恋をテーマにした短歌

第3回 日常をテーマにした俳句

第4回 日常をテーマにした短歌

第5回 第1回吟行(京都市立動物園)「動物」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る

第6回 第2回吟行(京都市立動物園)「動物」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る

第7回 課題発表

第8回 課題発表

第9回 自然をテーマにした俳句・短歌

第10回 心象風景をテーマにした俳句・短歌

第11回 第3回吟行(京都鉄道博物館)「鉄道」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌

第12回 第4回吟行(京都鉄道博物館)「鉄道」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌

第13回 課題発表

第14回 課題発表

第15回 老・病・死をテーマにした俳句・短歌

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加する

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )



## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ &lt;d&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期後半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)文学や歴史, 地理を総合的に理解することができる。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協同してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に, 文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って, タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 タスク3 群読(1)導入
- 第2回 タスク3 群読(2)万葉歌の群読
- 第3回 タスク3 群読(3)近代詩の群読1
- 第4回 タスク3 群読(4)近代詩の群読2
- 第5回 タスク3 群読(5)近代詩の群読3
- 第6回 タスク3 群読(6)近代詩の群読4
- 第7回 タスク3 群読(7)近代詩の群読と振り返り
- 第8回 タスク4 リレープレゼン(1)
- 第9回 タスク4 リレープレゼン(2)
- 第10回 タスク4 リレープレゼン(3)学外授業
- 第11回 タスク4 リレープレゼン(4)
- 第12回 タスク4 リレープレゼン(5)
- 第13回 タスク4 リレープレゼン(6)
- 第14回 タスク4 リレープレゼン(7)
- 第15回 タスク4 リレープレゼン(8)

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので, 注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 20% )

参加度 ( 30% )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50% )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 10代20代向けの小説	
授業の到達目標 1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行う。	
授業の概要 10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行いません。	
準備学習(予習・復習) 授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分(週に2時間程度)とする。学期末までにテキストを読了すること。	
内 容 第1回 ライトノベルとは何か 第2回 文庫化、漫画化による変化 第3回 香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」 第4回 荻原規子「RDG(レッドデータガール)」 第5回 あさのあつこ「NO. 6(ナンバーシックス)」 第6回 桜庭一樹「GOSICK(ゴシック)」 第7回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章 第8回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章 第9回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章 第10回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章 第11回 坂木司「和菓子のアン」第1章 第12回 坂木司「和菓子のアン」第2章 第13回 坂木司「和菓子のアン」第3章 第14回 坂木司「和菓子のアン」第4章 第15回 まとめ	
履修上の注意点	

## 教科書

## 和菓子のアン

著者: 坂木司

出版社: 光文社文庫

出版年: 2012

ISBN: 9.78433E+12

## 神去なあなあ日常

著者: 三浦しをん

出版社: 徳間文庫

出版年: 2012

ISBN: 9.7842E+12

## 参考書

## NO. 6

著者: あさのあつこ

出版社: 講談社文庫

出版年:

ISBN:

## 妖怪アパートの幽雅な日常

著者: 香月日輪

出版社: 講談社文庫

出版年:

ISBN:

RDG

著者： 荻原規子  
出版社： 角川文庫  
出版年：

ISBN:

GOSICK

著者： 桜庭一樹  
出版社： 角川文庫  
出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 60% )  
参加度 ( )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 40% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ &lt;b&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日中言語比較

授業の到達目標

(1)外国語と比較したときに浮かび上がる日本語の特徴を理解する (2)英語以外の言語に触れる (3)海外の文化や国際情勢に興味を持つ

授業の概要

グループワークを通じて外国語と比べたときに浮かび上がる日本語の特徴を学んでいく

準備学習(予習・復習)

初めて中国語に触れる受講生がほとんどだと思われるので、復習をちゃんとしておくこと

内 容

- 第1回 日中言語比較 名詞(1)
- 第2回 課題への取り組みと小テスト
- 第3回 日中言語比較 名詞(2)
- 第4回 課題への取り組みと小テスト
- 第5回 日中言語比較 動詞(1)
- 第6回 課題への取り組みと小テスト
- 第7回 日中言語比較 動詞(2)
- 第8回 課題への取り組みと小テスト
- 第9回 日中言語比較 疑問文
- 第10回 課題への取り組みと小テスト
- 第11回 日中言語比較 打消し
- 第12回 課題への取り組みと小テスト
- 第13回 日中言語比較 形容詞
- 第14回 課題への取り組みと小テスト
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

NHKの語学テキストでいいので、授業と並行して中国語の学習を進めてほしい(「テレビで中国語」がおすすめ)

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

参加度には受講態度が含まれます

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ &lt;C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)生き生きとしたプレゼンテーションができる。2)相互批評性を身につける。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～  
 第2回 生き生きとしたプレゼンテーションとは  
 第3回 タスク1 ビブリオバトル(1)導入  
 第4回 タスク1 ビブリオバトル(2)グループワーク  
 第5回 タスク1 ビブリオバトル(3)本戦1  
 第6回 タスク1 ビブリオバトル(4)本戦2  
 第7回 タスク1 ビブリオバトル(5)本戦4  
 第8回 タスク1 ビブリオバトル(6)本戦5とビブリオバトルの振り返り  
 第9回 タスク2 歌合(1)導入  
 第10回 タスク2 歌合(2)グループワーク  
 第11回 タスク2 歌合(3)歌合本戦1  
 第12回 タスク2 歌合(4)歌合本戦2  
 第13回 タスク2 歌合(5)歌合本戦3  
 第14回 タスク2 歌合(6)歌合本戦4  
 第15回 タスク2 歌合(7)歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので、注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

短歌パラダイス

著者: 小林恭二

出版社: 岩波書店

出版年: 1997 ISBN: 4-00-430498-9

ビブリオバトル

著者: 谷口忠大

出版社: 文藝春秋

出版年: 2013 ISBN: 4-16-660901-7

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (30%)



## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

日本の伝統文化への理解を深める

授業の到達目標

伝統文化それぞれの特質と歴史について知る。発表を通して読解力やプレゼンテーション能力を高める。

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、弓道、箏曲、居合道について学び、2限目はサークルの協力を得て体験します。なお、順序と一部の内容が変更する可能性があります。

準備学習(予習・復習)

グループごとに文献で調べた知識をどのようにまとめ、伝えるのかを十分話し合うこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 図書館で調べ方を学ぶ
- 第3回 弓道について
- 第4回 弓道体験
- 第5回 華道について
- 第6回 華道体験
- 第7回 箏曲について
- 第8回 箏曲体験
- 第9回 居合道について
- 第10回 居合道体験
- 第11回 書道について
- 第12回 書道体験
- 第13回 茶道について
- 第14回 茶道体験
- 第15回 まとめと後半の進め方について

履修上の注意点

グループ発表は全員で行うこと。体験学習はそれぞれの作法を守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期前半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 名和 久仁子	
テーマ	
室町物語を題材にして古典文学研究の糸口をつかむ	
授業の到達目標	
古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。プレゼンテーションの方法を身につける。	
授業の概要	
室町物語のテキストを翻字しながら読み進める。演習形式のグループワークを通じて数多くの作品にふれ、研究の糸口をつかむ。演習Ⅳと合同。	
準備学習(予習・復習)	
授業で取りあげるテキストをあらかじめ読んでおくこと。授業で研究した内容の要点を整理しておくこと。	
内 容	
第1回 授業の進め方についてのガイダンス	
第2回 作品の選択と梗概の作成	
第3回 テキストを読む①	
第4回 グループによる発表(1)	
第5回 テキストを読む②	
第6回 グループによる発表(2)	
第7回 テキストを読む③	
第8回 グループによる発表(3)	
第9回 テキストを読む④	
第10回 グループによる発表(4)	
第11回 テキストを読む⑤	
第12回 グループによる発表(5)	
第13回 まとめ	
第14回 学外授業・事前学習	
第15回 学外授業	
第16回 学外授業	
履修上の注意点	
原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。遅刻と途中退出をしないように。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
お伽草子事典	
著者: 徳田和夫	
出版社: 東京堂出版	
出版年: 2002	ISBN:
御伽草子集	
著者: 大島建彦校注・訳	
出版社: 小学館	
出版年: 1974	ISBN:



室町物語草子集

著者： 大島建彦・渡浩一校注・訳

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN:

日本古典文学大辞典

著者：

出版社： 岩波書店

出版年： 1983-85

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期後半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 現代小説における古典芸能	
授業の到達目標 1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行なう。	
授業の概要 現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。	
準備学習(予習・復習) テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分(週あたり2時間)とする。	
内 容 第1回 古典芸能入門 第2回 歌舞伎、文楽、組踊 第3回 歌舞伎鑑賞 第4回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」序幕、二幕目 第5回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」三幕目 第6回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」四幕目 第7回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」五幕目 第8回 落語、浪曲、講談 第9回 落語鑑賞 第10回 田中啓文「ハナシがちがう!」第一話前半 第11回 田中啓文「ハナシがちがう!」第一話後半 第12回 田中啓文「ハナシがちがう!」第二話 第13回 田中啓文「ハナシがちがう!」第三話 第14回 池上永一「竹富島」前半 第15回 池上永一「竹富島」後半	
履修上の注意点	
教科書 カブキブ! 1 著者: 榎田ユウリ 出版社: 角川文庫 出版年: 2013 ISBN: 9.78404E+11 ハナシがちがう(笑酔亭梅寿謎解晰1) 著者: 田中啓文 出版社: 集英社文庫 出版年: 2006 ISBN: 9.78409E+12	
参考書 続ばる島(すばるしま) 著者: 池上永一 出版社: 角川文庫 出版年: ISBN: 仏果を得ず 著者: 三浦しをん 出版社: 双葉文庫 出版年: ISBN:	

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 60% )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期後半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 野村 幸一郎	
テーマ 近代日本の俳句・短歌を鑑賞する	
授業の到達目標 近代日本の俳句・短歌を鑑賞することを通じて、日本語言語芸術を理解すると同時に、豊かな日本語表現力の修得を目指す	
授業の概要 近代日本の俳句短歌を鑑賞しつつ、学外に吟行を出かけ、フォト俳句・フォト短歌の実作を行う。	
準備学習(予習・復習) 授業中に随時、課題の提出を求めていく	
内 容 第1回 俳句と短歌の違い 第2回 恋をテーマにした短歌 第3回 人生をテーマにした俳句・短歌 第4回 日常をテーマにした俳句 第5回 第1回 吟行(京都市立動物園)「動物」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る 第6回 第2回 吟行(京都市立動物園)「動物」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る 第7回 課題作成 第8回 課題発表 第9回 日常をテーマにした短歌 第10回 自然をテーマにした俳句・短歌 第11回 第3回吟行(京都鉄道博物館)「鉄道」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る 第12回 第4回吟行(京都鉄道博物館)「鉄道」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る 第13回 課題作成 第14回 課題発表 第15回 老・病・死をテーマにした俳句・短歌	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 60 ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1) 文学や歴史、地理を総合的に理解することができる。2) テキストのフレージングを意識化することができる。3) グループで協同してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 タスク3 群読(1) 導入
- 第2回 タスク3 群読(2) 万葉歌の群読
- 第3回 タスク3 群読(3) 近代詩の群読1
- 第4回 タスク3 群読(4) 近代詩の群読2
- 第5回 タスク3 群読(5) 近代詩の群読3
- 第6回 タスク3 群読(6) 近代詩の群読4
- 第7回 タスク3 群読(7) 近代詩の群読と振り返り
- 第8回 タスク4 リレープレゼン(1)
- 第9回 タスク4 リレープレゼン(2)
- 第10回 タスク4 リレープレゼン(3) 学外授業
- 第11回 タスク4 リレープレゼン(4)
- 第12回 タスク4 リレープレゼン(5)
- 第13回 タスク4 リレープレゼン(6)
- 第14回 タスク4 リレープレゼン(7)
- 第15回 タスク4 リレープレゼン(8)

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので、注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (30%)

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

京都・滋賀・大阪を舞台にした小説を読む

授業の到達目標

作品を通して、京都・滋賀・大阪の歴史と文化について学ぶ たくさん読書をする 読解力を付ける プレゼンテーション力を向上させる

授業の概要

グループで担当作品を選び、発表する。1限目に発表、2限目は全員で意見を述べ合う読書会形式とする。

準備学習(予習・復習)

担当作品については、どうすればよいプレゼンができるかをグループで十分話し合う。

内 容

- 第1回 図書館ガイダンス
- 第2回 グループワーク
- 第3回 グループ発表①
- 第4回 討論
- 第5回 グループ発表②
- 第6回 討論
- 第7回 グループ発表③
- 第8回 討論
- 第9回 グループ発表④
- 第10回 討論
- 第11回 グループ発表⑤
- 第12回 討論
- 第13回 グループ発表⑥
- 第14回 討論
- 第15回 振り返り

履修上の注意点

発表しない回の作品も必ず読んで授業に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期後半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 名和 久仁子	
テーマ	
室町物語を題材にして古典文学研究の糸口をつかむ	
授業の到達目標	
古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。プレゼンテーションの方法を身につける。	
授業の概要	
室町物語のテキストを翻字しながら読み進める。演習形式のグループワークを通じて数多くの作品にふれ、研究の糸口をつかむ。演習Ⅲと合同。	
準備学習(予習・復習)	
授業で取りあげるテキストをあらかじめ読んでおくこと。授業で研究した内容の要点を整理する。	
内 容	
第1回	授業の進め方についてのガイダンス
第2回	作品の選択と研究
第3回	テキストを読む①
第4回	受講者による発表と質疑応答(1)
第5回	テキストを読む②
第6回	受講者による発表と質疑応答(2)
第7回	テキストを読む③
第8回	受講者による発表と質疑応答(3)
第9回	テキストを読む④
第10回	受講者による発表と質疑応答(4)
第11回	テキストを読む⑤
第12回	受講者による発表と質疑応答(5)
第13回	問題点の整理
第14回	まとめ
履修上の注意点	
原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。遅刻と途中退出をしないように。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
お伽草子事典	
著者: 徳田和夫	
出版社: 東京堂出版	
出版年: 2002	ISBN:
御伽草子集	
著者: 大島建彦校注・訳	
出版社: 小学館	
出版年: 1974	ISBN:
室町物語草子集	
著者: 大島建彦・渡浩一校注・訳	
出版社: 小学館	
出版年: 2002	ISBN:

日本古典文学大辞典

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 1983-85

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 20 )

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 産業文化論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 増淵 徹	
テーマ 京都の伝統産業・伝統文化	
授業の到達目標 京都の伝統産業・伝統文化について理解を深めるとともに、その課題について多様な視点から考察できるようになる。	
授業の概要 京都は数多くの伝統産業を持ち、日本の伝統文化が凝縮された土地でもある。この科目では毎回、織物・京焼・京料理・菓子・酒造・茶・伝統建築・旅館などの分野から、一線で活躍する先生をゲストスピーカーとしてお招きし、講演を聴いて、京都の伝統産業・伝統文化について理解を深める。聴講にあたっては、その産業・文化がもつ強みや魅力がどのような点にあるのか、今後の展望としてどのような課題があるのか等、課題意識を持ち能動的に取り組むことを期待する。	
準備学習(予習・復習) 京都の伝統産業や伝統文化に関する書籍や資料に眼を通し、自分でも知識を蓄えること	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 ゲストスピーカーによる講義① 第3回 ゲストスピーカーによる講義② 第4回 ゲストスピーカーによる講義③ 第5回 ゲストスピーカーによる講義④ 第6回 ゲストスピーカーによる講義⑤ 第7回 ゲストスピーカーによる講義⑥ 第8回 ゲストスピーカーによる講義⑦ 第9回 ゲストスピーカーによる講義⑧ 第10回 ゲストスピーカーによる講義⑨ 第11回 ゲストスピーカーによる講義⑩ 第12回 ゲストスピーカーによる講義⑪ 第13回 ゲストスピーカーによる講義⑫ 第14回 ゲストスピーカーによる講義⑬ 第15回 まとめ	
履修上の注意点 この授業は各界のゲストスピーカーを外部から招き、講演を聴くことになる。したがって、授業中の私語等、マナーを守れない者の受講は許可しない。また本科目は京都プログラム科目であり、「京都総合演習」の受講を希望する者は必ず修得していることが条件となる。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 50 ) 参加度 ( 50 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (日) &lt;\*A&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学(中・近世)へのアプローチ

授業の到達目標

代表的な作品を通して日本文化について考える。古典文学の幅広さと魅力を知る。自分で作品を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の概要

前半は、様々なジャンルの古典作品またはその影響を受けた近現代の文学作品ひとつを取り上げてその魅力を解説します。後半は、時代による文学の変化を課題に沿って考察し、発表します。

準備学習(予習・復習)

本文をきちんと読み、時間をかけてレジュメを作成する。

内 容

- 第1回 授業のねらいと前半の進め方について
- 第2回 御伽草子のおもしろさ1
- 第3回 " 2
- 第4回 『平家物語』の死生観
- 第5回 経済小説としての『世間胸算用』
- 第6回 家庭問題劇化としての『女殺油地獄』
- 第7回 怪談劇の代表としての『東海道四谷怪談』
- 第8回 後半の進め方について
- 第9回 御伽草子をもとにした近現代の昔話や絵本1
- 第10回 " 2
- 第11回 現代の戦記物における死生観
- 第12回 現代作家の大阪商人
- 第13回 現代の家庭小説
- 第14回 現代の怪談
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

まずは、作品をよく読むこと。わからない言葉は、こまめに辞書を引くこと。レジュメ作成には時間をかけること。なお、取り上げる作品は上記から変更することもあります。

教科書

参考書

角川ソフィア文庫(各作品)

著者:

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

(新)日本古典文学大系(各作品)

著者:

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

(新編)日本古典文学全集(各作品)

著者:

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

新潮日本古典集成(各作品)

著者:

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (日) &lt;\*B&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1) 日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) データ収集、データ分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習(予習・復習)

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
- 第2回 チームによる日本語分析(1)
- 第3回 チームによる日本語分析(2)
- 第4回 分担の決定+データ収集の方法
- 第5回 データについての報告
- 第6回 担当項目のチーム内検討(1)
- 第7回 担当項目のチーム内検討(2)
- 第8回 担当項目のチーム内検討(3)
- 第9回 受講生による報告(1)
- 第10回 受講生による報告(2)
- 第11回 受講生による報告(3)
- 第12回 受講生による報告(4)
- 第13回 受講生による報告(5)
- 第14回 受講生による報告(6)
- 第15回 レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも、さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (日) &lt;\*C&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 近現代小説の研究	
授業の到達目標 1. 小説作品および参考文献の読解。2. 調査研究、資料収集。3. 収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4. 意見発表と意見交換。	
授業の概要 近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。	
準備学習(予習・復習) テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。	
内 容 第1回 導入1(自己紹介、発表作品と日程の決定) 第2回 導入2(作品読解と調査研究の方法) 第3回 導入3(レジュメの作り方、発表準備) 第4回 発表1 芥川龍之介「杜子春」 第5回 発表2 梶井基次郎「冬の日」 第6回 発表3 太宰治「ヴィヨンの妻」 第7回 発表4 宮沢賢治「風の又三郎」 第8回 発表5 前半まとめ、レポートの書き方 第9回 発表6 宮沢賢治「注文の多い料理店」ほか 第10回 発表7 太宰治「桜桃」ほか 第11回 発表8 芥川龍之介「蜘蛛の糸」ほか 第12回 発表9 芥川龍之介「トロッコ」ほか 第13回 発表10 梶井基次郎「檸檬」ほか 第14回 発表11 梶井基次郎「城のある町にて」 第15回 発表12 後半まとめ、レポート提出	
履修上の注意点 テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。	

## 教科書

## 蜘蛛の糸

著者: 芥川龍之介

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3540

## 檸檬

著者: 梶井基次郎

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3544

## 桜桃

著者: 太宰治

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3547

## 注文の多い料理店

著者: 宮沢賢治

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2012

ISBN: 978-4-7584-3656

---

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 40% )  
参加度 ( 20% )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 40% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(日) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

&lt;表現&gt;を分析する

授業の到達目標

1) 表現を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) テキスト分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日常生活から文学や芸術の分野まで、私たちはさまざまなレベルで<表現>に触れている。ここでは翻訳という行為を対象として、あるテキストがどのように<解釈>され、どのように別のテキストとして<表現>されていくのかを考える。

準備学習(予習・復習)

参考書としてあげた『翻訳夜話』に目を通してください。翻訳に対する村上春樹の姿勢を知ることができます。

内 容

- 第1回 導入：<表現>を分析する
- 第2回 表現の分析(1)
- 第3回 表現の分析(2)
- 第4回 発表の準備
- 第5回 チーム内検討(1)
- 第6回 チーム内検討(2)
- 第7回 チーム内検討(3)
- 第8回 受講生による報告(1)
- 第9回 受講生による報告(2)
- 第10回 受講生による報告(3)
- 第11回 受講生による報告(4)
- 第12回 受講生による報告(5)
- 第13回 受講生による報告(6)
- 第14回 受講生による報告(7)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

翻訳夜話

著者： 村上春樹・柴田元幸

出版社： 文芸春秋

出版年： 2000年

ISBN： 978-4166601295

翻訳夜話2 サリンジャー戦記

著者： 村上春樹・柴田元幸

出版社： 文芸春秋

出版年： 2003年

ISBN： 978-4166603305

翻訳教室

著者： 柴田元幸

出版社： 新書館

出版年： 2006年

ISBN： 978-4403210884

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40)





## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(日) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

近現代小説の研究

授業の到達目標

1. 小説作品および参考文献の読解。2. 調査研究、資料収集。3. 収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4. 意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習(予習・復習)

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内 容

- 第1回 導入1(自己紹介、発表作品と日程の決定)
- 第2回 導入2(作品読解と調査研究の方法)
- 第3回 導入3(レジュメの作り方、発表準備)
- 第4回 発表1 芥川龍之介「杜子春」
- 第5回 発表2 梶井基次郎「冬の日」
- 第6回 発表3 太宰治「ヴィヨンの妻」
- 第7回 発表4 宮沢賢治「風の又三郎」
- 第8回 発表5 前半まとめ、レポートの書き方
- 第9回 発表6 宮沢賢治「注文の多い料理店」ほか
- 第10回 発表7 太宰治「桜桃」ほか
- 第11回 発表8 芥川龍之介「蜘蛛の糸」ほか
- 第12回 発表9 芥川龍之介「トロッコ」ほか
- 第13回 発表10 梶井基次郎「檸檬」ほか
- 第14回 発表11 梶井基次郎「城のある町にて」
- 第15回 発表12 後半まとめ、レポート提出

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

蜘蛛の糸

著者: 芥川龍之介

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3540

檸檬

著者: 梶井基次郎

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3544

桜桃

著者: 太宰治

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7584-3547

注文の多い料理店

著者: 宮沢賢治

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2012

ISBN: 978-4-7584-3656

---

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 40% )  
参加度 ( 20% )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 40% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(日) &lt;\*C&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学研究の方法を学ぶ

授業の到達目標

多くの作品に触れることで、文学の幅広さを知る。きちんと本文を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。論文の書き方を学ぶ。

授業の概要

前半は古典文学またはその影響を受けた作品についての読みを披露し、後半には、その作品について取り上げた論文を紹介、評価する。

準備学習(予習・復習)

本文をよく読む。図書館やインターネットを活用して文献を探す。時間をかけてレジュメを作成する。

内 容

第1回 授業のねらいと進め方についての説明

第2回 中・近世の作品、あるいはそれに関わりのある近現代の文学から自分に合ったものを選ぶ

第3回 各自の選んだ作品について、研究概要をまとめ、問題点を探る

第4回 作品について語る(プレゼンテーション)①

第5回 同上②

第6回 同上③

第7回 同上④

第8回 論文を検索し、収集する

第9回 論文の組み立て方、論述の仕方について学ぶ

第10回 前半の発表に関連する論文を紹介し、どこが良く、どこに疑問が残ったかを述べる①

第11回 同上②

第12回 同上③

第13回 同上④

第14回 同上⑤

第15回 特別講義(時期は未定)

履修上の注意点

発表時には本文テキストや参考資料を手元に置いて、参照できるようにすること。他の受講者の発表には積極的に質問や意見を述べること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題( )

授業中発表等(60)

参加度(40)

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

## 2017 Syllabus

科目名 漢字古典研究 I &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 20
履修条件	クラス指定

担当者 中村 史朗

テーマ

王羲之書法の生成とその伝承

授業の到達目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけでなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを十分理解したい。いわば臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主眼となるが、すすんで履修者個々が自身の作品表現に生かせる古典を見出し、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせて同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況も考察する。

授業の概要

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述する。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書を日常化するようつとめる。また古典の鑑賞文や臨書に対するコメントなどを課し記述する習慣をつける。

準備学習(予習・復習)

一回の実習で学習できることは限られているので、それぞれの古典について各自で繰り返し臨書をこころみること。

内 容

- 第1回 ガイダンス 中国書道史概観(1)
- 第2回 王羲之前夜 李柏尺牘文書を中心に
- 第3回 蘭亭序(1)
- 第4回 蘭亭序(2)
- 第5回 集王碑 集王聖教序と興福寺断碑の比較を中心に
- 第6回 王羲之の尺牘(1) 墨跡本を中心に
- 第7回 王羲之の尺牘(2) 刻帖を中心に
- 第8回 唐 太宗 温泉銘
- 第9回 孫過庭 書譜
- 第10回 顔真卿 争座位文稿
- 第11回 懷素 自叙帖
- 第12回 北宋の書(1) 蘇軾 黄州寒食詩卷
- 第13回 北宋の書(2) 黄庭堅 李太白憶旧遊詩卷
- 第14回 北宋の書(3) 米フツ 蜀素帖
- 第15回 まとめ 臨書ファイル提出

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

書道テキスト 第5巻 篆書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道テキスト 第6巻 隷書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道テキスト 第7巻 楷書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道テキスト 第8巻 行草書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社： 二玄社

出版年： ISBN：

参考書

書の文化史 上・中・下

著者： 西林昭一

出版社： 二玄社

出版年： ISBN：

書道全集

著者：

出版社： 平凡社

出版年： ISBN：

書道藝術

著者：

出版社： 中央公論社

出版年： ISBN：

中国法書ガイド 1-60

著者：

出版社： 二玄社

出版年： ISBN：

中国書道史年表

著者： 玉村霽山

出版社： 二玄社

出版年： 1998 ISBN：

---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（0）

授業中課題（60）

授業中発表等（20）

参加度（20）

授業中の取り組み、最終提出物等を総合して評価します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 漢字古典研究 I &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 20
履修条件	クラス指定
担当者 池田 利広	
テーマ	中国の殷から唐代までの篆書・隸書・楷書を通観し、それらに含まれる美をいかに表現するかを書技法面から探究する。
授業の到達目標	漢字の成り立ちと唐代までの篆書・隸書・楷書の書風の変遷、書体・書風の書技法の習得をめざす。
授業の概要	理論と実践を通して書の美に迫る。
準備学習(予習・復習)	講義内容・実技課題は授業に必ず復習すること。実技課題は清書作品を最後の授業に提出。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 漢字の成り立ち 『説文解字』より 篆書(1) 甲骨 骨に刻まれた文字の表現を考える</p> <p>第3回 篆書(2) 小篆 泰山刻石から小篆の書法について考える</p> <p>第4回 篆書(3) 大篆 石鼓文から大篆の書法について考える</p> <p>第5回 篆書(4) 金文 金属に鑄刻された文字の表現を考える</p> <p>第6回 篆書(5) 竹簡 当時の篆書書写体を考える</p> <p>第7回 隸書(1) 八分 乙瑛碑の書法について考える</p> <p>第8回 隸書(2) 八分 礼器碑の書法について考える</p> <p>第9回 隸書(3) 八分 張遷碑の書法について考える</p> <p>第10回 隸書(4) 八分 曹全碑の書法について考える</p> <p>第11回 隸書(5) 摩崖 石門頌の書法について考える</p> <p>第12回 楷書(1) 隋楷 真草千字文の書法について考える</p> <p>第13回 楷書(2) 唐楷 九成宮醴泉銘の書法について考える</p> <p>第14回 楷書(3) 唐楷 孔子廟堂碑の書法について考える</p> <p>第15回 楷書(4) 唐楷 雁塔聖教序の書法について考える</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしない。
教科書	<p>書道テキスト第5巻 篆書 著者： 大東文化大学書道研究所編 出版社： 出版年： ISBN：</p> <p>書道テキスト第6巻 隸書 著者： 大東文化大学書道研究所編 出版社： 出版年： ISBN：</p> <p>書道テキスト第7巻 楷書 著者： 大東文化大学書道研究所編 出版社： 出版年： ISBN：</p>
参考書	<p>特になし 著者： 出版社： 出版年： ISBN：</p>
成績評価	

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30% )

期末提出課題 70%

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 漢字古典研究Ⅱ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 池田 利広

テーマ

中国の殷から唐代までの篆書・隸書・楷書を通観し、それらに含まれる美をいかに表現するかを書技法面から探究する。

授業の到達目標

漢字の成り立ちと漢代までの篆書・隸書・楷書の書風の変遷、書体・書風の書技法の習得をめざす。

授業の概要

理論と実践を通して書の美に迫る。

準備学習(予習・復習)

講義内容・実技課題は授業に必ず復習すること。実技課題は清書作品を最後の授業に提出。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 漢字の成り立ち 『説文解字』より 篆書(1) 甲骨文字 骨に刻まれた文字の表現を考える

第3回 篆書(2) 小篆 泰山刻石から小篆の書法について考える

第4回 篆書(3) 大篆 石鼓文から大篆の書法について考える

第5回 篆書(4) 金文 金属に鑄刻された文字の表現を考える

第6回 篆書(5) 竹簡 当時の篆書書写体を考える

第7回 隸書(1) 八分 乙瑛碑の書法について考える

第8回 隸書(2) 八分 礼器碑の書法について考える

第9回 隸書(3) 八分 張遷碑の書法について考える

第10回 隸書(4) 八分 曹全瑛碑の書法について考える

第11回 隸書(5) 摩崖 石門頌の書法について考える

第12回 楷書(1) 隋楷 真草千字文の書法について考える

第13回 楷書(2) 唐楷 九成宮醴泉銘の書法について考える

第14回 楷書(3) 唐楷 孔子廟堂碑の書法について考える

第15回 楷書(4) 唐楷 雁塔聖教序の書法について考える

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしない。

教科書

書道テキスト第5巻 篆書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

書道テキスト第6巻 隸書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

書道テキスト第7巻 楷書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価



a10202a450

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30% )

期末提出課題 70%

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 漢字古典研究Ⅱ &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 20
履修条件	クラス指定

担当者 中村 史朗

テーマ

王羲之書法の生成とその伝承

授業の到達目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけでなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを十分理解したい。いわば臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主眼となるが、すすんで履修者個々が自身の作品表現に生かせる古典を見出し、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせて同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況も考察する。

授業の概要

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述する。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書を日常化するようつとめる。また古典の鑑賞文や臨書に対するコメントなどを課し記述する習慣をつける。

準備学習(予習・復習)

一回の実習で学習できることは限られているので、それぞれの古典について各自で繰り返し臨書をこころみること。

内 容

- 第1回 ガイダンス 中国書道史概観(1)
- 第2回 王羲之前夜 李柏尺牘文書を中心に
- 第3回 蘭亭序(1)
- 第4回 蘭亭序(2)
- 第5回 集王碑 集王聖教序と興福寺断碑の比較を中心に
- 第6回 王羲之の尺牘(1) 墨跡本を中心に
- 第7回 王羲之の尺牘(2) 刻帖を中心に
- 第8回 唐 太宗 温泉銘
- 第9回 孫過庭 書譜
- 第10回 顔真卿 争座位文稿
- 第11回 懷素 自叙帖
- 第12回 北宋の書(1) 蘇軾 黄州寒食詩卷
- 第13回 北宋の書(2) 黄庭堅 李太白憶旧遊詩卷
- 第14回 北宋の書(3) 米フツ 蜀素帖
- 第15回 まとめ 臨書ファイル提出

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

書道テキスト 第5巻 篆書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道テキスト第6巻 隸書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道テキスト第7巻 楷書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道テキスト第8巻 行草書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社： 二玄社

出版年： ISBN：

参考書

書の文化史 上・中・下

著者： 西林昭一

出版社： 二玄社

出版年： ISBN：

書道全集

著者：

出版社： 平凡社

出版年： ISBN：

書道藝術

著者：

出版社： 中央公論社

出版年： ISBN：

中国法書ガイド 1～60

著者：

出版社： 二玄社

出版年： ISBN：

中国書道史年表

著者： 玉村霽山

出版社： 二玄社

出版年： ISBN：

---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（0）

授業中課題（60）

授業中発表等（20）

参加度（20）

授業中の取り組み、最終提出物等を総合して評価します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 かな古典研究 I &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
- 第2回 万葉仮名の作品について②
- 第3回 万葉仮名の作品について③
- 第4回 万葉仮名の作品について④
- 第5回 草仮名の作品について
- 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
- 第7回 草仮名の作品について
- 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
- 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
- 第10回 高野切系統の作品について①
- 第11回 高野切系統の作品について②
- 第12回 高野切系統の作品について③
- 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
- 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
- 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

## 2017 Syllabus

科目名 **かな古典研究 I <\*b>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
- 第2回 万葉仮名の作品について②
- 第3回 万葉仮名の作品について③
- 第4回 万葉仮名の作品について④
- 第5回 草仮名の作品について
- 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
- 第7回 草仮名の作品について
- 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
- 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
- 第10回 高野切系統の作品について①
- 第11回 高野切系統の作品について②
- 第12回 高野切系統の作品について③
- 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
- 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
- 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

## 2017 Syllabus

科目名 かな古典研究Ⅱ &lt;\*a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内 容

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

## 2017 Syllabus

科目名 **かな古典研究Ⅱ <\*b>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内 容

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読a(日本語文法研究 I) &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中俣 尚己

テーマ

日本語の隠れた法則に気づく

授業の到達目標

普段無意識に使っている日本語にも様々な規則があることに目を向ける。その過程を通じて論理的な物事の見方を養う。

授業の概要

日本語の様々なルールについて概説し、日本語学という学問で考察の対象となっているトピックについて考えます。色々問題を出すので、授業中に参加者で相談しながら日本語の法則性を考えたり、例文を作ったりします。

準備学習(予習・復習)

授業で配布する資料をよく読み、復習をしっかりと下さい。また、宿題をきちんと行うこと。

内 容

- 第1回 品詞:「問題の日本語」と「問題な日本語」
- 第2回 活用:「来られる」と「来れる」
- 第3回 文の組み立て:「私が好き」と「私が好き」
- 第4回 格助詞:「ここに泊まる」と「ここで泊まる」
- 第5回 副助詞:「私は中俣です」と「私が中俣です」?
- 第6回 接続助詞:「太郎が入ってから次郎が出た」と「太郎が入ったから次郎が出た」
- 第7回 連用修飾と連体修飾:「携帯電話を落とした学生」と「携帯電話を落とした中俣」
- 第8回 受け身と使役:「中俣に壊される」と「中俣に来られる」
- 第9回 文と時間の関係:「動いている」と「止まっている」
- 第10回 認識:「おいしそうだ」と「おいしいそうだ」
- 第11回 文の種類:「やってもいいです」と「やってもいいですか」
- 第12回 補助動詞:「先生が来てくれる」と「先生に来てもらう」
- 第13回 敬語:「お読みになる」と「お読みする」
- 第14回 文と文の繋がり:「明日はテストだ。だから～」と「明日はテストだ。そこで～」
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

国語教師が知っておきたい日本語文法

著者: 山田敏弘

出版社: くろしお出版

出版年: 2004

ISBN: 978-4874243107

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読b(日本語文法研究Ⅱ)〈Z〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 中俣 尚己

テーマ

現実の日本語を知る

授業の到達目標

コンピュータを活用し日本語の使用実態を調査する方法と他人を説得するプレゼンテーション・スキルを身につける。

授業の概要

「本当の日本語の姿」を知るためには、コーパスと呼ばれる電子的な言語資料を用いて、数的調査を行うという方法が考えられる。この授業ではコーパスを用いて、表記・語形・コロケーション・よく使われる形などについて研究を行い、それを発表する。

準備学習(予習・復習)

前半はパソコンの操作を学びます。一度で覚えることはできないので、必ず宿題を行い、操作に習熟すること。後半は発表です。入念に準備を行うこと。自分の思い込みを語るのではなく、どういう証拠を見れば、他人は納得するかを考えてください。テーマの相談はメールなどでも受け付けます。

内 容

第1回 ガイダンス、「中納言」の登録、Googleの賢い使い方

第2回 コーパスとは何か、「少納言」の体験、正規表現

第3回 「中納言」による検索

第4回 「中納言」の検索結果の加工、Excelの様々な機能

第5回 コロケーションとは何か? 「NLP」と「NLT」

第6回 仮説的統計検定の基礎

第7回  $\chi^2$  二乗検定の実践

第8回 テーマ選定のための作業

第9回 参加者による発表

第10回 参加者による発表

第11回 参加者による発表

第12回 参加者による発表

第13回 参加者による発表

第14回 参加者による発表

第15回 参加者による発表

履修上の注意点

演習では、他の人の発表に対し、積極的に質問、コメントを行うこと。

教科書

参考書

ウェブ検索による日本語研究

著者: 荻野綱雄

出版社: 朝倉書店

出版年: 2014

ISBN: 978-4254510447

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

発表し、それをレポートにまとめてもらいます。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読m(メディア・表現研究 I) &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

アニメーションの技法や語法を理解するための基本的な知識を身につけることができる。

授業の概要

様々なアニメーションを鑑賞しながら、映像表現・アニメーションの読解法を解説する。なお、授業内容は進行等に変更することがある。

準備学習(予習・復習)

普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、アニメーションとは何か  
 第2回 アニメーションの種類  
 第3回 アニメーションの制作過程<1> プリプロダクション  
 第4回 アニメーションの制作過程<2> プロダクション・ポストプロダクション  
 第5回 絵コンテの読み方  
 第6回 アニメーターのおかれた現状  
 第7回 キャラクター<1> 記号論  
 第8回 キャラクター<2> データベース消費  
 第9回 (進度調整)  
 第10回 動き<1> フルアニメーションとリミテッド・アニメ  
 第11回 動き<2> 映像の原則  
 第12回 音響  
 第13回 ストーリーと脚本<1> 原作と映像  
 第14回 ストーリーと脚本<2> 文学とアニメーション  
 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

アニメーション学入門(平凡社新書)

著者: 津堅信之

出版社: 平凡社

出版年: 2005

ISBN: 978-4582852912

映像の原則 改訂版

著者: 富野由悠季

出版社: キネマ旬報社

出版年: 2011

ISBN: 978-4873767369

アニメーションの事典

著者: 横田正夫、池田宏、小出正志

出版社: 朝倉書店

出版年: 2012

ISBN: 978-4254680218

アニメーションの想像力

著者： 禧美智章

出版社： 風間書房

出版年： 2015

ISBN: 978-4759920895

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業期間中、レポートの提出を求める(80%)。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える(20%)。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読(映像表現研究) &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

アニメーションの技法や語法を理解するための基本的な知識を身につけることができる。

授業の概要

様々なアニメーションを鑑賞しながら、映像表現・アニメーションの読解法を解説する。なお、授業内容は進行等に変更することがある。

準備学習(予習・復習)

普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、アニメーションとは何か
- 第2回 アニメーションの種類
- 第3回 アニメーションの制作過程<1> プリプロダクション
- 第4回 アニメーションの制作過程<2> プロダクション・ポストプロダクション
- 第5回 絵コンテの読み方
- 第6回 アニメーターのおかれた現状
- 第7回 キャラクター<1> 記号論
- 第8回 キャラクター<2> データベース消費
- 第9回 (進度調整)
- 第10回 動き<1> フルアニメーションとリミテッド・アニメ
- 第11回 動き<2> 映像の原則
- 第12回 音響
- 第13回 ストーリーと脚本<1> 原作と映像
- 第14回 ストーリーと脚本<2> 文学とアニメーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

アニメーション学入門(平凡社新書)

著者: 津堅信之

出版社: 平凡社

出版年: 2005

ISBN: 978-4582852912

映像の原則 改訂版

著者: 富野由悠季

出版社: キネマ旬報社

出版年: 2011

ISBN: 978-4873767369

アニメーションの事典

著者: 横田正夫、池田宏、小出正志

出版社: 朝倉書店

出版年: 2012

ISBN: 978-4254680218

アニメーションの想像力

著者： 禧美智章

出版社： 風間書房

出版年： 2015

ISBN: 978-4759920895

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業期間中、レポートの提出を求める(80%)。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える(20%)。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読p(文芸創作実習) &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

夏目漱石に学ぶ小説作法

授業の到達目標

小説作品への批評眼・鑑賞眼を養成する。合わせて自ら創作する文章力・創造力を培うことも目標とする。

授業の概要

夏目漱石の小説作品を鑑賞し、その小説作法に学びつつ、創作実習を行う。グループでの実習作品批評とその発表も取り入れる。

準備学習(予習・復習)

授業で扱う漱石作品を通読すること。予習・復習として作品通読の努力を怠っていないか、随時発言や小レポートを求めている。

内 容

- 第1回 概説 (担当:辻本)  
 第2回 『坊っちゃん』作品鑑賞 (担当:辻本)  
 第3回 創作実習 『坊っちゃん』の書き出しに学んで主人公を造形する。(担当:辻本)  
 第4回 実習作品の相互批評 (担当:辻本)  
 第5回 『吾輩は猫である』作品鑑賞 (担当:辻本)  
 第6回 創作実習 『吾輩は猫である』の書き出しに学んで人間以外の語り手を設定する。(担当:辻本)  
 第7回 実習作品の相互批評 (担当:辻本)  
 第8回 『夢十夜』作品鑑賞 (担当:辻本)  
 第9回 創作実習 『夢十夜』に学んで「夢」を素材に書く。(担当:辻本)  
 第10回 実習作品の相互批評 (担当:辻本)  
 第11回 『ころ』作品鑑賞 (担当:辻本)  
 第12回 創作実習 『ころ』のパロディーを書く。(担当:辻本)  
 第13回 実習作品の相互批評/まとめ (担当:辻本)  
 第14回 角野栄子先生による特別講義 (担当:野村)\* 日程は未定です。  
 第15回 黛まどか先生による特別講義 (担当:野村)\* 日程は未定です。

履修上の注意点

①創作実習の時間には、各自で原稿用紙を持参すること。②実習作品の完成のために、時間外の取り組みが必要になる場合もある。③特別講義(日程未定)の前後に俳句の創作やレポートを課す場合もある。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

坊っちゃん

著者: 夏目漱石

出版社:

出版年:

ISBN:

吾輩は猫である

著者: 夏目漱石

出版社:

出版年:

ISBN:

夢十夜

著者: 夏目漱石

出版社:

出版年:

ISBN:

こころ

著者： 夏目漱石

出版社：

出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

実習作品への取り組みを重視する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 書論・鑑賞Ⅰ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷川 雅夫

テーマ

書道を学ぶ上で重要な作品の内容を理解し、作品についての書論を読みながら鑑賞を一層深いものにする。

授業の到達目標

①中国書道の代表的な作品の文章内容を理解する。②中国書道の様式と文章内容の関係を理解する。

授業の概要

取り上げた作品の内容を訓読し、それに関して論じられている書論を読み、作品を鑑賞する。

準備学習(予習・復習)

取り上げた作品を必ず臨書しておく。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 龍門造像記「一佛造像記」等を読む。

第3回 龍門造像記「牛ケツ造像記」等を読む。

第4回 龍門造像記に関する書論を読む。

第5回 龍門造像記の様々な拓本を鑑賞する。

第6回 蘭亭序「永和九年～信可樂也」を読む。

第7回 蘭亭序「夫人之相與～有感於斯文」を読む。

第8回 蘭亭序に関する書論を読む。

第9回 蘭亭序の様々な法帖を鑑賞する。

第10回 祭姪文稿「維乾元元年～亦在平原」を読む。

第11回 祭姪文稿「仁兄愛我～尚饗」を読む。

第12回 祭伯文稿「祭伯父～身陷賊庭」を読む

第13回 祭伯文稿「聖朝哀榮～尚饗」を読む

第14回 祭姪・祭伯文稿に関する書論を読む。

第15回 祭姪・祭伯文稿の様々な法帖を鑑賞する。 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

積極的に参加することを望む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (20%)



## 2017 Syllabus

科目名 書論・鑑賞Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷川 雅夫

テーマ

書道を学ぶ上で重要な作品の内容を理解し、作品についての書論も読み、草書や篆書を読めるようにし、鑑賞をより一層深いものにする。

授業の到達目標

①中国・日本書道の代表的な作品の文章内容を理解する。②中国・日本書道の様式と文章内容の関係を理解する。③中国・日本書道の作品に使われる草書や篆書を読めるようにする。

授業の概要

取り上げた作品の内容を訓読し、それに関する書論を読み、作品を鑑賞する。

準備学習(予習・復習)

取り上げた作品を必ず臨書しておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 十七帖「逸民帖」等を読む。
- 第3回 十七帖「遊目帖」等を読む。
- 第4回 十七帖に関する書論を読む。
- 第5回 十七帖の様々な法帖を鑑賞する。
- 第6回 蘭亭十三跋「一跋～六跋」を読む。
- 第7回 蘭亭十三跋「七跋～十三跋」を読む。
- 第8回 真草千字文を読む①
- 第9回 真草千字文を読む②
- 第10回 甲骨文を読む①
- 第11回 甲骨文を読む②
- 第12回 金文を読む①
- 第13回 金文を読む②
- 第14回 石鼓文を読む①
- 第15回 石鼓文を読む② ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

積極的に参加することを望む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (20%)

## 2017 Syllabus

科目名 中国書道史

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 池田 利広

テーマ

中国書道史:漢字の生成から民国までの文字や書法の歴史について通観する。

授業の到達目標

中国における書体の生成を視覚的に確認し、その動的なありようを理解する。また各時代の代表的名品や能書に関する基本的知識を身につけるとともに、それらの表現上の特色を知る。さらに唐代から民国にいたる王羲之書法受容や書風編成の実態を考察する。

授業の概要

中国における漢字各書体の生成を概観した後、王羲之とその時代、書法の特質、後代への影響について検討する。続いて隋唐における楷書の典型の確立や代表的能書から、民国期までの能書や作品について考察する。講義を中心に進めるが、個人発表、グループ討議、鑑賞メモなどを通じて主体的な参加をうながす。

準備学習(予習・復習)

中国書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や作品に関する知識を積極的に身につけてほしい。また図版資料によって古典の書風や書法を視覚的に分析・理解できるよう努めること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 漢字の成り立ちについて(『説文解字』から)
- 第2回 殷・周・春秋戦国の文字について
- 第3回 秦・漢の文字について(肉筆資料を中心に)
- 第4回 秦・漢の文字について(金石資料を中心に)
- 第5回 三国・晋・東晋の書について
- 第6回 王羲之の書について
- 第7回 南北朝の書について
- 第8回 隋・唐・五代の書について(楷書を中心に)
- 第9回 隋・唐・五代の書について(行草書を中心に)
- 第10回 宋・金・元の書について(宋の三大家を中心に)
- 第11回 宋・金・元の書について(趙孟頫を中心に)
- 第12回 明の書について
- 第13回 明末清初の書について
- 第14回 清の書について
- 第15回 中華民国の書について(まとめ)

履修上の注意点

教科書

中国書道史

著者: 角井 博

出版社: 芸術新聞社

出版年:

ISBN: 9.78488E+12

参考書

書の文化史 上・中・下

著者: 西林昭一

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道全集

著者:

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

書道藝術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年:

ISBN:

中国書法ガイド 1-60

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

レポート試験、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断し評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本書道史

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 史朗

テーマ

日本書道史-仮名(上代様)の成立を中心に-

授業の到達目標

漢字渡来から仮名の成立までのながれを視覚的に確認する。特に女手の成立までの過程を正確に把握する。また上代様の基本的な知識を修得し、技法上の特色を相互に比較しながら理解する。さらに本阿弥光悦ら江戸時代初期の代表的能書が上代様をどのように吸収し、新表現につなげたかを理解する。

授業の概要

漢字渡来から、日本人が中国書法を自身のものとする流れを確認するとともに、日本語の表記が成熟する過程、いわゆる上代様の仮名(女手)の成立について考察する。さらに寛永の三筆や唐様の書を例に取り、近世の京都における独自の書展開にも言及する。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げた古典作品は、図録などで全体像を確認したうえで、部分からでも作者や作品名が言い当てられるよう努めること。

内 容

- 第1回 古代日本の文字資料
- 第2回 飛鳥・白鳳時代の書
- 第3回 奈良時代の書①
- 第4回 奈良時代の書②
- 第5回 平安時代の漢字書① 弘仁・貞観期の文化、三筆の書(1)
- 第6回 平安時代の漢字書② 三筆の書(2)
- 第7回 平安時代の漢字書③ 国風文化の発達、三跡の書(1)
- 第8回 平安時代の漢字書④ 三跡の書(2)
- 第9回 平安時代の漢字書④ 三跡の書(2)
- 第10回 仮名の生成と発展②
- 第11回 上代様の名品とその書法①
- 第12回 上代様の名品とその書法②
- 第13回 寛永の三筆① 王朝美の再現
- 第14回 寛永の三筆② 本阿弥光悦の人と書
- 第15回 寛永の三筆③ 近衛信尹と松花堂昭乗の人と書、まとめ

履修上の注意点

日本書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や名品に関する知識を主体的に身につける。また図版資料によって、古筆の書風や書法を視覚的に分析・理解するよう努めること。

教科書

日本書道史年表

著者: 名見耶明

出版社: 二玄社

出版年: 1999

ISBN: 4-544-01242-2

和様の書美

著者: 横山煌平

出版社: 二玄社

出版年: 2013

ISBN:

参考書

展望日本書道史

著者: 小松茂美

出版社: 中央公論社

出版年:

ISBN:

古筆

著者： 小松茂美

出版社： 講談社

出版年： ISBN:

決定版日本書道史

著者： 名兎耶明

出版社： 芸術新聞社

出版年： ISBN:

書道全集

著者：

出版社： 平凡社

出版年： ISBN:

書道藝術

著者：

出版社： 中央公論社

出版年： ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（25）

小テスト（25）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（20）

レポート試験、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 V &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

日本の伝統文化への理解を深める

授業の到達目標

伝統文化それぞれの特質と歴史について知る。発表を通して読解力やプレゼンテーション能力を高める。

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、弓道、箏曲、居合道について学び、2限目はサークルの協力を得て体験します。なお、順序と一部の内容が変更する可能性があります。

準備学習(予習・復習)

グループごとに文献で調べた知識をどのようにまとめ、伝えるのかを十分話し合うこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 図書館で調べ方を学ぶ
- 第3回 弓道について
- 第4回 弓道体験
- 第5回 華道について
- 第6回 華道体験
- 第7回 箏曲について
- 第8回 箏曲体験
- 第9回 居合道について
- 第10回 居合道体験
- 第11回 書道について
- 第12回 書道体験
- 第13回 茶道について
- 第14回 茶道体験
- 第15回 まとめと後半の進め方について

履修上の注意点

グループ発表は全員で行うこと。体験学習はそれぞれの作法を守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習V &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 10代20代向けの小説	
授業の到達目標 1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行う。	
授業の概要 10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行いません。	
準備学習(予習・復習) 授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分(週に2時間程度)とする。学期末までにテキストを読了すること。	
内 容 第1回 ライトノベルとは何か 第2回 文庫化、漫画化による変化 第3回 香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」 第4回 荻原規子「RDG(レッドデータガール)」 第5回 あさのあつこ「NO. 6(ナンバーシックス)」 第6回 桜庭一樹「GOSICK(ゴシック)」 第7回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章 第8回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章 第9回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章 第10回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章 第11回 坂木司「和菓子のアン」第1章 第12回 坂木司「和菓子のアン」第2章 第13回 坂木司「和菓子のアン」第3章 第14回 坂木司「和菓子のアン」第4章 第15回 まとめ	
履修上の注意点 この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので、注意すること。	
教科書 和菓子のアン 著者： 坂木司 出版社： 光文社文庫 出版年： 2012 ISBN： 9.78433E+12 神去なあなあ日常 著者： 三浦しをん 出版社： 徳間文庫 出版年： 2012 ISBN： 9.7842E+12	
参考書 NO. 6 著者： あさのあつこ 出版社： 講談社文庫 出版年： ISBN：	

妖怪アパートの幽雅な日常

著者： 香月日輪

出版社： 講談社文庫

出版年： ISBN:

RDG

著者： 荻原規子

出版社： 角川文庫

出版年： ISBN:

GOSICK

著者： 桜庭一樹

出版社： 角川文庫

出版年： ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 60% )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40% )



## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅴ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日中言語比較

授業の到達目標

(1)外国語と比較して日本語の特徴を理解する (2)英語以外の外国語に触れる (3)海外の社会や文化に興味を持つ

授業の概要

グループワークを通じて外国語と比較したときに浮かび上がる日本語の特徴をまなぶ

準備学習(予習・復習)

はじめて中国語に触れる学生がほとんどだと予想されるので、とくに復習をちゃんとやっておくこと

内 容

- 第1回 日中言語比較 名詞(1)
- 第2回 課題への取り組みと小テスト
- 第3回 日中言語比較 名詞(2)
- 第4回 課題への取り組みと小テスト
- 第5回 日中言語比較 動詞(1)
- 第6回 課題への取り組みと小テスト
- 第7回 日中言語比較 動詞(2)
- 第8回 課題への取り組みと小テスト
- 第9回 日中言語比較 疑問文
- 第10回 課題への取り組みと小テスト
- 第11回 日中言語比較 打消
- 第12回 課題への取り組みと小テスト
- 第13回 日中言語比較 形容詞
- 第14回 課題への取り組みと小テスト
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

NHKの語学教材でいいので、授業を並行して中国語の学習をすることが望ましい(「テレビで中国語」がおすすめ)

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 V &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 安達 太郎	
テーマ 声の復権を目指す	
授業の到達目標 1)生き生きとしたプレゼンテーションができる。2)相互批評性を身につける。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。	
授業の概要 自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。	
内 容 第1回 言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～ 第2回 生き生きとしたプレゼンテーションとは 第3回 タスク1 ビブリオバトル(1)導入 第4回 タスク1 ビブリオバトル(2)グループワーク 第5回 タスク1 ビブリオバトル(3)本戦1 第6回 タスク1 ビブリオバトル(4)本戦2 第7回 タスク1 ビブリオバトル(5)本戦4 第8回 タスク1 ビブリオバトル(6)本戦5とビブリオバトルの振り返り 第9回 タスク2 歌合(1)導入 第10回 タスク2 歌合(2)グループワーク 第11回 タスク2 歌合(3)歌合本戦1 第12回 タスク2 歌合(4)歌合本戦2 第13回 タスク2 歌合(5)歌合本戦3 第14回 タスク2 歌合(6)歌合本戦4 第15回 タスク2 歌合(7)歌合本戦5と歌合の振り返り	
履修上の注意点 この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので、注意すること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 短歌パラダイス 著者: 小林恭二 出版社: 岩波書店 出版年: 1997 ISBN: 4-00-430498-9 ビブリオバトル 著者: 谷口忠大 出版社: 文藝春秋 出版年: 2013 ISBN: 4-16-660901-7	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (30%)	



## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅵ &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

京都・滋賀・大阪を舞台にした小説を読む

授業の到達目標

作品を通して、京都・滋賀・大阪の歴史と文化について学ぶ たくさん読書をする 読解力を付ける プレゼンテーション力を向上させる

授業の概要

グループで担当作品を選び、発表する。1限目に発表、2限目は全員で意見を述べ合う読書会形式とする。

準備学習(予習・復習)

担当作品については、どうすればよいプレゼンができるかをグループで十分話し合う。

内 容

- 第1回 図書館ガイダンス
- 第2回 グループワーク
- 第3回 グループ発表①
- 第4回 討論
- 第5回 グループ発表②
- 第6回 討論
- 第7回 グループ発表③
- 第8回 討論
- 第9回 グループ発表④
- 第10回 討論
- 第11回 グループ発表⑤
- 第12回 討論
- 第13回 グループ発表⑥
- 第14回 討論
- 第15回 振り返り

履修上の注意点

発表しない回の作品も必ず読んで授業に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅵ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 現代小説における古典芸能	
授業の到達目標 1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行なう。	
授業の概要 現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。	
準備学習(予習・復習) テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分(週あたり2時間)とする。	
内 容 第1回 古典芸能入門 第2回 歌舞伎、文楽、組踊 第3回 歌舞伎鑑賞 第4回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」序幕、二幕目 第5回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」三幕目 第6回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」四幕目 第7回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」五幕目 第8回 落語、浪曲、講談 第9回 落語鑑賞 第10回 田中啓文「ハナシがちがう!」第一話前半 第11回 田中啓文「ハナシがちがう!」第一話後半 第12回 田中啓文「ハナシがちがう!」第二話 第13回 田中啓文「ハナシがちがう!」第三話 第14回 池上永一「竹富島」前半 第15回 池上永一「竹富島」後半	
履修上の注意点	
教科書 カブキブ! 1 著者: 榎田ユウリ 出版社: 角川文庫 出版年: 2013 ISBN: 9.78404E+11 ハナシがちがう(笑酔亭梅寿謎解晰1) 著者: 田中啓文 出版社: 集英社文庫 出版年: 2006 ISBN: 9.78409E+12	
参考書 続ばる島(すばるしま) 著者: 池上永一 出版社: 角川文庫 出版年: ISBN: 仏果を得ず 著者: 三浦しをん 出版社: 双葉文庫 出版年: ISBN:	

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 60% )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅵ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

近代の俳句・短歌を鑑賞する

授業の到達目標

近代の俳句短歌の鑑賞を通じて、日本の言語文化に関して理解を深めるとともに、豊かな日本語表現力を修得する

授業の概要

近代日本の代表的な俳句・短歌を鑑賞すると同時に、自らも実作を行う。講義中、2回学外に出て吟行を行い、フォト俳句を作成する

準備学習(予習・復習)

随時課題の提出を求めていく

内 容

第1回 俳句と短歌の違い

第2回 恋をテーマにした短歌

第3回 日常をテーマにした俳句

第4回 日常をテーマにした短歌

第5回 第1回吟行(京都市立動物園)「動物」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る

第6回 第2回吟行(京都市立動物園)「動物」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る

第7回 課題発表

第8回 課題発表

第9回 自然をテーマにした俳句・短歌

第10回 心象風景をテーマにした俳句・短歌

第11回 第3回吟行(京都鉄道博物館)「鉄道」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌

第12回 第4回吟行(京都鉄道博物館)「鉄道」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌

第13回 課題発表

第14回 課題発表

第15回 老・病・死をテーマにした俳句・短歌

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加する

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習VI &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)文学や歴史, 地理を総合的に理解することができる。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協同してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に, 文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って, タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 タスク3 群読(1)導入
- 第2回 タスク3 群読(2)万葉歌の群読
- 第3回 タスク3 群読(3)近代詩の群読1
- 第4回 タスク3 群読(4)近代詩の群読2
- 第5回 タスク3 群読(5)近代詩の群読3
- 第6回 タスク3 群読(6)近代詩の群読4
- 第7回 タスク3 群読(7)近代詩の群読と振り返り
- 第8回 タスク4 リレープレゼン(1)
- 第9回 タスク4 リレープレゼン(2)
- 第10回 タスク4 リレープレゼン(3)学外授業
- 第11回 タスク4 リレープレゼン(4)
- 第12回 タスク4 リレープレゼン(5)
- 第13回 タスク4 リレープレゼン(6)
- 第14回 タスク4 リレープレゼン(7)
- 第15回 タスク4 リレープレゼン(8)

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので, 注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (30%)



## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅶ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 10代20代向けの小説	
授業の到達目標 1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行う。	
授業の概要 10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行いません。	
準備学習(予習・復習) 授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分(週に2時間程度)とする。学期末までにテキストを読了すること。	
内 容 第1回 ライトノベルとは何か 第2回 文庫化、漫画化による変化 第3回 香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」 第4回 荻原規子「RDG(レッドデータガール)」 第5回 あさのあつこ「NO. 6(ナンバーシックス)」 第6回 桜庭一樹「GOSICK(ゴシック)」 第7回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章 第8回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章 第9回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章 第10回 三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章 第11回 坂木司「和菓子のアン」第1章 第12回 坂木司「和菓子のアン」第2章 第13回 坂木司「和菓子のアン」第3章 第14回 坂木司「和菓子のアン」第4章 第15回 まとめ	
履修上の注意点	

## 教科書

## 和菓子のアン

著者: 坂木司

出版社: 光文社文庫

出版年: 2012

ISBN: 9.78433E+12

## 神去なあなあ日常

著者: 三浦しをん

出版社: 徳間文庫

出版年: 2012

ISBN: 9.7842E+12

## 参考書

## NO. 6

著者: あさのあつこ

出版社: 講談社文庫

出版年:

ISBN:

## 妖怪アパートの幽雅な日常

著者: 香月日輪

出版社: 講談社文庫

出版年:

ISBN:

RDG

著者： 荻原規子  
出版社： 角川文庫  
出版年：

ISBN:

GOSICK

著者： 桜庭一樹  
出版社： 角川文庫  
出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 60% )  
参加度 ( )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 40% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅶ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野村 幸一郎	
テーマ 日中言語比較	
授業の到達目標 (1)外国語と比較したときに浮かび上がる日本語の特徴を理解する (2)英語以外の言語に触れる (3)海外の文化や国際情勢に興味を持つ	
授業の概要 グループワークを通じて外国語と比べたときに浮かび上がる日本語の特徴を学んでいく	
準備学習(予習・復習) 初めて中国語に触れる受講生がほとんどだと思われるので、復習をちゃんとしてくること	
内 容 第1回 日中言語比較 名詞(1) 第2回 課題への取り組みと小テスト 第3回 日中言語比較 名詞(2) 第4回 課題への取り組みと小テスト 第5回 日中言語比較 動詞(1) 第6回 課題への取り組みと小テスト 第7回 日中言語比較 動詞(2) 第8回 課題への取り組みと小テスト 第9回 日中言語比較 疑問文 第10回 課題への取り組みと小テスト 第11回 日中言語比較 打消し 第12回 課題への取り組みと小テスト 第13回 日中言語比較 形容詞 第14回 課題への取り組みと小テスト 第15回 まとめ	
履修上の注意点 NHKの語学テキストでいいので、授業と並行して中国語の学習を進めてほしい(「テレビで中国語」がおすすめ)	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 ( ) 参加度には受講態度が含まれます	小テスト (60) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅶ &lt;c&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)生き生きとしたプレゼンテーションができる。2)相互批評性を身につける。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～  
 第2回 生き生きとしたプレゼンテーションとは  
 第3回 タスク1 ビブリオバトル(1)導入  
 第4回 タスク1 ビブリオバトル(2)グループワーク  
 第5回 タスク1 ビブリオバトル(3)本戦1  
 第6回 タスク1 ビブリオバトル(4)本戦2  
 第7回 タスク1 ビブリオバトル(5)本戦4  
 第8回 タスク1 ビブリオバトル(6)本戦5とビブリオバトルの振り返り  
 第9回 タスク2 歌合(1)導入  
 第10回 タスク2 歌合(2)グループワーク  
 第11回 タスク2 歌合(3)歌合本戦1  
 第12回 タスク2 歌合(4)歌合本戦2  
 第13回 タスク2 歌合(5)歌合本戦3  
 第14回 タスク2 歌合(6)歌合本戦4  
 第15回 タスク2 歌合(7)歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので、注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

短歌パラダイス

著者: 小林恭二

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4-00-430498-9

ビブリオバトル

著者: 谷口忠大

出版社: 文藝春秋

出版年: 2013

ISBN: 4-16-660901-7

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (30%)



## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅶ &lt;d&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

日本の伝統文化への理解を深める

授業の到達目標

伝統文化それぞれの特質と歴史について知る。発表を通して読解力やプレゼンテーション能力を高める。

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、弓道、箏曲、居合道について学び、2限目はサークルの協力を得て体験します。なお、順序と一部の内容が変更する可能性があります。

準備学習(予習・復習)

グループごとに文献で調べた知識をどのようにまとめ、伝えるのかを十分話し合うこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 図書館で調べ方を学ぶ
- 第3回 弓道について
- 第4回 弓道体験
- 第5回 華道について
- 第6回 華道体験
- 第7回 箏曲について
- 第8回 箏曲体験
- 第9回 居合道について
- 第10回 居合道体験
- 第11回 書道について
- 第12回 書道体験
- 第13回 茶道について
- 第14回 茶道体験
- 第15回 まとめと後半の進め方について

履修上の注意点

グループ発表は全員で行うこと。体験学習はそれぞれの作法を守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅷ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 重松 恵美	
テーマ 現代小説における古典芸能	
授業の到達目標 1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行なう。	
授業の概要 現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。	
準備学習(予習・復習) テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分(週あたり2時間)とする。	
内 容 第1回 古典芸能入門 第2回 歌舞伎、文楽、組踊 第3回 歌舞伎鑑賞 第4回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」序幕、二幕目 第5回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」三幕目 第6回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」四幕目 第7回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」五幕目 第8回 落語、浪曲、講談 第9回 落語鑑賞 第10回 田中啓文「ハナシがちがう!」第一話前半 第11回 田中啓文「ハナシがちがう!」第一話後半 第12回 田中啓文「ハナシがちがう!」第二話 第13回 田中啓文「ハナシがちがう!」第三話 第14回 池上永一「竹富島」前半 第15回 池上永一「竹富島」後半	
履修上の注意点	
教科書 カブキブ! 1 著者: 榎田ユウリ 出版社: 角川文庫 出版年: 2013 ISBN: 9.78404E+11 ハナシがちがう(笑酔亭梅寿謎解晰1) 著者: 田中啓文 出版社: 集英社文庫 出版年: 2006 ISBN: 9.78409E+12	
参考書 続ばる島(すばるしま) 著者: 池上永一 出版社: 角川文庫 出版年: ISBN: 仏果を得ず 著者: 三浦しをん 出版社: 双葉文庫 出版年: ISBN:	

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 60% )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40% )



## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅷ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野村 幸一郎	
テーマ 近代日本の俳句・短歌を鑑賞する	
授業の到達目標 近代日本の俳句・短歌を鑑賞することを通じて、日本語言語芸術を理解すると同時に、豊かな日本語表現力の修得を目指す	
授業の概要 近代日本の俳句短歌を鑑賞しつつ、学外に吟行を出かけ、フォト俳句・フォト短歌の実作を行う。	
準備学習(予習・復習) 授業中に随時、課題の提出を求めていく	
内 容 第1回 俳句と短歌の違い 第2回 恋をテーマにした短歌 第3回 人生をテーマにした俳句・短歌 第4回 日常をテーマにした俳句 第5回 第1回 吟行(京都市立動物園)「動物」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る 第6回 第2回 吟行(京都市立動物園)「動物」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る 第7回 課題作成 第8回 課題発表 第9回 日常をテーマにした短歌 第10回 自然をテーマにした俳句・短歌 第11回 第3回吟行(京都鉄道博物館)「鉄道」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る 第12回 第4回吟行(京都鉄道博物館)「鉄道」をテーマにしたフォト俳句・フォト短歌を作る 第13回 課題作成 第14回 課題発表 第15回 老・病・死をテーマにした俳句・短歌	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 60 ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅷ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1) 文学や歴史、地理を総合的に理解することができる。2) テキストのフレージングを意識化することができる。3) グループで協同してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 タスク3 群読(1) 導入
- 第2回 タスク3 群読(2) 万葉歌の群読
- 第3回 タスク3 群読(3) 近代詩の群読1
- 第4回 タスク3 群読(4) 近代詩の群読2
- 第5回 タスク3 群読(5) 近代詩の群読3
- 第6回 タスク3 群読(6) 近代詩の群読4
- 第7回 タスク3 群読(7) 近代詩の群読と振り返り
- 第8回 タスク4 リレープレゼン(1)
- 第9回 タスク4 リレープレゼン(2)
- 第10回 タスク4 リレープレゼン(3) 学外授業
- 第11回 タスク4 リレープレゼン(4)
- 第12回 タスク4 リレープレゼン(5)
- 第13回 タスク4 リレープレゼン(6)
- 第14回 タスク4 リレープレゼン(7)
- 第15回 タスク4 リレープレゼン(8)

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので、注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (30%)

## 2017 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅷ &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

京都・滋賀・大阪を舞台にした小説を読む

授業の到達目標

作品を通して、京都・滋賀・大阪の歴史と文化について学ぶ たくさん読書をする 読解力を付ける プレゼンテーション力を向上させる

授業の概要

グループで担当作品を選び、発表する。1限目に発表、2限目は全員で意見を述べ合う読書会形式とする。

準備学習(予習・復習)

担当作品については、どうすればよいプレゼンができるかをグループで十分話し合う。

内 容

- 第1回 図書館ガイダンス
- 第2回 グループワーク
- 第3回 グループ発表①
- 第4回 討論
- 第5回 グループ発表②
- 第6回 討論
- 第7回 グループ発表③
- 第8回 討論
- 第9回 グループ発表④
- 第10回 討論
- 第11回 グループ発表⑤
- 第12回 討論
- 第13回 グループ発表⑥
- 第14回 討論
- 第15回 振り返り

履修上の注意点

発表しない回の作品も必ず読んで授業に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語学講義 I (日本語文法)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中俣 尚己

テーマ

日本語の隠れた法則に気づく

授業の到達目標

普段無意識に使っている日本語にも様々な規則があることに目を向ける。その過程を通じて論理的な物事の見方を養う。

授業の概要

日本語の様々なルールについて概説し、日本語学という学問で考察の対象となっているトピックについて考えます。色々問題を出すので、授業中に参加者で相談しながら日本語の法則性を考えたり、例文を作ったりします。

準備学習(予習・復習)

授業で配布する資料をよく読み、復習をしっかりと下さい。また、宿題をきちんと行うこと。

内 容

- 第1回 品詞:「問題の日本語」と「問題な日本語」
- 第2回 活用:「来られる」と「来れる」
- 第3回 文の組み立て:「私が好き」と「私が好き」
- 第4回 格助詞:「ここに泊まる」と「ここで泊まる」
- 第5回 副助詞:「私は中俣です」と「私が中俣です」?
- 第6回 接続助詞:「太郎が入ってから次郎が出た」と「太郎が入ったから次郎が出た」
- 第7回 連用修飾と連体修飾:「携帯電話を落とした学生」と「携帯電話を落とした中俣」
- 第8回 受け身と使役:「中俣に壊される」と「中俣に来られる」
- 第9回 文と時間の関係:「動いている」と「止まっている」
- 第10回 認識:「おいしそうだ」と「おいしいそうだ」
- 第11回 文の種類:「やってもいいです」と「やってもいいですか」
- 第12回 補助動詞:「先生が来てくれる」と「先生に来てもらう」
- 第13回 敬語:「お読みになる」と「お読みする」
- 第14回 文と文の繋がり:「明日はテストだ。だから～」と「明日はテストだ。そこで～」
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

国語教師が知っておきたい日本語文法

著者: 山田敏弘

出版社: くろしお出版

出版年: 2004

ISBN: 978-4874243107

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語学講義Ⅱ(日本語文法)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 中俣 尚己

テーマ

現実の日本語を知る

授業の到達目標

コンピュータを活用し日本語の使用実態を調査する方法と他人を説得するプレゼンテーション・スキルを身につける。

授業の概要

「本当の日本語の姿」を知るためには、コーパスと呼ばれる電子的な言語資料を用いて、数的調査を行うという方法が考えられる。この授業ではコーパスを用いて、表記・語形・コロケーション・よく使われる形などについて研究を行い、それを発表する。

準備学習(予習・復習)

前半はパソコンの操作を学びます。一度で覚えることはできないので、必ず宿題を行い、操作に習熟すること。後半は発表です。入念に準備を行うこと。自分の思い込みを語るのではなく、どういう証拠を見れば、他人は納得するかを考えてください。テーマの相談はメールなどでも受け付けます。

内 容

- 第1回 ガイダンス、「中納言」の登録、Googleの賢い使い方
- 第2回 コーパスとは何か、「少納言」の体験、正規表現
- 第3回 「中納言」による検索
- 第4回 「中納言」の検索結果の加工、Excelの様々な機能
- 第5回 コロケーションとは何か? 「NLP」と「NLT」
- 第6回 仮説的統計検定の基礎
- 第7回  $\chi^2$  乗検定の実践
- 第8回 テーマ選定のための作業
- 第9回 参加者による発表
- 第10回 参加者による発表
- 第11回 参加者による発表
- 第12回 参加者による発表
- 第13回 参加者による発表
- 第14回 参加者による発表
- 第15回 参加者による発表

履修上の注意点

演習では、他の人の発表に対し、積極的に質問、コメントを行うこと。

教科書

参考書

ウェブ検索による日本語研究

著者: 荻野綱雄

出版社: 朝倉書店

出版年: 2014

ISBN: 978-4254510447

成績評価

試験・レポート (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

発表し、それをレポートにまとめてもらいます。

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

## 2017 Syllabus

## 科目名 日本語学講義Ⅲ(社会言語学)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 鳥谷 善史

## テーマ

ことばの変化と社会の相関(日本の諸方言を中心に)

## 授業の到達目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する分野である。その実例として「ら抜き言葉」を事例に研究内容を紹介する。また、日本の社会言語学は、「方言学」との関係が密である。そこで、「標準語と共通語」「方言と言語」の違いなどについて、言語学の立場から考察したい。その後、日本各地の諸方言について概観したうえで、その分布形成の要因を「方言圏論」他から確認してみたい。

## 授業の概要

日本語の変化の中でもとりわけ、文法の変化について詳細に確認する。また、日本各地の諸方言の実態や分布要因についても確認する。

## 準備学習(予習・復習)

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考書を読み、より考察を深めレポートを作成すること。最後に、基本用語に関する小テストがあるので、ノートや参考文献を確認し、小テストに臨むこと。

## 内 容

- 第1回 社会言語学とは
- 第2回 日本の社会言語学とその研究分野
- 第3回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)1(現象の分析)
- 第4回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)2(通時的側面)
- 第5回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)3(共時的側面)
- 第6回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)4(方言からみる変化の実態)
- 第7回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)5(属性からみる変化の実態)
- 第8回 ら抜き言葉のまとめ(小テスト:レポート)
- 第9回 方言と言語の違いについて・「共通語」「標準語」と「方言」
- 第10回 方言の分布について1(周圏分布1)
- 第11回 方言の分布について1(周圏分布2)
- 第12回 方言の分布について1(周圏分布3)
- 第13回 日本語諸方言の実態1(方言区画論)
- 第14回 日本語諸方言の実態2(具体的音声から)
- 第15回 社会言語学のまとめと小テスト

## 履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

## 教科書

適宜プリントを配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

関西方言の社会言語学

著者: 徳川宗賢・真田信治編

出版社: 世界思想社

出版年: 1995

ISBN: 4790705501

全国アホ・バカ分布考

著者: 松本 修

出版社: 新潮文庫

出版年: 1996

ISBN: 4101441214

## 日本語ウォッチング

著者： 井上史雄

出版社： 岩波新書

出版年： 1998

ISBN： 4004305403

## 方言学

著者： 真田信治編著

出版社： 朝倉書店

出版年： 2011

ISBN： 9.78425E+12

## 社会言語学の展望

著者： 真田信治編

出版社： くろしお出版

出版年： 2006

ISBN： 4874243452

## 大阪のことば地図

著者： 岸江信介他編著

出版社： 和泉書院

出版年： 2009

ISBN： 9.78476E+12

## 都市と周縁のことば

著者： 岸江信介他編著

出版社： 和泉書院

出版年： 2013

ISBN： 9.78476E+12

## 方言学入門

著者： 木部暢子他編著

出版社： 三省堂

出版年： 2013

ISBN： 9.78439E+12

## 柳田方言学の現代的意義

著者： 小林隆編

出版社： ひつじ書房

出版年： 2014

ISBN： 4894767198

## 新日本言語地図

著者： 大西拓一郎編

出版社： 朝倉書店

出版年： 2016

ISBN： 9.78425E+12

## 成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（50）

授業中課題（0）

授業中発表等（10）

参加度（40）

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語学講義Ⅳ(日本語史)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

授業の到達目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半(鎌倉時代・南北朝時代)の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の概要

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習:参考文献を各自で調べそれぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認し、授業で述べた内容をより深く考察すること。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンス) 総説1(日本語の範囲・記述対象)
- 第2回 総説2(時代区分)
- 第3回 総説3(資料・言語変化のメカニズム)
- 第4回 音韻史1(上代を中心に1)
- 第5回 音韻史2(上代を中心に2)
- 第6回 音韻史3(上代以降の状況)
- 第7回 音韻史4(上代以降の状況)
- 第8回 文字史1(漢字の伝来)
- 第9回 文字史2(万葉仮名)
- 第10回 文字史3(平仮名の成立とその広がり)
- 第11回 文字史4(片仮名の成立とその使用)
- 第12回 語彙史1(和語を中心に)
- 第13回 語彙史2(漢語と外来語)
- 第14回 文法史(所謂学校文法の確認と上代の活用について)
- 第15回 まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 425451522-0

参考書

概説日本語の歴史

著者: 佐藤武義

出版社: 朝倉書店

出版年: 1995

ISBN: 4254510195

日本語史要説

著者: 渡辺実

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4000260111



日本語の歴史

著者： 山口明穂他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1997

ISBN: 4130820042

はじめて読む日本語の歴史

著者： 沖森卓也

出版社： ベレ出版

出版年： 2010

ISBN: 4860642556

日本語の歴史全8巻

著者： 亀井孝他編

出版社： 平凡社

出版年： 1963-66

ISBN: 4582765955

いろはうた

著者： 小松英雄

出版社： 講談社学術文庫

出版年： 2009

ISBN: 9.78406E+12

五十音図の話

著者： 馬淵和夫

出版社： 大修館書店

出版年： 1993

ISBN: 9.78447E+12

国語音韻論

著者： 馬淵和夫

出版社： 笠間書院

出版年： 1971

ISBN: 4305000180

国語学史

著者： 馬淵和夫・出雲朝子

出版社： 笠間書院

出版年： 2010

ISBN: 9.78431E+12

日本語書記史言論

著者： 小松英雄

出版社： 笠間書院

出版年： 2006

ISBN: 4305703238

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 0 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 30 )

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

---

## 2017 Syllabus

科目名 古典文学講義 I (平安)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読む—光源氏の栄華—

授業の到達目標

平安時代文学の代表作品であり、日本の古典文学の最高峰の一つとされている源氏物語を読む。源氏物語は、書かれてから千年以上経過した現代でも、多くの読者を獲得している。千年に渡って読み続けられてきた源氏物語の、時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語の第一部の前半部を中心に物語展開の流れを追いつつ、各所を取り上げ、原文を丁寧に読み解くことを通じて、そこに込められた登場人物や作者の思いを探る。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

予習としては、梗概書・便覧などによって授業で取り上げる巻巻の概要を確認しておくこと。復習としては、授業で取り上げた内容を400字程度にまとめるという作業をすること。

内 容

- 第1回 源氏物語という作品
- 第2回 光源氏の恋—桐壺の巻—
- 第3回 雨夜の品定め—帚木・空蟬の巻—
- 第4回 夕顔物語—夕顔の巻—
- 第5回 若紫との出会い・藤壺との密通—若紫の巻—
- 第6回 青海波の舞—紅葉賀の巻—
- 第7回 朧月夜の恋—花宴の巻—
- 第8回 車の所争い—葵の巻—(現地学習を別に設定する)
- 第9回 六条御息所との別れ—賢木の巻—(現地学習を別に設定する)
- 第10回 橘の花散る里—花散里の巻—
- 第11回 須磨の秋—須磨の巻—
- 第12回 明石の君との出会い—明石の巻—
- 第13回 復活する光源氏—濤標の巻—
- 第14回 明石の君の嵯峨野—松風の巻—
- 第15回 光源氏の青春の終焉—薄雲の巻—

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者: 福嶋昭治

出版社: 扶桑社

出版年: 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

試験はレポート試験とする。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 古典文学講義Ⅱ(平安)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 福嶋 昭治	
テーマ 源氏物語を読むー光源氏の人生のかげり・紫の上の苦悩の深まりー	
授業の到達目標 源氏物語の時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。	
授業の概要 源氏物語第一部の「少女」の巻以後、光源氏が人生の頂点を極めるまでの部分と、第二部の、かげりを帯びてくる光源氏の人生の後半部分を読む。同時に、第二部の重要なテーマである紫の上の苦悩の深まりという点についても注目する。必要に応じて学外実習を行う場合がある。	
準備学習(予習・復習) 予習としては、梗概書・便覧などによって授業で取り上げる巻巻の概要を確認しておくこと。復習としては、授業で取り上げた内容を400字程度にまとめるという作業をすること。	
内 容 第1回 夕霧の元服と六条院の造成ー少女ー 第2回 玉鬘物語ー玉鬘十帖の巻々ー 第3回 光源氏の人生の頂点ー藤裏葉ー(現地学習を別に設定する) 第4回 女三の宮の降嫁ー若菜上①ー 第5回 明石の入道の思いー若菜上②ー 第6回 六条院の蹴鞠ー若菜上③ー 第7回 二度目の住吉詣でー若菜下①ー 第8回 紫の上の孤独ー若菜下②ー 第9回 柏木と女三の宮の密通ー若菜下③ー 第10回 柏木の死と薫の誕生ー柏木ー 第11回 形見の笛ー横笛ー 第12回 出家した女三の宮ー鈴虫ー 第13回 夕霧の恋ー夕霧ー 第14回 紫の上との別れー御法ー 第15回 哀悼の一年ー幻ー	

## 履修上の注意点

## 教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他源氏物語各種注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 古典文学講義Ⅲ(中近世)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

物語草子の異界

授業の到達目標

・日本の代表的な異界をめぐる物語を読むことで、豊かな想像力を育む。・なぜこのような物語が生まれたのか、その背景について考察する力を養う。

授業の概要

テキストを読み、各章ごとに興味をもった点を発表してもらい、それをもとに講義を行う。

準備学習(予習・復習)

(予習)授業前にテキストに目を通し、言葉や作品内容について調べておく。(復習)関心を持った作品を自分で読む。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 序章
- 第3回 第一章
- 第4回 第二章
- 第5回 第三章
- 第6回 第四章
- 第7回 第五章
- 第8回 第六章
- 第9回 第七章
- 第10回 第八章
- 第11回 第九章
- 第12回 第一〇章
- 第13回 第一一章
- 第14回 終章
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

必ずテキストを持参すること

教科書

異界と日本人

著者: 小松和彦

出版社: 角川文庫

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (50)

参加度には、授業での発表や発言を含みます。

## 2017 Syllabus

科目名 古典文学講義Ⅳ(中近世)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

浄瑠璃と歌舞伎について学ぶ

授業の到達目標

浄瑠璃と歌舞伎の特色を知り、日本を代表する伝統芸能について語れるようになる。また、作品を通して古典の世界や昔の風俗に親しむ。

授業の概要

以下を予定していますが、内容を変更する場合があります。また、授業の1回を劇場での見学・鑑賞に振り替えます。

準備学習(予習・復習)

下記URLなどを活用して下さい。また、メディアセンター所蔵のDVDやビデオなどで作品を鑑賞して下さい。参考書の他、活字になっている脚本も図書館に多数ありますので、読んでみて下さい。

内 容

- 第1回 浄瑠璃と歌舞伎の関係
- 第2回 出雲の阿国と南座のこと
- 第3回 女形の魅力
- 第4回 市川団十郎と江戸歌舞伎
- 第5回 歌舞伎十八番
- 第6回 人形浄瑠璃の歴史
- 第7回 坂田藤十郎と近松門左衛門
- 第8回 近松の世話物浄瑠璃①
- 第9回 近松の世話物浄瑠璃②
- 第10回 三大名作①
- 第11回 三大名作②
- 第12回 三大名作③
- 第13回 任侠劇『夏祭浪花鑑』
- 第14回 鶴屋南北の怪談劇
- 第15回 学外授業(他の回に変更する可能性があります)

履修上の注意点

就活理由の欠席に関して特別な配慮はしません。(実習を除く)

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。

## 2017 Syllabus

科目名 近現代文学講義 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

20世紀を代表する日本文学を読解する

授業の到達目標

日露戦争後表面化した近代日本の諸矛盾について、日本近代文学はさまざまな角度から照射している。この授業では文学作品の読解を通じて、日本にとって「近代」とは何だったのか考えていく。

授業の概要

とりあげる作品は夏目漱石『坊っちゃん』、森鷗外『雁』、芥川龍之介『地獄変』。坂口安吾『桜の森の満開の下』の4作品である。原則的に講義形式で授業を進めていくつもりだが、グループワークも平行して実施していくつもりである

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内容

- 第1回 概要説明
- 第2回 夏目漱石『坊っちゃん』読解(1)
- 第3回 夏目漱石『坊っちゃん』読解(2)
- 第4回 夏目漱石『坊っちゃん』読解(3)
- 第5回 森鷗外『雁』読解(1)
- 第6回 森鷗外『雁』読解(2)
- 第7回 森鷗外『雁』読解(3)
- 第8回 芥川龍之介『地獄変』読解(1)
- 第9回 芥川龍之介『地獄変』読解(2)
- 第10回 芥川龍之介『地獄変』読解(3)
- 第11回 坂口安吾『桜の森の満開の下』読解(1)
- 第12回 坂口安吾『桜の森の満開の下』読解(2)
- 第13回 坂口安吾『桜の森の満開の下』読解(3)
- 第14回 坂口安吾『桜の森の満開の下』読解(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

20世紀の日本文学

著者: みぎわ書房編

出版社: 白地社

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (60)

授業中発表等 ( )

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

## 科目名 近現代文学講義Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治からジブリへ

授業の到達目標

宮沢賢治の文学を文明批判の書としてとらえ、読解を進めていくと同時に、同じテーマを扱ったジブリ作品、具体的には『風の谷のナウシカ』けんとうを通じて、賢治の追求した主題がどのようにジブリに引き継がれていったか。明らかにしていく。

授業の概要

宮沢賢治の童話は、現代に生きる私たちにも多くの問題を投げかけている。賢治童話の読解を通じて、彼が現代文明のどこに矛盾を感じていたか確認するとともに、賢治とともに、その矛盾を解決していく方法を考えていきたい。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。

内 容

- 第1回 宮沢賢治の生涯と文学
- 第2回 『グスコーブドリの伝記』を読む(1)
- 第3回 『グスコーブドリの伝記』を読む(2)
- 第4回 『オツベルと象』を読む(1)
- 第5回 『オツベルと象』を読む(2)
- 第6回 『オツベルと象』を読む(3)
- 第7回 『なめとこ山の熊』を読む(1)
- 第8回 本学客員教授、角野栄子先生による特別講義(日程変更の可能性あり)
- 第9回 『なめとこ山の熊』を読む(2)
- 第10回 『なめとこ山の熊』を読む(3)
- 第11回 『銀河鉄道の夜』を読む(1)
- 第12回 『銀河鉄道の夜』を読む(2)
- 第13回 宮沢賢治からジブリへ(1) 『風の谷のナウシカ』を考える
- 第14回 宮沢賢治からジブリへ(2) 『風の谷のナウシカ』を考える
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

作品で読む宮沢賢治

著者: みぎわ書房

出版社: 白地社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (60)

授業中発表等 ( )

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 近現代文学講義Ⅲ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近代文学に見る〈抑圧される女たち〉

授業の到達目標

①小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

近代の文学作品をとりあげ、女性たちの形象化を中心に、作品の読解と鑑賞を試みる。主として講義形式で進めるが、小レポートやグループワークの時間を設ける。また、グループでの中間発表も取り入れて行きたい。

準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品は通読すること。授業で扱う作品以外にも紹介する作品を読み、授業に対して独自の問題意識を養うこと。

内 容

- 第1回 概説
- 第2回 坪内逍遙『細君』その1
- 第3回 坪内逍遙『細君』その2
- 第4回 樋口一葉『大つごもり』その1
- 第5回 樋口一葉『大つごもり』その2
- 第6回 樋口一葉『十三夜』その1
- 第7回 樋口一葉『十三夜』その2
- 第8回 泉鏡花『外科室』その1
- 第9回 泉鏡花『外科室』その2
- 第10回 森鷗外『雁』その1
- 第11回 森鷗外『雁』その2
- 第12回 円地文子『女坂』その1
- 第13回 円地文子『女坂』その2
- 第14回 まとめ
- 第15回 黛まどか先生による特別講義(日程未定)[担当:野村]

履修上の注意点

特別講義の日程は未定であるが、その前後に句作や小レポートを課題とすることがある。

教科書

使用しない。(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

恋の起源 明治の愛を読み解く

著者: 佐伯順子

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2000年

ISBN: 4-532-16327-7

語る女たちの時代 一葉と明治女性表現

著者: 関礼子

出版社: 新曜社

出版年: 1997年

ISBN: 4-7885-0583-5

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ( )

試験は期末レポートとする。



## 2017 Syllabus

## 科目名 近現代文学講義Ⅳ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 辻本 千鶴	
テーマ 近現代小説のなかの〈家族〉	
授業の到達目標 ①小説を分析的に読解・鑑賞するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。	
授業の概要 近現代の文学作品のなかから、家族を描いた作品を取り上げ、読解と鑑賞を試みる。主として講義形式で進めるが、随時、グループ活動や個人での発表を導入していく。	
準備学習(予習・復習) 授業で扱う作品は通読すること。また、授業中に紹介する他の作品も積極的に読み、講義内容に対する独自の問題意識を養うこと。	
内 容 第1回 概説 ——小説のなかの〈家族〉—— 第2回 森鷗外『高瀬舟』・『最後の一句』その1 第3回 森鷗外『高瀬舟』・『最後の一句』その2 第4回 幸田文『みそっかす』・『おとうと』 第5回 芥川龍之介『玄鶴山房』その1 第6回 芥川龍之介『玄鶴山房』その2 第7回 太宰治『斜陽』 第8回 庄野潤三『静物』・『蟹』 第9回 福永武彦『忘却の河』その1 第10回 福永武彦『忘却の河』その2 第11回 宮本輝『蜩川』 第12回 円地文子『食卓のない家』 第13回 吉本ばなな『キッチン』 第14回 瀬尾まい子『幸福の食卓』 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 使用しない。(プリント配布) 著者: 出版社: 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験・レポート (60%) 授業中課題 (20%) 参加度 ( ) 試験は期末レポートの形式とする。	小テスト ( ) 授業中発表等 (20%)

## 2017 Syllabus

## 科目名 映像文化演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 禧美 智章	
テーマ アニメーションの読解	
授業の到達目標 アニメーションの技法や語法を理解するための基本的な知識を身につけることができる。	
授業の概要 様々なアニメーションを鑑賞しながら、映像表現・アニメーションの読解法を解説する。なお、授業内容は進行等に変更することがある。	
準備学習(予習・復習) 普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。	
内 容 第1回 ガイダンス、アニメーションとは何か 第2回 アニメーションの種類 第3回 アニメーションの制作過程〈1〉 プリプロダクション 第4回 アニメーションの制作過程〈2〉 プロダクション・ポストプロダクション 第5回 絵コンテの読み方 第6回 アニメーターのおかれた現状 第7回 キャラクター〈1〉 記号論 第8回 キャラクター〈2〉 データベース消費 第9回 (進度調整) 第10回 動き〈1〉 フルアニメーションとリミテッド・アニメ 第11回 動き〈2〉 映像の原則 第12回 音響 第13回 ストーリーと脚本〈1〉 原作と映像 第14回 ストーリーと脚本〈2〉 文学とアニメーション 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 授業時にプリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 アニメーション学入門(平凡社新書) 著者: 津堅信之 出版社: 平凡社 出版年: 2005 ISBN: 978-4582852912 映像の原則 改訂版 著者: 富野由悠季 出版社: キネマ旬報社 出版年: 2011 ISBN: 978-4873767369 アニメーションの事典 著者: 横田正夫、池田宏、小出正志 出版社: 朝倉書店 出版年: 2012 ISBN: 978-4254680218	

アニメーションの想像力

著者： 禧美智章

出版社： 風間書房

出版年： 2015

ISBN: 978-4759920895

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業期間中、レポートの提出を求める(80%)。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える(20%)。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 文芸創作演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 辻本 千鶴	
テーマ 夏目漱石に学ぶ小説作法	
授業の到達目標 小説作品への批評眼・鑑賞眼を養成する。合わせて自ら創作する文章力・創造力を培うことも目標とする。	
授業の概要 夏目漱石の小説作品を鑑賞し、その小説作法に学びつつ、創作実習を行う。グループでの実習作品批評とその発表も取り入れる。	
準備学習(予習・復習) 授業で扱う漱石作品を通読すること。予習・復習として作品通読の努力を怠っていないか、随時発言や小レポートを求めている。	
内 容 第1回 概説 (担当:辻本) 第2回 『坊っちゃん』作品鑑賞 (担当:辻本) 第3回 創作実習 『坊っちゃん』の書き出しに学んで主人公を造形する。(担当:辻本) 第4回 実習作品の相互批評 (担当:辻本) 第5回 『吾輩は猫である』作品鑑賞 (担当:辻本) 第6回 創作実習 『吾輩は猫である』の書き出しに学んで人間以外の語り手を設定する。(担当:辻本) 第7回 実習作品の相互批評 (担当:辻本) 第8回 『夢十夜』作品鑑賞 (担当:辻本) 第9回 創作実習 『夢十夜』に学んで「夢」を素材に書く。(担当:辻本) 第10回 実習作品の相互批評 (担当:辻本) 第11回 『ころ』作品鑑賞 (担当:辻本) 第12回 創作実習 『ころ』のパロディーを書く。(担当:辻本) 第13回 実習作品の相互批評/まとめ (担当:辻本) 第14回 角野栄子先生による特別講義 (担当:野村)* 日程は未定です。 第15回 黛まどか先生による特別講義 (担当:野村)* 日程は未定です。	
履修上の注意点 ①創作実習の時間には、各自で原稿用紙を持参すること。②実習作品の完成のために、時間外の取り組みが必要になる場合もある。③特別講義(日程未定)の前後に俳句の創作やレポートを課す場合もある。	

## 教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

坊っちゃん

著者: 夏目漱石

出版社:

出版年:

ISBN:

吾輩は猫である

著者: 夏目漱石

出版社:

出版年:

ISBN:

夢十夜

著者: 夏目漱石

出版社:

出版年:

ISBN:

こころ

著者： 夏目漱石

出版社：

出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

実習作品への取り組みを重視する。

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 アナウンス技術演習Ⅰ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 荒尾 千春	
テーマ	
聴き手の心を掴む表現を学ぶ ～印象、聴き方、話し方を向上させてプレゼンやコミュニケーション上手になる～	
<b>授業の到達目標</b> 社会で求められる表現力やコミュニケーション力を学ぶ。また、考える、書く、ディスカッション、発表を繰り返す行うので、表現することに慣れる。アナウンス技術((プレゼン力)の向上はもちろんのこと、就職活動の際にも意識すべき点がわかるようになる。印象・聴き方・話し方などの基礎を体得することを目的としている。	
<b>授業の概要</b> アナウンス技術の基礎が身に着くように、毎回、発声や発音のトレーニングを行う。また、大勢の前でも1対1の際にも求められる「わかりやすい話の構成の仕方、要素」などを体得できるようにワークやディスカッション、発表の機会も多く取り入れる。「聞く、書く、話す」を積極的に行うよう心がけて受講して欲しい。	
<b>準備学習(予習・復習)</b> ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。	
<b>内 容</b> 第1回 オリエンテーション 講義の目的、講義の進め方 第2回 表現力を向上させるために必要な事とは ～アナウンススキル+振る舞い、姿勢、戦略的な演出～ 第3回 発声・発音のトレーニング ～①声の力を生かす ②発声のメカニズム ③メリハリの効いた発音～ 第4回 表現豊かな声のトレーニング ～①驚き・哀しみ、怒り、楽しみの表現 ②相手に伝わる話し方「物語を読む」～ 第5回 聴くスキル ～会話(コミュニケーション)上手は聞き上手～ 第6回 話の組み立て方 ～わかりやすい話の構成をフレームワークに入れて体得～ 第7回 わかりやすい話に必要な言葉の表現や例え話とは ～3+1の要素～ 第8回 言葉の表現力を向上させるトレーニング ～マンガラートに書き出し、事例集に～ 第9回 聴き手を惹きつける話の導入とクロージング 第10回 効果的な自己紹介 ～ライフラインチャートで表現～ 第11回 自分の思いが伝わるように「話にタイトル」をつける ～端的に思いを伝える～ 第12回 緊張緩和の方法 パワーポイントの効果的な使い方 第13回 プレゼン大会① 第14回 プレゼン大会② 第15回 講義のまとめ	
<b>履修上の注意点</b> 講義は、「聴く、話す」などのグループワークを中心に進めるため、積極的な参加姿勢・態度が求められる。理論はもちろんアナウンス技術の体得を目的とした演習が多いので、続けての受講が望ましい。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートの提出も求める。	
<b>教科書</b>	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価</b> 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 50 ) 授業中発表等 ( 25 ) 参加度 ( 25 ) 講義の気づきレポート・期末レポート 50%、プレゼン発表25%、参加度25%	

## 2017 Syllabus

## 科目名 アナウンス技術演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 荒尾 千春	
テーマ	
言葉の表現力を向上させて思いが伝わる話し方を体得する ～様々なトレーニングや視点を基に表現する力を磨く～	
授業の到達目標	
伝えるではなく、伝わる話にするために必要な要素を学ぶと共に、自分の意見を効果的に伝えることの重要性を体感する。また、他者の発表をフィードバックすることで、プレゼンに必要なポイントを客観的に学ぶことができる。さらに、語彙や表現力を豊かにするための様々なトレーニング方法を学ぶなど、アナウンス力(プレゼン力)を総合的に向上させる事を目的とする。	
授業の概要	
アナウンス技術演習Ⅰを発展させた内容である。語彙力を高めるための様々なトレーニングを行う。またワークを取り入れながら、自分の意見が言えるようにトレーニングをする。アナウンス技術が定着するよう、毎回発声や発音も行う。	
準備学習(予習・復習)	
ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。	
内 容	
第1回	オリエンテーション 講義の目的、講義の進め方
第2回	表現力を向上させるために必要な事(アナウンス演習Ⅰの復習)～振る舞い、姿勢、戦略的な演出、聴き取りやすい発声・発音、わかりやすい話に必要な要素～
第3回	言葉の表現力を向上するトレーニング～ゲーム感覚で頭を柔軟にし、言葉の表現力や瞬発力を高める～
第4回	語彙を広げ、共感が得られる表現とは～共通点を表現するトレーニング～
第5回	テレビ・ラジオのアナウンサーの実況トレーニングで表現を磨く～観察力を高める必要性を知る～
第6回	自分の意見を伝える～常に問題意識をもつ～
第7回	ニュースを評論する～ニュース素材を使用し、自分の意見を表す～
第8回	自分史をつくって、表現する～自分年表を作成し、振り返る～
第9回	自分の価値観を表現する～年表から見えてきたことを分かりやすく伝える～
第10回	プレゼンに必要な要素～ノンバーバルの意識を高める、緊張緩和の方法～
第11回	思いを伝える効果的な道具
第12回	プレゼン大会①+フィードバック
第13回	プレゼン大会②+フィードバック
第14回	プレゼン大会③+フィードバック
第15回	褒めるトレーニング 講義のまとめ
履修上の注意点	
講義は、「聴く、話す」などのグループワークを中心に進めるため、積極的な参加姿勢・態度が求められる。理論はもちろんアナウンス技術の体得を目的とした演習が多いので、続けての受講が望ましい。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートの提出も求める。アナウンス技術演習Ⅰを発展させた内容のため、できればアナウンス技術演習Ⅰを受講後に参加した方が好ましい。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (50)	授業中発表等 (25)
参加度 (25)	
講義の気づきレポート・期末レポート 50%、プレゼン発表25%、参加度25%	

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定
担当者 福嶋 昭治	
テーマ 卒業論文を作成する技能を習得する。	
授業の到達目標 平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成のために、古典読解力を養い、古典解釈に必要な参考書類の活用方法を学ぶ。同時に、参考文献検索方法を身につける。それらを通じて卒業論文作成の準備を整える。	
授業の概要 3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。必要に応じて、学外授業も実施する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 卒業論文というもの 第2回 古典を読むということ。 第3回 文献検索・辞書検索の方法 第4回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表① 第5回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表② 第6回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表③ 第7回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表④ 第8回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑤ 第9回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑥ 第10回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑦ 第11回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑧ 第12回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑨ 第13回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑩ 第14回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑪ 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 常に自分が発表者であるという気構えで授業に臨むこと。	

## 教科書

必要に応じてプリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

源氏物語大成

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論出版

出版年:

ISBN:

源氏物語事典

著者: 池田亀鑑

出版社: 東京堂出版

出版年:

ISBN:

日本国語大辞典

著者:

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 70 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I &lt;\* b&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

授業の到達目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の概要

4回生の取り組みに学びながら各自のテーマを決め、卒論作成に向けて進めていく。演習Ⅲと合同。なお、1回分を学外授業に当てることがある。

準備学習(予習・復習)

1, 作品を熟読する。2, 問題意識を持つ。3, 図書館に足しげく通う。4, 表現力を磨く。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 卒論で取り上げたい作品について発表する
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 文献を収集し、論文を読む
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 前期の総括と夏休みの課題について

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度については、授業の到達目標に貢献する姿勢も含む

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力 文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力 作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力 考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力 作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

近現代の小説を主なテキストとし、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。

準備学習(予習・復習)

予習(全員)対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習(発表者)発表資料の作成など、発表準備。復習(発表者)発表後の作品について、論文の作成。

内 容

- 第1回 導入1 発表作品と日程の決定
- 第2回 導入2 図書館等での情報収集、発表準備
- 第3回 導入3 レジュメの作り方、先行研究の用い方
- 第4回 発表1 夏目漱石「夢十夜」
- 第5回 発表2 太宰治「富岳百景」
- 第6回 発表3 芥川龍之介「羅生門」
- 第7回 発表4 中島敦「山月記」
- 第8回 ディスカッション1 斎藤茂吉「死にたまふ母」
- 第9回 まとめ1 論文の書き方、論文の構成立案
- 第10回 発表5 坂口安吾「ラムネ氏のこと」
- 第11回 発表6 宮澤賢治「永訣の朝／一本木野」
- 第12回 発表7 柳田国男「清光館哀史」
- 第13回 発表8 夏目漱石「こころ」
- 第14回 ディスカッション2 吉野弘「I was born」
- 第15回 まとめ2 文学史概説、レポート提出

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。

教科書

名指導書で読む 筑摩書房 なつかしの高校国語

著者: 筑摩書房編

出版社: 筑摩書房(ちくま学芸文庫)

出版年: 2011

ISBN: 9.78448E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本近代文学、および文芸メディアの研究方法を習得する

授業の到達目標

4回生時に始まる卒業研究の準備段階として、日本近現代文学および文芸メディアの研究手法の習得を目指す

授業の概要

グループワークを通じて、人物像・ストーリー・結末の分析方法を習得するとともに、とくに現代のメディア文芸に関しては、主題の掘り下げに関して、その方法を習得する

準備学習(予習・復習)

授業で取り扱う作品はかならず読んでくること

内 容

- 第1回 概要説明、担当作品の確定
- 第2回 日本近代文学の研究手法(1) 人物像の分析
- 第3回 日本近代文学の研究手法(2) ストーリー分析
- 第4回 日本近代文学の研究手法(3) 主題の把握
- 第5回 日本近代文学の研究手法(4) 先行文献の集め方・利用法
- 第6回 日本近代文学の研究手法(5) 分析文の作り方
- 第7回 日本近代文学の研究手法(6) 分析文の作り方 (2)
- 第8回 メディア文芸の研究手法(1) ビルディング・ロマンスとエンターテインメントの境目
- 第9回 メディア文芸の研究手法(2)『涼宮ハルヒの憂鬱』から思春期の内面を考える
- 第10回 メディア文芸の研究手法(3)『クラナド』から居場所の問題を考える
- 第11回 メディア文芸の研究手法(4)『けいおん!』から「さとり」を考える
- 第12回 メディア文芸の研究手法(5)『FREE!』から成長と絆の関係を考える
- 第13回 メディア文芸の研究手法(6)『中二病でも恋がしたい!』から孤独を考える
- 第14回 メディア文芸の研究手法(7)『響けユーフォーニアム!』から考える「さとらない」生き方
- 第15回 まとめ 論文の書き方

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

京アニを読む

著者: 野村幸一郎

出版社: 新典社

出版年: 2016

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I &lt;\*e&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文に向けてのテーマの探求

授業の到達目標

1) 興味・関心をしっかり吟味することによってみずからの力でテーマを設定する。2) 先行研究を読みこむことによって、論文を書くという作業の持つ意味を理解する。3) 自分の思いや考えを他の人に伝えるために必要な事項を修得する。

授業の概要

受講生が持つさまざまなことばに関する「引っかかり」を、卒業論文に向けての「テーマ」として確定していく。

準備学習(予習・復習)

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内 容

- 第1回 導入: 卒論に向けての第一歩
- 第2回 論文とは何か?
- 第3回 テーマの候補についての報告(1)
- 第4回 テーマの候補についての報告(2)
- 第5回 テーマの候補についての報告(3)
- 第6回 テーマの候補についての報告(4)
- 第7回 仮テーマの決定と参考文献探索(1)
- 第8回 仮テーマの決定と参考文献探索(2)
- 第9回 仮テーマの決定と参考文献探索(3)
- 第10回 仮テーマの決定と参考文献探索(4)
- 第11回 先行研究紹介(1)
- 第12回 先行研究紹介(2)
- 第13回 先行研究紹介(3)
- 第14回 先行研究紹介(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って、積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒業論文の進捗状況の報告
- 第2回 中間発表について
- 第3回 中間発表要旨の作成
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表
- 第6回 卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 卒業論文の構造確認と要旨作成
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 全体総括

履修上の注意点

教科書

必要に応じてプリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ &lt;\* b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

日本古典文学研究(中近世)

授業の到達目標

4回生の取り組みに学びながら卒論テーマを絞り、作品の読みを深める。プレゼンテーション能力も身につける。

授業の概要

4回生の発表を聴いて知識を深め、批判力を養う。また、3回生も発表を通して問題意識を深めていく。なお、1回分を学科講演会等に振り替える予定であり、ほかに学外授業を行う場合もある。

準備学習(予習・復習)

発表時には必ずレジュメを作成すること。

内 容

- 第1回 夏期休暇中の成果報告と後期授業の進め方についての確認  
 第2回 4回生の発表を聴く  
 第3回 同上  
 第4回 同上  
 第5回 中間発表(日程は前後する可能性がある)  
 第6回 3回生の発表  
 第7回 同上  
 第8回 同上  
 第9回 同上  
 第10回 4回生の論文を批評する  
 第11回 同上  
 第12回 3回生の発表  
 第13回 同上  
 第14回 4回生の抄録を批評する  
 第15回 まとめ

履修上の注意点

発表に使用する本文テキストや参考文献は忘れず持参すること。他人の発表には積極的に質問し、意見を述べること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( % )

授業中発表等 ( 60% )

参加度 ( 40% )

参加度には、授業への貢献度も含まれます。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力 文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力 作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力 考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力 作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

任意の作品について、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。卒業論文の準備段階として、対象作品と研究テーマを各自が見出すことが重要である。

準備学習(予習・復習)

予習(全員)対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習(発表者)発表資料の作成など、発表準備。復習(発表者)発表後の作品について、論文の作成。

内 容

- 第1回 導入1 発表作品と日程の決定
- 第2回 導入2 資料収集、レジュメ作成
- 第3回 発表1 担当作家・作品の概要発表
- 第4回 発表2 担当作家・作品の概要発表
- 第5回 発表3 個人発表
- 第6回 発表4 個人発表
- 第7回 発表5 個人発表
- 第8回 発表6 個人発表
- 第9回 発表7 個人発表
- 第10回 発表8 個人発表
- 第11回 発表9 個人発表
- 第12回 発表10 個人発表
- 第13回 発表11 個人発表
- 第14回 まとめ 論文の書き方、卒論の計画
- 第15回 まとめ ディスカッション

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本近現代文学の研究

授業の到達目標

過去に卒業研究で取り上げられてきた、代表的な現代文学作品、およびメディア文芸について、受講生がそれぞれに研究発表を行い、最終的には卒業研究のテーマを確定する。

授業の概要

下記の作品の中から受講生は一作品を選び、研究発表を行う。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品についてはあらかじめ読んでくること

内 容

- 第1回 発表担当の確定
- 第2回 受講生による発表 太宰治『人間失格』
- 第3回 受講生による発表 江戸川乱歩『屋根裏の散歩者』
- 第4回 卒業論文中間発表会(日程変更の可能性あり)
- 第5回 外部講師による講演会(日程変更の可能性あり)
- 第6回 受講生による発表 村上春樹『ノルウェイの森』
- 第7回 受講生による発表 吉本ばなな『キッチン』
- 第8回 受講生による発表 あさのあつこ『バッテリー』
- 第9回 受講生による発表 上橋菜穂子『獣の奏者』
- 第10回 受講生による発表 梨木香歩『西の魔女が死んだ』
- 第11回 受講生による発表 森絵都『カラフル』
- 第12回 受講生による発表 伊坂幸太郎『重力ピエロ』
- 第13回 受講生による発表 小野不由美『屍鬼』
- 第14回 受講生による発表 宮崎駿コミック版『風の谷のナウシカ』
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

発表を行わなかった場合は単位を不認定にする

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ〈\*e〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文に向けての方法の模索

授業の到達目標

1)卒業論文のテーマを確定する。2)みずからの設定したテーマにふさわしい方法論を探求する。

授業の概要

テーマが具体的にイメージできるようになったら、そのテーマにふさわしい方法論を模索する段階にはいる。既存の方法を使いこなすことができるようにし、新しい工夫を盛り込む余地を探る。

準備学習(予習・復習)

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内 容

第1回 導入

第2回 テーマの確認と目標の設定(1)

第3回 テーマの確認と目標の設定(2)

第4回 テーマの確認と目標の設定(3)

第5回 テーマの確認と目標の設定(4)

第6回 第1次経過報告(1)

第7回 第1次経過報告(2)

第8回 第1次経過報告(3)

第9回 第1次経過報告(4)

第10回 日本語分析の方法

第11回 第2次経過報告(1)

第12回 第2次経過報告(2)

第13回 第2次経過報告(3)

第14回 第2次経過報告(4)

第15回 まとめ

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(20)

授業中発表等(40)

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅴ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

行・草書の書法の研究

授業の到達目標

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之の書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。

準備学習(予習・復習)

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりとすること。

内 容

- 第1回 行草書の表現
- 第2回 王羲之とその書法
- 第3回 集字聖教序の書法
- 第4回 集字聖教序の臨書(半紙)
- 第5回 集字聖教序の臨書(半紙)
- 第6回 集字聖教序の臨書(半切)
- 第7回 集字聖教序の臨書(半切)
- 第8回 臨書作品の相互批評・まとめ
- 第9回 米?の書法
- 第10回 蜀素帖の書法
- 第11回 蜀素帖の臨書(半紙)
- 第12回 蜀素帖の臨書(半切)
- 第13回 ? 溪詩卷他の臨書(半紙)
- 第14回 ? 溪詩卷他の臨書(半切)
- 第15回 米?臨書作品の互評 まとめ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

中国法書選16集字聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選48米?集

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅴ〈\*b〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

行・草書の書法の研究

授業の到達目標

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之の書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。

準備学習(予習・復習)

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりとすること。

内 容

- 第1回 行草書の表現
- 第2回 王羲之とその書法
- 第3回 集字聖教序の書法
- 第4回 集字聖教序の臨書(半紙)
- 第5回 集字聖教序の臨書(半紙)
- 第6回 集字聖教序の臨書(半切)
- 第7回 集字聖教序の臨書(半切)
- 第8回 臨書作品の相互批評・まとめ
- 第9回 米?の書法
- 第10回 蜀素帖の書法
- 第11回 蜀素帖の臨書(半紙)
- 第12回 蜀素帖の臨書(半切)
- 第13回 ? 溪詩卷他の臨書(半紙)
- 第14回 ? 溪詩卷他の臨書(半切)
- 第15回 米?臨書作品の互評 まとめ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

中国法書選16集字聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選48米?集

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅵ〈\*a〉

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	
担当者	尾西 正成	
テーマ	行草書の書法の研究	
授業の到達目標	自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之の書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。	
授業の概要	実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。様々な形式の制作も行う。	
準備学習(予習・復習)	家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。	
内 容	<p>第1回 王羲之・十七帖の書法</p> <p>第2回 十七帖の臨書(半紙)</p> <p>第3回 十七帖の臨書(半紙)</p> <p>第4回 十七帖の臨書(半切)</p> <p>第5回 十七帖の臨書(半切)互評会</p> <p>第6回 十七帖の倣書(半切)</p> <p>第7回 十七帖の倣書(半切)互評会</p> <p>第8回 中国歴代の行・草書古典の臨書(王鐸)</p> <p>第9回 中国歴代の行・草書古典の臨書(傅山)</p> <p>第10回 中国歴代の行・草書古典の臨書(鄭板橋・何紹基ほか)</p> <p>第11回 中国歴代の行・草書古典の臨書(張之謙ほか)</p> <p>第12回 中国歴代の行・草書古典の臨書(吳昌碩ほか)</p> <p>第13回 中国歴代の行草書古典の倣書</p> <p>第14回 中国歴代の行草書古典の倣書(様々な形式)</p> <p>第15回 倣書作品の互評会・まとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>中国法書選14十七帖</p> <p>著者:</p> <p>出版社: 二玄社</p> <p>出版年: 1990 ISBN:</p> <p>王羲之書法の展開</p> <p>著者: 吉川蕉仙</p> <p>出版社: 二玄社</p> <p>出版年: 2016 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( 0 )</p> <p>授業中課題 ( 70 )</p> <p>参加度 ( 30 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅵ &lt;\* b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 20
履修条件	クラス指定
担当者 尾西 正成	

テーマ

行草書の書法の研究

授業の到達目標

自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之の書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。様々な形式の制作も行う。

準備学習(予習・復習)

家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。

内 容

- 第1回 王羲之・十七帖の書法
- 第2回 十七帖の臨書(半紙)
- 第3回 十七帖の臨書(半紙)
- 第4回 十七帖の臨書(半切)
- 第5回 十七帖の臨書(半切)互評会
- 第6回 十七帖の倣書(半切)
- 第7回 十七帖の倣書(半切)互評会
- 第8回 中国歴代の行・草書古典の臨書(王鐸)
- 第9回 中国歴代の行・草書古典の臨書(傅山)
- 第10回 中国歴代の行・草書古典の臨書(鄭板橋・何紹基ほか)
- 第11回 中国歴代の行・草書古典の臨書(張之謙ほか)
- 第12回 中国歴代の行・草書古典の臨書(吳昌碩ほか)
- 第13回 中国歴代の行草書古典の倣書
- 第14回 中国歴代の行草書古典の倣書(様々な形式)
- 第15回 倣書作品の互評会・まとめ

履修上の注意点

教科書

中国法書選14十七帖

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

王羲之書法の展開

著者: 吉川蕉仙

出版社: 二玄社

出版年: 2016

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト ( )

授業中課題 (70)

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅶく\*a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内 容

- 第1回 関戸本古今和歌集について
- 第2回 関戸本古今和歌集の技法について
- 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
- 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
- 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
- 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
- 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
- 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
- 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
- 第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
- 第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
- 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
- 第13回 創作への展開①
- 第14回 創作への展開②
- 第15回 創作への展開③

履修上の注意点

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選13「継色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅶく\* b&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内 容

- 第1回 関戸本古今和歌集について
- 第2回 関戸本古今和歌集の技法について
- 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
- 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
- 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
- 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
- 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
- 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
- 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
- 第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
- 第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
- 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
- 第13回 創作への展開①
- 第14回 創作への展開②
- 第15回 創作への展開③

履修上の注意点

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選13「継色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅷ &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内 容

第1回 継色紙について

第2回 継色紙の技法について

第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)

第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)

第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)

第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)

第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)

第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)

第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)

第10回 継色紙の倣書①

第11回 継色紙の倣書②

第12回 継色紙の倣書③

第13回 創作に向けて(散らし書きについて)

第14回 創作に向けて(帖・卷子について)

第15回 創作への展開

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。

## 2017 Syllabus

科目名 書法Ⅷ &lt;\* b&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内 容

第1回 継色紙について

第2回 継色紙の技法について

第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)

第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)

第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)

第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)

第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)

第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)

第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)

第10回 継色紙の倣書①

第11回 継色紙の倣書②

第12回 継色紙の倣書③

第13回 創作に向けて(散らし書きについて)

第14回 創作に向けて(帖・卷子について)

第15回 創作への展開

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講b(日本語史Ⅱ)〈Z〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

授業の到達目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半(鎌倉時代・南北朝時代)の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の概要

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習:参考文献を各自で調べそれぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認し、授業で述べた内容をより深く考察すること。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンス) 総説1(日本語の範囲・記述対象)
- 第2回 総説2(時代区分)
- 第3回 総説3(資料・言語変化のメカニズム)
- 第4回 音韻史1(上代を中心に1)
- 第5回 音韻史2(上代を中心に2)
- 第6回 音韻史3(上代以降の状況)
- 第7回 音韻史4(上代以降の状況)
- 第8回 文字史1(漢字の伝来)
- 第9回 文字史2(万葉仮名)
- 第10回 文字史3(平仮名の成立とその広がり)
- 第11回 文字史4(片仮名の成立とその使用)
- 第12回 語彙史1(和語を中心に)
- 第13回 語彙史2(漢語と外来語)
- 第14回 文法史(所謂学校文法の確認と上代の活用について)
- 第15回 まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 425451522-0

参考書

概説日本語の歴史

著者: 佐藤武義

出版社: 朝倉書店

出版年: 1995

ISBN: 4254510195

日本語史要説

著者: 渡辺実

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4000260111

日本語の歴史

著者： 山口明穂他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1997

ISBN: 4130820042

はじめて読む日本語の歴史

著者： 沖森卓也

出版社： ベレ出版

出版年： 2010

ISBN: 4860642556

日本語の歴史全8巻

著者： 亀井孝他編

出版社： 平凡社

出版年： 1963-66

ISBN: 4582765955

いろはうた

著者： 小松英雄

出版社： 講談社学術文庫

出版年： 2009

ISBN: 9.78406E+12

五十音図の話

著者： 馬淵和夫

出版社： 大修館書店

出版年： 1993

ISBN: 9.78447E+12

国語音韻論

著者： 馬淵和夫

出版社： 笠間書院

出版年： 1971

ISBN: 4305000180

国語学史

著者： 馬淵和夫・出雲朝子

出版社： 笠間書院

出版年： 2010

ISBN: 9.78431E+12

日本語書記史言論

著者： 小松英雄

出版社： 笠間書院

出版年： 2006

ISBN: 4305703238

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 0 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 30 )

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講e(京都と文学) &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読む—光源氏の栄華—

授業の到達目標

平安時代文学の代表作品であり、日本の古典文学の最高峰の一つとされている源氏物語を読む。源氏物語は、書かれてから千年以上経過した現代でも、多くの読者を獲得している。千年に渡って読み続けられてきた源氏物語の、時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語の第一部の前半部を中心に物語展開の流れを追いつつ、各所を取り上げ、原文を丁寧に読み解くことを通じて、そこに込められた登場人物や作者の思いを探る。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

予習としては、梗概書・便覧などによって授業で取り上げる巻巻の概要を確認しておくこと。復習としては、授業で取り上げた内容を400字程度にまとめるという作業をすること。

内 容

- 第1回 源氏物語という作品
- 第2回 光源氏の恋—桐壺の巻—
- 第3回 雨夜の品定め—帚木・空蟬の巻—
- 第4回 夕顔物語—夕顔の巻—
- 第5回 若紫との出会い・藤壺との密通—若紫の巻—
- 第6回 青海波の舞—紅葉賀の巻—
- 第7回 朧月夜の恋—花宴の巻—
- 第8回 車の所争い—葵の巻—(現地学習を別に設定する)
- 第9回 六条御息所との別れ—賢木の巻—(現地学習を別に設定する)
- 第10回 橘の花散る里—花散里の巻—
- 第11回 須磨の秋—須磨の巻—
- 第12回 明石の君との出会い—明石の巻—
- 第13回 復活する光源氏—濤標の巻—
- 第14回 明石の君の嵯峨野—松風の巻—
- 第15回 光源氏の青春の終焉—薄雲の巻—

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:



その他源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者: 福嶋昭治

出版社: 扶桑社

出版年: 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

試験はレポート試験とする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講f(女性文学研究) &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読む－光源氏の人生のかげり・紫の上の苦悩の深まり－

授業の到達目標

源氏物語の時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語第一部の「少女」の巻以後、光源氏が人生の頂点を極めるまでの部分と、第二部の、かげりを帯びてくる光源氏の人生の後半部分を読む。同時に、第二部の重要なテーマである紫の上の苦悩の深まりという点についても注目する。必要に応じて学外実習を行う場合がある。

準備学習(予習・復習)

予習としては、梗概書・便覧などによって授業で取り上げる巻巻の概要を確認しておくこと。復習としては、授業で取り上げた内容を400字程度にまとめるという作業をすること。

内 容

- 第1回 夕霧の元服と六条院の造成－少女－
- 第2回 玉鬘物語－玉鬘十帖の巻々－
- 第3回 光源氏の人生の頂点－藤裏葉－(現地学習を別に設定する)
- 第4回 女三の宮の降嫁－若菜上①－
- 第5回 明石の入道の思い－若菜上②－
- 第6回 六条院の蹴鞠－若菜上③－
- 第7回 二度目の住吉詣で－若菜下①－
- 第8回 紫の上の孤独－若菜下②－
- 第9回 柏木と女三の宮の密通－若菜下③－
- 第10回 柏木の死と薫の誕生－柏木－
- 第11回 形見の笛－横笛－
- 第12回 出家した女三の宮－鈴虫－
- 第13回 夕霧の恋－夕霧－
- 第14回 紫の上との別れ－御法－
- 第15回 哀悼の一年－幻－

履修上の注意点

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964～1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984～1985

ISBN:

その他源氏物語各種注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

授業中課題 ( 20 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講g(歌舞伎・浄瑠璃研究 I) <Z>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

物語草子の異界

授業の到達目標

・日本の代表的な異界をめぐる物語を読むことで、豊かな想像力を育む。・なぜこのような物語が生まれたのか、その背景について考察する力を養う。

授業の概要

テキストを読み、各章ごとに興味をもった点を発表してもらい、それをもとに講義を行う。

準備学習(予習・復習)

(予習)授業前にテキストに目を通し、言葉や作品内容について調べておく。(復習)関心を持った作品を自分で読む。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 序章
- 第3回 第一章
- 第4回 第二章
- 第5回 第三章
- 第6回 第四章
- 第7回 第五章
- 第8回 第六章
- 第9回 第七章
- 第10回 第八章
- 第11回 第九章
- 第12回 第一〇章
- 第13回 第一一章
- 第14回 終章
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

必ずテキストを持参すること

教科書

異界と日本人

著者: 小松和彦

出版社: 角川文庫

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (50)

参加度には、授業での発表や発言を含みます。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講h(歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅱ)〈Z〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

浄瑠璃と歌舞伎について学ぶ

授業の到達目標

浄瑠璃と歌舞伎の特色を知り、日本を代表する伝統芸能について語れるようになる。また、作品を通して古典の世界や昔の風俗に親しむ。

授業の概要

以下を予定していますが、内容を変更する場合があります。また、授業の1回を劇場での見学・鑑賞に振り替えます。

準備学習(予習・復習)

下記URLなどを活用して下さい。また、メディアセンター所蔵のDVDやビデオなどで作品を鑑賞して下さい。参考書の他、活字になっている脚本も図書館に多数ありますので、読んでみて下さい。

内 容

- 第1回 浄瑠璃と歌舞伎の関係
- 第2回 出雲の阿国と南座のこと
- 第3回 女形の魅力
- 第4回 市川団十郎と江戸歌舞伎
- 第5回 歌舞伎十八番
- 第6回 人形浄瑠璃の歴史
- 第7回 坂田藤十郎と近松門左衛門
- 第8回 近松の世話物浄瑠璃①
- 第9回 近松の世話物浄瑠璃②
- 第10回 三大名作①
- 第11回 三大名作②
- 第12回 三大名作③
- 第13回 任侠劇『夏祭浪花鑑』
- 第14回 鶴屋南北の怪談劇
- 第15回 学外授業(他の回に変更する可能性があります)

履修上の注意点

就活理由の欠席に関して特別な配慮はしません。(実習を除く)

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講I(近代文学研究Ⅲ) &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

20世紀を代表する日本文学を読解する

授業の到達目標

日露戦争後表面化した近代日本の諸矛盾について、日本近代文学はさまざまな角度から照射している。この授業では文学作品の読解を通じて、日本にとって「近代」とは何だったのか考えていく。

授業の概要

とりあげる作品は夏目漱石『坊っちゃん』、森鷗外『雁』、芥川龍之介『地獄変』。坂口安吾『桜の森の満開の下』の4作品である。原則的に講義形式で授業を進めていくつもりだが、グループワークも平行して実施していくつもりである

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 夏目漱石『坊っちゃん』読解(1)
- 第3回 夏目漱石『坊っちゃん』読解(2)
- 第4回 夏目漱石『坊っちゃん』読解(3)
- 第5回 森鷗外『雁』読解(1)
- 第6回 森鷗外『雁』読解(2)
- 第7回 森鷗外『雁』読解(3)
- 第8回 芥川龍之介『地獄変』読解(1)
- 第9回 芥川龍之介『地獄変』読解(2)
- 第10回 芥川龍之介『地獄変』読解(3)
- 第11回 坂口安吾『桜の森の満開の下』読解(1)
- 第12回 坂口安吾『桜の森の満開の下』読解(2)
- 第13回 坂口安吾『桜の森の満開の下』読解(3)
- 第14回 坂口安吾『桜の森の満開の下』読解(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

20世紀の日本文学

著者: みぎわ書房編

出版社: 白地社

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (60)

授業中発表等 ( )

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講(近代文学研究Ⅳ) &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治からジブリへ

授業の到達目標

宮沢賢治の文学を文明批判の書としてとらえ、読解を進めていくと同時に、同じテーマを扱ったジブリ作品、具体的には『風の谷のナウシカ』けんとうを通じて、賢治の追求した主題がどのようにジブリに引き継がれていったか。明らかにしていく。

授業の概要

宮沢賢治の童話は、現代に生きる私たちにも多くの問題を投げかけている。賢治童話の読解を通じて、彼が現代文明のどこに矛盾を感じていたか確認するとともに、賢治とともに、その矛盾を解決していく方法を考えていきたい。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。

内 容

- 第1回 宮沢賢治の生涯と文学
- 第2回 『グスコーブドリの伝記』を読む(1)
- 第3回 『グスコーブドリの伝記』を読む(2)
- 第4回 『オツベルと象』を読む(1)
- 第5回 『オツベルと象』を読む(2)
- 第6回 『オツベルと象』を読む(3)
- 第7回 『なめとこ山の熊』を読む(1)
- 第8回 本学客員教授、角野栄子先生による特別講義(日程変更の可能性あり)
- 第9回 『なめとこ山の熊』を読む(2)
- 第10回 『なめとこ山の熊』を読む(3)
- 第11回 『銀河鉄道の夜』を読む(1)
- 第12回 『銀河鉄道の夜』を読む(2)
- 第13回 宮沢賢治からジブリへ(1) 『風の谷のナウシカ』を考える
- 第14回 宮沢賢治からジブリへ(2) 『風の谷のナウシカ』を考える
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

作品で読む宮沢賢治

著者: みぎわ書房

出版社: 白地社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (60)

授業中発表等 ( )

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講k(現代文学研究Ⅲ) &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近代文学に見る〈抑圧される女たち〉

授業の到達目標

①小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

近代の文学作品をとりあげ、女性たちの形象化を中心に、作品の読解と鑑賞を試みる。主として講義形式で進めるが、小レポートやグループワークの時間を設ける。また、グループでの中間発表も取り入れて行きたい。

準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品は通読すること。授業で扱う作品以外にも紹介する作品を読み、授業に対して独自の問題意識を養うこと。

内 容

- 第1回 概説  
 第2回 坪内逍遙『細君』その1  
 第3回 坪内逍遙『細君』その2  
 第4回 樋口一葉『大つごもり』その1  
 第5回 樋口一葉『大つごもり』その2  
 第6回 樋口一葉『十三夜』その1  
 第7回 樋口一葉『十三夜』その2  
 第8回 泉鏡花『外科室』その1  
 第9回 泉鏡花『外科室』その2  
 第10回 森鷗外『雁』その1  
 第11回 森鷗外『雁』その2  
 第12回 円地文子『女坂』その1  
 第13回 円地文子『女坂』その2  
 第14回 まとめ  
 第15回 黛まどか先生による特別講義(日程未定)[担当:野村]

履修上の注意点

特別講義の日程は未定であるが、その前後に句作や小レポートを課題とすることがある。

教科書

使用しない。(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

恋の起源 明治の愛を読み解く

著者: 佐伯順子

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2000年

ISBN: 4-532-16327-7

語る女たちの時代 一葉と明治女性表現

著者: 関礼子

出版社: 新曜社

出版年: 1997年

ISBN: 4-7885-0583-5

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ( )

試験は期末レポートとする。





## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講I(現代文学研究IV) &lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近現代小説のなかの〈家族〉

授業の到達目標

①小説を分析的に読解・鑑賞するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

近現代の文学作品のなかから、家族を描いた作品を取り上げ、読解と鑑賞を試みる。主として講義形式で進めるが、随時、グループ活動や個人での発表を導入していく。

準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品は通読すること。また、授業中に紹介する他の作品も積極的に読み、講義内容に対する独自の問題意識を養うこと。

内 容

- 第1回 概説 ——小説のなかの〈家族〉——  
 第2回 森鷗外『高瀬舟』・『最後の一句』その1  
 第3回 森鷗外『高瀬舟』・『最後の一句』その2  
 第4回 幸田文『みそっかす』・『おとうと』  
 第5回 芥川龍之介『玄鶴山房』その1  
 第6回 芥川龍之介『玄鶴山房』その2  
 第7回 太宰治『斜陽』  
 第8回 庄野潤三『静物』・『蟹』  
 第9回 福永武彦『忘却の河』その1  
 第10回 福永武彦『忘却の河』その2  
 第11回 宮本輝『蜩川』  
 第12回 円地文子『食卓のない家』  
 第13回 吉本ばなな『キッチン』  
 第14回 瀬尾まい子『幸福の食卓』  
 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ( )

試験は期末レポートの形式とする。

## 2017 Syllabus

科目名 書論特講a

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷川 雅夫

テーマ

様々な書道理論を幅広く学ぶことにより、自らの書道に対する考えを確立する。

授業の到達目標

日本の近代における重要な書論の内容を理解する。

授業の概要

取り上げた作者の文章を読み、その作品等関連資料を紹介する。

準備学習(予習・復習)

授業内容を復習する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 西川寧の書論を読む①

第3回 西川寧の書論を読む②

第4回 吉田苞竹の書論を読む①

第5回 吉田苞竹の書論を読む②

第6回 吉川幸次郎の書論を読む①

第7回 吉川幸次郎の書論を読む②

第8回 内藤湖南の書論を読む①

第9回 内藤湖南の書論を読む②

第10回 山本發次郎の書論を読む①

第11回 山本發次郎の書論を読む②

第12回 會津八一の書論を読む①

第13回 會津八一の書論を読む②

第14回 中林梧竹の書論を読む①

第15回 中林梧竹の書論を読む②

履修上の注意点

積極的な参加を望む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (20%)

## 2017 Syllabus

科目名 書論特講b

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷川 雅夫

テーマ

様々な書道理論を幅広く学ぶことにより、自らの書道に対する考えを確立する。

授業の到達目標

中国・日本の代表的な書論の読解を通して、書道に対する分析を深め、鑑賞能力を高める。

授業の概要

取り上げた作者の文章を読み、その作品等関連資料を紹介する。

準備学習(予習・復習)

授業内容を復習する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 書譜を読む①

第3回 書譜を読む②

第4回 書譜を読む③

第5回 書譜を読む④

第6回 書譜を読む⑤

第7回 書譜を読む⑥

第8回 才葉抄を読む①

第9回 才葉抄を読む②

第10回 才葉抄を読む③

第11回 才葉抄を読む④

第12回 蘇軾「東坡題跋」を読む①

第13回 蘇軾「東坡題跋」を読む②

第14回 黄庭堅「山谷題跋」を読む①

第15回 黄庭堅「山谷題跋」を読む② ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

積極的な参加を望む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (20%)

## 2017 Syllabus

## 科目名 現代書研究Ⅰ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中村 史朗	

## テーマ

今日における書のあり方を総合的に考察する。現代社会において、個の表現としての書は、どのような方向を求めているのか、また書が仮に社会性を持つとはどのようなことなのか、実作、鑑賞の両面から検討したい。

## 授業の到達目標

近百年の日本において、「漢字仮名交じりの書」「少字数書」「前衛書」など、従来にない新傾向の書が生まれた。これらが運動のかたちをとって大きな広がりを見せたのはどのような背景があったのかを知り、合わせて各々の基礎的な表現技法を実作によって習得する。また作品を制作する上で重要な、「主題の設定」とはどのようなことなのか、各回の授業を通じて履修者個々が自身の制作において明確にできるようにする。

## 授業の概要

近百年の日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠を探る。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的な技法に習熟する。実習に講義、発表、討論をまじえ、履修者の積極的な授業参加をうながす。

## 準備学習(予習・復習)

作品制作を中心とするが、書き上げたものを相互に批評したり、指導の場における評価のあり方を検討する場を設ける。授業意外に積極的に習作にはげみ、自他の作品の批評・評価に取り組むこと。

## 内 容

- 第1回 現代書の諸相(1) 近百年の日本の書。書が会場で鑑賞されるということについて。
- 第2回 現代書の諸相(2) 戦後の新傾向の書を中心に。
- 第3回 現代の書と古典 古典の技法はどのようにして現代の書に生かされるのか。
- 第4回 現代書の制作 意図と技法、用具・用材。
- 第5回 漢字仮名交じりの書(1) 概観。漢字仮名交じりの書の成果と課題。
- 第6回 漢字仮名交じりの書(2) 言文一致表記の日本語をどのように書くのか。
- 第7回 漢字仮名交じりの書(3) 古典の技法を生かして①。
- 第8回 漢字仮名交じりの書(4) 古典の技法を生かして②。
- 第9回 漢字仮名交じりの書(5) 素材と技法の関係を考える①。
- 第10回 漢字仮名交じりの書(6) 素材と技法の関係を考える②。
- 第11回 少字数の書(1) 少字数の書が重視される背景。
- 第12回 少字数の書(2) 大字表現のねらい。
- 第13回 少字数の書(3) 特有の技法を学ぶ。用具・用材を工夫する。
- 第14回 現代の書—多様な表現— さまざまな素材を用いて。
- 第15回 現代の書—多様な表現— 新しい発表のかたち。

## 履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

## 教科書

## 参考書

## 詩文の象

著者： 小倉釣雲 他

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

## 詩人の書

著者： 疋田寛吉

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

文士の筆跡(1)～(5)

著者： 瀬沼茂樹 他

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

---

成績評価

試験・レポート（ 0 ）

小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 40 ）

授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

「授業中課題」には、授業中のテーマに沿って指示する宿題の制作物も含んでいる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 現代書研究Ⅱ

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 池田 利広

テーマ

書作品の鑑賞・分析を通して、それをいかに創作につなげるか考慮・実践する。

授業の到達目標

書技法の習得と創作への手順を知り、独自の作品作りをめざす。

授業の概要

調和体と漢字の書を取りあげ、鑑賞・分析・実技を通して作品制作を行う。

準備学習(予習・復習)

復習は毎時間十分に行い、特に新しい内容に関しては習熟度を高める。各作品の制作についてレポートするため、各授業で研究した内容を整理する。

内 容

第1回 オリエンテーション(レポートの内容などについての説明)

第2回 漢字作品の鑑賞と分析①

第3回 漢字作品の鑑賞と分析②

第4回 技法の習得・臨書①

第5回 技法の習得・臨書②

第6回 草稿作り

第7回 作品制作①

第8回 作品制作②

第9回 批評会

第10回 調和体作品の鑑賞と分析

第11回 技法の習得・臨書

第12回 草稿作り

第13回 作品制作

第14回 作品制作

第15回 批評会

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と中途退出をしないように。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30% )

課題提出 40%、レポート 30%

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文を作成する技能を習得する。

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、古典読解力を養い、古典解釈に必要な参考書類の活用方法を学ぶ。同時に、参考文献検索方法を身につける。それらを通じて卒業論文作成の準備を整える。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。必要に応じて、学外授業も実施する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒業論文というもの
- 第2回 古典を読むということ。
- 第3回 文献検索・辞書検索の方法
- 第4回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表①
- 第5回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表②
- 第6回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表③
- 第7回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表④
- 第8回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑤
- 第9回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑥
- 第10回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑦
- 第11回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑧
- 第12回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑨
- 第13回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑩
- 第14回 源氏物語「少女」の巻の解釈と鑑賞、分担発表⑪
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

常に自分が発表者であるという気構えで授業に臨むこと。

教科書

必要に応じてプリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語大成

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論出版

出版年:

ISBN:

源氏物語事典

著者: 池田亀鑑

出版社: 東京堂出版

出版年:

ISBN:

日本国語大辞典

著者:

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:



成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 70 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ &lt;\* b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

授業の到達目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の概要

4回生の取り組みに学びながら各自のテーマを決め、卒論作成に向けて進めていく。演習Ⅲと合同。なお、1回分を学外授業に当てることがある。

準備学習(予習・復習)

1, 作品を熟読する。2, 問題意識を持つ。3, 図書館に足しげく通う。4, 表現力を磨く。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 卒論で取り上げたい作品について発表する
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 文献を収集し、論文を読む
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 前期の総括と夏休みの課題について

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(60)

参加度(40)

参加度については、授業の到達目標に貢献する姿勢も含む

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力 文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力 作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力 考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力 作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

任意の作品について、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。卒業論文の完成に向けて切磋琢磨する場である。

準備学習(予習・復習)

予習(全員)対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習(発表者)発表資料の作成など、発表準備。復習(発表者)発表後の作品について、論文の作成。

内 容

- 第1回 導入1 発表作品と日程の決定
- 第2回 導入2 資料収集、レジュメ作成
- 第3回 発表1 担当作家・作品の概要発表
- 第4回 発表2 担当作家・作品の概要発表
- 第5回 発表3 個人発表
- 第6回 発表4 個人発表
- 第7回 発表5 個人発表
- 第8回 発表6 個人発表
- 第9回 発表7 論文下書きの提出と意見交換
- 第10回 発表8 論文下書きの提出と意見交換
- 第11回 発表9 個人発表
- 第12回 発表10 個人発表
- 第13回 発表11 個人発表
- 第14回 まとめ 論文下書きの推敲
- 第15回 まとめ 論文下書き推敲版の提出

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本近現代文学の研究

授業の到達目標

卒業研究についてストーリーの分析までの完成を目指す

授業の概要

卒業研究の進捗状況を、受講生に報告してもらう予定である

準備学習(予習・復習)

卒業研究をちゃんと進めていくこと

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 卒業論文作成に向けての注意
- 第3回 受講生による発表
- 第4回 受講生による発表
- 第5回 受講生による発表
- 第6回 受講生による発表
- 第7回 受講生による発表
- 第8回 受講生による発表
- 第9回 受講生による発表
- 第10回 受講生による発表
- 第11回 受講生による発表
- 第12回 受講生による発表
- 第13回 受講生による発表
- 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ〈\*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文作成

授業の到達目標

1) 議論をとおして自らの考えを磨き上げていく。2) 自分のテーマだけでなく、他の学生のテーマについても強い関心を持って議論に参加する。

授業の概要

卒業論文作成に向けて報告と議論を繰り返して、着実に成果を上げていく。

準備学習(予習・復習)

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内 容

第1回 導入

第2回 受講生による第1回報告(1)

第3回 受講生による第1回報告(2)

第4回 受講生による第1回報告(3)

第5回 受講生による第1回報告(4)

第6回 受講生による第2回報告(1)

第7回 受講生による第2回報告(2)

第8回 受講生による第2回報告(3)

第9回 受講生による第2回報告(4)

第10回 受講生による第3回報告(1)

第11回 受講生による第3回報告(2)

第12回 受講生による第3回報告(3)

第13回 受講生による第3回報告(4)

第14回 まとめ1

第15回 まとめ2

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って、積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈\*a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成のために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒業論文の進捗状況の報告
- 第2回 中間発表について
- 第3回 中間発表要旨の作成
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表
- 第6回 卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 卒業論文の構造確認と要旨作成
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 全体総括

履修上の注意点

教科書

必要に応じてプリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈\*b〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

日本古典文学研究(中近世)

授業の到達目標

4回生の取り組みに学びながら卒論テーマを絞り、作品の読みを深める。プレゼンテーション能力も身につける。

授業の概要

4回生の発表を聴いて知識を深め、批判力を養う。また、3回生も発表を通して問題意識を深めていく。なお、1回分を学科講演会等に振り替える予定であり、ほかに学外授業を行う場合もある。

準備学習(予習・復習)

発表時には必ずレジュメを作成すること。

内 容

- 第1回 夏期休暇中の成果報告と後期授業の進め方についての確認
- 第2回 4回生の発表を聴く
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表(日程は前後する可能性がある)
- 第6回 3回生の発表
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 4回生の論文を批評する
- 第11回 同上
- 第12回 3回生の発表
- 第13回 同上
- 第14回 4回生の抄録を批評する
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

発表に使用する本文テキストや参考文献は忘れず持参すること。他人の発表には積極的に質問し、意見を述べること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( % )

授業中発表等 ( 60% )

参加度 ( 40% )

参加度には、授業への貢献度も含みます。

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈\*c〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力 文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力 作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力 考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力 作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

任意の作品について、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。卒業論文の完成に向けて切磋琢磨する場である。

準備学習(予習・復習)

予習(全員)対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習(発表者)発表資料の作成など、発表準備。復習(発表者)発表後の作品について、論文の作成。

内 容

- 第1回 発表1 論文下書きの提出と意見交換
- 第2回 発表2 論文下書きの提出と意見交換
- 第3回 発表3 個人発表
- 第4回 発表4 個人発表
- 第5回 発表5 個人発表
- 第6回 発表6 中間発表会
- 第7回 発表7 個人発表
- 第8回 発表8 個人発表
- 第9回 発表9 個人発表
- 第10回 発表10 個人発表
- 第11回 発表11 論文の概要発表と意見交換
- 第12回 発表12 論文の概要発表と意見交換
- 第13回 まとめ 論文要旨の作成
- 第14回 まとめ 論文要旨の発表
- 第15回 まとめ 論文要旨の発表

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。



## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈\*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本近現代文学の研究

授業の到達目標

卒業研究の完成

授業の概要

12月の卒業論文提出に向けての最後の学期になる。論文の結論部分を受講生全員に方向し、質疑応答を通じて、より水準の高い論文の作成を目指す

準備学習(予習・復習)

発表の準備はかならずきちんと行うこと

内 容

- 第1回 受講生による発表
- 第2回 受講生による発表
- 第3回 受講生による発表
- 第4回 受講生による発表
- 第5回 受講生による発表
- 第6回 受講生による発表
- 第7回 受講生による発表
- 第8回 受講生による発表
- 第9回 受講生による発表
- 第10回 受講生による発表
- 第11回 受講生による発表
- 第12回 卒業研究提出に向けての指導
- 第13回 「国文橋」掲載原稿の作成
- 第14回 卒業に向けての諸連絡と口頭試問の日程連絡
- 第15回 最終講義

履修上の注意点

発表をしなかった場合は単位を認定しない

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈\*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

1) 卒業論文の作成をとおして、自らの力でテーマを発見し、そのテーマにふさわしい方法論を確定し、成果を上げるという活動の持つ意味を理解する。2) 他の受講生のテーマについても、自らのテーマに対するのと同様の関心を持ち、能動的に関わっていく。3) 資料を的確に用いて、自らの考察を論文というかたちで文章化する。

授業の概要

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させる。

準備学習(予習・復習)

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 受講生による第1回報告(1)
- 第3回 受講生による第1回報告(2)
- 第4回 受講生による第1回報告(3)
- 第5回 受講生による第1回報告(4)
- 第6回 受講生による第2回報告(1)
- 第7回 受講生による第2回報告(2)
- 第8回 受講生による第2回報告(3)
- 第9回 受講生による第2回報告(4)
- 第10回 受講生による第3回報告(1)
- 第11回 受講生による第3回報告(2)
- 第12回 受講生による第3回報告(3)
- 第13回 受講生による第3回報告(4)
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って、積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(20)

授業中発表等(40)

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 作品研究 I &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の概要

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

準備学習(予習・復習)

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第2回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第3回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第4回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第5回 古典臨書作品の制作(2尺×8尺)
- 第6回 古典臨書作品の制作(2尺×6尺×2幅)
- 第7回 古典臨書作品の制作(2尺×6尺×4幅)
- 第8回 倣書作品制作の準備(詩文の決定)
- 第9回 倣書作品制作の準備(形式、用具・用材の工夫)
- 第10回 倣書作品制作の準備(集字など)
- 第11回 屏風作品の研究
- 第12回 卷子・帖作品の研究
- 第13回 倣書作品の相互鑑賞
- 第14回 倣書作品の準備(6曲屏風)
- 第15回 倣書作品の制作(卒業制作に向けて)

履修上の注意点

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 作品研究 I &lt;\* b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の概要

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

準備学習(予習・復習)

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第2回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第3回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第4回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第5回 古典臨書作品の制作(2尺×8尺)
- 第6回 古典臨書作品の制作(2尺×6尺×2幅)
- 第7回 古典臨書作品の制作(2尺×6尺×4幅)
- 第8回 倣書作品制作の準備(詩文の決定)
- 第9回 倣書作品制作の準備(形式、用具・用材の工夫)
- 第10回 倣書作品制作の準備(集字など)
- 第11回 屏風作品の研究
- 第12回 卷子・帖作品の研究
- 第13回 倣書作品の相互鑑賞
- 第14回 倣書作品の準備(6曲屏風)
- 第15回 倣書作品の制作(卒業制作に向けて)

履修上の注意点

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 作品研究Ⅱ &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習(予習・復習)

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 卒業制作のテーマについて
- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作方法
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究1
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究2
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究3
- 第7回 卒業制作の草稿制作
- 第8回 卒業制作作品の構想発表
- 第9回 卒業制作作品の制作1
- 第10回 卒業制作作品の制作2
- 第11回 卒業制作作品の制作3
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 作品研究Ⅱ &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習(予習・復習)

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 卒業制作のテーマについて
- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作方法
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究1
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究2
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究3
- 第7回 卒業制作の草稿制作
- 第8回 卒業制作作品の構想発表
- 第9回 卒業制作作品の制作1
- 第10回 卒業制作作品の制作2
- 第11回 卒業制作作品の制作3
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 作品研究Ⅲ &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習(予習・復習)

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内 容

- 第1回 倣書の方法について
- 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
- 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
- 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
- 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
- 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
- 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
- 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
- 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
- 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
- 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
- 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
- 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
- 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
- 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 作品研究Ⅲ &lt;\* b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習(予習・復習)

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内 容

- 第1回 倣書の方法について
- 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
- 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
- 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
- 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
- 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
- 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
- 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
- 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
- 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
- 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
- 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
- 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
- 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
- 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)



## 2017 Syllabus

科目名 作品研究Ⅳ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習(予習・復習)

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内 容

- 第1回 主体的作品制作と鑑賞 (1) 配字と構成  
 第2回 主体的作品制作と鑑賞 (2) 配字と構成  
 第3回 主体的作品制作と鑑賞 (3) 配字と構成  
 第4回 主体的作品制作と鑑賞 (4) 運筆のリズムと線質  
 第5回 主体的作品制作と鑑賞 (5) 運筆のリズムと線質  
 第6回 主体的作品制作と鑑賞 (6) 運筆のリズムと線質  
 第7回 主体的作品の習熟 (1) 古筆の再確認  
 第8回 主体的作品の習熟 (2) 変化と統一  
 第9回 主体的作品の習熟 (3) 墨法効果  
 第10回 制作作品の相互研究 《中間発表》  
 第11回 作品の完成に向けて (1) 全体構成の研究  
 第12回 作品の完成に向けて (2) 線質の確認と墨法効果  
 第13回 作品の完成に向けて (3) 作品の選別  
 第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (1)  
 第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (2)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(70)

授業中発表等(20)

参加度(10)

## 2017 Syllabus

科目名 作品研究Ⅳ &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習(予習・復習)

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内 容

- 第1回 主体的作品制作と鑑賞 (1) 配字と構成  
 第2回 主体的作品制作と鑑賞 (2) 配字と構成  
 第3回 主体的作品制作と鑑賞 (3) 配字と構成  
 第4回 主体的作品制作と鑑賞 (4) 運筆のリズムと線質  
 第5回 主体的作品制作と鑑賞 (5) 運筆のリズムと線質  
 第6回 主体的作品制作と鑑賞 (6) 運筆のリズムと線質  
 第7回 主体的作品の習熟 (1) 古筆の再確認  
 第8回 主体的作品の習熟 (2) 変化と統一  
 第9回 主体的作品の習熟 (3) 墨法効果  
 第10回 制作作品の相互研究 <<中間発表>>  
 第11回 作品の完成に向けて (1) 全体構成の研究  
 第12回 作品の完成に向けて (2) 線質の確認と墨法効果  
 第13回 作品の完成に向けて (3) 作品の選別  
 第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (1)  
 第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (2)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

授業の到達目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の概要

1780(安永9)年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習(予習・復習)

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にする訓練をすること。

内 容

- 第1回 テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
- 第2回 図書館の実際の利用方法の解説、史料の読みと理解の実際(1)
- 第3回 史料の読みと理解の実際(2)
- 第4回 現地観察の方法(学外授業)
- 第5回 個別発表と質疑(1)
- 第6回 個別発表と質疑(2)
- 第7回 個別発表と質疑(3)
- 第8回 個別発表と質疑(4)
- 第9回 個別発表と質疑(5)
- 第10回 個別発表と質疑(6)
- 第11回 個別発表と質疑(7)
- 第12回 個別発表と質疑(8)
- 第13回 個別発表と質疑(9)
- 第14回 個別発表と質疑(10)
- 第15回 完成レポート作成の指導

履修上の注意点

事前にレポートの形式を指定するとともに、対象物件の現地調査に基づくレポートの作成を指示する。不十分なレポートは途中で報告停止とする。また、毎回、報告に対する評価レポートを参加者全員に提出させる。

教科書

都名所図会(該当部分コピー配布)

著者:

出版社: 京都叢書・版本

出版年:

ISBN:

参考書

京都の歴史

著者:

出版社: 学芸書林

出版年:

ISBN:

京の鴨川と橋

著者: 門脇禎二・朝尾直弘編

出版社: 思文閣出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)



## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

歴史学(日本史・世界史)研究の基礎

授業の到達目標

歴史学科の学生として、学修を進めていくために必要な方法や技術の修得をめざす。

授業の概要

歴史学研究の第一歩として、まずは受講生が各自で興味・関心のある時代や地域を選び、さらにそのなかから、人物や事件を取り上げて、自分で調査したことを発表してもらおう。発表に際しては、取り上げた人物、事件、あるいは時代、地域に関する概説書や文庫、新書など、必ず1冊以上は参考文献として読むことを義務とする。発表を通じてプレゼンテーション能力の向上をはかるとともに、発表者以外の学生も積極的に質疑に参加し、ディスカッション能力の向上をめざす。なお、歴史学に関する講演等をおこなう場合もある。また、学修状況に応じて、学外授業をおこなうこともあり得る。

準備学習(予習・復習)

自分の学術的な興味・関心を選ぶためには、幅広い読書を日頃から心がける必要がある。単にインターネットで調べて終わり、ではなく、図書館に通って本を探す、という習慣を身につけてほしい。発表に際しては、自分の発表に関することを調べるだけでなく、他の受講生が選んだテーマに関しても、事前に調べることを。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の目的と、進め方について)
- 第2回 ガイダンス(発表テーマの選び方)
- 第3回 参考文献の選び方(図書館の検索システムを実際に利用して説明する)
- 第4回 研究構想の発表(6回目以降の本格的な発表に備えて、各自で構想を発表する)
- 第5回 レジュメの作成方法(6回目以降の発表に必要なレジュメ作成について説明する)
- 第6回 学生による発表その1(発表後は、質疑応答とともに、教員がコメントをおこなう。以下同)
- 第7回 学生による発表その2
- 第8回 学生による発表その3
- 第9回 学生による発表その4
- 第10回 学生による発表その5
- 第11回 学生による発表その6
- 第12回 学生による発表その7
- 第13回 学生による発表その8
- 第14回 学生による発表その9
- 第15回 まとめ(演習のまとめと、夏休み中の学修についてのアドバイス)

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、教員に連絡(メールで可)をすること。なお、自分が発表を担当する回に無断で欠席をした場合は、「授業中発表等」や「参加度」の項目の大幅減点など、成績評価に大きく響くので、この点、心得ておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(40)

参加度(30)

「授業中課題」として、多読プログラムに沿った課題を出すことがある。

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

歴史学の基礎を学ぶ

授業の到達目標

歴史学の学び方について理解を深めてもらう。

授業の概要

この授業では、1、日本の各城館の歴史、2 歴史上の有名な出来事(もしくは自身が興味をもつ遺跡・遺物など)、について調べ報告してもらう。なお、学外の資料館・博物館を見学することもある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス、その1
- 第2回 ガイダンス、その2
- 第3回 歴史学の学び方、その1
- 第4回 歴史学の学び方、その2
- 第5回 受講生の報告、その1
- 第6回 受講生の報告、その2
- 第7回 受講生の報告、その3
- 第8回 受講生の報告、その4
- 第9回 受講生の報告、その5
- 第10回 受講生の報告、その6
- 第11回 受講生の報告、その7
- 第12回 受講生の報告、その8
- 第13回 受講生の報告、その9
- 第14回 受講生の報告、その10
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 35 )

授業中発表等 ( 35 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) &lt;\*D&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

授業の到達目標

歴史研究における一次史料(根本史料)とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の概要

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2~3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 導論 一次史料とは何か? その1 歴史研究における史料の意味 多読プログラムについての説明  
 第2回 導論 一次史料とは何か? その2 文献史料についての説明 地域課題研究についての説明  
 第3回 過去の発表レジュメの具体的紹介  
 第4回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その1  
 第5回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その2  
 第6回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その3  
 第7回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その4  
 第8回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その5  
 第9回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その6  
 第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その7  
 第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その8  
 第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その9  
 第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その10  
 第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その11  
 第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その12 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) &lt;\*E&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

世界史上の人物についての研究

授業の到達目標

歴史学科学学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに基づいた成果報告も併せて行う。

準備学習(予習・復習)

2回目の授業までに複数の世界史上の人物を選び、簡単な事績を調べておくこと。他の学生の発表に対しても、選ばれた人物について簡単な事績を調べておくこと。個人面談までに、テーマとした人物に関する問題設定、生涯に関する略年譜は作成できていること。発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。

内 容

- 第1回 本演習のねらいについての解説: 卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得 多読プログラムについて解説 ならびに地域課題研究について解説
- 第2回 テーマ設定と問題提起についての説明: どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのかの解説 問題設定に対する回答を得るための分析・整理: 模擬課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理についての解説
- 第3回 文献検索、収集のやり方についての解説: 図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる(2、3回目は順不同)
- 第4回 レジュメについて: 作成上の留意点を解説する 読み上げ原稿について、と模擬報告: 読み上げ原稿(400字詰め原稿用紙7~8枚程度)についての説明とレジュメを用いての模擬報告
- 第5回 これより、学生番号順に学生の発表報告①(報告時間は20分程度を目安とする)と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第6回 学生番号順に学生の発表報告②と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第7回 学生番号順に学生の発表報告③と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第8回 学生番号順に学生の発表報告④と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第9回 学生番号順に学生の発表報告⑤と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第10回 学生番号順に学生の発表報告⑥と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第11回 学生番号順に学生の発表報告⑦と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第12回 学生番号順に学生の発表報告⑧と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第13回 学生番号順に学生の発表報告⑨と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第14回 学生番号順に学生の発表報告⑩と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第15回 本演習の総括、レポート提出、教員からのコメント、

履修上の注意点

演習は出席することに大きな意義があると考え、全員が完全出席を目指すように。しかし、やむなく欠席せざるをえないときには、前もって担当教員の大学アドレスに連絡すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (30%)

参加度 (40%)

小テスト ( )

授業中発表等 (30%)



## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) &lt;\*F&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

日本における中国史理解の基礎力を養成する。

授業の到達目標

東アジア史の枠組みにおいて、とりわけ中国の歴史を研究するために、邦語を中心とする基礎文献の紹介を中心に、その歴史の意味や史料の読み方から、学界の研究状況まで研究を助ける様々な知識を身につけることを到達の目標とする。

授業の概要

受講生が各自で選択したテーマに基づき、その論点や論拠、結論を伝える基本を知るため、発表の形式で行う。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習(予習・復習)

発表内容を集約するレジュメを作るために、日常的に研究データや史料、論文を積極的に読むことを心がける。

内 容

- 第1回 総解説—中国史研究の問題点、研究の特徴、入門書、問題発見、調査への水先案内。  
 第2回 図書館蔵書の中で、東洋史蔵書について現地案内。閲覧、利用の仕方に関する解説。  
 第3回 藤井有鄰館の中国古代歴史、文物藏品見学。  
 第4回 研究発表の形式及び注意事項について解説。研究課題(中国歴史研究における文献、遺物、遺跡)を決める。  
 第5回 中国史文献の調べ方と読み方。  
 第6回 研究課題(1) 研究発表  
 第7回 研究課題(2) 研究発表  
 第8回 研究課題(3) 研究発表  
 第9回 研究課題(4) 研究発表  
 第10回 学外見学予定。中国歴史と関連する寺社や国立博物館藏品見学、また講演会への参加。  
 第11回 研究課題(5) 研究発表  
 第12回 研究課題(6) 研究発表  
 第13回 研究課題(7) 研究発表  
 第14回 研究課題(8) 研究発表  
 第15回 受講者の研究発表の問題点について講評。

履修上の注意点

中国文明を生活レベルで理解することは難しいので、実際の史料や実物に接することが大切。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者: 砺波護

出版社: 名古屋大学出版社

出版年: 2006

ISBN:

アジアの歴史と文化(1~4)

著者: 笠沙雅章監修

出版社: 同朋社出版

出版年: 1994

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴) &lt;\*A&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

授業の到達目標

歴史研究における一次史料(根本史料)とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の概要

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2~3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 導論 一次史料とは何か? その1 歴史研究における史料の意味  
 第2回 導論 一次史料とは何か? その2 文献史料についての説明  
 第3回 過去の発表レジュメの具体的紹介  
 第4回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その1  
 第5回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その2  
 第6回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その3  
 第7回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その4  
 第8回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その5  
 第9回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その6  
 第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その7  
 第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その8  
 第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その9  
 第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その10  
 第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その11  
 第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その12 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

世界史上の人物についての研究

授業の到達目標

歴史学科学学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムの成果報告も併せて行う

準備学習(予習・復習)

2回目の授業までに複数の世界史上の人物を選び、簡単な事績を調べておくこと。他の学生の発表に対しても、選ばれた人物について簡単な事績を調べておくこと。個人面談までに、テーマの人物についての問題設定とその生涯の略年譜を作成すること。発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。

内 容

- 第1回 本演習のねらいについての解説：卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得。テーマ設定と問題提起についての説明：どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのかの解説
- 第2回 問題設定に対する回答を得るための分析・整理：模擬課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討の解説。レジュメ作成：レジュメ作成上の留意点の解説
- 第3回 読み上げ原稿について、と模擬報告：読み上げ原稿(400字詰め原稿用紙7~8枚程度)についての説明とレジュメを用いての模擬報告
- 第4回 これより、学生番号順に学生の発表報告①(報告時間は20分程度を目安とする)と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第5回 学生番号順に学生の発表報告②と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第6回 学生番号順に学生の発表報告③と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第7回 学生番号順に学生の発表報告④と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第8回 学生番号順に学生の発表報告⑤と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第9回 学生番号順に学生の発表報告⑥と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第10回 学生番号順に学生の発表報告⑦と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第11回 学生番号順に学生の発表報告⑧と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第12回 学生番号順に学生の発表報告⑨と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第13回 学生番号順に学生の発表報告⑩と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第14回 学生番号順に学生の発表報告⑪と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第15回 本演習の総括、レポート提出

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (30%)

参加度 (40%)

小テスト ( )

授業中発表等 (30%)

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

日本における中国史理解の基礎力を養成する。

授業の到達目標

東アジア史の枠組みにおいて、とりわけ中国の歴史を研究するために、邦語を中心とする基礎文献の紹介を中心に、その歴史の意味や史料の読み方から、学界の研究状況まで研究を助ける様々な知識を身につけることを到達の目標とする。

授業の概要

受講生が各自で選択したテーマに基づき、その論点や論拠、結論を伝える基本を知るため、発表の形式で行う。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習(予習・復習)

発表内容を集約するレジュメを作るために、日常的に研究データや史料、論文を積極的に読むことを心がける。

内 容

- 第1回 総解説—中国史研究の問題点、研究の特徴、入門書、問題発見、調査への水先案内。  
 第2回 図書館蔵書の中で、東洋史蔵書について現地案内。閲覧、利用の仕方に関する解説。  
 第3回 藤井有鄰館の中国古代歴史、文物藏品見学。  
 第4回 研究発表の形式及び注意事項について解説。研究課題(中国歴史研究における文献、遺物、遺跡)を決める。  
 第5回 中国史文献の調べ方と読み方。  
 第6回 研究課題(1) 研究発表  
 第7回 研究課題(2) 研究発表  
 第8回 研究課題(3) 研究発表  
 第9回 研究課題(4) 研究発表  
 第10回 学外見学予定。中国歴史と関連する寺社や国立博物館藏品見学、また講演会への参加。  
 第11回 研究課題(5) 研究発表  
 第12回 研究課題(6) 研究発表  
 第13回 研究課題(7) 研究発表  
 第14回 研究課題(8) 研究発表  
 第15回 受講者の研究発表の問題点について講評。

履修上の注意点

中国文明を生活レベルで理解することは難しいので、実際の史料や実物に接することが大切。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者: 砺波護

出版社: 名古屋大学出版社

出版年: 2006

ISBN:

アジアの歴史と文化(1~4)

著者: 笠沙雅章監修

出版社: 同朋社出版

出版年: 1994

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

授業の到達目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の概要

1780(安永9)年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習(予習・復習)

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にする訓練をすること。

内 容

- 第1回 テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
- 第2回 図書館の実際の利用方法の解説、史料の読みと理解の実際(1)
- 第3回 史料の読みと理解の実際(2)
- 第4回 現地観察の方法(学外授業)
- 第5回 個別発表と質疑(1)
- 第6回 個別発表と質疑(2)
- 第7回 個別発表と質疑(3)
- 第8回 個別発表と質疑(4)
- 第9回 個別発表と質疑(5)
- 第10回 個別発表と質疑(6)
- 第11回 個別発表と質疑(7)
- 第12回 個別発表と質疑(8)
- 第13回 個別発表と質疑(9)
- 第14回 個別発表と質疑(10)
- 第15回 完成レポート作成の指導

履修上の注意点

事前にレポートの形式を指定するとともに、対象物件の現地調査に基づくレポートの作成を指示する。不十分なレポートは途中で報告停止とする。また、毎回、報告に対する評価レポートを参加者全員に提出させる。

教科書

都名所図会(該当部分コピー配布)

著者:

出版社: 京都叢書・版本

出版年:

ISBN:

参考書

京都の歴史

著者:

出版社: 学芸書林

出版年:

ISBN:

京の鴨川と橋

著者: 門脇禎二・朝尾直弘編

出版社: 思文閣出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題（20）

授業中発表等（60）

参加度（20）

期末の完成レポートの未提出者には単位修得を認めない。

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴) &lt;\*E&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

歴史学(日本史・世界史)研究の基礎

授業の到達目標

歴史学科の学生として、学修を進めていくために必要な方法や技術の修得をめざす。

授業の概要

歴史学研究の第一歩として、まずは受講生が各自で興味・関心のある時代や地域を選び、さらにそのなかから、人物や事件を取り上げて、自分で調査したことを発表してもらおう。発表に際しては、取り上げた人物、事件、あるいは時代、地域に関する概説書や文庫、新書など、必ず1冊以上は参考文献として読むことを義務とする。発表を通じてプレゼンテーション能力の向上をはかるとともに、発表者以外の学生も積極的に質疑に参加し、ディスカッション能力の向上をめざす。なお、歴史学に関する講演等をおこなう場合もある。また、学修状況に応じて、学外授業をおこなうこともあり得る。

準備学習(予習・復習)

自分の学術的な興味・関心を選ぶためには、幅広い読書を日頃から心がける必要がある。単にインターネットで調べて終わり、ではなく、図書館に通って本を探す、という習慣を身につけてほしい。発表に際しては、自分の発表に関することを調べるだけでなく、他の受講生が選んだテーマに関しても、事前に調べることを。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の目的と、進め方について)
- 第2回 ガイダンス(発表テーマの選び方)
- 第3回 参考文献の選び方(図書館の検索システムを実際に利用して説明する)
- 第4回 研究構想の発表(6回目以降の本格的な発表に備えて、各自で構想を発表する)
- 第5回 レジユメの作成方法(6回目以降の発表に必要なレジユメ作成について説明する)
- 第6回 学生による発表その1(発表後は、質疑応答とともに、教員がコメントをおこなう。以下同)
- 第7回 学生による発表その2
- 第8回 学生による発表その3
- 第9回 学生による発表その4
- 第10回 学生による発表その5
- 第11回 学生による発表その6
- 第12回 学生による発表その7
- 第13回 学生による発表その8
- 第14回 学生による発表その9
- 第15回 まとめ(演習のまとめと、夏休み中の学修についてのアドバイス)

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、教員に連絡(メールで可)をすること。なお、自分が発表を担当する回に無断で欠席をした場合は、「授業中発表等」や「参加度」の項目の大幅減点など、成績評価に大きく響くので、この点、心得ておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(40)

参加度(30)

「授業中課題」として、多読プログラムに沿った課題を出すことがある。

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴) &lt;\*F&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

歴史学の基礎を学ぶ

授業の到達目標

歴史学の学び方について理解を深めてもらう。

授業の概要

この授業では、1、日本の各城館の歴史、2 歴史上の有名な出来事(もしくは自身が興味をもつ遺跡・遺物など)、について調べ報告してもらう。なお、学外の資料館・博物館を見学することもある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス、その1
- 第2回 ガイダンス、その2
- 第3回 歴史学の学び方、その1
- 第4回 歴史学の学び方、その2
- 第5回 受講生の報告、その1
- 第6回 受講生の報告、その2
- 第7回 受講生の報告、その3
- 第8回 受講生の報告、その4
- 第9回 受講生の報告、その5
- 第10回 受講生の報告、その6
- 第11回 受講生の報告、その7
- 第12回 受講生の報告、その8
- 第13回 受講生の報告、その9
- 第14回 受講生の報告、その10
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 35 )

授業中発表等 ( 35 )

参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 歴史学入門講義

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹・小野 浩

テーマ

歴史学の方法と視点

授業の到達目標

歴史教科書を読み直す。高校の日本史と世界史の教科書を再検討することによって、専門的な歴史学と高校までに学んできた歴史授業との本質的な違いを認識し、それを通じて、学問としての歴史学の面白さや奥深さを学ぶ。

授業の概要

日本史・世界史両分野の複数教員のリレー形式で、各担当者が1～2のテーマを設定して解説する形式で進める。

準備学習(予習・復習)

参考文献は適宜紹介するので、その精読を期待する

内 容

- 第1回 歴史教科書におけるイスラム(1)
- 第2回 歴史教科書におけるイスラム(2)
- 第3回 歴史教科書における中国史
- 第4回 歴史教科書におけるイギリス史(1)
- 第5回 歴史教科書におけるイギリス史(2)
- 第6回 歴史教科書におけるドイツ史(1)
- 第7回 歴史教科書におけるドイツ史(2)
- 第8回 歴史教科書における日本古代史(1)
- 第9回 歴史教科書における日本古代史(2)
- 第10回 歴史教科書における日本中世史(1)
- 第11回 歴史教科書における日本中世史(2)
- 第12回 歴史教科書における日本近世史(1)
- 第13回 歴史教科書における日本近世史(2)
- 第14回 歴史教科書における日本近現代史(1)
- 第15回 歴史教科書における日本近現代史(2)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 35 )

小テスト ( 35 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本史概説Ⅰ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 淵原 智幸

テーマ

日本の古代・中世史

授業の到達目標

高校レベルの日本史知識を復習しつつ、さらに掘り下げた内容を学んでいくことで、中世以前の日本史について、より深く、かつ多面的な理解を獲得する。

授業の概要

原始時代から戦国時代まで、日本史の流れを概観しつつ、各時代ごとに政治・社会・文化など様々な分野のトピックを取り上げていく。また、近年の研究動向についても、できるだけ言及し、高校レベルの(ないしは通俗的な)歴史イメージを相対化する視点を提供していく。

準備学習(予習・復習)

・第2回以降は、前の週の授業内容について小テストを行うので、各自復習を忘れぬこと。・期末試験は、授業で述べた内容をさらに深く調査・考察させる問題を出す。そのため、自分が興味のある時代についてだけでも、下記の参考書を早めに読んでおくことが望ましい。

内 容

- 第1回 日本史のはじまり
- 第2回 邪馬台国から倭王権へ
- 第3回 古墳時代の政治・外交・文化
- 第4回 聖徳太子、大化の改新、壬申の乱
- 第5回 律令体制の成立と平城遷都
- 第6回 奈良時代の政変と平安遷都
- 第7回 摂関政治と承平・天慶の乱
- 第8回 平安中後期の地方支配と武士
- 第9回 院政と平氏政権
- 第10回 鎌倉幕府の成立と承久の乱
- 第11回 執権政治と蒙古襲来
- 第12回 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政
- 第13回 南北朝動乱と足利義満の政治
- 第14回 室町中期の政治と応仁の乱
- 第15回 戦国時代

履修上の注意点

教科書

特になし(毎回プリントを配布する)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本の時代史』シリーズ

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本の歴史』シリーズ

著者:

出版社: 講談社(学術文庫)

出版年:

ISBN:

シリーズ日本古代史

著者:

出版社: 岩波書店(岩波新書)

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

受講態度の極めて悪い者については、試験・小テストの結果に関係なく不合格とする場合がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

東アジアのなかの近現代日本

授業の到達目標

日本近世・近現代史の整理。歴史学は決して単なる暗記科目ではありません。しかし、一方で歴史的思考には、基礎事項を知っておく必要があります。この授業では、近世から現在までの日本史を概観します。

授業の概要

政治・経済・文化など、通史的内容を講義します。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、関係する部分を読んでおいてください。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 江戸時代は「理想郷」?
- 第2回 江戸時代の世界観
- 第3回 開国と幕府滅亡
- 第4回 明治維新と初期外交
- 第5回 大日本帝国憲法制定
- 第6回 日清日露戦争
- 第7回 産業革命と明治文化
- 第8回 政党政治の展開と第一次世界大戦
- 第9回 大正デモクラシー期の社会
- 第10回 昭和の恐慌と政党内閣期の政策
- 第11回 満州事変から日中戦争へ
- 第12回 アジア太平洋戦争
- 第13回 占領から独立へ
- 第14回 55年体制と高度経済成長
- 第15回 現代日本の諸課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本近世の歴史 田沼時代

著者: 藤田覚

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2012年

ISBN:

日本近世の歴史 開国前夜の世界

著者: 横山伊徳

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2013年

ISBN:

日本近世の歴史 明治維新

著者: 青山忠正

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2012年

ISBN:

日本近代の歴史 維新と開化

著者： 奥田晴樹

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

日本近代の歴史 「主権国家」成立の内と外

著者： 大日方純夫

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

日本近代の歴史 日清・日露戦争と帝国日本

著者： 飯塚一幸

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

日本近代の歴史 国際化時代「大正日本」

著者： 櫻井良樹

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

※刊行中の「日本近代の歴史」シリーズの続刊本も参考書とする。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 東洋史概説 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 米田 健志	
テーマ 中国を中心としたアジアの歴史	
授業の到達目標 殷周時代から明清時代までの中国の歴史における、政治・社会・法制・人物、および周辺地域との関係について、基礎的知識の習得をめざす。	
授業の概要 毎回、プリントを配布したうえで講義を行う。授業期間中に小レポートを2回提出。また期末試験を実施する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 先秦～後漢(1)統一帝国への道 第3回 先秦～後漢(2)秦漢時代の政治と制度 第4回 先秦～後漢(3)前漢・後漢の社会と文化 第5回 三国～隋(1)分裂の時代:魏晋南北朝時代の政治と制度 第6回 三国～隋(2)魏晋南北朝時代の社会と文化 第7回 唐～北宋(1)唐代の政治と制度 第8回 唐～北宋(2)唐宋変革:唐宋時代の社会と文化 第9回 唐～北宋(3)北宋時代の政治と制度 第10回 南宋～遼・金・元(1)南宋と征服王朝 第11回 南宋～遼・金・元(2)宋代の社会と文化 第12回 南宋～遼・金・元(3)モンゴル帝国とユーラシア 第13回 明～清(1)明清時代の政治 第14回 明～清(2)明清時代の社会と制度 第15回 明～清(3)西欧との衝突:アヘン戦争 第16回 期末試験	
履修上の注意点 中国史・アジア史に関する様々な文献を図書館で探して読むことをおすすめする。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(55) 小テスト( ) 授業中課題(30) 授業中発表等( ) 参加度(15)	

## 2017 Syllabus

科目名 東洋史概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今松 泰

テーマ

イスラーム史概説

授業の到達目標

前近代イスラーム史の基礎知識を習得し、イスラーム世界が近代を迎える以前に、どのような文明を作り上げたのかを理解する。またイスラームの各地への拡大とイスラームのあり方についても理解できるようになることを目標とする。

授業の概要

ムハンマドによるイスラーム宣教以前の西アジアの状況からはじめ、イスラームの拡大、各地に成立した諸政権の状況などを概観しつつ、西欧諸国の本格的進出を迎える時代までを扱う。講義はプリントを配布して行う。参考文献については授業中に適宜紹介する。学期末に試験を実施する。

準備学習(予習・復習)

各自の関心に従って、授業中に紹介した書籍・論文などを読み、理解を深めることが望ましい。

内 容

- 第1回 導入:イスラームについて
- 第2回 イスラーム以前の西アジアの状況とムハンマド
- 第3回 正統カリフ時代とウマイヤ朝、スンナ派とシーア派
- 第4回 アッバース朝
- 第5回 イスラームの古典文明
- 第6回 イスラーム世界の分裂と再統合
- 第7回 モンゴルの時代
- 第8回 ティムール朝と後継国家
- 第9回 各地への伝播:東南アジア・中国・アフリカ
- 第10回 オスマン朝(I)君侯国から帝国へ
- 第11回 オスマン朝(II)変質する帝国
- 第12回 サファヴィー朝とイラン
- 第13回 ムガル朝と南アジア
- 第14回 内陸アジアの動向
- 第15回 近代への展望

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 西洋史概説 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 専次

テーマ

ヨーロッパ世界の形成と発展

授業の到達目標

現在、EUの発展が大きな話題になっている。そのような統一したヨーロッパ世界がどのように形成されたかを理解する。

授業の概要

古代ローマ時代から14、15世紀のヨーロッパ中世までについて、主要なテーマをあげて概観する。

準備学習(予習・復習)

下記のテキストを事前に読むのが望ましい。

内 容

- 第1回 ヨーロッパの地理・言語・宗教
- 第2回 地中海世界とローマ
- 第3回 ローマ帝国の崩壊とキリスト教の発展
- 第4回 ゲルマン人の民族移動と部族王国
- 第5回 東ローマ帝国の変容と東方正教世界
- 第6回 フランク王国の成立とメロヴィング朝
- 第7回 カール大帝とカロリング朝
- 第8回 ノルマン人とイングランド王国の成立
- 第9回 農村社会の変動と人口の増大
- 第10回 修道院改革と民衆の宗教的覚醒
- 第11回 グレゴリウス改革と叙任権闘争
- 第12回 十字軍とヨーロッパの膨張
- 第13回 中世都市の発達
- 第14回 黒死病と「危機」の時代
- 第15回 イタリア戦争と主権国家の形成

履修上の注意点

講義では、高校の世界史の教科書程度の知識は必要になる。

教科書

教養のための西洋史入門

著者： 中井義明/他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )



## 2017 Syllabus

科目名 西洋史概説Ⅱ

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 南直人

テーマ

近現代の西洋の歴史の基礎的理解をはかる

授業の到達目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の概要

近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。

準備学習(予習・復習)

授業で紹介した本や近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

内容

- 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム
- 第2回 近代世界システムの形成
- 第3回 16世紀ポルトガルのアジア進出
- 第4回 16世紀スペインの新大陸支配
- 第5回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー
- 第6回 17・18世紀イギリスの商業革命と大西洋貿易
- 第7回 18世紀英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
- 第8回 産業革命とフランス革命の新解釈
- 第9回 19世紀大英帝国のヘゲモニー
- 第10回 19世紀ヨーロッパ社会
- 第11回 19世紀ヨーロッパ文化
- 第12回 20世紀のヨーロッパ(1)
- 第13回 20世紀のヨーロッパ(2)
- 第14回 20世紀のヨーロッパ(3)
- 第15回 現代世界 全体のまとめ

履修上の注意点

小テストがあります。欠席しても救済措置はありません。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

世界システム論講義: ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: (ちくま学芸文庫)

出版年: 2016/1/7

ISBN:

もういちど読む山川世界現代史

著者: 木谷勤

出版社: 山川出版社

出版年: 2015

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (70)

授業中発表等 (0)

## 2017 Syllabus

科目名 考古学概説Ⅰ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学研究が明らかにした時代観・技術史

授業の到達目標

あな(遺構)・もの(遺物)で構成されている遺跡を、どのように解釈するかという方法と考古学研究が明らかにしてきた過去の社会像、土器・金属器・瓦などの出土遺物の精緻な研究成果を理解する。

授業の概要

時代順に、考古学的な成果によって推定される時代変遷を解説するとともに、研究の進んでいる土器・金属・瓦の研究成果を説明する。

準備学習(予習・復習)

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

内 容

- 第1回 考古学研究の方法とその特徴——発掘調査の方法
- 第2回 狩猟採集の社会——縄文時代
- 第3回 狩猟採集から農耕へ——弥生時代
- 第4回 金属生産の開始——銅鐸の変遷と祭祀
- 第5回 大墓の時代——古墳時代
- 第6回 学外授業 向日市物集女車塚古墳見学(予定)
- 第7回 歴史時代の考古学の特徴
- 第8回 土器の語る世界①——古代・中世の土器概説
- 第9回 土器の語る世界②——輸入陶磁器
- 第10回 古代都城の遺跡——平城京・平安京
- 第11回 学外授業 平城宮跡見学(予定)
- 第12回 金属生産の歴史①——青銅鑄物
- 第13回 金属生産の歴史②——鑄鉄鑄物
- 第14回 古代瓦の美——飛鳥・白鳳・天平の蓋
- 第15回 古代の平瓦作り——失われた伝統技術

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(60)

小テスト( )

授業中課題(40)

授業中発表等( )

参加度( )

## 2017 Syllabus

科目名 考古学概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学からみた地域と文化

授業の到達目標

日本各地の地域性を示す遺跡において解明されている個性豊かな地域の考古学的知見から、特色をもった地域文化が、どのように成立したかを理解する。

授業の概要

日本列島の西から東へと地域をめぐり、先史から歴史へと時代をたどりながら、重要な遺跡を説明する。

準備学習(予習・復習)

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

内 容

- 第1回 日本文化の地域性
- 第2回 弥生時代の北九州
- 第3回 瀬戸内の土器製塩
- 第4回 中国山地のたたら製鉄
- 第5回 陶邑の須恵器生産
- 第6回 土師器「かわらけ」の世界
- 第7回 学外授業 正倉院展(奈良国博)見学
- 第8回 正倉院展見学の復習
- 第9回 東海地方の焼物——猿投・瀬戸・常滑
- 第10回 平安京・中世京都の墓の考古学
- 第11回 学外授業 博物館見学
- 第12回 鎌倉の考古学
- 第13回 戦国城下町一乗谷遺跡
- 第14回 江戸の考古学
- 第15回 日本領の「異国」琉球の考古と歴史文化

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅠ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

古代の法から社会像を考える

授業の到達目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の概要

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。なお、毎回、史料の読み方下しに関する課題を出す。

内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説(1)
- 第2回 テキストの解説(2)、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 史料の読み方と理解の実際(1)
- 第4回 史料の読み方と理解の実際(2)
- 第5回 歴史遺産の見学(学外授業)
- 第6回 個別発表(1)
- 第7回 個別発表(2)
- 第8回 個別発表(3)
- 第9回 個別発表(4)
- 第10回 個別発表(5)
- 第11回 個別発表(6)
- 第12回 個別発表(7)
- 第13回 個別発表(8)
- 第14回 個別発表(9)
- 第15回 歴史研究の方法論と史料分析(まとめ)

履修上の注意点

詔勅・太政官符の読み方など古文書学の基礎知識が必要である。なお、高校における漢文学習の経験の有無について、特に配慮はしない。読み下しの基本ルールは自主的学習によって確認することを求める。

教科書

類聚三代格(該当部分コピー配布)

著者: 黒板勝美編(国史大系)

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

参考書

『律令国家と天平文化』(日本の時代史4)

著者: 佐藤 信 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『平安京』(日本の時代史5)

著者: 吉川真司 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本歴史大系2 律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

日本歴史大系3 貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 80 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野田 泰三

テーマ

中世史料－本能寺の変関連史料－を読む

授業の到達目標

・漢文史料の読解ができるようになる。・中世史料の読解法・調べ方を習得する。

授業の概要

日本史研究上必須の漢文史料の読解力と調査方法を習得するため、有名な本能寺の変の関連史料を輪読する。本能寺の変は日本史上最も著名な事件の一つで、背景を理解しやすいうえ、記録(日記)と古文書、双方の史料をあわせ読むことができる。また一次史料から読み取れる事実が事後にどのように誇張されていくかがわかり、史料から事実を読み取るという歴史学の研究方法・研究視角を身につける訓練にもなる。授業は受講生が用意したレジュメをもとに進める。担当者は割り当てられた箇所について、読み下し文を作成した上で、人名や地名、語句の意味、背景、担当箇所の論点等をまとめ、発表する。なお、機会があれば学外見学を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

・報告担当者は十分に時間をかけて準備すること。国語辞典・漢和辞典や歴史辞典はもちろん、関連史料や先行研究なども調べる。・受講生は、自分の担当回か否かを問わず、あらかじめ史料を読んでおくこと。授業時、報告者以外の者に当てることがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス:授業の進め方、史料の調べ方、分担の決定  
 第2回 テキストに関する説明  
 第3回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第4回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第5回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第6回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第7回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第8回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第9回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第10回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第11回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第12回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第13回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第14回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

・報告を無断で放棄した場合は成績評価の対象としない。・遅刻2回を欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合には成績評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

参加度:授業への取り組み姿勢や発表・質問の積極性などを総合的に判断する。

## 2017 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I &lt;\*C&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

徳川政権期の文献史料を読む

授業の到達目標

近世の漢文史料に慣れ、この時代を本格的に学ぶための力を身につける。

授業の概要

徳川政権期の文献史料(譜代大名松平忠利の日記、近世初期の大名たちが出した礼状・法令など)を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。そして授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポートを作成してもらう。なお、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習(予習・復習)

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運んで、古文書や絵画史料等に慣れ親しみ、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読んで、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
- 第2回 テキストに関する概説
- 第3回 松平忠利の日記の講読、その1
- 第4回 松平忠利の日記の講読、その2
- 第5回 松平忠利の日記の講読、その3
- 第6回 松平忠利の日記の講読、その4
- 第7回 松平忠利の日記の講読、その5
- 第8回 松平忠利の日記の講読、その6
- 第9回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その1
- 第10回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その2
- 第11回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その3
- 第12回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その4
- 第13回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その5
- 第14回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その6
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本の歴史 鎖国

著者: 朝尾直弘

出版社: 小学館

出版年: 1975年

ISBN:

日本の歴史 江戸開幕

著者: 藤井讓治

出版社: 集英社

出版年: 1992年

ISBN:

日本の歴史 天下泰平

著者: 横田冬彦

出版社: 講談社

出版年: 2002年

ISBN:



江戸城の宮廷政治

著者： 山本博文

出版社： 講談社

出版年： 2004年

ISBN:

全集日本の歴史 徳川の国家デザイン

著者： 水本邦彦

出版社： 小学館

出版年： 2008年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 35 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 15 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

日本の近世・近代移行期の史料を読む

授業の到達目標

幕末・維新时期を中心に、18世紀から19世紀における日本史研究を進める上で必要な史料読解能力を修得する。

授業の概要

教員が指定する文献史料(『幕末外国関係文書』、『日本外交文書』など)を読む。世界史からみた日本史、という観点で史料を指定する。受講生はそれぞれ担当する史料を選び、史料の逐語訳、およびその史料の歴史的背景について、1冊以上の参考文献を読んだ上で発表をおこなう。発表者以外の学生も、史料を事前に読む必要がある。授業の最後には、発表内容を踏まえたレポート作成を課す。なお、学修の状況に応じて、学外で授業を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

日本史はもちろん、世界史も含む歴史学全般についての広い知識・理解が重要となる。日頃から、概説書や新書、文庫などを讀んだり、博物館などに行って展示されている古文書にしっかりと目を通すなど、歴史学についていろいろな方法で自ら学ぶ習慣を身につけることが望ましい。

内 容

- 第1回 ガイダンスその1 古文書を読むということ
- 第2回 ガイダンスその2 本ゼミで読解をする史料の説明
- 第3回 史料の輪読その1 『通航一覧続輯』(読解の状況に応じて、他の史料を読むこともある。以下同)
- 第4回 史料の輪読その2 『通航一覧続輯』
- 第5回 史料の輪読その3 『通航一覧続輯』
- 第6回 史料の輪読その4 『幕末外国関係文書』
- 第7回 史料の輪読その5 『幕末外国関係文書』
- 第8回 史料の輪読その6 『幕末外国関係文書』
- 第9回 史料の輪読その7 『幕末外国関係文書』
- 第10回 史料の輪読その8 『外国新聞に見る日本』(本史料の発表担当者は、逐語訳の代わりに、原文<英語>と邦訳の対象作業をおこなう。以下同)
- 第11回 史料の輪読その9 『外国新聞に見る日本』
- 第12回 史料の輪読その10 『日本外交文書』
- 第13回 史料の輪読その11 『日本外交文書』
- 第14回 史料の輪読その12 『日本外交文書』
- 第15回 まとめ 発表の総括と、レポート作成のアドバイス

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に教員に連絡(メールで可)をすること。発表を担当する回で無断欠席をした場合は、成績評価に大きく響くので、この点、心得ておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本近世の歴史 開国前夜の世界

著者: 横山伊徳

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2013年

ISBN:

日本近世の歴史 明治維新

著者: 青山忠正

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2012年

ISBN:

日本近代の歴史 維新と開化

著者： 奥田晴樹

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

日本近代の歴史 「主権国家」成立の内と外

著者： 大日方純夫

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ &lt;\*A&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

古代の法から社会像を考える

授業の到達目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の概要

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。なお、毎回、史料の読み方下しに関する課題を出す。

内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説(1)
- 第2回 テキストの解説(2)、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 史料の読み方と理解の実際(1)
- 第4回 史料の読み方と理解の実際(2)
- 第5回 歴史遺産の見学(学外授業)
- 第6回 個別発表(1)
- 第7回 個別発表(2)
- 第8回 個別発表(3)
- 第9回 個別発表(4)
- 第10回 個別発表(5)
- 第11回 個別発表(6)
- 第12回 個別発表(7)
- 第13回 個別発表(8)
- 第14回 個別発表(9)
- 第15回 歴史研究の方法論と史料分析(まとめ)

履修上の注意点

詔勅・太政官符の読み方など古文書学の基礎知識が必要である。なお、高校における漢文学習の経験の有無について、特に配慮はしない。読み下しの基本ルールは自主的学習によって確認することを求める。

教科書

類聚三代格(該当部分コピー配布)

著者: 黒板勝美編(国史大系)

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

参考書

『律令国家と天平文化』(日本の時代史4)

著者: 佐藤 信 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『平安京』(日本の時代史5)

著者: 吉川真司 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本歴史大系2 律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

日本歴史大系3 貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

摂関政治と地方社会』(日本古代の歴史5)

著者: 坂上康俊

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 80 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ〈\*B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野田 泰三

テーマ

中世史料－本能寺の変関連史料－を読む

授業の到達目標

・漢文史料の読解ができるようになる。・中世史料の読解法・調べ方を習得する。

授業の概要

日本史研究上必須の漢文史料の読解力と調査方法を習得するため、有名な本能寺の変の関連史料を輪読する。本能寺の変は日本史上最も著名な事件の一つで、背景を理解しやすいうえ、記録(日記)と古文書、双方の史料をあわせ読むことができる。また一次史料から読み取れる事実が事後にどのように誇張されていくかがわかり、史料から事実を読み取るという歴史学の研究方法・研究視角を身につける訓練にもなる。授業は受講生が用意したレジュメをもとに進める。担当者は割り当てられた箇所について、読み下し文を作成した上で、人名や地名、語句の意味、背景、担当箇所の論点等をまとめ、発表する。なお、機会があれば学外見学を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

・報告担当者は十分に時間をかけて準備すること。国語辞典・漢和辞典や歴史辞典はもちろん、関連史料や先行研究なども調べる。・受講生は、自分の担当回か否かを問わず、あらかじめ史料を読んでおくこと。授業時、報告者以外の者に当てることがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス:授業の進め方、史料の調べ方、分担の決定  
 第2回 テキストに関する説明  
 第3回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第4回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第5回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第6回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第7回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第8回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第9回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第10回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第11回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第12回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第13回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第14回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説)  
 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

・報告を無断で放棄した場合は成績評価の対象としない。・遅刻2回を欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合には成績評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 30 )

参加度:授業への取り組み姿勢や発表・質問の積極性などを総合的に判断する。

## 2017 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ &lt;\*C&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 尾下 成敏	
テーマ 徳川政権期の文献史料を読む	
授業の到達目標 近世の漢文史料に慣れ、この時代を本格的に学ぶための力を身につける。	
授業の概要 徳川政権期の文献史料(譜代大名松平忠利の日記、近世初期の大名たちが出した礼状・法令など)を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。そして授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポートを作成してもらう。なお、学外の資料館・博物館を見学することがある。	
準備学習(予習・復習) 配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運んで、古文書や絵画史料等に慣れ親しみ、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読んで、歴史学に関する知識を増やすこと。	
内 容 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説 第2回 テキストに関する概説 第3回 松平忠利の日記の講読、その1 第4回 松平忠利の日記の講読、その2 第5回 松平忠利の日記の講読、その3 第6回 松平忠利の日記の講読、その4 第7回 松平忠利の日記の講読、その5 第8回 松平忠利の日記の講読、その6 第9回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その1 第10回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その2 第11回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その3 第12回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その4 第13回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その5 第14回 近世初期の大名たちが出した礼状・法令の講読、その6 第15回 まとめ	
履修上の注意点 欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。	

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

日本の歴史 鎖国

著者: 朝尾直弘

出版社: 小学館

出版年: 1975年

ISBN:

日本の歴史 江戸開幕

著者: 藤井讓治

出版社: 集英社

出版年: 1992年

ISBN:

日本の歴史 天下泰平

著者: 横田冬彦

出版社: 講談社

出版年: 2002年

ISBN:

江戸城の宮廷政治

著者： 山本博文

出版社： 講談社

出版年： 2004年

ISBN:

全集日本の歴史 徳川の家デザイン

著者： 水本邦彦

出版社： 小学館

出版年： 2008年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 35 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 15 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ〈\*D〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

日本の近世・近代移行期の史料を読む

授業の到達目標

幕末・維新时期を中心に、18世紀から19世紀における日本史研究を進める上で必要な史料読解能力を修得する。

授業の概要

教員が指定する文献史料(『幕末外国関係文書』、『日本外交文書』など)を読む。世界史からみた日本史、という観点で史料を指定する。受講生はそれぞれ担当する史料を選び、史料の逐語訳、およびその史料の歴史的背景について、1冊以上の参考文献を読んだ上で発表をおこなう。発表者以外の学生も、史料を事前に読む必要がある。授業の最後には、発表内容を踏まえたレポート作成を課す。なお、学修の状況に応じて、学外で授業を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

日本史はもちろん、世界史も含む歴史学全般についての広い知識・理解が重要となる。日頃から、概説書や新書、文庫などを讀んだり、博物館などに行って展示されている古文書にしっかりと目を通すなど、歴史学についていろいろな方法で自ら学ぶ習慣を身につけることが望ましい。

内 容

- 第1回 ガイダンスその1 古文書を読むということ  
 第2回 ガイダンスその2 本ゼミで読解をする史料の説明  
 第3回 史料の輪読その1 『通航一覧続輯』(読解の状況に応じて、他の史料を読むこともある。以下同)  
 第4回 史料の輪読その2 『通航一覧続輯』  
 第5回 史料の輪読その3 『通航一覧続輯』  
 第6回 史料の輪読その4 『幕末外国関係文書』  
 第7回 史料の輪読その5 『幕末外国関係文書』  
 第8回 史料の輪読その6 『幕末外国関係文書』  
 第9回 史料の輪読その7 『幕末外国関係文書』  
 第10回 史料の輪読その8 『外国新聞に見る日本』(本史料の発表担当者は、逐語訳の代わりに、原文(英語)と邦訳の対象作業をおこなう。以下同)  
 第11回 史料の輪読その9 『外国新聞に見る日本』  
 第12回 史料の輪読その10 『日本外交文書』  
 第13回 史料の輪読その11 『日本外交文書』  
 第14回 史料の輪読その12 『日本外交文書』  
 第15回 まとめ 発表の総括と、レポート作成のアドバイス

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に教員に連絡(メールで可)をすること。発表を担当する回で無断欠席をした場合は、成績評価に大きく響くので、この点、心得ておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本近世の歴史 開国前夜の世界

著者: 横山伊徳

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2013年

ISBN:

日本近世の歴史 明治維新

著者: 青山忠正

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2012年

ISBN:

日本近代の歴史 維新と開化

著者： 奥田晴樹

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

日本近代の歴史 「主権国家」成立の内と外

著者： 大日方純夫

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

英文史料ならびに重要論文の精読1

授業の到達目標

西洋史研究を進めるうえで必要なスキルとメソッドを理解し、それを身に着けることをめざす。

授業の概要

西洋史上の重要な史料(英文)を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料は、Weidenfeld and Nicolson社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料から選択し、各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。西洋史上の重要な史料を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料の意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、発表報告の最低でも2週間前には全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。続いて、各自の関心領域に即して、欧米史の(邦語訳)史料を選び、その史料についての紹介と、その史料を用いた自由研究(読み取れる事柄や史料が持つ価値など)の成果を報告する。どの報告においても、ゼミ生全員による質疑応答を行う。

準備学習(予習・復習)

テキストの精読、翻訳、ならびに、関連文献を検索し精読すること。

内 容

- 第1回 授業の進め方について(テキストの紹介、受講生各自の関心領域の確認)  
 第2回 史料から何を読み取るか、についての教員講義  
 第3回 英文史料について、教員講義  
 第4回 ゼミ生報告1回目—① 質疑応答  
 第5回 ゼミ生報告1回目—② 質疑応答  
 第6回 ゼミ生報告1回目—③ 質疑応答  
 第7回 ゼミ生報告1回目—④ 質疑応答  
 第8回 ゼミ生報告1回目⑤ 質疑応答  
 第9回 ゼミ生報告2回目—① 質疑応答  
 第10回 ゼミ生報告2回目—② 質疑応答  
 第11回 ゼミ生報告2回目—③ 質疑応答  
 第12回 ゼミ生報告2回目—④ 質疑応答  
 第13回 ゼミ生報告2回目—⑤ 質疑応答  
 第14回 ゼミ生報告2回目—⑥ 質疑応答  
 第15回 ゼミ生報告2回目—⑦ 質疑応答  
 第16回 学外授業を行うこともある

履修上の注意点

全員が完全出席をめざすこと。やむを得ず欠席するときには、前もって教員の大学アドレス宛に連絡すること。

教科書

こちらで用意する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (40%)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I &lt;\*B&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小野 浩	
テーマ 中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表	
授業の到達目標 中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。	
授業の概要 扱う地域・時代ともにきわめて広範に亘り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し(下記参考書参照)、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。 第2回 担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。(その際必ずレジュメを用意すること。)教員のコメントおよび出席者による質疑①。 第3回 報告②と質疑 第4回 報告③と質疑 第5回 報告④と質疑 第6回 報告⑤と質疑 第7回 報告⑥と質疑 第8回 報告⑦と質疑 第9回 報告⑧と質疑 第10回 報告⑨と質疑 第11回 報告⑩と質疑 第12回 報告⑪と質疑 第13回 報告⑫と質疑 第14回 報告⑬と質疑 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。	

## 履修上の注意点

## 教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

イスラム世界の人びと

著者: 三木 亘 他

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 1984

ISBN:

アジアの歴史と文化 西アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 2000

ISBN:

アジアの歴史と文化 中央アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 1999

ISBN:

新書東洋史8 中央アジアの歴史

著者: 間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977

ISBN:

イスラム世界の発展(ビジュアル版世界の歴史)

著者: 本田実信

出版社: 講談社

出版年: 1985

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

授業の到達目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。

授業の概要

I 中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。II 古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。III それぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

準備学習(予習・復習)

授業中に指示した参考書、学術論文をしっかりと読むこと。

内 容

- 第1回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味 I
- 第2回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味 II
- 第3回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味 III
- 第4回 中国史研究の基本論文・資料を読む I—資料から何を読みとるかを考える
- 第5回 中国史研究の基本論文・資料を読む II—資料から何を読みとるかを考える
- 第6回 中国史研究の基本論文・資料を読む III—資料から何を読みとるかを考える
- 第7回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
- 第8回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
- 第9回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
- 第10回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
- 第11回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
- 第12回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
- 第13回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
- 第14回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
- 第15回 総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。授業中に中国関係の遺物または博物館所蔵品を三回見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

西洋史学専門研究への入門

授業の到達目標

専門的な西洋史研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす

授業の概要

西洋史学の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、いくつかの概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて、種々の資料・史料を収集して内容をまとめ、発表していく。原則として1回の授業で3～5名程度が発表する。(なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある)

準備学習(予習・復習)

参考文献以外にもさまざまな概説書があるので、それらをできるだけ読んでおくことが望ましい

内 容

- 第1回 歴史学の意義、就職・進路の問題
- 第2回 西洋史研究へのイントロダクション
- 第3回 西洋古代史概説(1)
- 第4回 西洋古代史概説(2)
- 第5回 西洋古代史概説(3)
- 第6回 西洋中世史概説(1)
- 第7回 西洋中世史概説(2)
- 第8回 西洋中世史概説(3)
- 第9回 西洋近世史概説(1)
- 第10回 西洋近世史概説(2)
- 第11回 西洋近代史概説(1)
- 第12回 西洋近代史概説(2)
- 第13回 西洋近代史概説(3)
- 第14回 西洋現代史概説(1)
- 第15回 西洋現代史概説(2)
- 第16回 (なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある)

履修上の注意点

ゼミなので必ず毎回出席することが義務となる。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

大学で学ぶ西洋史[古代・中世]

著者: 服部良久、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2006

ISBN:

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

世界システム論講義: ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: (ちくま学芸文庫)

出版年: 2016/1/7

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (50)

参加度 (40)

---



## 2017 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

西洋史学専門研究への入門

授業の到達目標

専門的な西洋史研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす

授業の概要

西洋史学の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、いくつかの概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて、種々の資料・史料を収集して内容をまとめ、発表していく。原則として1回の授業で3～5名程度が発表する。(なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある)

準備学習(予習・復習)

参考文献以外にもさまざまな概説書があるので、それらをできるだけ読んでおくことが望ましい

内 容

- 第1回 歴史学の意義、就職・進路の問題
- 第2回 西洋史研究へのイントロダクション
- 第3回 西洋古代史概説(1)
- 第4回 西洋古代史概説(2)
- 第5回 西洋古代史概説(3)
- 第6回 西洋中世史概説(1)
- 第7回 西洋中世史概説(2)
- 第8回 西洋中世史概説(3)
- 第9回 西洋近世史概説(1)
- 第10回 西洋近世史概説(2)
- 第11回 西洋近代史概説(1)
- 第12回 西洋近代史概説(2)
- 第13回 西洋近代史概説(3)
- 第14回 西洋現代史概説(1)
- 第15回 西洋現代史概説(2)
- 第16回 (なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある)

履修上の注意点

ゼミなので必ず毎回出席することが義務となる。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

大学で学ぶ西洋史[古代・中世]

著者: 服部良久、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2006

ISBN:

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

世界システム論講義: ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: (ちくま学芸文庫)

出版年: 2016/1/7

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (50)

参加度 (40)

---

## 2017 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ〈\*B〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小野 浩	
テーマ 中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表	
授業の到達目標 中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。	
授業の概要 受講者は各自の関心に沿った歴史文献(研究書・論文・史料いずれも可)を自ら探し選んでその要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。	
準備学習(予習・復習) 下記の参考書は参考とする概説書として挙げたに過ぎない。各自が取り上げて紹介する文献はこれらに限らず、概要に記したように研究書・論文・史料等どれでもよい。	
内 容 第1回 出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。分担の決定。 第2回 担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。(その際必ずレジュメを用意すること。)教員のコメントおよび出席者による質疑①。 第3回 報告②と質疑 第4回 報告③と質疑 第5回 報告④と質疑 第6回 報告⑤と質疑 第7回 報告⑥と質疑 第8回 報告⑦と質疑 第9回 報告⑧と質疑 第10回 報告⑨と質疑 第11回 報告⑩と質疑 第12回 報告⑪と質疑 第13回 報告⑫と質疑 第14回 報告⑬と質疑 第15回 まとめ	
履修上の注意点	

## 教科書

## 参考書

イスラム世界の人びと

著者: 三木 亘 他

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 1984

ISBN:

アジアの歴史と文化 西アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 2000

ISBN:

アジアの歴史と文化 中央アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 1999

ISBN:

新書東洋史8 中央アジアの歴史

著者： 間野英二

出版社： 講談社

出版年： 1977

ISBN:

イスラム世界の発展(ビジュアル版世界の歴史)

著者： 本田実信

出版社： 講談社

出版年： 1985

ISBN:

モスクが語るイスラム史

著者： 羽田正

出版社： 筑摩学芸文庫

出版年： 2016

ISBN:

イスラーム建築の見かた

著者： 深見奈緒子

出版社： 東京堂出版

出版年： 2003

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **世界史基礎ゼミⅡ <\*C>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

授業の到達目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。

授業の概要

I 中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。II 古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。III それぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

準備学習(予習・復習)

事前に指示した参考書、学術論文をしっかりと読むこと。

内 容

- 第1回 中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。  
 第2回 中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。  
 第3回 中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。  
 第4回 中国歴史に関する発表の形式について説明する。  
 第5回 これまでの教員の説明内容に基づいて発表する。  
 第6回 これまでの教員の説明内容に基づいて発表する。  
 第7回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する。  
 第8回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。  
 第9回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。  
 第10回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。  
 第11回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する。  
 第12回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。  
 第13回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。  
 第14回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。  
 第15回 総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者： 砺波護ほか編

出版社：名古屋大学出版会

出版年：2006

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

史料ならびに重要論文の精読

授業の到達目標

西洋史研究を進めるうえで必要なスキルとメソッドを理解し、それを身に着けることをめざす。

授業の概要

西洋史上の重要な史料を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料の意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。または、最近の重要論文を各自の関心領域に即して選び、その論文について全員がしっかり精読し、感想とコメントを用意し、それに基づいてディベートを行う。感想とコメントについては授業時にレポートとして提出する。

準備学習(予習・復習)

史料または論文の精読、ならびに、関連文献を検索し精読すること。

内 容

- 第1回 史料に関して、教員からの講義①
- 第2回 史料に関して、教員からの講義②
- 第3回 最新研究論文についての紹介①
- 第4回 最新研究論文についての紹介②
- 第5回 ゼミ生報告―① 質疑応答
- 第6回 ゼミ生報告―② 質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告―③ 質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告―④ 質疑応答
- 第9回 ゼミ生報告―⑤ 質疑応答
- 第10回 ゼミ生報告―⑥ 質疑応答
- 第11回 ゼミ生報告―⑦ 質疑応答
- 第12回 ゼミ生報告―⑧ 質疑応答
- 第13回 ゼミ生報告―⑨ 質疑応答
- 第14回 ゼミ生報告―⑩ 質疑応答
- 第15回 本演習の総括

履修上の注意点

全員が完全出席をめざすこと。やむを得ず欠席するときには、前もって教員の大学アドレス宛に連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30% )

授業中発表等 ( 30% )

参加度 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 古文書学A I (古代・中世)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 野田 泰三	

テーマ

日本古代・中世文書の様式と機能を学ぶ

授業の到達目標

・古代・中世文書の様式を判別することができる。・各様式の機能を理解している。・簡単なくずし字の読解ができる。

授業の概要

前期は公式様文書・公家様・書札様文書を取りあげる。教材には古文書の写真(コピー)を用い、各種様式とその機能、特徴について解説する。簡単なくずし字読解の練習も行う。機会があれば、古文書見学会(博物館見学)を実施したい。

準備学習(予習・復習)

授業後、各様式の特徴や機能について復習しておくこと。配布した資料をもとに各自でくずし字読解の訓練をしておくこと。また博物館・資料館等の展覧会を見学するなど、古文書の原本に触れる機会を持って欲しい。

内 容

- 第1回 導入 古文書とは、古文書学とは
- 第2回 古文書学の研究視角、近年の研究動向
- 第3回 公式様文書①(宣命・詔勅)
- 第4回 公式様文書②(符・移・牒)
- 第5回 公式様文書③(解)
- 第6回 公家様文書①(官宣旨1)
- 第7回 公家様文書②(官宣旨2)
- 第8回 公家様文書③(宣旨・口宣案)
- 第9回 公家様文書④(政所下文・院庁下文)
- 第10回 公家様文書⑤(様々な下文)
- 第11回 書札様文書①(さまざまな御教書／書札礼)
- 第12回 書札様文書②(院宣・綸旨)
- 第13回 書札様文書③(令旨・女房奉書ほか)
- 第14回 古文書見学会
- 第15回 授業のまとめと学習到達度テスト

履修上の注意点

・上記スケジュールは事情により変更することがある。・漢文史料を扱うので、基本的な漢文の読み方を学習・復習しておくこと。・遅刻2回で欠席1回にカウントし、欠席が5回を越える場合は成績評価の対象としない。

教科書

授業時にプリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新版古文書学入門

著者: 佐藤進一

出版社: 法政大学出版

出版年: 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者: 日本歴史学会

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1983年

ISBN:

くずし字用例辞典(普及版)

著者: 児玉幸太(編)

出版社: 東京堂出版

出版年: 1981年

ISBN:

くずし字解説辞典(普及版)

著者: 児玉幸太(編)

出版社: 東京堂出版

出版年: 1979年

ISBN:

その他、授業時に適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (50)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

授業中発表: 簡単なくずし字の古文書はその場で読んでもらい、数名に発表(板書)してもらうことがある。参加度: 授業への取り組み状況や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 古文書学AⅡ(古代・中世)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野田 泰三	
テーマ 日本古代・中世文書の様式と機能を学ぶ	
授業の到達目標 ・古代・中世文書の様式を判別することができる。・各様式の機能を理解している。・簡単なくずし字の読解ができる。	
授業の概要 後期は武家様文書を中心にとりあげる。教材には古文書の写真(コピー)を用い、各種様式とその機能、特徴について解説する。簡単なくずし字読解の練習も行ふ。機会があれば、古文書見学会(博物館見学)を実施したい。	
準備学習(予習・復習) 授業後、各様式の特徴や機能について復習しておくこと。配布した資料をもとに各自でくずし字読解の訓練をしておくこと。また博物館・資料館等の展覧会を見学するなど、古文書の原本に触れる機会を持って欲しい。	
内 容 第1回 導入 武家様文書とは 鎌倉幕府の文書①(下文) 第2回 鎌倉幕府の文書②(御教書) 第3回 鎌倉幕府の文書③(下知状) 室町幕府の文書①(様々な下知状) 第4回 室町幕府の文書②(御判御教書) 第5回 室町幕府の文書③(御内書) 第6回 室町幕府の文書④(執事・管領奉書、頭人奉書) 第7回 室町幕府の文書⑤(遵行手続き) 第8回 室町幕府の文書⑥(奉行人奉書、伝奏奉書) 第9回 様々な武家文書①(書下・判物、折紙) 第10回 様々な武家文書②(印判状、花押と印判) 第11回 証書類(売券、譲状、置文) 第12回 上申文書(軍忠状・着到状、申状・起請文) 第13回 公家・武家や寺社の伝来文書 第14回 古文書見学会 第15回 授業のまとめと学習到達度テスト	
履修上の注意点 ・上記スケジュールは事情により変更することがある。・漢文史料を扱うので、基本的な漢文の読み方を学習・復習しておくこと。・遅刻2回で欠席1回にカウントし、欠席が5回を越える場合は成績評価の対象としない。	

## 教科書

授業時にプリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

新版古文書学入門

著者: 佐藤進一

出版社: 法政大学出版

出版年: 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者: 日本歴史学会

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1983年

ISBN:

くずし字用例辞典(普及版)

著者: 児玉幸太(編)

出版社: 東京堂出版

出版年: 1981年

ISBN:

くずし字解説辞典(普及版)

著者: 児玉幸太(編)

出版社: 東京堂出版

出版年: 1979年

ISBN:

その他、授業時に適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (50)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

授業中発表: 簡単なくずし字の古文書はその場で読んでもらい、数名に発表(板書)してもらうことがある。参加度: 授業への取り組み状況や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 古文書学B I (近世) &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 石津 裕之

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

日本近世(安土桃山時代～江戸時代)の古文書を解読し、内容を理解する能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

授業は配布テキストによっておこなう。日本近世の古文書・くずし字についての基礎知識を習得した上で、古文書で使用される字体や文章について学習をすすめる。また、色々なタイプの古文書の解読を通して、近世社会についての理解を深める。

準備学習(予習・復習)

古文書の読解能力を身につけるためには、繰り返し古文書に触れ親しむことが大事である。よって、配布テキストについて予習・復習をおこなうことが望ましい。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 日本近世の古文書・くずし字について

第3回 古文書で使用される言葉(1)

第4回 古文書で使用される言葉(2)

第5回 古文書で使用される字体

第6回 武家の古文書を読む(1)

第7回 武家の古文書を読む(2)

第8回 武家の古文書を読む(3)

第9回 町の古文書を読む(1)

第10回 町の古文書を読む(2)

第11回 町の古文書を読む(3)

第12回 村の古文書を読む(1)

第13回 村の古文書を読む(2)

第14回 村の古文書を読む(3)

第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席・遅刻が多いと成績評価に影響する。この点留意されたい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 古文書学B I (近世) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 水沼 尚子	
テーマ 初級の古文書解読	
授業の到達目標 日本近世の古文書の字体・文体などに馴れ、その内容を把握することを目的とする。	
授業の概要 日本近世のくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、様々なタイプの古文書を取りあげ、その字体や文体について学習する。また、内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深める。	
準備学習(予習・復習) くずし字や文体に馴れるためには、復習をおこなうことが大切である。授業中に配布したテキストを繰り返し翻刻・音読・現代語訳して確実に習得してほしい。また、日常で接する文字・言葉・映像に対しても近世史の視点から興味や疑問を持ち、多方面から考察できるちからを養うこと。	
内 容 第1回 くずし字と辞典(1) 第2回 くずし字と辞典(2) 第3回 古文書の解読(1) 第4回 古文書の解読(2) 第5回 古文書の解読(3) 第6回 古文書の解読(4) 第7回 古文書の解読(5) 第8回 古文書の解読(6) 第9回 古文書の解読(7) 第10回 古文書の解読(8) 第11回 古文書の解読(9) 第12回 古文書の解読(10) 第13回 古文書の解読(11) 第14回 古文書の解読(12) 第15回 古文書の解読(13)	
履修上の注意点 順番に板書(翻刻)・音読をしてもらうので、質問を含め積極的に参加していただきたい。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 くずし字用例辞典 著者: 児玉幸多編 出版社: 東京堂出版 出版年: 1993 ISBN:	
くずし字解読辞典 著者: 児玉幸多編 出版社: 東京堂出版 出版年: 1993 ISBN:	
新編・古文書解読字典 著者: 林英夫 出版社: 柏書房 出版年: 1993 ISBN:	

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( 30 )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ(近世)〈a〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 石津 裕之

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

日本近世(安土桃山時代～江戸時代)の古文書を解読し、内容を理解する能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

授業は配布テキストによっておこなう。日本近世の古文書・くずし字についての基礎知識を習得した上で、古文書で使用される字体や文章について学習をすすめる。また、色々なタイプの古文書の解読を通して、近世社会についての理解を深める。

準備学習(予習・復習)

古文書の読解能力を身につけるためには、繰り返し古文書に触れ親しむことが大事である。よって、配布テキストについて予習・復習をおこなうことが望ましい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 公家の古文書を読む(1)
- 第3回 公家の古文書を読む(2)
- 第4回 公家の古文書を読む(3)
- 第5回 寺社の古文書を読む(1)
- 第6回 寺社の古文書を読む(2)
- 第7回 寺社の古文書を読む(3)
- 第8回 京都(洛中)の古文書を読む(1)
- 第9回 京都(洛中)の古文書を読む(2)
- 第10回 京都(洛中)の古文書を読む(3)
- 第11回 京都(洛外)の古文書を読む(1)
- 第12回 京都(洛外)の古文書を読む(2)
- 第13回 京都(洛外)の古文書を読む(3)
- 第14回 京都(洛外)の古文書を読む(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席・遅刻が多いと成績評価に影響する。この点留意されたい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ(近世) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 水沼 尚子	
テーマ 初級の古文書解読	
授業の到達目標 日本近世の古文書の字体・文体などに馴れ、その内容を把握することを目的とする。	
授業の概要 日本近世のくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、様々なタイプの古文書を取りあげ、その字体や文体について学習する。また、内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深める。	
準備学習(予習・復習) くずし字や文体に馴れるためには、復習をおこなうことが大切である。授業中に配布したテキストを繰り返し翻刻・音読・現代語訳して確実に習得してほしい。また、日常で接する文字・言葉・映像に対しても近世史の視点から興味や疑問を持ち、多方面から考察できるちからを養うこと。	
内 容 第1回 古文書の解読(1) 第2回 古文書の解読(2) 第3回 古文書の解読(3) 第4回 古文書の解読(4) 第5回 古文書の解読(5) 第6回 古文書の解読(6) 第7回 古文書の解読(7) 第8回 古文書の解読(8) 第9回 古文書の解読(9) 第10回 古文書の解読(10) 第11回 古文書の解読(11) 第12回 古文書の解読(12) 第13回 古文書の解読(13) 第14回 古文書の解読(14) 第15回 古文書の解読(15)	
履修上の注意点 順番に板書(翻刻)・音読をしてもらうので、質問を含め積極的に参加していただきたい。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 くずし字用例辞典 著者: 児玉幸多編 出版社: 東京堂出版 出版年: 1993 ISBN:	
くずし字解読辞典 著者: 児玉幸多編 出版社: 東京堂出版 出版年: 1993 ISBN:	
新編・古文書解読字典 著者: 林英夫 出版社: 柏書房 出版年: 1993 ISBN:	

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( 30 )

授業中発表等 ( )

---



## 2017 Syllabus

科目名 出土文字資料論 I &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 増淵 徹	
テーマ 出土文字資料から考える遺跡と歴史像	
授業の到達目標 出土文字資料の研究上の位置づけを理解するとともに、それらを適切に解釈し、そこからどのような歴史像を描くことができるかについての、基本的な方法論を理解することを目的とする。	
授業の概要 都宮跡・官衙遺跡(国府・郡家跡)・寺跡・荘園遺跡など多様な遺跡を対象に、墨書土器・木簡・刻書瓦などの出土文字資料がどのような情報を提示してくれるかという解説を中心に授業を進める。機会があれば、1回は資料館または遺跡の見学を行いたい。	
準備学習(予習・復習) 遺跡は、さまざまな材料を基に多面的に理解するものである。書籍や報告書だけでなく、遺跡を訪れたり、説明会に参加したりして、遺跡と文献史料の両方の視点から学ぶ姿勢を身につけてほしい。参考文献は適宜紹介する。	
内 容 第1回 歴史研究の素材としての出土文字資料の位置づけ 第2回 出土文字資料の素材と特性 第3回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(平城宮跡出土の墨書土器1) 第4回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(平城宮跡出土の墨書土器2と木簡) 第5回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(斎宮跡・平安京跡出土の文字資料) 第6回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(下野国府跡出土の木簡と墨書土器1) 第7回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(下野国府跡出土の木簡と墨書土器2) 第8回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(下野国府跡出土の木簡と墨書土器3) 第9回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(八幡林遺跡出土の木簡と墨書土器1) 第10回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(八幡林遺跡出土の木簡と墨書土器2) 第11回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(上野国分寺跡出土の文字瓦1) 第12回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(上野国分寺跡出土の文字瓦2) 第13回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(飯塚遺跡出土の木簡1) 第14回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(飯塚遺跡出土の木簡2) 第15回 出土文字資料から見える歴史の実像	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 漢字文化三千年 著者: 高田時雄 編 出版社: 臨川書店 出版年: 2009年 ISBN: 木簡から古代がみえる 著者: 木簡学会 編 出版社: 岩波新書 出版年: 2010年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート (60) 小テスト (0) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (0) 参加度 (40)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 出土文字資料論Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定員
履修条件 要開講(2014年度休講)	クラス指定
担当者 渡辺 晃宏	
テーマ	
木簡を中心とする出土文字資料の特質、及び遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像	

## 授業の到達目標

歴史を考える上で欠かすことのできない重要な位置を占めるようになってきた木簡を初めとする出土文字資料を実際に読み解きながら、それらの資料としての特質や役割について理解を深め、新しい日本史像の探求方法を学ぶ。

## 授業の概要

具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを、適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えているので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合がある。

## 準備学習(予習・復習)

木簡を初めとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などにも積極的に参加してほしい。特に、授業の主要な対象となる木簡が出土した平城宮跡を実際に訪れ、遺跡としての広がりや体験しておくことが望ましい。また、正倉院展(奈良国立博物館)や地下の正倉院展(奈文研平城宮跡資料館での木簡の展示)などの実物資料を見られる機会や、奈文研の木簡に関するデータベースなどを活用し、日頃から積極的に資料に親しむように努めてほしい。

## 内 容

- 第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解説・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解説・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第3回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第4回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第5回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第6回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第7回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第8回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第9回 二条大路木簡(735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第10回 二条大路木簡(735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第11回 二条大路木簡(735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第12回 西大寺旧境内出土木簡など、平城京跡出土のその他の代表的な木簡について検討する。
- 第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第14回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

## 履修上の注意点

## 教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

適宜プリントなどを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256

著者: 木簡学会(編)

出版社: 岩波書店

出版年: 2010

ISBN: 978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231

著者: 東野治之

出版社: 岩波書店

出版年: 1983

ISBN: 978-4004202318

〈歴史の証人〉木簡を究める

著者: 奈良文化財研究所(編)

出版社: クバプロ

出版年: 2014

ISBN: 978-4878051340

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)

著者: 渡辺晃宏

出版社: 講談社

出版年: 2009

ISBN: 978-4062919043

平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く

著者: 渡辺晃宏

出版社: 柏書房

出版年: 2010

ISBN: 978-4760137404

---

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

試験はレポートによる場合もある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 古文書学C I (近世) &lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 古文書学B I (近世)またはB II (近世)を修得済みであること、または同等以上の者

クラス指定

担当者 牧 知宏

テーマ

上級・中級の古文書

授業の到達目標

日本近世の古文書に書かれたくずし字を読み解く能力を高めることを目的とします。

授業の概要

古文書学A・Bを履修した者で、古文書を学ぶことが好きな学生や大学院進学を目指す学生を対象に、特に日本近世の古文書に書かれたくずし字に慣れ親しむために、様々な型式・内容の古文書(コピーを配布)を読み進めていきます。

準備学習(予習・復習)

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが必要です。とくに声を出しながら何度も読むことが大切です。できるだけ博物館や美術館などへ足を運び、古文書の実物にも慣れ親しんで下さい。

内 容

- 第1回 日本近世の古文書を読み解くコツ
- 第2回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む1
- 第3回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む2
- 第4回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む3
- 第5回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む1
- 第6回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む2
- 第7回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む1
- 第8回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む2
- 第9回 近世の古文書(村に関する文書)を読む1
- 第10回 近世の古文書(村に関する文書)を読む2
- 第11回 近世の古文書(村に関する文書)を読む3
- 第12回 近世の古文書(町に関する文書)を読む1
- 第13回 近世の古文書(町に関する文書)を読む2
- 第14回 近世の古文書(町に関する文書)を読む3
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

なし、適宜配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多編

出版社: 東京堂出版

出版年: 1993

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (15%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 (20%)

参加度 (25%)

## 2017 Syllabus

科目名 古文書学CⅡ(近世)〈Z〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件 古文書学CⅠ(近世)を修得済み、または同等以上の者	クラス指定
担当者 永井 和	
テーマ	
アジア歴史資料センターの資料を活用する	

## 授業の到達目標

近代日本の公文書である内閣文書、外務省文書、陸海軍文書について、その文書群の種類と構造を理解するとともに、典型的な文書についてその様式を学び、読解できる力を養う。また、デジタル化された文書画像を処理するICTツール、SMART-GSの使用方法を身につける。

## 授業の概要

国立公文書館のアジア歴史資料センターには、日本の公文書史料(太政官と内閣、枢密院、外務省、陸軍・海軍など)をデジタル画像化し、オンラインで閲覧可能にした世界でも有数のデジタル・アーカイブスである。この授業では公開されているアジア歴史資料センターのデジタル史料を読む。1. アジア歴史資料センターに収録されている公文書の構造とその保存状態を知り、近現代史の公文書資料についての理解を深める。2. 参加者の関心にしたがって、いくつかの史料を選択し、その読解、史料分析をおこない、近現代史における史料操作の方法を体験する。3. 文献資料解析ツールであるSMART-GSを使用し、歴史資料がデジタル画像化されてオンラインで流通する、デジタル化時代における史料操作の方法を実地に体験する。

## 準備学習(予習・復習)

授業では、分担を決めて史料を読解する。報告にあたっては必ず予習しておくこと。また授業では、SMART-GSのシステムやデータを格納するUSBメモリを使用するので、各自用意すること。

## 内 容

- 第1回 アジア歴史資料センターにアクセスする。
- 第2回 アジア歴史資料センターにはどのような史料があるのか。
- 第3回 典型的な公文書の実例1 公文類輯と御署名原本
- 第4回 典型的な公文書の実例2 外務省記録
- 第5回 典型的な公文書の実例3 陸軍省大日記
- 第6回 典型的な公文書の実例 海軍省公文備考
- 第7回 SMART-GSのセットアップ
- 第8回 SMART-GSの使用法を学ぶ その1
- 第9回 SMART-GSの使用法を学ぶ その3
- 第10回 SMART-GSを使って史料を解読・分析する。 その1
- 第11回 SMART-GSを使って史料を解読・分析する。 その2
- 第12回 SMART-GSを使って史料を解読・分析する。 その3
- 第13回 解読・分析の結果を報告する。 その1
- 第14回 解読・分析の結果を報告する。 その2
- 第15回 解読・分析の結果を報告する。 その3

## 履修上の注意点

科目名は「古文書学CⅡ(近世)」となっているが、授業で扱うのは「近代文書」それも公文書にかぎられる。この授業は、講義よりも実習が主となる。学生の主体的な参加が要請される。

## 教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

近代史料学の射程

著者: 中野目徹

出版社: 弘文堂

出版年: 2000

ISBN: 978-4335352058

くずし字用例辞典

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 2015

ISBN: 978-449010333

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 10 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史特講a(古代史)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 北 啓太

テーマ

日本古代の律令制

授業の到達目標

史料に基づいた形で律令制についての各種知識を修得する。また古代史研究の水準を知り、日本古代国家についての理解を深める。

授業の概要

律令制は日本古代国家の歴史上画期的な意味をもち、その研究は重要な位置を占めている。律令制を構成する諸制度について主要な事柄を順次とりあげ、史料に基づきながらその基本的事項や実例に触れて、その特質を考えていく。

準備学習(予習・復習)

資料を配布するので、自身のノートと共によく復習すること。なお講義内容を理解するためには漢文読解についての基礎的能力が必要であり、各自よく修得につとめること。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 律令の制定
- 第3回 官制
- 第4回 官人
- 第5回 公文書制度(1)
- 第6回 公文書制度(2)
- 第7回 天皇(1)
- 第8回 天皇(2)
- 第9回 皇親・后妃
- 第10回 民衆支配と税制(1)
- 第11回 民衆支配と税制(2)
- 第12回 財政(1)
- 第13回 財政(2)
- 第14回 軍制
- 第15回 おわりに

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

(新訂増補国史大系)令義解

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

(新訂増補国史大系)令集解

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

律令制研究入門

著者: 大津透編

出版社: 名著刊行会

出版年: 2011年

ISBN:

(日本史リブレット)律令制とはなにか

著者: 大津透著

出版社: 山川出版社

出版年: 2013年

ISBN:

その他、講義中に随時提示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 日本史特講b(古代史)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 北 啓太

テーマ

奈良時代政治史

授業の到達目標

奈良時代の政治問題とその動き、周辺の環境について理解を深める。また古代史を史料に立脚して考察する能力を高める。

授業の概要

律令制成立期から平安遷都に至る、奈良時代を中心とした政治過程について、史料に基づいて学んでいく。関連する周辺の制度・文化的な事柄についても触れる。

準備学習(予習・復習)

資料を配布するので、自身のノートと共によく復習すること。なお講義内容を理解するためには漢文読解についての基礎的能力が必要であり、各自よく修得につとめること。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 壬申の乱と天武持統朝
- 第3回 文武朝と聖武天皇の誕生
- 第4回 聖武天皇の即位
- 第5回 遣唐使
- 第6回 聖武朝(1)
- 第7回 聖武朝(2)
- 第8回 聖武朝(3)
- 第9回 正倉院(1)
- 第10回 正倉院(2)
- 第11回 恵美押勝
- 第12回 称徳朝と道鏡
- 第13回 光仁・桓武朝
- 第14回 平安遷都
- 第15回 おわりに

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新日本古典文学大系『続日本紀』

著者:

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 日本史特講c(中世史)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野田 泰三

テーマ

日本中世社会の諸相

授業の到達目標

・日本中世の歴史・文化に関する基礎的な知識を習得している・歴史学の実証的な研究視角・研究方法について理解している

授業の概要

歴史学を研究するにはミクロとマクロ、双方の視点が必要です。1つのテーマを深く掘り下げて研究することは勿論大切ですが、日本史の流れを大局的に理解し日本人の来し方・行く末を見通すことも必要です。この授業では、日本の中世社会はどのようなものであったか、中世人はどのような意識・感覚のもとで生きていたかについて、都市、身分制、宗教、法慣行、祭礼といった点から講義します。なお授業内容やスケジュールは変更することがあります。また機会があれば学外見学を実施します。

準備学習(予習・復習)

講談社や小学館などの『日本の歴史』シリーズや『岩波講座日本歴史』などを読み、日本史・日本中世史に関する知識をつけておくこと。各種展示会や現地見学会にも積極的に出掛けてください。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方の説明)
- 第2回 都市京都の成り立ち①
- 第3回 都市京都の成り立ち②
- 第4回 都市京都の成り立ち③
- 第5回 物ぐさ太郎とは何者か①
- 第6回 物ぐさ太郎とは何者か②
- 第7回 天狗と鬼①
- 第8回 天狗と鬼②
- 第9回 落書と起請①
- 第10回 落書と起請②
- 第11回 中世の質取り①
- 第12回 中世の質取り②
- 第13回 祇園祭の歴史①
- 第14回 祇園祭の歴史②
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

授業は講義形式で行いますが、講義内容が常に正しいとは限りません。ほかの解釈が可能かもしれないし、そもそも“たった一つの正解”など歴史学にはありません。なぜ? ということ? 本当だろうか? と常に自分の頭で考える習慣をつけて下さい。

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (40)

・遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席5回以上の場合は成績評価の対象としない。

## 2017 Syllabus

科目名 日本史特講d(中世史)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野田 泰三

テーマ

戦国期の地域権力

授業の到達目標

・歴史学の実証的な研究視角・研究方法について理解している・歴史学の理論について基礎的な知識を習得する・日本中世史の特質を理解し、客観的な歴史の見方ができる

授業の概要

後期は戦国大名、戦国期守護、戦国期大名権力など近年様々な呼称で呼ばれる“地域権力”(この言葉も暫定的に使っています)の実像について、播磨赤松氏を主たる素材として、その権力構造や分国支配の実態、守護代以下有力国衆との関係などを考察します。授業では史料レジュメを配布しますので、受講生が自身で史料を読み込み、戦国社会の在り方や地域権力の支配の実相を考察して欲しい。なお授業内容やスケジュールは変更することがあります。また機会があれば学外見学を実施します。

準備学習(予習・復習)

講談社や小学館などの『日本の歴史』シリーズや『岩波講座日本歴史』などを読み、日本史・日本中世史に関する知識をつけておくこと。配布する史料レジュメを事後に読み込んでおくこと。この作業を通して、卒論作成に必要な史料読解能力や分析力が涵養されれば幸いです。

内 容

第1回 ガイダンス(授業の進め方の説明)

第2回 戦国大名か戦国期守護か

第3回 嘉吉の乱後の赤松氏

第4回 戦国期播磨の政治過程①

第5回 戦国期播磨の政治過程②

第6回 守護代層の地域支配

第7回 国衆・国人層の動向

第8回 公儀としての赤松氏①

第9回 公儀としての赤松氏②

第10回 地域権力と京都

第11回 戦国期における伝統的身分秩序

第12回 他地域の地域権力の動向

第13回 織豊期の播磨①

第14回 織豊期の播磨②

第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

授業は講義形式で行いますが、講義内容が常に正しいとは限りません。ほかの解釈が可能かもしれないし、そもそも“たった一つの正解”など歴史学にはありません。なぜ? どういうこと? 本当だろうか? と常に自分の頭で考える習慣をつけて下さい。

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本の歴史12 室町人の精神

著者: 桜井英治

出版社: 講談社

出版年: 2001

ISBN:

日本の歴史13 一揆と戦国大名

著者: 久留島典子

出版社: 講談社

出版年: 2001

ISBN:

その他、授業時に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

・遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席5回以上の場合は成績評価の対象としない。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史特講e(近世史)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

近世城館からみた日本列島史

授業の到達目標

16世紀～19世紀の日本列島史に関する基礎的知識を身につけ、歴史の展開を大づかみに把握する。

授業の概要

この講義では、織田政権期以降に登場する近世城館を扱うが、その目的は近世城館の歴史を介して、日本列島史の展開を大づかみに把握することにある。なお、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じることもある。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス・時代区分論
- 第2回 城館とはなにか
- 第3回 中世後期の城館、「城」と化した寺院
- 第4回 織豊系の城館の出現、城館の整理と統合
- 第5回 文禄、慶長の役、韓国南岸の倭城
- 第6回 江戸時代初期の築城ラッシュ、一国一城令
- 第7回 一国一城令後の近世城館
- 第8回 城館をめぐる資料
- 第9回 近世の城館と社会、その1
- 第10回 近世の城館と社会、その2
- 第11回 近世の城館と文化
- 第12回 琉球王国と蝦夷地、グスクとチャシ
- 第13回 幕末維新期の城館
- 第14回 近代の城館遺跡
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本の時代史(全30冊)

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002年～2004年

ISBN:

日本の歴史(全25冊)

著者:

出版社: 講談社学術文庫

出版年: 2008年～2010年

ISBN:

日本の歴史全集(全17冊)

著者:

出版社: 小学館

出版年: 2007年～2009年

ISBN:

日本近世の歴史(全6冊)

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011年~2013年

ISBN:

シリーズ日本近世史(全5冊)

著者: 藤井譲治ほか

出版社: 岩波書店

出版年: 2015年~2016年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史特講f(近世史)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

16・17世紀研究入門

授業の到達目標

16・17世紀(織豊政権期・徳川政権期)の研究を行うための基礎的能力を身につける。

授業の概要

16・17世紀の文献史料のうち、活字化された史料などをもとに講義を進める。なお、1、漢文史料が読めないといけな  
い講義であること、2、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じる場合があること、3、授業  
の最後には原稿用紙8枚程度のレポート作成を課題として課すこと、を予め付記しておく。

準備学習(予習・復習)

1、配布する文献史料の復習を怠らないこと。2、博物館・美術館などへ足を運び、くずし字で書かれた史料や絵画資料などに  
慣れ親しむこと。3、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス・日本史学とはどういう学問か？
- 第2回 古文書の熟読1
- 第3回 古文書の熟読2
- 第4回 編纂物の熟読1
- 第5回 編纂物の熟読2
- 第6回 日記の熟読1
- 第7回 日記の熟読2
- 第8回 地図を使って歴史を調べる1
- 第9回 地図を使って歴史を調べる2
- 第10回 名字・姓・通称・実名1
- 第11回 名字・姓・通称・実名2
- 第12回 名字・姓・通称・実名3
- 第13回 实地踏査の方法1
- 第14回 实地踏査の方法2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

太閤の手紙

著者: 桑田忠親

出版社: 講談社学術文庫

出版年: 2006年

ISBN:

武田信玄と勝頼

著者: 鴨川達夫

出版社: 岩波新書

出版年: 2007年

ISBN:

戦国のコミュニケーション

著者: 山田邦明

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011年

ISBN:

織豊期主要人物居所集成 第2版

著者： 藤井讓治編

出版社： 思文閣出版

出版年： 2016年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 35 )

授業中課題 ( 35 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---



## 2017 Syllabus

科目名 日本女性史特講 I

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象として、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習(予習・復習)

授業後に、その授業に関係のある本あるいは論文を読むことが望ましい。

内 容

- 第1回 原始・古代の女性労働
- 第2回 都城の変遷と女性の生活
- 第3回 律令制下の女性の地位
- 第4回 平安京の成立
- 第5回 女房としての紫式部
- 第6回 平安女性の財産相続権
- 第7回 平氏政権下の女性
- 第8回 院政期の女院と女房
- 第9回 武士の登場・武士の女性
- 第10回 鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
- 第11回 平安時代の出産、鎌倉時代の出産
- 第12回 北条政子の生涯とその役割
- 第13回 南北朝期の女性の地位変化
- 第14回 日野重子と日野富子
- 第15回 古代・中世の女性の地位をめぐって(前期のまとめ)

履修上の注意点

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史

著者: 脇田・林・永原編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1987

ISBN:

乳母の力

著者: 田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2005

ISBN:

日本中世女性史論

著者: 田端泰子著

出版社: 塙書房

出版年: 1994

ISBN:

北政所おね

著者: 田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2007

ISBN:

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本女性史特講Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習(予習・復習)

授業後に、その授業に関係のある本あるいは論文を読むことが望ましい。

内 容

- 第1回 戦国～織豊期の女性①北政所おね
- 第2回 戦国～織豊期の女性②細川ガラシャ
- 第3回 戦国～織豊期の女性③淀殿
- 第4回 戦国～織豊期の女性④利家正室まつ
- 第5回 大坂落城に遭遇した二人のおきく
- 第6回 江戸幕府の成立と女性
- 第7回 春日局の一生とその役割
- 第8回 江戸時代の農村女性の生活
- 第9回 江戸時代の商家の女性
- 第10回 明治維新とは
- 第11回 大正デモクラシーと女性
- 第12回 戦時中の生活変化と女性の役割
- 第13回 戦後改革と女性の地位変化
- 第14回 現代社会の女性の地位
- 第15回 統一政権期から現代に至る日本女性のあゆみ(後期のまとめ)

履修上の注意点

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史

著者: 脇田・林・永原編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1987

ISBN:

乳母の力

著者: 田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2005

ISBN:

日本中世女性史論

著者: 田端泰子著

出版社: 塙書房

出版年: 1994

ISBN:

北政所おね

著者: 田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2007

ISBN:

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 近現代史特講a(日本)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

アジア・太平洋のなかの日本列島 18—20世紀概論

授業の到達目標

日本の歴史を長い時間軸と広い空間軸で、俯瞰(ふかん)的にとらえる能力の養成を目標とする。また、あわせて細部も見逃さない、徹底した史料読解に基づく歴史研究の重要性を理解することをめざす。

授業の概要

日本史を研究するためには、日本列島の歴史を長い時間軸で、かつ広い空間軸でとらえることも重要である。この観点にしたがって、本講義では、18世紀の近世後期から、20世紀にいたる日本の歴史を、東アジアおよび太平洋という空間から検討していく。「近現代史」が中心ではあるが、あえて近世から歴史を俯瞰することによって、現代社会が抱えるさまざまな問題点を多角的に明らかにしていきたい。

準備学習(予習・復習)

「日本史」が軸になるが、世界史の知識も講義を理解する上で重要となる。授業中に適宜紹介する参考文献を読むことが望ましい。

内 容

- 第1回 太平洋世界の変容と日本列島 その1
- 第2回 太平洋世界の変容と日本列島 その2
- 第3回 東アジア国際秩序のなかの日本 その1
- 第4回 東アジア国際秩序のなかの日本 その2
- 第5回 明治維新とその国際環境 その1
- 第6回 明治維新とその国際環境 その2
- 第7回 明治政府の外交と東アジア その1
- 第8回 明治政府の外交と東アジア その2
- 第9回 世界史のなかの日清・日露戦争 その1
- 第10回 世界史のなかの日清・日露戦争 その2
- 第11回 帝国日本とアジア・太平洋 その1
- 第12回 帝国日本とアジア・太平洋 その2
- 第13回 アジア・太平洋戦争への道 その1
- 第14回 アジア・太平洋戦争への道 その2
- 第15回 まとめ アジア・太平洋からみる日本の歴史

履修上の注意点

受講に際して、私語はもちろん厳禁であるが、講義内容に関わる質問や意見については、積極的な発言を歓迎する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

東アジア国際政治史

著者: 川島真ほか

出版社: 名古屋大学出版会

出版年: 2007年

ISBN:

大人のための近現代史 19世紀編

著者: 三谷博ほか

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2009年

ISBN:

※そのほか、講義中に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 75 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 0 )

授業中発表等 ( 0 )

参加度 ( 25 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 近現代史特講b(日本)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 永井 和

テーマ

明治憲法下の日本内閣史

授業の到達目標

歴史的な現象を分類し、時期区分をするという、歴史学の基本的研究法を身につける。

授業の概要

この授業では、戦前日本の内閣史を扱う。ただし、通常の内閣史のように、政治史の展開を中心とした通史的叙述は行わない。戦後の内閣史には見られない、戦前内閣史だけの特徴となる特異現象をとりあげ、それを軸に、戦前内閣を分類し、かつ内閣史の時期区分を行う。その特徴とは、戦前内閣においては「軍服を着た総理大臣」あるいは「(陸海軍大臣以外の)軍服を着た各省大臣」が存在した、というものである。この特異現象に着目して、戦前内閣史を再構成する。

準備学習(予習・復習)

予習の必要はありません。授業後にノートを整理しておくことが望ましい。

内 容

- 第1回 基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって、順序や回数を変えることがある。  
戦前内閣史の特異現象
- 第2回 戦前日本の内閣についてあれこれ、知っていること、知らないこと。
- 第3回 明治憲法下の内閣制度は難しい、
- 第4回 明治憲法下の内閣制度は今とどうちがうのか。
- 第5回 「統帥権の独立」、それは何ですか。
- 第6回 統帥権運用の具体例：戦後編
- 第7回 統帥権運用の具体例：戦前編
- 第8回 軍人の定義と服役区分・小テスト
- 第9回 戦前内閣を分類してみる。
- 第10回 軍服を着た総理大臣
- 第11回 東条内閣はなぜ現役軍人首相内閣だったのか。
- 第12回 東条内閣はなぜ現役軍人首相内閣だったのか(つづき)。
- 第13回 軍人出身の総理大臣
- 第14回 戦前内閣史を時期区分する。
- 第15回 政軍関係からみた戦前日本内閣史・小テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

近代日本の軍部と政治

著者: 永井和

出版社: 思文閣出版

出版年: 1993年

ISBN: 4784207708

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 近現代史特講c(世界)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 爲政 雅代

テーマ

ドイツの近現代史をより深く理解する。

授業の到達目標

ドイツの近現代史を様々なテーマから検討し、ドイツの独自性やその諸問題への理解を深める。

授業の概要

ドイツは2度の世界大戦、ナチスの台頭、分断国家、再統一などを他国にはない経験を経て発展を遂げてきた。授業ではその歴史を考察することで、ドイツが抱えてきた諸問題をテーマ別に取り上げるとともに、ドイツの歴史的な独自性をとらえていく。

準備学習(予習・復習)

授業で紹介する文献に広く目を通しておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ドイツ統一
- 第3回 世界帝国への道
- 第4回 ワイマール民主主義
- 第5回 ナチスの台頭
- 第6回 ヒトラーへの抵抗運動
- 第7回 ホロコースト
- 第8回 復興から経済大国へ
- 第9回 ヨーロッパ統合とドイツ
- 第10回 1968年の学生運動
- 第11回 環境保護と脱原発
- 第12回 ドイツ再統一
- 第13回 心の壁とオスタルギー
- 第14回 移民国家ドイツ
- 第15回 まとめ・総括

履修上の注意点

授業では毎回プリントを配布する。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

初回授業で参考文献リストを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

学期末試験と授業中レポートでは、授業の理解度を問う。



## 2017 Syllabus

科目名 近現代史特講d(世界)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 水田 大紀

テーマ

暮らしのイギリス近代史

授業の到達目標

受講者は、講義を通じてヨーロッパの歴史や文化に対して関心をもち、その時代的な特徴や変化が現れた歴史的背景について理解を深めることが期待される。

授業の概要

私たちにとってはごく日常的な事柄のなかにも、実は近代以前にはありえなかったものが数多くある。そこで本講義ではヨーロッパ(特にイギリス)における「近代化」の歴史を学ぶ。受講生は世界史の大きな流れを意識しつつ、近代イギリス社会における文化面での変化の意味について考える。

準備学習(予習・復習)

恒常的な参加と積極的な予習・復習を期待する。特にテキストは指定しないが、講義内で参考となる文献などを紹介する。

内 容

- 第1回 イントロダクション——イギリスの日常生活
- 第2回 イギリス史概説(1)
- 第3回 イギリス史概説(2)
- 第4回 都市文化の成立
- 第5回 消費生活(1)——家庭生活の変化
- 第6回 消費生活(2)——食べ物と飲物
- 第7回 消費生活(3)——パブとクラブ
- 第8回 健康文化(1)——病気と公衆衛生
- 第9回 健康文化(2)——福祉と保険
- 第10回 健康文化(3)——娯楽と観光
- 第11回 職業集団(1)——執事とメイド
- 第12回 職業集団(2)——教育者
- 第13回 職業集団(3)——密輸集団
- 第14回 職業集団(4)——詐欺師と冒険者
- 第15回 講義のまとめと総括——近代化の原動力

履修上の注意点

以上の順序で講義を進める。ただしこれはあくまで予定である。そのため最初の回で受講者の希望を聞いたうえで、全体計画を立案する。「高校の補習」ではないので語句・年代の暗記は最低限にとどめ、全地域を網羅的にカバーすることにもこだわらない。なお受講者数によっては、授業の初めに出席を確認する場合もある。

教科書

参考書

路地裏の大英帝国——イギリス都市生活史

著者: 角山榮・川北稔(編)

出版社: 平凡社(平凡社ライブラリー)

出版年: 1982(2001)

ISBN: 4-582-76381-2

結社のイギリス史——クラブから帝国まで

著者: 綾部恒雄(監修)・川北稔(編)

出版社: 山川出版社

出版年: 2005

ISBN: 4-634-44440-2

アメリカは誰のものか——ウェールズ王子マドックの神話

著者: 川北稔

出版社: NTT出版

出版年: 2001

ISBN: 4-7571-4032-0

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（0）

参加度（40）

成績評価はレポートと授業中課題、および参加度で行う。これに授業中に書いてもらった感想など加味する。ただし、いずれかひとつが0%である場合、単位を取得できない。また単に出席しているだけでは評価の対象にはならない。予習が不十分であるなど、授業への主体的な参加がみられない場合には、欠席に準じた扱いとする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講a(東アジア史 I)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 米田 健志

テーマ

日中交流の歴史

授業の到達目標

日本の弥生時代後期(同時期の中国は後漢時代)から明治時代の終わり(ちょうど同じ年に中国では辛亥革命で清朝が滅び中華民国が建国された)までの日本と中国の交流について、政治的・経済的・文化的な諸側面から理解を深めてもらいたい。

授業の概要

配布プリントを用いて授業を進める。

準備学習(予習・復習)

授業で紹介された文献については、ぜひ図書館で現物を探して、手にとってみたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 倭国と漢魏南北朝時代の中国
- 第3回 隋唐と日本律令国家の形成
- 第4回 隋唐の制度と日本の律令制
- 第5回 中国と古代日本の仏教
- 第6回 日本文化と漢文
- 第7回 遣唐使廃止と日宋貿易
- 第8回 鎌倉仏教と元寇
- 第9回 日明貿易と日本国王
- 第10回 日中関係と大航海時代
- 第11回 秀吉の朝鮮侵略と明清交替
- 第12回 江戸時代の日本と中国
- 第13回 アヘン戦争と明治維新
- 第14回 文明開化から日清戦争へ
- 第15回 日露戦争と辛亥革命
- 第16回 期末試験

履修上の注意点

配布したプリント等は過去分も含めて全て授業に持参すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に随時紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (55%)

小テスト ( )

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ( )

参加度 (15%)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講c(東アジア史Ⅲ)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史の基本問題として、その成立と展開の特質を探る。

授業の到達目標

この授業では、中国における都市文明の起源から唐代までの歴史と、文化の形成から展開の諸問題を取り扱い、中国文明の原像を把握する。

授業の概要

中国文明の成立は、中国周辺の異民族にも大きな影響を与えた。古代中国の高度にすぐれた文化がこれらの地域に広く浸透し、文化的政治的な成長と中国化を促した。やがて中国を中心にして漢字文化を共有し、相互に密接な関係を有する東アジア世界が形成される。その文明の形成に大きな役割を果たした幾つかの事例を素材に、文献史学、更に近年新出の資料を美術史、考古学の立場から、中国古代史構造の基本問題とその考え方を探る。

準備学習(予習・復習)

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

内 容

- 第1回 中国文明を理解するためのキーワード総解説
- 第2回 夏文明の問題—考古と文献実証の間
- 第3回 夏文明と殷商文明—青銅器の発展の諸問題
- 第4回 春秋戦国時代の出土文献と文字出土資料
- 第5回 秦代中国統一の諸問題Ⅰ—万里長城の建設の意義
- 第6回 秦代中国統一の諸問題Ⅱ—皇帝陵墓の出現と陪葬俑
- 第7回 漢代の儒家思想とその文化Ⅰ
- 第8回 漢代の文物制度Ⅱ—蔵書と目録学の出現
- 第9回 漢代の思想と文化Ⅲ—考古資料からみる漢代の信仰
- 第10回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅰ—仏教の伝来と発展
- 第11回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅱ—漢訳仏教経典と寺院の成立及び伽藍配置の問題
- 第12回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅲ—漢字発展の諸問題
- 第13回 隋唐時代の文化Ⅰ—初唐・盛唐期の仏教文化
- 第14回 隋唐時代の文化Ⅱ—考古学資料からみる唐代の国際関係
- 第15回 内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないこと。場合によって、中国関係の遺物、博物館の所蔵品を見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講d(東アジア史Ⅳ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

授業の到達目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の概要

仏教美術史を研究するために、その前提となる素材と史料について、その見方や調査方法を身につける。

準備学習(予習・復習)

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

内 容

- 第1回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第2回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第3回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第4回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第5回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第6回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
- 第7回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
- 第8回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第9回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第10回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第11回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察(キジル石窟、敦煌石窟)
- 第12回 敦煌莫高窟からみる仏教美術の諸問題
- 第13回 河西地域からみる漢民族化仏教芸術の諸問題
- 第14回 雲岡石窟・龍門石窟からみる仏教造像の様式
- 第15回 内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講e(中央・西アジア史 I)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

ユーラシアにおけるテュルク・モンゴルの歴史

授業の到達目標

ユーラシア大陸に興起したテュルク・モンゴル系遊牧民国家の足跡を紹介し、彼らの世界史上に果たした役割を考察する。

授業の概要

遊牧民は、定住民が主役の座を占める現代世界においては社会の隅に追いやられたような扱いを受け、高校の教科書などでもごく軽く扱われるにとどまり、その歴史的役割に対して十分な位置づけがなされていない。だが、大陸東方からざっと見渡しても、匈奴・鮮卑・柔然・突厥・ウイグル・契丹・カルルク・ハザル・ガズナ朝・カラハン朝・セルジューク朝・大モンゴル帝国とその後継勢力・ティムール朝・ムガル朝・サファヴィー朝・オスマン朝といった具合にテュルク・モンゴル系の人びとが築いた国家の版図はユーラシアの大部分を占めている。この授業ではかれらの歴史を通史的ではなくトピックごとにとりあげ、ときには関連論文の紹介もしつつ、世界市場に果たしたテュルク・モンゴル国家の役割を考察する。各回の予定は以下の通りだが、必ずこの通りに講義が進むとは限らない。

準備学習(予習・復習)

関連図書は授業中に適宜指示する。

内 容

- 第1回 ユーラシアの歴史とは――ヨーロッパ中心史観からの脱皮 その1
- 第2回 ユーラシアの歴史とは――ヨーロッパ中心史観からの脱皮 その2
- 第3回 テュルク・モンゴル諸族の分布
- 第4回 匈奴の国家組織
- 第5回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その1
- 第6回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その2
- 第7回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その4
- 第8回 ウイグルと唐
- 第9回 ウイグルとソグド人
- 第10回 西ウイグル王国と仏教
- 第11回 モンゴルの興起――チンギス・カンの征服活動
- 第12回 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その1
- 第13回 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その2
- 第14回 ティムールとティムール朝の文化
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (50)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講f(中央・西アジア史Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

中央ユーラシアの諸宗教

授業の到達目標

中央ユーラシアの歴史に多大な影響を与えた宗教をとり上げて、各宗教の成立と伝播およびその教義について考える。

授業の概要

以下にあげる各回の内容はあくまで目安・予定であり、毎回このとおりに進むとは限らない。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 インド・イランの宗教とゾロアスター教—その1
- 第2回 インド・イランの宗教とゾロアスター教—その2
- 第3回 ゾロアスター教とユダヤ教
- 第4回 インドを出た仏教—ガンダーラとクシャーナ朝
- 第5回 インドを出た仏教—中央アジア(その1)
- 第6回 インドを出た仏教—中央アジア(その2)
- 第7回 キリスト教東方教会(ネストリウス派)—イランとソグド
- 第8回 キリスト教東方教会(ネストリウス派)—テュルクと中国
- 第9回 マニ教の成立と伝播
- 第10回 マニ教とテュルク人
- 第11回 テュルク人のイスラム化—その1
- 第12回 テュルク人のイスラム化—その2
- 第13回 モンゴル人の宗教—シャマニズム
- 第14回 モンゴル帝国とキリスト教・仏教・イスラム—その1
- 第15回 モンゴル帝国とキリスト教・仏教・イスラム—その2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (50%)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講g(中央・西アジア史Ⅲ)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史 I

授業の到達目標

エジプト古代王朝史の前半の流れを知り、古い異文化に対する理解を深める

授業の概要

古代エジプト文明の特色は、約三千年の長きにわたりオリエント世界で重要な役割を担った点に最もよく見出せる。授業では、その文明を生み出す土台となった風土をはじめとし、国家統一へと向かう先王朝時代、国家の基礎が形成される初期王朝時代、壮大なピラミッドの造営事業を成し遂げた古王国時代、そして、文化の爛熟期である中王国時代にいたる王朝史を辿る(それに続く王朝史後半は後期の世界史特講hで扱う)。またそれと並行して、古代エジプト史を理解する上で必要となる基礎事項を随時、解説する。なお、古代エジプト史に関しては、文字史料と共に、考古遺物や遺跡が重要な意味を持つため、できる限り映像教材を用いて具体例を示しつつ授業を進める予定である。

準備学習(予習・復習)

古代エジプト人たちの残した遺跡や遺物、また記録が王朝史を解明する原点であることは言うまでもない。最近では、それらの文化遺産の多くが書物だけにとどまらず、様々な形で紹介されているので、それらも積極的に利用することが望ましい。『古代エジプト文明と遺跡(全17巻)』:早稲田大学・古代エジプト調査室製作のビデオ(本学AVセンター収蔵)など。

内 容

- 第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)
- 第2回 自然環境と地理的背景:ナイルの恵み
- 第3回 先王朝時代:農耕の始まり
- 第4回 原王朝時代:農耕社会の成長
- 第5回 国家統一へ:ナルメル王のパレットを読む
- 第6回 初期王朝時代:国家基盤の形成
- 第7回 古王国時代:ピラミッドの出現/王権の確立
- 第8回 古王国時代:国家の発展
- 第9回 古王国時代:ギザの三大ピラミッド
- 第10回 古王国時代:ピラミッド建造の背景
- 第11回 古王国時代:繁栄の終焉
- 第12回 第一中間期:統一の崩壊/社会の変革
- 第13回 中王国時代:文化の熟成/古典の形成
- 第14回 総括(映像資料観賞)
- 第15回 総括(映像資料観賞/レポート提出を含む)

履修上の注意点

教科書

随時、コピーで配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の歴史1・人類の起源と古代オリエント

著者: 尾形禎亮他

出版社: 中央公論社

出版年: 1998

ISBN:

エジプト王国三千年

著者: 吉成薫

出版社: 講談社選書メチエ

出版年: 2000

ISBN:



ファラオ歴代誌

著者： ピーター・クレイトン

出版社： 創元社

出版年： 1999

ISBN:

古代オリエント辞典

著者： 日本オリエント学会編

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN:

古代エジプト入門

著者： 内田杉彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2007

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 85 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講h(中央・西アジア史Ⅳ)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史Ⅱ

授業の到達目標

エジプト古代王朝史の後半の流れを知り、古い異文化に対する理解を深める

授業の概要

前期の世界史特講gに引き続き、国家の統一が再び崩壊する第二中間期を契機として、輝かしい繁栄が再来する新王国時代、さらには衰退へと向かう末期王朝時代までの古代エジプト王朝史の後半を辿る。さらに、アレクサンダー大王によるエジプト征服や女王クレオパトラ(7世)に代表されるプトレマイオス王朝を概観する。なお、トメス一族やハトシェプスウト女王、異端王アクエンアテン、ツタンカーメン王ならびにラメセス大王(2世)が生きた時代として知られる新王国時代が講義の中心となる(授業の進め方は世界史特講gに同じ)。

準備学習(予習・復習)

古代オリエント史に関連する研究成果を掲載している雑誌や論集に目を通すことも大切である。主なものとしては尾形禎亮他／岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』、日本オリエント学会・編集発行の研究雑誌『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研究』など。

内 容

- 第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)
- 第2回 王朝史前半を振り返る／大民族移動の嵐
- 第3回 第二中間期:異民族ヒクソスの支配
- 第4回 第二中間期:エジプト解放戦争
- 第5回 第二中間期:再統一と武力外交
- 第6回 新王国時代:ハトシェプスウト女王1
- 第7回 新王国時代:ハトシェプスウト女王2
- 第8回 新王国時代:トメス3世の侵略戦争
- 第9回 新王国時代:アメンヘテプ3世と帝国の栄華
- 第10回 新王国時代:アマルナ宗教改革の断行
- 第11回 新王国時代:ツタンカーメン王の生涯
- 第12回 新王国時代:ラメセス2世の奮闘・栄光の終焉
- 第13回 末期王朝～ギリシア・ローマ時代:新時代の幕開け・アレクサンダー大王の到来
- 第14回 総括(映像資料観賞)
- 第15回 総括(映像資料観賞・レポート提出を含む)

履修上の注意点

教科書

随時、コピーで配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

岩波講座・世界歴史2

著者: 尾形禎亮他

出版社: 岩波書店

出版年: 1998

ISBN:

古代オリエント辞典

著者: 日本オリエント学会編

出版社: 岩波書店

出版年: 2004

ISBN:

大英博物館・古代エジプト百科事典

著者： イアン・ショー他

出版社： 原書房

出版年： 1997

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 85 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講i(ヨーロッパ・アメリカ史 I)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 南直人

テーマ

「食」という視点からみたヨーロッパの歴史

授業の到達目標

ヨーロッパの歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。

授業の概要

食の歴史の意義についての一般的な考察から具体的な内容へと展開していく。古代から現代まで幅広く考察するが、食料供給から消費までできるだけ具体的なテーマに沿って授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 ヨーロッパの食文化の特質(1)
- 第3回 ヨーロッパの食文化の特質(2)
- 第4回 西洋古代の食の歴史
- 第5回 西洋中世の食の歴史
- 第6回 西洋近世の食の歴史(1)
- 第7回 西洋近世の食の歴史(2)
- 第8回 西洋近代の食の歴史(1)
- 第9回 西洋近代の食の歴史(2)
- 第10回 西洋近代の食の歴史(3)
- 第11回 西洋近代の食の歴史(4)
- 第12回 西洋現代の食の歴史(1)
- 第13回 西洋現代の食の歴史(2)
- 第14回 西洋現代の食の歴史(3)
- 第15回 まとめ・総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

〈食〉から読み解くドイツ近代史

著者: 南直人

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015年

ISBN:

世界の食文化⑩ドイツ

著者: 南直人

出版社: 農文協

出版年: 2003年

ISBN: 978-4540032202

ヨーロッパの食文化

著者: マッシモ・モンタナーリ

出版社: 平凡社

出版年: 1999年

ISBN: 978-4582476354

食の歴史(全3巻)

著者: フランドラン/モンタナリ

出版社: 藤原書店

出版年: 2006年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 0 )

参加度 ( 30 )

小テストを行います但不受験への救済措置はありません。

---

## 2017 Syllabus

科目名 世界史特講J(ヨーロッパ・アメリカ史Ⅱ)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 南直人

テーマ

「食」の視点からみたヨーロッパ史

授業の到達目標

ヨーロッパの歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。

授業の概要

食の歴史の意義についての一般的な考察から具体的な内容へと展開していくが、特にこの授業では、16世紀以降のヨーロッパの食の歴史をグローバルに見ていく。

準備学習(予習・復習)

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 ヨーロッパの食文化の特質
- 第3回 香辛料の世界史的役割(1)
- 第4回 香辛料の世界史的役割(2)
- 第5回 「コロンブスの交換」(1)
- 第6回 「コロンブスの交換」(2)
- 第7回 「コロンブスの交換」(3)
- 第8回 ジャガイモとトウモロコシ
- 第9回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配(1)
- 第10回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配(2)
- 第11回 工業化による食の変化(1)
- 第12回 工業化による食の変化(2)
- 第13回 都市化による食の変化(1)
- 第14回 都市化による食の変化(2)
- 第15回 まとめ・総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

&lt;食&gt;から読み解くドイツ近代史

著者: 南直人

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015

ISBN:

世界の食文化(シリーズ)

著者: 石毛直道監修

出版社: 農文協

出版年: 2003~2008

ISBN:

食の歴史

著者: フランドラン/モンタナーリ

出版社: 藤原書店

出版年: 2006年

ISBN:

成績評価

a10302g050

試験・レポート（0）

授業中課題（10）

参加度（30）

小テストを行います但不受験への救済措置はありません。

---

小テスト（60）

授業中発表等（）

## 2017 Syllabus

科目名 文化史・文化交流史 I &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 永井 和

テーマ

日本登山史

授業の到達目標

登山という文化が、時間とともにどのような変遷をたどったかを理解する。とくに前近代と近代との間にみられる連続性と断絶性について、登山という具体例に即して理解を深める。

授業の概要

2016年から8月11日が「山の日」として祝日となった。これを機に、登山という文化的行為が、日本においてどのような展開をとげたのかを概説する。信仰の対象であった山岳に修行の場を求めて、修行僧が全国の高山・深山にわけいった古代・中世からはじめ、信仰登山が大衆化した近世、登山と信仰が分離し、アルピニズムの思想が定着する近代にいたる歴史の変遷を、前衛化と大衆化の二つの軸をたてて、概観する。

準備学習(予習・復習)

とくになし。

内 容

- 第1回 なぜ登山史なのか。
- 第2回 映画「劔岳 点の記」の語るもの
- 第3回 登山における前衛性と大衆性
- 第4回 山岳信仰と信仰登山
- 第5回 勝道上人はなぜ日光男体山に登ったのか
- 第6回 修験道の成立
- 第7回 平安・鎌倉期の霊山・霊場
- 第8回 小テスト、信仰登山の聖地・金峯山
- 第9回 西行法師の大峰修行
- 第10回 藤原道長の金峯山参拝
- 第11回 中世の富士登山
- 第12回 近世の富士講
- 第13回 女性の富士登山
- 第14回 近代登山のはじまり
- 第15回 近代登山の展開、小テスト

履修上の注意点

やむをえない事情で欠席する場合は、所定の欠席届を提出すること。授業で使用したスライドは、授業終了後にダウンロードできるようにするので、復習に活用してほしい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本登山史・新稿

著者: 山崎安治

出版社: 白水社

出版年: 1986

ISBN: 4560031142

目で見ると日本登山史

著者: 山と溪谷社編

出版社: 山と溪谷社

出版年: 2005

ISBN: 4635178145



明解日本登山史

著者： 布川欣一

出版社： 山と溪谷社

出版年： 2015

ISBN: 9.78464E+12

役行者と修験道の歴史

著者： 宮家 準

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2000

ISBN: 4642054987

修験道

著者： 宮家 準

出版社： 講談社学術文庫

出版年： 2001

ISBN: 4061594834

山岳信仰

著者： 鈴木正崇

出版社： 中公新書

出版年： 2015

ISBN: 4121023102

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

学期中に2回小テストを実施する。必ず受験すること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 文化史・文化交流史Ⅱ〈Z〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鷲田 睦朗

テーマ

ヨーロッパとキリスト教文化

授業の到達目標

ヨーロッパの基層文化を形成しているキリスト教とその文化的側面についての知見を深めることで、異文化社会の理解を進めること。また、カルトなどの影響で敬遠されがちな宗教について「正しく」知ること、適切な対応能力を養う端緒としたい。

授業の概要

毎回、プリントを配布して、それに即して講義を実施します。

準備学習(予習・復習)

配布プリントの確認

内 容

- 第1回 オリエンテーション キリスト教・キリスト教文化について学ぶ意味
- 第2回 現在のキリスト教の概観
- 第3回 キリスト教の歴史(1)——前史から迫害の時代まで——
- 第4回 キリスト教の歴史(2)——ローマ帝国による公認、国教化——
- 第5回 キリスト教の歴史(3)——東西分裂と教皇権の確立——
- 第6回 キリスト教の歴史(4)——修道制の展開——
- 第7回 キリスト教の歴史(5)——教権と俗権とのせめぎあい——
- 第8回 キリスト教の歴史(6)——十字軍——
- 第9回 キリスト教の歴史(7)——レコンキスタと異端審問——
- 第10回 中世文化とルネッサンス
- 第11回 キリスト教の歴史(8)——異端と宗教改革——
- 第12回 キリスト教の歴史(9)——宗教改革と対抗宗教改革——
- 第13回 ワインとキリスト教が出会うまで
- 第14回 総括、理解度の確認
- 第15回 講評

履修上の注意点

教科書

最新世界史図説タペストリー十五訂版

著者： 川北稔・桃木至朗編

出版社： 帝国書院

出版年： 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (10)

毎回の講義後にコメント用紙を配布し、それへの記述を平常点とする。14回目に授業内試験を行い、15回目に返却しそれに基づき講評を行う。

## 2017 Syllabus

科目名 自然地理学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松本 太

テーマ

自然環境と人間との関係を考える。

授業の到達目標

自然地理学の立場から、気圏、地圏、水圏の環境に関する基本的な知識の習得し、それらと人間活動との関係を理解すること。

授業の概要

授業では、自然環境の地理的な相違を気候、水文、地形の側面からとらえ、それらと人間活動とのかかわりを、種々の自然災害や環境問題を交え講義する。前半で気候学、後半で地形学を中心に扱う。適宜プリントを配布し、それに沿って講義を進める。進捗状況により、講義内容を変更することがある。

準備学習(予習・復習)

講義内容の理解を深めるために、配布したプリントなどを参考に復習すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大気圏の区分と構造
- 第3回 地球の熱収支と気候のなりたち
- 第4回 世界の気候と人間生活
- 第5回 大気現象と季節(風、雲、雨、低気圧、前線、気団)
- 第6回 日本の気候と人間生活
- 第7回 異常気象と地球温暖化
- 第8回 地球のなりたち
- 第9回 大地形の形成(大陸、海洋、山脈など)
- 第10回 プレートテクトニクス理論
- 第11回 小地形の形成(河川、海岸など)
- 第12回 地形図の読み方と利用
- 第13回 地形図から見た自然環境
- 第14回 地形と人間生活
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがある。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (70%)

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ( )

参加度 (10%)

## 2017 Syllabus

科目名 地誌

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 和子

テーマ

『地誌』を読もう。書かれた地域と筆者の地域について知ろう。“地誌”って実は二度オイシイ！！

授業の到達目標

日本を含め世界の古典的な「地誌(書)」を取り上げ、「人類はなぜ地誌を書くのか」「地域を描写する」ということの基本について考える。後半は、さまざまな“地域”に注目した地誌を中心に取り上げ、あわせて身近な地域の文化・社会を読み取る力をつけることを目標とする。

授業の概要

基本的に配布プリントを資料にして授業を進めるが、一部パワーポイントも使用。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション:“地誌書”が世界を変える?“ジバング”良いトコ、一度はおいで!?『東方見聞録』と“ワークワーグ”
- 第2回 自国地誌と外国地誌 —『魏志倭人伝』と『風土記』、さて、どっちが正しい日本の姿?
- 第3回 外国人からみた日本:イザベラ・バードの見た日本
- 第4回 日本人のみた外国1:河口慧海とチベット社会と日本の社会
- 第5回 地誌が書かれるのはどんな時?—『風土記』から『日本地誌提要』と『皇国地誌』まで
- 第6回 地誌が読まれるのはどんな時?—明治人がハマった『輿地誌略』
- 第7回 日本人のみた外国2:小田 実『何でも見てやろう』と沢木耕太郎『深夜特急』
- 第8回 ガイドブックと戦争—ミシュランは地誌?
- 第9回 あなたの一番読みたい「地誌」は?
- 第10回 『おくのほそ道』:日本の“奥”ってどこ?
- 第11回 都市の機能と地誌書にみる地域のイメージ
- 第12回 農林漁業集落・都市近郊・中山間地域の地誌
- 第13回 過疎地の地誌:過疎地=イナカと思いませんか?
- 第14回 京都の地誌:京都ってどんなところ?
- 第15回 山科の地誌:山科ってどんなところ?

履修上の注意点

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。また、山科という地域について意識を向ける習慣をつけるように希望します。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(40)

小テスト( )

授業中課題(10)

授業中発表等( )

参加度(50)

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来など既往の研究をまとめるだけでなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

## 2017 Syllabus

科目名 人文地理学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

人文地理学とはどんな学問なのか。何に関心を持ち、どのような方法でアプローチするのか。

授業の到達目標

地域、空間、地図といった地理学のキーコンセプトを具体的な素材をとおして学び、地理学を学ぶと何がわかるのか、どんなことの役に立つのかということを知る。

授業の概要

受講学生をグループ分けし、教科書を順番に輪読する形で授業を進める。大きなゼミのようなものだと考えてください。

準備学習(予習・復習)

予習、復習を中心に教科書などを参考に積極的に取り組んでください。

内 容

- 第1回 授業の進め方。グループ分け等を行う。
- 第2回 地域への地理学のまなざし①
- 第3回 地域への地理学のまなざし②
- 第4回 地域への地理学のまなざし③
- 第5回 経済活動を空間的に読み解く①
- 第6回 経済活動を空間的に読み解く②
- 第7回 経済活動を空間的に読み解く③
- 第8回 経済活動を空間的に読み解く④
- 第9回 地理学が映し出す想像力の世界①
- 第10回 地理学が映し出す想像力の世界②
- 第11回 地理学が映し出す想像力の世界③
- 第12回 地理学が映し出す想像力の世界④
- 第13回 過去と現在を繋ぐ地図①
- 第14回 過去と現在を繋ぐ地図②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

人文地理学への招待

著者： 竹中克行他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (30)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

小テストならびに課題提出は随時行うが、そのすべてが評価の対象となる。

## 2017 Syllabus

科目名 外書研究a

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 井上 徳子

テーマ

古代から中世にかけての中国の歴史を扱った中国語テキストの講読

授業の到達目標

中国語の辞書を自由にひくことができる。中国史に関連する中国語テキストを正しく読むことができる。中国語テキストを読むさいに必要な歴史的知識を自分で調べることができる。中国語テキストで読んでいる時代について正しく理解できる。

授業の概要

初回は井上が講義を行うが、第2回目以降は、テキスト本文を受講者が順番に日本語訳し、井上が必要に応じて訂正・補足を行う。原則として毎回全員が訳読を分担する。その際、中国音による発音は課さない。これは、決して発音を軽視するわけではなく、限られた時間を最大限、この授業の主眼である読解力の養成や内容の理解に充当するためである。また、テキストを読み進めるなかで、当該時期における中国の政治・制度、周辺地域の動向などを調べる課題が課される。正確な中国文の翻訳を土台として、歴史・歴史学についての知識、認識を深めるためである。

準備学習(予習・復習)

まず受講者は、テキストについて必ず予習をする。授業後は、次回進む内容が理解しやすくなるよう、今回進んだ内容に目を通す。また、授業で扱われている時代や人物などに関する文章を積極的に読み、常日頃から知識の習得に心がける。

内 容

第1回 授業の進め方、予習の仕方などについてのガイダンス

第2回 中国語テキストの講読・内容理解

第3回 中国語テキストの講読・内容理解

第4回 中国語テキストの講読・内容理解

第5回 中国語テキストの講読・内容理解

第6回 中国語テキストの講読・内容理解

第7回 中国語テキストの講読・内容理解

第8回 中国語テキストの講読・内容理解

第9回 中国語テキストの講読・内容理解

第10回 中国語テキストの講読・内容理解

第11回 中国語テキストの講読・内容理解

第12回 中国語テキストの講読・内容理解

第13回 中国語テキストの講読・内容理解

第14回 中国語テキストの講読・内容理解

第15回 中国語テキストの講読・内容理解

履修上の注意点

携帯・スマートフォンの電源を切る。授業中に辞書が引けるよう、図書館の辞書の一時貸し出しでもよいので、辞書を用意する。

教科書

プリントして配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業にて随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 外書研究b &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 森本 慶太	

テーマ

歴史学に関する英語文献の講読

授業の到達目標

(1) 欧米近現代史の基本的知識を習得できる。(2) 英語で歴史に関する研究文献を読解でき、そこで得られた情報を要約できる。(3) 歴史学の方法にしたがい、文献や史料を解釈・論評できる。

授業の概要

欧米の近現代史を扱ったイギリスの歴史教科書(Collins Key Stage 3 History)を講読する。テキストは事前にコピーを配付する。授業では受講生全員が予習していることを前提に、訳出の担当者を無作為に指名する。受講生には、一定量の英文の訳出と内容の歴史的背景の説明を求め、それを受けて教員が解説する。なお、受講生の人数やテキストの内容を考慮して、グループ発表の形式を採用する場合がある。

準備学習(予習・復習)

毎回の授業時に、次回に読み進める範囲を指定するので、予習として必ず日本語訳を作成しておくこと。テキストに関連する歴史的背景も必ず調べておくこと。予習に際しては、前回の授業内容を踏まえる必要があるため、復習が不可欠である。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方・成績評価方法の説明)、テキストの配付、テキストの概要説明
- 第2回 テキストの講読①
- 第3回 テキストの講読②
- 第4回 テキストの講読③
- 第5回 テキストの講読④
- 第6回 テキストの講読⑤
- 第7回 テキストの講読⑥
- 第8回 小テストと授業前半のまとめ
- 第9回 テキストの講読⑦
- 第10回 テキストの講読⑧
- 第11回 テキストの講読⑨
- 第12回 テキストの講読⑩
- 第13回 テキストの講読⑪
- 第14回 テキストの講読⑫
- 第15回 小テストと授業全体のまとめ

履修上の注意点

この授業では3分の2以上の出席が原則である。なお、授業時の読解では毎回担当者を無作為に指名するが、予習が不十分である場合は欠席扱いとするので注意すること。授業時の携帯電話の使用や無断での途中退室に対しては厳格に対処する。歴史的事実を踏まえた正確な訳文作成のためには、英和辞典だけでなく、歴史事典や概説書など歴史学の参考書の使用が不可欠である。

教科書

授業時に配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

人文学への接近法—西洋史を学ぶ—

著者: 服部良久他編

出版社: 京都大学学術出版会

出版年: 2010

ISBN: 9.78488E+12

角川世界史辞典

著者: 西川正雄他編

出版社: 角川書店

出版年: 2001

ISBN: 9.78404E+12

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 15 )

参加度 ( 15 )

小テスト ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 外書研究b &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 永井 和	
テーマ	
アメリカの大学で使われている世界史(グローバル・ヒストリー)の教科書を読む。	
授業の到達目標	
・時間はかかってもいいから、辞書を引きながら英語で書かれた世界史の教科書を読みとおす力をつける。・世界史のさまざまな事象が、英語ではどのように表現されているのかを知る。今や英語での表現がグローバル・スタンダードになりつつあるからである。・グローバル・ヒストリーとよばれる新しい歴史学の傾向にふれてみる。	
授業の概要	
アメリカの多くの大学で使用されている世界史の教科書 The Earth and Its Peoples:A global history を輪読する。ただし、原書は大部のものなので、その一部を選んでテキストとする。テキストは事前にコピーを配付する。授業では、毎回輪読する箇所の分担を決め、定量の英文を訳し、それを受けて教員が訳の問題点と内容を解説する。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、次回の授業で読み進める範囲を指定するので、予習として必ず日本語訳を作成してくること。正確な訳文作成のためには、前の授業の内容を復習することが不可欠となる	
内 容	
第1回	イントロダクション:授業の進め方の説明とテキスト配付、テキストの内容に関する解説
第2回	テキストの読解①
第3回	テキストの読解②
第4回	テキストの読解③
第5回	テキストの読解④
第6回	テキストの読解⑤
第7回	テキストの読解⑥
第8回	小テストとこれまでのまとめと復習
第9回	テキストの読解⑦
第10回	テキストの読解⑧
第11回	テキストの読解⑨
第12回	テキストの読解⑩
第13回	テキストの読解⑪
第14回	テキストの読解⑫
第15回	小テストとこれまでのまとめと復習
履修上の注意点	
予習が不十分な場合は、欠席扱いとすることがあるので、注意すること。授業時に担当があたっている場合の無断欠席には厳重に対処する。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 外書研究c

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

英文テキストを読む。

授業の到達目標

英文テキストを読み、その内容を知識情報として理解し吸収することをめざす。

授業の概要

イギリスの歴史教科書にあたるPenguin BooksのA History of BritainシリーズのBritain and the world 1789-1901を読む。英文は平易であるが、専門用語はしっかりと辞書で調べなければならないレベルである。これを、受講生で輪読し、担当教員が内容(フランス革命とイギリスの関係、ナポレオン戦争後のヨーロッパ世界とイギリス、第一次選挙法改正、奴隷制廃止論議など)について解説していく。受講生は、授業までに必ず、予め読解を進めておかななければならない。テキストについては、授業初めに印刷物を配布する。

準備学習(予習・復習)

テキスト全文をわかりやすい日本語の文章として書き出すこと。

内 容

- 第1回 テキスト内容の紹介
- 第2回 テキストの輪読1
- 第3回 テキストの輪読2
- 第4回 テキストの輪読3
- 第5回 テキストの輪読4
- 第6回 テキストの輪読5
- 第7回 テキストの輪読6
- 第8回 これまでの内容について解説、確認。小テスト。
- 第9回 テキストの輪読7
- 第10回 テキストの輪読8
- 第11回 テキストの輪読9
- 第12回 テキストの輪読10
- 第13回 テキストの輪読11
- 第14回 テキストの輪読12
- 第15回 これまでの内容について解説、確認。小テスト。

履修上の注意点

3分の1以上の欠席の場合、履修を認めない。遅刻をしないこと。

教科書

授業開始時に配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

イギリス近代史

著者: 村岡健次、川北稔

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

フランス近代史

著者: 服部春彦、谷川稔

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

小テスト ( 30 )

授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 外書研究d

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鷲田 睦朗

テーマ

英訳されたローマ史料・注釈の読解

授業の到達目標

史料集(参考書1)に所収された英訳古典史料とその注釈(比較的短いものが多い)の読解を通じて、当時の社会状況の一端に触れること。

授業の概要

学生に英文和訳を事前に作成して貰い、それに基づいて訳文の検討を行う。必要に応じて、当該時期の状況説明を行う。

準備学習(予習・復習)

英文和訳の作成、講義時間中の検討を踏まえての訳文の修正。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 史料翻訳の検討
- 第3回 史料翻訳の検討
- 第4回 史料翻訳の検討
- 第5回 史料翻訳の検討
- 第6回 史料翻訳の検討
- 第7回 史料翻訳の検討
- 第8回 史料翻訳の検討
- 第9回 史料翻訳の検討
- 第10回 史料翻訳の検討
- 第11回 史料翻訳の検討
- 第12回 史料翻訳の検討
- 第13回 史料翻訳の検討
- 第14回 史料翻訳の検討
- 第15回 総括

履修上の注意点

参考書3などを読んで、共和政期ローマについての基本的な事項を事前に把握しておくことが望ましい。

教科書

参考書

Rome and the Greek East to the Death of Augustus

著者: Sherk, Robert K

出版社: Cambridge UP

出版年: 1984

ISBN: 9.78052E+12

西洋古代史料集 第2版

著者: 古山正人 他 編訳

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2002

ISBN: 978-413022018-7

古代ローマを知る事典

著者: 長谷川岳男、樋脇博敏

出版社: 東京堂出版

出版年: 2004

ISBN: 978-4490106480

成績評価

試験・レポート (30)

授業中課題 (10)

小テスト ( )

授業中発表等 (40)

参加度（20）

事前に作成された英文和訳と講義内での検討への参加が平常点。学期末に各自で訂正した和訳の完成版をレポートとして提出。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 20世紀の日本と世界

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 永井 和	
テーマ	
日本近現代史概説	

## 授業の到達目標

この科目を受講し、学修目的を達成したとしても、とくに観察可能な具体的能力が身につくわけではない。ただ、現在の人類社会や日本社会が、どのような時間的な変遷をへて今にいたっているのか、巨視的な視点で眺めることができる、あるいはそのような視点が存在しうることを知るだけでも、大きな意義があると考えられる。さらにいえば、現代世界は多様であり、多元的であるが、同時に強い相互依存関係におかれており、同じひとつの世界を共有し、それゆえ同じひとつの歴史を共有する存在でもあることを認識できれば、さいわいである。

## 授業の概要

「現代史は世界史である」との学問的理念のもとに、日本の近現代の歴史を「世界史としての日本近現代史」という観点から概観する。この授業では、19世紀末から1945年の日本の敗戦までの日本の歩みを東アジアの国際関係の変容との相関関係の中であつづける。

## 準備学習(予習・復習)

予習の必要はありません。授業後にノートを整理しておくことが望ましい。授業で使用したスライドは授業後にポータルサイトからダウンロードできるので、復習に利用してほしい。

## 内 容

- 第1回 世界構造転換の時代としての近代
- 第2回 東アジアにおける近代帝国主義体制の成立
- 第3回 近代世界の内部秩序としての近代帝国主義体制
- 第4回 近代帝国主義体制の構造的特徴
- 第5回 宗主国と植民地
- 第6回 帝国日本の形成
- 第7回 帝国日本の植民地統治・小テスト
- 第8回 第1次世界大戦と東アジア
- 第9回 第1次世界大戦後の4つの反作用
- 第10回 二つの対外路線
- 第11回 満州事変・華北分離工作
- 第12回 日中全面戦争
- 第13回 日独伊三国同盟と南進政策
- 第14回 アジア太平洋戦争
- 第15回 ポツダム宣言受諾と日本占領・小テスト

## 履修上の注意点

教育実習やインターンシップや企業面接等で欠席する場合は、必ず欠席届を提出してください。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

大正デモクラシー・岩波新書シリーズ日本近現代史4

著者: 成田龍一

出版社: 岩波書店

出版年: 2007年

ISBN: 4004310458

満州事変から日中戦争へ・岩波新書シリーズ日本近現代史5

著者: 加藤陽子

出版社: 岩波書店

出版年: 2007年

ISBN: 4004310466

アジア・太平洋戦争・岩波新書シリーズ日本近現代史6

著者： 吉田裕

出版社： 岩波書店

出版年： 2007年

ISBN: 4004310474

占領と改革・岩波新書シリーズ日本近現代史7

著者： 雨宮昭一

出版社： 岩波書店

出版年： 2008年

ISBN: 4004310482

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

授業の途中で小テストを2回おこなう。成績評価に大きなウェイトを占めるので、必ず受験するように。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 出土文字資料論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 増淵 徹	
テーマ 出土文字資料から考える遺跡と歴史像	
授業の到達目標 出土文字資料の研究上の位置づけを理解するとともに、それらを適切に解釈し、そこからどのような歴史像を描くことができるかについての、基本的な方法論を理解することを目的とする。	
授業の概要 都宮跡・官衙遺跡(国府・郡家跡)・寺跡・荘園遺跡など多様な遺跡を対象に、墨書土器・木簡・刻書瓦などの出土文字資料がどのような情報を提示してくれるかという解説を中心に授業を進める。機会があれば、1回は資料館または遺跡の見学を行いたい。	
準備学習(予習・復習) 遺跡は、さまざまな材料を基に多面的に理解するものである。書籍や報告書だけでなく、遺跡を訪れたり、説明会に参加したりして、遺跡と文献史料の両方の視点から学ぶ姿勢を身につけてほしい。参考文献は適宜紹介する。	
内 容 第1回 歴史研究の素材としての出土文字資料の位置づけ 第2回 出土文字資料の素材と特性 第3回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(平城宮跡出土の墨書土器1) 第4回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(平城宮跡出土の墨書土器2と木簡) 第5回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(斎宮跡・平安京跡出土の文字資料) 第6回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(下野国府跡出土の木簡と墨書土器1) 第7回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(下野国府跡出土の木簡と墨書土器2) 第8回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(下野国府跡出土の木簡と墨書土器3) 第9回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(八幡林遺跡出土の木簡と墨書土器1) 第10回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(八幡林遺跡出土の木簡と墨書土器2) 第11回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(上野国分寺跡出土の文字瓦1) 第12回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(上野国分寺跡出土の文字瓦2) 第13回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(飯塚遺跡出土の木簡1) 第14回 出土文字資料からみた遺跡と歴史像(飯塚遺跡出土の木簡2) 第15回 出土文字資料から見える歴史の実像	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 漢字文化三千年 著者: 高田時雄 編 出版社: 臨川書店 出版年: 2009年 ISBN: 木簡から古代がみえる 著者: 木簡学会 編 出版社: 岩波新書 出版年: 2010年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート (60) 小テスト (0) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 (0) 参加度 (40)	



## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習 I &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 増淵 徹	
テーマ 日本古代史研究 I	
授業の到達目標 古代史を研究する上で基本的な史料の読解や研究方法を修得し、次年度の卒業研究に必要な能力の向上を目的とする。講読(古代史)とは異なる史料(主に『日本紀略』)を扱い、徹底的に史料を読むなかで、史料から課題を析出し時代像を構成していくための基礎的な力量の向上を図ることに主眼を置く。	
授業の概要 参加者各自に史料を割り当て、その読解レポートの報告を軸に授業を進める。参考文献は其中で適宜紹介する。なお、古代の遺跡や研究機関への見学(1回)、歴史学に関する講演会等(1回)を行う。夏休みには遺跡見学旅行を実施する。	
準備学習(予習・復習) 古代史に関する知識の量的拡充が何より重要であり、そのために可能な限りの多読を勧める。活字に親しもうとする意欲に欠くところのある学生は望まない。	
内 容 第1回 授業の進め方の解説。テキストの解説 第2回 図書館の活用及び論文検索の方法の解説。レポートの作成方法の解説。 第3回 史料の読解演習 第4回 文化遺産見学(学外授業) 第5回 個別発表(1) 第6回 個別発表(2) 第7回 個別発表(3) 第8回 個別発表(4) 第9回 個別発表(5) 第10回 個別発表(6) 第11回 個別発表(7) 第12回 個別発表(8) 第13回 個別発表(9) 第14回 個別発表(10) 第15回 後期演習への取り組みに関する指導 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。	
履修上の注意点 史料は漢文体であるので、自主的な学習会によって読解練習をしなければ追いつけない。	

## 教科書

国史大系『日本紀略』(該当部分)

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

## 参考書

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2013

ISBN:

『撰関政治』(岩波新書)

著者: 古瀬奈津子

出版社: 岩波書店

出版年: 2011

ISBN:

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史)

著者: 加藤友康(編)

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002

ISBN:

『摂関政治と地方社会』(日本古代の歴史5)

著者: 坂上康俊

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2015

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

充実したレポートの作成と報告ができるかどうかにより重点をおいて評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習 I &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 野田 泰三

テーマ

日本中世史上の諸問題

授業の到達目標

・日本中世史に関する基礎的な知識を有している・関心のあるテーマに関する先行研究を把握し、研究動向や水準を理解している・必要な史料を収集し、読解することができる

授業の概要

日本中世史に関わる史料・研究論文の講読や受講生による研究報告・討論を行う。日本史学が対象とするテーマは、近年、飛躍的に拡大している。政治過程を分析する政治史、荘園や村落・土地制度のあり方などを扱う社会経済史をはじめ、文化史、社会史など研究領域は多様化しており、分析素材も、古文書・古記録を中心に、絵画資料、考古資料、文学作品など様々なものを利用するようになってきている。3回生はまず各自の問題関心にしたがって先行研究や史料を収集・検討し、自分の研究テーマを見つけて欲しい。一方で、個別テーマの殻に閉じこもることなく、中世史研究の動向に広く目を向けて欲しい。中世社会の様相を理解することなく個別テーマを論じても意味がない。なお、必要に応じて学外見学や講演会を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

日本史・日本中世史に関する論文をどん欲に読むと同時に、史料の読解にも取り組むこと。また折に触れて現地見学や展覧会見学に出掛けて欲しい。

内 容

- 第1回 ガイダンス:授業の進め方、テキスト、報告順序
- 第2回 受講生による発表と討論(1)
- 第3回 受講生による発表と討論(2)
- 第4回 受講生による発表と討論(3)
- 第5回 受講生による発表と討論(4)
- 第6回 受講生による発表と討論(5)
- 第7回 受講生による発表と討論(6)
- 第8回 受講生による発表と討論(7)
- 第9回 受講生による発表と討論(8)
- 第10回 受講生による発表と討論(9)
- 第11回 受講生による発表と討論(10)
- 第12回 受講生による発表と討論(11)
- 第13回 受講生による発表と討論(12)
- 第14回 受講生による発表と討論(13)
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

・報告にあたっては時間を十分に使って徹底的に調べること。・全回参加を原則とする。・遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。また報告を無断で放棄した場合も成績評価の対象としない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度（50）

- ・自身の報告のみならず、他の受講生の報告の際にも積極的に発言することを求める。
-

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習 I &lt;\*c&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 尾下 成敏	
テーマ 日本近世史研究の諸問題	
授業の到達目標 研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深める。	
授業の概要 近世史の研究をになう研究者の著作を読み、16世紀後半から19世紀前半までの政治・社会に関する理解を深め、それにより、卒業論文のテーマを見つけることを目指す。また夏休みには、卒論作成と関わりそうな研究書・論文を熟読し、400字詰原稿用紙で19枚程度のレポートを作成してもらうことにする。なお、この授業では、学外の資料館・博物館を見学することがある。	
準備学習(予習・復習) 概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 ガイダンス 第3回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その1 第4回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その2 第5回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その3 第6回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その4 第7回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その5 第8回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その6 第9回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その7 第10回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その8 第11回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その9 第12回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その10 第13回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その11 第14回 近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その12 第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス	
履修上の注意点 欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。	
教科書 倉地克直 著者： 江戸の災害史 出版社： 中央公論新社 出版年： 2016年 ISBN: 村井章介 著者： シリーズ日本中世史 分裂から天下統一へ 出版社： 岩波書店 出版年： 2016年 ISBN:	
参考書 日本の時代史(13巻～19巻) 著者： 出版社： 吉川弘文館 出版年： 2003年 ISBN:	

全集日本の歴史(9巻～12巻・別巻)

著者:

出版社: 小学館

出版年: 2008年・2009年

ISBN:

日本の歴史(14巻～19巻)

著者:

出版社: 講談社学術文庫

出版年: 2009年・2010年

ISBN:

日本近世の歴史(全6巻)

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011年～2013年

ISBN:

シリーズ日本近世史(全5巻)

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 2015年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 35 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 15 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習 I &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

近世・近代移行期の日本史研究

授業の到達目標

研究をおこなうために必要な方法、技術、姿勢を修得し、また理解を深める。

授業の概要

日本の近世後期から近代初期(18～19世紀に相当)にかけてのさまざまな文献史料を読み、史料読解に必要な知識、理解、技術等の修得をめざす。受講生は担当した史料の逐語訳などをおこなうとともに、その史料からどのような歴史的背景を明らかにできるか、報告をしてもらう。場合によっては、英語史料を取り扱うこともある。夏休みには、卒業論文研究を意識し、関心のあるテーマについてのレポート作成を課する。なお、学修の状況に応じて、学外授業をおこなうこともある。

準備学習(予習・復習)

日本史に関する広い知識・理解が、自分の研究の可能性も広げていく。日頃から、概説書や新書、さらに専門書まで、幅広い読書を心がけてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の進め方その1)
- 第2回 ガイダンス(演習の進め方その2)
- 第3回 近世後期の文献読解
- 第4回 近世後期の文献読解
- 第5回 近世後期の文献読解
- 第6回 幕末期の文献読解
- 第7回 幕末期の文献読解
- 第8回 幕末期の文献読解
- 第9回 維新期の文献読解
- 第10回 維新期の文献読解
- 第11回 維新期の文献読解
- 第12回 明治前・中期の文献読解
- 第13回 明治前・中期の文献読解
- 第14回 明治前・中期の文献読解
- 第15回 まとめ、およびレポート作成についてのガイダンス

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。遅刻や欠席の場合は、事前に連絡(メールで可)をすること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本近世の歴史 開国前夜の世界

著者: 横山伊徳

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2013年

ISBN:

日本近世の歴史 明治維新

著者: 青山忠正

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2012年

ISBN:

シリーズ日本近世史 天下泰平の時代

著者： 高埜利彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2015年

ISBN:

シリーズ日本近世史 幕末から維新へ

著者： 藤田覚

出版社： 岩波書店

出版年： 2015年

ISBN:

日本近代の歴史 維新と開化

著者： 奥田晴樹

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

日本近代の歴史 「主権国家」成立の内と外

著者： 大日方純夫

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

日本近代の歴史 日清・日露戦争と帝国日本

著者： 飯塚一幸

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2016年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

日本古代史研究Ⅱ

授業の到達目標

演習Ⅰに続き、日本古代史を研究する上での史料読解・研究方法の習得と、そのための力量向上を目指す。演習Ⅰでの到達度をみながらではあるが、まずは平安期の日記史料の読解に進み、広く時代を研究するために多様な史料に対応できる能力の獲得を目指す。

授業の概要

前期に続き、参加者各人に課題を割り当て、それに関する報告レポートを軸に授業を進行させる。なお、歴史学に関する講演(1回)、文化遺産あるいは研究施設の見学(1回)を予定している。

準備学習(予習・復習)

自分の興味のある分野に関連する論文や著作を多数読むこと。

内 容

- 第1回 テキストの配布と授業進行方法の説明
- 第2回 後期における史料とレポート作成
- 第3回 文化遺産見学(学外授業)
- 第4回 個別発表(1)
- 第5回 個別発表(2)
- 第6回 個別発表(3)
- 第7回 個別発表(4)
- 第8回 個別発表(5)
- 第9回 個別発表(6)
- 第10回 個別発表(7)
- 第11回 個別発表(8)
- 第12回 個別発表(9)
- 第13回 個別発表(10)
- 第14回 個別発表(11)
- 第15回 卒業研究に向けての指導(まとめ)

履修上の注意点

テキストは基本的に漢文体であるので、自主的に学習会などを開いて読解練習をすることを勧める。

教科書

参考書

日本史演習Ⅰに同じ

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(70)

授業中発表等(0)

参加度(30)

充実したレポートの作成方法が身についているかに最重点をおいて評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ〈\*b〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 野田 泰三

テーマ

日本中世史上の諸問題

授業の到達目標

・日本中世史に関する基礎的な知識を有している・関心のあるテーマに関する先行研究を把握し、研究動向や水準を理解している  
 ・必要な史料を収集し、読解することができる

授業の概要

日本中世史に関わる史料・研究論文の講読や受講生による研究報告・討論を行う。日本史学が対象とするテーマは、近年、飛躍的に拡大している。政治過程を分析する政治史、荘園や村落・土地制度のあり方などを扱う社会経済史をはじめ、文化史、社会史など研究領域は多様化しており、分析素材も、古文書・古記録を中心に、絵画資料、考古資料、文学作品など様々なものを利用するようになってきている。3回生はまず各自の問題関心にしたがって先行研究や史料を収集・検討し、自分の研究テーマを見つけて欲しい。一方で、個別テーマの殻に閉じこもることなく、中世史研究の動向に広く目を向けて欲しい。中世社会の様相を理解することなく個別テーマを論じても意味がない。なお、必要に応じて学外見学や講演会を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

日本史・日本中世史に関する論文をどん欲に読むと同時に、史料の読解にも取り組むこと。また折に触れて現地見学や展覧会見学に出掛けて欲しい。

内 容

第1回 ガイダンス:授業の進め方、テキスト、報告順序

第2回 受講生による発表と討論(1)

第3回 受講生による発表と討論(2)

第4回 受講生による発表と討論(3)

第5回 受講生による発表と討論(4)

第6回 受講生による発表と討論(5)

第7回 受講生による発表と討論(6)

第8回 受講生による発表と討論(7)

第9回 受講生による発表と討論(8)

第10回 受講生による発表と討論(9)

第11回 受講生による発表と討論(10)

第12回 受講生による発表と討論(11)

第13回 受講生による発表と討論(12)

第14回 受講生による発表と討論(13)

第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

・報告にあたっては時間を十分に使って徹底的に調べること。・全回参加を原則とする。・遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。また報告を無断で放棄した場合も成績評価の対象としない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(50)

参加度(50)

参加度

- ・自身の報告のみならず、他の受講生の報告の際にも積極的に発言することを求める。
-

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ〈\*c〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深めるとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の概要

まずは各自が各自の卒論構想を発表し、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う(その際、1000字程度のレポートを作成すること)。つぎに論文を輪読し、論文の読み方や批判の仕方、史料の分析の仕方を会得して欲しいと思う。後期の最後には卒論に関わる史料(資料)を集めたデータベースを作成してもらう。なお、この授業では、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。多くの史料(資料)を丁寧に読むこと。

内 容

- 第1回 ガイダンスなど
- 第2回 論文の輪読、その1
- 第3回 4回生の卒業論文中間発表会への参加
- 第4回 論文の輪読、その2
- 第5回 論文の輪読、その3
- 第6回 論文の輪読、その4
- 第7回 論文の輪読、その5
- 第8回 卒論構想の報告、その1
- 第9回 卒論構想の報告、その2
- 第10回 卒論構想の報告、その3
- 第11回 卒論構想の報告、その4
- 第12回 卒論構想の報告、その5
- 第13回 史料の分析の仕方、その1
- 第14回 史料の分析の仕方、その2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 55 )

参加度 ( 15 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

近世・近代移行期の日本史研究

授業の到達目標

研究に必要な方法、技術、姿勢の理解・修得をめざすとともに、各自の卒業論文の研究テーマを探求する。

授業の概要

まずは卒業論文の研究テーマを探していくために、各自で、学術的興味・関心について報告をおこない、討論をおこなう。報告に際しては、その興味・関心にかかわる論文や専門書など、必ず参考文献を掲げたうえで、小レポートにしてまとめることを課す。また、受講生の学術的関心にそくした論文や、重要な文献史料について輪読をおこなう。学期末には、卒業論文の研究テーマに必要な参考文献および史料のリスト(データベース)作成を課する。なお、学修の状況に応じて、学外授業をおこなうこともある。

準備学習(予習・復習)

日本史に関する広い知識・理解が、自分の研究テーマの可能性も広げることになる。日頃から幅広い読書を心がけるとともに、研究に必要な文献の情報収集に努めること。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の進め方)
- 第2回 ガイダンス(卒業論文の研究の基本的な方法について)
- 第3回 4年生の卒論中間発表会への参加
- 第4回 卒論構想の報告
- 第5回 卒論構想の報告
- 第6回 卒論構想の報告
- 第7回 卒論構想の報告
- 第8回 文献(論文)の輪読
- 第9回 文献(論文)の輪読
- 第10回 文献(論文)の輪読
- 第11回 文献(基本的な史料)の輪読
- 第12回 文献(基本的な史料)の輪読
- 第13回 文献(基本的な史料)の輪読
- 第14回 史料の基本的な分析方法
- 第15回 まとめ、および参考文献リスト作成のアドバイス

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。遅刻や欠席の場合は、事前に連絡(メールで可)をすること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 日本史講読 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 淵原 智幸	
テーマ 『続日本紀』を読む	
授業の到達目標 奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を丁寧に読み込む。これにより古代史の基礎知識を修得するとともに、自ら問題を発見し・調べ・考え・発表する能力、つまりは研究能力の基礎を身につける。	
授業の概要 各自の担当範囲について、漢和辞典や歴史事典類はもちろん、関連史料や先行研究などまで調べた上で、レジメにまとめて報告してもらう。なお毎回、史料の読み下しを報告者以外の人に行ってもらおう。この読み下しも成績評価に大きく反映される。	
準備学習(予習・復習) 自分の担当回か否かを問わず、毎回あらかじめ史料を読んでおくこと。読み下し方を考えるのはもちろん、できるだけ内容についても調べておいてほしい。	
内 容 第1回 ガイダンス、分担の決定、報告例の提示と解説(1) 第2回 報告例の提示と解説(2)、関連史料・関連論文の調べ方 第3回 個別報告 第4回 個別報告 第5回 個別報告 第6回 個別報告 第7回 個別報告 第8回 個別報告 第9回 個別報告 第10回 個別報告 第11回 個別報告 第12回 個別報告 第13回 個別報告 第14回 個別報告 第15回 学外授業(前倒しして行う場合あり)	
履修上の注意点 ・レジメ作成にあたっては、必ず下記の参考書(新日本古典文学大系)を参照すること。ただし、単なる丸写しはせず、他の文献により内容の修正・追加を行った上で、できるだけ独自の考察を加えること。・15回中1回を学外授業にあてる予定。詳しい日時や内容は追って指示する。	
教科書 第1回の授業でコピーを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 新日本古典文学大系『続日本紀』 著者: 青木和夫ほか編 出版社: 岩波書店 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(0) 授業中発表等(50) 参加度(50) 「参加度」には出席率だけでなく、担当範囲以外の読み下しや質問・意見発表といった平常点が含まれる。	

## 2017 Syllabus

科目名 日本史講読 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野田 泰三	
テーマ 中世の日記を読む	
授業の到達目標 ・漢文史料の読解ができるようになる。・中世日記史料の読解法・調べ方を習得する。	
授業の概要 室町時代研究の必読文献である『満濟准后日記』を輪読する。授業は受講生が用意したレジュメをもとに進める。担当者は割り当てられた箇所について、読み下し文を作成した上で、人名や地名、語句の意味、背景、担当箇所の論点等をまとめ、発表する。なお、機会があれば学外見学を実施することがある。	
準備学習(予習・復習) ・報告担当者は十分に時間をかけて準備すること。国語辞典・漢和辞典や歴史辞典はもちろん、関連史料や先行研究なども調べる。・受講生は、自分の担当回か否かを問わず、あらかじめ史料を読んでおくこと。授業時、報告者以外の者に当てることがある。	
内 容 第1回 ガイダンス:授業の進め方、史料の調べ方、分担の決定 第2回 テキストに関する説明 第3回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第4回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第5回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第6回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第7回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第8回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第9回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第10回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第11回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第12回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第13回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第14回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 ・報告を無断で放棄した場合は成績評価の対象としない。・遅刻2回を欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合には成績評価の対象としない。	
教科書 プリントを配布する 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 授業中に適宜指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 20 ) 授業中発表等 ( 50 ) 参加度 ( 30 ) 参加度:授業への取り組み姿勢や発表・質問の積極性などを総合的に判断する。	

## 2017 Syllabus

科目名 日本史講読 I &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

近世の和様漢文に馴れる

授業の到達目標

近世の和様漢文に馴れ、近世の政治・社会・文化について理解を深める。

授業の概要

江戸時代の文献史料、なかでも和様漢文で記された文献史料(「当代記」など)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した逐語訳・事項解説の作成と報告。

準備学習(予習・復習)

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料などに慣れ親しんで欲しい。

内 容

第1回 ガイダンス・テキストに関する概説

第2回 テキストに関する概説

第3回 史料の講読、その1

第4回 史料の講読、その2

第5回 史料の講読、その3

第6回 史料の講読、その4

第7回 史料の講読、その5

第8回 史料の講読、その6

第9回 史料の講読、その7

第10回 史料の講読、その8

第11回 史料の講読、その9

第12回 史料の講読、その10

第13回 史料の講読、その11

第14回 史料の講読、その12

第15回 まとめ ※ なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 30 )

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。



## 2017 Syllabus

科目名 日本史講読 I &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

近世・近代移行期の諸史料を読む

授業の到達目標

近世・近代移行期の史料を原文で読む、つまり「くずし字」の読解能力の修得をめざす。あわせて、同時期の史料を読む上で必須の語句・文法などを理解する。

授業の概要

幕末・維新时期を中心に、18世紀から19世紀にかけての史料を原文で読むことにチャレンジする。受講生は、配布された史料のコピーを翻刻(活字にすること)し、意味を調べてくる必要がある。第8回に、史料読解の小テストを実施予定。また、第9回以降は、各自で担当する史料を決め、発表をおこなう。発表者は、史料から何が述べられるか、その歴史的背景について説明する。前期の最後には、史料にもとづいて歴史を説明するレポートを課す。なお、学修の状況に応じて、学外授業をおこなうこともある。

準備学習(予習・復習)

配布された史料について、受講生同士で相談しながらでもかまわないので、分からない字ができるだけ少なくなるよう、しっかりと予習することが重要である。また、分からなかった字については、復習を重ねて読めるようにすること。なお、日頃から博物館に行って展示された史料を読んでもみる、など史料に慣れるということを心がけてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス 史料を読むということ
- 第2回 ガイダンス くずし字史料の基礎について
- 第3回 史料の読解 その1
- 第4回 史料の読解 その2
- 第5回 史料の読解 その3
- 第6回 史料の読解 その4
- 第7回 史料の読解 その5
- 第8回 中間のまとめ(小テストあり)
- 第9回 史料から歴史を論じる発表 その1
- 第10回 史料から歴史を論じる発表 その2
- 第11回 史料から歴史を論じる発表 その3
- 第12回 史料から歴史を論じる発表 その4
- 第13回 史料から歴史を論じる発表 その5
- 第14回 まとめ 歴史学と史料
- 第15回 まとめ レポート作成のためのアドバイス等

履修上の注意点

毎回の予習が重要であり、予習なしに演習に出席しても、史料の読解能力の向上はあまり期待できない。毎回の予習と毎回の出席を心がけること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 淵原 智幸

テーマ

『日本書紀』を読む

授業の到達目標

7世紀以前の日本を考える上で最も基本的な文献史料『日本書紀』を丁寧に読み込む。これにより古代史の基礎知識を修得するとともに、自ら問題を発見し・調べ・考え・発表する能力、つまりは研究能力の基礎を身につける。

授業の概要

各自の担当範囲について、漢和辞典や歴史事典類はもちろん、関連史(資)料や先行研究などまで調べた上で、レジメにまとめて報告してもらう。なお毎回、史料の読み下しを報告者以外の人に行ってもらおう。この読み下しも成績評価に大きく反映される。

準備学習(予習・復習)

自分の担当回か否かを問わず、毎回あらかじめ史料を読んでおくこと。読み下し方を確認するのはもちろん、できるだけ内容についても調べておいてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、分担の決定
- 第2回 個別報告
- 第3回 個別報告
- 第4回 個別報告
- 第5回 個別報告
- 第6回 個別報告
- 第7回 個別報告
- 第8回 個別報告
- 第9回 個別報告
- 第10回 個別報告
- 第11回 個別報告
- 第12回 個別報告
- 第13回 個別報告
- 第14回 個別報告
- 第15回 学外授業(前倒しして行う場合あり)

履修上の注意点

・『日本書紀』<5>(下記テキスト欄を参照)の注や補注にある内容は、改めてレジメに書かなくともよい。ただし『日本書紀』<1~4>(下記の参考書欄を参照)の注や補注をみる必要がある場合は、必ずレジメに写しておくこと。・もちろん、その上で他の文献も参照し、内容の修正や追加を行うこと。さらに、できるだけ独自の考察も付け加えること。・15回中1回を学外授業にあてる予定。詳しい日時や内容は追って指示する。

教科書

『日本書紀』&lt;5&gt;

著者: 坂本太郎他校注

出版社: 岩波文庫

出版年:

ISBN:

参考書

『日本書紀』&lt;1~4&gt;

著者: 坂本太郎他校注

出版社: 岩波文庫

出版年:

ISBN:

新編日本古典文学全集『日本書紀』

著者: 小島憲之他校注

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

成績評価

a10303a450

試験・レポート（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（50）

参加度（50）

「参加度」には出席率だけでなく、担当範囲以外の読み下しや質問・意見発表といった平常点が含まれる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野田 泰三	
テーマ 中世の古文書を読む	
授業の到達目標 ・漢文史料の読解ができるようになる。・中世古文書の読解法・調べ方を習得する。	
授業の概要 『戦国遺文』や『中世法制史料集』『中世政治社会思想』(岩波書店)等をテキストとして、社会慣行や習俗など中世社会の在り方がうかがえる史料を輪読する。授業は受講生が用意したレジュメをもとに進める。担当者は割り当てられた箇所について、読み下し文を作成した上で、人名や地名、語句の意味、背景、担当箇所の論点等をまとめ、発表する。なお、機会があれば学外見学を実施することがある。	
準備学習(予習・復習) ・報告担当者は十分に時間をかけて準備すること。国語辞典・漢和辞典や歴史辞典はもちろん、関連史料や先行研究なども調べる。・受講生は、自分の担当回か否かを問わず、あらかじめ史料を読んでおくこと。授業時、報告者以外の者に当てることがある。	
内 容 第1回 ガイダンス:授業の進め方、史料の調べ方、分担の決定 第2回 テキストに関する説明 第3回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第4回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第5回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第6回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第7回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第8回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第9回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第10回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第11回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第12回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第13回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第14回 史料講読(受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説) 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 ・報告を無断で放棄した場合は成績評価の対象としない。・遅刻2回を欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合には成績評価の対象としない。	
教科書 プリントを配布する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業中に適宜指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 20 ) 授業中発表等 ( 50 ) 参加度 ( 30 ) 参加度:授業への取り組み姿勢や発表・質問の積極性などを総合的に判断する。	

## 2017 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

近世の和様漢文に馴れる

授業の到達目標

近世の和様漢文に馴れ、近世の政治・社会・文化について理解を深める。

授業の概要

江戸時代の文献史料、なかでも和様漢文で記された文献史料(「御仕置裁許帳」など)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した逐語訳・事項解説の作成と報告。

準備学習(予習・復習)

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料などに慣れ親しんで欲しい。

内 容

第1回 ガイダンス・テキストに関する概説

第2回 テキストに関する概説

第3回 史料の講読、その1

第4回 史料の講読、その2

第5回 史料の講読、その3

第6回 史料の講読、その4

第7回 史料の講読、その5

第8回 史料の講読、その6

第9回 史料の講読、その7

第10回 史料の講読、その8

第11回 史料の講読、その9

第12回 史料の講読、その10

第13回 史料の講読、その11

第14回 史料の講読、その12

第15回 まとめ ※ なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 30 )

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

## 2017 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

近世・近代移行期の諸史料を読む

授業の到達目標

近世・近代移行期の史料を原文で読む、つまり「くずし字」の読解能力の修得をめざす。あわせて、同時期の史料を読む上で必須の語句・文法などを理解する。

授業の概要

幕末・維新时期を中心に、18世紀から19世紀にかけての史料を原文で読むことにチャレンジする。受講生は、配布された史料のコピーを翻刻(活字にすること)し、意味を調べてくる必要がある。第8回に、史料読解の小テストを実施予定。また、第9回以降は、各自で担当する史料を決め、発表をおこなう。発表者は、史料から何が述べられるか、その歴史的背景について説明する。前期の最後には、史料にもとづいて歴史を説明するレポートを課す。なお、受講生の学術的関心によっては、日本に関わる英語史料を取り扱う場合もある。また、学修の状況に応じて、学外授業をおこなうこともあり得る。

準備学習(予習・復習)

配布された史料について、受講生同士で相談しながらでもかまわないので、分からない字ができるだけ少なくなるよう、しっかりと予習することが重要である。また、分からなかった字については、復習を重ねて読めるようにすること。なお、日頃から博物館に行って展示された史料を読んでみる、など史料に慣れるということを心がけてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス 史料を読むということ
- 第2回 ガイダンス くずし字史料の基礎について
- 第3回 史料の読解 その1
- 第4回 史料の読解 その2
- 第5回 史料の読解 その3
- 第6回 史料の読解 その4
- 第7回 史料の読解 その5
- 第8回 中間のまとめ(小テストあり)
- 第9回 史料から歴史を論じる発表 その1
- 第10回 史料から歴史を論じる発表 その2
- 第11回 史料から歴史を論じる発表 その3
- 第12回 史料から歴史を論じる発表 その4
- 第13回 史料から歴史を論じる発表 その5
- 第14回 まとめ 歴史学と史料
- 第15回 まとめ レポート作成のためのアドバイス等

履修上の注意点

毎回の予習が重要であり、予習なしに演習に出席しても、史料の読解能力の向上はあまり期待できない。毎回の予習と毎回の出席を心がけること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習 I &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

専門論文の読み方を会得することを目標とする。また文献探索・収集の仕方も習得する。

授業の概要

前期は初めの3～4回分を使って中央アジア・西アジアの歴史に関する学術論文を選読し、歴史の専門論文とはいかなるものかを習得させる。専門論文を読む場合、内容全体はもとより一文一文をおろそかにせず徹底して精読する姿勢が要求される点で、通常の読書とは異なる。たとえ日本語の論文であろうと、その内容がほぼ理解できるとは限らないのである。読んでみても解らないとき、著者の論旨が把握し難いのか、それとも自分自身の知識不足ゆえに理解が及ばないからか、つまりどの点がどう解らないのかを明確に見定めることが肝要である。こうした点に留意しながら論文と言うものに慣れてもらおう。論文内容に関しては担当者を決めてその担当者が用意したレジュメにもとづき、出席者で疑問点を出し合い討議する。それ以降、最終の15回までは出席者各自の研究発表ないしみずから選んだ論文の紹介を行なう。ただし、学外者を招いて講演会を開くこともあり、また学外授業を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 基本的工具類の紹介説明――目録・入門書・地図等  
 第2回 文献を探す――具体的に文献の所蔵確認およびその検索方法につき説明する  
 第3回 選定した学術論文の内容解説  
 第4回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その1  
 第5回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その2  
 第6回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その3  
 第7回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その1  
 第8回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その2  
 第9回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その3  
 第10回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その4  
 第11回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その5  
 第12回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その6  
 第13回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その7  
 第14回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その8  
 第15回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その9 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習 I &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史に関する研究文献に基づく研究・報告

授業の到達目標

卒業論文執筆に向けて、各自が卒業研究のテーマを発見し、歴史に対する独自の視点を養い、また、文献検索の手法を習得することをめざす。

授業の概要

卒論作成に向けて必須のスキルとメソッドの獲得、テーマの設定、研究視点の多様性の認識を身につけるべく、2回の解説講義の後、指定論文の精読・分析を通じてテーマ・問題設定、内容展開について考える。以降は、各自が関心を持っている地域、時代(大まかな区分でかまわない)に関して、どのような歴史上の課題が設定できるかを念頭におきつつ、各自の関心に関わる研究論文をできるだけ広く収集し、精読し、4本の簡単な内容紹介と1本については詳細な内容紹介を行う。これらの学習を通じて、卒論のテーマのしぼり込みを行う。ゼミ生各自の一回目の報告が終了した時点で、おおよそのテーマ(関心対象となる事件、事象、もしくは地域、時代が)絞られてきていることが求められる。それに基づき、以降は、各自がテーマに沿った文献リストを作成し、簡単な研究動向を報告する。なお、西洋史研究に関する多様な視点を養うために、博物館・美術館の特別展の鑑賞に向く可能性もある。また、期間中に歴史学に関する講演会(1回)を行う可能性がある。

準備学習(予習・復習)

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析・整理する。

内 容

第1回 歴史研究とは何かについて。本ゼミの目的についての講義

第2回 図書館ガイダンスに基づく、専門文献の検索の手法ならびに入手法についての説明

第3回 学術論文について考察する。松浦論文を用いて、文献の精読(批判的精読)、研究の視点、分析手法、論文構成について学ぶ。

第4回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う

第5回 ゼミ生報告1-①と質疑応答

第6回 ゼミ生報告1-②と質疑応答

第7回 ゼミ生報告1-③と質疑応答

第8回 ゼミ生報告1-④と質疑応答

第9回 ゼミ生報告1-⑤と質疑応答

第10回 ゼミ生報告1-⑥と質疑応答

第11回 ゼミ生報告1-⑦と質疑応答

第12回 ゼミ生報告1-⑧と質疑応答

第13回 ゼミ生報告1-⑨と質疑応答

第14回 ゼミ生報告1-⑩と質疑応答

第15回 文献リストのチェック 夏休みの課題について

履修上の注意点

ゼミ授業は出席することに意義があると考えている。したがって、ゼミ生全員が完全出席を目指してほしい。しかし、やむなく欠席せざるを得ないときには、前もって教員の大学アドレス宛にその旨連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )





## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習 I &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

中国史研究の最も基本となる文献の理解を軸に、歴史の意味や史料のあり方について議論する。

授業の到達目標

東アジア史、とりわけ古代中国史発展の基本構造を理解する。

授業の概要

この授業では、基本的な文献資料やその資料探索の方法について具体的に指導する。また読み方、内容理解の仕方を各個人が関心を抱くテーマの報告、討論することを通して、問題意識を深めることを目的とする。また教員から史料提供することによって、様々な文献調査法、解釈、分析法を実践する。

準備学習(予習・復習)

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 発表の主旨を説明する
- 第2回 研究の時代・地域を設定する
- 第3回 各自の研究テーマを設定する
- 第4回 各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
- 第5回 各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
- 第6回 学外授業(中国関連の寺社見学)
- 第7回 発表及び講評・議論
- 第8回 発表及び講評・議論
- 第9回 発表及び講評・議論
- 第10回 発表及び講評・議論
- 第11回 学外授業(中国関連の常設展、或いは特別展見学)
- 第12回 発表及び講評・議論
- 第13回 改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
- 第14回 改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
- 第15回 総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習 I &lt;\*Z&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

現代史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の概要

まず最初に全体的なガイダンスをおこない、テーマを選ぶ際の注意、学術論文の探し方を学んだあと、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

準備学習(予習・復習)

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

内 容

- 第1回 卒論の書き方、テーマ、卒業後の進路
- 第2回 専門書・論文の探索方法、図書館利用方法
- 第3回 卒業研究に関する基礎知識、これまでの卒業論文の内容の学習
- 第4回 個別発表1回目(1)
- 第5回 個別発表1回目(2)
- 第6回 個別発表1回目(3)
- 第7回 個別発表1回目(4)
- 第8回 個別発表1回目(5)
- 第9回 現代史合同ゼミ1回目(何回目に行くか実施時期はまだ不確定)
- 第10回 個別発表2回目(1)
- 第11回 個別発表2回目(2)
- 第12回 個別発表2回目(3)
- 第13回 個別発表2回目(4)
- 第14回 個別発表2回目(5)
- 第15回 全体的講評 \*必要に応じて学外授業等を行うことがある。また適宜就職・進路関係の内容が入ることもある。

履修上の注意点

現代史コースの合同ゼミを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (50)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

各人の卒論へ向けたテーマの模索と成果発表

授業の概要

各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。前期と同様に史料収集、目録からの論文探索、主要学術誌の紹介等は授業中に適宜行う。なお、学外授業を行うこともある。また学外者を招いての講演会1回を予定している。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒論の書き方、ルールを説明する。  
 第2回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その1  
 第3回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その2  
 第4回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その3  
 第5回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その4  
 第6回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その5  
 第7回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その6  
 第8回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その7  
 第9回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その8  
 第10回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その9  
 第11回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その10  
 第12回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その11  
 第13回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その12  
 第14回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その13  
 第15回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その14

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史に関する文献にもとづく研究・報告

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて確定した卒業研究テーマに見合う基礎知識の獲得をめざす。

授業の概要

講義の後、前期に引き続いて、受講者が順番に発表し、質疑応答・討論の形式をとる。前期の作業の成果を受けて、受講者は、卒業論文のテーマを確定する。そのうえで各自のテーマに沿って、そのテーマから論文課題を抽出するために当該時期・領域に関する概説書、古典的地位を得ている研究書を広く収集し、精読し基本的知識の獲得と理解に努めなければならない。後期のゼミでは、各自が進めている研究成果を発表と言う形でゼミ生仲間に披露し、質疑応答や担当教員からの指導を通して、意義あるかたちに整え、論文の問題関心をしぼっていかなければならない。なお、12月には、他のゼミと合同で卒論セミナーを開く予定である。

準備学習(予習・復習)

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容に関心にそって分析・整理する。

内 容

- 第1回 (講義)研究テーマから問題提起へ① - 研究動向整理と研究課題の発見  
 第2回 (講義)研究テーマから問題提起へ② - 課題考察のための知識・情報の獲得  
 第3回 4回生ゼミと合同の卒論中間発表会  
 第4回 ゼミ生報告と質疑応答1-①(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第5回 ゼミ生報告と質疑応答1-②(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第6回 ゼミ生報告と質疑応答1-③(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第7回 ゼミ生報告と質疑応答1-④(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第8回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑤(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第9回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑥(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第10回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑦(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第11回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑧(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第12回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑨(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第13回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑩(基本的知識の収集成果に基づく報告)  
 第14回 卒論セミナー  
 第15回 三回生ゼミ総括、春休みに為すべきことの確認

履修上の注意点

ゼミ授業は出席することに意義があると考えられる。したがって、ゼミ生全員が完全出席を目指してほしい。しかし、やむなく欠席せざるを得ないときには、前もって教員の大学アドレス宛にその旨連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (30%)

参加度 (40%)

小テスト ( )

授業中発表等 (30%)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東アジア史の研究と発表

授業の到達目標

主として東アジアの歴史を研究するために必要な知識の習得をめざす。具体的には次のことがらである。①テーマの設定と関心の深め方。②関連文献の収集と整理。③根本史料の収集と読解。④研究結果の発表。

授業の概要

東アジアという地域は広く、その歴史は長く多様である。受講生諸君も一人一人が異なる興味・関心をもっていることだろう。したがって、この授業では、まず各人がそれぞれの興味・関心に沿ったテーマを決める。ついで、そのテーマに関する文献を調べてレジュメを作成、授業においてその発表を行い、それにもとづいて他の受講生との討論をする、という手順で授業を進めてゆきたい。なお、レジュメの作成にあたっては、複数の文献を利用するように努めてもらいたい。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

積極的に図書館を利用して、文献・情報を集めるよう心がけて欲しい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、発表順の決定
- 第2回 東アジア研究に関する文献紹介:史料
- 第3回 東アジア研究に関する文献紹介:工具書
- 第4回 発表と講評
- 第5回 発表と講評
- 第6回 発表と講評
- 第7回 発表と講評
- 第8回 発表と講評
- 第9回 発表と講評
- 第10回 発表と講評
- 第11回 発表と講評
- 第12回 発表と講評
- 第13回 発表と講評
- 第14回 発表と講評
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者: 礪波護ほか編

出版社: 名古屋大学出版会

出版年: 2006年

ISBN: 481580527X

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ〈\*Z〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 南 直人	
テーマ 現代史研究の諸問題	
授業の到達目標 卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。	
授業の概要 前期の学修内容を踏まえて、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。	
準備学習(予習・復習) 自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。	
内 容 第1回 卒論のテーマの絞り込み、卒業後の進路(就活に備えて) 第2回 これまでの卒業研究の内容の復習 第3回 個別発表1回目(1) 第4回 個別発表1回目(2) 第5回 個別発表1回目(3) 第6回 個別発表1回目(4) 第7回 個別発表1回目(5) 第8回 個別発表2回目(1) 第9回 個別発表2回目(2) 第10回 個別発表2回目(3) 第11回 個別発表2回目(4) 第12回 個別発表2回目(5) 第13回 現代史合同ゼミ2回目(実施時期は未確定) 第14回 現代史合同ゼミ3回目(実施時期は未確定) 第15回 まとめ、卒論への展望 * 必要に応じて学外授業等を行うことがある。また適宜就職・進路関係の内容が入ることもある。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 授業中課題(10) 参加度(40)	小テスト(0) 授業中発表等(50)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史講読 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小野 浩	
テーマ 中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表	
授業の到達目標 中央アジア史・西アジア史に関する文献を選択して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。	
授業の概要 扱う地域・時代ともにきわめて広範に亘り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し(下記参考書参照 ただし挙げてあるものは一部であり、他は授業中に紹介する)、受講者の関心に従ってテキストを選別する。初めは全員輪読の形をとるが、途中から担当者を決めて内容の要約を発表させる形式に移行する。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。 第2回 担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。(その際必ずレジュメを用意すること。)教員のコメントおよび出席者による質疑①。 第3回 報告②と質疑 第4回 報告③と質疑 第5回 報告④と質疑 第6回 報告⑤と質疑 第7回 報告⑥と質疑 第8回 報告⑦と質疑 第9回 報告⑧と質疑 第10回 報告⑨と質疑 第11回 報告⑩と質疑 第12回 報告⑪と質疑 第13回 報告⑫と質疑 第14回 報告⑬と質疑 第15回 まとめ	
履修上の注意点	

## 教科書

## 参考書

モスクが語るイスラム史

著者: 羽田正

出版社: 筑摩学芸文庫

出版年: 2016

ISBN:

マルコ・ポーロ:『東方見聞録』を読み解く

著者: 海老沢哲雄

出版社: 山川出版社:世界史リブレット人

出版年: 2015

ISBN:

ティムール:草原とオアシスの覇者

著者: 久保一之

出版社: 山川出版社:世界史リブレット人

出版年: 2014

ISBN:



パーブル:ムガル帝国の創設者

著者: 間野英二

出版社: 山川出版社:世界史リブレット人

出版年: 2013

ISBN:

イスラム世界の人びと

著者: 三木亘 他

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 1984

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 世界史講読 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松浦 京子	
テーマ 英語文献の精読と内容理解	
授業の到達目標 英語文献史料の正確な翻訳力と、それを史料として用いる力を身につけることをめざす	
授業の概要 西洋史研究において必携である英語文献の読解能力を身につけ向上させるために、比較的平易な英語研究書をゼミ生で輪読し、内容についての質疑応答を行う。テキストは、19世紀イギリスで横行し後に社会問題となった児童労働の実態と、その解消のために尽力した人物ならびに運動を概観したElizabeth Longmate, <i>Children at Work 1830-1885</i> , (Then and There Series), U.K., 1981である。平易な叙述で本文全体83頁と短いながら、同時代史料と図版が多用されているので、初めて本格的英語研究文献に触れる者にも、取組みやすいテキストと言えよう。ゼミ生で各章ごとに分担して全文和訳を行う。担当者は、報告に際して、全訳文を載せたレジュメを用意し、なおかつ、邦語文献にあたることで史料内容の背景や関連事象の理解に努め、その成果を報告すること。また、報告後に講読箇所の内容について質疑応答を行う。	
準備学習(予習・復習) 担当部分の報告のために文献を収集し精読し、史料内容の背景や関連事象の理解に努めること。各報告後の質疑応答のために、担当者以外のゼミ生もテキストの熟読に努めること。なお、全訳担当者は、報告より前に翻訳文を担当教員に提出し、チェックを受けること。	
内 容 第1回 テキストの紹介、担当箇所の決定 第2回 各自の担当部分から引き出される課題(史実の把握)の設定 冒頭数ページの全訳 第3回 冒頭数ページから引き出される課題＝奴隷制廃止運動の実態について 第4回 学生報告①と質疑応答、教員解説 第5回 学生報告②と質疑応答、教員解説 第6回 学生報告③と質疑応答、教員解説 第7回 学生報告④と質疑応答、教員解説 第8回 学生報告⑤と質疑応答、教員解説 第9回 学生報告⑥と質疑応答、教員解説 第10回 学生報告⑦と質疑応答、教員解説 第11回 学生報告⑧と質疑応答、教員解説 第12回 学生報告⑨と質疑応答、教員解説 第13回 学生報告⑩と質疑応答、教員解説 第14回 学生報告⑪と質疑応答、教員解説 第15回 全体総括、内容(引き出された史実)についての確認	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が原則。遅刻、途中退場をしないこと。	
教科書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 子どもたちと産業革命 著者: クラーク・ナーディネリ 出版社: 平凡社 出版年: 1998年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 35% ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 35% ) 参加度 ( 30% )	

## 2017 Syllabus

科目名 世界史講読Ⅱ &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史 史料読解

授業の到達目標

中国では各種の学問の中で、史学がもっとも発達し、2千年にわたって歴代王朝の歴史が書き続けられた。これらの文献を読み、歴史叙述の持続及び用語、構文を理解する。

授業の概要

古代人物・仏教・儒教思想、文物典章制度に関する基礎文献をプリントにして配布し、毎回全員で輪読し、内容から問題展を読み取る。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 授業の目的と進め方の説明
- 第2回 テキストの著者および内容概略の紹介
- 第3回 輪読とコメント・質問 その1
- 第4回 輪読とコメント・質問 その2
- 第5回 輪読とコメント・質問 その3
- 第6回 輪読とコメント・質問 その4
- 第7回 輪読とコメント・質問 その5
- 第8回 輪読とコメント・質問 その6
- 第9回 輪読とコメント・質問 その7
- 第10回 輪読とコメント・質問 その8
- 第11回 輪読とコメント・質問 その9
- 第12回 輪読とコメント・質問 その10
- 第13回 輪読とコメント・質問 その11
- 第14回 輪読とコメント・質問 その12
- 第15回 総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

角川新字源

著者： 小川環樹他

出版社： 角川書店

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史講読Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 鷲田 睦朗	
テーマ 世界史文献の批判的講読及び書評の作成	
授業の到達目標 卒業論文を作成するために必要となる世界史文献を批判的に読む方法を実践的に身につけることを目標とする	
授業の概要 前半:世界史文献を読んだ上でのプレゼンテーションの実践 後半:書評の読解・執筆方法論の指導と実践	
準備学習(予習・復習) (山川出版社の「世界史リブレット」シリーズ等の)本を読んだでのプレゼン資料作成、書評作成。詳しくは講義で説明する	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 講師によるプレゼンテーション実演 第3回 学生によるプレゼンテーション(1) 第4回 学生によるプレゼンテーション(2) 第5回 学生によるプレゼンテーション(3) 第6回 学生によるプレゼンテーション(4) 第7回 学生によるプレゼンテーション(5) 第8回 学生によるプレゼンテーション(6) 第9回 学生によるプレゼンテーション(7) 第10回 学生によるプレゼンテーション(8) 第11回 学生によるプレゼンテーション(9) 第12回 学生によるプレゼンテーション(10) 第13回 書評とは何か、書評の使い方 第14回 書評を書いてみよう 第15回 総括	
履修上の注意点 参加人数により、3回目以降の構成が変更される可能性があります	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート (40) 小テスト ( ) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (25) 参加度 (25) ①プレゼンテーション、②他の人のプレゼンテーション時の質問等、③書評を総合的に判断して成績を評価する	

## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習 I &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

現代史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の概要

まず最初に全体的なガイダンスをおこない、テーマを選ぶ際の注意、学術論文の探し方を学んだあと、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

準備学習(予習・復習)

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

内 容

- 第1回 卒論の書き方、テーマ、卒業後の進路
- 第2回 専門書・論文の探索方法、図書館利用方法
- 第3回 卒業研究に関する基礎知識、これまでの卒業論文の内容の学習
- 第4回 個別発表1回目(1)
- 第5回 個別発表1回目(2)
- 第6回 個別発表1回目(3)
- 第7回 個別発表1回目(4)
- 第8回 個別発表1回目(5)
- 第9回 現代史合同ゼミ1回目(何回目に行くか実施時期はまだ不確定)
- 第10回 個別発表2回目(1)
- 第11回 個別発表2回目(2)
- 第12回 個別発表2回目(3)
- 第13回 個別発表2回目(4)
- 第14回 個別発表2回目(5)
- 第15回 全体的講評 \* 必要に応じて学外授業等を行うことがある。また適宜就職・進路関係の内容が入ることもある。

履修上の注意点

現代史コースの合同ゼミを実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (50)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習 I &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 永井 和

テーマ

日本近現代史に関する論文講読

授業の到達目標

卒業論文の執筆を視野にいれて、その準備の一段階として、専門の学術論文を読み、学術論文とはどのようなものかを知る。また、最近の研究動向および研究成果がどのようなものであるかを、その一端を知る。

授業の概要

最近刊行された岩波講座日本歴史の近現代編に収録されている諸論文を輪読する。分担を決め、課題論文について報告を行い、それを踏まえて、テキストや報告内容について質疑応答および討論をおこなう。南ゼミと合同でグループ学習・グループ研究を行う。時期は未定だが、そのためのガイダンスと中間発表を行う。また、講演や学外活動などで、授業の予定が変更されることがある。

準備学習(予習・復習)

課題テキストは全員が事前に読んでおくこと。報告する場合は、割り当てられた分担論文について内容紹介と評価をおこなう。事前に用語等を調べ、疑問点を洗い出しておくこと。報告はレジュメを作成しておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 報告①
- 第3回 報告②
- 第4回 報告③
- 第5回 報告④
- 第6回 報告⑤
- 第7回 報告⑥
- 第8回 報告⑦
- 第9回 報告⑧
- 第10回 報告⑨
- 第11回 報告⑩
- 第12回 報告⑪
- 第13回 報告⑫
- 第14回 報告⑬
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

この授業は、発表を中心とする演習なので、主体的な参加が求められる。就職活動などで、やむをえず欠席する場合には、必ず事前に連絡し、所定の欠席届を提出すること。

教科書

参考書

岩波講座日本歴史第18巻 近現代4

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 2014

ISBN: 4000113380

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習 I &lt;\*Z&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

専門論文の読み方を会得することを目標とする。また文献探索・収集の仕方も習得する。

授業の概要

前期は初めの3～4回分を使って中央アジア・西アジアの歴史に関する学術論文を選読し、歴史の専門論文とはいかなるものかを習得させる。専門論文を読む場合、内容全体はもとより一文一文をおろそかにせず徹底して精読する姿勢が要求される点で、通常の読書とは異なる。たとえ日本語の論文であろうと、その内容がほぼ理解できるとは限らないのである。読んでみても解らないとき、著者の論旨が把握し難いのか、それとも自分自身の知識不足ゆえに理解が及ばないからか、つまりどの点がどう解らないのかを明確に見定めることが肝要である。こうした点に留意しながら論文と言うものに慣れてもらう。論文内容に関しては担当者を決めてその担当者が用意したレジュメにもとづき、出席者で疑問点を出し合い討議する。それ以降、最終の15回までは出席者各自の研究発表ないしみずから選んだ論文の紹介を行なう。ただし、学外者を招いて講演会を開くこともあり、また学外授業を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 基本的工具類の紹介説明――目録・入門書・地図等  
 第2回 文献を探す――具体的に文献の所蔵確認およびその検索方法につき説明する  
 第3回 選定した学術論文の内容解説  
 第4回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その1  
 第5回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その2  
 第6回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その3  
 第7回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その1  
 第8回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その2  
 第9回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その3  
 第10回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その4  
 第11回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その5  
 第12回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その6  
 第13回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その7  
 第14回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その8  
 第15回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その9 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(50)

参加度(50)

## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 南 直人	
テーマ 現代史研究の諸問題	
授業の到達目標 卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。	
授業の概要 前期の学修内容を踏まえて、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。	
準備学習(予習・復習) 自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。	
内 容 第1回 卒論のテーマの絞り込み、卒業後の進路(就活に備えて) 第2回 これまでの卒業研究の内容の復習 第3回 個別発表1回目(1) 第4回 個別発表1回目(2) 第5回 個別発表1回目(3) 第6回 個別発表1回目(4) 第7回 個別発表1回目(5) 第8回 個別発表2回目(1) 第9回 個別発表2回目(2) 第10回 個別発表2回目(3) 第11回 個別発表2回目(4) 第12回 個別発表2回目(5) 第13回 現代史合同ゼミ2回目(実施時期は未確定) 第14回 現代史合同ゼミ3回目(実施時期は未確定) 第15回 まとめ、卒論への展望 * 必要に応じて学外授業等を行うことがある。また適宜就職・進路関係の内容が入ることもある。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート (0) 授業中課題 (10) 参加度 (40)	小テスト (0) 授業中発表等 (50)



## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 永井 和

テーマ

日本近現代史に関する論文講読

授業の到達目標

卒業論文の執筆を視野にいれて、その準備の一段階として、専門の学術論文を読み、学術論文とはどのようなものかを知る。また、最近の研究動向および研究成果がどのようなものであるかを、その一端を知る。

授業の概要

最近刊行された岩波講座日本歴史の近現代編に収録されている諸論文を輪読する。分担を決め、課題論文について報告を行い、それを踏まえて、テキストや報告内容について質疑応答および討論をおこなう。なお、南ゼミと合同で、グループ学習・研究を行うので、日程は未定だが、2回にわたり合同のグループ発表を行う。また、講演や学外活動などにより、授業の計画が変更されることがある。

準備学習(予習・復習)

課題テキストは全員が事前に読んでおくこと。報告する場合は、割り当てられた分担論文について内容紹介と評価をおこなう。事前に用語等を調べ、疑問点を洗い出しておくこと。報告はレジュメを作成しておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 報告①
- 第3回 報告②
- 第4回 報告③
- 第5回 報告④
- 第6回 報告⑤
- 第7回 報告⑥
- 第8回 報告⑦
- 第9回 報告⑧
- 第10回 報告⑨
- 第11回 報告⑩
- 第12回 報告⑪
- 第13回 報告⑫
- 第14回 報告⑬
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

この授業は、発表を中心とする演習なので、主体的な参加が求められる。就職活動などで、やむをえず欠席をせざるを得ない時には、必ず事前に連絡し、かつ所定の欠席届を提出すること。

教科書

参考書

岩波講座日本歴史第19巻 近現代5

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 2015

ISBN: 4000113399

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ &lt;\*Z&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

各人の卒論へ向けたテーマの模索と成果発表

授業の概要

各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。前期と同様に史料収集、目録からの論文探索、主要学術誌の紹介等は授業中に適宜行う。なお、学外授業を行うこともある。また学外者を招いての講演会1回を予定している。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒論の書き方、ルールを説明する。  
 第2回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その1  
 第3回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その2  
 第4回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その3  
 第5回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その4  
 第6回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その5  
 第7回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その6  
 第8回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その7  
 第9回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その8  
 第10回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その9  
 第11回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その10  
 第12回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その11  
 第13回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その12  
 第14回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その13  
 第15回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その14

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

## 科目名 現代史講読Ⅰ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 永井 和

## テーマ

高松宮日記を読む

## 授業の到達目標

歴史研究に読むにおいて必須となる史料の基礎的読解力と知識の習得を目指す。

## 授業の概要

昭和天皇の弟であった高松宮宣仁親王の太平洋戦争中の日記を読む。高松宮は日米開戦の直前からサイパン陥落時まで、大本営参謀として海軍軍令部に勤務しており、1991年に発見された高松宮の日記のほぼ半分近くが、この軍令部勤務時代のものである。高松宮は海軍の艦隊や出先部隊から大本営に送られてくる軍事機密電報の概要を克明に写し取り、自分の日記に記していた。日記に記された電報の写しから、太平洋上における戦局の推移と日米海軍の戦闘のありさまがよくわかる。日記を読むことで、戦線から遠く離れたところで、その推移を見守っていた高松宮の目に、戦争の様相がどのようなものとして映ったのかを、追体験してみたい。この授業では、1941年11月から翌年2月頃まで、太平洋戦争開戦時の高松宮日記を読む。

## 準備学習(予習・復習)

参加者の報告を主に授業を進めていくので、事前の報告準備は不可欠である。高松宮日記を読むこと自体に、さほどの苦労はない。しかし、そこに記されている海軍の軍事機密電報の意味を解釈するのは容易ではない。また、刻々と受信される電報の記述は簡略であるため、そこに記された断片的な情報から、実際におこった「できごと」としての戦争の全体像や実相をつかむのも、別の意味で簡単なことではない。それなりの訓練をつまないと文字は読めても、意味はわからないままで終わってしまいかねない。最初の数回は、全員で授業中に読解の練習をおこない、日記の特殊な用語や記述に慣れるとともに、日記に書かれてあることを理解するには、何をどのように調べるかを考える。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、高松宮および高松宮日記についての説明)・高松宮日記をまず読んでみる。
- 第2回 高松宮日記をまず読んでみる。
- 第3回 日記の読解ど報告①
- 第4回 日記の読解ど報告②
- 第5回 日記の読解ど報告③
- 第6回 日記の読解ど報告④
- 第7回 日記の読解ど報告⑤
- 第8回 日記の読解ど報告⑥
- 第9回 日記の読解ど報告⑦
- 第10回 日記の読解ど報告⑧
- 第11回 日記の読解ど報告⑨
- 第12回 日記の読解ど報告⑩
- 第13回 日記の読解ど報告⑪
- 第14回 日記の読解ど報告⑫
- 第15回 日記の読解ど報告⑬およびまとめ

## 履修上の注意点

日記の輪読と報告を主に授業を進めるので、自分の担当の回の出席はもちろんだが、他の回の授業にも欠かさず出席すること。やむをえず欠席する場合は、事前に連絡し、かつ所定の欠席届を提出すること。

## 教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

高松宮日記第3巻

著者: 高松宮宣仁親王

出版社: 中央公論社

出版年: 1995年

ISBN: 4124033931

高松宮日記第4巻

著者： 高松宮宣仁親王

出版社： 中央公論社

出版年： 1996年

ISBN: 412403394X

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 現代史講読Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南直人

テーマ

西洋史分野の近現代史関連文献を読む

授業の到達目標

世界史(西洋史)分野の近現代史についてのさまざまなテーマに関する専門的学術論文を読解し、西洋近現代史における基本的な論点や問題関心についての理解を深める。

授業の概要

西洋史分野の近現代史についてのさまざまなテーマに関する専門的学術論文を自分で探し出し、それを読解し、他者にわかるような適切な方法でその内容をレジュメにまとめ、口頭で発表する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 イントロダクション

第2回 19世紀前半の概説ないし専門論文内容紹介(1)

第3回 19世紀前半の概説ないし専門論文内容紹介(2)

第4回 19世紀前半の概説ないし専門論文内容紹介(3)

第5回 19世紀後半の概説ないし専門論文内容紹介(4)

第6回 19世紀後半の概説ないし専門論文内容紹介(4)

第7回 19世紀後半の概説ないし専門論文内容紹介(5)

第8回 20世紀前半の概説ないし専門論文内容紹介(1)

第9回 20世紀前半の概説ないし専門論文内容紹介(2)

第10回 20世紀前半の概説ないし専門論文内容紹介(3)

第11回 20世紀前半の概説ないし専門論文内容紹介(4)

第12回 20世紀後半の概説ないし専門論文内容紹介(1)

第13回 20世紀後半の概説ないし専門論文内容紹介(2)

第14回 20世紀後半の概説ないし専門論文内容紹介(3)

第15回 まとめ・卒論に向けてのアドバイス等

第16回 必要に応じて歴史学・現代史等に関する学外での催し等を見学して学習内容をより深めることもある。

履修上の注意点

必要に応じて歴史学・現代史等に関する学外での催し等を見学して学習内容をより深めることもある。

教科書

参考書

西洋近現代史研究入門

著者: 望田幸男他(編)

出版社: 名古屋大学出版会

出版年: 2001年

ISBN:

もういちど読む山川世界現代史

著者: 北に勤

出版社: 山川出版社

出版年: 2015年

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(70)

参加度(30)

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ〈\*a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

卒業研究の展開に向けて

授業の到達目標

自分の関心を明確化するとともに、その分野に関わる卒業論文作成を目指した個人研究を進展させる。同時に、テーマの絞り方や研究史の整理・評価、史料の読解やそこからの問題点の引き出し方など、随時授業における各人の報告をもとに討論を行い、より広い視点と客観性の維持に配慮できるようにする。

授業の概要

まずは研究論文を追跡し、研究の思考方法、論文の作成方法を学ぶ。その後、参加者各人が関心あるテーマに沿った史料を提出し、その史料の理解に関する研究史や問題点を報告することを通じて、自身の関心の方向性を凝縮させていく。なお、古代史関係の遺産を見学する学外学習や、必要に応じて、卒業研究の参考になるように、学外授業や学外講師を招いての講演を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

図書館や様々な情報媒体を通して、論文と史料の博搜に努めること

内 容

- 第1回 個人研究の進め方に関する概括的指導
- 第2回 研究論文演習(1)
- 第3回 研究論文演習(2)
- 第4回 歴史遺産見学(学外授業)
- 第5回 研究論文演習(3)
- 第6回 研究論文演習(4)
- 第7回 研究論文演習(5)
- 第8回 個別発表(1)
- 第9回 個別発表(2)
- 第10回 個別発表(3)
- 第11回 個別発表(4)
- 第12回 個別発表(5)
- 第13回 個別発表(6)
- 第14回 個別発表(7)
- 第15回 後期に向けての卒業研究に関する概括的指導(まとめ)

履修上の注意点

各個人の個別研究の対象を明確化すること、その対象に関する先行研究を調べ、読むことに努めてほしい。

教科書

参考書

個別に指導する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(70)

授業中発表等(0)

参加度(30)

研究対象の明確化、先行研究の博搜の点に重点を置いて評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ〈\*b〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野田 泰三

テーマ

日本中世史上の諸問題

授業の到達目標

・日本中世史に関する基礎的な知識を有している・関心のあるテーマに関する先行研究を把握し、現在の研究水準や課題を理解している・必要な史資料を収集し、読解することができる・テーマに対する自身の解答(仮説)を根拠を示しつつ論理的に証明する(実証する)=卒業論文を完成することができる。

授業の概要

受講生による卒業論文の準備報告を中心に、必要に応じて史料や研究論文の講読を行う。卒業論文は歴史学科における学びの集大成です。ひとつ事をここまで徹底的に考え抜くという機会は人生上そうそうあるものではありません。頭が真っ白になるまで考えぬき、一つ壁を越えたと感じる経験をして下さい。自分がひと回り成長していることに気づくでしょう。こうした経験をせずに大学を卒業してしまうのは、なんとももったいないことだと思います。

準備学習(予習・復習)

報告直前の付け焼刃的勉強では卒論作成は無理です。普段からこつこつと論文や史料の収集・分析をするようにして下さい。図書館や資料室に日参して作業することを薦めます。必要ならば、古文書調査や現地調査、フィールドワークなども積極的に行って下さい。繰り返しになりますが、史資料は原典にあたって集め、自分で読解すること。先行研究に引用されている史料をみているだけでは、自分の議論は生まれません。

内 容

- 第1回 ガイダンス:授業の進め方、テキスト、報告順序
- 第2回 受講生による発表と討論(1)
- 第3回 受講生による発表と討論(2)
- 第4回 受講生による発表と討論(3)
- 第5回 受講生による発表と討論(4)
- 第6回 受講生による発表と討論(5)
- 第7回 受講生による発表と討論(6)
- 第8回 受講生による発表と討論(7)
- 第9回 受講生による発表と討論(8)
- 第10回 受講生による発表と討論(9)
- 第11回 受講生による発表と討論(10)
- 第12回 受講生による発表と討論(11)
- 第13回 受講生による発表と討論(12)
- 第14回 受講生による発表と討論(13)
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

・全回参加を原則とする。・遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合成績評価の対象としない。また報告を無断で放棄した場合も成績評価の対象としない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(50)

参加度(50)

- ・自身の報告のみならず、他の受講生の報告の際にも積極的に発言することを求める。
-



## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマに基づく研究を深める。

授業の概要

各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの研究課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。前期の最後には原稿用紙換算で23枚以上のレポートと、卒論に関わる史料(資料)を集めたデータベースを作成してもらおう。また9月には合宿を行い、そこで卒論の構想を発表してもらおう。

準備学習(予習・復習)

多くの史料(資料)をなるべく丁寧に読むこと。

内 容

第1回 ガイダンスなど

第2回 歴史研究とは何か?

第3回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第4回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第5回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第6回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第7回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第8回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第9回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第10回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第11回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第12回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第13回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第14回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 35 )

授業中発表等 ( 35 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

近世・近代移行期研究の方法と実践

授業の到達目標

各自が卒業論文研究を進めるうえで必要な方法の理解を深め、かつ実践する。

授業の概要

各自が自分の研究テーマに即した発表をおこない、また受講生全員による質疑応答を通じて、さらに研究を深めることをめざす。演習を通じて、卒業論文の研究を進めるためには、どのような先行研究を読み、どのような史料を読解する必要があるのか、自分の課題を見つけてほしい。前期の最後には、卒論の構想をまとめたレポート(参考文献のリスト付き)を課す。なお、学修の状況に応じて、学外授業をおこなう場合もある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス 4年生ゼミの進め方
- 第2回 ガイダンス 卒論研究の体験談
- 第3回 卒業論文の構想に関する個別報告その1
- 第4回 卒業論文の構想に関する個別報告その2
- 第5回 卒業論文の構想に関する個別報告その3
- 第6回 卒業論文の構想に関する個別報告その4
- 第7回 卒業論文の構想に関する個別報告その5
- 第8回 卒業論文の構想に関する個別報告その6
- 第9回 卒業論文の構想に関する個別報告その7
- 第10回 卒業論文の構想に関する個別報告その8
- 第11回 卒業論文の構想に関する個別報告その9
- 第12回 卒業論文の構想に関する個別報告その10
- 第13回 卒業論文の構想に関する個別報告その11
- 第14回 卒業論文の構想に関する個別報告その12
- 第15回 まとめ、および夏休み中に研究を進めるためのアドバイス

履修上の注意点

卒論研究を計画的に進めていくためにも、毎回、全員出席することが重要である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

卒業研究の完成

授業の到達目標

卒業研究をさらに進め、卒業論文として集成させることを目的とする。後半は個別指導を重点に置く。

授業の概要

参加者各人の研究テーマの特定断面を報告し、それに関する議論を行う形で授業を展開させる。なお、古代史関係の遺産の見学(1回)や、必要に応じて、卒業研究の参考となるように、学外学習や学外講師を招いての講演会を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

資料・論文の蒐集に努めること。

内 容

- 第1回 研究の進行状況のチェックと指導
- 第2回 中間報告に向けての指導
- 第3回 中間報告での指摘事項及び構想再検討への指導
- 第4回 歴史遺産見学(学外授業)
- 第5回 個別報告と質疑(1)
- 第6回 個別報告と質疑(2)
- 第7回 個別報告と質疑(3)
- 第8回 個別発表と質疑(4)
- 第9回 個別発表と質疑(5)
- 第10回 個別発表と質疑(6)
- 第11回 個別発表と質疑(7)
- 第12回 個別発表と質疑(8)
- 第13回 卒業研究の整理と評価(1)
- 第14回 卒業研究の整理と評価(2)
- 第15回 卒業研究の整理と評価(3)

履修上の注意点

参加者の個別の関心に基づく研究内容に対する指導を主とする。参加者の週ごとの個別研究の深化を求める。

教科書

参考書

個別に指導する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(70)

授業中発表等(0)

参加度(30)

卒業論文の作成につながる適切な研究手順の執行と、それを継続する努力の如何に重点を置いて評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ〈\*b〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野田 泰三

テーマ

日本中世史上の諸問題

授業の到達目標

・日本中世史に関する基礎的な知識を有している・関心のあるテーマに関する先行研究を把握し、現在の研究水準や課題を理解している・必要な史資料を収集し、読解することができる・テーマに対する自身の解答(仮説)を根拠を示しつつ論理的に証明する(実証する)=卒業論文を完成することができる。

授業の概要

受講生による卒業論文の準備報告を中心に、必要に応じて史料や研究論文の講読を行う。卒業論文は歴史学科における学びの集大成です。ひとつ事をここまで徹底的に考え抜くという機会は人生上そうそうあるものではありません。頭が真っ白になるまで考えぬき、一つ壁を越えたと感じる経験をして下さい。自分がひと回り成長していることに気づくでしょう。こうした経験をせずに大学を卒業してしまうのは、なんとももったいないことだと思います。

準備学習(予習・復習)

報告直前の付け焼刃的勉強では卒論作成は無理です。普段からこつこつと論文や史料の収集・分析をするようにして下さい。図書館や資料室に日参して作業することを薦めます。必要ならば、古文書調査や現地調査、フィールドワークなども積極的に行って下さい。繰り返しになりますが、史資料は原典にあたって集め、自分で読解すること。先行研究に引用されている史料をみているだけでは、自分の議論は生まれません。

内 容

第1回 ガイダンス:授業の進め方、テキスト、報告順序

第2回 受講生による発表と討論(1)

第3回 受講生による発表と討論(2)

第4回 受講生による発表と討論(3)

第5回 受講生による発表と討論(4)

第6回 受講生による発表と討論(5)

第7回 受講生による発表と討論(6)

第8回 受講生による発表と討論(7)

第9回 受講生による発表と討論(8)

第10回 受講生による発表と討論(9)

第11回 受講生による発表と討論(10)

第12回 受講生による発表と討論(11)

第13回 受講生による発表と討論(12)

第14回 受講生による発表と討論(13)

第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

・全回参加を原則とする。・遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合成績評価の対象としない。また報告を無断で放棄した場合も成績評価の対象としない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(50)

参加度(50)

- ・自身の報告のみならず、他の受講生の報告の際にも積極的に発言することを求める。
-

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ〈\*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

卒業研究の完成に向けて

授業の到達目標

各自の研究テーマを深め、卒業論文を執筆し完成させる。

授業の概要

まずは各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの研究課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。報告終了後は卒業論文の下書きを書き進める。

準備学習(予習・復習)

多くの史料をなるべく丁寧に読み、文章をわかりやすく書くこと。

内 容

- 第1回 卒業論文中間発表会に向けた報告準備
- 第2回 卒業論文中間発表会に向けた報告準備
- 第3回 卒業論文中間発表会
- 第4回 卒業論文の形式と書き方
- 第5回 下書きの検討
- 第6回 下書きの検討
- 第7回 下書きの検討
- 第8回 下書きの検討
- 第9回 下書きの検討
- 第10回 下書きの検討
- 第11回 下書きの検討
- 第12回 卒業論文の最終調整
- 第13回 卒業論文の最終調整
- 第14回 反省会
- 第15回 歴史学とは何か? ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 15 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ〈\*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 後藤 敦史

テーマ

卒業論文の作成に向けて

授業の到達目標

研究を深めるために必要な課題を自ら見つけ、より完成度の高い卒業論文を作成する。

授業の概要

各自が卒業論文のテーマについて発表をおこない、受講生全員による質疑応答と通じて、卒論作成に必要な課題を自ら見つけていく。報告とあわせて、卒論の下書きについても進めていく。なお、卒論の研究状況に応じて、学外授業をおこなう場合もある。

準備学習(予習・復習)

よりよい卒論を作成するためには、史料を丁寧に読むことが重要である。細部まで見逃さないつもりで、徹底的に史料を読み込むことを心がけてほしい。

内 容

- 第1回 卒業論文中間発表会に向けた準備その1
- 第2回 卒業論文中間発表会に向けた準備その2
- 第3回 卒業論文中間発表会
- 第4回 卒業論文の個別報告、および下書き作業
- 第5回 卒業論文の個別報告、および下書き作業
- 第6回 卒業論文の個別報告、および下書き作業
- 第7回 卒業論文の個別報告、および下書き作業
- 第8回 卒業論文の個別報告、および下書き作業
- 第9回 卒業論文の個別報告、および下書き作業
- 第10回 卒業論文の個別報告、および下書き作業
- 第11回 卒業論文完成に向けた最終作業
- 第12回 卒業論文完成に向けた最終作業
- 第13回 卒業論文完成に向けた最終作業
- 第14回 まとめその1 歴史学の研究とは何か
- 第15回 まとめその2 現代社会と歴史学

履修上の注意点

卒業論文の作成を計画的に進めるため、毎回、全員出席することが重要である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成に向けて、確実な研究能力を向上させる。

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。  
 ○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
- 第2回 個別発表(1)
- 第3回 個別発表(2)
- 第4回 個別発表(3)
- 第5回 個別発表(4)
- 第6回 個別発表(5)
- 第7回 個別発表(6)
- 第8回 個別発表(7)
- 第9回 個別発表(8)
- 第10回 個別発表(9)
- 第11回 個別発表(10)
- 第12回 個別発表(11)
- 第13回 個別発表(12)
- 第14回 個別発表(13)
- 第15回 個別発表(14)

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(50)

参加度(50)



## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成させる

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。  
 ○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導  
 なお、学外授業を行うこともある。また学外講演者を招いて講演会を行なう予定である。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
- 第2回 個別発表(1)
- 第3回 個別発表(2)
- 第4回 個別発表(3)
- 第5回 個別発表(4)
- 第6回 個別発表(5)
- 第7回 個別発表(6)
- 第8回 個別発表(7)
- 第9回 個別発表(8)
- 第10回 個別発表(9)
- 第11回 個別発表(10)
- 第12回 個別発表(11)
- 第13回 個別発表(12)
- 第14回 個別発表(13)
- 第15回 個別発表(14)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(60)

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文執筆のために必要な史料文献の収集の完了と問題考察の進展をめざす。

授業の概要

これまでの学習の集大成としての卒業論文執筆に向けて、そのための研究発表・討論・指導などを行う。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行なう。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する。また、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

参考文献の収集と精読、情報整理

内 容

- 第1回 歴史研究を進めるにあたっての留意点(史料、文献の扱い方)、問題設定にあたっての注意点(研究動向整理)、研究成果の公表としての卒業論文の構成について
- 第2回 全体指導と個別面談①
- 第3回 全体指導と個別面談②
- 第4回 全体指導と個別面談③
- 第5回 全体指導と個別面談④
- 第6回 全体指導(卒業論文執筆上の注意)
- 第7回 学生報告①と討論・講評
- 第8回 学生報告②と討論・講評
- 第9回 学生報告③と討論・講評
- 第10回 学生報告④と討論・講評
- 第11回 学生報告⑤と討論・講評
- 第12回 学生報告⑥と討論・講評
- 第13回 学生報告⑦と討論・講評
- 第14回 学生報告⑧と討論・講評
- 第15回 夏休みに向けての心構え

履修上の注意点

ゼミは参加すること自体に大きな意義があると考え。全員が完全出席を目指してほしい。どうしてもやむを得ない場合は、教員の大学アドレスに前もって連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 (40%)

小テスト ( )

授業中発表等 (60%)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導(なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある) なお、期間中、歴史学に関する講演会を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(50)

参加度(50)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ〈\*b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある。また期間中、学外授業を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ〈\*c〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業研究に真摯に取り組み、卒業論文の完成をめざす

授業の概要

これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆する。そのための個別指導などを行なう。授業内容は、次のことに留意しつつすすめる。○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ゼミ生各自が事前に発表を行い、全員での討論を経て指導などを行う。○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお、中間発表に備えて、9月の休暇期間に集中ゼミを行なう。なお、期間中、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

自らの卒業研究における課題に真摯に取り組み、文献の収集、精読、情報整理、分析し、それらの成果をゼミおよび面談において披露できるようにする。

内 容

- 第1回 中間発表に向けての論文タイトル決定、レジュメの作成
- 第2回 レジュメのチェック
- 第3回 卒論中間発表会
- 第4回 卒業論文の執筆要領についての解説
- 第5回 卒業論文執筆に向けて個別指導①
- 第6回 卒業論文執筆に向けて個別指導②
- 第7回 卒業論文執筆に向けて個別指導③
- 第8回 卒業論文執筆に向けて個別指導④
- 第9回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑤
- 第10回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑥
- 第11回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑦
- 第12回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑧
- 第13回 個別指導
- 第14回 卒論総括
- 第15回 卒論諮問に向けて諸注意、卒業後について懇談
- 第16回 \* 学外にて集中ゼミ合宿を行う予定である

履修上の注意点

ゼミは参加すること自体に大きな意義があると考え、全員が完全出席を目指してほしい。どうしてもやむを得ない場合は、教員の大学アドレスに前もって連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50% )

参加度 ( 50% )

## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅲ &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 永井 和

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。卒業論文は、大学でのこれまでの学習の集大成である。自分の個性を活かした、よい卒業論文を執筆することが目標であるが、そのためには、段階的に研究を進めていかなければならない。この授業では、卒業論文の作成に向けて、教員の指導の下、各自が研究発表をおこない、相互に討論しつつともに学んでいきたい。

授業の概要

卒業論文の作成にむけて、各自が中間発表を行う。求められる報告の内容は以下のとおりだが、そのすべてを満たす必要はない。1. 卒業論文のテーマとその概要(何を研究するのか) 2. 研究の動機(なぜそのテーマで研究するのか、その研究の意義は何か) 3. 研究することで明らかにしたいこと(研究の目的、到達目標) 4. 先行研究(自分のテーマに関連する先行研究のリストをつくる、できるかぎり網羅的に。さらにいくつかの先行研究を読み、その内容を紹介し、問題点を考察する)、5. 関連資料(先行研究を調べるなかで、自分の研究テーマについて収集し、読解すべき史料が何であるのかを調査し、その史料のリストを作成し、史料へのアクセス方法を調べる。可能ならば史料を集める)

準備学習(予習・復習)

報告にあたっては事前準備を周到にしておかねばならない。より重要なのは、報告後の検討作業である。中間発表に対して出された意見やアイデアを取り入れて、それまでの研究をよりよいものにするための反省と修正、さらに今後の展開のための戦略をねる作業が不可欠となる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 個別発表①
- 第3回 個別発表②
- 第4回 個別発表③
- 第5回 個別発表④
- 第6回 個別発表⑤
- 第7回 個別発表⑥
- 第8回 個別発表⑦
- 第9回 個別発表⑧
- 第10回 個別発表⑨
- 第11回 個別発表⑩
- 第12回 個別発表⑪
- 第13回 個別発表⑫
- 第14回 個別発表⑬
- 第15回 個別発表⑭

履修上の注意点

卒業論文は学生生活の集大成。その準備のための演習Ⅲ、Ⅳは4回生時の学習の中心となる授業なので、主体的な参加が求められる。発表は必ず行うこと。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅲ &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外授業・学外講師を招いての講演等を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)

第2回 個別発表(1)

第3回 個別発表(2)

第4回 個別発表(3)

第5回 個別発表(4)

第6回 個別発表(5)

第7回 個別発表(6)

第8回 個別発表(7)

第9回 個別発表(8)

第10回 個別発表(9)

第11回 個別発表(10)

第12回 個別発表(11)

第13回 個別発表(12)

第14回 個別発表(13)

第15回 全体的講評 ※なお、必要に応じて学外授業等を行うことがある。また適宜就職・進路関係の内容が入ることもある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(60)

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅳ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 永井 和

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。卒業論文は、大学でのこれまでの学習の集大成である。自分の個性を活かした、よい卒業論文を執筆することが目標であるが、そのためには、段階的に研究を進めていかなければならない。この授業は、卒業論文の作成に向けて、最後の準備となる。教員の指導の下、各自が研究発表をおこない、相互に討論しつつもに学んでいきたい。

授業の概要

演習Ⅲでの発表と指導をもとに、卒業論文の作成にむけて、各自が最後の中間発表を行う。以下の項目にそって報告する。  
1. 卒業論文のテーマと論文の問題設定 2. 先行研究の整理 3. 論文において明らかにすべき問題の明確化 4. 関連資料 5. 章構成の説明 6. 論文作成上の問題点

準備学習(予習・復習)

報告にあたっては事前準備を周到にしておかねばならない。より重要なのは、報告後の検討作業である。中間発表に対して出された意見やアイデアを取り入れて、よりよい論文を完成することが大事である。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 個別発表①
- 第3回 個別発表②
- 第4回 個別発表③
- 第5回 個別発表④
- 第6回 個別発表⑤
- 第7回 個別発表⑥
- 第8回 個別発表⑦
- 第9回 個別発表⑧
- 第10回 個別発表⑨
- 第11回 個別発表⑩
- 第12回 個別発表⑪
- 第13回 個別発表⑫
- 第14回 個別発表⑬
- 第15回 個別発表⑭

履修上の注意点

卒業論文は学生生活の集大成。その準備のための演習Ⅲ、Ⅳは4回生時の学習の中心となる授業なので、主体的な参加が求められる。発表は必ず行うこと。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )



## 2017 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅳ〈\*b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する。○個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 全体的講評 \*なお必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(60)

参加度(40)

## 2017 Syllabus

## 科目名 京都の歴史と文化遺産

クラス	配当回生 学部1回生
-----	------------

講義期間 秋期集中	定員
-----------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 増淵 徹
----------

## テーマ

京都市の歴史遺産とその保護・活用について学ぶ

## 授業の到達目標

京都市内に残る遺跡・建造物・庭園・美術工芸品・民俗文化財などの多様な文化遺産に対する知識を深め、現代における遺産の調査・保護・活用について問題意識をもつ。

## 授業の概要

京都市文化市民局文化財保護課の技師の方々に講師に、市内の各種の文化遺産とその特徴、及び調査や保護上の課題を解説する形式で進める(集中講義)。講義中に2~3回の現地見学を行う(見学料等が必要になる場合がある)。なお、以下の予定は2016年度に実施した内容で、実際の講義内容や見学対象は講師の関係で変更する場合がある(集中講義開始前にあらためて通知する)。

## 準備学習(予習・復習)

日常的にたくさんの文化遺産を見学し、自身で問題意識をもってほしい。なお、2講時分程度を1単位としてミニレポートを課

## 内 容

- 第1回 京都の歴史と文化遺産の特徴(総説)
- 第2回 京都市における文化財保護の取り組み
- 第3回 京都市の民俗文化財―盆の踊り―
- 第4回 山県有朋と無隣庵 ―以上、第1日―
- 第5回 京都市の史跡
- 第6回 文化的景観
- 第7回 天然記念物保護行政の現状―オオサンショウウオの交雑問題から―
- 第8回 歴史遺産の見学 ―以上、第2日―
- 第9回 二条城の障壁画と金工品
- 第10回 二条城の建築
- 第11回 歴史遺産の見学(二条城)
- 第12回 歴史遺産の見学(二条城) ―以上、第3日―
- 第13回 世界遺産と京都
- 第14回 無形の文化遺産―祇園祭の山鉾行事―
- 第15回 歴史遺産の見学 ―以上、第4日―

## 履修上の注意点

歴史遺産について関心を持ち、自ら質問する積極性を求める。

## 教科書

レジュメを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

各回のレジュメで周知する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (10)

授業中発表等 ( )

参加度 (50)

「授業中課題」として、毎日の小レポートと、全体をまとめるレポートを課す。なお、全日程終了後、最終レポートの提出を求める。

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (遺) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ゼミ 発表事前指導

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 総括

第9回 ゼミ 発表事前指導

第10回 発表①

第11回 発表②

第12回 発表③

第13回 発表④

第14回 発表⑤

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業および、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN:

歴史とは何か

著者： E.H.カー

出版社： 岩波書店

出版年： 1962年

ISBN: 4-00-41001-8

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (遺) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 有坂 道子・一瀬 和夫

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をととして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ゼミ 発表事前指導

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 総括

第9回 ゼミ 発表事前指導

第10回 発表①

第11回 発表②

第12回 発表③

第13回 発表④

第14回 発表⑤

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業および、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN:

歴史とは何か

著者： E.H.カー

出版社： 岩波書店

出版年： 1962年

ISBN: 4-00-41001-8

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (遺) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ゼミ 発表事前指導

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 総括

第9回 ゼミ 発表事前指導

第10回 発表①

第11回 発表②

第12回 発表③

第13回 発表④

第14回 発表⑤

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業および、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(遺) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ゼミ 発表事前指導

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 総括

第9回 ゼミ 発表事前指導

第10回 発表①

第11回 発表②

第12回 発表③

第13回 発表④

第14回 発表⑤

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(遺)〈\*B〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小林 裕子・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ゼミ 発表事前指導

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 総括

第9回 ゼミ 発表事前指導

第10回 発表①

第11回 発表②

第12回 発表③

第13回 発表④

第14回 発表⑤

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(遺) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ゼミ 発表事前指導

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 総括

第9回 ゼミ 発表事前指導

第10回 発表①

第11回 発表②

第12回 発表③

第13回 発表④

第14回 発表⑤

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史学入門

著者: 福井憲彦

出版社: 岩波書店

出版年: 2006年

ISBN:

歴史とは何か

著者: E.H.カー

出版社: 岩波書店

出版年: 1962年

ISBN: 4-00-41001-8

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )



## 2017 Syllabus

科目名 日本美術史 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

古代から中世にいたるまでの日本美術の諸作例を通覧し、日本人の美に対する概念がいかなる歴史的背景によって培われてきたのかを考える。

授業の到達目標

本講義は、縄文時代から鎌倉時代までの絵画・彫刻・工芸・建築の作例から、古来日本人が中国や朝鮮半島から受容した技術や表現技法をいかに吸収し、自国の文化として昇華させていったのかについて理解を深めることを到達目標とする。

授業の概要

祖先から継承してきたわが国の特筆すべき作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらおうべく、文献、映像、画像を多用した講義を展開する。学外授業実施の可能性もある。なお、日本美術史講義は前期開講の日本美術史 I と後期開講の日本美術史 II を合わせて履修することで通史の理解修得を実現できるように構成しているが、どちらか片方みの履修でも差し支えない。

準備学習(予習・復習)

実際に博物館や美術館、寺社に足を運び、作品に直接向き合ってもらいたい。

内 容

- 第1回 ガイダンスー美術史学における年代観
- 第2回 縄文・弥生時代の美術ー土と金属の美
- 第3回 古墳時代の美術ー壁画古墳と副葬品
- 第4回 飛鳥時代の美術1ー仏教伝来と飛鳥寺
- 第5回 飛鳥時代の美術2ー法隆寺の金石文
- 第6回 白鳳時代の美術ー写実の萌芽と山田寺仏頭
- 第7回 奈良時代の美術1ー平城遷都と興福寺
- 第8回 奈良時代の美術2ー大仏造立
- 第9回 奈良時代の美術3ー鑑真渡日と木彫
- 第10回 平安時代前期の美術ー密教美術とは
- 第11回 平安時代後期の美術1ー院政期の絵画
- 第12回 平安時代後期の美術2ー浄土教の世界
- 第13回 鎌倉時代の美術1ー治承の兵火
- 第14回 鎌倉時代の美術2ー南都復興と慶派仏師
- 第15回 学外見学
- 第16回 試験

履修上の注意点

教科書

使用しない(資料配付)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 日本美術史Ⅱ

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 村田 隆志

テーマ

中世から近現代にいたるまでの日本美術の諸作例を通覧し、日本人の美に対する概念がいかなる歴史的背景によって培われてきたのかを考える。

授業の到達目標

室町時代から現代までの美術に関する諸分野の作例から、日本人がどのような文化を形成してきたのかについて理解を深めることを到達目標とする。

授業の概要

祖先から継承してきたわが国の特筆すべき作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらべく、文献、映像、画像を多用した講義を展開する。学外授業実施の可能性もある。なお、日本美術史講義は前期開講の日本美術史Ⅰと後期開講の日本美術史Ⅱを合わせて履修することで通史の理解修得を実現できるように構成しているが、どちらか片方だけの履修でも差し支えない。

準備学習(予習・復習)

実際に博物館や美術館、寺社に足を運び、作品に直接向き合ってもらいたい。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 室町時代の美術1—唐物の尊重
- 第3回 室町時代の美術2—禅余画と初期狩野派
- 第4回 戦国・安土桃山時代の美術1—狩野派と長谷川派
- 第5回 戦国・安土桃山時代の美術2—侘び茶と工芸
- 第6回 江戸時代の美術1—狩野探幽と周辺の作家たち
- 第7回 江戸時代の美術2—琳派と円山四条派
- 第8回 江戸時代の美術3—南画の受容と発展
- 第9回 江戸時代の美術4—浮世絵
- 第10回 学外見学会
- 第11回 明治時代の美術1—洋画・写真・輸出工芸
- 第12回 明治時代の美術2—日本画の摸索
- 第13回 大正・昭和戦前の美術—モダニズムと美術
- 第14回 昭和戦後の美術—新たな時代に
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 (25)

授業中発表等 ( )

参加度 (15)

授業中の質問に対し、回答した場合には加点するので、積極的に回答することが望ましい。

## 2017 Syllabus

科目名 民俗学 I &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 鹿谷 勲	
テーマ 民俗文化の諸相	
授業の到達目標 ①民俗学のさまざまな分野を知ること ②民俗学のものの見方と調査法を理解をすること。	
授業の概要 民俗学は庶民の生活文化を調査研究する学問。その対象は、衣食住、生産生業、交通交易、社会生活、信仰、年中行事、民俗芸能、口頭伝承など多分野にわたるが、これらの民俗文化の諸相を具体的に検討しながら、暮らしにおける民俗文化の意味を考える。	
準備学習(予習・復習) 日ごろから、人との会話を通して、自分の知らない事柄を知るように努めてほしい。まず、身近な人から。	
内 容 第1回 あるく・みる・きく(内省と未来への民俗学) 第2回 探訪ノートを作る(民俗調査法1) 第3回 民俗誌とその作成(民俗調査法2) 第4回 身のまわりのさまざまなモノ(有形民俗・モノの民俗) 第5回 絵馬に思いを託す(有形民俗・画像の民俗) 第6回 民俗建築とは(有形民俗・建築) 第7回 町屋の暮らしと生活用具(有形民俗・民具調査) 第8回 ツネの食(食の民俗1) 第9回 ハレの食(食の民俗2) 第10回 民俗芸能の世界(1)オンダと田遊び 第11回 民俗芸能の世界(2)太鼓とカネ 第12回 関東の祭り(佃島とその祭り) 第13回 関西の祭り1(天神祭りと祇園祭り) 第14回 関西の祭り2(春日若宮おん祭り) 第15回 民俗歌謡とは(口頭伝承)	

## 履修上の注意点

民俗学は現代の暮らしにも関係があります。身の廻りの生活や周囲の光景に関心を抱いて、「あるく・みる・きく」を日ごろから実践してください。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

図説民俗探訪事典』1983

著者: 大島暁雄他編

出版社: 山川出版社

出版年: 1983

ISBN:

図解案内 日本の民俗

著者: 福田アジオ他

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2009

ISBN:

日本の祭り文化事典

著者: 全日本郷土芸能協会編

出版社: 東京書籍

出版年: 2006

ISBN:

奈良民俗紀行 西大和編

著者： 鹿谷 勲

出版社： 京阪奈情報教育出版

出版年： 2013

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 10 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 民俗学Ⅱ〈Z〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岸 泰子

テーマ

文化遺産を理解する

授業の到達目標

本授業は、人間によって作り出された遺産である文化遺産の概要を理解した上で、建築・都市史の視点からみた文化遺産の調査・分析の方法論を習得し、さらに文化遺産の役割などを理解することを目的とする。

授業の概要

文化遺産学の歴史や文化遺産を取り巻く制度などの文化遺産の概要を説明する。次に、日本・アジアの文化遺産の事例を紹介しながら、その現状・課題・調査方法などを概説する。最後に、世界遺産と文化遺産との関係や地域における文化遺産の役割などを解説していく。なお、受講生の反応(授業中課題)を勘案しつつ授業を進行していくため、授業の計画に記した各回の内容を変更する場合がある。

準備学習(予習・復習)

講義ノートを各自作成し、予習・復習を十分に行うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス(文化遺産とは何か)
- 第2回 文化遺産学の歴史
- 第3回 文化遺産をとりまく制度
- 第4回 文化遺産と景観1(日本・アジアの事例)
- 第5回 文化遺産と景観2(景観の保存の意味)
- 第6回 文化遺産と景観3(景観の調査)
- 第7回 文化遺産と建築1(日本・アジアの事例)
- 第8回 文化遺産と建築2(建造物の保存の意味)
- 第9回 文化遺産と建築3(建造物の調査)
- 第10回 文化遺産と技術
- 第11回 世界遺産と文化遺産
- 第12回 地域における文化遺産(京都府の事例から)
- 第13回 地域における文化遺産(兵庫県の実例から)
- 第14回 地域における文化遺産(滋賀県の実例から)
- 第15回 文化遺産の役割

履修上の注意点

基本的な受講のマナーを守ることができない受講生ならびに欠席が多い受講生については、単位認定の対象から除外する。病気等で欠席する場合は事前に連絡をすること(事後連絡は不可)。

教科書

使用しない(レジュメ配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(50)

小テスト( )

授業中課題(10)

授業中発表等( )

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 **世界遺産論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 池島 憲一	
テーマ	ユネスコ世界遺産の学習を通して、宗教、文化の多様性、各地域の課題、環境問題、芸術・建築など幅広くまなぶ。
授業の到達目標	160の国と地域にまたがる世界の有名な世界遺産100件、日本の世界遺産20件、および世界遺産の基礎知識を理解するとともに、世界遺産検定3級の合格をめざす。観光・旅行・海外での就職・文化財保護・自然保護に関心のある学生には有用と思う。
授業の概要	テキストとスライド画像で世界旅行気分もだして楽しくすすめたい。55か国の私の旅の話も織り込んでいきます。
準備学習(予習・復習)	テキストのページをしめすので、講義の前後に通読すること。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、世界遺産検定3級とは、世界遺産学習の意味。</p> <p>第2回 世界遺産の基礎知識1 ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ</p> <p>第3回 世界遺産の基礎知識2 登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産</p> <p>第4回 日本の世界遺産1 知床、白神山地、平泉、日光～京都、奈良</p> <p>第5回 日本の世界遺産2 法隆寺、紀伊山地、姫路城～富岡、日本の産業革命</p> <p>第6回 基礎知識と日本の世界遺産の復習</p> <p>第7回 世界の文化遺産1 人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教</p> <p>第8回 世界の文化遺産2 ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア</p> <p>第9回 世界の文化遺産3 近代国家の成立と世界の近代化、</p> <p>第10回 世界の文化遺産4 危機遺産、時事問題</p> <p>第11回 世界の自然遺産</p> <p>第12回 検定直前確認テスト</p> <p>第13回 検定3級の解答・解説</p> <p>第14回 学生の発表と質疑</p> <p>第15回 今後の世界遺産学習の方向、学生の意見発表</p>
履修上の注意点	講義後の個人質問も歓迎する。7月7日に学内で実施される第28回世界遺産検定の受検を推奨。(団体受検料:3級3,900円)
教科書	<p>きほんを学ぶ世界遺産100 世界遺産検定3級公式テキスト</p> <p>著者: NPO法人世界遺産アカデミー</p> <p>出版社: 株式会社マイナビ出版</p> <p>出版年: 2017 ISBN: 9.78484E+12</p>
参考書	<p>すべてがわかる世界遺産大事典(上)</p> <p>著者: 世界遺産アカデミー</p> <p>出版社: マイナビ出版</p> <p>出版年: 2016 ISBN: 9.78484E+12</p> <p>すべてがわかる世界遺産大事典(下)</p> <p>著者: 世界遺産アカデミー</p> <p>出版社: マイナビ出版</p> <p>出版年: 2016 ISBN: 9.78484E+12</p> <p>世界遺産年報2016</p> <p>著者: 日本ユネスコ協会連盟</p> <p>出版社: 講談社</p> <p>出版年: 2015 ISBN:</p>

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（50）

試験(世界遺産検定3級)の点数を評価。理由があつての未受検はレポートでおぎなえる。参加度とは出席とアンケートを指す。学生の発表は若干の加点がある。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 文化財行政論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山口 博	
テーマ	文化財保護の歴史と現状から、社会とこれからの文化財保護のあり方や文化財の保護とは何かを考える。
授業の到達目標	文化財の保護に関わる歴史から、社会情勢とともに変化する文化財やその保護のあり方について学び、その変化を導いてきた社会と文化財保護行政のあり方について考え、広く文化財とその保護の枠組みを理解する。
授業の概要	配布する資料、プリント等を基に、画像等も使用しつつ講義を進め、文化財保護法の概要や文化財行政の実際を学ぶ。なお、各回の内容は変更することがあり、人数等の条件が整えば1～2回の学外授業を行う。
準備学習(予習・復習)	周辺にある指定登録やその他未指定等を含む様々な文化財や文化財保護に関する情報にふれ、文化財の保護とその仕組みについて考える。
内 容	<p>第1回 文化財保護の歴史と沿革(プロローグ)</p> <p>第2回 文化財保護の萌芽(有形文化財の保護)</p> <p>第3回 文化財保護範囲の拡大(記念物の保護)</p> <p>第4回 新たな有形文化財保護と第2次大戦前後の文化財行政(国宝保存法と重要美術品)</p> <p>第5回 法隆寺の火災と文化財保護法(新しい文化財の出現と国民共有財産としての文化財)</p> <p>第6回 金閣・法隆寺の火災と戦後の文化財保護(防災設備整備と保護法改正)</p> <p>第7回 高度経済成長と文化財保護法改正(埋蔵文化財の保護対策と新たな建造物保護の施策)</p> <p>第8回 1975年改正後の文化財保護法の改正(登録文化財と文化的景観)</p> <p>第9回 文化財保護法と文化財の保存活用(改正保護法の概要と保存活用の制度)</p> <p>第10回 文化財の保存整備と活用の実際</p> <p>第11回 昨今の文化財保護の傾向(近代の文化財の保護ー近代化遺産と近代の遺産等ー)</p> <p>第12回 世界遺産と文化財保護法(オーセンティシティと日本の文化財修理)</p> <p>第13回 文化財の保存と管理(記念物の現状変更を中心に)</p> <p>第14回 埋蔵文化財の保護(遺跡の発掘調査と原因者負担)</p> <p>第15回 文化財保護の歴史と今後の文化財保護について</p>
履修上の注意点	
教科書	使用しない
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
岩波新書『遺跡保存を考える	
著者: 椎名慎太郎	
出版社: 岩波書店	
出版年: 1994	ISBN: 9.784E+12
成績評価	
試験・レポート(40)	小テスト( )
授業中課題(35)	授業中発表等( )
参加度(25)	
授業態度(課外授業等含む)並びに試験(授業中の課題、その他時間中のレポート等含む)	



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産総合演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏	
テーマ 歴史遺産学各分野の研究を体験する	
授業の到達目標 歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかにより形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。	
授業の概要 研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。	
準備学習(予習・復習) 演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 演習事前指導 第3回 歴史遺産学演習① 第4回 歴史遺産学演習② 第5回 歴史遺産学演習③ 第6回 歴史遺産学演習④ 第7回 演習事後学習 第8回 総括 第9回 歴史遺産学演習① 第10回 歴史遺産学演習② 第11回 歴史遺産学演習③ 第12回 歴史遺産学演習④ 第13回 歴史遺産学演習⑤ 第14回 歴史遺産学演習⑥ 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 30 ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 30 )

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **歴史遺産総合演習 I <b>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 有坂 道子・一瀬 和夫	
テーマ	
歴史遺産学各分野の研究を体験する	
授業の到達目標	
歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかにより形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。	
授業の概要	
研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。	
準備学習(予習・復習)	
演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。	
内 容	
第1回 ガイダンス	
第2回 演習事前指導	
第3回 歴史遺産学演習①	
第4回 歴史遺産学演習②	
第5回 歴史遺産学演習③	
第6回 歴史遺産学演習④	
第7回 演習事後学習	
第8回 総括	
第9回 歴史遺産学演習①	
第10回 歴史遺産学演習②	
第11回 歴史遺産学演習③	
第12回 歴史遺産学演習④	
第13回 歴史遺産学演習⑤	
第14回 歴史遺産学演習⑥	
第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産総合演習 I &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 有坂 道子・小林 裕子	
テーマ 歴史遺産学各分野の研究を体験する	
授業の到達目標 歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに関成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。	
授業の概要 研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。	
準備学習(予習・復習) 演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 演習事前指導 第3回 歴史遺産学演習① 第4回 歴史遺産学演習② 第5回 歴史遺産学演習③ 第6回 歴史遺産学演習④ 第7回 演習事後学習 第8回 総括 第9回 歴史遺産学演習① 第10回 歴史遺産学演習② 第11回 歴史遺産学演習③ 第12回 歴史遺産学演習④ 第13回 歴史遺産学演習⑤ 第14回 歴史遺産学演習⑥ 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 30 ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産総合演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 有坂 道子・小林 裕子	
テーマ 歴史遺産学各分野の研究を体験する	
授業の到達目標 歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかにより形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。	
授業の概要 研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。	
準備学習(予習・復習) 演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 演習事前指導 第3回 歴史遺産学演習① 第4回 歴史遺産学演習② 第5回 歴史遺産学演習③ 第6回 歴史遺産学演習④ 第7回 演習事後学習 第8回 総括 第9回 歴史遺産学演習① 第10回 歴史遺産学演習② 第11回 歴史遺産学演習③ 第12回 歴史遺産学演習④ 第13回 歴史遺産学演習⑤ 第14回 歴史遺産学演習⑥ 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 30 ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産総合演習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小林 裕子・登谷 伸宏	
テーマ 歴史遺産学各分野の研究を体験する	
授業の到達目標 歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに関成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。	
授業の概要 研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。	
準備学習(予習・復習) 演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 演習事前指導 第3回 歴史遺産学演習① 第4回 歴史遺産学演習② 第5回 歴史遺産学演習③ 第6回 歴史遺産学演習④ 第7回 演習事後学習 第8回 総括 第9回 歴史遺産学演習① 第10回 歴史遺産学演習② 第11回 歴史遺産学演習③ 第12回 歴史遺産学演習④ 第13回 歴史遺産学演習⑤ 第14回 歴史遺産学演習⑥ 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 30 ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産総合演習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏	
テーマ 歴史遺産学各分野の研究を体験する	
授業の到達目標 歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかにより形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。	
授業の概要 研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。	
準備学習(予習・復習) 演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 演習事前指導 第3回 歴史遺産学演習① 第4回 歴史遺産学演習② 第5回 歴史遺産学演習③ 第6回 歴史遺産学演習④ 第7回 演習事後学習 第8回 総括 第9回 歴史遺産学演習① 第10回 歴史遺産学演習② 第11回 歴史遺産学演習③ 第12回 歴史遺産学演習④ 第13回 歴史遺産学演習⑤ 第14回 歴史遺産学演習⑥ 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 30 ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 東洋美術史

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

授業の到達目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。

授業の概要

オリент(東洋)という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業は、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国における近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

準備学習(予習・復習)

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
- 第2回 史前・原始社会の美術—文明の形態
- 第3回 夏文明に関する諸説の検討
- 第4回 二里头遺跡の発掘及び青銅文明の出現
- 第5回 商周の美術—青銅器の出現と文飾の意味
- 第6回 春秋・戦国時代の美術—帛画・青銅工芸品、漆器(美術副葬品の出現)
- 第7回 秦代の美術—始皇帝陵と兵馬俑
- 第8回 秦代美術の問題点—その源流を考える
- 第9回 漢代の美術—死後世界の憧憬とその表現
- 第10回 墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
- 第11回 東アジア地域における秦漢美術の意義
- 第12回 魏晋南北朝時代—職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題
- 第13回 中国古代の絵画史論—謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
- 第14回 魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
- 第15回 内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 西洋美術史

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 河上 眞理		
テーマ 西洋美術史の軸(古代から19世紀まで)		
授業の到達目標 西洋の各時代、各様式の基礎的な特徴を把握し、その造形理念を理解する。また西洋美術史の軸となってきた代表的な作品に親しむとともに、こうした作品の現代における意味も考察する。欧米諸国への旅行に際してのヒントを得る。		
授業の概要 毎回プリント(授業のレジュメ)を配布し、1回毎に完結するように進めていく。		
準備学習(予習・復習) 予習:教科書の指定箇所の通読 復習:授業内容の整理ノートの作成		
内 容 第1回 ギリシア美術 第2回 ローマ美術 第3回 初期キリスト教美術 第4回 ビザンティン美術 第5回 ロマネスク美術 第6回 ゴシック美術 第7回 ルネサンス美術 I 第8回 ルネサンス美術 II 第9回 北方ルネサンス美術 第10回 バロック美術 第11回 新古典主義と美術アカデミー 第12回 ロマン主義 第13回 写実主義 第14回 印象主義 第15回 後期印象主義 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。		
履修上の注意点 通史の授業なので全回出席することが望ましい。		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 増補新装 カラー版西洋美術史 著者: 高階秀爾 出版社: 美術出版社 出版年: 2002年 ISBN:		
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(70) 授業中発表等(0) 参加度(30)		



## 2017 Syllabus

科目名 民俗学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 鹿谷 勲

テーマ

民俗文化の諸相

授業の到達目標

①民俗学のさまざまな分野を知ること ②民俗学のものの見方と調査法を理解をすること。

授業の概要

民俗学は庶民の生活文化を調査研究する学問。その対象は、衣食住、生産生業、交通交易、社会生活、信仰、年中行事、民俗芸能、口頭伝承など多分野にわたるが、これらの民俗文化の諸相を具体的に検討しながら、暮らしにおける民俗文化の意味を考える。

準備学習(予習・復習)

日ごろから、人との会話を通して、自分の知らない事柄を知るように努めてほしい。まず、身近な人から。

内 容

- 第1回 あるく・みる・きく(内省と未来への民俗学)
- 第2回 探訪ノートを作る(民俗調査法1)
- 第3回 民俗誌とその作成(民俗調査法2)
- 第4回 身のまわりのさまざまなモノ(有形民俗・モノの民俗)
- 第5回 絵馬に思いを託す(有形民俗・画像の民俗)
- 第6回 民俗建築とは(有形民俗・建築)
- 第7回 町屋の暮らしと生活用具(有形民俗・民具調査)
- 第8回 ツネの食(食の民俗1)
- 第9回 ハレの食(食の民俗2)
- 第10回 民俗芸能の世界(1)オンダと田遊び
- 第11回 民俗芸能の世界(2)太鼓とカネ
- 第12回 関東の祭り(佃島とその祭り)
- 第13回 関西の祭り1(天神祭りと祇園祭り)
- 第14回 関西の祭り2(春日若宮おん祭り)
- 第15回 民俗歌謡とは(口頭伝承)

履修上の注意点

民俗学は現代の暮らしにも関係があります。身の廻りの生活や周囲の光景に関心を抱いて、「あるく・みる・きく」を日ごろから実践してください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

図説民俗探訪事典』1983

著者: 大島暁雄他編

出版社: 山川出版社

出版年: 1983

ISBN:

図解案内 日本の民俗

著者: 福田アジオ他

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2009

ISBN:

日本の祭り文化事典

著者: 全日本郷土芸能協会編

出版社: 東京書籍

出版年: 2006

ISBN:

奈良民俗紀行 西大和編

著者： 鹿谷 勲

出版社： 京阪奈情報教育出版

出版年： 2013

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 10 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 文化遺産学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岸 泰子

テーマ

文化遺産を理解する

授業の到達目標

本授業は、人間によって作り出された遺産である文化遺産の概要を理解した上で、建築・都市史の視点からみた文化遺産の調査・分析の方法論を習得し、さらに文化遺産の役割などを理解することを目的とする。

授業の概要

文化遺産学の歴史や文化遺産を取り巻く制度などの文化遺産の概要を説明する。次に、日本・アジアの文化遺産の事例を紹介しながら、その現状・課題・調査方法などを概説する。最後に、世界遺産と文化遺産との関係や地域における文化遺産の役割などを解説していく。なお、受講生の反応(授業中課題)を勘案しつつ授業を進行していくため、授業の計画に記した各回の内容を変更する場合がある。

準備学習(予習・復習)

講義ノートを各自作成し、予習・復習を十分に行うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス(文化遺産とは何か)
- 第2回 文化遺産学の歴史
- 第3回 文化遺産をとりまく制度
- 第4回 文化遺産と景観1(日本・アジアの事例)
- 第5回 文化遺産と景観2(景観の保存の意味)
- 第6回 文化遺産と景観3(景観の調査)
- 第7回 文化遺産と建築1(日本・アジアの事例)
- 第8回 文化遺産と建築2(建造物の保存の意味)
- 第9回 文化遺産と建築3(建造物の調査)
- 第10回 文化遺産と技術
- 第11回 世界遺産と文化遺産
- 第12回 地域における文化遺産(京都府の事例から)
- 第13回 地域における文化遺産(兵庫県の事例から)
- 第14回 地域における文化遺産(滋賀県の事例から)
- 第15回 文化遺産の役割

履修上の注意点

基本的な受講のマナーを守ることができない受講生ならびに欠席が多い受講生については、単位認定の対象から除外する。病気等で欠席する場合は事前に連絡をすること(事後連絡は不可)。

教科書

使用しない(レジュメ配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

考古遺産や史跡の観察、記録、解釈の流れをつかむ。

授業の到達目標

I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand. をもとに、自己の研究課題の設定方法を修得する。

授業の概要

野外や教室での発表、ワークショップを行う。

準備学習(予習・復習)

気に入ったものをつねに探す。史跡・博物館・ショッピング街などにあるものと展示を意識的に見学する。

内 容

第1回 考古遺産がもつ機能的な仮説と観念的な領域を考える

第2回 史跡の見学発表の検討

第3回 史跡での見学発表(学外授業)

第4回 「状況」コンテキストと発掘調査報告の整理方法

第5回 オブジェクト・ワークショップ(はさみ、のり・テープ・ホッチキス使用)

第6回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)①

第7回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)②

第8回 「もの」がもつ観念構成的な領域と機能

第9回 「もの」からくるライフサイクルを考えるためのテーマの設定

第10回 「もの」からくるシーファアのライフサイクルのレポート発表と議論①

第11回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論②

第12回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論③

第13回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論④

第14回 考古学的コンテキストを検討する

第15回 さらにレポートの課題の報告と研究の見通し

履修上の注意点

ものの意味について考えること。

教科書

考古学の研究法

著者: 一瀬和夫

出版社: 学生社

出版年: 2013

ISBN: 9.78431E+12

参考書

古墳の研究 調べ学習日本の歴史2

著者: 一瀬和夫監修

出版社: ポプラ社

出版年: 2000

ISBN: 9.78459E+12

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(40)

授業中発表等(40)

参加度(20)

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈\*B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

授業の到達目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の概要

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。なお、必要に応じて古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館や美術館の展示を積極的に見学すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献史料を読む(1)
- 第3回 文献史料を読む(2)
- 第4回 文献史料を読む(3)
- 第5回 文献史料を読む(4)
- 第6回 文献史料を読む(5)
- 第7回 文献史料を読む(6)
- 第8回 文献史料を読む(7)
- 第9回 学外授業
- 第10回 くずし字を読む(1)
- 第11回 くずし字を読む(2)
- 第12回 くずし字を読む(3)
- 第13回 くずし字を読む(4)
- 第14回 くずし字を読む(5)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅠ &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

美術史研究の入門編として、その方法論を知り、体験する。

授業の到達目標

本講義では美術工芸品の研究史、関連作例、時代背景といった情報収集、及び美術工芸品の客観的な分析をおこなう能力を養うことを目標とする。なお、必要に応じて学外見学、外部講師招聘を実施する。

授業の概要

観察、ディスクリプション執筆、論文の分析評価をおこなう。

準備学習(予習・復習)

近畿圏の寺院、博物館や美術館で積極的に実物に接することをのぞむ。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 図書館ガイダンス
- 第3回 ディスクリプション執筆絵画編①
- 第4回 ディスクリプション執筆絵画編②
- 第5回 ディスクリプション執筆彫刻編①
- 第6回 ディスクリプション執筆彫刻編②
- 第7回 学外見学
- 第8回 テーマ論文講読と討論～絵画史の論文分析①
- 第9回 テーマ論文講読と討論～絵画史の論文分析②
- 第10回 テーマ論文講読と討論～絵画史の論文分析③
- 第11回 外部講師による特別講義
- 第12回 テーマ論文講読と討論～彫刻史の論文分析①
- 第13回 テーマ論文講読と討論～彫刻史の論文分析②
- 第14回 テーマ論文講読と討論～彫刻史の論文分析③
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

考古学関連の論文を読み解き、考古学用語を学び・実物資料に当たって資料を作成し発表する。

授業の到達目標

かつて定説になっていた研究論文が今ではどのように評価されているのかを理解すること。論文内容を妄信せず批判的読み解く術を学ぶ。

授業の概要

論文講読、課題の発表。司会者を決め、発表内容を討議する。

準備学習(予習・復習)

分からない用語・言葉は必ず発表前に辞書で調べる。図面・写真等の視覚資料を用いて発表すること。

内 容

- 第1回 自己紹介。授業内容の説明。授業計画の策定
- 第2回 学外授業
- 第3回 論文講読、討議
- 第4回 論文講読、討議
- 第5回 論文講読、討議
- 第6回 論文講読、討議
- 第7回 論文講読、討議
- 第8回 課題発表、討議
- 第9回 課題発表、討議
- 第10回 課題発表、討議
- 第11回 課題発表、討議
- 第12回 課題発表、討議
- 第13回 課題発表、討議
- 第14回 課題発表、討議
- 第15回 総括

履修上の注意点

私語を慎み討議に参加。図面・写真等の視覚資料を用いて発表すること。この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (60)

参加度 (30)

発表レジュメの内容、発表の仕方、司会進行、討議への参加度を総合的に勘案して評価する。この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ &lt;\*B&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

授業の到達目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の概要

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。なお、必要に応じて古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献史料を読む(1)
- 第3回 文献史料を読む(2)
- 第4回 文献史料を読む(3)
- 第5回 文献史料を読む(4)
- 第6回 文献史料を読む(5)
- 第7回 文献史料を読む(6)
- 第8回 文献史料を読む(7)
- 第9回 学外授業
- 第10回 くずし字を読む(1)
- 第11回 くずし字を読む(2)
- 第12回 くずし字を読む(3)
- 第13回 くずし字を読む(4)
- 第14回 くずし字を読む(5)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 登谷 伸宏

テーマ

『義演准后日記』を読む

授業の到達目標

文献史料の読解能力を養うことは、歴史遺産学研究を進めるための土台となる。本講義では古記録・古文書を解読するための基礎的な能力の獲得を目指す。さらに、論文を執筆する上で必要となる史料批判の方法についてもその基礎を学ぶ。

授業の概要

『義演准后日記』のうち、醍醐寺復興に関する記事を解読するとともに、それに関連する論文を講読する。なお、記事の内容に対する理解を深めるため、醍醐寺、伏見城下町、東山大仏殿跡などの見学を行う。

準備学習(予習・復習)

各回とも発表者は発表の準備をしていくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス 『義演准后日記』とは
- 第2回 文献史料を読むための準備① 論文講読
- 第3回 文献史料を読むための準備② 文献史料に触れる
- 第4回 文献史料を読むための準備③ 簡単な文献史料を読む
- 第5回 文献史料を読むための準備④ 簡単な文献史料を読む
- 第6回 『義演准后日記』を読む①
- 第7回 『義演准后日記』を読む②
- 第8回 『義演准后日記』を読む③
- 第9回 『義演准后日記』を読む④
- 第10回 『義演准后日記』を読む⑤
- 第11回 学外授業
- 第12回 『義演准后日記』を読む⑥
- 第13回 『義演准后日記』を読む⑦
- 第14回 『義演准后日記』を読む⑧
- 第15回 『義演准后日記』を読む⑨

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

おさらい古文書の基礎

著者: 林英夫監修

出版社: 柏書房

出版年: 2002年

ISBN:

醍醐寺大観 第1巻・2巻・3巻

著者: 有賀祥隆ほか編

出版社: 岩波書店

出版年: 2001年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 文献史料学 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

歴史考古学研究成果と文献史料学研究成果の相互検証

授業の到達目標

歴史時代の考古学研究法を学び、その成果の検証法を理解する。歴史時代の考古資料(遺構・遺物)に関する用語理解する。

授業の概要

毎回違うテーマで歴史考古研究成果を用意したプリントを使って紹介し、文献史料学成果と対比・検証し歴史的意義について考える。

準備学習(予習・復習)

配布したプリントで意味が分からない用語を考古学辞典、歴史考古学辞典で調べること。

内 容

- 第1回 西大寺伽藍の発掘成果と『西大寺資財流記帳』
- 第2回 富本銭と皇朝十二銭
- 第3回 古代の呪い 1
- 第4回 古代の呪い 2
- 第5回 古代の呪い 3
- 第6回 鎮壇と地鎮
- 第7回 大嘗祭
- 第8回 墨書土器の歴史的意義
- 第9回 律令国家の宮廷官衙における食器用器の特質と様式変化
- 第10回 古代の仏教 1 飛鳥白鳳時代
- 第11回 古代の仏教 2 国家仏教の始まり
- 第12回 古代の焼物の器名考証
- 第13回 我国における喫茶の始まり
- 第14回 木製百万塔
- 第15回 官衙官人関連遺物 帯金具
- 第16回 試験

履修上の注意点

授業中私語は慎むこと。止むをえない事情がある場合を除き5回以上欠席すると単位取得は難しくなる。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

試験のできばえ、参加度・課題の達成度等を総合的に勘案して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 文献史料学Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

文献史料を読む

授業の到達目標

史料を読み解く力を身につける

授業の概要

江戸時代の古文書の翻刻史料を用いて、古文書に関する基礎的な知識を身につけ、古文書の読み方・解釈の仕方を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

必ず復習をし、できるだけ予習をすること。また、博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

内 容

- 第1回 江戸時代の文献史料
- 第2回 史料を読むために
- 第3回 古文書の基礎知識(1)
- 第4回 古文書の基礎知識(2)
- 第5回 文献史料の読み方・調べ方(1)
- 第6回 文献史料の読み方・調べ方(2)
- 第7回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(1)
- 第8回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(2)
- 第9回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(3)
- 第10回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(4)
- 第11回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(5)
- 第12回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(6)
- 第13回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(7)
- 第14回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(8)
- 第15回 まとめと総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 美術工芸史研究Ⅰ

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 金子 典正

テーマ

仏教美術史の諸問題

授業の到達目標

日本の仏教美術史の形成と展開を学ぶことはもとより、従来の研究やその方法論を客観的に分析評価できる視点を養うことを目標とする。

授業の概要

飛鳥時代に朝鮮半島の百済から仏教が伝えられて以来、多くの寺院が建立されて仏像や仏画が制作されてきた。授業では各時代の代表作例と関連する漢文史料をとりあげ、歴史的背景や宗教的機能について、従来の研究に学びつつ問題点を考察する。作品について深く掘り下げて考えることの大切さを自覚し、美術史研究の面白さを感じてもらいたい。

準備学習(予習・復習)

奈良や京都の寺院を訪れる機会を増やし、信仰対象としての仏像を実見するとともに、造形的特徴についてもじっくり観察する。

内 容

- 第1回 仏教公伝と飛鳥時代の仏教美術
- 第2回 飛鳥寺建立と飛鳥大仏
- 第3回 法隆寺金堂釈迦三尊像と薬師像
- 第4回 法隆寺再建非再建論争
- 第5回 薬師寺金堂薬師三尊像の諸問題
- 第6回 興福寺阿修羅像の表情
- 第7回 東大寺大仏造立
- 第8回 正倉院と宝物の意義
- 第9回 鑑真和上像について
- 第10回 東寺兜跋毘沙門天像とその源流をめぐって
- 第11回 清凉寺釈迦如来像の意義
- 第12回 空也上人と六波羅蜜寺の仏像
- 第13回 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像
- 第14回 運慶:願成就院と浄楽寺の諸像をめぐって
- 第15回 三十三間堂の千体千手観音像と二八部衆像

履修上の注意点

教科書

使用しない。毎回授業中にプリントを配付する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 美術工芸史研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子・福士 雄也・篠 雅廣

テーマ

日欧芸術史特殊講義

授業の到達目標

日本における芸術表現は外来の文化の摂取という側面を持って変容を続けてきた。制作の現場で見られたのは単なる模倣ではなく、自らが受け継いできた伝統と外来のものとの接合、場合によっては換骨奪胎の結果としてのキメラの生成だったとも言える。本講義では我が国の特筆すべき作品の制作された時代背景を理解しつつ、一方で外来のものとしての西洋の芸術観を理解することを目標とする。

授業の概要

本講義では日本芸術史を近世と近代に分け各時代の作品についてテーマ性をもって史料、映像、画像を使用しながら読み解いていく。また近・現代の西洋の芸術観を日本との関連をもとに具体的に読み解く。なお、必要に応じて学外見学を実施する。

準備学習(予習・復習)

基本知識として日本・西洋美術史の通史を把握しておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス:ジャポニスムとは?
- 第2回 ジャポニスム①
- 第3回 ジャポニスム②
- 第4回 ジャポニスム③
- 第5回 ジャポニスム④まとめ
- 第6回 近世の絵画①近世絵画の特質
- 第7回 近世の絵画②
- 第8回 近世の絵画③
- 第9回 近世の絵画④
- 第10回 近世の絵画⑤まとめ
- 第11回 近代の絵画①
- 第12回 近代の絵画②
- 第13回 近代の絵画③
- 第14回 近代の絵画④
- 第15回 近代の絵画⑤まとめ

履修上の注意点

教科書

適宜資料配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

試験をレポートで代替する可能性がある。

## 2017 Syllabus

科目名 **歴史遺産調査実習**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 通年集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	
テーマ	
考古学の基本となる測量・実測調査や発掘調査の一連の手続きにふれる	
授業の到達目標	
いろいろな役割を測量や発掘調査が含むことを体で感じ、その中でまず自身が進んで行動できるものを見つけ、そこから発掘技術の修得へと向かう。	
授業の概要	
本学などで8月を中心にして実施する測量・実測調査、発掘調査の中で6日以上を選択して参加する。事前に測量学習と調査の打ち合わせを行う。山科(大塚・小山)石切丁場等で調査する予定である。	
準備学習(予習・復習)	
発掘調査や遺跡調査の現地説明会などに参加してみる。	
内 容	
第1回	平板・水準測量などの学習
第2回	平板・水準測量などの学習
第3回	遺跡発掘の見学
第4回	遺跡発掘の見学
第5回	ガイダンス
第6回	打合せ
第7回	打合せ
第8回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第9回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第10回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第11回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第12回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第13回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第14回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第15回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第16回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第17回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第18回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第19回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第20回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第21回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第22回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第23回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第24回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第25回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第26回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第27回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第28回	調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
第29回	調査報告
第30回	調査報告

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

よくわかる測量実習(増補)

著者: 細川吉晴他

出版社：コロナ社

出版年：2009

ISBN： 9.78434E+12

埋蔵文化財発掘調査の手引き

著者： 文化庁文化財保護部

出版社： 国土地理協会

出版年： 1966

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 0 )

参加度 ( 60 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 考古学研究Ⅰ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

授業の到達目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解する。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。

授業の概要

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに向き今後の考古学のあり方を考える。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 考古学の枠組み①過去に何がおこったか
- 第2回 考古学の枠組み②考古学の目的と方法
- 第3回 状況①発掘とは
- 第4回 状況②分布と予備調査、発掘の手続き
- 第5回 状況③発掘と整理
- 第6回 型式と層位、共存①層位と文化面、異教時代の考古学(北欧)
- 第7回 型式と層位、共存②型式学と編年研究(北欧と北米)
- 第8回 型式と層位、共存③相対年代と絶対年代の間
- 第9回 型式と層位、共存④共存資料と年代(日本)
- 第10回 考古学の文化解釈(北米)
- 第11回 考古学の歴史解釈(欧)
- 第12回 発掘現場の見学(学外)
- 第13回 パブリック・アーケオロジー(欧米)
- 第14回 考古学の活用と現代(日本)
- 第15回 これからの考古学

履修上の注意点

教科書

考古学の研究方法

著者: 一瀬和夫

出版社: 学生社

出版年: 2013

ISBN: 9.78431E+12

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 遺産情報演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	
テーマ 建築史学の理論と方法	
授業の到達目標 建築史研究を行うにあたっては、現存する歴史的建造物から平面・構造・デザインなどについて情報を読み取り、それらを分析する能力が求められる。本講義では、歴史的建造物、とりわけ寺院建築からさまざまな情報を取り出し、それを分析するための基礎的な知識・技術の習得を目指す。	
授業の概要 今年度は、浄土真宗の寺院本堂をとりあげ、平面・構造・デザインの観点から分析を加える。具体的には、滋賀県内に所在する浄土真宗寺院本堂について実際に観察・分析することで、その編年を行っていく予定である。なお、本講義では、滋賀県内の浄土真宗寺院本堂を見学、あるいは調査することが中心となる。そのため、学外授業が多くなることは了承しておいて欲しい。	
準備学習(予習・復習) 寺院建築について基本的な知識を身につけておく必要があるので、歴史的建造物に関する専門用語は事前に覚えるようにして欲しい。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 歴史的建造物の調査とその方法 第3回 浄土真宗寺院本堂の歴史について 第4回 浄土真宗寺院本堂の分析 ① 第5回 浄土真宗寺院本堂の分析 ② 第6回 浄土真宗寺院本堂の分析 ③ 第7回 中間報告 第8回 浄土真宗寺院本堂の分析 ④ 第9回 浄土真宗寺院本堂の分析 ⑤ 第10回 浄土真宗寺院本堂の分析 ⑥ 第11回 中間報告 第12回 浄土真宗寺院本堂の分析 ⑦ 第13回 浄土真宗寺院本堂の分析 ⑧ 第14回 浄土真宗寺院本堂の分析 ⑨ 第15回 成果のまとめ・発表	
履修上の注意点 参拝に関する基本的な礼儀を守れない学生の受講は認めない。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 建物の見方・しらべ方 江戸時代の寺院と神社 著者: 文化庁 歴史的建造物調査研究会 出版社: ぎょうせい 出版年: 1994年 ISBN: 浄土真宗寺院の建築史的研究 著者: 櫻井敏雄 出版社: 法政大学出版局 出版年: 1997年 ISBN:	
成績評価	

a10412e110

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 40 )  
参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 遺産情報演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 集中	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	
テーマ	
醍醐寺の資産を観察・調査し、パブリックな取り組みへの提案を模索する。	
授業の到達目標	
<p>醍醐寺には、京都最古、天曆6年(952)建立の五重塔をはじめ、各時代に建てられた堂宇が数多く存在する。広大な境内では、2月に「五大力尊仁王会」4月に「豊太閤花見行列」が毎年行われることは著名である。さらに、醍醐寺のもつ歴史文化資産を起点に子どもから大人まで親しめる「醍醐寺てらこやプロジェクト」や中・高校生、大学連携プログラムまで、多種多彩な活動プログラムがある。この演習ではまず醍醐寺の資産を知り、その全容を観察・把握、まとめ、理解する。つぎに、それらを分析することで、その価値を広く周知・活用するための活動を提案するとともに、その資産のパブリック化を試みる。そして、演習を通して、活動プログラム内容の充実や広報面などの提案を行う能力を身につけることを目指す。</p>	
授業の概要	
<p>この演習では、まず「文化遺産」の文化資産群について、観察・調査する。つぎに、それに関わろうとする人たちに、醍醐寺への支援や子ども・地元の人たちへの深い理解の促進、それを行うための経験者への働きかけをうながす方策を考えだすことを目指す。実際には、醍醐寺の文化遺産の資産の「パブリック化」活動の中味をより広く周知することの実地学修となる。現在境内に広がる文化資産の観察やヒアリング等を行い、さらに周辺に向けてより広く世界遺産の資産をパブリック化する活動課題について醍醐寺関係者と発見し、より深く関わりたい人たちを誘発する新たな活動のアイデアなどを探っていく。</p>	
準備学習(予習・復習)	
随時、授業展開に合わせて醍醐寺の情報を得るとともに現地観察及び調査を行う。	
内 容	
<p>第1回 醍醐寺境内の観察  第2回 インタビュートレーニング 5月13日(於:キャンパスプラザ京都)  第3回 全体オリエンテーション 5月28日(於:キャンパスプラザ京都)  第4回 世界遺産醍醐寺プロジェクトについてインタビュー(於:醍醐寺)  第5回 醍醐寺インタビューのまとめと課題発見、調査計画の立案(於:キャンパスプラザ京都)  第6回 境内の文化資産の観察調査と記録調査(於:醍醐寺)  第7回 境内の文化資産の観察調査と記録調査(於:醍醐寺)  第8回 資産のパブリック化に向けてのプロジェクト活動案の集約と分析(於:キャンパスプラザ京都)  第9回 世界遺産醍醐寺プロジェクトのパブリック化に向けての調査項目の集約(於:醍醐寺)  第10回 世界遺産パブリック化のモックアップを作成し、境内などでのインタビュー調査(於:醍醐寺)  第11回 モックアップなどの評価を分析して提言案をまとめる(於:キャンパスプラザ京都)  第12回 プレゼンテーションの準備・プレゼンテーショントレーニング(レクチャー編) 10月下旬(於:キャンパスプラザ京都)  第13回 プレゼンテーションの実践(於:京都橋大学)  第14回 世界遺産パブリックに対する提言発表(成果発表会) 12月10日(於:キャンパスプラザ京都)  第15回 報告書の提出と互いの報告書に対する討議 12月10日(於:キャンパスプラザ京都)</p>	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
成績評価	
試験・レポート( )	小テスト( )
授業中課題(60)	授業中発表等(20)
参加度(20)	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

古文書に親しむ(有坂) 美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林)

授業の到達目標

さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する(有坂)。美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る(小林)。

授業の概要

古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する(有坂)。計測・デッサン・撮影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する(小林)。

準備学習(予習・復習)

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見ること(有坂)。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。

内 容

- 第1回 古文書を扱う①(有坂)
- 第2回 古文書を扱う②(有坂)
- 第3回 古文書を扱う③(有坂)
- 第4回 くずし字を読む①(有坂)
- 第5回 くずし字を読む②(有坂)
- 第6回 くずし字を読む③(有坂)
- 第7回 くずし字を読む④(有坂)
- 第8回 くずし字を読む⑤・総括(有坂)
- 第9回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林)
- 第10回 デッサン①(小林)
- 第11回 デッサン②(小林)
- 第12回 法量計測・撮影(小林)
- 第13回 画像処理(小林)
- 第14回 スキャニング(小林)
- 第15回 簡単なディスクリプション(小林)
- 第16回 調書作成・総括(小林)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 有坂 道子・藤本 史子	
テーマ	
考古学研究の基本となる考古資料の実測・拓本技術の習得(藤本) 古文書に親しむ(有坂)	
授業の到達目標	
考古資料の実測や拓本技術を学ぶ過程で、遺物を観察し、検討する能力を養う(藤本)。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する(有坂)。	
授業の概要	
出土した土器の実測図を作成し、瓦の拓本を採る。その作業過程で遺物の観察方法を学び、製作方法についての理解を深める(藤本)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する(有坂)。	
準備学習(予習・復習)	
遺跡や遺物を見学し、考古資料を実見するように心がける。実習内容で理解できない点については、積極的に質問し、解決したうえで作業を進める(藤本)。出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見ること(有坂)。	
内 容	
第1回	考古資料の実測について解説、実測の開始(藤本)
第2回	実測(輪郭と断面)①(藤本)
第3回	実測(輪郭と断面)②(藤本)
第4回	実測(復元実測・割付け)(藤本)
第5回	実測(遺物観察・注記)(藤本)
第6回	拓本について解説、拓本の開始(藤本)
第7回	拓本(銭貨・瓦)(藤本)
第8回	拓本(瓦)(藤本)
第9回	古文書を扱う①(有坂)
第10回	古文書を扱う②(有坂)
第11回	古文書を扱う③(有坂)
第12回	くずし字を読む①(有坂)
第13回	くずし字を読む②(有坂)
第14回	くずし字を読む③(有坂)
第15回	くずし字を読む④・総括(有坂)
履修上の注意点	
資料はていねいに扱い、作業に適した服装を心がけること(藤本)。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
考古学調査研究ハンドブックス 2 整理・保存法	
著者: 岩崎卓也ほか編集	
出版社: 雄山閣	
出版年: 1993年	ISBN:
考古実測の技法	
著者: 江坂輝彌監修	
出版社: ニュー・サイエンス社	
出版年: 1996年	ISBN:

発掘調査のてびき―整理・報告書編―

著者： 文化庁文化財部記念物課監修

出版社： 同成社

出版年： 2010年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

実測図・拓本の成果と参加度により評価する(藤本)。

---

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I &lt;c&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 登谷 伸宏・藤本 史子

テーマ

歴史的建造物を知る(登谷) 考古学研究の基本となる考古資料の実測・拓本技術の習得(藤本)

授業の到達目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。考古資料の実測や拓本技術を学ぶ過程で、遺物を観察し、検討する能力を養う(藤本)。

授業の概要

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。出土した土器の実測図を作成し、瓦の拓本を採る。その作業過程で遺物の観察方法を学び、製作方法についての理解を深める(藤本)。

準備学習(予習・復習)

歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい(登谷)。遺跡や遺物を見学し、考古資料を実見するように心がける。実習内容で理解できない点については、積極的に質問し、解決したうえで作業を進める(藤本)。

内 容

- 第1回 ガイダンス(登谷)
- 第2回 実測調査①(学外授業)(登谷)
- 第3回 実測調査②(学外授業)(登谷)
- 第4回 実測調査③(学外授業)(登谷)
- 第5回 実測調査④(学外授業)(登谷)
- 第6回 図面の清書①(登谷)
- 第7回 図面の清書②(登谷)
- 第8回 図面の清書③、まとめ(登谷)
- 第9回 考古資料の実測について解説、実測の開始(藤本)
- 第10回 実測(輪郭と断面)①(藤本)
- 第11回 実測(輪郭と断面)②(藤本)
- 第12回 実測(復元実測・割付け)(藤本)
- 第13回 実測(遺物観察・注記)(藤本)
- 第14回 拓本について解説、拓本の開始(藤本)
- 第15回 拓本(銭貨・瓦)(藤本)
- 第16回 拓本(瓦)(藤本)

履修上の注意点

資料はていねいに扱い、作業に適した服装を心がけること(藤本)。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新建築学大系50 歴史的建造物の保存

著者: 新建築学大系編集委員会編

出版社: 彰国社

出版年: 1999年

ISBN:

考古学調査研究ハンドブック 2 整理・保存法

著者: 岩崎卓也ほか編集

出版社: 雄山閣

出版年: 1993年

ISBN:

考古実測の技法

著者： 江坂輝彌監修

出版社： ニュー・サイエンス社

出版年： 1996年

ISBN:

発掘調査のてびきー整理・報告書編ー

著者： 文化庁文化財部記念物課監修

出版社： 同成社

出版年： 2010年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

実測図・拓本の成果と参加度により評価する(藤本)。

---



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 巽 淳一郎・登谷 伸宏	
テーマ	
歴史的建造物を知る(登谷) 考古資料(焼物)の図化実測法と拓本をマスターする(巽)	
授業の到達目標	
回転を利用して製作された焼物を実測。実測対象の図で表せない諸点を観察し、実測図の脇に注記する(巽)。	
授業の概要	
歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身につけるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。	
準備学習(予習・復習)	
歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。轆轤で作られた焼物と轆轤を使用せず、手製で作られた焼物の違いを考える(巽)。	
内 容	
第1回	ガイダンス(登谷)
第2回	実測調査①(学外授業)(登谷)
第3回	実測調査②(学外授業)(登谷)
第4回	実測調査③(学外授業)(登谷)
第5回	実測調査④(学外授業)(登谷)
第6回	図面の清書①(登谷)
第7回	図面の清書②(登谷)
第8回	図面の清書③、まとめ(登谷)
第9回	ガイダンス。考古学資料の資料化法、考古資料の観察視点(巽)
第10回	焼物の実測 1(巽)
第11回	焼物の実測 2(巽)
第12回	焼物の実測 3(巽)
第13回	焼物の実測 4(巽)
第14回	焼物の実測 5(巽)
第15回	焼物の実測 6(巽)
第16回	拓本実習(巽)
履修上の注意点	
実測資料には文化財も含まれます。美術品のように注意深く扱ってください。最初のガイダンスを欠席すると、同じことを何度も講義しなくてはならず、授業進行の妨げになりますので、やむを得ない場合を除き欠席はしないでください。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 60 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 40 )	
実測図のできばえ、参加度、取り組む姿勢を総合的に勘案して評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅱ〈b〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小林 裕子・登谷 伸宏

テーマ

美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林) 歴史的建造物を知る(登谷)

授業の到達目標

美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る(小林)。歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。

授業の概要

影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する(小林)。歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。

準備学習(予習・復習)

寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい(登谷)。

内 容

- 第1回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林)
- 第2回 デッサン①(小林)
- 第3回 デッサン②(小林)
- 第4回 法量計測・撮影(小林)
- 第5回 画像処理(小林)
- 第6回 スキャニング(小林)
- 第7回 簡単なディスクリプション(小林)
- 第8回 調書作成・総括(小林)
- 第9回 ガイダンス(登谷)
- 第10回 実測調査①(学外授業)(登谷)
- 第11回 実測調査②(学外授業)(登谷)
- 第12回 実測調査③(学外授業)(登谷)
- 第13回 実測調査④(学外授業)(登谷)
- 第14回 図面の清書①(登谷)
- 第15回 図面の清書②(登谷)
- 第16回 図面の清書③、まとめ(登谷)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

古文書に親しむ(有坂) 美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林)

授業の到達目標

さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する(有坂)。美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る(小林)。

授業の概要

古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する(有坂)。計測・デッサン・撮影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する(小林)。

準備学習(予習・復習)

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見ること(有坂)。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもよめる(小林)。

内 容

- 第1回 古文書を扱う①(有坂)
- 第2回 古文書を扱う②(有坂)
- 第3回 古文書を扱う③(有坂)
- 第4回 くずし字を読む①(有坂)
- 第5回 くずし字を読む②(有坂)
- 第6回 くずし字を読む③(有坂)
- 第7回 くずし字を読む④(有坂)
- 第8回 くずし字を読む⑤・総括(有坂)
- 第9回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林)
- 第10回 デッサン①(小林)
- 第11回 デッサン②(小林)
- 第12回 法量計測・撮影(小林)
- 第13回 画像処理(小林)
- 第14回 スキャニング(小林)
- 第15回 簡単なディスクリプション(小林)
- 第16回 調書作成・総括(小林)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	
テーマ 自己の研究テーマを設定し、それに伴う資料を収集し、分類、分析案などを中心に発表する。	
授業の到達目標 設定した研究テーマにおいて、まず最も最新の成果を学ばせ、課題点を見つけ、自分の研究視角を定め、計画的に研究を進める。誰でも分かってもらえるような発表の仕方を考え工夫させる。	
授業の概要 各テーマ発表においては、計画をたてて順次発表を行う。必要に応じて、遺跡、建造物や博物館などを見学する。	
準備学習(予習・復習) 興味をもった研究論文を読む。	
内 容 第1回 各自、研究テーマの設定をする。 第2回 学外授業。各自のテーマに沿った形で授業の場を設定。 第3回 学外授業。各自のテーマに沿った形で授業の場を設定。 第4回 研究発表・討議 第5回 研究発表・討議 第6回 研究発表・討議 第7回 研究発表・討議 第8回 研究発表・討議 第9回 研究発表・討議 第10回 学外授業。各自のテーマに沿った形で授業の場を設定。土曜もしくは日曜に実施。 第11回 研究発表・討議 第12回 研究発表・討議 第13回 研究発表・討議 第14回 研究発表・討議 第15回 総括・今後の目標と課題	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

卒論に結びつく研究テーマを設定し、関連する先行研究成果を批判的に読み解く。

授業の到達目標

読解力を身に付け、できるだけ多くの先行研究を収集し、読み解く。独自の視点から研究テーマを見つめ直す。

授業の概要

司会者を決め、討議形式で授業を進める。

準備学習(予習・復習)

必ず発表前に分からない用語を辞書で調べること。理解を得やすいように図・写真等の視覚資料を用意して発表すること。

内 容

- 第1回 自己紹介。授業内容の説明。授業計画の策定  
 第2回 学外授業  
 第3回 ゼミ発表、討議  
 第4回 ゼミ発表、討議  
 第5回 ゼミ発表、討議  
 第6回 ゼミ発表、討議  
 第7回 ゼミ発表、討議  
 第8回 ゼミ発表、討議  
 第9回 ゼミ発表、討議  
 第10回 ゼミ発表、討議  
 第11回 ゼミ発表、討議  
 第12回 ゼミ発表、討議  
 第13回 ゼミ発表、討議  
 第14回 ゼミ発表、討議  
 第15回 夏休み中の課題と研究計画の策定

履修上の注意点

私語を慎み討議に参加すること。やむをえない場合を除き、5回以上欠席すると単位の取得は難しくなる。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (60)

参加度 (30)

発表レジュメの内容、発表の仕方、司会の進め方、討議への参加度等を総合的に勘案して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

授業の到達目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・学部講師による特別講義を実施することがある。

授業の概要

本演習では、『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

準備学習(予習・復習)

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス及び『七大寺日記』解題
- 第2回 上回生によるデモンストレーション
- 第3回 薬師寺条①
- 第4回 薬師寺条②
- 第5回 薬師寺条③
- 第6回 薬師寺条④
- 第7回 薬師寺条⑤
- 第8回 学外見学
- 第9回 薬師寺条⑥
- 第10回 薬師寺条⑦
- 第11回 薬師寺条⑧
- 第12回 薬師寺条⑨
- 第13回 薬師寺条⑩
- 第14回 薬師寺条⑪
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者： 藤田経世

出版社： 中央公論美術出版

出版年： 1972年

ISBN:

参考書

奈良六大寺大観全14巻

著者： 奈良六大寺大観刊行会

出版社： 岩波書店

出版年： 1999~2001年

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者：

出版社： 保育社

出版年：

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の古文書を読む(初級)

授業の到達目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。必要に応じて古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 内海家文書を読む(1)
- 第3回 内海家文書を読む(2)
- 第4回 内海家文書を読む(3)
- 第5回 内海家文書を読む(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 内海家文書を読む(5)
- 第8回 内海家文書を読む(6)
- 第9回 内海家文書を読む(7)
- 第10回 内海家文書を読む(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 内海家文書を読む(9)
- 第13回 内海家文書を読む(10)
- 第14回 内海家文書を読む(11)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

出席を重視する。



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ〈\*a〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

論文作成に向けた各自テーマ研究の深化

授業の到達目標

目指す研究視角を明確にさせ、今後の研究計画が立てられるまでに研究を深化させる。

授業の概要

資料を集め、観察、分析、検討、自己の研究発表と質疑応答、その後にさらに研究計画を組み立てる。

準備学習(予習・復習)

研究テーマに則した資料を調査する。

内 容

- 第1回 独創性のある自己研究を目指すため、考えたことを研究発表するための計画  
 第2回 資料等の観察や収集のための遺跡や研究機関の見学  
 第3回 研究発表・討議  
 第4回 研究発表・討議  
 第5回 研究発表・討議  
 第6回 研究発表・討議  
 第7回 研究発表・討議  
 第8回 研究発表・討議  
 第9回 研究発表・討議  
 第10回 研究発表・討議  
 第11回 研究発表・討議  
 第12回 講演会等の参加とその評価  
 第13回 研究発表の総評  
 第14回 研究発表の総評  
 第15回 総括 研究主旨と計画の立案 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

研究テーマに沿って学習を深め、卒論作成に繋げる。

授業の到達目標

先行研究成果を批判的に読み問題点を整理する。研究テーマに則した考古資料の収集。

授業の概要

司会者を決め、討議形式で授業を進め最後に教員が総括し、問題点を指摘して課題を与える。

準備学習(予習・復習)

必ず発表前に分からない用語・言葉を調べる。図・写真を用意して発表すること。

内 容

- 第1回 夏休み中の課題発表
- 第2回 ゼミ発表、討議
- 第3回 ゼミ発表、討議
- 第4回 ゼミ発表、討議
- 第5回 ゼミ発表、討議
- 第6回 ゼミ発表、討議
- 第7回 ゼミ発表、討議
- 第8回 ゼミ発表、討議
- 第9回 ゼミ発表、討議
- 第10回 ゼミ発表、討議
- 第11回 ゼミ発表、討議
- 第12回 ゼミ発表、討議
- 第13回 ゼミ発表、討議
- 第14回 論文目次の策定
- 第15回 論文目次の策定

履修上の注意点

発表中は私語を慎み討議に積極的に加わる。発表者は図面・写真などの視覚資料を用いて分かり易く説明すること。この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (60)

参加度 (30)

発表レジュメの内容、発表の仕方、司会の進行のあり方、討議への参加度を総合的に勘案して評価する。この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までに合計40  
単位以上修得済みである  
こと クラス指定

担当者 小林 裕子

## テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

## 授業の到達目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・外部講師による特別講義を実施することがある。

## 授業の概要

前期の演習Ⅰに引き続き『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

## 準備学習(予習・復習)

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法隆寺条①
- 第3回 法隆寺条②
- 第4回 法隆寺条③
- 第5回 法隆寺条④
- 第6回 法隆寺条⑤
- 第7回 法隆寺条⑥
- 第8回 外部講師による特別講義
- 第9回 法隆寺条⑦
- 第10回 法隆寺条⑧
- 第11回 法隆寺条⑨
- 第12回 法隆寺条⑩
- 第13回 法隆寺条⑪
- 第14回 学外見学
- 第15回 卒論構想発表会

## 履修上の注意点

## 教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者： 藤田経世

出版社： 中央公論美術出版

出版年： 1972年

ISBN:

## 参考書

奈良六大寺大観全14巻

著者： 奈良六大寺大観刊行会

出版社： 岩波書店

出版年：

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者：

出版社： 保育社

出版年：

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ &lt;\*d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定
担当者 有坂 道子	
テーマ 近世の古文書を読む(初級)	
授業の到達目標 古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。	
授業の概要 古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。必要に応じて古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。	
準備学習(予習・復習) 必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 内海家文書を読む(1) 第3回 内海家文書を読む(2) 第4回 内海家文書を読む(3) 第5回 内海家文書を読む(4) 第6回 学外授業 第7回 内海家文書を読む(5) 第8回 内海家文書を読む(6) 第9回 内海家文書を読む(7) 第10回 内海家文書を読む(8) 第11回 学外授業 第12回 内海家文書を読む(9) 第13回 内海家文書を読む(10) 第14回 内海家文書を読む(11) 第15回 総括	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 くずし字用例辞典 著者: 児玉幸多 出版社: 東京堂出版 出版年: 平成22年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 40 ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 60 ) 出席を重視する。	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	
テーマ	歴史遺産の調査から報告書の作成までの作業工程と作業内容を理解する。
授業の到達目標	平板測量法の習熟、考古遺産資料などの図面のトレース図作成。
授業の概要	作業室、野外作業。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 考古遺産などの調査法の概要。</p> <p>第2回 野外での平板測量。</p> <p>第3回 野外での平板測量。</p> <p>第4回 野外での平板測量。</p> <p>第5回 野外での平板測量。</p> <p>第6回 野外での平板測量。</p> <p>第7回 野外での平板測量。</p> <p>第8回 発掘調査現場見学(学外授業)。</p> <p>第9回 考古遺産資料の実測。</p> <p>第10回 考古遺産資料の実測。</p> <p>第11回 考古遺産資料の実測。</p> <p>第12回 測量図面・考古遺産資料図のトレース。</p> <p>第13回 測量図面・考古遺産資料図のトレース。</p> <p>第14回 測量図面・考古遺産資料図のトレース。</p> <p>第15回 考古遺産資料の展示施設の見学(学外授業)。</p>
履修上の注意点	共同作業を重視すること。分からない点があれば質問すること。
教科書	
考古学の方法	
著者: 一瀬和夫	
出版社: 学生社	
出版年: 2013	ISBN: 9.78431E+12
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (60)	授業中発表等 (20)
参加度 (20)	
課題の達成度、課題の取り組み方、参加度、共同作業での協調性等を総合的に勘案して評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小林 裕子	
テーマ	
美術作品の形状記述や図面作成、美術工芸作品(絵画・工芸品等)の調書作成方法や取扱など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。	
授業の到達目標	
学芸員や研究者は直接実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。なお、必要に応じて外部講師を招聘する。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。	
内 容	
第1回 ガイダンス	
第2回 美術工芸作品の種類と取扱説明	
第3回 取扱実習(箱物①)	
第4回 取扱実習(箱物②)	
第5回 取扱実習(絵画①)	
第6回 取扱実習(絵画②)	
第7回 取扱実習(絵画③)	
第8回 取扱実習(絵画④)	
第9回 取扱実習(染織①)	
第10回 取扱実習(染織②)	
第11回 取扱実習(金工①)	
第12回 取扱実習(金工②)	
第13回 宿泊調査実習のための事前学習	
第14回 宿泊調査実習のための事前学習	
第15回 まとめ ※なお、必要に応じて学外授業をおこなうことがある。	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 60 )	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ &lt;c&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

発掘調査から報告書の作成までの作業工程と作業内容を理解する。

授業の到達目標

平板測量法の習熟、遺構・遺物図面のトレース図作成。

授業の概要

作業室、野外作業。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 発掘調査法の概要。
- 第2回 野外での平板測量。
- 第3回 野外での平板測量。
- 第4回 野外での平板測量。
- 第5回 野外での平板測量。
- 第6回 野外での平板測量。
- 第7回 野外での平板測量。
- 第8回 発掘調査現場見学(学外授業)。
- 第9回 遺物出土状況の実測。
- 第10回 遺物出土状況の実測。
- 第11回 遺物出土状況の実測。
- 第12回 測量図面・遺物出土状況図のトレース。
- 第13回 測量図面・遺物出土状況図のトレース。
- 第14回 測量図面・遺物出土状況図のトレース。
- 第15回 考古資料の展示施設の見学(学外授業)。

履修上の注意点

勝手な行動を執らず協調して共同作業に当たること。分からない点があれば質問すること。

教科書

発掘調査の手引き—集落遺跡発掘編一、—整理・報告書編—

著者： 文化庁文化財部記念物課

出版社：

出版年： 2010

ISBN：

参考書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

課題の達成度、課題の取り組み方、参加度、共同作業での協調性等を総合的に勘案して評価する。



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ &lt;d&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方を実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 実習(1)古文書の扱い方
- 第3回 実習(2)実習で扱う古文書について
- 第4回 実習(3)内海家文書の整理①
- 第5回 実習(4)内海家文書の整理②
- 第6回 学外授業
- 第7回 実習(5)内海家文書の解読・初級①
- 第8回 実習(6)内海家文書の解読・初級②
- 第9回 実習(7)内海家文書の解読・初級③
- 第10回 実習(8)内海家文書の解読・初級④
- 第11回 学外授業
- 第12回 実習(9)内海家文書の解読・初級⑤
- 第13回 実習(10)内海家文書の解読・初級⑥
- 第14回 実習(11)内海家文書の解読・初級⑦
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 70 )

出席を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	
テーマ	
歴史遺産の調査成果を記録、報告するという基礎と展示などでの活用と周知の方法をつかむ	
授業の到達目標	
I do and I understand. I work and I utilize.をもとに、主に統計、写真、絵画、デザイン、印刷、展示、プレゼンテーション、教育、ボランティア的要素などの技術修得をめざす。	
授業の概要	
主にPC教室で、報告書作成や展示作業を行う。実際の印刷や活用資料製作の見学をする。	
準備学習(予習・復習)	
デジタルカメラ、Photoshop(画像)、Illustrator(製図)、InDesign(印刷編集)のコンピュータ・ソフトに触れる。	
内 容	
第1回	報告書作成の概要
第2回	歴史遺産資料のデジタル写真撮影
第3回	歴史遺産資料のデジタル写真撮影とPhotoshopによる画像修正
第4回	Illustratorによる写真資料レイアウト
第5回	Illustratorによるレイアウトとスケール・方位等の作成
第6回	Illustratorによる資料のレイアウト
第7回	Illustratorによる資料のレイアウトとスケール・ナンバリング等の作成
第8回	InDesignによる編集①
第9回	InDesignによる編集②
第10回	コロタイプ印刷過程の見学(学外授業)
第11回	展示実習①
第12回	展示実習②
第13回	展示実習③
第14回	展示実習、模型、ハンズ・オン装置の製作工程の見学(学外授業)
第15回	報告書や展示の総評
履修上の注意点	
教科書	
PCによる教材提示	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート(0)	小テスト(0)
授業中課題(80)	授業中発表等(0)
参加度(20)	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小林 裕子	
テーマ	
<p>仏像の調書作成方法や取扱を身につけるとともに、拓本の取り方、和綴じの方法など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。</p>	
授業の到達目標	
<p>学芸員や研究者は実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。</p>	
授業の概要	
<p>前期実習Ⅲに引き続き、美術工芸品の取扱いを学ぶ。なお、本実習では夏季休業中に近畿圏の寺院における宿泊実習をおこなう。</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。</p>	
内 容	
<p>第1回 ガイダンス  第2回 仏像の種類と取扱説明  第3回 取扱実習(仏像①)  第4回 取扱実習(仏像②)  第5回 取扱実習(仏像③)  第6回 取扱実習(仏像④)  第7回 取扱実習(仏像⑤)  第8回 拓本  第9回 拓本  第10回 拓本  第11回 裏打ち  第12回 裏打ち  第13回 和綴じ  第14回 和綴じ  第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	
教科書	
<p>使用しない  著者:  出版社:  出版年: ISBN:</p>	
参考書	
<p>使用しない  著者:  出版社:  出版年: ISBN:</p>	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (20)	授業中発表等 (20)
参加度 (60)	

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ &lt;c&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

発掘調査から報告書作成までの過程と各段階における作業法を理解する。

授業の到達目標

遺物の割付図を作成しトレース図面を完成する。写真図版の割付。

授業の概要

割付図面をトレース図に起こし報告書の版下を作製する。博物館展示図録における写真割り付け法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

作業が人より遅れた場合には、材料を持ち帰り、空いた時間に作業し課題を達成すること。

内 容

- 第1回 発掘調査報告書の成り立ち、構成を理解する。
- 第2回 考古資料のスケッチと観察。
- 第3回 美術品・考古資料の観察と解説文の作成。
- 第4回 考古資料の割付 1。
- 第5回 考古資料の割付 2。
- 第6回 考古資料の割付 3。
- 第7回 考古資料の割付 4。
- 第8回 割付図面のトレース 1。
- 第9回 割付図面のトレース 2。
- 第10回 割付図面のトレース 3。
- 第11回 割付図面のトレース 4。
- 第12回 写真資料の割付 1。
- 第13回 写真資料の割付 2。ネガ写真とデジタ写真の違い。
- 第14回 コロタイプ印刷過程の見学(学外授業)。
- 第15回 総括と仕上がり図面のコンペ。

履修上の注意点

トレースペンは各自用意すること。カッターナイフの扱いに十分注意を払うこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

課題成果、参加度、課題に対する取組等を総合的に勘案して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ &lt;d&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方を実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 実習(1)内海家文書の解読・中級①

第3回 実習(2)内海家文書の解読・中級②

第4回 実習(3)内海家文書の解読・中級③

第5回 実習(4)内海家文書の解読・中級④

第6回 学外授業

第7回 実習(5)内海家文書の解読・中級⑤

第8回 実習(6)内海家文書の解読・中級⑥

第9回 実習(7)内海家文書の解読・中級⑦

第10回 実習(8)内海家文書の解読・中級⑧

第11回 学外授業

第12回 実習(9)内海家文書の解読・上級①

第13回 実習(10)内海家文書の解読・上級②

第14回 実習(11)内海家文書の解読・上級③

第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 70 )

出席を重視する。

## 2017 Syllabus

## 科目名 建築遺産研究 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 深水 浩	
テーマ	
歴史・文化遺産として重要な位置を占める西洋の「建築」(都市・庭園を含む)の特質を概観し、現代世界においてこの遺産をどう受け継ぎ生かすべきかを考察する。	
授業の到達目標	
西洋の事例を中心に、各時代、人々がどのような問題に直面し、いかなる建築的解決を模索・実行してきたのかを概観・考察する。このことで、今日的課題にアプローチする際、過去の事例の中に多くの有効な知見を得ることができると期待する。到達目標：(1)西洋建築の起源から現代までの意匠、構造、技術を理解する。(2)西洋建築を生み出した時代背景との影響関係を理解する。(3)西洋における都市、庭園の成り立ちと特質を理解する。(4)各種演習授業や卒業研究に取り組む際に、本講義で学んだ知識を応用できるような思考回路を構築する。	
授業の概要	
私たちの生活全般に深く関わる「建築」について反省的に考察する。西洋の伝統的建築、近代建築、現代建築についておよそ年代順に概観する。その際、特に政治的、宗教的な時代背景および建築家の個人的思想、さらには建築技術等に注目し、それらが個々の建築物の成立、さらには都市の成立に与えた影響関係についても言及する。プリントによる資料配布、プロジェクターによる参考事例紹介をまじえた講義形式を基本とする。	
準備学習(予習・復習)	
授業は受身の立場で聞くのではなく、各自の専門分野に引き寄せて常に考えながら能動的な姿勢で臨んでほしい。日頃から、まわりの建築、町並み、風景にも興味を持って目を向けてほしい。	
内 容	
第1回	古代1 ・西洋建築の原点としての「美」の理論の成立(古代ギリシャ建築)
第2回	古代2 ・古代ローマ帝国の「権力・栄光」の表現(古代ローマ建築)
第3回	中世1 ・キリスト教教会堂の原型の誕生・集中式教会堂の発展(ビザンティン建築)
第4回	中世2 ・バシリカ式教会堂の発展(ロマネスク建築、ゴシック建築)
第5回	近世1 ・人間性の発現と古典建築の復活(ルネサンス建築)
第6回	近世2 ・力動性と幻想性の表現(バロック建築)
第7回	近世3 ・古典建築の再復活(新古典主義建築)・西洋建築の終焉(歴史主義建築、折衷主義建築)
第8回	西洋の庭園・理想世界の雛型としての庭園(イタリアルネサンス式庭園、フランスバロック式庭園、イギリス風景式庭園、イスラム庭園)
第9回	近代1 ・初期近代建築とアーツアンドクラフツ運動
第10回	近代2 ・アールヌーボーと他国への伝播
第11回	近代3 ・前衛の運動(デ・スティール、ロシアアバンギャルドなど)
第12回	近代4 ・インターナショナルスタイルの成立(ドイツ工作連盟、バウハウス)
第13回	近代5 ・近代建築3巨匠の思想とその作品(ライト、コルビュジエ、ミース)
第14回	現代・現代建築の潮流
第15回	西洋の都市・各時代の主要都市概観
履修上の注意点	
出席回数については、2/3以上(10回以上)を単位認定の条件とする。教科書は使用しないが、参考書については講義中に適宜紹介する。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート(80)	小テスト( )
授業中課題(10)	授業中発表等( )

参加度（10）

レポート試験(80点):講義内容に即した記述中心のレポート 授業中課題(10点):講義内容に関する履修者各自の見解を記述する 参加度(10点):出席回数および受講姿勢を総合的に判断する

---

## 2017 Syllabus

科目名 **建築遺産研究Ⅱ**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	
テーマ 日本建築史を読み解く	
授業の到達目標 自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物や歴史都市は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築・都市遺構や文字・絵画史料を解説することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。	
授業の概要 日本列島においてどのような建造物・都市がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。	
準備学習(予習・復習) 日本建築史に関する概説書・新書・選書を積極的に読むこと。歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれら进行评估する力を養って欲しい。	
内 容 第1回 日本の建築技術と大工道具 第2回 日本建築入門 第3回 飛鳥時代の寺院建築 第4回 奈良時代の寺院建築 第5回 天台・真言宗の建築 第6回 顕密仏教の展開と寺院建築 第7回 古代における貴族住宅の成立と展開 第8回 神社本殿の成立 第9回 中世における新様式の移入 第10回 中世における寺社造営と新技術の導入 第11回 中世仏堂の空間と機能 第12回 織豊系城郭の成立 第13回 豊臣政権による寺社造営とその技術 第14回 近世民家の類型と地域的特色 第15回 歴史的建造物の保存と修理	
履修上の注意点	
教科書 日本建築史図集 新訂第三版 著者： 日本建築学会編 出版社： 彰国社 出版年： 2011年 ISBN:	
参考書 建築学の基礎⑥ 日本建築史 著者： 後藤治 出版社： 共立出版 出版年： 2003年 ISBN： 4-320-07663-X	
成績評価 試験・レポート ( 60 ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産研究 I

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

百舌鳥・古市古墳群の史跡としての本質的価値と世界遺産としての普遍的価値を考える

授業の到達目標

日本での史跡指定とは何か、世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群」普遍的価値と本質的価値を中心に、それらを見学・検討することで、日本社会における埋蔵文化財の保存、公開、活用のあり方を具体的に考えてみる。

授業の概要

日本での発掘調査、そこから保存され活用される史跡、世界遺産のあり方を考えるため、「百舌鳥・古市古墳群」の実態を追う。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

準備学習(予習・復習)

世界的な視座をもって、まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる。

内 容

- 第1回 世界遺産とは、史跡とは
- 第2回 東アジア史からみる百舌鳥・古市古墳群
- 第3回 古市古墳群の出現
- 第4回 百舌鳥古墳群と陵墓
- 第5回 東西巨大古墳築造ラインの背景
- 第6回 仁徳陵古墳の話題性
- 第7回 墳丘の復原
- 第8回 埴輪と須恵器
- 第9回 古墳時代のネットワーク
- 第10回 古墳時代の空間イメージ
- 第11回 百舌鳥古墳群の見学(学外授業)
- 第12回 埋蔵文化財としての古墳群の過去・未来
- 第13回 百舌鳥・古市古墳群の史跡の本質的価値とは
- 第14回 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の顕著な普遍的価値とは
- 第15回 文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

履修上の注意点

教科書

百舌鳥・古市古墳群

著者： 一瀬和夫

出版社： 同成社

出版年： 2016

ISBN： 978-4-88621-746

参考書

古墳時代のシンボル

著者： 一瀬和夫

出版社： 新泉社

出版年： 2009

ISBN： 978-4-7877-0935

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 千枝子

テーマ

日本の染織文化の変遷をたどる

授業の到達目標

布を織る・染める行為は古くから繰り返行われてきた。今では私達の生活の中で必要不可欠になっている染織ですが、歴史の流れの中ではどのような位置を占めながら変遷してきたのでしょうか。各時代の歴史的な背景をおさえながら意匠の解説とともに理解を深める。

授業の概要

視覚からの情報も大切にしている。パワーポイントとレジュメや参考ビデオの鑑賞、サンプル製の提示などさまざまな角度から理解を深める。染織を理解するための基本的な知識である天然繊維の素材や織物組織に加え天然染料なども解説する。

準備学習(予習・復習)

日頃から博物館・美術館・社寺を訪れ、現在に伝わる染織品を見る。日本の伝統芸能や伝統文化と染織のかかわりを考えるとともに、郷土の伝統芸能や伝統文化のなかに見られる染織がどのような役割を果たしているのか考えてみる。

内 容

- 第1回 概論
- 第2回 古代の染織
- 第3回 天然繊維の解説
- 第4回 古墳時代の染織
- 第5回 上代裂
- 第6回 正倉院の染織Ⅰ
- 第7回 正倉院の染織Ⅱ
- 第8回 正倉院の染織Ⅲ
- 第9回 平安時代の染織Ⅰ
- 第10回 平安時代の染織Ⅱ
- 第11回 能装束
- 第12回 小袖Ⅰ
- 第13回 小袖Ⅱ
- 第14回 小袖Ⅲ
- 第15回 まとめと小テスト

履修上の注意点

遅刻をしない。私語を慎む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

織りと染めの歴史 日本編

著者: 川上繁樹・藤井健三共著

出版社: 昭和堂

出版年: 1999

ISBN:

染と織を訪ねる

著者: 長崎巖

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

正倉院の染織品の研究

著者： 尾形允彦

出版社： 思文閣出版

出版年： 2013

ISBN:

源氏物語の色辞典

著者： 吉岡幸雄

出版社： 紫紅社

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 古都学 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 巽 淳一郎	
テーマ	
日本古代都城の変遷と各都城の特質を考える。	
授業の到達目標	
都城の変遷を理解し、東アジアの都城との違いを捉えること。	
授業の概要	
毎回、プリントを配布し、それに基づき講義する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	都城成立以前の豪族居館。歴代遷宮。
第2回	飛鳥の諸宮1(豊浦宮・小墾田宮)。
第3回	飛鳥の諸宮2(岡本宮・百濟宮・板蓋宮)。
第4回	孝徳朝前期難波宮の構造。
第5回	飛鳥の諸宮3(後岡本宮・飛鳥浄御原宮)。
第6回	朝鮮三国の都城1 高句麗の都城の構造。
第7回	朝鮮三国の都城2 百濟の都城の構造。
第8回	朝鮮三国の都城3 新羅の都城の構造。
第9回	本格的な都城 藤原宮・京の成立。
第10回	藤原宮・京の構造。
第11回	平城宮・京の成立と構造。
第12回	唐長安城の構造。
第13回	藤原宮・平城宮・長安城の比較検討。
第14回	恭仁宮・紫香楽宮・後期難波宮・長岡宮。
第15回	都市住民の生活。
第16回	試験。
履修上の注意点	
高校の日本史・世界史の教科書を復習ください。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (60)	小テスト (0)
授業中課題 (10)	授業中発表等 ( )
参加度 (30)	
試験できばえ、参加度、課題の達成度等をもとに評価する。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 古都学Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 前田 義明

## テーマ

地下に埋もれた遺構・遺物から京都の歴史と文化の特性を探る。

## 授業の到達目標

京都の歴史と文化が歴史・文化遺産として現代に影響を与え、生き続けていることを理解する。

## 授業の概要

平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から考古学的方法により遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる。

## 準備学習(予習・復習)

予習: 博物館や資料館の展示物実見や寺社仏閣・伝統的街並みの見学を心掛ける。復習: 配布資料や参考図書から授業内容の確認と整理。

## 内 容

- 第1回 平安京遷都 長岡京から平安京へ遷都された意味を探る
- 第2回 平安京の条坊制と条里制 平安京の条坊制・条里制と京都の町並みの関連を学ぶ
- 第3回 平安宮の構造 平安宮の構造について実態と変遷を探る
- 第4回 平安京の邸宅 京都の市街地に埋もれた平安時代の邸宅跡を探る
- 第5回 平安京の寺院 平安京とその周辺に造営された寺院についてその特性を理解する
- 第6回 平安京の出土遺物(1) 平安宮や寺院造営に伴い多量に作られた平安時代の瓦の特性を探る
- 第7回 平安京の出土遺物(2) 土器・祭祀遺物・銭貨・石製帯飾具などについてその特質や変遷を学ぶ
- 第8回 山科の遺跡(1) 山科盆地に所在する縄文時代から中世までの主要遺跡を学ぶ
- 第9回 山科の遺跡(2) 実地見学(大宅廃寺～中臣遺跡)
- 第10回 院政期(1) 白河上皇と鳥羽上皇によって造営された鳥羽離宮跡について学ぶ
- 第11回 院政期(2) 六勝寺・法金剛院・法住寺殿など院政期の遺跡を学ぶ
- 第12回 中世の遺跡 市街地遺跡の調査から中世の遺跡の実態を探る
- 第13回 織豊期(1) 聚楽第・御土居・天正地割・方広寺など豊臣秀吉が行なった土木事業を探る
- 第14回 織豊期(2) 造営開始から慶長の伏見大地震後の拡張整備など伏見城の変遷の実態を探る
- 第15回 近世の遺跡 二条城・淀城や公家町遺跡など近世の遺跡を学ぶ

## 履修上の注意点

出席参加度の重視

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

平安京提要

著者:

出版社: 角川書店

出版年: 1994

ISBN: 4-821044-0

つちの中の京都1

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2009

ISBN: 4-89704-267-1

つちの中の京都2

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2001

ISBN: 4-89704-163-5

つちの中の京都3

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2006

ISBN: 4-89704-224-0

つちの中の京都4

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2010

ISBN: 4-89704-278-7

京都発掘ものがたり

著者:

出版社: (公財)京都市埋蔵文化財研究所

出版年: 2014

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 0 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 地域文化論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 網島 聖	
テーマ	
地図、古地図を用いて、京都の地域文化を歴史的、空間的に検討していきます。	
授業の到達目標	
地域文化を理解するためには、地域の空間が歴史の中でどのように変化し、そこに生きる人々の文化にどのような影響を与えてきたのかを認識する必要があります。この講義では様々な地図資料を読解し、地域文化を空間の視点から読み解く力の獲得を目指します。	
授業の概要	
歴史の時間軸に沿って、平安京-京都の都市空間の転変と都市住民の関係について学び、適宜地図、古地図の資料を用いることで地図を読解する力の涵養を目指します。また、学んだ視点をより確かなものにするため、2回の京都市内巡検を予定しています。	
準備学習(予習・復習)	
授業内容の復習に励んでください。また、学外授業(巡検)に際しては事前に指示する目的地の地形図を予習して来てください。	
内 容	
第1回	イントロダクション
第2回	遷都以前の京都
第3回	平安京①: 宮廷人と貴族の平安京
第4回	平安京②: 認識と実態の違い
第5回	中世の京都①: 平安京の解体と京都への変身
第6回	中世の京都②: 京都の東西問題と南北問題
第7回	戦国の京都①: 秀吉の京都市下町構想
第8回	戦国の京都②: 伏見城と城下町
第9回	学外授業①(京都市内巡検)
第10回	近世の京都①: 名所と京都
第11回	近世の京都②: 観光と京都
第12回	学外授業②(京都市内巡検)
第13回	近代の京都①: 京都の産業化
第14回	近代の京都②: 京都の伝統産業と同業者町
第15回	近代の京都③: 郊外の発見
履修上の注意点	
教科書	
使用しません	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
授業中に指示します	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( 70 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 木簡・金石文学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 渡辺 晃宏

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質、及び遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像

授業の到達目標

歴史を考える上で欠かすことのできない重要な位置を占めるようになってきた木簡を初めとする出土文字資料を実際に読み解きながら、それらの資料としての特質や役割について理解を深め、新しい日本史像の探求方法を学ぶ。

授業の概要

具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを、適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えているので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合がある。

準備学習(予習・復習)

木簡を初めとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などにも積極的に参加してほしい。特に、授業の主要な対象となる木簡が出土した平城宮跡を実際に訪れ、遺跡としての広がりや体験しておくことが望ましい。また、正倉院展(奈良国立博物館)や地下の正倉院展(奈文研平城宮跡資料館での木簡の展示)などの実物資料を見られる機会や、奈文研の木簡に関するデータベースなどを活用し、日頃から積極的に資料に親しむように努めてほしい。

内 容

- 第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第3回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第4回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第5回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第6回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第7回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第8回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第9回 二条大路木簡(735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第10回 二条大路木簡(735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第11回 二条大路木簡(735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第12回 西大寺旧境内出土木簡など、平城京跡出土のその他の代表的な木簡について検討する。
- 第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第14回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

履修上の注意点

教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

適宜プリントなどを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書



木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256

著者: 木簡学会(編)

出版社: 岩波書店

出版年: 2010

ISBN: 978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231

著者: 東野治之

出版社: 岩波書店

出版年: 1983

ISBN: 978-4004202318

〈歴史の証人〉木簡を究める

著者: 奈良文化財研究所(編)

出版社: クバプロ

出版年: 2014

ISBN: 978-4878051340

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)

著者: 渡辺晃宏

出版社: 講談社

出版年: 2009

ISBN: 978-4062919043

平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く

著者: 渡辺晃宏

出版社: 柏書房

出版年: 2010

ISBN: 978-4760137404

---

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

試験はレポートによる場合もある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 保存科学 I

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期集中	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	植田 直見・川本 耕三・山田 卓司	
テーマ	文化財資料の調査と保管環境	
授業の到達目標	文化財資料を対象とした保存科学の歴史を学び、文化財資料の保存を考える上で必要な様々な調査の目的と方法を学ぶ。さらに、文化財資料のおかれている現状を把握し、長く後世に残し、活用するための保管環境についての知識も習得する。	
授業の概要	文化財資料を後世に長く残すことを研究する学問である保存科学についてまずその歴史を学びこれまでの歩みを述べる。文化財資料を保存する上で理解しておかなければならない劣化について、材質毎に要因や状態、劣化機構を説明する。さらに資料を長く残すために必要な保管環境に影響をおよぼす要因と条件をまとめる。	
準備学習(予習・復習)	授業が始まるまでに最低1館以上の博物館や資料館などを見学しておくこと。初回の授業でその感想をレポートにまとめる。	
内 容	第1回 保存科学 I の概要(ガイダンス) 第2回 保存科学の歴史① 第3回 保存科学の歴史② 第4回 文化財資料の劣化について① 第5回 文化財資料の劣化について② 第6回 文化財資料の劣化について③ 第7回 文化財資料の調査・分析① 第8回 文化財資料の調査・分析② 第9回 文化財資料の調査・分析③ 第10回 資料の保管環境①(概要) 第11回 資料の保管環境②(温湿度) 第12回 資料の保管環境③(空気汚染と光) 第13回 資料の保管環境④(生物劣化) 第14回 資料の保管環境⑤(IPM) 第15回 全体のまとめ	
履修上の注意点	集中講義であるため1日に複数限の授業を実施するが、遅刻や欠席のないようにすること。出席率は成績に反映される。授業内容について不明な点は、その都度質問を受けるので積極的に質問すること。	
教科書	使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書	使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	試験・レポート ( 50 )                      小テスト ( ) 授業中課題 ( )                              授業中発表等 ( ) 参加度 ( 50 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 保存科学Ⅱ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期集中	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	植田 直見・川本 耕三・山田 卓司	
テーマ	文化財資料の保存処理と修復	
授業の到達目標	保存処理の現場の見学も含め、様々な文化財資料を材質ごとに分けて具体的な例も交えながらどのように保存処理・修復するかその理念や方法を学ぶ。	
授業の概要	様々な材質で構成された埋蔵文化財資料および伝世文化財資料について、保存処理と修復の理念を学び具体的な保存処理方法と修復方法を述べる。その上で実際の保存処理現場を見学することで保存処理・修復においてより具体的な知識および現状が把握出来るように説明する。	
準備学習(予習・復習)	前期に保存科学Ⅰを履修して授業に臨むことが望ましいが、保存科学Ⅰを履修できない場合は初回の授業で保存科学に関する参考書などを知らせるので参考にすること。	
内 容	第1回 保存科学Ⅱの概要(ガイダンス) 第2回 文化財資料の保存処理・修復の理念① 第3回 文化財資料の保存処理・修復の理念② 第4回 出土木製品の保存処理① 第5回 出土木製品の保存処理② 第6回 出土木製品の保存処理③ 第7回 出土金属製品の保存処理① 第8回 出土金属製品の保存処理② 第9回 出土金属製品の保存処理③ 第10回 文化財資料の保存処理の実際①(元興寺文化財研究所の見学) 第11回 文化財資料の保存処理の実際②(元興寺文化財研究所の見学) 第12回 文化財資料の保存処理の実際③(元興寺文化財研究所の見学) 第13回 伝世資料の保存修復① 第14回 伝世資料の保存修復② 第15回 全体のまとめ	
履修上の注意点	集中講義であるため1日に複数回の授業を実施するが、遅刻や欠席のないようにすること。出席率は成績に反映される。授業内容について不明な点は、その都度質問を受けるので積極的に質問すること。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価	試験・レポート(50) 小テスト( )	
	授業中課題( ) 授業中発表等( )	
	参加度(50)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 考古学研究Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 土田 純子	
テーマ 朝鮮半島考古学特講(百済考古学)	
授業の到達目標 朝鮮半島の考古学のうち、百済考古学について講義を行う。倭王権は、対外的に密接であった百済との関係なしではその全貌を語れない。倭王権と百済との関係は『日本書紀』神功皇后47年、百済王が久てい(「氏」の下部に「一」)・弥州流・莫古を倭王に派遣する記事から見られる。二国の関係は史料だけでなく、考古資料にも反映されている。倭王権や倭社会に対する真の理解のためには、百済史・百済考古学への関心と研究は必要不可欠である。	
授業の概要 授業は主にパワーポイントでし、時折、韓国の歴史ビデオを活用して進める。	
準備学習(予習・復習) 講義に使うパワーポイントの資料は、授業の前日までに学生たちに配布する予定である。(ただし講師が使うパワーポイントとは一部異なる。)	
内 容 第1回 授業の説明と朝鮮半島の地理 第2回 三国時代の前史についての理解 第3回 百済考古学の歴史と重要遺跡の紹介 第4回 百済の墓制の変遷と問題点1 第5回 百済の墓制の変遷と問題点2 第6回 百済の都城 第7回 百済の土器の形成と編年の問題点 第8回 百済の土器の中国陶磁器—伝世と関連付けて— 第9回 漢城様式百済土器の理解 第10回 サビ様式百済土器の理解 第11回 考古学から見た百済の領域拡大過程 第12回 栄山江流域の考古学 第13回 周辺国家との比較 第14回 学生の発表1(テーマを決めたレポートの発表) 第15回 学生の発表2(テーマを決めたレポートの発表) 第16回 期末試験	
履修上の注意点 当たり前のことだが、私語を慎む。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 東アジアと百済土器 著者: 土田純子 出版社: 同成社 出版年: 2017.1 ISBN: 978488621750-9 概説 韓国考古学 著者: 韓国考古学会編 出版社: 同成社 出版年: 2013.1 ISBN: 978488621639-7	
成績評価 試験・レポート(50)	小テスト( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 遺産情報演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 山田 邦和	
テーマ	
歴史遺産から復元する歴史像	
授業の到達目標	歴史遺産的な史料を分析する力と、それを活用して一定の歴史像を構築する力を身につける。
授業の概要	歴史学で扱う材料は文献史料だけではない。現代の歴史学では、考古学の遺跡・遺構・遺物、古地図、絵図など、さまざまな歴史遺産的な史料を組み合わせることによって歴史像を復元しようとしている。この授業では、こうした文献史料以外の諸史料をどう分析するかを、特に京都の歴史の具体例に即して体験してもらう。
準備学習(予習・復習)	京都の精彩な地図を備えて読み込んでおく。また、自主的に京都の史跡(寺院・神社など)、博物館を訪れることを勧める。
内 容	<p>第1回 イントロダクション—歴史の復元とは何か—</p> <p>第2回 文献史学、考古学、遺習史料学</p> <p>第3回 地図から歴史の痕跡を学ぶ(1)</p> <p>第4回 地図から歴史の痕跡を学ぶ(2)</p> <p>第5回 地図から歴史の痕跡を学ぶ(3)</p> <p>第6回 考古学の方法論</p> <p>第7回 平安京の復元</p> <p>第8回 「山科条里図」を読む</p> <p>第9回 「福原京」の復元</p> <p>第10回 中世の絵図史料を読む</p> <p>第11回 城の天守とその再建</p> <p>第12回 『洛中洛外図屏風』と戦国時代の京都</p> <p>第13回 城の天守とその再建</p> <p>第14回 伏見城と城下町の復元</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>
履修上の注意点	演習授業なので、出席が前提となる。授業中の無断退席、私語、「内職」、授業内容に関係しない携帯電話操作などは厳禁。
教科書	
参考書	<p>歴史家の案内する京都</p> <p>著者： 仁木宏・山田邦和編</p> <p>出版社： 文理閣</p> <p>出版年： 2016</p> <p>ISBN: 978-4892597909</p>
成績評価	<p>試験・レポート (30)</p> <p>授業中課題 (20)</p> <p>参加度 (20)</p> <p>小テスト (10)</p> <p>授業中発表等 (20)</p> <p>試験ではなくレポートを実施する。成績評価を受けるためには、授業に出席していることが前提。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅲ〈\*a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

卒業論文に結びつく研究テーマを決め、関連する研究論文を読み解き、内容を分かり易く発表する。

授業の到達目標

読解力を身に着けること。話す内容を分かり易く論理的に組み立て発表すること。人の発表に耳を傾け、疑問点や分からない点について積極的に質問し、討論すること。

授業の概要

司会役を決め、討論型式で授業を進める。司会役は発表内容を概括した上で討論に入る。最後に教師が総括する。

準備学習(予習・復習)

分からない用語を予め調べ、理解深めてもらうため図面や写真を用意する。

内 容

- 第1回 授業内容の紹介、自己紹介、発表順の策定
- 第2回 学外授業
- 第3回 研究発表、討議
- 第4回 研究発表、討議
- 第5回 研究発表、討議
- 第6回 研究発表、討議
- 第7回 研究発表、討議
- 第8回 研究発表、討議
- 第9回 研究発表、討議
- 第10回 研究発表、討議
- 第11回 研究発表、討議
- 第12回 研究発表、討議
- 第13回 研究発表、討議
- 第14回 夏休み中の課題と研究計画の策定。卒論中間発表資料案文の作成
- 第15回 卒論中間発表資料案の作成

履修上の注意点

発表中は私言を慎み静かにきくこと。止むをえない事情がある場合を除き、5回以上欠席し発表しない場合には単位取得は難しくなる。インターネット配信の記事は論文の資料に使わないように。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (60)

参加度 (20)

発表レジュメの内容、発表の仕方、司会仕方、討議への参加度などを総合的に勘案して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅲ &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

各々研究テーマを検討、先行研究をまとめたうえで論文構成を決定し、執筆を進める。

授業の概要

まず受講者各々が研究テーマに関する先行研究をまとめ、口頭発表を実施する。つぎに論文構成を練ったうえで、再度発表して執筆方針を確定する。なお、必要に応じて外部講師による研究発表及び学外授業を実施する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 図書館レファレンス
- 第3回 先行研究まとめ発表①
- 第4回 先行研究まとめ発表②
- 第5回 先行研究まとめ発表③
- 第6回 先行研究まとめ発表④
- 第7回 先行研究まとめ発表⑤
- 第8回 外部講師による研究発表
- 第9回 論文執筆方針及び構成の発表①
- 第10回 論文執筆方針及び構成の発表②
- 第11回 論文執筆方針及び構成の発表③
- 第12回 論文執筆方針及び構成の発表④
- 第13回 論文執筆方針及び構成の発表⑤
- 第14回 論文執筆方針及び構成の発表⑥
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )



## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅲ &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の実践

授業の到達目標

卒業論文を執筆するため、以下の作業を行う。①研究テーマの設定 ②使用する史料の収集と読解 ③研究内容の発表

授業の概要

各自が、それぞれの設定した研究テーマに関する研究報告を行う。それをもとに参加者で討論する。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

研究報告に用いるレジュメを必ず作成すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方について)  
 第2回 個別研究報告①  
 第3回 個別研究報告②  
 第4回 個別研究報告③  
 第5回 個別研究報告④  
 第6回 個別研究報告⑤  
 第7回 個別研究報告⑥  
 第8回 個別研究報告⑦  
 第9回 個別研究報告⑧  
 第10回 個別研究報告⑨  
 第11回 個別研究報告⑩  
 第12回 個別研究報告⑪  
 第13回 個別研究報告⑫  
 第14回 個別研究報告⑬  
 第15回 まとめ(研究の進捗状況の確認)

履修上の注意点

各自の設定したテーマに関する学術書・論文を積極的に読むこと。授業開講までに研究に必要な材料(歴史資料)を集めておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

研究テーマを設定し、論文執筆に必要な材料(歴史資料)をどれだけ読解できるかが、成績評価に大きく関わる。そのことをしっかりと理解して欲しい。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅲ &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

授業の到達目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導。なお、必要に応じて学外授業を行う場合がある。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古文書学演習(1)
- 第3回 古文書学演習(2)
- 第4回 古文書学演習(3)
- 第5回 古文書学演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 古文書学演習(5)
- 第8回 古文書学演習(6)
- 第9回 古文書学演習(7)
- 第10回 古文書学演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 古文書学演習(9)
- 第13回 古文書学演習(10)
- 第14回 古文書学演習(11)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅳ〈\*a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

先行研究を踏まえ、資料を検討し独創的な卒業論文に仕上げる。

授業の到達目標

全員卒論提出。

授業の概要

前半はゼミ発表、後半は卒論の個別指導。

準備学習(予習・復習)

就職活動と卒業論文作成を両立できるよう計画的に取り組むことが肝要である。

内 容

- 第1回 研究経過報告、卒論中間発表資料の作成
- 第2回 研究経過報告、卒論中間発表資料の作成
- 第3回 研究経過報告、卒論中間発表資料の作成
- 第4回 卒論中間発表
- 第5回 卒論中間発表
- 第6回 卒論個別指導
- 第7回 卒論個別指導
- 第8回 卒論個別指導
- 第9回 卒論個別指導
- 第10回 卒論個別指導
- 第11回 卒論提出
- 第12回 各自による論文解題
- 第13回 各自による論文解題
- 第14回 各自による論文解題、口頭試問に備える
- 第15回 各自による論文解題、口頭試問に備える
- 第16回 口頭試問

履修上の注意点

無断欠席しないでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (60)

参加度 (30)

発表レジュメの内容、発表の仕方・工夫、司会役進行の様子等を総合的に判断して評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅳ〈\*b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

先行研究を整理し、問題点を解決すべく自らの見解をまとめて論理を構築する論文執筆を目指す。

授業の概要

すでに作成した論文構成に沿った中間発表リハーサルによりプレゼン能力を養う。また、個別指導とグループ指導を組み合わせ、緻密な論文に仕上げていく。なお、必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中間発表リハーサル①
- 第2回 中間発表リハーサル②
- 第3回 中間発表リハーサル③
- 第4回 学外授業
- 第5回 グループ指導①
- 第6回 グループ指導②
- 第7回 個別論文指導①
- 第8回 個別論文指導②
- 第9回 個別論文指導③
- 第10回 個別論文指導④
- 第11回 個別論文指導⑤
- 第12回 レイアウトの基本〈図版画像処理〉
- 第13回 レイアウトの基本〈版面作成〉
- 第14回 卒論提出
- 第15回 講評

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅳ〈\*c〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の実践

授業の到達目標

卒業論文を作成するため、以下の作業を行う。①論文の執筆 ②史料の収集と読解

授業の概要

各自が、それぞれの卒業論文に関する研究報告を行う。それをもとに参加者で討論する。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

研究報告に用いるレジュメを必ず作成すること。

内 容

- 第1回 卒業論文中間発表に向けた準備①
- 第2回 卒業論文中間発表に向けた準備②
- 第3回 卒業論文に関する研究報告①
- 第4回 卒業論文に関する研究報告②
- 第5回 卒業論文に関する研究報告③
- 第6回 卒業論文に関する研究報告④
- 第7回 卒業論文に関する研究報告⑤
- 第8回 卒業論文に関する研究報告⑥
- 第9回 卒業論文に関する研究報告⑦
- 第10回 卒業論文に関する編集作業①
- 第11回 卒業論文に関する編集作業②
- 第12回 卒業論文に関する編集作業③
- 第13回 卒業論文に関する編集作業④
- 第14回 卒業論文の講評①
- 第15回 卒業論文の講評②

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

卒業論文の執筆を積極的に進めて欲しい。

## 2017 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅳ〈\*d〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

授業の到達目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導。なお、必要に応じて学外授業を行う場合がある。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古文書学演習(1)
- 第3回 古文書学演習(2)
- 第4回 古文書学演習(3)
- 第5回 古文書学演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 古文書学演習(5)
- 第8回 古文書学演習(6)
- 第9回 古文書学演習(7)
- 第10回 古文書学演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 古文書学演習(9)
- 第13回 古文書学演習(10)
- 第14回 古文書学演習(11)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (国) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット&lt;態度の涵養&gt;第1~5講;第2ユニット&lt;技能の理解&gt;第6~9講;第3ユニット&lt;技能の習得&gt;第10~15講

準備学習(予習・復習)

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 What Is University; and What Is a Student?
- 第3回 Creating an Open Mind
- 第4回 Knowing Words and the World
- 第5回 Undersanding Nonverbal Communication
- 第6回 Study & Academic Skills (1): Note-making
- 第7回 Study & Academic Skills (2): Research Skills
- 第8回 Study & Academic Skills (3): Making Handouts
- 第9回 Study & Academic Skills (4): Report Writing
- 第10回 Student Presentation & Feedback (1)
- 第11回 Student Presentation & Feedback (2)
- 第12回 Student Presentation & Feedback (3)
- 第13回 Student Presentation & Feedback (4)
- 第14回 Review

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学

著者: 白井 恭弘

出版社: 岩波新書

出版年: 2013

ISBN: 4004314194

The Story of English

著者: R. McCrum

出版社: Macmillan Language House

出版年: 1992

ISBN: 9.7849E+12

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者: 久米 昭元

出版社: 有斐閣選書

出版年: 2007

ISBN: 4641281084

おとなの教養

著者： 池上 彰

出版社： NHK出版新書

出版年： 2014

ISBN： 9.78414E+12

だいがくせいのためのレポート・論文術

著者： 小笠原喜康

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2003

ISBN： 4061496034

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (国) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット&lt;態度の涵養&gt;第1~5講;第2ユニット&lt;技能の理解&gt;第6~9講;第3ユニット&lt;技能の習得&gt;第10~15講

準備学習(予習・復習)

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 What Is University; and What Is a Student?
- 第3回 Creating an Open Mind
- 第4回 Knowing Words and the World
- 第5回 Undersanding Nonverbal Communication
- 第6回 Study & Academic Skills (1): Note-making
- 第7回 Study & Academic Skills (2): Research Skills
- 第8回 Study & Academic Skills (3): Making Handouts
- 第9回 Study & Academic Skills (4): Report Writing
- 第10回 Student Presentation & Feedback (1)
- 第11回 Student Presentation & Feedback (2)
- 第12回 Student Presentation & Feedback (3)
- 第13回 Student Presentation & Feedback (4)
- 第14回 Review

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学

著者: 白井 恭弘

出版社: 岩波新書

出版年: 2013

ISBN: 4004314194

The Story of English

著者: R. McCrum

出版社: Macmillan Language House

出版年: 1992

ISBN: 9.7849E+12

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者: 久米 昭元

出版社: 有斐閣選書

出版年: 2007

ISBN: 4641281084

おとなの教養

著者： 池上 彰

出版社： NHK出版新書

出版年： 2014

ISBN： 9.78414E+12

だいがくせいのためのレポート・論文術

著者： 小笠原喜康

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2003

ISBN： 4061496034

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (国) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宮崎 裕二

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット&lt;態度の涵養&gt;第1~5講;第2ユニット&lt;技能の理解&gt;第6~9講;第3ユニット&lt;技能の習得&gt;第10~15講

準備学習(予習・復習)

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 What Is University; and What Is a Student?
- 第3回 Creating an Open Mind
- 第4回 Knowing Words and the World
- 第5回 Undersanding Nonverbal Communication
- 第6回 Study & Academic Skills (1): Note-making
- 第7回 Study & Academic Skills (2): Research Skills
- 第8回 Study & Academic Skills (3): Making Handouts
- 第9回 Study & Academic Skills (4): Report Writing
- 第10回 Student Presentation & Feedback (1)
- 第11回 Student Presentation & Feedback (2)
- 第12回 Student Presentation & Feedback (3)
- 第13回 Student Presentation & Feedback (4)
- 第14回 Review

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学

著者: 白井 恭弘

出版社: 岩波新書

出版年: 2013

ISBN: 4004314194

The Story of English

著者: R. McCrum

出版社: Macmillan Language House

出版年: 1992

ISBN: 9.7849E+12

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者: 久米 昭元

出版社: 有斐閣選書

出版年: 2007

ISBN: 4641281084

おとなの教養

著者： 池上 彰

出版社： NHK出版新書

出版年： 2014

ISBN： 9.78414E+12

だいがくせいのためのレポート・論文術

著者： 小笠原喜康

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2003

ISBN： 4061496034

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (国) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 アンガス, ノーマン

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット&lt;態度の涵養&gt;第1~5講;第2ユニット&lt;技能の理解&gt;第6~9講;第3ユニット&lt;技能の習得&gt;第10~15講

準備学習(予習・復習)

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 What Is University; and What Is a Student?
- 第3回 Creating an Open Mind
- 第4回 Knowing Words and the World
- 第5回 Undersanding Nonverbal Communication
- 第6回 Study & Academic Skills (1): Note-making
- 第7回 Study & Academic Skills (2): Research Skills
- 第8回 Study & Academic Skills (3): Making Handouts
- 第9回 Study & Academic Skills (4): Report Writing
- 第10回 Student Presentation & Feedback (1)
- 第11回 Student Presentation & Feedback (2)
- 第12回 Student Presentation & Feedback (3)
- 第13回 Student Presentation & Feedback (4)
- 第14回 Review

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学

著者: 白井 恭弘

出版社: 岩波新書

出版年: 2013

ISBN: 4004314194

The Story of English

著者: R. McCrum

出版社: Macmillan Language House

出版年: 1992

ISBN: 9.7849E+12

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者: 久米 昭元

出版社: 有斐閣選書

出版年: 2007

ISBN: 4641281084

おとなの教養

著者： 池上 彰

出版社： NHK出版新書

出版年： 2014

ISBN： 9.78414E+12

だいがくせいのためのレポート・論文術

著者： 小笠原喜康

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2003

ISBN： 4061496034

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

---

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **研究入門ゼミ I (国) <\*E>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 ファゼカシユ, パラージュ	
テーマ	
大学および専攻の学習に対する基礎的能力	
<b>授業の到達目標</b> 1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。	
<b>授業の概要</b> 第1ユニット<態度の涵養>第1～5講;第2ユニット<技能の理解>第6～9講;第3ユニット<技能の習得>第10～15講	
<b>準備学習(予習・復習)</b> 国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。	
<b>内 容</b> 第1回 Orientation 第2回 What Is University; and What Is a Student? 第3回 Creating an Open Mind 第4回 Knowing Words and the World 第5回 Undersanding Nonverbal Communication 第6回 Study & Academic Skills (1): Note-making 第7回 Study & Academic Skills (2): Research Skills 第8回 Study & Academic Skills (3): Making Handouts 第9回 Study & Academic Skills (4): Report Writing 第10回 Student Presentation & Feedback (1) 第11回 Student Presentation & Feedback (2) 第12回 Student Presentation & Feedback (3) 第13回 Student Presentation & Feedback (4) 第14回 Review	
<b>履修上の注意点</b> 学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。	

教科書

参考書

ことばの力学

著者: 白井 恭弘

出版社: 岩波新書

出版年: 2013

ISBN: 4004314194

The Story of English

著者: R. McCrum

出版社: Macmillan Language House

出版年: 1992

ISBN: 9.7849E+12

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者: 久米 昭元

出版社: 有斐閣選書

出版年: 2007

ISBN: 4641281084

おとなの教養

著者： 池上 彰

出版社： NHK出版新書

出版年： 2014

ISBN： 9.78414E+12

だいがくせいのためのレポート・論文術

著者： 小笠原喜康

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2003

ISBN： 4061496034

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(国) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

世界を知るとグローバルな観点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット<国際事情を学ぶ>第1～3講;第2ユニット<5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ>第4～8講;第3ユニット<学生の発表により専門領域を深める>

準備学習(予習・復習)

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 Major Global Issues
- 第3回 Solving Global Issues
- 第4回 Omnibus Rotation; Topic 1: Global Economics
- 第5回 Omnibus Rotation; Topic 2: Global Japan
- 第6回 Omnibus Rotation; Topic 3: Global Careers
- 第7回 Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
- 第8回 Omnibus Rotation; Topic 5: Global Education
- 第9回 Presentation Preparation 1
- 第10回 Presentation Preparation 2
- 第11回 Student Presentations 1
- 第12回 Student Presentation 2
- 第13回 Student Presentations 3
- 第14回 Student Presentations 4
- 第15回 Review

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大大問題7

著者: 池上 彰

出版社: 角川SSC新書

出版年: 2016

ISBN: 4040820637

外国人が選んだ日本百景

著者: ステファン・シャウエツカー

出版社: 講談社+α 新書

出版年: 2015

ISBN: 4062728249

日本の英語教育

著者: 山田 雄一郎

出版社: 岩波新書

出版年: 2005

ISBN: 4004309433

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(国) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

世界を知るとグローバルな観点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット<国際事情を学ぶ>第1～3講;第2ユニット<5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ>第4～8講;第3ユニット<学生の発表により専門領域を深める>

準備学習(予習・復習)

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 Major Global Issues
- 第3回 Solving Global Issues
- 第4回 Omnibus Rotation; Topic 1: Global Economics
- 第5回 Omnibus Rotation; Topic 2: Global Japan
- 第6回 Omnibus Rotation; Topic 3: Global Careers
- 第7回 Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
- 第8回 Omnibus Rotation; Topic 5: Global Education
- 第9回 Presentation Preparation 1
- 第10回 Presentation Preparation 2
- 第11回 Student Presentations 1
- 第12回 Student Presentation 2
- 第13回 Student Presentations 3
- 第14回 Student Presentations 4
- 第15回 Review

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大大問題7

著者: 池上 彰

出版社: 角川SSC新書

出版年: 2016

ISBN: 4040820637

外国人が選んだ日本百景

著者: ステファン・シャウエツカー

出版社: 講談社+α 新書

出版年: 2015

ISBN: 4062728249

日本の英語教育

著者: 山田 雄一郎

出版社: 岩波新書

出版年: 2005

ISBN: 4004309433

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 ( )

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(国) &lt;\*C&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 裕二	
テーマ 世界を知るとグローバルな視点の育成	
授業の到達目標 1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。	
授業の概要 第1ユニット<国際事情を学ぶ>第1～3講;第2ユニット<5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ>第4～8講;第3ユニット<学生の発表により専門領域を深める>	
準備学習(予習・復習) 国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。	
内 容 第1回 Orientation 第2回 Major Global Issues 第3回 Solving Global Issues 第4回 Omnibus Rotation; Topic 1: Global Economics 第5回 Omnibus Rotation; Topic 2: Global Japan 第6回 Omnibus Rotation; Topic 3: Global Careers 第7回 Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism 第8回 Omnibus Rotation; Topic 5: Global Education 第9回 Presentation Preparation 1 第10回 Presentation Preparation 2 第11回 Student Presentations 1 第12回 Student Presentation 2 第13回 Student Presentations 3 第14回 Student Presentations 4 第15回 Review	
履修上の注意点 学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。	
教科書	
参考書 知らないと恥をかく世界の大大問題7 著者: 池上 彰 出版社: 角川SSC新書 出版年: 2016 ISBN: 4040820637 外国人が選んだ日本百景 著者: ステファン・シャウエツカー 出版社: 講談社+α 新書 出版年: 2015 ISBN: 4062728249 日本の英語教育 著者: 山田 雄一郎 出版社: 岩波新書 出版年: 2005 ISBN: 4004309433	

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(国) &lt;\*D&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 アンガス, ノーマン	
テーマ	
世界を知るとグローバルな観点の育成	
授業の到達目標	
1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることできる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。	
授業の概要	
第1ユニット<国際事情を学ぶ>第1～3講; 第2ユニット<5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ>第4～8講; 第3ユニット<学生の発表により専門領域を深める>	
準備学習(予習・復習)	
国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。	
内 容	
第1回 Orientation	
第2回 Major Global Issues	
第3回 Solving Global Issues	
第4回 Omnibus Rotation; Topic 1: Global Economics	
第5回 Omnibus Rotation; Topic 2: Global Japan	
第6回 Omnibus Rotation; Topic 3: Global Careers	
第7回 Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism	
第8回 Omnibus Rotation; Topic 5: Global Education	
第9回 Presentation Preparation 1	
第10回 Presentation Preparation 2	
第11回 Student Presentations 1	
第12回 Student Presentation 2	
第13回 Student Presentations 3	
第14回 Student Presentations 4	
第15回 Review	
履修上の注意点	
学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。	
教科書	
参考書	
知らないと恥をかく世界の大大問題7	
著者: 池上 彰	
出版社: 角川SSC新書	
出版年: 2016	ISBN: 4040820637
外国人が選んだ日本百景	
著者: ステファン・シャウエツカー	
出版社: 講談社+α 新書	
出版年: 2015	ISBN: 4062728249
日本の英語教育	
著者: 山田 雄一郎	
出版社: 岩波新書	
出版年: 2005	ISBN: 4004309433

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 ( )

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

---



## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(国) &lt;\*E&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 ファゼカシユ, パラージュ	
テーマ	
世界を知るとグローバルな観点の育成	
授業の到達目標	
1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることできる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。	
授業の概要	
第1ユニット<国際事情を学ぶ>第1～3講; 第2ユニット<5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ>第4～8講; 第3ユニット<学生の発表により専門領域を深める>	
準備学習(予習・復習)	
国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。	
内 容	
第1回 Orientation	
第2回 Major Global Issues	
第3回 Solving Global Issues	
第4回 Omnibus Rotation; Topic 1: Global Economics	
第5回 Omnibus Rotation; Topic 2: Global Japan	
第6回 Omnibus Rotation; Topic 3: Global Careers	
第7回 Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism	
第8回 Omnibus Rotation; Topic 5: Global Education	
第9回 Presentation Preparation 1	
第10回 Presentation Preparation 2	
第11回 Student Presentations 1	
第12回 Student Presentation 2	
第13回 Student Presentations 3	
第14回 Student Presentations 4	
第15回 Review	
履修上の注意点	
学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。	
教科書	
参考書	
知らないと恥をかく世界の大大問題7	
著者: 池上 彰	
出版社: 角川SSC新書	
出版年: 2016	ISBN: 4040820637
外国人が選んだ日本百景	
著者: ステファン・シャウエツカー	
出版社: 講談社+α 新書	
出版年: 2015	ISBN: 4062728249
日本の英語教育	
著者: 山田 雄一郎	
出版社: 岩波新書	
出版年: 2005	ISBN: 4004309433

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 Career English I &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

ビジネス実務に必要な英語力の基礎固め。

授業の到達目標

TOEIC スコア500点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。ListeningやReadingの基本的なスキル向上や言語知識の定着のために、TOEICの内容に準拠した問題演習、解説(必要に応じて高校で既習の中級レベルの語彙や文法の復習を含む)とともに問題文の口頭練習活動(音読・シャドーイング)などを行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 TOEIC試験の概要と学習のためのオリエンテーション  
 第2回 写真描写問題(一人物)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(品詞)  
 第3回 写真描写問題(複数人物)の発展演習、品詞の復習、易しい広告文の読解  
 第4回 応答問題(WhereとWhen)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(代名詞)  
 第5回 応答問題(WhereとWhen)の発展演習、代名詞の復習、広告文の読解  
 第6回 会話問題(一般的な会話)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(比較)  
 第7回 会話問題(一般的な会話)の発展演習、比較の復習、一般的なメールの読解  
 第8回 総合問題演習を通じた復習  
 第9回 写真描写問題(事物、情景)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(数詞)  
 第10回 写真描写問題(事物、情景)の発展練習、数詞の復習、メールのやりとりの読解  
 第11回 応答問題(WhatとWhy)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(時制)  
 第12回 応答問題(WhatとWhy)の発展演習、時制の復習、易しいお知らせ文の読解  
 第13回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(態)  
 第14回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の発展演習、態の復習、お知らせ文の読解  
 第15回 総合問題演習を通じた復習

履修上の注意点

教科書

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test

著者: 早川幸治

出版社: 金星堂

出版年: 2017

ISBN: 9.78476E+12

公式TOEIC Listening &amp; Reading 問題集1

著者: ETS

出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会

出版年: 2016

ISBN: 9.78491E+12

参考書

スコア650 文法編

著者: 早川幸治

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

## 2017 Syllabus

科目名 Career English I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 弥永 啓子	
テーマ ビジネス実務に必要な英語力の基礎固め。	
授業の到達目標 TOEIC スコア500点以上の到達を目指す。	
授業の概要 IEPの一環として、少人数で実施する。ListeningやReadingの基本的なスキル向上や言語知識の定着のために、TOEICの内容に準拠した問題演習、解説(必要に応じて高校で既習の中級レベルの語彙や文法の復習を含む)とともに問題文の口頭練習活動(音読・シャドーイング)などを行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 TOEIC試験の概要と学習のためのオリエンテーション 第2回 写真描写問題(一人物)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(品詞) 第3回 写真描写問題(複数人物)の発展演習、品詞の復習、易しい広告文の読解 第4回 応答問題(WhereとWhen)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(代名詞) 第5回 応答問題(WhereとWhen)の発展演習、代名詞の復習、広告文の読解 第6回 会話問題(一般的な会話)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(比較) 第7回 会話問題(一般的な会話)の発展演習、比較の復習、一般的なメールの読解 第8回 総合問題演習を通じた復習 第9回 写真描写問題(事物、情景)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(数詞) 第10回 写真描写問題(事物、情景)の発展練習、数詞の復習、メールのやりとりの読解 第11回 応答問題(WhatとWhy)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(時制) 第12回 応答問題(WhatとWhy)の発展演習、時制の復習、易しいお知らせ文の読解 第13回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(態) 第14回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の発展演習、態の復習、お知らせ文の読解 第15回 総合問題演習を通じた復習	
履修上の注意点	
教科書 公式TOEIC Listening & Reading 問題集1 著者: 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 出版年: 2016 ISBN: 9.78491E+12 The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test 著者: Koji Hayakawa 他 出版社: 金星堂 出版年: 2017 ISBN: 9.78476E+12	
参考書 スコア650文法編 著者: 早川幸治 出版社: 桐原書店 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (20) 小テスト (60) 授業中課題 (20) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) ・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。	

## 2017 Syllabus

科目名 Career English I &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

ビジネス実務に必要な英語力の基礎固め。

授業の到達目標

TOEIC スコア500点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。ListeningやReadingの基本的なスキル向上や言語知識の定着のために、TOEICの内容に準拠した問題演習、解説(必要に応じて高校で既習の中級レベルの語彙や文法の復習を含む)とともに問題文の口頭練習活動(音読・シャドーイング)などを行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 TOEIC試験の概要と学習のためのオリエンテーション  
 第2回 写真描写問題(一人物)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(品詞)  
 第3回 写真描写問題(複数人物)の発展演習、品詞の復習、易しい広告文の読解  
 第4回 応答問題(WhereとWhen)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(代名詞)  
 第5回 応答問題(WhereとWhen)の発展演習、代名詞の復習、広告文の読解  
 第6回 会話問題(一般的な会話)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(比較)  
 第7回 会話問題(一般的な会話)の発展演習、比較の復習、一般的なメールの読解  
 第8回 総合問題演習を通じた復習  
 第9回 写真描写問題(事物、情景)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(数詞)  
 第10回 写真描写問題(事物、情景)の発展練習、数詞の復習、メールのやりとりの読解  
 第11回 応答問題(WhatとWhy)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(時制)  
 第12回 応答問題(WhatとWhy)の発展演習、時制の復習、易しいお知らせ文の読解  
 第13回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(態)  
 第14回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の発展演習、態の復習、お知らせ文の読解  
 第15回 総合問題演習を通じた復習

履修上の注意点

教科書

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test

著者: 早川幸治他

出版社: 金星堂

出版年: 2017

ISBN:

公式TOEIC Listening &amp; Reading 問題集1

著者: Educational Testing Service

出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会

出版年: 2016

ISBN:

参考書

スコア650文法編

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (25%)

小テスト (25%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 ( )

参加度 (15%)

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。・試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。

## 2017 Syllabus

科目名 Career English I &lt;d&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 占部 幹也

テーマ

ビジネス実務に必要な英語力の基礎固め。

授業の到達目標

TOEIC スコア500点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。ListeningやReadingの基本的なスキル向上や言語知識の定着のために、TOEICの内容に準拠した問題演習、解説(必要に応じて高校で既習の中級レベルの語彙や文法の復習を含む)とともに問題文の口頭練習活動(音読・シャドーイング)などを行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 TOEIC試験の概要と学習のためのオリエンテーション  
 第2回 写真描写問題(一人物)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(品詞)  
 第3回 写真描写問題(複数人物)の発展演習、品詞の復習、易しい広告文の読解  
 第4回 応答問題(WhereとWhen)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(代名詞)  
 第5回 応答問題(WhereとWhen)の発展演習、代名詞の復習、広告文の読解  
 第6回 会話問題(一般的な会話)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(比較)  
 第7回 会話問題(一般的な会話)の発展演習、比較の復習、一般的なメールの読解  
 第8回 総合問題演習を通じた復習  
 第9回 写真描写問題(事物、情景)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(数詞)  
 第10回 写真描写問題(事物、情景)の発展練習、数詞の復習、メールのやりとりの読解  
 第11回 応答問題(WhatとWhy)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(時制)  
 第12回 応答問題(WhatとWhy)の発展演習、時制の復習、易しいお知らせ文の読解  
 第13回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(態)  
 第14回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の発展演習、態の復習、お知らせ文の読解  
 第15回 総合問題演習を通じた復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2016年

ISBN:

公式TOEIC Listening &amp; Reading 問題集1

著者: Educational Testing Service

出版社: 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

スコア650文法編

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Career English II <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ	
エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。	
授業の到達目標	
TOEICスコア600点以上の到達を目指す	
授業の概要	
IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 学習のためのオリエンテーション 第2回 娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(主語と動詞の一致) 第3回 テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習 第4回 交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(不定詞と動名詞) 第5回 住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習 第6回 外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(接続詞) 第7回 予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習 第8回 総合問題演習を通じた復習 第9回 病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(前置詞) 第10回 教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習 第11回 ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説(関係代名詞) 第12回 購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習 第13回 人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説(分詞) 第14回 雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習 第15回 総合問題演習を通じた復習	
履修上の注意点	
教科書	
The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test (前期からの継続使用)	
著者: 早川幸治	
出版社: 金星堂	
出版年: 2017	ISBN: 9.78476E+12
公式TOEIC Listening & Reading 問題集1(前期からの継続使用)	
著者: ETS	
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会	
出版年: 2016	ISBN: 9.78491E+12
参考書	
スコア650文法編	
著者: 早川幸治	
出版社: 桐原書店	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	
・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。	

## 2017 Syllabus

科目名 Career English II &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 弥永 啓子	
テーマ エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。	
授業の到達目標 TOEICスコア600点以上の到達を目指す	
授業の概要 IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 学習のためのオリエンテーション 第2回 娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(主語と動詞の一致) 第3回 テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習 第4回 交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(不定詞と動名詞) 第5回 住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習 第6回 外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(接続詞) 第7回 予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習 第8回 総合問題演習を通じた復習 第9回 病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(前置詞) 第10回 教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習 第11回 ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説(関係代名詞) 第12回 購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習 第13回 人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説(分詞) 第14回 雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習 第15回 総合問題演習を通じた復習	
履修上の注意点	
教科書 公式TOEIC Listening & Reading 問題集1(前期から継続使用) 著者: 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 出版年: 2016 ISBN: 9.78491E+12 The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test(前期から継続使用) 著者: Koji Hayakawa 他 出版社: 金星堂 出版年: 2017 ISBN: 9.78476E+12	
参考書 スコア650文法編 著者: 早川幸治 出版社: 桐原書店 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(20) 小テスト(60) 授業中課題(20) 授業中発表等( ) 参加度( ) ・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。	



## 2017 Syllabus

科目名 Career English II &lt;c&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア600点以上の到達を目指す

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 学習のためのオリエンテーション  
 第2回 娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(主語と動詞の一致)  
 第3回 テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習  
 第4回 交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(不定詞と動名詞)  
 第5回 住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習  
 第6回 外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(接続詞)  
 第7回 予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習  
 第8回 総合問題演習を通じた復習  
 第9回 病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(前置詞)  
 第10回 教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習  
 第11回 ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説(関係代名詞)  
 第12回 購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習  
 第13回 人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説(分詞)  
 第14回 雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習  
 第15回 総合問題演習を通じた復習

履修上の注意点

教科書

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test (前期から継続)

著者: 早川幸治他

出版社: 金星堂

出版年: 2017

ISBN:

公式TOEIC Listening &amp; Reading 問題集1(前期から継続)

著者: Educational Testing Service

出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会

出版年: 2016

ISBN:

参考書

スコア650文法編

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (25%)

小テスト (25%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 ( )

参加度 (15%)

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。・試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。

## 2017 Syllabus

科目名 Career English II &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。	
授業の到達目標 TOEICスコア600点以上の到達を目指す	
授業の概要 IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 学習のためのオリエンテーション 第2回 娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(主語と動詞の一致) 第3回 テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習 第4回 交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(不定詞と動名詞) 第5回 住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習 第6回 外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(接続詞) 第7回 予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習 第8回 総合問題演習を通じた復習 第9回 病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説(前置詞) 第10回 教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習 第11回 ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説(関係代名詞) 第12回 購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習 第13回 人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説(分詞) 第14回 雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習 第15回 総合問題演習を通じた復習	
履修上の注意点	
教科書 ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby 著者: ECC 出版社: ECC 出版年: 2016年 ISBN: 公式TOEIC Listening & Reading 問題集1 著者: Educational Testing Service 出版社: 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 出版年: 2016年 ISBN: 9.78491E+12	
参考書 スコア650文法編 著者: 早川幸治 出版社: 桐原書店 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 30 ) 小テスト ( 30 ) 授業中課題 ( 20 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) ・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。	

## 2017 Syllabus

科目名 **経済学基礎**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

マクロ経済学という、一国の経済がどのような仕組みで動くのかの基本的概念を学ぶ。

授業の到達目標

マクロ経済学の基礎概念を習得し、日本経済新聞などの経済専門紙や雑誌を、背後の経済メカニズムを理解しながら読めるようにする。

授業の概要

板書による講義を中心に進める。途中で学生に質問をするが、どんなにわからなくても、わからないなりに考えて答えること。講義テーマとは別に、新聞切り抜きなどを使って時事問題の解説をします。就活などでの時事問題知識の向上に役立ててください。

準備学習(予習・復習)

毎日、新聞の政治・経済・国際面を読んでください。授業後は、必ず講義中に習得したキーワードの単語帳を作成すること。形式や長さは問わないが、時々提出させることもあります。

内 容

第1回 イントロダクション: 講義の進め方を説明し、これから学ぶ経済学とは何かの大枠を解説する。

第2回 第1章 需要・供給・弾力性: 需要、供給

第3回 第1章 需要・供給・弾力性: 需要供給の均衡、弾力性

第4回 第2章 GDP・インフレ・失業: GDPの計り方、生産・分配・支出アプローチ

第5回 第2章 GDP・インフレ・失業: GDP関連のいくつかの重要概念、インフレ、失業

第6回 第3章 総需要と総供給: 総需要とは

第7回 第3章 総需要と総供給: 総供給とは

第8回 第3章 総需要と総供給: 総需要カーブと総供給カーブの交わり

第9回 第4章 経済成長と雇用の関係-古典派とケインズ派の考え方: 古典派の考え方

第10回 第4章 経済成長と雇用の関係-古典派とケインズ派の考え方: ケインズ派の考え方

第11回 第4章 経済成長と雇用の関係-古典派とケインズ派の考え方: 総需要・総供給モデルとケインズ派均衡モデルの関係

第12回 第5章 貨幣というもの・銀行の役割: お金の機能、お金の需要、お金の供給、商業銀行の役割

第13回 第5章 貨幣というもの・銀行の役割: 中央銀行の役割

第14回 第6章 財政政策と金融政策

第15回 理解度の確認と包括的なまとめ

履修上の注意点

質問や議論など、積極的な講義への参加を歓迎します。わからないところは、研究室に質問に来てもらって結構です。遅刻、早退、欠席だけを理由に単位取得不可とはしませんが、大人としてのマナーを守ってください。また講義不参加のための理解不足は自己責任です。参考書「国際金融の世界」は、講義内容上、必要というものではありませんが、経済や金融に関心があり、積極的に経済金融の知識を深めたいという学生向けの推薦です。

教科書

参考書

国際金融の世界

著者: 佐久間浩司

出版社: 日本経済新聞出版社

出版年: 2015

ISBN: 9.78453E+12

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 英語圏文学A

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 アンガス, ノーマン	
テーマ 体験型のイギリス文学	
授業の到達目標 さまざまな時代や形態の文学作品に触れることにより、その時代の社会、問題、文化(地域文化を含む)、生活の知識を高めることにより、複雑な国家であるイギリス全体に対する正確な認識や感覚を身に着けることをめざす。講義と参加型の学びにより、受講生の知識のみならず、発音、購読力、文学作品の鑑賞力の向上を更なる目標とする。	
授業の概要 第1回、2回の英文学の入門となる基礎知識の講義とその練習に続いて、中世から現代まで亘る作品を幅広く取り上げ、それぞれの作品やジャンルについて学ぶ。その後、作品を音読したり、歌ったり、文学的および言語的な分析を行ったり、ときには作品に取り上げている問題についてディスカッションを行う。受講生の英語の4技能を向上させる「参加型」の学びを通して、英文学を「体験できる」授業となっている。この授業は英語で行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 英文学を読むための古代および中世英語や文語体の紹介とその練習 第2回 英詩を鑑賞するための基礎知識:「律」、「韻」、「連」や「節」などについての作詩学入門 第3回 チョーサーの『カンタベリー物語』を通す中世イギリスの社会と職業 第4回 シェイクスピア作「ソネット97」の作詩学分析と詩の鑑賞や朗読 第5回 シェイクスピア作「マクベス」をめぐるイングランドとスコットランドの複雑な王室事情とモノローグの音読 第6回 ミルトンの「失樂園」とその背景にある宗教派閥の問題とディスカッション 第7回 方言文学に触れる—ロバートバーンズの「蛍の光」の原作を歌い、標準英語に訳す 第8回 18世紀の社会を批判する風刺作家ジョナサンズイフトと『ガリバー旅行記』 第9回 啓蒙時代の散文を読む—ジェームズボズウェルの『ジョンソンの伝記』 第10回 産業革命が生んだイギリスの格差社会—チャールズディケンズ作『オリバー』 第11回 同性愛者で反戦詩人オーデンの亡命と文学活動—「すべての時計を止めよう」を読む 第12回 シェイマスヒーニーの詩「罰」と「連合法」から学ぶ古きアイルランド問題やディスカッション 第13回 現代人間の問題を考える—サミュエルベケット作の現代劇『行ったり来たり』を上演する 第14回 拡大する現在イギリスの「自治権」—エドウィンモーガンの「投票後」を中心に独立と関連する作品を読む 第15回 学生発表と評価	
履修上の注意点	

## 教科書

毎回プリントを配布する。パワーポイントを提供する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

イギリス文学史入門

著者: 川崎寿彦著

出版社: 研究社出版

出版年:

ISBN:

イギリス小説入門

著者: 川口橋一著

出版社: 研究社出版

出版年:

ISBN:

英詩鑑賞入門

著者: 新井明著

出版社: 研究社出版

出版年:

ISBN:

a20101d110

The Penguin Guide to English Literature

著者: ed. Ronald Carter and John Mcrae

出版社: Penguin

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語圏文化論A

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 アンガス, ノーマン	
テーマ イギリス文化の概論	
授業の到達目標	さまざまな時代とさまざまな側面からイギリスという複雑な国家に関する基礎知識(地理、歴史、政治、教育、国民の特徴、日常生活や風俗習慣、国が抱えている問題など)についての理解を深めることを目指す。これにより、受講生は異文化理解や多文化コミュニケーション能力を向上させることをめざす。
授業の概要	イギリスの過去と現在の正確な情報を幅広く得るために、テーマごとに講義で解説をする。また、イギリスのさまざまな側面を幅広く考察することによって、イギリスが世界に与えた影響と他地域との関わりについても考える。クラスでは、PBL学習、学生によるグループプレゼンテーションも取り入れて、学生が海外実習先の地域に対して関心を持つ手助けを行う。授業は英語で行う。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 イギリスの地名と地理 — 日本との比較</p> <p>第2回 イギリスの歴史、その1 — 古代から中世</p> <p>第3回 イギリスの歴史、その2 — ルネサンスから現代</p> <p>第4回 国家と王室との関係 — 王室の人気と危機</p> <p>第5回 イギリスとEUとの関係 — Brexit:イギリスはEUから脱出するのか</p> <p>第6回 国民の食生活</p> <p>第7回 お祭り</p> <p>第8回 古きアイルランド問題 — テロリズムについて考える</p> <p>第9回 教育制度の全体と大学生活 — 日本との比較</p> <p>第10回 スコットランド:その独自の文化と独立運動</p> <p>第11回 ウェールズ:言語の復活と経済発展</p> <p>第12回 イギリスの福祉制度 — 北欧との差</p> <p>第13回 多民族・多文化社会とそれに伴うさまざまな問題点</p> <p>第14回 ロンドン — オリンピック、劇場、観光、プレミアリーグ、美術館と博物館</p> <p>第15回 学生のPBLグループプレゼンテーション</p>
履修上の注意点	

教科書

参考書

In Britain

著者: M. Vaughan-Rees et. al. Macmillan

出版社: LanguageHouse

出版年: ISBN:

An Illustrated History of Britain

著者: D. McDowall

出版社: Longman

出版年: ISBN:

The Oxford Illustrated History of Ireland

著者: ed. R. F. Foster

出版社: OUP

出版年: ISBN:

A History of Scotland

著者: J. D. Mackie

出版社: Pelican

出版年: ISBN:

A History of Wales

著者: J. Davies

出版社: Penguin

出版年: ISBN:

British Society Since 1945

著者: A. Marwick

出版社: Penguin

出版年: ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語学A

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

英語という言語について、歴史的、構造的、社会的な観点からその特徴を分析する。講義では、英語学の分野全般を扱い、英語学の基礎的な知識を獲得し、英語学の用語にも慣れ親しむことができるようにする。

授業の到達目標

①英語学全般の分野において基本的知識を身につける。②英語学の観点から英語という言語の特徴を理解する。

授業の概要

国際的なコミュニケーションの手段として広く用いられ、地球語ともよばれる英語とはどんな言語かという問題を、英語学のさまざまな観点から考察する。具体的には、英語発音の仕組み、語・文の構造、語・文の意味、英語語用論などを扱う。また、英語の歴史を振り返りながら、社会的・地理的変種における発音・語彙の違いなども講義する。講義ではわれわれが外国語として英語を学んでいるという観点から、第二言語習得についても触れる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 導入、英語学とは、地球語としての英語の実態
- 第2回 英語の歴史(古英語から中英語へ)
- 第3回 英語の歴史(中英語から近代英語へ)
- 第4回 アメリカ英語とその他の英語の変種
- 第5回 地球語としての英語の広がり、英語の将来
- 第6回 英語の音声・発音(1)(英語の母音、子音、音節)
- 第7回 英語の音声・発音(2)(強勢、リズム、イントネーション、音変化)
- 第8回 英語形態論(英語の語彙、単語の構造、造語法)
- 第9回 英語統語論(英語の文法の特徴、その仕組み)
- 第10回 英語統語論(代表的な文法理論と分析方法)
- 第11回 英語意味論(単語の意味、文の意味)
- 第12回 英語語用論(直示、前提、発話行為、会話の含意)
- 第13回 英語の社会的方言(階級方言、黒人英語、英語と性差、英語の丁寧表現)
- 第14回 英語の習得(第二言語習得、外国語としての英語)
- 第15回 まとめと総括

履修上の注意点

教科書

英語についての26章Twenty-Six Short Essays on English

著者: 赤楚治之/William Herlofsky/清水克正

出版社: 英宝社

出版年: 2013

ISBN: 9.78427E+11

参考書

現代英語学へのアプローチ

著者: 山内信幸・北林利治

出版社: 英宝社

出版年: 2014

ISBN: 9.78427E+12

成績評価

試験・レポート(50)

小テスト(20)

授業中課題(30)

授業中発表等( )

参加度( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 多文化コミュニケーションA

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 北林 利治	
テーマ	日英語の文化やコミュニケーションの相違点に焦点を当てながら、異文化を理解するための基礎的な知識を修得しながら理解を深めていく。
授業の到達目標	英語圏の日常生活やマナーを含めた文化を学びながら、異文化コミュニケーションのさまざまな側面への理解を深めることができるようになる、②異文化コミュニケーションの分析で用いられる用語に慣れ親しみ、日英を中心とした文化やコミュニケーションの諸側面の分析ができるようになる。
授業の概要	「異文化コミュニケーション」という学問についての基礎知識を紹介し、とりわけ、日本語によるコミュニケーションと英語によるコミュニケーションとの比較を通して、それぞれのコミュニケーション方法やその背後にある日英の文化の特徴を学ぶ。非言語を含めたコミュニケーションスタイル、その背景にある文化、すなわち、社会的ルール、ものの考え方、文化的価値観、などをテーマにし、各週トピックをピックアップし、講義とディスカッションを行う。ステレオタイプ的な異文化の捉え方に陥ることなく、より客観的に物事を判断できるようにめざす。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 日英の非言語コミュニケーション①(表情、アイコンタクト)</p> <p>第3回 日英の非言語コミュニケーション②(しぐさ、ジェスチャー)</p> <p>第4回 時間の使い方と異文化理解</p> <p>第5回 空間の使い方と異文化理解</p> <p>第6回 日英文化における言語表現(誘い方、断り方、謝罪の表現)</p> <p>第7回 日英文化における言語表現(ほめ方、叱り方)</p> <p>第8回 日英文化における言語表現(謙譲表現)</p> <p>第9回 明示的なコミュニケーション(英語文化)と間接的なコミュニケーション(日本語文化)</p> <p>第10回 日英文化における文化的価値観(日英における集団と個人)</p> <p>第11回 日英におけるコミュニケーションのスタイル(パラ言語、コンテキストの用い方)</p> <p>第12回 低コンテキスト文化(英語文化)と高コンテキスト文化(日本語文化)</p> <p>第13回 感情の表現と異文化理解</p> <p>第14回 日英文化における習慣・マナー</p> <p>第15回 まとめと総括</p>
履修上の注意点	
教科書	Beyond Boundaries グローバル社会の異文化コミュニケーション 著者: 池口セシリア・八代京子 出版社: 桐原書店 出版年: 2008 ISBN: 9.78434E+12
参考書	<p>ケースで学ぶ異文化コミュニケーション 著者: 久米昭元・長谷川典子 出版社: 有斐閣選書 出版年: ISBN:</p> <p>異文化トレーニング【改訂版】 著者: 八代京子ほか 出版社: 三修社 出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験・レポート ( 50 )</p> <p>授業中課題 ( 30 )</p> <p>小テスト ( 20 )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>



## 2017 Syllabus

科目名 経営学基礎

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 ファゼカシユ, パラージュ	
テーマ	
経営学の基礎を学びながら、経済、社会、企業の働きを考える	
授業の到達目標	
① 歴史と社会の中での企業を理解する ② 企業の中での働き方についての基本概念を理解する ③ 産業や企業の事例に触れる ④ 戦略論の基本概念を理解する ⑤ 企業分析の基本用語を覚える	
授業の概要	
この授業は三つの大きな部分から成り立っている。第一部分では、なぜ経営を学ぶ必要があるかという点を検討し、経営と戦略論の基本概念を学ぶ。第二部分では、会社の中の自分を考えて、会社という迷宮の中で迷わないための基礎知識を学ぶ。第三部分では、少し金融の面からも企業を考える。	
準備学習(予習・復習)	
なし	
内 容	
第1回 イントロダクション	
第2回 組織とは	
第3回 企業と経済	
第4回 経営学の歴史	
第5回 製品と戦略論	
第6回 産業分析	
第7回 会社の構造	
第8回 会社の中の自分	
第9回 会社の中のグループ	
第10回 会社の中のリーダー	
第11回 動機付けと社内学習	
第12回 金融と金	
第13回 会社分析I	
第14回 会社分析II	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
できるかぎり欠席しないこと。	

## 教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

ゼミナール経営学入門

著者: 伊丹敬之, 加護野忠男

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 1989

ISBN:

事実に基づいた経営—なぜ「当たり前」ができないのか?

著者: ジェフリー フェファー(著), ロバート・I. サットン(著), 清水 勝彦(翻訳)

出版社: 東洋経済

出版年: 2009

ISBN:

戦略経営論

著者: ガース サローナー(著), ジョエル ボドルニー(著), アンドレア シェパード(著)

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 2002

ISBN:

Organizations: A Very Short Introduction

著者: Mary Jo Hatch

出版社: Oxford University Press

出版年: 2011

ISBN:

The Ascent of Money: A Financial History of the World

著者: Niall Ferguson

出版社: Penguin Books

出版年: 2009

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 0 )

授業中発表等 ( 0 )

参加度 ( 0 )

小テストは多肢選択式にする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **統計学演習**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 ファゼカシユ, パラージュ	
テーマ	
Microsoft Excelの使い方とデータ処理の基礎を学ぶ。	
授業の到達目標	
この授業で学ぶことは以下のとおり。① Excelの基本操作 ② データと変数の種類 ③ データ収集とデータ処理の基本 ④ 統計学の基礎知識	
授業の概要	
社会がここまで発展してきた理由の一つは、「測定すれば改善できる」という考え方である。この授業では、ものごとを測定するための基礎知識を学ぶ。会社で最も広く使われているMicrosoft Excelの使い方を学び、データをどう処理すれば意味のある結果を出せるか考える。この授業で学ぶことは会社で働く上での欠かせない能力の一つです。	
準備学習(予習・復習)	
Microsoft OfficeとExcelが入っているパソコンを用意し、パソコン、Word, Excel, Power Pointの基本操作をできるかぎり学んでおいてください。	
内 容	
第1回	イントロダクション
第2回	ものごとを測定する(I)
第3回	ものごとを測定する(II)
第4回	変数と変数の種類
第5回	Excel: 基本操作とデータ入力
第6回	Excel: 記述統計
第7回	Excel: グラフとデータ表示
第8回	Excel: 関数の使い方
第9回	統計学と確率論とは
第10回	相関関係・回帰分析とは
第11回	Excel: 統計実習
第12回	課題報告
第13回	課題報告
第14回	課題報告
第15回	まとめ
履修上の注意点	
できるかぎり欠席しないこと。	
教科書	
未定	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
未定	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (60)	授業中発表等 (40)
参加度 (0)	

## 2017 Syllabus

科目名 **会計学基礎**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 佐久間 浩司	
テーマ	
企業の業績を計る最も客観性ある手段の「会計」を学ぶ。	
授業の到達目標	
ほとんどの学生が、卒業後の何らかの経済活動に参加するが、経済活動人として最低限知っておくべき会計の基礎知識を身につける。同時に、一般企業、公務員などに就職するものにとって、一般常識を上回る程度の会計の専門知識が身に着くことも狙う。	
授業の概要	
板書による講義形式で授業を進めます。会計の周辺にある経済問題、一般常識問題にも目を配り、時々、新聞の切り抜きなどを使って時事問題解説を行います。	
準備学習(予習・復習)	
技術的な内容の説明が多くなると思いますので、予習よりは、講義をしっかりと聞いて復習を着実に実施し知識を定着させてください。	
内 容	
第1回	会計とは
第2回	利益計算の仕組み 企業の活動、複式簿記の構造
第3回	利益計算の仕組み 複式簿記の構造 利益計算と財務諸表
第4回	利益計算のルール
第5回	1～4回の復習および理解度確認
第6回	利益計算のルールの続き および 売上高と売上債権
第7回	棚卸資産と売上原価
第8回	棚卸資産と売上原価の続き および 固定資産と減価償却
第9回	固定資産と減価償却の続き
第10回	6～9回の復習および理解度確認
第11回	金融活動の資産と損益
第12回	営業上の負債と他人資本
第13回	資本の拡充と余剰金の分配
第14回	連結財務諸表
第15回	11～14回の復習および理解度確認
履修上の注意点	
会計の決まりごとを学ぶのが中心の講義ですから、復習をしっかりとしてください。質問などあれば、講義時間でも空いた時間に研究室でも結構です。遅刻、早退、欠席だけを理由に単位取得不可とはしませんが、理解がその分悪くなくても自己責任です。	
教科書	
会計学入門	
著者: 桜井久勝	
出版社: 日本経済新聞出版社	
出版年: 1996	ISBN: 9.78453E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 70 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **観光学基礎**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 裕二	
テーマ グローバルな視点から、観光の基礎を学ぶ	
授業の到達目標 1. グローバルな視点から、観光の基礎を学修し、わが国における観光について問題意識を持つことができる。2. 観光業がどのような企業・組織などによって構成されているのかを理解することができる。3. 観光業の実務に必要な語彙や専門用語などについて学ぶことができる。	
授業の概要 観光は、政治や経済、経営、政策、外国人とのコミュニケーションなど、幅広い対象領域からなる。観光について、世界では何が起きているのか、日本では何が起きているのか基礎的な知識を習得する。授業は、基本的に、講義形式で行い、映像や動画を活用し、ビジュアルでも理解を深めていく。10回目以降は、学生が、決められたテーマに基づきグループ研究を行い、発表とディスカッションをすることが要求される。学生の習熟度を見ながら、必ずしも最初に定めた講義スケジュールにとらわれることなく、フレキシブルに進める。	
準備学習(予習・復習) 各回の授業開始前には、前授業についての小テストを課し、内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、観光に関する語彙や専門用語を整理しておくこと。予習としては、授業で紹介する文献を読んでおくこと。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 今、世界の観光市場で何が起きているのかを把握する 第3回 観光の基礎を学ぶ 第4回 観光と観光客の分類を学ぶ 第5回 観光が及ぼすさまざまな影響を理解する 第6回 観光を推進する組織について学ぶ 第7回 観光のマーケティングを学ぶ 第8回 観光地のイメージ 第9回 観光の今日的な課題について問題意識を持つ 第10回 観光業(1)政府・自治体、航空会社 第11回 観光業(2)宿泊会社、航空会社 第12回 観光業(3)旅行会社、観光施設、その他 第13回 グループ課題の発表とディスカッション(1) 第14回 グループ課題の発表とディスカッション(2) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 5回以上休むと単位が認められない。10分以上の遅刻で欠席とみなす。欠席する場合は、事前に連絡すること。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
授業中に指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 30 ) 授業中課題 ( 20 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( 20 ) 参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。	

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習(予習・復習)

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内 容

- 第1回 ★(前半合同)学科教員紹介 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)オリターによるチビッコランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 ★(合同)保育士や教師として働く先輩から聴く
- 第7回 新聞をどう読むか メディアリテラシーを考える
- 第8回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第9回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第10回 教育・保育について調べたことの発表
- 第11回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第12回 討論のスキルを学ぶ
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 仲間と協力して活動を創る
- 第15回 学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )



## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 森 枝美

## テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

## 授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

## 授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

## 準備学習(予習・復習)

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

## 内 容

- 第1回 ★(前半合同)学科教員紹介 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)オリターによるチビッコランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 ★(合同)保育士や教師として働く先輩から聴く
- 第7回 新聞をどう読むか メディアリテラシーを考える
- 第8回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第9回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第10回 教育・保育について調べたことの発表
- 第11回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第12回 討論のスキルを学ぶ
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 仲間と協力して活動を創る
- 第15回 学びを振り返る

## 履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 青木 美智子

## テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

## 授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

## 授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

## 準備学習(予習・復習)

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

## 内 容

- 第1回 ★(前半合同)学科教員紹介 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)オリターによるチビッコランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 ★(合同)保育士や教師として働く先輩から聴く
- 第7回 新聞をどう読むか メディアリテラシーを考える
- 第8回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第9回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第10回 教育・保育について調べたことの発表
- 第11回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第12回 討論のスキルを学ぶ
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 仲間と協力して活動を創る
- 第15回 学びを振り返る

## 履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習(予習・復習)

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内 容

- 第1回 ★(前半合同)学科教員紹介 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)オリターによるチビッコランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 ★(合同)保育士や教師として働く先輩から聴く
- 第7回 新聞をどう読むか メディアリテラシーを考える
- 第8回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第9回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第10回 教育・保育について調べたことの発表
- 第11回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第12回 討論のスキルを学ぶ
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 仲間と協力して活動を創る
- 第15回 学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) &lt;\*E&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 西村 徳寿

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習(予習・復習)

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内 容

- 第1回 ★(前半合同)学科教員紹介 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)オリターによるチビッコランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 ★(合同)保育士や教師として働く先輩から聴く
- 第7回 新聞をどう読むか メディアリテラシーを考える
- 第8回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第9回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第10回 教育・保育について調べたことの発表
- 第11回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第12回 討論のスキルを学ぶ
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 仲間と協力して活動を創る
- 第15回 学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) &lt;\*F&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 長橋 聡

## テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

## 授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

## 授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

## 準備学習(予習・復習)

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

## 内 容

- 第1回 ★(前半合同)学科教員紹介 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)オリターによるチビッコランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 ★(合同)保育士や教師として働く先輩から聴く
- 第7回 新聞をどう読むか メディアリテラシーを考える
- 第8回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第9回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第10回 教育・保育について調べたことの発表
- 第11回 文化活動を通じた子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第12回 討論のスキルを学ぶ
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 仲間と協力して活動を創る
- 第15回 学びを振り返る

## 履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈\*A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内 容

- 第1回 夏の体験交流 後期の課題を考える
- 第2回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
- 第3回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
- 第4回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
- 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
- 第6回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
- 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
- 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
- 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
- 第10回 メディアリテラシーについて考える
- 第11回 教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
- 第12回 考えたことを発表し合い議論する
- 第13回 ★(合同)人形劇鑑賞とワークショップ
- 第14回 2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
- 第15回 この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈\*B〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森 枝美

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内 容

- 第1回 夏の体験交流 後期の課題を考える
- 第2回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
- 第3回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
- 第4回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
- 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
- 第6回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
- 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
- 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
- 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
- 第10回 メディアリテラシーについて考える
- 第11回 教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
- 第12回 考えたことを発表し合い議論する
- 第13回 ★(合同)人形劇鑑賞とワークショップ
- 第14回 2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
- 第15回 この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児) &lt;\*C&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内 容

- 第1回 夏の体験交流 後期の課題を考える
- 第2回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
- 第3回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
- 第4回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
- 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
- 第6回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
- 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
- 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
- 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
- 第10回 メディアリテラシーについて考える
- 第11回 教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
- 第12回 考えたことを発表し合い議論する
- 第13回 ★(合同)人形劇鑑賞とワークショップ
- 第14回 2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
- 第15回 この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内 容

- 第1回 夏の体験交流 後期の課題を考える
- 第2回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
- 第3回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
- 第4回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
- 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
- 第6回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
- 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
- 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
- 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
- 第10回 メディアリテラシーについて考える
- 第11回 教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
- 第12回 考えたことを発表し合い議論する
- 第13回 ★(合同)人形劇鑑賞とワークショップ
- 第14回 2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
- 第15回 この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児) &lt; \* E &gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西村 徳寿

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内 容

- 第1回 夏の体験交流 後期の課題を考える
- 第2回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
- 第3回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
- 第4回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
- 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
- 第6回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
- 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
- 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
- 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
- 第10回 メディアリテラシーについて考える
- 第11回 教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
- 第12回 考えたことを発表し合い議論する
- 第13回 ★(合同)人形劇鑑賞とワークショップ
- 第14回 2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
- 第15回 この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児) &lt; \* F &gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内 容

- 第1回 夏の体験交流 後期の課題を考える
- 第2回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
- 第3回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
- 第4回 ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
- 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
- 第6回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
- 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
- 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
- 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
- 第10回 メディアリテラシーについて考える
- 第11回 教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
- 第12回 考えたことを発表し合い議論する
- 第13回 ★(合同)人形劇鑑賞とワークショップ
- 第14回 2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
- 第15回 この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 教育原論(初)

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森 枝美

テーマ

教育の基本問題と教育改革

授業の到達目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の概要

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 教育の素朴概念
- 第2回 発達と教育
- 第3回 教育課程の基本問題
- 第4回 学習指導要領について
- 第5回 様々な教育方法
- 第6回 教科指導の意義
- 第7回 生活指導実践の意義
- 第8回 教育の公共性
- 第9回 進路指導
- 第10回 高等学校の進路指導
- 第11回 教育専門職論
- 第12回 日本の教育制度
- 第13回 教育改革動向
- 第14回 教育基本法と学校教育
- 第15回 教育の国際的合意形成

履修上の注意点

様々な教育書を各自で意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

教科書

参考書

講義のなかで紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト ( )

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (30%)

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 現代と教育

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 岩本 賢治	
テーマ 教師として身につけるべき現代認識	
授業の到達目標 私たちはどのような時代を生活しているかを同時代的視点から捉えるとともに、現代社会が取り組むべき教育の課題を考える。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設の状況を知って、自らの進路を考える資質を養う。	
授業の概要 現代認識を身につけるためのテーマとして平和の問題とジェンダーの問題を取り上げる。その上で、現代社会が取り組むべき教育の課題を調べ、発表する。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設で働く人をゲストティーチャーとして招き講演を組織する。	
準備学習(予習・復習) 新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。	
内 容 第1回 教育は未来を創造する仕事—21世紀の未来を見通すために20世紀の過去に学ぼう NHK『山田洋次×美輪明宏×二宮和也 未来のために』の視聴と講義 第2回 20世紀がなぜ戦争の世紀といわれるのか—NHK『映像の世紀』から 第1集「20世紀の幕開け」第2集「大量殺戮(りく)の完成」の視聴と講義 第3回 20世紀資本主義の発展が見せた光と影とはなにか 第3集「それはマンハッタンから始まった」第4集「ヒトラーの野望」の視聴と講義 第4回 20世紀最大の悲劇(ナチスによるユダヤ人虐殺、アメリカの原爆投下など)はなぜ起こったか 第5集「世界は地獄を見た」第6集「独立の旗の下に」の視聴と講義 第5回 20世紀新興独立国はどのようにして誕生したかの視聴と講義 第7集「勝者の世界分割」第8集「恐怖の中の平和」 第6回 20世紀末の民族紛争・内戦はなぜ起こったのか 第9集「ベトナムの衝撃」第10集「民族の悲劇果てしなく」の視聴と講義 第7回 学校現場から教育を考える①: 小学校 第8回 学校現場から教育を考える②: 幼稚園 第9回 保育士の仕事を考える 第10回 福祉施設で働くということ 第11回 ジェンダーと教育を考える(1) 第12回 ジェンダーと教育を考える(2) 第13回 課題発表(1) 第14回 課題発表(2) 第15回 課題発表(3) ※この授業では必要に応じて講演会を開催することがある。	
履修上の注意点	
教科書 授業内で配布する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内で紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (15) 参加度 (15)	小テスト (55) 授業中発表等 (15)

小テスト 第15回にそれまでの講義の要点を確認する。授業中課題 各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の内容で評価します。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の積極性で評価します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職入門(初)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

授業の到達目標

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校づくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。

授業の概要

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 教育をとりまく状況と今日の教育課題
- 第2回 教師に期待されること、教師としての生き方、教師の日常
- 第3回 学習指導の歴史的な変遷と、現代に求められる学力
- 第4回 小学校での授業創りの実際(算数を例に考える)
- 第5回 少人数指導・習熟度別指導を巡って
- 第6回 子どもたちの現状と生活指導の課題
- 第7回 いじめや不登校にどう取り組むか
- 第8回 学級作りの取り組み
- 第9回 総合的な学習の時間の意義と実際
- 第10回 特別支援教育について(ADHDなどの子どもたちの指導について)
- 第11回 評価についての様々な考え方と実際
- 第12回 保護者・地域との連携をどうつくるか
- 第13回 教師としての研修、教師の権利と責任、教師の身分保障、教師を巡る法的問題
- 第14回 教師の生き方
- 第15回 授業のまとめ ※この授業では必要に応じて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

教育の理念を深く掘り下げるために、古典とされる書物、あるいは現在の優れた実践記録などを読む。教育を巡る様々なできごとや教育改革の報道に注目し、自分が教師であればどのように考え対処するか、という問題意識を常に持つ。

教科書

AさせたいならBと言え

著者： 岩下修

出版社： 明治図書

出版年：

ISBN：

学びとは何か &lt;探究人&gt;になるために

著者： 今井むつみ

出版社： 岩波新書

出版年：

ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

&lt;教育力&gt;をみがく

著者： 家本芳郎

出版社： 寺子屋新書

出版年：

ISBN：

いちばんやさしい 教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年： ISBN：

参考書

夢と希望の人生学

著者： 佐藤剛史

出版社： 現代書林

出版年： ISBN：

たったひとつを変えるだけ：クラスも教師も自立する「質問づくり」

著者： 吉田新一郎

出版社： 新評論

出版年： ISBN：

なぜか仕事がうまくいく教師の7つのルール

著者： 西川純

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

その指導、学級崩壊の原因です！ 「かくれたカリキュラム」発見・改善ガイド

著者： 横藤雅人 武藤久慶著

出版社： 明治図書

出版年： ISBN：

こんな時どう言い返す

著者： 池田修

出版社： 学事出版

出版年： ISBN：

野口流 授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

サッカーで子どもの力をひきだす 池上さんのことば辞典

著者： 池上正

出版社： 株式会社 カンゼン

出版年： ISBN：

修身教授録

著者： 森信三

出版社： 致知出版

出版年： ISBN：

小学校高学年女子の指導 困ったときの処方箋

著者： 赤坂真二

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

新任1年目を生き抜く教師のサバイバル術、教えます

著者： 西川純

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )



## 2017 Syllabus

科目名 **教育心理学(初)**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

子どもの発達と教育

授業の到達目標

教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。具体的には、「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する指導や援助の基本的な視点を獲得することができるようにすること。

授業の概要

教育現場の様々な問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察する

準備学習(予習・復習)

予習の必要はないが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内 容

- 第1回 教育心理学とは、本講義が目指すもの
- 第2回 系統発生と個体発生、子どもの発達にとって必要な基本条件
- 第3回 発達の原理と発達段階
- 第4回 ピアジェの発生的認識論とヴィゴツキーの社会文化的発達論
- 第5回 学習の原理と学習理論、行動主義とゲシュタルト学説
- 第6回 忘却の原理と忘却理論
- 第7回 学習動機とその発達(障がいのある児童の学習課程を含む)
- 第8回 人格の構造と人格理論(障がいのある児童の発達を含む)
- 第9回 欲求の階層構造と人格発達
- 第10回 子どもの行動と防衛機制
- 第11回 教育評価とは、指導と評価
- 第12回 絶対評価、相対評価、到達度評価
- 第13回 関心・意欲・態度と教育評価
- 第14回 発達障害
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

授業は包括的、概論的なものとなるため、それを補う意味で、各柱立てに沿ってのレポート(計4回、各1200字程度)を求め、その際、提示された参考文献を必ず参照することを求める。

教科書

やさしい発達と学習

著者: 外山紀子・外山美樹

出版社: 有斐閣

出版年: 2010

ISBN: 9.78464E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (70%)

小テスト ( )

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 自然科学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 宮下 ゆたか	
テーマ	
21世紀を生きる市民に求められる「科学的自然観」、「自然科学と社会との正しい関わり方」などについて具体的事例を通して学ぶ。	
授業の到達目標	
①「自然の階層性・歴史性」について具体的事例を通して学び、「科学的自然観とは」について考察する。②天動説から地動説への変遷の歴史をととして、「自然科学とは」「科学的なもの見方とは」について考察する。③いまだに収束していない2011.3.11福島第一原発事故問題をとおして、「原発・エネルギー問題」、「自然科学と社会との正しい関わり方」について自分の意見が持てることをめざす。	
授業の概要	
「科学的な自然観とは」、「科学的なもの見方とは」、「自然科学と社会との正しい関わり方とは」などについてグループ討論、ミニプレゼンも取り入れて学習を深める。	
準備学習(予習・復習)	
授業で疑問に感じた事や興味を持った内容などについて、自分でインターネットなどで調べる姿勢を身につけたい。	
内 容	
第1回 自然科学概論オリエンテーション(講義内容・進め方、班編成、アンケートなど)	
第2回 「自然の階層性(1)」:原子のミクロな世界から宇宙のマクロな世界まで、各階層を貫く法則性について学習する。	
第3回 「自然の階層性(2)」:光と電子の振る舞いを中心に、量子の世界について学習する。	
第4回 「自然の歴史性(1)」:宇宙の進化と星の一生について学習する。	
第5回 「自然の歴史性(2)」:太陽、地球はどのようにして生まれ、進化してきたのかについて学習する。	
第6回 「自然の歴史性(3)」:最初の生命体は地球上でどのようにして誕生し、進化してきたのかについて学習する。	
第7回 「自然科学の起源」:自然科学誕生の歴史について学習する。	
第8回 「自然科学とは、科学的なもの見方とは(1)」:天動説から地動説への変遷の歴史について学習する。	
第9回 「自然科学とは、科学的なもの見方とは(2)」:「近代科学の父 ガリレオ」の科学的業績と生き方について学習する。	
第10回 ミニプレゼンのガイダンスと準備 1	
第11回 ミニプレゼンのガイダンスと準備 2	
第12回 「原発・放射能問題(1)」:ミニ・プレゼン1	
第13回 「原発・放射能問題(2)」:ミニ・プレゼン2	
第14回 「原発・エネルギー問題 どう考えるか」補足説明	
第15回 自然科学概論 ふりかえりとまとめ	
履修上の注意点	
①15回の講義のうち、10回以上出席すること。6回以上欠席した場合は単位は認められない。②出席カードによる確認と、その日の講義の「課題作文」提出とで出席となる。③「介護等体験」「保育実習」などカリキュラム上の講義の欠席のみ「公欠」とみなす。就職活動を理由にする欠席は「公欠」としないので回数に注意して就職活動をする。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
科学入門 増補版…科学的なものの考え方	
著者: 武谷三男	
出版社: 勁草書房	
出版年: 1996	ISBN:
原子物理学入門	
著者: 坂田昌一	
出版社: 勁草書房	
出版年: 1972	ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 **音楽概論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ	
社会的背景や他の芸術との関わりから音楽の歴史を辿る。	
授業の到達目標	
1)西洋音楽や日本音楽についての基礎的な知識を習得する。音楽表現への理解を深め、音楽の特徴を自らの言葉で語ることができる。	
授業の概要	
社会的背景や他の芸術との関わりという視点から西洋音楽や日本音楽の歴史を概説し、様々な音楽や総合芸術作品を鑑賞する。	
準備学習(予習・復習)	
予習:教科書をはじめ、音楽に関連する本や雑誌を読んでおく。復習:授業で取り上げた時代の音楽の特徴をまとめ、授業で触れた作品を聴く。	
内 容	
第1回	人間と音楽:音楽を考える視点、ワールドミュージック
第2回	西洋音楽:古代ギリシャ、中世の音楽
第3回	西洋音楽:ルネサンス音楽
第4回	西洋音楽:バロック音楽
第5回	西洋音楽:古典派の音楽
第6回	西洋音楽:ロマン派の音楽
第7回	西洋音楽:国民楽派の音楽
第8回	西洋音楽:近代・現代の音楽
第9回	ポピュラー音楽
第10回	日本の音楽:古代から中世へ
第11回	日本の音楽:能と狂言
第12回	日本の音楽:近世の音楽
第13回	総合芸術:音楽と舞踊
第14回	総合芸術:劇の音楽
第15回	まとめと理解度調査
履修上の注意点	
3分の2以上の出席が必要。遅刻や早退をしないように。音楽鑑賞を中心とする科目なので、私語は厳禁。	
教科書	
西洋音楽史	
著者: 岡田暁生	
出版社: 放送大学教育振興会	
出版年: 2013年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (50%)
授業中課題 (40%)	授業中発表等 (0)
参加度 (10%)	
各回に小レポートを課す。	

## 2017 Syllabus

科目名 美術概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

芸術と人間、芸術と社会・文化との関連について理解する。

授業の到達目標

1) 芸術作品の分析を通して個々の作品の意味内容を理解する。2) 芸術作品を構成する造型言語に親しみ理解する。3) 芸術作品に意味を与える文化の構造とそれを支える概念の理解に至る。4) 作品の理解に際しては、受身で話を聞くのではなく自ら思考してその理解を確かなものとする。

授業の概要

パワーポイントを用いて具体的作例を呈示する。まずは作品に関する基本的なデータを解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し互いに意見交換をして解答を出す。その解答をもとに授業を進める。このQ&A方式によって受講生の積極的な授業への参加を求める。

準備学習(予習・復習)

1) 展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。2) 受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

内 容

- 第1回 はじめに・古代ギリシャの理想美
- 第2回 中世の表象①ロマネスク美術
- 第3回 中世の表象②ゴシック美術
- 第4回 ルネッサンス芸術と規範①
- 第5回 ルネッサンス芸術と規範②
- 第6回 ルネッサンス芸術と規範③
- 第7回 遠近法的世界観とは？
- 第8回 マニエリスム芸術・怪物的奇想の美
- 第9回 マニエリスム芸術・グロテスク
- 第10回 「周縁」の美・北方の美
- 第11回 「周縁」の美・死をめぐる価値観
- 第12回 境界とは何か？①グロテスクをめぐる問題
- 第13回 境界とは何か？②「笑い」「道化」をめぐる問題
- 第14回 理性の表象
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

私語厳禁。場合によっては減点対象となる。座席指定。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **数学概論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 西村 徳寿	
テーマ 算数教育の数学的基礎を学ぶ	
授業の到達目標 幼児や小学生に算数を教える上で基本となる数・量・関数・図形・統計などの基本的な知識と考え方を学ぶ。教科教育法(算数)の前段として位置づける。	
授業の概要 知識を広く獲得するよりも、重要な子どもの躓きをとりあげ、その中から大事な数学的概念(考え)を抽出し理解していく。授業の中で、考えること、発見すること、振り返ることなどを重視し、グループでの話し合いなども行っていく。	
準備学習(予習・復習) * 授業で出された課題(宿題)に取り組むこと。* 授業中に小テストを随時行う。	
内 容 第1回 数の意味を考える(十進位取り記数法の考え方) 第2回 加法・減法の計算の意味を考える 第3回 乗法の計算の意味を考える 第4回 九九表の鑑賞法(とらえ直し) 第5回 除法の計算の意味を考える 第6回 小数の計算の意味を考える 第7回 分数の計算の意味を考える 第8回 負の数、無理数、複素数の意味を考える 第9回 平面図形について 第10回 立体図形について 第11回 図形の計量法について 第12回 算数の指導法について(小学校現場の先生から学ぶ) 第13回 関数について(実験を通して学ぶ) 第14回 図形と関数について(座標について学ぶ) 第15回 統計と確率について	
履修上の注意点 *身近な子どものつまずきや学修者の算数・数学への戸惑いや苦手意識の克服のあり方を考えながら、学習を進めること。* 学修者の顔と名前を可能な限り覚えるために座席指定制とします。	

## 教科書

## 入門算数学

著者: 黒木哲徳

出版社: 日本評論社

出版年: 2009

ISBN: 978-4-535785403

## 参考書

さんすうだいすき 全10巻

著者: 遠山啓

出版社: 日本図書センター

出版年: 2012

ISBN: 978-4284202152

算数の探険(全10巻)

著者: 遠山啓

出版社: 日本図書センター

出版年: 2011

ISBN: 978-4284201896

算数はこわくない: おかあさんのための水道方式入門

著者: 遠山啓

出版社: 日本図書センター

出版年: 2013

ISBN: 978-4284202442

基礎からわかる数学入門 数の発展から微分積分まで

著者： 遠山啓

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2013

ISBN： 978-4797375053

親と子で学ぶ算数入門 数と計算のしくみから関数の初歩まで

著者： 遠山啓

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2014

ISBN： 978-4797376234

数の不思議 初等整数論への招待

著者： 遠山啓

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2014

ISBN： 978-4797376241

遠山啓エッセンス〈3〉量の理論

著者： 遠山啓

出版社： 日本評論社

出版年： 2009

ISBN： 978-4535603264

---

#### 成績評価

試験・レポート（30）

小テスト（10）

授業中課題（30）

授業中発表等（10）

参加度（20）

「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。試験・レポートについては、授業中に指示を行う。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 体育概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史	

## テーマ

文化としての体育・スポーツを理解し、その文化の継承・発展・創造を考える

## 授業の到達目標

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的などの多方面の基礎知識を身に付ける。そして体育・スポーツについて、仲間と共に考えることができる力、体育・スポーツを正しく理解する力を身に付ける。

## 授業の概要

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的な多方面の基礎知識を学ぶ。疑問の提起(クイズ)、資料、映像、簡単な実技などを通して基礎知識を学ぶ。また、自分たちで体育・スポーツに関するテーマを見付け、グループで共に考え、発表し理解を深める。

## 準備学習(予習・復習)

1. 体育・スポーツとは何か、自分で受けてきた(あるいは受けている)体育・スポーツの授業を振り返り、またクラブやサークルで行っているスポーツ・身体活動を振り返り考えてみましょう。2. 新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合結果ばかりではなく、試合の作戦、選手の技術、ファンへのサービス、地域・社会への貢献など、社会的、文化的、歴史的、科学的な背景等々、多くの視点で見てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 「投げる」に関する遊びとその動作の習得及び人間の運動発達
- 第2回 人間の運動発達と現代の子どもの運動能力
- 第3回 筋肉の構造と筋力の発達や特性
- 第4回 人間の汗と体温調節のしくみ
- 第5回 人間の運動学習(わかる・できるようになる)
- 第6回 眼の仕組みとスポーツにおける眼の役割(スポーツビジョン)
- 第7回 相撲の歴史と文化(日本のスポーツ・運動文化)
- 第8回 陸上競技の歴史と文化(世界のスポーツの歴史)
- 第9回 スポーツの科学、カーブはなぜカーブするのか
- 第10回 体育とは何か、スポーツとはどうちがうのか。「スポーツ基本法」には何が書いてあるのか
- 第11回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表①
- 第12回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表②
- 第13回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表③
- 第14回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表④
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

毎回配布する資料にある質問(クイズ)をよく考えてみる。その資料を保管しておくこと。教員の話、他の学生の発表をよく聞くこと(私語を慎むこと)。体育・スポーツを様々な視点から考えてみる。

## 教科書

## 参考書

## 体育のとびら

著者: 荒木豊他

出版社: 日本書籍

出版年: 1986年

ISBN:

## 体育教材論

著者: 中村敏雄

出版社: 創文企画

出版年: 1989年

ISBN:



夢を跳ぶ

著者： 佐藤真海

出版社： 岩波書店

出版年： 2008年

ISBN:

スポーツ教養入門

著者： 高峰修

出版社： 岩波書店

出版年： 2010年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

しっかり授業に出席し、教員の話、学生の発表をよく聞き理解すること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い	
授業の到達目標 1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。	
内 容 第1回 コードネームの復習(メジャーコードとマイナーコード)、視唱、バイエルNo.81、82 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85 第3回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91 第5回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93 第6回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95 第8回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97 第10回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98 第11回 ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (70%) 参加度 (20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美・阿部 真子	
テーマ 鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い	
授業の到達目標 1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。	
内 容 第1回 コードネームの復習(メジャーコードとマイナーコード)、視唱、バイエルNo.81、82 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85 第3回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91 第5回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93 第6回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95 第8回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97 第10回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98 第11回 ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (70%) 参加度 (20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習 I &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美・阿部 真子	
テーマ 鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い	
授業の到達目標 1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。	
内 容 第1回 コードネームの復習(メジャーコードとマイナーコード)、視唱、バイエルNo.81、82 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85 第3回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91 第5回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93 第6回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95 第8回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97 第10回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98 第11回 ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (70%) 参加度 (20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習 I &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美・阿部 真子	
テーマ 鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い	
授業の到達目標 1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。	
内 容 第1回 コードネームの復習(メジャーコードとマイナーコード)、視唱、バイエルNo.81、82 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85 第3回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91 第5回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93 第6回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95 第8回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97 第10回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98 第11回 ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (70%) 参加度 (20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 芦田 風馬

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習(予習・復習)

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「絵に表わす活動」を中心とした課題①
- 第3回 「絵に表わす活動」を中心とした課題②
- 第4回 「絵に表わす活動」を中心とした課題③
- 第5回 「絵に表わす活動」を中心とした課題④
- 第6回 「立体表わす活動」を中心とした課題①
- 第7回 「立体表わす活動」を中心とした課題②
- 第8回 「立体表わす活動」を中心とした課題③
- 第9回 「立体表わす活動」を中心とした課題④
- 第10回 「工作表わす活動」を中心とした課題①
- 第11回 「工作表わす活動」を中心とした課題②
- 第12回 「工作表わす活動」を中心とした課題③
- 第13回 「工作表わす活動」を中心とした課題④
- 第14回 こどもの絵の特徴・傾向について
- 第15回 作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること(遅刻は、欠席0.5回と数える。30分以上の遅刻は欠席。病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない)。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼B〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 芦田 風馬

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習(予習・復習)

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「絵に表わす活動」を中心とした課題①
- 第3回 「絵に表わす活動」を中心とした課題②
- 第4回 「絵に表わす活動」を中心とした課題③
- 第5回 「絵に表わす活動」を中心とした課題④
- 第6回 「立体表わす活動」を中心とした課題①
- 第7回 「立体表わす活動」を中心とした課題②
- 第8回 「立体表わす活動」を中心とした課題③
- 第9回 「立体表わす活動」を中心とした課題④
- 第10回 「工作表わす活動」を中心とした課題①
- 第11回 「工作表わす活動」を中心とした課題②
- 第12回 「工作表わす活動」を中心とした課題③
- 第13回 「工作表わす活動」を中心とした課題④
- 第14回 こどもの絵の特徴・傾向について
- 第15回 作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること(遅刻は、欠席0.5回と数える。30分以上の遅刻は欠席。病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない)。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼C〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 芦田 風馬

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習(予習・復習)

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「絵に表わす活動」を中心とした課題①
- 第3回 「絵に表わす活動」を中心とした課題②
- 第4回 「絵に表わす活動」を中心とした課題③
- 第5回 「絵に表わす活動」を中心とした課題④
- 第6回 「立体表わす活動」を中心とした課題①
- 第7回 「立体表わす活動」を中心とした課題②
- 第8回 「立体表わす活動」を中心とした課題③
- 第9回 「立体表わす活動」を中心とした課題④
- 第10回 「工作表わす活動」を中心とした課題①
- 第11回 「工作表わす活動」を中心とした課題②
- 第12回 「工作表わす活動」を中心とした課題③
- 第13回 「工作表わす活動」を中心とした課題④
- 第14回 こどもの絵の特徴・傾向について
- 第15回 作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること(遅刻は、欠席0.5回と数える。30分以上の遅刻は欠席。病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない)。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈児a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 芦田 風馬

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習(予習・復習)

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「絵に表わす活動」を中心とした課題①
- 第3回 「絵に表わす活動」を中心とした課題②
- 第4回 「絵に表わす活動」を中心とした課題③
- 第5回 「絵に表わす活動」を中心とした課題④
- 第6回 「立体表わす活動」を中心とした課題①
- 第7回 「立体表わす活動」を中心とした課題②
- 第8回 「立体表わす活動」を中心とした課題③
- 第9回 「立体表わす活動」を中心とした課題④
- 第10回 「工作表わす活動」を中心とした課題①
- 第11回 「工作表わす活動」を中心とした課題②
- 第12回 「工作表わす活動」を中心とした課題③
- 第13回 「工作表わす活動」を中心とした課題④
- 第14回 こどもの絵の特徴・傾向について
- 第15回 作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること(遅刻は、欠席0.5回と数える。30分以上の遅刻は欠席。病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない)。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈児b〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 芦田 風馬

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習(予習・復習)

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「絵に表わす活動」を中心とした課題①
- 第3回 「絵に表わす活動」を中心とした課題②
- 第4回 「絵に表わす活動」を中心とした課題③
- 第5回 「絵に表わす活動」を中心とした課題④
- 第6回 「立体表わす活動」を中心とした課題①
- 第7回 「立体表わす活動」を中心とした課題②
- 第8回 「立体表わす活動」を中心とした課題③
- 第9回 「立体表わす活動」を中心とした課題④
- 第10回 「工作表わす活動」を中心とした課題①
- 第11回 「工作表わす活動」を中心とした課題②
- 第12回 「工作表わす活動」を中心とした課題③
- 第13回 「工作表わす活動」を中心とした課題④
- 第14回 こどもの絵の特徴・傾向について
- 第15回 作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること(遅刻は、欠席0.5回と数える。30分以上の遅刻は欠席。病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない)。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 こども理解 I (幼児)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋川 喜美代

テーマ

実践で幼児と向き合う大切さ

授業の到達目標

幼児理解の基盤となる行為の意味と理解、発達の捉え方、幼児がクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを現場の事例を通して検討し、理解を深める。

授業の概要

幼児理解の実際を映像、事例や絵本を通して検討し、幼児と保育者、保護者と保育者の関係性を探る。

準備学習(予習・復習)

現場の保育に触れる機会を大切にすること

内 容

- 第1回 入園当初の幼児の実態
- 第2回 幼児と保育者の信頼関係
- 第3回 遊びに見る幼児の姿(1)遊べない幼児
- 第4回 遊びに見る幼児の姿(2)遊び込む幼児たち
- 第5回 絵本との出会い・学び
- 第6回 絵本が描く子どもの世界
- 第7回 絵本が描く保育者像
- 第8回 園生活と絵本
- 第9回 幼児理解と指導計画(3歳児)
- 第10回 幼児理解と指導計画(4歳児)
- 第11回 幼児理解と指導計画(5歳児)
- 第12回 接続期の5歳児の姿と就学
- 第13回 特別支援教育と幼児理解
- 第14回 現場の諸問題と保育者
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

幼児にふさわしいと思われる教材の製作や絵本を選び学生同士で読み聞かせをし合うなど、各自で独自のシミュレーションを重ねるような学習活動の発展を期待する

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **こども理解Ⅱ(児童)**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 河内 晴彦

テーマ

こども理解を深めよう—こどもが表現した詩や作文を通して、こどもの生活や思いをつかむことから始める—

授業の到達目標

こども理解を深めるために 1, こどもの詩や作文を読み合う。2, 自分の「こども時代」を振りかえる。3, 現場における問題を通して、こどもの現状をまるごと理解する。

授業の概要

こどもの詩や作文を読み合い、意見や感想を交流しあう。小学校2年生の国語の教科書に載っている教材「おてがみ」を読み、気持ちを考え、表現する。具体的な現場における問題を考えることで、今のこどもを理解する。

準備学習(予習・復習)

テキストをよく読む。こどもと教育に関する新聞記事を日頃から読む。自分なりの意見を持つ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の進め方、「自己紹介カード」回収)
- 第2回 第1次班の編成、班活動に取り組む
- 第3回 テキストを読み合う①
- 第4回 テキストを読み合う②
- 第5回 テキストを読み合う③
- 第6回 テキストを読み合う④
- 第7回 「おてがみ」をみんなで読み合う
- 第8回 「おてがみ」を演じてみる
- 第9回 第2次班の編成、自分たちの作文を書く
- 第10回 自分たちの作文を読み合う①
- 第11回 自分たちの作文を読み合う②
- 第12回 こどもの現状をまるごと理解する①—「いじめ」の問題を通して—
- 第13回 こどもの現状をまるごと理解する②—「学級崩壊」をどう考える—
- 第14回 こどもの現状をまるごと理解する③—「不登校・ひきこもり」の問題を通して—
- 第15回 まとめの授業—どんな先生になりたいかを考える

履修上の注意点

4人から5人の小グループを編成する。小グループでの討論・作業をもとに、全体での発表や討論を行う。自分の意見を持ち、積極的に参加して欲しい。欠席は、班員にも迷惑がかかるので、極力避けるように。やむ得ないときは事前に欠席届やメールによる連絡を必ず行うこと。

教科書

聞いてよ こころのつぶやきと叫び

著者: 村山士郎

出版社: 本の泉社

出版年: 2009年

ISBN:

参考書

尾木ママの「脱いじめ」論

著者: 尾木直樹

出版社: PHP研究所

出版年: 2013年

ISBN:

ふたりはともだち

著者: アーノルド・ローベル

出版社: 文化出版局

出版年: 1972年

ISBN:

いじめで遊ぶ子どもたち

著者： 村山士郎

出版社： 新日本出版社

出版年： 2012年

ISBN:

いじめとは何か

著者： 森田洋司

出版社： 中央公論新社

出版年： 2010年

ISBN:

子どもとスマホ

著者： 石川結貴

出版社： 花伝社

出版年： 2016年

ISBN:

---

#### 成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（0）

授業中課題（60）

授業中発表等（20）

参加度（20）

授業で課する3つの課題の提出、討論や発表への参加を最重視する。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 音楽演習Ⅱ〈幼A〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 田中 幹子	
テーマ	「人間の身体と音楽」「音楽の三要素(メロディ・ハーモニー・リズム)」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。
授業の到達目標	音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、こどもたちに伝えることができることを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。
授業の概要	受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。
準備学習(予習・復習)	担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション「音楽の基本について」</p> <p>第2回 リズム①「ボディリズム(呼吸法)について」</p> <p>第3回 リズム②「手拍子、手遊びを使って」</p> <p>第4回 リズム③「足踏み(ステップ、ギャロップ)を使って」</p> <p>第5回 メロディ①「歌ごころについて」</p> <p>第6回 メロディ②「模倣の有効性について(絵本、アニメ曲より)」</p> <p>第7回 メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」</p> <p>第8回 ハーモニー①「日本人と身近な自然音」</p> <p>第9回 ハーモニー②「こどもの音域と合唱」</p> <p>第10回 ハーモニー③「世界の音楽(ポピュラー音楽)とコード」</p> <p>第11回 アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」</p> <p>第12回 アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」</p> <p>第13回 アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」</p> <p>第14回 創作の発表</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>
履修上の注意点	テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40% )
授業中課題 ( 20% )	授業中発表等 ( 20% )
参加度 ( 20% )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 音楽演習Ⅱ〈幼B〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 田中 幹子	
テーマ	「人間の身体と音楽」「音楽の三要素(メロディ・ハーモニー・リズム)」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。
授業の到達目標	音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、子どもたちに伝えることができることを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。
授業の概要	受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。
準備学習(予習・復習)	担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション「音楽の基本について」</p> <p>第2回 リズム①「ボディリズム(呼吸法)について」</p> <p>第3回 リズム②「手拍子、手遊びと使って」</p> <p>第4回 リズム③「足踏み(ステップ、ギャロップ)を使って」</p> <p>第5回 メロディ①「歌ごころについて」</p> <p>第6回 メロディ②「模倣の有効性について(絵本、アニメ曲より)」</p> <p>第7回 メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」</p> <p>第8回 ハーモニー①「日本人と身近な自然音」</p> <p>第9回 ハーモニー②「こどもの音域と合唱」</p> <p>第10回 ハーモニー③「世界の音楽(ポピュラー音楽)とコード」</p> <p>第11回 アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」</p> <p>第12回 アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」</p> <p>第13回 アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」</p> <p>第14回 創作の発表</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>
履修上の注意点	テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40% )
授業中課題 ( 20% )	授業中発表等 ( 20% )
参加度 ( 20% )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 音楽演習Ⅱ〈幼C〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 田中 幹子	
テーマ	「人間の身体と音楽」「音楽の三要素(メロディ・ハーモニー・リズム)」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。
授業の到達目標	音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、子どもたちに伝えることができることを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。
授業の概要	受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。
準備学習(予習・復習)	担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション「音楽の基本について」</p> <p>第2回 リズム①「ボディリズム(呼吸法)について」</p> <p>第3回 リズム②「手拍子、手遊びを使って」</p> <p>第4回 リズム③「足踏み(ステップ、ギャロップ)を使って」</p> <p>第5回 メロディ①「歌ごころについて」</p> <p>第6回 メロディ②「模倣の有効性について(絵本、アニメ曲より)」</p> <p>第7回 メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」</p> <p>第8回 ハーモニー①「日本人と身近な自然音」</p> <p>第9回 ハーモニー②「こどもの音域と合唱」</p> <p>第10回 ハーモニー③「世界の音楽(ポピュラー音楽)とコード」</p> <p>第11回 アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」</p> <p>第12回 アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」</p> <p>第13回 アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」</p> <p>第14回 創作の発表</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>
履修上の注意点	テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40% )
授業中課題 ( 20% )	授業中発表等 ( 20% )
参加度 ( 20% )	



## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈児a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 佐野 仁美・阿部 真子

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

授業の到達目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程で歌う能力を養う。(2)基本的な音楽理論を理解し、楽譜を読んで歌うことができる。(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な指導法を身につける。

授業の概要

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

準備学習(予習・復習)

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持つておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
- 第2回 基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、音感トレーニング、楽典
- 第3回 小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。音感トレーニング、楽典
- 第4回 小学校3年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第5回 小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。音感トレーニング、楽典
- 第6回 小学校4年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第7回 小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。音感トレーニング、楽典
- 第8回 小学校5年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第9回 小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。音感トレーニング、楽典
- 第10回 小学校6年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第11回 小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。音感トレーニング、楽典
- 第12回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。音感トレーニング、楽典
- 第13回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習(グループ)。音感トレーニング、楽典
- 第14回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表(グループ)。音感トレーニング、楽典
- 第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

楽典は毎回プリントで確認します。わからないことがあったり、欠席した場合は早目に質問に来てください。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]

著者: 初等科音楽教育研究会

出版社: 音楽之友社

出版年: 2011

ISBN: 978-4276820098

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

出席と受講時の積極性が評価に大きく関係します。

## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈児b〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 佐野 仁美・阿部 真子

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

授業の到達目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程で歌う能力を養う。(2)基本的な音楽理論を理解し、楽譜を読んで歌うことができる。(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な指導法を身につける。

授業の概要

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

準備学習(予習・復習)

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持つておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
- 第2回 基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、音感トレーニング、楽典
- 第3回 小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。音感トレーニング、楽典
- 第4回 小学校3年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第5回 小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。音感トレーニング、楽典
- 第6回 小学校4年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第7回 小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。音感トレーニング、楽典
- 第8回 小学校5年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第9回 小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。音感トレーニング、楽典
- 第10回 小学校6年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第11回 小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。音感トレーニング、楽典
- 第12回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。音感トレーニング、楽典
- 第13回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習(グループ)。音感トレーニング、楽典
- 第14回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表(グループ)。音感トレーニング、楽典
- 第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

楽典は毎回プリントで確認します。わからないことがあったり、欠席した場合は早目に質問に来てください。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]

著者: 初等科音楽教育研究会

出版社: 音楽之友社

出版年: 2011

ISBN: 978-4276820098

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

出席と受講時の積極性が評価に大きく関係します。

## 2017 Syllabus

科目名 **社会福祉**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 明弘	
テーマ 明日はわが身の社会福祉—保育士の社会的役割を考える—	
授業の到達目標 子どもの貧困や児童虐待、高齢者の介護問題、障害者の社会参加など社会福祉の課題は多岐にわたる。その背景を理解し、解決策を見出すとともに、保育士の社会的役割について考える。人間を能力の多寡で選別する新自由主義に対峙するものとして社会福祉をとらえ、その必要性を通して、共生社会のあり方を考えたい。	
授業の概要 福祉六法を中心とした社会福祉制度について概説すると同時に、重点的な課題を取り扱う。社会福祉に関連する社会問題にもふれる。さらに、社会福祉実践の先駆者の取り組みを、時々で紹介する(社会福祉人銘記)。	
準備学習(予習・復習) 授業の中で紹介した本などを読む。	
内 容 第1回 社会福祉とは何か？ 第2回 社会福祉の体系〔社会福祉人銘記〕非行少年をのべ100人以上雇用 野口義弘 第3回 生活保護—下流老人問題を通して—〔社会福祉人銘記〕ホームレスの自立支援 奥田知志 第4回 児童家庭福祉—子どもの貧困と雇用の液化化— 第5回 児童家庭福祉—児童の人権思想—〔社会福祉人銘記〕児童権利条約の草案に影響 ヤヌシュ・コルチャック 第6回 児童家庭福祉—社会的養護と里親—〔社会福祉人銘記〕児童養護の父 石井十次 第7回 高齢者福祉—介護保険制度の陥穽— 第8回 障害者福祉—日本型ノーマライゼーションを問う—〔社会福祉人銘記〕ノーマライゼーションの父 バンク・ミケルセン 第9回 ソーシャルワークの理論と方法〔社会福祉人銘記〕ケースワークの母 メアリー・リッチモンド 第10回 社会福祉と学校教育—ケアの共同体をつくる— 第11回 若者を使い潰すブラック企業〔社会福祉人銘記〕セツルメント運動の指導者 賀川豊彦 第12回 性的多様性について考える〔社会福祉人銘記〕日本のマザーテレサ 井深八重 第13回 奨学金と若者の貧困 第14回 まとめ:一人でもやる。一人でもやらない。 第15回 試験	
履修上の注意点 実存的態度(パウル・ティリッヒ)を傾けてのぞんでください。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 社会福祉の理論(改訂版) 著者: 大野光彦編著 出版社: 八千代出版 出版年: 2001年 ISBN: 4842912197	
成績評価 試験・レポート(60) 授業中課題( ) 参加度(25)	小テスト(15) 授業中発表等( )

## 2017 Syllabus

科目名 **保育原理**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 長瀬 美子	
テーマ 「保育」とは何か	
授業の到達目標 ・発達のとらえ方について説明できる・「保育」とはどのような営みであるか説明できる・保育内容や保育方法の基礎について説明できる	
授業の概要 保育を行うにあたって理解する必要のある以下の内容について学ぶ・発達のとらえ方・「保育」とはどのような営みであるか・保育内容や保育方法の基礎理論 講義と映像により進めます	
準備学習(予習・復習) ＜予習＞資料等を読み、指定された箇所について調べて出席すること ＜復習＞ノート、資料を見直し、不明な点については追加で調べる	
内 容 第1回 オリエンテーション「保育原理」で何を学ぶか(必要な概念、講義の全容) 第2回 「保育とは何か」を学ぶ(1) 家庭保育を中心に(特性、現状) 第3回 「保育とは何か」を学ぶ(2) 集団保育を中心に(特性と意義、現状) 第4回 発達について学ぶ(1) 発達における生物学的な要因・社会的要因 第5回 発達について学ぶ(2) 乳児期(0歳)の特性 第6回 発達について学ぶ(3) 幼児期前半(1～3歳)の特性 第7回 発達について学ぶ(4) 幼児期後半(4～6歳)の特性 第8回 保育の原理について学ぶ(1) 主体性尊重の原理 第9回 保育の原理について学ぶ(2) 環境構成の意義と方法 第10回 保育の原理について学ぶ(3) 関係性の原理 第11回 保育実践の展開(1) 保育の構造 第12回 保育実践の展開(2) 基本的生活とあそび 第13回 保育実践の展開(3) 課業(課題活動) 第14回 保育者の専門性 第15回 総括	
履修上の注意点 保育を学ぶ上で基本となる科目です。ノートづくりが大切です(板書を書き写すだけでなく説明についてもメモすること) 他の受講生の学習の妨げになる行動(私語等)は厳禁	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 50 ) 授業中課題 ( 30 ) 参加度 ( 20 ) 小テスト ( ) 授業中発表等 ( ) ＜試験・レポート＞記述式の試験を行います(持ち込み条件あり)。＜授業中課題＞授業中に数回、ミニレポートを課します。 ＜参加度＞受講態度等から評価します。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 発達心理学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 南 憲治	
テーマ	
①乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴 ②主要な発達理論 ③主な発達障害と障害に応じた支援の方法	
授業の到達目標	
乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴、ならびに主要な発達理論について理解し、子どもの健全な成長・発達を支援するために必要とされる基礎的な知識や理論を習得する。また、主な発達障害の特徴について理解するとともに、障害に応じた支援の方法についても学ぶ。	
授業の概要	
毎回の授業は教科書を参照しつつ、配布資料に基づいて進める。適宜、視覚教材を利用し、子どもの発達について具体的に理解できるようにする。	
準備学習(予習・復習)	
予習の必要はないが、講義の内容を配布資料と教科書を基に自分で整理すること。	
内 容	
第1回 胎生期の発達(卵胎期・胎芽期・胎児期の特徴)	
第2回 新生児の発達の特徴	
第3回 乳児期の発達と発達の諸相	
第4回 幼児期前半の発達と発達の諸相(表象の成立)	
第5回 幼児期前半から幼児期後半への移行(4歳頃の発達の变化)	
第6回 幼児期後半の発達と発達の諸相:①直観的思考段階の特徴	
第7回 幼児期後半の発達と発達の諸相:②心の理論の獲得など	
第8回 児童期前半の発達と発達の諸相(論理的思考の始まり)	
第9回 児童期後半の発達と発達の諸相(9~10歳の壁)	
第10回 青年期の発達と発達の諸相:①青年期の発達課題(自我同一性の獲得)	
第11回 青年期の発達と発達の諸相:②青年期に好発する精神疾患とその背景	
第12回 ポウルビイの愛着理論	
第13回 発達障害:①自閉症スペクトラム障害の特徴と支援のポイント	
第14回 発達障害:②ADHDとLDの特徴と支援のポイント	
第15回 まとめの課題	
履修上の注意点	
予習の必要性はないが、毎回授業の最後の行う確認テストにより、講義内容を自分で整理・確認して下さい。	
教科書	
よくわかる認知発達とその支援[第2版]	
著者: 子安増生(編)	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: 2016	ISBN: 9.78462E+12
参考書	
保育の心理学	
著者: 新 保育士養成講座編纂委員会(編)	
出版社: 全国社会福祉協議会	
出版年: 2011年	ISBN: 9.78479E+12
0歳-6歳 子どもの発達と保育の本	
著者: 港区保育を学ぶ会	
出版社: 学研	
出版年: 2011年	ISBN: 9.78405E+12
成績評価	
試験・レポート (70%)	小テスト (30%)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅰ－Ⅰ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 齋藤 洋子	
テーマ 子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的知識を学ぶ	
授業の到達目標 子どもの健やかな成長発達を図る保健活動の意義を理解する。乳幼児の成長発達の特徴を理解する。子どもの精神保健とその課題等について理解する。	
授業の概要 テキストを中心に講義を進めるが、必要に応じて資料の配布、DVDの視聴も行う。	
準備学習(予習・復習) テキストを読んで授業に臨み、疑問点は積極的に調べたり質問してほしい。	
内 容 第1回 子どもの健康と保健の意義 第2回 子どもの健康と統計 第3回 子どもの成長と発達Ⅰ(子どもの発育と環境因子・特徴・胎児の発育) 第4回 子どもの成長と発達Ⅱ(生理機能の発達—循環・呼吸・消化・排泄) 第5回 子どもの成長と発達Ⅲ(生理機能の発達—免疫・体温・感覚器・歯・骨) 第6回 子どもの成長と発達Ⅳ(乳幼児の身体発育) 第7回 子どもの成長と発達Ⅴ(神経系の構造と発達) 第8回 子どもの成長と発達Ⅵ(運動機能) 第9回 子どもの成長と発達Ⅶ(精神機能—認知・情緒) 第10回 子どもの成長と発達Ⅷ(精神機能—社会性・情緒) 第11回 子どもの精神保健 第12回 子どもの生活と保健Ⅰ(栄養) 第13回 子どもの生活と保健Ⅱ(乳幼児と食) 第14回 子どもの生活と保健Ⅲ(排泄・睡眠・衣服) 第15回 子どもの生活と保健Ⅳ(清潔・遊び)	
履修上の注意点	
教科書 保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅰ 著者： 堀浩樹・梶美保 編著 出版社： 建帛社 出版年： ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート(80) 小テスト( ) 授業中課題(10) 授業中発表等( ) 参加度(10)	

## 2017 Syllabus

科目名 デイバート指導技術入門(小学校)

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 新家 竜介

テーマ

コミュニケーションの形態であるデイバート・討論を基礎から学ぶ。

授業の到達目標

公的なテーマについて異なる立場から議論を戦わせるデイバート・討論の実践スキルを習得します。このスキルは、論文執筆やゼミ発表など今後の学生生活で必要となる様々な知的能力の基盤にもなります。また、デイバートの体験を通して、その指導スキルの習得もめざまします。

授業の概要

デイバートの一つであるポリシーデイバートの基礎概念を学習した上で、チームを組みポリシーデイバートの試合を体験します。ポリシーデイバートは、コミュニケーション能力をはじめ、論理的思考力・批判的思考力や多角的視点など、様々な知的能力の涵養を図る一種の教育・学習ゲームです。

準備学習(予習・復習)

授業内で提示する課題や、チーム対抗戦に向けた準備に取り組んでください。また、身の回りの様々な議論について「なぜそう言えるのか」「だから何が言えるのか」「本当に言えるのか」と批判的に考えつつ、それらの問いに論理的に応える習慣を身につけることが望まれます。

内 容

- 第1回 デイバートの基礎(1) デイバートとは
- 第2回 デイバートの基礎(2) ポリシーデイバートとは
- 第3回 クリティカルシンキングの基礎
- 第4回 コミュニケーションの基礎
- 第5回 ポリシーデイバート「審査」
- 第6回 ポリシーデイバート「立論」
- 第7回 ポリシーデイバート「質疑」
- 第8回 ポリシーデイバート「反駁」
- 第9回 チーム対抗戦の準備(1) 立論を考える
- 第10回 チーム対抗戦の準備(2) 質疑・反駁を考える
- 第11回 チーム対抗戦(1)
- 第12回 チーム対抗戦(2)
- 第13回 チーム対抗戦(3)
- 第14回 チーム対抗戦(4)
- 第15回 デイバート教育の基礎・総括

履修上の注意点

この授業は、個人・グループでの演習を中心に進めますので、積極的な参加が求められます。また、3日間の集中講義となるため、欠席がないよう履修前に日程を充分確認してください。なお、授業計画の内容は、履修者数や受講生の意欲・能力などによって変更する場合があります。

教科書

必要に応じて教室で資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

はじめてのデイバート

著者: 西部直樹

出版社: あさ出版

出版年: 2009

ISBN: 4860633148

中等教育におけるデイバートの研究

著者: 池田修

出版社: 大学図書出版

出版年: 2008

ISBN: 4903060365



やっているつもりだけどなかなかできない伝え方のルール

著者： 新家竜介

出版社： 明日香出版社

出版年： 2012

ISBN: 4756915663

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

上記目標をどの程度達成できたかを、「授業中発表」は発言・発表の内容から、「参加度」は発言・発表の姿勢から、それぞれ総合的に判断します。いずれも所謂「出席点」ではないものの、授業に出席した上で発言・発表することが成績評価の大前提となります。

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 &lt;\*ZE&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 恭子	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 &lt;\* ZG&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 南 憲治	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈\*ZG〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

準備学習(予習・復習)

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 授業の進め方:オリエンテーション  
 第2回 クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①  
 第3回 クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②  
 第4回 クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③  
 第5回 文献購読と討論①  
 第6回 文献購読と討論②  
 第7回 文献購読と討論③  
 第8回 文献購読と討論④  
 第9回 文献購読と討論⑤  
 第10回 文献購読と討論⑥  
 第11回 文献購読と討論⑦  
 第12回 文献購読と討論⑧  
 第13回 文献購読と討論⑨  
 第14回 文献購読と討論⑩  
 第15回 総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I &lt;\*A&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 芦名 猛夫	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I &lt;\*B&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 森 枝美	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I &lt;\*C&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 西村 徳寿	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I &lt;\*D&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I &lt;\*E&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 恭子	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I &lt;\*F&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 青木 美智子	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I &lt;\*G&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 南 憲治	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する基本的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて学術雑誌などの論文を中心とする文献研究を行い、レジュメを作成・発表し、討論を行い、子ども・人間・自分自身のおかれている状況を理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて自分の新たな側面を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①全体の計画作り
第3回	クラス活動②各委員の役割と分担
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回	文献講読と討論①
第6回	文献講読と討論②
第7回	文献講読と討論③
第8回	クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回	文献講読と討論④
第10回	文献講読と討論⑤
第11回	文献講読と討論⑥
第12回	クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回	文献講読と討論⑦
第14回	文献講読と討論⑧
第15回	総括と今後の課題 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

準備学習(予習・復習)

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 授業の進め方:オリエンテーション  
 第2回 クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①  
 第3回 クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②  
 第4回 クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③  
 第5回 文献購読と討論①  
 第6回 文献購読と討論②  
 第7回 文献購読と討論③  
 第8回 文献購読と討論④  
 第9回 文献購読と討論⑤  
 第10回 文献購読と討論⑥  
 第11回 文献購読と討論⑦  
 第12回 文献購読と討論⑧  
 第13回 文献購読と討論⑨  
 第14回 文献購読と討論⑩  
 第15回 総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈\*B〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 森 枝美

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

準備学習(予習・復習)

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 授業の進め方:オリエンテーション  
 第2回 クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①  
 第3回 クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②  
 第4回 クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③  
 第5回 文献購読と討論①  
 第6回 文献購読と討論②  
 第7回 文献購読と討論③  
 第8回 文献購読と討論④  
 第9回 文献購読と討論⑤  
 第10回 文献購読と討論⑥  
 第11回 文献購読と討論⑦  
 第12回 文献購読と討論⑧  
 第13回 文献購読と討論⑨  
 第14回 文献購読と討論⑩  
 第15回 総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈\*C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西村 徳寿

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

準備学習(予習・復習)

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 授業の進め方:オリエンテーション  
 第2回 クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①  
 第3回 クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②  
 第4回 クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③  
 第5回 文献購読と討論①  
 第6回 文献購読と討論②  
 第7回 文献購読と討論③  
 第8回 文献購読と討論④  
 第9回 文献購読と討論⑤  
 第10回 文献購読と討論⑥  
 第11回 文献購読と討論⑦  
 第12回 文献購読と討論⑧  
 第13回 文献購読と討論⑨  
 第14回 文献購読と討論⑩  
 第15回 総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈\*D〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回	クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回	文献購読と討論①
第6回	文献購読と討論②
第7回	文献購読と討論③
第8回	文献購読と討論④
第9回	文献購読と討論⑤
第10回	文献購読と討論⑥
第11回	文献購読と討論⑦
第12回	文献購読と討論⑧
第13回	文献購読と討論⑨
第14回	文献購読と討論⑩
第15回	総括と今後の課題
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ &lt;\*E&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 恭子	
テーマ	
子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。	
授業の到達目標	
子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。	
授業の概要	
①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。	
準備学習(予習・復習)	
新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。	
内 容	
第1回	授業の進め方:オリエンテーション
第2回	クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回	クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回	クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回	文献購読と討論①
第6回	文献購読と討論②
第7回	文献購読と討論③
第8回	文献購読と討論④
第9回	文献購読と討論⑤
第10回	文献購読と討論⑥
第11回	文献購読と討論⑦
第12回	文献購読と討論⑧
第13回	文献購読と討論⑨
第14回	文献購読と討論⑩
第15回	総括と今後の課題
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ &lt;\*F&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

準備学習(予習・復習)

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

第1回 授業の進め方:オリエンテーション

第2回 クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①

第3回 クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②

第4回 クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③

第5回 文献購読と討論①

第6回 文献購読と討論②

第7回 文献購読と討論③

第8回 文献購読と討論④

第9回 文献購読と討論⑤

第10回 文献購読と討論⑥

第11回 文献購読と討論⑦

第12回 文献購読と討論⑧

第13回 文献購読と討論⑨

第14回 文献購読と討論⑩

第15回 総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **基礎演習Ⅱ <\*G>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身を取り囲む教育・保育をはじめとする環境を形成する発展的かつ専門的な課題を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を受講生は精読し、レジュメを作成・発表し、そこから生じる発展的な問題について討論を行い、各領域の課題を深く理解する。②知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じて新たに考察すべきあるいは解決すべき課題を見いだす。

準備学習(予習・復習)

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 授業の進め方:オリエンテーション
- 第2回 クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
- 第3回 クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
- 第4回 クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
- 第5回 文献購読と討論①
- 第6回 文献購読と討論②
- 第7回 文献購読と討論③
- 第8回 文献購読と討論④
- 第9回 文献購読と討論⑤
- 第10回 文献購読と討論⑥
- 第11回 文献購読と討論⑦
- 第12回 文献購読と討論⑧
- 第13回 文献購読と討論⑨
- 第14回 文献購読と討論⑩
- 第15回 総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育制度論(初) &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小田 義隆

テーマ

教育課程と教育制度のあり方を考える

授業の到達目標

教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して、今日的課題や問題点に対する認識を深め、今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。

授業の概要

教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。

準備学習(予習・復習)

テキストの該当箇所を熟読して参加すること(予習60分)。テキストの該当箇所を復習し理解を深めること(復習60分)。

内 容

- 第1回 授業の説明等(大学における「教職」)(イントロダクション)
- 第2回 教育課程に関する法制 ①(教育課程とその基準)
- 第3回 教育課程に関する法制 ②(教育課程に関する法令)
- 第4回 学習指導要領の法的性格
- 第5回 学習指導要領の変遷
- 第6回 学習指導要領の内容と特徴
- 第7回 新学習指導要領の内容と特徴
- 第8回 わが国の教育の目的と方針
- 第9回 学校教育の目的と目標
- 第10回 教育法規の体系と適用
- 第11回 学校組織について
- 第12回 教師に求められる資質・能力
- 第13回 教師の研修
- 第14回 教育職員について
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教育に関する情報や資料(テレビ, ラジオ, 新聞, 教育雑誌等)に目を配るようにして下さい。

教科書

現代教育制度論 第4刷

著者: 土屋基規

出版社: ミネルバ書房

出版年: 2015

ISBN: 9.78462E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業内容の理解度を確認するレポートを課すため全回出席が望ましい。

## 2017 Syllabus

科目名 教育制度論(初) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小田 義隆	
テーマ 教育課程と教育制度のあり方を考える	
授業の到達目標 教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して、今日的課題や問題点に対する認識を深め、今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。	
授業の概要 教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。	
準備学習(予習・復習) テキストの該当箇所を熟読して参加すること(予習60分)。テキストの該当箇所を復習し理解を深めること(復習60分)。	
内 容 第1回 授業の説明等(大学における「教職」)(イントロダクション) 第2回 教育課程に関する法制 ①(教育課程とその基準) 第3回 教育課程に関する法制 ②(教育課程に関する法令) 第4回 学習指導要領の法的性格 第5回 学習指導要領の変遷 第6回 学習指導要領の内容と特徴 第7回 新学習指導要領の内容と特徴 第8回 わが国の教育の目的と方針 第9回 学校教育の目的と目標 第10回 教育法規の体系と適用 第11回 学校組織について 第12回 教師に求められる資質・能力 第13回 教師の研修 第14回 教育職員について 第15回 まとめ	
履修上の注意点 教育に関する情報や資料(テレビ, ラジオ, 新聞, 教育雑誌等)に目を配るようにして下さい。	
教科書 現代教育制度論 第4刷 著者: 土屋基規 出版社: ミネルバ書房 出版年: 2015 ISBN: 9.78462E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (70) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 授業内容の理解度を確認するレポートを課すため全回出席が望ましい。	

## 2017 Syllabus

科目名 教育課程論(初) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 森 枝美	
テーマ 教育課程の構造と教育実践	
授業の到達目標 教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。	
授業の概要 1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 教育課程の構造と意味 第2回 内申書、通知票について 第3回 目標と評価のあり方 第4回 観点別評価の意味 第5回 教育実践評価と授業公開(初等) 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(初等) 第7回 教科書の採択システム 第8回 教科書づくり 第9回 教科と教科外の教育方法(初等) 第10回 総合学習について(初等) 第11回 身体と教育課程(初等) 第12回 教育課程と授業づくり(初等) 第13回 思春期の教育階梯 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 よくわかる教育課程 著者: 田中耕治編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2009 ISBN:	
新しい教育課程 第3版 著者: 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 出版社: 有斐閣 出版年: 2011 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(40%) 授業中課題(40%) 参加度( )	小テスト( ) 授業中発表等(20%)

## 2017 Syllabus

科目名 教育課程論(初) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 森 枝美	
テーマ 教育課程の構造と教育実践	
授業の到達目標 教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。	
授業の概要 1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 教育課程の構造と意味 第2回 内申書、通知票について 第3回 目標と評価のあり方 第4回 観点別評価の意味 第5回 教育実践評価と授業公開(初等) 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(初等) 第7回 教科書の採択システム 第8回 教科書づくり 第9回 教科と教科外の教育方法(初等) 第10回 総合学習について(初等) 第11回 身体と教育課程(初等) 第12回 教育課程と授業づくり(初等) 第13回 思春期の教育階梯 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 よくわかる教育課程 著者: 田中耕治編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2009 ISBN:	
新しい教育課程 第3版 著者: 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 出版社: 有斐閣 出版年: 2011 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(40%) 授業中課題(40%) 参加度( )	小テスト( ) 授業中発表等(20%)

## 2017 Syllabus

科目名 道徳教育の理論と方法(初)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 岩本 賢治

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

授業の到達目標

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

授業の概要

前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道徳の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究していきたい。また、現場の先生を呼んで、道徳教育のユニークな実践例をはなしてもらおう予定である。

準備学習(予習・復習)

現代の道徳教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

内 容

- 第1回 道徳とは何か
- 第2回 道徳教育の歴史(明治以降)
- 第3回 道徳教育の歴史(戦後)
- 第4回 日本の学校教育の現実
- 第5回 小学校における道徳教育の捉え方
- 第6回 小学生の道徳的発達の特徴
- 第7回 全面主義と特設主義
- 第8回 全面主義を前提とした特設主義
- 第9回 道徳の時間と各教科の関係
- 第10回 道徳教育と特別活動、総合学習との関係
- 第11回 道徳教育の要としての道徳の時間
- 第12回 道徳の時間の展開の仕方
- 第13回 家庭、地域と道徳教育
- 第14回 現場における道徳教育の実践例
- 第15回 評価の問題とまとめ

履修上の注意点

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。また、「学習指導要領解説 小学校 特別の教科 道徳編」を使用する。PDFファイルを下記の「参考URL」からダウンロードし、印刷したものを手元に置いておくこと。※文部科学省のホームページからもダウンロードできます。

教科書

「履修上の注意点」に記載

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

## 2017 Syllabus

科目名 特別活動論(初)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土作 彰

テーマ

集団で学び合う意義

授業の到達目標

①特別活動の基本的な概念を理解すること。②全教育活動の中で特別活動の視点を活かした学級経営、授業展開をいかに工夫するかを考察し理解すること。

授業の概要

講義は極力減らし、模擬授業を主に進める。その後、グループで授業づくり演習、検討会を行う。「教育現場では何が必要故、何をどのようにすべきなのか」という視点を常に持ち続けながら進めていく。

準備学習(予習・復習)

学校現場に立つ人間としてどういう心構えが必要か考えた上で受講すること。

内 容

- 第1回 授業ガイダンスと特別活動の内容・意義
- 第2回 集団教育の意義
- 第3回 学級づくりと授業づくり(国語編)
- 第4回 学級づくりと授業づくり(算数・理科編)
- 第5回 学級崩壊を考える
- 第6回 授業づくり演習と検討(1～3班)
- 第7回 児童会活動・クラブ活動・学校行事(異学級、異学年の指導)
- 第8回 学級づくりと授業づくり(理科・社会編)
- 第9回 授業づくり演習と検討(4～6班)
- 第10回 学級づくりと授業づくり(道徳・学活編)
- 第11回 学級づくりと授業づくり(体育・図工編)
- 第12回 授業づくり演習と検討(7～9班)
- 第13回 ワークショップ型ステーション授業と日々の授業
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

履修上の注意点

様々な集団(教育集団は勿論のことバイト先やサークルなど)で、「自分一人だけでは決して身に付かない力は何か?」という視点を持ちながら毎日を大切に過ごして欲しい。また、特別活動に関する実践記録をたくさん読んで欲しい。

教科書

マンガでわかる学級崩壊の極意

著者: 土作 彰

出版社: 小学館

出版年: 2016

ISBN: 9.7841E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (50)



## 2017 Syllabus

科目名 教育方法論(初)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 梅本 裕	
テーマ ＜授業をつくる＞方法への理解とイメージを育む	
授業の到達目標 教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。	
授業の概要 80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。	
準備学習(予習・復習) 学習指導要領を手元に置き、必要なときにすぐに参照できるようにしておくこと。	
内 容 第1回 「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？ 第2回 「見たこと作文」子どもが＜動く＞授業の条件とは？ 第3回 「木の葉の駅で」発問の構造 第4回 「発電所はどこにあるか？」教授行為とは何か？ 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての＜指示・発問・説明・応答・制御＞ 第6回 「お化け屋敷で算数を」子どもたちの理解の構造をさぐる 第7回 「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理 第8回 「声を育てる音楽の授業」＜雰囲気の良い授業＞の構造は？ 第9回 「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」＜分析ツールを教える＞国語の授業 第11回 「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？ 第12回 授業づくりの記号論的構造＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞ 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造 第15回 まとめ	
履修上の注意点 (1)新聞やテレビなどのマスメディアでの教育問題の紹介に注意を払い、理論的説明を試みることを期待する。(2)小中高時代のノートや教科書があれば、それを手がかりにして、自分がどのような授業を受けたかを振り返ってみよう。「教わったようには教えない」とするならば、どんな教え方が可能か調べてみよう。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (50) 授業中課題 (50) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 3分の2以上の出席が単位付与の前提である。実習などで授業を欠席する場合には「欠席届」を事前に提出するように。	

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(算数) &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 西村 徳寿

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

授業の到達目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 小学校1年生の数概念指導
- 第2回 1位数の加法・減法
- 第3回 2位数の加法・減法
- 第4回 整数の乗法
- 第5回 整数の除法
- 第6回 小数とその加減
- 第7回 小数の乗除
- 第8回 分数とその加減
- 第9回 分数の乗除
- 第10回 外延量と測定
- 第11回 内包量
- 第12回 小学校の先生の講義
- 第13回 比例
- 第14回 図形
- 第15回 統計

履修上の注意点

宿題を出すのでしっかり取り組むこと。授業中に小テストを随時行う。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30 )  
 参加度 ( 10 )

小テスト ( 30 )  
 授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(理科) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 三上 周治	
テーマ	子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける
授業の到達目標	小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。
授業の概要	学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ</p> <p>第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進生。光の反射。</p> <p>第3回 「くうき」(ものの場所性・不可入性)</p> <p>第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動(対流・輻射)熱によるものの変化(I): 膨張</p> <p>第5回 熱によるものの変化(II): 三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融</p> <p>第6回 種の実りと種の拡散</p> <p>第7回 気体と燃焼＝気体</p> <p>第8回 気体と燃焼＝燃焼</p> <p>第9回 豆電球のつながり方＝回路／金属の3つの性質／光電池</p> <p>第10回 磁石の性質とはたらき(小3&amp;小6)／磁石ごまの製作</p> <p>第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり</p> <p>第12回 「やじろべえ」を教材化する</p> <p>第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」</p> <p>第14回 水溶液の性質とはたらき(1)＝酸性の水溶液</p> <p>第15回 水溶液の性質とはたらき(2)＝アルカリ性の水溶液</p>
履修上の注意点	(1)小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。
教科書	教科教育学シリーズ04 理科教育 著者: 出版社: 一藝社 出版年: ISBN: 参考書
成績評価	試験・レポート (20) 小テスト ( ) 授業中課題 (40) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(理科) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 三上 周治	
テーマ	
子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける	
授業の到達目標	
小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。	
授業の概要	
学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
第2回	「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
第3回	「くうき」(ものの場所性・不可入性)
第4回	熱と温度／熱の伝導と熱の移動(対流・輻射)熱によるものの変化(Ⅰ): 膨張
第5回	熱によるものの変化(Ⅱ): 三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
第6回	種の実りと種の拡散
第7回	気体と燃焼＝気体
第8回	気体と燃焼＝燃焼
第9回	豆電球のつながり方＝回路／金属の3つの性質／光電池
第10回	磁石の性質とはたらき(小3&小6)／磁石ごまの製作
第11回	電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
第12回	「やじろべえ」を教材化する
第13回	「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
第14回	水溶液の性質とはたらき(1)＝酸性の水溶液
第15回	水溶液の性質とはたらき(2)＝アルカリ性の水溶液
履修上の注意点	
(1)小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。	
教科書	
教科教育学シリーズ04 理科教育	
著者:	
出版社: 一藝社	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (20)	小テスト ( )
授業中課題 (40)	授業中発表等 ( )
参加度 (40)	

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(音楽) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 音楽授業をつくる	
授業の到達目標 (1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。	
準備学習(予習・復習) 予習:音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。復習:小学校音楽科の授業の立案、模擬授業を行えるよう、授業内容や授業の中で理解した点を整理しておく。	
内 容 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的 第2回 表現・歌唱ー共通教材 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ 第7回 表現・器楽ー合奏 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業 第11回 授業行為と音楽授業 第12回 実践事例から学ぶ 第13回 指導案の作成と準備 第14回 模擬授業ー器楽・創作 第15回 模擬授業ー歌唱	
履修上の注意点 (1)小学校で受けた音楽授業を振り返り、音楽授業の意義と課題について考える。(2)音楽、音楽教育関連の雑誌、本を読む。	
教科書 初等科音楽教育法[改訂版] 著者: 初等科音楽教育研究会 出版社: 音楽之友社 出版年: 2011 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) ソプラノ・リコーダーを用意すること。授業における積極的な取り組みを重視する。	

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(音楽) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 音楽授業をつくる	
授業の到達目標 (1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。	
準備学習(予習・復習) 予習:音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。復習:小学校音楽科の授業の立案、模擬授業を行えるよう、授業内容や授業の中で理解した点を整理しておく。	
内 容 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的 第2回 表現・歌唱ー共通教材 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ 第7回 表現・器楽ー合奏 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業 第11回 授業行為と音楽授業 第12回 実践事例から学ぶ 第13回 指導案の作成と準備 第14回 模擬授業ー器楽・創作 第15回 模擬授業ー歌唱	
履修上の注意点 (1)小学校で受けた音楽授業を振り返り、音楽授業の意義と課題について考える。(2)音楽、音楽教育関連の雑誌、本を読む。	
教科書 初等科音楽教育法[改訂版] 著者: 初等科音楽教育研究会 出版社: 音楽之友社 出版年: 2011 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート (20%) 小テスト (20%) 授業中課題 (20%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) ソプラノ・リコーダーを用意すること。授業における積極的な取り組みを重視する。	

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(家庭) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 大塚 真理子	
テーマ	
初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。	
授業の到達目標	
家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。	
授業の概要	
各自、指導案を作成、模擬授業を行う。	
準備学習(予習・復習)	
家庭科概論の内容を踏まえた指導法であるので復習しておくこと。指導案を段階的にグループ活動で作成するが、授業後各自で復習すること。	
内 容	
第1回	学習指導要領改訂のいきさつ
第2回	家庭科の内容構成
第3回	家庭科の目標・内容
第4回	指導計画作成上の留意点
第5回	家庭科学習指導案の書き方(1)(教材と教具)
第6回	家庭科学習指導案の書き方(2)(児童と生活実態)
第7回	教材研究・授業例年間指導計画、題材計画について
第8回	教材研究・授業例指導形態及び指導方法
第9回	視聴覚教材とその取り扱いについて
第10回	授業をする技術
第11回	評価の目的・評価の観点について
第12回	模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①(日常の食事と調理)
第13回	模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②(衣服と住まい)
第14回	模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③(消費生活と環境)
第15回	まとめ
履修上の注意点	
家庭科の教科書の中から1時間分の題材を選び、学習指導案を作成する。	
教科書	
小学校家庭科「新しい家庭」	
著者:	
出版社:	東京書籍
出版年:	ISBN:
参考書	
「小学校学習指導要領解説」家庭編	
著者:	
出版社:	東洋館出版社
出版年:	ISBN:
初等家庭科教育法	
著者:	加地芳子・大塚真理子
出版社:	ミネルヴァ書房
出版年:	2011 ISBN:

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 20 )

授業中課題としては指導案、製作品、実習レポート、授業感想など。2/3以上の出席、指導案提出と模擬授業実施は単位取得に必要である。





## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(家庭) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 大塚 真理子	
テーマ	
初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。	
授業の到達目標	
家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。	
授業の概要	
各自、指導案を作成、模擬授業を行う。	
準備学習(予習・復習)	
家庭科概論の内容を踏まえた指導法であるので復習しておくこと。指導案を段階的にグループ活動で作成するが、授業後各自で復習すること。	
内 容	
第1回	学習指導要領改訂のいきさつ
第2回	家庭科の内容構成
第3回	家庭科の目標・内容
第4回	指導計画作成上の留意点
第5回	家庭科学習指導案の書き方(1)(教材と教具)
第6回	家庭科学習指導案の書き方(2)(児童と生活実態)
第7回	教材研究・授業例年間指導計画、題材計画について
第8回	教材研究・授業例指導形態及び指導方法
第9回	視聴覚教材とその取り扱いについて
第10回	授業をする技術
第11回	評価の目的・評価の観点について
第12回	模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①(日常の食事と調理)
第13回	模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②(衣服と住まい)
第14回	模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③(消費生活と環境)
第15回	まとめ
履修上の注意点	
家庭科の教科書の中から1時間分の題材を選び、学習指導案を作成する。	
教科書	
小学校家庭科「新しい家庭」	
著者:	
出版社:	東京書籍
出版年:	ISBN:
参考書	
「小学校学習指導要領解説」家庭編	
著者:	
出版社:	東洋館出版社
出版年:	ISBN:
初等家庭科教育法	
著者:	加地芳子・大塚真理子
出版社:	ミネルヴァ書房
出版年:	2011 ISBN:

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

授業中課題としては指導案、製作品、実習レポート、授業感想など。2/3以上の出席、指導案提出と模擬授業実施は単位取得に必要である。



## 2017 Syllabus

科目名 国語概論

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾西 正成・佐野 裕子

テーマ

小学校国語科を教えるのに必要、かつ国語(日本語)を分析対象として科学的・客観的に考えるための基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

何の問題もなく運用することができる国語(日本語)について意識化し、これまで気づくことのなかった日本語の特性に目を向け物事を客観的に見る能力を養うとともに、小学校国語科の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を踏まえ、日本語に関する基本的な知識を学ぶ。

授業の概要

授業は講義形式で行う。毎回授業で学んだ内容に関する確認プリントを配布するので、必ず提出してもらう。また、小テストを第6回目と第10回目に、教場レポートを12回目に実施する。

準備学習(予習・復習)

ハンドアウトや確認プリントで復習を行うこと。特に「音声」「系統と類型」の部分は、復習が求められる。日本語に関する関心を持つようにすること。特に「当たり前」と普段感じていることを「なぜなんだろう?」と思える感性を持つこと。

内 容

第1回 授業説明・評価説明

第2回 日本語の音1

第3回 日本語の音2

第4回 日本語の表記1

第5回 日本語の表記2

第6回 日本語の語彙

第7回 日本語の系統と類型

第8回 日本語のバラエティ1

第9回 日本語のバラエティ2

第10回 国語と日本語

第11回 国語を学ぶ意義

第12回 教場レポート

第13回 書写1

第14回 書写2

第15回 書写3

履修上の注意点

書写を行う13～15回に関しては、集中講義として1日で3回分の授業を実施する。授業実施日や持ち物など諸連絡には十分注意し、欠席することのないように。

教科書

授業時配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(30)

小テスト(20)

授業中課題(30)

授業中発表等(0)

参加度(20)

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分までとし、15分を超えた者は欠席として処理する。出席確認は、カードによる確認と確認プリントの提出による確認のダブルチェックを行う。出席に際しては、必ずカードのチェックと確認プリントの提出を忘れないように(どちらか欠けている場合も欠席と見なす)。また、小テストを未受験。教場レポートを未提出の場合も、評価の対象としない。

## 2017 Syllabus

科目名 **社会科概論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 倉持 祐二	
テーマ 小学校社会科の全体像をつかむ	
授業の到達目標 各学年の社会科の授業を体験的に学びながら、社会科という教科の性格と役割、社会科の目標・内容・方法、社会科指導の基礎的な技能の習得をめざす。また、2008年度版の学習指導要領をふまえた実践的課題について考える視点を獲得する。	
授業の概要 2008年度版学習指導要領や教科書をもとに、小学校3～6年の社会科学習の目標・内容・方法のアウトラインをつかむ。そのうえで、実際に1時間の授業案づくりを試みる。	
準備学習(予習・復習) 予習:各回のテーマについて、事前に学習指導要領解説や教科書の内容を調べておく。復習:授業で扱った社会科授業の理論と実践の要点を振り返り、授業案づくりのポイントを整理する。	
内 容 第1回 社会科で学ぶこと(社会科の誕生) 第2回 2008年度版学習指導要領の特徴をつかむ 第3回 社会科の目標と評価 第4回 子どもの「学び」を引き出す「教材」と「教育内容」 第5回 「コンビニ」を素材に教材をつくる 第6回 小学校3・4年の学習内容 地域の生産労働をどう教えるか 第7回 小学校3・4年の学習内容 地図をどう教えるか 第8回 小学校5年の学習内容 日本の農業をどう教えるか 第9回 小学校5年の学習内容 日本の工業をどう教えるか 第10回 小学校6年の学習内容 人物学習をどうすすめるか 第11回 小学校6年の学習内容 時代の特徴をどうイメージさせるか 第12回 授業をつくる(漂流民とペリー来航) 第13回 授業をつくる(日本国憲法) 第14回 インターネット時代の教材づくりと授業 第15回 1時間の授業案づくりの視点と方法	
履修上の注意点 3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。	
教科書 小学校学習指導要領解説 社会編 著者: 文部科学省 出版社: 東洋館出版社 出版年: 2008年 ISBN: 社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり』 著者: 井ノ口貴史・倉持祐二 出版社: 三学出版 出版年: 2015年 ISBN:	
参考書 授業の中で紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 30% ) 授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% ) 参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 生活科概論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 三上 周治	
テーマ	
授業の到達目標	
小学校低学年における、自然や社会に関わる学びを創る	
授業の概要	
小学校中学年以降に展開される学びの土台となる認識を培う。小学校低学年の子ども達の周りにおける自然や社会について、個別にそして具体的に認識することを目的とする。動物や植物、磁石や空気、自分の体や自分がくらす、学校や家庭を具体的に取り上げることで、自然認識や社会認識の基礎を培う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	小学校低学年での教科教育が果たす役割(教科教育としての生活科の任務①)
第2回	小学校低学年での自然や社会にかかわる学びの意味(教科教育としての生活科の任務②)
第3回	生活科教科書、学習指導要領の定期する生活科とは？
第4回	身近な動物の飼育観察を通して、動物の生き様を学ぶ
第5回	身近な植物の栽培観察を通して、植物の生き様を学ぶ
第6回	トンカチ、サンドペーパー、豆電球をむ使って金属探し
第7回	磁石を使って、鉄探し
第8回	空気は、水とよく似ていることを学ぶ
第9回	色水遊び
第10回	音の鳴るおもちゃづくり
第11回	動くおもちゃづくり
第12回	学校の教室、家の部屋
第13回	家族の生活と、家で働く人の仕事
第14回	郵便局の仕事
第15回	生活科学習指導案の作り方
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 10 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 家庭科概論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小鶴 祥子	
テーマ 小学校家庭科を指導するための基礎力を高める。	
授業の到達目標 ①小学校家庭科が果たす教育的役割を理解し、生活課題に対する意識を高める。②小学校家庭科において扱う学習内容を理解し、指導に必要な技能を習得する。③小学校家庭科の授業を構想し、具体的な授業展開を提案することが出来る。	
授業の概要 小学校家庭科の教育的意義や学習内容について解説、学生のグループ発表により理解を深める。	
準備学習(予習・復習) シラバスの内容を事前に確認し、テキストを事前に読んでおくこと。各内容について課題が出ます。各自準備をして授業に臨んでください。	
内 容 第1回 オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の説明)小学校家庭科の役割 第2回 小学校家庭科の目標と意義について(テキスト小学校学習指導要領解説家庭編p8~14を事前に読んでおくこと) 第3回 「家庭生活と家族」の内容(1)宿題:課題内容のまとめと解説 第4回 「家庭生活と家族」の内容(2)課題発表とディスカッション 第5回 「日常の食事と調理の基礎」の内容(1)宿題:課題内容のまとめと解説 第6回 「日常の食事と調理の基礎」の内容(2)課題発表とディスカッション 第7回 「快適な衣服」の内容(1)宿題:課題内容のまとめと解説 第8回 「快適な衣服」の内容(2)課題発表とディスカッション 第9回 「快適な住まい」の内容(1)宿題:課題内容のまとめと解説 第10回 「快適な住まい」の内容(2)発表とディスカッション 第11回 「身近な消費生活と環境」の内容(1)宿題:課題内容のまとめと解説 第12回 「身近な消費生活と環境」の内容(2)課題発表とディスカッション 第13回 調理実習の指導について 第14回 小ものづくりの製作(1) フェルト・縫い糸・ボタン・まち針・はさみ等用意する 第15回 小ものづくりの製作(2)ミシンの使い方 第16回 試験	
履修上の注意点 テキストを熟読し、課題を調べ発表できるように準備をして下さい。	
教科書 小学校家庭科教科書 著者: 出版社: 東京書籍 出版年: ISBN: 小学校学習指導要領解説家庭科編 著者: 文部科学省 出版社: 東洋館出版社 出版年: 平成27年 ISBN: 491-02374-8 小学校家庭科概論 著者: 加地芳子大塚真理子 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2015年 ISBN: 623-05994-2	
参考書	
成績評価 試験・レポート (50%)	小テスト ( )





## 2017 Syllabus

## 科目名 保育内容総論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 長瀬 美子	
テーマ 保育内容の総合性と指導の基本をつかむ	
授業の到達目標 保育内容の健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域を総合的にとらえる視点を養う。さらに発達過程と幼児理解を基礎にした保育を行うための教育課程の編成と長期・短期の指導計画の立案過程について学ぶ。	
授業の概要 実践事例に数多くふれながら、あわせて教育・保育実習の実習ができるような実習指導計画の作成方法について学んでいく。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 幼稚園教育要領と保育所保育指針 第2回 自然(環境)と社会(人間関係)の関係 第3回 小学校への接続 第4回 入園当初の計画 第5回 ごっこ遊びの意義 第6回 遊びの素材論 第7回 遊びの発展 第8回 身振り表現の意義 第9回 お話を聞くこと 第10回 童話の扱い 第11回 保育計画とは何か 第12回 前期の保育 第13回 後期の保育 第14回 劇遊びと生活発表 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 できるだけ実践事例に多くふれることが大切であるが、学生同士で生活における自身の遊びの文化的社会的な意味を論議しあうなど、生涯発達の観点からも遊びの意義を広げ深めることを期待する。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 50 ) 授業中課題 ( 30 ) 参加度 ( 20 ) 小テスト ( ) 授業中発表等 ( ) <試験・レポート>レポートによる評価とします。<授業中課題>数回、授業時にミニレポートを課します。<参加度>受講態度等で評価します。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境) I &lt;幼A&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

I では主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
- 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
- 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
- 第4回 あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
- 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
- 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
- 第7回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境) I &lt;幼B&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

I では主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
- 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
- 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
- 第4回 あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
- 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
- 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
- 第7回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境) I &lt;幼C&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

## 授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

## 授業の概要

I では主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

## 準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

## 内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史の変遷
- 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
- 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
- 第4回 あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
- 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
- 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
- 第7回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ピオトープ
- 第8回 まとめ

## 履修上の注意点

出席・欠席について:出席時には学生証を携帯してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境) I &lt;児&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

## 授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

## 授業の概要

I では主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

## 準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料を見直してください。

## 内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史の変遷
- 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
- 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
- 第4回 あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
- 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
- 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
- 第7回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ピオトープ
- 第8回 まとめ

## 履修上の注意点

出席・欠席について:出席時には学生証を携帯してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境)Ⅱ&lt;幼A&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Iの内容を踏まえ、IIでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 子どもの発達の特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第3回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第4回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
- 第5回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
- 第6回 人的環境としての保育者
- 第7回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

この授業は必要に応じて学外授業を行います。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境)Ⅱ &lt;幼B&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Iの内容を踏まえ、IIでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 子どもの発達の特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第3回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第4回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
- 第5回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
- 第6回 人的環境としての保育者
- 第7回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

この授業は必要に応じて学外授業を行います。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 (50)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境)Ⅱ &lt;幼C&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Iの内容を踏まえ、IIでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内 容

- 第1回 子どもの発達の特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第3回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第4回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
- 第5回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
- 第6回 人的環境としての保育者
- 第7回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について:出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境)Ⅱ〈児〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

## 授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

## 授業の概要

Iの内容を踏まえ、IIでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

## 準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

## 内 容

- 第1回 子どもの発達の特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第3回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第4回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
- 第5回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
- 第6回 人的環境としての保育者
- 第7回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第8回 まとめ

## 履修上の注意点

出席・欠席について:出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現) I &lt;幼A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 久堀 久美子

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Iでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

身近な環境(自然・社会・人等)を通して心動かす経験を日頃から意識して行なう。

内 容

- 第1回 シラバスの説明・「表現」について
- 第2回 絵本の意義と伝え方
- 第3回 絵本の読み聞かせの実践
- 第4回 紙芝居の意義と演じ方
- 第5回 紙芝居の演じ方と実践
- 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
- 第7回 粘土あそび等造形活動
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

演習・実技の時は動ける服装・上靴を持参すること

教科書

レジュメを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現) I &lt;幼B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 久堀 久美子

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Iでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

身近な環境(自然・社会・人等)を通して心動かす経験を日頃から意識して行なう。

内 容

- 第1回 シラバスの説明・「表現」について
- 第2回 絵本の意義と伝え方
- 第3回 絵本の読み聞かせの実践
- 第4回 紙芝居の意義と演じ方
- 第5回 紙芝居の演じ方と実践
- 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
- 第7回 粘土あそび等造形活動
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

演習・実技の時は動ける服装・上靴を持参すること

教科書

レジュメを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現) I &lt;幼C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 久堀 久美子

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Iでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

身近な環境(自然・社会・人等)を通して心動かす経験を日頃から意識して行なう。

内 容

- 第1回 シラバスの説明・「表現」について
- 第2回 絵本の意義と伝え方
- 第3回 絵本の読み聞かせの実践
- 第4回 紙芝居の意義と演じ方
- 第5回 紙芝居の演じ方と実践
- 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
- 第7回 粘土あそび等造形活動
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

演習・実技の時は動ける服装・上靴を持参すること

教科書

レジュメを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現) I &lt;児&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期前半 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 久堀 久美子

テーマ

幼児期の表現活動の教育的意味を理解し、具体的・実践的な保育を学ぶ。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Iでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業以外で、身近な環境(自然・社会・人等)とのかかわりを積極的に行い感動する心を養う

内 容

第1回 シラバスの説明・「表現」について

第2回 絵本の意義と伝え方

第3回 絵本の読み聞かせの実践

第4回 紙芝居の意義と演じ方

第5回 紙芝居の演じ方と実践

第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践

第7回 粘土あそび等造形活動

第8回 まとめ

履修上の注意点

演習の時は動ける服装、上靴持参のこと

教科書

レジュメを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現)Ⅱ &lt;幼A&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久堀 久美子

テーマ

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート(紙人形劇)を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ペープサートの意義と表現について
- 第2回 ペープサートの作成と演出について
- 第3回 ペープサートによる実践
- 第4回 劇づくりの意義と指導法
- 第5回 劇づくりの作成、準備
- 第6回 劇づくりの役割分担と演技
- 第7回 劇づくりによる表現、実践
- 第8回 表現の指導のまとめ

履修上の注意点

教科書

レジュメを配付する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現)Ⅱ &lt;幼B&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久堀 久美子

テーマ

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート(紙人形劇)を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ペープサートの意義と表現について
- 第2回 ペープサートの作成と演出について
- 第3回 ペープサートによる実践
- 第4回 劇づくりの意義と指導法
- 第5回 劇づくりの作成、準備
- 第6回 劇づくりの役割分担と演技
- 第7回 劇づくりによる表現、実践
- 第8回 表現の指導のまとめ

履修上の注意点

教科書

レジュメを配付する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現)Ⅱ &lt;幼C&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久堀 久美子

テーマ

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート(紙人形劇)を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ペープサートの意義と表現について
- 第2回 ペープサートの作成と演出について
- 第3回 ペープサートによる実践
- 第4回 劇づくりの意義と指導法
- 第5回 劇づくりの作成、準備
- 第6回 劇づくりの役割分担と演技
- 第7回 劇づくりによる表現、実践
- 第8回 表現の指導のまとめ

履修上の注意点

教科書

レジュメを配付する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)





## 2017 Syllabus

## 科目名 保育内容演習(健康) I &lt;幼A&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史	

## テーマ

どんな子どもに育てて欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

## 授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

## 授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

## 準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

## 内 容

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容(健康)」という科目があるのか?
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解(発達段階の概要の把握)
- 第4回 人間の身体と健康についての理解(個体発生と系統発生)
- 第5回 子どもの健康をとりまく環境の理解
- 第6回 子どもの食事と偏食(「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら?)
- 第7回 『幼稚園教育要領』の内容(特に健康領域)の理解
- 第8回 まとめ

## 履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

## 教科書

## みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

## 参考書

## 幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

## 乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

## 幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

## 幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（40）

参加度（20）

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育内容演習(健康) I &lt;幼B&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史	

## テーマ

どんな子どもに育てて欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

## 授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

## 授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

## 準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

## 内 容

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容(健康)」という科目があるのか?
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解(発達段階の概要の把握)
- 第4回 人間の身体と健康についての理解(個体発生と系統発生)
- 第5回 子どもの健康をとりまく環境の理解
- 第6回 子どもの食事と偏食(「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら?)
- 第7回 『幼稚園教育要領』の内容(特に健康領域)の理解
- 第8回 まとめ

## 履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

## 教科書

## みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

## 参考書

## 幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

## 乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

## 幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

## 幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（40）

参加度（20）

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育内容演習(健康) I &lt;幼C&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史	

## テーマ

どんな子どもに育てて欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

## 授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

## 授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

## 準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

## 内 容

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容(健康)」という科目があるのか?
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解(発達段階の概要の把握)
- 第4回 人間の身体と健康についての理解(個体発生と系統発生)
- 第5回 子どもの健康をとりまく環境の理解
- 第6回 子どもの食事と偏食(「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら?)
- 第7回 『幼稚園教育要領』の内容(特に健康領域)の理解
- 第8回 まとめ

## 履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

## 教科書

## みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

## 参考書

## 幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

## 乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

## 幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

## 幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 20 )

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(健康) I &lt;児&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 田中 真紀

テーマ

幼児期の子どもの発育発達

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習(予習・復習)

毎回の授業時に指示します。

内 容

第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容(健康)」という科目があるのか?

第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷

第3回 就学前の子どもたちの理解(発達段階の概要の把握)

第4回 人間の身体と健康についての理解(個体発生と系統発生)

第5回 子どもの健康をとりまく環境の理解

第6回 子どもの食事と偏食(「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら?)

第7回 『幼稚園教育要領』の内容(特に健康領域)の理解

第8回 まとめ

履修上の注意点

集中講義による連続授業となるため、授業日時を忘れないようにしてください。文部科学省、スポーツ庁および日本体育協会のHPを定期的に関覧してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )



## 2017 Syllabus

## 科目名 保育内容演習(健康)Ⅱ&lt;幼A&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史	
テーマ	乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる
授業の到達目標	乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。
授業の概要	Iで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全体的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。
準備学習(予習・復習)	①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。
内 容	第1回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解 第2回 幼児の体育(健康)の指導計画の作成について 第3回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)①(鬼ごっこ的な内容のもの) 第4回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)②(球技的な内容のもの) 第5回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)③(器械運動的な内容のもの) 第6回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)④(かけっこ・陸上競技的な内容のもの) 第7回 模擬保育の振り返り 第8回 まとめ
履修上の注意点	しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。
教科書	みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方 著者: 学校体育研究同志会 出版社: 創文企画 出版年: 2009 ISBN:
参考書	幼児のこころと運動 著者: 近藤充夫 出版社: 教育出版 出版年: 1995 ISBN:
	乳幼児の体育遊び 著者: 学校体育研究同志会 出版社: 草土文化 出版年: 1999 ISBN:
	幼児体育の指導 著者: 学校体育研究同志会 出版社: ベースボール・マガジン社 出版年: 1974 ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者： 城丸章夫

出版社： 草土文化

出版年： 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育内容演習(健康)Ⅱ &lt;幼B&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史	
テーマ	乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる
授業の到達目標	乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。
授業の概要	I で学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全体的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。
準備学習(予習・復習)	①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。
内 容	<p>第1回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解</p> <p>第2回 幼児の体育(健康)の指導計画の作成について</p> <p>第3回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)①(鬼ごっこ的な内容のもの)</p> <p>第4回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)②(球技的な内容のもの)</p> <p>第5回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)③(器械運動的な内容のもの)</p> <p>第6回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)④(かけっこ・陸上競技的な内容のもの)</p> <p>第7回 模擬保育の振り返り</p> <p>第8回 まとめ</p>
履修上の注意点	しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。
教科書	<p>みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方</p> <p>著者： 学校体育研究同志会</p> <p>出版社： 創文企画</p> <p>出版年： 2009 ISBN:</p> <p>参考書</p> <p>幼児のこころと運動</p> <p>著者： 近藤充夫</p> <p>出版社： 教育出版</p> <p>出版年： 1995 ISBN:</p> <p>乳幼児の体育遊び</p> <p>著者： 学校体育研究同志会</p> <p>出版社： 草土文化</p> <p>出版年： 1999 ISBN:</p> <p>幼児体育の指導</p> <p>著者： 学校体育研究同志会</p> <p>出版社： ベースボール・マガジン社</p> <p>出版年： 1974 ISBN:</p>

幼児のあそびと仕事

著者： 城丸章夫

出版社： 草土文化

出版年： 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育内容演習(健康)Ⅱ &lt;幼C&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史	
テーマ	乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育て欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる
授業の到達目標	乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。
授業の概要	Iで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全体的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。
準備学習(予習・復習)	①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。
内 容	第1回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解 第2回 幼児の体育(健康)の指導計画の作成について 第3回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)①(鬼ごっこ的な内容のもの) 第4回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)②(球技的な内容のもの) 第5回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)③(器械運動的な内容のもの) 第6回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)④(かけっこ・陸上競技的な内容のもの) 第7回 模擬保育の振り返り 第8回 まとめ
履修上の注意点	しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。
教科書	みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方 著者: 学校体育研究同志会 出版社: 創文企画 出版年: 2009 ISBN:
参考書	幼児のこころと運動 著者: 近藤充夫 出版社: 教育出版 出版年: 1995 ISBN: 乳幼児の体育遊び 著者: 学校体育研究同志会 出版社: 草土文化 出版年: 1999 ISBN: 幼児体育の指導 著者: 学校体育研究同志会 出版社: ベースボール・マガジン社 出版年: 1974 ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者： 城丸章夫

出版社： 草土文化

出版年： 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(健康)Ⅱ〈児〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 田中 真紀

テーマ

幼児期の子どもの発育発達

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

Iで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習(予習・復習)

毎回の授業時に指示します。予習復習時間は30分程度です。

内 容

- 第1回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
- 第2回 幼児の体育(健康)の指導計画の作成について
- 第3回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)①(鬼ごっこ的な内容のもの)
- 第4回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)②(球技的な内容のもの)
- 第5回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)③(器械運動的な内容のもの)
- 第6回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)④(かけっこ・陸上競技的な内容のもの)
- 第7回 模擬保育の振り返り
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

集中講義による連続授業となるため、授業日時を忘れないようにしてください。文部科学省、スポーツ庁および日本体育協会のHPを定期的に閲覧してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 20 )





## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係) I &lt;幼B&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
- 第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会
- 第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成
- 第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立
- 第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで
- 第7回 多文化社会のなかでの保育
- 第8回 保護者との関係づくり

履修上の注意点

出席・欠席について:出席時には学生証を携帯してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係) I &lt;幼C&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内 容

第1回 授業の進め方について

第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係

第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会

第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成

第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立

第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで

第7回 多文化社会のなかでの保育

第8回 保護者との関係づくり

履修上の注意点

出席・欠席について:出席時には学生証を携帯してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係) I &lt;児&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 林 悠子

テーマ

保育における人間関係と保育者の役割

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習(予習・復習)

テキストの該当箇所を事前に読んでおくことを前提に授業を進めます。

内 容

第1回 授業の進め方について

第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係

第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会

第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成

第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立

第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで

第7回 多文化社会のなかでの保育

第8回 保護者との関係づくり

履修上の注意点

集中講義のため毎回長時間の講義になりますが、お互い協力し合ってよい学びができるようにしましょう。グループ討議と発表には積極的参加を求めます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

授業中課題としてミニレポートおよび最終レポートを課します。

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係)Ⅱ&lt;幼A&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

乳幼児の人間関係とその支援

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Iで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習(予習・復習)

予習の必要はないが、授業内容を振り返り、整理すること。

内 容

- 第1回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
- 第2回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
- 第3回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
- 第4回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
- 第5回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
- 第6回 子ども同士の関係と保育者—異年齢の子ども同士の関わり 事例検討
- 第7回 子ども同士の関係と保育者 事例検討のまとめ
- 第8回 全体を通してのまとめ

履修上の注意点

授業に積極的に参加し、自分の頭でよく考えて下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係)Ⅱ&lt;幼B&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Iで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内 容

- 第1回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
- 第2回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
- 第3回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
- 第4回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
- 第5回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
- 第6回 子ども同士の関係と保育者—異年齢の子ども同士の関わり 事例検討
- 第7回 子ども同士の関係と保育者 事例検討のまとめ
- 第8回 全体と通してのまとめ

履修上の注意点

出席・欠席について:出席時には学生証を携帯してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係)Ⅱ&lt;幼C&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Iで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習(予習・復習)

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内 容

- 第1回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
- 第2回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
- 第3回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
- 第4回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
- 第5回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
- 第6回 子ども同士の関係と保育者—異年齢の子ども同士の関わり 事例検討
- 第7回 子ども同士の関係と保育者 事例検討のまとめ
- 第8回 全体と通してのまとめ

履修上の注意点

出席・欠席について:出席時には学生証を携帯してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係)Ⅱ〈児〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 林 悠子

テーマ

保育における人間関係と保育者の役割

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Iで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読んでいることを前提に授業を進めます。

内 容

- 第1回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
- 第2回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
- 第3回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
- 第4回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
- 第5回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
- 第6回 子ども同士の関係と保育者—異年齢の子ども同士の関わり 事例検討
- 第7回 子ども同士の関係と保育者 事例検討のまとめ
- 第8回 全体を通してのまとめ

履修上の注意点

集中講義ですので毎回長時間講義になりますが、お互い協力してよい学びができるようにしましょう。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(言語)〈幼a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 美和子

テーマ

言語と人格

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。  
 ・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。  
 ・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。  
 ・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」  
 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで  
 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで  
 第4回 ことばの発達③ 幼児後期—外的言語、自己中心的言語、内的言語  
 第5回 ことばと身ぶり書きことばの前史  
 第6回 書きことばの前史ことばと思考の発達  
 第7回 ことばと思考の発達  
 第8回 形象、複合、概念 —まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(言語)〈幼b〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 美和子

テーマ

言語と人格

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。  
 ・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。  
 ・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。  
 ・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」  
 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで  
 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで  
 第4回 ことばの発達③ 幼児後期—外的言語、自己中心的言語、内的言語  
 第5回 ことばと身ぶり書きことばの前史  
 第6回 書きことばの前史ことばと思考の発達  
 第7回 ことばと思考の発達  
 第8回 形象、複合、概念 —まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育内容演習(言語)〈児〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 美和子

テーマ

言語と人格

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。  
 ・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。  
 ・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。  
 ・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」  
 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで  
 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで  
 第4回 ことばの発達③ 幼児後期—外的言語、自己中心的言語、内的言語  
 第5回 ことばと身ぶり書きことばの前史  
 第6回 書きことばの前史ことばと思考の発達  
 第7回 ことばと思考の発達  
 第8回 形象、複合、概念 —まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈幼a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 美和子

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇づくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈幼b〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 美和子

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇づくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈児〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 美和子

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇づくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育 I &lt;幼ZA&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)  
 第2回 自己の体力の理解と仲間づくり I <集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン  
 第3回 自己の体力の理解と仲間づくり II <集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び  
 第4回 手具を用いた運動 I <ボール>用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)  
 第5回 手具を用いた運動 II <縄>用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)  
 第6回 手具を用いた運動 III <輪>用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)  
 第7回 手具を用いた運動 IV <棒>用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)  
 第8回 まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 40 )

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育Ⅰ〈児Z〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 新野 守

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)  
 第2回 自己の体力の理解と仲間づくりⅠ<集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン  
 第3回 自己の体力の理解と仲間づくりⅡ<集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び  
 第4回 手具を用いた運動Ⅰ<ボール>用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)  
 第5回 手具を用いた運動Ⅱ<縄>用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)  
 第6回 手具を用いた運動Ⅲ<輪>用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)  
 第7回 手具を用いた運動Ⅳ<棒>用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)  
 第8回 まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:



成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（40）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育Ⅱ〈幼ZA〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ<様々な鬼遊び①>(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ<様々な鬼遊び②>(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ<マット運動①>感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ<マット運動②>側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ<新聞紙>用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ<新聞紙>作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達の理解
- 第8回 まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（40）

参加度（40）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育Ⅱ〈児乙〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 新野 守

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ポール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ<様々な鬼遊び①>(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ<様々な鬼遊び②>(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ<マット運動①>感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ<マット運動②>側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ<新聞紙>用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ<新聞紙>作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達の理解
- 第8回 まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（40）

参加度（40）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 音楽演習Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 弾き歌い曲のレパートリーを広げる。	
授業の到達目標 1)即興的コード伴奏法についての理解を深め、子どもの中で実際に教育・保育を行う力をつける。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と子どもの歌のコード弾き歌いおよび簡単な創作を含む即興的伴奏付けを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中に指示される課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに課題を再度練習して理解を深める。	
内 容 第1回 コード進行の復習(ハ長調、ト長調、)、バイエルNo.104 第2回 コード進行の復習(ヘ長調、ニ長調)、アラベスク、牧歌 第3回 変ロ長調のコード進行(B♭、E♭、F、F7)、アラベスク、牧歌 第4回 子どもの歌の弾き歌い(変ロ長調)①、狩、ひそかな嘆き 第5回 子どもの歌の弾き歌い(変ロ長調)②、狩、ひそかな嘆き 第6回 ハ短調のコード進行(Cm、Fm、G、G7)、タランテラ、ツェルニー—30番No.1 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ハ短調)①、タランテラ、ツェルニー—30番No.1 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ハ短調)②、ツェルニー—30番No.1、ベートーヴェン・ソナチネ 第9回 旋律の変奏、効果音、様々な種類の伴奏型、ベートーヴェン・ソナチネ、リズム曲 第10回 子どもの歌の弾き歌い発表、ソナチネアルバム第1巻No.1 第11回 弾き歌いおよび歌唱指導①、ソナチネアルバム第1巻No.1 第12回 弾き歌いおよび歌唱指導②、ソナチネアルバム第1巻No.1 第13回 弾き歌いおよび歌唱指導③、ソナチネアルバム第1巻No.1 第14回 弾き歌いおよび歌唱指導④、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するか—旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん!子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(10%) 授業中発表等(70%)	



## 2017 Syllabus

## 科目名 学級担任論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ 学級担任とは何かを考える。	
授業の到達目標 学級担任の仕事を理解する。やがて教師として学級担任を持つ時に必要な「引き出し」をできるだけ多く理解し、さらに身につけることを目指す。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として学級担任の仕事を模倣的に行ってみる。学生諸君の積極的な発言、活動を期待する。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。	
準備学習(予習・復習) 学級担任は、子どもや保護者から見れば学校の窓口である。学校のすべての仕事が広く関わってくる。それぞれの仕事を理解し、有機的に関連づけて子どもの成長に活かすことが期待される。学習集団であり生活集団でもある学級を束ね、より高いところに導こうとする担任の仕事は多岐に渡り、豊かで複雑である。新聞記事などに出る教育の話題、問題、課題について、もし自分が学級担任ならどのように取り組むのかと日常的に考え、文章にまとめることを勧める。それは、教員採用試験の学習にも直結するであろう。	
内 容	
第1回 学級とは何か・授業ガイダンス。学級開きを通して、学級を考えてみる。先生と児童との距離感、黄金の三日間、3・7・30の法則。	
第2回 学級担任の仕事。学級担任の仕事の種類や範囲を考えてみる。また、学級担任が「学級作り」で考えることを考える。担任窓口論、学級経営年間指導案、学級担当事務、学級通信、学級指導の記録などを手掛かりとする。	
第3回 学級レクリエーション。子どもは遊びの中から学んでいく。その遊びを学級の中で最初に組織するのは担任である。学級レクリエーションの例を見ながら、いくつかの具体的な方法を実際にやってみる。	
第4回 学級集団内のグループ。公的集団と私的集団。班作り(生活班と学習班)、実行委員会、専門委員会、生徒会、プロジェクトチーム、学習係、お助け組、会社、遊び仲間、女子集団、ソシオメトリなどを考える。	
第5回 学級の環境作り。子どもは生活リズムと環境を土台にして学習を行う。そのために重要な「座席・掲示物・給食・掃除・教室美化」について指導方法を考える。	
第6回 体験作文の指導。学級担任の仕事の大きな一つに、子どもたちに作文を書かせるというものがある。運動会、遠足、新学期など様々な場面で子どもたちに作文を書かせる。その指導方法に付いて学ぶ。	
第7回 担任の一日の仕事を考える1。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。	
第8回 担任の一日の仕事を考える2。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。	
第9回 場面別指導1。忘れ物、遅刻の指導を中心に扱う。	
第10回 場面別指導2。私語、学習遅進児への対応を中心に扱う。	
第11回 場面別指導3。喧嘩、いじめ、からかいなどのトラブルへの対応を中心に扱う。	
第12回 保護者との関係作り。保護者との協力関係を作ることが、子どもの成長に繋がる。保護者会、家庭訪問、三者面談、電話対応などを中心に扱う。	
第13回 学級担任としての写真講座。学級経営に生かす写真の在り方について考える。撮影、分析、提示などの観点から考える。	
第14回 通知表の書き方。架空の児童の通知表を実際に書いてみる。通知表の相互評価。実際に書いてみた、架空の児童の通知表の相互評価を行う。	
第15回 まとめ。「書き込み回覧作文」による学級担任論の授業評価。	

## 履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

## 教科書

こんな時どう言い返す

著者： 池田修

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN:

子どもと歩む 教師の12ヶ月

著者： 家本芳郎

出版社： 高文研

出版年：

ISBN:



## 教師のための叱る作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

## 新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

## ＜教育力＞をみがく

著者： 家本芳郎

出版社： 寺子屋新書

出版年：

ISBN：

## 学級経営力を高める3・7・30の法則

著者： 野中信行

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

## 参考書

## 「かかれたカリキュラム」発見・改善ガイド

著者： 横藤雅人・武藤久慶

出版社： 明治図書

出版年：

ISBN：

## 先生！ 親ってそんなに怖いんですか？

著者： 星 幸宏

出版社： 立花書房

出版年：

ISBN：

## ヒドゥンカリキュラム入門

著者： 多賀一郎

出版社： 明治図書

出版年：

ISBN：

## ＜学級＞の歴史学

著者： 柳 治男

出版社： 講談社選書メチエ

出版年：

ISBN：

## 学級経営10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

## 教師におくる「指導」のいろいろ

著者： 家本芳郎

出版社： 高文研

出版年：

ISBN：

## 学級担任に絶対必要な「フォロー」の技術

著者： 中村健一

出版社： 黎明書房

出版年：

ISBN：

## いじめで子どもが壊れる前に

著者： 藤川大祐

出版社： 角川ONEテーマ新書

出版年：

ISBN：

## クラスづくりの極意

著者： 岩瀬直樹

出版社： 農文協

出版年：

ISBN：

手軽に発行 学級通信のアイデア40

著者： 佐藤正寿

出版社： ひまわり社

出版年：

ISBN：

---

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）

授業中発表等（ 25 ）

参加度（ 35 ）

出欠席は、出席くと授業後に指示する課題を掲示板に書くことの両方をセットにして確認する。片方だけでは出席とはならないことを理解すること。また、参加度は出席率のことではないことを理解すること。また、出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(国語) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ 国語科授業の基本的な指導法に触れる	
授業の到達目標 学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 国語科って何? 授業ガイダンス 学習指導要領では? どんな力をつける教科? 国語科教育の歴史 学習権宣言 授業と家庭学習の循環 教科通信	
第2回 国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方	
第3回 メモ指導 聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法	
第4回 漢字指導 1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導 四字熟語でポン たほいや 百人一首 簡単な学習ゲーム論	
第5回 読書指導 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション、図書館の使いかた指導	
第6回 ポートフォリオ学習 和綴じ本づくり	
第7回 作文指導 1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方、アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価	
第8回 作文指導 2 デジタルストーリーテリングの可能性	
第9回 作文指導 3 「書き込み回覧作文」による評価	
第10回 学習指導案作り 国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。	
第11回 テスト問題と採点方法 国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。	
第12回 音読/プレゼン指導 滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際	
第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト	
第14回 模擬授業1 国語の模擬授業を行う	
第15回 模擬授業2 まとめ 国語の模擬授業を行う まとめ	

## 履修上の注意点

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

## 教科書

白石範孝の国語授業の教科書

著者： 白石範孝

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2011

ISBN:

実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版

著者： 中原國明・大熊徹編

出版社： 教育出版

出版年：

ISBN:

いちばんやさしい教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年：

ISBN:

白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は怖い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

出席くと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。教科書指定の補足。『白川静さんに学ぶ 漢字は怖い』は、aクラス指定。『白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい』は、bクラス指定とする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(国語) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ 国語科授業の基本的な指導法に触れる	
授業の到達目標 学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 国語科って何? 授業ガイダンス 学習指導要領では? どんな力をつける教科? 国語科教育の歴史 学習権宣言 授業と家庭学習の循環 教科通信	
第2回 国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方	
第3回 メモ指導 聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法	
第4回 漢字指導 1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導 四字熟語でポン たほいや 百人一首 簡単な学習ゲーム論	
第5回 読書指導 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション、図書館の使いかた指導	
第6回 ポートフォリオ学習 和綴じ本づくり	
第7回 作文指導 1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方、アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価	
第8回 作文指導 2 デジタルストーリーテリングの可能性	
第9回 作文指導 3 「書き込み回覧作文」による評価	
第10回 学習指導案作り 国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。	
第11回 テスト問題と採点方法 国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。	
第12回 音読/プレゼン指導 滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際	
第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト	
第14回 模擬授業1 国語の模擬授業を行う	
第15回 模擬授業2 まとめ 国語の模擬授業を行う まとめ	

## 履修上の注意点

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

## 教科書

白石範孝の国語授業の教科書

著者: 白石範孝

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2011

ISBN:

実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版

著者: 中原國明・大熊徹編

出版社: 教育出版

出版年:

ISBN:

いちばんやさしい教える技術

著者: 向後千春

出版社: 永岡書店

出版年:

ISBN:

白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は怖い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

出席くと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。教科書指定の補足。『白川静さんに学ぶ 漢字は怖い』は、aクラス指定。『白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい』は、bクラス指定とする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(社会) &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	
担当者 倉持 祐二		
テーマ 小学校社会科の授業づくりの基礎・基本		
授業の到達目標 小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。		
授業の概要 小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと 第2回 社会科教材研究入門 第3回 社会科授業の発問づくり 第4回 小学校社会科の授業方法 第5回 学習指導案をつくる 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと		
履修上の注意点 (1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。		
教科書		
参考書		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (50) 参加度 ( )	小テスト ( ) 授業中発表等 (50)	

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(社会) &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	
担当者 倉持 祐二		
テーマ 小学校社会科の授業づくりの基礎・基本		
授業の到達目標 小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。		
授業の概要 小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと 第2回 社会科教材研究入門 第3回 社会科授業の発問づくり 第4回 小学校社会科の授業方法 第5回 学習指導案をつくる 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと		
履修上の注意点 (1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。		
教科書		
参考書		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (50) 参加度 ( )	小テスト ( ) 授業中発表等 (50)	



## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(生活) &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	
担当者 三上 周治		
テーマ		
小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む		
授業の到達目標		
小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。		
授業の概要		
身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりや連続性についても実践の吟味を通して追究していく。		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
第1回 生活科教育の目的:自立への基礎を育むために。		
第2回 実践報告「おだんごころがし」を読み取る。		
第3回 「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。		
第4回 地図を片手に東西南北一地域の自然と社会から学ぶ(含む:安全対策)		
第5回 笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの		
第6回 「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」		
第7回 「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。		
第8回 「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。		
第9回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①(含む:安全対策)		
第10回 生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの		
第11回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②(含む:安全対策)		
第12回 はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①		
第13回 生活科の指導案。何が重要なポイントか。		
第14回 生活科の指導案をグループで発表・評価する。		
第15回 試験問題の解説と授業のまとめ		
履修上の注意点		
(1)小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験・レポート(20)	小テスト( )	
授業中課題(40)	授業中発表等( )	
参加度(40)		

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(生活) &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	
担当者 三上 周治		
テーマ		
小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む		
授業の到達目標		
小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。		
授業の概要		
身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりや連続性についても実践の吟味を通して追究していく。		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
第1回 生活科教育の目的:自立への基礎を育むために。		
第2回 実践報告「おだんごころがし」を読み取る。		
第3回 「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。		
第4回 地図を片手に東西南北一地域の自然と社会から学ぶ(含む:安全対策)		
第5回 笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの		
第6回 「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」		
第7回 「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。		
第8回 「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。		
第9回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①(含む:安全対策)		
第10回 生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの		
第11回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②(含む:安全対策)		
第12回 はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①		
第13回 生活科の指導案。何が重要なポイントか。		
第14回 生活科の指導案をグループで発表・評価する。		
第15回 試験問題の解説と授業のまとめ		
履修上の注意点		
(1)小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験・レポート (20)	小テスト ( )	
授業中課題 (40)	授業中発表等 ( )	
参加度 (40)		

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(図画工作) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定
担当者 大久保 恭子	
テーマ 小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ	
授業の到達目標 学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年・中学年・高学年の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。	
授業の概要 図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 日本の美術教育の歴史と課題「自由と主体性」 第2回 図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」 第3回 「幼児期・低学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から) 第4回 「中学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から) 第5回 「高学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から) 第6回 図画工作指導法①「入門期の指導」 第7回 図画工作指導法②「描画表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ) 第8回 図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ) 第9回 実践に向けて「学習指導案」作成 第10回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」 第11回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」 第12回 教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」 第13回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①(日本絵画・西洋絵画) 第14回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②(学級の仲間の作品) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 ○自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。○教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。○自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。	
教科書 小学校学習指導要領解説 図画工作編 著者: 文部科学省 出版社: 出版年: 2017 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( 40 ) 参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(図画工作) &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	
担当者 大久保 恭子		
テーマ		
小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ		
授業の到達目標		
学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年・中学年・高学年の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。		
授業の概要		
図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
第1回 日本の美術教育の歴史と課題「自由と主体性」 第2回 図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」 第3回 「幼児期・低学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から) 第4回 「中学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から) 第5回 「高学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から) 第6回 図画工作指導法①「入門期の指導」 第7回 図画工作指導法②「描画表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ) 第8回 図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ) 第9回 実践に向けて「学習指導案」作成 第10回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」 第11回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」 第12回 教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」 第13回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①(日本絵画・西洋絵画) 第14回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②(学級の仲間の作品) 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
○自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。○教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。○自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。		
教科書		
小学校学習指導要領解説 図画工作編		
著者: 文部科学省		
出版社:		
出版年: 2017		
ISBN:		
参考書		
成績評価		
試験・レポート ( )	小テスト ( )	
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 40 )	
参加度 ( 30 )		

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(体育) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定
担当者 口野 隆史	
テーマ 自分の体育授業で、どんな子どもに育てほしいのかを考える	
授業の到達目標 まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。	
授業の概要 各自、指導案を作成、模擬授業を行う。	
準備学習(予習・復習) ①自分がこれまで(特に小学生の時)どのような体育の授業を受けてきたかを思い出す。その時の良かった事や悪かった事を振り返り、自分の行う体育の授業の参考とする。②テレビや新聞の体育、教育に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考える。	
内 容 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容 第3回 体育授業の指導方法と評価 第4回 優れた体育授業について学ぶ 第5回 陸上競技① 陸上競技の授業実践を学ぶ 第6回 陸上競技② 模擬授業「短距離走」を題材に 第7回 陸上競技③ 模擬授業「リレー」を題材に 第8回 器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ 第9回 器械運動② 模擬授業「側転」を題材に 第10回 器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に 第11回 球技① 球技の授業実践を学ぶ 第12回 球技② 模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に 第13回 球技③ 模擬授業「フラッグフットボール」を題材に 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する 第15回 まとめ	
履修上の注意点 1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらったりする時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみて下さい。2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。	
教科書	
参考書 みんなが輝く体育②小学校低学年体育の授業 著者： 学校体育研究同志会 出版社： 創文企画 出版年： 2005年 ISBN: 4-921164-37-1 みんなが輝く体育③小学校中学年体育の授業 著者： 学校体育研究同志会 出版社： 創文企画 出版年： 2006年 ISBN: 4-921164-46-0 みんなが輝く体育④小学校高学年体育の授業 著者： 学校体育研究同志会 出版社： 創文企画 出版年： 2007年 ISBN: 4-921164-58-4	

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（40）

参加度（20）

グループで学習を行い、実技も行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かすことができているか、子どもの指導について考える際は、教師の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮することができるかも見ていく。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教科教育法(体育) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定
担当者 口野 隆史	
テーマ 自分の体育授業で、どんな子どもに育てほしいのかを考える	
授業の到達目標 まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。	
授業の概要 各自、指導案を作成、模擬授業を行う。	
準備学習(予習・復習) ①自分がこれまで(特に小学生の時)どのような体育の授業を受けてきたかを思い出す。その時の良かった事や悪かった事を振り返り、自分の行う体育の授業の参考とする。②テレビや新聞の体育、教育に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考える。	
内 容 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容 第3回 体育授業の指導方法と評価 第4回 優れた体育授業について学ぶ 第5回 陸上競技① 陸上競技の授業実践を学ぶ 第6回 陸上競技② 模擬授業「短距離走」を題材に 第7回 陸上競技③ 模擬授業「リレー」を題材に 第8回 器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ 第9回 器械運動② 模擬授業「側転」を題材に 第10回 器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に 第11回 球技① 球技の授業実践を学ぶ 第12回 球技② 模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に 第13回 球技③ 模擬授業「フラッグフットボール」を題材に 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する 第15回 まとめ	
履修上の注意点 1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらったりする時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみて下さい。2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。	
教科書	
参考書 みんなが輝く体育②小学校低学年体育の授業 著者： 学校体育研究同志会 出版社： 創文企画 出版年： 2005年 ISBN: 4-921164-37-1 みんなが輝く体育③小学校中学年体育の授業 著者： 学校体育研究同志会 出版社： 創文企画 出版年： 2006年 ISBN: 4-921164-46-0 みんなが輝く体育④小学校高学年体育の授業 著者： 学校体育研究同志会 出版社： 創文企画 出版年： 2007年 ISBN: 4-921164-58-4	

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（40）

参加度（20）

グループで学習を行い、実技も行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かすことができているか、子どもの指導について考える際は、教師の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮することができるかも見ていく。

---



## 2017 Syllabus

科目名 教育相談(初)

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

授業の到達目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の概要

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、教育相談の意義：“今なぜ教育相談？”
- 第2回 教育相談の機能と限界
- 第3回 教育相談の歩み
- 第4回 教育相談の事例検討(1)不登校、いじめ等
- 第5回 教育相談の事例検討(2)対人恐怖、神経症等
- 第6回 ストレスマネジメント
- 第7回 教育相談に役立つ基礎的理論と技法(1)精神分析論(フロイト)
- 第8回           "                           (2)自己理論 (ロジャーズ)
- 第9回           "                           (3)行動理論、論理療法
- 第10回          "                           (4)交流分析、ゲシュタルト理論他
- 第11回 人間理解とカウンセリングマインド
- 第12回 人間関係づくりのエクササイズ
- 第13回 望ましいコミュニケーションのために
- 第14回 まとめと復習
- 第15回 試験

履修上の注意点

小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウォッチング(いろんな人がいるなー!)に努める。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 相談援助〈幼A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50% )

授業中課題 ( 30% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20% )

## 2017 Syllabus

科目名 相談援助〈幼B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50% )

授業中課題 ( 30% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20% )

## 2017 Syllabus

科目名 相談援助〈幼C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 20% )

小テスト ( 50% )  
 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育相談支援〈幼A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習(予習・復習)

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内 容

- 第1回 保育相談支援の意義と基本的視点
- 第2回 保育相談支援の基本
- 第3回 保育相談支援の展開
- 第4回 環境を通じた保育相談支援
- 第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
- 第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
- 第7回 児童福祉施設における保育相談支援
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社：フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社：萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（50）

授業中課題（30）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

## 2017 Syllabus

科目名 保育相談支援〈幼B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習(予習・復習)

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内 容

- 第1回 保育相談支援の意義と基本的視点
- 第2回 保育相談支援の基本
- 第3回 保育相談支援の展開
- 第4回 環境を通じた保育相談支援
- 第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
- 第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
- 第7回 児童福祉施設における保育相談支援
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社：フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社：萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（50）

授業中課題（30）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

## 2017 Syllabus

科目名 保育相談支援 &lt;幼C&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習(予習・復習)

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内 容

- 第1回 保育相談支援の意義と基本的視点
- 第2回 保育相談支援の基本
- 第3回 保育相談支援の展開
- 第4回 環境を通じた保育相談支援
- 第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
- 第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
- 第7回 児童福祉施設における保育相談支援
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

&lt;増補版&gt; 保育者の保護者支援

著者: 柏女霊峰 橋本真紀

出版社: フレーベル館

出版年:

ISBN:

保育相談支援

著者: 小林育子

出版社: 萌文書林

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 **児童家庭福祉**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 森本 美絵	
テーマ	
「子どもの最善の利益」保障の観点から児童家庭福祉を理解する。	
授業の到達目標	
児童家庭福祉の現代的意義、歴史的変遷を学び、子どもの権利及び保育との関係性を理解する。また、児童福祉法等を体系的に学び、子どもを取り巻く環境の諸課題の理解及び、その対策について考えを深める。	
授業の概要	
児童家庭福祉の法体系、里親制度、施設及び機関の機能等を学び、「子どもの最善の利益」を保障する児童家庭福祉を理解する。	
準備学習(予習・復習)	
児童家庭福祉の動向及び子ども・家庭に関わるニュース等に関心を持ち、メモを心がける。	
内 容	
第1回 児童福祉の制定	
第2回 児童福祉法の改正	
第3回 児童福祉の歴史－イギリス	
第4回 児童福祉の歴史－日本	
第5回 児童の権利	
第6回 児童福祉の法体系	
第7回 児童福祉施設と里親制度	
第8回 児童福祉の財政	
第9回 現代家族の特徴と児童養護問題	
第10回 ひとり親家庭の現状と課題	
第11回 現代家族と保育問題－子育ての社会化	
第12回 現代家族と保育問題－保育サービス	
第13回 障害児福祉の理念と課題	
第14回 児童福祉とソーシャルワーク	
第15回 まとめ、質疑応答	
履修上の注意点	
教科書	
児童福祉論	
著者： 吉田明弘	
出版社： 八千代出版	
出版年： 2014	ISBN: 4-8429-1481-7
参考書	
児童の世紀	
著者： エレン・ケイ	
出版社： 富山房百科文庫	
出版年： 1979	ISBN: 4-572-00124
成績評価	
試験・レポート ( 0 )	小テスト ( 60 )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 0 )
参加度 ( 10 )	



## 2017 Syllabus

科目名 **社会的養護**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

授業の到達目標

社会的養護の現代的意義と歴史の変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体制等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の概要

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題・背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

準備学習(予習・復習)

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

内 容

- 第1回 社会的養護の理念と方向性
- 第2回 社会的養護の原理
- 第3回 子どもの権利
- 第4回 社会的養護の体系
- 第5回 社会的養護の制度
- 第6回 日本における社会的養護のあゆみ
- 第7回 欧米における社会的養護の歩み
- 第8回 現代家族問題と社会的養護
- 第9回 ひとり親家庭の現状と課題
- 第10回 養育環境上の問題に対応する児童の施設養護
- 第11回 情緒・行動面上の問題に対応する児童の施設養護
- 第12回 障害のある児童の施設養護
- 第13回 社会的養護の実践方法
- 第14回 社会的養護を支える専門職と新しい仕組み
- 第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

社会的養護

著者： 吉田明弘編著

出版社： 八千代出版

出版年： 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (60)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 こどもの保健 I - 2

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 齋藤 洋子

テーマ

子どもの疾病予防と適切な対応、子どもの生活環境、保育環境と衛生、安全管理について学ぶ

授業の到達目標

子どもの疾病の特徴と予防、適切な対応を理解する。保育の環境及び衛生管理・安全管理について理解する。子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

授業の概要

テキストと資料で進める。

準備学習(予習・復習)

テキストを読んで授業に臨むこと

内 容

- 第1回 子どもの病気と予防(1)子どもの病気の特徴
- 第2回 子どもの病気と予防(2)感染症
- 第3回 子どもの病気と予防(3)アレルギー
- 第4回 子どもの病気と予防(4)その他の病気1
- 第5回 子どもの病気と予防(5)その他の病気2
- 第6回 子どもの病気と予防(6)その他の病気3
- 第7回 子どもの病気と予防(7)予防接種
- 第8回 子どもの環境と保健(1)環境整備
- 第9回 子どもの環境と保健(2)衛生管理
- 第10回 子どもの環境と保健(3)安全管理
- 第11回 健康観察・おもな症状の味方と対応
- 第12回 子どもの事故と怪我への対応
- 第13回 慢性疾患、気になる子ども他
- 第14回 子どもの健康および安全の実施体制(1)
- 第15回 子どもの健康および安全の実施体制(2)

履修上の注意点

教科書

保育を学ぶ人のための子どもの保健 I

著者: 堀浩樹・梶美保 編著

出版社: 建帛社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(80)

小テスト( )

授業中課題(10)

授業中発表等( )

参加度(10)

## 2017 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅱ〈A〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 齋藤 洋子	
テーマ	子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。
授業の到達目標	1.乳幼児の日常生活の養護について、知識と技術を学ぶ。2.乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3.乳幼児の事故防止と安全な保育環境について、知識と技術を学ぶ。
授業の概要	乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について、演習を通して知識と技術を習得する。
準備学習(予習・復習)	事前に教科書の内容を読んで授業(演習)に臨むこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション こどもの保健と保育</p> <p>第2回 乳幼児の養護(衣類の着脱・おむつ交換等)</p> <p>第3回 乳幼児の身体計測</p> <p>第4回 乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)</p> <p>第5回 乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価</p> <p>第6回 乳幼児の運動機能の発達と評価</p> <p>第7回 乳幼児の歯の健康</p> <p>第8回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)</p> <p>第9回 乳幼児の異常症状と手当Ⅰ</p> <p>第10回 乳幼児の異常症状と手当Ⅱ</p> <p>第11回 乳幼児の事故と応急手当</p> <p>第12回 心肺蘇生法</p> <p>第13回 健康(安全)教育(グループワーク)</p> <p>第14回 保健だより(グループワーク)</p> <p>第15回 保育における環境衛生 保育者の健康管理</p>
履修上の注意点	
教科書	
子どもの保健演習ガイド	
著者: 高内正子 編著	
出版社: 建帛社	
出版年:	ISBN:
新装版 産婦人科の窓口から	
著者: 河野美代子	
出版社: こども未来社	
出版年:	ISBN:
参考書	
保育保健の基礎知識	
著者: 巷野悟郎 監修	
出版社: 日本小児医事出版社	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( 50 )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 10 )	
「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%) 授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅱ〈B〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 宮田 経子

テーマ

子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳幼児の日常生活の養護について、知識と技術を学ぶ。2. 乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3. 乳幼児の事故防止と安全な保健環境について、知識と技術を学ぶ。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について、実習を通して知識と技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の内容を読んで授業(実習)に臨むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 子どもの保健と保育
- 第2回 乳幼児の養護(衣類の着脱・おむつ交換)
- 第3回 乳幼児の身体計測
- 第4回 乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)
- 第5回 乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
- 第6回 乳幼児の運動機能の発達と評価
- 第7回 乳幼児の歯の健康
- 第8回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当Ⅰ
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当Ⅱ
- 第11回 乳幼児の事故と応急手当
- 第12回 心肺蘇生法
- 第13回 健康(安全)教育(グループワーク)
- 第14回 保健だより(グループワーク)
- 第15回 保育における環境衛生 保育者の健康管理

履修上の注意点

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者: 高内正子 編著

出版社: 建帛社

出版年:

ISBN:

新装版 産婦人科の窓口から

著者: 河野美代子

出版社: 子ども未来社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(50)

小テスト( )

授業中課題(20)

授業中発表等(20)

参加度(10)

「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%) 授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)

## 2017 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅱ &lt;C&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 宮田 経子

テーマ

子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳幼児の日常生活の養護について、知識と技術を学ぶ。2. 乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3. 乳幼児の事故防止と安全な保健環境について、知識と技術を学ぶ。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について、実習を通して知識と技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の内容を読んで授業(実習)に臨むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 子どもの保健と保育
- 第2回 乳幼児の養護(衣類の着脱・おむつ交換)
- 第3回 乳幼児の身体計測
- 第4回 乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)
- 第5回 乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
- 第6回 乳幼児の運動機能の発達と評価
- 第7回 乳幼児の歯の健康
- 第8回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当Ⅰ
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当Ⅱ
- 第11回 乳幼児の事故と応急手当
- 第12回 心肺蘇生法
- 第13回 健康(安全)教育(グループワーク)
- 第14回 保健だより(グループワーク)
- 第15回 保育における環境衛生 保育者の健康管理

履修上の注意点

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者: 高内正子 編著

出版社: 建帛社

出版年:

ISBN:

新装版 産婦人科の窓口から

著者: 河野美代子

出版社: 子ども未来社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(50)

小テスト( )

授業中課題(20)

授業中発表等(20)

参加度(10)

「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%) 授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)

## 2017 Syllabus

科目名 こどもの食と栄養 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山中 祥子	
テーマ 子どもの発達に応じた栄養と食生活について学ぶ	
授業の到達目標 子どもの発達に応じた栄養の基礎的知識、さらにライフステージごとの子どもの身体的・精神的特徴を理解し、子どもの食生活・栄養の課題を明確にし、多角的な視野から解決できる。	
授業の概要 講義形式で、保育士に求められる基礎的な知識を習得し、さらにグループワークなどの演習により食生活・栄養に関する課題について考え、発表する。	
準備学習(予習・復習) 専門用語も多いので、授業の前には必ずテキストを読み、予習・復習を行うこと。	
内 容 第1回 子どもの食生活の現状と課題 第2回 栄養に関する基礎知識① 食品の分類・炭水化物・脂質の主な働き 第3回 栄養に関する基礎知識② たんぱく質・ビタミン・ミネラルの働き 欠乏症・過剰症 第4回 日本人の食事摂取基準の意義とその活用 食事バランスガイド・食中毒 第5回 食品表示・食品添加物 演習課題Ⅰ 第6回 妊娠期の食生活 第7回 授乳期の食生活・乳汁栄養 第8回 離乳の意義とその実践 離乳の必要性・離乳食作りの留意点・食物アレルギー 第9回 幼児期の食機能の発達・献立および調理上の注意点・間食 演習課題Ⅱ 第10回 好き嫌いとはなぜ起こるか 第11回 幼児期の心身の発達と食生活 食環境の影響(共食・孤食) 第12回 食育の重要性 第13回 演習課題Ⅲ 第14回 思春期の食生活 ダイエット・生活習慣病の予防 第15回 まとめ	
履修上の注意点 遅刻は15分まで、授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とします。演習課題のテーマについては、事前に授業中にお知らせします。	
教科書 子育て・子育てを支援する こどもの食と栄養 著者： 堤 ちはる・土井正子 出版社： 萌文書林 出版年： 2015 ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 与えられた課題についてのグループワークによる討論、発表はもちろん、個人で行う課題に対する積極性を重視します。	

## 2017 Syllabus

科目名 **こどもの食と栄養 <b>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 山中 祥子

テーマ

子どもの発達に応じた栄養と食生活について学ぶ

授業の到達目標

子どもの発達に応じた栄養の基礎的知識、さらにライフステージごとの子どもの身体的・精神的特徴を理解し、子どもの食生活・栄養の課題を明確にし、多角的な視野から解決できる。

授業の概要

講義形式で、保育士に求められる基礎的な知識を習得し、さらにグループワークなどの演習により食生活・栄養に関する課題について考え、発表する。

準備学習(予習・復習)

専門用語も多いので、授業の前には必ずテキストを読み、予習・復習を行うこと。

内 容

- 第1回 子どもの食生活の現状と課題
- 第2回 栄養に関する基礎知識① 食品の分類・炭水化物・脂質の主な働き
- 第3回 栄養に関する基礎知識② たんぱく質・ビタミン・ミネラルの働き 欠乏症・過剰症
- 第4回 日本人の食事摂取基準の意義とその活用 食事バランスガイド・食中毒
- 第5回 食品表示・食品添加物 演習課題Ⅰ
- 第6回 妊娠期の食生活
- 第7回 授乳期の食生活・乳汁栄養
- 第8回 離乳の意義とその実践 離乳の必要性・離乳食作りの留意点・食物アレルギー
- 第9回 幼児期の食機能の発達・献立および調理上の注意点・間食 演習課題Ⅱ
- 第10回 好き嫌いとはなぜ起こるか
- 第11回 幼児期の心身の発達と食生活 食環境の影響(共食・孤食)
- 第12回 食育の重要性
- 第13回 演習課題Ⅲ
- 第14回 思春期の食生活 ダイエット・生活習慣病の予防
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

遅刻は15分まで、授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とします。演習課題のテーマについては、事前に授業中にお知らせします。

教科書

子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養

著者: 堤 ちはる・土井正子

出版社: 萌文書林

出版年: 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

与えられた課題についてのグループワークによる討論、発表はもちろん、個人で行う課題に対する積極性を重視します。

## 2017 Syllabus

科目名 保育の心理学 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 長橋 聡	

テーマ

乳幼児の心理的な特徴を理解し、そこから生じる問題や、保育を行う上で大切なことを理解し、多角的な子どもの見方を身につけること。

授業の到達目標

・乳幼児期の子どもの特徴や発達の様子を知ること。・乳幼児期の発達と、そこから続く発達段階とのつながりをイメージし、保育・教育の実践や支援のあり方について、各々が考えられるようになること。

授業の概要

乳幼児の心理発達について、身体の発達や具体的な活動といったことと関連づけ、事例等も交えながらながら扱っていく。

準備学習(予習・復習)

予習: 扱うテーマについて、簡潔で良いので、イメージするものや疑問に思うことなどを考え、整理しておくことと良い。復習: 配布資料やノート等を用いて復習したり、講義中に紹介する関連書籍などに目を通しておくことと良い。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、発達と心理学についての基本的な視座
- 第2回 子ども観と発達観: 遺伝と環境
- 第3回 身体と運動の発達
- 第4回 感情の発達
- 第5回 精神の発達①:ピアジェの認知発達
- 第6回 精神の発達②: ヴィゴツキーの発達論
- 第7回 言語とイメージの発達
- 第8回 乳幼児の遊びとその発達の意義
- 第9回 愛着の発達とその意義
- 第10回 基本的生活習慣の発達
- 第11回 人間関係の発達、人間関係の中での発達
- 第12回 乳幼児期以降の発達: 生涯発達という視座
- 第13回 発達における遅れやつまづき: 発達障がい
- 第14回 まとめ: 復習および子どもをみる視点について
- 第15回 期末試験

履修上の注意点

出席・欠席について: 出席時には学生証を携帯してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。学習上の助言: 自身の興味や関心を大事にして、質問したり、講義で扱ったテーマに関して理解を深めることを望みます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

評価方法の「授業中課題」については、第7回の前後にレポート課題を課します。



## 2017 Syllabus

科目名 保育の心理学 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 長橋 聡	
テーマ	乳幼児の心理的な特徴を理解し、そこから生じる問題や、保育を行う上で大切なことを理解し、多角的な子どもの見方を身につけること。
授業の到達目標	・乳幼児期の子どもの特徴や発達の様子を知ること。・乳幼児期の発達と、そこから続く発達段階とのつながりをイメージし、保育・教育の実践や支援のあり方について、各々が考えられるようになること。
授業の概要	乳幼児の心理発達について、身体の発達や具体的な活動といったことと関連づけ、事例等も交えながらながら扱っていく。
準備学習(予習・復習)	予習: 扱うテーマについて、簡潔で良いので、イメージするものや疑問に思うことなどを考え、整理しておくことと良い。復習: 配布資料やノート等を用いて復習したり、講義中に紹介する関連書籍などに目を通しておくことと良い。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、発達と心理学についての基本的な視座</p> <p>第2回 子ども観と発達観: 遺伝と環境</p> <p>第3回 身体と運動の発達</p> <p>第4回 感情の発達</p> <p>第5回 精神の発達①:ピアジェの認知発達</p> <p>第6回 精神の発達②: ヴィゴツキーの発達論</p> <p>第7回 言語とイメージの発達</p> <p>第8回 乳幼児の遊びとその発達の意義</p> <p>第9回 愛着の発達とその意義</p> <p>第10回 基本的な生活習慣の発達</p> <p>第11回 人間関係の発達、人間関係の中での発達</p> <p>第12回 乳幼児期以降の発達: 生涯発達という視座</p> <p>第13回 発達における遅れやつまづき: 発達障がい</p> <p>第14回 まとめ: 復習および子どもをみる視点について</p> <p>第15回 期末試験</p>
履修上の注意点	出席・欠席について: 出席時には学生証を携帯してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。学習上の助言: 自身の興味や関心を大事にして、質問したり、講義で扱ったテーマに関して理解を深めることを望みます。
教科書	使用しない
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (50)	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	
評価方法の「授業中課題」については、第7回の前後にレポート課題を課します。	

## 2017 Syllabus

科目名 乳児保育〈A〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

乳児の発達過程を理解し、乳児保育の社会的意義について考え、その方法・内容を学ぶ。家庭の子育てを支援する保育者の役割について学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳児の発達過程について理解する。2. 乳児保育のデイリープログラムを理解し、実習と関連づけて保育の流れをイメージできるようにする。3. 保育者として子育てを支援する意味について学ぶ。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回目には教科書および授業専用のノートを持参すること。「乳児保育」では、乳幼児期の発達に関する知識の習得を目指す。また、知識を定着させるために実技を行う。

準備学習(予習・復習)

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内 容

- 第1回 導入 乳児保育のいま
- 第2回 乳児保育に関連する法律
- 第3回 0, 1, 2歳児の発達過程①
- 第4回 0, 1, 2歳児の発達過程②
- 第5回 0, 1, 2歳児の発達過程③
- 第6回 発達と遊び① ーおもちゃの研究ー
- 第7回 0, 1, 2歳児の発達過程④
- 第8回 授乳と離乳の支援 ー調乳実習と離乳食づくりー
- 第9回 0, 1, 2歳児の発達過程⑤
- 第10回 発達と遊び② ー保育教材の研究ー
- 第11回 デイリープログラムの理解
- 第12回 乳児保育における複数担任制
- 第13回 保護者への支援①
- 第14回 保護者への支援②
- 第15回 まとめと筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ 乳児保育

著者: 志村聡子編著

出版社: 同文書院

出版年:

ISBN:

保育所保育指針解説書

著者: 厚生労働省編

出版社: フレーベル館

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (45%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (5%)

授業中課題の提出を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 乳児保育〈B〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

乳児の発達過程を理解し、乳児保育の社会的意義について考え、その方法・内容を学ぶ。家庭の子育てを支援する保育者の役割について学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳児の発達過程について理解する。2. 乳児保育のデイリープログラムを理解し、実習と関連づけて保育の流れをイメージできるようにする。3. 保育者として子育てを支援する意味について学ぶ。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回目には教科書および授業専用のノートを持参すること。「乳児保育」では、乳幼児期の発達に関する知識の習得を目指す。また、知識を定着させるために実技を行う。

準備学習(予習・復習)

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内 容

- 第1回 導入 乳児保育のいま
- 第2回 乳児保育に関連する法律
- 第3回 0, 1, 2歳児の発達過程①
- 第4回 0, 1, 2歳児の発達過程②
- 第5回 0, 1, 2歳児の発達過程③
- 第6回 発達と遊び① ーおもちゃの研究ー
- 第7回 0, 1, 2歳児の発達過程④
- 第8回 授乳と離乳の支援 ー調乳実習と離乳食づくりー
- 第9回 0, 1, 2歳児の発達過程⑤
- 第10回 発達と遊び② ー保育教材の研究ー
- 第11回 デイリープログラムの理解
- 第12回 乳児保育における複数担任制
- 第13回 保護者への支援①
- 第14回 保護者への支援②
- 第15回 まとめと筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ 乳児保育

著者: 志村聡子編著

出版社: 同文書院

出版年:

ISBN:

保育所保育指針解説書

著者: 厚生労働省編

出版社: フレーベル館

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (45%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (5%)

授業中課題の提出を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 乳児保育 &lt;C&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

乳児の発達過程を理解し、乳児保育の社会的意義について考え、その方法・内容を学ぶ。家庭の子育てを支援する保育者の役割について学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳児の発達過程について理解する。2. 乳児保育のデイリープログラムを理解し、実習と関連づけて保育の流れをイメージできるようにする。3. 保育者として子育てを支援する意味について学ぶ。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回目には教科書および授業専用のノートを持参すること。「乳児保育」では、乳幼児期の発達に関する知識の習得を目指す。また、知識を定着させるために実技を行う。

準備学習(予習・復習)

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内 容

- 第1回 導入 乳児保育のいま
- 第2回 乳児保育に関連する法律
- 第3回 0, 1, 2歳児の発達過程①
- 第4回 0, 1, 2歳児の発達過程②
- 第5回 0, 1, 2歳児の発達過程③
- 第6回 発達と遊び① ーおもちゃの研究ー
- 第7回 0, 1, 2歳児の発達過程④
- 第8回 授乳と離乳の支援 ー調乳実習と離乳食づくりー
- 第9回 0, 1, 2歳児の発達過程⑤
- 第10回 発達と遊び② ー保育教材の研究ー
- 第11回 デイリープログラムの理解
- 第12回 乳児保育における複数担任制
- 第13回 保護者への支援①
- 第14回 保護者への支援②
- 第15回 まとめと筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ 乳児保育

著者: 志村聡子編著

出版社: 同文書院

出版年:

ISBN:

保育所保育指針解説書

著者: 厚生労働省編

出版社: フレーベル館

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (45%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (5%)

授業中課題の提出を重視する。

## 2017 Syllabus

## 科目名 障害児保育〈A〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 岸本 栄嗣	
テーマ	この授業のテーマは、「障害のある子どもやその家族への共感的理解」である。このテーマのもとに、障害児保育の初歩的な理解に取り組む。
授業の到達目標	障害のある子ども、さらには障害のある子どもの家族の立場、視点に立って考えるようになること。
授業の概要	この授業では、障害の理解、障害のある子どもの理解、障害のある子どもの家族の理解、障害のある子どもへの保育や援助についての理解などを取り上げる。受講者自身がしっかり考えることを重視して授業を展開する。講義形式のほか、映像資料、事例、障害の疑似体験などを用いてのディスカッションも行なう。
準備学習(予習・復習)	「障害」あるいは「障害のある子ども」についての自分なりの考え・理解を、常に問い返しておくこと。また、実習やボランティア活動などで障害のある子どもとかわる機会があれば、その子どもとの関係をしっかりと深めてほしい。
内 容	<p>第1回 障害とは何か(1)自分自身の「障害観」について振り返る。</p> <p>第2回 障害とは何か(2)障害概念の変遷から障害について考える。</p> <p>第3回 障害の理解(1)「見えない／見えにくいということ」について体験する。</p> <p>第4回 障害の理解(2)「見通しがもてないということ」について体験する。</p> <p>第5回 障害の理解(3)「車いすを利用すること」について体験する。</p> <p>第6回 障害の理解(4)「指先が不器用であるということ」について体験する。</p> <p>第7回 障害種別の理解(1)自閉症スペクトラム障害を中心に</p> <p>第8回 障害種別の理解(2)ADHDを中心に</p> <p>第9回 障害種別の理解(3)視覚障害・聴覚障害を中心に</p> <p>第10回 障害のある子どもの家族の理解</p> <p>第11回 障害児保育の意義と目的</p> <p>第12回 障害児保育の実践(1)事例の検討</p> <p>第13回 障害児保育の実践(2)事例の検討</p> <p>第14回 障害児保育の現状と課題</p> <p>第15回 まとめ 改めて「障害とは何か」</p>
履修上の注意点	・とくにディスカッションでは積極的な参加を望む。・授業で取り上げられることは限りがあるため、歴史的背景や制度の詳細などについては、各自文献等で学習を進めてほしい。
教科書	
参考書	<p>障害児保育</p> <p>著者： 近藤直子・白石正久・中村尚子</p> <p>出版社： 全障研出版部</p> <p>出版年： 2013 ISBN： 9.78488E+12</p>
成績評価	<p>試験・レポート（ ） 小テスト（50）</p> <p>授業中課題（50） 授業中発表等（ ）</p> <p>参加度（ ）</p> <p>授業出席と態度、数回実施する小レポート、最終授業課題の総合評価。</p>

## 2017 Syllabus

## 科目名 障害児保育&lt;B&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 若林 隆泰	
テーマ	障害児保育を進めるために、①障害児理解として、発達・障害・生活の相互の関連性に留意しつつ、発達の普遍的共通性を軸に評価する視点を養うこと、②障害児の発達を保障する保育・療育実践の基本的な概念の理解、③保護者・家族を支援する枠組みと方法、④療育システムとしての障害児保育・療育の制度理解について学ぶ
授業の到達目標	①障害児の保育・療育の実践で確かめられてきた発達の道筋を理解し、様々な障害の特性と関連付けて評価する方法を身に付ける ②保育・療育の実践について、保育と療育と医療・訓練、親子療育、保育・療育内容と指導、集団の組織等について学ぶ ③障害理解への支援等、保護者・家族支援の基本的な内容と方法について学ぶ ④社会福祉基礎構造改革等に留意しつつ、乳幼児期から学齢期への系統的な支援と医療・福祉・教育等の総合的な支援という療育システムの観点から、障害児保育・療育に関わる基本的な制度と機関連携等について理解する
授業の概要	前半は講義を中心に進め、後半はグループによる報告・討論を行う
準備学習(予習・復習)	参考文献(1)から、予定の内容に関わるところをあらかじめ学習しておくことが望ましい
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 発達の道筋と障害(1)</p> <p>第3回 発達の道筋と障害(2)</p> <p>第4回 障害の基礎知識と保育・療育の留意点(1)知的障害・自閉症スペクトラム障害</p> <p>第5回 障害の基礎知識と保育・療育の留意点(2)注意欠陥多動性障害など</p> <p>第6回 障害児保育・療育の方法・内容</p> <p>第7回 保護者・家族支援のニーズと方法</p> <p>第8回 療育システムとしての障害児保育・療育制度</p> <p>第9回 グループ討論(1)</p> <p>第10回 グループ討論(2)</p> <p>第11回 グループ討論(3)</p> <p>第12回 グループ討論(4)</p> <p>第13回 グループ討論(5)</p> <p>第14回 グループ討論(6)</p> <p>第15回 まとめ;障害児保育・療育に関わる専門職の課題</p>
履修上の注意点	季刊保育問題研究(新読書社)に掲載されている全国保育問題研究集会での障害児保育の実践報告を読み、課題意識を広めたり、深めたりしながら授業に参加してほしいと思っています
教科書	<p>保育者のためのテキスト 障害児保育 改訂初版第7刷</p> <p>著者: 近藤直子・白石正久・中村尚子編</p> <p>出版社: 全国障害者問題研究会</p> <p>出版年: 2016年9月1日 ISBN:</p>
参考書	<p>障害児の内面世界をさぐる</p> <p>著者: 別府哲</p> <p>出版社: 全国障害者問題研究会</p> <p>出版年: 2010年 ISBN:</p> <p>”すてき”を見つける保育・療育・子育て</p> <p>著者: 近藤直子</p> <p>出版社: 全国障害者問題研究会</p> <p>出版年: 2015年 ISBN:</p>
成績評価	

試験・レポート (50%)

授業中課題 (20%)

参加度 (10%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 障害児保育 &lt;C&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 若林 隆泰	
テーマ	障害児保育を進めるために、①障害児理解として、発達・障害・生活の相互の関連性に留意しつつ、発達の普遍的共通性を軸に評価する視点を養うこと、②障害児の発達を保障する保育・療育実践の基本的な概念の理解、③保護者・家族を支援する枠組みと方法、④療育システムとしての障害児保育・療育の制度理解について学ぶ
授業の到達目標	①障害児の保育・療育の実践で確かめられてきた発達の道筋を理解し、様々な障害の特性と関連付けて評価する方法を身に付ける ②保育・療育の実践について、保育と療育と医療・訓練、親子療育、保育・療育内容と指導、集団の組織等について学ぶ ③障害理解への支援等、保護者・家族支援の基本的な内容と方法について学ぶ ④社会福祉基礎構造改革等に留意しつつ、乳幼児期から学齢期への系統的な支援と医療・福祉・教育等の総合的な支援という療育システムの観点から、障害児保育・療育に関わる基本的な制度と機関連携等について理解する
授業の概要	前半は講義を中心に進め、後半はグループによる報告・討論を行う
準備学習(予習・復習)	参考文献(1)から、予定の内容に関わるところをあらかじめ学習しておくことが望ましい
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 発達の道筋と障害(1)</p> <p>第3回 発達の道筋と障害(2)</p> <p>第4回 障害の基礎知識と保育・療育の留意点(1)知的障害・自閉症スペクトラム障害</p> <p>第5回 障害の基礎知識と保育・療育の留意点(2)注意欠陥多動性障害など</p> <p>第6回 障害児保育・療育の方法・内容</p> <p>第7回 保護者・家族支援のニーズと方法</p> <p>第8回 療育システムとしての障害児保育・療育制度</p> <p>第9回 グループ討論(1)</p> <p>第10回 グループ討論(2)</p> <p>第11回 グループ討論(3)</p> <p>第12回 グループ討論(4)</p> <p>第13回 グループ討論(5)</p> <p>第14回 グループ討論(6)</p> <p>第15回 まとめ;障害児保育・療育に関わる専門職の課題</p>
履修上の注意点	季刊保育問題研究(新読書社)に掲載されている全国保育問題研究集会での障害児保育の実践報告を読み、課題意識を広めたり、深めたりしながら授業に参加してほしいと思っています
教科書	<p>保育者のためのテキスト 障害児保育 改訂初版第7刷</p> <p>著者: 近藤直子・白石正久・中村尚子編</p> <p>出版社: 全国障害者問題研究会</p> <p>出版年: 2016年9月1日 ISBN:</p>
参考書	<p>障害児の内面世界をさぐる</p> <p>著者: 別府哲</p> <p>出版社: 全国障害者問題研究会</p> <p>出版年: 2010年 ISBN:</p> <p>”すてき”を見つける保育・療育・子育て</p> <p>著者: 近藤直子</p> <p>出版社: 全国障害者問題研究会</p> <p>出版年: 2015年 ISBN:</p>
成績評価	



試験・レポート (50%)

授業中課題 (20%)

参加度 (10%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 社会的養護内容 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 春田 真樹	
テーマ	様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。
授業の到達目標	児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。
授業の概要	基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、事例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。
準備学習(予習・復習)	社会的養護に関わらず、世間一般の子ども達がどのような状況に置かれているか、あるいは、どのようなことが流行しているのかなどを具体的に知るために地域の活動に積極的に関わったり、TVや新聞、インターネット等を使いながら情報収集してください。
内 容	<p>第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション</p> <p>第2回 子どもの養護と保育士② 児童養護施設のDVD視聴</p> <p>第3回 子どもの養護と保育士③ 児童養護施設のDVD視聴</p> <p>第4回 子どもの養護と保育士④ まとめ</p> <p>第5回 施設養護のプロセスの理解と展開</p> <p>第6回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援①</p> <p>第7回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援②</p> <p>第8回 こころの援助①</p> <p>第9回 こころの援助②</p> <p>第10回 親子関係の援助① 児童養護施設のDVDの視聴</p> <p>第11回 親子関係の援助②</p> <p>第12回 地域・学校との関係づくり</p> <p>第13回 自己実現・自立への支援・援助</p> <p>第14回 児童福祉施設の運営管理</p> <p>第15回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理 まとめ</p>
履修上の注意点	<受講のマナー> 遅刻や早退、欠席はマイナス査定します。興味を持って授業に臨んでください。この授業でお伝えする情報は、近い将来必ず役に立つものばかりです。<欠席について> やむを得ず欠席する場合(部活動や実習等)については、事前に報告してください。また、急な体調不良等で欠席した場合は、事後速やかに報告してください。<学習上の助言> 実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。
教科書	<p>保育士をめざす人の社会的養護内容</p> <p>著者： 辰巳隆・岡本真幸 編</p> <p>出版社： 株式会社 みらい</p> <p>出版年： 2011 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 (40)</p> <p>この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。</p>

## 2017 Syllabus

## 科目名 社会的養護内容 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 春田 真樹	
テーマ	様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。
授業の到達目標	児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。
授業の概要	基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、事例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。
準備学習(予習・復習)	社会的養護に関わらず、世間一般の子ども達がどのような状況に置かれているか、あるいは、どのようなことが流行しているのかなどを具体的に知るために地域の活動に積極的に関わったり、TVや新聞、インターネット等を使いながら情報収集してください。
内 容	<p>第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション</p> <p>第2回 子どもの養護と保育士② 児童養護施設のDVD視聴</p> <p>第3回 子どもの養護と保育士③ 児童養護施設のDVD視聴</p> <p>第4回 子どもの養護と保育士④ まとめ</p> <p>第5回 施設養護のプロセスの理解と展開</p> <p>第6回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援①</p> <p>第7回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援②</p> <p>第8回 こころの援助①</p> <p>第9回 こころの援助②</p> <p>第10回 親子関係の援助① 児童養護施設のDVDの視聴</p> <p>第11回 親子関係の援助②</p> <p>第12回 地域・学校との関係づくり</p> <p>第13回 自己実現・自立への支援・援助</p> <p>第14回 児童福祉施設の運営管理</p> <p>第15回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理 まとめ</p>
履修上の注意点	<受講のマナー> 遅刻や早退、欠席はマイナス査定します。興味を持って授業に臨んでください。この授業でお伝えする情報は、近い将来必ず役に立つものばかりです。<欠席について> やむを得ず欠席する場合(部活動や実習等)については、事前に報告してください。また、急な体調不良等で欠席した場合は、事後速やかに報告してください。<学習上の助言> 実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。
教科書	<p>保育士をめざす人の社会的養護内容</p> <p>著者： 辰巳隆・岡本真幸 編</p> <p>出版社： 株式会社 みらい</p> <p>出版年： 2011 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 (40)</p> <p>この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 初めての保育所実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。	
授業の概要 ・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。	
内 容 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について① 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事 第4回 年齢別指導方法や保育技術① 第5回 年齢別指導方法や保育技術② 第6回 帳票類と保菌検査について 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際 第8回 実習簿の記入と記録の書き方	
履修上の注意点 ・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 小テスト ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 授業中発表等 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 **保育実習指導 I - 1 <b>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 初めての保育所実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。	
授業の概要 ・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。	
内 容 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について① 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事 第4回 年齢別指導方法や保育技術① 第5回 年齢別指導方法や保育技術② 第6回 帳票類と保菌検査について 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際 第8回 実習簿の記入と記録の書き方	
履修上の注意点 ・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 小テスト ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 授業中発表等 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 裕子	
テーマ 初めての保育所実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。	
授業の概要 ・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。	
内 容 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について① 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事 第4回 年齢別指導方法や保育技術① 第5回 年齢別指導方法や保育技術② 第6回 帳票類と保菌検査について 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際 第8回 実習簿の記入と記録の書き方	
履修上の注意点 ・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 小テスト ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 授業中発表等 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。

内 容

- 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術②
- 第6回 帳票類と保菌検査について
- 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN：

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2015

ISBN：

参考書

授業の中で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (40%)

授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;e&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。

内 容

- 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術②
- 第6回 帳票類と保菌検査について
- 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2015

ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (40%)

授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。



## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;付&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。

内 容

- 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術②
- 第6回 帳票類と保菌検査について
- 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者: 厚生労働省

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省

出版社: フレーベル館

出版年: 2015

ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (40%)

授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 須藤 智代子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。

内 容

- 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術②
- 第6回 帳票類と保菌検査について
- 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN：

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2015

ISBN：

参考書

授業の中で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 30% )

授業中発表等 ( 30% )

参加度 ( 40% )

授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 裕子	
テーマ 初めての保育所実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。	
授業の概要 ・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。	
内 容 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について① 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事 第4回 年齢別指導方法や保育技術① 第5回 年齢別指導方法や保育技術② 第6回 帳票類と保菌検査について 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際 第8回 実習簿の記入と記録の書き方	
履修上の注意点 ・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 小テスト ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 授業中発表等 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 白井 昌子	
テーマ 初めての保育所実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。	
授業の概要 ・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。	
内 容 第1回 保育実習 I-1の意義と目的 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について① 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事 第4回 年齢別指導方法や保育技術① 第5回 年齢別指導方法や保育技術② 第6回 帳票類と保菌検査について 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際 第8回 実習簿の記入と記録の書き方	
履修上の注意点 ・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0） 小テスト（0） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 &lt;j&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻 啓子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I - 1 の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で実践する体験をしておく。

内 容

- 第1回 保育実習 I - 1 の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能 保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の1日の流れや保育士の仕事
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術②
- 第6回 帳票類と保菌検査について
- 第7回 保育課程と指導計画・指導案作成の実際
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2015

ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 30% )

授業中発表等 ( 30% )

参加度 ( 40% )

授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。	
授業の到達目標 園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。	
授業の概要 保育所において実習を行う。	
準備学習(予習・復習) 体調管理、社会人としてのルールを守ること。	
内 容 第1回 実習の導入 第2回 観察実習 第3回 観察実習 第4回 観察実習 第5回 観察実習 第6回 観察実習 第7回 観察実習 第8回 観察実習 第9回 観察実習 第10回 観察実習 第11回 部分実習 第12回 部分実習 第13回 部分実習 第14回 責任実習 第15回 実習のまとめと反省	
履修上の注意点 原則として一日8時間、10日間の実習	
教科書 なし 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 100 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **保育実習 I - 1 <b>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期集中	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 太田 みつ枝		
テーマ		
子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。		
授業の到達目標		
園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。		
授業の概要		
保育所において実習を行う。		
準備学習(予習・復習)		
体調管理、社会人としてのルールを守ること。		
内 容		
第1回	実習の導入	
第2回	観察実習	
第3回	観察実習	
第4回	観察実習	
第5回	観察実習	
第6回	観察実習	
第7回	観察実習	
第8回	観察実習	
第9回	観察実習	
第10回	観察実習	
第11回	部分実習	
第12回	部分実習	
第13回	部分実習	
第14回	責任実習	
第15回	実習のまとめと反省	
履修上の注意点		
原則として一日8時間、10日間の実習		
教科書		
なし		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験・レポート ( )	小テスト ( )	
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )	
参加度 ( 100 )		

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中島 裕子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習(予習・復習)

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内 容

- 第1回 実習の導入
- 第2回 観察実習
- 第3回 観察実習
- 第4回 観察実習
- 第5回 観察実習
- 第6回 観察実習
- 第7回 観察実習
- 第8回 観察実習
- 第9回 観察実習
- 第10回 観察実習
- 第11回 部分実習
- 第12回 部分実習
- 第13回 部分実習
- 第14回 責任実習
- 第15回 実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 100 )



## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習(予習・復習)

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内 容

- 第1回 実習の導入
- 第2回 観察実習
- 第3回 観察実習
- 第4回 観察実習
- 第5回 観察実習
- 第6回 観察実習
- 第7回 観察実習
- 第8回 観察実習
- 第9回 観察実習
- 第10回 観察実習
- 第11回 部分実習
- 第12回 部分実習
- 第13回 部分実習
- 第14回 責任実習
- 第15回 実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 100 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;e&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習(予習・復習)

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内 容

- 第1回 実習の導入
- 第2回 観察実習
- 第3回 観察実習
- 第4回 観察実習
- 第5回 観察実習
- 第6回 観察実習
- 第7回 観察実習
- 第8回 観察実習
- 第9回 観察実習
- 第10回 観察実習
- 第11回 部分実習
- 第12回 部分実習
- 第13回 部分実習
- 第14回 責任実習
- 第15回 実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 100 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;f&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習(予習・復習)

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内 容

- 第1回 実習の導入
- 第2回 観察実習
- 第3回 観察実習
- 第4回 観察実習
- 第5回 観察実習
- 第6回 観察実習
- 第7回 観察実習
- 第8回 観察実習
- 第9回 観察実習
- 第10回 観察実習
- 第11回 部分実習
- 第12回 部分実習
- 第13回 部分実習
- 第14回 責任実習
- 第15回 実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 100 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 須藤 智代子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習(予習・復習)

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内 容

- 第1回 実習の導入
- 第2回 観察実習
- 第3回 観察実習
- 第4回 観察実習
- 第5回 観察実習
- 第6回 観察実習
- 第7回 観察実習
- 第8回 観察実習
- 第9回 観察実習
- 第10回 観察実習
- 第11回 部分実習
- 第12回 部分実習
- 第13回 部分実習
- 第14回 責任実習
- 第15回 実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 100 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;h&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 吉田 裕子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習(予習・復習)

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内 容

- 第1回 実習の導入
- 第2回 観察実習
- 第3回 観察実習
- 第4回 観察実習
- 第5回 観察実習
- 第6回 観察実習
- 第7回 観察実習
- 第8回 観察実習
- 第9回 観察実習
- 第10回 観察実習
- 第11回 部分実習
- 第12回 部分実習
- 第13回 部分実習
- 第14回 責任実習
- 第15回 実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 100 )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 白井 昌子	
テーマ 子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。	
授業の到達目標 園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。	
授業の概要 保育所において実習を行う。	
準備学習(予習・復習) 体調管理、社会人としてのルールを守ること。	
内 容 第1回 実習の導入 第2回 観察実習 第3回 観察実習 第4回 観察実習 第5回 観察実習 第6回 観察実習 第7回 観察実習 第8回 観察実習 第9回 観察実習 第10回 観察実習 第11回 部分実習 第12回 部分実習 第13回 部分実習 第14回 責任実習 第15回 実習のまとめと反省	
履修上の注意点 原則として一日8時間、10日間の実習	
教科書 なし 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 100 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 辻 啓子	
テーマ 子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。	
授業の到達目標 園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。	
授業の概要 保育所において実習を行う。	
準備学習(予習・復習) 体調管理、社会人としてのルールを守ること。	
内 容 第1回 実習の導入 第2回 観察実習 第3回 観察実習 第4回 観察実習 第5回 観察実習 第6回 観察実習 第7回 観察実習 第8回 観察実習 第9回 観察実習 第10回 観察実習 第11回 部分実習 第12回 部分実習 第13回 部分実習 第14回 責任実習 第15回 実習のまとめと反省	
履修上の注意点 原則として一日8時間、10日間の実習	
教科書 なし 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 100 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	



## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 裕子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山口 陽子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 須藤 智代子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 裕子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 白井 昌子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	



## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 辻 啓子	
テーマ 保育所実習の一層の充実のために	
授業の到達目標 教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得 幼⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成	
授業の概要 保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。	
内 容 第1回 保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育・保育要領も含む) 第2回 年齢別教材と保育技術、指導方法①・0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第3回 年齢別教材と保育技術、指導方法②・1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第4回 年齢別教材と保育技術、指導方法③・3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習 第5回 年齢別教材と保育技術、指導方法④・指導案作成 指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習 第6回 年齢別教材と保育技術、指導方法⑤・指導案作成 部分実習や責任実習を想定した指導案の作成 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。実習目標と課題を明確にする。 第8回 まとめ・自己課題を明確にする。	
履修上の注意点 欠席はその後の実習にも響くので注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2008 ISBN： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者： 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 2015 ISBN：	
参考書 授業の中で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（0%） 小テスト（0%） 授業中課題（30%） 授業中発表等（30%） 参加度（40%） 授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。	

## 2017 Syllabus

科目名 体育実技 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得	
授業の到達目標 ①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。	
授業の概要 陸上、バレーボール、バスケットボールなどを各種目の基礎技術を習得するとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。	
準備学習(予習・復習) 日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 体ほぐし、体カテスト 第3回 陸上運動① 第4回 陸上運動② 第5回 バレーボール① 第6回 バレーボール② 第7回 バレーボール③ 第8回 バレーボール④ 第9回 バレーボール⑤ 第10回 バスケットボール① 第11回 バスケットボール② 第12回 バスケットボール③ 第13回 バスケットボール④ 第14回 バスケットボール⑤ 第15回 まとめ	
履修上の注意点 ジャージやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。	
教科書	
参考書 基礎から身につく陸上競技 著者： 日本陸上競技連盟 出版社： 大修館書店 出版年： 2013 ISBN: 見てわかるバスケットボール 著者： 森村義和 出版社： 西東社 出版年： 2004 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 10 ) 授業中課題 ( 50 ) 授業中発表等 ( 10 ) 参加度 ( 30 ) 参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。	

## 2017 Syllabus

科目名 体育実技 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得	
授業の到達目標 ①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。	
授業の概要 陸上、バレーボール、バスケットボールなどを各種目の基礎技術を習得するとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。	
準備学習(予習・復習) 日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 体ほぐし、体カテスト 第3回 陸上運動① 第4回 陸上運動② 第5回 バレーボール① 第6回 バレーボール② 第7回 バレーボール③ 第8回 バレーボール④ 第9回 バレーボール⑤ 第10回 バスケットボール① 第11回 バスケットボール② 第12回 バスケットボール③ 第13回 バスケットボール④ 第14回 バスケットボール⑤ 第15回 まとめ	
履修上の注意点 ジャージやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。	
教科書	
参考書 基礎から身につく陸上競技 著者： 日本陸上競技連盟 出版社： 大修館書店 出版年： 2013 ISBN: 見てわかるバスケットボール 著者： 森村義和 出版社： 西東社 出版年： 2004 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 10 ) 授業中課題 ( 50 ) 授業中発表等 ( 10 ) 参加度 ( 30 ) 参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。	

## 2017 Syllabus

科目名 体育実技 &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得	
授業の到達目標 ①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。	
授業の概要 陸上、バレーボール、バスケットボールなどを各種目の基礎技術を習得するとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。	
準備学習(予習・復習) 日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 体ほぐし、体カテスト 第3回 陸上運動① 第4回 陸上運動② 第5回 バレーボール① 第6回 バレーボール② 第7回 バレーボール③ 第8回 バレーボール④ 第9回 バレーボール⑤ 第10回 バスケットボール① 第11回 バスケットボール② 第12回 バスケットボール③ 第13回 バスケットボール④ 第14回 バスケットボール⑤ 第15回 まとめ	
履修上の注意点 ジャージやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。	
教科書	
参考書 基礎から身につく陸上競技 著者： 日本陸上競技連盟 出版社： 大修館書店 出版年： 2013 ISBN: 見てわかるバスケットボール 著者： 森村義和 出版社： 西東社 出版年： 2004 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 10 ) 授業中課題 ( 50 ) 授業中発表等 ( 10 ) 参加度 ( 30 ) 参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。	

## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習入門 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論	
授業の到達目標 1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と音楽理論の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることににより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。音楽理論の講義内容を整理して、課題に取り組む。	
内 容 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12~15 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61 第7回 短音階、バイエルNo.65、67 第8回 移調、バイエルNo.72、73 第9回 和音、バイエルNo.73、75 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(30%) 授業中課題(0) 授業中発表等(50%)	



## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習入門 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論	
授業の到達目標 1)教育・保育に必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と音楽理論の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることに、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。音楽理論の講義内容を整理して、課題に取り組む。	
内 容 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12~15 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61 第7回 短音階、バイエルNo.65、67 第8回 移調、バイエルNo.72、73 第9回 和音、バイエルNo.73、75 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(30%) 授業中課題(0) 授業中発表等(50%)	





## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習入門 &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論	
授業の到達目標 1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と音楽理論の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることににより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。音楽理論の講義内容を整理して、課題に取り組む。	
内 容 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12~15 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61 第7回 短音階、バイエルNo.65、67 第8回 移調、バイエルNo.72、73 第9回 和音、バイエルNo.73、75 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(30%) 授業中課題(0) 授業中発表等(50%)	



## 2017 Syllabus

科目名 音楽演習入門 &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論	
授業の到達目標 1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と音楽理論の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3~4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることににより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。音楽理論の講義内容を整理して、課題に取り組む。	
内 容 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12~15 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61 第7回 短音階、バイエルNo.65、67 第8回 移調、バイエルNo.72、73 第9回 和音、バイエルNo.73、75 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(30%) 授業中課題(0) 授業中発表等(50%)	



## 2017 Syllabus

科目名 学校・地域調査(国内) I &lt;幼&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

施設の様子、子ども達の育ちを実感することを目的とする。

授業の到達目標

半期をとおして、子どもや保育者の生活に直接触れることにより、実際の現場の空気や子どもの成長の様子を感じ、施設等の機能や子ども理解を深めることを目的とする。

授業の概要

保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センター等でのボランティア等の活動を通して気づいた子どもや保育者(職員)の姿、施設の機能等について、グループワークや全体への発表により、理解を深める。

準備学習(予習・復習)

1週間に1回程度(1か月3回以上)、継続して保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センター等でボランティア等の活動を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、ボランティア施設の紹介等
- 第2回 ボランティア活動の計画表の作成、体験者の報告
- 第3回 施設の概要等の報告、ボランティア等の仕事内容についての意見交流
- 第4回 施設の雰囲気や子どもの様子についての意見交流
- 第5回 グループワーク:遊びの見守り等から気づいた事の意見交流
- 第6回 全体への発表、レポート作成
- 第7回 グループワーク:遊びの観察・参加・補助等から気づいた事の意見交流
- 第8回 振り返り:半期を通して、気づいたこと(どんなところに子どもの育ちの変化を感じたか、何故かを考えてみる)を整理する。実習に向けた思い(何を学びたいか)を考える。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 学校・地域調査(国内) I &lt;児A&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河内 晴彦	
テーマ 学校や地域の現実とこどもたちから学ぼう	
授業の到達目標 1,学校や地域での経験を報告にまとめ、発表する 2,報告からお互いに学び合う 3,こども理解をさらに深める	
授業の概要 学校や地域でのボランティア活動(フルドワーク)の経験を報告し、報告された内容について話し合う	
準備学習(予習・復習) 日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば、文献や実践に学ぶ。	
内 容 第1回 学習支援の内容と方法(算数・国語・体育・その他)を学ぶ 第2回 報告をもとに話し合う① 第3回 報告をもとに話し合う② 第4回 報告をもとに話し合う③ 第5回 報告をもとに話し合う④ 第6回 報告をもとに話し合う⑤ 第7回 集団による報告をもとに話し合う① 第8回 集団による報告をもとに話し合う②	
履修上の注意点 月に1回程度の授業となる。報告はもちろん、報告に対する話し合いに積極的に参加して欲しい。1回から4回で2回、5回から8回で2回、計4回以上欠席した者は単位の習得を認めない。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 学校ボランティアハンドブック 著者: 霜田浩信・会沢信彦・星野常夫 出版社: ほんの森出版 出版年: 2011年 ISBN:	
必ずクラスがまとまる教師の成功術 著者: 野中信行・横藤雅人 出版社: 学陽書房 出版年: 2011年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する。ほぼ月1回の授業となるので、出席の最低基準も設ける。	

## 2017 Syllabus

科目名 学校・地域調査(国内) I &lt;児B&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河内 晴彦	
テーマ 学校や地域の現実と子どもたちから学ぼう	
授業の到達目標 1,学校や地域での経験を報告にまとめ、発表する 2,報告からお互いに学び合う 3,子ども理解をさらに深める	
授業の概要 学校や地域でのボランティア活動(フルドワーク)の経験を報告し、報告された内容について話し合う	
準備学習(予習・復習) 日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば、文献や実践に学ぶ。	
内 容 第1回 学習支援の内容と方法(算数・国語・体育・その他)を学ぶ 第2回 報告をもとに話し合う① 第3回 報告をもとに話し合う② 第4回 報告をもとに話し合う③ 第5回 報告をもとに話し合う④ 第6回 報告をもとに話し合う⑤ 第7回 集団による報告をもとに話し合う① 第8回 集団による報告をもとに話し合う②	
履修上の注意点 月に1回程度の授業となる。報告はもちろん、報告に対する話し合いに積極的に参加して欲しい。1回から4回で2回、5回から8回で2回、計4回以上欠席した者は単位の習得を認めない。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 学校ボランティアハンドブック 著者: 霜田浩信・会沢信彦・星野常夫 出版社: ほんの森出版 出版年: 2011年 ISBN:	
必ずクラスがまとまる教師の成功術 著者: 野中信行・横藤雅人 出版社: 学陽書房 出版年: 2011年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (50) 参加度 (30) 報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する。ほぼ月1回の授業となるので、出席の最低基準も設ける。	

## 2017 Syllabus

科目名 学校・地域調査(国内) I &lt;児C&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 通年 定員

履修条件 クラス指定

担当者 河内 晴彦

テーマ

学校や地域の現実とこどもたちから学ぼう

授業の到達目標

1,学校や地域での経験を報告にまとめ、発表する 2,報告からお互いに学び合う 3,こども理解をさらに深める

授業の概要

学校や地域でのボランティア活動(フルドワーク)の経験を報告し、報告された内容について話し合う

準備学習(予習・復習)

日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば、文献や実践に学ぶ。

内 容

第1回 学習支援の内容と方法(算数・国語・体育・その他)を学ぶ

第2回 報告をもとに話し合う①

第3回 報告をもとに話し合う②

第4回 報告をもとに話し合う③

第5回 報告をもとに話し合う④

第6回 報告をもとに話し合う⑤

第7回 集団による報告をもとに話し合う①

第8回 集団による報告をもとに話し合う②

履修上の注意点

月に1回程度の授業となる。報告はもちろん、報告に対する話し合いに積極的に参加して欲しい。1回から4回で2回、5回から8回で2回、計4回以上欠席した者は単位の習得を認めない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

学校ボランティアハンドブック

著者: 霜田浩信・会沢信彦・星野常夫

出版社: ほんの森出版

出版年: 2011年

ISBN:

必ずクラスがまとまる教師の成功術

著者: 野中信行・横藤雅人

出版社: 学陽書房

出版年: 2011年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する。ほぼ月1回の授業となるので、出席の最低基準も設ける。



## 2017 Syllabus

科目名 学校・地域調査(国内)Ⅱ〈幼〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

学校・地域調査Iの学びを踏まえて、さらに施設の様子や子ども達の育ちを実感することを目的とする。

授業の到達目標

運動会や発表会などの行事を中心とした流れのなかに参加し、実際の現場の動きや子どもの成長の様子から、子ども理解を深める事を目的とする。

授業の概要

保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センターなどでのボランティアの活動を通して気づいた子どもや保育者(職員)の姿、施設の機能等について、グループワークや全体への発表により、理解を深める。

準備学習(予習・復習)

子どもの施設で実施されている季節の行事などについて、調べておく。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 計画表の作成、体験者の報告など

第3回 グループワーク:保育者等の仕事や子どもの様子についての意見交流

第4回 全体への発表、レポート作成

第5回 グループワーク:保育者等の仕事や子どもの様子についての意見交流

第6回 全体への発表、レポート作成

第7回 グループワーク:保育者等の仕事や子どもの様子についての意見交流

第8回 振り返り:行事の流れのなかに参加して、どんなところに子どもの育ちの変化を感じたのか、何故変化したのか等を考え、整理する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(30)

授業中発表等(30)

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育指導法Ⅰ〈幼A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)  
 第2回 自己の体力の理解と仲間づくりⅠ<集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン  
 第3回 自己の体力の理解と仲間づくりⅡ<集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び  
 第4回 手具を用いた運動Ⅰ<ボール>用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)  
 第5回 手具を用いた運動Ⅱ<縄>用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)  
 第6回 手具を用いた運動Ⅲ<輪>用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)  
 第7回 手具を用いた運動Ⅳ<棒>用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)  
 第8回 まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（40）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育指導法Ⅰ〈幼B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

どんな子どもに育てて欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育てて欲しいか考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)  
 第2回 自己の体力の理解と仲間づくりⅠ<集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン  
 第3回 自己の体力の理解と仲間づくりⅡ<集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び  
 第4回 手具を用いた運動Ⅰ<ボール>用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)  
 第5回 手具を用いた運動Ⅱ<縄>用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)  
 第6回 手具を用いた運動Ⅲ<輪>用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)  
 第7回 手具を用いた運動Ⅳ<棒>用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)  
 第8回 まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 40 )

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育指導法Ⅰ〈幼C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)  
 第2回 自己の体力の理解と仲間づくりⅠ<集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン  
 第3回 自己の体力の理解と仲間づくりⅡ<集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び  
 第4回 手具を用いた運動Ⅰ<ボール>用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)  
 第5回 手具を用いた運動Ⅱ<縄>用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)  
 第6回 手具を用いた運動Ⅲ<輪>用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)  
 第7回 手具を用いた運動Ⅳ<棒>用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)  
 第8回 まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（40）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育指導法Ⅰ〈児〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 新野 守

テーマ

運動遊びの達人！

授業の到達目標

どんな子どもに育てて欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

日常的に腕立て伏せ、腹筋などの体幹トレーニング等により自己の健康と体力向上に努める。また運動遊びと子どもの発達特性について自習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)  
 第2回 自己の体力の理解と仲間づくりⅠ<集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン  
 第3回 自己の体力の理解と仲間づくりⅡ<集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び  
 第4回 手具を用いた運動Ⅰ<ボール>手具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)  
 第5回 手具を用いた運動Ⅱ<縄>手具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)  
 第6回 手具を用いた運動Ⅲ<輪>手具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)  
 第7回 手具を用いた運動Ⅳ<棒>手具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)  
 第8回 まとめ

履修上の注意点

学校の指導者として相応しい運動服(スポーツウェアとシューズ)を着用すること。欠席は3回以内。出席君忘れは、2点減点。教育者としての自覚堅持。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

幼児期運動遊びの進め方

著者： 学校体育研究同志会

出版社： 創文企画

出版年： 2009

ISBN:

体育遊び

著者： 米谷光弘

出版社： ひかりのくに

出版年： 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

出席(12回以上)、技術、授業記録、レポート、意欲(教育者としての自覚)を評価の対象とする。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。



## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育指導法Ⅱ〈幼A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ<様々な鬼遊び①>(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ<様々な鬼遊び②>(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ<マット運動①>感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ<マット運動②>側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ<新聞紙>用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ<新聞紙>作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達の理解
- 第8回 まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（40）

参加度（40）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育指導法Ⅱ〈幼B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ<様々な鬼遊び①>(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ<様々な鬼遊び②>(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ<マット運動①>感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ<マット運動②>側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ<新聞紙>用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ<新聞紙>作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達の理解
- 第8回 まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（40）

参加度（40）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育指導法Ⅱ〈幼C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ<様々な鬼遊び①>(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ<様々な鬼遊び②>(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ<マット運動①>感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ<マット運動②>側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ<新聞紙>用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ<新聞紙>作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達の理解
- 第8回 まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

参考書

幼児のこころと運動

著者: 近藤充夫

出版社: 教育出版

出版年: 1995

ISBN:

乳幼児の体育あそび

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 草土文化

出版年: 1999

ISBN:

幼児体育の指導

著者: 学校体育研究同志会

出版社: ベースボール・マガジン社

出版年: 1974

ISBN:

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981

ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（40）

参加度（40）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 幼児体育指導法Ⅱ〈児〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 新野 守

テーマ

運動遊びの達人！

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

日常的に腕立て伏せ、腹筋などの体幹トレーニング等により自己の健康と体力向上に努める。また運動遊びと子どもの発達特性について自習すること。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ<様々な鬼遊び①>(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ<様々な鬼遊び②>(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ<マット運動①>感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ<マット運動②>側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ<新聞紙>用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ<新聞紙>作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達の理解
- 第8回 まとめとレポート作成

履修上の注意点

学校の指導者として相応しい運動服(スポーツウェアとシューズ)を着用すること。欠席は3回以内。出席君忘れは、2点減点。教育者としての自覚堅持。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

幼児期運動遊びの進め方

著者： 学校体育研究同志会

出版社： 創文企画

出版年： 2009

ISBN:

体育遊び

著者： 米谷光弘

出版社： ひかりのくに

出版年： 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

出席(12回以上)、技術、授業記録、レポート、意欲(教育者としての自覚)を評価の対象とする。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

## 2017 Syllabus

科目名 小学校ICT教育演習

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 三上 周治・池田 修

テーマ

視聴覚機器の歴史を踏まえ、学校教育におけるInformation and Communication Technology(ICT)の活用の意義、目的特徴を理解させる。

授業の到達目標

多機能情報端末(タブレット等)や電子黒板、書画カメラ等のICT機器、デジタル教科書や教育アプリケーションの活用について習熟し、その利点と問題点の理解する。

授業の概要

ICT機器(タブレット・電子黒板・書画カメラ等)、教育アプリ等の使用法を学び、その問題点と限界についても理解する。その上で、具体的な各教育場面(学習指導・学級指導等)での活用法を考えさせ、実際にプレゼンテーションをしたり、模擬授業をしたりさせる。

準備学習(予習・復習)

preziやSwayに付いて予習し、授業後には課題を受けて豊前を制作する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、ICTとは何か、ICTの役割について
- 第2回 我が国の教育情報化政策とICT活用実践事例考察、教材開発方法について
- 第3回 我が国の教育情報化政策、学校におけるICT活用実践事例の考察
- 第4回 学校におけるICT活用実践事例の考察②
- 第5回 ICT活用とアクティブ・ラーニング
- 第6回 電子黒板とタブレット端末の機能について(電子黒板の基本機能とタブレット端末の基本機能について、各自操作を行い習得する)
- 第7回 映像教材の作成方法について①(iMovieを使用する予定等)
- 第8回 映像教材の作成方法について②(i Padを使用した授業展開)
- 第9回 映像教材の作成方法について③(i Padを使用した授業展開)
- 第10回 パワーポイントによる教材制作演習(パワーポイントでのアニメーション、音声、写真・動画の使用法)
- 第11回 Prezi・Swayによる教材制作演習
- 第12回 ICTを活用する授業における評価方法
- 第13回 授業におけるICT活用の現状と問題点
- 第14回 教材発表と総括①・各自が開発したタブレット用教材を紹介し合い、相互評価を行う。・学校におけるICT活用に関するディスカッション
- 第15回 教材発表と総括②・これからの学校におけるICT活用の展望

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 10 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )



## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

小学校の学級経営および教科教育についての研究。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
- 第2回 保育・小学校現場における子どもと教師の関わり①
- 第3回 保育・小学校現場における子どもと教師の関わり②
- 第4回 基本文献の輪読と発表①
- 第5回 基本文献の輪読と発表②
- 第6回 基本文献の輪読と発表③
- 第7回 基本文献の輪読と発表④
- 第8回 基本文献の輪読と発表⑤
- 第9回 基本文献の輪読と発表⑥
- 第10回 基本文献の輪読と発表⑦
- 第11回 研究テーマ設定に向けての計画
- 第12回 関心を持つ分野および文献についての報告①
- 第13回 関心を持つ分野および文献についての報告②
- 第14回 関心を持つ分野および文献についての報告③
- 第15回 まとめ:夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\* b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 森 枝美

テーマ

戦後の教育実践についての基本文献を読むことを通して研究課題を見つける。

授業の到達目標

①基本文献の輪読やこれまでの学習を通して、自分の研究課題を見出す。②研究課題についての資料を収集し、理解を深める。

授業の概要

戦後の教育実践についての基本文献を輪読し、討議することを通して、自分の研究課題を見つける。

準備学習(予習・復習)

基本文献については、授業前に該当する箇所を読み予習しておく。ゼミの授業の中で疑問に思ったこと、よくわからなかったことについて調べ、理解を深められるようにする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 関心のある資料や文献を探す方法を知る
- 第3回 基本文献を読む①
- 第4回 基本文献を読む②
- 第5回 基本文献を読む③
- 第6回 基本文献を読む④
- 第7回 前半のまとめ 自分の研究課題について検討する
- 第8回 基本文献を読む⑤
- 第9回 基本文献を読む⑥
- 第10回 基本文献を読む⑦
- 第11回 基本文献を読む⑧
- 第12回 後半のまとめ 自分の研究課題について検討する
- 第13回 関心のある資料や文献を探す①
- 第14回 関心のある資料や文献を探す②
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。やむをえない事情で遅刻、欠席、早退をする場合は、必ず事前に連絡すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50% )

授業中発表等 ( 50% )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する。

授業の到達目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識を掘り起こし、研究活動の第一段階に入る。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各自の関心事に関する文献を読み進めておくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:表現と教育に関する学の研究領域、研究の方法論について  
 第2回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む①  
 第3回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む②  
 第4回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む③  
 第5回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む④  
 第6回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む⑤  
 第7回 学外活動:実践取材&調査と分析①  
 第8回 学外活動:実践取材&調査と分析②  
 第9回 個別発表と質疑・応答・討議①②  
 第10回 個別発表と質疑・応答・討議③④  
 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤⑥  
 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑦⑧  
 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑨⑩  
 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑪⑫  
 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑬⑭

履修上の注意点

○学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加を適宜、行うことがある ○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文(実績のある大学のそれらに関わる論文集)や実践報告を読む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

全回出席を前提とする。

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\*d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ	
子どもと音楽の関わりについて考える。	
授業の到達目標	
1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。	
授業の概要	
関心のある分野の基本文献を要約して発表し、問題点を取り上げて討論する。そのかたわら各自の研究テーマを設定し、研究方法について学んでいく。	
準備学習(予習・復習)	
予習:関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。復習:討論で得られた意見を参考にして、最終レポートに向けて文献をまとめる。	
内 容	
第1回 オリエンテーション:自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明	
第2回 保育や教育の場における子どもと音楽の関わり①	
第3回 保育や教育の場における子どもと音楽との関わり②	
第4回 基本文献についての発表①	
第5回 基本文献についての発表②	
第6回 基本文献についての発表③	
第7回 基本文献についての発表④	
第8回 基本文献についての発表⑤	
第9回 基本文献についての発表⑥	
第10回 基本文献についての発表⑦	
第11回 研究テーマ設定に向けての計画	
第12回 関心を持つ分野および文献についての報告①	
第13回 関心を持つ分野および文献についての報告②	
第14回 関心を持つ分野および文献についての報告③	
第15回 まとめ:夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席が必要。自主的な学習態度を重視する。なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施する。	
教科書	
授業中に指示する。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
必要に応じて紹介する。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (50%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 (30%)
参加度 (20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\*e&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 三上 周治

テーマ

小学校の学級経営および教科教育についての研究。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション: 自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
- 第2回 保育・小学校現場における子どもと教師の関わり①
- 第3回 保育・小学校現場における子どもと教師の関わり②
- 第4回 基本文献の輪読と発表①
- 第5回 基本文献の輪読と発表②
- 第6回 基本文献の輪読と発表③
- 第7回 基本文献の輪読と発表④
- 第8回 基本文献の輪読と発表⑤
- 第9回 基本文献の輪読と発表⑥
- 第10回 基本文献の輪読と発表⑦
- 第11回 研究テーマ設定に向けての計画
- 第12回 関心を持つ分野および文献についての報告①
- 第13回 関心を持つ分野および文献についての報告②
- 第14回 関心を持つ分野および文献についての報告③
- 第15回 まとめ: 夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt; \* f &gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

卒業論文制作にあたっての問題意識の探索と確立

授業の到達目標

・発達や保育等に関する文献の学習、発表を通じて、人間の活動の分析的な見方を学ぶ。同時に、論文、研究の見方、読み方、書き方のスタイルを学習する。・卒業論文に向けて各自の問題意識を発表し、課題を明らかにする

授業の概要

・子どもの発達や保育に関する文献を読み、発表する。・卒業論文のテーマについて、各自の問題意識を発表し、議論をしながら深めていく。

準備学習(予習・復習)

適時、各自の問題意識に関連した単行本や論文を探し、読んでください。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 子どもの発達や保育に関する研究①

第3回 子どもの発達や保育に関する研究②

第4回 子どもの発達や保育に関する研究③

第5回 子どもの発達や保育に関する研究④

第6回 子どもの発達や保育に関する研究⑤

第7回 子どもの発達や保育に関する研究⑥

第8回 子どもの発達や保育に関する研究⑦

第9回 卒業論文の問題意識の発表①

第10回 卒業論文の問題意識の発表②

第11回 卒業論文の問題意識の発表③

第12回 卒業論文の問題意識の発表④

第13回 卒業論文の問題意識の発表⑤

第14回 卒業論文の問題意識の発表⑥

第15回 卒業論文の問題意識の発表⑦

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\*g&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

子どもの発達や発達障害について学ぶ。

授業の到達目標

①子どもの発達や発達障害についての理解を深める。②興味のあるテーマをみつけ、そのテーマに関連した資料や文献をさがすことができる。③資料や文献を読み、その内容について発表する力を養う。

授業の概要

子どもの発達や発達障害に関する資料・文献をみつけ、その内容についてのレジュメを作成し発表する。そして集団で討議し理解を深める。

準備学習(予習・復習)

十分に準備して発表に臨んで下さい。

内 容

第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方)

第2回 関心のある資料や文献をさがす①

第3回 関心のある資料や文献をさがす②

第4回 資料や文献を読む①

第5回 資料や文献を読む②

第6回 発表の準備をする①

第7回 発表の準備をする②

第8回 発表と討論

第9回 発表と討論

第10回 発表と討論

第11回 発表と討論

第12回 発表と討論

第13回 発表と討論

第14回 発表と討論

第15回 全体のまとめと課題

履修上の注意点

主体的に授業に参加して下さい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜、指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50%)

参加度 ( 50%)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

卒業論文の主題を明確にすること。

授業の到達目標

1. 二年間取り組む研究課題を明確にすること。2. 先行研究を調べ、精読し、要約する。3. 論文執筆にかかわる注釈、引用などの決まりを守り、研究発表を行う。4. 問題意識を持ち、相互に意見交換を行う。

授業の概要

問題意識を明確にしていくために、論文のテーマとしようとしていることについて、これまでどのようなことが言われてきており、何が問題であると考えられてきたのかを、生活のレベルから学問のレベルまで調べる。学期の最後にはこれらのことを踏まえて、自分の論文について口頭による発表を行うことを課しこれを評価の対象とする。

準備学習(予習・復習)

各回の課題に丁寧に取り組むこと。また、提出の期限を守ること。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 ゼミ生同士の交流。
- 第3回 優れた論文から学ぶ① 論文の構造
- 第4回 優れた論文から学ぶ② 書き方の決まり
- 第5回 優れた論文から学ぶ③ 資料について
- 第6回 主題の設定にむけて① 事典から学ぶ
- 第7回 主題の設定にむけて② インターネットから情報を収集する
- 第8回 文献・資料収集① 図書館の本、雑誌から
- 第9回 文献・資料収集② 研究論文の検索から入手まで
- 第10回 文献・資料収集③ 資料の整理法
- 第11回 章構成を考える
- 第12回 発表準備 1
- 第13回 発表準備 2
- 第14回 発表準備 3
- 第15回 研究発表

履修上の注意点

遅刻欠席の場合は事前に連絡をすること。

教科書

参考書

ぎりぎり合格への論文マニュアル

著者: 山内史朗

出版社: 平凡社新書

出版年: 2007

ISBN:

入門論文の書き方

著者: 鷲田小彌太

出版社: PHP新書

出版年: 2001

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\*i&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

授業の到達目標

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

授業の概要

基本文献を読み、発表する。

準備学習(予習・復習)

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

内 容

- 第1回 研究方法について学ぶー1
- 第2回 研究方法について学ぶー2
- 第3回 基本文献1の講読の分担報告ー1
- 第4回 基本文献1の講読の分担報告ー2
- 第5回 基本文献1の講読の分担報告ー3
- 第6回 基本文献1の講読の分担報告ー4
- 第7回 質疑・応答・討議
- 第8回 基本文献2の講読の分担報告ー1
- 第9回 基本文献2の講読の分担報告ー2
- 第10回 基本文献2の講読の分担報告ー3
- 第11回 基本文献2の講読の分担報告ー4
- 第12回 質疑・応答・討議
- 第13回 基本文献3の講読の分担報告ー1
- 第14回 基本文献3の講読の分担報告ー2
- 第15回 基本文献3の講読の分担報告ー3

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献に学ぶ。国語科の学習材開発に取り組む。

授業の到達目標

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献、または幼児や児童のことばに関する認識を育てる保育実践や教育実践の記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。テーマにそって調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、問題意識を深める。また、国語科の学習材開発を行い、オリジナルの学習材開発に挑む。

授業の概要

幼児や児童ことばの形成にかかわる教育実践上の課題と、学級づくりに関する実践上の課題をつかむために、ことばの発達と教育に関する基本文献、学級づくりのための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。受講生の学ぼうとする領域の分布、または関心によって授業の進め方は調整することがある。また、学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある。

準備学習(予習・復習)

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践(『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。教育研究会に積極的に参加する。

内 容

- 第1回 国語科教育学、学校経営研究の研究対象と領域、研究の方法論について
- 第2回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む①
- 第3回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む②
- 第4回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む③
- 第5回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む④
- 第6回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む⑤、個別発表の計画づくり
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第12回 国語学習材の開発検討①
- 第13回 国語学習材の開発検討②
- 第14回 国語学習材の開発検討③
- 第15回 国語学習材の開発検討④

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

論理が伝わる 世界標準の「書く技術」

著者： 倉島保美

出版社： 講談社

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に指示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 50 )

a30103aa20

出席くと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習 I &lt;\*k&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 西村 徳寿	
テーマ	
幅広く教育のあり方について考える。	
授業の到達目標	
教育の内容、方法などについて自分の問題意識を醸成し、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。	
授業の概要	
基本文献を選び、それを巡って学生の発表をもとに話し合う。	
準備学習(予習・復習)	
文献をあらかじめ熟読する。学外授業等を行うことがある。自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。	
内 容	
第1回 問題意識の交流	
第2回 文献を読む①	
第3回 文献を読む②	
第4回 文献を読む③	
第5回 文献を読む④	
第6回 文献を読む⑤	
第7回 個別発表と質疑・応答・討議①	
第8回 個別発表と質疑・応答・討議②	
第9回 個別発表と質疑・応答・討議③	
第10回 個別発表と質疑・応答・討議④	
第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤	
第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥	
第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦	
第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
*ゼミは大学の基礎単位であり、特別な事情のない限り出席すること。*遅刻や欠席する場合は必ず担当者に連絡をすること。連絡が無い場合は欠席とみなします。	
教科書	
授業中に指示する	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
授業中に紹介する	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	
「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したものの。	

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

小学校の学級経営および教科教育にかんする研究。

授業の到達目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明  
 第2回 研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言  
 第3回 論文を読み解き、まとめる作業①  
 第4回 論文を読み解き、まとめる作業②  
 第5回 実習における学びの報告①  
 第6回 実習における学びの報告②  
 第7回 実習における学びの報告③  
 第8回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①  
 第9回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②  
 第10回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③  
 第11回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④  
 第12回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤  
 第13回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥  
 第14回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦  
 第15回 まとめ:1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 **教育演習Ⅱ <\*b>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森 枝美

テーマ

教育演習Ⅰをふまえて、卒業論文のテーマを絞り込む。

授業の到達目標

①教育演習Ⅰをふまえ、卒業論文の執筆に向けてテーマを絞り込む。②自らの研究テーマに関する論文、文献を収集し、読み進める。

授業の概要

卒業論文の執筆に向けて、テーマを絞り込む。絞り込んだテーマについて、資料を収集し、理解を深める。

準備学習(予習・復習)

関心があるテーマについて、資料を収集し、読み進めておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実習のふりかえり①
- 第3回 実習のふりかえり②
- 第4回 実習のふりかえり③
- 第5回 卒業論文のテーマを考える①
- 第6回 卒業論文のテーマを考える②
- 第7回 卒業論文のテーマに関わる論文・資料収集①
- 第8回 卒業論文のテーマに関わる論文・資料収集②
- 第9回 卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する①
- 第10回 卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する②
- 第11回 卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する③
- 第12回 卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する④
- 第13回 卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する⑤
- 第14回 卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する⑥
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。やむをえない事情で遅刻、欠席、早退をする場合は、必ず事前に連絡すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50% )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50% )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈\*c〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する。

授業の到達目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識による研究活動第二段階に入る。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

前期を通して明確になった問題意識に沿って積極的に文献を読破すること。同時に実践経験を通して思考することを学ぶこと。

内 容

- 第1回 前期以降の研究成果の交流、各自の研究計画発表
- 第2回 学外活動:実践調査
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

○学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加を適宜、行うことがある ○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文(実績のある大学のそれらに関わる論文集)や実践報告を読む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐野 仁美

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考察を深める。

授業の到達目標

1)文献を理解し、読み解く力をつける。2)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を理解する。

授業の概要

1)実習やボランティアにおける事例について報告し、そこから得られた知見をもとに子どもを取り巻く問題について話し合う。2)各自の研究テーマに関連する文献について発表し、問題点を討論する。

準備学習(予習・復習)

予習:各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。復習:討論で得られた意見をもとに自らの考察を加え、最終レポート作成へ向けて、文献をまとめ直す。

内 容

第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明

第2回 研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言

第3回 論文を読み解き、まとめる作業①

第4回 論文を読み解き、まとめる作業②

第5回 実習における学びの報告①

第6回 実習における学びの報告②

第7回 実習における学びの報告③

第8回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①

第9回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②

第10回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③

第11回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④

第12回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤

第13回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥

第14回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦

第15回 まとめ:1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。自主的な学習態度を重視する。なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施する。

教科書

授業時に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30%)

参加度 (20%)



## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈\*e〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 三上 周治

テーマ

小学校の学級経営および教科教育にかんする研究。

授業の到達目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明  
 第2回 研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言  
 第3回 論文を読み解き、まとめる作業①  
 第4回 論文を読み解き、まとめる作業②  
 第5回 実習における学びの報告①  
 第6回 実習における学びの報告②  
 第7回 実習における学びの報告③  
 第8回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①  
 第9回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②  
 第10回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③  
 第11回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④  
 第12回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤  
 第13回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥  
 第14回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦  
 第15回 まとめ:1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈\*f〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

卒業論文のテーマの深化

授業の到達目標

・卒業論文の問題意識について、焦点を絞り内容を深めること。・他のメンバーの問題意識や見解を聞き、議論することで、それが自身の研究にも生かせるよう相互交流を図ること。

授業の概要

教育演習Ⅰでの発表や議論、夏季休業中の作業を踏まえて、自身の問題意識や課題等について発表する。

準備学習(予習・復習)

各自のテーマに関連する単行本、論文の学習をしつつ、卒業論文の構想を考えてほしい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の問題意識の発表と議論①
- 第3回 卒業論文の問題意識の発表と議論②
- 第4回 卒業論文の問題意識の発表と議論③
- 第5回 卒業論文の問題意識の発表と議論④
- 第6回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑤
- 第7回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑥
- 第8回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑦
- 第9回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑧
- 第10回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑨
- 第11回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑩
- 第12回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑪
- 第13回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑫
- 第14回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑬
- 第15回 卒業論文の問題意識の発表と議論⑭

履修上の注意点

自身の課題に取り組むことはもちろん、他の人の研究についても、疑問やアイデア等を積極的に発言してくれることを期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ &lt;\*g&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 南 憲治	
テーマ 子どもの発達や発達障害について学ぶ。	
授業の到達目標 ①子どもの発達や発達障害についての理解を深める。②資料や文献を読み、その内容を発表する力を養う。③発表を聞き、討論する力を養う。	
授業の概要 教育演習Ⅰの成果の上に、関心のあるテーマをさらに絞り込み、絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがし、その内容について発表する。そして集団で討議し理解を深め、卒業論文につなげる。	
準備学習(予習・復習) 十分に準備して発表に臨んで下さい。	
内 容 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方) 第2回 テーマを絞る 第3回 絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがす① 第4回 絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがす② 第5回 資料や文献を読み、発表に備える① 第6回 資料や文献を読み、発表に備える② 第7回 資料や文献を読み、発表に備える③ 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 発表と討論 第13回 発表と討論 第14回 発表と討論 第15回 全体のまとめと課題	
履修上の注意点 主体的に授業に参加して下さい。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 適宜、指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 50% ) 参加度 ( 50% )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ &lt;\*h&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

卒業論文の序論の完成と本論執筆の開始

授業の到達目標

1. 先行研究から異なる二つの要素を取り出し、対比的に配置する。2. 1. に不足している観点や情報がないか、あるいはより増強すべき点はないかを考える。3. 研究発表を行い、相互に意見交換をする。

授業の概要

前半は先行研究を精読することから、自らの課題を明確にすることを目指す。中間発表を挟んで論文の見直しと論点の整理を行い、後半は先輩の卒業論文から学ぶ。

準備学習(予習・復習)

各回の課題に丁寧に取り組むこと。また、提出の期限を守ること。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 先行研究の批判的検討 1
- 第3回 先行研究の批判的検討 2
- 第4回 先行研究の批判的検討 3
- 第5回 先行研究の批判的検討 4
- 第6回 先行研究の批判的検討 5
- 第7回 中間発表 1
- 第8回 中間発表 2
- 第9回 序論の執筆 1
- 第10回 序論の執筆 2
- 第11回 序論の執筆 3
- 第12回 先輩の卒業論文を読む 1
- 第13回 先輩の卒業論文を読む 2
- 第14回 研究発表 1
- 第15回 研究発表 2

履修上の注意点

遅刻欠席の場合は事前に連絡をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 (40%)  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 (60%)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈\*i〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

授業の到達目標

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

内 容

- 第1回 各自の課題の検討
- 第2回 基本文献1の講読の分担報告-1
- 第3回 基本文献1の講読の分担報告-2
- 第4回 基本文献1の講読の分担報告-3
- 第5回 基本文献1の講読の分担報告-4
- 第6回 質疑・応答・討議
- 第7回 基本文献2の講読の分担報告-1
- 第8回 基本文献2の講読の分担報告-2
- 第9回 基本文献2の講読の分担報告-3
- 第10回 基本文献2の講読の分担報告-4
- 第11回 質疑・応答・討議
- 第12回 基本文献3の講読の分担報告-1
- 第13回 基本文献3の講読の分担報告-2
- 第14回 基本文献3の講読の分担報告-3
- 第15回 基本文献3の講読の分担報告-4

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 (0)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する理論と実践に学ぶ。卒業論文のテーマ決定。

授業の到達目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

授業の概要

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

準備学習(予習・復習)

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践(『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。教育研究会に積極的に参加する。

内 容

第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり。

第2回 個別発表と質疑・応答・討議①

第3回 個別発表と質疑・応答・討議②

第4回 個別発表と質疑・応答・討議③

第5回 個別発表と質疑・応答・討議④

第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤

第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥

第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦

第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧

第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨

第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩

第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪

第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫

第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬

第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 50 )

出席くと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ &lt;\*k&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 西村 徳寿	
テーマ 幅広く教育のあり方について考える。	
授業の到達目標 教育の内容、方法などについて自分の問題意識を醸成し、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。	
授業の概要 基本文献を選び、それを巡って学生の発表をもとに話し合う。	
準備学習(予習・復習) 文献をあらかじめ熟読する。学外授業等を行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。	
内 容 第1回 文献を読む① 第2回 文献を読む② 第3回 文献を読む③ 第4回 文献を読む④ 第5回 文献を読む⑤ 第6回 個別発表と質疑・応答・討議① 第7回 個別発表と質疑・応答・討議② 第8回 個別発表と質疑・応答・討議③ 第9回 個別発表と質疑・応答・討議④ 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑤ 第11回 学外施設の見学 第12回 学外施設を見学しての意見交流 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑥ 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑦ 第15回 まとめ	
履修上の注意点 *ゼミは大学の基礎単位であり、特別な事情のない限り出席すること。*遅刻や欠席する場合は必ず担当者に連絡をすること。連絡が無い場合は欠席とみなします。	
教科書 授業中に指示する 著者： 出版社： 出版年： ISBN： 参考書 授業中に紹介する 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 50 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( 20 ) 「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 人間発達学入門

クラス	配当回生 学部3回生
-----	------------

講義期間 前期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	池田 修・青木 美智子・浅井 雅志・アングス, ノーマン・弥永 啓子・大久保 恭子・北林 利治・倉持 祐二・佐野 仁美・長橋 聡・三上 周治・南 憲治・森本 美絵
-----	---

## テーマ

「人間発達」について考察するために「言語と人間」を多角的に考察する。

## 授業の到達目標

・言葉の面白さに気がつく・言葉の機能について理解を深める・「人間発達」にとっての言葉の意味を確認する

## 授業の概要

言語と人間について何らかの形で研究している人間発達学部両学科の教員の、リレー講義として運営する。通常火曜日に行われるが、第七回は5月27日(土)3限に、第14回は7月15日(土)3限に実施する予定である。

## 準備学習(予習・復習)

各回のテーマを見て、そのテーマから思いつく疑問を一つメモして授業に臨む。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション / 日本語の魅力 1
- 第2回 日本語の魅力 2
- 第3回 幼児とことば
- 第4回 外言と内言
- 第5回 科学とことば
- 第6回 脳と言語
- 第7回 音楽とことば
- 第8回 美術とことば
- 第9回 ケアとことば
- 第10回 死滅する言語
- 第11回 多言語主義
- 第12回 英語公用化論
- 第13回 第二言語習得
- 第14回 子どもの社会認識とことば
- 第15回 まとめ 課題の回収

## 履修上の注意点

出席くんでの確認を出席確認の基本とする。授業中に個別に指示がある場合は、それに従う。

## 教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

評価は、出席およびレポートとする。レポートは第1回から第14回の講義のうちから一つを選択して執筆する。レポートの評価者は講義を行った各教員が行うものとする。なお、レポート未提出者は評価の対象にならない。





## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)	
第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)	
第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)	
第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり	
第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表	
第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
幼稚園教育要領解説	
著者: 文部科学省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成20年	ISBN:
参考書	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	
著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成27年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)	
第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)	
第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)	
第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり	
第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表	
第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
幼稚園教育要領解説	
著者: 文部科学省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成20年	ISBN:
参考書	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	
著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成27年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 中島 裕子	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)	
第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)	
第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)	
第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり	
第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表	
第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
幼稚園教育要領解説	
著者: 文部科学省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成20年	ISBN:
参考書	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	
著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成27年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成27年

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)	
第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)	
第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)	
第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり	
第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表	
第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
幼稚園教育要領解説	
著者: 文部科学省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成20年	ISBN:
参考書	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	
著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成27年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 山口 陽子	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)	
第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)	
第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)	
第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり	
第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表	
第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
幼稚園教育要領解説	
著者: 文部科学省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成20年	ISBN:
参考書	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	
著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成27年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 須藤 智代子	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)	
第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)	
第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)	
第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり	
第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表	
第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
幼稚園教育要領解説	
著者: 文部科学省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成20年	ISBN:
参考書	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	
著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成27年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	



## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 吉田 裕子	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)	
第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)	
第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)	
第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり	
第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表	
第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
幼稚園教育要領解説	
著者: 文部科学省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成20年	ISBN:
参考書	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	
著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成27年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 白井 昌子	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)	
第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)	
第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)	
第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)	
第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり	
第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表	
第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
幼稚園教育要領解説	
著者: 文部科学省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成20年	ISBN:
参考書	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	
著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省	
出版社: フレーベル館	
出版年: 平成27年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) &lt;j&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 辻 啓子

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者: 内閣府・文部科学省・厚生労働省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成27年

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習指導(小学校)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習(教育実習 事前事後指導)

授業の到達目標

小学校実習の事前・本実習・事後の過程がイメージできるように、小学校教育の全体像への理解や指導者としての心得を身につける。そして、現場での実習を行い、教師への志を確かなものにする。

授業の概要

【事前指導】教職課程に関わる総論的なガイダンス、教育実習の意義と心得、準備の仕方、実習校の服務規律などについて講義する。外部講師を招くこともある。授業スケジュールについては、教務課の掲示板に掲示するので、見落としがないように注意すること。【事後指導】教育実習の終了後に、実習簿・実習校評価票・実習レポートをもとに個別指導を行う。さらに、次年度実習生の2回生との合同の教育実習反省会を実施し、実習生の教育実習報告及び質疑応答を行う。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 教育実習で何を学ぶのか
- 第2回 教師の仕事
- 第3回 学校の役割
- 第4回 授業実習の基礎・基本
- 第5回 現代子ども理解の基礎・基本
- 第6回 教育実習 直前ガイダンス
- 第7回 教育実習のふりかえり
- 第8回 育実習反省会(児童教育コース2回生と合同)

履修上の注意

この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ	これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。
授業の到達目標	担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。
授業の概要	「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)</p> <p>第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)</p> <p>第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)</p> <p>第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)</p> <p>第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携</p> <p>第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求</p> <p>第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)</p> <p>第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)</p> <p>第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)</p> <p>第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)</p> <p>第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)</p> <p>第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)</p> <p>第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)</p> <p>第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)</p> <p>第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)</p> <p>第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)</p> <p>第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)</p>
履修上の注意点	1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ	
これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。	
授業の到達目標	
担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
第2回	子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
第3回	幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
第4回	幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
第5回	家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回	家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第8回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第9回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第10回	部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
第11回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第12回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第13回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第14回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
第15回	部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
第16回	責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
第17回	責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
第18回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 裕子	
テーマ	
これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。	
授業の到達目標	
担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
第2回	子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
第3回	幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
第4回	幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
第5回	家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回	家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第8回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第9回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第10回	部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
第11回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第12回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第13回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第14回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
第15回	部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
第16回	責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
第17回	責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
第18回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;d&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	
テーマ	
これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。	
授業の到達目標	
担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
第2回	子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
第3回	幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
第4回	幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
第5回	家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回	家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第8回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第9回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第10回	部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
第11回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第12回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第13回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第14回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
第15回	部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
第16回	責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
第17回	責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
第18回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;f&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 須藤 智代子	
テーマ	これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。
授業の到達目標	担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。
授業の概要	「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)</p> <p>第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)</p> <p>第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)</p> <p>第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)</p> <p>第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携</p> <p>第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求</p> <p>第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)</p> <p>第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)</p> <p>第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)</p> <p>第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)</p> <p>第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)</p> <p>第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)</p> <p>第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)</p> <p>第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)</p> <p>第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)</p> <p>第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)</p> <p>第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)</p>
履修上の注意点	1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 裕子.mitei	
テーマ	
これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。	
授業の到達目標	
担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
第2回	子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
第3回	幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
第4回	幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
第5回	家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回	家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第8回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第9回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第10回	部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
第11回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第12回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第13回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第14回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
第15回	部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
第16回	責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
第17回	責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
第18回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 白井 昌子	
テーマ	
これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。	
授業の到達目標	
担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
第2回	子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
第3回	幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
第4回	幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
第5回	家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回	家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第8回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第9回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第10回	部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
第11回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第12回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第13回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第14回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
第15回	部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
第16回	責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
第17回	責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
第18回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 辻 啓子	
テーマ	
これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。	
授業の到達目標	
担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
第2回	子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
第3回	幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
第4回	幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
第5回	家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回	家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第8回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第9回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第10回	部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
第11回	参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第12回	参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の 仕事に積極的に従事する)
第13回	部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第14回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
第15回	部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
第16回	責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
第17回	責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
第18回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)
履修上の注意点	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(小学校)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ○第1週・学級担任の児童に対する願いをつかむ。・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第2回 ○第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・児童相互の関係に目をむける。
- 第3回 ○第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。
- 第4回 ○第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 特別支援教育論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 森下 勇

## テーマ

障害のある子ども、発達に課題がある子どもに関する基礎的知識・理解とその教育のあり方

## 授業の到達目標

1. 子ども理解の基本的視点がわかる。2. 発達障害の子ども理解と指導がわかる。3. 障害児のライフサイクルー特に初期の一課題がわかる。4. 日本の障害児教育の歴史と今日的課題がわかる。5. 障害児、発達に課題がある子どもに関わる教師のあり方、役割についての考察が深まる。

## 授業の概要

今日、障害のある子どもや発達的に課題を有する子どもは特別支援学校、特別支援学級、そして、通常学級にも在籍している。その教育は「特別支援教育」としてとりまかれており、指導内容、指導方法などが主に議論されることが多い。本講義においては、そうした具体的な論点を検討する上での前提となる、子ども理解のあり方、その形成の歴史的経過など、より基本的な課題を理解すること、加えて、周辺領域とも関連しながら「障害児・者問題」の入門的理解を図りながら、障害児教育、特別支援教育のあり方を学んでいきたい。さらに、通常学級で出会うであろう発達障害の子どもたちの姿やその指導の概要についても学びたい。資料なども用い、主として講義形式でおこなう。

## 準備学習(予習・復習)

講義を通して関心をもった事項について、参考文献などを積極的に読み、障害児教育についての知識と理解を自主的に深めること、障害児・者問題について関心をもつことを日常的に心がけること。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション:①障害児教育をめぐる動向、特別支援教育とは ②科目の目標、すすめ方、留意事項の確認
- 第2回 特別支援教育の現状と課題①:実践現場の状況
- 第3回 特別支援教育の現状と課題②:子ども理解と指導
- 第4回 特別支援教育の現状と課題③:考えるべき課題
- 第5回 特別支援教育の制度と実態:特別支援学校、特別支援学級、通級指導、通常学級
- 第6回 障害児教育の歴史①:戦後～養護学校完全義務制実施
- 第7回 障害児教育の歴史②:養護学校完全義務制実施～特別支援教育
- 第8回 障害構造論と知的発達障害の理解と指導
- 第9回 発達障害の理解と指導①ADHD、LDなど
- 第10回 発達障害の理解と指導②自閉症スペクトラム障害
- 第11回 ライフサイクルにおける課題①障害の発見
- 第12回 ライフサイクルにおける課題②障害の受容
- 第13回 子ども理解の基本的視点①:(障害)
- 第14回 子ども理解の基本的視点②:(発達)
- 第15回 子ども理解の基本的視点③:(生活)&講義全体のまとめ

## 履修上の注意点

「授業計画」について、実習との関連などで一部内容、および前後を変更する場合があります。他科目受講と同様のマナーを守ることは当然です。質問などがあれば、ペーパーなども活用しながら積極的に出してください。小レポートを数回、小テスト(最低1回)を課します。講義内容を補足する意味で、興味、関心をもった関連事項を自主的かつ積極的に学習することを求めます。実習などで欠席の場合、後日、欠席時の講義日を自己申告し、講義レジュメを必ず受理すること。

## 教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

障害児と教育

著者: 茂木俊彦

出版社: 岩波新書

出版年: 1990

ISBN: 4-00-430131-9



## 障害児教育を考える

著者： 茂木俊彦

出版社： 岩波新書

出版年： 2007

ISBN： 4-00-431110-2

## キーワードブック 特別支援教育

著者： 玉村公二彦他編

出版社： クリエイツかもがわ

出版年： 2015

ISBN：

## 糸賀一雄

著者： 復刊 この子らを世の光に

出版社： NHK出版

出版年： 2003

ISBN： 14-080836-5

## 発達保障ってなに？

著者： 丸山啓史・河合隆平・品川文雄

出版社： 全障研出版部.

出版年： 2012

ISBN： 4-88134-085-1

## 糸賀一雄

著者： 福祉の思想

出版社： 日本放送出版協会

出版年： 1968

ISBN： 14-001067-3

## 障害児教育学の現状・課題・将来

著者： 藤本文朗・小川克正共編

出版社： 培風館

出版年： 2006

ISBN： 563-05771-1

## 障害児教育の歴史

著者： 中村満紀男・荒川智編

出版社： 明石書店

出版年： 2003

ISBN： 7503-1801-9

## 成績評価

試験・レポート（50(レポート実施)）

小テスト（20）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

レポートはA4横書き、1000字程度、自筆にて作成し、授業最終日に必ず提出すること。レポートテーマは12回目あるいは13回目講義時に提起する。「小テスト」：最低1回は実施予定(前週に予告する)。実習などで受講できない部分の内容も含むことがあるが、欠席分の講義レジュメを必ず受理し、学んでおくこと。「参加度」：出席回数(最低限2/3以上の出席必須)、小レポート提出状況、受講態度全般(質問なども含む)。

## 2017 Syllabus

科目名 表現教育論

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

芸術教育のありかたを分析して、子どもの発達との関わりを理解し教育現場における芸術教育のあるべき姿を考える。

授業の到達目標

1) 芸術教育の分析を通してその問題点を理解する。2) 芸術教育が教育現場においていかなる意味を持ちうるかを考察する。  
3) 芸術教育と子どもの発達との関係を考える。4) 殊に芸術鑑賞に焦点を絞って鑑賞の具体的な方法を考える。

授業の概要

芸術教育についての理論書を講読し分析する。講読は輪読の形式をとり他の学生の理解も知りつつ、自らの理解を確かなものにする。それを踏まえて芸術鑑賞の具体的な方法を呈示する。

準備学習(予習・復習)

1) 展覧会・演奏会なども含めて芸術鑑賞の機会を意識して持つこと。2) 受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 芸術教育学に関するテキスト講読①
- 第3回 芸術教育学に関するテキスト講読②
- 第4回 芸術教育学に関するテキスト講読③
- 第5回 芸術教育学に関するテキスト講読④
- 第6回 芸術教育をめぐる討論①
- 第7回 芸術教育をめぐる討論②
- 第8回 芸術鑑賞企画①
- 第9回 芸術鑑賞企画②
- 第10回 芸術鑑賞企画③
- 第11回 鑑賞企画実践・発表①
- 第12回 鑑賞企画実践・発表②
- 第13回 鑑賞企画実践・発表③
- 第14回 鑑賞企画実践・発表④
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない(適宜配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

## 科目名 総合学習論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 足立 登志也	
テーマ	
総合的な学習の時間の意義や本質, 指導内容に関する知識, 技能の総合的な習得をはかる。	
授業の到達目標	
1. 総合的な学習の時間が生まれた社会的・教育的背景を理解する。2. 総合的な学習の時間の意義や本質を理解し, 説明できるようにする。3. 総合的な学習の時間の授業を体験することを通して, 知識や技能を習得する。	
授業の概要	
総合的な学習の時間は, 子どもの意欲と主体的な活動が核となる学びの時間である。本授業でも, ただ講義を聞くという受動的な形ではなく, 学生同士の小グループでのディスカッション, 発表, 活動等を中心に行う。	
準備学習(予習・復習)	
現在, 社会で起こっている様々な事象や問題に関心を持ち, 自ら進んで新聞・書籍等のメディアに目を通すようにする。また小学校教員として必要な様々な分野での豊富な知識をつけておくこと。	
内 容	
第1回	オリエンテーション: 今後の授業の内容と進め方, ディスカッションのためのツールと練習 ~自分が体験してきた総合的な学習の時間~
第2回	小学校学習指導要領の変遷と総合的な学習の時間の誕生
第3回	新小学校学習指導要領改訂における総合的な学習の時間の位置付けと使命
第4回	総合的な学習の時間の目標と内容1
第5回	総合的な学習の時間の目標と内容2
第6回	生活科と総合的な学習の時間のつながり ~幼小連携教育・小中連携教育~
第7回	総合的な学習の時間の評価
第8回	課題別研究(1)オリエンテーションとテーマづくり
第9回	課題別研究(2)単元および授業づくり(グループ活動1)
第10回	課題別研究(3)単元および授業づくり(グループ活動2)
第11回	課題別研究(4)単元および授業づくり(グループ活動3)
第12回	課題別研究(5)単元および授業の発表会1
第13回	課題別研究(6)単元および授業の発表会2
第14回	課題別研究(7)単元および授業の発表会3
第15回	まとめ
履修上の注意点	
「学ぶ」という素直な心と積極的な態度を学生諸君に望みたい。特にグループディスカッションでは積極的な姿勢で参加する等, 将来, 児童の前に立つ者としての自覚を持って授業に臨むこと。また, 授業の際には, 各自が付箋(できれば75×50mm程度のもの)を持参すること。シラバスは, 授業の進捗状況等によって変更する場合がある。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (20)	小テスト (0)
授業中課題 (30)	授業中発表等 (20)
参加度 (30)	
授業態度, 毎時間の授業の振り返り, 最終レポート, 出席状況等により総合評価を行う。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 家庭支援論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 古橋 紗人子	
テーマ	
保育所・子育て支援活動の現状を中心に、子どもや親・家庭への支援を考える。	
授業の到達目標	
1. 家庭の意義とその機能について理解する。2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。3. 子育て家庭の支援体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。	
授業の概要	
保育所や子育て支援事業等における、利用者の主体性や自助をより尊重した「家庭支援論」の理解について、テキストを中心に参考書(絵本・小説・保育月刊誌)や、事例を紹介しながら授業をすすめます。講義の他に家庭支援の視点から「連絡帳」や「指導計画」の書き方の実際についても学ぶ授業を目指します。	
準備学習(予習・復習)	
①参考書を読む。 ②保育所・子育て支援事業・児童館などで自主実習させていただき実践力をつける。	
内 容	
第1回	オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方 「援助」と「支援」という言葉について
第2回	1. 家庭支援の意義と役割 (1)家庭の意義と機能 子どもの成長・発達と家庭
第3回	1. 家庭支援の意義と役割 (2)家庭支援の必要性 子どもの成長と親の成長 個別指導計画—保護者支援
第4回	1. 家庭支援の意義と役割 (3)保育士等が行う家庭支援の原理 小テスト
第5回	2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (1)現代の家庭における人間関係 連絡帳の書き方
第6回	2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (2)地域社会の変容と家庭支援
第7回	2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (3)男女共同参画社会とワークライフバランス 小テスト
第8回	3. 子育て家庭の支援体制 (1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第9回	3. 子育て家庭の支援体制 (2)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 小テスト
第10回	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1)子育て支援サービスの概要
第11回	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2)保育所入所児童の家庭への支援 リーフレット作成
第12回	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3)地域の子育て家庭への支援
第13回	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (4)養護児童及びその家庭に対する支援
第14回	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (5)子育て支援における関係機関との連携
第15回	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (6)子育て支援サービスの課題 小テスト
履修上の注意点	
教科書	
家族援助論	
著者:	野澤正子・森本美絵
出版社:	ミネルヴァ書房
出版年:	2008
ISBN:	
参考書	
こどもへのまなざし 完	
著者:	佐々木正美
出版社:	福音館書店
出版年:	2010
ISBN:	
赤ちゃんから学ぶ「乳児保育の実践力」—保育所・家庭で役立つ	
著者:	川原佐公・古橋紗人子
出版社:	保育出版社
出版年:	2010
ISBN:	
わたし	
著者:	谷川俊太郎・文 長新太・絵
出版社:	福音館書店
出版年:	1981
ISBN:	

まいごになったぞう

著者： 寺村輝夫・文 上村勉・絵

出版社： 偕成社

出版年： 1989

ISBN:

ねんねん ねこねこ

著者： ながのひでこ

出版社： アリス館

出版年： 1996

ISBN:

月刊 保育とカリキュラム

著者：

出版社： ひかりのくに株式会社

出版年： 2017

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（なし）

小テスト（60）

授業中課題（30）

授業中発表等（0）

参加度（10）

---

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 裕子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )



## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山口 陽子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 須藤 智代子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 裕子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 白井 昌子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 辻 啓子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。	
準備学習(予習・復習) ・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成 第2回 帳票類と保菌検査等の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分の実習予定施設の特徴や役割の調査 第5回 生活支援の意味と内容の理解・演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション 第6回 実習目標と課題の設定…意見交換 第7回 実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習 直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ・自己評価・意見交換・レポート作成	オリエンテーション
履修上の注意点 授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 30% ) 参加度 ( 40% ) 授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。	小テスト ( 0 ) 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ	
現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ	
授業の到達目標	
居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。	
授業の概要	
居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。	
準備学習(予習・復習)	
実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。	
内 容	
第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	



## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅰ-2&lt;b&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 太田 みつ枝

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅰ－2&lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中島 裕子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅰ－2 &lt;e&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅰ－2〈f〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 須藤 智代子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 &lt;h&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵・吉田 裕子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅰ－2&lt;ⅰ&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 白井 昌子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%



## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅰ－2〈J〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻 啓子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ	これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-
授業の到達目標	子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。
授業の概要	この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。
準備学習(予習・復習)	1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。
内 容	<p>第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する)</p> <p>第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)</p> <p>第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)</p> <p>第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける)</p> <p>第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第8回 部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第9回 部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)</p> <p>第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)</p> <p>第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)</p> <p>第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)</p> <p>第15回 責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)</p>
履修上の注意点	健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。
教科書	平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本> 著者: 文部科学省、厚生労働省 出版社: チルド社 出版年: 2008年 ISBN: 参考書
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育実習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ	
これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-	
授業の到達目標	
子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それとともに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。	
準備学習(予習・復習)	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
内 容	
第1回	(学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する)
第2回	参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第3回	参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第4回	参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける)
第5回	部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う)
第6回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第7回	部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第8回	部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第9回	部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
第10回	責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
第11回	責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
第12回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
第13回	責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
第14回	責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
第15回	責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
履修上の注意点	
健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。	
教科書	
平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>	
著者: 文部科学省、厚生労働省	
出版社: チルド社	
出版年: 2008年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 (30)
参加度 (40)	
学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 中島 裕子	
テーマ	
これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまづきや失敗を今後の保育実践の糧に-	
授業の到達目標	
子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それとともに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。	
準備学習(予習・復習)	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
内 容	
第1回	(学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する)
第2回	参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第3回	参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第4回	参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける)
第5回	部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う)
第6回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第7回	部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第8回	部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第9回	部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
第10回	責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
第11回	責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
第12回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
第13回	責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
第14回	責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
第15回	責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
履修上の注意点	
健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。	
教科書	
平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>	
著者: 文部科学省、厚生労働省	
出版社: チルド社	
出版年: 2008年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 (30)
参加度 (40)	
学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	
テーマ	これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-
授業の到達目標	子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。
授業の概要	この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。
準備学習(予習・復習)	1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。
内 容	第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
履修上の注意点	健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。
教科書	平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本> 著者: 文部科学省、厚生労働省 出版社: チルド社 出版年: 2008年 ISBN: 参考書
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( 40 ) 学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育実習Ⅱ &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	
テーマ	これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-
授業の到達目標	子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。
授業の概要	この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。
準備学習(予習・復習)	1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。
内 容	<p>第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する)</p> <p>第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)</p> <p>第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)</p> <p>第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける)</p> <p>第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第8回 部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第9回 部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)</p> <p>第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)</p> <p>第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)</p> <p>第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)</p> <p>第15回 責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)</p>
履修上の注意点	健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。
教科書	平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本> 著者: 文部科学省、厚生労働省 出版社: チルド社 出版年: 2008年 ISBN: 参考書
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育実習Ⅱ〈F〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 山口 陽子	
テーマ	
これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-	
授業の到達目標	
子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それとともに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。	
準備学習(予習・復習)	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
内 容	
第1回	(学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する)
第2回	参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第3回	参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第4回	参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける)
第5回	部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う)
第6回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第7回	部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第8回	部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第9回	部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
第10回	責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
第11回	責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
第12回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
第13回	責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
第14回	責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
第15回	責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
履修上の注意点	
健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。	
教科書	
平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉	
著者： 文部科学省、厚生労働省	
出版社： チルド社	
出版年： 2008年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	
学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育実習Ⅱ &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 須藤 智代子	

## テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-

## 授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

## 授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

## 準備学習(予習・復習)

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

## 内 容

- 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する)
- 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける)
- 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う)
- 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
- 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
- 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
- 第9回 部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
- 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
- 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
- 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
- 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

## 履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

## 教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。



## 2017 Syllabus

## 科目名 保育実習Ⅱ &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 口野 隆史・吉田 裕子	
テーマ これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-	
授業の到達目標 子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。	
授業の概要 この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。	
準備学習(予習・復習) 1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
内 容 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)	
履修上の注意点 健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。	
教科書 平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本> 著者: 文部科学省、厚生労働省 出版社: チルド社 出版年: 2008年 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育実習Ⅱ &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 白井 昌子	
テーマ	これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-
授業の到達目標	子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。
授業の概要	この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。
準備学習(予習・復習)	1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。
内 容	<p>第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する)</p> <p>第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)</p> <p>第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)</p> <p>第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける)</p> <p>第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第8回 部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)</p> <p>第9回 部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)</p> <p>第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)</p> <p>第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)</p> <p>第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)</p> <p>第15回 責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)</p>
履修上の注意点	健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。
教科書	平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本> 著者: 文部科学省、厚生労働省 出版社: チルド社 出版年: 2008年 ISBN:
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( 40 )
	学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育実習Ⅱ &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 辻 啓子	
テーマ	
これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 -実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に-	
授業の到達目標	
子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。	
準備学習(予習・復習)	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
内 容	
第1回	(学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおおよそ以下のような内容となる) 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する)
第2回	参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第3回	参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第4回	参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける)
第5回	部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う)
第6回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第7回	部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第8回	部分指導実習④(指導案を作成し短時間の指導・援助を行う)
第9回	部分指導実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
第10回	責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
第11回	責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
第12回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
第13回	責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
第14回	責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
第15回	責任実習及び全実習の振り返り(配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
履修上の注意点	
健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。	
教科書	
平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>	
著者: 文部科学省、厚生労働省	
出版社: チルド社	
出版年: 2008年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 (30)
参加度 (40)	
学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育実習指導Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 塩見 哲史	
テーマ	
授業の意義・目的・内容を理解する。実習前後の学びを通し、専門機関や施設職員としての素養を学ぶ。さらに進路を決定していくための自己覚知をめざす。	
授業の到達目標	
1. 保育実習Ⅲの意義・目的・内容の理解ができる。2. 保育士・児童指導員の業務内容や職業倫理について理解を深める。3. 入所児童のおかれている家庭環境や地域の生活実態に触れ児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識・技術・判断力を実践から養う。4. 保育士・児童指導員を目指す者として自己の課題を明確にすることができる。5. 児童自立支援計画票の作成・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。	
授業の概要	
将来の児童福祉施設職員を志す者たちが集い、既に保育実習Ⅰ・Ⅱで学んだ経験を語り合う。児童福祉施設の保育士・児童指導員に求められる資質・能力・技術の獲得を目指し、討論形式で進める。	
準備学習(予習・復習)	
実習目標を明確にしておく	
内 容	
第1回 受講の意思確認と保育実習Ⅰ・Ⅱを終えての内容と自己課題を振り返り、実習目標を設定する。	
第2回 「児童福祉施設の職員とは？」をテーマに討論形式で展開する(debate/インタビューゲーム)	
第3回 施設の実体験をもとに社会的養護及び児童家庭福祉のあり方について学ぶ	
第4回 支援計画をたてるポイントを学ぶ	
第5回 実習直前における諸注意と実習目標設定の最終確認を行う	
第6回 実習の報告を基に振り返る①	
第7回 実習の報告を基に振り返る②	
第8回 実習評価表を基に自己評価及び自己課題の整理と保育実習Ⅲのまとめ	
履修上の注意点	
保育実習Ⅲを履修しようとする自己の姿勢について整理を行っておく。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0%)	小テスト (0%)
授業中課題 (50%)	授業中発表等 (20%)
参加度 (30%)	
授業中の課題(レポート含む)及び実習施設からの「評価表」「実習日誌」なども含め総合的に評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 授業中課題(0) 参加度(0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	小テスト(0) 授業中発表等(0)

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(0) 授業中発表等(0) 参加度(0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 中島 裕子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(0) 授業中発表等(0) 参加度(0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 授業中課題(0) 参加度(0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	小テスト(0) 授業中発表等(0)



## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(0) 授業中発表等(0) 参加度(0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 山口 陽子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(0) 授業中発表等(0) 参加度(0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 須藤 智代子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(0) 授業中発表等(0) 参加度(0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 森本 美絵 吉田 裕子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(0) 授業中発表等(0) 参加度(0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2017 Syllabus
---------------

科目名 **保育実習Ⅲ <i>**

クラス	配当回生 学部3回生								
講義期間 前期集中	定 員								
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定								
担当者 白井 昌子									
<p>テーマ</p> <p>保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。</p>									
<p>授業の到達目標</p> <p>施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。</p>									
<p>授業の概要</p> <p>保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。</p>									
<p>準備学習(予習・復習)</p>									
<p>内 容</p> <p>第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)</p>									
<p>履修上の注意点</p>									
<p>教科書</p>									
<p>参考書</p>									
<p>成績評価</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">試験・レポート(0)</td> <td style="width: 50%;">小テスト(0)</td> </tr> <tr> <td>授業中課題(0)</td> <td>授業中発表等(0)</td> </tr> <tr> <td>参加度(0)</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%</td> </tr> </table>		試験・レポート(0)	小テスト(0)	授業中課題(0)	授業中発表等(0)	参加度(0)		施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	
試験・レポート(0)	小テスト(0)								
授業中課題(0)	授業中発表等(0)								
参加度(0)									
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%									

## 2017 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 辻 啓子	
テーマ	
保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標	
施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要	
保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート(0)	小テスト(0)
授業中課題(0)	授業中発表等(0)
参加度(0)	
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 倉持 祐二	
テーマ 卒業論文作成に向けて	
授業の到達目標 各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめることをめざす。	
授業の概要 卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。	
準備学習(予習・復習) 予習:卒論の研究テーマにそって、文献や資料等を収集する。復習:集めた文献や資料等を読み深め、テーマを絞り込んでいく。	
内 容 第1回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ① 第2回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ② 第3回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ③ 第4回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導① 第5回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導② 第6回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③ 第7回 順次、各自の研究テーマについて発表させる① 第8回 順次、各自の研究テーマについて発表させる② 第9回 順次、各自の研究テーマについて発表させる③ 第10回 順次、各自の研究テーマについて発表させる④ 第11回 順次、各自の研究テーマについて発表させる⑤ 第12回 順次、各自の研究テーマについて発表させる⑥ 第13回 執筆要領、留意事項など細部について指導する① 第14回 執筆要領、留意事項など細部について指導する② 第15回 執筆要領、留意事項など細部について指導する③	
履修上の注意点 3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 40% )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 60% )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ 卒業論文作成に向けて	
授業の到達目標 卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を通して卒業論文を書き進めることができる。	
授業の概要 その日の担当を決めて、執筆中の卒業論文を発表し、ゼミ全体で議論をする。特に、目次案の検討が中心になる。	
準備学習(予習・復習) 卒業研究のテーマに関して調査研究を進める。パラグラフライティングの書き方に関する本『論理が伝わる「書く技術」』(倉島保美)は必読。論文の書き方の本は、『論文の教室』(戸田山和久)、『論文・レポートの基本』(石黒圭)、『はじめての論文作成術』(宅間紘一)等の中から一冊は三回生の春休み中に読んでおくこと。レポートとして纏めて提出する指示が出る。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 論文の書き方。テーマの絞り方。討論・講評し、最終テーマを決定させる。文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導。 第3回 卒論進捗報告(序論) 第4回 卒論進捗報告(序論) 第5回 卒論進捗報告(序論) 第6回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討) 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討) 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討) 第9回 卒論進捗報告(本論:調査内容) 第10回 卒論進捗報告(本論:調査内容) 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容) 第12回 卒論中間発表会 1 第13回 卒論中間発表会 2 第14回 卒論中間発表会 3 第15回 総括	
履修上の注意点 遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (25) 参加度 (50) 活発な議論を期待する。議論により、ゼミ生同士の研究に貢献できる姿を積極的に評価したい。	小テスト ( ) 授業中発表等 (25)



## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

ゼミ発表と討論を踏まえて卒業論文のテーマを明確にし、卒論執筆の基盤を形成する。

授業の到達目標

各自の卒業論文テーマと章立てを確定する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

論文テーマに関する文献を読み、情報を整理しておくこと。

内 容

- 第1回 卒業論文に関するガイダンス
- 第2回 学外活動:実践調査
- 第3回 卒業論文テーマにそった発表と討論①
- 第4回 卒業論文テーマにそった発表と討論②
- 第5回 卒業論文テーマにそった発表と討論③
- 第6回 卒業論文テーマにそった発表と討論④
- 第7回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑤
- 第8回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑥
- 第9回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑦
- 第10回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑧
- 第11回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑨
- 第12回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑩
- 第13回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑪
- 第14回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑫
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐野 仁美

テーマ

卒業論文作成に向けて研究を深める。

授業の到達目標

1)文献・資料収集の方法を知る。2)各自が関心を持つテーマについて、主体的かつ論理的に論文を構想する。3)研究発表および討論を通して、プレゼンテーション力を身につける。

授業の概要

卒業論文作成に向けて、各自の研究テーマにもとづき、発表および討論を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:各自のテーマに沿って文献や資料を収集し、読み込む。復習:討論で得られた意見をもとに自分なりの考察を加え、最終レポートに向けて、文献及び資料をまとめていく。

内 容

第1回 オリエンテーション:春休みの課題の報告、ゼミ運営についての説明

第2回 論文作成方法の説明

第3回 研究目的と方法の明確化①

第4回 研究目的と方法の明確化②

第5回 研究目的と方法の明確化③

第6回 途中経過発表および討論①

第7回 途中経過発表および討論②

第8回 途中経過発表および討論③

第9回 途中経過発表および討論④

第10回 途中経過発表および討論⑤

第11回 途中経過発表および討論⑥

第12回 途中経過発表および討論⑦

第13回 途中経過発表および討論⑧

第14回 途中経過発表および討論⑨

第15回 まとめ:夏季休暇中の課題

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。自主的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (30%)

参加度 (20%)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\*e&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 三上 周治

テーマ

卒業論文作成に向けて研究を深める。

授業の到達目標

1)各自が関心を持つテーマについて主体的に論文をまとめることにより、文献・資料収集の仕方を学び、論理的構成員および考察力を養う。2)研究発表および討論を通して、プレゼンテーション力を身につける。

授業の概要

卒業論文作成に向けて、各自の研究テーマにもとづき、発表および討論を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:各自のテーマに沿って文献や資料を収集し、読み込む。復習:討論で得られた意見をもとに自分なりの考察を加え、最終レポートに向けて、文献及び資料をまとめていく。

内 容

第1回 オリエンテーション:春休みの課題の報告、ゼミ運営についての説明

第2回 論文作成方法の説明

第3回 研究目的と方法の明確化①

第4回 研究目的と方法の明確化②

第5回 研究目的と方法の明確化③

第6回 途中経過発表および討論①

第7回 途中経過発表および討論②

第8回 途中経過発表および討論③

第9回 途中経過発表および討論④

第10回 途中経過発表および討論⑤

第11回 途中経過発表および討論⑥

第12回 途中経過発表および討論⑦

第13回 途中経過発表および討論⑧

第14回 途中経過発表および討論⑨

第15回 まとめ:夏季休暇中の課題

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt; \* f &gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

卒業論文のテーマと方針の検討

授業の到達目標

各自が卒業論文に当たって、自分の関心を深く探求して自分なりのテーマを発見し、テーマに沿った文献やデータの収集、記述の方針を決める

授業の概要

各時間数人程度、研究の進捗、問題点などを報告し、教員及び学生で検討と議論を行っていく。

準備学習(予習・復習)

各自、報告が無い時でも仲間の研究に関心を持って議論に参加してもらいたい。また、日常的に自分の関心に沿った文献やニュースを収集したり、ちょっとしたアイデアなどを生かす工夫をしてほしい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文のテーマ等の検討①
- 第3回 卒業論文のテーマ等の検討②
- 第4回 卒業論文のテーマ等の検討③
- 第5回 卒業論文のテーマ等の検討④
- 第6回 卒業論文のテーマ等の検討⑤
- 第7回 卒業論文のテーマ等の検討⑥
- 第8回 卒業論文のテーマ等の検討⑦
- 第9回 卒業論文のテーマ等の検討⑧
- 第10回 卒業論文のテーマ等の検討⑨
- 第11回 卒業論文のテーマ等の検討⑩
- 第12回 卒業論文のテーマ等の検討⑪
- 第13回 卒業論文のテーマ等の検討⑫
- 第14回 卒業論文のテーマ等の検討⑬
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\*g&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 南 憲治	
テーマ 卒業論文作成の準備	
授業の到達目標 各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめることをめざす。	
授業の概要 卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。	
準備学習(予習・復習) 予習:卒論の研究テーマにそって、文献や資料等を収集する。復習:集めた文献や資料等を読み深め、テーマを絞り込んでいく。	
内 容 第1回 テーマの絞り方についての討論・講評を行い、最終テーマを選ぶ① 第2回 テーマの絞り方についての討論・講評を行い、最終テーマを選ぶ② 第3回 テーマの絞り方についての討論・講評を行い、最終テーマを選ぶ③ 第4回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導① 第5回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導② 第6回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③ 第7回 各自の研究テーマについて発表する① 第8回 各自の研究テーマについて発表する② 第9回 各自の研究テーマについて発表する③ 第10回 各自の研究テーマについて発表する④ 第11回 各自の研究テーマについて発表する⑤ 第12回 各自の研究テーマについて発表する⑥ 第13回 執筆要領、留意事項などについて指導する① 第14回 執筆要領、留意事項などについて指導する② 第15回 まとめと教育演習Ⅳへ向けての準備	
履修上の注意点 3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 適宜、指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 50% ) 参加度 ( 50% )	

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\*h&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文の完成。

授業の概要

研究課題にふさわしい研究方法を精査し、調査分析を進める。二回から三回程度の研究発表会を行い、ゼミ内での意見交換をする。

準備学習(予習・復習)

課題を探求する。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 研究方法について 1
- 第3回 研究方法について 2
- 第4回 調査分析
- 第5回 発表
- 第6回 卒業論文の執筆
- 第7回 卒業論文の執筆
- 第8回 卒業論文の執筆
- 第9回 卒業論文の執筆
- 第10回 発表準備
- 第11回 発表準備
- 第12回 発表準備
- 第13回 中間報告 1
- 第14回 中間報告 2
- 第15回 中間報告 3

履修上の注意点

就職活動との日程的な調整を各自が行うこと。積極的に取り組むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50% )

参加度 ( )

授業中発表・報告会への参加。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50% )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\*i&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

卒論の作成に向けて

授業の到達目標

テーマに関連する文献・資料等を収集し読み深め、論文の章立てと各章の概要を書き上げる。

授業の概要

発表と質疑応答等から課題を見つけ、次回までに調べて提出することを繰り返す。

準備学習(予習・復習)

大学図書館等を利用して、できるだけ多くの本を読み要約する。

内 容

第1回 ガイダンス(進め方について)

第2回 春休みに集めた文献・資料等の報告①

第3回 春休みに集めた文献・資料等の報告②

第4回 春休みに集めた文献・資料等の報告③

第5回 章立てと各章の概要について報告と討論①

第6回 章立てと各章の概要について報告と討論②

第7回 章立てと各章の概要について報告と討論③

第8回 章立てと各章の概要について報告と討論④

第9回 章立てと各章の概要について報告と討論⑤

第10回 章立てと各章の概要について報告と討論⑥

第11回 章立てと各章の概要について報告と討論⑦

第12回 章立てと各章の概要について報告と討論⑧

第13回 章立てと各章の概要について報告と討論⑨

第14回 章立てと各章の概要について報告と討論⑩

第15回 前期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ &lt;\*j&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

卒業論文のテーマや研究方法を明確にし、卒業論文作成の態勢を整える

授業の到達目標

これまで学内外で学習してきたことから、自らの研究テーマ、自らの研究の独自性について、教員及びゼミメンバーと討議を重ね明らかにする。また、どのような方法で調査・研究を進めれば良いか同様に明らかにしていく。さらに、調査や文献研究によって得られた知見、資料、データをどのように分析・総合すればよいか検討する。これらを通じ、自らの研究テーマ及び研究の方法等に関する内容の理解を深める。

授業の概要

これまでに学内外で学習してきたことから、自らの研究テーマ、自らの研究の独自性について、教員及びゼミメンバーと討議を重ねながら明らかにしていく。具体的にどのような調査・研究を行えば良いのか検討を重ねる。

準備学習(予習・復習)

各自で、また小グループで研究テーマ、方法、内容について学習を進める。他のゼミの学生とも、またできれば他大学の学生とも交流し、自らの研究の特徴について考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション。授業の計画(学生各自の卒業論文作成に向けての前期及びこの1年の計画)についての理解
- 第2回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討①
- 第3回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討②
- 第4回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討③
- 第5回 各自の研究方法の検討①
- 第6回 各自の研究方法の検討②
- 第7回 各自の研究方法の検討③
- 第8回 中間まとめ(研究のテーマ、方法などに関する確認)
- 第9回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集①
- 第10回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集②
- 第11回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集③
- 第12回 調査のデータ及び文献資料等の分析①
- 第13回 調査のデータ及び文献資料等の分析②
- 第14回 調査のデータ及び文献資料等の分析③
- 第15回 まとめ 各自ゼミ内発表及び中間発表に向けての課題整理

履修上の注意点

自分の研究について、ゼミ内で積極的に発表すること。同時に他のゼミのメンバーの発表にしっかり耳を傾けること。そして、他のメンバーの研究についてもお互いに生産的な意見を交流すること。採用試験等もあるがしっかり出席すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。



## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめる。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習(予習・復習)

予習:卒論の研究テーマにそった文献や資料等を読み深める。復習:集めた文献や資料等をもとに、テーマにそって論文を作成する。

内 容

- 第1回 各自の研究テーマについて発表する①
- 第2回 各自の研究テーマについて発表する②
- 第3回 各自の研究テーマについて発表する③
- 第4回 論文作成に向けての個別指導①
- 第5回 論文作成に向けての個別指導②
- 第6回 論文作成に向けての個別指導③
- 第7回 論文作成に向けての個別指導④
- 第8回 論文作成に向けての個別指導⑤
- 第9回 論文作成に向けての個別指導⑥
- 第10回 論文作成に向けての個別指導⑦
- 第11回 論文作成に向けての個別指導⑧
- 第12回 論文作成に向けての個別指導⑨
- 第13回 論文作成に向けての個別指導⑩
- 第14回 論文発表会に向けての指導①
- 第15回 論文発表会に向けての指導②

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60%)

参加度 ( 40%)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈\*b〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を受け、卒業論文を完成する。

授業の概要

その日の担当を決めて、執筆中の卒業論文を発表し、ゼミ全体で議論をする。

準備学習(予習・復習)

卒業研究のテーマについての調査研究。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
- 第2回 卒論進捗報告(結論)
- 第3回 卒論進捗報告(結論)
- 第4回 卒論進捗報告(結論)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論中間報告会
- 第7回 卒論ドラフト相互チェック
- 第8回 卒論ドラフト相互チェック
- 第9回 卒論ドラフト相互チェック
- 第10回 卒論最終報告(全体)
- 第11回 卒論最終報告(全体)
- 第12回 卒論最終報告(全体)
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備 和綴じ本づくり
- 第15回 総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 50 )

互いの卒論を読み合い、ゼミ内での質の高い論文を作り出していく姿を積極的に評価したい。

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈\*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

卒業論文の執筆と完成

授業の到達目標

前期に確定した章立てに従って論文を執筆し完成させる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

テーマに関する情報を整理し、考察することを執筆中も続けること。

内 容

第1回 卒業論文執筆についてのオリエンテーション

第2回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言①

第3回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言②

第4回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言③

第5回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言④

第6回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑤

第7回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑥

第8回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑦

第9回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑧

第10回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑨

第11回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑩

第12回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑪

第13回 まとめ①

第14回 まとめ②

第15回 まとめ③

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 佐野 仁美

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を理解する。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文作成について個別に指導し、中間発表会において研究結果の発表、討論を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:論文作成計画に従い、論文を執筆する。復習:論文指導および中間発表会で得られた意見をもとに軌道修正しつつ、論文を書き進めていく。

内 容

第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明

第2回 卒論進捗報告①

第3回 卒論進捗報告②

第4回 卒論進捗報告③

第5回 中間発表会①

第6回 中間発表会②

第7回 論文作成に向けての個別指導①

第8回 論文作成に向けての個別指導②

第9回 論文作成に向けての個別指導③

第10回 論文作成に向けての個別指導④

第11回 論文作成に向けての個別指導⑤

第12回 論文作成に向けての個別指導⑥

第13回 卒論発表の準備①

第14回 卒論発表の準備②

第15回 まとめ:1年間の学習の総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50%)

授業中課題 (0)

参加度 (20%)

小テスト (0)

授業中発表等 (30%)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈\*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 三上 周治

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文作成について個別に指導し、中間発表会において研究結果の発表、討論を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:論文作成計画に従い、論文を執筆する。復習:論文指導および中間発表会で得られた意見をもとに軌道修正しつつ、論文を書き進めていく。

内 容

第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明

第2回 卒論進捗報告①

第3回 卒論進捗報告②

第4回 卒論進捗報告③

第5回 中間発表会①

第6回 中間発表会②

第7回 論文作成に向けての個別指導①

第8回 論文作成に向けての個別指導②

第9回 論文作成に向けての個別指導③

第10回 論文作成に向けての個別指導④

第11回 論文作成に向けての個別指導⑤

第12回 論文作成に向けての個別指導⑥

第13回 卒論発表の準備①

第14回 卒論発表の準備②

第15回 まとめ:1年間の学習の総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈\*f〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 長橋 聡

テーマ

卒業論文の完成と発表会に向けて検討や助言を行っていく

授業の到達目標

卒業論文の作成に関わる作業を通して、自身の問題意識の所在に気づき、それらに取り組む中で、学術的な面からの問題解決能力や表現力を身に着ける。

授業の概要

卒業論文の進捗状況の発表と、それに対する議論や助言を教員及び学生で行う。

準備学習(予習・復習)

自身の問題意識に対して真剣に向き合い、自主的、積極的に研究へ取り組むことを期待する。

内 容

- 第1回 卒業論文完成に向けた議論と助言①
- 第2回 卒業論文完成に向けた議論と助言②
- 第3回 卒業論文完成に向けた議論と助言③
- 第4回 卒業論文完成に向けた議論と助言④
- 第5回 卒業論文完成に向けた議論と助言⑤
- 第6回 卒業論文完成に向けた議論と助言⑥
- 第7回 卒業論文完成に向けた議論と助言⑦
- 第8回 卒業論文完成に向けた議論と助言⑧
- 第9回 卒業論文完成に向けた議論と助言⑨
- 第10回 卒業論文完成に向けた議論と助言⑩
- 第11回 卒業論文完成に向けた議論と助言⑪
- 第12回 卒論発表に関する助言①
- 第13回 卒論発表に関する助言②
- 第14回 卒論発表に関する助言③
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30 )  
 参加度 ( 20 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈\*g〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

集めた文献や資料等を読み理解を深めながら、論文の章立てを行い、論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習(予習・復習)

予習:卒論の研究テーマにそった文献や資料等を読み深める。復習:集めた文献や資料等をもとに、テーマにそって論文を完成させる。

内 容

- 第1回 各自の研究テーマについて発表する①
- 第2回 各自の研究テーマについて発表する②
- 第3回 各自の研究テーマについて発表する③
- 第4回 論文作成に向けての個別指導①
- 第5回 論文作成に向けての個別指導②
- 第6回 論文作成に向けての個別指導③
- 第7回 論文作成に向けての個別指導④
- 第8回 論文作成に向けての個別指導⑤
- 第9回 論文作成に向けての個別指導⑥
- 第10回 論文作成に向けての個別指導⑦
- 第11回 論文作成に向けての個別指導⑧
- 第12回 論文作成に向けての個別指導⑨
- 第13回 論文作成に向けての個別指導⑩
- 第14回 論文発表会に向けての指導①
- 第15回 論文発表会に向けての指導②

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜、指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (50%)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈\*h〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文の完成。

授業の概要

個別指導を中心に執筆作業を進め、中間に研究発表を行うことから作業状況の確認と見直しを行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 卒業論文の執筆
- 第3回 卒業論文の執筆
- 第4回 卒業論文の執筆
- 第5回 卒業論文の執筆
- 第6回 卒業論文の執筆
- 第7回 卒業論文の執筆
- 第8回 卒業論文の執筆
- 第9回 中間発表 1
- 第10回 中間発表 2
- 第11回 中間発表 3
- 第12回 卒業研究発表1
- 第13回 卒業研究発表2
- 第14回 卒業研究発表3
- 第15回 卒業研究発表4 ポスター発表へ向けて

履修上の注意点

遅刻欠席の場合は事前に連絡のこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 100% )



## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ &lt;\*i&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

①卒業論文の執筆をすすめ、完成する。②卒論発表のポスターを作成する。

授業の概要

①各自の論文を書き進める。②論文作成にむけての個別指導をする。

準備学習(予習・復習)

発表の準備として、レジュメを作成する。

内 容

- 第1回 卒論進捗状況の報告と助言①
- 第2回 卒論進捗状況の報告と助言②
- 第3回 卒論進捗状況の報告と助言③
- 第4回 卒論進捗状況の報告と助言④
- 第5回 卒論進捗状況の報告と助言⑤
- 第6回 卒論進捗状況の報告と助言⑥
- 第7回 卒論進捗状況の報告と助言⑦
- 第8回 卒論進捗状況の報告と助言⑧
- 第9回 卒論進捗状況の報告と助言⑨
- 第10回 ゼミで卒論発表①
- 第11回 ゼミで卒論発表②
- 第12回 卒論原稿相互チェック
- 第13回 ポスター発表の準備①
- 第14回 ポスター発表の準備①
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ &lt;\*j&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

自らの研究をまとめ卒業論文を作成し、自らの研究成果を発表する

授業の到達目標

これまで学内外で学習してきたことをまとめ、卒業論文を作成する。また、自らの研究の内容を適切に伝えることができるようにする。

授業の概要

これまで学内外で学習してきたことをまとめ、卒業論文を作成する。また、自らの研究の内容を適切にゼミのメンバーにまた、ゼミ外の人に伝えられるようにする。

準備学習(予習・復習)

各自で、また小グループで研究テーマ、方法、内容について学習を進める。他のゼミの学生とも、また他大学の学生とも交流し、自らの研究の特徴について考える。自らの研究を上手く伝える工夫を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 授業計画(卒業論文作成及び発表を含めた後期の計画)の理解
- 第2回 研究結果の検討(結果の考察)①
- 第3回 研究結果の検討(結果の考察)②
- 第4回 研究結果の検討(結果の考察)③
- 第5回 研究結果の検討(考察から結論へ)①
- 第6回 研究結果の検討(考察から結論へ)②
- 第7回 研究結果の検討(考察から結論へ)③
- 第8回 中間発表(章立て、研究概要)
- 第9回 卒業論文執筆①
- 第10回 卒業論文執筆②
- 第11回 卒業論文執筆③
- 第12回 卒業論文執筆④
- 第13回 卒業論文執筆⑤(卒業論文提出)
- 第14回 卒業論文講評
- 第15回 まとめ 4年間の学びを振り返る

履修上の注意点

自分の研究について、ゼミ内外で積極的に発表し、学生や教員の意見を聞く。ゼミ内ばかりでなく、他のゼミの学生の発表にも耳を傾け、自分の意見も述べる。採用試験が続くこともあるが、しっかり出席する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈初a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 西村 徳寿

テーマ

## 授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

## 授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る(グループ討論、発表)
- 第2回 子ども理解—子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境(グループ討論、発表)
- 第3回 各教科の指導1:算数科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第4回 各教科の指導2:理科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第5回 各教科の指導3:国語科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第6回 各教科の指導4:社会科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第7回 各教科の指導5:音楽(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第8回 各教科の指導6:体育(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第9回 各教科の指導7:図工(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第10回 各教科の指導8:家庭科・生活科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第11回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第12回 特別活動の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第13回 実践的な知識と技能—学級経営、生徒指導(グループ討論・クラス討論)
- 第14回 教職員との連携ならびに地域、保護者との連携(グループ討論、クラス討論)
- 第15回 教職の意義、教師の役割—小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認(グループ討論と発表、クラス討論) ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (50)

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈初b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 三上 周治・森 枝美

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る(グループ討論、発表)
- 第2回 子ども理解—子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境(グループ討論、発表)
- 第3回 各教科の指導1:算数科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第4回 各教科の指導2:理科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第5回 各教科の指導3:国語科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第6回 各教科の指導4:社会科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第7回 各教科の指導5:音楽(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第8回 各教科の指導6:体育(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第9回 各教科の指導7:図工(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第10回 各教科の指導8:家庭科・生活科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第11回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第12回 特別活動の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第13回 実践的な知識と技能—学級経営、生徒指導(グループ討論・クラス討論)
- 第14回 教職員との連携ならびに地域、保護者との連携(グループ討論、クラス討論)
- 第15回 教職の意義、教師の役割—小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認(グループ討論と発表、クラス討論) ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈初c〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

## 授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

## 授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る(グループ討論、発表)  
 第2回 子ども理解—子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境(グループ討論、発表)  
 第3回 各教科の指導1:算数科(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第4回 各教科の指導2:理科(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第5回 各教科の指導3:国語科(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第6回 各教科の指導4:社会科(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第7回 各教科の指導5:音楽(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第8回 各教科の指導6:体育(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第9回 各教科の指導7:図工(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第10回 各教科の指導8:家庭科・生活科(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第11回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第12回 特別活動の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)  
 第13回 実践的な知識と技能—学級経営、生徒指導(グループ討論・クラス討論)  
 第14回 教職員との連携ならびに地域、保護者との連携(グループ討論、クラス討論)  
 第15回 教職の意義、教師の役割—小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認(グループ討論と発表、クラス討論) ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (50)

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈幼a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

大学での学びと実習等の教育現場で獲得した力を統合し、卒業後の実践の場において力を発揮できるよう4年間の学びのまとめを行う

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。  
1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各領域の指導、3. コミュニケーション(①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係)、4. 教育的愛情、5. 学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

準備学習(予習・復習)

大学で学んだことを、卒業後の教育・保育の実践の場で生かすにはどうすれば良いのか日頃から考えておくこと。様々な保育の場面を想定し、それに対応するプランを考えておくこと。そしてそれを友人や教員と日頃から交流しておくこと。

内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る
- 第2回 子ども理解—幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
- 第3回 各領域の教育・保育—健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第4回 各領域の教育・保育—健康②運動遊びに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第5回 各領域の教育・保育—人間関係①グループでの活動に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第6回 各領域の教育・保育—人間関係②異年齢交流に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第7回 各領域の教育・保育—環境①生き物、自然環境に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第8回 各領域の教育・保育—環境②数や量に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第9回 各領域の教育・保育—言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第10回 各領域の教育・保育—言葉②劇の発表に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第11回 各領域の教育・保育—表現①音楽やリズムに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第12回 各領域の教育・保育—表現②図画・工作に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第13回 幼稚園における職員間の連携(グループ討議、クラス討論)
- 第14回 地域・保護者との連携(グループ討議、クラス討論)
- 第15回 幼稚園教諭の役割—幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

自分が4年間大学で学んだことを整理し、授業で発表すること。また、授業での他の学生や教員の発言に耳を傾け、自分に足りない部分を吸収すること。卒業後も生かせる他の学生との関係を深めて行くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 40 )
参加度 ( 30 )	

授業にしっかり出席すること。授業中に出される課題、自分や自分のグループで設定した課題を、自分でまたグループで考え発表すること。また、他の学生、他のグループの発表に対し自分の意見を述べること。評価の際にはこれら点などから考える。

## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈幼b〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 久堀 久美子

テーマ

## 授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

## 授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各領域の指導、3. コミュニケーション(①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係)、4. 教育的愛情、5. 学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る  
 第2回 子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化  
 第3回 各領域の教育・保育－健康①日常生活リズム・健康に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第4回 各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第5回 各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第6回 各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第7回 各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第8回 各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第9回 各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第10回 各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第11回 各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第12回 各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)  
 第13回 幼稚園における職員間の連携(グループ討議、クラス討議)  
 第14回 地域・保護者との連携(グループ討議、クラス討議)  
 第15回 幼稚園教諭の役割－幼稚園教諭の資質の吟味と確認

## 履修上の注意点

## 教科書

レジュメを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

講義時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(50)

授業中発表等(50)

参加度( )

## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈幼c〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 足立 登志也

テーマ

保育・教育に関する実習を振り返り、保育者に必要な力量について考える

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各領域の指導、3. コミュニケーション(①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係)、4. 教育的愛情、5. 学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

準備学習(予習・復習)

実習のまとめである『保育の眼が拓かれたとき』に書いた自分の文章をはじめ、保育・教育実習を振り返っておくこと。

内容

- 第1回 4年間の学習を振り返る
- 第2回 子ども理解—幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
- 第3回 各領域の教育・保育—健康①日常生活リズム・健康に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第4回 各領域の教育・保育—健康②運動遊びに関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第5回 各領域の教育・保育—人間関係①グループでの活動に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第6回 各領域の教育・保育—人間関係②異年齢交流に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第7回 各領域の教育・保育—環境①生き物、自然環境に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第8回 各領域の教育・保育—環境②数や量に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第9回 各領域の教育・保育—言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第10回 各領域の教育・保育—言葉②劇の発表に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第11回 各領域の教育・保育—表現①音楽やリズムに関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第12回 各領域の教育・保育—表現②図画・工作に関わる取り組み(グループ討議、クラス討議)
- 第13回 幼稚園における職員間の連携(グループ討議、クラス討議)
- 第14回 地域・保護者との連携(グループ討議、クラス討議)
- 第15回 幼稚園教諭の役割—幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(50)

授業中発表等(50)

参加度( )



## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈幼d〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 加藤 倫子

テーマ

保育者としての専門性を高めよう。

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各領域の指導、3. コミュニケーション(①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係)、4. 教育的愛情、5. 学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

準備学習(予習・復習)

実習簿を、読み返しておきましょう。

内容

- 第1回 4年間の学習を振り返る
- 第2回 子ども理解—幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
- 第3回 各領域の教育・保育—健康①日常生活リズム・健康に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第4回 各領域の教育・保育—健康②運動遊びに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第5回 各領域の教育・保育—人間関係①グループでの活動に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第6回 各領域の教育・保育—人間関係②異年齢交流に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第7回 各領域の教育・保育—環境①生き物、自然環境に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第8回 各領域の教育・保育—環境②数や量に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第9回 各領域の教育・保育—言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第10回 各領域の教育・保育—言葉②劇の発表に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第11回 各領域の教育・保育—表現①音楽やリズムに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第12回 各領域の教育・保育—表現②図画・工作に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第13回 幼稚園における職員間の連携(グループ討議、クラス討論)
- 第14回 地域・保護者との連携(グループ討議、クラス討論)
- 第15回 幼稚園教諭の役割—幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

授業中課題(50)

参加度( )

小テスト( )

授業中発表等(50)

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習(小学校)Ⅱ

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習(予習・復習)

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内 容

- 第1回 第1週・学級担任の児童に対する願いをつかむ。・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第2回 第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・児童相互の関係に目をむける。
- 第3回 第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。
- 第4回 第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。

履修上の注意点

なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(英) &lt;\*ZB&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

世界を知るとグローバルな視点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット<国際事情を学ぶ>第1～3講; 第2ユニット<5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ>第4～8講; 第3ユニット<学生の発表により専門領域を深める>

準備学習(予習・復習)

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 Major Global Issues
- 第3回 Solving Global Issues
- 第4回 Omnibus Rotation; Topic 1: Global Economics
- 第5回 Omnibus Rotation; Topic 2: Global Japan
- 第6回 Omnibus Rotation; Topic 3: Global Careers
- 第7回 Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
- 第8回 Omnibus Rotation; Topic 5: Global Education
- 第9回 Presentation Preparation 1
- 第10回 Presentation Preparation 2
- 第11回 Student Presentations 1
- 第12回 Student Presentation 2
- 第13回 Student Presentations 3
- 第14回 Student Presentations 4
- 第15回 Review

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大大問題7

著者: 池上 彰

出版社: 角川SSC新書

出版年: 2016

ISBN: 4040820637

外国人が選んだ日本百景

著者: ステファン・シャウエッカー

出版社: 講談社+α 新書

出版年: 2015

ISBN: 4062728249

日本の英語教育

著者: 山田 雄一郎

出版社: 岩波新書

出版年: 2005

ISBN: 4004309433

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 ( )

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

---

## 2017 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(英) &lt;\*ZC&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 裕二	
テーマ	
世界を知るとグローバルな観点の育成	
授業の到達目標	
1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。	
授業の概要	
第1ユニット<国際事情を学ぶ>第1～3講;第2ユニット<5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ>第4～8講;第3ユニット<学生の発表により専門領域を深める>	
準備学習(予習・復習)	
国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニュースやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。	
内 容	
第1回 Orientation	
第2回 Major Global Issues	
第3回 Solving Global Issues	
第4回 Omnibus Rotation; Topic 1: Global Economics	
第5回 Omnibus Rotation; Topic 2: Global Japan	
第6回 Omnibus Rotation; Topic 3: Global Careers	
第7回 Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism	
第8回 Omnibus Rotation; Topic 5: Global Education	
第9回 Presentation Preparation 1	
第10回 Presentation Preparation 2	
第11回 Student Presentations 1	
第12回 Student Presentation 2	
第13回 Student Presentations 3	
第14回 Student Presentations 4	
第15回 Review	
履修上の注意点	
学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしなが、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。	
教科書	
参考書	
知らないと恥をかく世界の大大問題7	
著者: 池上 彰	
出版社: 角川SSC新書	
出版年: 2016	ISBN: 4040820637
外国人が選んだ日本百景	
著者: ステファン・シャウエツカー	
出版社: 講談社+α 新書	
出版年: 2015	ISBN: 4062728249
日本の英語教育	
著者: 山田 雄一郎	
出版社: 岩波新書	
出版年: 2005	ISBN: 4004309433

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 ( )

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

---

## 2017 Syllabus

科目名 Reading &amp; Vocabulary Building I &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

リーディング演習とボキャブラリー強化

授業の到達目標

英語を学問としてではなく、コミュニケーションの道具として駆使して自分の世界を広げる準備をすることを目的とする。興味深い内容、信じたがい内容、感動するような英文を、辞書を引かずに読む練習を行う。和訳するのではなく、英語のまま理解できるように読解の練習を行う。また記事の中から文法事項を取り上げ、実際にどの様に使われるかを確かめながら、基礎文法を理解する。英語への苦手意識を取り除き、英語が好きになる。

授業の概要

英語リーディング力の強化を中心としながらも、「受講生参加型」のレッスンにより、学習者の英語学習に対する否定的なイメージを払拭して学習意欲を高めると同時に、スピーキング力を含めた総合的な英語力を養成する。毎回小テストを実施す

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 講義の進め方について説明します。自己紹介等、クラスメートとの会話をを行います。
- 第2回 Chapter1: April Fools' Day
- 第3回 Chapter2: Clever Pigs
- 第4回 Chapter3: Split the Bill
- 第5回 Chapter4: Disney's Dream
- 第6回 Chapter5: Compact Lifestyles
- 第7回 Chapter6: Ryo Ishikawa: Record Breaker
- 第8回 Chapter7: Unusual Pets
- 第9回 Chapter8: Staying in Touch
- 第10回 Chapter9: Pet Passports
- 第11回 Chapter10: Tying the Knot at McDonald's
- 第12回 Chapter11: The Oscars
- 第13回 Chapter12: Unique Names
- 第14回 Chapter13: Rackets for Champions
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

PRISM red Second Edition

著者: Timothy Kiggell/Katsuhiko Muto

出版社: Macmillan Language House

出版年: 2012

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Reading & Vocabulary Building II <Z>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高居 佐紀	
テーマ リーディング演習とボキャブラリー強化	
授業の到達目標 実社会で出会うような身近な記事、たとえば災害救助犬、ファッション、ケータイ電話ビジネスなど、興味を持てるトピックを多く読むことで、読むスピードをあげることを目的とする。合わせて、それぞれの読み物に適したリーディングのスキル(スキミング、スキミング)を学ぶ。また基礎的な英文法の総復習をし、更に様々なトピックの基本単語力を習得する。	
授業の概要 英語リーディング力の強化を中心としながらも、「受講生参加型」のレッスンにより、学習者の英語学習に対する否定的なイメージを払拭して学習意欲を高めると同時に、スピーキング力を含めた総合的な英語力を養成する。毎回小テストを実施す	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション: 講義の進め方について説明します。自己紹介等、クラスメートとの会話を行います。 第2回 Chapter1: Looking for Lost Luggage 第3回 Chapter2: Working Animals 第4回 Chapter3: Niagara Falls 第5回 Chapter4: Chocolate Buyer Wanted 第6回 Chapter5: Cool Sunglasses 第7回 Chapter6: Dad, Dave or Sir 第8回 Chapter7: Giant Teddy Bear 第9回 Chapter8: Charlie the Parrot 第10回 Chapter9: Sherlock Holmes Falls to His Death 第11回 Chapter10: Cell Phone Art 第12回 Chapter11: Fashion for Dogs 第13回 Chapter12: Cell Phone Manners 第14回 Chapter13: Animal Astronauts 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点	
教科書 PRISM rose Second Edition 著者: Timothy Kiggell/Katsuhiko Muto 出版社: Macmillan Language House 出版年: 2012 ISBN: 9.78478E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 50 ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30 ) 上記に加えて学期末英語テスト20%	



## 2017 Syllabus

科目名 **Listening I <Za>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 友博	
テーマ	
Foundation period course	

### 授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

### 授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

### 準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

### 内 容

- 第1回 Course information & expectations; class introductions; ice breakers
- 第2回 Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
- 第3回 Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
- 第4回 Establishing group work structures
- 第5回 Intro to video class & teacher
- 第6回 Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
- 第7回 Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
- 第8回 Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
- 第9回 Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
- 第10回 Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
- 第11回 Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
- 第12回 Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
- 第13回 Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
- 第14回 Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
- 第15回 Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
- 第16回 Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
- 第17回 Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
- 第18回 Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
- 第19回 Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
- 第20回 Language & skills extension – TED Talks (Lewis Pugh)
- 第21回 Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
- 第22回 Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
- 第23回 Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation
- 第24回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第25回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第26回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第27回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第28回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第29回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第30回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

### 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

### 教科書

World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年:

ISBN: 9.78131E+12

X-reading

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2, Fourth edition

著者: Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky

出版社: Pearson

出版年: 2009

ISBN: 9.78014E+12

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---

## 2017 Syllabus

科目名 **Listening II <Za>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 友博	

テーマ

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内 容

- 第1回 Course information & expectations; class introductions; ice breakers
- 第2回 Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
- 第3回 Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
- 第4回 Establishing group work structures
- 第5回 Intro to video class & teacher
- 第6回 Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
- 第7回 Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
- 第8回 Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
- 第9回 Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
- 第10回 Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
- 第11回 Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
- 第12回 Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
- 第13回 Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
- 第14回 Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
- 第15回 Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
- 第16回 Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
- 第17回 Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
- 第18回 Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
- 第19回 Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
- 第20回 Language & skills extension – TED Talks (Lewis Pugh)
- 第21回 Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
- 第22回 Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
- 第23回 Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation
- 第24回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第25回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第26回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第27回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第28回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第29回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第30回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年:

ISBN: 9.78131E+12

X-reading

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2, Fourth edition

著者: Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky

出版社: Pearson

出版年: 2009

ISBN: 9.78014E+12

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---

## 2017 Syllabus

科目名 **Listening III <Za>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 タット, クリステイナ	

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内 容

- 第1回 Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
- 第2回 Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
- 第3回 Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
- 第4回 Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
- 第5回 Grammar and Writing Intro — outline & expectations
- 第6回 Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
- 第7回 Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
- 第8回 Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
- 第9回 Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
- 第10回 Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
- 第11回 Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
- 第12回 Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100–200 words
- 第13回 Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
- 第14回 Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
- 第15回 Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
- 第16回 Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
- 第17回 Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
- 第18回 Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
- 第19回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
- 第20回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
- 第21回 TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
- 第22回 Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
- 第23回 Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
- 第24回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
- 第25回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第26回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第27回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第28回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第29回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第30回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

未定1冊

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 20 )

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---

## 2017 Syllabus

科目名 **Listening III <Zb>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 友博	

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内 容

- 第1回 Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
- 第2回 Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
- 第3回 Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
- 第4回 Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
- 第5回 Grammar and Writing Intro — outline & expectations
- 第6回 Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
- 第7回 Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
- 第8回 Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
- 第9回 Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
- 第10回 Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
- 第11回 Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
- 第12回 Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100–200 words
- 第13回 Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
- 第14回 Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
- 第15回 Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
- 第16回 Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
- 第17回 Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
- 第18回 Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
- 第19回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
- 第20回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
- 第21回 TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
- 第22回 Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
- 第23回 Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
- 第24回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
- 第25回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第26回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第27回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第28回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第29回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第30回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

未定1冊

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 20 )

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---



## 2017 Syllabus

科目名 **Listening IV <Za>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 タット, クリステイナ	

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内 容

- 第1回 Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
- 第2回 Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
- 第3回 Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
- 第4回 Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
- 第5回 Grammar and Writing Intro — outline & expectations
- 第6回 Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
- 第7回 Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
- 第8回 Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
- 第9回 Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
- 第10回 Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
- 第11回 Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
- 第12回 Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100–200 words
- 第13回 Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
- 第14回 Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
- 第15回 Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
- 第16回 Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
- 第17回 Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
- 第18回 Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
- 第19回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
- 第20回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
- 第21回 TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
- 第22回 Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
- 第23回 Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
- 第24回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
- 第25回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第26回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第27回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第28回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第29回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第30回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

未定1冊

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 20 )

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---

## 2017 Syllabus

科目名 **Listening IV <Zb>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定

担当者 ドール, モーガン

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内 容

- 第1回 Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
- 第2回 Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
- 第3回 Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
- 第4回 Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
- 第5回 Grammar and Writing Intro — outline & expectations
- 第6回 Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
- 第7回 Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
- 第8回 Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
- 第9回 Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
- 第10回 Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
- 第11回 Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
- 第12回 Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100–200 words
- 第13回 Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
- 第14回 Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
- 第15回 Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
- 第16回 Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
- 第17回 Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
- 第18回 Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
- 第19回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
- 第20回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
- 第21回 TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
- 第22回 Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
- 第23回 Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
- 第24回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
- 第25回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第26回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第27回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第28回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第29回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第30回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

未定1冊

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 20 )

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---

## 2017 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation I <Z>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 友博	

テーマ

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内 容

- 第1回 Course information & expectations; class introductions; ice breakers
- 第2回 Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
- 第3回 Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
- 第4回 Establishing group work structures
- 第5回 Intro to video class & teacher
- 第6回 Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
- 第7回 Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
- 第8回 Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
- 第9回 Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
- 第10回 Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
- 第11回 Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
- 第12回 Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
- 第13回 Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
- 第14回 Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
- 第15回 Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
- 第16回 Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
- 第17回 Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
- 第18回 Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
- 第19回 Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
- 第20回 Language & skills extension – TED Talks (Lewis Pugh)
- 第21回 Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
- 第22回 Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
- 第23回 Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation
- 第24回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第25回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第26回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第27回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第28回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第29回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第30回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年:

ISBN: 9.78131E+12

X-reading

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2, Fourth edition

著者: Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky

出版社: Pearson

出版年: 2009

ISBN: 9.78014E+12

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---

## 2017 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II <Za>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 エリス, メグ	

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内 容

- 第1回 Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
- 第2回 Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
- 第3回 Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
- 第4回 Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
- 第5回 Grammar and Writing Intro — outline & expectations
- 第6回 Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
- 第7回 Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
- 第8回 Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
- 第9回 Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
- 第10回 Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
- 第11回 Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
- 第12回 Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100–200 words
- 第13回 Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
- 第14回 Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
- 第15回 Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
- 第16回 Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
- 第17回 Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
- 第18回 Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
- 第19回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
- 第20回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
- 第21回 TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
- 第22回 Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
- 第23回 Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
- 第24回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
- 第25回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第26回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第27回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第28回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第29回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第30回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

未定1冊

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 20 )

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---



## 2017 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II <Zb>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 エリス, メグ	

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習(予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内 容

- 第1回 Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
- 第2回 Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
- 第3回 Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
- 第4回 Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
- 第5回 Grammar and Writing Intro — outline & expectations
- 第6回 Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
- 第7回 Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
- 第8回 Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
- 第9回 Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
- 第10回 Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
- 第11回 Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
- 第12回 Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100–200 words
- 第13回 Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
- 第14回 Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
- 第15回 Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
- 第16回 Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
- 第17回 Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
- 第18回 Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
- 第19回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
- 第20回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
- 第21回 TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
- 第22回 Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
- 第23回 Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
- 第24回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
- 第25回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第26回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第27回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第28回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第29回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第30回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

未定1冊

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 20 )

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

---

## 2017 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座 I &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 北林 利治	
テーマ	日英語の文化やコミュニケーションの相違点に焦点を当てながら、異文化を理解するための基礎的な知識を修得しながら理解を深めていく。
授業の到達目標	英語圏の日常生活やマナーを含めた文化を学びながら、異文化コミュニケーションのさまざまな側面への理解を深めることができるようになる、②異文化コミュニケーションの分析で用いられる用語に慣れ親しみ、日英を中心とした文化やコミュニケーションの諸側面の分析ができるようになる。
授業の概要	「異文化コミュニケーション」という学問についての基礎知識を紹介し、とりわけ、日本語によるコミュニケーションと英語によるコミュニケーションとの比較を通して、それぞれのコミュニケーション方法やその背後にある日英の文化の特徴を学ぶ。非言語を含めたコミュニケーションスタイル、その背景にある文化、すなわち、社会的ルール、ものの考え方、文化的価値観、などをテーマにし、各週トピックをピックアップし、講義とディスカッションを行う。ステレオタイプ的な異文化の捉え方に陥ることなく、より客観的に物事を判断できるようにめざす。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 日英の非言語コミュニケーション①(表情、アイコンタクト)</p> <p>第3回 日英の非言語コミュニケーション②(しぐさ、ジェスチャー)</p> <p>第4回 時間の使い方と異文化理解</p> <p>第5回 空間の使い方と異文化理解</p> <p>第6回 日英文化における言語表現(誘い方、断り方、謝罪の表現)</p> <p>第7回 日英文化における言語表現(ほめ方、叱り方)</p> <p>第8回 日英文化における言語表現(謙譲表現)</p> <p>第9回 明示的なコミュニケーション(英語文化)と間接的なコミュニケーション(日本語文化)</p> <p>第10回 日英文化における文化的価値観(日英における集団と個人)</p> <p>第11回 日英におけるコミュニケーションのスタイル(パラ言語、コンテキストの用い方)</p> <p>第12回 低コンテキスト文化(英語文化)と高コンテキスト文化(日本語文化)</p> <p>第13回 感情の表現と異文化理解</p> <p>第14回 日英文化における習慣・マナー</p> <p>第15回 まとめと総括</p>
履修上の注意点	
教科書	Beyond Boundaries グローバル社会の異文化コミュニケーション 著者: 池口セシリア・八代京子 出版社: 桐原書店 出版年: 2008 ISBN: 9.78434E+12
参考書	<p>ケースで学ぶ異文化コミュニケーション 著者: 久米昭元・長谷川典子 出版社: 有斐閣選書 出版年: ISBN:</p> <p>異文化トレーニング【改訂版】 著者: 八代京子ほか 出版社: 三修社 出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験・レポート ( 50 )</p> <p>授業中課題 ( 30 )</p> <p>小テスト ( 20 )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>



## 2017 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ〈\*US〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標  
 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①  
 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②  
 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③  
 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④  
 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①  
 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②  
 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ  
 第9回 ディスカッション① ー気候や環境について  
 第10回 ディスカッション② ー食べ物や食生活についてー  
 第11回 ディスカッション③ ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー  
 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)  
 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)  
 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り  
 第15回 まとめ ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ &lt;\*AN&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 エリス, メグ

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション① ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション② ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ〈\*M〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習(予習・復習)

毎回、英単語の小テストを行います。テキストの指定した箇所を事前に勉強してきてください。また、参考Websiteによって、英会話の練習を時間外に行ってもらいます。

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標  
 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①  
 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②  
 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③  
 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④  
 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①  
 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②  
 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ  
 第9回 ディスカッション①ー気候や環境についてー  
 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー  
 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー  
 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学者ー(予定)  
 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学者ー(予定)  
 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り  
 第15回 まとめ ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

遅刻は2回で1回分の欠席とします。規定回数以上の欠席については、いかなる理由があっても単位の認定をしません。なお、このクラスの単位が取得できない場合は、留学の参加について審議がなされる場合があります。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

クラスで紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

小テストは毎回行います。そのほか、レポート(英語と日本語)を2通、プレゼンテーションを1回行ってもらいます。いずれかの課題が未提出の場合は、60%以上の点数がある場合も単位の認定はできません。

## 2017 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ〈\*CA〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宮崎 裕二

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習(予習・復習)

Students will be expected to revise the content of the first introductory classes in order to have a firm grasp of the subject and its background. At a later stage, students will be given topics to research and present to the rest of the class.

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標  
 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①  
 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②  
 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③  
 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④  
 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①  
 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②  
 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ  
 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について  
 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー  
 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー  
 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)  
 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)  
 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り  
 第15回 まとめ ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

Students should be constantly on the lookout for what is translated in their daily lives: for example, at stations, on food products, at leisure facilities, in shops, on menus etc. They should make constant notes of these translations, and the style in which they are written.

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (30)



## 2017 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ &lt;\*CTP&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 アンガス, ノーマン	
テーマ 充実した留学生活のために	
授業の到達目標 多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得	
授業の概要 ・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。	
準備学習(予習・復習) Students will be required to go over the lecture content at home to reinforce what they have learned in class. A limited amount of fieldwork will also be required.	
内 容 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備① 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備② 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③ 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④ 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理① 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理② 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ 第9回 ディスカッション① ー気候や環境について 第10回 ディスカッション② ー食べ物や食生活についてー 第11回 ディスカッション③ ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定) 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定) 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り 第15回 まとめ	
履修上の注意点 Students should be constantly on the lookout for what is translated in their daily lives: for example, at stations, on food products, at leisure facilities, in shops, on menus etc. They should make constant notes of these translations, and the style in which they are written.	
教科書 知っとこ見とこ山科ガイド 著者： 木下 達文 出版社： つむぎ出版 出版年： 2010 ISBN： 9.78488E+12 参考書	
成績評価 試験・レポート (40) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30)	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Reading & Vocabulary Building III <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

英文の語彙力と読解力を伸ばす。

授業の到達目標

現代の諸問題についてのまとまった英文を読み、素早く把握する能力を身に着ける。

授業の概要

自分の生や世界を認識するうえで必要なさまざまな問題についての英文を読み、音読に続いて読解し、補助説明の後に議論を行う。

準備学習(予習・復習)

予習を行うこと(30分から1時間くらい)

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Unit 1 The Concept of Beauty
- 第3回 Unit 2 Greek Mythology
- 第4回 Unit 3 The Bible
- 第5回 Unit 4 Renaissance
- 第6回 Unit 5 The Structure of Fictional Literature
- 第7回 Unit 6 The Theater of Acting
- 第8回 Unit 7 The English Language
- 第9回 Unit 8 The Rise of Cities
- 第10回 Unit 9 Trusting in Recorded History
- 第11回 Unit 11 How Democracy Works
- 第12回 Unit 12 Marriage and the State
- 第13回 Unit 13 The Meaning of Prayers
- 第14回 Unit 14 Mankind and Laughter
- 第15回 総括、試験

履修上の注意点

6回以上欠席すると単位が認められない。

教科書

Transculture: Transcending Time, Region and Ethnicity

著者: C. Belton, K. Odashima

出版社: 金星堂

出版年: 2017

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 10 )

期末のVocabulary Test=20%

2017 Syllabus
---------------

科目名 **Reading & Vocabulary Building III <b>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

英文の語彙力と読解力を伸ばす。

授業の到達目標

まとまった分量の英文を読み、素早く把握する能力を身につける。

授業の概要

世界がどのような歴史をたどって今日のような姿になったかを論じたテキストを読み、音読に続いて読解し、補助説明の後に議論を行う。

準備学習(予習・復習)

予習を行うこと(30分から1時間くらい)

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Chapter 1
- 第3回 Chapter 2
- 第4回 Chapter 3
- 第5回 Chapter 4
- 第6回 Chapter 5
- 第7回 Chapter 6
- 第8回 Chapter 7
- 第9回 Chapter 8
- 第10回 Chapter 9
- 第11回 Chapter 10
- 第12回 Chapter 11
- 第13回 Chapter 12
- 第14回 Chapter 13
- 第15回 総括、試験

履修上の注意点

6回以上欠席すると単位が認められない。

教科書

What on Earth Happened?

著者: Christopher Lloyd

出版社: 英宝社

出版年: 2014

ISBN: 9.78427E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 10 )

期末のVocabulary Test=20%

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Listening V <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 ハスカウエル, プライアン	
テーマ	
Improve your listening comprehension	
授業の到達目標	
The aim of this class is to improve your listening comprehension so that you can cope with various situations in English-spoken environments.	
授業の概要	
This class will be carried out entirely in English. You listen to a certain passage and take notes; then answer various questions either in the textbook or from the teacher. The teacher will also give you some background information about the topic of the text. You will do various types of listening: from the textbook/CD, from the teacher and also from other students.	
準備学習(予習・復習)	
Listen to the CD provided and do assigned homework to prepare for the class. In addition to the textbook, listen to English in various other forms -- music, news, videos or other live English.	
内 容	
第1回 Class introduction/orientation 第2回 Chapter 1 第3回 Chapter 2 第4回 Chapter 3 第5回 Chapter 4 第6回 Chapter 5 第7回 Chapter 6 第8回 Mid-term review 第9回 Chapter 7 第10回 Chapter 8 第11回 Chapter 9 第12回 Chapter 10 第13回 Chapter 11 第14回 Chapter 12 第15回 Final review/evaluation	
履修上の注意点	
Try to be active in class. It is difficult to make up for classes that you miss, so it is important to attend every class.	
教科書	
Social Issues in a Contemporary World	
著者: Naoki Sugimori et al.	
出版社: 成美堂	
出版年: 2007	ISBN: 9.78479E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト ( )
授業中課題 (50)	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Listening V <b>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 浅井 雅志	
テーマ Improve your listening comprehension	
授業の到達目標 The aim of this class is to improve your listening comprehension so that you can cope with various situations in English-spoken environment.	
授業の概要 This class will be carried out entirely in English. You listen to a certain passage and take notes; then answer various questions either in the textbook or by the teacher. The teacher will also give you some background information about the topic of the text. Hopefully we will have some discussion on the topic. You will take an exam at the end of the term.	
準備学習(予習・復習) Listen to the CD provided and prepare for the class. Listen to English in whatever form—music, news, recorded stories.	
内 容 第1回 Introduction 第2回 Chapter 1 第3回 Chapter 2 第4回 Chapter 3 第5回 Chapter 4 第6回 Chapter 5 第7回 Chapter 6 第8回 Chapter 7 第9回 Chapter 8 第10回 Chapter 9 第11回 Chapter 10 第12回 Chapter 11 第13回 Chapter 12 第14回 Chapter 13 第15回 Summing Up; Evaluation	
履修上の注意点 Try to be active in responding and asking questions. If you are absent from the class more than 6 times, you cannot get a credit.	
教科書 Social Issues in a Contemporary World 著者: Naoki Sugimori, et al 出版社: 成美堂 出版年: 2007 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 50 ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 10 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 **Listening VI <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	日高 周平	
テーマ	リスニング能力の向上。	
授業の到達目標	今まで培ってきた力を更に伸ばし、複雑な内容も細かく聞き取れる力を付ける。	
授業の概要	毎回の授業で、TOEIC600点以上レベルの語句を確認後、リスニング問題に取り組む。また、リスニングに必要となる文法・構文なども、総合的に学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	初回の授業で配る単語プリントと、学習した文法は必ず復習すること。	
内 容	<p>第1回 授業概要、評価方法などの説明。リスニングの学習方法についての説明など。</p> <p>第2回 Unit 1 TOEIC Pt 1と5の対策</p> <p>第3回 Unit 2 TOEIC Pt 1と5の対策</p> <p>第4回 Unit 3 TOEIC Pt 1と5の対策</p> <p>第5回 Unit 4 TOEIC Pt 2と5の対策</p> <p>第6回 Unit 5 TOEIC Pt 2と5の対策</p> <p>第7回 Unit 6 TOEIC Pt 2と5の対策</p> <p>第8回 Unit 7 TOEIC Pt 2と5の対策</p> <p>第9回 Unit 8 TOEIC Pt 2と5の対策</p> <p>第10回 Unit 9 TOEIC Pt 3と5の対策</p> <p>第11回 Unit 10 TOEIC Pt 3と5の対策</p> <p>第12回 Unit 11 TOEIC Pt 3と5の対策</p> <p>第13回 Unit 12 TOEIC Pt 4と6の対策</p> <p>第14回 Unit 13 TOEIC Pt 4と6の対策</p> <p>第15回 総合復習と到達度確認テスト</p>	
履修上の注意点	自主的に課題に取り組むこと。遅刻には厳しく対処します。	
教科書	<p>TOEIC TEST LISTENING SECTION 実践演習</p> <p>著者： 西谷恒志 他著</p> <p>出版社： 音羽書房鶴見書店</p> <p>出版年： 2017</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( )</p> <p>授業中課題 ( 40 )</p> <p>参加度 ( 60 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Listening VI <b>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 浅井 雅志	
テーマ	
Improve your listening comprehension	
授業の到達目標	
The aim of this class is to improve your listening comprehension further so that you can understand English more quickly and express yourself in English.	
授業の概要	
This class will be carried out entirely in English. You listen to a certain passage and take notes; then answer various questions either in the textbook or by the teacher. The teacher will also give you some background information about the topic of the text. Hopefully we will have some discussion on the topic. You will take an exam at the end of the term.	
準備学習(予習・復習)	
Listen to English as much as possible in whatever form--music, news, recorded stories.	
内 容	
第1回 Introduction; Intermediate Listening Comprehension 1 第2回 Intermediate Listening Comprehension 2 第3回 Intermediate Listening Comprehension 3 第4回 Intermediate Listening Comprehension 4 第5回 Intermediate Listening Comprehension 5 第6回 Intermediate Listening Comprehension 6 第7回 Intermediate Listening Comprehension 7 第8回 Intermediate Listening Comprehension 8 第9回 Intermediate Listening Comprehension 9 第10回 Intermediate Listening Comprehension 10 第11回 Intermediate Listening Comprehension 11 第12回 Intermediate Listening Comprehension 12 第13回 Intermediate Listening Comprehension 13 第14回 Intermediate Listening Comprehension 14 第15回 exam	
履修上の注意点	
Try to be active in responding and asking questions. If you are absent from the class more than 6 times, you cannot get a credit.	
教科書	
Intermediate Listening Comprehension	
著者:	
出版社: 松柏社	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 60 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 10 )	

## 2017 Syllabus

科目名 Writing &amp; Academic Presentation III &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 裕二	
テーマ 英語のプレゼンテーションに慣れる	
授業の到達目標 1. 英語のプレゼンテーションの苦手意識を克服することができる。2. 英語のプレゼンテーションのノウハウを学修することができる。3. 英語のプレゼンテーションに必要な言い回しを学ぶことができる。	
授業の概要 英語によるアカデミック・プレゼンテーションを成功に導くためには、苦手意識を克服するだけではなく、英語のプレゼンテーションの基本的なスキルを押さえ、英語特有の必要な言い回しを学び、英語の草稿を作成しておくこと(ライティング)である。授業は基本的に講義形式で行うが、第8回目以降は、受講生がテーマを選び、草稿を作成し、視覚材料を活用しながら、英語でプレゼンテーションを行うことが要求される。その後クラスで振り返りと自己評価を行う。講義スケジュールは、以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。	
準備学習(予習・復習) 受講に際し、自分が研究していることや、自分が今抱えている問題意識など、いくつか選んでおくことが望ましい。授業中は、人前で話すことに慣れるため、英語・日本語に関わらず積極的に発言することが期待される。復習として、授業で学修したテキストの内容や、英語のプレゼンテーション特有の言い回しを整理しておくこと。PowerPointの操作に慣れておくこと。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 苦手意識の克服・聴衆を知る・プレゼンテーションとは 第3回 準備に取りかかる・トピックを決める・構成を考える 第4回 選択したトピックと構成を発表する 第5回 トピックを調べる・草稿とは・草稿を書く 第6回 視覚材料の準備・プレゼンテーションを始める・効果的なプレゼンテーション 第7回 プレゼンテーションを終わらせる・リハーサル・振り返りと自己評価 第8回 リハーサルを経て、英語によるプレゼンテーション 第9回 振り返りと自己評価 第10回 リハーサルを経て、英語によるプレゼンテーション 第11回 振り返りと自己評価 第12回 英語によるプレゼンテーション、ディスカッション、クラスによる評価 第13回 英語によるプレゼンテーション、ディスカッション、クラスによる評価 第14回 英語によるプレゼンテーション、ディスカッション、クラスによる評価 第15回 まとめ	
履修上の注意点 プレゼンテーションの基礎力を身につけるには、各自の単独での学習に加え、グループおよび教員によるサポートが大切と考える。5回以上休むと単位が認められない。10分以上の遅刻で欠席とみなす。欠席する場合は、事前に連絡すること。	
教科書 英語のプレゼンテーション 著者： 田中真紀子 出版社： 研究社 出版年： 2014 ISBN： 9.78433E+11	
参考書 授業中に指示する 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（10） 小テスト（ ） 授業中課題（30） 授業中発表等（30） 参加度（30） 参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。	



## 2017 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation III <b>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 中井 弘一	
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>•To give presentations on controversial issues in Japan today</li> <li>•To express your own opinion on the meaning of life presented by the instructor</li> </ul>
授業の到達目標	Students will be able to acquire how to make power point presentations. Students will be able to understand what are necessary to give an effective presentation. Students will be able to express their opinions.
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Students read the text, "Keywords for Japan" and give presentations on the contents in pairs in the front.</li> <li>•Students discuss the issues in groups.</li> <li>•Students will be given 10 weekly writing assignments to deepen the understanding of the meaning of life.</li> <li>•Students are requested to give one short speech and two different presentations.</li> </ul>
準備学習(予習・復習)	Read the text in advance.
内 容	<p>第1回 Orientation Lecture on How to give an effective presentation(1)</p> <p>第2回 Lecture on How to give an effective presentation(2) Explanation &amp; Model presentation (What is the meaning of life?)</p> <p>第3回 Presentation for Weekly writing Assignment:Big Wave Students Presentation: Low Birth Rate</p> <p>第4回 Presentation for Weekly writing Assignment:A Botton of Life Students Presentation: Buying Organs</p> <p>第5回 Presentation for Weekly writing Assignment:Four Episodes on Family Students Presentation: Telecommuting</p> <p>第6回 Presentation for Weekly writing Assignment:Tomorrow: Silent Art Museum Students Presentation: Hikikomori</p> <p>第7回 Presentation for Weekly writing Assignment:Fear of Aging; getting old Students Presentation: Baby Boomer Retires</p> <p>第8回 Presentation for Weekly writing Assignment:More than money Students Presentation: Baby Boomer Retires</p> <p>第9回 Speech Presentations on Japanese Culture, "Cool Japan"</p> <p>第10回 Presentation for Weekly writing Assignment:A letter of love Students Presentation: :Eating Disorder</p> <p>第11回 Presentation for Weekly writing Assignment:Marriage Students Presentation: Baby Hatch</p> <p>第12回 Presentation for Weekly writing Assignment:Last Words Students Presentation: :Immigration</p> <p>第13回 Presentation for Weekly writing Assignment:The meaning of Life Students Presentation: Loser Dog</p> <p>第14回 Free presentation: Poster Session 1</p> <p>第15回 Free presentation: Poster Session 2 Consolidation</p>
履修上の注意点	To be late for class twice will be counted 1 absence. Lessons are given in English. So use English only.
教科書	<p>"Keywords for Japan today"</p> <p>著者: Paul Stapleton</p> <p>出版社: Cengage</p> <p>出版年: 2008 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( Writing assignments 50% )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( engagement 5% )</p> <p>小テスト ( Quizzes 15% )</p> <p>授業中発表等 ( Speech &amp; Presentations 30% )</p> <p>Students are requested to submit a short paper; three A4 sheets, about 1000 words on the issues in the textbook, Key Words for Japan in the end of the course.</p>

2017 Syllabus
---------------

科目名 **Writing & Academic Presentation III <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
-----	------------

講義期間 前期	定員 30
---------	-------

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 高田 悦子	
-----------	--

テーマ

ライティングで学ぶ英語プレゼンテーションの基礎

授業の到達目標

グローバル化が進む社会において、ますます重要になりつつある、世界の共通言語である英語によって、人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明することのできる「プレゼンテーション能力 (Presentation Skills in English)」の育成を目指します。

授業の概要

「知識を提供するプレゼンテーション(Informative Presentations)」と、「説得的プレゼンテーション(Persuasive Presentations)」を学び、自分でも作成します。3回のスピーチ(内1回はパワーポイント・プレゼンテーション)をおこないます。また、最後に 1000 字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 Orientation, Chapter 1 Section 1 The History of Our University  
 第2回 Chapter 1 Section 2 My Favorite Country  
 第3回 Chapter 1 Section 4 Japan's Education System  
 第4回 Review  
 第5回 PRESENTATION 1  
 第6回 Chapter 1 Section 5 What Is Science?  
 第7回 Chapter 1 Section 6 Social Networking Services  
 第8回 Chapter 2 Section 2 The Case for Organ Donation  
 第9回 Review  
 第10回 PRESENTATION 2  
 第11回 Chapter 2 Section 3 Global Warming: What Is to Be Done?  
 第12回 Chapter 2 Section 4 Exercise and Physical Fitness  
 第13回 Chapter 2 Section 5 Overpopulation: Causes and Consequences  
 第14回 Review  
 第15回 PRESENTATION 3

履修上の注意点

電子辞書を必ず持ってくること。(評価の対象になります。)

教科書

Writing for Presentations in English

著者: Yoshihito Sugita, Richard R. Caraker

出版社: 南雲堂

出版年: 2012

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20% )

授業中発表等 ( 40% )

参加度 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム演習

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 アンガス, ノーマン

テーマ

Practicum in Community Translation

授業の到達目標

1. To give students practice in translating a variety of texts that will be of practical use in the Yamashina community 2. To enable students to produce a variety of written styles 3. To increase awareness of the practicalities of translation work as related to the real world and real people. 4. To encourage a linguistic flexibility of mind.

授業の概要

In this course students will translate solely from Japanese texts into English. After a short introductory section in which we revise what we mean by community translation, and also a variety of translation strategies, students will work on a number of texts. All the texts will be actually related to the foreign community in Japan, and will cover a wide range of topics from medical care, education, to leisure, and daily life. This will build up into a portfolio that students can use as reference at a later stage, when they start on the project-based work of the Global Business II course. This course will be taught basically in English.

準備学習(予習・復習)

Texts will be handed out every two weeks. In the first class, we will read the texts and identify the translation issues involved. Then students will make first drafts as homework. This will take at least 1 hour. They will bring the texts to the following class and present their work before the other students. Finally the teacher will add comments and give feedback, and provide a model translation. Students should then compare their translations to the model, and those of other students after class (30 minutes). Students should be on the lookout for various translated materials that they come across in daily life that relate to the foreign community, like English menus, tourist pamphlets, notices and information produced by local government etc.

内 容

- 第1回 Revision: what is community translation?
- 第2回 Revision: translation strategies
- 第3回 Text 1: translating a menu (1)
- 第4回 Text 1: translating a menu (2)
- 第5回 Text 2: translating an event pamphlet (1)
- 第6回 Text 2: translating an event pamphlet (2)
- 第7回 Text 3: translating a tourist pamphlet (1)
- 第8回 Text 3: translating a tourist pamphlet (2)
- 第9回 Text 4: translating an official letter (1)
- 第10回 Text 4: translating an official letter (2)
- 第11回 Text 5: translating a document related to a service (1)
- 第12回 Text 5: translating a document related to a service (2)
- 第13回 Text 6: translating a medical document (1)
- 第14回 Text 6: translating a medical document (2)
- 第15回 Final discussion and evaluation

履修上の注意点

Since this is the main body of the CTP programme, students will be required to spend around 2 hours per week on the various translations. This year, we will also be producing an English Guide to Yamashina with funding from Kyoto City, and students' translations will make up the bulk of this publication, so a professional attitude, and high degree of accuracy will be essential to ensure the success of the project.

教科書

参考書

A Textbook of Translation

著者: P. Newmark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9.78014E+12

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 地域文化研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

英語圏の文化について、理解を深める。

授業の到達目標

英語圏のマイノリティに焦点をあて、彼らの生活様式、言語、教育など様々な角度から理解を深めていく。

授業の概要

国際化が進んでいる中、英語圏への理解は学生にとって必用不可欠なものになってきている。英語圏に住むマイノリティを知る事により、さらに英語圏の人々への理解を深めたい。

準備学習(予習・復習)

課題で扱った異文化への理解を、文献やインターネットを使って深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、成績評価方法についての説明など)、マイノリティ／マジョリティについてのディスカッション
- 第2回 Maori 1: 歴史、生活様式、アート(Ta moko)、Haka、国歌
- 第3回 Maori 2: バイリンガル教育、社会福祉問題、文化保存
- 第4回 Amish 1: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第5回 Amish 2: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第6回 Mexican American: 不正入国問題、職業、Mexicanの中でのHip-hop文化
- 第7回 Jamaican: 歴史、生活様式、言語、宗教
- 第8回 Jewish 1: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第9回 Jewish 2: アウシュビッツ
- 第10回 African American 1: 歴史、言語(発音/イディオム)、文学、音楽、人種差別
- 第11回 African American 2: 迫害の歴史
- 第12回 African American 3: ブラックパンサー党
- 第13回 Japanese American 1: 移民の歴史、移住者の生活など
- 第14回 Japanese American 2: 第二次大戦中の日系移民
- 第15回 まとめ、個人研究発表

履修上の注意点

積極的に課題に取り組むこと。また、遅刻に関しては厳しく対処します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

## 2017 Syllabus

科目名 英米文学論Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

近現代の短編を読む

授業の到達目標

英米を中心とし、ドイツ、フランス、ロシア、日本を含む近現代の短編を読むことを通して、文学の面白さを感じると同時に、背景となっている文化についての理解を深める。

授業の概要

近現代の代表的な短編を、1回に1-2編ずつ読みながら、文学がどのように人間と生への理解を広げ、深めるかを体験してほしい。もう一つ、作品の背景となっている文化について知ることとおして、それぞれの文化圏の諸側面にも理解を広げることを目指したい。具体的には、作品ごとに担当者を決め、レジュメを作って発表する。教員が必要な説明を加えた後、内容について議論する。また、期末にはペーパーを提出する。書き方については授業で指導する。

準備学習(予習・復習)

その回にやる作品は必ず読んでくること。そうしないと、その時間に議論されていることがまったく分からず、時間もエネルギーも無駄になる。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 Guy de Maupassant
- 第3回 Katherine Mansfield (1)
- 第4回 Katherine Mansfield (2)
- 第5回 J. M. M. de Assis
- 第6回 D.H.Lawrence (1)
- 第7回 D.H.Lawrence (2)
- 第8回 D.H.Lawrence (3)
- 第9回 Franz Kafka(1)
- 第10回 Franz Kafka (2)
- 第11回 Virginia Woolf
- 第12回 Leo Tolstoi (1)
- 第13回 Leo Tolstoi (2)
- 第14回 Leo Tolstoi (3)
- 第15回 総括。ペーパー提出

履修上の注意点

読む英文の分量が多く、積極的な参加が求められるので、相当の覚悟のある人の受講を期待している。欠席が6回以上になると単位は認められない。

教科書

The World's Greatest Short Stories

著者: James Daley, ed

出版社: Dover Publications

出版年: 2006

ISBN: 978-0486447162

参考書

成績評価

試験・レポート ((ペーパー)60)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

毎回どの程度読んできたか、また議論への参加度を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 国際ビジネスⅡ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

Community Translation Projects

授業の到達目標

1. 身近な地域の翻訳ニーズを知る 2. 自分の専門性を活かして地域社会に貢献する 3. 実社会に役立つ翻訳作業を通じて、外国語を学ぶことの実社会における意義を知る 4. グローバルな視点で地域社会を見つめ、またグローバルな視点で自分の専門性を認識する

授業の概要

山科区やその隣接地域にある企業、寺社、史跡、地域活動等を選び出し、それを海外に向けて発信することを想定して英訳する。前半で授業を進めるための準備をし、後半はグループになって校外に出て、グループ主体で翻訳のアウトプットを作成する。最後にそれをクラス内で発表し、講評し合う。

準備学習(予習・復習)

山科を中心とする地域に関心に向け、講義以外の時間も、インターネット、駅の広告、公共施設、図書館などを通じて情報収集する必要があります。地域社会に幅広い視点で関心を持って下さい。どんな人の活動を海外に知ってもらいたいのか、どんな史跡を海外の観光客に積極的に紹介したいのか、考えを書き留めておくようにしてください。授業は英語、日本語双方を使います。

内 容

- 第1回 イントロダクション:なぜ地域社会に目を向けるのか、なぜ英訳するのか、だれに発信するのかを考える。
- 第2回 フィールドワークの準備作業(1)
- 第3回 フィールドワークの準備作業(2)
- 第4回 フィールドワークの準備作業(3)
- 第5回 フィールドワークの実施と報告(1)
- 第6回 フィールドワークの実施と報告(2)
- 第7回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(1)
- 第8回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(2)
- 第9回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(3)
- 第10回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(4)
- 第11回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(5)
- 第12回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(6)
- 第13回 プレゼンテーション(1)
- 第14回 プレゼンテーション(2)
- 第15回 包括議論と講評

履修上の注意点

クラスの時間以外にも、各自で調べたり翻訳作業をしたりする時間が発生します。地域の人々や地域の経済活動に役立つという高い意識を持って、積極的に自分のアウトプットを完成させることを心掛けてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 English Communication I (英)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 裕二

テーマ

海外旅行の過程で使われる実践的な英語をリスニングをとおして学ぶ

授業の到達目標

1. 飛行機やホテルなどで使われる実践的な英語のリスニング能力を養うことができる。2. グループ・ディスカッションを反復することによって英語に慣れ親しむことができる。3. 海外旅行で役立つ表現や専門用語などを学ぶことができる。

授業の概要

授業前半は、リスニング教材を活用しながら講義を行い、理解を深めていく。各回の授業開始前には、前授業についての小テストを課し、内容理解・習得度を問う。授業後半には、学修したことを英語でグループ・ディスカッションを行い、クラスで発表する場を設ける。12回目以降は、グループで与えられた課題を調べ、クラスで英語で発表することが求められる。授業は、以下を予定しているが、学生の習熟度を見ながら、必ずしも最初に定めた講義スケジュールにとらわれることなく、フレキシブルに進める。

準備学習(予習・復習)

リスニングの授業では、新しい英語の表現を、はじめに耳から慣れることを重視するため、予習は不要である。むしろ復習を積極的にを行い、学修したことを整理し、声に出して繰り返し読み、語彙や専門的な表現を覚えること。授業には、辞書や辞書機能のついたスマホなどを持参すること。

内 容

- 第1回 英語のリスニング
- 第2回 飛行機機内のアナウンス、機内での英会話
- 第3回 入国、税関検査、両替、空港で必要な表現
- 第4回 ホテル滞在に必要な表現
- 第5回 バスの乗り方、道をたずねる
- 第6回 ツアーやレンタカーの手配、ホテルの予約変更
- 第7回 自動車による旅行、レストランでの昼食
- 第8回 列車での旅行
- 第9回 食事・飲み物に関する表現
- 第10回 病気、買物
- 第11回 タクシーに乗る、搭乗便のチェックイン
- 第12回 グループ発表とディスカッション(1)
- 第13回 グループ発表とディスカッション(2)
- 第14回 グループ発表とディスカッション(3)
- 第15回 グループ発表とディスカッション(4)

履修上の注意点

5回以上休むと単位が認められない。10分以上の遅刻で欠席とみなす。欠席する場合は、事前に連絡すること。

教科書

第1回講義で指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 30 )

参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。



## 2017 Syllabus

科目名 English Communication II (英)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	宮崎 裕二	
テーマ	英国政府が作成した文化観光の報告書を英語で読む	
授業の到達目標	<p>1. 一般教養人向けのアカデミックな英文を、スピーディーに読む力を身につけることができる。2. 英文で書かれた報告書の基礎的な構成を学ぶことができる。3. 理解した内容につき、他人に要点を論理的に伝えることができる。4. 東京五輪を控え文化観光に注目が集まる中、わが国の文化観光のあり方について問題意識をもつことができる。</p>	
授業の概要	<p>グローバル組織においては、英語を社内用語に指定することが多く、報告書や統計資料など、大量の英文を読むことが継続的に要求される。この授業では、英文のリーディングの基礎力の養成と、アカデミックな英文の構成や図表の見方を学習することを目的とする。受講者は、担当箇所の要点のレジメを作成し、要点を論理的に日本語で発表することが要求される。学期末には、関心を持った文化テーマについて英語でレポートを書き、提出することが要求される。テキストは、ロンドン五輪開催前に英国政府が作成した報告書「文化観光」を活用する。授業は、以下を予定しているが、受入人数と受講者の希望に応じて弾力的に変更する。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>各回の授業開始前には、前授業について小テストを課し、内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、語彙など整理しておくこと。</p>	
内 容	<p>第1回 英語のリーディング  第2回 イギリスにおける国際観光  第3回 国際観光とイギリス  第4回 観光の重要性  第5回 旅行者のトレンド  第6回 世界遺産  第7回 特徴的な施設  第8回 文化遺産  第9回 フード&amp;ドリンク  第10回 スポーツ  第11回 英国王室  第12回 カルチュラル・オリンピアド  第13回 コンテンポラリー・カルチャー  第14回 映画  第15回 フェスティバル</p>	
履修上の注意点	<p>リーディングの基礎力を身につけるには、各自の単独での読解に加え、グループおよび教師によるサポートが大切と考える。5回以上休むと単位が認められない。10分以上の遅刻で欠席とみなす。欠席する場合は、事前に連絡すること。</p>	
教科書	<p>第1回講義で説明する  著者:  出版社:  出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>授業中に指示する  著者:  出版社:  出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (10) 小テスト (30)  授業中課題 ( ) 授業中発表等 (30)  参加度 (30)</p>	

参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

---

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **English CommunicationⅢ(英)**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ハスカヴィル, プライアン

テーマ

Writing and communicating about Japan for an international audience

授業の到達目標

This course will aim to improve English writing skills and encourage an understanding of cultural features of Japan, through research, writing and discussion about various topics.

授業の概要

The course will be conducted entirely in English. Students will research, reflect and write short essays and also do a final presentation based on their writing.

準備学習(予習・復習)

Students must do some research and writing outside of class.

内 容

- 第1回 Course introduction/orientation
- 第2回 Preparation for Writing 1 (simple listing)
- 第3回 Writing 1
- 第4回 Revision of Writing 1 Preparation for Writing 2 (order of importance)
- 第5回 Writing 2
- 第6回 Revision of Writing 2 Preparation for Writing 3 (descriptive/layout)
- 第7回 Writing 3
- 第8回 Revision of Writing 3 Preparation for Writing 4 (comparison)
- 第9回 Writing 4
- 第10回 Revision of Writing 4 Preparation for Writing 5 (persuasive)
- 第11回 Writing 5
- 第12回 Revision of Writing 5 How to give an effective presentation
- 第13回 Preparation of final presentation
- 第14回 Giving final presentation in class
- 第15回 Presentations, final discussion/review and evaluations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes. In addition, students must complete 5 writing tasks, and conduct a final Power Point presentation based on these tasks.

教科書

参考書

materials provided by teacher and students

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 English CommunicationⅣ(英)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 高田 悦子

テーマ

自分の考え方を英語で表現し、プレゼンテーションする能力の養成

授業の到達目標

グローバル化の進む日本社会で求められている「英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーションスキル」を持つ人材の育成を目指します。

授業の概要

プレゼンテーションの基礎を復習し、その後はプロジェクトベースで展開します。「身の回りの紹介」、「世界のニュース」、「社会問題」などのトピックを通して＜提案＞や＜Power Pointの使い方＞などのプレゼン技術を学びます。最後に1000字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 Project 1“ Talking about People” : Step 1
- 第3回 Project 1“ Talking about People” : Step 2
- 第4回 Project 1“ Talking about People” : Step 3
- 第5回 Project 1“ Talking about People” : PRESENTATION
- 第6回 Project 2“ Causes and Effects” : Step 1
- 第7回 Project 2“ Causes and Effects” : Step 2
- 第8回 Project 2“ Causes and Effects” : Step 3
- 第9回 Project 2“ Causes and Effects” : PRESENTATION
- 第10回 Project 3“ Problems and Solutions” : Step 1
- 第11回 Project 3“ Problems and Solutions” : Step 2
- 第12回 Project 3“ Problems and Solutions” : Step 3
- 第13回 Project 3“ Problems and Solutions” : Step 4
- 第14回 Project 3“ Problems and Solutions” : PRESENTATION
- 第15回 Review

履修上の注意点

授業の3分の2以上の出席が必要です。辞書を必ず持ってきて下さい。(評価の対象になります。)

教科書

Speaking in Public

著者: Miyako Nakaya, John Pak

出版社: 誠美堂

出版年: 2009

ISBN: 9.78479E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト ( )

授業中課題 (60%)

授業中発表等 ( )

参加度 (20%)

## 2017 Syllabus

科目名 地域文化研究 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

英語圏の文化についての理解を深める

授業の到達目標

英国とアメリカを中心にした「英語圏文化」についての理解を深めるとともに、これらの国々と日本、そしてその中の個人であるあなたが、どのような関係をもっているか、もつべきかについて考える。

授業の概要

現在進行しているグローバリゼーションは、世界のあちこちで大きな力ともなりまた脅威ともなっているが、その「基準」となっているのが、アメリカであり、またその文化的母胎である英国である。それゆえ、現在に生きる私たちは、否が応でもこの「アングロサクソン文化」と直面せざるを得ない。事実、この文化はまず大衆文化としてわれわれの周りにはびこっている。この得体の知れないものと、私たちはどう付き合えばよいのか。単なる「好」にも「親」にも、はたまた「嫌」にも走らずに、日本が長い関係を持つこの文化圏をしっかりと見つめてみよう。この両国以外の英語文化圏にも触れる予定。授業では、なるべくビデオなどの視聴覚に訴えるものを使いながら、講義を進めていく。受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心を持ったテーマについて短いペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。

準備学習(予習・復習)

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせつせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

内 容

- 第1回 イントロダクション——日本と英語圏との接触の歴史
- 第2回 アイルランド
- 第3回 英国①
- 第4回 英国②
- 第5回 英国③
- 第6回 アメリカ①
- 第7回 アメリカ②
- 第8回 アメリカ③
- 第9回 アメリカ④
- 第10回 アメリカ⑤
- 第11回 アメリカ⑥
- 第12回 アメリカ⑦
- 第13回 アメリカ⑧
- 第14回 カナダ
- 第15回 オーストラリア; ニュージーランド; 総括

履修上の注意点

自分という人間を作り上げた日本文化を他の文化、とりわけ英米の文化と比較する習慣を身につけてください。6回以上欠席すると単位が認められません。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献一覧を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 80 )

授業中発表等 ( )

参加度（20）

講義に対する感想や疑問、それと小ペーパーが評価の大きな部分を占めます。たくさん出してください。

---

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語学**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 久保田 美佳	
<p>テーマ</p> <p>What is English language? What are its characteristics?</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>①To learn the basics of English linguistics ②To deepen understanding of the history, grammar, and social significance of the English language.</p>	
<p>授業の概要</p> <p>English is said to be the native language of 350 million people, an official language of 400 million people, and a second language (of various proficiency levels) of 1 billion people. The class is designed to study the English language from a variety of perspectives in order to answer the questions, "What is English language?" and "What are its characteristics?" This class is mostly conducted in English.</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>Students are required to read the designated sections of the textbook BEFORE coming to each class. (i.e. Students are expected to do some reading outside the class.) Also, since the lectures are mostly given in English, students are advised to study the relevant vocabulary items in advance.</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 English linguistics: Overview English as a global language  第2回 Language and Culture  第3回 English Phonetics  第4回 First Language Acquisition  第5回 American English and Other English Varieties  第6回 Pidgin English and Creole English  第7回 Future of English, English in Asia  第8回 Spelling and English Pronunciation  第9回 English Vocabulary  第10回 English Grammar  第11回 English Onomatopoeia  第12回 Social Dialects of English (Class-based Dialects, Black English, etc.)  第13回 The Importance of Language  第14回 Modern Linguistics  第15回 Review</p>	
<p>履修上の注意点</p>	
<p>教科書</p> <p>Twenty-Six Short Essays on English  著者: 清水克正、Naoyuki Akaso, William Herlofsky  出版社: 英宝社  出版年: 2013 ISBN: 4-269-41018-9</p> <p>参考書</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験・レポート (0) 小テスト (80)  授業中課題 ( ) 授業中発表等 (20)  参加度 (0)</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 英米文学論Ⅰ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 杉山 泰	

## テーマ

イギリス小説はなぜ18世紀に生まれたのか？ イギリスヴィクトリア時代の背景を学びながら、小説の台頭の秘密を考え、「手紙文学」がなぜ「novel小説」を生み出したのかを研究していく。

## 授業の到達目標

イギリス小説は18世紀に始まる。デフォーの『ロビンソン・クルーソー』(1719年)、スウィフトの『ガリバー旅行記』(1726年)、リチャードソンの『パミラ』(1740年)で、確立されていく。植民地時代はまさしく「男の時代」で植民地に向かう船長もプラント・ハンターも牧師もすべて男性であった。そのために国内には50万人もの女たちが「余り」、何としても結婚しようとする女たちの闘いすらあった。そうした時代に、「私」が主人公のnovelなる新しいジャンルの文学作品が生まれ、男性作家しか存在しなかったイギリスに女性作家すらnovelを書くようになる。ヴィクトリア時代の音楽やスポーツの台頭を調べ、現代の英米文学、さらには日本文学にも言及しながら、その時代を見事に描き出している小説を読むことの楽しさを学んでもらいたい。

## 授業の概要

まず、アメリカのHemingway, "Indian Camp"を全員で購読して、短編小説の面白さを味わってもらおう。その際、「死」を意識せざるをえなかった「時代背景(第一次世界大戦)」を調べてもらう。次に、日本とイギリスとの最初の出会い、1600年のウィリアム・アダムズについても調べてもらう。ヴィクトリア時代の小説や映画の鑑賞をしたあとで、最もイギリスらしいEnglish Gardenについて、講義する。最後に、村上春樹のデンマークでの「英語スピーチ」を購読して、小説の面白さや不思議さを学んでもらおう。

## 準備学習(予習・復習)

できれば、イギリス文学を映画化した作品を鑑賞しておいてもらいたい。

## 内 容

- 第1回 イギリス文学「チェックリスト」の完成。イギリス文学(文化)の知識度は？
- 第2回 イギリスのGive Wayの精神とは？ 道を譲る精神=Queuingの精神
- 第3回 アメリカのノーベル文学賞作家、ヘミングウェイ「インディアン飯場」講読。
- 第4回 factをfactとして描き出すhard-boiled styleの英語の行間を読む。(レポート1)
- 第5回 第一次世界大戦以前のヴィクトリア時代(ヘミングウェイ+村上春樹、「女のいない男たち」)研究。
- 第6回 『余った女たち(The Odd Women, 1893)』の世界と『ピアノレッスン(The Piano)』— 時代を映す映画と小説
- 第7回 『ピアノレッスン(The Piano)』の映画鑑賞
- 第8回 『ピアノレッスン』に描かれたピアノ — なぜイギリスが世界一のピアノ製造国になったのか(レポート2)
- 第9回 1901年に見た漱石のロンドン — 自転車に乗り、ピアノを弾く女性たち
- 第10回 D.H. Lawrence, The Rainbowの映画鑑賞(ヴィクトリア時代とスポーツ)
- 第11回 イギリスヴィクトリア時代のスポーツと女性解放(水泳とテニスと自転車)
- 第12回 村上春樹「アンデルセンの『影』の秘密」(英文)購読
- 第13回 村上春樹のアンデルセン賞授賞式での「英語スピーチ」で何を語ったのかを討論する。
- 第14回 知らない世界に出会った時の驚きをヘミングウェイもロレンスも村上春樹も小説で描き出しているが、異文化と直面したplant hunterについて、「論じていく。
- 第15回 「他者との出会い」こそが、小説やEnglish gardenを生み出したのだが、英米の小説と日本の小説、英国庭園と日本庭園を比較して何が分かってくるのだろうか。

## 履修上の注意点

大学でもイギリス映画が観賞できるし、映画館でも上映しているので、暇を見つけて、E.M. Forster, A Room with a View(1908)やJane Austen, Sense and sensibility(1811)、さらにはKazuo Ishiguro, The Remains of the Day(1989)などできるだけ映画鑑賞をすること。特に、ロレンスとヘミングウェイの映画はすべて大学のAVセンターで鑑賞できる。

## 教科書

適時プリントして配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

一人称小説とは何か — 異界の「私」の物語

著者: 廣野由美子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:



D.H. ロレンス 書簡集 I

著者: 吉村宏一・杉山泰

出版社: 松柏社

出版年: 2010

ISBN:

ヴィクトリア女王

著者: 君塚直隆

出版社: 中公新書

出版年: 2007

ISBN:

ガヴァネス(女家庭教師)

著者: 川本静子

出版社: 中公新書

出版年: 1994

ISBN:

イギリスの不思議と謎

著者: 金谷展雄

出版社: 集英社新書

出版年: 2012

ISBN:

ヴィクトリア朝の性と結婚

著者: 度会好一

出版社: 中公新書

出版年: 1997

ISBN:

イギリス帝国の歴史

著者: 秋田茂

出版社: 中公新書

出版年: 2012

ISBN:

英国式庭園

著者: 中尾真理

出版社: 講談社

出版年: 1999

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

毎回提出物があるので、遅れてもその提出物を出さないと評価はつかないのでかならず提出すること。

---

2017 Syllabus
---------------

科目名 **音声学**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 久保田 美佳	
テーマ Introduction to English Phonetics	
授業の到達目標 (1)To learn the basics of phonetics, while studying and practicing English pronunciation. (2)To become able to distinguish and properly pronounce English sounds.	
授業の概要 When a language is considered as a tool for oral communication, its sounds are understandably very important. The purpose of phonetics, as a discipline, is to study how exactly we humans use and control our digestive and respiratory organs such as lips, mouth, tongue, trachea, and lungs, to create the sounds of a language. We will study the characteristics of English sounds by comparing them with the sounds of Japanese. The class will be mostly conducted in English.	
準備学習(予習・復習) Students are expected to practice pronunciation outside the class, as well as in class. Students will be introduced to some useful websites to help them with their practice at home.	
内 容 第1回 What is phonetics? 第2回 English Vowels ① 第3回 English Vowels ② 第4回 English Vowels ③ 第5回 English Consonants ① 第6回 English Consonants ② 第7回 English Consonants ③ 第8回 Syllable & Word Stress, Sentence Stress 第9回 Pause, Pitch, and Intonation 第10回 Elision 第11回 Assimilation 第12回 Intonation (series, alternative question, etc.) 第13回 Intonation (tag question, etc.) Strong and Weak Form of Function Words 第14回 Presentation 第15回 Presentation	
履修上の注意点	
教科書 Sounds Make Perfect 英語音声学への扉—発音とリスニングを中心に— 著者： 今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子 出版社： 英宝社 出版年： 2010 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 0 ) 授業中課題 ( 0 ) 参加度 ( )	小テスト ( 40 ) 授業中発表等 ( 60 )

## 2017 Syllabus

科目名 **翻訳基礎論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 アンガス, ノーマン	
テーマ	
An Introduction to Translation Practice, Strategies and Theory	

### 授業の到達目標

(1) To increase the students' awareness about languages and their various characters (2) To provide them with knowledge about the different types of translation (3) To equip them strategies to help them translate between English and Japanese successfully. This class will be taught in English.

### 授業の概要

This course is intended as a practical introduction to those interested in language in general, and in the practice of translating from one language to another in particular. We will take an initial look at the linguistic differences between different languages, but between Japanese and English in particular. Then we will look at the translation process itself, touch on a little translation theory, and then look at different kinds of translation. In the central section of the course, we will translate a number of so-called 'simple' English texts, analyze them for the problems they display, and look at various strategies for solving them. Finally, we will undertake the translation of a short set text.

### 準備学習(予習・復習)

I have a wide range of translation texts and exercises that can be made available for students who wish to practice the strategies taught in class, and a wide variety of books on the subject of translation. But since the content of this course is more technical than students will have so far experienced, it is vital that all students go over the class handouts from the previous week, and are familiar with the specialist content thereafter. This will require 40-60 minutes per week.

### 内 容

- 第1回 PowerPoint: the world's languages, language families and a comparison of the Japanese and English languages
- 第2回 PowerPoint: different types of translation
- 第3回 PowerPoint: the translation process
- 第4回 PowerPoint: introduction to translation theory
- 第5回 Two Basic Translation Strategies: modulation and transposition
- 第6回 Other Basic Translation Strategies
- 第7回 Prioritization, Voice and Unity
- 第8回 Textual Analysis
- 第9回 How to Use Dictionaries, the Thesaurus, the Internet, and Other Translation Resources; and their Dangers
- 第10回 Translation of a Non-literary Text
- 第11回 Translation of a Literary Text
- 第12回 Advanced Translation Strategies: general
- 第13回 Advanced Translation Strategies: componential analysis
- 第14回 Translation of a Set Text
- 第15回 Final Discussion and Evaluation

### 履修上の注意点

Students should take this course before they take the 翻訳研究 course.

### 教科書

### 参考書

P. Newmark

著者: A Textbook of Translation

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139-125935

### 成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

Students will have a short translation assignment to be handed in towards their final grade as well as an 'unseen' translation test.

## 2017 Syllabus

科目名 通訳基礎論

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者 西村 友美		
テーマ 通訳入門		
授業の到達目標	(1) 通訳学の基礎知識を学ぶ。(2) 基本的な通訳訓練法を身につける。(3) 通訳過程を理解し、簡単な通訳ができるようになる。	
授業の概要	聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどうなっているのだろうか。通訳学の基礎的な知識を学びながら、通訳をいろいろな角度から観察したり、解剖してその中身を覗いてみよう。プロの通訳者は訓練の結果、きわめて高い語学運用能力を身につける。その訓練法は大学での英語学習全般にも資する要素がある。授業では、シャドーイングをはじめ、一般の語学学習にもたいへん効果があるといわれる通訳訓練を実際におこなうことによって、受講生の英語力全般を養成する。最終的には、日本の諸相を英語話者に紹介する場面でボランティアで通訳できるようになることをめざす。	
準備学習(予習・復習)	授業で紹介する通訳トレーニングを授業外で毎日実行してください。また、学んだことを別の場で試してみたり、応用したりしてみてください。	
内 容	<p>第1回 通訳とは、通訳実例の観察</p> <p>第2回 Unit 1 自己紹介、通訳実例の分析</p> <p>第3回 Unit 2 社会、クイック・リスポンス</p> <p>第4回 Unit 3 大学生生活、シャドーイング(1)</p> <p>第5回 Unit 4 教育(留学)、シャドーイング(2)</p> <p>第6回 Unit 5 社会(ファッション)、スラッシュ・リーディング</p> <p>第7回 Unit 6 医療(メタボリック症候群)、サイト・トランスレーション</p> <p>第8回 Unit 7 日本文化(アニメ・漫画)、中間まとめ</p> <p>第9回 Unit 8 教育(ボランティア活動)、逐次通訳(1)</p> <p>第10回 Unit 9 社会(長寿社会)、逐次通訳(2)</p> <p>第11回 Unit 10 国際交流 I (実践演習)、逐次通訳(3)</p> <p>第12回 Unit 11 日本文化(伝統的な行事)、同時通訳(1)</p> <p>第13回 Unit 12 環境、同時通訳(2)</p> <p>第14回 Unit 13 国際交流 II (実践演習)、「「On-line の理解」の解剖と日英語対照研究</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>TOEIC150点アップを目指す 通訳訓練法</p> <p>著者: 越智 美江</p> <p>出版社: 大阪教育図書</p> <p>出版年: 2010 ISBN:</p> <p>その他配付物</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>授業で指示する</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート ( 70 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 International Business English

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスにおける実践的英語コミュニケーション力と貿易実務の習得

授業の到達目標

国際ビジネスにおける標準語は英語です。海外のビジネスパートナーとの日々の情報交換はEメールが主流であるが取引相手は英語ネイティブとは限らず、ノンネイティブの場合も多い。そのため高度なレベルの英語力は必要ないがシンプルでベーシックな確に意図が相手に伝えられる実践的なものでなければなりません。また貿易で使用される書類は、どの国で発行されようが全て英語で書かれています。国際ビジネスでは英語力だけでなく貿易全体の仕組みや、貿易実務、専門用語の知識が必須です。さらにスムーズな商談を進めるための交渉能力には異文化理解も国際ビジネスパーソンには必要となります。将来国際ビジネスに係る者にとって最低限身につけておくべき実務能力として、基礎的な英語力、コミュニケーション力、貿易実務を習得します。日商ビジネス英語検定3級の合格レベルを目標とします。

授業の概要

国際商取引に必要な英文ビジネス・ライティングおよび貿易基礎知識を習得します。実際に国際ビジネスの現場で使用されている実践的英語を学びます。これまで学んだ英語の基礎を見直して確実な理解を目指し、仕事の現場で使えるリアルな英語を学びます。また長年の海外業務に携わっている私の経験を通じたビジネス分野における異文化理解についても受講生と一緒に考えたいと思います。

準備学習(予習・復習)

事前の予習は不要ですが知識を定着させるため復習は必須です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:国際ビジネスコミュニケーションについて
- 第2回 貿易取引の基本的な流れ
- 第3回 英文ビジネスレターの構成
- 第4回 英文ビジネスレター・Eメールの基礎
- 第5回 取引交渉で使われる英語
- 第6回 効果的な英文ビジネスライティング
- 第7回 国際取引で使われる英文書類
- 第8回 定型貿易条件インコタームズの英文解釈
- 第9回 英文契約書の考え方と理解
- 第10回 英文契約書の見方(ケーススタディ)
- 第11回 国際物流で使われる英語
- 第12回 外国為替と海外決済で使われる英語
- 第13回 海外取引のリスク管理
- 第14回 ビジネス英語のコンテキストと異文化理解
- 第15回 総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。授業中のパソコン使用は不可。教室の前方に着席するように心がけること。

教科書

日本商工会議所編「日商ビジネス英語検定 3級公式テキスト(改定版)」

著者: 日本商工会議所編

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (34%)

小テスト (33%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (33%)

適時実施する小テストと期末テスト及び出席日数を勘案して総合的に評価する。期間中に日商ビジネス英語検定3級に合格した者は最終評価を特別加点する。

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語教育論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 中井 弘一	

## テーマ

英語教育の未来:何のための英語教育なのかを問い続けよう

## 授業の到達目標

・日本における英語教育の変遷を認識し、今後の展望を考える知識を得る・グローバル化の進展などにより英語教育がどのような影響を受けているかについて自分の考えを述べる事ができる・英語という言語文化を通してその価値観やものの考え方を話すことができる

## 授業の概要

グローバル化の進展と共に英語教育の充実が一層求められる中、我が国の英語教育施策、児童生徒の英語学習に関する状況、生徒・教員の英語力の現状、諸外国における外国語教育の状況、英語教育における国際理解教育、言語学習指導理論等、幅広いテーマを取り上げ、英語教育はどうあるべきか、日本における英語教育全般についての理解を、発表活動を通して深める。

## 準備学習(予習・復習)

新聞等による教育時事や文科省報道発表などの情報を収集するようにする

## 内 容

- 第1回 日本における英語教育の概観(幕末から現在に至るまで)
- 第2回 グローバル人材とは 英語が使える日本人とは
- 第3回 21世紀に求められる英語教育 中央教育審議会の答申
- 第4回 次期学習指導要領がめざす英語教育
- 第5回 児童生徒の英語学習に関する状況(意識・学習時間等) 教員の英語力
- 第6回 英語教育における国際理解教育・異文化理解トレーニング
- 第7回 コミュニケーションとしての英語教育
- 第8回 語彙指導のあり方
- 第9回 発音指導のあり方
- 第10回 文法指導のあり方
- 第11回 「読むこと」の指導のあり方
- 第12回 「書くこと」の指導のあり方
- 第13回 アクティブ・ラーニングとは
- 第14回 まとめ1討論:何のための英語教育なのか
- 第15回 まとめ2発表:英語教育の未来

## 履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

## 教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

日本の英語教育

著者: 山田雄一郎

出版社: 岩波新書

出版年: 2005

ISBN:

「なんで英語やるの?」の戦後史《国民教育》としての英語、その伝統の成立過程

著者: 寺沢拓敬

出版社: 研究社

出版年: 2014

ISBN:

異文化トレーニング

著者： 八代京子

出版社： 三修社

出版年： 2005

ISBN:

コミュニケーションとしての英語教育論

著者： 鈴木佑治

出版社： アルク

出版年： 1997

ISBN:

日本人は英語をどう学んできたか

著者： 江利川春雄

出版社： 研究社

出版年： 2009

ISBN:

ことばの研究と英語教育

著者： 織田稔

出版社： 関西大学出版部

出版年： 2000

ISBN:

「国際英語論」で変わる日本の英語教育

著者： 塩澤忠ら

出版社： くろしお出版

出版年： 2016

ISBN:

認知と言語

著者： 濱田英人

出版社： 開拓社

出版年： 2016

ISBN:

英単語の世界

著者： 寺澤盾

出版社： 中公新書

出版年： 2016

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（レポート50%）

小テスト（ ）

授業中課題（授業中課題10%）

授業中発表等（授業中の発表30%）

参加度（討論への積極的な参加10%）

---



## 2017 Syllabus

科目名 **グローバルビジネス I**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 弓場 俊也

テーマ

グローバル社会で求められる幅広い視野を持ったビジネスパーソンを目指します。

授業の到達目標

あらゆる日本企業が海外ビジネスに取り組むグローバル化時代に入り、国際ビジネスに対応できるスペシャリストが求められています。将来海外ビジネスの多様なフィールドで活躍を目指す人が必要な異文化理解とコミュニケーション能力を習得します。

授業の概要

国際ビジネスの現場に長年携わっている私の経験を通じた実務的視点から、実例を多く紹介し異文化理解をわかりやすく解説します。また国際ビジネス標準語である英語のスキルアップを目指す。そのために日本文化をベーシックでシンプルな表現で説明できるよう英語による討論、スピーチとプレゼンテーションの修練を行います。

準備学習(予習・復習)

Japan FAQ テキストについて必要な予習は適時指示をします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・国際ビジネスにおける異文化理解
- 第2回 Japan FAQ テキストによる実践修練
- 第3回 言語コミュニケーションにおけるコンテクスト
- 第4回 Japan FAQ テキストによる実践修練
- 第5回 異文化によるビジネス思考の相違
- 第6回 Japan FAQ テキストによる実践修練
- 第7回 グローバルビジネスで使用される英語
- 第8回 Japan FAQ テキストによる実践修練
- 第9回 国際ビジネスにおける共通ルール
- 第10回 Japan FAQ テキストによる実践修練
- 第11回 国内契約と国際契約の考え方
- 第12回 Japan FAQ テキストによる実践修練
- 第13回 グローバル経営について
- 第14回 Japan FAQ テキストによる実践修練
- 第15回 総括と確認

履修上の注意点

TOEIC600点または英検準2級レベル以上、またはこのレベルを目指して勉強している人が望ましい。雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がける。

教科書

Japan FAQ(ラダーシリーズ)

著者: David Thayne

出版社: IBCパブリッシング

出版年: 2011年

ISBN: 7.84897E+11

参考書

成績評価

試験・レポート (試験34%)

小テスト (33%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (33%)

適時講義内で実施する小テストと学期末試験および参加度により評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **グローバルビジネスⅡ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

Community Translation Projects

授業の到達目標

1. 身近な地域の翻訳ニーズを知る 2. 自分の専門性を活かして地域社会に貢献する 3. 実社会に役立つ翻訳作業を通じて、外国語を学ぶことの実社会における意義を知る 4. グローバルな視点で地域社会を見つめ、またグローバルな視点で自分の専門性を認識する

授業の概要

山科区やその隣接地域にある企業、寺社、史跡、地域活動等を選び出し、それを海外に向けて発信することを想定して英訳する。前半で授業を進めるための準備をし、後半はグループになって校外に出て、グループ主体で翻訳のアウトプットを作成する。最後にそれをクラス内で発表し、講評し合う。

準備学習(予習・復習)

山科を中心とする地域に関心に向け、講義以外の時間も、インターネット、駅の広告、公共施設、図書館などを通じて情報収集する必要があります。地域社会に幅広い視点で関心を持って下さい。どんな人の活動を海外に知ってもらいたいのか、どんな史跡を海外の観光客に積極的に紹介したいのか、考えを書き留めておくようにしてください。授業は英語、日本語双方を使います。

内 容

- 第1回 イントロダクション:なぜ地域社会に目を向けるのか、なぜ英訳するのか、だれに発信するのかを考える。
- 第2回 フィールドワークの準備作業(1)
- 第3回 フィールドワークの準備作業(2)
- 第4回 フィールドワークの準備作業(3)
- 第5回 フィールドワークの実施と報告(1)
- 第6回 フィールドワークの実施と報告(2)
- 第7回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(1)
- 第8回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(2)
- 第9回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(3)
- 第10回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(4)
- 第11回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(5)
- 第12回 Community Translation Project Work(翻訳アウトプット作り)(6)
- 第13回 プレゼンテーション(1)
- 第14回 プレゼンテーション(2)
- 第15回 包括議論と講評

履修上の注意点

クラスの時間以外にも、各自で調べたり翻訳作業をしたりする時間が発生します。地域の人々や地域の経済活動に役立つという高い意識を持って、積極的に自分のアウトプットを完成させることを心掛けてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語 I A～IVB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。 クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

日本語、英語どちらでも通用する高い論理的思考力の習得

授業の到達目標

英語や日本語の勉強は、結局論理学の勉強であるという認識を持ちながら、ビジネスの現場で最も強く求められる論理的理解力、論理的思考力、論理的説明力の習得を目指す。

授業の概要

国際機関の公表レポートなどを使って、輪読、発表、議論を繰り返し、時々テーマを決めて小レポートを英語、日本語双方で課す。教材は、追加的に適宜演習の中で配布する。

準備学習(予習・復習)

担当を決めて輪読する。担当者はしっかり準備して発表すること。また担当以外の者も、議論に参加するために十分予習して臨むこと。小レポートは時間外の活動になるので、しっかりと時間を確保して書くこと。

内 容

第1回 イントロダクション:国際経済、国際金融の概観を講義。2回目以降の進め方の説明

第2回 輪読:The Economist, A short history of modern finance (1)

第3回 輪読:The Economist, A short history of modern finance (2)

第4回 輪読:The Economist, A short history of modern finance (3)

第5回 輪読:The Economist, A short history of modern finance (4)

第6回 輪読:The Economist, A short history of modern finance (5)

第7回 輪読:The Bank of England, Money in the modern economy: an introduction (1)

第8回 輪読:The Bank of England, Money in the modern economy: an introduction (2)

第9回 輪読:The Bank of England, Money in the modern economy: an introduction (3)

第10回 輪読:The Bank of England, Money in the modern economy: an introduction (4)

第11回 輪読:The Bank of England, Money in the modern economy: an introduction (5)

第12回 輪読:The Bank of England, Money in the modern economy: an introduction (6)

第13回 小レポートの発表、議論、講評

第14回 小レポートの発表、議論、講評

第15回 小レポートの発表、議論、講評

履修上の注意点

自分の言葉で理解し、自分の言葉でレポートを書くことが大事です。演習中の積極的な議論を重視しますので、欠席が多いと評価できません。積極的に当てますので、どんなわからなくても、わからないなりに考えて答えをひねり出す姿勢が大事です。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅰ〈\*B〉

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間	前期	定員
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	
担当者	中井 弘一	
テーマ	中等教育における効果的な英語授業実践のあり方と指導方法を探る	
授業の到達目標	<p>・生徒の学びを促すには教材・学習材をいかに展開するべきかを考える視点を身につける・様々な教材の内容面と文法語彙の機能面の取り扱いに基づいた、「思考力・判断力・表現力」をつける授業展開例の作成とそのための実践的な指導技術の基礎力を身につける・将来の英語教員としての資質能力として、教材開発力、授業デザイン力、学習課題調査など授業改善に取り組む学究的な姿勢と課題整理能力を身につける</p>	
授業の概要	<p>・着実な英語力による教材の深い読み込み・理解が授業展開を豊かにするという理論をもとに、教材・教具をどのように準備し指導展開することが効果的な「習得」「活用」「探究」につながるのか、そのための授業のデザイン・展開法を身につける実践的な演習を行う・実践的な調査活動、文献研究を通して、「教材開発研究」「指導と効果」「授業デザイン」など、各自のテーマに合わせた研究活動を論文としてまとめる素地を固める</p>	
準備学習(予習・復習)	教育時事情報を収集する	
内 容	<p>第1回 実践英語授業学としてのテーマのあり方(オリエンテーション)・学習者から見た英語教育:生徒が学びたいと思っているものはなにか  第2回 授業展開を豊かにするための基本的な授業設計のあり方  第3回 生徒の英語力を踏まえた語彙指導・文法指導:意欲を起こさせる工夫・方法  第4回 教材の読み込み演習(1):内容理解に重点を置いた(補助)教材作成と指導法  第5回 教材の読み込み演習(2):文法語彙に重点を置いた(補助)教材作成と指導法  第6回 指導技術の理論と実践(1):教材・教具(黒板・ピクチャーカード・フラッシュカード等)の活用  第7回 指導技術の理論と実践(2):学習プリントの功罪・どのような内容にするのがよいか  第8回 指導技術の理論と実践(3):音声による指導(音読・オーラルイントロダクション等)  第9回 授業デザイン(1):「活用」に重点を置いた授業展開の工夫・教材作成  第10回 授業デザイン(2):「活用」に重点を置いた授業展開の模擬訓練と研究討議  第11回 授業デザイン(3):「探究」に重点を置いた授業展開の工夫・教材作成  第12回 授業デザイン(4):「探究」に重点を置いた授業展開の模擬訓練と研究協議  第13回 SELHi 研究開発校や研究指定校における授業展開の実況  第14回 授業診断の方法:アクションリサーチ、レビュー  第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点		

## 教科書

JACET教育問題研究会

著者:『英語科教育の基礎と実践:成長する英語教師を目指して』

出版社:三修社

出版年:2012

ISBN:

## 参考書

新しい英語科授業の実践

著者:石田雅近

出版社:金星堂

出版年:2013

ISBN:

英語授業ハンドブック<中学校編>

著者： 金谷憲

出版社： 大修館書店

出版年： 2009

ISBN:

英語授業ハンドブック<高校編>

著者： 金谷憲

出版社： 大修館書店

出版年： 2009

ISBN:

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 外国語

著者： 国立教育政策研究所教育課程研究センター

出版社： 教育出版

出版年： 2012

ISBN:

グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法

著者： 飯野厚

出版社： 成美堂

出版年： 2011

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（まとめの小レポート 40%）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（・各テーマににおける発表40%）

参加度（討論への積極的な参加20%）

学生各自がテーマを設定し、それに基づいてA4、5ページ以上6ページまで40字×37行 ワード文書のレポートを提出

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I &lt;\*C&gt;

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間	前期	定員
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語 I A～IVB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	
担当者	ファゼカシュ, バラージュ	
テーマ	ビジネス上役立つ英語コミュニケーション能力を身につける	
授業の到達目標	① 議論する能力を極める ② 企業やビジネスを紹介できるようになる ③ 経営の基礎知識を身につける	
授業の概要	この授業では、ビジネスに役立つ英語を学ぶ。各授業に講義、演習、グループワークなどがあり、英語を使える場をできるだけたくさん設ける。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 イントロダクション 第2回 経営学入門 第3回 ビジネスケースを読む 第4回 プレゼンテーション入門 第5回 学生によるプレゼンテーション 第6回 学生によるプレゼンテーション 第7回 学生によるプレゼンテーション 第8回 ビジネスケースを読む 第9回 ディベート入門 第10回 討論: ケースを議論する 第11回 討論: ケースを議論する 第12回 学生によるプレゼンテーションII 第13回 学生によるプレゼンテーションII 第14回 学生によるプレゼンテーションII 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書	なし	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験・レポート (0)	小テスト (0)	
授業中課題 (20)	授業中発表等 (60)	
参加度 (20)		

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語コミュニケーション演習Ⅰ〈\*D〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 宮崎 裕二

## テーマ

グローバルな視点で国際観光を考え、自己理解を深める

## 授業の到達目標

1. グローバルな視野から、国際観光に関する理論や実践など深い知識を身につけながら、わが国における国際観光の在り方について問題意識をもつことができる。2. 政治や政策、経済、経営、マーケティング、外国人とのコミュニケーションなど幅広い対象領域を含む国際観光をとおして、それぞれに幅広い興味をもつことができる。3. 効果的なプレゼンテーションの技法(前期)、説得力のあるレポートのライティング(後期)を学習することができる。

## 授業の概要

世界全体の海外渡航者が年間11億人に達し、その国際収支が1兆ドルを超える規模となるなど、現代の暮らしや経済社会において、国際観光は、きわめて大きな位置をしめている。国際観光は、日本だけではなく、グローバル規模での国家・地域間における外国人観光客の争奪競争である。さらに国際観光は、政府・自治体だけではなく、航空会社、ホテル、テーマパーク、旅行会社、商業施設なども重要な役割を担っている。この授業では、国際観光に焦点をあて、各回の授業で担当者が、テキストの担当部分についてレジメを用意して、口頭発表を行い、教員が必要な補足説明を加え、それをもとにディスカッションを行う。授業運営に関しては、受講生の意見も尊重する。学期末には、関心を持ったテーマについてレポートを書き、提出することが要求される。授業スケジュールは、以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

## 準備学習(予習・復習)

1. 世界中の観光に関連するニュースや情報など貪欲に入手しながら、国際観光に関する問題意識を高めておくこと。2. わが国のインバウンド観光(訪日外国人観光)に関して、誰(政府・自治体・企業・団体などが、どのような目的で、何を行っているのかを意識しておくこと。3. 上記について、受講者は、クラス全体に問題意識を共有した上で、グループ・ディスカッションを進行する。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 プレゼンテーションの基礎(1)
- 第3回 受講生による発表(1)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(2)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(3)、クラスでの討論
- 第6回 プレゼンテーションの基礎(2)
- 第7回 受講生による発表(4)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(5)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(6)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(7)、クラスでの討論
- 第11回 プレゼンテーションの基礎(3)
- 第12回 受講生による発表(8)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(9)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(10)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(11)、クラスでの討論

## 履修上の注意点

欠席する場合は、必ず事前に連絡をすること。

## 教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅰ〈\*E〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。 クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

外国語(英語)習得と学習(教授)

授業の到達目標

①外国語を身につけるという現象をさまざまな観点から考察し、第2言語習得論について理解を深める。②クラスで効果的なプレゼンテーションが行えるように、また、説得力のあるレポートを書くことができるようにする。

授業の概要

わたしたちは、長い期間、英語という外国語を勉強してきた。相当な努力をして、勉強をしても、母語のように容易に外国語を操ることはできない。外国語を身につけるという現象にはどのようなメカニズムが働いているのだろうか。それは、母語の習得とはどういう点で異なり、どういう点で共通しているのだろうか。このクラスでは、下記の教科書と補足の参考文献(プリント配布)を受講生のプレゼンテーションを中心にして読み進めながら、さまざまな観点から「外国語を身につけるという現象」を考察し、近年、目覚ましい発展をとげている第2言語習得論についての理解を深めていきたい。

準備学習(予習・復習)

クラスで参考文献を紹介するので、文献をたくさん読むこと。最新の論文の多くは、ネット上で簡単に手にいれることもできます。教科書以外にも各自に文献を割り当てて補足のプレゼンテーションを行ってまいります。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションの基礎
- 第3回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論とまとめ

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

はじめての第二言語習得論講義: 英語学習への複眼的アプローチ

著者: 馬場今日子, 新多了

出版社: 大修館書店

出版年: 2016

ISBN: 9.78447E+12

参考書

クラスで紹介しませ

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(50)

小テスト( )



## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。 クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

国際ビジネスや国際金融で通用する論理的思考力の習得

授業の到達目標

英語や日本語の勉強は、結局論理学の勉強であるという認識を持ちながら、ビジネスの現場で最も強く求められる論理的理解力、論理的思考力、論理的説明力の習得を目指す。同時に、国際ビジネスを進める上での有用な経済金融の基礎知識を身に付け、社会人になってからのコミュニケーション力にしっかりと重みを持たせる力をつける。

授業の概要

Financial Times、BBCなどのメディア英語を教材として、輪読、発表、議論を繰り返す。社会、政治、経済、金融分野で、時々テーマを決めて小レポートを英語、日本語双方で書く。教材は、追加的に適宜配布する。

準備学習(予習・復習)

担当を決めて輪読する。担当者はしっかり準備して発表すること。また担当以外の者も、議論に参加するために十分予習して臨むこと。小レポートは時間外の活動になるので、しっかりと時間を確保して書くこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション:国際経済、国際金融の概観を講義。2回目以降の進め方の説明  
 第2回 Financial Timesの発表と議論  
 第3回 Financial Timesの発表と議論 および各自の小レポートのテーマ設定  
 第4回 Financial Timesの発表と議論  
 第5回 Financial Timesの発表と議論  
 第6回 Financial Timesの発表と議論  
 第7回 各自の小レポートの中間発表  
 第8回 各自の小レポートの中間発表  
 第9回 各自の小レポートの中間発表  
 第10回 BBCのNews articlesの発表と議論  
 第11回 BBCのNews articlesの発表と議論  
 第12回 BBCのNews articlesの発表と議論  
 第13回 各自の小レポートの最終発表  
 第14回 各自の小レポートの最終発表  
 第15回 各自の小レポートの最終発表

履修上の注意点

自分の言葉で理解し、自分の言葉でレポートを書くことが大事です。演習中の積極的な議論を重視しますので、欠席が多いと評価できません。積極的に当てますので、どんなわからなくても、わからないなりに考えて答えをひねり出す姿勢が大事です。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈\*B〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

中等教育における効果的な英語授業実践のあり方と指導方法を探る

授業の到達目標

・生徒の学びを促すには教材・学習材をいかに展開するべきかを考える視点を身につける・様々な教材の内容面と文法語彙の機能面の取り扱いに基づいた、「思考力・判断力・表現力」をつける授業展開例の作成とそのための実践的な指導技術の基礎力を身につける・将来の英語教員としての資質能力として、教材開発力、授業デザイン力、学習課題調査など授業改善に取り組む学術的な姿勢と課題整理能力を身につける

授業の概要

・着実な英語力による教材の深い読み込み・理解が授業展開を豊かにするという理論をもとに、教材・教具をどのように準備し指導展開することが効果的な「習得」「活用」「探究」につながるのか、そのための授業のデザイン・展開法を身につける実践的な演習を行う・実践的な調査活動、文献研究を通して、「教材開発研究」「指導と効果」「授業デザイン」など、各自のテーマに合わせた研究活動を論文としてまとめる素地を固める

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 学びとは何か インタロダクション 教育方法学の諸理論を概観と現代の教育の潮流  
 第2回 受講生による現代の教育課題検討の発表と討論第1グループ  
 第3回 受講生による現代の教育課題検討の発表と討論第2グループ  
 第4回 受講生による現代の教育課題検討の発表と討論第3グループ  
 第5回 論文のまとめ方①  
 第6回 受講生による研究テーマ検討の発表と討論(ブレインストーミング)第1グループ  
 第7回 受講生による研究テーマ検討の発表と討論(ブレインストーミング)第2グループ  
 第8回 受講生による研究テーマ検討の発表と討論(ブレインストーミング)第3グループ  
 第9回 論文のまとめ方②  
 第10回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論①  
 第11回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論②  
 第12回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論③  
 第13回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論④  
 第14回 アクティブ・ラーニングと思考力・判断力・表現力の育成  
 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

英語教育学の実証的研究法

著者: 寺内正典

出版社: 研究社

出版年: 2016

ISBN:

新しい英語科授業の実践

著者: 石田雅近

出版社: 金星堂

出版年: 2013

ISBN:

英語授業ハンドブック<中学校編>

著者： 金谷憲

出版社： 大修館書店

出版年： 2009

ISBN:

英語授業ハンドブック<高校編>

著者： 金谷憲

出版社： 大修館書店

出版年： 2009

ISBN:

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 外国語

著者： 国立教育政策研究所教育課程研究センター

出版社： 教育出版

出版年： 2012

ISBN:

グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法

著者： 飯野厚

出版社： 成美堂

出版年： 2011

ISBN:

外国語教育研究ハンドブック

著者： 竹内理

出版社： 松拍社

出版年： 2014

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（まとめの小レポート 40%）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（授業中の発表 40%）

参加度（討論への積極的な参加20%）

学生各自がテーマを設定し、それに基づいてA4、5ページ以上6ページまで40字×37行 ワード文書のレポートを提出

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈\*C〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。 クラス指定

担当者 ファゼカシュ, バラージュ

テーマ

ビジネス上役立つ英語コミュニケーション能力を身につける

授業の到達目標

① 議論する能力を身につける ② マーケティングの基礎を理解する ③ 製品を紹介し、顧客セグメントを分析できる ④ プレゼンテーション能力の向上

授業の概要

この授業では、ビジネスに役立つ英語を学ぶ。各授業に講義、演習、グループワークなどがあり、英語を使える場をできるだけたくさん設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 マーケティング入門
- 第3回 マーケティング論Ⅰ
- 第4回 マーケティング論Ⅱ
- 第5回 マーケティング論Ⅲ
- 第6回 マーケットセグメンテーション
- 第7回 ケースを議論する
- 第8回 ケースを議論する
- 第9回 ケースを議論する
- 第10回 ケースを議論する
- 第11回 学生によるプレゼンテーション
- 第12回 学生によるプレゼンテーション
- 第13回 学生によるプレゼンテーション
- 第14回 学生によるプレゼンテーション
- 第15回 復習

履修上の注意点

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (60)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈\*D〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。 クラス指定

担当者 宮崎 裕二

テーマ

グローバルな視点で国際観光を考え、自己理解を深める

授業の到達目標

1. グローバルな視野から、国際観光に関する理論や実践など深い知識を身につけながら、わが国における国際観光の在り方について問題意識をもつことができる。2. 政治や政策、経済、経営、マーケティング、外国人とのコミュニケーションなど幅広い対象領域を含む国際観光をとおして、それぞれに関心をもつことができる。3. 効果的なプレゼンテーションの技法(前期)、説得力のあるレポートのライティング(後期)を学習することができる。

授業の概要

授業の目標や進め方は基本的に前期と同じであるが、受講生の希望も聞いて、前期中には決めたい。後期は、ライティングを重視する。

準備学習(予習・復習)

1. 世界中の観光に関連するニュースや情報など貪欲に入手しながら、国際観光に関するリテラシーを高めておくこと。2. わが国のインバウンド(訪日客)観光に関して、誰(政府・自治体・企業・団体など)が、どのような目的で、何を行っているのかを意識すること。3. 上記について、授業中にクラス全体に情報共有を行い、積極的にグループ・ディスカッションを行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ライティングの基礎(1)
- 第3回 受講生による発表(1)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(2)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(3)、クラスでの討論
- 第6回 ライティングの基礎(2)
- 第7回 受講生による発表(4)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(5)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(6)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(7)、クラスでの討論
- 第11回 ライティングの基礎(3)
- 第12回 受講生による発表(8)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(9)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(10)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(11)、クラスでの討論

履修上の注意点

欠席する場合は、必ず事前に連絡をすること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート( )

授業中課題(30)

小テスト( )

授業中発表等(40)





## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈\*E〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

母語の獲得と外国語(英語)習得について考える

授業の到達目標

①前期に引き続いて、第2言語習得論や母語習得について理解を深める。②上記のテーマで英語で発表したり、レポートにまとめる。

授業の概要

基本的には、前期の「英語コミュニケーション演習Ⅰ」の内容を発展させていく。前期と同様に、クラスでのプレゼンテーション、そして、後期は書くこと(レポートの作成)にも力を入れたい。明晰な英語を書くことを通して、論理的な思考方法とは何かという問題も考えてみたい。卒業論文を意識して、テーマの設定、論の進め方、レポートの形式などを扱っていく。なお、後期の2回目のプレゼンテーションは、原則として英語で行ってもらう。

準備学習(予習・復習)

参考文献の一覧をクラスでわたすので、クラス外で読むこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションについて
- 第3回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論とまとめ

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

前期で使用したもの

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

論文・レポートの基本

著者: 石黒 圭

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2012

ISBN: 9.78453E+12

参考書

クラスで紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 10 )

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

---

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Critical Reading I <a>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 芝原 妙子

テーマ

This course is designed to help students develop purposeful reading skills and to build an appropriate vocabulary for use at college level. Students will learn reading skills including scanning, making inferences, and detailed scrutiny. Each unit of the course book introduces approximately fifteen academic words, and fifteen multiword vocabulary items. Students will learn the forms and meanings of words and phrases that will be encountered in academic readings. Through reading materials and many types of exercise problems, students will enjoy working with readings that help them develop critical-thinking

授業の到達目標

Students will be encouraged to learn more about the English speaking world by reading the wide range of inspirational stories and develop critical-thinking skills. Students also acquire essential academic English vocabulary, the understanding and use of which is one of the most demanding tasks for international learners, yet one that is required for the effective reading of academic textbooks and for writing term papers at college level.

授業の概要

Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. They are also required to prepare for answering questions based on the assigned articles. They should come to class prepared with two to three questions. Questions should be designed to generate interesting discussions and critical thinking about the reading. This class will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Preparation and brushup for each unit is crucial in successfully completing this course.

内 容

- 第1回 Introduction to the course
- 第2回 Unit 1 Food 1
- 第3回 Unit 1 Food 2
- 第4回 Unit 2 The Face 1
- 第5回 Unit 2 The Face 2
- 第6回 Units 1-2 Review and Discussion
- 第7回 Units 1-2 Review Test and Vocabulary Quiz 1
- 第8回 Unit 3 Cities 1
- 第9回 Unit 3 Cities 2
- 第10回 Unit 4 Technology 1
- 第11回 Unit 4 Technology 2
- 第12回 Unit 5 Music 1
- 第13回 Unit 5 Music 2
- 第14回 Units 3-5 Review, Discussion and Vocabulary Quiz 2
- 第15回 Final Review, Units 3-5 Review Test

履修上の注意点

Please do the day's reading and attached exercises before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion. Please turn off your mobile phones during class. 全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、期末受験資格を取り消すことがあります。

教科書

Reading and Vocabulary Focus 2

著者: Deborah Gordon and Laurie Blass

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9.78129E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

a30203a310

参加度

Grading for the course will be determined as follows: 1. Contributions to the class, class discussions, attendance 2. Quizzes and final examination. 上記の評価項目を総合して最終的な成績を算出します。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、受験資格を取り消すことがあります。

---

## 2017 Syllabus

科目名 Critical Reading I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 裕二	
テーマ	
まとまった量のアカデミックな英文を、スピーディーに読みながら、要点をつかむ。	
授業の到達目標	
1. まとまった量の英文を、スピーディーに読む力を身につけることができる。2. 理解した内容を、批判的に検討する力(クリティカル・リーディング)を学ぶことができる。3. アカデミックな英文で使われる基本的な構成や語彙などを習得することができる。	
授業の概要	
<p>大学では、海外の論文をはじめ、大量の英文を読むことが求められる。グローバル組織においても、社内文書や報告書などが英語で統一されることが多く、大量の英文をスピーディーに読解しながら、大意を把握することが継続的に求められる。したがって、アカデミックな英文の構成を把握し、スピーディーに要点を理解し、批判的に検討する力(クリティカル・リーディング)が求められる。この授業では、まとまった量の英文を効率的・効果的に読むために、クリティカル・リーディングの基礎力の養成を目的とする。受講者は、担当箇所の英文を読解し、日本語でレジメを作成し、要点を論理的に発表することが要求される。テキストは、ツーリズム関連で、世界で最も多くの大学で用いられている「marketing for hospitality &amp; tourism」を活用する。講義スケジュールは、以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。</p>	
準備学習(予習・復習)	
各回の授業開始前には、前授業についての小テストを課し、内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、語彙や専門用語を整理しておくこと。予習としては、担当箇所の発表に備えて十分に準備を行うこと。	
内 容	
<p>第1回 クリティカル・リーディング  第2回 国際ツーリズムにおけるホスピタリティ&amp;ツーリズム産業  第3回 ホスピタリティ&amp;ツーリズム・マーケティング(1)  第4回 ホスピタリティ&amp;ツーリズム・マーケティング(2)  第5回 ホスピタリティ&amp;ツーリズム・マーケティングにおけるサービスの特性  第6回 マーケティング環境  第7回 戦略プランニングにおけるマーケティングの役割  第8回 マーケティング・インフォメーション・システムとマーケティング・リサーチ(1)  第9回 マーケティング・インフォメーション・システムとマーケティング・リサーチ(2)  第10回 消費者市場と消費者の購買行動  第11回 団体市場における組織の購買行動  第12回 セグメント、ターゲット、ポジショニング  第13回 プロダクトの設計と管理、ブランド(1)  第14回 プロダクトの設計と管理、ブランド(2)  第15回 前期のまとめ</p>	
履修上の注意	
クリティカル・リーディングの基礎力を身につけるには、各自の単独での読解に加え、グループおよび教師によるサポートが大切と考える。5回以上休むと単位が認められない。10分以上の遅刻で欠席とみなす。欠席する場合は、事前に連絡すること。	
教科書	
第1回講義で指示する	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
授業中に指示する	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 20 )

参加度（30）

参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

---

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Critical Reading I <c>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 高田 悦子	
テーマ Developing critical reading skills.	
授業の到達目標 Through this course, students will learn how to critically approach various kinds of texts.	
授業の概要 This course is designed to improve students' reading skills through a variety of reading tasks and discussion activities. Students have both intensive time and extensive reading time	
準備学習(予習・復習) Students are expected to bring their favorite books to class for extensive reading time.	
内 容 第1回 授業のガイダンス 第2回 Unit 1. Self-Introduction / Extensive Reading 第3回 Unit 2.The Island of Nauru / Extensive Reading 第4回 Unit 3. Passion / Extensive Reading 第5回 Unit 3. Passion / Extensive Reading 第6回 Unit 4. Impact of Good Teachers / Extensive Reading 第7回 Unit 5. Humor and Laughter / Extensive Reading 第8回 Unit 6. Dating / Extensive Reading 第9回 Unit 6. Dating / Extensive Reading 第10回 Unit 7. Nutrition and Exercise / Extensive Reading 第11回 Unit 8. The Different Layers of the Brain / Extensive Reading 第12回 Unit 9. Technology Addiction / Extensive Reading 第13回 Unit 9. Technology Addiction / Extensive Reading 第14回 Unit 10. Mirror Neurons / Extensive Reading 第15回 授業の総括と小テスト	
履修上の注意点 授業の3分の2以上の出席が必要です。辞書を必ず持ってきて下さい。(評価の対象になります。)	
教科書 Life Topics: Deeper Connections 著者: Takashi Shimaoka,Jonathan Berman 出版社: 南雲堂 出版年: 2016 ISBN: 9.78452E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 20% ) 参加度 ( 30% )	小テスト ( 50% ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **Critical Reading II <a>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 芝原 妙子

テーマ

This course is designed to help students further develop purposeful reading skills and to build an appropriate vocabulary for use at college level. Students will learn reading skills including scanning, making inferences, and detailed scrutiny. Each unit of the course book introduces approximately fifteen academic words, and fifteen multiword vocabulary items. Students will learn the forms and meanings of words and phrases that will be encountered in academic readings. Through reading materials and many types of exercise problems, students will enjoy working with readings that help them develop critical-thinking skills.

授業の到達目標

Students will be encouraged to learn more about the English speaking world by reading the wide range of inspirational stories and develop critical-thinking skills. Students also acquire essential academic English vocabulary, the understanding and use of which is one of the most demanding tasks for international learners, yet one that is required for the effective reading of academic textbooks and for writing term papers at college level.

授業の概要

Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. They are also required to prepare for answering questions based on the assigned articles. They should come to class prepared with two to three questions. Questions should be designed to generate interesting discussions and critical thinking about the reading. Students are also required to give an in-class presentation based on their own research. This class will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Preparation and brushup for each unit is crucial in successfully completing this course.

内 容

- 第1回 Introduction to the course
- 第2回 Unit 6 Animal Groups 1
- 第3回 Unit 6 Animal Groups 2
- 第4回 Unit 6 Review and Discussion
- 第5回 Unit 7 Making News 1
- 第6回 Unit 7 Making News 2
- 第7回 Unit 7 Review and Discussion
- 第8回 Units 6-7 Review and Vocabulary Quiz
- 第9回 Unit 8 Noise and Light 1
- 第10回 Unit 8 Noise and Light 2
- 第11回 Unit 8 Review and Discussion
- 第12回 Unit 9 Expressions 1
- 第13回 Unit 9 Expressions 2
- 第14回 Unit 9 Review and Discussion
- 第15回 Final Review and Units 8-9 Review and Vocabulary Quiz

履修上の注意点

Please do the day's reading and attached exercises before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion. Please turn off your mobile phones during class. 全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、期末受験資格を取り消すことがあります。

教科書

Reading and Vocabulary Focus 2

著者: Deborah Gordon and Laurie Blass

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9.78129E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (10%)



a30203a450

Grading for the course will be determined as follows: 1. Contributions to the class, class discussions, an in-class presentation, and attendance 2. Quizzes and final examination. 上記の評価項目を総合して最終的な成績を算出します。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、受験資格を取り消すことがあります。

---

## 2017 Syllabus

科目名 Critical Reading II &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 裕二	
テーマ	まとまった量のアカデミックな英文を、スピーディーに読みながら、要点をつかむ。
授業の到達目標	1. まとまった量の英文を、スピーディーに読む力を身につけることができる。2. 理解した内容を、批判的に検討する力(クリティカル・リーディング)を学ぶことができる。3. アカデミックな英文で使われる基本的な構成や語彙などを習得することができる。
授業の概要	基本的には、前期と変わらないが、受講人数や受講者の希望に応じて弾力的に変更する。
準備学習(予習・復習)	各回の授業開始前には、前授業についての小テストを課し、内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、語彙や専門用語を整理しておくこと。予習としては、担当箇所の発表に備えて十分に準備を行うこと。
内 容	<p>第1回 インターナル・マーケティング</p> <p>第2回 価格</p> <p>第3回 ディストリビューション・チャネル</p> <p>第4回 コミュニケーション、広告(1)</p> <p>第5回 コミュニケーション、広告(2)</p> <p>第6回 広報、販売促進(1)</p> <p>第7回 広報、販売促進(2)</p> <p>第8回 プロフェッショナル・セールス(1)</p> <p>第9回 プロフェッショナル・セールス(2)</p> <p>第10回 ダイレクト・マーケティング、顧客関係性の構築(1)</p> <p>第11回 ダイレクト・マーケティング、顧客関係性の構築(2)</p> <p>第12回 デスティネーション・マーケティング(1)</p> <p>第13回 デスティネーション・マーケティング(2)</p> <p>第14回 次年度の事業計画</p> <p>第15回 後期のまとめ</p>
履修上の注意点	クリティカル・リーディングの基礎力を身につけるには、各自の単独での読解に加え、グループおよび教師によるサポートが大切と考える。5回以上休むと単位が認められない。10分以上の遅刻で欠席とみなす。欠席する場合は、事前に連絡すること。
教科書	
参考書	
授業中に指示する	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 30 )	
参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Critical Reading II <c>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 高田 悦子	
テーマ Developing critical reading skills.	
授業の到達目標 Through this course, students will learn how to critically approach various kinds of texts.	
授業の概要 This course is designed to improve students' reading skills through a variety of reading tasks and discussion activities. Students have both intensive time and extensive reading time.	
準備学習(予習・復習) Students are expected to bring their favorite books to class for extensive reading time.	
内 容 第1回 授業のガイダンス 第2回 Unit 11. The Science of Happiness / Extensive Reading 第3回 Unit 12. Sugar Addiction / Extensive Reading 第4回 Unit 13. The Evolution of Marriage / Extensive Reading 第5回 Unit 13. The Evolution of Marriage / Extensive Reading 第6回 Unit 14. Active Listening / Extensive Reading 第7回 Unit 15. Male and Female Brains / Extensive Reading 第8回 Unit 16. Nostalgia / Extensive Reading 第9回 Unit 16. Nostalgia / Extensive Reading 第10回 Unit 17. Cigarette Advertising / Extensive Reading 第11回 Unit 18. Right Brain - Left Brain / Extensive Reading 第12回 Unit 19. Mama's Boys / Extensive Reading 第13回 Unit 19. Mama's Boys / Extensive Reading 第14回 Unit 20. Winning Friends and Influencing People / Extensive Reading 第15回 授業の総括と小テスト	
履修上の注意点 授業の3分の2以上の出席が必要です。辞書を必ず持ってきて下さい。(評価の対象になります。)	
教科書 Life Topics: Deeper Connections 著者: Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社: 南雲堂 出版年: 2016 ISBN: 9.78452E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 50% ) 授業中課題 ( 20% ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30% )	

## 2017 Syllabus

科目名 翻訳研究

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 友博

テーマ

翻訳理論の実践を行い、専門技術の重要性を学ぶ

授業の到達目標

(1) 翻訳の理論と技術を、実践によって身につける (2) グループワークによる相互点検で、翻訳への批評眼を養う (3) 個人の力で、ひとつの翻訳を完成させる

授業の概要

翻訳の実践に必要な、主体的・分析的に訳す技術と、訳文を批判的に検討できる客観性のふたつを、各回冒頭の準備的講義だけでなくグループワークのかたちで発表と演習と繰り返しながら養い、翻訳という専門技術の重要性を理解することを目的とする。最終的に自分の力でひとつの翻訳を完成させることを目標とするため、発表・演習として適宜、授業内課題や宿題が課される。学生による翻訳は、小冊子にして相互に共有する予定である。

準備学習(予習・復習)

配布課題の確認・予習・復習を行うこと。指示された宿題は、期限を厳守すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス: 身近にある「翻訳」と「誤訳」、グループワークの準備
- 第2回 グループワーク: 発表1「身近にある翻訳」
- 第3回 グループワーク: 演習1「身近にある誤訳」
- 第4回 グループワーク: 発表2「身近にある誤訳の批判・改善」
- 第5回 グループワーク: 演習2「一から自分たちで訳してみる」
- 第6回 グループワーク: 発表3「自分たちの翻訳を批判・改善する」
- 第7回 中間まとめ: 「訳してみたいもの」とグループ替え
- 第8回 グループワーク: 演習3「テキストタイプとターゲットの研究」
- 第9回 グループワーク: 発表4「訳してみたいもの」
- 第10回 グループワーク: 演習4「疑問点の整理と調査」
- 第11回 グループワーク: 発表5「何を調べたか」
- 第12回 グループワーク: 演習5「試訳の交換と相互点検」
- 第13回 グループワーク: 発表6「試訳の発表とアンケート」
- 第14回 グループワーク: 演習6「翻訳の推敲と完成、自分の感想」
- 第15回 期末まとめ: 完成小冊子の配布と講評

履修上の注意点

グループワークを行うので、他の学生の迷惑にならないように授業参加すること。なお「翻訳基礎論」も受講していることが望ましい。

教科書

翻訳入門[改訂新版] "Let's Translate" —英日編—

著者: 氏木孝仁ほか

出版社: 大阪教育図書

出版年: 2013

ISBN: 4271113270

翻訳入門—日英編—

著者: 浅野輝子ほか

出版社: 大阪教育図書

出版年: 2014

ISBN: 9.78427E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 **言語理論研究**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

Understanding language and linguistics in English

授業の到達目標

The objective of this course is to give the students an opportunity to learn and explain the English language and grammar in English and to deepen their understanding of what a language is all about.

授業の概要

In order to learn about a language, it is important to know the terms that are necessary to refer to various language elements. This class is designed to brush up one's knowledge of English grammar and to practice explaining it to others in English.

準備学習(予習・復習)

Students are expected to read the assignments before coming to class. For the presentations in English, students will be asked to prepare a presentation on the assigned grammatical topic. Some research over and beyond the designated textbook may be necessary.

内 容

- 第1回 Introduction/Pronunciation/Presentation Method
- 第2回 Nouns
- 第3回 Adjectives
- 第4回 Articles
- 第5回 Post-noun Modifiers
- 第6回 Pronouns
- 第7回 Gerunds and Infinitives
- 第8回 Noun Clauses
- 第9回 Basic Verb Forms/ Verb Tenses
- 第10回 Simple Verb Complements
- 第11回 Multiple Verb Complements
- 第12回 Adverbs
- 第13回 Questions and Negatives
- 第14回 The Passive/ Indirect Quotation
- 第15回 Review

履修上の注意点

Attendance is VERY important, particularly for the weekly quizzes.

教科書

English Grammar Drills

著者: Mark Lester

出版社: McGraw-Hill Education

出版年: 2009

ISBN: 10-0071598111

参考書

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

This class will be conducted in English. Attendance is a must. Thorough preparation (including pronunciation practice) for the presentations is expected.

## 2017 Syllabus

科目名 地域文化研究Ⅲ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

英語圏文化と日本文化への理解を同時に深める

授業の到達目標

英語圏文化についてより深く知ることを通して、自分を形成した日本文化への理解を深める。

授業の概要

この授業は2本の柱からなっています。前半は、近代日本の始動期に模範ともなり脅威ともなった英国を、その時代の日本はどのように受け止め、また対処したのかを考えてみたいと思います。後半は、まさにその時代に英国に政府給費生として派遣された夏目漱石の書簡を読み、明治期の知識人が英国、より広くは西洋というものをどう受け止め、それを後の小説家漱石を生むためにどう生かしたのかを考えてみたいと思います。毎回、担当学生が担当個所の要約と問題点についてレジュメを作成し、それをもとに発表します。教員が補足説明を加え、その後ディスカッションを行います。学期末にペーパーを提出します。

準備学習(予習・復習)

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、関連する文献を読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 『日本人とイギリス』①
- 第3回 『日本人とイギリス』②
- 第4回 『日本人とイギリス』③
- 第5回 『日本人とイギリス』④
- 第6回 『日本人とイギリス』⑤
- 第7回 『日本人とイギリス』⑥
- 第8回 『日本人とイギリス』⑦
- 第9回 『日本人とイギリス』⑧
- 第10回 『漱石書簡集』①
- 第11回 『漱石書簡集』②
- 第12回 『漱石書簡集』③
- 第13回 『漱石書簡集』④
- 第14回 『漱石書簡集』⑤
- 第15回 総括、ペーパー提出

履修上の注意点

自分という人間を作り上げた日本文化を他の文化、とりわけ英米の文化と比較する習慣を身につけてください。6回以上欠席すると単位が認められません。

教科書

漱石書簡集

著者： 三好行雄編

出版社： 岩波新書

出版年： 1990年

ISBN:

参考書

授業中に指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

欠席が6回以上になると単位が認められません。

2017 Syllabus
---------------

科目名 **Essay & Presentation I**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 日高 周平	
テーマ Essay and presentation	
授業の到達目標 To learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.	
授業の概要 In each class, students will be asked to write a number of emails.	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 Introduction & Course Description	
第2回 Unit 1 Let me introduce myself	
第3回 Unit 2 Would you do me a favor?	
第4回 Unit 3 Please give me some advice	
第5回 Unit 4 How about going to the museum?	
第6回 Unit 5 Let's decide when to meet	
第7回 Unit 6 I have to apologize to you	
第8回 Unit 7 Room for two?	
第9回 Unit 8 I have a problem	
第10回 Unit 9 We would like to invite you to a party!	
第11回 Unit 10 How to get to his place?	
第12回 Unit 11 This is just a reminder	
第13回 Unit 12 Thank you for the invitation, but...	
第14回 Unit 13 Good luck!	
第15回 Review	
履修上の注意点	
教科書	
Write Me Back Soon! Communicating through Email	
著者: 成岡恵子／早野 薫／Sean M. Hackett 著	
出版社: 金星堂	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (40)	授業中発表等 ( )
参加度 (60)	

## 2017 Syllabus

科目名 通訳研究

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 西村 友美

テーマ

通訳の理論と実践

授業の到達目標

(1) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考察する力を養う。(2) 実践を通して通訳術の基本を習得することを目指す。

授業の概要

通訳者はことばの壁をどう乗り越えて瞬時に言語変換をおこなっているのか。また異文化間のコミュニケーションを円滑に進めるためにどんな工夫をしているのか—授業ではこれらを考察し、実際の通訳者用訓練を実践することにより、自らの英語の運用を向上させることを目指す。具体的には、「通訳基礎論」で習得した基礎的理論と技術をもとに、より高度な通訳を訓練する。毎回の授業で、段階的なトレーニングを重ね、最終的には簡単な通訳(逐次・同時)ができるようにしたい。教科書の理論編を分担して授業でプレゼンをし、全体でディスカッションをする。

準備学習(予習・復習)

教科書の理論編を理解するため、より詳しい文献を読んでください。各種通訳練習を授業外でも実践してください。

内 容

- 第1回 通訳とは、通訳実例の観察
- 第2回 通訳の種類と活動の場
- 第3回 通訳に求められるもの
- 第4回 通訳の研究
- 第5回 通訳モデル
- 第6回 通訳と翻訳
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 記憶とノートテーキング
- 第9回 逐次通訳(1)
- 第10回 逐次通訳(2)
- 第11回 同時通訳(1)
- 第12回 同時通訳(2)
- 第13回 同時通訳(3)
- 第14回 通訳とデリバリー
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

通訳学101

著者: 友野百枝他

出版社: 大阪教育図書

出版年: 2012

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(70)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(30)



## 2017 Syllabus

科目名 地域文化研究Ⅳ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 裕二

テーマ

国際観光をとおしてカナダを学ぶ

授業の到達目標

1. 国際観光をとおしてカナダを学修することができる。2. カナダにある13州・準州ごとにカナダを学ぶことができる。3. カナダの観光政策と観光戦略を把握することができる。

授業の概要

世界全体の国際観光客到着者数は、2015年には、年間11億人を突破し、国際観光収入も1兆ドルを超える規模となるなど、国際観光は、日本だけではなく、世界の国々においても、きわめて大きな位置を占めている。本講義では、世界屈指の観光立国のひとつカナダに焦点を当て、カナダを学ぶことを目的とする。2017年に建国150周年を迎えるカナダは、分権的政体の特徴とするため、カナダ「全体」だけではなく、「地域」、つまり、州・準州ごとに理解することに意義がある。この授業は、あらかじめ決められた課題に基づき、受講者がグループ研究を行い、クラスで発表し、ディスカッションを行うことが期待される。講義スケジュールは、以下を予定しているが、学生の習熟度を見ながら、必ずしも最初に定めた講義スケジュールにとらわれないことなく、柔軟に進める。

準備学習(予習・復習)

各回の授業開始前には、前授業についての小テストを課し、内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、専門用語なども整理しておくこと。予習としては、グループ発表に備えて準備を行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 国際観光の全体像を概観する
- 第3回 国家としてみたカナダ：国際観光が及ぼすさまざまな影響
- 第4回 国家としてみたカナダ：国際観光を推進するカナダ政府
- 第5回 国家としてみたカナダ：カナダ政府による観光政策と観光戦略
- 第6回 地域ごとにみたカナダ：プリンス・エドワード・アイランド州、ニュー・ファンドランド&ラブラドル州
- 第7回 地域ごとにみたカナダ：ニュー・ブランズウィック州、ノバ・スコシア州
- 第8回 地域ごとにみたカナダ：ケベック州
- 第9回 地域ごとにみたカナダ：オンタリオ州
- 第10回 地域ごとにみたカナダ：マニトバ州
- 第11回 地域ごとにみたカナダ：サスカチュワン州
- 第12回 地域ごとにみたカナダ：アルバータ州
- 第13回 地域ごとにみたカナダ：ユーコン準州、ノースウェスト準州、ヌナブト準州
- 第14回 地域ごとにみたカナダ：プリティッシュ・コロンビア州
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

5回以上休むと単位が認められない。10分以上の遅刻で欠席とみなす。欠席する場合は、事前に連絡すること。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **Essay & Presentation II**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

授業の到達目標

To learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の概要

In each class, students will be asked to write a number of emails.

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Introduction & Course Description
- 第2回 Unit 14 Congratulations!
- 第3回 Unit 15 It would be appreciated if...
- 第4回 Unit 16 Can I make an offer?
- 第5回 Unit 17 Thank you!
- 第6回 Unit 18 You know what?
- 第7回 Unit 19 Get well soon!
- 第8回 Unit 20 Anybody interested?
- 第9回 Unit 21 Season's Greetings!
- 第10回 Unit 22 I would like to apply for a position
- 第11回 Unit 23 Inquiry about scholarship
- 第12回 Unit 24 Sorry for your loss
- 第13回 Academic writing 1
- 第14回 Academic writing 2
- 第15回 Review and presentation

履修上の注意点

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email

著者: 成岡恵子/早野 薫/Sean M. Hackett 著

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

## 2017 Syllabus

科目名 児童英語教育研究

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 赤沢 真世

テーマ

## 授業の到達目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのかを時代背景や言語習得の理論的な知見の紹介から理解する。また、実践に場面においてどのように教えたらよいのかについて、主に文化や言語への気付きという視点を軸としながら理論と実践の両面から深めていく。

## 授業の概要

幼児や児童への英語教育を取り巻く情勢や言語習得理論に関する知見を紹介しながら、実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つ歌、ライム、ゲームを始めとして言語習得理論に基づいた指導法などを学習した後、発表・相互批評を行う。

## 準備学習(予習・復習)

発表準備などは授業外課題として位置づけるが、創意工夫に富んだ発表にすること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス(幼児や児童の英語学習を取り巻く時代情勢、異文化理解と英語教育について)
- 第2回 児童に対する英語の指導において大切にポイント
- 第3回 歌の指導法のポイントと実践例
- 第4回 歌指導の発表 I 発表準備、発表
- 第5回 歌指導の発表 II 発表、分析
- 第6回 ナーサリーライムの指導法のポイントと実践例
- 第7回 ナーサリーライム指導の発表 I 発表準備、発表
- 第8回 ナーサリーライム指導の発表 II 発表、分析
- 第9回 フォニックス指導(文字学習)の指導法のポイントと実践例
- 第10回 フォニックス指導の発表 I 発表準備、発表
- 第11回 フォニックス指導の発表 II 発表、分析
- 第12回 異文化理解教育を促す指導のポイントと実践例
- 第13回 異文化理解を促す指導の発表 I 発表準備、発表
- 第14回 異文化理解を促す指導の発表 II 発表、分析
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

授業中では、グループワークなども取り入れます。積極的な参加を期待します。また、発表の日の欠席は大きく減点します。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

小学校英語基本の「き」

著者: 酒井英樹

出版社: 大修館書店

出版年: 2014

ISBN:

小学校英語の教育法—理論と実践

著者: アレン光井玉枝

出版社: 大修館書店

出版年: 2010

ISBN:

先生用アイテム 歌・チャンツ・活動集・レッスンプラン 実践家からの児童英語教育法 -実践編 AB (CD付)

著者: 中本幹子

出版社: アプリコット

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 60 )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

授業中発表における評価基準は授業中に示します。

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 児童英語教材研究

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 赤沢 真世	
テーマ	
幼児や児童の英語指導における教材の意義とその開発	
授業の到達目標	
小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのかを時代背景、理論的に理解する。また、幼児や児童の興味関心や発達段階に即してどのように教えたらよいのかについて実践的な指導法について知り、基本的な技術を身につける。	
授業の概要	
実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つチャンツ、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。期末の課題として音声、文字学習、言語への気づきなどのそれぞれのテーマを意識したオリジナル絵本を製作する。	
準備学習(予習・復習)	
授業ではグループワークを取り入れることもある。積極的な参加を期待する。また発表や作品づくりには創意工夫すること。	
内 容	
第1回 ガイダンス(EFL学習の目的と指導)	
第2回 チャンツの指導におけるポイントと実践例	
第3回 チャンツの指導発表 I 発表準備、発表	
第4回 チャンツの指導発表 II 発表、相互分析	
第5回 TPRの指導法のポイントと実践例	
第6回 TPRの指導発表 I 発表準備、発表	
第7回 TPRの指導発表 II 発表、相互分析	
第8回 折々の行事について児童英語における取扱のポイント、実践例	
第9回 Halloween Party の実践(指導の視点を意識して)、相互交流	
第10回 ストーリーテリングの指導法、文字に気付かせるための環境としての絵本	
第11回 オリジナル絵本製作のガイダンス	
第12回 児童英語絵本のあらすじと構成	
第13回 絵本のストーリーにおける英文の特徴、作成演習	
第14回 絵本製作・相互分析	
第15回 まとめ、絵本を用いた指導例の発表、相互分析	
履修上の注意点	
発表時の欠席は大きく減点します。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
小学校英語基本の「き」	
著者: 酒井英樹	
出版社: 大修館書店	
出版年: 2014	ISBN:
小学校英語の教育法—理論と実践	
著者: アレン光井玉枝	
出版社: 大修館書店	
出版年: 2010	ISBN:

先生用アイテム 歌・チャンツ・活動集・レッスンプラン 実践家からの児童英語教育法 -実践編 AB (CD付)

著者: 中本幹子

出版社: アプリコット

出版年: 2011

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( )

授業中課題や最終レポートについては授業内で具体的な評価基準を示します。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 児童英語指導演習Ⅰ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定員
履修条件 「児童英語教育研究」または「児童英語教材研究」を履修済みであること。	クラス指定
担当者 吹原 顕子	
テーマ 児童英語教育を実践するための演習	
授業の到達目標 ・小学校外国語活動の目標を実現するために、目的に応じた活動をすることができる。・電子黒板、プレゼンテーションソフト等を使って作成した教材などを用いて指導をすることができる。	
授業の概要 最初に、2018年から段階的に先行実施される学習指導要領の小学校外国語活動を現行の学習指導要領と比較する。文部科学省作成のデジタル教材を活用した指導を体験し考察する。次に、絵本の読み聞かせをする。また、グループでHi, friends 1から単元を1つ選び、到達目標から逆向きに授業を計画する。プレゼンテーションソフト等を用いて授業で使用する教材を作成し、学習指導案に基づき模擬授業を行う。それぞれの模擬授業後にディスカッションを行う。近隣の公立小学校において外国語活動および外国語科授業の観察実習を行う。最後に、前期の授業を通して学んだことをレポートにまとめる。	
準備学習(予習・復習) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(2008)、『小学校学習指導要領』文部科学省(2017)をインターネットからダウンロードして印刷し、初回の授業に持参する。予習として『Hi, friends! 1』を事前に読んでおく。最初の授業で選択した単元について、文部科学省がWeb上で示している学習指導案の例を参考にして指導計画・学習指導案を作成し、教材を準備する。絵本の読み聞かせの練習をする。前期に学んだことについてレポート(2000字)を書く。	
内 容 第1回 ガイダンス(小学校における外国語教育の目的と意義、外国語活動の目標) 第2回 外国語活動を支える理論と授業づくり(第二言語習得理論の基礎、単元指導計画、目的に応じた活動) 第3回 『Hi, friends! Plus』を活用した指導(音声の基本的な知識、発音と綴りの関係) 第4回 『Hi, friends! Story books』を活用した指導(『In the Autumn Forest』) 第5回 『Hi, friends! Story books』を活用した指導(『Good Morning』) 第6回 模擬授業1(絵本の読み聞かせ) 第7回 模擬授業に向けて(単元指導計画、一単位時間の指導計画の作成の作成) 第8回 公立小学校における外国語活動の観察実習—低中学年 第9回 公立小学校における外国語活動の観察実習—高学年 第10回 小学校における観察実習の報告と討議 第11回 模擬授業2(4時間構成の単元の1時間目:聞く活動を中心とした授業) 第12回 模擬授業3(4時間構成の単元の2時間目:音に慣れる活動を中心とした授業) 第13回 模擬授業4(4時間構成の単元の3時間目:自分のものにする活動を中心とした授業) 第14回 模擬授業5(4時間構成の単元の4時間目:言葉を選んで発話する活動を中心とした授業) 第15回 総括、レポート作成について	
履修上の注意点 受け入れ校の状況により観察実習の日程が変更になることがあります。2/3以上出席すること。遅刻3回で1回欠席。観察実習や模擬授業の日の欠席は大きい減点となります。	
教科書	
参考書 Hi, friends! 1 著者: 文部科学省 出版社: 東京書籍 出版年: 2012 ISBN:	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト( ) 授業中課題(30%) 授業中発表等(60%) 参加度(10%) 学生が互いの模擬授業から学ぶ授業であることから、模擬授業への準備を重視します。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 児童英語指導演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 「児童英語教育研究」または「児童英語教材研究」を履修済みであること。	クラス指定
担当者 吹原 顕子	
テーマ 児童英語教育を実践するための演習	
授業の到達目標 ・小学校外国語科の目標を実現するために、目的に応じた活動を行うことができる。・単元の指導計画及び学習指導案を作成し、適切な英語と適切な教材を用いて教育実習・模擬授業を行うことができる。	
授業の概要 最初に、新学習指導要領で教科化される小学校外国語科の目標を確認する。小学校5年生の授業を映像で観察し、語彙・文法の指導法について考察する。Hi, friends! 2のLet's go to Italy.の指導を体験し、授業のイメージをもつ。次に、近隣の公立小学校において外国語活動または外国語科授業の教育実習を行う。また、グループでHi, friends 2から単元を1つ選び、到達目標から逆向きに授業を計画する。プレゼンテーションソフト等を用いて授業で使用する教材を作成し、学習指導案に基づき模擬授業を行う。それぞれの模擬授業後にディスカッションを行う。最後に、後期の授業を通して学んだことをレポートにまとめる。	
準備学習(予習・復習) 予習として『Hi, friends! 2』を事前に読んでおく。教育実習の準備をする。最初の授業で選択した単元について、文部科学省がWeb上で示している学習指導案の例を参考にして指導計画・学習指導案を作成し、教材を準備する。後期に学んだことについてレポート(2000字)を書く。	
内 容 第1回 ガイダンス(小学校外国語科の目標、教育実習について) 第2回 授業映像視聴(小学校における語彙・文法の指導法の考察、チームティーチング) 第3回 『Hi, friends! 2』を活用した指導1(4時間構成の単元の1時間目:聞く活動を中心とした授業) 第4回 『Hi, friends! 2』を活用した指導2(4時間構成の単元の2時間目:音に慣れる活動を中心とした授業) 第5回 『Hi, friends! 2』を活用した指導3(4時間構成の単元の2時間目:音に慣れる活動を中心とした授業) 第6回 『Hi, friends! 2』を活用した指導4(4時間構成の単元の4時間目:言葉を選んで発話する活動を中心とした授業) 第7回 教育実習の模擬授業1(改善点の討議) 第8回 教育実習の模擬授業2(事前授業) 第9回 公立小学校における教育実習① 第10回 公立小学校における教育実習② 第11回 小学校における教育実習について討議と考察 第12回 模擬授業1(4時間構成の単元の1時間目:聞く活動を中心とした授業) 第13回 模擬授業2(4時間構成の単元の2時間目:音に慣れる活動を中心とした授業) 第14回 模擬授業3(4時間構成の単元の3時間目:自分のものにする活動を中心とした授業) 第15回 模擬授業4(4時間構成の単元の4時間目:言葉を選んで発話する活動を中心とした授業)、総括、レポート作成について	
履修上の注意点 受け入れ校の状況により観察実習の日程が変更になることがあります。2/3以上出席すること。遅刻3回で1回欠席。教育実習や模擬授業の日の欠席は大きい減点となります。	
教科書	
参考書 Hi, friends! 2 著者: 文部科学省 出版社: 東京書籍 出版年: 2012 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (30%) 参加度 (10%)	小テスト ( ) 授業中発表等 (60%)



公立小学校の教育実習を行うので、そのための準備、教育実習を重視します。また、学生が互いの模擬授業から学ぶ授業であることから、模擬授業への準備を重視します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **グローバルビジネス実務演習 I**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 弓場 俊也	
テーマ	
経済のグローバルにより、あらゆる企業が海外ビジネスに取り組む時代になりました。輸出入に携わる人が現場に必要な貿易に関する基本的知識の習得します。	
授業の到達目標	
貿易取引の基本的な仕組みや流れを理解し、グローバルビジネスの現場で 使える実践的能力の確立。貿易実務検定C級合格レベルを目標とします。	
授業の概要	
海外と貿易取引をするうえで知っておくべき基本的な実務を解説し、異文化理解を取り入れた国際ビジネスノウハウをわかりやすく解説します。講義ではパワーポイントを使用して視覚的に説明します。	
準備学習(予習・復習)	
事前の予習は不要ですが知識を定着させるため復習は必須です。	
内 容	
第1回	オリエンテーション・近年における国際ビジネス概況
第2回	貿易取引の流れと全体像の理解
第3回	国際取引交渉、マーケティング、信用調査
第4回	国際取引における発注と受注の仕組み
第5回	インコタームズ(定型貿易条件)の概要
第6回	国際契約書の基礎知識
第7回	国際契約のケーススタディ
第8回	外国為替の基礎知識
第9回	海外決済の方法と種類
第10回	信用状決済の仕組み
第11回	国際物流の概要
第12回	海上貨物と航空貨物
第13回	輸出入通関手続きについて
第14回	グローバルビジネスにおける異文化理解
第15回	総括と確認
履修上の注意点	
雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。授業中のパソコン使用不可。教室の前方に着席するように心がける。	
教科書	
配布するレジュメ	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
貿易実務のエッセンス	
著者: 勝田英紀	
出版社: 中央経済社	
出版年: 2012年	ISBN: 9.7845E+11
成績評価	
試験・レポート ( 34%)	小テスト ( 33%)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 33%)	
適時講義内で実施する小テストと学期末試験および出席日数により評価する	

## 2017 Syllabus

科目名 **グローバルビジネス実務演習Ⅱ**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 弓場 俊也	
テーマ	
グローバル経済の浸透により、あらゆる企業が海外ビジネスに取り組む時代になりました。輸出入に携わる人が現場に必要な基本的貿易知識の確認と実践的な応用について体系的に理解します。	
授業の到達目標	
貿易取引の応用知識を習得して実践的能力の確立。貿易実務検定C級 およびB級レベルを目標とします。	
授業の概要	
基本的貿易知識の確認と現場の実例をとりあげ応用力を養う。貿易関係の資格試験合格を目指す履修者にも参考になる内容とします。	
準備学習(予習・復習)	
予習は不要ですが知識を定着させるため復習は必須。	
内 容	
第1回	オリエンテーション・国際ビジネスの最新概況
第2回	貿易取引の体系的理解
第3回	取引交渉、市場調査、信用調査について
第4回	貿易における発注と受注の仕組み
第5回	定型貿易条件(Incoterms 2010)の詳細
第6回	国際契約書の概要と要点
第7回	国際売買契約について解説
第8回	外国為替の概要と応用
第9回	代金決済と外国為替
第10回	信用状取引の性質と仕組み
第11回	国際ロジスティクスの概要
第12回	海上貨物と航空貨物の種類と手続き
第13回	通関手続きと関税システム
第14回	異文化理解と国際ビジネス
第15回	総括と確認
履修上の注意点	
雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。授業中のパソコン 使用は不可。教室の前方に着席するように心がける。	
教科書	
配布するレジュメ	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
貿易実務のエッセンス	
著者: 勝田英紀	
出版社: 中央経済社	
出版年: 2012年	ISBN: 9.7845E+11
成績評価	
試験・レポート (34%)	小テスト (33%)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (33%)	
適時講義内で実施する小テストと学期末試験および出席日数により評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 English Workshop I &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ファゼカシユ, バラージュ

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

① 文法の構造的な知識を与える ② 練習問題を効率よく解くための能力を身につける ③ 語彙・読解力の向上

授業の概要

毎回、練習問題を解きながら各問題を議論し分析する。問題に関連する文法を学ぶ。一人でドリル問題をとくときも自ら正しい答えを見つけ出す能力を身につける。授業の後半では、TOEIC試験のためのリスニングセクションとリーディングセクションのための聴解・読解問題を練習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 TOEIC試験練習問題・文法の基礎・品詞
- 第3回 TOEIC試験練習問題・冠詞I・Part 1
- 第4回 TOEIC試験練習問題・冠詞II・Part 2
- 第5回 TOEIC試験練習問題・名詞I・Part 3
- 第6回 TOEIC試験練習問題・名詞II・Part 4
- 第7回 TOEIC試験練習問題・形容詞I
- 第8回 TOEIC試験練習問題・形容詞II・比較
- 第9回 TOEIC試験練習問題・副詞・読解
- 第10回 TOEIC試験練習問題・動詞と助動詞I・読解
- 第11回 TOEIC試験練習問題・動詞と助動詞II、句動詞・読解
- 第12回 TOEIC試験練習問題・時制I・読解
- 第13回 TOEIC試験練習問題・時制II・読解
- 第14回 TOEIC試験練習問題・時制III・読解
- 第15回 復習

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

履修者は、前期中に公開テストまたは7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

## 2017 Syllabus

科目名 English Workshop I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高田 悦子	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEICテストのスコアアップ(7月のテストで550点以上)を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。	
授業の概要 TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。※注意事項1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC450点以上の学生が対象となります。450点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。	
準備学習(予習・復習) 毎回の課題と単語テスト、小テストをしっかりとこなしてください。	
内 容 第1回 Chapter 1 不動産 (Real Estate) 第2回 Chapter 2 環境 (Environment) 第3回 Chapter 3 ジャーナリズム (Journalism) 第4回 Chapter 4 食品 (Food Products) 第5回 Chapter 5 製造 (Manufacturing) 第6回 Chapter 6 金融 (Financing) 第7回 Chapter 7 スポーツ (Sports) 第8回 Chapter 8 教育 (Education) 第9回 Chapter 9 農水産 (Agricultural and Marine Products) 第10回 Chapter 10 娯楽 (Amusement) 第11回 Chapter 11 芸術 (Art) 第12回 Chapter 12 情報通信 (Information and Communication) 第13回 Chapter 13 公共サービス (Public Services) 第14回 Chapter 15 医療 (Medical Service) 第15回 Review 小テスト	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。英語コミュニケーション学科3回生は、クラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点未満が対象となります。	
教科書 Go for the TOEIC Test【New Edition】実践TOEICコンパクト演習【新形式対応番】 著者： 浅間正道 Nicholas Lambert 出版社： 英宝社 出版年： 2017 ISBN： 9.78427E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (20%) 小テスト (60%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (20%) 履修者は、前期中に公開テストまたは7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。	

## 2017 Syllabus

科目名 English Workshop II &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ファゼカシユ, バラージュ

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

① 文法の構造的な知識を与える ② 練習問題を効率よく解くための能力を身につける ③ 語彙・読解力の向上

授業の概要

毎回、練習問題を解きながら各問題を議論し分析する。問題に関連する文法を学ぶ。一人でドリル問題をとくときも自ら正しい答えを見つけ出す能力を身につける。授業の後半では、リスニングセクションとリーディングセクションのための聴解・読解問題を練習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 TOEIC試験練習問題・受動態・手紙、メール
- 第3回 TOEIC試験練習問題・不定詞・広告
- 第4回 TOEIC試験練習問題・動名詞・求人
- 第5回 TOEIC試験練習問題・不定詞と動名詞の構造文・掲示
- 第6回 TOEIC試験練習問題・分詞・フォーム
- 第7回 TOEIC試験練習問題・命令、依頼、勧誘、助言、提案・長文
- 第8回 TOEIC実践問題
- 第9回 TOEIC試験練習問題・前置詞I・長文
- 第10回 TOEIC試験練習問題・前置詞II・長文
- 第11回 TOEIC試験練習問題・関係詞I・長文
- 第12回 TOEIC試験練習問題・間接話法・長文
- 第13回 TOEIC試験練習問題・接続詞・長文
- 第14回 TOEIC試験練習問題・代名詞・長文
- 第15回 復習

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

履修者は、前期中に公開テストまたは7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

## 2017 Syllabus

科目名 English Workshop II &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 日高 周平	
テーマ TOEIC対策	
授業の到達目標 高得点を狙う	
授業の概要 各授業で、単語・文法事項の確認後、問題に取り組む	
準備学習(予習・復習) 予習復習を行うこと	
内 容 第1回 授業概要・成績評価の説明、アプリ登録、実力テストなど 第2回 名詞 7+6個の使える名詞の語尾, Part 2対策 第3回 形容詞 6つの使える形容詞の語尾, Part 2対策 第4回 副詞 万能以便利な副詞, Part 2対策 第5回 復習, Part 3対策 第6回 新形式のTOEIC 何が変わった? どう対処すれば? Part 3対策 第7回 表現に幅を持たせる修飾方法 1 前置修飾, Part 3対策 第8回 表現に幅を持たせる修飾方法 2 後置修飾, Part 4対策 第9回 表現に幅を持たせる修飾方法 3 関係詞, Part 4対策 第10回 日本語とは違う英語の数と時間, Part 4対策 第11回 従属接続詞 直後に名詞かS+Vか? Part 6対策 第12回 熟語, Part 6対策 第13回 代名詞・再帰代名詞 なぜか間違う代名詞, Part 7対策 第14回 その他頻出, Part 7対策 第15回 総合復習と到達度確認テスト	
履修上の注意点 学習した内容を復習すること。英語コミュニケーション学科3回生は、クラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点未満が対象となります。	
教科書 TOEICテスト新公式問題集<Vol.5> 著者: Educational Testing Service 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 60 ) 履修者は、前期中に公開テストまたは7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。	

## 2017 Syllabus

科目名 English Workshop III &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ファゼカシユ, バラージュ

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

① 文法の構造的な知識を与える ② 練習問題を効率よく解くための能力を身につける ③ 語彙・読解力の向上

授業の概要

毎回、練習問題を解きながら各問題を議論し分析する。また問題に関連する文法を学ぶ。一人でドリル問題をとくときも自ら正しい答えを見つけ出す能力を身につける。授業の後半では、リスニングセクションとリーディングセクションのための聴解・読解問題を練習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 TOEIC攻略・復習
- 第3回 TOEIC試験練習問題・条件法
- 第4回 TOEIC試験練習問題・仮定法
- 第5回 TOEIC試験練習問題・間接話法
- 第6回 TOEIC試験練習問題・接続詞
- 第7回 TOEIC試験練習問題・代名詞
- 第8回 TOEIC実践問題
- 第9回 TOEIC試験練習問題・句動詞
- 第10回 TOEIC試験練習問題・句動詞
- 第11回 TOEIC試験練習問題・名詞説
- 第12回 TOEIC試験練習問題・数値
- 第13回 TOEIC試験練習問題・その他
- 第14回 TOEIC実践問題
- 第15回 復習

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

履修者は、後期中に公開テストまたは12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。



## 2017 Syllabus

科目名 English Workshop III &lt;b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高田 悦子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICテストのスコアアップ(12月のテストで600点以上)を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。

授業の概要

前期に引き続き、スコアアップに必要な語彙・文法力を強化します。同時に、授業ではできるだけ多くの練習問題をこなすことにより、応用力を養成します。※注意事項1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC500点以上の学生が対象となります。500点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。

準備学習(予習・復習)

内容

- 第1回 授業概要の説明。
- 第2回 Unit 1 Shopping : Daily Life
- 第3回 Unit 2 Shopping : Big Purchase
- 第4回 Unit 3 Travel : Planes and Trains
- 第5回 Unit 4 Travel : Hotels
- 第6回 Unit 5 Entertainment : Restaurants
- 第7回 Unit 6 Entertainment : Movies
- 第8回 Unit 7 Entertainment : Cultural and Events
- 第9回 Unit 8 Health : Doctors and Hospitals
- 第10回 Unit 9 Health : Exercise and Diet
- 第11回 Unit 10 Business : Group Project
- 第12回 Unit 11 Business : Clerical Tasks
- 第13回 Unit 12 Business : Visitor
- 第14回 Unit 13 Business : Hiring
- 第15回 Review 小テスト

履修上の注意点

授業の3分の2以上の出席が必要です。英語コミュニケーション学科3回生は、クラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点未満が対象となります。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (60%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20%)

履修者は、後期中に公開テストまたは12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

## 2017 Syllabus

科目名 English Workshop IV &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ファゼカシユ, バラージュ

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

① 文法の構造的な知識を与える ② 練習問題を効率よく解くための能力を身につける ③ 語彙・読解力の向上

授業の概要

毎回、練習問題を解きながら各問題を議論し分析する。問題に関連する文法を学ぶ。一人でドリル問題をとくときも、自ら正しい答えを見つけ出す能力を身につける。授業の後半では、リスニングセクションとリーディングセクションのための聴解・読解問題を練習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 TOEIC攻略・復習
- 第3回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第4回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第5回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第6回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第7回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第8回 TOEIC実践問題
- 第9回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第10回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第11回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第12回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第13回 TOEIC試験練習問題・読解
- 第14回 TOEIC実践問題
- 第15回 復習

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

履修者は、後期中に公開テストまたは12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

## 2017 Syllabus

科目名 English Workshop IV &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 日高 周平	
テーマ TOEIC対策	
授業の到達目標 高得点を狙う	
授業の概要 各授業で、単語・文法事項の確認後、問題に取り組む	
準備学習(予習・復習) 予習復習を行うこと	
内 容 第1回 授業概要・成績評価の説明、前期で学んだことの確認 第2回 カルタ1, Part 2対策, 文法問題40問 第3回 カルタ2, Part 2対策, 文法問題40問 第4回 カルタ3, Part 3対策, 文法問題40問 第5回 カルタ4, Part 3対策, 文法問題40問 第6回 カルタ5, Part 3対策, 文法問題40問 第7回 カルタ6, Part 4対策, 文法問題40問 第8回 カルタ7, Part 4対策, 文法問題40問 第9回 カルタ8, Part 4対策, 文法問題40問 第10回 カルタ9, Part 6対策, 文法問題40問 第11回 カルタ10, Part 6対策, 文法問題40問 第12回 カルタ11, Part 7対策, 文法問題40問 第13回 カルタ12, Part 7対策, 文法問題40問 第14回 カルタ13, Part 7対策, 文法問題40問 第15回 カルタ14, 総合復習と到達度確認テスト	
履修上の注意点 学習した内容を、必ず復習すること。英語コミュニケーション学科3回生は、クラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点未満の学生が対象となります。	
教科書 TOEICテスト新公式問題集<Vol.5> 著者: Educational Testing Service 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 60 ) 履修者は、後期中に公開テストまたは12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 アンガス, ノーマン

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar on Translation

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。1. To develop advanced and practical translation skills from and into English 2. To prepare students for writing an academic paper.

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。  
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

At this stage, students should be fully prepared to take an active lead in class. This involves thorough research of their chosen theme beforehand as well as confident presentation and management of discussion in class. It is also vital that individual students listen to the responses of their classmates, and use the in-class feedback to strengthen their approaches to, and content of their graduation project. An average of at least 5 hours per week will be necessary to produce a quality graduation essay. Students should also maintain an academic attitude throughout: rational, objective, informed, rhetorical, and an open mind.

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

履修上の注意点

This will be a student-centred class, and students should actively participate not just when they are making presentations, but during the question/discussion time for other presentations.

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者: B. Hatim and J. Munday

出版社: Routledge

出版年: 2004

ISBN: 9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9781415-46754-4

A Textbook of Translation

著者: P. Newmark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139-125935

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈\*B〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。  
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定する。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 学外授業を一回行う予定。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 学外授業
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50(ペーパー) )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈\*C〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。○中間発表後、執筆要項、注意事項など細部について指導する。○論文作成に向けての個別指導

準備学習(予習・復習)

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらおう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 10 )

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈\*D〉

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 弥永 啓子	
テーマ 卒業論文作成に向けて	
授業の到達目標 卒業論文作成に向けて準備をする。	
授業の概要 内容は、卒業論文作成に向けて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。○中間発表後、執筆要項、注意事項など細部について指導する。○論文作成に向けての個別指導	
準備学習(予習・復習) 卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらおう。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 論文の書き方 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論) 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論) 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論) 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論) 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)	
履修上の注意点 遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。	
教科書 論文・レポートの基本 著者: 石黒 圭 出版社: 日本実業出版社 出版年: 2012 ISBN: 9.78453E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート(50) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等(40) 参加度(10) 欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。	



## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 アンガス, ノーマン

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar Focussing on Community Translation

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。1. To give students detailed and individual support for producing their graduation thesis 2. To develop advanced and practical translation skills from and into English

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。  
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

At this final stage, students will receive weekly or bi-weekly individual attention outside regular class time as an aid to producing a quality thesis. An average of at least 20 hours per week will be necessary to achieve this. Students should maintain an academic attitude throughout: rational, objective, informed, rhetorical, and an open mind. They should also be attentive to minute detail in completing the final written version of their thesis. Mid-term they are also required to make a thoroughly researched presentation to the third-year students, and answer their questions on the content presented.

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

This class will mainly focus on directing individual teacher/student progress; nevertheless, students should actively participate during the general question/discussion time.

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者: B. Hatim and J. Munday

出版社: Routledge

出版年: 2004

ISBN: 9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9781415-46754-4

A Textbook of Translation

著者: P. Newmark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139-125935

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 60 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈\*B〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。  
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈\*C〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて、一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。  
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成に向けての個別指導。

準備学習(予習・復習)

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらおう。

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 10 )

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

## 2017 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈\*D〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて、一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。  
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成に向けての個別指導。

準備学習(予習・復習)

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらおう。

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 10 )

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*A&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 尾関 美智子	
テーマ	
大学における学習スキルの修得ならびに学習習慣の確立	
<b>授業の到達目標</b> 学生生活を円滑にスタートできるよう、大学で必要な学習スキルを学ぶとともに、受講生が自ら学習する習慣の確立を図る。学習スキルとは、①(プレゼンテーション)人前で堂々と話すことができる。論理的にわかりやすく、説得力のある伝え方ができる。②(資料・文章作成)資料の体裁(引用含む)が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。論理的に分かりやすく、説得力のある発表資料とレポートをパソコンで作成することができる。③(コミュニケーション)他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。チームで協力し合い、成果を高めることができる。④(情報リテラシー)多様な情報の収集手段を理解している。複数の情報を収集し、活用することができる。⑤(学習方法・意欲・態度)高校と大学での学びの違いを理解し、経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。経営に関する知識や、時事情報を継続的に収集する姿勢がある。	
<b>授業の概要</b> 大学での基本的学習スキルについての解説、テキストを用いた発表と討論を通じたコミュニケーションスキルの獲得。	
<b>準備学習(予習・復習)</b> テキストの予習と復習、グループワークに積極的に参加すること。学習ポートフォリオを作成し、学習内容や配布物等を各自保管すること。	
<b>内 容</b> 第1回 ガイダンス 第2回 テキストを用いたグループワークの説明と準備 第3回 図書館ガイダンス 第4回 テキストを用いたグループワークと討論① 第5回 テキストを用いたグループワークと討論② 第6回 テキストを用いたグループワークと討論③ 第7回 テキストを用いたグループワークと討論④ 第8回 テキストを用いたグループワークと討論⑤ 第9回 テキストを用いたグループワークと討論⑥ 第10回 キャリアガイダンス 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 学習成果報告会① 第14回 学習成果報告会② 第15回 演習全体のまとめ	
<b>履修上の注意点</b> 無断欠席はしないようにしてください。	
<b>教科書</b> 希望のつくり方 著者： 玄田有史 出版社： 岩波新書 出版年： 2010 ISBN:	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価</b> 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( 40 ) 参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

デンマークの社会から見た日本の社会

授業の到達目標

1) 人前で堂々と話すことができる。2) 体裁(引用含む)が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。3) 他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。4) 多様な情報の収集手段を理解している。5) 高校と大学での学びの違いを理解し、経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。

授業の概要

世界一幸福度が高いと言われているデンマークの社会についての知識を得た上で、そこから日本の社会にはどのような特徴があるのかを考える。本の輪読と発表、議論を通じて、高校とは異なる大学での学習に必要な基礎的能力を身につける。

準備学習(予習・復習)

自分の発表のための準備を行うのは当然であるが、自分が発表する回以外でもテキストの指定箇所を熟読しておく必要がある。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 何のために本を読むのか？本はどう読むべきか？
- 第3回 発表資料(レジュメ)の作成方法
- 第4回 図書館を使おう
- 第5回 世界一幸福な国デンマークの暮らし方(1)
- 第6回 世界一幸福な国デンマークの暮らし方(2)
- 第7回 世界一幸福な国デンマークの暮らし方(3)
- 第8回 世界一幸福な国デンマークの暮らし方(4)
- 第9回 世界一幸福な国デンマークの暮らし方(5)
- 第10回 デンマークから見た日本の社会(1)
- 第11回 デンマークから見た日本の社会(2)
- 第12回 デンマークから見た日本の社会(3)
- 第13回 レポート作成の方法(アカデミック・ライティングの基礎)
- 第14回 ポスター発表本番(1)
- 第15回 ポスター発表本番(2)

履修上の注意点

ゼミ形式の授業では、学生は授業の受け手ではなく、自分自身が授業を提供する立場にあることを意識し、積極的に参加しなければならない。無断欠席、無断遅刻が許されないのは当然であるが、自分に与えられた役割をはたすために十分な準備を行うことも要求される。

教科書

世界一幸福な国デンマークの暮らし方(PHP新書)

著者: 千葉忠夫

出版社: PHP研究所

出版年: 2009

ISBN: 4569709478

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 杉浦 昌

テーマ

ゼミ形式による学習方法を修得する。

授業の到達目標

大学生に求められるものごとの捉え方を学ぶとともに、自分の意見をまとめて発表するスキルおよび議論を行うスキルを身につける。

授業の概要

テキストを1章づつ読み、感想、賛同する部分、同意できない部分、よくわからなかった部分をまとめる。それらを全員の前で発表し、質問を受け、議論を行う。他、授業中に適時質問をするので自分の考えを正しく述べる。

準備学習(予習・復習)

テキストを予習して、自分の考えをまとめた上で参加すること。

内 容

第1回 ゼミの進行方法についてのガイダンスと自己紹介

第2回 学生による発表・討論(1)

第3回 学生による発表・討論(2)

第4回 学生による発表・討論(3)

第5回 学生による発表・討論(4)

第6回 学生による発表・討論(5)

第7回 学生による発表・討論(6)

第8回 学生による発表・討論(7)

第9回 学生による発表・討論(8)

第10回 学生による発表・討論(9)

第11回 学生による発表・討論(10)

第12回 学生による発表・討論(11)

第13回 学習成果報告会の準備と議論

第14回 学習成果報告会(1)

第15回 学習成果報告会(2)

履修上の注意点

積極的に参加すること。欠席しないこと。

教科書

情報を生かす力(PHPビジネス新書)

著者: 池上彰

出版社: PHP研究所

出版年: 2016年6月

ISBN: 9.78457E+12

おとなの教養—私たちはどこから来て、どこへ行くのか?

著者: 池上彰

出版社: NHK出版

出版年: 2014年4月

ISBN: 9.78414E+12

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

基礎的なアカデミック・スキルの習得と学部専門教育への導入

授業の到達目標

1) 人前で堂々と話すことができる。2) 体裁(引用含む)が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。3) 他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。4) 多様な情報の収集手段を理解している。5) 高校と大学での学びの違いを理解し、経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。

授業の概要

アカデミック・スキルの習得とグループワークを内容とする演習形式の授業を展開する。また、毎回の演習の冒頭において、受講生による1分間スピーチやビジネス検定・時事問題の学習も行う。授業の到達目標に照らして、図書館ガイダンス等も開催する。

準備学習(予習・復習)

授業外において、グループワークの準備等を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アカデミック・スキル入門(本の読み方)
- 第3回 アカデミック・スキル入門(討論のルール)
- 第4回 アカデミック・スキル入門(レジュメの作り方)
- 第5回 図書館ガイダンス(予定) 実際の図書貸借を体験する。
- 第6回 視聴覚教材を用いた学習①(キャリア形成に関するもの)
- 第7回 視聴覚教材を用いた学習②(ヘルスケアに関するもの)
- 第8回 グループワーク① テーマ設定と検討
- 第9回 グループワーク② テーマの検討(1)
- 第10回 グループワーク③ テーマの検討(2)
- 第11回 グループワーク④ テーマの検討(3)
- 第12回 学習成果報告会の準備(1)
- 第13回 学習成果報告会の準備(2)
- 第14回 学修成果報告会
- 第15回 学修成果報告会

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*E&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 竹内 直人

テーマ

人口減少に関する政策課題の理解

授業の到達目標

人口減少に関する文献(新書)を題材に、文章を正確に読みまとめる基本的なスキル及び自分の意見に基づき他人と議論するスキルを身に付ける。

授業の概要

レジュメに基づき毎回発表と議論を行い、最終的にはグループごとにレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。

準備学習(予習・復習)

指定されたテキストの該当部分を必ず事前に読み、要点を整理してまとめておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学の学習の基礎スキル(1)テキストや文献の読み方
- 第3回 大学の学習の基礎スキル(2)データや資料の集め方
- 第4回 大学の学習の基礎スキル(3)レジュメ・レポートの作り方
- 第5回 大学の学習の基礎スキル(4)グループワーク、プレゼンテーションのスキル
- 第6回 テキストを用いた発表と討論(1)
- 第7回 テキストを用いた発表と討論(2)
- 第8回 テキストを用いた発表と討論(3)
- 第9回 テキストを用いた発表と討論(4)
- 第10回 テキストを用いた発表と討論(5)
- 第11回 テキストを用いた発表と討論(6)
- 第12回 テキストを用いた発表と討論(7)
- 第13回 テキストを用いた発表と討論(8)
- 第14回 全体討論
- 第15回 レポート発表と討論

履修上の注意点

事前に指示したテキストの該当部分についてまとめたレジュメと発表を中心に評価を行うので、事前の準備を忘れないこと。

教科書

地方消滅

著者: 増田寛也

出版社: 中公新書

出版年: 2014年

ISBN:

参考書

農山村は消滅しない

著者: 小田切徳美

出版社: 岩波新書

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*F&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 西野 毅朗

テーマ

高校から大学への学びの転換～主体的に学ぶ、関係性を構築する、基本的なスタディスキルを高める～

授業の到達目標

①人前で堂々と話すことができる。②体裁(引用含む)が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。  
③他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。④多様な情報の収集手段を理解している。⑤高校と大学での学びの違いを理解し、経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。

授業の概要

本科目はグループワークを中心とした演習科目です。教員から教えてもらうということ以上に、実践を通じて自ら学ぶことを大切にしてください。わからないこともまずは自分で調べてみてください。インターネットで調べたり、本を読んだり、人に訊いたりしてみてください。もちろん訊く相手の一人には教員も含まれます。遠慮なく質問したり、相談して下さいね。私もみなさんと一緒に考え、愉しく学びたいと思います。

準備学習(予習・復習)

授業外でグループワークや授業準備等を行っていただきます。自分の成長と自分の未来のためと思って頑張ってください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フィールドワーク(京都橋大学探検)
- 第3回 スタディスキル入門①(学びたいテーマを見つける)
- 第4回 スタディスキル入門②(図書館ツアー(予定)/リサーチ技法)
- 第5回 スタディスキル入門③(レジュメ作成技法)
- 第6回 スタディスキル入門④(プレゼンテーション技法)
- 第7回 スタディスキル入門⑤(レポート作成技法)
- 第8回 グループワークⅠ(チームビルディング)
- 第9回 グループワークⅡ(ビジネスプランを作成しよう①)
- 第10回 グループワークⅢ(ビジネスプランを作成しよう②)
- 第11回 中間発表会
- 第12回 グループワークⅣ(ビジネスプランを練り上げよう)
- 第13回 学修成果報告会
- 第14回 学修成果報告会
- 第15回 総括(半年間の学びを振り返り、今後への活かし方を考える)

履修上の注意点

遅刻・欠席する場合は、必ず教員に連絡してください(受講生みんなに迷惑がかかる可能性があるからです)。

教科書

未使用

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

詳細な評価方法は授業中に説明します。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*G&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平尾 毅	
テーマ	
大学のゼミ形式の学習方法を修得する。	
授業の到達目標	
プレゼンテーションの方法を理解し、人前で堂々と話すことができる。体裁が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。多様な情報の収集手段を理解している。経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。	
授業の概要	
新書版のテキストを全員が読み、レジュメを作成した上で、レジュメに基づく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→論点についての意見→全員の感想、と展開して、テキストを読んだらレポートを作成する。また、テキストの内容に基づくテーマについて、グループで意見をまとめ、グループごとに発表する。	
準備学習(予習・復習)	
予習として、全員がレジュメを毎回作成し、提出してもらいます。	
内 容	
第1回 ガイダンス(ゼミ運営の方法、チームビルディング)	
第2回 大学での学習法:ノート・テイキング、学習態度	
第3回 情報リテラシーを学ぶ:情報の収集と整理の方法	
第4回 ライティング手法を学ぶ①:レジュメ作成の方法	
第5回 学生による発表・討論(1)	
第6回 学生による発表・討論(2)	
第7回 学生による発表・討論(3)	
第8回 ディスカッション手法を学ぶ	
第9回 学生による発表・討論(4)	
第10回 学生による発表・討論(5)	
第11回 学生による発表・討論(6)	
第12回 ライティング手法を学ぶ②:レポートの書き方	
第13回 学修成果報告会(1)	
第14回 学修成果報告会(2)	
第15回 総括	
履修上の注意点	
テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。グループワークでは、傾聴を含む積極参加が求められます。	
教科書	
ポスト戦後社会	
著者: 吉見俊哉	
出版社: 岩波新書	
出版年: 2009	ISBN: 978-4004310501
参考書	
適宜紹介します。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (0%)	小テスト (0%)
授業中課題 (40%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (30%)	
参加度はグループワークでの発言や参加姿勢を含みます。	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*H&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

1) 人前で堂々と話すことができる。2) 体裁(引用含む)が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。3) 他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。4) 多様な情報の収集手段を理解している。5) 高校と大学での学びの違いを理解し、経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。

授業の概要

前半は、若者や社会、経済、企業等に関する身近な時事問題について、グループで討論や意見集約をして、それを発表する。後半は、いくつかのテーマを定めた上でそれについてグループ単位で調べ、資料を作り報告する。なお、前半・後半それぞれ、開始回に具体的な方法や形式については指示をする。

準備学習(予習・復習)

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 時事問題を用いたグループ討論(1)
- 第3回 時事問題を用いたグループ討論(2)
- 第4回 時事問題を用いたグループ討論(3)
- 第5回 時事問題を用いたグループ討論(4)
- 第6回 時事問題を用いたグループ討論(5)
- 第7回 テーマを定めたグループワークと報告(1)
- 第8回 テーマを定めたグループワークと報告(2)
- 第9回 テーマを定めたグループワークと報告(3)
- 第10回 テーマを定めたグループワークと報告(4)
- 第11回 テーマを定めたグループワークと報告(5)
- 第12回 テーマを定めたグループワークと報告(6)
- 第13回 ポスターセッション準備
- 第14回 ポスターセッション
- 第15回 ポスターセッション

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

ゼミ形式の授業は参加を最重要視する。遅刻・欠席を極力しないこと、またやむを得ない場合も必ず事前に連絡すること。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (経) &lt;\*I&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ランビーノ, パラガス

テーマ

生活と環境との関わりを学習すること。

授業の到達目標

生活と環境との関わりを様々な側面から見て、考えを深めながら自分の言葉で、それらを説明出来るようになることである。

授業の概要

本演習では、テキストやドキュメンタリー映画等を教材として用いる。テキストは『沈黙の春』である。初回の授業でグループ分けを行う。テキストを用いる日には、報告グループはテキストの該当箇所の報告を行い、報告にベースにして参加者全員で議論する。ドキュメンタリー映画の鑑賞を行う場合は、鑑賞後の次の授業でディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内 容

第1回 ドキュメンタリー映画の鑑賞

第2回 ドキュメンタリー映画についてディスカッション

第3回 (輪読)『沈黙の春』第一章「明日のための寓話」、第二章「負担は耐えねばならぬ」、第三章「死の霊楽」

第4回 (輪読)『沈黙の春』第四章「地表の水、海底の海」、第五章「土壌の世界」、『沈黙の春』第六章「みどりの地表」

第5回 (輪読)第七章「何のための大破壊?」、『沈黙の春』第八章「そして、鳥は鳴かず」、第九章「死の川」

第6回 ドキュメンタリー映画の鑑賞

第7回 ドキュメンタリー映画についてディスカッション

第8回 (輪読)『沈黙の春』第十章「空からの一斉爆撃」、第十一章「ボルジア家の夢をこえて」、『沈黙の春』第十二章「人間の代価」

第9回 (輪読)第十三章「狭き窓より」、『沈黙の春』第十四章「四人にひとり」、第十五章「自然は逆襲する」

第10回 (輪読)『沈黙の春』第十六章「迫り来る雪崩」、第十七章「べつの道」

第11回 学習成果報告会準備会

第12回 学習成果報告会準備会

第13回 学習成果報告会

第14回 学習成果報告会

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

沈黙の春

著者: レイチェル・カーソン著、青樹築一訳

出版社: 新潮文庫

出版年: 1974年

ISBN: 978-4102074015

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (35%)

参加度 (65%)

特になし。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 杉浦 昌

テーマ

文章作成能力を向上させる。

授業の到達目標

大学生に求められる文章作成能力を身につけるとともに、自分の意見をまとめて発表するスキルおよび議論を行うスキルを身につける。

授業の概要

テキストを読み、感想、理解出来た部分、理解出来なかった部分をまとめる。それらを全員の前で発表し、質問を受け、議論を行う。他、授業中に適時質問をするので自分の考えを正しく述べる。また、毎回の授業で課題を出すので、それに対するレポートを作成して期限内に提出する。

準備学習(予習・復習)

テキストを予習して理解しておくこと。わからない単語があったら辞書で意味や例文を調べること。

内 容

第1回 ゼミの進行方法についてのガイダンスと自己紹介

第2回 学生による発表・討論(1)

第3回 学生による発表・討論(2)

第4回 学生による発表・討論(3)

第5回 学生による発表・討論(4)

第6回 学生による発表・討論(5)

第7回 学生による発表・討論(6)

第8回 学生による発表・討論(7)

第9回 学生による発表・討論(8)

第10回 学生による発表・討論(9)

第11回 学生による発表・討論(10)

第12回 学生による発表・討論(11)

第13回 学習成果報告会の準備と議論

第14回 学習成果報告会(1)

第15回 学習成果報告会(2)

履修上の注意点

積極的に参加すること。欠席しないこと。必ずレポートを提出すること。

教科書

日本語練習帳(岩波新書)

著者: 大野晋

出版社: 岩波書店

出版年: 1999年1月

ISBN: 9.784E+12

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(40)

授業中発表等(30)

参加度(30)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経)〈\*B〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

大学のゼミ形式の学習方法を修得する

授業の到達目標

新書版のテキストを読んで、発表者はレジュメを作り、全員が討論に参加して、レポートを作成するという一連の能力を身につける。また、学習成果報告会に参加するために各班で協力できるようになる。

授業の概要

新書版のテキスト二冊を読む。各班ごとに、レジュメに基づく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→論点についての意見→全員の感想、と展開して、テキストを読了したらレポートを作成する。また、学習成果報告会に参加する。

準備学習(予習・復習)

必ずテキストを予習する。

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法についてのガイダンス、自己紹介
- 第2回 一冊目のテキスト、学生による発表・討論(1)
- 第3回 一冊目のテキスト、学生による発表・討論(2)
- 第4回 一冊目のテキスト、学生による発表・討論(3)
- 第5回 一冊目のテキスト、学生による発表・討論(4)
- 第6回 一冊目のテキスト、学生による発表・討論(5)
- 第7回 一冊目のテキストのまとめ、レポートの振り返り、二冊目のテキストの分担
- 第8回 二冊目のテキスト、学生による発表・討論(1)
- 第9回 二冊目のテキスト、学生による発表・討論(2)
- 第10回 二冊目のテキスト、学生による発表・討論(3)
- 第11回 二冊目のテキスト、学生による発表・討論(4)
- 第12回 二冊目のテキスト、学生による発表・討論(5)
- 第13回 二冊目のテキストのまとめ、レポートの振り返り、学習成果報告会の準備
- 第14回 学習成果報告会(1)土曜日開講
- 第15回 学習成果報告会(2)土曜日開講

履修上の注意点

テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。

教科書

ブラックバイト

著者: 今野晴貴

出版社: 岩波新書

出版年: 2016

ISBN: 00-431602-2

いじめ問題をどう克服するか

著者: 尾木直樹

出版社: 岩波新書

出版年: 2013

ISBN: 00-431456-1

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(レポート20%)

授業中発表等(40%)

参加度(40%)



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

基礎的なアカデミック・スキルの習得と学部専門教育への導入

授業の到達目標

1) 論理的にわかりやすく、説得力のある伝え方ができる。2) 論理的に分かりやすく、説得力のある発表資料とレポートをパソコンで作成することができる。3) チームで協力し合い、成果を高めることができる。4) 複数の情報を収集し、活用することができる。5) 経営に関する知識や、時事情報を継続的に収集する姿勢がある。

授業の概要

グループワークを内容とする演習形式の授業を展開する。また、毎回の演習の冒頭において、受講生による1分間スピーチやビジネス検定・時事問題の学習も行う。授業の到達目標に照らして、図書館ガイダンス等も開催する。

準備学習(予習・復習)

授業外において、グループワークの報告準備等を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アカデミック・スキルの復習(本の読み方)
- 第3回 アカデミック・スキルの復習(討論のルール)
- 第4回 アカデミック・スキルの復習(レジュメの作り方)
- 第5回 図書館ガイダンス(予定) 実際の図書貸借を体験する。
- 第6回 視聴覚教材を用いた学習①(キャリア形成に関するもの)
- 第7回 視聴覚教材を用いた学習②(ヘルスケアに関するもの)
- 第8回 学習成果報告会に向けたテーマの設定と調査方法の指導
- 第9回 学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(1)
- 第10回 学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(2)
- 第11回 学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(3)
- 第12回 学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(4)
- 第13回 学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(5)
- 第14回 学修成果報告会
- 第15回 学修成果報告会

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 竹内 直人

テーマ

人口減少に関する政策課題の検討

授業の到達目標

人口減少問題を題材に、一つの課題に対しても様々な異なる考え方があることを理解し、社会的な課題を多面的に考える能力を身に付ける。

授業の概要

レジュメに基づき毎回発表と議論を行い、最終的にはグループごとにレポートをまとめプレゼンテーションを行う。

準備学習(予習・復習)

事前に指定したテキストの該当部分を読み、要点を整理しまとめておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学の学習の基礎スキル(1)読書の方法
- 第3回 大学の学習の基礎スキル(2)レジュメ・レポートの書き方
- 第4回 大学の学習の基礎スキル(3) 討論とプレゼンテーションの行い方
- 第5回 テキストを用いた発表と討論(1)
- 第6回 テキストを用いた発表と討論(2)
- 第7回 テキストを用いた発表と討論(3)
- 第8回 テキストを用いた発表と討論(4)
- 第9回 テキストを用いた発表と討論(5)
- 第10回 テキストを用いた発表と討論(6)
- 第11回 グループによる中間発表と検討会
- 第12回 全体討論(1)
- 第13回 全体討論(2)
- 第14回 グループによる最終発表
- 第15回 総括

履修上の注意点

増田寛也「地方消滅」に対する反論を読み、理解を深めることを目標とするので、開講までに増田寛也「地方消滅」を読んでおくこと。

教科書

地方消滅の罟

著者: 山下祐介

出版社: ちくま新書

出版年: 2014年

ISBN:

参考書

データブック人口

著者: 西川潤

出版社: 岩波ブックレット733

出版年: 2008年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

人口減少に関するレポート(1500字程度)の提出とグループ発表により評価を行う。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経) &lt;\*E&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 西野 毅朗	

テーマ

ディベートを通じた思考力・コミュニケーション力・協働力の向上

授業の到達目標

①論理的にわかりやすく、説得力のある伝え方ができる。②論理的に分かりやすく、説得力のある発表資料とレポートをパソコンで作成することができる。③チームで協力し合い、成果を高めることができる。④複数の情報を収集し、活用することができる。⑤経営に関する知識や、時事情報を継続的に収集する姿勢がある。

授業の概要

この授業では、「ディベート」という討論のゲームを通じて大学での学び、ひいては社会生活で必要とされる汎用的技能を高めます。このゲームの特徴は、皆さんが一生懸命やればやるほど力が身につくということです。半年後には、きっと「自分、成長したな」と思うことができます。初心者でも全く問題ありません。楽しみながらやってみましょう。

準備学習(予習・復習)

本科目ではグループでの活動が中心となります。授業外での準備学習は必須です。グループメンバーと相談し、協力しながら進めてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーションーディベートとは？
- 第2回 試合準備① 立論を組み立てる
- 第3回 試合準備② 反論を考える
- 第4回 試合準備③ 証拠資料を集めて説得力を高める
- 第5回 第一試合
- 第6回 第二試合
- 第7回 中間振り返り／新チーム結成／新テーマ決定
- 第8回 試合準備①
- 第9回 試合準備②
- 第10回 第一試合
- 第11回 第二試合
- 第12回 学修成果報告会準備
- 第13回 学修成果報告会
- 第14回 学修成果報告会
- 第15回 総括振り返り

履修上の注意点

試合当日の欠席やレポートの未提出は落第に繋がりがねません。必ず出席・提出するようにしましょう。また授業に遅刻・欠席する場合は教員に事前に連絡をしましょう(これはマナーです)。最後に、授業に関する不安や悩み、相談などは遠慮なく申し出てください。受講生のみなさんにとって最良の学びの機会になるよう、私も善処します。

教科書

参考書

はじめてのディベート

著者： 西部直樹

出版社： あさ出版

出版年： 1998

ISBN: 4900699292

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

・詳細は授業で説明します。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経) &lt;\*F&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 平尾 毅

テーマ

意思決定の方法について学ぶ。

授業の到達目標

自分で考え、自分で決めるための思考法を身につけることができる。プレゼンテーション能力を磨き、論理的で説得力のある発表ができる。論理的で説得力のある発表資料とレポートをPCで作成できる。チームで協力して成果を高めることができる。複数の情報を収集し、活用できる。経営に関する知識や時事情報を継続的に収集する姿勢がある。

授業の概要

変化の激しい時代に自分の思い通りにキャリアを築くことは困難です。これまでのやり方や価値観、横並びの意思決定では対応できない状況が増えています。不確実性が增大している時代において、自分の将来を見据えながら現時点で最善と思える意思決定をしなければなりません。このゼミでは、ディベートを繰り返し行うことによって、自分で答えを導出するための思考法を身につけます。まず、テキストに沿ってディベートの手法を実践しながら学びます。その上で、実際のディベートはテーマごとにグループで準備して行います。ディベート終了後、指定された論題について、レポートを作成し、自分の意見をまとめます。

準備学習(予習・復習)

全員がレジュメ作成とディベートの準備を、予習として行ってください(1時間程度)。

内 容

- 第1回 ガイダンス:ゼミ運営の方法、チームビルディング
- 第2回 情報リテラシーを学ぶ:情報の収集と整理の方法
- 第3回 ライティング手法を学ぶ①:レジュメ作成の方法
- 第4回 学生による発表・討論(1)
- 第5回 学生による発表・討論(2)
- 第6回 学生による発表・討論(3)
- 第7回 学生による発表・討論(4)
- 第8回 ディベート(1)
- 第9回 ディベート(2)
- 第10回 ディベート(3)
- 第11回 ディベート(4)
- 第12回 ライティング手法を学ぶ②:レポートの書き方
- 第13回 学修成果報告会(1)
- 第14回 学修成果報告会(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。グループワークでは、傾聴を含む積極参加が求められます。

教科書

武器としての決断思考

著者: 瀧本 哲史

出版社: 星海社新書

出版年: 2011年

ISBN: 978-4061385016

参考書

適宜紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

参加度はグループワークへの参加姿勢を含みます。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経) &lt;\*G&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

1) 論理的にわかりやすく、説得力のある伝え方ができる。2) 論理的に分かりやすく、説得力のある発表資料とレポートをパソコンで作成することができる。3) チームで協力し合い、成果を高めることができる。4) 複数の情報を収集し、活用することができる。5) 経営に関する知識や、時事情報を継続的に収集する姿勢がある。

授業の概要

前半は、テキストを読み、報告や討論を通じて理解する基礎学習をおこなう。後半は、各自で一定の枠の中からテーマを設定し、それについて情報の収集・整理、報告と討論、発表資料の作成のスキルを学ぶ。

準備学習(予習・復習)

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキストを用いた読解、発表と討論(1)
- 第3回 テキストを用いた読解、発表と討論(2)
- 第4回 テキストを用いた読解、発表と討論(3)
- 第5回 テキストを用いた読解、発表と討論(4)
- 第6回 テキストを用いた読解、発表と討論(5)
- 第7回 テキストを用いた読解、発表と討論(6)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 個別テーマによるレポート作成(1)
- 第10回 個別テーマによるレポート作成(2)
- 第11回 個別テーマによるレポート作成(3)
- 第12回 個別テーマによるレポート作成(4)
- 第13回 発表会の準備
- 第14回 合同成果発表会
- 第15回 合同成果発表会

履修上の注意点

教科書

経済学的思考のセンスーお金がないヒトを助けるには

著者: 大竹文雄

出版社: 中公新書

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

ゼミ形式の授業は参加を最重要視する。遅刻・欠席を極力しないこと。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経) &lt;\*H&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ランビノー, パラガス

テーマ

経営、経済及び社会について、複眼的に考えること。

授業の到達目標

主な目標は、報告資料の作成技術と、報告及び討論の手法を習得することです。

授業の概要

本演習では、経営、経済及び社会に関わるトピックスを新聞やインターネットの中に見出し、ディスカッションを通して自分の考えを磨くことです。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内 容

- 第1回 ガイダンス。グループ・メンバーの割り当て。  
 第2回 経済・経営に関連する新聞記事を読み、全員で議論。  
 第3回 経済・経営に関連する新聞記事を読み、全員で議論。  
 第4回 トピックス①「日本の自給自足率」、グループ別で報告。  
 第5回 経済・経営に関連する新聞記事を読み、全員で議論。  
 第6回 経済・経営に関連する新聞記事を読み、全員で議論。  
 第7回 トピックス②「少子高齢化」、グループ別で報告。  
 第8回 トピックス③「地球温暖化」、グループ別で報告。  
 第9回 ディベート準備。  
 第10回 ディベート①「コンビニ24時間営業の是非」  
 第11回 ディベート②「電子書籍を推進するかどうか」  
 第12回 学習成果報告会準備会  
 第13回 学習成果報告会準備会  
 第14回 学習成果報告会  
 第15回 学習成果報告会

履修上の注意点

特になし。

教科書

使用しない(適宜プリントを配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (70%)

参加度 (30%)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(経) &lt;\*I&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今井 まりな

テーマ

マーケティングの基礎をつかむ

授業の到達目標

1)論理的にわかりやすく、説得力のある伝え方ができる。2)論理的にわかりやすく、説得力のある発表資料とレポートをパソコンで作成することができる。3)チームで協力し合い、成果を高めることができる。4)複数の情報を収集し、活用することができる。5)経営に関する知識や、時事情報を継続的に収集する姿勢がある。6)マーケティングに関する基礎知識の習得

授業の概要

前半は指定するテキストの輪読、後半は前半で学んだことを用いて新製品企画を行う。新製品企画案は学習成果報告会で報告する。

準備学習(予習・復習)

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。

内 容

- 第1回 ガイダンス/自己紹介の報告
- 第2回 輪読の説明
- 第3回 輪読①②
- 第4回 輪読③④
- 第5回 輪読⑤⑥
- 第6回 輪読①②
- 第7回 輪読③④
- 第8回 輪読⑤⑥
- 第9回 新製品企画の説明/プレゼンテーション方法の説明
- 第10回 新製品企画①
- 第11回 新製品企画②
- 第12回 新製品企画③
- 第13回 事前報告会
- 第14回 学習成果報告会①
- 第15回 学習成果報告会②

履修上の注意点

教科書

マーケティングをつかむ

著者: 黒岩健一郎・水越康介

出版社: 有斐閣

出版年: 2012

ISBN: 978-4641177178

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 救急医学総論 I &lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹

テーマ

救急救命士の使命・基礎知識と代表的応急処置

授業の到達目標

救急救命士の使命, 救急医療体制の理解

授業の概要

救急救命士の業務遂行には、その社会的使命の理解や救急医療制度の理解、そして救急医学を中心とした医学全般の知識が必要となる。本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の体、心、くらしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置としての心肺蘇生法までを習得し、一連の講義を通して、職業としての救急救命士の具体的なイメージを持てるようにする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、医の倫理と生命論理
- 第2回 救急業務とは・救急業務の沿革
- 第3回 心肺蘇生法・病院前救護
- 第4回 科学的思考の基礎・人間と人間生活
- 第5回 救急救命士の役割と責任
- 第6回 救急医療体制とは
- 第7回 救急医療システムとは
- 第8回 メディカルコントロールとは
- 第9回 救急救命士に関する法規
- 第10回 救急活動要領について
- 第11回 救急活動要領について
- 第12回 死者の対応要領について
- 第13回 医療保険等について
- 第14回 消防救急の現状について
- 第15回 総括

履修上の注意点

第1回目の講義時にガイダンスを実施するので注意事項を遵守すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (100)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

受講態度が不良のもの、休みの回数が一定以上のものは成績評価を行わない。



## 2017 Syllabus

## 科目名 救急救命実習Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 夏目 美樹・北小屋 裕久・保山 一敏・関根 和弘・千田 いずみ・西本 泰久・深澤 雄二・福岡 範恭・富士原 彰	
テーマ 救急救命士の現場活動の修得	
授業の到達目標 救急救命士が救急現場において実施する救急救命行為(プロトコル)を習得する 各種病態生理を理解し、病態に適応した対応が取れる	
授業の概要 救急救命士の活動に必要な知識・技術をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコルの習得とともに隊活動を通して総合的な実践力を養うことを目標とする。	
準備学習(予習・復習) 実習項目に関するテキストの各項目を熟読し、各種手技および病態生理を理解した後実習に参加すること。 実習後は実施した活動内容を復習し、必要に応じて自主練習を行い知識技術の習得に努めること。	
内 容 第1回 第1回～3回 オリエンテーション、CPA対応基本活動 第2回 第4回～6回 CPA対応基本活動 第3回 第7回～9回 静脈路確保および薬剤投与プロトコル 第4回 第10回～12回 静脈路確保および薬剤投与プロトコル 第5回 第13回～15回 静脈路確保および薬剤投与プロトコル 第6回 第16回～18回 器具を用いた気道確保プロトコル 第7回 第19回～21回 器具を用いた気道確保プロトコル 第8回 第22回～24回 気管挿管プロトコル 第9回 第25回～27回 気管挿管プロトコル 第10回 第28回～30回 CPA対応総合活動 第11回 第31回～33回 CPA対応総合活動 第12回 第34回～36回 CPA対応総合活動 第13回 第37回～39回 病院内でのCPA対応(ICLS) 第14回 第40回～42回 病院内でのCPA対応(ICLS) 第15回 第43回～45回 前期まとめ 第16回 第46回～48回 病態別対応(胸部痛対応活動) 第17回 第49回～51回 病態別対応(胸部痛対応活動) 第18回 第52回～54回 病態別対応(胸部痛対応活動) 第19回 第55回～57回 病態別対応(胸部痛対応活動) 第20回 第58回～60回 病態別対応(腰背部痛対応活動) 第21回 第61回～63回 病態別対応(腰背部痛対応活動) 第22回 第64回～66回 病態別対応(呼吸困難対応活動) 第23回 第67回～69回 病態別対応(呼吸困難対応活動) 第24回 第70回～72回 病態別対応(神経感覚系対応活動) 第25回 第73回～75回 病態別対応(頭蓋内病変対応活動) 第26回 第76回～78回 病態別対応(頭蓋内病変・意識消失対応活動) 第27回 第79回～81回 病態別対応(頭蓋内病変・意識消失対応活動) 第28回 第82回～84回 病態別対応(意識消失対応活動) 第29回 第85回～87回 病態別対応(意識消失対応活動) 第30回 第88回～90回 病態別対応(産科・総括)	
履修上の注意点 受講態度、服装、頭髮等が実習学生として不適切な者は、成績評価の対象としないことがある。 授業時に実施する確認テストが基準点数に達していない者は、成績評価の対象としないことがある。	
教科書 救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会	

出版社：へるす出版

出版年：2015

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社：へるす出版

出版年：2015

ISBN： 9.78489E+12

参考書

---

成績評価

試験・レポート（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

実技・筆記試験により成績評価を実施する。無断欠席した者は成績評価を行わない。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急救命実習Ⅳ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 夏目 美樹.北小屋 裕.千田 いずみ.西本 泰久.深澤 雄二.福岡 範恭.富士原 彰	

## テーマ

総合的な観察・処置技術を養う

## 授業の到達目標

これまでの各実習を通して学修した救急救命活動実践を総括し、救急救命士としての自覚を養う。また、各種高度シミュレーターや救急車を用いて、様々な現場と病態を想定した実践的な実習により、救急救命士としての総合的な観察・処置技術を習得すると共に一連の救急活動(救急救命活動)を自律的に遂行できる総合的な実践力を養う。そのために実践的なシミュレーション実習を実施する。

## 授業の概要

救急救命士の活動をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコルの更なる確認とともに、隊活動を通して現場活動に即応した実践力応用力を養うことを目標とする。

## 準備学習(予習・復習)

実習項目に関するテキストの各項目を熟読し、各種手技および病態生理を理解した後実習に参加すること。  
実習後は実施した活動内容を復習し、必要に応じて自主練習を行い知識技術の習得に努めること。

## 内 容

- 第1回 第1回～3回 オリエンテーション、心肺停止症例対応
- 第2回 第4回～6回 神経系疾患症例対応
- 第3回 第7回～9回 呼吸器系疾患症例対応
- 第4回 第10回～12回 循環器系疾患症例対応
- 第5回 第13回～15回 消化器系疾患症例対応
- 第6回 第16回～18回 泌尿・生殖系疾患症例対応
- 第7回 第19回～21回 外傷症例
- 第8回 第22回～24回 精神障害・中毒疾患症例対応
- 第9回 第25回～27回 環境障害疾患症例対応
- 第10回 第28回～30回 分娩・産婦人科系疾患症例対応
- 第11回 第31回～33回 内分泌・代謝系疾患症例対応
- 第12回 第34回～36回 意識消失疾患症例対応
- 第13回 第37回～39回 ショック症例対応
- 第14回 第40回～42回 総合シミュレーション
- 第15回 第43回～45回 総合シミュレーション

## 履修上の注意点

受講態度、服装、頭髪等が実習学生として不適切な者は、成績評価の対象としないことがある。

## 教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN: 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN: 9.78489E+12

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( 100 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

無断欠席したのものについては、成績評価を行わない。



## 2017 Syllabus

科目名 現代企業論 &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 平尾 毅	
テーマ	
企業の本質・役割・存在価値を学習する。	
授業の到達目標	
株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。	
授業の概要	
企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点	
第2回 企業の目的と存在価値	
第3回 財・サービスの提供機関としての企業	
第4回 企業の形態論	
第5回 株式会社制度の出現と展開	
第6回 株式会社の本質と特徴	
第7回 株式会社の組織	
第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック	
第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較	
第10回 企業の境界	
第11回 企業関係の構造と行動	
第12回 企業統合の形態論とM&A	
第13回 会社機関	
第14回 証券取引市場	
第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック	
履修上の注意点	
経済新聞の精読をお薦めします。	
教科書	
企業形態論 第3版(新経営学ライブラリー-5)	
著者: 小松 章	
出版社: 新世社	
出版年: 2006年	ISBN: 978-4883840984
参考書	
経験から学ぶ経営学入門	
著者: 上林・奥林・團・開本・森田・竹林	
出版社: 有斐閣ブックス	
出版年: 2007年	ISBN: 978-4641183483
1からの経営学 第2版	
著者: 加護野忠男・吉村典久	
出版社: 碩学舎	
出版年: 2012年	ISBN: 978-4502696107
企業論 第3版	
著者: 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫	
出版社: 有斐閣アルマ	
出版年: 2011年	ISBN: 978-4641124448
成績評価	
試験・レポート (70%)	小テスト (0%)



## 2017 Syllabus

科目名 会計学入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 財務諸表の概要を学ぶ	
授業の到達目標 財務諸表の仕組みを学ぶことをとおして経営活動の本質を理解する	
授業の概要 テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある	
準備学習(予習・復習) 復習を必ず行ってもらいたい。	
内 容 第1回 ガイダンス 資金の流れと会計的思考 第2回 制度としての会計システム 財務会計と関連法規 第3回 財務諸表の仕組み・役割 第4回 資産の意義と分類1 第5回 資産の意義と分類2 第6回 負債の意義と分類1 第7回 負債の意義と分類2 第8回 純資産の意義と分類1 第9回 純資産の意義と分類2 第10回 損益計算書のルール 第11回 損益計算の仕組み1 第12回 損益計算の仕組み2 第13回 財務管理1 第14回 財務管理2 第15回 まとめ	
履修上の注意点 私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって、これ以上の迷惑はありません。	
教科書 これだけは知っておきたい「会計」の基本と常識 著者： 乾 隆一 出版社： フォレスト出版 出版年： ISBN:	
参考書 最新財務諸表論 著者： 武田隆二 出版社： 中央経済社 出版年： ISBN:	
経営管理会計 著者： 西澤脩 出版社： 中央経済社 出版年： ISBN:	
成績評価 試験・レポート (40) 小テスト (10) 授業中課題 (10) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40)	

## 2017 Syllabus

科目名 **統計学基礎論(経営)**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

統計学の基礎的内容の理解

授業の到達目標

本科目は、官庁や企業が公表する統計や調査結果を理解し、あるいは、社会調査を行うときに必要となる「統計学」の基礎的な知識と態度を身につける。

授業の概要

授業では、まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学ぶ。続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業で扱う演習問題は、授業後に見直し、必ず出来るようにしておくこと。

内 容

- 第1回 授業ガイダンス:社会調査と統計学
- 第2回 調査方法とデータの種類:定性調査と定量調査、質的データと量的データ
- 第3回 定性調査(フィールドワーク論文)の事例
- 第4回 定量調査(官庁統計や簡単な調査報告)の事例
- 第5回 基本統計量:代表値
- 第6回 基本等計量:ちらばり
- 第7回 度数分布表とヒストグラム
- 第8回 正規分布
- 第9回 様々な図表化
- 第10回 クロス集計表
- 第11回 散布図と相関分析
- 第12回 因果関係と相関関係
- 第13回 疑似相関
- 第14回 単回帰分析
- 第15回 順位相関分析

履修上の注意点

毎回の授業に平方根の計算機能がある電卓を持参する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 **ミクロ経済学 <Z>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

市場の働きと政府の役割

授業の到達目標

経済新聞や経済学に関連する文献を読むのに必要な、経済学の基礎的な概念や考え方を理解する。

授業の概要

現代の経済は市場を中心として動いている。この授業の前半では、グローバルな市場も含め市場はどのようなメカニズムで働き、そしてどのような意義を持つのかを理解した上で、市場の中で活動する消費者や企業の行動原理はいかなるものかについて学ぶ。後半では、市場が機能不全に陥る主要な4つの原因について触れ、その場合に市場の機能を補完する役割を果たす政府の活動や諸制度について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内 容

- 第1回 【イントロダクション】経済学の考え方
- 第2回 【需要と供給】ものの値段の決め方
- 第3回 【需要と供給】価格の変化と需要供給の変化
- 第4回 【消費者行動】価格に対する消費者の反応
- 第5回 【消費者行動】所得の変化と必需品・贅沢品
- 第6回 【企業者行動】生産量の変化と費用の変化
- 第7回 【企業者行動】価格・生産量と利潤との関係
- 第8回 【国際経済】自由貿易が望ましい理由
- 第9回 【国際経済】貿易パターンの決定
- 第10回 【市場構造】独占と自然独占
- 第11回 【市場構造】寡占市場と戦略的行動
- 第12回 【政府の機能】公共財の範囲と政府の役割
- 第13回 【政府の機能】外部性の発生と政策課税
- 第14回 【情報と経済】モラル・ハザードと逆選択
- 第15回 【所得分配】不平等の評価と再分配政策

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **マクロ経済学 <Z>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

国民経済の決定原理と変動要因

授業の到達目標

新聞等で報道されるさまざまな経済現象について、経済学的な視点から見ることのできる能力を身につける。

授業の概要

現実の経済の動向を知るためには、一国全体の経済を大局的に見る必要がある。この授業では、まず、経済を大局的に見るために必要なもっとも基礎的な指標であるGDPの概念について説明し、その大きさに影響を与える様々な要因について学ぶ。次に、貨幣に焦点を当てて、実物経済と貨幣経済との関係を学習する。これらの基本的な知識を理解した上で、物価変動や失業の問題、経済政策と経済成長、為替レートと国際収支などの重要なトピックスについて学ぶ。

準備学習(予習・復習)

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内 容

- 第1回 【イントロダクション】
- 第2回 【GDP】GDPの定義と性質
- 第3回 【GDP】経済循環とGDPの分解
- 第4回 【GDP】GDP決定の2つのメカニズム
- 第5回 【貨幣と金融】貨幣の機能と貨幣需要
- 第6回 【貨幣と金融】金融システムと貨幣供給
- 第7回 【物価】インフレーションとデフレーション
- 第8回 【労働市場】失業発生の諸要因
- 第9回 【経済政策】財政政策と公債の意義
- 第10回 【経済政策】金融政策のメカニズム
- 第11回 【長期の経済】景気変動に関する諸学説
- 第12回 【長期の経済】経済成長とその要因
- 第13回 【国際経済】為替レートの決定メカニズム
- 第14回 【国際経済】貿易と国際収支
- 第15回 【国際経済】国際金融と国際収支

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 経営学入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松石 泰彦	
テーマ	
経営学の基礎的知識や考え方を習得する。	
授業の到達目標	
経営学に関する基礎知識の習得を目標とする。経営は、周囲の環境に対応しながら、組織目標に向かって生身の人間や組織をマネジメントすることである。まずは入門的な内容で経営学の対象領域を知り、内部組織やメンバー、外部環境の経済や社会にどう対処していくべきかについて、様々な専門的アプローチへの入り口部分を体系的に理解する。	
授業の概要	
経営管理、経営組織、経営戦略、生産管理、マーケティング、企業統治、それらの歴史的経緯など、経営学の主要テーマについて、それぞれ入り口となる基礎的な考え方(理論)や具体例を、広く浅くわかりやすく説明する。	
準備学習(予習・復習)	
先行して配布する資料には事前に目を通しておくこと。新聞等メディアに出る関連事項にも目を配ること。	
内 容	
第1回	経営学とは何か
第2回	企業の形態
第3回	株式会社の仕組みとコーポレートガバナンス
第4回	経営管理
第5回	フォーディズム
第6回	組織とは何か
第7回	組織の行動
第8回	色々な組織構造
第9回	経営戦略1(ポジショニングから)
第10回	経営戦略2(組織能力から)
第11回	マーケティング
第12回	生産の管理
第13回	企業の社会的責任
第14回	グローバルな経営の潮流と日本の経営
第15回	まとめ
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
テキスト経営学第3版	
著者:	井原久光
出版社:	ミネルヴァ書房
出版年:	2008
ISBN:	
ゼミナール経営学入門第3版	
著者:	伊丹敬之他
出版社:	有斐閣
出版年:	2003
ISBN:	
よくわかる企業論	
著者:	佐久間信夫他
出版社:	ミネルヴァ書房
出版年:	2012
ISBN:	
成績評価	
試験・レポート (60)	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 医療事務研究 I

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 辻出 英子

テーマ

医療事務研究

授業の到達目標

医療事務技能審査(医科)＝メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。

授業の概要

短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解し自宅で練習問題を行う。

準備学習(予習・復習)

①医療事務技能審査試験(医科)の受験対策として医療事務研究 I・IIをすべて履修すること ②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 医療保険制度
- 第3回 窓口業務
- 第4回 初診料
- 第5回 再診料
- 第6回 医学管理・在宅医療
- 第7回 投薬1
- 第8回 投薬2
- 第9回 注射1
- 第10回 注射2
- 第11回 処置1
- 第12回 処置2
- 第13回 手術
- 第14回 輸血・麻酔
- 第15回 修了試験1

履修上の注意点

短期間で単位と資格取得を目指すため、欠席は厳禁。

教科書

テキストは第1回目の授業にて販売16.432円(予定)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

## 2017 Syllabus

科目名 医療事務研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻出 英子

テーマ

医療事務研究

授業の到達目標

医療事務技能審査(医科)＝メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。

授業の概要

短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解し自宅で練習問題を行う。

準備学習(予習・復習)

①医療事務技能審査試験(医科)の受験対策として医療事務研究Ⅰ・Ⅱをすべて履修すること ②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること

内 容

- 第1回 検査1
- 第2回 検査2
- 第3回 検査3
- 第4回 検査4
- 第5回 画像診断1
- 第6回 画像診断2・リハビリテーション
- 第7回 入院料・接遇
- 第8回 レセプト点検1
- 第9回 レセプト点検2
- 第10回 レセプト点検3
- 第11回 レセプト点検4
- 第12回 レセプト点検5
- 第13回 試験対策(学科)
- 第14回 試験対策(点検)
- 第15回 修了試験2

履修上の注意点

短期間で単位と資格取得を目指すため、欠席は厳禁。

教科書

テキストは第1回目の授業にて販売16.432円(予定)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

## 2017 Syllabus

科目名 簿記演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして 複式簿記の科学性を理解する。	
授業の到達目標 会計データの認識・測定・報告のプロセスを理解する。	
授業の概要 講義をベースに、練習問題を随時、解きながら進める。小テストを実施したり、宿題を提出してもらったりする場合もある。	
準備学習(予習・復習) 同じ問題を何度も解いてみる。復習を必ず行って下さい。	
内 容 第1回 ガイダンス：企業経営と簿記会計の役割 第2回 複式簿記の意義と目的 第3回 財務諸表の仕組み：貸借対照表と損益計算書との関係 第4回 取引の分類と集計の方法：仕訳と勘定記入 第5回 商品取引1 第6回 商品取引2 第7回 現金取引1 第8回 現金取引2 第9回 手形取引1 第10回 手形取引2 第11回 種々の債権債務取引1 第12回 種々の債権債務取引2 第13回 有価証券 第14回 有形固定資産 第15回 講義全体のまとめ	
履修上の注意点 私語は、厳に慎んで下さい。他の受講生に、この上もなく迷惑なことです。	
教科書 スラスラできる日商簿記3級テキスト 著者： 出版社：大原出版 出版年： ISBN：	
参考書 簿記 I 著者：武田隆二 出版社：税務経理協会 出版年： ISBN：	
簿記 II 著者：武田隆二 出版社：税務経理協会 出版年： ISBN：	
簿記 III 著者：武田隆二 出版社：税務経理協会 出版年： ISBN：	
成績評価	

a50101e310

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( 10 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( 10 )

授業中発表等 ( )

---



## 2017 Syllabus

科目名 簿記演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 藤原 智緒	
テーマ	
簿記の初学者に基本的な仕組みを理解いただき、興味を持って積極的に勉強できるよう導きます。最終的には、検定試験3級の資格取得を目指します。	
授業の到達目標	
日商簿記検定試験3級の資格取得を目標とし、簿記演習 I 及び II を通じて全範囲を網羅します。	
授業の概要	
基本理論を解説し、授業中に問題演習を行います。	
準備学習(予習・復習)	
簿記習得には、復習が欠かせません。授業ごとに宿題を課しますが、それ以外にも授業中に行った演習の繰り返し及び解説の振り返りを必ず行うようにしてください。	
内 容	
第1回	ガイダンス 簿記の意義としくみ 資産、負債、資本と貸借対照表
第2回	収益、費用と損益計算書
第3回	取引
第4回	勘定と仕分
第5回	帳簿の記入
第6回	決算と財務諸表
第7回	元帳の締め切りと財務諸表の作成(1)
第8回	元帳の締め切りと財務諸表の作成(2)
第9回	精算表の作成
第10回	現金、現金過不足
第11回	当座預金、当座借越
第12回	小口現金、商品売買(1)
第13回	商品売買(2)
第14回	商品有高帳
第15回	総合問題演習
履修上の注意点	
できる限りの出席をお願いいたします。	
教科書	
検定簿記講義 3級	
著者:	
出版社: 中央経済社	
出版年: 平成29年	ISBN:
検定簿記ワークブック	
著者:	
出版社: 中央経済社	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 30 )	小テスト ( 10 )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 簿記演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件 「簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をととして 複式簿記の科学性を理解する。	
授業の到達目標 会計データの認識・測定・伝達のプロセスを理解する。	
授業の概要 講義をベースに、練習問題を随時、解きながら進める。小テストを実施したり、宿題を提出してもらったりする場合もある。	
準備学習(予習・復習) 同じ問題を何度も解いてみること。	
内 容 第1回 合計残高試算表 第2回 帳簿組織1: 仕訳帳・総勘定元帳 第3回 帳簿組織2: 現金出納帳・当座預金出納帳 第4回 帳簿組織3: 小口現金出納帳 第5回 帳簿組織4: 手形記入帳 第6回 帳簿組織5: 仕入帳・売上帳・売掛金元帳・買掛金元帳 第7回 帳簿組織6: 商品有高帳 第8回 伝票会計 第9回 決算手続1: 売上原価の計算 第10回 決算手続2: 貸倒引当金の設定 第11回 決算手続3: 減価償却 第12回 決算手続4: 費用収益の繰延・見越し 第13回 決算手続5: その他の決算修正仕訳・英米式決算法 第14回 決算報告: 財務諸表の作成 第15回 講義全体のまとめ	
履修上の注意点 私語は厳に慎んで下さい。他の受講生にとって、この上もなく迷惑なことです。	
教科書 スラスラできる日商簿記3級テキスト 著者: 出版社: スラスラできる日商簿記3級テキスト 出版年: ISBN:	
参考書 簿記Ⅰ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
簿記Ⅱ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
簿記Ⅲ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
成績評価	

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( 10 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( 10 )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 簿記演習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件 「簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担当者 藤原 智緒	
テーマ 簿記の初学者に基本的な仕組みを理解いただき、興味を持って積極的に勉強できるよう導きます。最終的には、検定試験3級の資格取得を目指します。	
授業の到達目標 日商簿記検定試験3級の資格取得を目標とし、簿記演習Ⅰ及びⅡを通じて全範囲を網羅します。	
授業の概要 基本理論を解説し、授業中に問題演習を行います。	
準備学習(予習・復習) 簿記習得には、復習が欠かせません。授業ごとに宿題を課しますが、それ以外にも授業中に行った演習の繰り返し及び解説の振り返りを必ず行うようにしてください。	
内 容 第1回 ガイダンス 売掛金・買掛金(1) 第2回 売掛金・買掛金(2)、その他の債権と債務(1) 第3回 その他の債権と債務(2) 第4回 その他の債権と債務(2)、手形(1) 第5回 手形(2) 第6回 手形(3)、有価証券 第7回 固定資産 第8回 貸倒損失と貸倒引当金、資本金と引出金 第9回 収益と費用(1) 第10回 収益と費用(2)、伝票 第11回 試算表の作成 第12回 決算整理手続 第13回 精算表の作成 第14回 財務諸表の作成 第15回 検定試験直前対策	
履修上の注意点 できる限りの出席をお願いいたします。	
教科書 検定簿記講義 3級 著者: 出版社: 中央経済社 出版年: 平成29年 ISBN: 検定簿記ワークブック 著者: 出版社: 中央経済社 出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト (10) 授業中課題 (30) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 金融入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 隆則	

## テーマ

私たちの経済社会において金融機関がどのような役割を果たしているかを具体的に学びます。金融業界への就職を考えようとする人だけでなく、広くビジネスや公共的な仕事に携わろうとする人にとっても不可欠の金融の基礎知識を習得します。

## 授業の到達目標

金融仲介の意義を正しく理解し、様々な種類の金融機関の業務内容の共通点や相違点について具体的に説明できることを目標とします。

## 授業の概要

銀行、信用金庫、生命保険会社、損害保険会社、金融商品取引業者(証券会社など)、ノンバンクといった様々な種類の金融機関について、経済社会の中で果たしている役割や業務内容について学びます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、具体的課題についてみんなで考え発言する時間を作ります。

## 準備学習(予習・復習)

自分の身の回りにどのような金融機関(銀行、信用金庫、保険会社、証券会社など)が存在しているかチェックしてみてください。

## 内 容

- 第1回 金融を学ぶ意義: 社会生活を営む上でも、経済情報を正確に理解する上でも、ビジネスや公共業務に携わる上でも、金融の基礎知識が不可欠であることを様々な事例から説き起こします。
- 第2回 金融機関の種類と業務の概要: 全ての金融機関の共通機能である「金融仲介」とは何か、「直接金融」と「間接金融」の違いとは何かといったポイントを踏まえ、金融機関の種類と業務の概要を学びます。
- 第3回 銀行(1): 銀行について基礎的な知識を身に付けます。具体的には、銀行の種類、銀行の共通点、自由化による銀行の多様化について学びます。
- 第4回 銀行(2): 銀行の業務内容を具体的に見てゆきます。決済、預金、融資など支店の業務、リスク管理、審査、国際業務、市場業務など本部の業務について知った上で、銀行の収益の源泉は主として「信用リスク」と「金利リスク」にあることを学びます。
- 第5回 銀行(3): 銀行業務を支える人材の採用と育成、銀行員のキャリアパス、銀行員に求められる素養について考えます。
- 第6回 銀行(4): 銀行と地域の企業や産業が深いかわりを持っていることを学びます。特に地方銀行や信用金庫といった地域金融機関は地元経済の発展に大きな役割を果たしています。
- 第7回 保険(1): 保険業界について基礎的な知識を身に付けます。まず保険の原理である「大数の法則」を理解した上で、公的保険、私的保険といった区別や生命保険、損害保険、第三分野といった区分を学習します。
- 第8回 保険(2): 生命保険会社の業務について学びます(生命保険の仕組み、契約の基本的事項、税金など)。またインターネット保険会社や外資系保険会社など、生命保険業界の多様化についても触れます。
- 第9回 保険(3): 損害保険会社の業務について学びます(損害保険の仕組み、商品の種類など)。また医療保険やガン保険と言った第三分野保険についても触れます。
- 第10回 金融商品取引業(1): 直接金融の仲介機能を果たしている「金融商品取引業」の特徴を間接金融との比較で考えます。また、金融商品取引業の種類も学びます。
- 第11回 金融商品取引業(2): 金融商品取引業のうち、証券の引受・販売業を学びます。具体的には、証券の流通市場の意味や引受・販売の担い手である証券会社の役割、証券業界の動向について見てゆきます。
- 第12回 金融商品取引業(3): 金融商品取引業のうち、資産運用業について学びます。具体的には、投資顧問会社と投資信託会社がどのような役割を担っているかを見てゆきます。
- 第13回 ノンバンク(1): ノンバンクのうち、リース、信販、クレジットカードの各業界の機能について学習します。
- 第14回 ノンバンク(2): ノンバンクのうち、ベンチャー・キャピタルやサービサーの機能について学習します。併せて、起業、株式公開、企業再編、企業再生といった企業の成長段階に応じた金融機能についてまとめます。
- 第15回 全体のまとめと復習

## 履修上の注意点

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

イラスト図解 銀行のしくみ

著者: 戸谷圭子

出版社: 日本実業出版社

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 80% )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 公共経営入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 竹内 直人	
テーマ 公共部門の仕事の特徴と公務員の仕事の理解	
授業の到達目標 国や自治体(市役所、警察、消防など)の仕事の具体的な内容を学び、その特徴や意義を理解する。	
授業の概要 自治体の様々な課題とその解決策を実施するために必要な地方自治の基本的なしくみを学ぶ。その上でゲストスピーカーの講演や自治体議会見学などを通して理解を深める。	
準備学習(予習・復習) 自治体が直面する課題に関するデータや統計、新聞記事をあらかじめ配布するので予習をすること。	
内 容 第1回 イントロダクション:自治体の多様な課題 第2回 課題の解決策 第3回 公務員の仕事 第4回 首長の仕事 第5回 住民の権利 第6回 自治体の仕事と市民生活 第7回 首長と議会 第8回 公共経営の実際:ゲストスピーカー 第9回 国と自治体の関係 第10回 自治体の組織 第11回 地方分権改革 第12回 自治体議会見学 第13回 自治体改革 第14回 政策をつくる 第15回 住民参加 ※なお、この授業では必要に応じて、ゲストスピーカーによる特別講演を行うことがある。	
履修上の注意点 自治体がどんな仕事をしているか、日ごろから新聞記事に関心を持つと講義が面白くなります。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 地方自治入門 著者: 稲継裕昭 出版社: 有斐閣 出版年: 2011 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(20) 小テスト(60) 授業中課題(20) 授業中発表等( ) 参加度( ) ゲストスピーカーや自治体議会見学に際して、グループで事前の下調べをし、提出してもらいます。	

## 2017 Syllabus

科目名 医療経営入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ	
医療経営についての入門科目	
授業の到達目標	
医療経営とその背景をなす医療制度と医療技術について、基礎的な知識を獲得する	
授業の概要	
医療制度、医療経営、医療技術とその評価について、講義形式で授業を行う。外部講師による特別講演も予定している。	
準備学習(予習・復習)	
受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。	
内 容	
第1回 ガイダンスと話題提供	
第2回 概説－医療経営の特徴	
第3回 医療制度(医療保険制度の概要)	
第4回 医療制度(介護保険分野)	
第5回 医療制度(医療法と医療法人制度)	
第6回 医療制度(医療・介護総合改革)	
第7回 中間まとめと理解度の確認	
第8回 医療経営(人的資源管理)	
第9回 医療経営(業務管理)	
第10回 医療経営(資金管理)	
第11回 医療経営(リスク管理)	
第12回 医療技術評価の基礎	
第13回 医療技術評価の基礎	
第14回 外部講師による特別講演(予定)	
第15回 講義全体のまとめと理解度の確認	
履修上の注意点	
病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
医療・介護問題を読み解く	
著者: 池上直己	
出版社: 日経文庫	
出版年: 2014	ISBN: 9.78453E+12
医療の選択	
著者: 桐野高明	
出版社: 岩波新書	
出版年: 2014	ISBN: 9.784E+12
2015年版イラスト図解医療費の仕組み	
著者: 木村憲洋、川越満	
出版社: 日本実業出版社	
出版年: 2014	ISBN: 9.78453E+12



医療政策を問いなおす

著者： 島崎謙治

出版社： ちくま新書

出版年： 2015

ISBN: 9.78448E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 25 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **グローバルビジネス入門**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平尾 毅	
テーマ	
グローバル時代におけるビジネスについて理解を深める。	
授業の到達目標	
グローバル化が進む現代において企業が国境を越えて事業を展開する論理を学び、多国籍企業の戦略を理解できるようになる。ワールドワイドに働くということとはどのようなことかを理解できるようになる。	
授業の概要	
中小企業の多国籍化を促しながら発展してきた経営のグローバル展開と、そうしたグローバル時代を生き抜くために必要な条件について講義形式で学びます。私たちの身近な生活に影響を与えている多国籍企業の事例を通して、企業の国際化の論理を学びます。また、グローバル社会と無縁ではられない今日、仕事ではどのような考えや態度が求められるのかを、グローバル企業の経営者やコンサルティング企業の事例から理解します。	
準備学習(予習・復習)	
教科書と配布資料の予習をして授業に臨んでください(1時間程度)。また、復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください(1時間程度)。	
内 容	
第1回	ガイダンス
第2回	経営のグローバル化と多国籍企業(多国籍企業の生成と発展を学ぶ)
第3回	多国籍企業の経営戦略と組織(21世紀の多国籍企業の経営戦略と組織について学ぶ)
第4回	多国籍企業の理論(多国籍企業の理論の変遷を学ぶ)
第5回	アメリカ多国籍企業のグローバル支配構造(アメリカ多国籍企業の優位性と特権性について学ぶ)
第6回	NAFTAとアメリカ多国籍企業(NAFTAの役割と多国籍企業の動向について学ぶ)
第7回	日本企業のグローバル展開(日本企業の多国籍企業化とその特徴を学ぶ)
第8回	外国投資をめぐる競合(中国とASEANへの外国投資と日本企業への影響を学ぶ)
第9回	IT革命とグローバル・ネットワーク企業(IT革命とともに登場したグローバル・ネットワーク企業の影響について学ぶ)
第10回	多国籍企業の社会的責任(多国籍企業の環境への取り組みと国際機関の役割について学ぶ)
第11回	サンタクロースの衣装が赤と白なのはなぜ?
第12回	ビッグマック指数で物価を比較するのはなぜ?
第13回	BOP:味の素のグローバル戦略
第14回	グローバル時代の思考パターン(グローバリゼーションとは何か、思考パターンの変化について学ぶ)
第15回	グローバル人材の条件(グローバルマインドの設定と文化の世界地図について学ぶ)
履修上の注意点	
授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。	
教科書	
テキスト多国籍企業論	
著者: 奥村皓一・上田慧・夏目啓二	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: 2006年	ISBN: 978-4623038930
参考書	
グローバル経営入門	
著者: 浅川和宏	
出版社: 日経新聞出版社	
出版年: 2003年	ISBN: 978-4532132606
理論とケースで学ぶ国際ビジネス(三訂版)	
著者: 江夏健一・桑名義晴編著	
出版社: 同文館	
出版年: 2012年	ISBN: 978-4495368739

グローバル経営戦略

著者： 元橋一之

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2013年

ISBN: 978-4130421393

国際経営講義—多国籍企業とグローバル資本主義

著者： G.ジョーンズ

出版社： 有斐閣

出版年： 2007年

ISBN: 978-4641162815

ネクスト・マーケット(増補改訂版)

著者： C.K.ブラハラード

出版社： 英治出版

出版年： 2010年

ISBN: 978-4862760784

多国籍企業と新興国市場

著者： 大石・桑名・田端・安室

出版社： 文眞堂

出版年： 2012年

ISBN: 978-4830947681

「世界で戦える人材」の条件

著者： 渥美育子

出版社： PHP研究所

出版年： 2013年

ISBN: 978-4569811697

世界で勝つグローバル人材の条件

著者： 那珂通雅

出版社： 幻冬舎

出版年： 2013年

ISBN: 978-4344999374

---

成績評価

試験・レポート (65%)

小テスト (0%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (15%)

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 現代企業論 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平尾 毅	
テーマ	
企業の本質・役割・存在価値を学習する。	
授業の到達目標	
株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。	
授業の概要	
企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点	
第2回 企業の目的と存在価値	
第3回 財・サービスの提供機関としての企業	
第4回 企業の形態論	
第5回 株式会社制度の出現と展開	
第6回 株式会社の本質と特徴	
第7回 株式会社の組織	
第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック	
第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較	
第10回 企業の境界	
第11回 企業関係の構造と行動	
第12回 企業統合の形態論とM&A	
第13回 会社機関	
第14回 証券取引市場	
第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック	
履修上の注意点	
経済新聞の精読をお薦めします。	
教科書	
企業形態論 第3版(新経営学ライブラリー-5)	
著者: 小松 章	
出版社: 新世社	
出版年: 2006年	ISBN: 978-4883840984
参考書	
経験から学ぶ経営学入門	
著者: 上林・奥林・團・開本・森田・竹林	
出版社: 有斐閣ブックス	
出版年: 2007年	ISBN: 978-4641183483
1からの経営学 第2版	
著者: 加護野忠男・吉村典久	
出版社: 碩学舎	
出版年: 2012年	ISBN: 978-4502696107
企業論 第3版	
著者: 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫	
出版社: 有斐閣アルマ	
出版年: 2011年	ISBN: 978-4641124448
成績評価	
試験・レポート (70%)	小テスト (0%)



## 2017 Syllabus

科目名 経済と経営の歴史

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

経営やそれを取り巻く経済・社会の動向を、長期的視野から理解する。

授業の到達目標

・企業や組織のマネジメントへの理解を通じて、社会人としての協働・コミュニケーション能力を養うこと。・近くその中に出て行くことになる日本の経済社会、企業や組織に対する見識を深めること。・歴史を単なる過去に対する知識にとらえず、現在の問題の源流にとらえ、未来を展望する大きな動きや構造の中でのものごとを思考できるようになること。

授業の概要

歴史とは単に昔の話を知ることではありません。現在起こっている日本経済の諸問題や今後の展開は、その成立過程＝歴史の延長上で長期的に考える必要があります。この講義では、主として近代以降の日本経済と企業経営の変遷について大まかなあらすじを説明します。特に①世界情勢の中での日本の位置、②日本の社会経済の構造的特徴、③経済政策や制度の変遷、これらの要素を常に念頭に置きながら、日本の企業がどのような道筋をたどって今に至っているのかを考えてみましょう。

準備学習(予習・復習)

知識の暗記科目ではありません。物事の流れや要因を説明できるような復習を望みます。

内 容

- 第1回 ガイダンス この講義の対象領域と進め方
- 第2回 近代的諸経済制度の始まり
- 第3回 産業革命
- 第4回 紡績・製糸業と日本経済
- 第5回 第一次大戦前後の日本経済
- 第6回 工業社会の成立と労働の変化
- 第7回 日本的経営と経営家族主義
- 第8回 第三次産業・都市型産業の発展
- 第9回 世界恐慌と昭和恐慌
- 第10回 財閥と企業統治
- 第11回 戦時体制と1940年体制論
- 第12回 戦後改革と財閥解体
- 第13回 高度経済成長と日本企業
- 第14回 オイルショックと低成長時代
- 第15回 総括～長期的視野からとらえる現代の経済・経営

履修上の注意点

教科書

参考書

マテリアル日本経営史

著者： 宇田川勝他

出版社： 有斐閣

出版年： 1999

ISBN:

1からの経営史

著者： 宮本又郎他

出版社： 碩学社

出版年： 2014

ISBN:

企業城下町と日本的経営

著者： 松石泰彦

出版社： 同成社

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

a50101f050

試験・レポート ( 60 )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 10 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **社会調査論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高原 正興	
テーマ	
社会調査・フィールドワークの意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。	
授業の到達目標	
「社会調査・フィールドワーク入門」の授業と同時開講しながら、上記テーマに記載の内容(社会調査の基本知識)を身につける。	
授業の概要	
下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類の紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。	
準備学習(予習・復習)	
テキストの予習・復習に努める	
内 容	
第1回	社会調査とは何か 社会調査の目的
第2回	社会学と社会調査の歴史
第3回	調査方法論・調査倫理
第4回	量的調査と質的調査
第5回	国勢調査 官庁統計 事業所・企業統計調査 世論調査
第6回	調査票調査
第7回	調査票作成
第8回	サンプリング
第9回	データ化作業
第10回	データ分析
第11回	フィールドワークとはなにか
第12回	フィールドワークの事例
第13回	聞き取り調査 参与観察法
第14回	ドキュメント分析
第15回	(まとめ)社会調査の意義
第16回	試験
履修上の注意点	
期末のペーパー試験が50%分あることに留意して、特に復習に努めること。	
教科書	
新・社会調査へのアプローチ	
著者： 大谷信介他	
出版社： ミネルヴァ書房	
出版年： 2013	ISBN： 9.78462E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (50%)	小テスト ( )
授業中課題 (30%)	授業中発表等 ( )
参加度 (20%)	
授業中課題は3回のレポートによる。	



## 2017 Syllabus

科目名 **解剖生理学**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 宮本 尚		
テーマ		
授業の到達目標		
医学を学ぶ上で基本となるからだの構造と機能に関する知識を修得する。		
授業の概要		
<p>人体の基本的な仕組みと働きを知ることは、診療情報管理士として診療記録に記載される内容を理解する上で不可欠となる。また、疾病の機序や病態、治療方法などを理解する上でも、人体の構造と機能を理解することは非常に重要である。この授業では、人の細胞と組織、および器官ごとの機能と構造を理解した上で、後半では筋骨格系の疾患について学ぶ。</p>		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
第1回	人体の機能・構造論:細胞①	
第2回	人体の機能・構造論:細胞②	
第3回	人体の機能・構造論:組織	
第4回	人体の機能・構造論:器官	
第5回	人体の機能・構造論:呼吸器の構造と機能	
第6回	人体の機能・構造論:循環器の構造と機能①	
第7回	人体の機能・構造論:循環器の構造と機能②	
第8回	人体の機能・構造論:消化器の構造と機能	
第9回	人体の機能・構造論:泌尿器系の構造と機能	
第10回	人体の機能・構造論:上肢・下肢の骨と筋肉	
第11回	臨床医学各論Ⅷ:関節障害	
第12回	臨床医学各論Ⅷ:全身性結合組織障害	
第13回	臨床医学各論Ⅷ:変形性脊柱障害	
第14回	臨床医学各論Ⅷ:軟部組織障害	
第15回	臨床医学各論Ⅷ:骨障害および軟骨障害	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験・レポート (80)	小テスト (0)	
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)	
参加度 (20)		

## 2017 Syllabus

## 科目名 現代企業と法 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山田 廣己	
テーマ 企業とその法規制	
授業の到達目標 企業(個人企業や会社企業)の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。	
授業の概要 個人企業や会社企業(株式会社・合同会社・合資会社・合名会社)の組織や活動とその法規制を概観する。	
準備学習(予習・復習) 事前に講義レジュメを配布します。配布された講義レジュメに目を通して頂くこと。	
内 容	
第1回 経済活動と企業: 企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。	
第2回 資本主義・市場経済・貨幣(金融)制度: 企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。	
第3回 企業をめぐる法規制: 企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。	
第4回 企業の組織: 個人企業、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。	
第5回 企業の経営者・従業員: 株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。	
第6回 企業グループ: 会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併(ごうべん)企業についても触れる。	
第7回 企業の資金: 企業(とくに会社)はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。	
第8回 投資と利殖(りしょく): 株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。	
第9回 企業の失敗: 企業の事業活動が失敗に終わったとき(倒産)、どのように処理するか説明する。	
第10回 企業の責任: 企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。	
第11回 競争と独占(1): 独占禁止法の話をする。	
第12回 競争と独占(2): 独占禁止法の話をする。	
第13回 企業の決済手段(1): 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段に決済手段について説明する。	
第14回 企業の決済手段(2): 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明する。	
第15回 総括と理解度チェック	
履修上の注意点 新聞報道やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業(会社)の組織活動に興味を持つよう心がけて下さい。	
教科書 配布する講義レジュメ 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 携常用法令集 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	

## 成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )  
参加度 ( 20 )

小テスト ( 50 )  
授業中発表等 ( )

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間中ごろにレポート提出を求める。最終講義日に小テストを実施する（必ず受験してください）。以上を総合的に判断して評価する。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問してほしい。

---

## 2017 Syllabus

科目名 医療統計学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

授業の到達目標

診療情報を解析、活用するための統計学の基礎的知識を身につける。

授業の概要

診療情報管理士には診療記録を整理するだけでなく、記録に含まれる診療情報を収集・解析、活用することが求められている。この授業では、各種の診療情報を活用する手段としての統計的方法とデータの視覚化の方法を身につける。統計的方法として具体的には、収集した観測値を要約する記述統計、標本調査から母集団の特性を推し測る推測統計の基礎的方法などを学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 変量と尺度
- 第2回 記述統計(1) 度数分布表とヒストグラム
- 第3回 記述統計(2) 代表値
- 第4回 記述統計(3) 散布度
- 第5回 記述統計(4) 散布図と相関係数
- 第6回 記述統計(5) 回帰直線
- 第7回 推測統計(1) 母集団と標本
- 第8回 推測統計(2) 確率変数と確率分布
- 第9回 推測統計(3) 正規分布
- 第10回 推測統計(4) 点推定と区間推定
- 第11回 推測統計(5) 量的変量の仮説検定
- 第12回 推測統計(6) 質的変量の仮説検定
- 第13回 データのグラフ表現
- 第14回 病院の統計資料
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

毎回の授業に平方根の計算機能がある電卓を持参する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (60)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

## 2017 Syllabus

科目名 医療概論

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 川上 明

テーマ

診療情報管理

授業の到達目標

医学・医療の歴史から制度、現代が直面する問題を大きな視点で概括し理解する。また、臨床医学を学ぶ上での基本的な考え方と知識を学び、今後の医学分野の学習の基礎をつくる。

授業の概要

診療情報管理士などの医療管理者として働くために必要な医学と医療の基礎的な知識を修得する。そのためにまず、医療と医学に関する歴史的変遷をたどりつつ、現代の医療の現状を理解する。また、医療倫理や医療・社会保障制度など、医療を成立させている社会的な仕組みを学ぶとともに、病気とは何か、病気の原因、病態、診断、治療、予防など医学の基礎的な内容を理解していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 講義の概要説明。医学、医療とは。  
 第2回 医学と医療の歴史：医学の起源 20世紀の医学  
 第3回 医学と医療の歴史：我が国の医学と医療の歴史  
 第4回 現代医療：実例等も示して概説し、現場での医療のイメージを持ってもらうことを目標とします。  
 第5回 医の倫理：実際に臨床の現場で起こっている倫理的問題等も提示し、問題意識を持ってもらうことを目標とします。  
 第6回 社会保障制度と医療制度：制度の概略と基本的な理念を理解し、実際にどのように運用されているのか紹介しながら、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。  
 第7回 介護保険制度：制度の概略と基本的な理念を理解し、実際にどのように運用されているのか紹介しながら、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。  
 第8回 医療法、公衆衛生、地域保健について概説します。  
 第9回 予防医学について概説します。  
 第10回 健康と疾病：健康と疾病についての基本的な考え方を学びます。  
 第11回 疾病の原因と病理1：テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。  
 第12回 疾病の原因と病理2：テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。  
 第13回 疾病の検査方法と診断：テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。  
 第14回 疾病の治療：テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。  
 第15回 まとめ：全体を通じて必要な内容を補います。

履修上の注意点

積極的に発言して授業に参加するように。

教科書

診療情報管理 I

著者：

出版社：日本病院会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 医療管理論Ⅰ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 藤野 美幸・橋本 昌浩	
テーマ	
授業の到達目標	医療の仕組み・病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのような役割を果たすことができるかを習得する。
授業の概要	医療の需要と供給は、事務スタッフ部門を含む医療従事者と患者、患者家族との信頼関係の上に成立しているが、それを支えるのは、経営学で言うところのヒト・モノ・カネ・情報といった資源である。この授業は診療情報管理の第1ステップの授業であり、医療の仕組みと病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのようなことを果たすことができるかを習得する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 医療管理論オリエンテーション・診療情報管理士について</p> <p>第2回 医療資源 物的資源・人的資源</p> <p>第3回 医療資源 人的資源・財的資源・情報資源</p> <p>第4回 日本の医療制度 医療保障 医療制度の特徴</p> <p>第5回 日本の医療制度 医療制度の成り立ち 諸外国の医療制度 国民医療費の現状と将来</p> <p>第6回 医療の需要と供給 地域医療</p> <p>第7回 医療関連の法規定 医療と保健衛生活動に関する法規～その他病院の医療活動に関係する主な法規</p> <p>第8回 医療関連の法規定 健康増進法～専門職種の身分などに関する法規 中間まとめ</p> <p>第9回 医療管理各論イントロダクション、プロセス(工程)について</p> <p>第10回 組織・機能について、管理と組織について</p> <p>第11回 財務・経営管理について、人事・労務管理について、施設管理について</p> <p>第12回 医療管理、診療部門、看護部門、医療技術部門・診療協力部門・コメディカル部門</p> <p>第13回 教育研究部門、診療情報管理部門、スタッフ機能事務部門、ライン機能事務部門</p> <p>第14回 施設・機器維持管理部門、労働安全衛生・環境衛生管理部門、ハウスキーピング部門</p> <p>第15回 テスト対策、総まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート(90)	小テスト(0)
授業中課題(0)	授業中発表等(0)
参加度(10)	
授業は、最低12回以上出席してください。	

## 2017 Syllabus

科目名 **経済学 I**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

市場の働きと政府の役割

授業の到達目標

経済新聞や経済学に関連する文献を読むのに必要な、経済学の基礎的な概念や考え方を理解する。

授業の概要

現代の経済は市場を中心として動いている。この授業の前半では、グローバルな市場も含め市場はどのようなメカニズムで働き、そしてどのような意義を持つのかを理解した上で、市場の中で活動する消費者や企業の行動原理はいかなるものかについて学ぶ。後半では、市場が機能不全に陥る主要な4つの原因について触れ、その場合に市場の機能を補完する役割を果たす政府の活動や諸制度について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終わっておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内 容

- 第1回 【イントロダクション】経済学の考え方
- 第2回 【需要と供給】ものの値段の決め方
- 第3回 【需要と供給】価格の変化と需要供給の変化
- 第4回 【消費者行動】価格に対する消費者の反応
- 第5回 【消費者行動】所得の変化と必需品・贅沢品
- 第6回 【企業者行動】生産量の変化と費用の変化
- 第7回 【企業者行動】価格・生産量と利潤との関係
- 第8回 【国際経済】自由貿易が望ましい理由
- 第9回 【国際経済】貿易パターンの決定
- 第10回 【市場構造】独占と自然独占
- 第11回 【市場構造】寡占市場と戦略的行動
- 第12回 【政府の機能】公共財の範囲と政府の役割
- 第13回 【政府の機能】外部性の発生と政策課税
- 第14回 【情報と経済】モラル・ハザードと逆選択
- 第15回 【所得分配】不平等の評価と再分配政策

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **経済学Ⅱ**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

国民経済の決定原理と変動要因

授業の到達目標

新聞等で報道されるさまざまな経済現象について、経済学的な視点から見ることのできる能力を身につける。

授業の概要

現実の経済の動向を知るためには、一国全体の経済を大局的に見る必要がある。この授業では、まず、経済を大局的に見るために必要なもっとも基礎的な指標であるGDPの概念について説明し、その大きさに影響を与える様々な要因について学ぶ。次に、貨幣に焦点を当てて、実物経済と貨幣経済との関係を学習する。これらの基本的な知識を理解した上で、物価変動や失業の問題、経済政策と経済成長、為替レートと国際収支などの重要なトピックスについて学ぶ。

準備学習(予習・復習)

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内 容

- 第1回 【イントロダクション】
- 第2回 【GDP】GDPの定義と性質
- 第3回 【GDP】経済循環とGDPの分解
- 第4回 【GDP】GDP決定の2つのメカニズム
- 第5回 【貨幣と金融】貨幣の機能と貨幣需要
- 第6回 【貨幣と金融】金融システムと貨幣供給
- 第7回 【物価】インフレーションとデフレーション
- 第8回 【労働市場】失業発生の諸要因
- 第9回 【経済政策】財政政策と公債の意義
- 第10回 【経済政策】金融政策のメカニズム
- 第11回 【長期の経済】景気変動に関する諸学説
- 第12回 【長期の経済】経済成長とその要因
- 第13回 【国際経済】為替レートの決定メカニズム
- 第14回 【国際経済】貿易と国際収支
- 第15回 【国際経済】国際金融と国際収支

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報ビジネス入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 片岡 裕介	
テーマ 情報技術を活用したビジネスの現状と可能性	
授業の到達目標 近年の情報技術の発展と、そのビジネスにおける活用、および情報関連産業の現状について基本的な知識を身につける。	
授業の概要 現代社会において、情報はビジネスにとって2つの側面で重要な意味を持つ。第1にビジネスの手段としての情報であり、第2にビジネスの対象としての情報である。授業では、この2つの意味での情報に焦点を当て、情報技術を基盤としたビジネスやサービスに関する基本的な知識を身につける。その上で、将来のキャリアのひとつとして、情報ネットワーク産業やソフトウェア産業で活躍する個人を視野に入れ、情報技術に深く関わりながら働くこととはどのようなことなのかを理解できるようにする。	
準備学習(予習・復習) 身近なITサービスについてビジネスとして成り立つ仕組みを考える機会を持つとともに、新聞やニュース等のメディアで日々採り上げられるITの新技术や新サービスについて注意を払うこと。	
内 容 第1回 イントロダクション:情報ビジネスを取り巻く状況 第2回 ITサービスのビジネスモデル 第3回 ITサービスの顧客 第4回 ITサービスの事業者 第5回 電子商取引 第6回 eマーケティング 第7回 ビッグデータビジネス 第8回 位置情報ビジネス 第9回 デジタルコンテンツビジネス 第10回 情報ビジネスの技術 第11回 情報ビジネスのセキュリティ 第12回 情報ビジネスの倫理 第13回 人工知能と情報ビジネス 第14回 情報ビジネスの拡がり 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (10)	小テスト (50) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報ビジネス論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 杉浦 昌	
テーマ	
情報通信技術(ICT)とビジネスとのかかわりを理解する。	
授業の到達目標	
情報通信技術が現代のビジネスをどのように支えているのか、また、現在どのような課題があり、今後ビジネスをどのように変えていくのかを学ぶ。	
授業の概要	
適宜スライドや配布資料、企業や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出を実施する場合がある。	
準備学習(予習・復習)	
授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。	
内 容	
第1回 インTRODakション	
第2回 情報通信技術の特性	
第3回 情報通信を支える技術(1)	
第4回 情報通信を支える技術(2)	
第5回 情報通信技術によるビジネスの変革(1)	
第6回 情報通信技術によるビジネスの変革(2)	
第7回 情報通信技術によるビジネスの変革(3)	
第8回 ブロックチェーンと仮想通貨	
第9回 XaaS、仮想化、IoT	
第10回 規制と自由化	
第11回 セキュリティとプライバシー	
第12回 情報ビジネスの事例(1)	
第13回 情報ビジネスの事例(2)	
第14回 情報ビジネスの事例(3)	
第15回 情報ビジネスの事例(4)	
履修上の注意点	
課題は必ず期限内に提出すること。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
参考書	
未定	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
成績評価	
試験・レポート ( 70 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理基礎実習

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 加藤 諒	
テーマ	
基本的な情報処理の実践	
授業の到達目標	
基本的な情報処理技術の修得・Microsoft Office製品を用いて情報を操作できること・HTMLの基礎文法を理解すること・情報化社会において必要となる、自身で新たな知識や情報を獲得し、発信する能力を修得すること	
授業の概要	
情報化が進化する現代社会では、コンピュータやネットワークの原理や仕組みを理解し、情報処理に関する知識と技術を身に付けることが不可欠である。「情報処理基礎実習」では、情報リテラシーや記述統計、情報の発信方法に関する基礎的な技術を学ぶ。授業内の3分の1を課題の解説に割り当て、それ以外を課題に取り組む時間とする。	
準備学習(予習・復習)	
提出課題に必ず取り組むこと。	
内 容	
第1回 ガイダンス(授業概要、注意事項などの説明)、WWWの利用とマナー	
第2回 Word:インターネット文書の挿入と引用のルール	
第3回 Word:レポートの作成	
第4回 Excel:グラフ、散布図、度数分布表の作成	
第5回 Excel:記述統計の基礎	
第6回 PowerPoint:プレゼンテーションの構成、作法	
第7回 PowerPoint:プレゼンテーション資料の作成(1)	
第8回 PowerPoint:プレゼンテーション資料の作成(2)	
第9回 コマンドプロンプトの基礎	
第10回 コマンドプロンプトによるファイル操作	
第11回 HTML文法の基礎	
第12回 HTMLによるWebページ作成(1)	
第13回 HTMLによるWebページ作成(2)	
第14回 HTMLによるWebページ作成(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
よく調べ、考えること	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 70 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	
4回以上の欠席は不可とする。	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(経) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

情報社会における経済活動の理解

授業の到達目標

社会的に注目されている情報技術と経済の問題を題材として考えることで、情報で溢れかえる現代社会に起こる様々な現象を捉える視点を養うとともに、発表用資料の作成要領、発表における表現方法、質疑のポイントなどの学生生活に必要な技術を身に付ける。

授業の概要

毎回の発表および議論を通して、問題を整理し論理的に考える姿勢を学ぶとともに、自分の知識や考えを他の人に伝えるためのスキルを身に付ける。

準備学習(予習・復習)

発表前の準備と発表後のまとめが必要です。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表方法について
- 第3回 学生による発表および議論(1)
- 第4回 学生による発表および議論(2)
- 第5回 学生による発表および議論(3)
- 第6回 学生による発表および議論(4)
- 第7回 学生による発表および議論(5)
- 第8回 前半の総括
- 第9回 学生による発表および議論(6)
- 第10回 学生による発表および議論(7)
- 第11回 学生による発表および議論(8)
- 第12回 学生による発表および議論(9)
- 第13回 学生による発表および議論(10)
- 第14回 学生による発表および議論(11)
- 第15回 全体の総括

履修上の注意点

教科書

人工知能と経済の未来—2030年雇用大崩壊—

著者: 井上智洋

出版社: 文藝春秋

出版年: 2016

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(経) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代日本の政治・経済・社会

授業の到達目標

世界における日本の地位の相対的低下の諸相を検討することにより、日本の現状を学び、その地位の回復の可能性を自ら考えるようにする。

授業の概要

教科書を順に輪読し、討論を行う。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習を行い、参考書を学習し、新聞などの時事問題を把握しておくことが勧められる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 序章 「失われた時代」をトータルに捉える
- 第3回 第1章 人口
- 第4回 第2章 金融・財政
- 第5回 第3章 マクロ経済
- 第6回 第4章 企業競争力
- 第7回 第5章 労働・雇用・格差
- 第8回 第6章 教育
- 第9回 第7章 原発政策
- 第10回 第8章 政治改革
- 第11回 第9章 安全保障
- 第12回 第10章 貿易
- 第13回 第11章 中国・アジア太平洋
- 第14回 第12章 日米同盟
- 第15回 第13章 歴史認識

履修上の注意点

教科書は必ず各自一冊ずつ準備し、毎回持参すること。教科書を準備していない学生の受講は認めない。3回を超えて無断欠席した学生には単位を出さない。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

検証 日本の「失われた20年」

著者： 船橋洋一編著

出版社： 東洋経済新報社

出版年： 最新版

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(経) &lt;\*C&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

社会人として働き生きるといこと

授業の到達目標

私たちは、社会とのかかわりの中でしか生きていけない。個人であり社会人であり、自然人でもある。格差社会、非正規雇用など様々な問題を抱える社会の中で、社会人としての生き方について考えてみる。

授業の概要

テキストや副教材を用いてグループワークを行い、そこで得た知識や主張について討論する。

準備学習(予習・復習)

テキストの予習と復習、グループワークに積極的に参加すること。学習ポートフォリオを作成し、学習内容や配布物等を各自保存すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキストを用いた学習と討論(1)
- 第3回 テキストを用いた学習と討論(2)
- 第4回 テキストを用いた学習と討論(3)
- 第5回 テキストを用いた学習と討論(4)
- 第6回 テキストを用いた学習と討論(5)
- 第7回 テキストを用いた学習と討論(6)
- 第8回 テキストを用いた学習と討論(7)
- 第9回 テキストを用いた学習と討論(8)
- 第10回 テキストを用いた学習と討論(9)
- 第11回 テキストを用いた学習と討論(10)
- 第12回 テキストを用いた学習と討論(11)
- 第13回 テキストを用いた学習と討論(12)
- 第14回 テキストを用いた学習と討論(13)
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

社会人の生き方

著者: 暉峻淑子

出版社: 岩波新書

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(経) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 杉浦 昌

テーマ

文章の理解と分析

授業の到達目標

文章を理解し、分析し、それに対する自分の意見をまとめ、わかりやすく説明するスキルを身につける。

授業の概要

テキストを読み、感想、理解出来た部分、理解出来なかった部分、反対意見をまとめる。それらを全員の前で発表し、質問を受け、議論を行う。テキストはビジネス雑誌や専門誌の記事、論文等を用いる。授業の中でその都度資料を配布、または閲覧するURLを指定する。また、適時課題を出すので、それに対するレポートを作成して期限内に提出する。

準備学習(予習・復習)

テキストを予習して理解した上で、自分の考えをまとめておくこと。発表の段取りを考え準備しておくこと。

内 容

第1回 ゼミの進行方法についてのガイダンスと自己紹介

第2回 学生による発表・討論(1)

第3回 学生による発表・討論(2)

第4回 学生による発表・討論(3)

第5回 学生による発表・討論(4)

第6回 学生による発表・討論(5)

第7回 学生による発表・討論(6)

第8回 学生による発表・討論(7)

第9回 学生による発表・討論(8)

第10回 学生による発表・討論(9)

第11回 学生による発表・討論(10)

第12回 学生による発表・討論(11)

第13回 学習成果報告会の準備と議論

第14回 学習成果報告会(1)

第15回 学習成果報告会(2)

履修上の注意点

積極的に参加すること。欠席しないこと。必ずレポートを提出すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(経) &lt;\*E&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 竹内 直人

テーマ

自治体の課題と解決策のケーススタディ

授業の到達目標

新聞などから自治体が直面する課題を見つけ出し、その解決策について自ら考え政策の形にまとめ、発表する。

授業の概要

政策立案グループ、政策の検討グループ、議会グループの3つに分かれて、自治体で行われている政策づくりのプロセスに沿ってロールプレイを行う。自治体議会の傍聴を体験する。

準備学習(予習・復習)

自治体の課題に関する統計や新聞記事を配布するので、事前に読んでおくこと。また新聞やニュースから新しい課題を見つけること。

内 容

- 第1回 自治体の課題
- 第2回 政策形成の基本1:政策づくりと予算
- 第3回 政策形成の基本2:首長と議会
- 第4回 課題1 政策の検討
- 第5回 政策の予算化
- 第6回 予算査定
- 第7回 議会審議
- 第8回 課題2 政策の検討
- 第9回 政策の予算化
- 第10回 予算査定
- 第11回 議会審議
- 第12回 自治体訪問:議会見学と執行部訪問
- 第13回 ディスカッション
- 第14回 レポート発表1
- 第15回 レポート発表2

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

地方自治のしくみがわかる本

著者: 村林守

出版社: 岩波ジュニア新書

出版年: 2016年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40)

参加度 ( )

自治体の課題を解決する政策を予算の形にまとめ発表し、レポート(1500字程度)として提出することを求める。



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(経) &lt;\*F&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ランビーノ, パラガス

テーマ

日本と東南アジアの政治経済文化のダイナミクスを歴史的に理解することが主要なテーマです。テキストを精読した上で、自分の考えを展開し説明することが、授業の主なテーマとなります。

授業の到達目標

主な目標は、理解しやすいプレゼンテーション資料の作成と、その内容について討論する技術を身につけることです。その他の具体的な目標としては、歴史的展開を基盤として日本と東南アジアとの関係を理解し、豊かなイメージを持つこと、自分の考えやアイデアを展開し、それらを論理的に説明する能力を身につけること等が挙げられます。

授業の概要

本演習は、政治経済学における広範な基礎的知識と深い専門的知識を習得し、国際的視野、特に日本と東南アジアとの関係についての知見を持つ人材を育成することを目的としています。前期の前半は鶴見良行『バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ』、前期の後期は白石隆『海の帝国—アジアをどう考えるか』をベースにして授業を進めます。授業の流れは次のようになります。①最初の授業で各回の報告者を割り当てる。②授業前日までに報告者はレジュメを作成する(授業日の2日前にレジュメを教員に提出する)。③テキストの該当箇所を参加者全員が事前に読む。④報告者は要旨を説明し、論点の整理を行う。⑤報告をベースにして、参加者全員で議論する。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内容

- 第1回 ガイダンス。報告者の割り当て。  
 第2回 『バナナと日本人』第1章「バナナはどちら」  
 第3回 『バナナと日本人』第2章「植民地ミンダナオで」『バナナと日本人』第3章「ダバオ麻農園の姿」  
 第4回 『バナナと日本人』第4章「バナナ農園の出発」『バナナと日本人』第5章「多国籍企業の戦略は？」  
 第5回 『バナナと日本人』第6章「契約農家『見えざる鎖』」  
 第6回 『バナナと日本人』第7章「農園で働く人びと」  
 第7回 『バナナと日本人』第8章「日本へ、そして食卓へ」  
 第8回 『バナナと日本人』第9章「つくる人びとを思いながら」  
 第9回 『海の帝国』第1章「ラッフルズの夢」  
 第10回 『海の帝国』第2章「ブギス人の海」  
 第11回 『海の帝国』第3章「よちよち歩きのリヴァイアサン」  
 第12回 『海の帝国』第4章「複合社会の形態」  
 第13回 『海の帝国』第5章「文明化の論理」  
 第14回 『海の帝国』第6章「新しい帝国秩序」  
 第15回 『海の帝国』第7章「上からの国民国家建設」『海の帝国』第8章「アジアをどう考えるか」

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ

著者: 鶴見良行

出版社: 岩波新書

出版年: 1982年

ISBN: 978-4004201991

教科書のほか、適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (35%)

a50102a116

参加度（65%）  
特になし。

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(経) &lt;\*G&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

大学で勉強するために必要な基本的スキルの習得と、社会に対して視野と関心を広げること。

授業の概要

前半は、テキストを輪読して、読解・要約・発表・討論などの大学生の基本的スキルを学ぶ。後半は、いくつかの経営・経済系テーマに沿って、それらに関する論点や詳細な内容を各自でレポートにまとめ、発表する。

準備学習(予習・復習)

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキストを用いたグループワークと討論(1)
- 第3回 テキストを用いたグループワークと討論(2)
- 第4回 テキストを用いたグループワークと討論(3)
- 第5回 テキストを用いたグループワークと討論(4)
- 第6回 テキストを用いたグループワークと討論(5)
- 第7回 テキストを用いたグループワークと討論(6)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 各自のテーマに関するレポート作成(1)
- 第10回 各自のテーマに関するレポート作成(2)
- 第11回 各自のテーマに関するレポート作成(3)
- 第12回 各自のテーマに関するレポート作成(4)
- 第13回 各自のテーマに関するレポート作成(5)
- 第14回 レポートの発表会(1)
- 第15回 レポートの発表会(2)

履修上の注意点

教科書

経済学的思考のセンスーお金がないヒトを助けるには

著者: 大竹文雄

出版社: 中公新書

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

ゼミ形式の授業は参加を最重要視する。遅刻・欠席を極力しないこと。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*A&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 まりな

テーマ

製品・サービスのヒットの理由を考える。

授業の到達目標

情報探索や報告のスキルを身に付ける。自身の報告や他人の報告を聞くことを通じて、特定の業界・企業・製品に詳しくなる。

授業の概要

業界ごとにグループ分けを行い、最低3回報告する。報告では各自が報告資料作成し、報告、ディスカッションを行う。最終的に製品・サービスのヒットした理由に関するレポートを作成し、提出する。

準備学習(予習・復習)

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。なお、参考書を一読することで、製品・サービスのヒットの理由に関する理解が深まる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報探索や報告の方法
- 第3回 報告1:業界構造(グループ1)
- 第4回 報告1:業界構造(グループ2)
- 第5回 報告1:業界構造(グループ3)
- 第6回 報告1:業界構造(グループ4)
- 第7回 報告2:ヒットした製品・サービス(グループ1)
- 第8回 報告2:ヒットした製品・サービス(グループ2)
- 第9回 報告2:ヒットした製品・サービス(グループ3)
- 第10回 報告2:ヒットした製品・サービス(グループ4)
- 第11回 報告3:製品・サービスの競争優位(グループ1)
- 第12回 報告3:製品・サービスの競争優位(グループ2)
- 第13回 報告3:製品・サービスの競争優位(グループ3)
- 第14回 報告3:製品・サービスの競争優位(グループ4)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

講義資料として、適宜レジュメを配付する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (45)

授業中発表等 (45)

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*B&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

社会におけるITサービスの現状と課題

授業の到達目標

情報技術を基盤としたビジネスやサービスを対象として、情報論的なアプローチの基礎的な考え方を身に付けるとともに、具体的な事例を通して理解する。

授業の概要

位置情報をはじめとした様々な内容や形式の情報のビジネス等への活用事例を通して、情報ビジネスとそれを取り巻く状況について理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報社会の理解(1)
- 第3回 情報社会の理解(2)
- 第4回 情報社会の理解(3)
- 第5回 プレゼンテーションの技術(1)
- 第6回 プレゼンテーションの技術(2)
- 第7回 前半の内容整理
- 第8回 文献発表および議論(1)
- 第9回 文献発表および議論(2)
- 第10回 文献発表および議論(3)
- 第11回 文献発表および議論(4)
- 第12回 文献発表および議論(5)
- 第13回 文献発表および議論(6)
- 第14回 文献発表および議論(7)
- 第15回 全体の総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 20 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

管理会計の研究を通して、マネジメントの本質を理解する

授業の到達目標

企業経営における会計の役割を理解する。日経新聞・日経ビジネスなどを無理なく読めるような力を養う。

授業の概要

原理原則・理論を学びながら、ビジネスの最前線の出来事に目を向ける。必要に応じて、工場見学等の学外学習を行う。

準備学習(予習・復習)

復習を必ず行うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス プレゼミで学ぶ内容の概説
- 第2回 戦略的コストマネジメントの意義
- 第3回 製造活動とコストマネジメント1
- 第4回 製造活動とコストマネジメント2
- 第5回 製造活動とコストマネジメント3
- 第6回 製造活動とコストマネジメント4
- 第7回 製造活動とコストマネジメント5
- 第8回 マーケティング活動とコストマネジメント1
- 第9回 マーケティング活動とコストマネジメント2
- 第10回 マーケティング活動とコストマネジメント3
- 第11回 経営戦略とコストマネジメント1
- 第12回 経営戦略とコストマネジメント2
- 第13回 製造業のコストマネジメント戦略
- 第14回 サービス業のコストマネジメント戦略
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年: ISBN:

管理会計

著者: 岡本清 他

出版社: 中央経済社

出版年: ISBN:

情報化社会における管理会計の役割

著者: 河野充央

出版社: 税務経理協会

出版年: ISBN:

コトラーのマーケティングマネジメント

著者: フィリップ・コトラー(恩蔵直人監訳)

出版社: パーソン・エデュケーション・ジャパン

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 20 )

参加度 ( 60 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

現代金融の発展と課題

授業の到達目標

現代金融の特徴や課題を理解しながら、金融に関わる新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「金融について自分で考える力」や「金融機関を就職対象として考えるための知見」を身に付けることを目標とする。

授業の概要

金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。

準備学習(予習・復習)

課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。

内 容

- 第1回 演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定  
 第2回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第3回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第4回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第5回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第6回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第7回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第8回 金融に関わる映像資料を用いて学ぶ  
 第9回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第10回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第11回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第12回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第13回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第14回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論)  
 第15回 金融の現場を探访する

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50% )

参加度 ( 50% )



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*E&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

公共経営の基礎的な知識を身につける

授業の到達目標

・卒業論文の作成に必要な文献調査や文章作成の技術を身につける。・社会における様々な現象を論理的に説明できるようになる。

授業の概要

政府の活動は私たちの暮らしにとって無くてはならないものです。このゼミでは、経済の中での政府の働きを理解するのに欠かせない財政学などの基本的な内容を文献購読によって学び、自分自身で研究する際の基礎を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておくことが必要である。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。

内 容

- 第1回 ガイダンス:テキストおよび分担の決定
- 第2回 情報検索演習(1)
- 第3回 情報検索演習(2)
- 第4回 プレゼンテーションの技術(1)
- 第5回 プレゼンテーションの技術(2)
- 第6回 プレゼンテーションの技術(3)
- 第7回 テキストの輪読(1)
- 第8回 テキストの輪読(2)
- 第9回 テキストの輪読(3)
- 第10回 テキストの輪読(4)
- 第11回 テキストの輪読(5)
- 第12回 テキストの輪読(6)
- 第13回 テキストの輪読(7)
- 第14回 テキストの輪読(8)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスをを行うこと。

教科書

受講生との相談のうえ決定する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*F&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

社会学系ゼミで学習する

授業の到達目標

テキストを読んで、発表者はレジュメを作り、みんなが討論に参加して、社会的な見方や分析のしかたを身につける。

授業の概要

①テキストの予習→レジュメにもとづく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→ 全員の感想 ②『子どもの貧困』のレポート作成と学外授業

準備学習(予習・復習)

テキストは必ず予習すること

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法についてのガイダンスと自己紹介
- 第2回 学生による発表・討論(1)
- 第3回 学生による発表・討論(2)
- 第4回 学生による発表・討論(3)
- 第5回 学生による発表・討論(4)
- 第6回 学生による発表・討論(5)
- 第7回 学生による発表・討論(6)
- 第8回 学生による発表・討論(7)
- 第9回 学生による発表・討論(8)
- 第10回 学生による発表・討論(9)
- 第11回 学生による発表・討論(10)
- 第12回 学生による発表・討論(11)
- 第13回 山科青少年活動センターの見学
- 第14回 学生による発表・討論(12)
- 第15回 総括

履修上の注意点

テキストをよく読んで、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。

教科書

新版 社会学のエッセンス

著者: 友枝敏雄他

出版社: 有斐閣

出版年: 2007

ISBN: 4-641-12338-0

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*G&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ	
医療経営に関する基礎的な学習	
授業の到達目標	
医療経営や医療政策、医療経済について知見を深める	
授業の概要	
グループワークやテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済について理解を深めるとともに、大学での学びに必要なアカデミック・スキルの習得に努める。また、受講生が主体となって学外授業(施設訪問)を企画する。	
準備学習(予習・復習)	
授業時間外において、グループワークや発表の準備、学外授業の企画を立案する。	
内 容	
第1回 ガイダンス	
第2回 図書館ガイダンス	
第3回 グループワーク(グループ分けとテーマ設定)	
第4回 グループワーク(仮説とアウトラインの明確化)	
第5回 グループワーク(論点の掘り下げ)	
第6回 グループワーク(調査の一応のとりまとめ)	
第7回 グループワーク(パワーポイント資料の作成)	
第8回 グループワーク成果発表会	
第9回 キャリアガイダンス(予定)	
第10回 テキストを用いた発表と討論	
第11回 テキストを用いた発表と討論	
第12回 テキストを用いた発表と討論	
第13回 テキストを用いた発表と討論	
第14回 学外授業(予定)	
第15回 演習全体のまとめ	
履修上の注意点	
病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業や自主ゼミ等に積極的に参加すること。	
教科書	
未定	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
医療・介護問題を読み解く	
著者: 池上直己	
出版社: 日経文庫	
出版年: 2014	ISBN: 9.78453E+12
医療政策を問いなおす	
著者: 島崎謙治	
出版社: ちくま新書	
出版年: 2015	ISBN: 9.78448E+12
健康と医療の公平に挑む	
著者: 松田亮三編	
出版社: 勁草書房	
出版年: 2009	ISBN: 9.78433E+12

地域包括ケアと地域医療連携

著者： 二木立

出版社： 勁草書房

出版年： 2015

ISBN: 9.78433E+12

経済政策では死ぬか

著者： スタックラー & バス

出版社： 草思社

出版年： 2014

ISBN: 9.78479E+12

社会保障の公私ミックス再論

著者： 松田亮三・鎮目真人編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2015

ISBN: 9.78462E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*H&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 竹内 直人

テーマ

自治体政策の最前線

授業の到達目標

地方分権改革以降に生じている自治体政策の変化の概要とその理由を(1)仕組みの変化(2)内容の変化の両面から理解する。

授業の概要

仕組みの変化についてローカルマニフェストと地方分権改革、内容の変化について、教育、福祉、まちづくり、環境の4つの分野について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

あらかじめ文献のコピーを配布するので読んでおくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス:自治体政策の変化
- 第2回 ローカルマニフェスト運動(1)
- 第3回 ローカルマニフェスト運動(2)
- 第4回 分権改革(1)機関委任事務の廃止
- 第5回 分権改革(2)三位一体の改革
- 第6回 教育政策の変化(1)
- 第7回 教育政策の変化(2)
- 第8回 福祉政策の変化(1)
- 第9回 福祉政策の変化(2)
- 第10回 まちづくり政策の変化(1)商店街振興
- 第11回 まちづくり政策の変化(2)文化とまちづくり
- 第12回 まちづくり政策の変化(3)農山村の地域づくり
- 第13回 自治体訪問
- 第14回 環境政策の変化(1)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ウェブページで自治体首長のマニフェストや国の白書が閲覧できるので、見ておくと講義の役に立ちます。

教科書

地方分権推進委員会中間報告

著者: 地方分権推進委員会

出版社: 下記アーカイブからダウンロード

出版年: 1996年

ISBN:

参考書

マニフェスト

著者: 金井辰樹

出版社: 光文社新書

出版年: 2003年

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*I&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 平尾 毅

テーマ

経営史的アプローチからイノベーションの歴史について学ぶ。

授業の到達目標

様々な経験を通して幅広い視野を身に付けることができる。時代の趨勢を読んで意思決定できることが期待される。グループワークを通して、主体性や協調性を身に付けることができる。プレゼンテーション能力を磨くことができる。

授業の概要

経済史・経営史の観点から、経済発展を生み出すエンジンは何か、成功と失敗を分けたポイントは何かなどを読み解いていきます。歴史といっても、過去の出来事を年号と合わせて棒暗記するのではなく、現代的企業の特質や役割、今後の展開を、過去を含めた長期的観点から考えていきます。

準備学習(予習・復習)

事前にグループごとに役割(発表・討論・運営)が決めるるので、皆で協力して準備する必要があります。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 チームビルディング、レジュメの作り方
- 第3回 テキストの輪読と討論①
- 第4回 テキストの輪読と討論②
- 第5回 テキストの輪読と討論③
- 第6回 テキストの輪読と討論④
- 第7回 テキストの輪読と討論⑤
- 第8回 テキストの輪読と討論⑥
- 第9回 テキストの輪読と討論⑦
- 第10回 テキストの輪読と討論⑧
- 第11回 テキストの輪読と討論⑨
- 第12回 テキストの輪読と討論⑩
- 第13回 クリエイティビティとイノベーション
- 第14回 まとめ
- 第15回 発表会

履修上の注意点

学生だからこそできる様々なことにチャレンジし、その経験を自分の成長につなげる機会としてゼミに参加してください。あくまでもゼミの主役は学生自身ですので、ゼミ生が主体的に企画・実行することを期待します。

教科書

経営革命の構造

著者： 米倉誠一郎

出版社： 岩波新書

出版年： 1999年

ISBN:

概説世界経済史Ⅰ・Ⅱ

著者： R.キャメロン&amp;L.ニール

出版社： 東洋経済新報社

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

適宜紹介します。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0%)

授業中課題 (30%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (40%)

a50102a259

参加度（30%）

参加度は授業中発表に対する質問・コメントを含みます。

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*J&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

現代社会において重要な位置を占める企業(特に民間・営利)について、戦略・組織・歴史などを外部環境との関係に主眼を置いて学ぶ。

授業の到達目標

・産業や企業が市場や社会の中でどのような組織・戦略をとっているかを知る。・企業や業界についての詳しい知識を得て、自らの将来への一助とする。・ワープロや表計算、プレゼンテーションなどのツールの使いこなし方に習熟する。

授業の概要

企業論・経営史の観点から、企業の経営戦略・組織などを、市場や社会といった外部環境への対応の観点を中心に学ぶ。特に企業を取り巻く各種のステークホルダーとの関係を長期的に俯瞰し、社会における企業の役割や責任について考える。

準備学習(予習・復習)

出された課題については、社会人に向けての自覚と責任を持って準備してくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献・各種資料の調べ方とまとめ方(1)
- 第3回 文献・各種資料の調べ方とまとめ方(2)
- 第4回 文献・各種資料の調べ方とまとめ方(3)
- 第5回 テキストの輪読と討論(1)
- 第6回 テキストの輪読と討論(2)
- 第7回 テキストの輪読と討論(3)
- 第8回 テキストの輪読と討論(4)
- 第9回 テキストの輪読と討論(5)
- 第10回 テキストの輪読と討論(6)
- 第11回 テキストの輪読と討論(7)
- 第12回 専門演習に向けたテーマ設定について(1)
- 第13回 専門演習に向けたテーマ設定について(2)
- 第14回 専門演習に向けたテーマ設定について(3)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

上記各回の順序は適宜学習内容に応じて変更することがある。

教科書

授業で相談の上決定する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(経) &lt;\*K&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ランビーン、パラガス

## テーマ

この演習のテーマは地域および地域経済について学び、テキストのキーワードである地域内再投資力論を理解することで。その上で、テキストの精読を通して自分の考えを展開・精錬し、他の人に説明する力を身につけます。

## 授業の到達目標

主な目標は、理解しやすいプレゼンテーション資料の作成技術と、その内容に関わる討論の能力を向上させることです。さらに、具体的な目標として、地域および地域経済を自分なりに理解した上で、自分の考えを展開し、他の人に説明する能力を身につけることです。

## 授業の概要

本演習では、地域経済についての理論及び実証分析についての知識を習得し、地域発展についての知見を持つ人材を育成することを目指しています。テキストは四部構成で、一部は地域と基礎自治体についての理論的枠組みの紹介、二部は日本の地域開発政策の概観およびプロジェクト型地域開発の検証、続く三部では真の地域づくりおよび持続的な地域の発展、最終部四部は基礎自治体のあり方をテーマとしています。授業の流れは次のようになります。①最初の授業で各回の報告者を割り当てる。②授業当日に向けて報告者はレジュメを作成する(授業日の2日前にレジュメを教員に提出する)。③テキストの該当箇所を参加者全員が事前に読む。④授業当日、報告者は要点をまとめ、論点を整理する。⑤報告をベースにして、参加者全員で議論する。

## 準備学習(予習・復習)

特になし。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス。報告者の割り当て。
- 第2回 『地域づくりの経済学入門』第1章「地域と地域づくり」
- 第3回 『地域づくりの経済学入門』第2章「経済のグローバル化と地域の荒廃」
- 第4回 『地域づくりの経済学入門』第3章「『グローバル国家』型『構造改革』と日本・地域の未来」
- 第5回 『地域づくりの経済学入門』第4章「戦後地域開発政策の展開と地域」
- 第6回 『地域づくりの経済学入門』第5章「プロジェクト型地域開発と地域」
- 第7回 『地域づくりの経済学入門』第6章「企業誘致で地域は豊かになるのか」
- 第8回 『地域づくりの経済学入門』第7章1節～3節(134頁～150頁)
- 第9回 『地域づくりの経済学入門』第7章4節「『成長の管理』から学ぶ」
- 第10回 『地域づくりの経済学入門』第8章「『一村一品』から地域内産業連関の構築へ」
- 第11回 『地域づくりの経済学入門』第9章「小さいからこそ輝く自治体」
- 第12回 『地域づくりの経済学入門』第10章「大都市の産業空洞化とまちづくり」
- 第13回 『地域づくりの経済学入門』第11章1節～2節(228頁～240頁)
- 第14回 『地域づくりの経済学入門』第11章3節～4節(240頁～258頁)
- 第15回 『地域づくりの経済学入門』第12章「地域づくりと地域住民権」

## 履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

## 教科書

地域づくりの経済学入門—地域内再投資力論—

著者: 岡田 知弘

出版社: 自治体研究社

出版年: 2005

ISBN: 978-4880374437

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (35%)

参加度 (65%)

## 2017 Syllabus

科目名 救急医学総論Ⅳ &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 関根 和弘	
テーマ	
救急現場活動に必要な知識と技術・コミュニケーション力	
授業の到達目標	
救急現場活動に必要なコミュニケーションスキル、救急隊等の編成や関連する法律・公務災害等についての理解	
授業の概要	
救急現場活動を行うために必要なコミュニケーションスキル、救急隊の編成、救急自動車装備、通信体制、搬送法や救急活動に関連する法律や公務災害・参事ストレスについて理解する。講義と実習の組み合わせで実施する。実習は、小グループでの班編成としてグループワークを実施する。グループ毎に発表をする。	
準備学習(予習・復習)	
前半は、改訂8版救急救命士標準テキスト第2版を使用する。中盤は資料を作成したものを前週に配布し、翌週に演習を行う。配布した資料を熟読しておくこと。	
内 容	
第1回 救急活動の概論(DVD閲覧における救急体制の理解、ディスカッション)	
第2回 救急現場活動(救急医療システム、救急搬送システム、救急情報システム、概論)	
第3回 救急現場活動(周産期医療、医療計画と救急救護体制、救急医療情報システム、各論)	
第4回 救急現場活動(病院前救護体制、救急活動の基本)	
第5回 救急現場活動(救急の無線交信と出場)	
第6回 救急現場のコミュニケーションスキル(コミュニケーションスキルの概論)講義と実習	
第7回 救急現場のコミュニケーションスキル(消防・救急における情報の伝達)講義と実習	
第8回 救急現場のコミュニケーションスキル(医療面接)講義と実習	
第9回 救急現場のコミュニケーションスキル(医療面接と情報伝達)講義と実習	
第10回 救急行政と救急関連法規(メディカルコントロールと事後検証制度)	
第11回 救急活動と法律問題(医療業務に係る体系、救急救命士の名称独占と業務独占について)	
第12回 惨事ストレスマネージメント(救助救急隊員のための惨事ストレス対策)	
第13回 救急現場等の安全管理(危険予知訓練:KYT)講義と実習	
第14回 海外の病院前救護体制(米国・英国や仏国等と日本の病院前救護体制の違い)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。	

## 教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者: 救急隊員用教本作成委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2007

ISBN: 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

交通救助のテクニック

著者: 関根 和弘

出版社: イカロス出版

出版年: 2011

ISBN: 9.78486E+12

参考書

救急活動コミュニケーションスキル

著者： 坂本哲也/畑中哲生/松本尚

出版社： (株)メディカルサンエンス

出版年： 2009

ISBN： 9.7849E+12

惨事ストレスへのケア

著者： 松井 豊

出版社： (株)おうふう

出版年： 2009

ISBN： 9.78427E+12

はじめての医療面接

著者： 齊藤清二

出版社： 医学書院

出版年： 2000

ISBN： 4260138677

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

60%以上

---

## 2017 Syllabus

科目名 環境障害 &lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保山 一敏

テーマ

急性中毒学・環境障害

授業の到達目標

急性中毒学・熱中症や放射線障害などの環境障害を理解する。

授業の概要

標準テキストを中心に講義し、適宜参考資料を提示する。

準備学習(予習・復習)

標準テキストの復習を30～60分行うこと。

内 容

第1回 中毒総論

第2回 中毒各論 I

第3回 中毒各論 II

第4回 異物・溺水

第5回 熱中症・偶発性低体温症

第6回 放射線障害

第7回 その他の環境障害

第8回 まとめ・試験

履修上の注意点

欠席、授業中のマナーは最終成績に反映させる。

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト

著者:

出版社: へるす出版

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト (30%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (10%)

小テストは授業の進捗状況に従い、事前アナウンスの上適宜実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 **経営戦略論 I**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

経営戦略の基礎を学ぶ

授業の到達目標

経営戦略に関する教科書を手がかりに、経営戦略の基礎的な理論や応用例を説明することを通じて、経営戦略の基礎を理解させる。

授業の概要

教科書に即して、経営学の理論と具体例を系統的に説明するが、教科書で触れられていないことも説明する。教科書の理解は必要だが授業での教科書以外の説明も重要だということである。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習および新聞記事などの時事問題の予習を行うこと。

内 容

- 第1回 授業全体の進め方ガイダンス
- 第2回 経営戦略の概念と体系
- 第3回 製品市場戦略と多角化
- 第4回 資源展開戦略とPPM
- 第5回 競争戦略と競争優位
- 第6回 リソース・ベースド・ビューと知識
- 第7回 経営戦略と組織
- 第8回 ネットワーク組織と組織間関係
- 第9回 M&A戦略と企業価値
- 第10回 情報ネットワークと経営戦略
- 第11回 グローバリゼーションと経営戦略
- 第12回 地球環境問題と経営戦略
- 第13回 起業と経営戦略
- 第14回 イノベーションと経営戦略
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

新聞やインターネット、映像などで知った様々な経営戦略の実践や考え方などを教科書の諸理論と照らし合わせて考えてみる。

教科書

経営戦略論

著者: 大滝精一他

出版社: 有斐閣

出版年: 最新版

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 70 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 経営戦略論Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 150
履修条件	クラス指定
担当者 松石 泰彦	
テーマ 企業のマネジメント・戦略の実践を学ぶ	
授業の到達目標 おもに京都の企業人や各種の経済団体等から経験豊かなゲストスピーカーをお招きして組織文化、経営戦略、人材育成方針等について学ぶ。	
授業の概要 企業経営や経済団体等の運営に直接に関係しておられるトップ・マネジメント職位にある人々から実務体験を直接にお聞きして、組織文化と経営戦略について理解を深めるのが獲得目標である。	
準備学習(予習・復習) 当日の企業・団体の経営状況や関係する業界について、専門書、有価証券報告書、会社案内、会社四季報、ダイヤモンド、東洋経済などの業界紙、日本経済新聞、日本産業新聞、ホームページなどを手がかりに、予め調べておくことが有益である。	
内 容 第1回 講義のねらいと計画 第2回 大日本スクリーン製造(株)の経営戦略について 第3回 オムロン(株)の経営戦略について 第4回 宝ホールディングス(株)の経営戦略について 第5回 島津メクテム(株)の経営戦略について 第6回 京都電子計算(株)の経営戦略について 第7回 社団法人 京都工業会の経営戦略について 第8回 中間まとめ 第9回 (株)福田巧芸社の経営戦略について 第10回 (有)キャップスの経営戦略について 第11回 京都生活協同組合の経営戦略について 第12回 共英製鋼(株)の経営戦略について 第13回 (株)ケーケーシ情報システムの経営戦略について 第14回 京都経営者協会の経営戦略について 第15回 まとめと今後の展望	
履修上の注意点 講義に関連する会社や団体のホームページを見て、事前に調べた上で講義に出席し、質問を用意するようにしてほしい。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 80 ) 参加度 ( 20 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 経営組織論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平尾 毅	
テーマ	
経営組織論の基礎分野を学習する。	
授業の到達目標	
経営学科の各コースの基礎知識になるとともに、将来の組織の一員として活躍する際に役立つ知識を習得できる。	
授業の概要	
組織とは何か、組織はどのように作られ、運営されるのか、どのように外部環境と関わっていくのかについて、経営組織論の基本的な考え方を学びます。マクロ組織論とミクロ組織論の領域について、それぞれの基礎理論を体系的に学習します。また、最新の研究を紹介し、近年の組織論におけるパラダイム・シフトについて学びます。	
準備学習(予習・復習)	
事前配布される資料の予習をして授業に臨んでください(1時間程度)。また、復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください(1時間程度)。	
内 容	
第1回	ガイダンス
第2回	組織とは何か(組織とは一体何なのか、組織論を学ぶ意義を確認する)
第3回	環境と組織(組織が価値や信念をもった情報処理システムとして環境適応しながら、その構造を構築することを学ぶ)
第4回	組織デザイン①(分業と統合のバランスについて学ぶ)
第5回	組織デザイン②(職能制、事業部制、マトリクスについて学ぶ)
第6回	モチベーション(人は何によってどのように組織に貢献しようとするのか、モチベーションを高揚させるために欠かせない視点について学ぶ)
第7回	リーダーシップ(変革時代のリーダーシップについて、その行動特性などについて学ぶ)
第8回	組織文化(組織文化が企業経営に及ぼす影響を学ぶ)
第9回	組織学習(組織学習のプロセスについて学ぶ)
第10回	戦略的組織変革①(組織変革のプロセスに基づき、どのように組織の慣性から逃れて抜本的な変革が可能になるかを学ぶ)
第11回	戦略的組織変革②(イノベーションを起こすには何が問題かについて学ぶ)
第12回	戦略的組織変革③(どのように組織能力を引き出すかについて学ぶ)
第13回	ネットワーク組織(ネットワーク組織とは何か、ネットワーク的な経営コンセプトについて学ぶ)
第14回	ポストモダンの組織論(機能主義的パラダイムの限界とポストモダンの組織論について学ぶ)
第15回	まとめ(全体のまとめ)
履修上の注意点	
配布資料に記載の文献一覧を参考に予習してください。授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。	
教科書	
使用しない。毎回の授業で配布する資料をテキストの代用とする。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
適宜紹介します。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (70%)	小テスト (0%)
授業中課題 (15%)	授業中発表等 (0%)
参加度 (15%)	

## 2017 Syllabus

科目名 経営情報システム論 &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 片岡 裕介	
テーマ	
情報化社会における経営情報の役割と可能性	
授業の到達目標	
情報技術(IT)あるいは情報通信技術(ICT)の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。	
授業の概要	
まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
授業で学習した用語や関連する事例について、授業後に整理するようにしてください。	

## 内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 情報化社会の進展
- 第3回 情報化社会における経営情報
- 第4回 情報技術の基礎
- 第5回 経営情報システムの変遷
- 第6回 経営戦略と情報システム
- 第7回 経営組織と情報システム
- 第8回 システムとネットワーク
- 第9回 ナレッジマネジメント
- 第10回 経営情報と流通(1) 情報化と流通システム
- 第11回 経営情報と流通(2) チェーンストアと物流システム
- 第12回 社会における経営情報の利活用(1) インターネットビジネス
- 第13回 社会における経営情報の利活用(2) エリアマーケティング
- 第14回 社会における経営情報の利活用(3) 位置情報サービス
- 第15回 社会における経営情報の利活用(4) 情報セキュリティと情報倫理

## 履修上の注意点

受講者数によっては座席指定をおこなう。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

経営情報システム 第4版

著者: 宮川公男・上田泰編著

出版社: 中央経済社

出版年: 2014

ISBN:

はじめて学ぶ経営情報学

著者: 高橋敏朗編

出版社: 日科技連出版社

出版年: 2005

ISBN:

経営情報論 新版

著者: 遠山暁・村田潔・岸真理子著

出版社: 有斐閣

出版年: 2008

ISBN:



日本の流通と都市空間

著者： 荒井良雄・箸本健二編

出版社： 古今書院

出版年： 2004

ISBN:

ビジネス・行政のためのGIS

著者： 村山祐司・柴崎亮介編

出版社： 朝倉書店

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 人的資源管理論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平尾 毅	
テーマ	
人的資源管理の基本的な仕組みを学習する。	
授業の到達目標	
組織における人間行動を規定するメカニズムを理解できる。就職後のキャリア形成に必要な観点を身につけることが期待される。	
授業の概要	
自分のキャリアは自分で考え、自分で作っていかねばならない時代において、自分がどのような仕組みの下で働き、どのようにして報酬を得るのかを、講義形式で学ぶ。まず、組織における人間行動を規定するメカニズムを理解します。その上で、就職後のキャリア形成に必要な観点から、日本企業の人事部の仕事について体系的に学習します。	
準備学習(予習・復習)	
教科書と配布資料の予習をして授業に臨んでください(1時間程度)。また、復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください(1時間程度)。	
内 容	
第1回	ガイダンス
第2回	人的資源管理入門(人の管理とはどんなことを学ぶ)
第3回	人間モデル・組織行動(組織は人をどのように捉えるのかについて学ぶ)
第4回	組織設計(人の働く組織をどのように作るのかを学ぶ)
第5回	採用・配置(組織は人をどのように雇い入れるのかを学ぶ)
第6回	キャリア開発・人材育成・教育訓練(組織は人をどのように育てるのかを学ぶ)
第7回	評価・考課(組織は仕事の結果をどのように評価するのかを学ぶ)
第8回	昇進・昇格(組織は人をどのように処遇するのかを学ぶ)
第9回	賃金・福利厚生(組織は人にどのような報酬を与えるのかを学ぶ)
第10回	安全・衛生(組織は人の安全と健康をどのように守っているのかを学ぶ)
第11回	労使関係(組織は労働組合とどのように関わるのかを学ぶ)
第12回	退職(組織は辞めていく人とどのように関わるのかを学ぶ)
第13回	女性労働・高齢者雇用(多様化する働く人々を組織はどう管理するのかを学ぶ)
第14回	非正規雇用(多様化する雇用形態を組織はどう管理するのかを学ぶ)
第15回	ワーク・ライフ・バランス(多様化する働く意味づけを組織はどう管理するのかを学ぶ)
履修上の注意点	
授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。	
教科書	
経験から学ぶ人的資源管理	
著者： 上林憲雄・厨子直之・森田雅也	
出版社： 有斐閣	
出版年： 2010年	ISBN： 978-4641183896
参考書	
人事管理入門〈第2版〉	
著者： 今野浩一郎	
出版社： 日経文庫	
出版年： 2008年	ISBN： 978-4532111908
人事管理入門〈第2版〉	
著者： 今野浩一郎・佐藤博樹	
出版社： 日経新聞出版社	
出版年： 2009年	ISBN： 978-4532133795

新版 人材マネジメント論

著者： 高橋俊介

出版社： 東洋経済新報社

出版年： 2006年

ISBN: 978-4492532119

21世紀のキャリア論

著者： 高橋俊介

出版社： 東洋経済新報社

出版年： 2012年

ISBN: 978-4492533116

キャリアショック

著者： 高橋俊介

出版社： ソフトバンク文庫

出版年： 2006年

ISBN: 978-4797336214

自分らしいキャリアのつくり方

著者： 高橋俊介

出版社： PHP新書

出版年： 2009年

ISBN: 978-4569709017

ヒューマン・リソース・マネジメント(ビジネス基礎シリーズ)

著者： 高橋俊介

出版社： ダイヤモンド社

出版年： 2004年

ISBN: 978-4478440513

働くひとのためのキャリア・デザイン

著者： 金井壽宏

出版社： PHP新書

出版年： 2002年

ISBN: 978-4569619415

---

成績評価

試験・レポート (70%)

小テスト (0%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (15%)

---

## 2017 Syllabus

科目名 マーケティング論 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 まりな

テーマ

マーケティング論の視点を身につける。

授業の到達目標

マーケティング論に関する基礎概念を理解する。企業のマーケティング活動の実例を知り、マーケティング論の視点から読み解く力を養う。

授業の概要

マーケティング論の基礎概念について、企業の実例を交えながら解説する。また、履修者にもマーケティングの知識を運用する機会を設ける。具体的には履修者に最低1回のレポート課題の提出を義務付ける。詳細は初回のガイダンスで連絡するので、履修予定者は必ず出席すること。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 マーケティングとは何か
- 第3回 マーケティング・マネジメントの基本枠組み
- 第4回 製品・サービスのデザイン①(製品・サービスの捉え方と分類)
- 第5回 製品・サービスのデザイン②(新製品開発プロセス)
- 第6回 価格のデザイン
- 第7回 流通チャネルのデザイン
- 第8回 プロモーションのデザイン
- 第9回 マーケティング資源の配分
- 第10回 事業の定義
- 第11回 競争構造の理解
- 第12回 製品ライフサイクル
- 第13回 市場地位別戦略
- 第14回 国際マーケティング
- 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの記事に目を通し、企業の具体的なマーケティング活動を学習する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 マーケティング論Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	150
履修条件	クラス指定	
担当者 今井 まりな		
テーマ		
授業の到達目標	マーケティング論における重要なトピック(各論)について理解する。	
授業の概要	マーケティングに関する現象について実際のケースを取り上げながら、理論的に把握するための重要な概念を学んでいく。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ブランド論(1)(ブランド価値のデザイン)</p> <p>第3回 ブランド論(2)(ブランド要素戦略)</p> <p>第4回 ブランド論(3)(ブランドと経験価値)</p> <p>第5回 消費者行動論(1)(消費者行動とマーケティング, 購買決定プロセス)</p> <p>第6回 消費者行動論(2)(市場データ分析)</p> <p>第7回 顧客満足度(1)(顧客価値と顧客満足)</p> <p>第8回 顧客満足度(2)(顧客リレーションシップ育成)</p> <p>第9回 価格(1)(価格設定)</p> <p>第10回 価格(2)(価格適合)</p> <p>第11回 マーケティング・チャネル論(1)(チャネル設計と管理)</p> <p>第12回 マーケティング・チャネル論(2)(電子商取引とマーケティング)</p> <p>第13回 ロジスティクス(1)(マーケット・ロジスティクスの設計)</p> <p>第14回 ロジスティクス(2)(サプライチェーン・マネジメント)</p> <p>第15回 総括</p>	
履修上の注意点	『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの記事に目を通し、企業の具体的なマーケティング活動を学習する。	
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( 70 )</p> <p>授業中課題 ( 30 )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 ファイナンス論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 隆則	
テーマ	
前半は、証券市場で資金運用する投資家の立場に立って、証券市場の機能、分散投資、証券価格の決定理論などの基礎知識を学びます。後半は、証券市場で資金調達する企業の立場に立って、企業の金融行動について学びます。	
授業の到達目標	
(1)リスクとリターンの関係や分散投資の意味を、ファイナンスの理論に依拠しながら説明できること (2)企業の投資や資金調達の意思決定、発展段階に応じた金融行動について、具体的に説明できること	
授業の概要	
株式市場をはじめ様々な証券市場の機能を学ぶとともに、証券投資に必要なリスク・リターンの関係や価格決定の理論、分散投資の考え方を身に付けます。また、企業がどのように資金調達方法を選択し、投資を意思決定するかといった金融行動の基本を学んだ後、企業の統治に関する諸問題や企業の各発展段階における金融行動についても触れます。	
準備学習(予習・復習)	
新聞の株式欄を見て、わかる範囲でその意味を調べてみてください。	
内 容	
第1回	証券市場の概要
第2回	投資におけるリスクの意味
第3回	分散投資の必要性和限界
第4回	株式の評価(1)割引配当モデル
第5回	株式の評価(2)資本資産価格モデル(CAPM)
第6回	証券市場の効率性
第7回	前半のまとめ
第8回	企業はどう資金調達するのか—最適資本構成
第9回	企業はどう投資の意思決定をするのか—資本コストと投資収益率
第10回	企業統治(コーポレート・ガバナンス)(1)株主主権とステークホルダー
第11回	企業統治(コーポレート・ガバナンス)(2)経営者の規律付け
第12回	企業の発展段階と資金調達行動(1)中小企業金融の特徴、ベンチャー企業と株式公開
第13回	企業の発展段階と資金調達行動(2)M&Aと企業再編
第14回	企業の発展段階と資金調達行動(3)倒産処理と企業再生
第15回	全体のまとめ
履修上の注意点	
教科書	
使用しません	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 80% )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20% )	

## 2017 Syllabus

科目名 企業と産業の経済学

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

企業の内部組織や産業の制度について経済学的な分析を行うこと

授業の到達目標

内部組織の経済学、産業組織論の基礎を学び、企業や産業を経済学的な視点から分析することができる力を身につける。

授業の概要

経済学を学び始めた多くの学生が、経済学の教科書では企業や産業の扱いが余りにも小さいことに疑問を感じるはずである。現実の社会では生産者は複雑な組織である場合が普通であり、また、複数の組織が多様な関係を形成しながら生産活動を行っているということは常識であるのに対し、初歩的なミクロ経済学の教科書などでは、企業はそれ自体が意志決定する能力を持つ点のようにとらえられ、また企業と企業の間にはほとんど何の関係もないかのように想定されているように見えるからである。こうした現実の企業活動、あるいは産業活動を分析するのが、内部組織の経済学や産業組織論である。この2つの経済学分野をテーマとするこの授業では、取引費用やゲーム理論の基本的な考え方を基礎にして、そもそもなぜ企業は存在するのか、企業の中で権限はどう配分されるべきか、寡占市場(生産者がごく少数の場合の市場)で企業はどのような行動を行うか、どのような場合に企業は垂直統合(たとえば部品メーカーと組み立て企業の統合)が行われるのかといったトピックを学習しながら、内部組織の経済学や産業組織論の基礎を修得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション:経済学は企業や産業をどのように見ているか?いくつかの比喩
- 第2回 取引費用の概念とコースの定理
- 第3回 なぜ企業は存在するのか
- 第4回 隠れた情報とモラル・ハザード
- 第5回 エイジェンシー理論(依頼人=代理人関係の理論)
- 第6回 所有と経営の分離をどのように理解するか
- 第7回 中間のまとめ
- 第8回 企業の費用構造と独占企業の行動
- 第9回 潜在的参入者の役割
- 第10回 価格の差別化と製品の差別化
- 第11回 寡占市場における企業行動とゲーム理論の基礎
- 第12回 川上産業(部品メーカー)と川下産業(組み立てメーカー)の関係
- 第13回 垂直的統合と権限の配分
- 第14回 ネットワーク外部性(OSと市場支配力)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業内で参考文献を提示するので積極的に学習すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト(70)

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(30)

## 2017 Syllabus

科目名 広告とマスメディア

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今井 まりな・安井 かおる

テーマ

メディア制作の現場—広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネット—

授業の到達目標

各種メディア制作の考え方やそのプロセスを知ることを通じて、メディアの現状とその可能性について理解する。さらに、メディアと履修者との関わり方について考え、メディアを活用する能力を養う。

授業の概要

講師の都合により下記の講義の順番が入れ替わったり、内容が変更になる場合がある。

準備学習(予習・復習)

メディア関係の文献に目を通しておくこと。

内 容

- 第1回 本講義の趣旨 今井まりな
- 第2回 広告とは
- 第3回 広告マーケティング
- 第4回 クリエイティブ
- 第5回 メディア環境論 I
- 第6回 メディア環境論 II
- 第7回 テレビ業界
- 第8回 新聞業界
- 第9回 出版業界
- 第10回 テレビ番組制作の現場
- 第11回 ラジオ業界
- 第12回 映画ビジネス
- 第13回 エンターテインメントビジネス
- 第14回 マスメディアの学説と広告効果 今井まりな
- 第15回 総括 今井まりな

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60 )

参加度は、授業への出席および小レポートによる。授業中課題は、期末レポートによる。



## 2017 Syllabus

科目名 医療政策論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ	
現代日本社会における医療・社会保障制度の役割	
授業の到達目標	
貧困・格差拡大とグローバル化に留意しつつ、日本の医療制度と社会保障に関する基本的な知識を習得する	
授業の概要	
医療制度と社会保障の役割と改革課題について、講義形式で授業を行う。	
準備学習(予習・復習)	
受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。	

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会保障総論(貧困・格差と社会保障の機能)
- 第3回 社会保障総論(社会保障の財政と国際比較)
- 第4回 医療制度と改革課題(医療保険制度)
- 第5回 医療制度と改革課題(医療提供体制)
- 第6回 介護保険制度の概要と改革課題
- 第7回 医療・介護総合改革
- 第8回 中間まとめと理解度の確認
- 第9回 社会保障制度各論(公的年金制度とその改革)
- 第10回 社会保障制度各論(雇用保険と労災保険)
- 第11回 社会保障制度各論(社会福祉と生活保護)
- 第12回 グローバル時代と医療政策(米国の医療保険制度改革)
- 第13回 グローバル時代の医療政策(自由貿易協定と医療制度)
- 第14回 グローバル時代の医療政策(途上国と国際保健医療)
- 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認

## 履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

健康と医療の公平に挑む

著者: 松田亮三編

出版社: 勁草書房

出版年: 2009

ISBN: 978-4326700615

はじめての社会保障13版

著者: 椋野美智子、田中耕太郎

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2016

ISBN: 978-4641220720

安倍政権の医療・介護戦略を問う

著者: 芝田英昭編

出版社: あけび書房

出版年: 2014

ISBN: 9.78487E+12

地域包括ケアと地域医療連携

著者： 二木立

出版社： 勁草書房

出版年： 2015

ISBN: 9.78433E+12

医療政策を問いなおす

著者： 島崎謙治

出版社： ちくま新書

出版年： 2015

ISBN: 9.78448E+12

社会保障の公私ミックス再論

著者： 松田亮三・鎮目真人編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2015

ISBN: 9.78462E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 25 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 医療経済論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ	
医療経済学入門	

## 授業の到達目標

医療経済学の基本的な考え方を学習する。医療制度や経済学に関する知識を必ずしも前提とはしないが、「医療経営入門」「医療政策論」なども併せて履修することが望ましい。

## 授業の概要

医療経済思想の展開、医療費とその増加要因分析、医療の経済評価手法に関して、主として講義形式で授業を行う。また、医療経済に関する理解を深めるため、適宜、映像教材を活用する。

## 準備学習(予習・復習)

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 医療経済思想の展開(1)
- 第3回 医療経済思想の展開(2)
- 第4回 医療経済思想の展開(3)
- 第5回 医療経済思想の展開(4)
- 第6回 医療費と経済(1)
- 第7回 医療費と経済(2)
- 第8回 医療費と経済(3)
- 第9回 中間まとめと理解度の確認
- 第10回 映像教材を用いた医療経済の学習(1)
- 第11回 映像教材を用いた医療経済の学習(2)
- 第12回 医療の経済評価と政策(1)
- 第13回 医療の経済評価の政策(2)
- 第14回 医療の経済評価の政策(3)
- 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認

## 履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

健康と医療の公平に挑む

著者: 松田亮三

出版社: 勁草書房

出版年: 2009

ISBN: 9.78433E+12

国際的視点から学ぶ医療経済学入門

著者: マックベイク他

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2004

ISBN: 9.78413E+12

経済政策で人は死ぬか

著者: スタックラー&amp;パス

出版社: 草思社

出版年: 2014

ISBN: 9.78479E+12

社会保障の公私ミックス再論

著者： 松田亮三・鎮目真人編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2015

ISBN: 9.78462E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 25 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 非営利組織論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ	
授業の到達目標	非営利組織の役割を理解する。
授業の概要	現代社会における非営利セクター、非営利組織の役割に関する基本的な知識を習得し、今後の経済社会のあり方を構想する。
準備学習(予習・復習)	受講に際して予備知識は不要であるが、授業中に配布されるプリントや資料をしっかりと復習し、確認テストも活用すること。また、非営利組織に関する新聞・雑誌記事に目を通す習慣をつけること。
内 容	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 非営利組織とは</p> <p>第3回 非営利組織の理論</p> <p>第4回 政府、企業、非営利組織</p> <p>第5回 英米の非営利セクターと法制度</p> <p>第6回 日本の非営利セクターと法制度</p> <p>第7回 日本の非営利セクターの活動領域(1)(教育分野)</p> <p>第8回 日本の非営利セクターの活動領域(2)(医療分野)</p> <p>第9回 日本の非営利セクターの活動領域(3)(介護分野)</p> <p>第10回 日本の非営利セクターの活動領域(4)(グローバルヘルス)</p> <p>第11回 日本の非営利セクターの活動領域(5)(国際機関とNGO)</p> <p>第12回 非営利組織の人的資源管理</p> <p>第13回 非営利組織の資金管理</p> <p>第14回 非営利組織と経済社会の変革</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	病気やけがなどにより遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。
教科書	
参考書	<p>ドラッカー名著集4 非営利組織の経営</p> <p>著者: P.F.ドラッカー</p> <p>出版社: ダイヤモンド社</p> <p>出版年: 2007 ISBN: 9.78448E+12</p> <p>闘う社会的企業</p> <p>著者: 藤井敦史、原田晃樹、大高研道</p> <p>出版社: 勁草書房</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9.78433E+12</p> <p>シチズンシップ—自治・権利・責任・参加</p> <p>著者: K.フォークス</p> <p>出版社: 日本経済評論社</p> <p>出版年: 2011 ISBN: 9.78482E+12</p>
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 50 )
授業中課題 ( 25 )	授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 産業論Ⅱ(ヘルスケア産業)〈Z〉

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ	
ヘルスケア産業論	

## 授業の到達目標

先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。

## 授業の概要

ヘルスケア産業の全体像と構造、各産業部門と関連産業の現状等について、主として講義形式で授業を行う。

## 準備学習(予習・復習)

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ヘルスケア産業総論(産業の全体像と現状)
- 第3回 ヘルスケア産業総論(ヘルスケアの労働市場)
- 第4回 医療・介護制度とその改革①
- 第5回 医療・介護制度とその改革②
- 第6回 医療・介護経営の動向①
- 第7回 医療・介護経営の動向②
- 第8回 中間まとめと理解度の確認
- 第9回 医療関連産業①(医薬品製造・流通業)
- 第10回 医療関連産業②(医薬品製造・流通業)
- 第11回 医療関連産業③(医療機器製造・流通業)
- 第12回 医療関連サービス業①
- 第13回 医療関連サービス業②
- 第14回 ヘルスケア産業の将来
- 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認

## 履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

よくわかる医療業界最新第2版

著者: 川越満、布施泰男

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2016

ISBN: 9.78453E+12

安倍政権の医療・介護戦略を問う

著者: 芝田英昭編

出版社: あけび書房

出版年: 2014

ISBN: 9.78487E+12

地域包括ケアと地域医療連携

著者: 二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2015

ISBN: 9.78433E+12

社会保障の公私ミックス再論

著者： 松田亮三・鎮目真人編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2015

ISBN: 9.78462E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 25 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 サプライ・チェーン・マネジメント&lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平尾 毅	

テーマ

ロジスティクスの基礎理論と実践を学習する。

授業の到達目標

生産・販売拠点のグローバル化に伴い、サプライチェーンの再構築が注目される中、ロジスティクスの基礎を理解できる。現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の獲得が期待される。

授業の概要

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの基礎を理解した上で、表計算ソフトウェアを用いて実践的な学習を行います。まず、実際の企業で行われている成功事例を通してロジスティクス論の基礎を理解します。その上で、表計算ソフトウェア(エクセル)を用いて実践的な学習を行います。就職後の現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の修得が期待されます。

準備学習(予習・復習)

復習として配布資料を自筆ノートにまとめてください(1時間程度)。

内 容

- 第1回 経営環境の変化とサプライチェーン・マネジメント(サプライチェーン・マネジメントの必要性を学ぶ)
- 第2回 サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの概要(ロジスティクスと比較しながら、サプライチェーン・マネジメントの理解を深める)
- 第3回 サプライチェーン・マネジメントの事例(サプライチェーン・マネジメントの成功事例から、そのエッセンスを学ぶ)
- 第4回 サプライチェーンのオペレーション①(サプライチェーン・マネジメントの実現を困難にしている要因を学ぶ)
- 第5回 サプライチェーンのオペレーション②(典型的なサプライチェーン・マネジメントの戦略を学ぶ)
- 第6回 需給管理(需要と供給を一致させるために考慮すべき事項を学ぶ)
- 第7回 在庫管理(在庫管理の目的と方法について学ぶ)
- 第8回 生産管理(生産計画と工程管理の概要を学ぶ)
- 第9回 調達管理(調達管理の課題とその解決策について学ぶ)
- 第10回 グローバル・サプライチェーン・マネジメント(グローバル・サプライチェーンの仕組みを構築するポイントを学ぶ)
- 第11回 PC演習: 需要予測①(変数減少法)
- 第12回 PC演習: 需要予測②(数量化1類)
- 第13回 PC演習: 在庫管理(経済的発注量)
- 第14回 PC演習: 生産管理(線形計画法)
- 第15回 PC演習問題

履修上の注意点

第11回授業からパソコン教室でPCを使った演習を行います。授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。

教科書

使用しない。毎回の授業で配布する資料をテキストの代用とする。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

サプライチェーン経営入門

著者: 藤野直明

出版社: 日経文庫

出版年: 1999年

ISBN: 978-4532107925

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクス管理入門

著者: 藤川裕晃

出版社: 日刊工業新聞社

出版年: 2008年

ISBN: 978-4526061325

改訂版サプライチェーンマネジメントの理論と実践

著者： EYアドバイザー

出版社： 幻冬舎

出版年： 2014年

ISBN： 978-4344971332

戦略的サプライチェーンマネジメント：競争優位を生み出す5つの原則

著者： S.コーエン・J.ルーセル

出版社： 英治出版

出版年： 2015年

ISBN： 978-4862761996

---

成績評価

試験・レポート（70%）

小テスト（0%）

授業中課題（15%）

授業中発表等（0%）

参加度（15%）

---

## 2017 Syllabus

科目名 インターンシップ(現ビ) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 籠田 彰宏	

テーマ

「自立」「共生」「臨床の知」を土台として、将来社会に出ることをクリアに意識させ、学習意欲を高めるきっかけとする。単位認定型ISの受講を前提としたプレ科目と位置付ける。

授業の到達目標

次年度に参加するインターンシップ時に必要な力をグループワークやロールプレイング、ゲームなどを通して養う。・社会に出たときに必須となるコミュニケーション能力の向上・インターンシップ参加時の履歴書、ESについて考える。・かっているようで、わかっていなかった自分の探求を通して自己の将来像を形作る。

授業の概要

授業計画に沿って、社会人基礎力を学び、インターンシップ事前演習を実践していく。そのために、本講義は1, 2回生推奨の講座であり、履修希望者の定員は50名とする。講義内で、受講者全員がポートフォリオを作成し、一方的ではなくツウエイでの講義を目指す。また、IS報告会の運営スタッフを受講者の中から選出し、課外での活動をメインにIS報告会の準備を行う。その他の課外活動として、フィールドワークや社会見学を実施したり、外部講師を招聘し、講演を行う場合もある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 【9/21(木)】 概要説明、ガイダンス
- 第2回 【9/28(木)】 アイスブレイク(自己紹介など、アイスブレイク用グループワーク)
- 第3回 【10/5(木)】 IS報告会の運営に向けて
- 第4回 【10/12(木)】 自己分析(特別プログラムで自己の客観視をはかる)
- 第5回 【10/19(木)】 レクチャ(インターンシップ、働くとは)
- 第6回 【10/26(木)】 ゲストスピーカーによる講演(企業について)
- 第7回 【11/2(木)】 履歴書 エントリーシートについて(IS参加の動機などを掘り下げる)
- 第8回 【11/7(火)】 IS報告会での運営の報告、体験談についての感想をシェア
- 第9回 【11/16(木)】 スキルアッププログラム(コミュニケーション)
- 第10回 【11/30(木)】 スキルアッププログラム(ロジカルシンキング)
- 第11回 【12/7(木)】 ロールプレイング(挨拶・電話対応・名刺交換・その他)実際の場面を想定して接遇対応などを準備
- 第12回 【12/14(木)】 ロールプレイング(挨拶・電話対応・名刺交換・その他)実際の場面を想定して接遇対応などを準備
- 第13回 【12/21(木)】 インターンシップフォーマット作成(専用プログラムにより、インターンシップのプラスイメージを作成)
- 第14回 【1/11(木)】 インターンシップフォーマット完成(実際の体験談を聞き、より具体的な内容に洗練する)
- 第15回 【1/18(木)】 試験

履修上の注意点

授業で出した課題の提出

教科書

クリティカル・シンキング

著者: 樋口 裕一

出版社: 学研教育出版

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 インターンシップ(現ビ) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 笹田 彰宏	

テーマ

「自立」「共生」「臨床の知」を土台として、将来社会に出ることをクリアに意識させ、学習意欲を高めるきっかけとする。単位認定型ISの受講を前提としたプレ科目と位置付ける。

授業の到達目標

次年度に参加するインターンシップ時に必要な力をグループワークやロールプレイング、ゲームなどを通して養う。・社会に出たときに必須となるコミュニケーション能力の向上・インターンシップ参加時の履歴書、ESについて考える。・かっているようで、わかっていなかった自分の探求を通して自己の将来像を形作る。

授業の概要

授業計画に沿って、社会人基礎力を学び、インターンシップ事前演習を実践していく。そのために、本講義は1, 2回生推奨の講座であり、履修希望者の定員は50名とする。講義内で、受講者全員がポートフォリオを作成し、一方的ではなくツウエイでの講義を目指す。また、IS報告会の運営スタッフを受講者の中から選出し、課外での活動をメインにIS報告会の準備を行う。その他の課外活動として、フィールドワークや社会見学を実施したり、外部講師を招聘し、講演を行う場合もある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 【9/21(木)】 概要説明、ガイダンス
- 第2回 【9/28(木)】 アイスブレイク(自己紹介など、アイスブレイク用グループワーク)
- 第3回 【10/5(木)】 IS報告会の運営に向けて
- 第4回 【10/12(木)】 自己分析(特別プログラムで自己の客観視をはかる)
- 第5回 【10/19(木)】 レクチャ(インターンシップ、働くとは)
- 第6回 【10/26(木)】 ゲストスピーカーによる講演(企業について)
- 第7回 【11/2(木)】 履歴書 エントリーシートについて(IS参加の動機などを掘り下げる)
- 第8回 【11/7(火)】 IS報告会での運営の報告、体験談についての感想をシェア
- 第9回 【11/16(木)】 スキルアッププログラム(コミュニケーション)
- 第10回 【11/30(木)】 スキルアッププログラム(ロジカルシンキング)
- 第11回 【12/7(木)】 ロールプレイング(挨拶・電話対応・名刺交換・その他)実際の場面を想定して接遇対応などを準備
- 第12回 【12/14(木)】 ロールプレイング(挨拶・電話対応・名刺交換・その他)実際の場面を想定して接遇対応などを準備
- 第13回 【12/21(木)】 インターンシップフォーマット作成(専用プログラムにより、インターンシップのプラスイメージを作成)
- 第14回 【1/11(木)】 インターンシップフォーマット完成(実際の体験談を聞き、より具体的な内容に洗練する)
- 第15回 【1/18(木)】 試験

履修上の注意点

授業で出した課題の提出

教科書

クリティカル・シンキング

著者: 樋口 裕一

出版社: 学研教育出版

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 マーケティングリサーチ &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	今井 まりな	
テーマ	マーケティング・リサーチを実践する。	
授業の到達目標	マーケティング・リサーチの意義やそのプロセスを理解する。よく用いられる分析手法や解釈の仕方などに関する基礎的なスキルを習得する。	
授業の概要	まず、マーケティング・リサーチの意義と概要、および各プロセスについて説明する。その上で、データを分析するために必要な手法について説明し、実際に履修者に分析を行ってもらう。	
準備学習(予習・復習)	統計学に関する基礎的な文献に目を通しておくと、授業の内容がより理解しやすくなる。	
内 容	第1回 マーケティング・リサーチの概要 第2回 マーケティング・リサーチのプロセス 第3回 SPSS入門① 第4回 SPSS入門② 第5回 相関分析の考え方 第6回 相関分析の実施 第7回 因子分析の考え方 第8回 因子分析の実施 第9回 回帰分析の考え方 第10回 回帰分析の実施 第11回 分散分析の考え方 第12回 分散分析の実施 第13回 調査データを用いた分析① 第14回 調査データを用いた分析② 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書	1からのマーケティング分析 著者： 恩蔵直人・富田健司 出版社： 碩学舎 出版年： 2011 ISBN: 978-4502683602	
参考書	社会調査法入門 著者： 盛山和夫 出版社： 有斐閣 出版年： 2004 ISBN: 978-4641183056	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 60 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **マーケティングリサーチ <b>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 今井 まりな	
テーマ マーケティング・リサーチを実践する。	
授業の到達目標 マーケティング・リサーチの意義やそのプロセスを理解する。よく用いられる分析手法や解釈の仕方などに関する基礎的なスキルを習得する。	
授業の概要 まず、マーケティング・リサーチの意義と概要、および各プロセスについて説明する。その上で、データを分析するために必要な手法について説明し、実際に履修者に分析を行ってもらう。	
準備学習(予習・復習) 統計学に関する基礎的な文献に目を通しておくと、授業の内容がより理解しやすくなる。	
内 容 第1回 マーケティング・リサーチの概要 第2回 マーケティング・リサーチのプロセス 第3回 SPSS入門① 第4回 SPSS入門② 第5回 相関分析の考え方 第6回 相関分析の実施 第7回 因子分析の考え方 第8回 因子分析の実施 第9回 回帰分析の考え方 第10回 回帰分析の実施 第11回 分散分析の考え方 第12回 分散分析の実施 第13回 調査データを用いた分析① 第14回 調査データを用いた分析② 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 1からのマーケティング分析 著者： 恩蔵直人・富田健司 出版社： 碩学舎 出版年： 2011 ISBN: 978-4502683602	
参考書 社会調査法入門 著者： 盛山和夫 出版社： 有斐閣 出版年： 2004 ISBN: 978-4641183056	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 60 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 文化経済論 &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 金武 創	
テーマ	・文化と経済との関係から、公共政策の理解を深める・生活の豊かさと個人の自立について考える
授業の到達目標	・文化的な活動が経済によって支えられていることを理解する・現在の経済活動が文化的な活動無しに成立し得ないことを理解する・経済学的な視点からものを見ることができるようになる
授業の概要	・文化と経済の関係を理解し、文化経済学の基礎を身につける
準備学習(予習・復習)	・新聞、経済週刊誌を読むこと。特に日経流通新聞(キャリアセンターに所蔵)は就職活動にも役立ちます。
内 容	<p>第1回 イントロダクション:なぜ文化経済学を勉強するのか?</p> <p>第2回 文化と経済との関係:経済学とはどんな学問か?</p> <p>第3回 芸術と経済のジレンマ:実演芸術は商売にならない。</p> <p>第4回 「コスト病」の考え方:実演芸術と共通の性質を持つ産業をさがしてみよう。</p> <p>第5回 芸術作品の価格とオークション:芸術作品の値段はどのように決まるのか?</p> <p>第6回 芸術作品の価格と価値:「高い」芸術作品は「よい」芸術作品か?</p> <p>第7回 資産としての芸術作品:将来値上がりする芸術作品とは?</p> <p>第8回 芸術文化の消費行動:蓼食う虫も好き好き?</p> <p>第9回 スローライフの経済学:時間をフルに活用するということ。</p> <p>第10回 創造的生産者としての芸術家:金儲けだけが仕事ではない。</p> <p>第11回 文化と非営利組織の役割:文化施設は誰が運営すべきか</p> <p>第12回 文化と情報の経済学:情報は誰のものか?</p> <p>第13回 著作権の経済学:追求権は芸術家の味方になるか?</p> <p>第14回 芸術文化の公的支援:経済的支援と表現の自由のジレンマ。</p> <p>第15回 アームズ・レングスの原則:芸術支援政策とは? *なお、学外講師を招いた特別授業を実地することもある</p>
履修上の注意点	日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。
教科書	<p>文化経済論</p> <p>著者: 金武創・阪本崇</p> <p>出版社: ミネルヴァ書房</p> <p>出版年: 2005 ISBN:</p>
参考書	<p>必要に応じて紹介する</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( 40 )</p> <p>授業中課題 ( 60 ) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p>

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命特別実習 &lt;Za&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

海外先進地の救急体制の視察

授業の到達目標

海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。

授業の概要

海外実習

準備学習(予習・復習)

事前学習では、日本の消防組織の仕組みと活動を理解し、相互の共通点や相違点を明らかにできるようにしておくこと。

内 容

- 第1回 事前学習及びガイダンス
- 第2回 海外視察
- 第3回 海外視察
- 第4回 海外視察
- 第5回 海外視察
- 第6回 海外視察
- 第7回 海外視察
- 第8回 事後報告会

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(20)

授業中発表等(20)

参加度(60)



## 2017 Syllabus

科目名 救急救命特別実習 &lt;Zb&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

海外先進地の救急体制の視察

授業の到達目標

海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。

授業の概要

海外実習

準備学習(予習・復習)

事前学習では、日本の消防組織の仕組みと活動を理解し、相互の共通点や相違点を明らかにできるようにしておくこと。

内 容

- 第1回 事前学習及びガイダンス
- 第2回 海外視察
- 第3回 海外視察
- 第4回 海外視察
- 第5回 海外視察
- 第6回 海外視察
- 第7回 海外視察
- 第8回 事後報告会

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(20)

授業中発表等(20)

参加度(60)

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命特別実習 &lt;Zc&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

水難救助実習(海)

授業の到達目標

1回生時のプール実習の特殊な救急活動に対する理解を深めた知識、技術を自然の中の水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、海に対する安全法と海の危険・生物、潮の流れ等を理解し資器材を使用しての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

水難事故に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から高度なものまでを実践する。

準備学習(予習・復習)

1回生時のプール実習の基本的な手技・知識を実際の自然の海で実践するため、水難救助マニュアルの熟読復習が必須

内 容

第1回 移動、オリエンテーション・講義(夜)

第2回 開校式、浜清掃、潮汐、パディシステム、シグナル、泳力確認、セルフレスキュー、PFD実習、搬送法、講義(夜)

第3回 潮汐、着衣泳、着衣泳のセルフレスキュー、シュノーケリング、シーカヤック、講義(夜)

第4回 潮汐、遠泳、チューブレスキュー、ボードレスキュー、スパイナルケア、歴史を学ぶ、講義(夜)

第5回 潮汐、総合訓練、浜清掃、閉講式、移動

履修上の注意点

学外実習となるため時刻の厳守、社会人としての行動を期待する。体調管理は十分にしておくこと。担当教員の指示に従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル

著者: 国士舘大学ウエルネスリサーチセンター

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(30)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(20)

参加度(50)

実習中の参加度を重視する

## 2017 Syllabus

## 科目名 現代企業論Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松石 泰彦	
テーマ	現代企業の形態・システム・社会的責任について、それらの特色や課題をケーススタディを通じて学ぶ。
授業の到達目標	・企業や組織のマネジメントへの理解を通じて、社会人としての協働・コミュニケーション能力を養うこと。・近くその中に出て行くことになる日本の経済社会、企業や組織に対する見識を深めること。・歴史を単なる過去に対する知識にとらえず、現在の問題の源流ととらえ、未来を展望する大きな動きや構造の中でのものごとを思考できるようになること。
授業の概要	現代企業はそれらを取り巻く環境・市場・産業社会との間で、常に相互に影響を与え合いながら展開してきました。この講義では、各産業において活躍する日本企業の生成・発展の過程を具体的な経営実践事例を見ながら学び、それらを通して企業が外部環境にどう対応し、どう働きかけていくのかを考えます。
準備学習(予習・復習)	受講者数にもよりますが、学生にも作業や発言をしてもらう形を考えています。
内 容	<p>第1回 ガイダンス この講義の対象領域と進め方</p> <p>第2回 日本の企業社会をめぐる論点</p> <p>第3回 近代企業の成立 渋沢栄一を中心に</p> <p>第4回 在来産業の革新 グンゼと東レを中心に</p> <p>第5回 大企業時代の到来と経営家族主義 武藤山治を中心に</p> <p>第6回 大衆消費社会の企業 松下電器を中心に</p> <p>第7回 町工場から国際企業へ ソニーを中心に</p> <p>第8回 日本型生産システム トヨタシステムを中心に</p> <p>第9回 企業集団とメインバンク 三井系・三菱系を中心に</p> <p>第10回 流通革命の展開 スーパーとコンビニを中心に</p> <p>第11回 新サービス産業の開拓 ヤマト運輸を中心に</p> <p>第12回 ベンチャー企業からの躍進 京セラを中心に</p> <p>第13回 リストラクチャリングと企業文化 アサヒビールを中心に</p> <p>第14回 インターネットとモバイル 通信キャリアを中心に</p> <p>第15回 総括 ～日本企業の足跡と未来</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	<p>企業家に学ぶ日本経営史</p> <p>著者： 宇田川勝他</p> <p>出版社： 有斐閣ブックス</p> <p>出版年： 2011 ISBN:</p> <p>入門 企業と社会</p> <p>著者： 佐々木利廣他</p> <p>出版社： 中央経済社</p> <p>出版年： 2015 ISBN:</p>
成績評価	<p>試験・レポート (40)</p> <p>授業中課題 (10)</p> <p>参加度 (10)</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 (40)</p>

## 2017 Syllabus

科目名 現代企業と法Ⅱ

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 山田 廣己

テーマ

企業の責任(社会的責任と法的責任)および企業と従業員との法律関係

授業の到達目標

企業の責任(社会的責任と法的責任)と企業と従業員と関係(雇用契約・労働契約関係)の基礎を習得する。

授業の概要

現在の企業は、グローバル化によって国境を越えて活動し、世界の企業間で競争を行われている。規模の大小を問わず活動する企業は法令遵守((コンプライアンス(compliance))が求められる。企業の組織・活動に関する法令違反に対しては、様々な制裁(契約の無効・取消し、損害賠償、刑罰など)が用意されている。これは法的な意味の「企業の責任」である。この責任は、会社、役員、株主、会社の取引相手との間で問題とされる。一方で、倫理的な責任として「企業の社会的責任(corporate social responsibility=CSR)」が注目され、企業は消費者や地域社会に対してどのように対処すべきかが問われる。株式会社と取締役等との関係は「委任関係」であるが、会社と従業員との関係は、雇用契約労働契約関係である。この科目では、企業と法の観点から、株主だけでなく、労働者、消費者、地域社会など、企業がさまざまな利害関係者に対して負っている責任について学習する。

準備学習(予習・復習)

予習としては、事前に配布する講義レジュメに目を通して頂くことを求めます。講義に参加して、レジュメの内容・講義の中身を理解するように努めてください。質問があったら、講義後に教壇に聞きに来てください。

内 容

- 第1回 企業の法的責任(総論)
- 第2回 企業が負担する民事責任(契約上の責任;債務不履行責任、瑕疵担保責任など)
- 第3回 企業が負担する不法行為責任
- 第4回 経営者の会社に対する責任・第三者に対する責任
- 第5回 企業の刑事責任
- 第6回 企業の社会的責任(corporate social responsibility、略称:CSR)(総論)
- 第7回 社会に対する責任や貢献(社会的公正性の確保や環境対策の実施など)
- 第8回 経営戦略としての社会的責任
- 第9回 コストの削減・技術革新・企業イメージの向上を通じたブランド価値の向上
- 第10回 日本の社会的責任論と国際的な社会的責任論
- 第11回 企業と従業員との関係(総論)
- 第12回 雇用契約関係としての法規制
- 第13回 労働契約関係としての法規制
- 第14回 市民法と社会法・労働法の理念と体系
- 第15回 労働保護法・労働団体法
- 第16回 理解確認のための小テスト

履修上の注意点

講義時に講義概要を記したレジュメを配布します。必ず受け取って講義時には持参してください。

教科書

配布する講義レジュメ

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

携帯用法令集

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

出席状況を勘案しつつ、提出レポート、小テストの結果から判定する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 医療管理論Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 昌浩・藤野 美幸

テーマ

授業の到達目標

Iに引き続き、医療の仕組み・病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのような役割をはたすことができるかを習得する。

授業の概要

Iに引き続き、医療の仕組みと病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのようなことを果たすことができるかを習得する。この授業により、日本における病院の医療管理や経営管理等について、さらに理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 安全管理
- 第2回 医療の質管理
- 第3回 医療の質管理
- 第4回 診療報酬制度1
- 第5回 診療報酬制度2
- 第6回 わが国の診断群分類1
- 第7回 わが国の診断群分類2
- 第8回 わが国の診断群分類3
- 第9回 わが国の診断群分類4
- 第10回 診療情報管理における診療報酬請求のデータ活用1
- 第11回 診療情報管理における診療報酬請求のデータ活用2
- 第12回 診療情報管理における診療報酬請求のデータ活用3
- 第13回 病院の統計資料
- 第14回 経営管理指標
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(90)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(0)

参加度(10)

授業は、最低12回出席してください。

## 2017 Syllabus

科目名 医療情報学

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

医療情報の基礎を学ぶ

授業の到達目標

医療情報の重要性を認識するとともに、ICT活用に関する基礎的知識を修得する。

授業の概要

情報通信技術(ICT)の発展は、電子カルテの導入をはじめ、医療現場に大きな変革をもたらしている。この授業では、コンピュータやネットワークの基礎的知識、医療情報と医療情報システム、情報セキュリティと個人情報保護などについて学び、ICTを活用した医療情報システムの発展が医療の質の向上に果たしている役割を理解する。

準備学習(予習・復習)

医療の世界は日進月歩です。日頃から「医療」に関する新聞記事等に関心を持ち、日々研鑽に励んでください。

内 容

- 第1回 医療情報学 ガイダンス
- 第2回 医療情報学とは
- 第3回 情報通信技術(ICT)の基礎1
- 第4回 情報通信技術(ICT)の基礎2
- 第5回 医療情報の特徴と種類
- 第6回 行政が進める医療の情報化政策
- 第7回 医療情報システム1
- 第8回 医療情報システム2
- 第9回 医療情報システム3
- 第10回 医療情報システム4
- 第11回 医療情報の標準化1
- 第12回 医療情報の標準化2
- 第13回 情報セキュリティ1
- 第14回 情報セキュリティ2
- 第15回 医療情報学のまとめ ※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

テキストの購入については、第1回授業で説明します。それまでは購入しないようにしてください。

教科書

診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第7版

著者:

出版社: 日本病院会

出版年: 2016.7

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

## 科目名 診療情報管理論 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 尾関 美智子	
テーマ 診療情報管理の基礎を学ぶ	
授業の到達目標 診療情報の意義と診療情報に関する法規などを理解する。	
授業の概要 授業ではまず、診療情報管理とは何か、診療情報管理と診療情報管理士の関わり、医療機関において診療情報管理士が担う役割など、診療情報管理と診療情報管理士について理解を深める。また、診療情報管理業務を行う上で必要なコンプライアンス(法令遵守)について、診療情報管理士に必要とされる診療記録および診療情報に関わる法規などを学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 医療の世界は日進月歩です。日頃から「医療」に関する新聞記事等に目を通し、日々研鑽に励んでください。	
内 容 第1回 診療情報管理論 I ガイダンス 第2回 診療情報管理士の教育・資格制度、診療情報管理士の役割 第3回 診療に関する情報 診療情報の定義及び意義、価値の理解 第4回 診療情報管理の背景1 診療記録のルーツ 第5回 診療情報管理の背景2 米国と日本の病院における診療情報管理 第6回 診療情報管理と法規1 診療記録の記載と保存及び提示に関する法規、医療事故に伴う法的責任 第7回 診療情報管理と法規2 診療録等の電子化に関する法規、診療情報の守秘に関する法規 第8回 診療情報管理と法規3 個人情報の保護に関する法規① 第9回 診療情報管理と法規4 個人情報の保護に関する法規② 第10回 診療情報管理部門のあり方1 組織上の位置づけ 第11回 診療情報管理部門のあり方2 診療情報管理委員会 第12回 診療情報管理部門のあり方3 診療記録管理規程 第13回 診療情報管理部門のあり方4 診療情報管理室の構成・運用 第14回 診療記録の電子化への対応 第15回 診療情報管理 I のまとめ	
履修上の注意点 テキストについては、第1回の授業で説明します。それまでは購入しないようにしてください。	
教科書 診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第7版 著者： 出版社：日本病院会 出版年：2016.7 ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート（60） 授業中課題（10） 参加度（30）	小テスト（0） 授業中発表等（0）



## 2017 Syllabus

## 科目名 診療情報管理論Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 尾関 美智子	
テーマ 診療情報管理の実務を学ぶ	
授業の到達目標 診療情報の保管管理、点検・活用・提供などの診療情報管理士の役割を理解する。	
授業の概要 診療情報管理士が担う業務は、病院の規模や配属される部門により異なることも多いが、この授業では、診療情報管理を円滑に行うために必要な、基本的な業務内容と実務を理解する。具体的には、診療記録の保管・管理、診療記録の回収と内容の点検、診療情報の活用、診療情報の提供、診療記録の記載方法と種類について学んでいく。	
準備学習(予習・復習) 医療の世界は日進月歩です。日頃から「医療」に関する新聞記事等に目を通し、日々研鑽に励んでください。	
内 容 第1回 診療情報管理論Ⅱ ガイダンス 第2回 診療記録の保管管理1 ナンバリング(番号法)とファイリング(保管法) 第3回 診療記録の保管管理2 診療記録の保存期間と保存方法、診療記録の管理方法 第4回 診療記録の保管管理3 診療記録の貸出管理 第5回 診療記録の保管管理4 個人情報保護の視点からの保管管理 第6回 診療記録の保管管理5 電子カルテシステムでの保管管理 第7回 診療情報の点検1 診療記録の回収と点検 第8回 診療情報の点検2 電子カルテシステムでの点検、製本 第9回 診療情報の点検3 ICDによる傷病名コーディングと情報の登録 第10回 診療情報の点検4 診療記録の監査(audit) 第11回 診療情報の活用 病院管理の視点、医療の質評価の視点、電子カルテでの情報活用 第12回 診療情報の提供 第13回 診療記録の記載方法と種類1 診療記録の記載方法 第14回 診療記録の記載方法と種類 診療記録で使われる用語、診療記録の種類 第15回 診療情報管理Ⅱのまとめ ※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。	
履修上の注意点 テキストについては第1回授業時に説明しますので、それまでは購入しないようにしてください。	
教科書 診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第7版 著者： 出版社：日本病院会 出版年：2016.7 ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート（60） 授業中課題（10） 参加度（30）	小テスト（0） 授業中発表等（0）

## 2017 Syllabus

## 科目名 財務会計論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 会計規範と会計機構	
授業の到達目標 制度会計の意義と本質を理解する	
授業の概要 テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある	
準備学習(予習・復習) 復習を必ず行ってから、次の時間の講義へ臨んでもらいたい。	
内 容 第1回 ガイダンス 会計機構とマネジメントの仕組み 第2回 財務会計の意義 第3回 財務会計と管理会計 第4回 会計と法規 第5回 損益計算論1 第6回 損益計算論2 第7回 損益計算論3 第8回 貸借対照表論1 第9回 貸借対照表論2 第10回 貸借対照表論3 第11回 財務諸表一般論1 第12回 財務諸表一般論2 第13回 財務会計から管理会計へ1 第14回 財務会計から管理会計へ2 第15回 講義全体のまとめ	
履修上の注意点 私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって、これ以上の迷惑はありません。	
教科書 日本型/世界に広がる超やさしい財務会計 著者: 金児 昭 出版社: 税務経理協会 出版年: 2011 ISBN: 9.78442E+12	
参考書 グロービスMBAアカウンティング 著者: グロービス経営大学院 出版社: ダイヤモンド社 出版年: ISBN:	
最新財務諸表論 著者: 武田隆二 出版社: 中央経済社 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (40) 小テスト (10) 授業中課題 (10) 授業中発表等 ( ) 参加度 (40)	

## 2017 Syllabus

科目名 **組織と仕事の経済学**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 阪本 崇	
テーマ 経済学の視点から、組織と仕事を分析する	
授業の到達目標 1)組織の経済学の基本的な考え方を理解する 2)人的資本理論を中心に労働経済学の基本的な考え方を理解する	
授業の概要 入門的な経済学では、経済の中で活動する個人や組織はブラックボックスとして捉えられ、その内実や行動が詳細に分析することはない。この授業では、そうした個人と組織について経済学はいかにして分析を行うことが可能なのか焦点を当てる。	
準備学習(予習・復習) Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。	
内 容 第1回 教科書的な経済学が描く世界:労働市場のメカニズム 第2回 労働需要と労働供給(1):余暇と労働の選択 第3回 労働需要と労働供給(2):家計生産モデルと家庭内分業 第4回 労働需要と労働供給(3):芸術家・クリエイターの働き方 第5回 労働需要と労働供給(4):要素需要としての労働需要 第6回 労働需要と労働供給(5):労働需要とシグナリング・モデル 第7回 仕事とキャリア(1):長期雇用と賃金カーブ 第8回 仕事とキャリア(2):内部労働市場とOJT 第9回 人的資本の理論(1):資本としての人間の能力 第10回 人的資本の理論(2):割引現在価値と内部収益率 第11回 人的資本の理論(3):特殊訓練と一般訓練 第12回 組織の経済理論(1):組織の存在理由と取引費用 第13回 組織の経済理論(2):インセンティブの設計理論 第14回 組織の経済理論(3):ヒエラルキーと権限配分 第15回 まとめ	
履修上の注意点 積み上げ式の授業であるので、欠席、遅刻の無いようにすること。	
教科書 指定しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業中に関連文献を紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 60 ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 **金融論(経営)**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

金融仲介や金融市場の経済社会における役割

授業の到達目標

金融仲介機関や金融市場が経済の中で果たしている役割を理解し、一国経済やグローバル経済の中での金融の機能について正しく説明できる力を身に付ける。

授業の概要

「経済の血液」とも呼ばれる金融は、グローバル化、ストック化の進んだ現代社会において、ますます重要なものとなりつつある。この科目では、金融論の基本について学習する。具体的には、金融市場と金融仲介機関の役割、貨幣の機能と貨幣需要の動機、貨幣供給と中央銀行の役割、国際通貨制度と為替レート決定のメカニズムなどについて学習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 インTRODクシヨンー金融を学ぶ意義
- 第2回 金融仲介とは何か
- 第3回 金融仲介機関の種類
- 第4回 間接金融と銀行の機能
- 第5回 直接金融と資本市場の機能
- 第6回 金融制度:セーフティ・ネットと健全性規制
- 第7回 中間のまとめ
- 第8回 貨幣とは何か
- 第9回 貨幣の需要と供給
- 第10回 物価と貨幣価値
- 第11回 中央銀行と金融政策
- 第12回 国際収支のメカニズム
- 第13回 為替相場の決定要因
- 第14回 金融危機はなぜ起こるか
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 80% )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20% )

## 2017 Syllabus

科目名 産業論 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 秀和	
テーマ	
初期産業化社会の誕生から産業が成長・成熟していく過程を考察しつつ、現在の産業構造を読み解いていきます。	
<b>授業の到達目標</b> 産業構造の在り方は、わたしたちの日常の生活環境に深く結びついています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量がその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造の変化、すなわち生活インフラの変遷に注目しつつ、現時点までの産業と生活の変化を読み解いていこうと思います。	
<b>授業の概要</b> この授業では、産業社会をとらえる枠組みを提示しながら、高度経済成長期から今日までの日本の産業構造の変遷を考察し、大衆社会の形成と成熟した産業社会における大衆意識も読み解いていきます。さらに、これらを踏まえて、高度情報社会を背景としてグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をみなさんと考えていきたいと思っています。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらったアクション・ペーパーを毎回提出してもらい、質疑に関する回答を次の授業冒頭に行いたいと思います。	
<b>準備学習(予習・復習)</b> 授業後は、講義で紹介した内容の社会現象に注視してください。	
<b>内 容</b> 第1回 イントロダクション 第2回 産業構造と生活構造 第3回 フォードシステムの導入と生活構造の変化 第4回 メディアの発達と大衆社会の進展 第5回 産業商品の普及と平等化意識の浸透 第6回 労使協調主義経済と世界経済の趨勢 第7回 産業社会の成熟と高度大衆化社会 第8回 産業構造と生活構造の転換期 第9回 消費社会の到来と個性化社会の到来 第10回 バブル経済と消費社会(不夜城社会の経験) 第11回 高度情報化社会と産業構造の変貌 第12回 グローバル社会における産業と生活の変容 第13回 もう一つの社会変化ーモノ社会からイメージの社会へー 第14回 クールジャパン戦略と成長産業の課題 第15回 産業構造と生活構造の今後の課題	
<b>履修上の注意点</b> 授業内容は積み上げ式となっています。授業終了時には、毎回コミュニケーション・ペーパーへの記入と提出を求めています。また、このペーパーの記入内容および受講態度は評価対象となっています。やむをえないと考えられる欠席以外はないように心がけてください。	
<b>教科書</b> 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
<b>成績評価</b> 試験・レポート (50) 小テスト (20) 授業中課題 (15) 授業中発表等 ( ) 参加度 (15) 試験50については、レポート課題とします。	

## 2017 Syllabus

科目名 産業論Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ ヘルスケア産業論	
授業の到達目標 先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。	
授業の概要 ヘルスケア産業の全体像と構造、各産業部門と関連産業の現状等について、主として講義形式で授業を行う。	
準備学習(予習・復習) 受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 ヘルスケア産業総論(産業の全体像と現状) 第3回 ヘルスケア産業総論(ヘルスケアの労働市場) 第4回 医療・介護制度とその改革① 第5回 医療・介護制度とその改革② 第6回 医療・介護経営の動向① 第7回 医療・介護経営の動向② 第8回 中間まとめと理解度の確認 第9回 医療関連産業①(医薬品製造・流通業) 第10回 医療関連産業②(医薬品製造・流通業) 第11回 医療関連産業③(医療機器製造・流通業) 第12回 医療関連サービス業① 第13回 医療関連サービス業② 第14回 ヘルスケア産業の将来 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認	
履修上の注意点 病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。	

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

よくわかる医療業界最新第2版

著者: 川越満、布施泰男

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2016

ISBN: 9.78453E+12

安倍政権の医療・介護戦略を問う

著者: 芝田英昭編

出版社: あけび書房

出版年: 2014

ISBN: 9.78487E+12

地域包括ケアと地域医療連携

著者: 二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2015

ISBN: 9.78433E+12

社会保障の公私ミックス再論

著者： 松田亮三・鎮目真人編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2015

ISBN: 9.78462E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 25 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **財政学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

財政の制度と理論

授業の到達目標

財政学の基本的な概念と考え方を学び、中央および地方の政府の活動を経済的な側面から理解できるようになる。

授業の概要

財政は国・地方公共団体がその目的を達成するために行う経済活動であり、そこでは民間の経済活動とはさまざまな側面で異なる原理がはたしている。この授業では、まず、民主主義社会における財政のコントロールのあり方について学んだ上で、歳出と歳入の両面、すなわち経費、および租税と公債について学習する。また、公債とかかわって財政と金融との関連についても触れる。最後に、この授業で学んだ概念や考え方を応用してこれからの日本財政はどうあるべきかについて考える。とくに、グローバル化のなかで各国の財政がどのような影響を受け、それにどのように対応してゆくべきかについて考える。

準備学習(予習・復習)

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終わっておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもつとも重要な予習となります。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 財政とはなにか
- 第2回 財政のコントロール手段としての予算
- 第3回 財政民主主義と公共選択理論
- 第4回 現代の公共部門の役割と経費
- 第5回 公共投資と財政
- 第6回 社会保障と財政
- 第7回 環境、文化と財政
- 第8回 租税の基礎理論と租税原則
- 第9回 所得税と法人税
- 第10回 消費課税と資産課税
- 第11回 政策課税と税制改革
- 第12回 公債発行と財政政策
- 第13回 財政と金融システム
- 第14回 到達度の確認: これからの財政について考える
- 第15回 総復習: グローバル化と財政の未来

履修上の注意点

教科書

テキストブック現代財政学(有斐閣ブックス)

著者: 植田 和弘・諸富 徹(編)

出版社: 有斐閣

出版年: 2016

ISBN: 4641184321

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 公共政策論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 金武 創	
テーマ 公共政策の規範的理解	
授業の到達目標 よりよい公共政策を考える基礎学力を習得し、政治社会が直面する公共的な諸問題への政策的対応を理解する力を身につける。	
授業の概要 民主主義の下での公共政策はどうあるべきか。この授業では、はじめに、公共政策の作成・実施のプロセスを理解するために、授業の前半部では公共政策のよしあしを判断するための価値基準、すなわち公共政策規範を学んでいく。その際、政策の実現可能性や実現にかかるコストへの配慮に留意しつつ、時事問題などを紹介しながら公共政策規範の理解に努める。授業の後半では、個別の政策課題をとりあげて、政策設計のマクロ的指針と優先順位のためのミクロ的分析の両立の難しさを中心に公共政策の形成とその実地について学習する。	
準備学習(予習・復習) 新聞などを活用した継続的な情報収集	
内 容 第1回 [第1部 イン트로ダクション] 公共政策論を学ぶ意義 公共人材に求められる政策知 第2回 [第1部 イン트로ダクション] 公共政策デザインの指針 一般妥当性、実効力、実際の有用性、社会的正当性 第3回 [第2部 公共政策の規範的検討] 公共政策規範とは何か 第4回 [第2部 公共政策の規範的検討] 自由主義アプローチ 第5回 [第2部 公共政策の規範的検討] 自由主義アプローチへの批判 第6回 [第2部 公共政策の規範的検討] 功利主義アプローチ 第7回 [第2部 公共政策の規範的検討] 功利主義アプローチへの批判 第8回 [第2部 公共政策の規範的検討] 本質主義アプローチ 第9回 [第2部 公共政策の規範的検討] 本質主義アプローチへの批判 第10回 [第3部 公共政策の過程とその実施] 環境政策とその課題 グローバル社会、環境負荷とその認識 第11回 [第3部 公共政策の過程とその実施] 産業政策とその課題 衰退産業と成長産業、構造転換と研究開発支援 第12回 [第3部 公共政策の過程とその実施] 福祉政策とその課題 超高齢社会、well-beingと公共政策 第13回 [第3部 公共政策の過程とその実施] 観光政策とその課題 グローバルとローカル、観光公害と伝統文化 第14回 [第3部 公共政策の過程とその実施] 文化政策とその課題 個人に還元されない価値、表現の自由と創造性 第15回 [第3部 公共政策の過程とその実施] 都市と地域の公共政策 まちづくり活動、地域社会への参画 ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。	
履修上の注意点 日常点評価(毎回の課題)が求められます。	
教科書	
参考書 公共政策規範 著者: 佐野 亘 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: ISBN: 公共政策とは何か 著者: 足立幸男 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 30 ) 授業中課題 ( 70 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 毎回の授業中課題を日常点評価とする。	



## 2017 Syllabus

## 科目名 社会問題論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 高原 正興	
テーマ	
授業の到達目標	
私たちの身の回りで起こり、マスメディアで報道される様々な社会問題現象について、社会学的な視点から分析・解釈できる能力を身につける。	
授業の概要	
始めに「社会問題」の概念について学習し、社会諸問題の中から社会学的分析に適うメゾ・ミクロ領域の社会問題現象について、それらの定義・統計・動向・特徴・法的規制・援助の現状などを展開する。また、それらの諸現象を生起させている社会的な原因や背景を社会学理論とマクロな視点から考察して、社会問題を全体的・構造的に理解できるようにする。さらに、マスメディアのあり方についても考えていきたい。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	イントロダクション:「社会問題」概念の定義と方法
第2回	社会学的社会問題論としての「社会病理学」の展開と方法
第3回	逸脱と統制
第4回	社会問題(1)少年非行の定義・統計・特徴
第5回	社会問題(1)少年非行の分析・解釈・援助
第6回	社会問題(2)自殺の定義・統計・特徴
第7回	社会問題(2)自殺の分析・解釈・援助
第8回	社会問題(3)いじめの定義・統計・特徴
第9回	社会問題(3)いじめの分析・解釈・援助
第10回	社会問題(4)児童虐待の定義・統計・特徴
第11回	社会問題(4)児童虐待の分析・解釈・援助
第12回	社会問題(5)ホームレスの定義・統計・特徴
第13回	社会問題(5)ホームレスの分析・解釈・援助
第14回	その他の社会問題とマスメディアの報道
第15回	社会問題の社会的要因と背景の総括
履修上の注意点	
教科書	
関係性の社会病理	
著者: 高原正興・矢島正見	
出版社: 学文社	
出版年: 2016	ISBN: 7620-2633-1
参考書	
社会病理学講座3 病める関係性	
著者: 高原正興他	
出版社: 学文社	
出版年: 2004	ISBN: 7620-1271-8
成績評価	
試験・レポート (50)	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **グローバル経済論**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

経済のグローバル化を学ぶ

授業の到達目標

現代の世界経済・社会の動きを学ぶことを通じて、学生が、この動きに受動的に巻き込まれるのではなく、積極的・主体的に対応するための、確かな認識上の足がかりを得させることが、到達目標である。

授業の概要

経済活動が地球全体にわたって展開されるのは、いまに始まったことではないが、現代は、経済活動が未曾有の規模でグローバルに展開されており、事実上地球上のすべての人間は経済のグローバル化に否応なく関わらざるをえなくなっている。しかも、このような意味の経済のグローバル化は今後もいっそう進むことが予想される。この講義では、とくに現代における経済のグローバル化の諸相とその背景、経済のグローバル化の今後、経済のグローバル化の積極的効果と試練、試練への対応などを検討する。検討は、主として、グローバル経済における日本経済や日本企業の状況や対応などに即して行う。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習、および新聞等でグローバル経済に関する時事問題を読むこと。最低1時間は必要である。

内 容

- 第1回 はじめに ―― 経済のグローバル化を学ぶことがなぜ重要か
- 第2回 グローバル化とアメリカ・モデル
- 第3回 グローバル化と国際経済システム
- 第4回 グローバル化と東アジア
- 第5回 企業のグローバル展開
- 第6回 グローバル化と国際金融危機
- 第7回 中国経済とグローバル化
- 第8回 中国のWTO加盟
- 第9回 東南アジア経済とグローバル化
- 第10回 ブラジル経済とグローバル化
- 第11回 日本経済とグローバル化――国際収支発展段階説に即して
- 第12回 グローバル化の試練への日本の対応
- 第13回 グローバル化の試練への日本企業の対応
- 第14回 21世紀型グローバル化と諸制約
- 第15回 おわりに

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

世界経済とグローバル化

著者： 渋谷博史他

出版社： 学文社

出版年： 最新版

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 70 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 保険論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

保険会社で必要な専門的な知識ではなく、私たちの生活や経済社会の中で必要な保険についての基礎知識を学習します。

授業の到達目標

私たちの生活や経済活動において「リスクとは何か」を正しく理解し、リスクマネージメントの方法や保険の役割について正しく理解することを目標とします。

授業の概要

リスクの基礎概念を学んだ上で、リスクマネージメントおよび保険について学習します。具体的には、リスクの意味、リスクを軽減する諸手段、保険の需要と供給をめぐる理論などを学びます。

準備学習(予習・復習)

生命保険や損害保険のテレビ・コマーシャルなどを見たら、その保険は人間生活のどんな「リスク」に対応しようとしているのか、を考えてみてください。

内 容

- 第1回 リスクとは何かー結果のバラツキとリスク
- 第2回 リスクの実体とリスクの分類
- 第3回 リスクの計測と正規分布
- 第4回 リスクを軽減する方法(1)
- 第5回 リスクを軽減する方法(2)
- 第6回 リスクを軽減する方法(3)
- 第7回 保険の供給(1)収支相等の原則
- 第8回 保険の供給(2)公正保険料
- 第9回 保険の需要
- 第10回 保険における逆選択の問題
- 第11回 保険におけるモラルハザードの問題
- 第12回 保険商品と保険の分類
- 第13回 保険の法制度
- 第14回 保険の業態と契約者保護制度
- 第15回 全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

リスクと保険の基礎理論

著者: 米山高生

出版社: 同文館出版

出版年: 2012年

ISBN: 4495440810

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 80% )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20% )

## 2017 Syllabus

## 科目名 経営情報論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 片岡 裕介	
テーマ	
情報化社会における経営情報の役割と可能性	
授業の到達目標	
情報技術(IT)あるいは情報通信技術(ICT)の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。	
授業の概要	
まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
授業で学習した用語や関連する事例について、授業後に整理するようにしてください。	

## 内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 情報化社会の進展
- 第3回 情報化社会における経営情報
- 第4回 情報技術の基礎
- 第5回 経営情報システムの変遷
- 第6回 経営戦略と情報システム
- 第7回 経営組織と情報システム
- 第8回 システムとネットワーク
- 第9回 ナレッジマネジメント
- 第10回 経営情報と流通(1) 情報化と流通システム
- 第11回 経営情報と流通(2) チェーンストアと物流システム
- 第12回 社会における経営情報の利活用(1) インターネットビジネス
- 第13回 社会における経営情報の利活用(2) エリアマーケティング
- 第14回 社会における経営情報の利活用(3) 位置情報サービス
- 第15回 社会における経営情報の利活用(4) 情報セキュリティと情報倫理

## 履修上の注意点

受講者数によっては座席指定をおこなう。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

経営情報システム 第4版

著者: 宮川公男・上田泰編著

出版社: 中央経済社

出版年: 2014

ISBN:

はじめて学ぶ経営情報学

著者: 高橋敏朗編

出版社: 日科技連出版社

出版年: 2005

ISBN:

経営情報論 新版

著者: 遠山暁・村田潔・岸真理子著

出版社: 有斐閣

出版年: 2008

ISBN:

日本の流通と都市空間

著者： 荒井良雄・箸本健二編

出版社： 古今書院

出版年： 2004

ISBN:

ビジネス・行政のためのGIS

著者： 村山祐司・柴崎亮介編

出版社： 朝倉書店

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **ファイナンシャルプランニング**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村田 裕人	
テーマ	
生きていくために、また社会に出て行くときのために必要となる「お金」に関する基本的な知識を身につけよう。	
授業の到達目標	
現役の税理士が開講する授業である。国家資格である3級ファイナンシャルプランニング技能士資格の取得を目的とする。また、これをきっかけに就職等に有利となる簿記検定試験や、難易度の高い税理士・会計士資格への足がかりともしていきたい。	
授業の概要	
テキストと問題集、さらに必要の都度パワーポイントや雑誌の記事等を使った授業としていく。また、授業の都度ミニテストなども行い、理解度を深める事とする。	
準備学習(予習・復習)	
国家資格である3級ファイナンシャルプランニング技能士資格を目指すため、授業時間外においても検定試験の対策として問題集などを解くことが望ましい。	
内 容	
第1回 ファイナンシャルプランニングとは何か？なぜお金のことを勉強するのか。	
第2回 ライフプランニングと資金計画 その1(ライフイベント、結婚、育児)	
第3回 ライフプランニングと資金計画 その2(社会保険・年金)	
第4回 リスクマネージメント その1(保険とは)	
第5回 リスクマネージメント その2(生命保険、損害保険)	
第6回 金融資産運用 その1(金融経済の基本)	
第7回 金融資産運用 その2(投資資産のあれこれ)	
第8回 前半のまとめ	
第9回 タックスプランニング その1(所得税の基本)	
第10回 タックスプランニング その2(税金の計算)	
第11回 不動産 その1(不動産の基本)	
第12回 不動産 その2(不動産に関するあれこれ)	
第13回 相続・事業承継 その1(相続って何)	
第14回 相続・事業承継 その2(相続税・贈与税)	
第15回 後半のまとめ ※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる講演会を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書	
みんなが欲しかったFPの教科書3級	
著者： 滝澤ななみ	
出版社： TAC出版	
出版年：	ISBN：
みんなが欲しかったFPの問題集3級	
著者： 滝澤ななみ	
出版社： TAC出版	
出版年：	ISBN：
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 10 )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 60 )	



## 2017 Syllabus

科目名 臨床医学 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 道端 達也

テーマ

感染症・内分泌代謝性疾患の基礎知識

授業の到達目標

感染症・寄生虫症、内分泌・栄養・代謝の疾患に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、感染症の原因となる細菌、ウイルスなどの知識を身につけ、各感染症の特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半では、内分泌、栄養、代謝に関連する疾患について学んでいく。

準備学習(予習・復習)

受講者のメーリングリストを作ります。講義前に予備知識、連絡事項を流しますので、事前に目を通しておいてください。

内 容

- 第1回 免疫機構の障害
- 第2回 感染症および寄生虫症(総論)／腸管感染症
- 第3回 結核／人畜共通細菌感染疾患
- 第4回 その他の細菌感染疾患
- 第5回 主として性的伝搬様式をとる感染症／その他のスピロヘータ疾患
- 第6回 クラミジアによるその他の疾患／リケッチア症
- 第7回 中枢神経系のウイルス感染症／節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱
- 第8回 皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症／ウイルス肝炎
- 第9回 ヒト免疫不全ウイルス病/その他のウイルス疾患
- 第10回 真菌症／原虫疾患
- 第11回 ぜんく蠕虫症、感染症および寄生虫症(補足)
- 第12回 内分泌、栄養および代謝疾患(総論)／甲状腺障害
- 第13回 糖尿病／その他のグルコース調節および膵内分泌障害
- 第14回 その他の内分泌腺障害／栄養失調(症)／その他の栄養欠乏症／肥満(症)およびその他の過栄養／過剰摂食
- 第15回 代謝障害

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書記載事項の中のポイントや教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I 基礎・医学編 第8版

著者: 武田隆久

出版社: 日本病院会

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。私語や講義に関係の無いスマートフォン等の使用は減点の対象とします。

## 2017 Syllabus

科目名 臨床医学Ⅱ

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 西本 泰久

テーマ

授業の到達目標

腫瘍、血液・造血器の疾患、免疫機構の障害に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、全診療科で扱われる疾患の新生物(腫瘍)の概要を理解するとともに、その診断法、治療法などを学ぶ。また、後半では、血液および造血器の疾患、免疫機構の障害についても学んでいく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:口唇、口腔および咽頭の悪性新生物
- 第2回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:消化器の悪性新生物
- 第3回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物
- 第4回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:骨および関節軟骨、皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物
- 第5回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:中皮および軟部組織、乳房の悪性新生物
- 第6回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:女性生殖器、男性生殖器、腎尿路の悪性新生物
- 第7回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:眼、脳およびその他の中枢神経系、甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物
- 第8回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物
- 第9回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:上皮内新生物
- 第10回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:良性新生物
- 第11回 臨床医学各論Ⅲ 血液・代謝・内分泌等:栄養性貧血
- 第12回 臨床医学各論Ⅲ 血液・代謝・内分泌等:溶血性貧血
- 第13回 臨床医学各論Ⅲ 血液・代謝・内分泌等:無形成性貧血およびその他の貧血
- 第14回 臨床医学各論Ⅲ 血液・代謝・内分泌等:凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態
- 第15回 臨床医学各論Ⅲ 血液・代謝・内分泌等:血液および造血器のその他の疾患

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

## 2017 Syllabus

科目名 臨床医学Ⅲ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 道端 達也	
テーマ	
精神神経疾患・感覚器疾患・皮膚疾患の基礎知識	
授業の到達目標	
精神・脳神経・感覚器系、皮膚・皮下組織の疾患に関する知識を修得する。	
授業の概要	
診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、精神および行動の障害、神経系の疾患、目・耳の感覚系の疾患について学ぶ。また、後半では、皮膚および皮下組織の疾患についても学んでいく。	
準備学習(予習・復習)	
受講者のメーリングリストを作ります。講義前に予備知識、連絡事項を流しますので、事前に目を通しておいてください。	
内 容	
第1回	器質性精神障害／統合失調症、統合失調症型障害・妄想性障害
第2回	精神作用物質使用による精神・行動の障害／気分[感情]障害
第3回	神経症性障害／ストレス関連障害・身体表現性障害／生理的障害・身体的要因関連行動症候群
第4回	成人の人格・行動の障害／心理的発達の障害／小児<児童>期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害
第5回	神経系の疾患(総論)／中枢神経系の炎症性疾患／主に中枢神経を障害する系統萎縮症／錐体外路障害・異常運動
第6回	神経系のその他の変性疾患／中枢神経系の脱髄疾患／挿間性・発作性障害 神経・神経根・神経そう<叢>の障害
第7回	多発性ニューロパチー・末梢神経系の障害／神経筋接合部・筋の疾患／脳性麻痺・麻痺性症候群／他の神経系障害
第8回	眼瞼、涙器および眼窩の障害／結膜の障害／水晶体の障害／脈絡膜および網膜の障害
第9回	緑内障／硝子体および眼球の障害／視神経および視(覚)路の障害／眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害
第10回	外耳疾患／中耳および乳様突起の疾患
第11回	内耳疾患／耳のその他の障害
第12回	皮膚疾患(総論)／皮膚・皮下組織の感染症／水疱症
第13回	皮膚炎および湿疹／丘疹落屑<鱗屑>性障害
第14回	蕁麻疹および紅斑／皮膚および皮下組織の放射線非電離および電離に関連する障害/皮膚付属器の障害
第15回	皮膚および皮下組織のその他の障害/皮膚のその他の悪性新生物
履修上の注意点	
あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書記載事項の中のポイントや教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。	
教科書	
診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I 基礎・医学編 第8版	
著者: 武田隆久	
出版社: 日本病院会	
出版年: 2016年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (40)
授業中課題 (20)	授業中発表等 (10)
参加度 (30)	
適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。私語や授業に関係の無いスマートフォン等の操作は減点の対象とします。	

## 2017 Syllabus

科目名 臨床医学Ⅳ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 道端 達也

テーマ

循環器・呼吸器・消化器系疾患の基礎知識

授業の到達目標

循環器系、呼吸器系、消化器系の疾患に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、生命の維持に直接関わる循環器・呼吸器系の疾病について、その特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半では、消化器系の疾患について学んでいく。

準備学習(予習・復習)

受講者のメーリングリストを作ります。講義前に予備知識、連絡事項を流しますので、事前に目を通しておいてください。

内 容

- 第1回 循環器系の疾患(総論)／急性リウマチ熱／慢性リウマチ性心疾患／循環器系の先天奇形
- 第2回 高血圧性疾患／低血圧症／虚血性心疾患／肺性心疾患および肺循環疾患
- 第3回 その他の型の心疾患
- 第4回 脳血管疾患／動脈、細動脈および毛細血管の疾患
- 第5回 静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの／循環器疾患(補足)
- 第6回 呼吸器系の疾患(総論)／急性上気道感染症
- 第7回 インフルエンザおよび肺炎／その他の急性下気道感染症
- 第8回 上気道のその他の疾患／慢性下気道疾患
- 第9回 外的因子による肺疾患／主として間質を障害するその他の呼吸器疾患
- 第10回 下気道の化膿性および壊死性病態／胸膜のその他の疾患／呼吸器系のその他の疾患
- 第11回 消化器系の疾患(総論)／口腔、唾液腺および顎の疾患／食道、胃および十二指腸の疾患
- 第12回 虫垂の疾患／ヘルニア／非感染性腸炎および非感染性大腸炎
- 第13回 腸のその他の疾患／腹膜の疾患
- 第14回 肝疾患
- 第15回 胆のう<囊>、胆管および膵の障害／消化器系のその他の疾患

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I 基礎・医学編 第8版

著者: 武田隆久

出版社: 日本病院会

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。私語や授業に関係の無いスマートフォン等の操作は減点の対象とします。

## 2017 Syllabus

科目名 臨床医学Ⅴ

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 道端 達也

テーマ

泌尿器系疾患・周産期の基礎知識

授業の到達目標

泌尿器系の疾患および周産期における母体の障害等に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、前半に泌尿器および生殖器系の疾病の特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、中盤からは、妊娠、分娩、産褥について理解するとともに、周産期に発生する病態について学んでいく。

準備学習(予習・復習)

受講者のメーリングリストを作ります。講義前に予備知識、連絡事項を流しますので、事前に目を通しておいてください。

内 容

- 第1回 腎尿路系の疾患(総論)/糸球体疾患(1)
- 第2回 糸球体疾患(2)/腎尿細管間質性疾患
- 第3回 腎不全/慢性腎臓病(CKD)
- 第4回 尿路結石症/腎および尿管のその他の障害
- 第5回 男性生殖器の疾患/乳房の障害
- 第6回 女性骨盤臓器の炎症性疾患 女性生殖器の非炎症性障害
- 第7回 妊娠・分娩(総論)
- 第8回 流産に終わった妊娠(1)
- 第9回 流産に終わった妊娠(2)
- 第10回 妊娠、分娩および産褥における浮腫、蛋白尿および高血圧障害/主として妊娠に関連するその他の母体障害
- 第11回 胎児・羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題(1)
- 第12回 胎児・羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題(2)
- 第13回 分娩の合併症
- 第14回 分娩/主として産褥に関する合併症
- 第15回 周産期に発生した病態

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書記載事項の中のポイントや教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編 第8版

著者: 武田隆久

出版社: 日本病院会

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(40)

授業中課題(20)

授業中発表等(10)

参加度(30)

適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。私語や授業に関係の無いスマートフォン等の使用は減点の対象とします。

## 2017 Syllabus

科目名 自治体経営論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹内 直人

テーマ

自治体の行政と財政

授業の到達目標

変わりゆく自治体経営を理論と実証の両面から理解する。

授業の概要

地方自治論・地方行財政論の基礎について理解するとともに、自治体財政の逼迫や少子高齢化の進展、情報開示と説明責任への要求の高まりなど、自治体経営を取り巻く環境の変化について概観した上で、地方分権やニュー・パブリック・マネジメント、官民連携など、自治体経営における近年の新しい潮流について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション:日本の地方行財政システム
- 第2回 地方自治の本旨
- 第3回 首長の役割
- 第4回 議会の役割
- 第5回 条例と規則
- 第6回 自治体経営の実際(ゲストスピーカーによる講演と討論)
- 第7回 自治体の財政
- 第8回 自治体と税制
- 第9回 情報公開とアカウンタビリティ
- 第10回 国と地方の関係
- 第11回 地方分権改革
- 第12回 自治体改革
- 第13回 ニュー・パブリック・マネジメントの潮流
- 第14回 指定管理者制度
- 第15回 自治体経営と官民連携

履修上の注意点

教科書

地方自治入門

著者: 稲継裕章

出版社: 有斐閣

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 国際疾病分類概論

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

国際疾病分類(ICD)とはなにか。

授業の到達目標

ICDコーディングに必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

診療記録に記載される疾病や医療行為を収集・解析し、比較・活用するために設けられた、国際保健機関(WHO)が制定した国際疾病分類(ICD)の概念と利用方法に関する基本的な理解を深める。この授業では、ICDの歴史や現状、日本における利用状況を理解し、ICDコーディングの意味や問題点を把握する。

準備学習(予習・復習)

日頃から「医療」に関する新聞記事等に目を通し、日々研鑽に励んで下さい。

内 容

- 第1回 国際疾病分類概論のガイダンス
- 第2回 国際疾病分類(ICD)とわが国の利用、ICDの歴史、ICDの現状と課題
- 第3回 国際疾病分類(ICD)の現状と課題、他の国際疾病分類(ICD)ファミリー
- 第4回 コーディングをはじめにあって1 ICD編さんの基準とその特徴、複数病態分類、複合病態分類・二重分類
- 第5回 コーディングをはじめにあって2 ICD-10・ICD-9-CMで使用される記号と符合、用語の定義、ICD索引表の構造および傷病名の構成
- 第6回 国際疾病分類(ICD)の実際の利用 ICD-10の使用上の注意点と問題、練習問題
- 第7回 主要病態の選択ルール1 ルール説明と練習問題①
- 第8回 主要病態の選択ルール2 ルール説明と練習問題②
- 第9回 原死因の選択ルール1 原死因の定義と死亡診断書の書き方①
- 第10回 原死因の選択ルール2 原死因の定義と死亡診断書の書き方②
- 第11回 原死因の選択ルール3 原死因の選択ルール説明①
- 第12回 原死因の選択ルール4 原死因の選択ルール説明②
- 第13回 国際疾病分類(ICD)以外の疾病分類、処置分類
- 第14回 診断群分類(DPC)との関わり
- 第15回 国際疾病分類概論のまとめ

履修上の注意点

テキストについては第1回授業時に説明しますので、それまでは購入しないようにしてください。

教科書

診療情報管理Ⅳ第8版

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 コンピュータ論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 杉浦 昌	
テーマ	
コンピュータの基本的な構造や仕組み、動作の本質を理解する。	
授業の到達目標	
コンピュータの基本的な構造や仕組みを理解する。ハードウェア上で動作するソフトウェアやアルゴリズム、ネットワークで結ばれたコンピュータシステムやインターネットの基本的な考え方を理解し、現代社会における情報処理とコンピュータの有用性を理解する。あわせて、情報処理分野の基本的な用語や知識を習得する。	
授業の概要	
テキストを中心に、適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出を実施する場合がある。	
準備学習(予習・復習)	
テキストの予習、復習と授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。	
内 容	
第1回	イントロダクション
第2回	コンピュータが扱う数(1)
第3回	コンピュータが扱う数(2)
第4回	コンピュータの発達の歴史
第5回	コンピュータの構成(1)
第6回	コンピュータの構成(2)
第7回	ソフトウェア(1)
第8回	ソフトウェア(2)
第9回	コンピュータネットワーク
第10回	情報セキュリティ
第11回	情報処理と情報システム
第12回	アルゴリズムとプログラミング言語
第13回	データベースとファイルシステム
第14回	マルチメディア～符号化と圧縮(1)
第15回	マルチメディア～符号化と圧縮(2)
履修上の注意点	
課題は必ず期日内に提出すること。	
教科書	
文系学生のためのコンピュータ概論	
著者:	鞆大輔
出版社:	共立出版
出版年:	2011年3月
ISBN:	9.78432E+12
参考書	
文科系のためのコンピュータ総論	
著者:	田中弘、田中敬一、鞆大輔
出版社:	共立出版
出版年:	2005年4月
ISBN:	9.78432E+12
成績評価	
試験・レポート ( 70 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	



## 2017 Syllabus

## 科目名 ネットワーク論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 赤松 辰彦

## テーマ

データ通信の仕組みや通信プロトコルの概念、LANの仕組みやサーバーの役割などネットワークの基本的な原理を学ぶ。特に、インターネットの電子メールやWWWなど各サービスの機能や仕組みについて理解を深める。また、情報セキュリティに関する問題について理解を深める。

## 授業の到達目標

①情報ネットワークを構成する通信機器、通信回線、伝送制御方式など通信の要素技術を習得し、情報通信システムに関して理解する。②各種情報ネットワークの特徴と利用形態について学び、志望する産業分野で情報ネットワークがどのように活用されているかを理解する。③新聞等で報道される情報通信関連記事から通信業界の動向、新技術や新サービスの動向を理解する。④コンピュータウイルスや情報漏えいなど、ネットワークの情報セキュリティに関わる問題を理解し、解決策を学習する。

## 授業の概要

近年の情報ネットワークの発展と普及は目覚ましく、インターネット等を通じたコミュニケーションの拡がりのみならず、多様なモノをネットワークで接続し、情報を交換・制御するIoT (Internet of Things) が注目を集めている。そこで本講義では、ネットワークに関する基礎的な理論や技術を理解することを目的とする。同時に、コンピュータウイルスや情報漏えいなど、ネットワークの情報セキュリティに関わる問題についても理解を深める。

## 準備学習(予習・復習)

新聞等で報道される情報通信関連記事から通信業界の動向、新技術や新サービスの動向を把握する。

## 内容

- 第1回 情報とは、情報システム、情報の信頼性
- 第2回 情報と通信 通信ネットワーク、いろいろな形態、通信ネットワークの構成要素
- 第3回 LAN LANの種類、LANを構成する各装置の役割、各サーバーの役割
- 第4回 インターネット インターネットのサービス、インターネットの仕組み、TCP/IP、IPアドレスとドメイン名、メールアドレス、URL
- 第5回 インターネット インターネットアプリケーションプロトコル、各サービスの仕組み
- 第6回 ネットワークセキュリティ ファイヤーウォール、暗号化技術
- 第7回 インターネットと個人情報 個人情報とは、個人情報の漏洩、プライバシー侵害
- 第8回 インターネットと個人情報 個人情報の保護、プライバシーポリシー
- 第9回 インターネットと知的所有権 知的所有権とは、デジタル化による影響、著作権隣接権
- 第10回 インターネットと生活 Webによる情報検索、生活のなかで利用されている事例
- 第11回 インターネットとビジネス 電子商取引、インターネットショッピング、売買トラブル、マルチ商法、電子マネー
- 第12回 インターネットとリテラシー メディアリテラシー、有害情報
- 第13回 インターネットとコミュニケーション ネットワーク、電子メールの宛先、メーリングリスト、Web制作
- 第14回 インターネットと犯罪 不正アクセス、なりすまし、ネットストーカー、情報の改ざん他
- 第15回 インターネットと情報社会

## 履修上の注意点

積極的に授業に参加してほしい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (80)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

レポートはA4横書きで、ワードで作成すること。提出方法はファイルを印刷するだけでなく、メールで添付して担当者に送ること。提出先と期日は授業中に指示する。

## 2017 Syllabus

科目名 **情報数学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

情報科学の基盤となる数学的知識の習得

授業の到達目標

離散数学の基本的な知識を身につけるとともに、基本的な計算方法に関するアルゴリズムを理解できるようになる。

授業の概要

本授業では、主に、離散数学の基礎、情報量の表現、集合と論理、確率と統計、アルゴリズムについて扱い、情報経営で用いられる基礎的な数学の話題を通して、数学的なものの考え方や問題解決へのアプローチを学ぶ。コンピュータの内部表現である2進数、数や集合の基本演算をはじめとした知識の習得とともに、方程式の解法や数値積分をテーマとした演習により、数値計算のアルゴリズムについての理解を深める。

準備学習(予習・復習)

授業で学習した内容の復習と演習課題に取り組むこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション:情報数学の理論と応用
- 第2回 基数と数値表現
- 第3回 集合と命題
- 第4回 論理演算
- 第5回 離散関係
- 第6回 計算の複雑さ
- 第7回 数値計算(1):方程式の解法
- 第8回 数値計算(2):近似計算の誤差
- 第9回 グラフ理論(1):グラフの概念と表現
- 第10回 グラフ理論(2):グラフの応用事例
- 第11回 確率と統計(1):確率の基本
- 第12回 確率と統計(2):データの分析
- 第13回 待ち行列理論
- 第14回 最適化問題
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 産業論Ⅲ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 杉浦 昌		
テーマ		
情報産業の全体像と産業構造、他の産業や社会とのかかわり、今後の姿を理解する。		
授業の到達目標		
情報産業はそれ自体が一つの大きな産業分野であるのみならず、他のさまざまな産業活動や社会活動の基盤となる基幹産業でもある。本授業では、情報産業の発展の過程と現在の姿、その産業構造やビジネス構造について学び、さらに今後情報産業がどのように変わっていくのかを学ぶ。		
授業の概要		
適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出を実施する場合がある。		
準備学習(予習・復習)		
授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。		
内 容		
第1回	イントロダクション	
第2回	情報産業総論(1)	
第3回	情報産業総論(2)	
第4回	情報産業に対する社会的な要求	
第5回	情報産業に関連する国や省庁の行政と業界団体の構造	
第6回	産業構造詳細(1)	
第7回	産業構造詳細(2)	
第8回	産業構造詳細(3)	
第9回	産業構造詳細(4)	
第10回	産業構造詳細(5)	
第11回	産業構造詳細(6)	
第12回	産業構造詳細(7)	
第13回	産業構造詳細(8)	
第14回	情報産業の未来(1)	
第15回	情報産業の未来(2)	
履修上の注意点		
課題は必ず期日以内に提出すること。		
教科書		
使用しない		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
未定		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験・レポート ( 70 )	小テスト ( )	
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )	
参加度 ( 30 )		

## 2017 Syllabus

科目名 **ビジネス英語**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ランビーノ, パラガス

テーマ

グローバル化が進んでいる現代社会において、英語の運用能力は、ビジネスを行う上で必要不可欠のものとなりつつある。本講義は、主に英語を母語としない学部生を対象としたものである。本講義ではビジネスに関する、英語で書かれた文献、新聞記事、ドキュメンタリー映画などを利用する。プレゼンテーションやディスカッションの実践を通じ、ビジネス英語の運用能力を高めることを目指す。

授業の到達目標

ビジネスについて英語で読み、聞き、ディスカッションを行うことで、総合的なビジネス英語の運用能力を身につける。

授業の概要

本授業では、英文エッセイ、新聞記事、ドキュメンタリー映画等を教材として用いる。○授業の中でエッセイと新聞記事の精読、ドキュメンタリー映画の鑑賞を行い、その後、英語でディスカッションを行う。○既出単語・内容について、適宜小テストを実施する。○学期末テストの代わりに、グループでプレゼンテーションを行う。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内 容

- 第1回 ガイダンス。
- 第2回 Management(マネジメント)について
- 第3回 Management across cultures(異文化におけるマネジメント)について
- 第4回 Women in business(ウーマン・イン・ビジネス)について
- 第5回 Marketing(マーケティング)について
- 第6回 Venture Capital(ベンチャ・キャピタル)について
- 第7回 Government and taxation(政府と課税)について
- 第8回 The business cycle(景気循環)について
- 第9回 Corporate social responsibility(企業の社会的責任)について
- 第10回 Starting a conversation(英語で会話を始めること)
- 第11回 Talking about jobs(英語で自分の仕事について話すこと)
- 第12回 Showing interest in other people(英語で相手に興味を示すこと)
- 第13回 Exchanging information(英語で情報を交換すること)
- 第14回 グループ・プレゼンテーション
- 第15回 グループ・プレゼンテーション

履修上の注意点

特になし。

教科書

使用しない(適宜プリントを配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (25%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (25%)

参加度 (50%)

特になし。

## 2017 Syllabus

科目名 プログラミング論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 加藤 諒	
テーマ Cプログラミングの基礎	
授業の到達目標 基本的なCプログラミングの修得・C言語の基礎文法を理解し、コーディングできること・プログラミングの基礎的な知識と技術を修得すること・学んだ基礎知識をもとに課題解決に応用できること	
授業の概要 プログラミングは、情報技術について学ぶ上で基礎となる知識である。「プログラミング実習」では、基本的なプログラム言語の1つであるC言語によるプログラム作成を講義形式で学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 提出課題に必ず取り組むこと。	
内 容 第1回 ガイダンス(授業概要、注意事項などの説明)、C言語のプログラミングと実行 第2回 データと変数 第3回 四則演算 第4回 条件分岐 第5回 繰り返し処理 第6回 配列 第7回 文字と文字列 第8回 多次元配列 第9回 関数 第10回 変数の有効範囲 第11回 構造体 第12回 ファイル入出力 第13回 ポインタ変数 第14回 ポインタ変数と配列 第15回 まとめ	
履修上の注意点 よく調べ、考えること	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 C言語教科書 - 「言語仕様」から「データ構造」「アルゴリズム」の実装まで 著者: 田中成典 出版社: 工学社 出版年: 2013年 ISBN: 477517535	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 70 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30 ) 4回以上の欠席は不可とする。	

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 今井 まりな	
テーマ グループ論文の執筆に向けた準備	
授業の到達目標 輪読を通じて、問いの設定、先行研究レビュー、事例記述といった一連の研究プロセスを学習する。夏休みに実施するインタビュー調査のためのスキルを習得する。	
授業の概要 前半は研究方法と事例研究に関する文献を輪読する。後半はグループ分けを行い、2017年1月末までに執筆するグループ論文に向けて準備を行う。夏休みにグループ論文の作成に向けた合宿を実施する。	
準備学習(予習・復習) 各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 輪読1(研究方法と事例研究に関する文献) 第3回 輪読2 第4回 輪読3 第5回 輪読4 第6回 グループ分けと問題設定の仕方 第7回 輪読5 第8回 問いの設定(グループ1,2) 第9回 問いの設定(グループ3,4) 第10回 問いの確定(グループ1,2) 第11回 問いの確定(グループ3,4) 第12回 先行研究レビューの仕方 第13回 先行研究レビュー(グループ1,2) 第14回 先行研究レビュー(グループ3,4) 第15回 インタビュー調査方法	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 70 ) 参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代日本経済の研究(1)

授業の到達目標

グローバル化の進展のなかでの、現代の日本経済の変化の諸相を把握することにより、現代の経済社会における学生たち自身の立ち位置を確実なものにさせる。

授業の概要

教科書を順に輪読して、討論を行う。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習にとどまらず、関連の新聞記事・参考書などによる予習・復習を行うことが望ましい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション ゼミの進め方などの相談
- 第2回 序章 日本経済と経済の基本
- 第3回 第1章 日本経済の全体像
- 第4回 第2章 戦後日本の経済成長
- 第5回 第3章 景気循環の姿とそのとらえ方
- 第6回 第4章 ストックから見た日本経済
- 第7回 第5章 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方
- 第8回 第6章 産業構造の変化と日本型企业経営の行方
- 第9回 第7章 物価の変動とデフレ問題
- 第10回 第8章 貿易と国際収支の姿
- 第11回 第9章 円レートの変動と日本経済
- 第12回 第10章 直接投資と空洞化をめぐる議論
- 第13回 第11章 財政をめぐる諸問題
- 第14回 第12章 経済の鍵を握る金融
- 第15回 ゼミのまとめ

履修上の注意点

教科書は必ず各自一冊ずつ準備し、毎回持参すること。教科書を準備していない学生の受講は認めない。3回を超えて無断欠席した学生には単位を出さない。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

最新日本経済入門

著者: 小峰隆夫他

出版社: 日本評論社

出版年: 最新版

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

卒業論文作成のための準備

授業の到達目標

卒業論文の作成に必要なとなる研究能力として、文献の調査、論点の明確化、内容の構成、文章の作成、プレゼンテーションなどに関する基本的な知識とスキルを身につける。

授業の概要

前半は、近年の情報ビジネスの動向について、主にテキストの講読と関連する事例の調査を通して学ぶ。後半は、文献調査の方法と実践を通して卒業論文に向けた準備をおこなう。

準備学習(予習・復習)

特に、発表で寄せられたコメントについては、授業後に整理して確認しておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報ビジネスに関するテキスト講読(1)
- 第3回 情報ビジネスに関するテキスト講読(2)
- 第4回 情報ビジネスに関するテキスト講読(3)
- 第5回 情報ビジネスに関するテキスト講読(4)
- 第6回 情報ビジネスに関するテキスト講読(5)
- 第7回 情報ビジネスに関するテキスト講読(6)
- 第8回 情報ビジネスに関するテキスト講読(7)
- 第9回 文献調査の方法(1)
- 第10回 文献調査の方法(2)
- 第11回 文献調査報告(1)
- 第12回 文献調査報告(2)
- 第13回 文献調査報告(3)
- 第14回 文献調査報告(4)
- 第15回 文献調査報告の講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (60)



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\*d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 財務管理の研究	
授業の到達目標 有価証券報告書に掲載された財務諸表を分析できるようになること。	
授業の概要 原理原則、理論を学びながら、複数企業の財務諸表を比較分析し、差異の原因を考察してみる。	
準備学習(予習・復習) 復習は必ず行う。その他については、随時指示する。	
内 容 第1回 資金管理と財務諸表 第2回 財務分析と比較 第3回 収益性の分析1 第4回 収益性の分析2 第5回 収益性の分析3 第6回 生産性の分析1 第7回 生産性の分析2 第8回 生産性の分析3 第9回 流動性の分析1 第10回 流動性の分析2 第11回 流動性の分析3 第12回 損益分岐点分析1 第13回 損益分岐点分析2 第14回 成長性の分析 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。	
履修上の注意点	

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

原価計算

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

管理会計

著者: 岡本清 他

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

情報化社会における管理会計の役割

著者: 河野充央

出版社: 税務経理協会

出版年:

ISBN:

現代国家の危機

著者： 河野充央 他

出版社： 富嶽出版

出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 15 )

参加度 ( 70 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 15 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\* e&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 隆則	
テーマ 卒業論文作成に向けたグループ学習	
授業の到達目標 論文の書き方、文献調査の仕方を習得することおよび各自の卒業論文のテーマを見出すこと	
授業の概要 共通テーマをもつグループに分かれて、各グループでテーマについて学習しつつ、各自の卒論テーマを探求します。また、併せて、論文作成の作法や文献調査、統計処理、フィールドワークの仕方を身に付けてゆきます。	
準備学習(予習・復習) 毎回、グループ学習の経過報告をしてもらいます。報告担当以外の人も積極的に発言すること。	
内 容 第1回 演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定 第2回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第3回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第4回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第5回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第6回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第7回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第8回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第9回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第10回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第11回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第12回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第13回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第14回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論) 第15回 担当グループによる報告と討論(報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 (50%)	小テスト ( ) 授業中発表等 (50%)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

公共経営と行政評価

授業の到達目標

グループごとに研究テーマを設定し、資料調査の方法や、テクニカル・ライティングの方法などアカデミック・スキルの基礎を身につける。

授業の概要

クラスを幾つかのグループに分け、グループごとに調査研究を行う。授業の前半では、調査研究に必要となる資料検索の方法について学ぶ。授業の後半では、それぞれのテーマを対象として発表を行うことを目指して、資料調査の方法やテクニカル・ライティングの基礎、スライド資料の作成、発表の仕方といったアカデミック・スキルについて学ぶ。

準備学習(予習・復習)

前半の授業においては、指定された文献を授業の当日までに読んでおく必要がある。後半では、自分が発表を担当する当日までにスライド資料と発表原稿を作成する必要がある。 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

内 容

- 第1回 グループによる調査研究(1)
- 第2回 グループによる調査研究(2)
- 第3回 グループによる調査研究(3)
- 第4回 資料検索の方法(1):インターネットの利用
- 第5回 資料検索の方法(2):図書館の使い方
- 第6回 資料検索の方法(3):読書データベースの作成
- 第7回 グループによる調査研究(4)
- 第8回 グループによる調査研究(5)
- 第9回 グループによる調査研究(6)
- 第10回 アカデミック・ライティング(1):論文と小説はどこが違うのか?
- 第11回 アカデミック・ライティング(2):論文作成の実際
- 第12回 スライド資料の作り方(1):分かりやすい資料を作る
- 第13回 スライド資料の作り方(2):見やすい資料を作る
- 第14回 研究発表(1)
- 第15回 研究発表(2)

履修上の注意点

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

受講生と相談の上決定する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\*g&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

研究課題の設定、スラムと貧困の学習とフィールドワーク、社会病理学系の講読

授業の到達目標

ゼミ生の社会的な関心を深化させるとともに、社会病理学系に関するフィールドワークと文献講読を継続して、社会的な素養を育成する。

授業の概要

テキストの講読・発表・討論、フィールドワークへの参加など

準備学習(予習・復習)

講読文献の予習は必須である。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 春季課題の発表(1)
- 第3回 春季課題の発表(2)
- 第4回 テキストの輪読(1)
- 第5回 テキストの輪読(2)
- 第6回 テキストの輪読(3)
- 第7回 テキストの輪読(4)
- 第8回 テキストの輪読(5)
- 第9回 釜ヶ崎のフィールドワーク
- 第10回 学生によるテキストの発表・討論(1)
- 第11回 学生によるテキストの発表・討論(2)
- 第12回 学生によるテキストの発表・討論(3)
- 第13回 学生によるテキストの発表・討論(4)
- 第14回 学生によるテキストの発表・討論(5)
- 第15回 学生によるテキストの発表・討論(6)

履修上の注意点

ゼミの欠席はありえないと考えること

教科書

釜ヶ崎から

著者: 生田武志

出版社: 筑摩書房

出版年: 2016

ISBN: 480-43314-5

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

授業中課題は春季レポートの評価とフィールドワークのレポートである。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\*h&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ 医療経営に関する発展的な学習	
授業の到達目標 医療経営や医療政策、医療経済について知見を深める	
授業の概要 グループワークやテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済について理解を深めるとともに、卒業研究のためのアカデミック・スキルの習得に努める。また、受講生が主体となって学外授業やゼミ合宿などを企画・開催する。	
準備学習(予習・復習) 授業時間外において、グループワークや発表の準備、学外授業やゼミ合宿の企画を立案する。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 グループワーク(グループ分けとテーマの設定) 第3回 グループワーク(仮説とアウトラインの明確化) 第4回 グループワーク(論点の掘り下げ) 第5回 グループワーク(調査の一応のとりまとめ) 第6回 グループワーク(パワーポイント資料の作成) 第7回 グループワーク成果発表会 第8回 学外授業およびゼミ合宿の企画・準備 第9回 テキストを用いた演習 第10回 テキストを用いた演習 第11回 テキストを用いた演習 第12回 テキストを用いた演習 第13回 図書館ガイダンス(予定) 第14回 学外授業(予定) 第15回 演習全体のまとめ(ゼミ合宿)	

## 履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業やゼミ合宿、自主ゼミ等に積極的に参加すること。

## 教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

健康と医療の公平に挑む

著者: 松田亮三編

出版社: 勁草書房

出版年: 2009

ISBN: 9.78433E+12

地域包括ケアと地域医療連携

著者: 二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2015

ISBN: 9.78433E+12

社会保障の公私ミックス再論

著者: 松田亮三・鎮目真人編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015

ISBN: 9.78462E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\*i&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 平尾 毅

テーマ

ケース・メソッドを学ぶ。

授業の到達目標

ケース分析の方法を修得し、問題の発見と解決策の提案ができる。プレゼンテーション能力を磨くことができる。グループワークを通して主体性と協調性を身に付けることができる。

授業の概要

経営学の専門知識は実際のビジネスの現場で生かされて意味を持ちます。そのための準備として、インプットをアウトプットに変えるための思考トレーニングが必要です。このゼミでは、分析枠組みを確認した上で、グループワークで実際の企業を分析し、発表し、ディスカッションしていきます。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習をして授業に臨んでください(1時間程度)。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 分析ツール①財務・会計
- 第3回 グループワーク①財務・会計
- 第4回 分析ツール②マーケティング
- 第5回 グループワーク②マーケティング
- 第6回 分析ツール③組織
- 第7回 グループワーク③組織
- 第8回 分析ツール④戦略
- 第9回 グループワーク④戦略
- 第10回 ケース発表・ディスカッション①
- 第11回 ケース発表・ディスカッション②
- 第12回 ケース発表・ディスカッション③
- 第13回 ケース発表・ディスカッション④
- 第14回 ケース発表・ディスカッション⑤
- 第15回 ケース発表・ディスカッション⑥

履修上の注意点

ケース・ディスカッションは様々なコメントを通じて自らの思考力を磨く機会なので、積極的な参加姿勢(発言等)が求められます。

教科書

MBAのためのケース分析(改訂版)

著者: 小樽商科大学ビジネススクール

出版社: 同文館出版

出版年: 2010年

ISBN: 978-4495372620

参考書

適宜紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (60%)

参加度 (10%)

「試験・レポート30%」は最終ケースレポートの評価です。



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

卒業論文作成のための文献調査方法・文章作成方法

授業の到達目標

卒業論文作成のための大まかなテーマを定め、作成の基礎となる調査能力・文章力を身につける。

授業の概要

卒業論文執筆のための準備を行う。前半は、基本的なレポート・論文作成方法や、統計・資料等の所在と収集方法など、卒論作成に向けた技術的方法論を学ぶ。後半は、各個人が卒業論文で扱うテーマの方向性を定めていく。

準備学習(予習・復習)

自分の担当回はもちろんのこと、他のメンバーの研究発表についても問題意識を共有し、当事者意識をもって議論に参加すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文作成にあたってのテクニック入門(1)
- 第3回 卒業論文作成にあたってのテクニック入門(2)
- 第4回 卒業論文作成にあたってのテクニック入門(3)
- 第5回 卒業論文作成にあたってのテクニック入門(4)
- 第6回 卒業論文作成にあたってのテクニック入門(5)
- 第7回 卒業論文作成にあたってのテクニック入門(6)
- 第8回 卒業論文作成にあたってのテクニック入門(7)
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(1)
- 第11回 個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(2)
- 第12回 個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(3)
- 第13回 個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(4)
- 第14回 個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(5)
- 第15回 まとめ、夏期休業期間中の課題と計画

履修上の注意点

卒業論文作成やゼミでは、学生の主体的な取り組みが大切である。また、教員も含めたメンバー間でのインタラクティブなやりとりが必要なので、他のメンバーの報告に対しても自分の報告と常に対照させながら考えること。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (経) &lt;\*k&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ランビーノ, パラガス

テーマ

国際的な視点から、健康・経済成長・格差について 学習すること

授業の到達目標

人類が貧困と病苦という牢獄からどのように脱出したか、また成長が格差とどのように関連しているかということについての理解を深めながら、理解しやすいプレゼンテーション資料の作成技術と、その内容に関わる報告・討論の技術を向上させることです。

授業の概要

本演習では、健康・富・格差についての様々な統計及び議論についての知識を身につけ、グローバルレベルの発展についての知見を持つ人材を育成することを目指しています。テキストは四部構成で、初めの部は本書の導入及び世界の幸福の紹介、第一部は平均余命、死亡率、病気や身長などの変化、続く第二部は所得格差や貧困の変化の検証、最終第三部は援助についての様々な側面をテーマとしています。授業の流れは次のようになります。①最初の授業で各回の報告者を割り当てる。②授業当日に向けて報告者はレジュメを作成する(授業日の2日前にレジュメを教員に提出する)。③テキストの該当箇所を参加者全員が事前に読む。④授業当日、報告者は要約を行い、論点を整理する。⑤報告をベースとして、参加者全員で議論する。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内容

- 第1回 ガイダンス。報告者の割り当て。
- 第2回 序章
- 第3回 第1章
- 第4回 第2章前半部
- 第5回 第2章後半部
- 第6回 第3章
- 第7回 第4章前半部
- 第8回 第4章後半部
- 第9回 第5章前半部
- 第10回 第5章後半部
- 第11回 第6章前半部
- 第12回 第6章後半部
- 第13回 第7章前半部
- 第14回 第7章後半部
- 第15回 ドキュメンタリー映画の鑑賞

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

大脱出:健康、お金、格差の起原

著者: A・ディートン著、松本裕訳

出版社: みすず書房

出版年: 2015年

ISBN: 978-4622078708

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (35%)

参加度 (65%)

特になし。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今井 まりな

テーマ

グループ論文の執筆

授業の到達目標

グループで論文を執筆することを通じて、一連の論文執筆プロセスを学習する。報告とディスカッションを通じて、プレゼンテーションスキル並びにコミュニケーションスキルを養成する。一つの論文を複数のメンバーで執筆することで、長期的な目標を計画的かつ組織的に達成するプロセスを経験する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 事例研究の検討
- 第3回 先行研究レビュー(グループ1,2)
- 第4回 先行研究レビュー(グループ3,4)
- 第5回 インタビュー調査(グループ1,2)
- 第6回 インタビュー調査(グループ3,4)
- 第7回 目次構成の検討(グループ1,2)
- 第8回 目次構成の検討(グループ3,4)
- 第9回 中間報告(グループ1,2)
- 第10回 中間報告(グループ3,4)
- 第11回 グループ1の論文の検討会
- 第12回 グループ2の論文の検討会
- 第13回 グループ3の論文の検討会
- 第14回 グループ4の論文の検討会
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代日本経済の研究(2)・卒業論文に関する報告

授業の到達目標

第一に、グローバル化の進展のなかでの、現代の日本経済の変化の諸相を把握することにより、現代の経済社会における学生たち自身の立ち位置を確実なものにさせる。第二に、演習の途中からは、卒論のテーマに関する報告を行わせる。

授業の概要

教科書を順に輪読して、討論を行う。卒業論文に関しては、テーマや問題意識などに関する報告とそれへの指導を主とする。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習を行うほか、参考書や新聞などでの時事問題の学習を行うことが奨められる。この段階では、とくに卒論も意識した予習・復習が重要となる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション ゼミの進め方の相談
- 第2回 第13章 少子高齢化と社会保障
- 第3回 第14章 人口構造の変化と日本経済
- 第4回 第15章 東日本大震災後の日本経済と地域の振興
- 第5回 卒業論文のテーマに関する報告(1)
- 第6回 卒業論文のテーマに関する報告(2)
- 第7回 卒業論文のテーマに関する報告(3)
- 第8回 卒業論文のテーマに関する報告(4)
- 第9回 卒業論文のテーマに関する報告(5)
- 第10回 卒業論文のテーマに関する報告(6)
- 第11回 卒業論文のテーマに関する報告(7)
- 第12回 卒業論文のテーマに関する報告(8)
- 第13回 卒業論文のテーマに関する報告(9)
- 第14回 卒業論文のテーマに関する報告(10)
- 第15回 ゼミのまとめ

履修上の注意点

教科書は必ず各自一冊ずつ準備し、毎回持参すること。教科書を準備していない学生の受講は認めない。3回を超えて無断欠席した学生には単位を出さない。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

最新日本経済入門

著者: 小峰隆夫他

出版社: 日本評論社

出版年: 最新版

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 70 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

卒業論文に向けた研究テーマおよび研究計画の設定

授業の到達目標

自分が取り組もうとする問題の研究意義を明確にするとともに、問題の他者との共有にあたって情報を適切に伝達できるようになること。

授業の概要

前半は、前期におこなった文献調査で得られた知識も参考にしつつ、各自で課題研究に取り組む。後半は、卒業論文のテーマの設定および研究計画書の作成をおこなう。

準備学習(予習・復習)

卒業論文を意識した研究に対する姿勢が求められる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究デザインの方法(1)
- 第3回 研究デザインの方法(2)
- 第4回 課題研究(1)
- 第5回 課題研究(2)
- 第6回 課題研究(3)
- 第7回 課題研究(4)
- 第8回 課題研究の講評
- 第9回 卒業論文のテーマの設定(1)
- 第10回 卒業論文のテーマの設定(2)
- 第11回 卒業論文のテーマの設定(3)
- 第12回 研究計画書の作成(1)
- 第13回 研究計画書の作成(2)
- 第14回 研究計画書の作成(3)
- 第15回 研究計画の講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (60)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 企業経営と管理会計	
授業の到達目標 会計によるマネジメントの意義を理解する。	
授業の概要 卒論のテーマ選択につながるような学習を行う。必要に応じて、工場見学等の学外学習を行う。	
準備学習(予習・復習) 復習は必ず行うこと。その他については、随時指示する。	
内 容 第1回 企業の利害関係者と経済的情報 第2回 企業経営と企業目標 第3回 経営管理者の職能 第4回 管理会計の目的1 第5回 管理会計の目的2 第6回 管理会計の目的3 第7回 管理会計担当者の役割 第8回 コストマネジメントの体系 第9回 戦略プランニングとコストマネジメント1 第10回 戦略プランニングとコストマネジメント2 第11回 戦略的コントロールとコストマネジメント1 第12回 戦略的コントロールとコストマネジメント2 第13回 管理的プランニングとコストマネジメント 第14回 管理的コントロールとコストマネジメント 第15回 まとめと卒論作成へ向けての指導 ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。	
履修上の注意点	

教科書

参考書

情報化社会における管理会計の役割

著者: 河野充央

出版社: 税務経理協会

出版年:

ISBN:

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

管理会計

著者: 岡本清 他

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

原価計算

著者: 岡本清

出版社: 国元書房

出版年:

ISBN:

ケースブック・コストマネジメント

著者： 加登豊 他

出版社： 新世社

出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 15 )

参加度 ( 70 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 15 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*e&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

卒業論文の作成に向けた本格的な準備

授業の到達目標

各自の卒業論文のテーマを決め、目次案を作成すること

授業の概要

各自の卒論テーマを決め、構想と目次を固めてゆきます。また、引き続き、論文作成の作法や文献調査、統計処理、フィールドワークの仕方学びます。

準備学習(予習・復習)

各自のテーマについて報告し、その都度軌道修正してゆきます。報告担当以外の人も積極的に発言すること。

内 容

- 第1回 演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第3回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第4回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第5回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第6回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第7回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第8回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第9回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第10回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第11回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第12回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第13回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第14回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)
- 第15回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50% )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50% )



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*f&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

公共経営の実際を学ぶ

授業の到達目標

1) 公共経営のしくみや課題を理解する 2) 資料を作成して発表する技術を身に付ける

授業の概要

前半は、専門演習Iで行ったグループ研究をさらに深め、学外での研究発表を目指して研究のブラッシュアップを行う。後半は、卒業研究に向けて、各自でテーマを設定し、研究計画を立てる。

準備学習(予習・復習)

各階の授業で自らに当てられた役割をこなすために周到な準備を行うことが必要である。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表原稿とスライド資料の作成(1)
- 第3回 発表原稿とスライド資料の作成(2)
- 第4回 発表原稿とスライド資料の作成(3)
- 第5回 発表原稿とスライド資料の作成(4)
- 第6回 リハーサル
- 第7回 リハーサルを受けての修正(1)
- 第8回 リハーサルを受けての修正(1)
- 第9回 本番リハーサルと発表内容の修正
- 第10回 学外での発表(日程は学外のイベントに準拠します)
- 第11回 卒業論文計画(1)
- 第12回 卒業論文計画(2)
- 第13回 卒業論文計画(3)
- 第14回 卒業論文計画(4)
- 第15回 卒業論文計画(5)

履修上の注意点

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*g&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

研究課題の深化とテキストの講読

授業の到達目標

ゼミ生の社会的な関心をより深化させるとともに、テキストの講読を通して社会的な素養を高め、卒業論文のテーマを考える。

授業の概要

夏季課題の報告、テキストの講読・発表・討論(合宿を含む)、4回生の卒論中間発表会への参加

準備学習(予習・復習)

テキストの予習は必須である。

内 容

- 第1回 後期ガイダンス
- 第2回 夏季課題の報告(1)
- 第3回 夏季課題の報告(2)
- 第4回 テキストの講読・発表・討論(1)
- 第5回 テキストの講読・発表・討論(2)
- 第6回 テキストの講読・発表・討論(3)
- 第7回 4回生の卒論中間発表会への参加
- 第8回 テキストの講読・発表・討論(4)
- 第9回 テキストの講読・発表・討論(5)
- 第10回 テキストの講読・発表・討論(6)
- 第11回 テキストの講読・発表・討論(7)
- 第12回 テキストの講読・発表・討論(8)
- 第13回 テキストの講読・発表・討論(9)
- 第14回 テキストの講読・発表・討論(10)
- 第15回 まとめと春休み課題の提示

履修上の注意点

ゼミの欠席はありえないと考えること。テキストは教員が著者割引で直接販売する。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

授業中課題は夏季課題のレポートである。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

医療経営についての発展的学習

授業の到達目標

医療経営についての知見を深めるとともに、各自の卒業研究のテーマを明確にする

授業の概要

グループワークおよびテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済に関する知見を深めるとともに、アカデミック・リテラシーを習得し、各自の卒業研究に向けてテーマ設定を行う。他大学生との合同ゼミ合宿も企画する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、グループワークやテキストを用いた発表のための準備を行う。また、受講生は主体的に自主ゼミを運営する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グループワーク
- 第3回 グループワーク
- 第4回 グループワーク
- 第5回 グループワーク
- 第6回 グループワーク
- 第7回 卒業研究中間発表会(4回生と合同)
- 第8回 卒業研究中間発表会(4回生と合同)
- 第9回 グループワーク成果発表会(予定)
- 第10回 テキストを用いた演習
- 第11回 テキストを用いた演習
- 第12回 テキストを用いた演習
- 第13回 テキストを用いた演習
- 第14回 キャリア講演会(予定)
- 第15回 演習全体のまとめ(他大学との合同ゼミ合宿を予定)

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業やゼミ合宿、自主ゼミ等に積極的に参加すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

地域包括ケアと地域医療連携

著者: 二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2015

ISBN: 9.78433E+12

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt; \* i &gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 平尾 毅

テーマ

卒業論文のテーマ設定を行う。

授業の到達目標

必要な資料の収集方法を身に付けることができる。プレゼンテーション能力を磨くことができる。論理的な思考力を磨くことができる。

授業の概要

卒論作成の準備として論文の書き方を確認し、ゼミ生各自がテーマ設定に入ります。各自が興味関心のあるテーマについて個別発表を通してリサーチ・クエスチョンを設定し、研究を進めていきます。また、4回生や国内外の大学との合同ゼミ合宿等を通して様々な経験を積み、多様な人間関係の間でコミュニケーション能力を磨いてもらいたいと考えています。

準備学習(予習・復習)

発表準備を十分に行って参加してください。また、発表でもらったコメントは次回の発表に反映させてください。

内 容

- 第1回 ガイダンス(発表方法、論文の書き方)
- 第2回 個別発表・討論①
- 第3回 個別発表・討論②
- 第4回 個別発表・討論③
- 第5回 個別発表・討論④
- 第6回 個別発表・討論⑤
- 第7回 個別発表・討論⑥
- 第8回 個別発表・討論⑦
- 第9回 個別発表・討論⑧
- 第10回 個別発表・討論⑨
- 第11回 個別発表・討論⑩
- 第12回 個別発表・討論⑪
- 第13回 個別発表・討論⑫
- 第14回 個別発表・討論⑬
- 第15回 卒研テーマ発表会

履修上の注意点

発表者以外のゼミ生には質問・コメントが必須です。

教科書

特になし。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

参加度は発表に対する質問・コメントを含みます。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

卒業論文の書き方と構想

授業の到達目標

・卒業論文として扱う研究テーマを定め、それについての学習を進める。・卒業論文作成に向けた、先行研究などの情報収集・整理をおこなう。・情報収集や整理の仕方について、効率的な方法を学ぶ。

授業の概要

卒業論文作成の準備段階として、各自が自分自身で決めたテーマのもとで資料や文献の調査と収集を行いつつ、特に文献を基にした論点整理を進める。そしてそれらの進捗状況をそれぞれ報告する。

準備学習(予習・復習)

個別にテーマは違っていても、情報の集め方・処理の仕方や論の立て方は皆同様であるので、他の報告を聞きながら自分の課題としてとらえ、自分の学習に活かすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 個別研究テーマの設定と資料収集(1)
- 第3回 個別研究テーマの設定と資料収集(2)
- 第4回 個別研究テーマの設定と資料収集(3)
- 第5回 個別研究テーマの設定と資料収集(4)
- 第6回 個別研究テーマの設定と資料収集(5)
- 第7回 個別研究テーマの設定と資料収集(6)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 卒業論文の構成を練る(1)
- 第10回 卒業論文の構成を練る(2)
- 第11回 卒業論文の構成を練る(3)
- 第12回 卒業論文の構成を練る(4)
- 第13回 卒業論文の構成を練る(5)
- 第14回 卒業論文の構成を練る(6)
- 第15回 まとめ、春期休業期間中の課題と計画

履修上の注意点

教科書

参考書

適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(経) &lt;\*k&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ランビーノ, パラガス

テーマ

「市場至上主義」にとって替わる「脱成長」について学習すること。

授業の到達目標

テキストが主張する「脱成長」の内容を理解し、その有用性と問題点を考察しながら、これらを自分の言葉で説明し、自分の考えを深めることです。

授業の概要

テキストは三章構成で、フランス人経済学者、哲学者であるラトウーシュの脱成長論の内容を簡潔に説明しています。第一章は「時間の多様性の喪失」、続く第二章は「本来の時間を取り戻す」、最終章は「同じ世界で別の生き方をする」というタイトルで、地域主義、地域通貨やコミュニティ再生など様々なテーマを取り挙げています。発展について複眼的に捉えることのできる人材を育成することを目指しています。授業の流れは次のようになります。①初回の授業で各回の報告者を割り当てる。②授業当日に向けて報告者はレジュメを作成する(授業日の2日前にレジュメを教員に提出する)。③テキストの該当箇所を参加者全員が事前を読む。④授業当日、報告者は要約を行い、論点を整理する。⑤報告をベースとして、参加者全員で議論する。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内容

- 第1回 ガイダンス。報告者の割り当て。
- 第2回 「今こそそのとき」
- 第3回 「生産至上主義の名のもとに押しつぶされた時間」
- 第4回 「強制されたスピード」
- 第5回 「製品寿命の人為的操作」
- 第6回 「永遠を現在に: 持続的な発展」
- 第7回 「仮想的な時間」
- 第8回 「時間を売るということ」
- 第9回 「時空間の再構築」
- 第10回 「より良く生きるために働く量を減らそう」
- 第11回 「隔たりを減らし、ゆとりを見出す」
- 第12回 「地域活動の再発見」
- 第13回 「時間を戻す」
- 第14回 「同じ世界で別の生き方をする」
- 第15回 ドキュメンタリー映画の鑑賞

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前読んで授業に備えてください。

教科書

脱成長(ダウンシフト)のとき: 人間らしい時間をとりもどすために

著者: S・ラトウーシュ著、D・アルパジェス著、佐藤直樹訳、佐藤薫訳

出版社: 未来社

出版年: 2014年

ISBN: 978-4624011918

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (35%)

参加度 (65%)

特になし。

## 2017 Syllabus

科目名 **薬理学(救急) <Zb>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 天野 博夫

テーマ

日常生活と薬・救急医療と薬

授業の到達目標

「薬の働き」との関連から、人間の生理機能やその障害に関する理解を深める。日常生活と薬の存在に関して、「有効性」と「安全性」の意味を認識できる。

授業の概要

前半7回は薬理学に関する基本的な概念を中心に、後半は救急医療に関連の深い薬物の働きを中心に解説する。

準備学習(予習・復習)

その日の講義内容がこれまでに他の科目で学んだ事柄に関連していないかを思い出してみることが望ましい。

内 容

- 第1回 基礎知識の確認と整理1
- 第2回 基礎知識の確認と整理2
- 第3回 薬理作用の基礎・薬の作用点
- 第4回 薬物投与と薬物動態1
- 第5回 薬物投与と薬物動態2
- 第6回 自律神経系作用薬1
- 第7回 自律神経系作用薬2・ホルモン
- 第8回 薬物の有害作用
- 第9回 中毒
- 第10回 心肺蘇生の薬理
- 第11回 救急医療の薬理1
- 第12回 救急医療の薬理2
- 第13回 よく用いられる日常薬1
- 第14回 よく用いられる日常薬2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト 第2巻

著者:

出版社: へるす出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 100 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急症候学Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 富士原 彰・大石 泰男・小畑 仁司・西本 泰久	
テーマ 症候別に病態を学ぶ	
授業の到達目標 救急症候・病態生理学	
授業の概要 救急で遭遇する救急疾患	
準備学習(予習・復習) 救急救命士テキストの該当する箇所を予習しておくこと。講義終了後は不明な点をなくしておくこと。	
内 容	
第1回 胸痛・動悸・不整脈 【大石 泰男】	
第2回 心肺停止① 【西本 泰久】	
第3回 喀血・痙攣 【大石 泰男】	
第4回 心肺停止② 【西本 泰久】	
第5回 意識障害 【小畑 仁司】	
第6回 頭痛・めまい 【小畑 仁司】	
第7回 運動障害・感覚障害 【小畑 仁司】	
第8回 ショック・循環不全 【西本 泰久】	
第9回 喀血・痙攣 【大石 泰男】	
第10回 呼吸困難・発熱 【西本 泰久】	
第11回 性器出血・鼻出血 【大石 泰男】	
第12回 腹痛・吐下血・血尿 【富士原 彰】	
第13回 嘔吐・下痢・歯痛 【富士原 彰】	
第14回 鑑別診断(外科) 【富士原 彰】	
第15回 まとめ 【富士原 彰】	
履修上の注意点 外部講師の講義もあるため真摯に授業を受けること。	
教科書	
救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2015 ISBN: 9.78489E+12	
救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2015 ISBN: 9.78489E+12	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 20 )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	



## 2017 Syllabus

## 科目名 救急症候学Ⅳ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 石津 恒彦・田中 英夫	
テーマ	
整形外科・脳神経外科の病態を学ぶ	
授業の到達目標	
整形外科・脳神経外科の病態を学び救急処置ができるようになる。	
授業の概要	
救急で遭遇する外傷	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 スポーツ外傷① 解剖・発生機序と病態	
第2回 スポーツ外傷② 症状と観察、判断・応急処置等	
第3回 皮膚・軟部組織外傷① 局所解剖、皮膚の損傷	
第4回 皮膚・軟部組織外傷② 皮膚の損傷、特殊な外傷	
第5回 骨盤・四肢外傷① 骨盤骨折	
第6回 骨盤・四肢外傷② 四肢外傷	
第7回 脳神経① 神経系の構造・機能、観察・判断等	
第8回 脳神経② 応急処置、おもな疾患等	
第9回 脊椎・脊髄外傷① 解剖、発生機序、主な外傷	
第10回 脊椎・脊髄外傷② 症状と観察・応急処置、運送等	
第11回 筋・骨格系の疾患① 構造と機能、観察と判断	
第12回 筋・骨格系の疾患② おもな疾患、応急処置と搬送	
第13回 腰痛・背部痛① 原因と解剖生理、問診のポイント	
第14回 腰痛・背部痛② 観察と判断、応急処置・搬送等	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
外部講師であるため、不真面目な態度や遅刻などがあった場合は、受講と認めない場合がある。	
教科書	
救急救命士標準テキスト第9版 上巻	
著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会	
出版社： へるす出版	
出版年： 2015	ISBN: 9.78489E+12
救急救命士標準テキスト第9版 下巻	
著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会	
出版社： へるす出版	
出版年： 2015	ISBN: 9.78489E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (20)	小テスト (30)
授業中課題 (20)	授業中発表等 (30)
参加度 (0)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急処置各論 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 西本 泰久・西本 香王里	
テーマ 薬剤投与とメディカルコントロール	
授業の到達目標 薬剤の作用・効果などを知り、実際の救急現場での投与方法を知る。また、救急現場におけるメディカルコントロール体制に関して説明できる。各種プロトコルに関して学習する。	
授業の概要 講義	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 心肺停止前後の病態 第2回 特定行為が適応となる心肺停止の病態 第3回 薬物の作用 第4回 薬物の吸収・代謝・排泄 第5回 薬剤の投与経路と投与方法、薬物の有害作用 第6回 薬剤の投与の原則、薬事法と医薬品 第7回 輸液製剤、自律神経薬 第8回 心肺停止に用いられる代表的な薬剤 第9回 医療機関で行われる二次救命処置 第10回 心肺停止と特定行為のプロトコル1 第11回 心肺停止と特定行為のプロトコル2 第12回 事後検証とウツタイン様式 第13回 救急救命処置とメディカルコントロール1 第14回 救急救命処置とメディカルコントロール2 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 救急救命士標準テキスト 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急処置各論Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 久保山 一敏・関根 和弘	
テーマ 救急処置や現場での判断の背景を理解する。	
授業の到達目標 救急処置を行うに当たって、その背景にあるハードウェア、ソフトウェア、社会的因子の理解を深める。	
授業の概要 講義、演習、グループワークを適宜組み合わせで行う。なおその時々ホットな社会的話題に関しては積極的に取り上げる。そのため、授業の内容・順番は臨機応変に変更することがありうる。	
準備学習(予習・復習) 関連分野の復習を30～60分行うこと。	
内 容 第1回 情報記述演習Ⅰ(久保山) 第2回 バイタルサインの記録(久保山) 第3回 情報記述演習Ⅱ(久保山) 第4回 最近の社会の話題Ⅰ(久保山) 第5回 我が国における災害時の救急医療体制Ⅰ(久保山) 第6回 災害現場における現場活動(関根) 第7回 災害医療における救急救命士の業務(関根) 第8回 我が国における災害時の救急医療体制Ⅱ(久保山) 第9回 BVMの構造と機能Ⅰ(久保山) 第10回 BVMの構造と機能Ⅱ(久保山) 第11回 最近の文献紹介Ⅰ(久保山) 第12回 最近の社会の話題Ⅱ(久保山) 第13回 最近の文献紹介Ⅱ(久保山) 第14回 最近の社会の話題Ⅲ(久保山) 第15回 まとめ・試験	
履修上の注意点 欠席、授業中のマナーは最終成績に反映させる。	
教科書 救急隊員標準テキスト 改訂第3版 著者： 救急隊員用教本作成委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2007 ISBN： 9.78489E+12 救急救命士標準テキスト 改訂第9版 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2015 ISBN： 9.78489E+12	
参考書 JPTECガイドブック 改訂第2版 著者： 出版社： へるす出版 出版年： 2016 ISBN：	
成績評価 試験・レポート (60%) 小テスト (25%) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (15%) 小テスト、レポートは、授業の進捗状況によって事前アナウンスのうえ適宜実施する。	

## 2017 Syllabus

科目名 救急症候学V

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保山 一敏

テーマ

外傷・外因性損傷総覧

授業の到達目標

外傷・外因性損傷全般について、提示された実症例を通じて理解を深める。

授業の概要

救急症候学 I・II、環境障害の各授業で学んだ知識を深めるため、実症例を提示して重要点・問題点について考察する。

準備学習(予習・復習)

標準テキストの復習を30～60分程度行う。

内 容

第1回 外傷総論

第2回 頭部外傷

第3回 顔面・頸部外傷

第4回 脊椎・脊髄外傷

第5回 胸部外傷

第6回 腹部外傷

第7回 骨盤外傷

第8回 四肢外傷

第9回 皮膚・軟部組織外傷

第10回 熱傷

第11回 化学損傷、電撃傷・雷撃傷

第12回 急性中毒 I

第13回 " II

第14回 環境障害

第15回 まとめ・試験

履修上の注意点

欠席、授業中のマナーは最終成績に反映させる。

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト

著者:

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN:

参考書

JPTECガイドブック 改訂第2版

著者:

出版社: へるす出版

出版年: 2016

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト (35%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (15%)

小テストは、授業の進捗状況に従って事前アナウンスのうえ適宜実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 救急症候学VI

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 西本 泰久	
テーマ 救急症候・病態生理学	
授業の到達目標 救急における様々な状態を理解しそれぞれの症候に関しての、病態整理に関して理解する。	
授業の概要 講義	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 処置拡大の変遷と新たな処置拡大についての概要。傷病者への説明と医療倫理について。	
第2回 糖尿病の病態と治療。低血糖の病態。	
第3回 ブドウ糖の投与と合併症。意識障害をきたす疾患とその鑑別。	
第4回 各種ショック等の病態と治療	
第5回 ショックの原因別の分類・鑑別と輸液の効果。輸液と生体の反応と合併症。	
第6回 メディカルコントロールとオンラインでの傷病者情報の効率的な伝達。	
第7回 血糖測定に関する基本的手技	
第8回 静脈路確保と輸液に関する基本的手技	
第9回 静脈路確保と輸液に関する基本的手技	
第10回 血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与のシナリオ訓練	
第11回 血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与のシナリオ訓練	
第12回 心肺機能停止前の静脈路確保と輸液のシナリオ訓練	
第13回 心肺機能停止前の静脈路確保と輸液のシナリオ訓練	
第14回 まとめ	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 救急救命士標準テキスト 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 小児科学(救急)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉田 匡人

テーマ

小児科学

授業の到達目標

小児救急医療の特性

授業の概要

小児における救急疾患を学ぶ

準備学習(予習・復習)

救急救命士標準テキストに準じる

内 容

第1回 小児の特徴

第2回 観察と判断 応急処置と搬送法

第3回 おもな疾患 1熱性痙攣 4髄膜炎 5脳症、脳炎

第4回 おもな疾患 2クループ、急性喉頭蓋炎 3喘息

第5回 おもな疾患 6腸重積 7溶血性尿毒症症候群 8乳幼児突然死症候群

第6回 おもな疾患 9川崎病 10発疹性感染症 11流行性耳下腺炎 12伝染性膿か疹 13ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群

第7回 おもな疾患 14被虐待児症候群

第8回 まとめ

第9回 試験

履修上の注意点

外部講師であるため、不真面目な態度や遅刻などがあった場合は、受講と認めない場合がある。

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

## 2017 Syllabus

科目名 **精神医学(救急)**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 竹村 隆太

テーマ

精神医学総論(ICD10に準拠し、具体的なケースを通じた精神疾患の病態への理解、精神医学の歴史、関連する社会制度など)

授業の到達目標

様々な精神疾患について具体的なイメージが持て、救急救命の現場に生かせるようになること

授業の概要

講義形式、スライドの提示、プリントの配布

準備学習(予習・復習)

精神医学に関連した、ご自身が興味を持てるテーマを一つ決めて追求してみましょう。第8回目のテスト時に、その成果を記述していただいても構いません。

内 容

第1回 精神医学総論(関連する社会制度、その歴史、対象となる状態像:興奮・混迷・自殺企図ほか)

第2回 いろいろな病態 ①統合失調症圏

第3回 いろいろな病態 ②躁うつ病圏

第4回 いろいろな病態 ③神経症圏、児童・青年期精神障害、人格障害

第5回 いろいろな病態 ④薬物依存、老年期精神障害

第6回 いろいろな病態 ⑤摂食障害、児童青年期精神障害

第7回 いろいろな病態 ⑥器質性精神障害など

第8回 テスト

履修上の注意点

受講のマナー:学外の医師の講義である。実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。講師に対して失礼のない授業態度を期待する。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 産婦人科学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

臨床産科学

授業の到達目標

救急救命士に必要な産科・周産期救急医療を学ぶと共に、臨床産科学・婦人科学を学ぶ。

授業の概要

講義を通して、妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児・新生児の正常な状態と病態を学ぶ。演習を通して、救急搬送時に必要となる病歴の聴取方法、観察項目・方法、対処方法について、理解を深める。そして医療機関の選定や搬送時に注意すべき事項などについて理解を深める。

準備学習(予習・復習)

・各授業回に該当する教科書の内容は事前に確認する。・演習(将来的な実践)に向けて講義内容を復習する。

内 容

- 第1回 我が国の産科(周産期)救急医療の実態
- 第2回 生殖器の解剖・生理・妊娠時の母体と胎児の変化(1)
- 第3回 妊娠時の母体と胎児の変化(2)
- 第4回 分娩経過(1)
- 第5回 分娩経過(2)産後の変化
- 第6回 周産期医療にかかわる搬送とその対応(演習)
- 第7回 周産期医療にかかわる搬送とその対応(演習)
- 第8回 婦人科疾患とまとめ

履修上の注意点

事前課題を期日までに提出の上、履修ください。【9月15日(金)】「わが国の周産期救急」に関するメディア、新聞などの記事を1つ以上集めてレポートする(A4レポート用紙2枚以内)本科目は実習を伴いますので、座学を欠席し実習に参加するだけの知識を有しないと判断した場合、実習に参加させないことがありますので注意して下さい。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト 上巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: 株式会社 へるす出版

出版年: 2015

ISBN:

改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: 株式会社 へるす出版

出版年: 2015

ISBN:

参考書

病気がみえる10 産科

著者: 井上裕美ら編

出版社: メディックメディア

出版年: 2013

ISBN:

改訂7版 母子保健マニュアル

著者: 高野陽編

出版社: 南山堂

出版年: 2010

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

## 科目名 救急救命実習(同乗)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 秋期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 関根 和弘.北小屋 裕.千田 いずみ.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭	
テーマ 救急車同乗実習	
授業の到達目標 救急車同乗実習により、実際の救急現場活動を見学することによって、出勤から現場活動、搬送、医療機関引き継ぎ、救急活動記録記載や救急訓練などの救急業務について習得することを目的とする。	
授業の概要 救急車同乗実習協力消防本部にて、実際の救急隊に同乗し救急車出場から現場対応、救急車内活動・搬送、病院における活動を体験する。	
準備学習(予習・復習) 救急隊の活動の概要をwebや様々な媒体で調査しておくこと。現場活動を実施した症例は、テキスト等で確認すること。	
内 容 第1回 事前学習及びガイダンス 第2回 救急車同乗実習 第3回 救急車同乗実習 第4回 救急車同乗実習 第5回 救急車同乗実習 第6回 救急車同乗実習 第7回 救急車同乗実習 第8回 救急車同乗実習	
履修上の注意点 この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。集中講義を行うこともある。	
教科書	
参考書 救急隊員標準テキスト 改訂第3版 著者： 救急隊員用教本作成委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2007 ISBN： 9.78489E+12 救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2015 ISBN： 9.78489E+12 救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2015 ISBN： 9.78489E+12	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 20 ) 参加度 ( 80 ) 各消防本部からの個人の報告受けて評価を実施する。60%	

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命実習(病院)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹・北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

医療機関の現場にて展開される救急医療の現状の把握およびそれらに必要な技術の習得。

授業の到達目標

救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係る技術の習得を主体とすること。さらに既習の知識および技術を駆使し介助等を通じて診療の補助に対する理解を深め観察・判断能力を高めることを目的とする。

授業の概要

実習先医療機関の指示による。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション、成人看護座学
- 第2回 学内成人看護演習
- 第3回 夏期病院実習
- 第4回 春期病院実習
- 第5回 各期病院実習後報告検討会

履修上の注意点

この単位履修は、救急救命実習Ⅲの履修状況および履修態度身だしなみとうが実習に不適切と担当教員が判断した場合および、成人看護座学演習に欠席した者は、実習に参加することは出来ない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

医療機関実習担当者の評価を参考にする。

## 2017 Syllabus

## 科目名 管理会計論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ マネジメントの本質を理解する	
授業の到達目標 管理会計を通して、組織のリーダーが何を行っているのかということ学ぶ	
授業の概要 テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある。	
準備学習(予習・復習) 復習を必ずして、次の講義へ臨んでもらいたい。	
内 容 第1回 ガイダンス 会計的思考と管理会計 第2回 財務諸表の分析1 第3回 財務諸表の分析2 第4回 短期利益計画1 第5回 短期利益計画2 第6回 予算編成と予算統制 第7回 事業部業績評価 第8回 コストダウンの方法 第9回 投資意思決定の諸問題1 第10回 投資意思決定の諸問題2 第11回 在庫費用の管理1 第12回 在庫費用の管理2 第13回 マーケティング会計 第14回 経営戦略と管理会計 第15回 まとめ	
履修上の注意点 私語は、厳に慎んで下さい。他の受講者にとって、これ以上の迷惑はありません。	
教科書 管理会計を語る 著者： 西澤脩 出版社： 中央経済社 出版年： ISBN： 参考書 経営管理会計 著者： 西澤脩 出版社： 中央経済社 出版年： ISBN： 管理会計 著者： 岡本清 他 出版社： 中央経済社 出版年： ISBN： 情報化社会における管理会計の役割 著者： 河野充央 出版社： 税務経理協会 出版年： ISBN：	
成績評価	

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( 10 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( 10 )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 臨床医学総論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 久保山 一敏	
テーマ 臨床医学総論・医学用語	
授業の到達目標 診療情報管理士認定試験レベルの臨床医学の知識を身につける。	
授業の概要 この授業では、解剖生理学や臨床医学などを通して学んできた人体の構造と機能、さまざまな組織や器官の疾病と診断名、治療方法などについて、診療記録を管理するのに必要な専門用語をキーワードとして、医学と医療に関するこれまでの学習のまとめを行う。また、授業の前半では、先天奇形や染色体異常、および外傷、中毒についても講義する。	
準備学習(予習・復習) テキストの復習を30~60分おこなうこと。	
内 容 第1回 先天奇形、変形+および染色体異常: 1. 神経系の先天奇形~5. 消化器系のその他の先天奇形 第2回 同上 : 6. 生殖器の先天奇形~9. 染色体異常、他に分類されないもの 第3回 損傷、中毒、その他の外因の影響: 1. 軟部組織の損傷 第4回 同上 : 2. 各部位の損傷 第5回 同上 : 3. 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒、4. 薬用を主としない物質の毒作用 第6回 「医学用語」: 臨床医学各論 I のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第7回 同上 : 臨床医学各論 I のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第8回 同上 : 臨床医学各論 II のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第9回 同上 : 臨床医学各論 III のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第10回 同上 : 臨床医学各論 IV のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第11回 同上 : 臨床医学各論 V のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第12回 同上 : 臨床医学各論 VI のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第13回 同上 : 臨床医学各論 VII のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第14回 同上 : 臨床医学各論 VIII のまとめを行いながら、医学用語を解説する 第15回 同上 : 臨床医学総論のまとめを行いながら、医学用語を解説する	
履修上の注意点 欠席、授業中のマナーに関しては最終成績に反映させる。	
教科書 診療情報管理 I 第7版 著者: 出版社: 日本病院会 出版年: 2014 ISBN: 診療情報管理 II 第7版 著者: 出版社: 日本病院会 出版年: 2014 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート (50%) 授業中課題 (0) 参加度 (15%) 小テスト (35%) 授業中発表等 (0) 小テストは授業の進捗状況に従って、事前アナウンスのうえ適宜実施する。	

## 2017 Syllabus

科目名 **ロジスティクス論**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平尾 毅	

## テーマ

ロジスティクスの基礎理論と実践を学習する。

## 授業の到達目標

生産・販売拠点のグローバル化に伴い、サプライチェーンの再構築が注目される中、ロジスティクスの基礎を理解できる。現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の獲得が期待される。

## 授業の概要

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの基礎を理解した上で、表計算ソフトウェアを用いて実践的な学習を行います。まず、実際の企業で行われている成功事例を通してロジスティクス論の基礎を理解します。その上で、表計算ソフトウェア(エクセル)を用いて実践的な学びを行います。就職後の現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の修得が期待されます。

## 準備学習(予習・復習)

復習として配布資料を自筆ノートにまとめてください(1時間程度)。

## 内 容

- 第1回 経営環境の変化とサプライチェーン・マネジメント(サプライチェーン・マネジメントの必要性を学ぶ)
- 第2回 サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの概要(ロジスティクスと比較しながら、サプライチェーン・マネジメントの理解を深める)
- 第3回 サプライチェーン・マネジメントの事例(サプライチェーン・マネジメントの成功事例から、そのエッセンスを学ぶ)
- 第4回 サプライチェーンのオペレーション①(サプライチェーン・マネジメントの実現を困難にしている要因を学ぶ)
- 第5回 サプライチェーンのオペレーション②(典型的なサプライチェーン・マネジメントの戦略を学ぶ)
- 第6回 需給管理(需要と供給を一致させるために考慮すべき事項を学ぶ)
- 第7回 在庫管理(在庫管理の目的と方法について学ぶ)
- 第8回 生産管理(生産計画と工程管理の概要を学ぶ)
- 第9回 調達管理(調達管理の課題とその解決策について学ぶ)
- 第10回 グローバル・サプライチェーン・マネジメント(グローバル・サプライチェーンの仕組みを構築するポイントを学ぶ)
- 第11回 PC演習: 需要予測①(変数減少法)
- 第12回 PC演習: 需要予測②(数量化1類)
- 第13回 PC演習: 在庫管理(経済的発注量)
- 第14回 PC演習: 生産管理(線形計画法)
- 第15回 PC演習問題

## 履修上の注意点

第11回授業からパソコン教室でPCを使った演習を行います。授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。

## 教科書

使用しない。毎回の授業で配布する資料をテキストの代用とする。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

サプライチェーン経営入門

著者: 藤野直明

出版社: 日経文庫

出版年: 1999年

ISBN: 978-4532107925

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクス管理入門

著者: 藤川裕晃

出版社: 日刊工業新聞社

出版年: 2008年

ISBN: 978-4526061325

改訂版サプライチェーンマネジメントの理論と実践

著者： EYアドバイザー

出版社： 幻冬舎

出版年： 2014年

ISBN： 978-4344971332

戦略的サプライチェーンマネジメント：競争優位を生み出す5つの原則

著者： S.コーエン・J.ルーセル

出版社： 英治出版

出版年： 2015年

ISBN： 978-4862761996

---

成績評価

試験・レポート（70%）

小テスト（0%）

授業中課題（15%）

授業中発表等（0%）

参加度（15%）

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 組織とメンタルヘルス

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 香坂 千佳子	
テーマ	
<p>ストレス社会と言われる現代社会では、企業にとってメンタルヘルスの問題は無視することはできない。メンタルヘルスを学ぶことがどうして組織にとって重要なのかを理解する。</p>	
授業の到達目標	
<p>個人が集団の中で自分らしく生きていくための健康マネジメントのうち、組織におけるメンタルヘルスの問題をとりあげる。会社や職場等の組織の中で、私たちは様々なメンタルヘルス上の問題と出合う。どのような問題があるかを概観し、早期発見や回復の手立てを考える。メンタルヘルス、特に「セルフケア」を理解し修得する。</p>	
授業の概要	
<p>職場におけるメンタルヘルスの重要性とセルフケア、ストレス対処法などを学ぶ。毎回簡単な小テストを授業前に行う。(履修人数により、授業方法を変更する場合もある)</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>常に、新聞、ニュースなどでメンタルヘルス、健康に関係する情報収集をするようにすること。</p>	
内 容	
第1回	はじめに:授業方針(受講上の注意、評価の方法) メンタルヘルスケアの意義
第2回	メンタルヘルスとは
第3回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ①
第4回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ②
第5回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ③こころと行動
第6回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ④こころと脳
第7回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ⑤こころと脳
第8回	産業領域における職場のメンタルヘルス
第9回	セルフケアの重要性 ①
第10回	ストレスへの気づき
第11回	ストレスの対処・軽減法(コミュニケーション編)①
第12回	ストレスの対処・軽減法(コミュニケーション編)②
第13回	ストレスの対処・軽減法(コミュニケーション編)③
第14回	ストレスの対処・軽減法(コミュニケーション編)④
第15回	まとめテスト
履修上の注意点	
<p>(1)遅刻は厳禁(講義スタート時までに教室内に着席)(2)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(3)事前準備レポートは、講義を進めていくために重要なエッセンスとなるため、必ず提出すること。(4)欠席・遅刻の多い学生は、単位取得は難しい。(5)態度の悪い学生に対しては、退出してもらう。</p>	
教科書	
<p>メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストⅢ種 セルフケアコース&lt;第3版&gt;</p>	
<p>著者: 大阪商工会議所編</p>	
<p>出版社: 中央経済社</p>	
<p>出版年: 2013 ISBN: 978-4502071805</p>	
参考書	
<p>メンタルヘルスを学ぶ</p>	
<p>著者: 村井俊哉・森本恵子・石井信子</p>	
<p>出版社: ミネルヴァ書房</p>	
<p>出版年: 2015 ISBN: 978-623-07247-7</p>	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 40 )	
<p>授業前に小テスト+宿題+課題=60% 出席回数+授業中=40%</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 **病院実務実習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

病院実務実習

授業の到達目標

病院実務実習を体験することにより、①実践的な専門知識・技術の構築、②社会人としてのマナーの習得、③職業観・勤労観を得ること、④自己分析の機会を得ることを目標とする。

授業の概要

病院実習先において、実際の病院業務や診療情報管理業務を体験する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 事前学習及びガイダンス
- 第2回 病院実務実習
- 第3回 病院実務実習
- 第4回 病院実務実習
- 第5回 病院実務実習
- 第6回 病院実務実習
- 第7回 病院実務実習
- 第8回 事後報告会

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 80 )

各病院実習先からの個人の報告も加味して評価を実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 **グローバルマーケティング**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 今井 まりな	
テーマ 多国籍企業のマーケティング活動	
授業の到達目標 グローバル・マーケティングに関連する基本的な知識を習得すること。グローバル・マーケティングの知識を活用し、実際の多国籍企業のマーケティング活動を分析することができる。	
授業の概要 この授業では、多国籍企業経営の考え方について講義を行う。まず多国籍企業のマーケティング活動に関する各トピックについて検討を行う。その後、トピック別ではなく企業の業態別に、企業が国際経営を行う際に生じる課題を整理していく。授業では、上記の内容について、多国籍企業固有の問題や考え方に重点を置き、具体的な事例を交えて説明していく。	
準備学習(予習・復習) 企業のグローバル・マーケティング活動に関する知識を身につけること。多国籍企業経営について、一国国内での水準で考えることとの違いを理解すること。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 マーケティングマネジメントの基本枠組み 第3回 グローバリゼーションとマーケティング 第4回 文化の違いと購買行動 第5回 グローバルSTP 第6回 グローバル市場参入 第7回 グローバル製品政策 第8回 グローバル・ブランディング(1) 第9回 グローバル・ブランディング(2) 第10回 グローバル価格決定 第11回 グローバル流通チャネル戦略 第12回 グローバルプロモーション 第13回 グローバル小売の店舗戦略 第14回 非製造業のグローバル化 第15回 まとめと小テスト	
履修上の注意点	
教科書 1からのグローバル・マーケティング 著者： 小田部正明・栗木契・太田一樹 出版社： 碩学舎 出版年： 2017 ISBN： 978-4502000005	
参考書 使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 50 ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **財務管理論**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ	財務諸表を分析して、企業の評価指標である、収益性、生産性、流動性の意義とその活用法を学ぶ。
授業の到達目標	資金の流れと財務諸表の役割とを関連づけて理解する。
授業の概要	レポートや小テストなどを交えながら、テキストの沿って進行する。日経新聞や日経ビジネスなどの経済紙誌からタイムリーな話題を随時紹介する。
準備学習(予習・復習)	復習を必ず行ってから、次の時間の講義に臨んでもらいたい。
内 容	<p>第1回 ガイダンス (1)講義の進め方や成績評価等について説明 (2)資金管理と財務諸表の意義について (3)財務管理の概要</p> <p>第2回 収益性の分析(1)</p> <p>第3回 収益性の分析(2)</p> <p>第4回 収益性の分析(3)</p> <p>第5回 収益性の分析(4)</p> <p>第6回 生産性の分析(1)</p> <p>第7回 生産性の分析(2)</p> <p>第8回 生産性の分析(3)</p> <p>第9回 生産性の分析(4)</p> <p>第10回 流動性の分析(1)</p> <p>第11回 流動性の分析(2)</p> <p>第12回 流動性の分析(3)</p> <p>第13回 流動性の分析(4)</p> <p>第14回 財務管理に対する鳥瞰的考察</p> <p>第15回 講義全体のまとめ</p>
履修上の注意点	私語は厳に慎んで下さい。言うまでもなく、他の受講生にとって、これ以上に迷惑なものはありません。
教科書	<p>これだけ！ B/SとP/L どこをどう見たら何がわかる？</p> <p>著者： 見田村 元宣</p> <p>出版社： すばる舎リンクエージ</p> <p>出版年： ISBN:</p>
参考書	
成績評価	
試験・レポート (40)	小テスト (10)
授業中課題 (10)	授業中発表等 ( )
参加度 (40)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 診療情報分類法演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 尾関 美智子	
テーマ 国際疾病分類(ICD)技術の修得	
授業の到達目標 具体的なコーディングを行い、コーディング技術を修得する。	
授業の概要 診療記録のなかにある疾病や医療行為に関する情報を収集・解析するために利用される、世界保健機関(WHO)が制定した国際疾病分類(ICD)によるコーディングの方法を学ぶ。医学系科目や国際疾病分類概論などで学んだ知識を活かし、ICD-10やICD-9-CMを利用した具体的な分類手法を演習形式で身につける。	
準備学習(予習・復習) 新聞等に掲載される疾病に関する記事に関心を持ち、日々学習に努めてください。	
内 容 第1回 診療情報分類法演習のガイダンス 第2回 第I章 感染症および寄生虫症のコーディング演習 第3回 第III章 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害のコーディング演習① 第4回 第III章 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害のコーディング演習② 第5回 第II章 新生物のコーディング演習① 第6回 第II章 新生物のコーディング演習② 第7回 第IV章 内分泌、栄養および代謝疾患のコーディング演習 第8回 第V章 精神および行動の障害のコーディング演習 第9回 第VI章 神経系の疾患のコーディング演習 第10回 第VII章 眼および付属器の疾患のコーディング演習 第11回 第VIII章 耳および乳様突起の障害のコーディング演習 第12回 第IX章 循環器系の疾患のコーディング演習① 第13回 第IX章 循環器系の疾患のコーディング演習② 第14回 第X章 呼吸器系の疾患のコーディング演習① 第15回 第X章 呼吸器系の疾患のコーディング演習② 第16回 第XI章 消化器系の疾患のコーディング演習① 第17回 第XI章 消化器系の疾患のコーディング演習② 第18回 第XII章 皮膚および皮下組織の疾患のコーディング演習 第19回 第XIII章 筋骨格系および結合組織の疾患のコーディング演習 第20回 第XIV章 腎尿路生殖器系の疾患のコーディング演習① 第21回 第XIV章 腎尿路生殖器系の疾患のコーディング演習② 第22回 第XV章 妊娠、分娩および産褥のコーディング演習 第23回 第XVI章 周産期に発生した病態のコーディング練習 第24回 第XVII章 先天奇形、変形および染色体異常のコーディング演習 第25回 第XVIII章 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもののコーディング演習 第26回 第XIX章 損傷・中毒およびその他の外因の影響のコーディング演習 第27回 第XX章 傷病および死亡の外因のコーディング演習 第28回 第XXI章 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用のコーディング演習 第29回 原死因コーディング 第30回 診療情報分類法演習のまとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(60)	小テスト(0)



## 2017 Syllabus

科目名 **診療情報総合演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

「診療情報管理士」認定試験に向けた受験対策

授業の到達目標

「診療情報管理士」認定試験の合格をめざす

授業の概要

認定試験受験科目のなかで不得意な科目を重点的に学習し受験に備える。

準備学習(予習・復習)

授業中にやり残したこと、理解が不十分な事柄について必ず復習すること。

内 容

- 第1回 診療情報総合演習ガイダンス
- 第2回 診療情報総合演習①
- 第3回 診療情報総合演習②
- 第4回 診療情報総合演習③
- 第5回 診療情報総合演習④
- 第6回 診療情報総合演習⑤
- 第7回 診療情報総合演習⑥
- 第8回 診療情報総合演習⑦
- 第9回 診療情報総合演習⑧
- 第10回 診療情報総合演習⑨
- 第11回 診療情報総合演習⑩
- 第12回 診療情報総合演習⑪
- 第13回 診療情報総合演習⑫
- 第14回 診療情報総合演習⑬
- 第15回 診療情報総合演習まとめ

履修上の注意点

無断欠席はしないようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **経済地理学**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

経済地理学の基礎的な知識や概念について学習するとともに、経済現象を空間的側面から捉える考え方を理解する。

授業の到達目標

経済地理学の基礎的な知識や概念について学習するとともに、経済現象を空間的側面から捉える考え方を理解する。

授業の概要

生産や販売の拠点がどのような場所に立地するかは、当該企業の経営の観点から見て重要であるばかりでなく、産業組織の観点から見ても重要である。本講義では、企業の立地や産業の集積等など基礎的な理論を習得した上で、生産、消費等、さまざまな経済活動において見られる空間的差異がなぜ生じるのか、そして、それらの差異が経済にとってどのような意味を持つのかについて具体的な事例を上げながら講述する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション：経済地理学の考え方
- 第2回 世界の人口と経済
- 第3回 都市と都市圏
- 第4回 都市システムと経済
- 第5回 チューネンの農業立地論
- 第6回 ウェーバーの工業立地論
- 第7回 クリスタラーの中心地理論
- 第8回 商業・サービス業の立地
- 第9回 オフィスの立地
- 第10回 公共施設の立地
- 第11回 観光地の立地
- 第12回 中心市街地の活性化
- 第13回 地域間格差と人口移動
- 第14回 情報化の進展と地域構造の変化
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 70 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 地域経済論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 岡田 知弘	
テーマ 地域経済の仕組みと地域づくりの経済学を学ぶ	
授業の到達目標 皆さんは、今後、働き生活する場所がどこになろうと、地域社会の担い手として、地方自治体や国の主権者として、一生、生きることとなります。その際に必要不可欠な、地域経済や地域社会、地域開発政策についての基礎知識と基本的な考え方の習得をめざすことが、本講義の達成目標です。	
授業の概要 本講義では、最初に地域経済を把握するための代表的な理論について説明します。次に、現代日本の地域経済と地域開発をめぐる問題を、具体的な事例を紹介しながら講述します。そのうえで、現代の地域再生を図るためのキイ概念である「地域内再投資力」について説明し、この概念を軸に、公共事業や企業誘致政策を基本にした過去の地域開発政策、市町村合併政策の限界を指摘するとともに、地域再生のあるべき方向について具体的な事例を用いて展望したいと思います。講義は、毎回レジュメを配布しながら進めます。	
準備学習(予習・復習) 予習として、前回の講義のレジュメや参考文献に目を通しておくこと。現代日本の地域の実態や問題について、日頃から新聞や雑誌記事に目を通しておいてください。	
内 容 第1回 ガイダンス 地域とは何か 第2回 地域をとらえる目(1) 都市と農村 第3回 地域をとらえる目(2) 地域的不均等発展 第4回 地域をとらえる目(3) 都市形成論 第5回 地域をとらえる目(4) 地域内再投資力論 第6回 地域開発政策の検証(1) 水資源開発 第7回 地域開発政策の検証(2) 大規模プロジェクト 第8回 地域開発政策の検証(3) 企業誘致 第9回 地域開発政策の検証(4) リゾート開発 第10回 地域の現状(1) グローバル化と地域 第11回 地域の現状(2) 市町村合併と地域 第12回 地域再生の方向(1) 農山村地域 第13回 地域再生の方向(2) 都市地域 第14回 地域再生の方向(3) 災害復興 第15回 総括 地域の持続的発展のために	
履修上の注意点 講義の理解度を高めるために、何らかの形で質疑応答の時間をとりたいと思います。受講生のみなさんの、積極的な講義参加を期待します。なお、2/3以上の出席がない場合、受験資格を認めません。また、10分以上の遅刻は欠席とみなします。	
教科書 国際化時代の地域経済学 第4版 著者： 岡田知弘・川瀬光義・鈴木誠・富樫幸一 出版社： 有斐閣 出版年： 2016年 ISBN： 9.78464E+12	
参考書 日本資本主義と農村開発 著者： 岡田知弘 出版社： 法律文化社 出版年： 1989年 ISBN： 9.78459E+12 地域づくりの経済学入門 著者： 岡田知弘 出版社： 自治体研究社 出版年： 2005年 ISBN： 9.78488E+12	



震災からの地域再生

著者： 岡田知弘

出版社： 新日本出版社

出版年： 2012年

ISBN: 9.78441E+12

「自治体消滅」論を超えて

著者： 岡田知弘

出版社： 自治体研究社

出版年： 2014年

ISBN: 9.78488E+12

---

成績評価

試験・レポート ( 60% )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40% )

講義では、毎回、質問カードを配布し、回答・提出してもらいます。成績評価の参加度は、その質問カードの記載内容によって評価します。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 中小企業論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 岡田 知弘

## テーマ

日本経済、地域経済の担い手としての中小企業の真の姿を知る

## 授業の到達目標

中小企業は、大企業と比べてブラック企業であるとか、中小企業のほとんどが下請け製造業であるという誤解が多い。本講義では、中小企業の真の姿について、①日本経済や地域経済に果たす役割、②地域の現場で活躍する中小企業、中小企業経営者像、③中小企業や中小企業政策の歴史的展開過程を知ること、理解を深め、関心をもつことを目指します。

## 授業の概要

本講義では、最初に中小企業とは何かについて、海外との比較や、中小企業の歴史的発展過程を通して、学びます。次に、中小企業政策の展開過程を、国及び京都府・市の例を紹介しながら講述します。そのうえで、現代の中小企業が抱える政策的課題を示すとともに、それらを解決するための新たな中小企業政策と、地域で活躍する中小企業、経営者の具体的な活動について紹介し、今後の日本経済、地域経済における中小企業の可能性を展望します。講義は、毎回レジュメを配布しながら進めます。

## 準備学習(予習・復習)

予習として、前回の講義のレジュメや参考文献に目を通しておくこと。中小企業の実態や問題、政策について、日頃から新聞や雑誌記事に目を通しておいてください。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス 中小企業論を学ぶ意義と講義の進め方について  
 第2回 中小企業とは何か-1 大企業と中小企業 国際比較の視点から  
 第3回 中小企業とは何か-2 日本の中小企業の歴史(1) 戦前・戦時の中小企業  
 第4回 中小企業とは何か-3 日本の中小企業の歴史(2) 平和憲法と中小企業庁の発足  
 第5回 中小企業とは何か-4 日本の中小企業の歴史(3) 高度成長と中小企業の役割  
 第6回 中小企業政策の展開-1 高度成長と中小企業基本法の制定 京都府の中小企業振興策  
 第7回 中小企業政策の展開-2 経済のグローバル化と中小企業基本法の改定 京都市の中小企業振興策の転換  
 第8回 中小企業政策の展開-3 中小企業憲章の策定から小規模企業振興基本法の制定へ 中小企業振興基本条例の広がり  
 第9回 中小企業政策の展開-4 中小企業振興基本条例・公契約条例を生かした地域づくり  
 第10回 中小企業が抱える課題-1 下請、賃金、福利厚生、人材確保  
 第11回 中小企業が抱える課題-2 金融と地域金融機関、事業承継、起業・第二創業  
 第12回 地域で活躍する中小企業-1 製造業の産業集積  
 第13回 地域で活躍する中小企業-2 商店街・小売業  
 第14回 地域で活躍する中小企業-3 被災地の現場で  
 第15回 総括 中小企業の可能性と展望

## 履修上の注意点

講義の理解度を高めるために、何らかの形で質疑応答の時間をとりたいと思います。受講生のみなさんの、積極的な講義参加を期待します。なお、2/3以上の出席がない場合、受験資格を認めません。また、10分以上の遅刻は欠席とみなします。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

中小企業・ベンチャー企業論 -- グローバルと地域のはざままで 新版

著者: 植田浩史他

出版社: 有斐閣

出版年: 2014年

ISBN: 9.78464E+12

現代中小企業の新機軸

著者: 永山利和編

出版社: 同友館

出版年: 2011年

ISBN: 9.7845E+12

中小企業振興条例で地域をつくる 増補版

著者： 岡田知弘他

出版社： 自治体研究社

出版年： 2013年

ISBN: 9.78488E+12

入門 現代日本の経済政策

著者： 岡田知弘他

出版社： 法律文化社

出版年： 2016年

ISBN: 9.78459E+12

災害の時代に立ち向かう

著者： 岡田知弘・秋山いつき

出版社： 自治体研究社

出版年： 2016年

ISBN: 9.78488E+12

---

#### 成績評価

試験・レポート ( 60% )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40% )

講義では、毎回、質問カードを配布し、回答・提出してもらいます。成績評価の参加度は、その質問カードの記載内容によって評価します。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報セキュリティ論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 杉浦 昌	

## テーマ

情報セキュリティの全体像を把握し、その考え方を理解する。

## 授業の到達目標

情報セキュリティは、情報化社会に生きる社会人が身につけておくべき基礎知識やリテラシーであるとともに、ビジネスや社会活動においても必須の要素となっている。また、理工学的な理論と技術を基盤としながらも、人の心理や行動、社会的合意形成、経済性や組織マネジメントなどとも深く関連している。さらに、攻撃者とその攻撃対象者という対立構造の中で、双方の主観的な判断が相互に影響を及ぼしあう。情報セキュリティが持つこのような多面的・学際的な特性を踏まえ、具体的な事故事例や活用事例をもとにして、実際のビジネスや社会活動において情報セキュリティ対策がどのように行われているのか、今後どのように活用が進みどのような新たな価値を生み出すのかを理解する。

## 授業の概要

テキストを基本としつつ、適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出を実施する場合がある。

## 準備学習(予習・復習)

テキストを予習して理解するとともに、授業内容の復習を欠かさないこと。

## 内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 情報セキュリティが社会に及ぼす影響(1)
- 第3回 情報セキュリティが社会に及ぼす影響(2)
- 第4回 情報セキュリティの考え方(1)
- 第5回 情報セキュリティの考え方(2)
- 第6回 技術的セキュリティ(1)
- 第7回 技術的セキュリティ(2)
- 第8回 セキュリティマネジメント(1)
- 第9回 セキュリティマネジメント(2)
- 第10回 インシデントレスポンス
- 第11回 セキュリティ教育
- 第12回 法規制と規格適合(1)
- 第13回 法規制と規格適合(2)
- 第14回 セキュリティビジネス(1)
- 第15回 セキュリティビジネス(2)

## 履修上の注意点

課題は必ず期日内に提出すること。

## 教科書

## 情報セキュリティ読本

著者： 独立行政法人情報処理推進機構

出版社： 実教出版

出版年： 2013年1月

ISBN: 9.78441E+12

## 情報セキュリティ入門—情報倫理を学ぶ人のために— 改訂版

著者： 佐々木良一、会田和弘

出版社： 共立出版

出版年： 2014年10月

ISBN: 9.78432E+12

## 参考書

## 情報セキュリティ教本 改訂版

著者： 独立行政法人情報処理推進機構

出版社： 実教出版

出版年： 2009年3月

ISBN: 9.78441E+12

情報セキュリティ白書2016

著者： 独立行政法人情報処理推進機構

出版社： 独立行政法人情報処理推進機構

出版年： 2016年7月

ISBN: 9.78491E+12

情報セキュリティの基礎

著者： 佐々木良一、手塚悟 他

出版社： 共立出版

出版年： 2011年10月

ISBN: 9.78432E+12

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **プログラミング実習**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 加藤 諒	
テーマ Cプログラミングの実践	
授業の到達目標 基本的なCプログラミングの修得・C言語の基礎文法を理解し、コーディングできること・プログラミングの基礎的な知識と技術を修得すること・学んだ基礎知識をもとに課題解決に応用できること	
授業の概要 プログラミングは、情報技術について学ぶ上で基礎となる知識である。「プログラミング実習」では、基本的なプログラム言語の1つであるC言語によるプログラム作成を演習形式で学ぶ。授業内の3分の1を課題の解説に割り当て、それ以外を課題に取り組む時間とする。	
準備学習(予習・復習) 提出課題に必ず取り組むこと。	
内 容 第1回 ガイダンス(授業概要、注意事項などの説明)、C言語のプログラミングと実行 第2回 データと変数 第3回 四則演算 第4回 条件分岐 第5回 繰り返し処理 第6回 配列 第7回 文字と文字列 第8回 多次元配列 第9回 関数 第10回 変数の有効範囲 第11回 構造体 第12回 ファイル入出力 第13回 ポインタ変数 第14回 ポインタ変数と配列 第15回 まとめ	
履修上の注意点 よく調べ、考えること	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 C言語教科書 - 「言語仕様」から「データ構造」「アルゴリズム」の実装まで 著者: 田中成典 出版社: 工学社 出版年: 2013年 ISBN: 477517535	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 70 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30 ) 4回以上の欠席は不可とする。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 地域金融論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 隆則	
テーマ	地域金融機関は地域経済を支える重要な役割を果たしています。しかし、少子高齢化等の影響で地域経済の活力が失われつつあるとも言われています。そのような困難な地域経済の課題に、地域金融機関がどのように応えようとしているのか、様々な事例、とりわけ近畿地区の事例を数多く取り上げ、地域経済の活力を維持発展させるにはどうしたらいいか、考えま
授業の到達目標	・地域経済における金融の特徴や課題、地域金融機関の役割について説明できること・地域金融機関のマーケティング戦略や企業支援プログラムについて実践的な知識を身につけること
授業の概要	前半では、地域経済における地域金融機関の役割や課題について考えます。特に個人金融のマーケティングと中小企業支援の実際について、具体的事例に即して説明します。後半では、近畿地区に焦点を当て、この地域の経済や金融の課題、さらには地域金融機関の実態と経営戦略を読み解きます。
準備学習(予習・復習)	自分に身近な地域の金融経済の動きに関心を持ち、新聞・ネット等の金融経済記事を読む習慣を身につけること
内 容	<p>第1回 授業ガイダンス―「地域金融論」の目的、概要、進め方</p> <p>第2回 地域金融機関が置かれた現実と様々な突破戦略―(1)規模の経済の追求</p> <p>第3回 地域金融機関が置かれた現実と様々な突破戦略―(2)差別化戦略</p> <p>第4回 個人の金融行動と地域金融機関のマーケティング戦略</p> <p>第5回 中小企業金融と地域金融機関の役割―(1)中小企業金融の特徴</p> <p>第6回 中小企業金融と地域金融機関の役割―(2)地域金融機関の中小企業支援事例</p> <p>第7回 中小企業金融と地域金融機関の役割―(3)実務家の話を聞く</p> <p>第8回 前半のまとめ</p> <p>第9回 近畿地区の経済状況と産業、企業の課題</p> <p>第10回 近畿地区の個人金融および企業金融の課題</p> <p>第11回 近畿地区の金融業界地図</p> <p>第12回 近畿地区の地域金融機関の特徴と課題―(1)データから現実の姿を読み解く</p> <p>第13回 近畿地区の地域金融機関の特徴と課題―(2)HP、ディスクロージャー誌、記事から経営戦略を読み解く</p> <p>第14回 近畿地区の地域金融機関の特徴と課題―(3)実務家の話を聞く</p> <p>第15回 全体のまとめと復習テスト</p>
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 80% )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20% )	

## 2017 Syllabus

科目名 **グローバル金融論**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ランビーン, パラガス

テーマ

世界的な金融恐慌を生み出した金融システムの諸問題について学習すること。

授業の到達目標

経済危機の歴史的な背景と発生メカニズムを見ながら、現代の金融市場と金融産業の理論的・実証的理解を深める。

授業の概要

ヒト、モノ、カネという三つの経営資源の移動を通じて、近年経済関係のグローバル化が深まっている。その中で、2008年の世界的な金融恐慌(リーマン・ショック)が発生したのである。テキストの読解を通じて、金融危機や新自由主義など現代資本主義の構造的矛盾・経済危機について、一元的ではなく柔軟な思考で理解することが目標である。本講義では、教科書を主な教材として用いるが、ドキュメンタリー映画等も用いる。○講義の中でドキュメンタリー映画の鑑賞を行う。○内容について、適宜小テストを実施する。○学期末試験を行う。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内 容

- 第1回 ガイダンス:この授業の概要の説明
- 第2回 現代資本主義が繰り返す景気後退
- 第3回 現代資本主義の歴史的変容
- 第4回 ドキュメンタリー映画の鑑賞
- 第5回 経済・金融のグローバル化と国際経済秩序
- 第6回 日本経済における経済成長時代から「失われた20年」へ
- 第7回 現代日本における新自由主義的構造改革
- 第8回 中間のまとめ
- 第9回 経済通貨同盟、欧州社会モデル、新自由主義
- 第10回 アメリカにおける経済格差と経済危機
- 第11回 現代グローバリゼーションの特徴
- 第12回 戦後帝国主義
- 第13回 現代における貨幣資本の蓄積
- 第14回 貨幣資本の過剰と現代資本主義の危機
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

現代資本主義とマルクス経済学:経済学は有効性をとりもどせるか

著者: 高田太久吉など

出版社: 新日本出版社

出版年: 2014年

ISBN: 978-4406057691

参考書

成績評価

試験・レポート (70%)

小テスト (20%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (10%)

特になし。



## 2017 Syllabus

科目名 **ものづくり経営論**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 杉浦 昌

テーマ

ものづくりが生み出す価値を理解し、それを実現するための戦略、プロセス、組織、管理などの経営的な課題を学ぶ。

授業の到達目標

ものづくりは顧客に価値を提供することであり、その経営はそれを可能とするための総合的、継続的かつ組織的な活動である。本授業では、具体例をもとにものづくりの過程と現在の姿、ものづくりの環境、そのビジネス構造を学ぶ。

授業の概要

適宜スライドや配布資料、企業や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出を実施する場合がある。

準備学習(予習・復習)

授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本のものづくりの現状
- 第3回 価値と商品
- 第4回 経営環境
- 第5回 ものづくりの戦略
- 第6回 ものづくりの形態(1)
- 第7回 ものづくりの形態(2)
- 第8回 ものづくりのマネジメント(1)
- 第9回 ものづくりのマネジメント(2)
- 第10回 ものづくりのマネジメント(3)
- 第11回 ものづくりのマネジメント(4)
- 第12回 組織と人
- 第13回 組織と情報化
- 第14回 ものづくりを取り巻く環境
- 第15回 ものづくりの未来

履修上の注意点

課題は必ず期限内に提出すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 デジタルコンテンツ演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 加藤 諒	
テーマ デジタル技術によるコンテンツ制作	
授業の到達目標 デジタルコンテンツ制作を通じて、マルチメディアリテラシーを修得する。・デジタルコンテンツに関する基礎知識を修得すること・画像や動画、音声の編集ソフトを用いて、コンテンツを制作できること・制作したコンテンツを発信する能力を身に付けること	
授業の概要 情報化社会において、インターネット上には画像や動画、音声など多様な形態の情報が発信されている。「デジタルコンテンツ演習」では、これらのデジタルコンテンツの制作方法を学ぶ。授業内の3分の1を課題の解説に割り当て、それ以外を課題に取り組む時間とする。	
準備学習(予習・復習) 提出課題に必ず取り組むこと。	
内 容 第1回 ガイダンス(授業概要、注意事項などの説明)、マルチメディアとは 第2回 photoshopによる画像編集(1) 第3回 photoshopによる画像編集(2) 第4回 photoshopによる画像編集(3) 第5回 Illustratorによるイラスト制作(1) 第6回 Illustratorによるイラスト制作(2) 第7回 IllustratorによるWebデザイン(1) 第8回 IllustratorによるWebデザイン(2) 第9回 IllustratorによるWebデザイン(3) 第10回 Premiereによる動画編集 第11回 Auditionによる音声編集 第12回 Webサイト制作(1) 第13回 Webサイト制作(2) 第14回 Webサイト制作(3) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 よく調べ、考えること	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 70 ) 参加度 ( 30 ) 4回以上の欠席は不可とする。	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **グローバル経営論**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ランビーノ, パラガス

テーマ

本講義では、グローバル経営についての知識を習得し、グローバル人材としてのスキルの向上をはかる。

授業の到達目標

グローバル組織が直面する経済や文化環境などを理解し、コミュニケーション力やチームワーク力等、グローバル人材としての基礎力を育成する。

授業の概要

本講義はグローバル経営についての広範な話題を提供し、ディスカッションを行う。本講義では、双方向のコミュニケーションを重視し、受講者が積極的にディスカッションに参加できるよう促す。受講者はグループ・プレゼンテーションを行う。講義では、教科書を主な教材として用いるが、ドキュメンタリー映画等も用いる。学期末試験を行う。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内 容

- 第1回 ガイダンス:この授業の概要の説明
- 第2回 グローバル経営の論理
- 第3回 グローバル経営の戦略
- 第4回 ドキュメンタリー映画の鑑賞
- 第5回 グローバル経営戦略の諸側面
- 第6回 グローバル経営の組織論
- 第7回 本社-海外子会社関係とその変遷
- 第8回 グローバル統合・ローカル適応の論理
- 第9回 多国籍企業の革新モデル
- 第10回 グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント
- 第11回 グローバルR&Dマネジメント
- 第12回 グローバル戦略提携のマネジメント
- 第13回 グループ・プレゼンテーション
- 第14回 グループ・プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

グローバル経営入門

著者: 浅川和宏

出版社: 日本経済新聞出版社

出版年: 2016年

ISBN: 978-4532132606

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

特になし。

## 2017 Syllabus

科目名 国際貿易論

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ランビーン, パラガス

テーマ

グローバル経済の誕生過程を、交易・貿易に焦点を当てて学習すること。

授業の到達目標

交易・貿易の観点からグローバル経済の形成に重要な役割を果たした出来事を見る。ローカル経済がグローバル経済においてどのような位置づけにあるかということについて理解を深める。

授業の概要

テキストの読解を通じて、世界各地の様々な地域間の貿易と相互間の作用について考察し、国際貿易を表面的にではなく、多角的に理解することを目標とする。本講義では、教科書を主な教材として用いるが、ドキュメンタリー映画等も用いる。○講義の中でドキュメンタリー映画の鑑賞を行う。○内容について、適宜小テストを実施する。○学期末テストの代わりに、レポートを提出する。

準備学習(予習・復習)

特になし。

内 容

- 第1回 ガイダンス:この授業の概要の説明
- 第2回 市場慣行の形成(1)
- 第3回 市場慣行の形成(2)
- 第4回 輸送技術の進歩(1)
- 第5回 輸送技術の進歩(2)
- 第6回 チョコレートやコーヒーなどの消費文化
- 第7回 ドキュメンタリー映画の鑑賞
- 第8回 中間のまとめ
- 第9回 世界貿易における商品(1)
- 第10回 世界貿易における商品(2)
- 第11回 世界貿易における暴力
- 第12回 ドキュメンタリー映画の鑑賞
- 第13回 世界市場の形成(1)
- 第14回 世界市場の形成(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

グローバル経済の誕生:貿易が作り変えたこの世界

著者: ポメラッツ・トピック著、福田邦夫・吉田敦記

出版社: 筑摩書房

出版年: 2015年

ISBN: 978-4480867230

参考書

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト (30%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (10%)

特になし。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 まりな

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文に見合うテーマと問いを設定し、その解決に向けた調査を行う。ゼミ生の報告と報告内容に関するディスカッションを中心に進める。

授業の概要

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文の書き方
- 第3回 テーマ設定
- 第4回 テーマ設定
- 第5回 問いの設定
- 第6回 問いの設定
- 第7回 問いの設定
- 第8回 先行研究レビュー
- 第9回 先行研究レビュー
- 第10回 先行研究レビュー
- 第11回 先行研究レビュー
- 第12回 調査設計
- 第13回 調査設計
- 第14回 調査設計
- 第15回 調査設計

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の到達目標

各自、課題に見合った研究方法や論文の書き方を学び、卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業研究(卒業論文)の報告とそれへのコメントおよび受講生相互の意見交換を行う。

準備学習(予習・復習)

必要に応じて個別指導を行うほか、ゼミ生相互で卒論を報告し合い、議論し合うのが望ましい。

内 容

- 第1回 ガイダンスと論文の書き方
- 第2回 卒業研究報告1(序論・課題と方法)
- 第3回 卒業研究報告2(序論・課題と方法)
- 第4回 卒業研究報告3(序論・課題と方法)
- 第5回 卒業研究報告4(序論・課題と方法)
- 第6回 卒業研究報告5(本論:先行研究の検討)
- 第7回 卒業研究報告6(本論:先行研究の検討)
- 第8回 卒業研究報告7(本論:先行研究の検討)
- 第9回 卒業研究報告8(本論:先行研究の検討)
- 第10回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第11回 卒業研究報告9(本論:調査内容の報告)
- 第12回 卒業研究報告10(本論:調査内容の報告)
- 第13回 卒業研究報告11(本論:調査内容の報告)
- 第14回 卒業研究報告12(本論:調査内容の報告)
- 第15回 卒業研究中間報告会(予定)・演習のまとめ

履修上の注意点

報告のたびに、必ず内容をバージョンアップさせること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 70 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

卒業論文の研究テーマにしたがって、文献収集、調査、分析アプローチ等における必要な知識を身に付けるとともに、研究論文として十分な内容を含んだ卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文の作成にあたり、研究計画を明確にした上で、進捗状況について報告をおこなう。また、報告内容に関してディスカッションをおこなう。

準備学習(予習・復習)

報告の準備とともに卒業論文の作成を各自で進めること。報告時において疑問点を提示できるようにしておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文のための研究デザイン(1)
- 第3回 卒業論文のための研究デザイン(2)
- 第4回 卒業論文のための研究デザイン(3)
- 第5回 卒業論文進捗報告:研究の背景と方法論(1)
- 第6回 卒業論文進捗報告:研究の背景と方法論(2)
- 第7回 卒業論文進捗報告:研究の背景と方法論(3)
- 第8回 卒業論文進捗報告:先行研究のレビュー(1)
- 第9回 卒業論文進捗報告:先行研究のレビュー(2)
- 第10回 卒業論文進捗報告:先行研究のレビュー(3)
- 第11回 卒業論文進捗報告:調査分析(1)
- 第12回 卒業論文進捗報告:調査分析(2)
- 第13回 卒業論文進捗報告:調査分析(3)
- 第14回 卒業論文進捗報告:調査分析(4)
- 第15回 卒業論文進捗報告:調査分析(5)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt;\*d&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 卒業論文の作成	
授業の到達目標 夏季休暇中に下書きを完成させる	
授業の概要 パワーポイントによる報告 報告内容にたいする質疑応答 教員からのアドバイス 希望者は、工場見学などの学外学習にも参加できる	
準備学習(予習・復習) レジュメの作成	
内 容	
第1回 ガイダンス 春季休暇中の課題提出 論文の書き方・形式について指導	
第2回 卒論指導1 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第3回 卒論指導2 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第4回 卒論指導3 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第5回 卒論指導4 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第6回 卒論指導5 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第7回 卒論指導6 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第8回 卒論指導7 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第9回 卒論指導8 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第10回 卒論指導9 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第11回 卒論指導10 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第12回 卒論指導11 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第13回 卒論指導12 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第14回 卒論指導13 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第15回 夏季休暇中における下書き完成のための課題指示	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート( )	小テスト( )
授業中課題( )	授業中発表等(60)
参加度(40)	



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt;\* e&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

卒論のための各種調査および執筆。

授業の到達目標

卒論の中身を固めてゆき、いくつかの章について完成させること。

授業の概要

各自の卒論テーマに従って、内容を固めてゆきます。専門演習Ⅲでは、文献調査、統計処理、フィールドワークを実施しつつ、書ける章から順次、書いてゆきます。

準備学習(予習・復習)

各自の卒論の進捗状況について報告し、その都度軌道修正してゆきます。報告担当以外の人も積極的に発言、助言に努めること。

内 容

第1回 演習の進め方、報告担当者及び報告日程の決定

第2回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第3回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第4回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第5回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第6回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第7回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第8回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第9回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第10回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第11回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第12回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第13回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第14回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第15回 担当担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 80% )



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt; \* f &gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文の書き方と構想

授業の到達目標

1) 論文の書き方の基礎を身につける 2) 卒業論文の構想を形作る

授業の概要

最初の5回については、基本的な論文の書き方を事例に触れながら学ぶ。第6回以降については、2回に分けて進捗報告を行う。

準備学習(予習・復習)

自分が発表する時点までに、それぞれの会のテーマに即したレジュメを用意する。

内 容

- 第1回 論文の書き方(1): 論文らしい文章とは  
 第2回 論文の書き方(2): 論文の流れ  
 第3回 論文の書き方(3): 論理的に書くには?  
 第4回 論文の書き方(4): 引用の仕方、参考文献の書き方、並べ方  
 第5回 論文の書き方(5): 図表の使い方、脚注、見出しの付け方  
 第6回 卒論進捗報告(1回目: 研究テーマと幹とする参考資料): 6人  
 第7回 卒論進捗報告(1回目: 研究テーマと幹とする参考資料): 6人  
 第8回 卒論進捗報告(1回目: 研究テーマと幹とする参考資料): 6人  
 第9回 卒論進捗報告(2回目: 仮説の提示と結論までの論理的展開): 3人  
 第10回 卒論進捗報告(2回目: 仮説の提示と結論までの論理的展開): 3人  
 第11回 卒論進捗報告(2回目: 仮説の提示と結論までの論理的展開): 3人  
 第12回 卒論進捗報告(2回目: 仮説の提示と結論までの論理的展開): 3人  
 第13回 卒論進捗報告(2回目: 仮説の提示と結論までの論理的展開): 3人  
 第14回 卒論進捗報告(2回目: 仮説の提示と結論までの論理的展開): 3人  
 第15回 夏休み中の研究計画

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスをを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt;\*g&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

卒業論文の作成に向けて

授業の到達目標

12月の卒業論文の提出に向けて、よりよい卒業論文が作成できるように、ゼミ生の研究発表を続けて行う。

授業の概要

ゼミ生による卒業論文の研究発表(春季課題の発表、第一クール=第1章、第二クール=第2章、第三クール=第3章)

準備学習(予習・復習)

日頃から卒業論文のテーマに関する文献や資料の収集に努めること。

内 容

第1回 前期ガイダンス

第2回 春季課題の発表(1)

第3回 春季課題の発表(2)

第4回 春季課題の発表(3)

第5回 第一クール=第1章の発表と指導(1)

第6回 第一クール=第1章の発表と指導(2)

第7回 第一クール=第1章の発表と指導(3)

第8回 予備

第9回 第二クール=第2章の発表と指導(1)

第10回 第二クール=第2章の発表と指導(2)

第11回 第二クール=第2章の発表と指導(3)

第12回 予備

第13回 第三クール=第3章の発表と指導(1)

第14回 第三クール=第3章の発表と指導(2)

第15回 第三クール=第3章の発表と指導(3)

履修上の注意点

就活による欠席は事前に連絡した上で代替りの人を確保すること。それ以外のゼミの欠席はありえない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

授業中課題は春季課題のレポートによる。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt;\*h&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ 医療経営の発展的学習	
授業の到達目標 医療経営に関する発展的な知識を習得するとともに、卒業研究の作成にむけた基本的な技術を確認する	
授業の概要 主としてテキストを用いた報告と討論を行うとともに、卒業研究のための論文作成技法や図書館ガイダンスを実施する。また、3回生と合同でゼミ合宿を開催する。	
準備学習(予習・復習) 授業時間以外にも報告の準備や学外授業・ゼミ合宿の企画立案等を行う。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 学外授業およびゼミ合宿の準備・立案 第3回 図書館ガイダンス(予定) 第4回 テキストを用いた演習 第5回 テキストを用いた演習 第6回 テキストを用いた演習 第7回 テキストを用いた演習 第8回 テキストを用いた演習 第9回 テキストを用いた演習 第10回 テキストを用いた演習のまとめ 第11回 論文の作成技法 第12回 論文の作成技法 第13回 キャリア講演会(予定) 第14回 学外授業(予定) 第15回 演習全体のまとめ(ゼミ合宿)	
履修上の注意点 病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業、ゼミ合宿、自主ゼミ等に主体的に参加すること。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 健康と医療の公平に挑む 著者: 松田亮三編 出版社: 勁草書房 出版年: 2009 ISBN: 9.78433E+12 地域包括ケアと地域医療連携 著者: 二木立 出版社: 勁草書房 出版年: 2015 ISBN: 9.78433E+12 社会保障の公私ミックス再論 著者: 松田亮三・鎮目真人編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2015 ISBN: 9.78462E+12	

日本の医療

著者： 島崎謙治

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2011

ISBN: 9.78413E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt; \* i &gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 平尾 毅

テーマ

卒論発表・議論を通して完成を目指す。

授業の到達目標

プレゼンテーション能力を磨くことができる。知識を深めることができる。議論を通して論理的思考力を磨くことができる。

授業の概要

ゼミ生一人ひとりが興味関心のあるテーマについて発表し、ゼミ仲間との議論を通して、卒業論文の完成を目指します。

準備学習(予習・復習)

パワーポイントを準備して発表してください。

内 容

- 第1回 卒論の発表・議論
- 第2回 卒論の発表・議論
- 第3回 卒論の発表・議論
- 第4回 卒論の発表・議論
- 第5回 卒論の発表・議論
- 第6回 卒論の発表・議論
- 第7回 卒論の発表・議論
- 第8回 卒論の発表・議論
- 第9回 卒論の発表・議論
- 第10回 卒論の発表・議論
- 第11回 卒論の発表・議論
- 第12回 卒論の発表・議論
- 第13回 卒論の発表・議論
- 第14回 卒論の発表・議論
- 第15回 卒論の発表・議論

履修上の注意点

発表者以外のゼミ生も、発表に対して質問やコメントを必ず行ってください。

教科書

特になし。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (80%)

参加度 (20%)

参加度は発表に対する質問・コメントを含みます。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(経) &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

卒業論文作成とその土台となる学習

授業の到達目標

・先行研究など、集めた情報を整理・分析する・事象、要因、仮説、提案などの各フェーズを明確にする・論理性をもった長文を書くことに慣れる

授業の概要

専門演習Ⅲに引き続き、卒業論文作成にむけた準備を行う。各自が自分自身で決めたテーマのもとで資料や文献の調査と収集を行いつつ、特に文献を基にした論点整理を進め、文章化していく。そしてそれらの進捗状況をそれぞれ報告する。また、各自で取材をおこなう。

準備学習(予習・復習)

報告に当たっていない回でも、計画的に準備や執筆を進めておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(1)
- 第3回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(2)
- 第4回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(3)
- 第5回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(4)
- 第6回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(5)
- 第7回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(6)
- 第8回 中間まとめ(ふりかえりと再検討など)
- 第9回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(7)
- 第10回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(8)
- 第11回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(9)
- 第12回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(10)
- 第13回 卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答(11)
- 第14回 夏期休業期間中の課題と計画(1)
- 第15回 夏期休業期間中の課題と計画(2)

履修上の注意点

卒業論文作成やゼミと、就職活動は必ずしもトレードオフの関係ではない。自ら卒論に取り組む姿勢や、資料や材料を集めて説得力のあるものを作ることは、社会人に向けて重要な素養であることを認識して取り組んで欲しい。

教科書

参考書

個別に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ (\* 救急)

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹.北小屋 裕.関根 和弘.千田 いずみ.深澤 雄二.福岡 範恭

テーマ

公務員を目指す為に必要な知識の習得

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

公務員試験に即した実践形式な講義と問題解答。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (100)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ（＊救急）

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹.北小屋 裕.久保山 一敏.関根 和弘.千田 いずみ.西本 泰久.深澤 雄二.福岡 範恭.富士原 彰.  
宮本 尚

テーマ

救急救命士国家試験対策

授業の到達目標

救急救命士国家試験に合格できる知識を習得することを目的とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、救急救命士国家試験対策
- 第2回 救急救命士国家試験対策
- 第3回 救急救命士国家試験対策
- 第4回 救急救命士国家試験対策
- 第5回 救急救命士国家試験対策
- 第6回 救急救命士国家試験対策
- 第7回 救急救命士国家試験対策
- 第8回 救急救命士国家試験対策
- 第9回 救急救命士国家試験対策
- 第10回 救急救命士国家試験対策
- 第11回 救急救命士国家試験対策
- 第12回 救急救命士国家試験対策
- 第13回 救急救命士国家試験対策
- 第14回 救急救命士国家試験対策
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 まりな

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

これまでに行ってきた作業を取りまとめ、卒業論文として完成することを目的とする。

授業の概要

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 前期の復習

第2回 良い論文とは何か?

第3回 事例分析・考察

第4回 事例分析・考察

第5回 事例分析・考察

第6回 事例分析・考察

第7回 卒業論文中間報告会

第8回 卒業論文中間報告会

第9回 卒業論文最終報告

第10回 卒業論文最終報告

第11回 卒業論文最終報告

第12回 卒業論文最終報告

第13回 卒業論文の検討会

第14回 卒業論文の検討会

第15回 卒業論文の検討会

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

全員が卒論を完成させること。

授業の概要

順番に卒業論文の報告を行い、コメントを受け、卒論改訂版を報告し、さらにコメントを受ける。以上を繰り返して卒論完成に至る。

準備学習(予習・復習)

先行研究に関する書籍・論文などを丁寧に読解し、批評を行うこと。

内 容

- 第1回 卒業研究報告1(結論)
- 第2回 卒業研究報告2(結論)
- 第3回 卒業研究報告3(結論)
- 第4回 卒業研究報告4(結論)
- 第5回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第6回 卒業研究最終報告1(全体)
- 第7回 卒業研究最終報告2(全体)
- 第8回 卒業研究最終報告3(全体)
- 第9回 卒業研究最終報告4(全体)
- 第10回 卒業研究最終報告5(全体)
- 第11回 卒論執筆原稿相互検討1
- 第12回 卒論執筆原稿相互検討2
- 第13回 卒論執筆原稿相互検討3
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 演習の総括

履修上の注意点

報告するごとに、必ず内容をバージョンアップすること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(70)

参加度(30)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の研究テーマにしたがって、文献収集、調査、分析アプローチ等における必要な知識を身に付けるとともに、研究論文として十分な内容を含み、形式が整えられた卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業論文の完成に向けて、進捗状況について報告をおこなう。また、報告内容に関してディスカッションをおこなう。

準備学習(予習・復習)

報告の準備とともに卒業論文の作成を各自で進める。報告時において疑問点を提示できるようにしておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文進捗報告(1)
- 第3回 卒業論文進捗報告(2)
- 第4回 卒業論文進捗報告(3)
- 第5回 卒業論文進捗報告(4)
- 第6回 卒業論文進捗報告(5)
- 第7回 卒業論文中間報告会(1)
- 第8回 卒業論文中間報告会(2)
- 第9回 卒業論文最終報告(1)
- 第10回 卒業論文最終報告(2)
- 第11回 卒業論文最終報告(3)
- 第12回 卒業論文最終報告(4)
- 第13回 口頭試問の準備(1)
- 第14回 口頭試問の準備(2)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

卒業論文の作成および完成

授業の到達目標

質の高い卒業論文を完成させ、学士号を取得する

授業の概要

パワーポイントによる報告 報告内容にたいする質疑応答 教員からのアドバイス 希望者は、工場見学などの学外学習にも参加できる

準備学習(予習・復習)

レジュメの作成

内 容

- 第1回 夏季休暇中課題の下書きを提出 目次のみを全員に配布 概要報告と意見交換・教員による指導  
 第2回 報告とチェック1 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第3回 報告とチェック2 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第4回 報告とチェック3 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第5回 報告とチェック4 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第6回 報告とチェック5 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第7回 報告とチェック6 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第8回 報告とチェック7 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第9回 報告とチェック8 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第10回 報告とチェック9 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)  
 第11回 最終チェック1(個別指導は随時実施)  
 第12回 最終チェック2(個別指導は随時実施)  
 第13回 口頭試問準備1(個別指導は随時実施)  
 第14回 口頭試問準備2(個別指導は随時実施)  
 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(60)

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt;\* e&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

卒論の完成。

授業の到達目標

卒論を完成させ、口頭試問に備えること。

授業の概要

卒論の完成に向け、各自の進捗状況を報告しつつ、軌道修正する。

準備学習(予習・復習)

各自の卒論テーマについて、担当日には必ず進捗状況を報告できるように準備しておく

内 容

第1回 報告担当者及び報告日程の決定

第2回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第3回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第4回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第5回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第6回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第7回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第8回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第9回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第10回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第11回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第12回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第13回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第14回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

第15回 報告担当者による報告と討論(報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 (20%)

小テスト ( )

授業中発表等 (80%)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt; \* f &gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

1) 卒業論文を執筆し、完成させる。2) 他の受講生と協力し、相互に推敲を行う。

授業の概要

ゼミの内部で研究の進捗について情報を共有し、互いに助け合いながら卒業論文を完成させることを目指す。

準備学習(予習・復習)

卒業論文の執筆とブラッシュアップ

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(3回目:論理の展開のチェック):6人
- 第2回 卒論進捗報告(3回目:論理の展開のチェック):6人
- 第3回 卒論進捗報告(3回目:論理の展開のチェック):6人
- 第4回 卒論中間報告会
- 第5回 卒論最終報告(4回目:完成原稿の発表):3人
- 第6回 卒論最終報告(4回目:完成原稿の発表):3人
- 第7回 卒論最終報告(4回目:完成原稿の発表):3人
- 第8回 卒論最終報告(4回目:完成原稿の発表):3人
- 第9回 卒論最終報告(4回目:完成原稿の発表):3人
- 第10回 卒論最終報告(4回目:完成原稿の発表):3人
- 第11回 誤字・脱字等の相互チェック
- 第12回 誤字・脱字等の相互チェック
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 口頭試問の準備

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 60 )



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt;\*g&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

卒業論文と論文集の作成に向けて

授業の到達目標

前期に引き続いて、よりよい卒業論文の作成のための研究発表を続ける。また、ゼミの卒業論文集を作成する準備を行う。

授業の概要

ゼミ生による研究発表と卒業論文の作成に向けた指導(合宿を含む)、卒業論文の添削と要約の作成

準備学習(予習・復習)

卒業論文の作成のための計画的な学習に尽きる。

内 容

- 第1回 後期のガイダンス
- 第2回 第四クール＝第4章の発表(1)
- 第3回 第四クール＝第4章の発表(2)
- 第4回 第四クール＝第4章の発表(3)
- 第5回 予備
- 第6回 中間発表会の予行練習(1)
- 第7回 中間発表会の予行練習(2)
- 第8回 中間発表会
- 第9回 卒論の個別指導(1)
- 第10回 卒論の個別指導(2)
- 第11回 卒論の個別指導(3)
- 第12回 予備
- 第13回 卒論の要約の添削(1)
- 第14回 卒論の要約の添削(2)
- 第15回 卒論の要約の添削(3)

履修上の注意点

就活による欠席は事前に連絡した上で代替りの人を確保すること。それ以外の欠席はありえない。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (20%)

参加度 (40%)

授業中課題は夏季課題のレポートである。

小テスト ( )

授業中発表等 (40%)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

卒業研究の完成

授業の到達目標

これまでの学習を基に各人がテーマを設定し、調査の方法と論文の書き方を習得した上で、卒業研究として完成させる

授業の概要

演習において受講生は卒業研究の進捗状況を報告し教員より指導を受ける

準備学習(予習・復習)

授業時間以外にも個々人の進捗状況に応じて個別に指導する。また、自主ゼミを設け、受講生相互で卒業研究を検討する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業研究報告
- 第3回 卒業研究報告
- 第4回 卒業研究報告
- 第5回 卒業研究報告
- 第6回 卒業研究報告
- 第7回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第8回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第9回 卒業研究報告
- 第10回 卒業研究報告
- 第11回 卒業研究報告
- 第12回 卒業研究報告
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 演習全体のまとめ

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。卒業研究上の質問などがある場合は、早めに連絡・相談すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

理科系の作文技術

著者: 木下是雄

出版社: 中公新書

出版年: 1981

ISBN: 9.78412E+12

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt; \* i &gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 平尾 毅

テーマ

卒論発表・議論を通して完成を目指す。

授業の到達目標

プレゼンテーション能力を磨くことができる。知識を深めることができる。議論を通して論理的思考力を磨くことができる。

授業の概要

ゼミ生一人ひとりが興味関心のあるテーマについて発表し、ゼミ仲間との議論を通して、卒業論文の完成を目指します。

準備学習(予習・復習)

パワーポイントを準備して発表してください。

内 容

- 第1回 卒論の発表・議論
- 第2回 卒論の発表・議論
- 第3回 卒論の発表・議論
- 第4回 卒論の発表・議論
- 第5回 卒論の発表・議論
- 第6回 卒論の発表・議論
- 第7回 卒論の発表・議論
- 第8回 卒論の発表・議論
- 第9回 卒論の発表・議論
- 第10回 卒論の発表・議論
- 第11回 卒論の発表・議論
- 第12回 卒論の発表・議論
- 第13回 卒論の発表・議論
- 第14回 卒論の発表・議論
- 第15回 卒論の発表・議論

履修上の注意点

発表者以外のゼミ生も、発表に対して質問やコメントを必ず行ってください。

教科書

特になし。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (80%)

参加度 (20%)

参加度は発表に対する質問・コメントを含みます。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(経) &lt;\*j&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

・説得力のある展開や論理性、構成力を身につける・情報収集力や、ワード・エクセル等を使った効率的な思考支援方法を利用できるようになる・卒業論文執筆を通じて、説得力のある展開や論理性、構成力を身につける

授業の概要

これまで準備・作業してきた内容をベースに卒業論文を仕上げる。また、ゼミの他学生との情報交換・討論を通じ、共に物事を進める力を涵養する。

準備学習(予習・復習)

報告に当たっていない回でも、計画的に準備や執筆を進めておくこと。

内 容

- 第1回 卒業論文進捗個別報告Ⅰ(1)
- 第2回 卒業論文進捗個別報告Ⅰ(2)
- 第3回 卒業論文進捗個別報告Ⅰ(3)
- 第4回 卒業論文進捗個別報告Ⅰ(4)
- 第5回 中間報告会
- 第6回 卒業論文完成原稿最終報告(1)
- 第7回 卒業論文完成原稿最終報告(2)
- 第8回 卒業論文完成原稿最終報告(3)
- 第9回 卒業論文完成原稿最終報告(4)
- 第10回 卒業論文完成原稿最終報告(5)
- 第11回 卒業論文完成原稿最終報告(6)
- 第12回 卒業論文完成原稿最終報告(7)
- 第13回 口頭試問準備(1)
- 第14回 口頭試問準備(2)
- 第15回 口頭試問準備(3)

履修上の注意点

卒業論文作成やゼミと、就職活動は必ずしもトレードオフの関係ではない。自ら卒論に取り組む姿勢や、資料や材料を集めて説得力のあるものを作ることは、社会人に向けて重要な素養であることを認識して取り組んで欲しい。

教科書

参考書

個別に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(40)

授業中発表等(30)

参加度(30)

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急疾病Ⅲ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 宮本 尚	
テーマ	
授業の到達目標	内分泌系・代謝系・泌尿器・生殖器系の疾患を理解する事で、救急救命に携わる事が出来る
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	

## 内 容

- 第1回 内分泌・代謝系器官①解剖・生理1  
 第2回 内分泌・代謝系器官②解剖・生理2  
 第3回 内分泌・代謝系器官③代謝器官障害、症状、おもな疾患  
 第4回 内分泌・代謝系期間④低血糖、甲状腺クリーゼなどについて学ぶ  
 第5回 泌尿器・生殖器系器官①解剖・生理1  
 第6回 泌尿器・生殖器系器官②解剖・生理2  
 第7回 泌尿器・生殖器系器官③障害、症状、おもな疾患  
 第8回 泌尿器・生殖器系器官④尿閉、子宮外妊娠などについて学ぶ  
 第9回 血液疾患①貧血の病態生理等  
 第10回 血液疾患②急性白血病の病態生理 播種性血管内症候群  
 第11回 血液疾患③骨髄移植、その他の血液疾患  
 第12回 血液疾患④汎血球減少症、MDSなどについて学ぶ  
 第13回 感染症と予防 特異な感染症、AIDS 皮膚疾患  
 第14回 高齢者の疾患  
 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

救急救命士標準テキスト 第1巻

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

救急救命士標準テキスト 第2巻

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

救急救命士標準テキスト 第3巻

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

救急救命士標準テキスト 第4巻

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

救急救命士標準テキスト 第5巻

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

---

成績評価

試験・レポート（80）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

15回の授業のうち、5回以上の欠席があった場合は試験の受験を認めないものとする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) &lt;\*A&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

建築・まちづくりに関する基本的な学習法の習得

授業の到達目標

・大学で建築やまちづくりを学ぶにあたっての基本的な学習法を習得すること。・建築・都市の魅力を発見する能力を習得すること。・自分の考えを他者に伝える発表方法を習得すること。

授業の概要

本演習では、まちあるきや建築見学などを通じて、まちの魅力・建築の魅力に対する「気付き」を発表してもらいます。自分の「気付き」を共感してもらうためには、どのように他者に伝えれば良いか試行錯誤してください。また、議論の時間では、教員だけでなく学生からも積極的な発言を求めます。失敗を恐れずに楽しく議論していきましょう。

準備学習(予習・復習)

京都の建築や都市空間を日頃から注意深く観察するようにしてください。気になったことは文献で調べてみる、他人に質問をするなど自主的に学習する習慣をつけましょう。発表準備などで困ったことがあれば、演習外でも遠慮なく相談に来てくださ

内 容

- 第1回 ゼミの進め方と自己紹介
- 第2回 相互インタビューと他己紹介
- 第3回 建築・まちづくり分野における学習法の基礎
- 第4回 まちあるきの準備
- 第5回 まちあるきの実施
- 第6回 まちあるきを終えてワークショップ
- 第7回 まちあるき報告1
- 第8回 まちあるき報告2
- 第9回 建築見学の準備
- 第10回 建築見学
- 第11回 建築見学を終えてワークショップ
- 第12回 建築見学報告1
- 第13回 建築見学報告2
- 第14回 夏休みレポートの作成計画1
- 第15回 夏休みレポートの作成計画2

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。なお、この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。

教科書

参考書

講義内で適宜紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) &lt;\*B&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 現代日本社会をジェンダーの視点から考える	
授業の到達目標 入門的文献の講読とビデオ学習により、女性学と男性学の基礎を学ぶ	
授業の概要 以下の内容について、テキストと映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習) 事前にテキストの該当章を読んで、疑問点・討論点を考えておく。事後にもう一度テキストの該当章を読み、理解を深める。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 大学で学ぶ意味とは 第3回 ノートの取り方 第4回 『女性学・男性学』第1章 第5回 ビデオ「男と女の境界線」 第6回 『女性学・男性学』第2章 第7回 『女性学・男性学』第3章 第8回 『女性学・男性学』第4章 第9回 『女性学・男性学』第5章 第10回 『女性学・男性学』第6章 第11回 『女性学・男性学』第7章 第12回 『女性学・男性学』第8章 第13回 『女性学・男性学』第9章 第14回 夏休みレポートのテーマ報告(1) 第15回 夏休みレポートのテーマ報告(2)	
履修上の注意点	
教科書 女性学・男性学(改訂版) 著者: 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 出版社: 有斐閣 出版年: 2011年 ISBN: 大学生の学習テクニック(第3版) 著者: 森 靖雄 出版社: 大月書店 出版年: 2014年 ISBN:	
参考書 大学生生活ナビ 著者: 小原芳明監修 出版社: 玉川大学出版部 出版年: 2006年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(30) 授業中発表等(40) 参加度(30)	



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) &lt;\*C&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

大学生がもつべき「学習のための機能」を身につける ～「研究」と「実践」の基礎から考える～

授業の到達目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての 課題設定、情報(文献)収集、レポート・原稿の書き方、調査(フィールドワーク)の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもってマネジメントのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。同時に夏休みレポートの対応を行う。

授業の概要

前期は主に共同研究の企画立案から行い、テーマに沿った基礎文献のまとめと発表を行う。また学外授業や後期授業評価の中心部分を占める「夏休みレポート」の出題等がある。

準備学習(予習・復習)

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。また、ゼミ会も行います。現代マネジメントでは、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしていきましょう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標・自己紹介)
- 第2回 セルフスピーチ(自分自身の考えを人に伝える)
- 第3回 シンキングメソッド(自分の興味関心を深く考える)
- 第4回 リサーチプログラム(問題解決のための方法論)
- 第5回 リーディング(文献をきちんと読む)
- 第6回 フィールドワーク(自分の五感で体感する)
- 第7回 フィールドワーク(自分の五感で体感する)
- 第8回 プレゼンテーション(発表)1
- 第9回 プレゼンテーション(発表)2
- 第10回 プレゼンテーション(発表)3
- 第11回 プレゼンテーション(発表)4
- 第12回 後期演習プロジェクト企画の設定1
- 第13回 後期演習プロジェクト企画の設定2
- 第14回 演習プロジェクト企画書のまとめと発表
- 第15回 夏休みレポートの課題設定

履修上の注意点

※演習の内容によって多少変更をする場合もある。※この講義では、必要に応じて学外授業・ゲストスピーカーの講演を行うことがある。フィールドワークの時期等も状況に応じて決めていくこととする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

とくに出席を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

大学における学びの方法を身につける

授業の到達目標

1. 毎回の授業で必ず発言する 2. 基本的な発表と討論の仕方を身につける。3. レジユメを作成できるようになる。どのコースを選択する学生にも必要な学びのスキルを身につけることをめざします。

授業の概要

高校までの学習では重視されなかったコミュニケーション・スキルとアカデミック・スキルを学びます。

準備学習(予習・復習)

授業で配布されたワークシートを完成させて当日提出すること。

内 容

- 第1回 大学の学び方
- 第2回 グループ討論1 就職活動と学校教育との違いを意識する
- 第3回 グループ討論2 時間内に結論を導く方法
- 第4回 グループ討論3 商品開発をデザインする
- 第5回 レジユメ作成と報告1 専門文献を読む
- 第6回 レジユメ作成と報告2 一人で報告する
- 第7回 レジユメ作成と報告3 報告から質問する
- 第8回 レジユメ作成と報告4 自分の報告と比べる
- 第9回 図書館の積極的利用1 書誌情報とは
- 第10回 図書館の積極的利用2 知的興味と文献探索
- 第11回 図書館の積極的利用3 夏休みレポートの素材探し
- 第12回 図書館の積極的利用4 研究対象の確定と参考文献の把握
- 第13回 夏休みレポートの準備1 焦点の絞られたテーマ設定
- 第14回 夏休みレポートの準備2 引用文献の探索
- 第15回 夏休みレポートの準備3 執筆準備の工夫

履修上の注意点

学外授業を行うことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 90 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) &lt;\*E&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

大学における学習の方法を学ぶ。

授業の到達目標

・論理的な思考方法を学ぶ。・発表、討論の仕方を身に付ける。・レポートの書き方を学ぶ。・京都の建築・インテリアを知る。

授業の概要

京都には見るべき建築・インテリアが多数ある。この授業では、代表的な作品を幾つか取り上げ、それに関する資料(図面、解説書など)を丁寧に読み解き、実際に現地に赴いて見学する。随時レポート提出、発表、討論を行なう。一人一人が、資料や作品の何に着目し、何を思い、それを人にどのように伝えるのか、ということについて自覚的であるよう心掛けること。学外授業を行なう際には、下記の日程を適宜調整する。

準備学習(予習・復習)

日常的に京都のまちを散策し、歴史、文化、デザインに触れ、スケッチや写真撮影などを通して、それらを丁寧に観察すること。

内 容

- 第1回 自己紹介
- 第2回 作品紹介1
- 第3回 資料の読解、討論1
- 第4回 資料の読解、討論1
- 第5回 見学会1
- 第6回 作品紹介2
- 第7回 資料の読解、討論2
- 第8回 資料の読解、討論2
- 第9回 見学会2
- 第10回 作品紹介3
- 第11回 資料の読解、討論3
- 第12回 資料の読解、討論3
- 第13回 見学会3
- 第14回 資料読解と見学をふまえて、レポート発表、討論
- 第15回 夏休みレポートの説明

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 70 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) &lt;\*F&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 政木 哲也

テーマ

ありふれたものの収集とその分析／大学生の思考法

授業の到達目標

・情報の収集、分類、分析方法を習得し実践する ・他者と知識の共有を図るための手法を身につける ・考えをまとめて発表する方法を学ぶ

授業の概要

私たちはたくさんものや情報に囲まれて生活しています。この授業では、普段はあまり意識することのないありふれたものに向け、それを題材とします。授業の出席者全員がひとつのテーマに基づいて身の回りのもの・情報を収集をします。そうして集めたものを授業で共有したのち、分類・比較を行い、知的思考の習得を試みます。学外授業を行う場合は下記日程の中で適宜調整します。

準備学習(予習・復習)

あなたが日常の中で気づいた小さな発見を、忘れてしまわないようにメモをとり、言葉に変えて心に留めておく習慣を身につけましょう。また、この授業では出席者による発表をたくさん行いますが、あなたが伝えようとしていることを他の人にうまく伝える工夫を日頃から心がけることが重要となります。

内 容

- 第1回 自己紹介・ガイダンスおよびテーマの発表
- 第2回 学外授業
- 第3回 収集した素材の発表とディスカッション1
- 第4回 収集した素材の発表とディスカッション2
- 第5回 収集した素材の発表とディスカッション3
- 第6回 ワークショップ1
- 第7回 収集した素材の発表とディスカッション4
- 第8回 収集した素材の発表とディスカッション5
- 第9回 収集した素材の発表とディスカッション6
- 第10回 ワークショップ2
- 第11回 学外授業
- 第12回 プレゼンテーション1
- 第13回 プレゼンテーション2
- 第14回 プレゼンテーション3
- 第15回 まとめとレポート課題の発表

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。詳しい日程等は授業の中で周知します。

教科書

テキストは使用しません。授業では適宜資料を配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

知的トレーニングの技術[完全独習版]

著者: 花村太郎

出版社: 筑摩書房

出版年: 2015

ISBN:

知的複眼思考法

著者: 荻谷剛彦

出版社: 講談社

出版年: 2002

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 20 )  
参加度 ( 50 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(都) &lt;\*A&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

建築・都市空間におけるフィールドワークを元に小論文を作成・発表する

授業の到達目標

・建築や都市空間のフィールドワークを通じて、自分なりの「問題」を発見する能力を習得する・論理的な思考法を学び、論文の書き方を習得する

授業の概要

前期で学んだフィールドワーク中の「気づき」をさらに深め、自分なりの論文テーマを設定してもらった上で、小論文の作成・発表を行ってまいります。

準備学習(予習・復習)

論文はいきなり書けるものではありません。教員や他の受講生と何度も議論を重ねて完成させるようにしましょう。講義外であっても、遠慮なく相談に来てください。

内 容

- 第1回 夏休みレポートの発表と修正1
- 第2回 夏休みレポートの発表と修正2
- 第3回 夏休みレポートの発表と修正3
- 第4回 フィールドワーク
- 第5回 フィールドワークのデータ解析
- 第6回 フィールドワーク報告1
- 第7回 フィールドワーク報告2
- 第8回 小論文の研究テーマ発表1
- 第9回 小論文の研究テーマ発表2
- 第10回 小論文の進捗報告1
- 第11回 小論文の進捗報告2
- 第12回 小論文の進捗報告3
- 第13回 小論文の成果発表1
- 第14回 小論文の成果発表2
- 第15回 1年間のまとめ

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行います。

教科書

参考書

講義内で適宜紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(都) &lt;\*B&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

小論文とレジюмеを作成し、プレゼンテーションをする

授業の到達目標

「夏休みレポート」(自分の意見を論理だてて展開した小論文)を作成する。そのレポートをもとに、レジюмеを作成する。人を説得するためのプレゼンテーションの技法を身につける

授業の概要

インターゼミナールを目指して、以下の内容について実践する

準備学習(予習・復習)

レジюмеを作成する、修正する プレゼンテーションの練習をする

内 容

- 第1回 夏休みレポートの提出とテーマ報告
- 第2回 レジюмеの作成とプレゼンテーションの技法
- 第3回 夏休みレポートの発表(1)
- 第4回 夏休みレポートの発表(2)
- 第5回 夏休みレポートの発表(3)
- 第6回 夏休みレポートの発表(4)
- 第7回 夏休みレポートの発表(5)
- 第8回 プレゼンテーションの実践(1)
- 第9回 プレゼンテーションの実践(2)
- 第10回 プレゼンテーションの実践(3)
- 第11回 プレゼンテーションの実践(4)
- 第12回 プレゼンテーションの実践(5)
- 第13回 プレゼンテーションの実践(6)
- 第14回 インターゼミナールの反省
- 第15回 1年を振り返って

履修上の注意点

教科書

参考書

大学生の学習テクニック(第3版)

著者: 森 靖雄

出版社: 大月書店

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(40)

参加度(30)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(都) &lt;\*C&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

都市環境デザインを総合的に考える ～大学における個人研究を深める～

授業の到達目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての課題設定、情報(文献)収集、レポート・原稿の書き方、調査(フィールドワーク)の方法など、基礎的な方法論を学ぶ。また、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることもあわせて行う。加えて、他者の発表を聞くことで、多様な学びの視点を身につけていくことを意識的に身につけていく。

授業の概要

基本的には、個人研究発表を中心として行っていく。事前に簡単な予習シートを作成し、発表対象への関心を高めるとともに、授業においては簡単なディスカッション等を行う。

準備学習(予習・復習)

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。日頃の生活では、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしてみましょう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標・自他理解)
- 第2回 個人研究発表1
- 第3回 個人研究発表2
- 第4回 個人研究発表3
- 第5回 個人研究発表4
- 第6回 個人研究発表5
- 第7回 個人研究発表6
- 第8回 個人研究発表7
- 第9回 個人研究発表8
- 第10回 インターゼミナールに向けた準備
- 第11回 インターゼミナールに向けた準備
- 第12回 学科インターゼミナールの実施
- 第13回 授業企画1
- 第14回 授業企画2
- 第15回 総括 ※状況によって多少変更をする場合もある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(30)

参加度(40)

特に出席を重視する。



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(都) &lt;\*D&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

アカデミックスキルとベーシックスキルの取得

授業の到達目標

研究テーマを絞る方法を身につける 自らの経験を通して、観察する／理解する／伝えるための言語力を伸ばす

授業の概要

アカデミック・スキルとソーシャル・スキルの習得

準備学習(予習・復習)

図書館の積極的利用を通して、専門学習への準備をすること

内 容

- 第1回 夏休みレポートの再作業① 作業の反省  
 第2回 夏休みレポートの再作業② 図書館でのさらなる文献探索  
 第3回 夏休みレポートの再作業③ 5分間スピーチに向けて  
 第4回 夏休みレポートの再作業④ レジユメの作成  
 第5回 自分なりの研究テーマを考える1 視点を持つこと  
 第6回 自分なりの研究テーマを考える2 視点を変える  
 第7回 自分なりの研究テーマを考える3 逆演算  
 第8回 自分なりの研究テーマを考える4 条件を変えてみる  
 第9回 自分なりの研究テーマを考える5 要素と構造  
 第10回 自分なりの研究テーマを考える6 自分の尺度を持つ  
 第11回 自分なりの研究テーマを考える7 アナロジーを使う  
 第12回 自分なりの研究テーマを考える8 伝える場合、伝えない場合  
 第13回 自分なりの研究テーマを考える9 個で考えて集団で共有する  
 第14回 もう一度レジユメを作ってみる  
 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト ( )

授業中課題 (100)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(都) &lt;\*E&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

小論文を作成し、発表する。

授業の到達目標

・調査の方法を学ぶ。・論文の書き方を学ぶ。・プレゼンテーション能力を身に付ける。・基礎演習1に引き続き、京都の建築・インテリアを知る。

授業の概要

夏休みレポートをもとにして、各自、小論文を作成する。論文作成にあたり、必要な調査方法、論文の書き方、プレゼンテーション能力を身に付ける。またこの授業ではグループで見学会を企画し、それについての調査、発表を行なう。学外授業を行なうこともあり、その場合には下記の日程を適宜調整する。

準備学習(予習・復習)

日常的に新聞、雑誌、本などを読むこと。気になるところに傍線を引く、メモ書きをするなど、それぞれの仕方理解するよう努めること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 夏休みレポートをもとに、小論文のテーマを発表。

第3回 2グループに分かれて見学会を企画。見学する建築・インテリアについては、各グループ内で話し合っ決めていくこと。

第4回 見学する建築・インテリアの歴史、文化、思想、構成などの調査。(図書館を利用した文献調査や、地域の人へのヒアリングなど)

第5回 見学する建築・インテリアの歴史、文化、思想、構成などの調査。

第6回 調査内容についてのプレゼンテーション。(パワーポイントの利用)

第7回 調査内容についてのプレゼンテーション。

第8回 見学会の実践1

第9回 見学会の実践2

第10回 反省会(調査内容の不足や過多、見学会での発見などを確認)

第11回 小論文の作成。

第12回 小論文の作成。

第13回 小論文の発表。

第14回 小論文の発表。

第15回 発表予備日。一年間のまとめ。

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 70 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ(都) &lt;\*F&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 政木 哲也

テーマ

都市空間観察とその記述の実践

授業の到達目標

・都市空間の観察を通じて景観・環境の成り立ちについて考察する・都市空間を自らの言葉で記述し抽象化を試みる・都市空間に対する独自の視点を見つけ出し、他者と共有する方法を学ぶ

授業の概要

私たちが暮らす都市は様々な要素が重なって構成されています。この授業では、身近な都市空間をフィールドに据えて、観察＝路上採集を行います。都市空間を構成している部分を自ら取り出し、分析を加えることを通して、景観や環境がどのようにして成り立っているかを探ります。また、授業では参加者がそれぞれ路上採集したものを発表し、得られた知見を全員で共有することを目指します。学外授業を行う場合は下記日程の中で適宜調整します。

準備学習(予習・復習)

あなたが普段過ごしているまち＝都市空間に対して、それがどのような要素によって作られているのか、意識的になって観察する姿勢が重要です。日頃から都市の細部までよく見ることを心がけてください。

内 容

- 第1回 レポート課題の講評・ガイダンス
- 第2回 学外授業1
- 第3回 路上採集の発表とディスカッション1
- 第4回 路上採集の発表とディスカッション2
- 第5回 路上採集の発表とディスカッション3
- 第6回 ワークショップ1
- 第7回 学外授業2
- 第8回 路上採集の発表とディスカッション4
- 第9回 路上採集の発表とディスカッション5
- 第10回 路上採集の発表とディスカッション6
- 第11回 ワークショップ2
- 第12回 学外授業3
- 第13回 プレゼンテーション1
- 第14回 プレゼンテーション2
- 第15回 プレゼンテーション3・まとめ

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。詳しい日程等は授業の中で周知します。

教科書

テキストは使用しません。授業では適宜資料を配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

考現学入門

著者: 今和次郎

出版社: 筑摩書房

出版年: 1987

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 造形基礎

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 富家 大器

テーマ

デッサンや色彩の演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

授業の到達目標

デッサンにおいては素材感の違いや素材同士の相性を見極める能力を養い、幾何学図形の色面構成では形と色の持つバランス感覚を身に付ける。立体の組合せでは建築的な空間の構成を念頭に、建築を立体的に思考する練習を重ねる。以上の課題をこなすことから、建築空間を総合的にデザインしていく能力を修得する。

授業の概要

演習を通じ生活環境や建築空間における「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する。自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、建築をはじめ、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。また、鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を行い、適宜事例の解説なども織りまぜる。各自の作品発表を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である。家にある色々なものを最低限1日10分でも毎日描くなどして予習復習し、手や目に「慣れ」を作っていくのも良い方法。

内 容

- 第1回 ガイダンス 道具の使い方、デッサンの基礎
- 第2回 デッサン1 立方体を描く
- 第3回 デッサン2 静物を描く①
- 第4回 デッサン3 静物を描く②
- 第5回 デッサン4 手を描く①
- 第6回 デッサン5 手を描く②
- 第7回 平面構成 課題説明 事例紹介
- 第8回 平面構成1 幾何学形態の組合せ①
- 第9回 平面構成2 幾何学形態の組合せ②
- 第10回 平面構成3 幾何学平面の色面構成①
- 第11回 平面構成4 幾何学平面の色面構成②
- 第12回 立体構成 課題説明 事例紹介
- 第13回 立体構成1 立方体の制作
- 第14回 立体構成2 立方体と他の立体の組合せ
- 第15回 立体構成3 まとめと発表:これまでの内容を振り返る。

履修上の注意点

クリエイティブな教室の空気を醸成するために私語などは厳禁です、謹んでください。私語などを含む授業態度や受講のマナーもチェックしていますので評価対象になります。尚、全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意してください。尚、受講に必要なスケッチブック、鉛筆数本、その他画材(合わせて1000~2000円程度)を購入して頂く必要があります。これについては、初回の授業で説明します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中都度紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

a50201d110

参加度（50）

授業中の課題を50%、授業への取り組み、態度、出席状況等を50%、総合判断して100%とします。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「建築・インテリア設計演習 I」および「建築・インテリア設計演習 II」をセットで登録すること	クラス指定	
担当者	近藤 康子	
テーマ	建築・インテリアの基礎を修得する。	
授業の到達目標	建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。	
授業の概要	建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。	
準備学習(予習・復習)	身の回りの空間や物の寸法に関心を持つ。	
内 容	第1回 ガイダンス 第2回 線の引き方 第3回 木造住宅のトレース1、平面図 第4回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図 第5回 木造住宅のトレース3、矩計図 第6回 部屋の改装1、実測とエスキース 第7回 部屋の改装2、平面図・展開図 第8回 部屋の改装3、模型制作 第9回 部屋の改装4、模型制作 第10回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース 第11回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成 第12回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成 第13回 小住宅の設計4、模型制作 第14回 小住宅の設計5、模型制作 第15回 講評とまとめ	
履修上の注意点		
教科書	名作住宅で学ぶ建築製図 著者： 藤木庸介 ほか 出版社： 学芸出版社 出版年： 2008 ISBN:	
参考書		
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I <b>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「建築・インテリア設計演習 I」および「建築・インテリア設計演習 II」をセットで登録すること	クラス指定	
担当者 半海 宏一		
テーマ 建築・インテリアの基礎を修得する。		
授業の到達目標 建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。		
授業の概要 建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。		
準備学習(予習・復習) 身の回りの空間や物の寸法に関心を持つ。		
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 線の引き方 第3回 木造住宅のトレース1、平面図 第4回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図 第5回 木造住宅のトレース3、矩計図 第6回 部屋の改装1、実測とエスキース 第7回 部屋の改装2、平面図・展開図 第8回 部屋の改装3、模型制作 第9回 部屋の改装4、模型制作 第10回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース 第11回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成 第12回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成 第13回 小住宅の設計4、模型制作 第14回 小住宅の設計5、模型制作 第15回 講評とまとめ		
履修上の注意点		
教科書 名作住宅で学ぶ建築製図 著者： 藤木庸介 ほか 出版社： 学芸出版社 出版年： 2008 参考書	ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 40 ) 参加度 ( 30 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I <c>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習 I」および「建築・インテリア設計演習 II」をセットで登録すること	
担当者	伊藤 健一	
テーマ	建築・インテリアの基礎を修得する。	
授業の到達目標	建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。	
授業の概要	建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。	
準備学習(予習・復習)	身の回りの空間や物の寸法に関心を持つ。	
内 容	第1回 ガイダンス 第2回 線の引き方 第3回 木造住宅のトレース1、平面図 第4回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図 第5回 木造住宅のトレース3、矩計図 第6回 部屋の改装1、実測とエスキース 第7回 部屋の改装2、平面図・展開図 第8回 部屋の改装3、模型制作 第9回 部屋の改装4、模型制作 第10回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース 第11回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成 第12回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成 第13回 小住宅の設計4、模型制作 第14回 小住宅の設計5、模型制作 第15回 講評とまとめ	
履修上の注意点		
教科書	名作住宅で学ぶ建築製図 著者： 藤木庸介 ほか 出版社： 学芸出版社 出版年： 2008 ISBN:	
参考書		
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( 30 )	









## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習 I &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員 34

履修条件 クラス指定

担当者 松本 正富

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の概要

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 CADソフトについて CAD製図の基礎とオブジェクトの操作(1)
- 第2回 CAD製図の基礎とオブジェクトの操作(2) 平面図の作図(1)
- 第3回 平面図の作図(2)
- 第4回 平面図の作図(3)
- 第5回 平面図の作図(4)
- 第6回 平面図の作図(5)
- 第7回 家具、窓等の作図
- 第8回 課題の作図、提出
- 第9回 立面図の作図(1)
- 第10回 立面図の作図(2)
- 第11回 立面図の作図(3)
- 第12回 断面図の作図(1)
- 第13回 断面図の作図(2)
- 第14回 敷地図の作図、レイアウト
- 第15回 図面の設定、印刷 総括

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック社

出版年:

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 34
履修条件	クラス指定
担当者 中山 大介	
テーマ 2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション	
授業の到達目標 コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。	
授業の概要 コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 CADソフトについて CAD製図の基礎とオブジェクトの操作(1) 第2回 CAD製図の基礎とオブジェクトの操作(2) 平面図の作図(1) 第3回 平面図の作図(2) 第4回 平面図の作図(3) 第5回 平面図の作図(4) 第6回 平面図の作図(5) 第7回 家具、窓等の作図 第8回 課題の作図、提出 第9回 立面図の作図(1) 第10回 立面図の作図(2) 第11回 立面図の作図(3) 第12回 断面図の作図(1) 第13回 断面図の作図(2) 第14回 敷地図の作図、レイアウト 第15回 図面の設定、印刷 総括	
履修上の注意点 7割以上の出席が単位取得の条件です。	
教科書 VectorworksではじめるCAD 著者: 五十嵐進 出版社: ソーテック社 出版年: ISBN: 9.78488E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (70) 参加度 (30)	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習 I &lt;c&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員 34

履修条件 クラス指定

担当者 中山 大介

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の概要

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 CADソフトについて CAD製図の基礎とオブジェクトの操作(1)
- 第2回 CAD製図の基礎とオブジェクトの操作(2) 平面図の作図(1)
- 第3回 平面図の作図(2)
- 第4回 平面図の作図(3)
- 第5回 平面図の作図(4)
- 第6回 平面図の作図(5)
- 第7回 家具、窓等の作図
- 第8回 課題の作図、提出
- 第9回 立面図の作図(1)
- 第10回 立面図の作図(2)
- 第11回 立面図の作図(3)
- 第12回 断面図の作図(1)
- 第13回 断面図の作図(2)
- 第14回 敷地図の作図、レイアウト
- 第15回 図面の設定、印刷 総括

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック社

出版年:

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **建築構造**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福田 浩明	
テーマ 建築の構成の基礎を学ぶ	
授業の到達目標 建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。	
授業の概要 建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。	
準備学習(予習・復習) 最終日の試験に備えて、とにかくノートを自筆でしっかりとってください。	
内 容 第1回 ガイダンス、建築構造と倫理 第2回 地盤特性について 第3回 基礎について、免震構造 第4回 木質構造1 第5回 木質構造2 第6回 コンクリートブロック構造、組石造 第7回 壁式鉄筋コンクリート構造 第8回 鉄筋コンクリート構造1 第9回 鉄筋コンクリート構造2 第10回 鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造 第11回 建築の各部構造1、屋根 第12回 建築の各部構造2、床と壁 第13回 建築の各部構造3、天井と階段 第14回 建築の各部構造4、造作と開口部 第15回 まとめ	
履修上の注意点 3回以上の欠席は原則認めません。欠席理由は必ず前後で申し出ること	
教科書 やさしい建築一般構造 著者： 今村仁美 他 出版社： 学芸出版社 出版年： 2013年第3版発行 ISBN:	
参考書 建築構造概論 著者： 桑村仁 他 出版社： 実況出版 出版年： 2014年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 50 ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 50 ) 人数、その他の状況で評価方法が変わることもありますが、原則出席をしてのノートの記録を重要視します。100点満点のペーパーテスト(ノートの持ち込みも可、コピーは不可)と一緒に成績の評価とします。	

## 2017 Syllabus

科目名 構造力学 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山本 康彦

テーマ

建築物に働く力の基礎を理解する。

授業の到達目標

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物に生じる反力と応力の求め方、構造物の判別、静定構造物の弾性解析、断面の性質などについて練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の概要

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物に生じる反力と応力の求め方、構造物の判別、静定構造物の弾性解析、断面の性質などについて練習問題を通して具体的に理解を深める。

準備学習(予習・復習)

次回講義範囲をテキストを使って予習し、プリントで復習する。予習、復習で週1時間程度。また、常に建物に興味を持ち、建築途中の現場等では、建物がどのように建てられているのかを考えながら見るようにする。

内 容

- 第1回 構造力学について
- 第2回 力のつり合い
- 第3回 外力と内力のつりあい
- 第4回 構造物の分類とモデル化
- 第5回 構造部材に生じる応力と応力図
- 第6回 静定骨組みの応力計算1 片持ちはり
- 第7回 静定骨組みの応力計算2 単純はり
- 第8回 断面の性質1
- 第9回 断面の性質2
- 第10回 静定ラーメンの応力計算1 片持はり型ラーメン
- 第11回 静定ラーメンの応力計算2、単純はり型ラーメン
- 第12回 静定ラーメンの応力計算3、3ヒンジラーメン
- 第13回 静定トラスの解析1、節点法
- 第14回 静定トラスの解析2、切断法
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

構造力学は、1回1回の受講の積み重ねで、理解が進んでいく科目です。欠席する事なく、受講に際しては、毎回ノートを取り、しっかりと復習するようにしてください。欠席した際には、講義範囲をテキストを使って学習し、理解不十分な所は、講師に質問し、次回以降の講義に支障のないように努めてください。

教科書

図説 やさしい構造力学

著者: 浅野清昭

出版社: (株)学芸出版社

出版年: 2004年

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

講義時に使用するプリント類からも、試験問題を出題するため、毎回の講義にしっかりと出席することが、好成績を取る事にも繋がります。



## 2017 Syllabus

科目名 インテリアデザイン論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

インテリアデザインに関する基礎知識を修得する。

授業の到達目標

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

授業の概要

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

準備学習(予習・復習)

日常生活においてもインテリアデザインに関心を持ち、多くの情報を得よう心掛けること。

内 容

- 第1回 暮らしとインテリア
- 第2回 日本の住まいとインテリア 西洋のインテリアと家具の様式
- 第3回 インテリアと寸法
- 第4回 インテリアの性能と安全性
- 第5回 空間のデザイン
- 第6回 インテリアの色彩、テクスチャー
- 第7回 インテリアの仕上げ材料
- 第8回 家具の種類、配置、インテリアファブリック
- 第9回 照明計画と照明器具
- 第10回 インテリアの構法とデザイン
- 第11回 室内環境の計画
- 第12回 インテリアの計画演習1
- 第13回 インテリアの計画演習2
- 第14回 インテリアの計画演習3
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 インテリアエレメント

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

インテリア空間を構成する要素についての基礎知識を修得する。

授業の到達目標

インテリアにおいて、構造から仕上げに至るまでの基本的な知識を修得する。規格や性質等を含め、さまざまなインテリアエレメントについて学ぶ。構成要素・素材の総合的な知識を身に付け、材料・空間・生活の相互関連メカニズムを論じる。また、ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザインにも言及する。

授業の概要

インテリアにおいて、構造から仕上げに至るまでの基本的な知識を修得する。規格や性質等を含め、さまざまなインテリアエレメントについて学ぶ。構成要素・素材の総合的な知識を身に付け、材料・空間・生活の相互関連メカニズムを論じる。また、ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザインにも言及する。

準備学習(予習・復習)

見学や、雑誌・写真集の閲覧などを通して、なるべく多くの作品に触れること。

内 容

- 第1回 インテリアエレメント・マテリアル概論
- 第2回 文化としての生活・建築・環境づくり: インテリア空間の基本的構成エレメント1
- 第3回 文化としての生活・建築・環境づくり: インテリア空間の基本的構成エレメント2
- 第4回 要素と構成: 要素から室内空間へ1……(エレメント-1)
- 第5回 要素と構成: 要素から室内空間へ2……(エレメント-2)
- 第6回 重要要素の種類と性格……(エレメント-3)
- 第7回 内外環境計画の現場を知る【学外研修】: エレメントとマテリアルへの注目
- 第8回 空間構成と計画……(エレメントとマテリアル-1)
- 第9回 空間構成と表現……(エレメントとマテリアル-2)
- 第10回 要素と構築-1: 石と壁組から……(マテリアル-1)
- 第11回 要素と構築-2: 木と軸組から……(マテリアル-2)
- 第12回 重要材の種類と性質……(マテリアル-3)
- 第13回 エレメントとマテリアルによる統合-1: ユニバーサルデザイン
- 第14回 エレメントとマテリアルによる統合-2: サステイナブルデザイン
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **観光学総論 <Z>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光学の全体像を知る。

授業の到達目標

さまざまな観光の現状と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の概要

観光学の全般について論述する。

準備学習(予習・復習)

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

内 容

- 第1回 観光とは(歴史を含む)①
- 第2回 観光とは(歴史を含む)②
- 第3回 旅行業と観光①
- 第4回 旅行業と観光②
- 第5回 鉄道会社と観光①
- 第6回 鉄道会社と観光②
- 第7回 航空産業と観光①
- 第8回 航空産業と観光②
- 第9回 ホテル・旅館業と観光①
- 第10回 ホテル・旅館業と観光②
- 第11回 土産品と観光①
- 第12回 土産品と観光②
- 第13回 ニューツーリズム①
- 第14回 ニューツーリズム②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

レポート等の提出機会も多くなるので積極的に取り組んでください。

教科書

新しい観光を学ぶ

著者: 谷口知司編著

出版社: 晃洋書房

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

3分の2以上の出席が必要です。

2017 Syllabus
---------------

科目名 **観光資源論Ⅱ <Z>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

海外観光地理を学ぶ。

授業の到達目標

海外の観光地理を学び、それぞれの地域の観光資源(自然、人文、複合)についての知識を得ることを目的とする。

授業の概要

テキストを中心に授業を進めるが、毎回小テストを課す。参加者の発表が毎回ある。

準備学習(予習・復習)

毎回小テストを課し、その成績評価でのウエイトが高いため、自宅学習は必要です。発表のための予習も必要です。

内 容

- 第1回 導入およびアジア①
- 第2回 アジア②
- 第3回 アジア③
- 第4回 ヨーロッパ①
- 第5回 ヨーロッパ②
- 第6回 ヨーロッパ③
- 第7回 南北アメリカ①
- 第8回 南北アメリカ②
- 第9回 南北アメリカ③
- 第10回 オセアニア、太平洋の島々①
- 第11回 オセアニア、太平洋の島々②
- 第12回 オセアニア、太平洋の島々②
- 第13回 中東、アフリカ①
- 第14回 中東、アフリカ②
- 第15回 中東、アフリカ③およびまとめ

履修上の注意点

教科書

海外観光地理サブノート

著者: JTB能力開発

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (10)

小テスト (60)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

3分の2以上の出席が必要です。

## 2017 Syllabus

科目名 まちづくり論入門

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

まちづくりの基礎知識の習得

授業の到達目標

・これからまちづくりの実践に取り組むに当たった基礎知識を身につけること。・京都におけるまちづくりの現状及び課題について理解すること。

授業の概要

まちづくりとは、「地域住民が自分たちのまちをより良いものとするための活動」のことです。本講義では、地域住民が主導して行うまちづくりの基本的な内容について、主として京都を事例として講義します。後半では、現在各地で行われているまちづくり活動の事例について受講生に調査・発表してもらいます。

準備学習(予習・復習)

京都では、各地で様々なまちづくり活動が展開されています。日頃から自分の住んでいる地域で行われているまちづくり活動に関心をもつよう心がけてください。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 まちづくりとは何か?
- 第3回 まちづくりを担うプレーヤー
- 第4回 京都のまちの成り立ち1-近世以前-
- 第5回 京都のまちの成り立ち2-近代以降-
- 第6回 京都のまちの構造
- 第7回 京都のまちづくりが抱える課題1-景観問題-
- 第8回 京都のまちづくりが抱える課題2-マンション問題-
- 第9回 京都のまちづくりが抱える課題3-細街路(路地)問題-
- 第10回 京都におけるまちづくりの事例紹介1
- 第11回 京都におけるまちづくりの事例紹介2
- 第12回 京都以外の特徴的なまちづくり事例の紹介
- 第13回 学生による事例調査の発表1
- 第14回 学生による事例調査の発表2
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがあります。

教科書

参考書

講義内で適宜紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 **観光文化論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 金武 創	
テーマ	
観光学の基本的理解(主として観光文化の視点から)	
授業の到達目標	
観光学の基礎を学び理解すること 観光現象における文化と経済の緊張関係を考えること 地域の主体的自立を自分の問題として考えること	
授業の概要	
観光文化について、人類学や社会学、民俗学などを中心に学習する。受講人数によって、グループワークと文献購読あるいはツーリズム・コンテンツを組み合わせたPBL型授業を行うか、VTR+新聞資料+専門文献を中心とした講義を進める。	
準備学習(予習・復習)	
日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。	
内 容	
第1回 観光学の基礎1	
第2回 観光学の基礎2	
第3回 観光学の基礎3	
第4回 観光とメディア	
第5回 個人化する観光	
第6回 観光経験 ブーアスティンとマキヤーネルの論考から	
第7回 ホストとゲスト	
第8回 「大きな物語」と文化遺産観光(1)	
第9回 「大きな物語」と文化遺産観光(2)	
第10回 「大きな物語」と文化遺産観光(3)	
第11回 戦争と観光	
第12回 アニメ・マンガ・ゲーム観光	
第13回 ボランティア観光	
第14回 エコツーリズム	
第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。	

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

観光経験の人類学

著者: 橋本和也

出版社: 世界思想社

出版年: 2011

ISBN:

観光文化学

著者: 山下晋司

出版社: 新陽社

出版年: 2007

ISBN:

ふるさと資源化と民俗学

著者: 岩本通弥編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2007

ISBN:

祭りのゆくえ

著者： 松平誠

出版社： 中央口論新社

出版年： ISBN:

n次創作観光

著者： 岡本健

出版社： 北海道冒険芸術出版

出版年： 2013 ISBN:

観光学ガイドブック

著者： 大橋昭一ほか

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2014 ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 文化プロデュース入門Ⅰ〈Z〉

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ	
現代ビジネス学部都市環境デザイン学科公共政策コースの扉を開く	

## 授業の到達目標

文化と都市、プロデュースと公共政策≡環境デザインとの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画(アニメ、ホラーなど)を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

## 授業の概要

都市環境デザイン学科の主に公共政策コースを学びたい学生さんの最初の一步。でも、他の学修にも役に立つと思います。

## 準備学習(予習・復習)

地元の自治体のニュースや情報を知るようにすること。また、古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館において実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

## 内 容

- 第1回 はじめに・・・地域公共政策士の初級プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
- 第2回 文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的(社会構成的)な捉え方
- 第3回 地域とはなにか—都市と地方、国と国際との概念を明確にするために—
- 第4回 政策とはなにか、行政とはなにか
- 第5回 学外授業 地域の公共的ないし文化的環境を視察イベントを体験する(東部文化会館などが候補)
- 第6回 地域と政策と文化との関係(互いの関係とすみわけ)
- 第7回 文化と政策との概略史
- 第8回 誕生日のあるアーツ、それが映画だ(活動写真からトーキーへ)
- 第9回 アニメ映画への接近(原恵一監督～「河童のクウの夏休み」から分かること)、アニメと文化プロデュース、まちおこしとの関係
- 第10回 実写映画への接近1(黒沢清監督～ホラー映画は映画の本質を示すというのは本当か?)
- 第11回 実写映画への接近2(黒沢清監督～心理とアクション～)「東京ソナタ」を題材にして、映画は時代をどう映すのか?
- 第12回 映画プロデュースと地域公共との関係
- 第13回 文化プロデュースはまちに何をもたらすのか
- 第14回 私たちのまちと文化の未来へ、文化行政と企業メセナへの提案
- 第15回 まとめ・・・これからの公共政策コース、文化プロデュース力養成講座の予告 文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

## 履修上の注意点

大学の図書館やメディアセンターを活用すると、資料や映画なども観ることができるので、空き時間などを無駄に使わないで自習すること。1回生のときから、文化プロデュースや地域公共政策に強い関心を持つ学生は、学外活動に参加することが出来るので、申し出ること。

## 教科書

## 参考書

アニメーション監督 原恵一

著者: 浜野保樹

出版社: 晶文社

出版年: 2005年

ISBN: 4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント

著者: 中川真・小暮宣雄ほか

出版社: フィルムアート社

出版年: 2011年

ISBN: 9.78485E+12



黒沢清の映画術

著者： 黒沢清

出版社： 新潮社

出版年： 2006年

ISBN: 4-10-302851-3

新版 行政ってなんだろう

著者： 新藤宗幸

出版社： 岩波書店

出版年： 2008年

ISBN: 4005005861

現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本

著者： 大賀英徳

出版社： 実務教育出版

出版年： 2015年

ISBN: 9.78479E+12

アーツマネジメント学

著者： 小暮宣雄

出版社： 水曜社

出版年： 2013年

ISBN: 9.78488E+12

---

#### 成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（20）

授業中課題（40）

授業中発表等（0）

参加度（40）

参加度には、学外授業や文化ボランティア参加なども考慮することになります。

---

## 2017 Syllabus

科目名 文化プロデュース入門Ⅱ

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小辻 寿規

テーマ

日本の映像作品や音楽、マンガと京都の文化(特にまちづくり、神社仏閣、伝統工芸等)の理解を深め、文化プロデュースに必要な基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

日本の映像作品や音楽、マンガのほか、京都のまちづくり、神社仏閣、伝統工芸、和菓子の歴史を学び、その上で、これらの社会資源をどのようにプロデュースすることが可能かを考え、文化プロデューサーの基礎基盤を構築する。

授業の概要

様々な作品や文化を学んだ上で、その文化をどのようにプロデュースすれば、より有効な社会資源となるかの発表を行う。

準備学習(予習・復習)

様々な映像作品や音楽、マンガ、まちづくり活動や神社仏閣、伝統工芸に興味を持ち、その長所や短所について考えてみてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「京都に生まれ育って ぶぶづけの作法」
- 第2回 日本の映像作品「アメリカから日本にやってきて、また海を渡った特撮作品たち」
- 第3回 日本のミュージックシーンとプロデューサーたち「ジャニー喜多川、酒井政利、秋元康、YOSHIKI、小室哲哉、つんくみほか」
- 第4回 文化プロデュース実習1(学外授業)「やまな駅前陶灯路」(10月14日予定)
- 第5回 文化プロデュース実習2(学外授業)「やまな駅前陶灯路」(10月14日予定)
- 第6回 文化プロデュース実習3(学外授業)「やまな駅前陶灯路」(10月14日予定)
- 第7回 京都のまちづくり「番組小学校がまちづくりを育む」
- 第8回 和菓子を学ぶ「まちづくりをプロデュースするなら」
- 第9回 京都の神社仏閣「この神社仏閣がスゴい」
- 第10回 京都の神社仏閣と和菓子屋訪問1(学外授業)
- 第11回 京都の神社仏閣と和菓子屋訪問2(学外授業)
- 第12回 京都の伝統工芸「この伝統工芸がスゴい—清水焼、西陣織、北山丸太ほか—」
- 第13回 京都の文化を育む鴨川「鴨川条例を中心に」
- 第14回 新しい価値観の創造を考える—グループワーク—
- 第15回 プロデュースを担う者たち ※なお、この授業では必要に応じて、ゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

出席を最低10回以上した方のみ評価します。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京・まちづくり史

著者: 高橋康夫・中川理

出版社: 昭和堂

出版年: 2003

ISBN: 4812203147

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(20)

授業中課題(30)

授業中発表等(30)

参加度(20)

総合的に判定します。必ず、10コマ以上出席してください。

## 2017 Syllabus

科目名 都市文化資源論 &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

文化資源を中心とした地域再生・地域デザイン考える

授業の到達目標

都市や地域には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、その土地にあるさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養うとともに、テーマを決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・政策提案までを行う。

授業の概要

今年度は、大学の地域連携関係で、和歌山・那智勝浦町と後半連携し、2泊3日で8月上旬に訪問する(原則全員参加・参加できない人は応相談)。交通費(バス代)は大学から支給される予定日程は受講生の希望を確認して決める予定。

準備学習(予習・復習)

身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみると、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文化とは
- 第3回 文化資源の多様性
- 第4回 事例見学:音楽による地域振興事例「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」(大津)
- 第5回 まち育てと文化資源
- 第6回 観光と文化資源
- 第7回 文化資源の発掘
- 第8回 個別都市(地域)の選定
- 第9回 個別文化資源研究(文献研究)1
- 第10回 個別文化資源研究(文献研究)2
- 第11回 文化資源の現地調査(那智勝浦町フィールドワーク)
- 第12回 文化資源の現地調査(那智勝浦町フィールドワーク)
- 第13回 文化資源の編集
- 第14回 文化資源の編集
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

観光学への扉

著者: 井口貢・木下達文他編

出版社: 学芸出版社

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(30)

参加度(40)

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークや和歌山へのフィールドワークを行う。継続プロジェクトとして実施しているので、授業外の学生も参加することがある。

## 2017 Syllabus

科目名 **建築・インテリア入門**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

## 授業の到達目標

建築・インテリア分野に関連する専門家の現状を知り、建築設計や工事監理等の業務について考える場を提供する。本学で学ぶ建築・インテリアに関する知識が、実社会においてどのように役立つのかを理解する。建築・インテリアに関する様々な業種の知識を得て、各自の考えをまとめる。また、その他の授業との関係についても考えていく。

## 授業の概要

建築・インテリア分野に関連する専門家の現状を知り、建築設計や工事監理等の業務について考える場を提供する。本学で学ぶ建築・インテリアに関する知識が、実社会においてどのように役立つのかを理解する。建築・インテリアに関する様々な業種の知識を得て、各自の考えをまとめる。また、その他の授業との関係についても考えていく。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 建築家による住宅の設計過程(1)設計全般
- 第3回 建築家による住宅の設計過程(2)デザイン
- 第4回 建築家による一般建築の設計過程
- 第5回 インテリアコーディネーターの実務
- 第6回 建設会社での実務(1)住宅の建設現場
- 第7回 建設会社での実務(2)一般建築の建設現場
- 第8回 ハウスメーカーにおける実務(1)設計
- 第9回 ハウスメーカーにおける実務(2)営業
- 第10回 リフォームにおける建築工事過程(1)住宅
- 第11回 リフォームにおける建築工事過程(2)一般建築
- 第12回 まちづくりの現状(1)仙台の事例
- 第13回 まちづくりの現状(2)長浜・高松の事例
- 第14回 不動産業界における実務
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **建築デザイン基礎**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福本 絹代

テーマ

三次元空間を表現できるパースを、スケッチで簡単に描けるようになること。

授業の到達目標

透視図法を理解し、デッサンやスケッチを通して遠近法を実感する。一通り下書きから着色まで学び、10分くらいで描く早描きも身につける。カリキュラムの最後には学内他授業の設計課題のパースを各自作成し、まとめとする。

授業の概要

透視図法を理解し、デッサンやスケッチを通して遠近法を実感する。一通り下書きから着色まで学び、10分くらいで描く早描きも身につける。カリキュラムの最後には学内他授業の設計課題のパースを各自作成し、まとめとする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス・透視図の理解
- 第2回 デッサン・スケッチ(インテリア①)
- 第3回 インテリアパースの下書き(一消点)
- 第4回 インテリアの点景
- 第5回 インテリアパースのマーカ着色(一消点)
- 第6回 デッサン・スケッチ(外観)
- 第7回 外観パースの下書き(二消点)
- 第8回 外観の点景
- 第9回 外観パースのマーカ着色(二消点)
- 第10回 デッサン・スケッチ(インテリア②)
- 第11回 インテリアパースの下書き(二消点)
- 第12回 インテリアパースのマーカ着色(二消点)
- 第13回 設計課題のパース作成1
- 第14回 設計課題のパース作成2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スケッチパース インテリア編

著者: 宮後 浩、山本 勇気

出版社: 株式会社秀和システム

出版年: 2011年

ISBN: 9.7848E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **観光学入門**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光学の全体像を知る。

授業の到達目標

さまざまな観光の現状と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の概要

観光学の全般について論述する。

準備学習(予習・復習)

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

内 容

- 第1回 観光とは(歴史を含む)①
- 第2回 観光とは(歴史を含む)②
- 第3回 旅行業と観光①
- 第4回 旅行業と観光②
- 第5回 鉄道会社と観光①
- 第6回 鉄道会社と観光②
- 第7回 航空産業と観光①
- 第8回 航空産業と観光②
- 第9回 ホテル・旅館業と観光①
- 第10回 ホテル・旅館業と観光②
- 第11回 土産品と観光①
- 第12回 土産品と観光②
- 第13回 ニューツーリズム①
- 第14回 ニューツーリズム②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

レポート等の提出機会も多くなるので積極的に取り組んでください。

教科書

新しい観光を学ぶ

著者: 谷口知司編著

出版社: 晃洋書房

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

3分の2以上の出席が必要です。

## 2017 Syllabus

科目名 **観光資源論 I (国内)**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 弘幸	
テーマ	
日本の国内の観光資源について概観する。	
授業の到達目標	
国内の主要な観光地理を概観し、国内観光資源の全体像を理解できることを目的とする。	
授業の概要	
ワークブックを用いて行う。グループ発表を行う。	
準備学習(予習・復習)	
毎回授業で小テスト及びグループ発表を行うので予習・復習が必要です。	
内 容	
第1回 インTRODククション(授業の進め方、グループ分け)	
第2回 北海道エリア①	
第3回 北海道エリア②	
第4回 東北エリア①	
第5回 東北エリア②	
第6回 関東エリア①	
第7回 関東エリア②	
第8回 中部エリア①	
第9回 中部エリア②	
第10回 関西エリア①	
第11回 関西エリア②	
第12回 中国/四国エリア①	
第13回 中国/四国エリア②	
第14回 九州/沖縄エリア①	
第15回 九州/沖縄エリア②	
履修上の注意点	
毎回小テストを行うため復習が必要です。	
教科書	
国内観光地理	
著者:	
出版社: JTB総合研究所	
出版年: 2016	ISBN:
参考書	
「これからの観光を考える」	
著者: 谷口知司/福井弘幸	
出版社: 晃洋書房	
出版年: 2017	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (10)	小テスト (60)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (20)
参加度 (10)	
3分の2以上の出席が必要です。	

## 2017 Syllabus

科目名 観光資源論Ⅱ(国外)

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

海外観光地理を学ぶ。

授業の到達目標

海外の観光地理を学び、それぞれの地域の観光資源(自然、人文、複合)についての知識を得ることを目的とする。

授業の概要

テキストを中心に授業を進めるが、毎回小テストを課す。参加者の発表が毎回ある。

準備学習(予習・復習)

毎回小テストを課し、その成績評価でのウエイトが高いため、自宅学習は必要です。発表のための予習も必要です。

内 容

第1回 導入およびアジア①

第2回 アジア②

第3回 アジア③

第4回 ヨーロッパ①

第5回 ヨーロッパ②

第6回 ヨーロッパ③

第7回 南北アメリカ①

第8回 南北アメリカ②

第9回 南北アメリカ③

第10回 オセアニア、太平洋の島々①

第11回 オセアニア、太平洋の島々②

第12回 オセアニア、太平洋の島々③

第13回 中東、アフリカ①

第14回 中東、アフリカ②

第15回 中東、アフリカ③およびまとめ

履修上の注意点

教科書

海外観光地理サブノート

著者: JTB能力開発

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(10)

小テスト(60)

授業中課題(0)

授業中発表等(20)

参加度(10)

3分の2以上の出席が必要です。



## 2017 Syllabus

## 科目名 公共政策入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ	
現代ビジネス学部都市環境デザイン学科公共政策コースの扉を開く	

## 授業の到達目標

文化と都市、プロデュースと公共政策≡環境デザインとの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画(アニメ、ホラーなど)を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

## 授業の概要

都市環境デザイン学科の主に公共政策コースを学びたい学生さんの最初の一步。でも、他の学修にも役に立つと思います。

## 準備学習(予習・復習)

地元の自治体のニュースや情報を知るようにすること。また、古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいて実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

## 内 容

- 第1回 はじめに・・・地域公共政策士の初級プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
- 第2回 文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的(社会構成的)な捉え方
- 第3回 地域とはなにか—都市と地方、国と国際との概念を明確にするために—
- 第4回 政策とはなにか、行政とはなにか
- 第5回 学外授業 地域の公共的ないし文化的環境を視察イベントを体験する(東部文化会館などが候補)
- 第6回 地域と政策と文化との関係(互いの関係とすみわけ)
- 第7回 文化と政策との概略史
- 第8回 誕生日のあるアーツ、それが映画だ(活動写真からトーキーへ)
- 第9回 アニメ映画への接近(原恵一監督～「河童のクウの夏休み」から分かること)、アニメと文化プロデュース、まちおこしとの関係
- 第10回 実写映画への接近1(黒沢清監督～ホラー映画は映画の本質を示すというのは本当か?)
- 第11回 実写映画への接近2(黒沢清監督～心理とアクション～)「東京ソナタ」を題材にして、映画は時代をどう映すのか?
- 第12回 映画プロデュースと地域公共との関係
- 第13回 文化プロデュースはまちに何をもたらすのか
- 第14回 私たちのまちと文化の未来へ、文化行政と企業メセナへの提案
- 第15回 まとめ・・・これからの公共政策コース、文化プロデュース力養成講座の予告 文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

## 履修上の注意点

大学の図書館やメディアセンターを活用すると、資料や映画なども観ることができるので、空き時間などを無駄に使わないで自習すること。1回生のときから、文化プロデュースや地域公共政策に強い関心を持つ学生は、学外活動に参加することが出来るので、申し出ること。

## 教科書

## 参考書

アニメーション監督 原恵一

著者: 浜野保樹

出版社: 晶文社

出版年: 2005年

ISBN: 4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント

著者: 中川真・小暮宣雄ほか

出版社: フィルムアート社

出版年: 2011年

ISBN: 9.78485E+12

黒沢清の映画術

著者： 黒沢清

出版社： 新潮社

出版年： 2006年

ISBN: 4-10-302851-3

新版 行政ってなんだろう

著者： 新藤宗幸

出版社： 岩波書店

出版年： 2008年

ISBN: 4005005861

現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本

著者： 大賀英徳

出版社： 実務教育出版

出版年： 2015年

ISBN: 9.78479E+12

アーツマネジメント学

著者： 小暮宣雄

出版社： 水曜社

出版年： 2013年

ISBN: 9.78488E+12

---

#### 成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（20）

授業中課題（40）

授業中発表等（0）

参加度（40）

参加度には、学外授業や文化ボランティア参加なども考慮することになります。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 文化経済・政策論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 金武 創	
テーマ	・文化と経済との関係から、公共政策の理解を深める・生活の豊かさと個人の自立について考える
授業の到達目標	・文化的な活動が経済によって支えられていることを理解する・現在の経済活動が文化的な活動無しに成立し得ないことを理解する・経済学的な視点からものを見ることができるようになる
授業の概要	・文化と経済の関係を理解し、文化経済学の基礎を身につける
準備学習(予習・復習)	・新聞、経済週刊誌を読むこと。特に日経流通新聞(キャリアセンターに所蔵)は就職活動にも役立ちます。
内 容	<p>第1回 イントロダクション:なぜ文化経済学を勉強するのか?</p> <p>第2回 文化と経済との関係:経済学とはどんな学問か?</p> <p>第3回 芸術と経済のジレンマ:実演芸術は商売にならない。</p> <p>第4回 「コスト病」の考え方:実演芸術と共通の性質を持つ産業をさがしてみよう。</p> <p>第5回 芸術作品の価格とオークション:芸術作品の値段はどのように決まるのか?</p> <p>第6回 芸術作品の価格と価値:「高い」芸術作品は「よい」芸術作品か?</p> <p>第7回 資産としての芸術作品:将来値上がりする芸術作品とは?</p> <p>第8回 芸術文化の消費行動:蓼食う虫も好き好き?</p> <p>第9回 スローライフの経済学:時間をフルに活用するということ。</p> <p>第10回 創造的生産者としての芸術家:金儲けだけが仕事ではない。</p> <p>第11回 文化と非営利組織の役割:文化施設は誰が運営すべきか</p> <p>第12回 文化と情報の経済学:情報は誰のものか?</p> <p>第13回 著作権の経済学:追求権は芸術家の味方になるか?</p> <p>第14回 芸術文化の公的支援:経済的支援と表現の自由のジレンマ。</p> <p>第15回 アームズ・レングスの原則:芸術支援政策とは? *なお、学外講師を招いた特別授業を実地することもある</p>
履修上の注意点	日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法/手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。
教科書	<p>文化経済論</p> <p>著者: 金武創・阪本崇</p> <p>出版社: ミネルヴァ書房</p> <p>出版年: 2005 ISBN:</p>
参考書	<p>必要に応じて紹介する</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( 40 )</p> <p>授業中課題 ( 60 ) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p>

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(都) &lt;\* a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 公務員試験のカラクリと公務員の実像について学ぶ	
授業の到達目標 公務員試験のカラクリと公務員の実像について、テキストと映像資料を活用して学ぶ	
授業の概要 以下の内容について、テキストと映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習) 事前にテキストの該当章を読んで、疑問点・討論点を考えておく 事後にもう一度テキストの該当章を読み、理解を深める	
内 容 第1回 オリエンテーション、公務員試験ガイダンス 第2回 『公務員試験のカラクリ』まえがきに代えて 第3回 『公務員試験のカラクリ』第1章 第4回 『公務員試験のカラクリ』第2章 第5回 『公務員試験のカラクリ』第3章 第6回 『公務員試験のカラクリ』第4章 第7回 『公務員試験のカラクリ』第5章 第8回 『公務員試験のカラクリ』第6章 第9回 『公務員試験のカラクリ』第7章 第10回 『公務員試験のカラクリ』第8章 第11回 『県庁そろそろクビですか?』序章、第1章 第12回 『県庁そろそろクビですか?』第2章 第13回 『県庁そろそろクビですか?』第3章 第14回 『県庁そろそろクビですか?』第4章 第15回 『県庁そろそろクビですか?』第5章、終章	
履修上の注意点 本学公務員試験センター主催の「公務員試験対策講座」を受ける	
教科書 公務員試験のカラクリ 著者: 大原 暁 出版社: 光文社 出版年: 2011年 ISBN: 県庁そろそろクビですか? 著者: 円城寺雄介 出版社: 小学館 出版年: 2016年 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(都) &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 公共政策・文化プロデュース入門(1)	
授業の到達目標 公共政策の概要を知る。文化のなかのアートの概要と特質を知る。公共政策のなかの文化政策の現場を体験する	
授業の概要 公共政策の現場体験や文化実践とともに、教科書を音読し、文章理解を努めるようにする。	
準備学習(予習・復習) 授業中、学外授業のほか、自主的活動、アート鑑賞などにおいても、ノートをつけること。評価の対象とする可能性あり。授業として、数回、休日に学外にでるので、休日の予定を調整する必要がある。授業以外にも、アート鑑賞、アーツボランティア、アーツマネジメント・インターンシップを行ってもらうことが必須になるので、そういう学生を歓迎する。この内容の授業順序は行事予定、アーティストなどの事情で自由に入れ替わる。	
内 容 第1回 オリエンテーション…話すこと、メモること、聞き取ること 第2回 文化概論…自然と文化、地域と公共と文化との関係 第3回 アート概論…文化の分類、術の分類、アートの分類、行政、公共政策と芸術文化の関係 第4回 行政とは…三権分立、国の省庁の仕組み 第5回 学外授業1…まち歩きしながら地域の公共文化施設を見学する 第6回 『地方自治のしくみがわかる本』を輪読する① 行政サービスと暮らし 第7回 『地方自治のしくみがわかる本』を輪読する② 地方自治の意義 第8回 『地方自治のしくみがわかる本』を輪読する③ 地域経済政策とは何か 第9回 『地方自治のしくみがわかる本』を輪読する④ 自治体の組織 第10回 『地方自治のしくみがわかる本』を輪読する⑤ 自治体の財政 第11回 『地方自治のしくみがわかる本』を輪読する⑥ 国と自治体の関係 第12回 学外授業2…文化イベントに参加する 第13回 確認テスト 第14回 学生自身の発表 第15回 まとめ	
履修上の注意点 教科書をどちらから始めるかは、まだ確定していないので2冊とも購入しておくこと。後期も一部は使用予定。遅刻や欠席の際には事前連絡をすること	
教科書 地方自治のしくみがわかる本 著者： 村林守 出版社： 岩波書店 出版年： 2016 ISBN: 9.78401E+12	
参考書 ローカル志向の時代 働き方、産業、経済を考えるヒント 著者： 松永桂子 出版社： 光文社 出版年： 2015年 ISBN: 9.78433E+12	
奇跡の村—地方は「人」で再生する 著者： 相川俊英 出版社： 集英社 出版年： 2015年 ISBN: 9.78409E+12	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(20)	



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(都) &lt;\*c&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 谷口 知司	
テーマ 観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化	
授業の到達目標 世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。併せて、ゼミの取り組みである「こだわり市場」や「修学旅行プロジェクト」などについて3年生ゼミ生とともに取り組む。	
授業の概要 シラバスの順番に授業を進めるが、あわせて観光英語の基礎やゼミで展開するいろいろな企画等の学習をおこなう。	
準備学習(予習・復習) グループに分けて、各種課題について調査・研究および発表を課すので、授業時間外の学習は必須である。また、観光英語の小テストも行うので復習をする必要がある。	
内 容 第1回 「ビジネスとしての観光」概説 第2回 日本および世界の観光の現状について 第3回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて1 第4回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて2 第5回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて3 第6回 観光情報誌等の分析1 第7回 観光情報誌等の分析2 第8回 観光情報誌等の分析3 第9回 課題発表 第10回 観光資源(国内・国外)について 第11回 温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識1 第12回 温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識2 第13回 世界の観光資源に関する知識1 第14回 世界の観光資源に関する知識2 第15回 課題発表、まとめ ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 新しい観光を学ぶ 著者: 谷口知司編著 出版社: 晃洋書房 出版年: 2017 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(20) 授業中課題(30) 授業中発表等(20) 参加度(30) 3分の2以上の出席が必要です。	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(都) &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 福井 弘幸

テーマ

社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る基礎学力の習得。

授業の到達目標

政府は観光振興を21世紀の日本の重要な政策の柱として明確に位置づけ施策を計画的に推進しており、観光振興と地域振興が一体であることも示している。ゼミでは、観光による課題解決へのプロセスを構築できる基礎学力を身につけることを目標とする。

授業の概要

・グループで教科書の輪講を行い、全体での議論を行う。・学外企画への参加、調査・研究等を行う。

準備学習(予習・復習)

・グループに分け、調査・研究、場合により上級生との合同研究もあるため授業時間外の学習は必須になる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 輪講1(観光マーケティングマネジメント①)
- 第3回 輪講1(観光マーケティングマネジメント②)
- 第4回 輪講2(地域の観光まちづくり事業①)
- 第5回 輪講2(地域の観光まちづくり事業②)
- 第6回 輪講3(地域ブランドの構築①)
- 第7回 輪講3(地域ブランドの構築②)
- 第8回 輪講4(地域のインバウンド事業①)
- 第9回 輪講4(地域のインバウンド事業②)
- 第10回 課題発表
- 第11回 観光によるまちづくり研究①
- 第12回 観光によるまちづくり研究②
- 第13回 観光によるまちづくり研究③
- 第14回 観光によるまちづくり研究④
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

・発表等を重視するので、授業の出席が前提となる。・英語Ⅲ(観光英語)は履修指定になります。・必要に応じて学外授業/特別講演会を行う場合がある。

教科書

1からの観光事業論

著者: 高橋一夫/柏木千春

出版社: 碩学社

出版年: 2017

ISBN:

参考書

これからの観光を考える

著者: 谷口知司/福井弘幸

出版社: 晃洋書房

出版年: 2017

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(40)

参加度(30)

・参加度(出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含む)と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合的にみて評価する。・3分の2以上の出席が必要です。



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(都) &lt;\*e&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

建築家やインテリアデザイナーについて調べる

授業の到達目標

普段から興味を持っている建築家やインテリアデザイナーについて時間をかけて調べ、自分の関心がどこにあるのかを確認する。

授業の概要

各自が調べたことをレジュメを用いて発表する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 見学

第3回 見学

第4回 発表1

第5回 発表1

第6回 発表1

第7回 発表1

第8回 発表2

第9回 発表2

第10回 発表2

第11回 発表2

第12回 発表3

第13回 発表3

第14回 発表3

第15回 発表3 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(都) &lt; \* f &gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 半海 宏一

テーマ

住まいを探る

授業の到達目標

興味のある「住まい」調べることで、身の回りの空間寸法や暮らしについての知識を身につける。頭・手・口を動かし、まとめる能力や相手に伝える能力を習得する。

授業の概要

・「住まい」について文献等の資料を用いて調べ、図面をトレースする・空間分析し、まとめたことを発表する

準備学習(予習・復習)

日常生活の中も、生活について関心をもつ。自分の興味のある住まい・住宅・空間を集めたり、調べたりする。

内 容

- 第1回 ガイダンス・住まいについて
- 第2回 発表・質疑応答
- 第3回 発表・質疑応答
- 第4回 発表・質疑応答
- 第5回 発表・質疑応答
- 第6回 発表・質疑応答
- 第7回 図面トレース
- 第8回 図面トレース
- 第9回 図面トレース
- 第10回 空間分析
- 第11回 発表・質疑応答
- 第12回 発表・質疑応答
- 第13回 発表・質疑応答
- 第14回 発表・質疑応答
- 第15回 発表・質疑応答・授業まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ(都) &lt;\*g&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 北村 義典

テーマ

建築設計と環境デザインの理解(1) (美しく居心地の良い空間を理解する)

授業の到達目標

美しく居心地の良い空間を住宅や小型商業施設の中に求め、その魅力の源泉を探る。さらに設計図をトレースすることで空間創作力を養う。

授業の概要

前半は提示された課題を検討し、後半は自らの課題を設定し調査発表する。

準備学習(予習・復習)

関連図書・作品集の読解や建築・芸術系展示会等の見学を通じ、自らの創作意欲を高める。

内 容

第1回 ガイダンス(住宅の歴史と地域性について)

第2回 伝統建築(民家)

第3回 伝統建築(商家)

第4回 モダニズム住宅(1)

第5回 モダニズム住宅(2)

第6回 ポストモダン住宅

第7回 コンテクシャリズム(1)

第8回 コンテクシャリズム(2)

第9回 住宅・商業施設の調査(1)

第10回 住宅・商業施設の調査(2)

第11回 トレース、空間把握

第12回 プレゼンテーションボード制作

第13回 発表・ディスカッション(1)

第14回 発表・ディスカッション(2)

第15回 講評

履修上の注意点

調査にはカメラ、スケッチブックを携行する。

教科書

毎回、必要な資料を配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(都) &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

日本の地方自治の実態について学ぶ

授業の到達目標

日本の地方自治の実態について、テキストと映像資料を活用して学ぶ

授業の概要

以下の内容について、テキストと映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当章を読んで、疑問点・討論点を考えておく 事後にもう一度テキストの該当章を読み、理解を深める

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 『概説 日本の地方自治』第1章

第3回 『概説 日本の地方自治』第2章

第4回 『概説 日本の地方自治』第3章

第5回 『概説 日本の地方自治』第4章

第6回 『概説 日本の地方自治』第5章

第7回 『概説 日本の地方自治』第6章

第8回 『概説 日本の地方自治』第7章

第9回 『概説 日本の地方自治』第8章

第10回 『概説 日本の地方自治』第9章、第10章

第11回 『概説 日本の地方自治』第11章

第12回 『概説 日本の地方自治』第12章

第13回 『概説 日本の地方自治』第13章

第14回 『概説 日本の地方自治』第14章

第15回 『概説 日本の地方自治』第15章、第16章、第17章

履修上の注意点

本学公務員試験センター主催の「公務員試験対策講座」を受ける

教科書

概説 日本の地方自治 第2版

著者: 新藤宗幸・阿部齊

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2009年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(都) &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 公共政策・文化プロデュース入門(2)	
授業の到達目標 公共政策の事例を調べ語れるようになる 文化プロデュースとまちづくりの関係が分かるようになる 公共政策のなかの文化政策の現場から学ぶようになる	
授業の概要 公共政策の現場体験や文化実践とともに、教科書を音読し、要点をまとめ、専門研究の基礎を形成する。文献をきちんと読み、レジュメづくりができ、丁寧に発表、質問とその応答ができるように授業を実施する。	
準備学習(予習・復習) 授業中、学外授業のほか、自主的活動、行政やアーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 夏休みの体験報告 第3回 文化プロデュースと公共政策の概要を話し合う 第4回 芸術と行政の関係についての概要をチェックする 第5回 『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する① 自立型まちづくり 第6回 『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する② まち会社 第7回 『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する③ 域内循環 第8回 『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する④ 自立した「民」 第9回 『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する⑤ 行政と協働 第10回 企業経営と地域経営の関係を具体例を使って理解する 第11回 学外授業:まちの芸術文化環境づくりを知ろう(予定は京都市内) 第12回 文献レジュメづくりワーク 第13回 レジュメによる発表の心得と発表1 第14回 レジュメによる発表2 第15回 レジュメによる発表3 まとめ～地域の自立と文化の役割	
履修上の注意点 教科書を早めに入れて熟読し、毎回教室に持参すること。	
教科書 稼ぐまちが地方を変える—誰も言わなかった10の鉄則— 著者: 木下 齊 出版社: NHK出版 出版年: 2015年 ISBN: 9.78414E+11 参考書	
成績評価 試験・レポート(20) 小テスト(0) 授業中課題(10) 授業中発表等(30) 参加度(40)	

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(都) &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

授業の到達目標

世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。特に基礎演習Ⅳ(後期)では、「文化現象としての観光」を中心に扱います。

授業の概要

課題発表は随時行う。

準備学習(予習・復習)

世界遺産の現地調査を行う。そのためのさまざまな準備等を授業外で行う。

内 容

- 第1回 文化と何か？
- 第2回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について1
- 第3回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について2
- 第4回 ニューツーリズムについて1 文化観光、グリーンツーリズム、エコツーリズム等
- 第5回 ニューツーリズムについて2
- 第6回 ニューツーリズムについて3
- 第7回 京都まちなかアーカイブ事前研究1
- 第8回 京都まちなかアーカイブ事前研究2
- 第9回 京都まちなかアーカイブを行う。
- 第10回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化1
- 第11回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化2
- 第12回 世界遺産現地調査事前研究1
- 第13回 世界遺産現地調査事前研究2
- 第14回 世界遺産現地調査事前研究3
- 第15回 課題発表 ※なお、この授業では必要に応じて外部講師による特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新しい観光を学ぶ

著者: 谷口知司・福井弘幸編著

出版社: 晃洋書房

出版年: 2017

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(20)

授業中課題(30)

授業中発表等(20)

参加度(30)

学外研修への参加も成績評価に入ります。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(都) &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 福井 弘幸

テーマ

社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る基礎学力の習得。

授業の到達目標

政府は観光振興を21世紀の日本の重要な政策の柱として明確に位置づけ施策を計画的に推進しており、観光振興と地域振興が一体であることも示している。ゼミでは、観光による課題解決へのプロセスを構築できる基礎学力を身につけることを目標とする。

授業の概要

・グループで教科書の輪講を行い、全体での議論を行う。・学外企画への参加、調査・研究等を行う。

準備学習(予習・復習)

・グループに分け、調査・研究、場合により上級生との合同研究もあるため授業時間外の学習は必須になる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光によるまちづくり研究⑤
- 第3回 観光によるまちづくり研究⑥
- 第4回 観光によるまちづくり研究⑦
- 第5回 観光によるまちづくり研究⑧
- 第6回 輪講5(旅行業①)
- 第7回 輪講5(旅行業②)
- 第8回 輪講6(観光マネジメント特性①)
- 第9回 輪講6(観光マネジメント特性②)
- 第10回 学外授業
- 第11回 将来の進路学習会
- 第12回 海外旅行商品造成①
- 第13回 海外旅行商品造成②
- 第14回 海外旅行商品造成③
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

・発表等を重視するので授業の出席が前提となる。・英語Ⅳ(観光英語)は履修指定になります。・必要に応じて学外授業/特別講演会を行う場合がある。

教科書

1からの観光事業論

著者: 高橋一夫/柏木千春

出版社: 碩学社

出版年: 2016

ISBN:

参考書

これからの観光を考える

著者: 谷口知司/福井弘幸

出版社: 晃洋書房

出版年: 2017

ISBN:

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(40)

参加度(30)

・参加度(出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含む)と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合的にみて評価する。学外授業を行う場合がある。・3分の2以上の出席が必要です。

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(都) &lt;\*e&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

建築の見学と駅ナカアートの制作

授業の到達目標

建築や空間の良さを知り、実際に制作することからアイデアを形にする楽しさを学ぶ。

授業の概要

京都にある建築やインテリアを見学し、実際の空間とその特徴や良さを体験する。地下鉄・柳辻駅の壁面装飾作品を制作し、作品の制作過程を知る。

準備学習(予習・復習)

普段から建築やインテリアの情報を積極的に収集すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 見学1
- 第3回 見学2
- 第4回 見学3
- 第5回 発表1
- 第6回 発表1
- 第7回 発表1
- 第8回 発表2
- 第9回 発表2
- 第10回 発表2
- 第11回 作品制作1
- 第12回 作品制作2
- 第13回 作品制作3
- 第14回 作品制作4
- 第15回 まとめ、作品の設置など

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)



## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(都) &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 半海 宏一

テーマ

まちを歩き、まちを考える

授業の到達目標

まちを歩き、対象エリアを調査し、必要なモノやコトを考える。見て歩くのではなく、観て歩くことで観察力を身に付ける。グループでコミュニケーションをとり、調査・制作をする。

授業の概要

グループワークを基本とし、前半は調査、後半は制作とする。

準備学習(予習・復習)

普段からまちを歩き、観察すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グループワーク:まち歩き
- 第3回 グループワーク:まち歩き
- 第4回 グループワーク:調査
- 第5回 グループワーク:ディスカッション
- 第6回 グループワーク:ディスカッション
- 第7回 調査報告
- 第8回 コンセプト検討・エスキース
- 第9回 コンセプト検討・エスキース
- 第10回 設計製作
- 第11回 設計製作
- 第12回 設計製作
- 第13回 設計製作
- 第14回 発表・質疑応答
- 第15回 発表・質疑応答・授業まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ(都) &lt;\*g&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 北村 義典

テーマ

建築設計と環境デザインの理解(2) (建築と環境の関連性を理解する)

授業の到達目標

暮らしと環境の関連を自然や風土の視点から学習し、環境共生型デザインを理解し、その設計手法を習得する。

授業の概要

前半は提示された課題を検討し、後半は自ら課題を設定し調査発表する。

準備学習(予習・復習)

関連図書・作品集の読解や建築・芸術系展示会等の見学を通じ、自らの創作意欲を高める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(環境デザインについて)
- 第2回 地域性と生活文化(森と砂漠の文化圏)
- 第3回 都市住宅の課題
- 第4回 環境共生型デザイン(ロングライフ)
- 第5回 環境共生型住宅(エコハウス)
- 第6回 ランドスケープデザイン(造園)
- 第7回 環境デザイン(街並み整備)
- 第8回 京都の環境
- 第9回 環境デザインの調査(1)
- 第10回 環境デザインの調査(2)
- 第11回 トレース、空間把握
- 第12回 プレゼンテーションボード制作
- 第13回 発表、ディスカッション(1)
- 第14回 発表、ディスカッション(2)
- 第15回 講評

履修上の注意点

調査にはカメラ、スケッチブックを携行する

教科書

毎回、必要な資料を配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 まちづくり論

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

地域の魅力を活かしたまちづくりイベントの企画

授業の到達目標

(1)まちづくりについての基本事項を理解すること (2)フィールドワークの中で地域固有の魅力を発見する能力を身につけること  
(3)地域の魅力を活かしたまちづくりイベントの企画する提案力を身につけること

授業の概要

まちづくりとは、地域住民が地域資源を活用しながらまちをより良いものとするための活動全般を指し、全国各地で様々なまちづくり活動が展開されています。本講義では、まちづくりに関する基本事項を概観した上で、京都において展開されているまちづくり活動の事例を紹介します。さらに、京都市内における具体的な対象地を選定した上で、地域固有の魅力を活かしたまちづくりイベントを企画してもらいます。

準備学習(予習・復習)

あなたが暮らす地域で起こる出来事に関心を持ってください。また、地域での行事や、社会でのボランティア活動にできるだけ参加してください。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 まちづくりとは何か
- 第3回 まちづくりの生成と歴史
- 第4回 まちづくりの体制・組織
- 第5回 まちづくりのプロセス
- 第6回 まちづくりの支援
- 第7回 京都におけるまちづくりの事例紹介1
- 第8回 京都におけるまちづくりの事例紹介2
- 第9回 京都におけるまちづくりの事例紹介3
- 第10回 フィールドワーク
- 第11回 まちづくりイベントの企画(課題出題)
- 第12回 グループ作業
- 第13回 まちづくりのイベント提案発表1
- 第14回 まちづくりのイベント提案発表2
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがあります。

教科書

参考書

講義内で適宜紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )





## 2017 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅳ <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	
担当者	北村 義典	
テーマ		
授業の到達目標	4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。	
授業の概要	4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント</p> <p>第2回 集合住宅の事例調査発表</p> <p>第3回 配置計画、全体計画案の作成</p> <p>第4回 構造計画案の作成</p> <p>第5回 設備計画案の作成</p> <p>第6回 全体計画案の修正、建築基準法の確認</p> <p>第7回 基本住戸平面計画案の作成</p> <p>第8回 立面・断面・内装計画案の作成</p> <p>第9回 中間発表</p> <p>第10回 配置図の作成</p> <p>第11回 平面図の作成</p> <p>第12回 立面・断面図の作成</p> <p>第13回 模型1</p> <p>第14回 模型2</p> <p>第15回 講評とまとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( )</p> <p>授業中課題 ( 80 )</p> <p>参加度 ( 20 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 **建築計画 I**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 半海 宏一

テーマ

建築計画の基礎を学ぶ

授業の到達目標

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

授業の概要

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

準備学習(予習・復習)

身の回りの寸法に関心を持ち、心地よい空間や場所の写真を撮ったり、スケッチしてみる。

内 容

- 第1回 ガイダンス、建築計画の役割
- 第2回 住活様式と住宅の変化
- 第3回 人間の基本動作1
- 第4回 人間の基本動作2
- 第5回 戸建住宅の配置計画
- 第6回 戸建住宅の平面計画
- 第7回 戸建住宅の各室計画
- 第8回 戸建住宅の基本計画1
- 第9回 戸建住宅の基本計画2
- 第10回 団地計画
- 第11回 集合住宅の形式と配置計画
- 第12回 集合住宅の平面計画
- 第13回 集合住宅の住戸計画1
- 第14回 集合住宅の住戸計画2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )



## 2017 Syllabus

科目名 **建築計画Ⅱ**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 政木 哲也	
テーマ	
ビルディングタイプ:空間ユニットの集合と公共的施設の仕組みについて	
授業の到達目標	
居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。	
授業の概要	
居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
建築の計画やデザインを学ぶ上で、建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して魅力的な空間イメージやデザインに常日頃から触れることが重要である。また、普段何気なく利用したり目にしたりしている身近な施設を、改めて観察し、その成り立ちについて考える習慣を身につけよう。	
内 容	
第1回 ガイダンス、建築計画における共通事項	
第2回 学校建築の歴史、学校における教育システムと各室計画	
第3回 小学校の計画、計画事例	
第4回 図書館の歴史、規模類型、全体計画、各室計画	
第5回 図書館の計画、計画事例	
第6回 美術館の歴史、全体計画、各室計画	
第7回 美術館の計画、計画事例	
第8回 医療福祉施設の役割、部門構成、各室計画	
第9回 医療福祉施設の計画、計画事例	
第10回 劇場の歴史、劇場空間の機能的特性、全体計画	
第11回 演劇・音楽の場、舞台と客席の設計計画と寸法	
第12回 劇場、音楽ホールの計画、計画事例	
第13回 事務所の全体計画、平面計画、モジュール計画	
第14回 事務所の計画、計画事例	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
建築計画 改訂版	
著者: 佐藤考一 五十嵐太郎	
出版社: 市ヶ谷出版	
出版年: 2010	ISBN:
第3版コンパクト建築設計資料集成	
著者: 日本建築学会	
出版社: 丸善	
出版年: 2005	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( 50 )	小テスト ( )

授業中課題（50）

授業中発表等（）

参加度（）

授業は毎回出席することが望ましい。授業内課題の出題方法、出題時期、出題回数に関しては授業内において都度周知する。試験は原則最終講義後に実施する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **建築環境工学**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 北村 義典		
テーマ		
地球環境と人間にやさしい建築デザインのあり方を学ぶ。		
授業の到達目標		
人体や建物を取り巻く多くの環境について考えることで、建築環境に関する理解を深める。建築環境工学に関する基礎的な内容を中心とする。		
授業の概要		
人体や建物を取り巻く多くの環境について考えることで、建築環境に関する理解を深める。建築環境工学に関する基礎的な内容を中心とする。		
準備学習(予習・復習)		
テキストおよびノートを用いて、予習・復習を行うこと。		
内 容		
第1回	ガイダンス	建築環境の概要
第2回	熱環境	気候
第3回	熱環境	室内気候
第4回	熱環境	伝熱
第5回	熱環境	結露
第6回	空気環境	室内空気質
第7回	空気環境	換気と通風
第8回	熱・光環境	日照と日射と建築計画
第9回	熱・光環境	日影の検討と日照調整
第10回	光環境	採光
第11回	光環境	照明
第12回	光環境	色彩
第13回	音環境	音の性質
第14回	音環境	音響計画
第15回	都市環境	都市環境と建築
第16回	試験	
履修上の注意点		
授業中は私語をしないこと。		
教科書		
基礎からわかる建築環境工学		
著者： 槇 寛十 古賀 誉章		
出版社： 彰国社		
出版年： 2014	ISBN:	
参考書		
環境デザイン講義		
著者： 内藤 廣		
出版社： 王国社		
出版年： 2011	ISBN:	
設計のための建築環境学		
著者： 日本建築学会編		
出版社： 彰国社		
出版年： 2012	ISBN:	

## 成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

## 科目名 都市計画論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 脩史

## テーマ

都市計画に関する知識について計画理論を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。

## 授業の到達目標

都市計画に関する知識について都市計画法を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。加えて、都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握する。

## 授業の概要

都市計画に関する知識について都市計画法を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。加えて、都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握する。

## 準備学習(予習・復習)

講義の流れで実施する「臨地研修」などを通じて、実践例も各種紹介するので十分に参照すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス 都市計画について
- 第2回 都市の歴史
- 第3回 土地利用計画
- 第4回 都市の交通
- 第5回 都市の公園緑地
- 第6回 都市の上下水道
- 第7回 都市の防災
- 第8回 都市の景観
- 第9回 都市計画の事例1 近代以前 都城
- 第10回 都市計画の事例2 自治都市 京都
- 第11回 都市計画の事例3 日本の商工都市 その1.京都
- 第12回 都市計画の事例4 日本の商工都市 その2.長浜
- 第13回 都市計画の事例5 西欧の世界都市 その1.ベルリン、ウィーン
- 第14回 都市計画の事例6 西欧の世界都市 その2.ロンドンほか
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30%)

出席状況(30%)及び中間時点での演習レポート(30%)を勘案の上、期末テスト(40%)による評価とする。

## 2017 Syllabus

科目名 **構造計画**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福田 浩明

テーマ

構造と意匠(デザイン)と建築計画の相互の関係性を学ぶ

授業の到達目標

構造と意匠(デザイン)と建築計画の相互の関係性を学ぶ。面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。

授業の概要

構造と意匠(デザイン)と建築計画の相互の関係性を学ぶ。面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。

準備学習(予習・復習)

中間及び最終日の試験に備えて、とにかくノートを自筆でしっかりとってください。

内 容

- 第1回 構造計画とは
- 第2回 面構造と軸構造の話
- 第3回 柱、梁の話
- 第4回 木構造 在来工法
- 第5回 木構造 民家型工法
- 第6回 木構造 2×4工法
- 第7回 木構造 その他の工法
- 第8回 鉄筋コンクリート造 ラーメン構造
- 第9回 鉄筋コンクリート造 壁式構造
- 第10回 鉄筋コンクリート造 その他
- 第11回 鉄骨造、SRC造、他
- 第12回 混構造
- 第13回 その他の構造、工法
- 第14回 演習(構造模型作製等)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3回以上の欠席は原則認めません。欠席理由は必ず前後で申し出ること

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

図説テキスト 建築構造

著者: 建築構造システム研究会

出版社: 彰国社

出版年: 2011年 第2版

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

テストの点数、出席数及び興味の持ち方、発想力、コミュニケーション力などを見ます。

## 2017 Syllabus

## 科目名 構造力学Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件 「構造力学Ⅰ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 山本 康彦	
テーマ	
構造力学Ⅰで学習した内容を基礎にして、構造物に生じた力が、各部材にどのように作用するかを考える。	
授業の到達目標	
構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。部材や構造物に作用する力に対して、どのように力が伝わり、どのように変形するかなどを理解するために、部材の応力度やひずみ、柱の座屈、静定構造物の変形、不静定構造物の弾性解析について練習問題を通して具体的に理解を深める。	
授業の概要	
構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。部材や構造物に作用する力に対して、どのように力が伝わり、どのように変形するかなどを理解するために、部材の応力度やひずみ、柱の座屈、静定構造物の変形、不静定構造物の弾性解析について練習問題を通して具体的に理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
次回講義範囲を、テキストを使って予習し、プリントを使って、復習する。予習、復習で毎週1時間程度。建築物に興味を持ち、建築途中の建物があれば、どのような骨組みになっているかを常に意識し、見るようにする。	
内 容	
第1回 ガイダンス	
第2回 応力度	
第3回 弾性とひずみ	
第4回 柱の理論1、短柱	
第5回 柱の理論2、長柱	
第6回 静定構造物の変形1、片持ちはり1	
第7回 静定構造物の変形1、片持ちはり2	
第8回 静定構造物の変形2、単純はり1	
第9回 静定構造物の変形2、単純はり2	
第10回 不静定構造物と解法について	
第11回 不静定構造物の解析1 たわみ角法1	
第12回 不静定構造物の解析1 たわみ角法2	
第13回 不静定構造物の解析2 固定法1	
第14回 不静定構造物の解析2 固定法2	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
構造力学は、1回1回の講義の積み重ねで、理解していく科目です。毎回受講の際には必ずノートを取り、確実に理解してください。欠席した際は、講義範囲をテキストを使って学習し、理解不十分な範囲は、必ず講師に質問をし、次回の講義に支障の無いように努めてください。	
教科書	
図説 やさしい構造力学	
著者： 浅野清昭	
出版社：(株)学芸出版社	
出版年：2004年	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者：	
出版社：	
出版年：	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (50)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (50)	

a50202d910

講義時に使用するプリント類からも、試験問題を出題するため、毎回の講義にしっかりと出席することが、好成績を取る事にも繋がります。

---



## 2017 Syllabus

科目名 **建築と環境**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 裕夫

テーマ

授業の到達目標

身の回りの生活、民俗学や美術といった文化と建築を取り巻く環境との関係について考える。あるいは、環境のもつ文化的・空間的側面について生活、農業、民俗学、現代美術、茶室、旅などの事例を通して見つめ直し、それらと建築との関わりについて考える。このような視点を踏まえ、建築と環境に関わる小課題に取り組む。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 生活における建築と環境(1)里山－山辺の住環境
- 第2回 生活における建築と環境(2)里山－水辺の住環境
- 第3回 農業における建築と環境 哲学者／福岡正信の視角
- 第4回 民俗学における建築と環境 宮本常一の視点
- 第5回 現代美術における建築と環境 ランドスケープアート
- 第6回 記憶のデザイン ー地図の作成(空間の記憶／場所の記憶)
- 第7回 美にまつわる建築と環境 ー美の背景としての環境
- 第8回 庭と建築と環境 桂離宮の構成と分析
- 第9回 環境建築 建築家・藤森照信の作品
- 第10回 茶室と環境 極小空間と茶庭
- 第11回 旅における建築と環境 原風景の求め方
- 第12回 美術と建築:イサムノグチ(1)(原爆ドーム/無言館など)
- 第13回 美術と建築:イサムノグチ(2)(モエレ沼公園など)
- 第14回 ポケットパークと付属施設の設計1
- 第15回 ポケットパークと付属施設の設計2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(50)

授業中発表等( )

参加度(50)

## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 34

履修条件

クラス指定

担当者 松本 正富

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の概要

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 2次元CADの基本操作 復習
- 第2回 3次元CADの基本操作(1)
- 第3回 3次元CADの基本操作(2)
- 第4回 3次元CADの基本操作(3)
- 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1)
- 第6回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(2)
- 第7回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(3)
- 第8回 講評
- 第9回 3次元CADの応用
- 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする(1)
- 第11回 演習2:いのりの空間をデザインする(2)
- 第12回 演習2:いのりの空間をデザインする(3)
- 第13回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(1)
- 第14回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(2)
- 第15回 講評

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。「CAD演習Ⅰ」を習得済みであること。

教科書

参考書

VectorworksではじめるCAD

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック社

出版年:

ISBN: 9.78488E+12

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 34
履修条件	クラス指定
担当者 中山 大介	
テーマ 3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション	
授業の到達目標 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。	
授業の概要 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 2次元CADの基本操作 復習 第2回 3次元CADの基本操作(1) 第3回 3次元CADの基本操作(2) 第4回 3次元CADの基本操作(3) 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1) 第6回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(2) 第7回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(3) 第8回 講評 第9回 3次元CADの応用 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする(1) 第11回 演習2:いのりの空間をデザインする(2) 第12回 演習2:いのりの空間をデザインする(3) 第13回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(1) 第14回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(2) 第15回 講評	
履修上の注意点 7割以上の出席が単位取得の条件です。「CAD演習Ⅰ」を習得済みであること。	
教科書	
参考書 VectorworksではじめるCAD 著者: 五十嵐進 出版社: ソーテック社 出版年: ISBN: 9.78488E+12	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 70 ) 参加度 ( 30 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 34

履修条件

クラス指定

担当者 中山 大介

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の概要

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 2次元CADの基本操作 復習
- 第2回 3次元CADの基本操作(1)
- 第3回 3次元CADの基本操作(2)
- 第4回 3次元CADの基本操作(3)
- 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1)
- 第6回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(2)
- 第7回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(3)
- 第8回 講評
- 第9回 3次元CADの応用
- 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする(1)
- 第11回 演習2:いのりの空間をデザインする(2)
- 第12回 演習2:いのりの空間をデザインする(3)
- 第13回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(1)
- 第14回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(2)
- 第15回 講評

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。「CAD演習Ⅰ」を習得済みであること。

教科書

参考書

VectorworksではじめるCAD

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック社

出版年:

ISBN: 9.78488E+12

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (70)

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ &lt;Za&gt;

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	34
履修条件 「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 松本 正富		
テーマ 3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション		
授業の到達目標 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。		
授業の概要 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 2次元CADの基本操作 復習 第2回 3次元CADの基本操作(1) 第3回 3次元CADの基本操作(2) 第4回 3次元CADの基本操作(3) 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1) 第6回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(2) 第7回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(3) 第8回 講評 第9回 3次元CADの応用 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする(1) 第11回 演習2:いのりの空間をデザインする(2) 第12回 演習2:いのりの空間をデザインする(3) 第13回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(1) 第14回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(2) 第15回 講評		
履修上の注意点 7割以上の出席が単位取得の条件です。「CAD演習Ⅰ」を習得済みであること。		
教科書		
参考書 VectorworksではじめるCAD 著者: 五十嵐進 出版社: ソーテック社 出版年: ISBN: 9.78488E+12		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 70 ) 参加度 ( 30 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ &lt;Zb&gt;

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	34
履修条件 「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 中山 大介		
テーマ 3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション		
授業の到達目標 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。		
授業の概要 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 2次元CADの基本操作 復習 第2回 3次元CADの基本操作(1) 第3回 3次元CADの基本操作(2) 第4回 3次元CADの基本操作(3) 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1) 第6回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(2) 第7回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(3) 第8回 講評 第9回 3次元CADの応用 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする(1) 第11回 演習2:いのりの空間をデザインする(2) 第12回 演習2:いのりの空間をデザインする(3) 第13回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(1) 第14回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(2) 第15回 講評		
履修上の注意点 7割以上の出席が単位取得の条件です。「CAD演習Ⅰ」を習得済みであること。		
教科書		
参考書 VectorworksではじめるCAD 著者: 五十嵐進 出版社: ソーテック社 出版年: ISBN: 9.78488E+12		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 70 ) 参加度 ( 30 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ &lt;Zc&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員 34
履修条件 「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 中山 大介	
テーマ 3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション	
授業の到達目標 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。	
授業の概要 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 2次元CADの基本操作 復習 第2回 3次元CADの基本操作(1) 第3回 3次元CADの基本操作(2) 第4回 3次元CADの基本操作(3) 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1) 第6回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(2) 第7回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(3) 第8回 講評 第9回 3次元CADの応用 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする(1) 第11回 演習2:いのりの空間をデザインする(2) 第12回 演習2:いのりの空間をデザインする(3) 第13回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(1) 第14回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(2) 第15回 講評	
履修上の注意点 7割以上の出席が単位取得の条件です。「CAD演習Ⅰ」を習得済みであること。	
教科書	
参考書 VectorworksではじめるCAD 著者: 五十嵐進 出版社: ソーテック社 出版年: ISBN: 9.78488E+12	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 70 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 都市建築文化史 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 裕夫

テーマ

授業の到達目標

都市や建築と文化の関わりについて考察し、実務設計デザインの質を向上させる。高度に発展した都市や建築のあるところに、優れた文化が存在する。「都市建築文化 I」では海外の代表的な都市文化や建築文化の事例を中心に検証し、都市や建築の意匠上の特徴を理解しながらデザインの手法を学ぶ。

授業の概要

都市や建築と文化の関わりについて考察し、実務設計デザインの質を向上させる。高度に発展した都市や建築のあるところに、優れた文化が存在する。「都市建築文化 I」では海外の代表的な都市文化や建築文化の事例を中心に検証し、都市や建築の意匠上の特徴を理解しながらデザインの手法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教会建築
- 第3回 「ローマの休日」とローマ
- 第4回 新古典主義と建築家
- 第5回 近代建築
- 第6回 摩天楼
- 第7回 パリと芸術
- 第8回 移動する建築
- 第9回 近代へのアンチテーゼ
- 第10回 村上春樹の小説空間
- 第11回 アートと都市・建築
- 第12回 都市と郊外
- 第13回 アメリカの西海岸
- 第14回 未来都市
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 都市建築文化史Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 健一

テーマ

日本の都市と建築の空間的特性

授業の到達目標

日本は島国であり、海外からの文明の流入によってさまざまな芸術が発展する一方で、文明の流入の抑制によって、芸術・文化が深まるということを繰り返してきた。この授業ではその中でも都市・建築におけるこれらの進化と深化を空間的な特性を軸に理解することを目指す。

授業の概要

日本は島国であり、海外からの文明の流入によってさまざまな芸術が発展する一方で、文明の流入の抑制によって、芸術・文化が深まるということを繰り返してきた。この授業ではその中でも都市・建築におけるこれらの進化と深化を空間的な特性を軸に理解することを目指す。

準備学習(予習・復習)

普段より古建築を訪ねるなど、実際の体験を積み重ねていく機会をもつことを心がけて欲しい。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本建築の構造と空間1
- 第3回 日本建築の構造と空間2
- 第4回 神社建築1——社殿の発生
- 第5回 神社建築2——伊勢神宮と出雲大社
- 第6回 神社建築3——神社建築の諸相と祭祀
- 第7回 寺院建築1——様式の自由で力強い受容、彫塑的・造形的・垂直と水平の空間構成
- 第8回 寺院建築2——和様化と新しい空間構成
- 第9回 寺院建築3——新しい建築文化の受容 宗教観の変化と寺院空間の変化
- 第10回 離宮・城・霊廟建築
- 第11回 茶室
- 第12回 住居の空間
- 第13回 都市
- 第14回 庭と空間構成の伝統(堀口)
- 第15回 まとめ、レポート課題

履修上の注意点

教科書

日本建築史図集

著者： 日本建築学会

出版社： 彰国社

出版年： 1980

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

最後の授業でレポートを作成する。

## 2017 Syllabus

科目名 **観光政策論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 金武 創	
テーマ 観光政策の基礎を理解する	
授業の到達目標 観光振興の利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する	
授業の概要 昨年度は観光交通と観光情報、都道府県の観光戦略を重視した。今年度も学生の関心分野や知的水準を勘案して、シラバスで示した分野を網羅しながらも、重点分野を設けてみたい。	
準備学習(予習・復習) 経済系週刊誌の読解を通して、最新の動向を把握する	
内 容 第1回 観光の基本構造 第2回 観光とレクリエーション 第3回 観光商品 第4回 事例研究 文化遺産と観光 第5回 旅行に対する需要 第6回 パック旅行の長所と短所 第7回 旅行代理店の長所と短所 第8回 観光産業の競争 第9回 観光行動 第10回 観光交通 第11回 国際観光 第12回 観光の経済効果 第13回 観光による受益と負担 第14回 持続可能な観光 自然環境保全と市場規制 第15回 観光振興を推進する主体 ※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。	
履修上の注意点 ・自分の知らない地域の観光政策、名所旧跡、時事問題にも積極的に関心をもつこと。・日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。	
教科書 使用しない 著者： 出版社： 出版年： 参考書	ISBN：
成績評価 試験・レポート（0） 授業中課題（70） 参加度（）	小テスト（30） 授業中発表等（）
受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価(授業中課題)とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない。受講人数によって、授業内容、授業方法を変更することがある。	

## 2017 Syllabus

科目名 **観光施設論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 弘幸	
テーマ	
観光産業の重要な役割を担う施設について理解することによる観光産業全体像の理解	
授業の到達目標	
観光施設で重要なホスピタリティの概念とユニバーサルデザインの理解、そして主な観光施設から最近話題のIR(統合型リゾート)まで、観光施設全般について理解を深めることを目的とします。	
授業の概要	
・できるだけ事例を取り上げます。・観光施設関係のニュースについて意見を求めることがあります。	
準備学習(予習・復習)	
・課題については、期日までに提出すること。・日頃より課題意識をもって、観光施設関係のニュース等を捉えておくこと。	
内 容	
第1回	イントロダクション(授業の全体構成の説明、授業で取扱う観光施設の説明)
第2回	ホスピタリティの概念とビジネス用語としての「ホスピタリティ」
第3回	サービスの一般的意味と構造
第4回	サービスの用語法分析と観光におけるサービス、観光地におけるホスピタリティ
第5回	宿泊産業①
第6回	宿泊産業②
第7回	宿泊産業③
第8回	宿泊産業④
第9回	ブライダル産業
第10回	テーマパーク
第11回	動物園、水族館、博物館
第12回	空港及び航空関連施設
第13回	カジノと統合型リゾート(IR)
第14回	観光施設におけるユニバーサルデザイン
第15回	授業のまとめ
履修上の注意点	
・3分の2以上の出席が必要です。・授業時間外の調査・研究を課する場合があります。・講演会実施する場合があります。	
教科書	
プリントを配布します。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
都度指示します。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト (0)
授業中課題 (30)	授業中発表等 (10)
参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

科目名 **観光ビジネス論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 弘幸	
テーマ	
観光ビジネスの全体像を理解する。	
授業の到達目標	
観光産業や自治体等におけるまちづくりで活躍できる中核的な人材を想定し、観光ビジネスの現状、仕組み、将来への展望・課題などを理解することを目標とする。	
授業の概要	
・現代社会において観光ビジネスがどのような役割や意義を持ち、どのような事象と関わりを持っているのか、更に観光を支え促進する仕組みに どのようなものがあるかなど、現代の観光に係わる様々な内容を多角的に理解する。・テーマに沿ってグループワークを行う。・観光ビジネスに関するニュースについて意見を求めることがある。	
準備学習(予習・復習)	
・課題については期日までに提出すること。・日頃より問題意識をもって、観光ビジネス関係のニュース等を捉えておくこと。	
内 容	
第1回	イントロダクション(授業の全体構成の説明、観光ビジネスの意義と役割)
第2回	観光を概観する
第3回	旅行業と観光
第4回	交通機関と観光
第5回	宿泊業と観光
第6回	観光対象としての観光資源
第7回	観光情報とメディア
第8回	ニューツーリズム
第9回	インバウンド(訪日外国人旅行)
第10回	土産品と観光ビジネス(プリント)
第11回	着地型観光と日本版DMO
第12回	観光戦略ブランドと観光戦略(プリント)
第13回	世界遺産と観光
第14回	スポーツマーケティングと観光ビジネス(プリント)
第15回	授業のまとめ
履修上の注意点	
・3分の2以上の出席が必要です。・授業時間外の調査/研究を課する場合があります。・特別講演会を行う場合があります。	
教科書	
これからの観光を考える	
著者: 谷口知司/福井弘幸	
出版社: 晃洋書房	
出版年: 2017	ISBN:
参考書	
都度指示します。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト (0)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (30)
参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

科目名 **観光情報論 <Z>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 谷口 知司	
テーマ	
観光にかかわるさまざまな情報および情報媒体について学ぶ。	
授業の到達目標	
観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報がかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。	
授業の概要	
講義と受講者による発表で構成される。	
準備学習(予習・復習)	
グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。	
内 容	
第1回 観光情報とは	
第2回 観光情報とメディア	
第3回 観光ビジネスと情報活用について①	
第4回 観光ビジネスと情報活用について②	
第5回 観光ビジネスと情報活用について③	
第6回 観光ビジネスと情報活用について④	
第7回 いろいろな観光情報	
第8回 観光情報について分析する(発表を含む)①	
第9回 観光情報について分析する(発表を含む)②	
第10回 観光情報について分析する(発表を含む)③	
第11回 観光情報について分析する(発表を含む)④	
第12回 観光情報について分析する(発表を含む)⑤	
第13回 観光情報について分析する(発表を含む)⑥	
第14回 観光情報について分析する(発表を含む)⑦	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
グループ活動による授業時間外での学習が必要になるので、積極的に参加されることを期待する。	
教科書	
使用しない。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
新しい観光を学ぶ	
著者:	谷口知司他
出版社:	晃洋書房
出版年:	2017 ISBN:
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (40)	授業中発表等 (40)
参加度 (20)	
授業時間外の活動についても参加度において加味する。	

## 2017 Syllabus

科目名 観光メディア論 &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 谷口 知司	
テーマ	
観光関連資料のデジタル化について学ぶ。	
授業の到達目標	
観光資料等のデジタル化およびデータベースによる管理ができるようになること。テキストベースの観光情報媒体についての全体的な理解ができるようになる。併せて地域資料情報記録管理者資格またはデジタル情報記録管理者資格を取得することを目指す。	
授業の概要	
歴史的な観光資料等のデジタル化ができるようにする。講義と受講者による発表で構成される。	
準備学習(予習・復習)	
グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。	
内 容	
第1回	デジタルとアナログ
第2回	デジタル化のプロセス
第3回	テキストベースの観光情報媒体について(歴史)①
第4回	テキストベースの観光情報媒体について(分析)②
第5回	歴史的な観光情報媒体をデジタル化する①
第6回	歴史的な観光情報媒体をデジタル化する②
第7回	歴史的な観光情報媒体をデジタル化する③
第8回	観光資源をデジタル媒体化する①
第9回	観光資源をデジタル媒体化する②
第10回	観光資源をデータベース化する①
第11回	観光資源をデータベース化する②
第12回	観光資源をデータベース化する③
第13回	成果発表①
第14回	成果発表②
第15回	まとめ
履修上の注意点	
授業時間外での活動機会も増えるので、積極的に参加するようにしてください。3分の2以上の出席が必要です。	
教科書	
デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法 -記録遺産学への視点-	
著者:	谷口知司他
出版社:	晃洋書房
出版年:	2016
ISBN:	
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (20)
授業中課題 (20)	授業中発表等 (40)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 まちづくりデザイン論

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

まちづくりを題材としたビジネスのデザイン

授業の到達目標

まちづくり活動をビジネスとしてデザインする手法の理解

授業の概要

まちづくりといえば、慈善事業的なイメージがあるかもしれませんが、近年では、まちづくりをビジネスとして展開することが注目されています。本講義では、まちづくりをビジネスとしてデザインするためにはどうすればよいか、その可能性と手法について議論していきます。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 まちづくりの歴史的展開
- 第3回 まちづくりの現代的意義
- 第4回 まちづくり活動における専門家の役割
- 第5回 まちづくりを支援する組織
- 第6回 まちづくりを支援する制度
- 第7回 まちづくりにおける資金調達
- 第8回 先駆的事例の紹介1
- 第9回 先駆的事例の紹介2
- 第10回 先駆的事例の紹介3
- 第11回 フィールドワーク
- 第12回 グループ作業
- 第13回 まちづくりビジネスの提案1
- 第14回 まちづくりビジネスの提案2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがあります。

教科書

参考書

講義の中で適宜紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 ニューツーリズム研究

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

新版「ニューツーリズム」と観光マーケティング

授業の到達目標

観光マーケティング・消費者行動論を基礎にしなが、2000年以降の新たなニューツーリズムの利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する。

授業の概要

(1)国土交通省や観光庁が提唱する「ニューツーリズム」は古い概念に過ぎない。最新のニュース映像や新聞資料を活用しながら、最新事例を紹介し、ニューツーリズムのあり方を考える。(2)(1)の理解を深めるために、同時に消費者行動論からみたニューツーリズムの事例を説明する(目標達成のため、1,2回のアクティブ・ラーニングを水曜午後の学外授業として計画している)。

準備学習(予習・復習)

日経MJを読むこと

内 容

第1回 観光の基本構造 マスツーリズムと古いニューツーリズム

第2回 購買プロセスと心理的プロセス1

第3回 購買プロセスと心理的プロセス2

第4回 問題認識

第5回 情報検索1

第6回 情報検索2

第7回 評価選択1

第8回 評価選択2

第9回 動機づけ

第10回 態度形成1

第11回 態度形成2

第12回 知覚1

第13回 知覚2

第14回 フロー状態と観光行動

第15回 観光まちづくりとまちづくり観光 ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

消費者行動論

著者: 平久保直人

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2005年

ISBN:

ことばとマーケティング

著者: 松井剛

出版社: 碩学舎

出版年: 2013年

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )



授業中課題（80）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中の課題をまじめに取り組み、期限内に提出しないと出席が認められない

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 観光ビジネス実務演習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 福井 弘幸	
テーマ	旅行業を中心に観光ビジネスの実務全般に触れることにより、その理解を深め、観光産業で求められている人物像をイメージさせ、今後の学習、研究の指針を示す。
授業の到達目標	観光ビジネスの実務を通じ、その実務を遂行するために必要である多種多様な知識、能力のレベルを把握する。
授業の概要	観光ビジネス実務を個人単位、グループ単位でプレゼンテーション及びロールプレイングを行って頂く機会が多いため積極的に参加することが必要です。
準備学習(予習・復習)	授業時間外の調査が必要になってくる場合があります。
内 容	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 観光ビジネス全般について</p> <p>第3回 ツアーコンダクター実務①(講義)</p> <p>第4回 ツアーコンダクター実務②(講義とロールプレイング)</p> <p>第5回 ツアーコンダクター実務③(講義とロールプレイング)</p> <p>第6回 旅行カウンター販売実務①(講義)</p> <p>第7回 旅行カウンター販売実務②(講義とロールプレイング)</p> <p>第8回 旅行カウンター販売実務③(講義とロールプレイング)</p> <p>第9回 旅行商品造成実務①</p> <p>第10回 旅行商品造成実務②</p> <p>第11回 旅行商品造成実務③</p> <p>第12回 旅行商品造成実務④</p> <p>第13回 MICE( Meeting:会議・研修・セミナー、Incentive travel:報奨・招待旅行、Convention :大会・国際会議、Event/Exhibition: イベント/展示会)ビジネス実務①</p> <p>第14回 MICE( Meeting:会議・研修・セミナー、Incentive travel:報奨・招待旅行、Convention :大会・国際会議、Event/Exhibition: イベント/展示会)ビジネス実務②</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	・3分の2以上の出席が必要です。・外部講師を招いて特別公演/学外授業を行う場合があります。・演習の内容により計画を多少変更する場合があります。
教科書	<p>プリントを配布します。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>参考書</p> <p>都度指示します。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>「JTB時刻表」(B5版) * 旅行商品造成実務で使用</p> <p>著者:</p> <p>出版社: JTBパブリッシング</p> <p>出版年: 2017年3月号以降なら可 ISBN:</p>
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 観光ビジネス実務演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 福井 弘幸	
テーマ	旅行業を中心に観光ビジネスの実務全般に触れることにより、その理解を深め、観光産業で求められている人物像をイメージさせ、今後の学習、研究の指針を示す。
授業の到達目標	観光ビジネスの実務を通じ、その実務を遂行するために必要である多種多様な知識、能力のレベルを把握する。
授業の概要	観光ビジネス実務を個人単位、グループ単位でプレゼンテーション及びロールプレイングを行って頂く機会が多いため積極的に参加することが必要です。
準備学習(予習・復習)	授業時間外の調査が必要になってくる場合があります。
内 容	<p>第1回 旅行業一般営業実務①(講義)</p> <p>第2回 旅行業一般営業実務②(講義、プラン作成とロールプレイング)</p> <p>第3回 旅行業一般営業実務③(講義、プラン作成とロールプレイング)</p> <p>第4回 宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ①(講義)</p> <p>第5回 宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ②(講義とロールプレイング)</p> <p>第6回 宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ③(講義とロールプレイング)</p> <p>第7回 中間のまとめ</p> <p>第8回 訪日旅行(インバウンドビジネス)ビジネス実務①</p> <p>第9回 訪日旅行(インバウンドビジネス)ビジネス実務②</p> <p>第10回 プライダルビジネス実務①</p> <p>第11回 プライダルビジネス実務②</p> <p>第12回 エアポートビジネス実務①</p> <p>第13回 エアポートビジネス実務②</p> <p>第14回 ビジネス実務プライダル&amp;エアポートビジネス実務(ロールプレイング)</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	・3分の2以上の出席が必要です。前期の「観光ビジネス実務Ⅰ」を受講 しておくこと。・外部講師を招いて特別公演/学外授業を行う場合があります。・演習の内容により計画を多少変更する場合があります。
教科書	<p>プリントを配布します。</p> <p>著者： 出版社： 出版年： ISBN：</p> <p>参考書</p> <p>都度指示します。</p> <p>著者： 出版社： 出版年： ISBN：</p>
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )</p> <p>授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( 30 )</p> <p>参加度 ( 40 )</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **観光法規・経営論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福井 弘幸

テーマ

観光関連事業の基本的な経営とそれに関連する法規等の理解。

授業の到達目標

観光関連の各種事業活動を概観し、主として旅行業を中心に、どのような法規等の規制の中で事業活動を行っているかを理解することを目的とする。

授業の概要

・観光関連の各種事業活動を経営の面から概観し上で、具体的に法規などの規制を考察します。・観光法規・経営のニュースについて意見を求めることがあります。

準備学習(予習・復習)

・日頃より課題意識を持って観光法規・経営のニュースを捉えておくこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション(授業の全体構成の説明、授業で取扱う内容の説明)  
 第2回 観光経営の基礎  
 第3回 観光政策・行政  
 第4回 観光まちづくり  
 第5回 観光行動と観光市場  
 第6回 交通産業経営  
 第7回 旅行産業経営  
 第8回 宿泊産業経営  
 第9回 旅行業法の概要1  
 第10回 旅行業法の概要2  
 第11回 旅行業約款の概要1  
 第12回 旅行業約款の概要2  
 第13回 旅行業以外の法規1  
 第14回 旅行業以外の法規2  
 第15回 まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。

教科書

プリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

都度指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (30)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 **アーツマネジメント論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ アーツマネジメントを学ぶ入り口	
授業の到達目標 アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。	
授業の概要 古典の世界を重視して、芸術リテラシー向上に資する。アーティストやアーツマネージャーが呼びかけに来てくれることもあるので、楽しみに。	
準備学習(予習・復習) アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。生協の読書奨励制度を積極的に活用するととても役立つ。芸術鑑賞と文化ボランティアの学外での活動を評価する。	
内 容	
第1回 これからの予定の紹介(冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。)	
第2回 アーツマネジメント(芸術営)の基本、本質、実践	
第3回 アーツマネジメント(芸術営の定義と文化政策、まちづくりとの関係)	
第4回 芸術場(劇場ホール、美術館)芸術団(劇団、楽団など)	
第5回 学外授業—芸術鑑賞(予定としては、栗東芸術文化会館さきらにおける障害者芸術イベント)	
第6回 アーツスペース論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～	
第7回 アーツ(諸芸術)の分類	
第8回 伝統芸術概論—雅楽、能楽、文楽、歌舞伎	
第9回 日本実演芸術概論—落語、講談、浪曲(できれば、浄瑠璃、長唄も)	
第10回 アーツマネジメントの分類と歴史	
第11回 文化芸術振興法と劇場法など法制度と芸術営	
第12回 イベントプロデュースと芸術営の関係	
第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ	
第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係	
第15回 まとめ…アーツ(マネジメント)の公共性とは	
履修上の注意点	
学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすること めくるめく紙芝居プロジェクト(略してMEK)には参加が有効。 <a href="https://www.facebook.com/mekmekY">https://www.facebook.com/mekmekY</a>	

## 教科書

## 参考書

## アーツマネジメント学

著者: 小暮宣雄

出版社: 水曜社

出版年: 2013

ISBN: 9.78488E+12

## 文化政策学の展開

著者: 池上惇ほか

出版社: 晃洋書房

出版年: 2003

ISBN:

## アーツ・マネジメント概論三訂版

著者: 伊藤裕夫ほか

出版社: 水曜社

出版年: 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者: 小暮宣雄

出版社: 晃洋書房

出版年: 2003

ISBN:

分権時代の自治体文化政策

著者: 中川幾郎

出版社: 勁草書房

出版年: 2001

ISBN:

限界芸術論

著者: 鶴見俊輔

出版社: 筑摩書房

出版年: 1999

ISBN:

著作権とは何か

著者: 福井健策

出版社: 集英社

出版年: 2005

ISBN:

地域再生の罫

著者: 久繁哲之介

出版社: 筑摩書房

出版年: 2010

ISBN:

未来型サバイバル音楽論

著者: 牧村憲一ほか

出版社: 中央公論新社

出版年: 2010

ISBN:

これからのアートマネジメント

著者: 中川真ほか

出版社: フィルムアート社

出版年: 2011

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

毎回、A5版程度の用紙(出席確認を兼ねるもの)に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 舞台プロデュース論

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ	
舞台芸術のコンテンツとマネジメントをすりあわせるプロデュース術を学ぶ	
授業の到達目標	
舞台芸術、とりわけ演劇の現在形を知る 舞台のハードウェアとソフトウェアの関係が分かる	
授業の概要	
テキストを元に、演劇の映像や脚本に実際に触れて、常識を覆す舞台をいかにプロデュースするか、その醍醐味に触れる。	
準備学習(予習・復習)	
動画サイトでもいいので、実際の舞台に触れること	
内 容	
第1回 プレゼンテーション・・・震災現場における演劇ワークショップを元に	
第2回 舞台芸術の概要を知ろう・・・実演芸術としての音楽、演劇、舞踊。複合体としての伝統芸能。	
第3回 映画『幕が上がる』でもいるクローバーZはどう成長したか	
第4回 『演劇入門』を読む① リアルとは何か	
第5回 『演劇入門』を読む② 戯曲とは何か	
第6回 『演劇入門』を読む③ 演出とは何か	
第7回 『演劇入門』を読む④ 会話と対話、役者論	
第8回 『演劇入門』を読む⑤ セミパブリックスペース論	
第9回 『演劇入門』を読む⑥ 観客は受け身か、参加する演劇とは何か	
第10回 学外授業・・・劇場での演劇鑑賞を予定	
第11回 青年団『東京ノート』研究①・・・戯曲を読み、分析する	
第12回 青年団『東京ノート』研究②・・・映像で確かめる	
第13回 青年団『東京ノート』研究③・・・他の演劇映像との比較	
第14回 舞台美術、照明、音響と舞台プロデュース	
第15回 まとめ 舞台芸術は何のためにあるのか	
履修上の注意点	
4回生だけなので、対話形式で授業を進めようと思っている。教科書は必須。	
教科書	
演劇入門	
著者： 平田オリザ	
出版社： 講談社	
出版年： 1998年	ISBN： 9.78406E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート（30）	小テスト（0）
授業中課題（10）	授業中発表等（20）
参加度（40）	



## 2017 Syllabus

科目名 文化施設マネジメント論 &lt;Z&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 笠井 敏光

テーマ

国や自治体の文化政策の変遷と公共施設の計画と運営について学ぶ。

授業の到達目標

国や自治体の文化政策と公共施設について学ぶ。法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の公共施設のあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、公共施設の計画と運営の課題とあり方について学ぶ。

授業の概要

国や自治体の文化政策と公共施設について学ぶ。法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の公共施設のあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、公共施設の計画と運営の課題とあり方について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

図書館、博物館、文化ホールなどを利用するときには、公共施設の計画と課題の視点から観察しておくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション—公共施設の種類について—
- 第2回 日本の文化政策の変遷
- 第3回 文化芸術振興基本法について
- 第4回 文化関係予算の現状
- 第5回 公共施設の運営主体について
- 第6回 指定管理者制度の現状と課題
- 第7回 文化ホールの計画・運営
- 第8回 博物館の計画・運営
- 第9回 公民館の計画・運営
- 第10回 生涯学習センターの計画・運営
- 第11回 図書館の計画・運営
- 第12回 生涯学習センターの実際(学外現地授業)
- 第13回 複合型文化施設の実際(学外現地授業)
- 第14回 市立歴史民俗資料館の実際(学外現地授業)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

学外現地授業は、必ず出席すること。

教科書

テキストはありません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 50 )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 イベントデザイン論 &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 文化と地域を大切に作るイベントプロデュースを学ぶ	
授業の到達目標 イベントとは何か、そのあり方を知る。音楽ジャンルや冠婚葬祭のイベント諸相を体験的に学修する。初級地域公共政策士になるための文化プロデュース能力を得る。	
授業の概要 イベントを実際に企画する実態を学びつつ、イベントの基本的要素を抑えていく。そのために、アーティストがゲストとして来ることがあるので、積極的に現場感覚を学ぶことができる。	
準備学習(予習・復習) 京都における文化活動を紹介するのでできるだけ、時間外において参加し記録すること。アーツマネジメント論を学修していることが望ましい。	
内 容 第1回 はじめに～アーツマネジメント(芸術営)の基本理解の確認 第2回 イベントの要件・目的・手段について 第3回 限界芸術としての冠婚葬祭、そのイベントとの関係 第4回 音楽という文化は都市にどのように関わるのか・ライブハウス、音楽ホール以外に音楽はどこで鳴っている？ 第5回 まちの文化イベントを探し、自らの調査対象を選ぶ(第14回に繋げる作業) 第6回 劇団・ダンスカンパニーの歴史と現状 第7回 演劇ダンスプロデュース公演のあり方 第8回 イベントとしての公演と非イベントとしてのワークショップ グループ学習になる予定 第9回 学外授業 関西のイベントへの参加(京都など) 第10回 観察したイベントの効果と問題点を検証する 第11回 学外授業・まちなかアーツイベントめぐり(京都国際写真展予定) タイミングが合わないときは、映像を観察することに 第12回 グループ学習① イベントの企画会議 第13回 グループ学習② イベントプログラムづくり 第14回 グループ学習③ イベント企画の発表(1) 第15回 グループ学習④ イベント企画の発表(2)	
履修上の注意点 学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすること	
教科書	
参考書 アーツマネジメント学 著者: 小暮宣雄 出版社: 水曜社 出版年: 2013年 ISBN: 9.78488E+12 限界芸術論 著者: 鶴見俊輔 出版社: 筑摩書房 出版年: 1999年 ISBN: 9.78448E+12	
成績評価 試験・レポート(30) 小テスト(20) 授業中課題(0) 授業中発表等(20) 参加度(30)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 展示デザイン論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 木下 達文

## テーマ

展示メディアの理解と創造

## 授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

## 授業の概要

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

## 準備学習(予習・復習)

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心を持ち社会を見つめてみる。

## 内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

## 履修上の注意点

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※グループワークを主体として授業を進めるため、オリエンテーションを除き欠席は3回までとしているのと、後半は授業外の調整や制作作業(かなり大変です)などがあるため、良く考えて履修をすること。

## 教科書

## 参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年： 1996

ISBN:

イベント講座

著者： 日本イベント産業振興協会

出版社： 日本イベント産業振興協会

出版年： 2004

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 ビジュアルアーツ演習 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 清水 俊洋	

## テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

## 授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

## 授業の概要

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

## 準備学習(予習・復習)

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

## 内 容

- 第1回 文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィー制作
- 第2回 文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークを考える
- 第3回 文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークをつくってみる
- 第4回 Illustratorでイラストを描く
- 第5回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第6回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第7回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第8回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第9回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第10回 商品の企画とデザイン … エコバッグのデザイン
- 第11回 商品の企画とデザイン … エコバッグのデザイン
- 第12回 商品広告写真を撮る
- 第13回 心にひびくことばを考える … キャッチコピー
- 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)

## 履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

## 教科書

## 参考書

## フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

## タイポグラフィの基本ルール

著者: 大崎 善治

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2010

ISBN: 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN: 978-4473015785

---

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 ビジュアルアーツ演習 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 清水 俊洋	

## テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

## 授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

## 授業の概要

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

## 準備学習(予習・復習)

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

## 内 容

- 第1回 文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィー制作
- 第2回 文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークを考える
- 第3回 文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークをつくってみる
- 第4回 Illustratorでイラストを描く
- 第5回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第6回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第7回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第8回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第9回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第10回 商品の企画とデザイン … エコバッグのデザイン
- 第11回 商品の企画とデザイン … エコバッグのデザイン
- 第12回 商品広告写真を撮る
- 第13回 心にひびくことばを考える … キャッチコピー
- 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)

## 履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

## 教科書

## 参考書

## フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

## タイポグラフィの基本ルール

著者: 大崎 善治

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2010

ISBN: 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN: 978-4473015785

---

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 文化政策論

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

文化政策の理論、歴史、実践の総合的理解

授業の到達目標

1)文化政策の先進事例から複眼的思考の重要性を学ぶ 2)学生が自らの経験を基礎に考えることを促す 3)自らの経済的自立のための基礎学力を育む(就職活動支援も含めて) 個人の自立を目指した文化政策を考える

授業の概要

生活の豊かさと個人の自立について考える。受講人数によっては積極的にアクティブラーニングを推進する。受講生のレベルによって、シラバスの内容を変更することもある。

準備学習(予習・復習)

新聞、経済誌などの継続的チェック

内 容

- 第1回 稀少性と選択の科学
- 第2回 価格メカニズム
- 第3回 文化生産
- 第4回 文化消費
- 第5回 文化資本
- 第6回 文化遺産観光
- 第7回 埋蔵文化財
- 第8回 JPOPと音楽消費
- 第9回 温泉文化
- 第10回 ギャンブルと文化支援
- 第11回 スポーツ振興(1)
- 第12回 スポーツ振興(2)
- 第13回 建築デザイン
- 第14回 パブリックアート
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

始業時間前に着席すること。グループ活動に対して消極的態度であれば減点対象となる。受講人数や理解度によって内容や方法を変更します。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (0)

出席確認を含めた授業中課題を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 **建築施工**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 笠井 俊明

テーマ

建築物が造り出される過程や施工のポイントについて、具体的にやさしく学ぶ。建築積算についても平行して学ぶ。

授業の到達目標

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容、技術的な手法や積算方法について具体的に知ること、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

授業の概要

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容、技術的な手法や積算方法について具体的に知ること、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

準備学習(予習・復習)

テキストの予習 テキスト・配布資料の復習。(毎回、前回授業の小テストをします。)日常生活から興味をもって建築施工について考える。工事現場を注意して観察する。

内 容

- 第1回 建築施工について
- 第2回 建築生産に関わる各種業務;設計・工事発注・施工など
- 第3回 施工の流れと工程計画作成
- 第4回 仮設工事について、および、地盤強度と地盤調査
- 第5回 土工事と、地業工事の種類と施工法
- 第6回 鉄筋工事と型枠工事
- 第7回 コンクリートの配合と、その打設手順
- 第8回 鉄骨の種類と、その接合や建て方について
- 第9回 メーソソリー(組積)工事とプレキャストパネル
- 第10回 建具工事
- 第11回 内外装の機能材料と仕上工事
- 第12回 給排水・空調・電気設備工事
- 第13回 工事費の積算の手順
- 第14回 簡単な構造物の積算演習
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

受講中は私語厳禁 質問は随時受けます。欠席については成績評価の対象になります。授業では配布資料の空欄を埋める。

教科書

初学者の建築講座 建築施工(第三版)

著者: 中澤明夫 門田誠

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2016/1/20

ISBN: 9.78487E+12

参考書

建築施工テキスト

著者: 兼歳昌直

出版社: 井上書院

出版年: 2012

ISBN: 9.78475E+12

成績評価

試験・レポート(40)

小テスト(40)

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(20)

総合試験は最終授業後別日程で実施します。前回授業の小テストを毎回します。

## 2017 Syllabus

科目名 **建築法規**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 大戸 寛

テーマ

より良い街づくりや、良い環境、安全な建物づくりをするための考え方やその法規を学ぶ。

授業の到達目標

建築物、地域や都市を計画し、それを実現するために必要な建築基準法や関連する法令について基礎的な知識を習得する。

授業の概要

建築物、地域や都市を計画し、それを実現するために必要な建築基準法や関連する法令について基礎的な知識を習得する。

準備学習(予習・復習)

街を歩いているときには常に建築物の形状、周辺環境等に気を配っておくこと。授業後その細目について街や、建築の構造について再確認しておくことが大事です。

内 容

- 第1回 建築基準法の概要1
- 第2回 建築基準法の概要2
- 第3回 用途と形態の制限1
- 第4回 用途と形態の制限2
- 第5回 防火対策と内装の規制1
- 第6回 防火対策と内装の規制2
- 第7回 避難施設の基準
- 第8回 構造強度の規制1
- 第9回 構造強度の規制2
- 第10回 環境と整備に関する基準1
- 第11回 環境と整備に関する基準2
- 第12回 建築協定・建築士法
- 第13回 ハートビル法・耐震改修促進法、建築業
- 第14回 消防法、都市計画法、品確法、その他の法令
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書を必ず準備してください。またメジャー(2m程度)を用意しておいてください。

教科書

First Stage 建築法規概論

著者: 大村謙二郎 他

出版社: 実教出版株式会社

出版年: 2016年9月25日

ISBN: 9.78441E+12

参考書

基本建築関係法令集

著者:

出版社: 霞ヶ関出版社

出版年: 平成28年度版

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 色彩環境論

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 渡辺 安人

テーマ

感性感覚の世界と思われがちな色彩だが、色彩は人間の心理生理に多大な影響を及ぼす。色彩調和手法や色彩と心理の関係などを把握し、望ましい快適な生活環境創出の一助にする。

授業の到達目標

色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。色の特徴や性質、配色などを具体的な事例を見ながら理解し、建築やインテリアにおける色彩の効果や役割について考える。

授業の概要

色彩の学術理論の学習だけでなく、色彩を実践的に自信を持って活用できるようになることを目指す。

準備学習(予習・復習)

日頃から身の回りの色彩に意識を持つこと。理論の理解のために、テキストと共に「配色カード158a」を購入し、ハサミ、のりと共に授業に持参すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス、ライフスタイルと生活用品などの色彩意識の変遷
- 第2回 古代日本から近代への色彩歴史
- 第3回 五感、色とは、色の三属性1
- 第4回 色の三属性2、表色手法
- 第5回 配色調和と配色テクニック1
- 第6回 配色テクニック2、明度測定実習
- 第7回 美的形式、センスアップ方法
- 第8回 色彩心理1
- 第9回 色彩心理2、色彩生理
- 第10回 嗜好色、流行色
- 第11回 目の働き
- 第12回 照明と演色性、インテリアと色彩
- 第13回 景観調和と建築外観色
- 第14回 日本の気候風土と色彩文化
- 第15回 環境色彩のまとめ、テスト

履修上の注意点

当然私語は慎むこと。各回の授業をトータルして全体が完結し、色彩に対して実力と自信をつけることを目指しているため、欠席しないこと。

教科書

色彩学の実践

著者： 渡辺安人

出版社： 学芸出版社

出版年： 2005

ISBN:

配色カード158a又は配色カード199a

著者:

出版社： 日本色研事業(株)

出版年:

ISBN:

参考書

カラーコーディネーター入門「色彩」

著者:

出版社： 日本色研事業(株)

出版年:

ISBN:

カラーコーディネーターのための「色彩学入門」

著者:

出版社: 日本色研事業(株)

出版年:

ISBN:

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 70 )

成績は毎回提出の出席カード兼コメント用紙の当日授業内容に対する感想や質問などの記載コメント(出席率・受講の熱心さ)、及び授業最終日の筆記小テストで成績付けを行う。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **観光情報演習 I**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報および情報媒体について学ぶ。

授業の到達目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報がかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の概要

講義と受講者による発表で構成される。

準備学習(予習・復習)

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

内 容

- 第1回 観光情報とは
- 第2回 観光情報とメディア
- 第3回 観光ビジネスと情報活用について①
- 第4回 観光ビジネスと情報活用について②
- 第5回 観光ビジネスと情報活用について③
- 第6回 観光ビジネスと情報活用について④
- 第7回 いろいろな観光情報
- 第8回 観光情報について分析する(発表を含む)①
- 第9回 観光情報について分析する(発表を含む)②
- 第10回 観光情報について分析する(発表を含む)③
- 第11回 観光情報について分析する(発表を含む)④
- 第12回 観光情報について分析する(発表を含む)⑤
- 第13回 観光情報について分析する(発表を含む)⑥
- 第14回 観光情報について分析する(発表を含む)⑦
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

グループ活動による授業時間外での学習が必要になるので、積極的に参加されることを期待する。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新しい観光を学ぶ

著者: 谷口知司他

出版社: 晃洋書房

出版年: 2017

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

授業時間外の活動についても参加度において加味する。

## 2017 Syllabus

科目名 観光情報演習Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光関連資料のデジタル化について学ぶ。

授業の到達目標

観光資料等のデジタル化およびデータベースによる管理ができるようになること。テキストベースの観光情報媒体についての全体的な理解ができるようになる。併せて地域資料情報記録管理者資格またはデジタル情報記録管理者資格を取得することを目指す。

授業の概要

歴史的な観光資料等のデジタル化ができるようにする。講義と受講者による発表で構成される。

準備学習(予習・復習)

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

内 容

- 第1回 デジタルとアナログ
- 第2回 デジタル化のプロセス
- 第3回 テキストベースの観光情報媒体について(歴史)①
- 第4回 テキストベースの観光情報媒体について(分析)②
- 第5回 歴史的な観光情報媒体をデジタル化する①
- 第6回 歴史的な観光情報媒体をデジタル化する②
- 第7回 歴史的な観光情報媒体をデジタル化する③
- 第8回 観光資源をデジタル媒体化する①
- 第9回 観光資源をデジタル媒体化する②
- 第10回 観光資源をデータベース化する①
- 第11回 観光資源をデータベース化する②
- 第12回 観光資源をデータベース化する③
- 第13回 成果発表①
- 第14回 成果発表②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業時間外での活動機会も増えるので、積極的に参加するようにしてください。3分の2以上の出席が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法 -記録遺産学への視点-

著者: 谷口知司他

出版社: 晃洋書房

出版年: 2016

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

## 科目名 公共施設論

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 笠井 敏光

テーマ

国や自治体の文化政策の変遷と公共施設の計画と運営について学ぶ。

授業の到達目標

国や自治体の文化政策と公共施設について学ぶ。法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の公共施設のあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、公共施設の計画と運営の課題とあり方について学ぶ。

授業の概要

国や自治体の文化政策と公共施設について学ぶ。法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の公共施設のあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、公共施設の計画と運営の課題とあり方について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

図書館、博物館、文化ホールなどを利用するときには、公共施設の計画と課題の視点から観察しておくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション—公共施設の種類について—
- 第2回 日本の文化政策の変遷
- 第3回 文化芸術振興基本法について
- 第4回 文化関係予算の現状
- 第5回 公共施設の運営主体について
- 第6回 指定管理者制度の現状と課題
- 第7回 文化ホールの計画・運営
- 第8回 博物館の計画・運営
- 第9回 公民館の計画・運営
- 第10回 生涯学習センターの計画・運営
- 第11回 図書館の計画・運営
- 第12回 生涯学習センターの実際(学外現地授業)
- 第13回 複合型文化施設の実際(学外現地授業)
- 第14回 市立歴史民俗資料館の実際(学外現地授業)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

学外現地授業は、必ず出席すること。

教科書

テキストはありません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 法律学研究

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

憲法、行政法、地方自治法、民法、会社法、労働法などの過去の重要な判例を研究する。

授業の到達目標

判例を学ぶことによって、社会人や公務員として求められる法律の知識や考え方を修得する。

授業の概要

社会に出て実際に仕事をするにあたって法律の知識が必要とされるのは、弁護士、司法書士、行政書士などの法律の専門家ばかりではない。どのような企業や組織でも、経理、契約、労務管理などの業務において法律の知識は欠かせない。まして、コンプライアンス(法令遵守)が求められている現代社会にあってはなおさらである。また、公務員になれば、法律による行政の原理があるように、法律の知識は必要不可欠である。そこで、本授業では、実社会や行政において必要とされる法律の知識や考え方を裁判所の過去の判例を研究しながら修得していく。

準備学習(予習・復習)

毎回、次週の授業で学ぶ判例のプリントを配布するので、授業の前に必ず読んでおく。また、平日頃から、裁判所の判決に関するニュースなどを見るようにする。

内 容

- 第1回 法とは何か、法はどのような形で存在するのか 判例とは何か、裁判所の仕組みと権限など
- 第2回 憲法の判例研究(1) 基本的人権
- 第3回 憲法の判例研究(2) 国会・内閣
- 第4回 憲法の判例研究(3) 9条と自衛隊
- 第5回 行政法の判例研究(1) 国家賠償法
- 第6回 行政法の判例研究(2) 行政不服審査法
- 第7回 行政法の判例研究(3) 行政事件訴訟法
- 第8回 公務員法の判例研究(1) 公務員の人権、公務員の懲戒処分
- 第9回 地方自治法の判例研究(1) 地方公共団体の条例
- 第10回 民法の判例研究(1) 契約
- 第11回 民法の判例研究(2) 不法行為
- 第12回 民法の判例研究(3) 親族、相続
- 第13回 会社法の判例研究(1) 会社の基本原則
- 第14回 会社法の判例研究(2) 株式会社
- 第15回 労働法の判例研究(1) 労働基準法

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、発表、質問など授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要な場合に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(40)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(30)

参加度(30)

三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。また、判例についての発表や質疑応答などを評価の重要な対象とする。

## 2017 Syllabus

科目名 **観光臨地演習**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

海外観光地での臨地演習

授業の到達目標

計画に基づいて臨地演習(海外)を行う。

授業の概要

海外観光地への臨地演習のために目的地に必要な事前情報や現地情報を精査し、目的地を設定し、実際に訪問するための様々な計画を行い臨地演習を行う。

準備学習(予習・復習)

授業時間外での活動にも多くの時間を費やす。

内 容

- 第1回 臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
- 第2回 臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
- 第3回 臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
- 第4回 臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
- 第5回 臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
- 第6回 臨地演習
- 第7回 臨地演習
- 第8回 臨地演習
- 第9回 臨地演習
- 第10回 臨地演習
- 第11回 臨地演習
- 第12回 臨地演習
- 第13回 臨地演習
- 第14回 臨地演習
- 第15回 臨地演習

履修上の注意点

臨地演習は2月の中下旬(4日～7日程度)に実施する。演習のための費用は自己負担になる。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(40)

参加度(60)

全般的な取り組みについて総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **建築デザイン演習 <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 34

履修条件

クラス指定

担当者 相波 幸治

テーマ

授業の到達目標

建築設計におけるプレゼンテーション能力の向上を目指す。CADソフトウェア及び模型作成技術、プレゼンテーションスキルを習得し、建築設計に必要な平面表現及び立体表現の技法を身につける。CADソフトウェアを用いて図面作成から模型作成の一連のプロセスを行い、建築設計に必要なCADの表現技法を身につけ、プレゼンテーションボードを作成する。進行中の設計課題あるいは、過去の設計課題、または20世紀以降の名作建築などから1作品を選びCADソフトを使用して一枚のプレゼンテーションボードを作成する。

授業の概要

建築設計におけるプレゼンテーション能力の向上を目指す。CADソフトウェア及び模型作成技術、プレゼンテーションスキルを習得し、建築設計に必要な平面表現及び立体表現の技法を身につける。CADソフトウェアを用いて図面作成から模型作成の一連のプロセスを行い、建築設計に必要なCADの表現技法を身につけ、プレゼンテーションボードを作成する。進行中の設計課題あるいは、過去の設計課題、または20世紀以降の名作建築などから1作品を選びCADソフトを使用して一枚のプレゼンテーションボードを作成する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 2D,3Dの制作1
- 第3回 2D,3Dの制作2
- 第4回 模型制作1
- 第5回 模型制作2
- 第6回 模型制作3
- 第7回 写真撮影
- 第8回 プレゼンテーション作成1
- 第9回 プレゼンテーション作成2
- 第10回 プレゼンテーション作成3
- 第11回 中間発表 中間講評
- 第12回 プレゼンテーション作成4
- 第13回 プレゼンテーション作成5
- 第14回 プレゼンテーション作成6
- 第15回 プレゼンテーション 最終講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **建築デザイン演習 <b>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 34

履修条件

クラス指定

担当者 相波 幸治

テーマ

## 授業の到達目標

建築設計におけるプレゼンテーション能力の向上を目指す。CADソフトウェア及び模型作成技術、プレゼンテーションスキルを習得し、建築設計に必要な平面表現及び立体表現の技法を身につける。CADソフトウェアを用いて図面作成から模型作成の一連のプロセスを行い、建築設計に必要なCADの表現技法を身につけ、プレゼンテーションボードを作成する。進行中の設計課題あるいは、過去の設計課題、または20世紀以降の名作建築などから1作品を選びCADソフトを使用して一枚のプレゼンテーションボードを作成する。

## 授業の概要

建築設計におけるプレゼンテーション能力の向上を目指す。CADソフトウェア及び模型作成技術、プレゼンテーションスキルを習得し、建築設計に必要な平面表現及び立体表現の技法を身につける。CADソフトウェアを用いて図面作成から模型作成の一連のプロセスを行い、建築設計に必要なCADの表現技法を身につけ、プレゼンテーションボードを作成する。進行中の設計課題あるいは、過去の設計課題、または20世紀以降の名作建築などから1作品を選びCADソフトを使用して一枚のプレゼンテーションボードを作成する。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 2D,3Dの制作1
- 第3回 2D,3Dの制作2
- 第4回 模型制作1
- 第5回 模型制作2
- 第6回 模型制作3
- 第7回 写真撮影
- 第8回 プレゼンテーション作成1
- 第9回 プレゼンテーション作成2
- 第10回 プレゼンテーション作成3
- 第11回 中間発表 中間講評
- 第12回 プレゼンテーション作成4
- 第13回 プレゼンテーション作成5
- 第14回 プレゼンテーション作成6
- 第15回 プレゼンテーション 最終講評

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt; \* a &gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

ハードとソフトの両面からまちの将来像を構想する

授業の到達目標

① フィールドワークの中でまちの魅力と課題を発見する力を身につけること。② ①を踏まえ、まちの将来像を提案する能力を身につけること。③グループで議論をしながら、1つの提案をまとめる能力を身につけること。

授業の概要

3-4人1組で都市計画・まちづくりに関するグループ課題に取り組んでもらいます。具体的な課題はゼミ中に出題します。

準備学習(予習・復習)

グループのメンバーとしっかりと議論をして提案をまとめてください。そのためには、講義外でのディスカッションは不可欠です。グループの中で責任感をもって役割を担ってください。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 まちの将来像を構想するにあたって(レクチャー)
- 第3回 グループ作業
- 第4回 先進事例の分析発表(1)
- 第5回 先進事例の分析発表(2)
- 第6回 見学会(1)
- 第7回 まちの「課題」についての発表(1)
- 第8回 まちの「課題」についての発表(2)
- 第9回 グループ作業
- 第10回 まちの「将来像」についての素案発表(1)
- 第11回 まちの「将来像」についての素案発表(2)
- 第12回 見学会(2)
- 第13回 最終成果の発表(1)
- 第14回 最終成果の発表(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。なお、この授業では、必要に応じて学外で授業する場合があります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義の中で適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 40 )

参加度 ( 30 )

グループの中での貢献度を重視します。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 芸術やその他の文化を中心とした公共政策、地域づくりを研究する(1)	
授業の到達目標 1)地域公共政策、文化プロデュースなどから自らの卒業研究テーマを探す 2)キャリアづくりに必要な知識や態度を形成できるようになる 3)グループ学習によって、研究する醍醐味を知る	
授業の概要 教室でのディスカッションや発表のほか、個別相談も適宜行う。	
準備学習(予習・復習) 就職活動との連動に配慮する アクティブ・ラーニングにも取り組む て、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。また、学外で研究成果を発表する機会を作る(紹介する)ので、積極的に参加すること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 グループ研究① 4班ぐらいにグループを作り、共通の研究テーマを決める 第3回 グループ研究② テーマのうち、政策研究発表会に出す班と、京都文化ベンチャーコンペティションに出す班を決める 第4回 グループ研究③ 基礎データの調査とまとめ 第5回 グループ研究④ プレゼンテーション化(パワーポイントづくりとレポートづくり) 第6回 グループ研究⑤ 4班の発表と反省会 第7回 グループ研究⑥ 発表後の修正と課題確認 第8回 卒業研究に関わる準備作業① 図書館の使い方 第9回 卒業研究に関わる準備作業② データベース、サイニー(CiNii Articles)の探し方 第10回 卒業研究に関わる準備作業③ としあえずのレジュメづくり 第11回 卒業研究に関わる準備作業④ 発表と交互の質問応答によって、主題を深める 第12回 学外授業 グループごとに場所を選ぶこともできるように工夫する 第13回 キャリア体験・・・グループディスカッションや合同面接など 第14回 キャリア研究・・・キャリアセンターや公務員死線センターとの連携でキャリアづくりの意識を高める 第15回 まとめ 3回生の夏休みを研究と就活に上手に活かすために どこかで、学外授業をもう1回することもありうる	
履修上の注意点 遅刻や欠席のときは、事前に連絡すること。13時ジャストに授業が初められるように、その前に着席しておくこと。	
教科書	
参考書 日本映画史110年 著者： 四方田犬彦 出版社： 集英社 出版年： 2014年 ISBN： 4087207528 J・POP文化論 著者： 宮入恭平 出版社： 彩流社 出版年： 2015年 ISBN： 9.78478E+12	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト( ) 授業中課題(20) 授業中発表等(30) 参加度(50) 日ごろの実践活動をノートに記録すること。	

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt;\*c&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 谷口 知司	
テーマ	
観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究	
授業の到達目標	
観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺の知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、併せてゼミの取り組みである「こだわり市場」や「修学旅行プロジェクト」等に積極的に取り組む。	
授業の概要	
演習であるため、学生の活動が中心になる。	
準備学習(予習・復習)	
様々な観光資源や地域資料等の収集やその方法を身につけるためのフィールドワークを行う。	
内 容	
第1回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。	
第2回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。	
第3回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。	
第4回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。	
第5回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。	
第6回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。	
第7回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。	
第8回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。	
第9回 課題についての発表	
第10回 課題についての発表	
第11回 旅(調査)をプランニングする。夏休み中に観光地の現地調査(観光資源調査を含む)を行う。そのための①現地予備調査(書籍・雑誌・Web・ビデオ等)をする。②現地予備調査を基に旅(調査)のプランニングをする。なお、ゼミメンバー各人が責任分担し全体を構成する。	
第12回 旅(調査)をプランニングする。	
第13回 旅(調査)をプランニングする。	
第14回 旅(調査)をプランニングする。	
第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席が必要です。また研修旅行に参加することが必修である。	
教科書	
使用しない。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
新しい観光を学ぶ	
著者:	谷口知司・福井弘幸編著
出版社:	晃洋書房
出版年:	2017 ISBN:
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (30)	授業中発表等 (40)
参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt;\*d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 福井 弘幸	
テーマ 社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る応用力の習得。	
授業の到達目標 政府は観光振興を21世紀の日本の重要な政策の柱として明確に位置づけ施策を計画的に推進しており、観光振興と地域振興が一体であることも示している。ゼミでは、観光による課題解決へのプロセスを構築できる基礎学力を身につけることを目標とする。社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る応用力の習得。	
授業の概要 ・グループで教科書の輪講を行い、全体での議論を行う。・学生主体で学外企画への参加、調査・研究等を行う。	
準備学習(予習・復習) ・グループに分け、調査・研究があるため授業時間外の学習は必須になる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 国内旅行商品造成 第3回 国内旅行商品造成(グループワーク)1 第4回 関空旅行博覧会見学 第5回 国内旅行商品造成(グループワーク)2 第6回 国内旅行商品造成(グループ発表)3 第7回 インバウンド研究 第8回 インバウンド研究(グループワーク)1 第9回 インバウンド研究(グループワーク)2 第10回 インバウンド研究(グループ発表)3 第11回 観光によるまちづくり研究1 第12回 観光によるまちづくり研究(グループワーク)2 第13回 観光によるまちづくり研究(グループワーク)3 第14回 観光によるまちづくり研究(グループ発表)4 第15回 まとめ	
履修上の注意点 ・3分の2以上の出席が必要です。・必要に応じて学外授業/特別講演会を行う場合がある。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 これからの観光を考える 著者: 谷口知司/福井弘幸 出版社: 晃洋書房 出版年: 2017 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (30) 参加度 (30)	小テスト ( ) 授業中発表等 (40)
・参加度(出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含む)と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合的にみて評価する。・3分の2以上の出席が必要です。	



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt;\* e&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 金武 創	
テーマ 観光/文化と現代ビジネス	
授業の到達目標 ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める	
授業の概要 ①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習 I, II 共通)前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。 他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないかと期待している。条件が整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定である。	
準備学習(予習・復習) 日経MJ,日経ビジネスオンラインを読むこと。学外授業を行うこともある。	
内 容 第1回 「ハイ・コンセプト」を読む① 第2回 「ハイ・コンセプト」を読む② 第3回 「祭りのゆくえ」を読む① 第4回 「祭りのゆくえ」を読む② 第5回 「モチベーション3.0」を読む① 第6回 「モチベーション3.0」を読む② 第7回 観光ビジネス改善提案① 第8回 観光ビジネス改善提案② 第9回 観光ビジネス改善提案③ 第10回 観光ガイド実習(基礎)準備① 第11回 観光ガイド実習(基礎)準備② 第12回 観光ガイド実習(基礎)準備③ 第13回 観光ガイド実習(基礎) 第14回 高校生向けワークショップ準備 第15回 観光と公共政策のまとめ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う	
履修上の注意点 学会大会への参加、地域連携活動への参加、ワークショップの開催、(株)らくたびによる観光ガイド実習など、キャンパス外/時間外活動があります。事前に予定を調整します。ゼミ登録にあたり、授業登録上の注意をすでに説明済みです。不明であれば、担当教員にメールで質問してください。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 ハイ・コンセプト 著者: ピンク 出版社: 講談社 出版年: 2006 ISBN:	
モチベーション3.0 著者: ピンク 出版社: 三笠書房 出版年: 2010 ISBN:	
成績評価	

a50203a115

試験・レポート (0)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

授業出席と授業(中)課題は成績評価の最低条件です。

---

小テスト ( )

授業中発表等 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

共同研究&amp;個人研究(1) ~テーマの確立と基礎知識の習得~

授業の到達目標

本演習においては、個人研究だけでなくゼミ生相互の交流と共同研究を促進するためのプログラムを実施している。その過程でテーマを比較検討しながら明確にし、文献を通じて基礎的知識を養う。なお、夏休みには、アバレンティスシップ(研修活動)として、将来設計に応じたインターンシッププログラムを自分自身で設計し、それらを達成していくことを目的としている。

授業の概要

前期は主に共同研究の企画立案・決定とその専門知識の学習・発表を中心として行い、個人研究についてはテーマ決めならびに文献の調査を行う。また、就職に向けた夏休みの研修活動の設計指導を行う。

準備学習(予習・復習)

個人研究は基本的に学生自ら行うことなので、計画的に時間をとって進めること。ゼミでは、研究だけでなく、就職支援も積極的に行うので、将来のことを早くから考えるようにする。また、当ゼミではメールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を適宜行っている。なお、必要に応じて、ゼミ会等の懇親会も行っている。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標)
- 第2回 自己関心発見ワークショップ
- 第3回 共同研究の企画1
- 第4回 共同研究の企画2
- 第5回 個人研究・将来目標の設定・夏休みの計画
- 第6回 共同研究の企画コンペ実施
- 第7回 基礎文献の収集
- 第8回 共同研究の基礎設計
- 第9回 基礎研究の発表1
- 第10回 基礎研究の発表2
- 第11回 基礎研究の発表3
- 第12回 基礎研究の発表4
- 第13回 共同研究実践の準備1
- 第14回 共同研究実践の準備2
- 第15回 総括

履修上の注意点

※演習の内容によって多少変更をする場合もある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

とくに出席を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt;\*g&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 北村 義典

テーマ

「環境構成要素」の学習及び設計演習

授業の到達目標

私たちが日常的に接している生活環境は、様々な「もの」や「こと」によって構成されている。そうした建築や都市を形作る人工環境を多面的な視点で考察することで、デザイン上の構成要素とその構造を学習し、環境造形のあり方を理解する。

授業の概要

前半は、環境構成要素の調査を通じ街の姿を学習する。後半は、具体的なテーマに沿ったグループによる環境設計演習を行う。

準備学習(予習・復習)

関連図書・作品集の読解や建築・芸術系展示会等の見学を通じ、自らの創作意欲を高める

内 容

- 第1回 ガイダンス(学習領域及び授業構成の説明)
- 第2回 環境造形の歴史及び手法論
- 第3回 環境構成要素(G.カレン「都市の景観」)
- 第4回 調査テーマ設定
- 第5回 調査
- 第6回 調査結果レポート提出及び発表
- 第7回 建築、環境デザイン見学
- 第8回 設計課題講義(国内コンペを予定)
- 第9回 コンセプト検討(1)
- 第10回 コンセプト検討(2)
- 第11回 設計制作(1)
- 第12回 設計制作(2)
- 第13回 ドローイング(1)
- 第14回 ドローイング(2)
- 第15回 作品発表、講評

履修上の注意点

調査にはカメラ、スケッチブックを携行する

教科書

毎回、必要な資料を配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

都市のイメージ

著者: ケヴィン・リンチ

出版社: 岩波書店

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 松本 正富

テーマ

現代建築家のデザイン手法についての検討

授業の到達目標

当ゼミでは、卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。様々な建築家のデザイン手法や設計に対する概念を学ぶことで、建築・インテリア設計やデザインという行為に対する興味と見識を広げる。効果的なプレゼンテーションの技能を習得する。ものづくりやデザインという行為の楽しさを見つけ出す。先輩と後輩を含めたゼミ生同士の交流を深め、デザインワークを協同することの大切さを学ぶ。

授業の概要

1)各自が興味を持った建築家とその作品について調査し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。2)数回の建築見学会を開催する。3)建築やデザイン系のコンペへの参加を奨励し、これに関わるアドバイスと支援を行う。

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 調査テーマの設定
- 第3回 プレゼンテーション-1
- 第4回 プレゼンテーション-2
- 第5回 プレゼンテーション-3
- 第6回 プレゼンテーション-4
- 第7回 プレゼンテーション-5
- 第8回 プレゼンテーション-6
- 第9回 建築見学会-1
- 第10回 コンペ課題コンセプト検討-1
- 第11回 コンペ課題コンセプト検討-2
- 第12回 コンペ課題ドローイング-1
- 第13回 コンペ課題ドローイング-2
- 第14回 建築見学会-2
- 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業・特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

コンパクト設計資料集成  
著者： 日本建築学会編  
出版社： 丸善株式会社  
出版年： 2005

ISBN: 9.78462E+12

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )  
参加度 ( 40 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt; \* i &gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

建築作品の制作

授業の到達目標

アイデアやコンセプトを形にし、プレゼンテーションを行う。

授業の概要

コンペやアートの制作から作品を制作する過程を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

普段から建築やインテリアの情報収集を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 作品制作1
- 第9回 作品制作2
- 第10回 作品制作3
- 第11回 作品制作4
- 第12回 作品制作5
- 第13回 ゼミ合宿
- 第14回 ゼミ合宿
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミ合宿を行う。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 0 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (都) &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

建築・インテリアの読解とデザイン

授業の到達目標

建築家やインテリアデザイナーの作品を、図面、スケッチ、言説などから多角的、批評的に読み解く方法論を身に付ける。設計課題を通して、自身のイメージや発想を具体的な作品としてデザインし、それを効果的に表現するプレゼンテーション能力を鍛える。

授業の概要

・作品分析(取り上げる作品については講義中に発表) 図面の模写、スケッチや言説の読解などを通して、作品を成立させている歴史的背景や作家の意図などを読み解く。作品を批評的に捉えることとして、そこに自らのデザインを加えて発表する。  
 ・設計課題(テーマについては講義中に発表) テーマに沿って設計をする。

準備学習(予習・復習)

日常的にスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 作品の模写
- 第3回 作品の模写
- 第4回 作品の調査・分析
- 第5回 作品の調査・分析
- 第6回 作品の提案
- 第7回 作品の提案
- 第8回 プレゼンテーション
- 第9回 設計課題
- 第10回 設計課題
- 第11回 設計課題
- 第12回 設計課題
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 見学会
- 第15回 見学会

履修上の注意点

※本ゼミでは、必要に応じて学外での授業を行うことがある。見学会(日帰り)、見学旅行(1泊2日)、など。日常的なスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うことを心掛けること。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (30)

参加度 (70)

特に出席を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習 I (\* 救急)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹・北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (100)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ（\*救急）

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹・北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

建築・まちづくりの専門家に聞いたことを元に卒業研究のテーマを探す

授業の到達目標

・建築やまちづくりを専門とする働き方を理解する・自分が将来どのように働きたいかを探る・卒業研究に向けたテーマ探し

授業の概要

実際に建築やまちづくりを専門として働いている人へのインタビュー調査を行います。各自のこれからの働き方を考えるきっかけづくりをすると同時に、建築やまちづくりの現場で起こっている実情を理解し、卒業研究のテーマ設定へと繋げていきます。

準備学習(予習・復習)

卒業研究のテーマ探しにあたっては、講義外の文献収集やフィールドワークは不可欠です。建築・都市の現場に研究テーマは隠されています。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 建築・まちづくり分野の働き方1
- 第3回 建築・まちづくり分野の働き方2
- 第4回 インタビュー調査の計画発表1
- 第5回 インタビュー調査の計画発表2
- 第6回 インタビュー調査1
- 第7回 インタビュー調査2
- 第8回 インタビュー調査3
- 第9回 インタビュー調査の結果発表1
- 第10回 インタビュー調査の結果発表2
- 第11回 インタビュー調査の結果発表3
- 第12回 卒業研究に向けた計画発表1
- 第13回 卒業研究に向けた計画発表2
- 第14回 卒業研究に向けた計画発表3
- 第15回 1年間のまとめ

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。なお、この授業では、必要に応じて学外で授業する場合があります。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 40 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 芸術やその他の文化を中心とした公共政策、地域づくりを研究する(2)	
授業の到達目標 1)地域公共政策、文化プロデュースなどから自らの卒業研究テーマを確立する 2)卒業後の自分の仕事イメージを形成できるようにする 3)自分の研究テーマを他者に説明できるとともに、他者のテーマについて、適切な問いを発することができる	
授業の概要 教室でのディスカッションや発表のほか、個別相談も適宜行う。	
準備学習(予習・復習) 就職活動との連動に配慮する 卒業研究について、制作の場合は、この秋からスタートにする て、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。また、学外で研究成果を発表する機会を作る(紹介する)ので、積極的に参加すること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 4回生の卒業研究中間報告に参加①・・・発表を聞いて自分の卒業研究の課題に気づく 第3回 4回生の卒業研究中間報告に参加②・・・自分の卒業研究スケジュールを考える 第4回 地域公共政策の諸テーマを知る 第5回 行政と公務員の仕事を知る 第6回 芸術領域を政策にするとときに注意することを学ぶ 第7回 文化やスポーツと公共政策との関係を掘り下がる 第8回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する① 第9回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する② 第10回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する③ 第11回 学外授業・・・文化プロデュースの実践の仕方・・・めくるめく紙芝居など、現地でのワークショップ 第12回 キャリア研究① 自分のキャリアとアーツマネジメント 第13回 キャリア研究② 生活と文化プロデュース分野を探る 第14回 キャリア研究③ 限界芸術と冠婚葬祭 第15回 まとめ 卒業研究をこれから深めるために	
履修上の注意点 遅刻や欠席のときは、事前に連絡すること。13時ジャストに授業が初められるように、その前に着席しておくこと。	
教科書	
参考書 日本映画史110年 著者: 四方田犬彦 出版社: 集英社 出版年: 2014年 ISBN: 4087207528 J・POP文化論 著者: 宮入恭平 出版社: 彩流社 出版年: 2015年 ISBN: 9.78478E+12	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(20) 授業中発表等(30) 参加度(50) 日ごろの実践活動をノートやブログ、ツイッターなどに見えるようにすること。その自分の行動のプロセスを客体化している様子を評価に加えたい。めくるめく紙芝居プロジェクト <a href="https://www.facebook.com/mekmekY">https://www.facebook.com/mekmekY</a>	

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\*c&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 谷口 知司	
テーマ 観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究	
授業の到達目標 観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、ゼミのプロジェクトである「こだわり市場」や「修学旅行プロジェクト」に積極的に参加すること。	
授業の概要 演習であるため、学生の活動が中心になる。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 京都まちなかアーカイブ事前学習 前期で学習したデジタル・アーカイブの知識や技術を活用し、京都まちなかアーカイブを行う。また、新たにGPSによる位置情報や撮影方向などの記録を同時に取得する方法について学ぶ。 第2回 京都まちなかアーカイブ事前学習 第3回 京都まちなかアーカイブ事前学習 第4回 京都まちなかアーカイブ事前学習 第5回 京都まちなかアーカイブを行う。 第6回 ツーリズムの形態について学ぶ。1班3名のグループを構成し、グループによる課題研究方式で、ツーリズムの形態(エコ、グリーン、産業、都市etc)や、その意味・意義・課題等について研究する。また、特定の地域におけるそれぞれの形態での旅の計画を行う。なお、研究成果は指定された日に発表することを要求する。課題解決の方法ならびに発表内容については適宜指導する。 第7回 ツーリズムの形態について学ぶ。 第8回 ツーリズムの形態について学ぶ。 第9回 ツーリズムの形態について学ぶ。 第10回 ツーリズムの形態について学ぶ。 第11回 課題発表 第12回 卒業論文のテーマについて考える。 第13回 卒業論文のテーマについて考える。 第14回 卒業論文のテーマについて考える。 第15回 まとめ	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。	
教科書 使用しない。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 新しい観光を学ぶ 著者: 谷口知司・福井弘幸編著 出版社: 晃洋書房 出版年: 2017 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 授業中課題(30) 参加度(30)	小テスト(0) 授業中発表等(40)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\*d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 福井 弘幸	
テーマ 社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る応用力の習得。	
授業の到達目標 政府は観光振興を21世紀の日本の重要な政策の柱として明確に位置づけ施策を計画的に推進しており、観光振興と地域振興が一体であることも示している。ゼミでは、観光による課題解決へのプロセスを構築できる応用力を身につけることを目標とする。あるテーマに沿って空間をデザインする。	
授業の概要 ・グループで教科書の輪講を行い、全体での議論を行う。・学生主体で学外企画への参加、調査・研究等を行う。	
準備学習(予習・復習) ・グループに分け、調査・研究があるため授業時間外の学習は必須になる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 地域の課題解決研究1 第3回 地域の課題解決研究(グループワーク)2 第4回 地域の課題解決研究(グループワーク)3 第5回 地域の課題解決研究(グループ発表)4 第6回 中間のまとめ 第7回 4回生の卒論中間発表見学。 第8回 海外旅行商品造成1 第9回 海外旅行商品造成(グループワーク)2 第10回 海外旅行商品造成(グループワーク)3 第11回 将来の進路学習会。 第12回 海外旅行商品造成(グループ発表ワーク)4 第13回 卒業論文のテーマ検討 第14回 卒業論文のテーマ検討 第15回 まとめ	
履修上の注意点 ・3分の2以上の出席が必要です。・必要に応じて学外授業/特別講演会を行う場合がある。	
教科書 使用しない。 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 これからの観光を考える 著者: 谷口知司/福井弘幸 出版社: 晃洋書房 出版年: 2017 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30) ・参加度(出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含む)と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合的にみて評価する。学外授業を行う場合がある。・3分の2以上の出席が必要です。	

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\*e&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光/文化とビジネスマインド

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎にした文化プロデュースを学ぶ姿勢を確立する

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習Ⅰ、Ⅱ共通)・読む、書く、話す、考える、伝える等、様々な学習方法を通して、専門領域の学習はいうまでもなく、オリジナルな卒論執筆に向けた準備を進める。様々な機会による観光ガイド実習はより発展的な内容となります。苦手分野を平均レベルにあげることを念頭に、授業外で就職活動についての相互サポートを積極的に実施し、学生生活の充実を共通目標に定めて、4回生春の内定獲得を副次的目標とする。

準備学習(予習・復習)

日経ビジネスオンライン、日経新聞を読んでおくこと。学外授業を行うこともある。

内 容

- 第1回 「場のマネジメント」を読む①  
 第2回 「場のマネジメント」を読む②  
 第3回 「観光文化学」を読む①  
 第4回 「観光文化学」を読む②  
 第5回 「人を助けるとはどういうことか」を読む①  
 第6回 「人を助けるとはどういうことか」を読む②  
 第7回 政策交流大会準備①  
 第8回 政策交流大会準備②  
 第9回 政策交流大会準備③  
 第10回 観光ガイド実習(発展)準備①  
 第11回 観光ガイド実習(発展)準備②  
 第12回 観光ガイド実習(発展)準備③  
 第13回 観光ガイド実習(発展)  
 第14回 卒論準備書誌情報作成①  
 第15回 卒論準備書誌情報作成② ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

専門演習Ⅰと同じです。ゼミ登録にあたり、授業登録上の注意をすでに説明済みです。不明であれば、担当教員にメールで質問してください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

実践知

著者: 金井壽宏/楠見孝

出版社: 有斐閣

出版年: 2012

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト ( )

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

授業出席と授業(中)課題は成績評価の最低条件です。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

共同研究&amp;個人研究(2)～専門研究の展開と仕事研究の準備～

授業の到達目標

本演習では、まず夏休みに実施した各自のアパレンティスシップの報告を通じて、各々の経験を共有し、自分たちの将来について考えることを行う。また、後半では各自のテーマ内容をより深め、基礎知識から専門知識へと高めていく。卒業論文と同時に就職の準備サポートも可能な限り行う。あわせて、共同研究の実践を本格的に行っていく。

授業の概要

後期の最初は夏の研修プログラムの報告と情報共有を行い、その後、個人研究と共同研究を同時並行的に進めていく形式をとる。

準備学習(予習・復習)

個別研究課題を設定するのに時間がかかる人が多いため、なるべく早くからさまざまな社会的関心を持ち、候補をいくつか考えるようにしてほしい。また、文献も収集するのに時間がかかるため、日頃から情報アンテナを広げる癖をつけるようにしてほしい。また、前期に引き続き、メーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を行うのと、全体で行うサブプログラムを継続実施する。なお、必要に応じてゼミ会も行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標)
- 第2回 アパレンティスシップ報告(1)
- 第3回 アパレンティスシップ報告(2)
- 第4回 アパレンティスシップ報告(3)
- 第5回 共同研究プロジェクトの立ち上げ
- 第6回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(1)
- 第7回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(2)
- 第8回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(3)
- 第9回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(4)
- 第10回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(5)
- 第11回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(6)
- 第12回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(7)
- 第13回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(8)
- 第14回 個人研究発表&共同プロジェクト実施(9)
- 第15回 評価とまとめ

履修上の注意点

※演習の内容によって多少変更をする場合もある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(30)

参加度(40)

とくに出席を重視する。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\*g&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 北村 義典

テーマ

「空間構成」の学習及び設計演習

授業の到達目標

インテリアは建築に内包され、建築は地域に含まれる。そして地域は地球上に存在する。空間のヒエラルキーと関係性を把握し、また「空間」の質が「時」によって変化する、いわゆるエージングの視点を理解することで、多様な空間デザインの制作力を習得する。

授業の概要

前半は、環境構成の調査を通じ街の構造を学習する。後半は、具体的なテーマに沿ったグループによる環境設計演習を行う。

準備学習(予習・復習)

関連図書・作品集の読解や建築・芸術系展覧会等の見学を通じ、自らの創作意欲を高める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(学習領域及び授業構成)
- 第2回 空間のヒエラルキー
- 第3回 空間のエージング
- 第4回 調査テーマ設定
- 第5回 調査
- 第6回 調査結果のレポート提出及び発表
- 第7回 建築、環境デザイン見学
- 第8回 設計課題講義(国際コンペを予定)
- 第9回 コンセプト検討(1)
- 第10回 コンセプト検討(2)
- 第11回 設計制作(1)
- 第12回 設計制作(2)
- 第13回 ドローイング(1)
- 第14回 ドローイング(2)
- 第15回 作品発表、講評

履修上の注意点

調査にはカメラ、スケッチブックを携行する

教科書

毎回、必要な資料を配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

街並みの美学

著者: 芦原義信

出版社: 岩波書店

出版年: 2001

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定

担当者 松本 正富

テーマ

卒業制作・論文に向けたテーマとコンセプトの模索

授業の到達目標

当ゼミでは、卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。生活環境や空間デザインを扱う分野において自分の興味対象を絞り込み、魅力とやりがいのある卒業制作のテーマを設定する。

授業の概要

1) 各自の興味を抱いた内容について調査分析し、ビジュアル的に配慮したプレゼンテーションに纏める。これに対するディスカッションを繰り返すなかで、テーマの絞り込みとコンセプトの構想につなげる。2) “社会的な問題を提起し、その解決に向けた建築的仕掛けを考察する”といった一連の行為についての練習を重ねる。3) 数回の建築見学会を開催する。4) 4回生の卒業制作を補助するなかで、先輩の技術を修得する。

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題の設定
- 第3回 プレゼンテーション-1
- 第4回 プレゼンテーション-2
- 第5回 プレゼンテーション-3
- 第6回 プレゼンテーション-4
- 第7回 プレゼンテーション-5
- 第8回 建築見学会-1
- 第9回 卒業制作・論文のテーマ設定-1
- 第10回 卒業制作・論文のテーマ設定-2
- 第11回 卒業制作・論文のテーマ設定-3
- 第12回 卒業制作・論文のテーマ設定-4
- 第13回 卒業制作・論文のテーマ設定-5
- 第14回 建築見学会-2
- 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN: 9.78475E+12

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN: 9.78462E+12

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\*i&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

卒業制作と就職活動の準備

授業の到達目標

建築やインテリアに関して、普段から興味のあることを言語化し、作品として提案する。

授業の概要

卒業制作におけるアイデアやコンセプトについて考え、それに沿った設計条件を提示する。業界研究を行い、発表する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 見学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

専門演習1と同じです。ゼミ登録にあたり、授業登録上の注意をすでに説明済みです。不明であれば、担当教員にメールで質問してください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

授業出席と授業(中)課題は成績評価の最低条件です。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(都) &lt;\*j&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

「現代」における建築・インテリアの読解とデザイン

授業の到達目標

「現代」を独自の視点から捉え、何が求められているのか問う力を養う。卒業制作・論文や、就職活動へと繋がる課題を見つける。専門演習Ⅰに引き続き、読解力、表現力を身に付ける。

授業の概要

・作品分析 現代作家の作品を取り上げ(各自興味をもった建築やインテリア)、それについての調査・分析を行ない、「現代」における課題を確認する。これをふまえたうえで、建築・インテリアのデザインを通して自分なりの解答を出す。・設計課題 具体的に決められた敷地、必要諸室などの様々な条件を丁寧に読み解き、設計を行なう。

準備学習(予習・復習)

卒業制作・論文や就職活動を視野に入れて活動すること。展覧会やイベントなどに積極的に参加し、自身の経験を通して社会の動向を学ぶこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 各自取り上げる作品を決定する
- 第3回 作品を調査・分析する
- 第4回 作品を調査・分析する
- 第5回 調査・分析をふまえたうえで、その作品に自分なりの新しい提案を加える
- 第6回 作品の提案
- 第7回 プレゼンテーション
- 第8回 設計課題
- 第9回 設計課題
- 第10回 設計課題
- 第11回 設計課題
- 第12回 設計課題
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 見学会
- 第15回 見学会

履修上の注意点

※本ゼミでは、必要に応じて学外での授業を行うことがある。見学会(日帰り)、見学旅行(1泊2日)、など。日常的なスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うことを心掛けること。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (30)

参加度 (70)

## 2017 Syllabus

## 科目名 景観・アメニティ論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ	
現代における景観やアメニティについて考える。	
授業の到達目標	
地域計画を通じて現代における景観やアメニティを考える。地域開発の歴史や景観論争の実態を把握し、論点を理解・整理した上で、日本の伝統文化が育んできたアメニティについて学ぶ。	
授業の概要	
地域計画を通じて現代における景観やアメニティを考える。地域開発の歴史や景観論争の実態を把握し、論点を理解・整理した上で、日本の伝統文化が育んできたアメニティについて学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	
講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度	
内 容	
第1回	オリエンテーション、地域計画・景観・アメニティ
第2回	京都の町屋
第3回	京都景観論争
第4回	京都の新景観政策
第5回	鞆浦景観論争
第6回	ソウル大改造
第7回	農村の景観(1)里山
第8回	農村の景観(2)棚田
第9回	農村の景観(3)黒川温泉
第10回	建築の美(1)桂離宮
第11回	建築の美(2)白川郷
第12回	建築の美(3)かやぶき屋根
第13回	建築の美(4)蔵と石橋
第14回	建築の美(5)ヴォーリズ
第15回	建築家のミッション
履修上の注意点	
私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁 出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁 向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる	

## 教科書

## 参考書

日本の風景を殺したのはだれだ？

著者： 船瀬俊介

出版社： 彩流社

出版年： 2004年

ISBN:

風景再生論

著者： 船瀬俊介

出版社： 彩流社

出版年： 2007年

ISBN:

日本美の再発見

著者： ブルーノ・タウト

出版社： 岩波書店

出版年： 1939年

ISBN:

ブルーノ・タウト

著者： 田中辰明

出版社： 中央公論社

出版年： 2012年

ISBN:

日本人の景観認識と景観政策

著者： 土岐 寛

出版社： 日本評論社

出版年： 2015年

ISBN:

都市不動産の経済学

著者： 柿本尚志

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2008年

ISBN:

鞆の浦を歩く

著者： 三浦正幸

出版社： 南々社

出版年： 2010年

ISBN:

ソウル大改造

著者： 李 明博

出版社： マネジメント社

出版年： 2007年

ISBN:

町屋再生の論理

著者： 宗田好史

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009年

ISBN:

ヴォーリズ建築の100年

著者： 山形政昭

出版社： 創元社

出版年： 2008年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **測量実習**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 五十川 伸矢	
テーマ 測定の基礎技術	
授業の到達目標 土地の形状や大きさを計測するため、トラバース、レベルング、平板測量などの実習を行い、測定の基礎を習得する。	
授業の概要 測定の基礎理論と測量機器の取り扱い方を習得する。	
準備学習(予習・復習) 地図を作るという作業には、地形を見抜く目をもつことが必要です。地形を見て、どんな図ができるか、いつも考える癖をつけること。	
内 容 第1回 ガイダンス(班分け方法、実習上の諸注意、レポートの書き方) 第2回 距離測量1(目測・歩測) 第3回 距離測量2(巻尺による測量、数値の取り扱い、有効数字) 第4回 レベル基本操作、スタジア測量(レベル、標尺(スタッフ)、スタジア、スタジア定数) 第5回 水準測量1(レベル、標尺(スタッフ)、閉合水準測量) 第6回 水準測量2(レベル、標尺(スタッフ)、往復水準測量) 第7回 平板測量1(平板、アリダード、骨組測量、標定、放射法、道線法) 第8回 平板測量2(平板、アリダード、細部測量) 第9回 セオドライト基本操作、測角(セオドライト、水平角、鉛直角) 第10回 トラバース測量(多角測量)1(単測法、倍角法) 第11回 トラバース測量(多角測量)2(トラバース、緯距・経距、閉合誤差) 第12回 地形測量1(平板測量法による) 第13回 地形測量2(地形図を描く) 第14回 写真測量 第15回 測量実習の総括	
履修上の注意点 この実習は積み重ね型の授業ですから、欠席すれば何をすべきなのか分からなくなります。またチームを作って共同作業をしますから、個人的なわがままは他の学生に迷惑となります。これらのことをしっかり認識して取り組んで下さい。※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。	
教科書	
参考書 絵とき測量 著者: 粟津清蔵 出版社: オーム社 出版年: 1994 ISBN: 測量入門 著者: 大杉和由・福島博行 出版社: 実教出版 出版年: 2014 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 60 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅴ〈a〉**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み クラス指定

担当者 北村 義典

テーマ

## 授業の到達目標

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域など的高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

## 授業の概要

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域など的高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント
- 第2回 配置計画案の作成
- 第3回 平面計画案の作成
- 第4回 立面・断面計画案の作成
- 第5回 構造計画案の作成1
- 第6回 構造計画案の作成2
- 第7回 建築基準法の確認
- 第8回 中間発表
- 第9回 配置図・平面図の作成1
- 第10回 平面図の作成2
- 第11回 立面図の作成
- 第12回 断面図の作成
- 第13回 模型1
- 第14回 模型2
- 第15回 講評とまとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 80 )  
 参加度 ( 20 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 建築・インテリア設計演習Ⅴ〈b〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

## 授業の到達目標

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域など的高密度な都市を設定する。建築基準法をみだし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

## 授業の概要

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域など的高密度な都市を設定する。建築基準法をみだし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント
- 第2回 配置計画案の作成
- 第3回 平面計画案の作成
- 第4回 立面・断面計画案の作成
- 第5回 構造計画案の作成1
- 第6回 構造計画案の作成2
- 第7回 建築基準法の確認
- 第8回 中間発表
- 第9回 配置図・平面図の作成1
- 第10回 平面図の作成2
- 第11回 立面図の作成
- 第12回 断面図の作成
- 第13回 模型1
- 第14回 模型2
- 第15回 講評とまとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 80 )  
 参加度 ( 20 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅵ <a>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 建築・インテリア設計演習 Ⅰ・Ⅱを修得済み	クラス指定	
担当者 松本 正富		
テーマ		
建築・インテリア設計演習を総括し、卒業制作への橋渡しとすべくデザインワークを行う。		
授業の到達目標		
公共施設(コミュニティーセンター・図書館・学校)の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区別し、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。		
授業の概要		
公共施設(コミュニティーセンター・図書館・学校)の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区別し、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。		
準備学習(予習・復習)		
授業は個人ごとのエスキスチェックが中心になるので、時間外の設計作業が多く必要になります。		
内 容		
第1回	課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント	
第2回	コミュニティーセンターの事例調査発表	
第3回	配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成	
第4回	平面・立面・断面図の作成	
第5回	講評	
第6回	図書館の事例調査発表	
第7回	配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成	
第8回	平面計画図の作成	
第9回	立面・断面図の作成	
第10回	講評	
第11回	学校の事例調査発表	
第12回	配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成	
第13回	平面計画図の作成	
第14回	立面・断面図の作成	
第15回	講評	
履修上の注意点		
製図や模型製作に必要な用具、設計の参考資料等、授業準備をしっかりと行ってください。7割以上の出席が単位取得の条件です。		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験・レポート ( )	小テスト ( )	
授業中課題 ( 80 )	授業中発表等 ( )	
参加度 ( 20 )		

## 2017 Syllabus

## 科目名 建築・インテリア設計演習Ⅵ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 建築・インテリア設計演習 Ⅰ・Ⅱを修得済み	クラス指定
担当者 政木 哲也	
テーマ	建築・インテリア設計演習を総括し、卒業制作への橋渡しとすべくデザインワークを行う。
授業の到達目標	公共施設(コミュニティーセンター・図書館・学校)の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。
授業の概要	公共施設(コミュニティーセンター・図書館・学校)の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。
準備学習(予習・復習)	授業は個人ごとのエスキスチェックが中心になるので、時間外の設計作業が多く必要になります。
内 容	<p>第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント</p> <p>第2回 コミュニティーセンターの事例調査発表</p> <p>第3回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成</p> <p>第4回 平面・立面・断面図の作成</p> <p>第5回 講評</p> <p>第6回 図書館の事例調査発表</p> <p>第7回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成</p> <p>第8回 平面計画図の作成</p> <p>第9回 立面・断面図の作成</p> <p>第10回 講評</p> <p>第11回 学校の事例調査発表</p> <p>第12回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成</p> <p>第13回 平面計画図の作成</p> <p>第14回 立面・断面図の作成</p> <p>第15回 講評</p>
履修上の注意点	製図や模型製作に必要な用具、設計の参考資料等、授業準備をしっかりと行ってください。7割以上の出席が単位取得の条件です。
教科書	
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( )</p> <p>授業中課題 ( 80 )</p> <p>参加度 ( 20 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>

## 2017 Syllabus

科目名 住宅計画

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

健康的で文化的、機能的な理想の住まいをデザインする。

授業の到達目標

住宅とは、決して単なる物ではなく、人間の多様で豊かな生活のための空間であること、そのためには、住宅というハードと使いかたのソフトを融合させ、安全で快適、健康的かつ衛生的、また便利で文化的な住宅設計の基本を修得する。

授業の概要

住宅を生活と環境の側面からとらえ、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模や形態に関する計画、地域計画などの知見も取り入れながら、住宅の設計の基本と応用を学ぶ。具体的な住宅作品を解説・評価し、住まい手について安全で快適、かつ健康的で文化的な住宅とはどのようなものかを考察する。また、設計や管理計画に関する知見についても学び、将来の実務に役立つ知識を修得する。

準備学習(予習・復習)

教科書を早めに入手し、一読しておいてください。配布資料は設計の参考になるので、保管してください。簡単な平面設計を行う予定です。住宅・建築系以外の学生は、かなりの自主学習が必要となることは了解したうえで受講してください。

内 容

- 第1回 住宅の定義および生活と住環境。
- 第2回 住宅計画学の体系と計画のプロセス
- 第3回 住空間の形態と設計
- 第4回 住宅計画のための調査の種類と進め方
- 第5回 人間の寸法と設計の方法
- 第6回 法規と設計
- 第7回 平面計画の方法
- 第8回 構造計画の方法
- 第9回 室内環境の計画
- 第10回 住宅設計実例の研究①
- 第11回 住宅設計実例の研究②
- 第12回 地域計画における住宅計画と景観づくり
- 第13回 住宅の管理
- 第14回 住み手参加による集合住宅デザイン
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席を重視します。受講マナーの悪い学生は、嚴重注意をしますが、ひどい場合は成績評価でマイナス評価されます。

教科書

参考書

講義の中で適宜紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

参加度と提出課題を重視し、総合評価します。

## 2017 Syllabus

科目名 **建築設備**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福坂 誠

テーマ

建築設備の基礎を学ぶ

授業の到達目標

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。

授業の概要

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。

準備学習(予習・復習)

予習としては、事前に次回の授業の教科書を読んできること。復習は授業時に重要な用語を示すので、意味を理解して覚えていくこと。

内 容

- 第1回 建築と建築設備との関わり、地球環境と建築設備との関わり
- 第2回 給排水・衛生設備 給水設備について
- 第3回 給排水・衛生設備 給湯設備・ガス設備について
- 第4回 給排水・衛生設備 排水・通気設備について
- 第5回 給排水・衛生設備 排水処理設備・衛生器具設備について
- 第6回 給排水・衛生設備 消火設備について
- 第7回 空気調和設備 空気調和と室内環境について
- 第8回 空気調和設備 空気線図の使い方について
- 第9回 空気調和設備 空調負荷について
- 第10回 空気調和設備 空気調和方式の種類・特徴について
- 第11回 空気調和設備 熱源・熱搬送設備と機器部材について
- 第12回 空気調和設備 換気・排煙・自動制御設備について
- 第13回 空気設備 受変電・幹線設備と動力設備について
- 第14回 空気設備 照明・コンセント設備と情報・通信設備について
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

建築設備(第三版)

著者: 大塚 雅之

出版社: 市ヶ谷出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 35 )

小テスト ( 35 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

小テストは中間で習熟度の確認。参加度は出席と授業態度

## 2017 Syllabus

科目名 **建築材料**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

授業の到達目標

建築に用いられる主な材料の基本的な性質について理解する。木材、コンクリート、鉄といった構造材と木質系材料、石、ガラス、金属、プラスチック、各種ボード類、左官材、塗料などの仕上材について材料ごとに特徴、施工法や注意点などサンプルや事例を示しながら具体的に説明していく。また、コンクリート製造工場にて供試体の作成や圧縮試験の見学を行う。

授業の概要

建築に用いられる主な材料の基本的な性質について理解する。木材、コンクリート、鉄といった構造材と木質系材料、石、ガラス、金属、プラスチック、各種ボード類、左官材、塗料などの仕上材について材料ごとに特徴、施工法や注意点などサンプルや事例を示しながら具体的に説明していく。また、コンクリート製造工場にて供試体の作成や圧縮試験の見学を行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 木(1)種類と性質
- 第3回 木(2)木の使われ方
- 第4回 木(3)木質系材料
- 第5回 鉄筋コンクリート(1)材料、製法と性質など
- 第6回 鉄筋コンクリート(2)調合と試験、セメントの種類など
- 第7回 鉄筋コンクリート(3)施工と維持管理など
- 第8回 鉄筋コンクリート(4)様々なコンクリート(PC、ALC、SRCとCBなど)
- 第9回 金属材料(1)鉄の性質、鉄骨造など
- 第10回 金属材料(2)ステンレス・アルミ・銅など
- 第11回 仕上材(1)石材・タイル
- 第12回 仕上材(2)ガラス・プラスチック・ボード類
- 第13回 仕上材(3)ビニール系材料・左官材・塗料・断熱・防水材など
- 第14回 コンクリート材料実験 供試体の作成、空気量の測定など
- 第15回 コンクリート材料実験 圧縮試験、施設見学など

履修上の注意点

教科書

図説やさしい建築材料

著者: 松本進

出版社: 学芸出版社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化と観光

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

京都の古寺と古鐘 ——京都観光スポットと梵鐘探訪——

授業の到達目標

京都の観光スポットとなっている古寺をとりあげて、その歴史を解説するとともに、その寺が所蔵する古鐘について、最新の研究成果をもとに、その歴史を学習する。

授業の概要

日本史の教科書に出てくる京都府下の有力寺院の沿革と現状を解説し、その歴史の重要な証人としての梵鐘を紹介してゆく。

準備学習(予習・復習)

京都の寺院や神社をたずねた時には梵鐘を鑑賞し、ひとときながら功德を積んで仏門へと誘われてほしい

内 容

- 第1回 京都の古寺と古鐘——梵鐘の様式——
- 第2回 梵鐘づくりの技術①民俗例のビデオ
- 第3回 梵鐘づくりの技術②実物観察と鑄造遺跡
- 第4回 妙心寺と最古の梵鐘
- 第5回 神護寺と華麗な陽鑄銘文
- 第6回 平等院と阿弥陀堂に似合う華麗な鐘
- 第7回 学外授業 宇治平等院
- 第8回 笠置寺と中国鐘をまねたユニークな鐘
- 第9回 安祥寺と河内鑄物師の鐘
- 第10回 清水寺と三条釜座の鑄物師が作った鐘
- 第11回 南蛮寺と洋鐘形の鐘
- 第12回 方広寺と豊臣滅亡の鐘
- 第13回 学外授業 東山知恩院・方広寺
- 第14回 中国の古鐘と日本鐘
- 第15回 韓国の古鐘と日本鐘

履修上の注意点

教科書

参考書

東アジア梵鐘生産史の研究

著者: 五十川伸矢

出版社: 岩田書院

出版年: 2016.3

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 観光・まちづくり事例研究 &lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

観光をテーマとしたまちづくりをデザインしよう

授業の到達目標

・京都における観光まちづくりの現状と課題を理解すること・地域資源を活かした観光まちづくりを提案する能力を習得すること

授業の概要

本講義では、「観光」を地域の「まちづくり」にどのように活かすことができるか、京都を対象として議論を深めます。グループに分かれて、京都が抱えている観光まちづくりの課題について文献やフィールドワークによる調査を行い、新たな観光まちづくりの戦略を提案してもらいます。

準備学習(予習・復習)

授業外に各自で実地調査や文献調査等を行い、発表資料をまとめることを求めます。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光まちづくりとは
- 第3回 京都のまちの構造
- 第4回 京都における観光の現状
- 第5回 京都の観光政策
- 第6回 観光まちづくりの事例紹介1(京都市内の事例)
- 第7回 観光まちづくりの事例紹介2(京都市外の事例)
- 第8回 観光まちづくりの諸課題(グループ課題の発表)
- 第9回 フィールドワーク
- 第10回 グループ作業
- 第11回 まちづくり戦略の提案発表1
- 第12回 まちづくり戦略の提案発表2
- 第13回 まちづくり戦略の提案発表3
- 第14回 まちづくり戦略の提案発表4
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

参加度を重視します。グループワークがあり、積極的な提案をすること。グループの中での役割を積極的に分担すること。また、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがあります。

教科書

参考書

講義の中で適宜紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **空間デザイン演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 井上 信太

テーマ

空間デザインとワークショップ

授業の到達目標

1、五感で感じる空間を体験する 2、即興的にオリジナルの発想力を養う 3、ワークショップを通してコミュニケーション能力を養う  
上記三点の課題を軸に据え、空間から「感じる力」を習得する。

授業の概要

テーマに基づいた課題を通し、デザイン、ダンス、音楽、美術の表現方法を約90分のワークショップでディスカッションしながら学びます。

準備学習(予習・復習)

いつでも、どこでも、どんなときでも、自己の空間をたのしむ。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 空間ワークショップ1(絵を描く)
- 第3回 空間ワークショップ2(音を奏でる)
- 第4回 空間ワークショップ3(コンテンポラリーダンスを見る、体験する)
- 第5回 空間ワークショップ4(立体制作)
- 第6回 空間ワークショップ5(映像)
- 第7回 空間ワークショップ6(絵を描く:コラージュ)
- 第8回 空間ワークショップ7(即興で演奏する)
- 第9回 ピクニック演習
- 第10回 空間ワークショップ8(紙芝居作り)
- 第11回 空間ワークショップ9(物語作り)
- 第12回 空間ワークショップ10(音作り)
- 第13回 空間ワークショップ11(即興で遊ぶ)
- 第14回 空間ワークショップ12(リハーサル)
- 第15回 空間ワークショップ13(発表会)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (100)

実践中心の演習です。



## 2017 Syllabus

科目名 パフォーミングアーツ演習

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 岡村 宏懇

## テーマ

演劇の「ライブな表現」について知識を深め、人前で緊張せずにパフォーマンスできる力を身につける。古典芸能の「舞」などにも挑戦してみよう。

## 授業の到達目標

「演技」は何も俳優や声優に限られた特別な技能ではなく、私たちは普段から「いろんな自分」をフツーに演じて生きています。何気ない自分の表現に少し自覚的になることで「表現力」はUPします。「表現とは何か」について、幅広い視点で考えることができるようになろう。

## 授業の概要

〈舞台〉と〈映像〉の違いは「ライブ」性にあります。演劇は、現代劇から古典芸能まで、その表現方法は違っても人前で何かを発表する「ライブな表現」活動であることに変わりはありません。この授業では「表現」について基礎的な知識を習得し、人前で緊張せずに話す力と発声力を身につけてもらいたい。後半、簡単な「舞」を覚えて発表することで、古典芸能の美にも触れていただく予定。まずは、失敗を恐れず挑戦してみましよう。

## 準備学習(予習・復習)

TVドラマや映画を、演出や俳優の演技に注目して観る。リメイクされた同じ作品の邦画と洋画の違いにも留意してみよう。(60分)

## 内 容

- 第1回 ガイダンス。(表現についての基礎知識)
- 第2回 自己PRと自分Speech
- 第3回 演技①(演技のタイプ)
- 第4回 演技②(舞台演技と映像演技の違い)
- 第5回 声優①(台本の読み方)
- 第6回 声優②(台本を演じてみよう)
- 第7回 映像(アニメを実写で演じてみよう)
- 第8回 現代劇(台本の読み方)
- 第9回 現代演劇の舞台裏ドキュメンタリー(DVD)
- 第10回 現代演劇観賞(DVD)
- 第11回 古典芸能「舞」の練習①(謡を覚える)
- 第12回 「舞」の練習②(振付を理解する)
- 第13回 「舞」の練習③(振付を習得する)
- 第14回 「舞」の練習④(演じてみよう)
- 第15回 成果発表

## 履修上の注意点

毎回、コミュニケーションカードの提出を求めます。「舞」は継続的な練習が必須のため、積極的な授業参加を求めます。

## 教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

扇子を用意すること。(100均のものでも可)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20)

授業中課題 (10)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)



## 2017 Syllabus

## 科目名 文化資源デザイン論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	
テーマ 文化資源を中心とした地域再生・地域デザイン考える	
授業の到達目標 都市や地域には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、その土地にあるさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養うとともに、テーマを決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・政策提案までを行う。	
授業の概要 今年度は、大学の地域連携関係で、和歌山・那智勝浦町と後半連携し、2泊3日で8月上旬に訪問する(原則全員参加・参加できない人は応相談)。交通費(バス代)は大学から支給される予定日程は受講生の希望を確認して決める予定。	
準備学習(予習・復習) 身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみることで、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 文化とは 第3回 文化資源の多様性 第4回 事例見学:音楽による地域振興事例「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」(大津) 第5回 まち育てと文化資源 第6回 観光と文化資源 第7回 文化資源の発掘 第8回 個別都市(地域)の選定 第9回 個別文化資源研究(文献研究)1 第10回 個別文化資源研究(文献研究)2 第11回 文化資源の現地調査(那智勝浦町フィールドワーク) 第12回 文化資源の現地調査(那智勝浦町フィールドワーク) 第13回 文化資源の編集 第14回 文化資源の編集 第15回 総括	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 観光学への扉 著者: 井口貢・木下達文他編 出版社: 学芸出版社 出版年: 2009 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(30) 授業中発表等(30) 参加度(40) ※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークや和歌山へのフィールドワークを行う。継続プロジェクトとして実施しているので、授業外の学生も参加することがある。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 イベントデザイン演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ	
文化と地域を大切に作るイベントプロデュースを学ぶ	
授業の到達目標	
イベントとは何か、そのあり方を知る。音楽ジャンルや冠婚葬祭のイベント諸相を体験的に学修する。初級地域公共政策士になるための文化プロデュース能力を得る。	
授業の概要	
イベントを実際に企画する実態を学びつつ、イベントの基本的要素を抑えていく。そのために、アーティストがゲストとして来ることがあるので、積極的に現場感覚を学ぶことができる。	
準備学習(予習・復習)	
京都における文化活動を紹介するのでできるだけ、時間外において参加し記録すること。アーツマネジメント論を学修していることが望ましい。	
内 容	
第1回	はじめに～アーツマネジメント(芸術営)の基本理解の確認
第2回	イベントの要件・目的・手段について
第3回	限界芸術としての冠婚葬祭、そのイベントとの関係
第4回	音楽という文化は都市にどのように関わるのか・ライブハウス、音楽ホール以外に音楽はどこで鳴っている？
第5回	まちの文化イベントを探し、自らの調査対象を選ぶ(第14回に繋げる作業)
第6回	劇団・ダンスカンパニーの歴史と現状
第7回	演劇ダンスプロデュース公演のあり方
第8回	イベントとしての公演と非イベントとしてのワークショップ グループ学習になる予定
第9回	学外授業 関西のイベントへの参加(京都など)
第10回	観察したイベントの効果と問題点を検証する
第11回	学外授業・まちなかアーツイベントめぐり(京都国際写真展予定) タイミングが合わないときは、映像を観察することに
第12回	グループ学習① イベントの企画会議
第13回	グループ学習② イベントプログラムづくり
第14回	グループ学習③ イベント企画の発表(1)
第15回	グループ学習④ イベント企画の発表(2)
履修上の注意点	
学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすること	
教科書	
参考書	
アーツマネジメント学	
著者:	小暮宣雄
出版社:	水曜社
出版年:	2013年
ISBN:	9.78488E+12
限界芸術論	
著者:	鶴見俊輔
出版社:	筑摩書房
出版年:	1999年
ISBN:	9.78448E+12
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト (20)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (20)
参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

科目名 京都の観光とまちづくり

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

観光をテーマとしたまちづくりをデザインしよう

授業の到達目標

・京都における観光まちづくりの現状と課題を理解すること・地域資源を活かした観光まちづくりを提案する能力を習得すること

授業の概要

本講義では、「観光」を地域の「まちづくり」にどのように活かすことができるか、京都を対象として議論を深めます。グループに分かれて、京都が抱えている観光まちづくりの課題について文献やフィールドワークによる調査を行い、新たな観光まちづくりの戦略を提案してもらいます。

準備学習(予習・復習)

授業外に各自で実地調査や文献調査等を行い、発表資料をまとめることを求めます。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光まちづくりとは
- 第3回 京都のまちの構造
- 第4回 京都における観光の現状
- 第5回 京都の観光政策
- 第6回 観光まちづくりの事例紹介1(京都市内の事例)
- 第7回 観光まちづくりの事例紹介2(京都市外の事例)
- 第8回 観光まちづくりの諸課題(グループ課題の発表)
- 第9回 フィールドワーク
- 第10回 グループ作業
- 第11回 まちづくり戦略の提案発表1
- 第12回 まちづくり戦略の提案発表2
- 第13回 まちづくり戦略の提案発表3
- 第14回 まちづくり戦略の提案発表4
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

参加度を重視します。グループワークがあり、積極的な提案をすること。グループの中での役割を積極的に分担すること。また、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがあります。

教科書

参考書

講義の中で適宜紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 行政学研究

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹内 直人

テーマ

行政学の基礎と論点

授業の到達目標

国と自治体の行政の変化を理解し、その変化を行政学の基本概念を用いて説明できるようになる。

授業の概要

行政の役割の拡大や政治との関係およびその変化を解説する。自治体行政の実例をとおして近年の行政改革や地方分権改革、NPMなどの背景や意味を理解することに重点を置く。

準備学習(予習・復習)

テキストの該当部分をあらかじめ示すとともに授業内容のレジュメを事前に配布するので予習をすること。

内 容

- 第1回 イントロダクション:政府の役割
- 第2回 行政とは何か
- 第3回 福祉国家の成立と課題
- 第4回 官僚制と行政国家
- 第5回 行政学の発展1
- 第6回 行政学の発展2
- 第7回 行政の新しい見方:NPMとガバナンス論
- 第8回 内閣制度と首長制度
- 第9回 日本の選挙制度
- 第10回 行政組織
- 第11回 公務員制度
- 第12回 国と自治体の制度改革:分権改革と行政改革
- 第13回 政策の作り方
- 第14回 予算の作り方
- 第15回 政策の執行と評価、まとめ

履修上の注意点

教科書

はじめての行政学

著者: 伊藤正次他

出版社: 有斐閣

出版年: 2016

ISBN:

参考書

日本の行政

著者: 村松岐夫

出版社: 中公新書

出版年: 1994年

ISBN:

成績評価

試験・レポート(40)

小テスト(40)

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(20)

自ら選んだテーマについて、簡単なレポート(1500字程度)の提出を求める。

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

卒業研究のテーマ設定と調査の実施

授業の到達目標

(1)各自の卒業研究のテーマを設定すること。(2)卒業研究のテーマを深めるために、調査(資料収集、フィールドワークなど)を実施すること。

授業の概要

卒業研究の作成に向けた全体レクチャーと各自の研究進捗発表・議論を中心に行います。本ゼミでは、教員が一方向的な指導をするのではなく、学生同士が自由に意見を出し合える雰囲気を作っていきたいと考えています。自分の研究だけではなく、他人の研究発表についても関心をもってゼミに参加するように心がけて下さい。

準備学習(予習・復習)

日頃から自分の研究テーマに関連する文献を読むようにすること。

内 容

- 第1回 ゼミの進め方
- 第2回 ショートプレゼンテーション: 大学3年間の振り返りと現在の研究的関心
- 第3回 研究テーマについての発表と議論(1)
- 第4回 研究テーマについての発表と議論(2)
- 第5回 研究テーマについての発表と議論(3)
- 第6回 研究テーマについての発表と議論(4)
- 第7回 フィールドワーク(1)
- 第8回 調査計画についての発表と議論(1)
- 第9回 調査計画についての発表と議論(2)
- 第10回 調査報告と議論(1)
- 第11回 調査報告と議論(2)
- 第12回 調査報告と議論(3)
- 第13回 調査報告と議論(4)
- 第14回 フィールドワーク(2)
- 第15回 まとめ:ゼミ内中間発表

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。なお、この授業では、必要に応じて学外で授業する場合があります。

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 文化プロデュース・アーツマネジメント研究を形にしていく	
授業の到達目標 文化プロデュース・アーツマネジメント研究を自分の研究、制作として形にするための計画をつくること 卒業研究(論文・制作)の準備と着手をきちんとおこなうこと	
授業の概要 教室でのディスカッションや発表のほか、個別指導も行う。	
準備学習(予習・復習) 卒業研究の作業は授業中ではできないものではないので、授業外で文献を読み、フィールドワークにおいてはインタビューや観察を丹念にし、記録すること。	
内 容 第1回 はじめに 第2回 自分の卒業研究の内容確認 第3回 卒業研究の作法の確認 第4回 卒業制作と卒業研究の違い、共通事項 第5回 卒業研究の企画書発表(1) 第6回 卒業研究の企画書発表(2) 第7回 卒業研究の企画書発表(3) 第8回 卒業研究の企画書発表(4) 第9回 卒業研究のための先行事例と文献の確認 第10回 フィールドワークの作法とノーツの確認 第11回 卒業研究の概要発表(1) 第12回 卒業研究の概要発表(2) 第13回 卒業研究の概要発表(3) 第14回 卒業研究の概要発表(4) 第15回 まとめ、夏休みの確認	
履修上の注意点 遅刻や欠席の際には、事前に連絡すること	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 アーツマネジメント学 著者: 小暮宣雄 出版社: 水曜社 出版年: 2013年 ISBN: 9.78488E+12	
アーツ・マネジメント概論三訂版 著者: 伊藤裕夫ほか 出版社: 水曜社 出版年: 2009年 ISBN:	
アーツマネジメントみち 著者: 小暮宣雄 出版社: 晃洋書房 出版年: 2003年 ISBN:	



限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999年

ISBN： 4480085254

地域再生の罫

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010年

ISBN：

コミュニティを問いなおす

著者： 広井良典

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009年

ISBN：

メディアミックス化する日本

著者： 大塚英志

出版社： イースト・プレス

出版年： 2014年

ISBN： 4781650392

---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（60）

参加度（40）

積極的に1週間で研究したことを断片でもいいので発表する姿勢を評価します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

京都について学ぶ 卒論の構想をまとめる

授業の到達目標

文献資料と映像資料により、京都について学ぶ 卒論の構想を報告を繰り返す中でまとめる

授業の概要

以下の内容について、文献資料と映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ 卒論の構想を報告を繰り返す中でまとめる

準備学習(予習・復習)

事後にもう一度文献資料を読んで、理解を深める 卒論の参考文献を読んで、卒論の構想をまとめる

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 京の水

第3回 京の庭・小川治兵衛

第4回 京料理

第5回 京菓子

第6回 舞妓・芸妓

第7回 京都の伝統産業(1)西陣織、友禅染

第8回 京都の伝統産業(2)清水焼、京和傘

第9回 卒論の構想(1)

第10回 卒論の構想(2)

第11回 卒論の構想(3)

第12回 卒論の構想(4)

第13回 卒論の構想(5)

第14回 卒論の構想(6)

第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

授業の到達目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法 ○文献・資料検索についての具体的指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

準備学習(予習・復習)

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表2

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 発表3

第9回 発表3

第10回 発表3

第11回 発表4

第12回 発表4

第13回 発表4

第14回 ゼミ合宿等

第15回 ゼミ合宿等 ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\* e&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福井 弘幸

テーマ

卒業論文の準備(テーマの設定と調査)

授業の到達目標

論文の書き方と調査方法を習得する。

授業の概要

1、テーマの絞り方、目次の作成、文献・資料検索、調査方法の指導。2、論理的文章の作成方法の指導。3、順次研究テーマの発表。4、レジュメの作成方法及び発表方(質疑・応答)の指導。5、順次研究の進捗状況の発表。

準備学習(予習・復習)

卒論作成のための資料収集、フィールドワークなど授業外の学習を要求する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 発表5
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要。・必要に応じ特別講演会/学外授業を行う場合がある。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光/文化と現代ビジネス

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習Ⅰ,Ⅱ共通)前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないかと。概らくたびによる観光ガイド実習も含めて、条件が整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定です。

準備学習(予習・復習)

日経MJ,日経ビジネスオンラインを読むこと。学外授業を行うこともある。

内 容

- 第1回 卒論書誌情報検索①
- 第2回 卒論書誌情報検索②
- 第3回 学会ポスター報告準備①
- 第4回 学会ポスター報告準備②
- 第5回 「モチベーション3.0」を読む①
- 第6回 「モチベーション3.0」を読む②
- 第7回 観光ビジネス改善提案①
- 第8回 観光ビジネス改善提案②
- 第9回 観光ガイド実習
- 第10回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む①
- 第11回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む②
- 第12回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む③
- 第13回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む①
- 第14回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む②
- 第15回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む③ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う

履修上の注意点

学会大会への参加、地域連携活動への参加、ワークショップの開催、学外研修など、キャンパス外/時間外活動があります。事前に予定を調整します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ハイ・コンセプト

著者: ピンク

出版社: 講談社

出版年: 2006

ISBN:

モチベーション3.0

著者: ピンク

出版社: 三笠書房

出版年: 2010

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (60)

小テスト ( )

授業中発表等 (20)

参加度（20）

授業出席と授業中課題は成績評価の最低条件です。

---

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\*g&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

卒業研究を作成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒論進捗報告(序論)
- 第4回 卒論進捗報告(序論)
- 第5回 卒論進捗報告(序論)
- 第6回 卒論進捗報告(序論)
- 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
- 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
- 第9回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
- 第10回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
- 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
- 第12回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
- 第13回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
- 第14回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(55)

参加度(45)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今井 裕夫

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

授業の到達目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法 ○文献・資料検索についての具体的指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表2

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 発表3

第9回 発表3

第10回 発表3

第11回 発表4

第12回 発表4

第13回 発表4

第14回 ゼミ合宿

第15回 ゼミ合宿 ※尚、この授業では必要に応じて学外での授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\*i&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北村 義典

テーマ

建築・環境デザイン分野における卒業研究(1)

授業の到達目標

卒業論文執筆のスキル、及び卒業作品制作の技法・プレゼンテーション力を習得する。

授業の概要

1. 卒業研究テーマの設定 2. 文献調査・事例調査 3. 論文執筆、作品制作の手法技術を習得

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題提起(1)
- 第3回 課題提起(2)
- 第4回 テーマディスカッション(1)
- 第5回 テーマディスカッション(2)
- 第6回 テーマディスカッション(3)
- 第7回 テーマディスカッション(4)
- 第8回 建築・環境デザイン見学会(1)
- 第9回 文献調査・事例調査報告(1)
- 第10回 文献調査・事例調査報告(2)
- 第11回 文献調査・事例調査報告(3)
- 第12回 文献調査・事例調査報告(4)
- 第13回 ゴールイメージ設定
- 第14回 建築・環境デザイン見学会(2)
- 第15回 講評

履修上の注意点

教科書

適宜、資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

コンパクト設計資料集成

著者: 日本建築学会編

出版社: 丸善(株)

出版年: 2005

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) &lt;\*j&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松本 正富

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(1)

授業の到達目標

研究論文作成のためのスキルを習得する。コンセプトある卒業制作を効果的にプレゼンテーションするためのスキルを習得する。

授業の概要

1)テーマ設定と絞込みに関するディスカッション 2)論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス 3)文献調査・事例調査のアドバイス 4)コンセプトに沿ったデザイン手法についてのアドバイス

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマについてのディスカッション-1
- 第3回 テーマについてのディスカッション-2
- 第4回 テーマについてのディスカッション-3
- 第5回 テーマについてのディスカッション-4
- 第6回 テーマについてのディスカッション-5
- 第7回 テーマについてのディスカッション-6
- 第8回 建築見学会-1
- 第9回 文献調査・事例調査報告-1
- 第10回 文献調査・事例調査報告-2
- 第11回 文献調査・事例調査報告-3
- 第12回 文献調査・事例調査報告-4
- 第13回 文献調査・事例調査報告-5
- 第14回 建築見学会-2
- 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN: 9.78475E+12

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN: 9.78462E+12

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2017 Syllabus
---------------

科目名 **専門演習Ⅲ(都) <\*k>**

クラス	配当回生 学部4回生
-----	------------

講義期間 前期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 河野 良平	
-----------	--

テーマ

卒業制作を行う。

授業の到達目標

制作・研究を通して論理的な思考を修得する。

授業の概要

テーマに沿った資料を収集し、アイデアやコンセプトをまとめ、作品を提案する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス  
 第2回 テーマ発表  
 第3回 テーマ発表  
 第4回 テーマ発表  
 第5回 事例調査  
 第6回 事例調査  
 第7回 事例調査  
 第8回 敷地調査  
 第9回 敷地調査  
 第10回 敷地調査  
 第11回 作品制作  
 第12回 作品制作  
 第13回 作品制作  
 第14回 ゼミ合宿  
 第15回 ゼミ合宿

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 20 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

2017 Syllabus
---------------

科目名 **専門演習Ⅲ(都) <\*I>**

クラス	配当回生 学部4回生
-----	------------

講義期間 前期	定 員
---------	-----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 近藤 康子	
-----------	--

テーマ

卒業研究(設計・論文)に取り組む。

授業の到達目標

・卒業研究のテーマを決める。・研究の方法を学ぶ。・研究対象を、調査、分析し、新たな知見を得る。

授業の概要

各自、進捗状況を報告する。

準備学習(予習・復習)

卒業研究のテーマを手掛かりに、なるべく多くの本を読むこと。

内 容

第1回 ガイダンス  
 第2回 発表1  
 第3回 発表1  
 第4回 発表1  
 第5回 発表2  
 第6回 発表2  
 第7回 発表2  
 第8回 発表3  
 第9回 発表3  
 第10回 発表3  
 第11回 発表4  
 第12回 発表4  
 第13回 発表4  
 第14回 見学会  
 第15回 まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

使用しない。適宜資料を配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 脩史

テーマ

卒業研究を完成させる

授業の到達目標

各自の卒業研究(論文・制作)を完成させること。

授業の概要

卒業研究についての進捗発表と議論を中心に行います。本ゼミでは、教員が一方的な指導を行うのではなく、学生同士が自由に意見交換できる雰囲気を作りたいと考えています。自分の研究だけではなく、他人の研究発表にも関心をもってゼミに参加するようにしてください。

準備学習(予習・復習)

卒業研究は付け焼き刃では完成しません。日頃からコツコツと進めるように心がけましょう。

内 容

- 第1回 夏休み中の進捗報告と今後の進め方について(1)
- 第2回 夏休み中の進捗報告と今後の進め方について(2)
- 第3回 研究の進捗発表と議論(1)
- 第4回 研究の進捗発表と議論(2)
- 第5回 研究の進捗発表と議論(3)
- 第6回 研究の進捗発表と議論(4)
- 第7回 完成原稿の発表と議論(1)
- 第8回 完成原稿の発表と議論(2)
- 第9回 完成原稿の発表と議論(3)
- 第10回 完成原稿の発表と議論(4)
- 第11回 修正原稿の発表と議論(1)
- 第12回 修正原稿の発表と議論(2)
- 第13回 口頭試問に向けた発表練習(1)
- 第14回 口頭試問に向けた発表練習(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。なお、この授業では必要に応じて学外で授業する場合があります。

教科書

指定しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

文化プロデュース・アーツマネジメント研究の完成

授業の到達目標

文化プロデュース・アーツマネジメント研究として卒業研究(論文・制作)の作業を続け完成させること 卒業研究(論文・制作)を要約して対外的に提示できるようにすること

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別指導も行う。

準備学習(予習・復習)

卒業制作の場合は、現場の作業。卒業論文は現地調査などのあと、自分自身の論稿をまとめる作業を各自行うこと。研究室で個別添削。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 夏休みの作業の報告とこれからのスケジュールづくり
- 第3回 卒業研究の進捗状況の把握と疑問点の解消
- 第4回 卒業研究中間報告
- 第5回 中間報告についての反省と課題抽出
- 第6回 卒業論文の部分的発表と点検(1)
- 第7回 卒業論文の部分的発表と点検(2)
- 第8回 卒業論文の部分的発表と点検(3)
- 第9回 卒業論文の部分的発表と点検(4)
- 第10回 これからのアーツマネジメントと私たち(総括的に) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
- 第11回 卒業論文の完成と添削(1)
- 第12回 卒業論文の完成と添削(2)
- 第13回 卒業論文の完成と添削(3)
- 第14回 卒業研究を要約し対外的に伝えるために
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

遅刻や欠席の際には、事前に連絡すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

卒論の執筆、完成

授業の到達目標

参考文献を読みこなし、卒論を執筆、完成する

授業の概要

卒論の報告を繰り返す中で、卒論を完成する

準備学習(予習・復習)

参考文献を読みこなし、卒論報告の準備をする 報告後、コメントを参考に卒論を再度書き直し、次の報告に備える

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒論の報告(1)
- 第3回 卒論の報告(2)
- 第4回 卒論の報告(3)
- 第5回 卒論の報告(4)
- 第6回 卒論の報告(5)
- 第7回 中間報告会
- 第8回 卒論の報告(6)
- 第9回 卒論の報告(7)
- 第10回 卒論の報告(8)
- 第11回 卒論の報告(9)
- 第12回 卒論の報告(10)
- 第13回 卒論の修正(1)
- 第14回 卒論の修正(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を相互に確認する。○10月中を目途に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検 ○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

準備学習(予習・復習)

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 発表または見学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)



## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt;\* e&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 福井 弘幸

テーマ

卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

卒業論文の書き方及び論理の展開を習得し卒業論文を完成させる。

授業の概要

・卒業研究を進めるための一般指導と個々の進捗状況に応じた個別指導を行う。・11月上旬を目処に中間発表を実施する。・中間発表後、執筆要領、注意事項など指導する。・卒業研究を進めるための個別指導を行う(論理展開、文章チェック、資料の確認)。・口頭試問に向けての指導(プレゼン方、レジュメの作成方、質疑応答の要領)。

準備学習(予習・復習)

卒論作成のための資料収集、フィールドワークなど授業外の学習を要求する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 発表または見学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。・必要に応じ特別講演会、学外授業を行う場合がある。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

水準の高い卒業論文を書こう

授業の到達目標

(1)質の高い中間報告を準備すること (2)毎月設定される卒論原稿文字数を必ずクリアすること (3)仲間の論文批評の成果を自らの論文に生かすこと

授業の概要

中間報告および卒業研究に向けてのグループ学習

準備学習(予習・復習)

図書館の積極的利用

内 容

- 第1回 中間報告準備(1)
- 第2回 中間報告準備(2)
- 第3回 中間報告準備(3)
- 第4回 中間報告会
- 第5回 中間報告会
- 第6回 卒業論文に関するグループ学習(1)
- 第7回 卒業論文に関するグループ学習(2)
- 第8回 卒業論文に関するグループ学習(3)
- 第9回 卒業論文に関するグループ学習(4)
- 第10回 卒業論文に関するグループ学習(5)
- 第11回 論文執筆の反省
- 第12回 卒業ゼミ研究プロジェクト(1)
- 第13回 卒業ゼミ研究プロジェクト(2)
- 第14回 卒業ゼミ研究プロジェクト(3)
- 第15回 卒業ゼミ研究プロジェクト(4) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

卒論執筆については、個人作業に加えて、34回生との協働作業も積極的に推進する

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (30%)

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2017 Syllabus
---------------

科目名 **専門演習Ⅳ(都) <\*g>**

クラス	配当回生 学部4回生
-----	------------

講義期間 後期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 木下 達文	
-----------	--

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
- 第2回 卒論進捗報告(結論)
- 第3回 卒論進捗報告(結論)
- 第4回 卒論進捗報告(結論)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告(全体)
- 第7回 卒論最終報告(全体)
- 第8回 卒論最終報告(全体)
- 第9回 卒論最終報告(全体)
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(0)

授業中課題(0)

授業中発表等(55)

参加度(45)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今井 裕夫

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を相互に確認する。○10月中を目途に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検 ○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 発表または見学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt; \* i &gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北村 義典

テーマ

建築・環境デザイン分野における卒業研究(2)

授業の到達目標

質の高い卒業研究を完成させる

授業の概要

1. 適正な論理構成を持つ論文指導 2. 作品制作及びプレゼンテーション技法の指導 3. スケジュールコントロール

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 個別指導(1)
- 第3回 個別指導(2)
- 第4回 個別指導(3)
- 第5回 個別指導(4)
- 第6回 個別指導(5)
- 第7回 個別指導(6)
- 第8回 建築、環境デザイン見学会
- 第9回 卒業研究ゼミ中間発表
- 第10回 卒業研究手直し(1)
- 第11回 卒業研究手直し(2)
- 第12回 卒業研究手直し(3)
- 第13回 卒業研究ゼミ内発表(1)
- 第14回 卒業研究ゼミ内発表(2)
- 第15回 講評

履修上の注意点

教科書

適宜、資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

コンパクト設計資料集成

著者: 日本建築学会編

出版社: 丸善(株)

出版年: 2005

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt;\*j&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松本 正富

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(2)

授業の到達目標

4年間の学習の集大成として、完成度の高い卒業研究を仕上げる

授業の概要

1)完成に向けてのスケジュールコントロール 2)論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス 3)効果的プレゼンテーションについてのアドバイス

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内 容

- 第1回 ガイダンス  
 第2回 進捗報告・個別指導-1  
 第3回 進捗報告・個別指導-2  
 第4回 進捗報告・個別指導-3  
 第5回 進捗報告・個別指導-4  
 第6回 進捗報告・個別指導-5  
 第7回 建築見学会-1  
 第8回 卒業研究の仮完成チェック  
 第9回 卒業研究の手直しとレベルアップ-1  
 第10回 卒業研究の手直しとレベルアップ-2  
 第11回 卒業研究の手直しとレベルアップ-3  
 第12回 ゼミ内プレゼンテーション-1  
 第13回 ゼミ内プレゼンテーション-2  
 第14回 建築見学会-2  
 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN： 9.78475E+12

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN： 9.78462E+12

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) &lt;\*k&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

卒業研究を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究を通して論理的思考を修得する。

授業の概要

設計条件に従って作品を制作する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 進捗状況報告1

第3回 進捗状況報告1

第4回 進捗状況報告1

第5回 進捗状況報告2

第6回 進捗状況報告2

第7回 進捗状況報告2

第8回 進捗状況報告3

第9回 進捗状況報告3

第10回 進捗状況報告3

第11回 プレゼンテーション

第12回 プレゼンテーション

第13回 プレゼンテーション

第14回 プレゼンテーション

第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 20 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

2017 Syllabus
---------------

科目名 **専門演習Ⅳ(都) <\*Ⅰ>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 康子	
テーマ	
卒業研究(論文・設計)を完成させる。	
授業の到達目標	
卒業研究(論文・設計)を完成させる。	
授業の概要	
各自進捗状況を報告する。	
準備学習(予習・復習)	
卒業研究の発表を視野にいれ、自身の研究内容を他の人に効果的に伝える方法(プレゼンテーション)について、考えること。なるべく多くの本を読むこと。	
内 容	
第1回 ガイダンス	
第2回 発表1	
第3回 発表1	
第4回 発表1	
第5回 発表2	
第6回 発表2	
第7回 発表2	
第8回 発表3	
第9回 発表3	
第10回 発表3	
第11回 発表4	
第12回 発表4	
第13回 発表4	
第14回 見学会	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
※この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。	
教科書	
使用しない。適宜資料を配布。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 70 )
参加度 ( 30 )	



## 2017 Syllabus

## 科目名 看護学原論Ⅰ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子・小板橋 喜久代	

## テーマ

実践科学としての看護学の成り立ちおよび本質について理解する。人々の健康への取り組みを支援する支援、社会的観点から支援する看護簿役割と、看護実践を支える看護学の構築のための学問的探求の方法についての基礎を得る。

## 授業の到達目標

1.看護(助産・公衆衛生看護含む)の核となる要素であるケアの概念について説明できる。2.健康・不健康の連続性を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。3.多様な価値観や人生経験を有している人々を尊重することの意味を説明できる。4.人間の健康と生活、基本的ニードとセルフケアの諸概念および関連について具体的に説明できる。5.看護理論の発展を概観し、看護についての考えを深め、自分の言葉で表現できる。6.医療・看護に携わる者として自己を見つめ、理想像を明確にしてその実現に努める姿勢を獲得する。

## 授業の概要

実践科学としての看護学(助産学・公衆衛生看護学含む)の成り立ちおよび本質について理解する。人々の健康への取り組みを社会的観点から支援する看護の役割と、看護実践を支える看護学の構築のための学問的探求の方法についての基礎を得る。

## 準備学習(予習・復習)

・毎回、次回講義の事前学習があります。それを持参して講義に臨みます。・後半にはグループディスカッションがあります。積極的に意見を出してください。

## 内容

- 第1回 看護学の目的と看護(助産、公衆衛生看護含む)実践について考える
- 第2回 看護学を構成する主要な概念を検討する(看護における人間のとらえ方と健康へのニーズ)
- 第3回 看護学を構成する主要な概念を検討する(健康に影響する環境の諸要因と看護の役割)
- 第4回 多様な看護実践の場と看護サービスの提供の仕方、多職種連携について検討する
- 第5回 看護の展開方法について知る
- 第6回 看護実践に関わる倫理的な課題を探求する
- 第7回 時代/社会による看護の役割機能の違いを検討し、自身の看護への探求姿勢を深める
- 第8回 闘病記、出産体験記や地域の住民活動等を通して、具体的な看護の展開について考える。(グループ編成を行う)
- 第9回 看護実践および看護学の探究方法としての看護理論への理解を深める(GW)ナイチンゲール、ロジャーズ、ロイ、ヘンダーソン、オレム、ペブロー、マーサー、ベンダー等
- 第10回 理論家による理論構築の背景を知り理論の持つ強みについて、事例を用いて検討する(GW1)
- 第11回 理論家による理論構築の背景を知り理論の持つ強みについて、事例を用いて検討する(GW2)
- 第12回 理論にもとづき事例展開した内容をプレゼンテーションする(その1)
- 第13回 理論にもとづき事例展開した内容をプレゼンテーションする(その2)
- 第14回 いくつかの看護理論への理解を深める(その1)
- 第15回 いくつかの看護理論への理解を深める(その2)

## 履修上の注意点

看護を学ぶうえでの重要な入門の意味のある科目です。毎回の学習内容を積み重ねることでより学習内容が深まります。グループディスカッションもありますので、積極的に参加してください。

## 教科書

## 看護の基本となるもの

著者: V・ヘンダーソン

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 最新年

ISBN:

## 看護覚え書き

著者: F・ナイチンゲール

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 最新年

ISBN:

## 看護学概論

著者: 松木光子編

出版社: ヌーベルHIROKAWA

出版年: 最新年

ISBN:

新 愛深き淵に

著者： 星野富弘

出版社： GAKKEN

出版年： 最新年

ISBN:

参考書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

ペーパー試験、授業中の課題や取り組みなど総合的に評価します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 災害看護学Ⅰ

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野島 敬祐・奥野 信行・川口 淳・河原 宣子・竹下 夏美・千田 いずみ・夏目 美樹・堀 妙子

テーマ

授業の到達目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。4.救命救急活動に必要なBLS、応急手当等を習得する。

授業の概要

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動についてライフサイクルを踏まえて理解する。また、救命救急活動における基本的技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 災害看護とは、災害に関する基礎知識、災害サイクル各期における災害看護活動、健康危機発生時の緊急対応、心的外傷後ストレス障害
- 第2回 地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システムと看護の役割
- 第3回 災害看護活動における国際協力
- 第4回 ライフサイクル各期における災害看護活動①:新生児期から小児期, 妊産褥婦
- 第5回 ライフサイクル各期における災害看護活動②:成人期から老年期, 健康障害を有する人
- 第6回 救命救急処置技術の基本:新生児期から老年期まで, 妊産褥婦を対象として
- 第7回 救命救急処置技術の演習(BLS、応急手当等)①:新生児期から老年期まで, 妊産褥婦を対象として
- 第8回 救命救急処置技術の演習(BLS、応急手当等)②:新生児期から老年期まで, 妊産褥婦を対象として

履修上の注意点

教科書

災害看護学習テキスト概論編

著者: 南裕子

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

災害看護学習テキスト実践編

著者: 南裕子

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定 員

履修条件 クラス指定

担当者 望月 紀子・河原 宣子・神崎 光子・竹下 夏美・西村 美八・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

健康の概念およびヘルスプロモーションの概念を学びライフサイクル各期において、対象の尊厳と権利を擁護することを前提とし、人々が自らの健康をコントロールし、改善する過程を支援する看護方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.健康の概念を理解する。2.ヘルスプロモーションの概念を理解する。3.人の誕生からライフサイクル各期における健康課題を明らかにし、ヘルスプロモーション活動を理解する。4.現代社会の保健医療福祉におけるヘルスプロモーション活動を理解し、その中における看護の役割を理解する。5.それぞれの地域における健康課題を明らかにし、ヘルスプロモーションと政策について理解する。

授業の概要

健康の概念およびヘルスプロモーションの概念を学び、ライフサイクル各期において、対象の尊厳と権利を擁護されることを前提とし、人々が自らの健康をコントロールし、改善する過程を支援する看護方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

予習:ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内 容

- 第1回 健康の概念
- 第2回 ヘルスプロモーションの概念
- 第3回 地域を基盤とした疾病予防の考え方と対応の比較
- 第4回 人々の健康行動の特性・効果的な介入方法と技術
- 第5回 健康教育の定義・歴史と変遷
- 第6回 健康教育の理論とモデル
- 第7回 健康教育活動展開の実施例－地域－
- 第8回 健康教育活動展開の実施例－母性・助産－
- 第9回 健康教育活動展開の実施例－小児－
- 第10回 回 健康教育活動展開の実施例－成人－
- 第11回 現代社会、現代文化におけるヘルスプロモーションと政策
- 第12回 健康教育活動展開の実施例－精神－
- 第13回 健康教育活動展開の実施例－老年－
- 第14回 健康教育活動展開の実施例－成人－
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 (60)

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 望月 紀子	
テーマ	
前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。	
授業の到達目標	
1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。	
授業の概要	
健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。	
準備学習(予習・復習)	
予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。	
内 容	
第1回	健康教育企画・実施・評価について講義
第2回	オリエンテーション
第3回	グループワーク 対象のニーズの理解
第4回	グループワーク 対象のニーズの理解
第5回	グループワーク 健康教育企画書の作成
第6回	グループワーク 健康教育企画書の作成
第7回	グループワーク 健康教育指導案の作成
第8回	グループワーク 健康教育指導案の作成
第9回	グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回	グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回	グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
第12回	グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
第13回	各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回	活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
第15回	活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美	
テーマ	
前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。	
授業の到達目標	
1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。	
授業の概要	
健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。	
準備学習(予習・復習)	
予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。	
内 容	
第1回	健康教育企画・実施・評価について講義
第2回	オリエンテーション
第3回	グループワーク 対象のニーズの理解
第4回	グループワーク 対象のニーズの理解
第5回	グループワーク 健康教育企画書の作成
第6回	グループワーク 健康教育企画書の作成
第7回	グループワーク 健康教育指導案の作成
第8回	グループワーク 健康教育指導案の作成
第9回	グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回	グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回	グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
第12回	グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
第13回	各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回	活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
第15回	活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 &lt;c&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内 容

- 第1回 健康教育企画・実施・評価について講義
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第4回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第5回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第6回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第7回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第8回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第9回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第10回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第11回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第12回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 &lt;d&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 神崎 光子

## テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

## 授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

## 授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

## 準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

## 内 容

- 第1回 健康教育企画・実施・評価について講義
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第4回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第5回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第6回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第7回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第8回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第9回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第10回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第11回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第12回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中橋 苗代	
テーマ	
前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。	
授業の到達目標	
1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。	
授業の概要	
健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。	
準備学習(予習・復習)	
予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。	
内 容	
第1回	健康教育企画・実施・評価について講義
第2回	オリエンテーション
第3回	グループワーク 対象のニーズの理解
第4回	グループワーク 対象のニーズの理解
第5回	グループワーク 健康教育企画書の作成
第6回	グループワーク 健康教育企画書の作成
第7回	グループワーク 健康教育指導案の作成
第8回	グループワーク 健康教育指導案の作成
第9回	グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回	グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回	グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
第12回	グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
第13回	各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回	活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
第15回	活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習〈Ⅰ〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 工藤 里香

## テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

## 授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

## 授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

## 準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

## 内 容

- 第1回 健康教育企画・実施・評価について講義
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第4回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第5回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第6回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第7回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第8回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第9回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第10回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第11回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第12回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内 容

- 第1回 健康教育企画・実施・評価について講義
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第4回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第5回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第6回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第7回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第8回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第9回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第10回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第11回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第12回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30 )  
 参加度 ( 40 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 &lt;h&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 富永 真己

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内 容

- 第1回 健康教育企画・実施・評価について講義
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第4回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第5回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第6回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第7回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第8回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第9回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第10回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第11回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第12回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 &lt;i&gt;&lt;/i&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡田 純子

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内 容

- 第1回 健康教育企画・実施・評価について講義
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第4回 グループワーク 対象のニーズの理解
- 第5回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第6回 グループワーク 健康教育企画書の作成
- 第7回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第8回 グループワーク 健康教育指導案の作成
- 第9回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第10回 グループワーク 健康教育シナリオ及び教材の作成
- 第11回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第12回 グループワーク 健康教育活動実施の準備(デモンストレーション等)
- 第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表)及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 **プライマリケア論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河原 宣子・竹下 夏美・富永 真己・堀 妙子・松本 賢哉・望月 紀子	
テーマ	
授業の到達目標	1.プライマリケアとプライマリヘルスケアの概念を理解する。2.保健・医療・福祉における看護の機能と看護活動のあり方の基礎を理解する。3.ライフサイクル各期の保健医療福祉対策と看護活動を理解できる。4.保健・医療・福祉における協働と連携の意義を理解する。
授業の概要	プライマリケアの基本概念である、人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対する総合的・継続的、全人的に対応する地域の政策と機能について学ぶ。ライフサイクル論やヘルスプロモーションを踏まえ、ライフサイクル各期における様々な健康レベルにある人と政策や施策等との関連および看護活動を理解する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	プライマリケアの理念 プライマリケアとは、プライマリヘルスケアとは、人々の尊厳と権利を擁護する社会の仕組み、社会・文化と健康
第2回	地域の特性と健康課題のアセスメントと看護介入 コミュニティ・アズ・パートナーモデル、健康に影響する環境と社会的要因の理解 山科区の地区視診課題提示(プライマリケア実習 I 関連)
第3回	プライマリヘルスケアと看護職の役割ー国際看護の視点から プライマリヘルスケア、社会・文化と健康
第4回	保健医療福祉における看護機能 保健医療福祉制度と法律(概論)、看護の機能、組織論、保健医療福祉における協働と連携
第5回	在宅看護の理念・目的・歴史と看護の実際ー個人と家族の生活アセスメントと看護援助
第6回	地域ケアの構築と看護機能① 地域ケアに関わる医療政策、地域ケアの体制づくり、地域組織活動、ケアネットワークづくり、支援システムの構築
第7回	地域ケアの構築と看護機能② 地域組織活動とその育成の実際、健康課題に対する地域の組織的取り組み、集団の形成・発達、自立・自律支援、個人・グループ・機関との調整
第8回	母子における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動①～②
第9回	〃
第10回	地域保健と学校保健①～②
第11回	〃
第12回	精神疾病の発症予防から再発予防までを含めた保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動ー個人・家族・地域のメンタルヘルスの促進
第13回	身体的疾病の発症予防から再発予防までを含めた保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動ー医療の仕組み、医療保険制度、診療報酬制度
第14回	高齢者における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
第15回	まとめー2回生「プライマリケア実習 I」に向けて 地域特性や社会資源に関する資料を活用して地域の健康課題を把握する意義 学校や職場などの健康課題を把握する意義
第16回	試験
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 70 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 ライフサイクル論(看護)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 堀 妙子.河原 宣子.工藤 里香.松本 賢哉.望月 紀子	
テーマ	
人のライフサイクルの特徴とそれに関連した健康課題について学ぶ	
授業の到達目標	
1.人のライフサイクルと発達について説明できる。2.人の発達段階各期における保健統計から健康課題の特徴を説明できる。3.人の発達段階各期における、身体的変化、認知や感情、心理社会的変化について説明できる。4.人を生活している人ととらえ、発達段階各期におけるその特徴を説明できる。5.妊娠・産婦・褥婦の生理、胎児・新生児・乳幼児の生理について説明できる。6.人の発達段階各期における健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。7.自己分析を行い、自己理解できる。	
授業の概要	
人のライフサイクルと発達について学び、それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や健康課題の特徴を学び看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。	
準備学習(予習・復習)	
第1回目の授業の際に説明を行う	
内 容	
第1回	ライフサイクル論概説(1)～(2) 教科書:小児看護学概論
第2回	ライフサイクル論概説(1)～(2) 教科書:小児看護学概論
第3回	ライフサイクル論概説(3) 教科書:成人看護学概論
第4回	青年期の成長・発達課題と健康課題(1)～(3) 教科書:成人看護学概論
第5回	青年期の成長・発達課題と健康課題(1)～(3) 教科書:成人看護学概論
第6回	青年期の成長・発達課題と健康課題(1)～(3) 教科書:成人看護学概論
第7回	青年期の成長・発達課題と健康課題(4) 教科書:母性看護学概論
第8回	青年期の成長・発達課題と健康課題(5) 教科書:精神看護の基礎
第9回	成人前期の成長・発達課題と健康課題(1) 教科書:成人看護学概論
第10回	成人前期の成長・発達課題と健康課題(2) 教科書:母性看護学概論
第11回	成人中期の成長・発達課題と健康課題(1) 教科書:成人看護学概論
第12回	小児期の成長・発達課題と健康課題(1) 教科書:小児看護学概論
第13回	成人中期の成長・発達課題と健康課題(2)教科書:成人看護学
第14回	小児期の成長・発達課題と健康課題(2) 教科書:小児看護学概論
第15回	成熟期の成長・発達課題と健康課題(1) 教科書:成人看護学概論
第16回	成熟期の成長・発達課題と健康課題(2)～(3)教科書:母性看護学概論
第17回	成熟期の成長・発達課題と健康課題(2)～(3)教科書:母性看護学概論
第18回	小児期の成長・発達課題と健康課題(3)～(6) 教科書:小児看護学概論
第19回	小児期の成長・発達課題と健康課題(3)～(6) 教科書:小児看護学概論
第20回	小児期の成長・発達課題と健康課題(3)～(6) 教科書:小児看護学概論
第21回	小児期の成長・発達課題と健康課題(3)～(6) 教科書:小児看護学概論
第22回	成熟期の成長・発達課題と健康課題(4) 教科書:成人看護学概論
第23回	小児期の成長・発達課題と健康課題(7) 教科書:小児看護学概論
第24回	成熟期の成長・発達課題と健康課題(5) 教科書:精神看護学の基礎
第25回	老年期の成長・発達課題と健康課題(1)～(5) 教科書:老年看護学
第26回	老年期の成長・発達課題と健康課題(1)～(5) 教科書:老年看護学
第27回	老年期の成長・発達課題と健康課題(1)～(5) 教科書:老年看護学
第28回	老年期の成長・発達課題と健康課題(1)～(5) 教科書:老年看護学
第29回	老年期の成長・発達課題と健康課題(1)～(5) 教科書:老年看護学
第30回	ライフサイクル論 まとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総

著者: 小松浩子他

出版社: 医学書院

出版年: 最新刊

ISBN:

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論

著者： 奈良間美保他

出版社： 医学書院

出版年： 最新刊

ISBN:

体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護

著者： 新道幸恵他

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新刊

ISBN:

新体系看護学全書 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護

著者： 新道幸恵他

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新刊

ISBN:

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]

著者： 武井麻子他

出版社： 医学書院

出版年： 最新刊

ISBN:

最新保健学講座別巻1 健康教育論

著者： 宮坂忠夫他

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新刊

ISBN:

成人看護学 ヘルスプロモーション

著者： 大西和子他

出版社： ニューヴェルヒロカワ

出版年： 最新刊

ISBN:

老年看護学 概論と看護の実践

著者： 奥野茂代他

出版社： ニューヴェルヒロカワ

出版年： 最新刊

ISBN:

公衆衛生マニュアル

著者： 柳川洋他

出版社： 南山堂

出版年： 最新刊

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

---



## 2017 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント I**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子・西野 武志・林正 健二	
テーマ	
授業の到達目標	1.人体の構造を系統的・立体的に理解できる。2.人体の各組織や器官の正常機能およびそれらの協調による恒常性の維持などの調節機構を理解できる。3.看護に必要な人体の防御システムについて説明できる。
授業の概要	解剖学、微生物学の基礎医学を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	生命とは(生命現象、人体のつくり)細胞、組織、器官と器官系、身体の区分と生命現象を維持するからだの基本構造(解剖1)
第2回	生命とは(生命現象、人体のつくり)細胞、組織、器官と器官系、身体の区分と生命現象を維持するからだの基本構造(解剖1)
第3回	筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨格系①(解剖3) 骨格、関節、骨格筋の構造と機能、全身の骨と関節
第4回	筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～筋肉系②(解剖4) 全身の骨格筋
第5回	刺激を伝達し、情報を処理・指令する～神経系(解剖5)
第6回	生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(解剖6) 視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
第7回	血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(解剖7)①～血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧・血流・脈拍、循環の調整、リンパ循環
第8回	血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(解剖8)②～血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧・血流・脈拍、循環の調整、リンパ循環
第9回	気体を取り込み、代謝産物を排出する～呼吸器系(解剖9) 呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
第10回	食物を取り入れ生体を栄養する～消化・吸収系①(解剖10) 消化・吸収栄養と代謝
第11回	食物を取り入れ生体を栄養する～消化・吸収系②(解剖11) 消化・吸収栄養と代謝
第12回	内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す～内分泌系(解剖12)
第13回	泌尿器系残渣物・老廃物をより分け排出する～排泄系(解剖13)
第14回	生殖系子孫を残す～生殖と発生、個体の維持、生命のおわり(解剖14)生殖とは、男性生殖器、女性生殖器、受精・妊娠・分娩
第15回	発生(解剖15)
第16回	微生物学概論
第17回	感染の定義と経路
第18回	細菌学総論
第19回	細菌学各論1
第20回	細菌学各論2
第21回	ウイルス学総論
第22回	ウイルス学各論1
第23回	ウイルス学各論2
第24回	真核生物とプリオンによる感染症
第25回	感染に対する防御機構1
第26回	感染に対する防御機構2
第27回	感染症の診断と治療
第28回	感染症の予防
第29回	まとめおよび実習(細菌検査)
第30回	感染看護:感染看護の動向(ゲストスピーカー)

## 履修上の注意点

## 教科書

ナーシング・グラフィカ解剖生理学

著者: 林正健二

出版社: メディカ出版

出版年: 2015

ISBN:

ビジュアル微生物学 第2版

著者: 小田紘

出版社: スーヴェルヒロカワ

出版年: 2012

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者: 坂井建雄他監訳

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ギャノン生理学原書第24版

著者: 岡田泰伸監訳

出版社: 丸善

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 100 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメントⅡ**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 天野 博夫・梶谷 佳子・川上 ゆかり・林正 健二	
テーマ	

## 授業の到達目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を関連付けて説明できる。2.薬物療法の種類と効果について説明できる。3.組織や器官の正常な状態との比較から異常な状態を説明できる。4.看護に必要な栄養と代謝について説明できる。5.主要な疾患の症状、病因、病態、治療、予後について説明できる。

## 授業の概要

看護に必要な生理学、薬理学、病理学、栄養学等を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨・筋肉系(生理1)① 骨格、関節、骨格筋の構造と機能、運動の調節、全身の骨と関節、全身の骨格筋
- 第2回 筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨・筋肉系(生理2)② 骨格、関節、骨格筋の構造と機能、運動の調節、全身の骨と関節、全身の骨格筋
- 第3回 刺激を伝達し、情報を処理・指令する～神経系(生理3)①
- 第4回 刺激を伝達し、情報を処理・指令する～神経系(生理4)②
- 第5回 生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(生理5)① 視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
- 第6回 生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(生理6)② 視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
- 第7回 血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(生理7)①～血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧・血流・脈拍、循環の調整、リンパ循環
- 第8回 血液恒常性維持のため生体内を流動し物質を運搬する(生理8)②～血液・リンパ液・循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧・血流・脈拍、循環の調整、リンパ循環
- 第9回 気体を取り込み、代謝産物を排出する～呼吸器系①(生理9) 呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
- 第10回 回気体を取り込み、代謝産物を排出する～呼吸器系②(生理10) 呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
- 第11回 食物を取り入れ生体を栄養する～消化・吸収系①(生理11) 消化・吸収栄養と代謝
- 第12回 食物を取り入れ生体を栄養する～消化・吸収系②(生理12) 消化・吸収栄養と代謝
- 第13回 内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ～内分泌系(生理13)
- 第14回 泌尿器系残渣物・老廃物をより分け排出する ～排泄系(生理14)
- 第15回 生殖器系子孫を残す ～生殖と発生、個体の維持、生命のおわり(生理15) 生殖とは、男性生殖器、女性生殖器、授精・妊娠・分娩
- 第16回 生体機能の変調 ～病理学の基礎 病理学とは、病因論
- 第17回 生体機能の変調 ～病理学の基礎 病理学とは、病因論
- 第18回 先天異常と遺伝子異常
- 第19回 代謝障害
- 第20回 循環障害
- 第21回 炎症と修復
- 第22回 腫瘍
- 第23回 生体機能を補う～薬学の基礎
- 第24回 薬物療法と看護
- 第25回 薬物の作用と作用機序
- 第26回 薬物動態
- 第27回 薬物相互作用
- 第28回 薬物療法に影響を与える因子
- 第29回 薬物の有害作用
- 第30回 医薬品の管理

## 履修上の注意点

## 教科書

ナーシング・グラフィカ解剖生理学

著者： 林正健二編

出版社: メディカ出版

出版年: ISBN:

ナーシング・グラフィカ臨床栄養学

著者: 関戸啓子編

出版社: メディカ出版

出版年: ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 13版

著者: 吉岡充弘

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第5版

著者: 大橋健一編

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年: ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者: 坂井建雄他監訳

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

ギャノン生理学原書第24版

著者: 岡田泰伸監訳

出版社: 丸善

出版年: ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 100 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント演習 I**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期後半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 岡田 純子・奥野 信行・梶谷 佳子・中橋 苗代・堀 妙子	
テーマ	

## 授業の到達目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を系統的な知識を活用できる。2.成長発達の視点に基づき、身体についての情報収集ができる。3.情報収集に必要な診察技法(問診、視診、聴診、打診、触診)が活用できる。4.身体及び精神の状態の正常が理解できる。5.身体及び精神の状態の代表的な異常が理解できる。6.対象との援助的なコミュニケーションを展開できる。7.アセスメント過程での援助的關係を形成できる。

## 授業の概要

フィジカルアセスメントIで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 科目の構造と位置づけ(関連学問との関係) フィジカルアセスメントとは 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 看護における身体及び精神状態の観察の意義、観察の種類、観察の方法
- 第2回 演習における諸注意 実習室の使用方法
- 第3回 演習に必要な基本的技術(衛生学手洗い、ボディメカニクス、ベッドメイキング)
- 第4回 バイタルサインの測定(講義):バイタルサイン(脈拍、血圧、呼吸、体温、意識)測定の意義、測定に必要な知識と測定方法
- 第5回 //
- 第6回 バイタルサインの測定(演習)
- 第7回 //
- 第8回 気体を取り込み、代謝産物を排出するシステムについてのアセスメント;呼吸器系の問診、視診、打診、触診、呼吸音の聴取、異常呼吸の観察、肺活量
- 第9回 //
- 第10回 恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬するシステムについてのアセスメント;循環器系の問診、視診、打診、触診、心音の聴取、異常心音の観察
- 第11回 //
- 第12回 生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム(感覚器)のアセスメント;各器管の形態の観察(眼・鼻・耳・皮膚、爪、毛髪、頭皮)
- 第13回 //
- 第14回 小児のフィジカルアセスメント
- 第15回 //
- 第16回 試験

## 履修上の注意点

## 教科書

看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術

著者: 角濱春美、梶谷佳子

出版社: メヂカルフレンド社

出版年: 2015

ISBN:

フィジカルアセスメントガイドブック第2版

著者: 山内豊明

出版社: 医学書院

出版年: 2011

ISBN:

## 参考書

ナーシンググラフィカ基礎看護学(2)ヘルスアセスメント 第4版

著者: 志自岐 康子他編

出版社: メディカ出版

出版年: 2014

ISBN:

## 成績評価

a70101b010

試験・レポート ( 70 )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント演習Ⅱ**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 岡田 純子・梶谷 佳子・中橋 苗代・松本 賢哉・深山 つかさ	
テーマ	フィジカルアセスメントⅡで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。
授業の到達目標	1.看護(助産含む)に必要な人体の構造と機能を系統的な知識を活用できる。2.成長発達をふまえた視点に基づき身体についての情報収集ができる。3.情報収集に必要な診察技法(問診、視診、聴診、打診、触診)が活用できる。4.身体の状態の正常が理解できる。5.身体の状態の代表的な異常が理解できる。6.対象との援助的なコミュニケーションを展開できる。7.アセスメント過程での援助的関係を形成できる。
授業の概要	実習室で行う演習を中心とする科目です。フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱの内容を基に発展させる科目となります。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 食物を取り入れ生体を栄養するシステムのアセスメント:消化器系のアセスメント;腹部の問診、視診、触診、打診、聴診、骨密度</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 栄養状態のアセスメント(身体計測、食生活の評価:身長・体重測定、肥満度測定、肥脂厚測定、頭囲・腹囲測定)</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 残渣物・老廃物をより分け排出するシステムのアセスメント:尿の観察(尿検査)、便の観察</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 からだの枠組みをつくり、力を発揮するシステムのアセスメント:ROM測定、MMT測定、ADLのアセスメント</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 刺激を伝達し、情報を処理・指令するシステムのアセスメント(神経系);生命維持機能、小脳機能の判定、腱反射の評価、高次機能の評価精神のアセスメント</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 脳神経の観察;嗅覚、対光反射、視野、眼球運動、触覚、味覚、聴覚、深部知覚</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 模擬患者へのバイタルサイン測定</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 小テスト・まとめ</p> <p>第16回 実技試験・時間割内のだけで技術の習得は困難です。主体的に実習室にて練習してください。・内容の理解を深めるために視聴覚教材も準備していますので活用してください。</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術</p> <p>著者: 角濱春美、梶谷佳子</p> <p>出版社: メヂカルフレンド社</p> <p>出版年: 2015 ISBN:</p> <p>フィジカルアセスメントガイドブック第2版</p> <p>著者: 山内豊明</p> <p>出版社: 医学書院</p> <p>出版年: 2011 ISBN:</p>
参考書	<p>ナーシンググラフィカ基礎看護学(2)ヘルスアセスメント 第4版</p> <p>著者: 志自岐 康子他編</p> <p>出版社: メディカ出版</p> <p>出版年: 2014 ISBN:</p>
成績評価	
試験・レポート(40)	小テスト(30)





## 2017 Syllabus

## 科目名 異文化コミュニケーション論(看護)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期前半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美	

## テーマ

多文化共生社会におけるあらゆるコミュニケーションを異文化コミュニケーションとしてとらえた上でさまざまな文化をグローバルな視点で考える。その上で看護職者として多文化共生社会における対象理解のための異文化看護と異文化コミュニケーション技術を養う。

## 授業の到達目標

1.文化・異文化とコミュニケーションの概念を総体的に理解し、看護(助産・公衆衛生看護を含む、以下、看護)における異文化理解の意義と必要性を認識する。2.看護の対象となる人々の生活・ライフサイクルにおける(文化)現象を多様な角度から理解する。3.文化の違いに由来する看護アセスメントやコミュニケーション技術を学ぶ。4.1～4について学びながら、多文化共生社会における看護職者の役割について考える。

## 授業の概要

多文化共生社会におけるあらゆるコミュニケーションを異文化コミュニケーションとしてとらえた上でさまざまな文化をグローバルな視点で考える。その上で看護職者として多文化共生社会における対象理解のための異文化看護と異文化コミュニケーション技術を養う。

## 準備学習(予習・復習)

授業でわからない点は自分で調べる、教員に確認する等、随時行ってください。異文化理解や異文化コミュニケーションに関連した情報をメディアや図書館での文献検索、日常の家族、友人、接するいろんな方々とのコミュニケーション(言語、非言語問わず)から得て、そこから何を学ぶかを能動的にいかすように心がけてください。資料収集や、書き留めることも大事な作業です。

## 内 容

- 第1回 授業ガイダンス、文化・異文化・コミュニケーション・異文化コミュニケーションの定義
- 第2回 看護における対象理解と異文化コミュニケーションを学ぶことの意義
- 第3回 多文化社会における異文化への対応と適応モデル
- 第4回 人々の生活・ライフサイクルにおける文化現象と異文化コミュニケーション
- 第5回 文化の違いに由来する看護アセスメントと異文化コミュニケーション
- 第6回 在日外国人医療・看護と異文化コミュニケーション
- 第7回 「外国人看護師として働くこと」あるいは「外国人看護師とともに働くこと」と異文化コミュニケーション
- 第8回 まとめ、多文化共生社会における看護職者の役割と異文化コミュニケーション

## 履修上の注意点

授業でわからない点は自分で調べる、教員に確認する等、随時行ってください。授業中、参加型以外の講義時は静かに聴講してください。

## 教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

国際看護学入門

著者: 国際看護研究会編

出版社: 医学書院

出版年: 1999

ISBN: 978426033014-5

国際看護学

著者: 柳澤理子・川野雅資編

出版社: 日本放射線技師会

出版年: 2007

ISBN: 978486157025-4

国際看護学 看護の統合と実践

著者: 柳澤理子

出版社: PILAR PRESS

出版年: 2015

ISBN: 9.78486E+12

国際看護学

著者： 田村やよひ編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2012

ISBN: 9.78484E+12

レイニンガー看護論

著者： マデリン M レイニンガー

出版社： 医学書院

出版年： 1995

ISBN: 9.78426E+12

多文化社会と異文化コミュニケーション

著者： 伊佐雅子監修

出版社： 三修社

出版年： 2007

ISBN: 9.78438E+12

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者： 長谷川典子・久米昭元

出版社： 有斐閣選書

出版年： 2007

ISBN: 9.78464E+12

異文化理解

著者： 青木保

出版社： 岩波新書

出版年： 2001

ISBN: 4004307406

多文化理解

著者： 青木保

出版社： 岩波新書

出版年： 2003

ISBN: 4004308402

よくわかる異文化コミュニケーション

著者： 池田理知子

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN: 9.78462E+12

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

授業中配布のレジュメ、課題、講義内容等を統合し、総合的に考える力を確認するために筆記試験を行います。また授業中の課題レポート、リアクションペーパー等も評価の対象とします。

---



## 2017 Syllabus

科目名 情報科学 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット</p> <p>第3回 Word2007(1)チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷</p> <p>第4回 Word2007(2)レポート作成《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第5回 Excel2007(1)スコア表の作成《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数</p> <p>第6回 Excel2007(2)スコア表の作成《主な機能》小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサイズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷</p> <p>第7回 Excel2007(3)グラフの作成《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷</p> <p>第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行</p> <p>第9回 Word2007(3)レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能</p> <p>第10回 Excel2007(4)アンケート結果の集計1《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集</p> <p>第11回 Excel2007(5)アンケート結果の集計2《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証 文章とは、分かりやすい文(1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある)、良い文章のポイント(文体の統一、用語の統一と確認)</p> <p>第12回 Word2007(4)アンケート結果レポートの作成《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注</p> <p>第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更、画面切り替え効果、アニメーションの設定</p> <p>第14回 PowerPoint(3)スライドショーの実行発表《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル</p> <p>第15回 テストとまとめ</p>

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

科目名 情報科学 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット</p> <p>第3回 Word2007(1)チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷</p> <p>第4回 Word2007(2)レポート作成《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第5回 Excel2007(1)スコア表の作成《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数</p> <p>第6回 Excel2007(2)スコア表の作成《主な機能》小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサイズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷</p> <p>第7回 Excel2007(3)グラフの作成《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷</p> <p>第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行</p> <p>第9回 Word2007(3)レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能</p> <p>第10回 Excel2007(4)アンケート結果の集計1《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集</p> <p>第11回 Excel2007(5)アンケート結果の集計2《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証 文章とは、分かりやすい文(1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある)、良い文章のポイント(文体の統一、用語の統一と確認)</p> <p>第12回 Word2007(4)アンケート結果レポートの作成《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注</p> <p>第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更、画面切り替え効果、アニメーションの設定</p> <p>第14回 PowerPoint(3)スライドショーの実行発表《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル</p> <p>第15回 テストとまとめ</p>

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

科目名 情報科学Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。これらの情報活用力をもとに、地域保健・看護活動に役立つ保健統計調査の知識と方法を学習する。
授業の到達目標	一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。保健統計調査の基礎的な知識、活用できる能力を身に付ける。
授業の概要	情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 情報活用力とは</p> <p>第2回 ICT利活用力診断テストRasti試験</p> <p>第3回 情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。</p> <p>第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。</p> <p>第5回 数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。</p> <p>第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。</p> <p>第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。</p> <p>第8回 ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。</p> <p>第9回 保健統計学の基礎を理解する。(人口統計の基礎:主な健康指標)</p> <p>第10回 保健統計学の基礎を理解する。(人口静態統計:日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口)</p> <p>第11回 保健統計学の基礎を理解する。(人口動態統計:死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚)</p> <p>第12回 保健統計学の基礎を理解する。(保健統計調査:業務統計、調査統計)</p> <p>第13回 保健統計学の基礎を理解する。(指定統計:国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計)</p> <p>第14回 保健統計学の基礎を理解する。(その他の統計調査:感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者(児)実態調査)</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	<p>考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)</p> <p>著者: noa出版</p> <p>出版社: noa出版</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)</p> <p>著者: noa出版</p> <p>出版社: noa出版</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 (10)
参加度 (30)	



## 2017 Syllabus

科目名 情報科学Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。これらの情報活用力をもとに、地域保健・看護活動に役立つ保健統計調査の知識と方法を学習する。
授業の到達目標	一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。保健統計調査の基礎的な知識、活用できる能力を身に付ける。
授業の概要	情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 情報活用力とは</p> <p>第2回 ICT利活用力診断テストRasti試験</p> <p>第3回 情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。</p> <p>第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。</p> <p>第5回 数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。</p> <p>第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。</p> <p>第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。</p> <p>第8回 ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。</p> <p>第9回 保健統計学の基礎を理解する。(人口統計の基礎:主な健康指標)</p> <p>第10回 保健統計学の基礎を理解する。(人口静態統計:日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口)</p> <p>第11回 保健統計学の基礎を理解する。(人口動態統計:死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚)</p> <p>第12回 保健統計学の基礎を理解する。(保健統計調査:業務統計、調査統計)</p> <p>第13回 保健統計学の基礎を理解する。(指定統計:国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計)</p> <p>第14回 保健統計学の基礎を理解する。(その他の統計調査:感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者(児)実態調査)</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	<p>考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)</p> <p>著者: noa出版</p> <p>出版社: noa出版</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)</p> <p>著者: noa出版</p> <p>出版社: noa出版</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 (10)
参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 論理的思考

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 梅本 裕	
テーマ	
看護学学習と研究および一般教養として必要な論理的思考の基礎を講義と演習によって身につける。	
授業の到達目標	
看護の研究と実践に必要な論理的思考の基礎を身につける。(1)思考を深めるための定型を、書きことばと話しことばの両面にわたって身につける。(2)作文と作文の添削という二つの方法により、見学や実習の体験を文章化する技法に習熟する。	
授業の概要	
前半は、受講生がひとまとまりの文章を書き、それをクラスで検討する。翻訳書や論文の文章も検討する。後半はディベートを学ぶことにより主張と根拠の関係を理解し、論理的な文章やディスコースの特質を理解する。授業には常に国語辞書(電子辞書でよい)を持参すること。	
準備学習(予習・復習)	
日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう	
内 容	
第1回	400字で論評文を書く(その1)
第2回	400字で論評文を書く(その2)
第3回	思考単位としての文
第4回	文章書き換えの練習(その1)
第5回	文章書き換えの練習(その2)
第6回	段落のはたらき・つくり方
第7回	800字で論評文を書く(その1)
第8回	800字で論評文を書く(その2)
第9回	語句の選び方と使い方(その1)
第10回	語句の選び方と使い方(その1)
第11回	演習:ブックレビューを書く
第12回	演習:案内文を書く
第13回	ディベートの立論を書く(その1)
第14回	ディベートの立論を書く(その2)
第15回	アカデミックスキルとしての論理的文章
履修上の注意点	
教科書	
新版論理的思考	
著者:	宇佐美寛
出版社:	メディカルフレンド社
出版年:	1989
ISBN:	
参考書	
論理トレーニング101題	
著者:	野矢茂樹
出版社:	産業図書
出版年:	2001
ISBN:	
レポート・論文の書き方入門 第3版	
著者:	河野哲也
出版社:	慶應義塾大学出版会
出版年:	2002
ISBN:	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト (60%)
授業中課題 (40%)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 **統計学基礎論(看護)**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉井 健悟	
テーマ 医療統計学の基礎を身につける。	
授業の到達目標 看護、地域保健に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。	
授業の概要 統計学の概念と方法を理解し、看護、地域保健に役立てる基礎的な知識を修得する。	
準備学習(予習・復習) 予習としてシラバス内容の確認をすること。復習として配布プリント内容の確認をすること。	
内 容 第1回 日常生活の中の統計から見える看護の課題や成果 第2回 調査方法とデータの種類 第3回 度数分布表とヒストグラム 第4回 基本統計量:代表値 第5回 基本等計量:ちらばり 第6回 確率分布(二項分布) 第7回 確率分布(正規分布) 第8回 グラフ化と分割表 第9回 散布図と相関係数 第10回 回帰分析(回帰式) 第11回 回帰分析(分散分析表) 第12回 分割表の分析(オッズ比、連関係数) 第13回 分割表の検定(カイ2乗検定) 第14回 偏差値 第15回 総括	
履修上の注意点 日頃、新聞などに掲載されている統計データを解釈してみる。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業中に、適宜、資料を配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 30 )	小テスト ( 70 ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <\*A>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 常田 裕子・岡田 純子	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。	
準備学習(予習・復習) 授業の進捗状況に合わせて適時指示する	
内 容 第1回 科目オリエンテーション 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第12回 文献講読およびディスカッション 第13回 文献講読およびディスカッション 第14回 文献講読およびディスカッション 第15回 前期のまとめ	
履修上の注意点 前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <\*B>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 登美子・常田 裕子	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	

## 授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

## 授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

## 準備学習(予習・復習)

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

## 内 容

- 第1回 科目オリエンテーション  
 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第12回 文献講読およびディスカッション  
 第13回 文献講読およびディスカッション  
 第14回 文献講読およびディスカッション  
 第15回 前期のまとめ

## 履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

## 教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <\*C>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 深山 つかさ、中島 登美子	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	

## 授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

## 授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

## 準備学習(予習・復習)

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

## 内 容

- 第1回 科目オリエンテーション  
 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第12回 文献講読およびディスカッション  
 第13回 文献講読およびディスカッション  
 第14回 文献講読およびディスカッション  
 第15回 前期のまとめ

## 履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

## 教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <\*D>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美・深山 つかさ	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	

## 授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

## 授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

## 準備学習(予習・復習)

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

## 内 容

- 第1回 科目オリエンテーション  
 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第12回 文献講読およびディスカッション  
 第13回 文献講読およびディスカッション  
 第14回 文献講読およびディスカッション  
 第15回 前期のまとめ

## 履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

## 教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <\*E>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行・竹下 夏美	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。	
準備学習(予習・復習) 授業の進捗状況に合わせて適時指示する	
内 容 第1回 科目オリエンテーション 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第12回 文献講読およびディスカッション 第13回 文献講読およびディスカッション 第14回 文献講読およびディスカッション 第15回 前期のまとめ	
履修上の注意点 前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。	



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <\*F>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 望月 紀子・奥野 信行	

## テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

## 授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

## 授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

## 準備学習(予習・復習)

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

## 内 容

- 第1回 科目オリエンテーション  
 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第12回 文献講読およびディスカッション  
 第13回 文献講読およびディスカッション  
 第14回 文献講読およびディスカッション  
 第15回 前期のまとめ

## 履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

## 教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <\*G>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 中橋 苗代・望月 紀子	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	

## 授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

## 授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

## 準備学習(予習・復習)

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

## 内 容

- 第1回 科目オリエンテーション  
 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第12回 文献講読およびディスカッション  
 第13回 文献講読およびディスカッション  
 第14回 文献講読およびディスカッション  
 第15回 前期のまとめ

## 履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

## 教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

## 科目名 キャリア開発演習 I (看護) &lt;\*H&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 上澤 悦子・中橋 苗代	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。	
準備学習(予習・復習) 授業の進捗状況に合わせて適時指示する	
内 容 第1回 科目オリエンテーション 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第12回 文献講読およびディスカッション 第13回 文献講読およびディスカッション 第14回 文献講読およびディスカッション 第15回 前期のまとめ	
履修上の注意点 前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (30%) 授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 キャリア開発演習 I (看護) &lt;\*I&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 マルティネス 真喜子.上澤 悦子	

## テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

## 授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

## 授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

## 準備学習(予習・復習)

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

## 内 容

- 第1回 科目オリエンテーション  
 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第12回 文献講読およびディスカッション  
 第13回 文献講読およびディスカッション  
 第14回 文献講読およびディスカッション  
 第15回 前期のまとめ

## 履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

## 教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

## 科目名 キャリア開発演習 I (看護) &lt;\*J&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 岡田 純子・マルティネス 真喜子	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	

## 授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

## 授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

## 準備学習(予習・復習)

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

## 内 容

- 第1回 科目オリエンテーション  
 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションA～Eクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 文献検索について:図書館オリエンテーションF～Jクラス (OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)  
 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第5回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む  
 第6回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第7回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第8回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第9回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる  
 第12回 文献講読およびディスカッション  
 第13回 文献講読およびディスカッション  
 第14回 文献講読およびディスカッション  
 第15回 前期のまとめ

## 履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

## 教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度 30% 前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <\*A>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 マルティネス 真喜子.上澤 悦子	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)〈\*B〉**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 岡田 純子・マルティネス 真喜子	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <\*C>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 常田 裕子・岡田 純子	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)〈\*D〉**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 登美子・常田 裕子	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <\*E>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 深山 つかさ・中島 登美子	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <\*F>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美・深山 つかさ	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <\*G>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行・竹下 夏美	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <\*H>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 望月 紀子・奥野 信行

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習(予習・復習)

授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内 容

- 第1回 科目オリエンテーション
- 第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <\*I>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中橋 苗代・望月 紀子	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <\*J>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上澤 悦子・中橋 苗代	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	<p>1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる</p>
授業の概要	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する 前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
内 容	<p>第1回 科目オリエンテーション  第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等  第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等  第4回 演習(3) グループディスカッション、文献講読、発表等  第5回 演習(4) グループディスカッション、文献講読、発表等  第6回 演習(5) グループディスカッション、文献講読、発表等  第7回 4回生の論文発表会に向けて 演習(6) グループディスカッション、文献講読、発表等  第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)  第9回 演習(7) 看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換  第10回 演習(8) グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)  第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等  第12回 演習(10) グループディスカッション、文献講読、発表等  第13回 演習(11) グループディスカッション、文献講読、発表等  第14回 演習(12) グループディスカッション、文献講読、発表等  第15回 1年間のまとめ</p>
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 40% ) 授業中発表等 ( 30% )  参加度 ( 30% )  後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 国際看護学 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美・河原 宣子・近藤 松子・常田 裕子	
テーマ	国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考え、看護実践の場ではいかに人材育成を目指す。
授業の到達目標	1.国際看護・異文化看護について理解するとともに、基礎的な知識を習得する 2.医療(主として看護)における国際協力の実際を知る 3.多文化共生社会における看護活動の考え方を理解することができる
授業の概要	国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える。
準備学習(予習・復習)	様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心をもって考えてみましょう。不明な用語や内容は自ら調べるようにしてください。
内 容	<p>第1回 授業ガイダンス、国際保健・国際看護とは何か</p> <p>第2回 国際看護の主要概念</p> <p>第3回 国際看護と異文化看護</p> <p>第4回 国際協力機関と協力の仕組み</p> <p>第5回 NGOの役割と動向</p> <p>第6回 世界における身体・心理・社会的健康問題の現状と諸要因</p> <p>第7回 保健医療システムと看護職の役割</p> <p>第8回 国際協力の実際①プライマリ・ヘルス・ケア</p> <p>第9回 国際協力の実際②子どもの健康、メンタルヘルス</p> <p>第10回 国際協力の実際③～④ジェンダー、リプロダクティブヘルス(1)～(2)</p> <p>第11回 国際協力の実際③～④ジェンダー、リプロダクティブヘルス(1)～(3)</p> <p>第12回 国際協力の実際⑤感染症対策</p> <p>第13回 国際協力の実際⑥社会的・文化的背景の異なる看護職との協働</p> <p>第14回 国際協力の実際⑦日本に居住する外国人に対する看護の役割</p> <p>第15回 多文化共生社会における看護について考える(まとめ)</p>
履修上の注意点	授業の内容と日程は、外部講師との関連で変更する場合があります。授業に関連した事前学習について、授業中掲示したいと思っています。また、学生の皆さん自身も様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心を持って考えてみましょう。

## 教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

国際看護学入門

著者: 国際看護研究会編

出版社: 医学書院

出版年: 1999

ISBN: 978426033014-5

国際看護学

著者: 柳澤理子・川野雅資編

出版社: 日本放射線技師会

出版年: 2007

ISBN: 978486157025-4



国際看護学 看護の統合と実践

著者： 柳澤理子

出版社： PILAR PRESS

出版年： 2015

ISBN： 9.78486E+12

国際看護学

著者： 田村やよひ編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2012

ISBN：

---

成績評価

試験・レポート（40）

小テスト（20）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（10）

講義内容を統合し、総合的に考える力を確認するための筆記試験を行います。授業中に講師が講義した内容をよく聞き、記述してください。不明な点は自ら調べるか、教員に確認するようにし、内容理解に努めてください。授業中課題やリアクションペーパー等も評価の対象にいたします。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **実践看護学Ⅰ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者

中橋 苗代・岡田 純子・梶谷 佳子・小坂橋 喜久代・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉・マルティネス 真喜子・深山 つかさ

テーマ

既習の学習を踏まえ、発達段階や人間の基本的ニードと関連させながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

授業の到達目標

1.ライフサイクル各期における人間の基本的ニードを理解できる。2.ライフサイクル各期における日常生活援助を中心とした看護方法を理解できる。3.看護における安全性・安楽性の重要性について理解できる。4.看護におけるコミュニケーションのプロセスの意義を考える。5.対人関係におけるコミュニケーションのありようを知る。6.コミュニケーションにおける自己の傾向を知る。7.根拠に基づいた看護を提供するための看護過程の意義および必要性を理解できる。8.根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し活用できる。9.批判的思考や分析的方法を活用して、看護計画を立案できる。10.問題解決思考を活用し看護計画を立案できる。

授業の概要

既習の学習を踏まえ、発達段階や人間の基本的ニードと関連させながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

準備学習(予習・復習)

実践看護学演習Ⅰと連動した科目です。予習・復習をしっかり行い授業に参加してください。

内 容

- 第1回 看護過程の意義－看護の目的・対象・方法を再確認する
- 第2回 対人関係プロセスとコミュニケーション
- 第3回 対人関係プロセスとコミュニケーション
- 第4回 対人関係プロセスとコミュニケーション
- 第5回 看護過程の要素－情報収集
- 第6回 看護過程の要素－情報収集
- 第7回 看護過程の要素－情報の整理
- 第8回 看護過程の要素－情報の整理
- 第9回 看護過程の要素－情報の分析
- 第10回 看護過程の要素－情報の分析
- 第11回 看護過程の要素－健康問題・課題の明確化
- 第12回 看護過程の要素－健康問題・課題の明確化
- 第13回 看護過程の要素－看護計画
- 第14回 看護過程の要素－実施、評価
- 第15回 看護過程と記録
- 第16回 看護の方法論－ライフサイクル各期の心身の特徴を理解した日常生活援助の意義
- 第17回 看護技術の安全性・安楽性・経済性
- 第18回 環境とは－生活環境の安全性・安楽性、環境を整えることの意義
- 第19回 スタンダードプリコーションの考え方
- 第20回 ボディメカニクス 廃用性症候群
- 第21回 身体活動の援助－活動の意義、ライフサイクル各期の特徴
- 第22回 身体活動の援助－健康レベルに応じた身体活動の方法
- 第23回 身体の清潔の援助－清潔の意義、ライフサイクル各期の特徴
- 第24回 身体の清潔の援助－ライフサイクル各期の身体の清潔方法
- 第25回 身体の清潔の援助－健康レベルに応じた清潔方法
- 第26回 食事の援助－食事の意義、ライフサイクル各期の特徴
- 第27回 食事の援助－ライフサイクル各期の食事方法、健康レベルに応じた食事の方法
- 第28回 排泄を整える援助－排泄の意義、ライフサイクル各期の特徴
- 第29回 排泄を整える援助－ライフサイクル各期の排泄方法
- 第30回 排泄を整える援助－健康レベルに応じた排泄方法

履修上の注意点

教科書

根拠がわかる基礎看護技術

著者： 角濱春美・梶谷佳子編

出版社：メヂカルフレンド社

出版年： 2015 ISBN:

事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本

著者： 小田正枝編

出版社： 照林社

出版年： 2008 ISBN:

看護の基本となるもの

著者： ・ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯楨ます・小玉香津子訳

出版社： 日本看護協会出版社

出版年： 2006 ISBN:

参考書

看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版

著者： 秋葉公子他

出版社： ヌーベルヒロカワ

出版年： 2005 ISBN:

看護診断のアセスメント力をつけるー臨床判断力をみがく看護過程

著者： 岡崎美智子・道重文子編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2013 ISBN:

実習記録の書き方がわかる！看護過程展開ガイド

著者： 任和子編

出版社： 照林社

出版年： 2009 ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 60(実技30、ペーパー30) )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 実践看護学演習Ⅰ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡田 純子・梶谷 佳子・中橋 苗代・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉・マルティネス 真喜子・深山 つかさ

テーマ

授業の到達目標

1.ライフサイクル各期における日常生活援助の看護方法を修得する。2.様々な場における日常生活援助の看護方法を修得する。  
3.対象の身体的・精神的状態に合わせて看護の方法を説明できる。4.看護の実施において、対象の意思決定を支援することができる。  
5.対象と援助的なコミュニケーションを展開することができる。6.安全性・安楽性を配慮しながら看護を実践できる。7.患者  
(妊産褥婦)のプライバシーを守りながら、看護実践できる。8.看護実践において、理論的知識を活用できる。9.対象と援助的な関係  
を形成することができる 10.看護・助産実践を評価し記録できる。

授業の概要

実践看護学Ⅰと対応しながら、さまざまな看護(助産含む)の対象とその家族、多様な看護の場における発達段階や人間の基本的  
ニーズに応じた必要な看護技術とその適用方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 【環境調整技術】基本的なベッドメイキング
- 第2回 基本的なベッドメイキング
- 第3回 リネンチェンジ、環境整備
- 第4回 リネンチェンジ、環境整備
- 第5回 臥床患者の寝衣交換
- 第6回 発達段階に応じたリネン;サークルベッドのベッドメイキング
- 第7回 【活動・休息援助技術】安楽な体位
- 第8回 体位変換(ベッド上での体位を変える。ベッド上で移動する)
- 第9回 車椅子での移乗・移送
- 第10回 ストレッチャーでの移乗・移送
- 第11回 発達段階に応じた移動:杖・歩行器・老人カー・おんぶひも(スリング)
- 第12回 廃用性症候群の予防
- 第13回 臥床患者の洗髪
- 第14回 臥床患者の洗髪
- 第15回 【清潔・衣生活の援助】臥床患者の清拭
- 第16回 臥床患者の清拭
- 第17回 部分浴:足浴、手浴、陰部洗浄
- 第18回 部分浴:足浴、手浴、陰部洗浄
- 第19回 口腔ケア
- 第20回 口腔ケア
- 第21回 発達段階に応じた清潔の援助:沐浴・寝衣交換
- 第22回 整容:ひげ剃り、爪きり、アルコール結髪、義歯の手入れ
- 第23回 【食事の援助技術】患者の状態に応じた食事援助
- 第24回 患者の状態に応じた食事援助
- 第25回 発達段階に応じた食事の援助:離乳食、調乳
- 第26回 【排泄援助技術】便器・尿器での援助
- 第27回 便器・尿器での援助、ポータブルトイレでの援助
- 第28回 発達段階に応じた排泄の援助:おむつ、おまるの援助
- 第29回 発達段階に応じた排泄の援助:おむつ、おまるの援助
- 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(60)

小テスト( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 実践看護学演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中橋 苗代・岡田 純子・奥野 信行・梶谷 佳子・神崎 光子・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉・マルティネス 真喜子・深山 つかさ	
テーマ	実践看護学Ⅱと対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。
授業の到達目標	1.ライフサイクルに合わせた健康レベルの各期(急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期・終末期)における看護援助技術を適切に実施する能力を修得する。2.安全なケア環境を提供するための基礎的能力を修得する。
授業の概要	実践看護学Ⅱと対応しながら、さまざまな看護(助産含む)の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。
準備学習(予習・復習)	実践看護学Ⅱと連動した科目です。予習・復習をしっかりと行い授業に参加してください。

## 内 容

- 第1回 救命救急処置技術・診療に伴う援助技術－患肢の固定・包帯法  
 第2回 安楽促進・苦痛の緩和－罨法  
 第3回 情動・認知・行動への働きかけ－病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション①  
 第4回 情動・認知・行動への働きかけ－病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション②  
 第5回 感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱①  
 第6回 感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱②  
 第7回 感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱③  
 第8回 感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱④  
 第9回 感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱⑤  
 第10回 感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱⑥  
 第11回 医療処置の実施・管理－採血①  
 第12回 医療処置の実施・管理－採血②  
 第13回 医療処置の実施・管理－採血③  
 第14回 医療処置の実施・管理－採血④  
 第15回 医療処置の実施・管理－注射①  
 第16回 医療処置の実施・管理－注射②  
 第17回 医療処置の実施・管理－注射③  
 第18回 医療処置の実施・管理－注射④  
 第19回 医療処置の実施・管理－輸液①  
 第20回 医療処置の実施・管理－輸液②  
 第21回 医療処置の実施・管理－輸液③  
 第22回 医療処置の実施・管理－輸液④  
 第23回 医療処置の実施・管理－導尿①  
 第24回 医療処置の実施・管理－導尿②  
 第25回 医療処置の実施・管理－導尿③  
 第26回 医療処置の実施・管理－酸素療法の管理、吸入①  
 第27回 医療処置の実施・管理－酸素療法の管理、吸入②  
 第28回 医療処置の実施・管理－洗腸、消毒薬の準備①  
 第29回 医療処置の実施・管理－洗腸、消毒薬の準備②  
 第30回 まとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

根拠がわかる基礎看護技術

著者： 角濱春美・梶谷佳子

出版社：メヂカルフレンド社

出版年：2015

ISBN:

## 参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術

著者： 医療情報科学研究所

出版社： メディックメディア

出版年： 2014

ISBN:

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術

著者： 医療情報科学研究所

出版社： メディックメディア

出版年： 2013

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 実践看護学実習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者	中橋 苗代・岡田 純子・奥野 信行・梶谷 佳子・神崎 光子・工藤 里香・竹下 夏美・常田 裕子・野島 敬祐・松本 賢哉・マルティネス 真喜子・深山 つかさ・望月 紀子
テーマ	看護過程の理論を活用し、対象者が自らの健康問題を解決するために根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を培う。
授業の到達目標	1. 入院中の対象者を多面的に理解することができる。2. 対象者の健康上の問題を解決するために既習の知識を活用し看護を展開の実際を理解することができる。3. 対象者との人間関係を構築することができる。4. 医療チームメンバーの一員として適切な人間関係を形成できる。5. 実習体験を振り返り、看護観を自らの言葉で表現できる。
授業の概要	病院での実習です。1名患者を受け持ち、看護過程を展開します。実践看護学Ⅰ・実践看護学Ⅱ・実践看護学演習Ⅰ・実践看護学演習Ⅱで学んだ知識を確認しながら、患者の看護を学びます。
準備学習(予習・復習)	約1ヶ月前に、実習ガイダンスを行います。その時には実習病院および病棟が決定していますので、必要な疾患・病態・治療を学習し、標準的な看護について学習してから臨んでください。
内容	<p>第1回 実習オリエンテーション</p> <p>第2回 病院・病棟オリエンテーション 患者紹介</p> <p>第3回 患者者とコミュニケーションを図りながら情報収集を行う ケアの見学</p> <p>第4回 患者とコミュニケーションを図りながら情報収集を行う ケアの見学</p> <p>第5回 患者の全体像を統合し、看護の方向性を考える 中間カンファレンス</p> <p>第6回 看護計画を立案し、それに基づいて看護実施し、実践内容を評価する</p> <p>第7回 看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する</p> <p>第8回 看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する</p> <p>第9回 看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する 最終カンファレンス</p> <p>第10回 学習の学びをディスカッションし報告会にて、共有する 学びを評価する</p>
履修上の注意点	補講は原則不可能ですので、体調管理を万全にして臨むこと。実習時期グループ①は、2月19日～3月2日 グループ②は、グループ③は2月23日～3月8日、3月6日～17日
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>参考書</p> <p>使用しない</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )</p> <p>授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。具体的な実践看護学実習Ⅱの評価内容は評価表を参照のこと</p>



## 2017 Syllabus

## 科目名 ヘルスケアシステム I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 富永 真己・西村 美八	

## テーマ

地域の看護活動を理解し、資料・健康指標を用いて地域の健康課題を解決する過程を学ぶ。

## 授業の到達目標

1.地域の人の生活、地域の環境、社会経済構造を把握し、地域の特性を基盤とした看護活動を説明できる。2.保健医療福祉制度の歴史から看護の現状と動向、地域の保健医療福祉政策について理解し、その中で看護職が担う活動や役割を説明できる。3.疫学調査、分析活用方法、統計上とその活用方法について理解する。4.行政における組織や財政の仕組みを理解するとともに、住民の健康ニーズの把握方法や施策を実施するための財源や人的資源の確保、評価など基本構造を説明できる。5.地域の保健医療福祉制度、健康に関する情報や指標を理解し、地域の健康課題を導く方法について説明できる

## 授業の概要

ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーション演習、プライマリケア論、プライマリケア実習 I を踏まえ、人々を取り巻くヘルスケアシステムとその基盤となる保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。また統計学基礎論、情報科学を踏まえ、地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を活用して、地域の健康課題を解決する過程を学ぶ。

## 準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーション演習、プライマリケア論、プライマリケア実習 I で行った内容を復習した上で、初回の授業に臨む。 復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

## 内 容

- 第1回 地域を基盤とした看護活動①ー地域看護の成立基盤
- 第2回 地域を基盤とした看護活動②ー地域看護の活動方法
- 第3回 地域保健行政における看護職の役割
- 第4回 我が国の保健医療福祉の変遷①ー公衆衛生の歴史と体系
- 第5回 我が国の保健医療福祉の変遷②ー看護の現状と動向
- 第6回 地域の看護活動の実際
- 第7回 地域看護管理①ー保健医療福祉分野における計画策定と施策化
- 第8回 地域看護管理②ー地域保健行政における情報管理システム、予算管理と人材育成
- 第9回 地域看護管理③ー行政評価と事業評価
- 第10回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用① 集団の健康状態の把握
- 第11回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用② 疫学的研究方法
- 第12回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用③ 疾病の予防とスクリーニング
- 第13回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用④ 感染症の疫学
- 第14回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用⑤ おもな疾患の疫学
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則、必要とする。特段の理由がない限り、遅刻と途中退席をしない。

## 教科書

公衆衛生看護学.jp

著者: 荒賀直子・後閑容子編

出版社: インターメディカル

出版年: ISBN:

保健師業務要覧

著者: 井伊久美子他編

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: ISBN:

はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待

著者: 日本疫学会監修

出版社: 南江堂出版

出版年: ISBN:

## 参考書

国民衛生の動向 2016/2017

著者： 一般財団法人厚生労働統計協会

出版社：

出版年：

ISBN：

疫学～医学的研究と実践のサイエンス

著者： 木原正博・木原雅子・加治正行監訳

出版社： メディカル・サイエンス・インターナショナル

出版年：

ISBN：

保健医療福祉行政論

著者： 野村陽子編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年：

ISBN：

---

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 ヘルスケアシステムⅡ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 富永 真己・常田 裕子	

## テーマ

地域の健康管理と公衆衛生看護活動に必要な制度や法規、健康危機管理について理解する。

## 授業の到達目標

1. 地域における健康危機管理およびその対策に関わる看護職の役割について理解できる。2. 社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規を説明できる。3. 保健医療福祉における看護の機能と役割を理解できる。4. 健康管理と公衆衛生看護活動に必要な支援技術を説明できる。

## 授業の概要

ヘルスケアシステムⅠを踏まえ、人々を取り巻くヘルスケアシステムとその基盤となる社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。

## 準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスケアシステムⅠで行った内容を復習した上で、初回の授業に臨む。 復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

## 内 容

- 第1回 社会保障制度①理念・体系
- 第2回 社会保障制度②高齢者福祉・介護保険制度a
- 第3回 社会保障制度②高齢者福祉・介護保険制度b
- 第4回 社会保障制度④障害児・者
- 第5回 社会保障制度⑤児童
- 第6回 社会保障制度⑥医療保障制度
- 第7回 社会保障制度⑦所得保障・年金制度
- 第8回 地域保健と健康危機管理①ー地域における日常的な健康危機管理
- 第9回 地域保健と健康危機管理②ー災害と保健師活動
- 第10回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題
- 第11回 地域における保健事業の展開
- 第12回 地区診断の実際①:コミュニティ・アズ・パートナーモデルと保健事業の施策化
- 第13回 地区診断の実際②:疫学・保健統計のデータの活用と実際
- 第14回 地区診断の実際③:対象別(母子・成人・高齢者等)の情報の活用と実際
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。特段の理由がない限り、遅刻と途中退席をしない。

## 教科書

公衆衛生看護学.jp

著者: 荒賀直子・後閑容子編

出版社: インターメディカル

出版年: ISBN:

保健師業務要覧

著者: 井伊久美子他編

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: ISBN:

国民衛生の動向2018/2019

著者: 一般財団法人厚生労働統計協会

出版社:

出版年: ISBN:

## 参考書

保健医療福祉行政論

著者: 野村陽子編

出版社: メヂカルフレンド社

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈\*A〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中橋 苗代

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1.看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現する テーマに沿って探究したことを伝える

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈\*B〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中島 登美子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1.看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現する テーマに沿って探究したことを伝える

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈\*C〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 深山 つかさ

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1.看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現する テーマに沿って探究したことを伝える

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <\*D>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝える
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)</p> <p>第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第9回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第12回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第13回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第14回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <\*E>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行	
テーマ	
文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける	
授業の到達目標	
1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
授業の概要	
1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現する テーマに沿って探究したことを伝える	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)	
第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む	
第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む	
第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する	
第6回 テーマに基づき文献検索を行う	
第7回 テーマに基づき文献検索を行う	
第8回 テーマに基づき文献検索を行う	
第9回 テーマに基づき文献検索を行う	
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる	
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる	
第12回 文献講読及びディスカッション	
第13回 文献講読及びディスカッション	
第14回 文献講読及びディスカッション	
第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <\*F>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 望月 紀子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現する テーマに沿って探究したことを伝える
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)</p> <p>第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第9回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第12回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第13回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第14回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <\*G>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 常田 裕子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝える
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)</p> <p>第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第9回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第12回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第13回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第14回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <\*H>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上澤 悦子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝える
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)</p> <p>第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第9回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第12回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第13回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第14回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <\*I>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 マルティネス 真喜子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1.看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現する テーマに沿って探究したことを伝える

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <\*J>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 岡田 純子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる 3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ 自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ テーマに沿い、理解した内容を表現する テーマに沿って探究したことを伝える
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文献検索について(1) 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii)</p> <p>第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む</p> <p>第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第9回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第12回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第13回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第14回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第15回 まとめ なお、学外授業を実施することがある。</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <\*A>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 岡田 純子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌 Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)</p> <p>第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)</p> <p>第4回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第5回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション</p> <p>第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)</p> <p>第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換</p> <p>第11回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈\*B〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中橋 苗代

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)
- 第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈\*C〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中島 登美子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)
- 第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈\*D〉**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 深山 つかさ	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌 Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)</p> <p>第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)</p> <p>第4回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第5回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション</p> <p>第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)</p> <p>第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換</p> <p>第11回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (40)	授業中発表等 (30)
参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈\*E〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 竹下 夏美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)
- 第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 40 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <\*F>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 奥野 信行

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)
- 第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈\*G〉**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 望月 紀子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌 Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)</p> <p>第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)</p> <p>第4回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第5回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション</p> <p>第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)</p> <p>第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換</p> <p>第11回 文献講読及びディスカッション</p> <p>第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う</p> <p>第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈\*H〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)
- 第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈\*I〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上澤 悦子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)
- 第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <\*J>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 マルティネス 真喜子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、GiNii) 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノート(RefWorks)を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1、2回生合同)
- 第10回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ(2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ( )

授業中発表等 (30)



## 2017 Syllabus

## 科目名 生命・医療倫理

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 荒木 正見	
テーマ	
生命と医療に関する倫理的課題を、知識・実践・態度などの諸側面から考察し、倫理的に高いレベルでの医療人をめざす。	
授業の到達目標	
医療人としての生命観、倫理観を、存在論の根拠や倫理の根拠などから厳密に展開するとともに、現実の医療現場の生命、倫理に関する諸問題を理解し解決策を探求することによって、より発展的に磨く。特に、理論として知るとともに、自らの人格発達によって全人格的に対応できることを目指す。なお、随時ナイチンゲール誓詞、ヘルシンキ宣言などの資料や、昔話などにおける価値観を挿入して、社会的理解を深める。	
授業の概要	
医療人としての生命観、倫理観を養う	
準備学習(予習・復習)	
前回の内容を復習し、前もって次回の内容のテキストを読み、実際の場面を想定しつつ具体的に考えてみる。予習時間の目安は毎回4時間をめどとする。	
内容	
<p>第1回 哲学とバイオエシックスに関する総論的概説</p> <p>第2回 医療を取り巻く現実的諸問題と倫理学との関係</p> <p>第3回 人格発達論と自己理解の目安</p> <p>第4回 生命誕生の科学的、存在論的、倫理学的意味</p> <p>第5回 生命の終末とホスピス、ターミナルケアの問題と倫理的、人間学的意味</p> <p>第6回 医療倫理をめぐる諸問題とその根本的解決</p> <p>第7回 優生学と遺伝子診断をめぐる諸問題とその人類学的意味</p> <p>第8回 真の健康とスポーツをめぐる倫理的諸問題 評価用レポート作成</p> <p>第9回 人間の尊厳と安楽死、クローン生殖などの諸問題（教育効果を考慮して前後期にわけて授業を行うので、この回以降は、それ以前の内容の確認を交えて講義を行う。）</p> <p>第10回 医療倫理の教育と理解をめぐる諸問題</p> <p>第11回 医療倫理理解のための訓練と技法</p> <p>第12回 チーム医療における医療専門職者としての根拠と自覚</p> <p>第13回 患者、家族、関係者とのかかわりの社会的意味と在り方</p> <p>第14回 倫理的諸規定、宣言、法的根拠</p> <p>第15回 医療従事者としてのQOL 評価用レポート作成</p>	
履修上の注意点	
テキストを読むとともに、美術館、博物館、寺社、旧跡などを訪れて見識を深め、自らの癒しを得ることを期待する。	
教科書	
系統看護学講座 別巻 看護倫理	
著者： 松葉祥一(代表)	
出版社： 医学書院	
出版年： 最新刊	ISBN： 978-4-260-01813
参考書	
医療倫理学 第2版	
著者： 丸山マサ美(編著)	
出版社： 中央法規	
出版年： 2012	ISBN： 978-4-8058-3163
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 (20)
参加度 (20)	
授業理解の助けとして授業中に行うワーキングなども評価の対象となる。	

## 2017 Syllabus

科目名 災害看護学Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野島 敬祐・奥野 信行・河原 宣子・堀 妙子・松本 賢哉・マルティネス 真喜子

テーマ

災害看護学Ⅰを踏まえ、災害看護に関する実践方法論を学ぶ。さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における災害サイクル各期の看護の役割を考察する。授業にはトリアージ訓練や避難所運営シミュレーションの演習形式を中心とした防災・減災訓練を含む。

授業の到達目標

1.災害看護の実例を学び、災害サイクル各期およびライフサイクル各期の特徴を踏まえた看護の役割を理解する。2.トリアージ訓練や避難所運営シミュレーションの準備・実施に参加し、準備期における看護の役割を理解する。

授業の概要

災害支援活動の実例を通じた講義とトリアージ訓練や避難所運営シミュレーションなどの演習により、災害サイクル各期の看護師の役割について考える。

準備学習(予習・復習)

必ず授業前の予習及び演習前の事前課題に取り組むこと

内 容

- 第1回 災害支援活動の実例① 災害サイクル中長期におけるケア
- 第2回 災害支援活動の実例② メンタルヘルス
- 第3回 災害支援活動の実例③ 子どもへの支援
- 第4回 演習:避難所運営シミュレーション①
- 第5回 演習:避難所運営シミュレーション②
- 第6回 災害支援活動の実例④ 災害トリアージ
- 第7回 演習:防災・減災訓練の準備と実施ートリアージ訓練等
- 第8回 演習:防災・減災訓練の準備と実施ートリアージ訓練等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 (60)  
 参加度 (40)

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 学校保健

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 寺口 佐與子・近藤 恵	
テーマ 学校保健の基礎を学ぶ	
授業の到達目標 1)学校教育における学校保健の目的について理解できる 2)学校保健の行政と制度,学校保健関係職員について理解 できる 3)学校における保健管理と保健教育,保健組織活動の内容 について理解できる 4)児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題につ いて理 解できる 5)学校保健の今日的課題と展望について考察できる	
授業の概要 毎回の授業の前半は講義中心に進める。後半は、グループ 討議や課題に取り組む演習形式で行う。	
準備学習(予習・復習) 日頃より児童生徒やその保護者となる対象に関連する ニュースや一般書などで自己の考えをもつこと。	
内 容 第1回 学校保健の概要、学校保健の歴史 第2回 学校における保健教育(保健学習と保健指導) 第3回 学校における保健教育(保健学習と保健指導) 第4回 学校における保健管理①(健康診断、保健調査、健 康評価) 第5回 学校における保健管理②(疾病管理) 第6回 学校における保健管理③(疾病管理)(発表) 第7回 学校における保健管理④(感染症)、学校環境衛 生 第8回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題① 第9回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題② 第10回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題③ 第11回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題④ 第12回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題⑤ 第13回 学校保健組織活動と学校安全 第14回 応急手当、食育 第15回 学校保健の今日的課題と展望(課題)	
履修上の注意点	
教科書 学校保健概論 著者: 渡邊正樹 出版社: 光正館 出版年: 2014 ISBN: 9.78433E+12	
参考書 新訂版 学校保健実務必携(第3次改訂版) 著者: 出版社: 第一法 出版年: 2014 ISBN:	
成績評価 試験・レポート (20) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (20) 参加度 (10)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 養護概説

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 佐藤 浩子	
テーマ	
学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割と、専門性を理解する。	
授業の到達目標	
学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭としての基礎的な知識と技術について学び、専門職としての能力を習得する。	
授業の概要	
保健室実践を通してより深く具体的に理解し、保健指導演習を行い養護教諭としての資質と力量を高める。	
準備学習(予習・復習)	
子どもの健康情報を収集し、子どもの健康課題を考えておくこと。それを保健指導演習に生かす。	
内 容	
第1回 養護の本質と概念	
第2回 養護教諭の専門性・子どもの発達と健康	
第3回 養護教諭と学校保健活動	
第4回 養護教諭と保健室・保健室経営	
第5回 養護活動の過程	
第6回 教育としての健康診断①	
第7回 教育としての健康診断②	
第8回 保健指導演習	
第9回 養護活動の方法・健康実態の把握と支援(健康管理)	
第10回 健康問題に応じた養護活動(内科的な訴えを持つ子ども)	
第11回 健康問題に応じた養護活動(外科的な訴えを持つ子ども)	
第12回 健康問題に応じた養護活動(慢性疾患を抱えた子ども)	
第13回 健康問題に応じた養護活動(心の問題を抱えた子ども)	
第14回 学校の特性に応じた養護活動・研究活動の意義	
第15回 レポート作成・まとめ	
履修上の注意点	
養護教諭免許状取得のための必須科目であるため、教育的観点を踏まえて学ぶこと。	
教科書	
養護学概論	
著者： 岡田加奈子 河田史宝	
出版社： 東山書房	
出版年： 2016年2月12日	ISBN:
参考書	
教育としての学校保健	
著者： 数見隆生	
出版社： 青木書店	
出版年：	ISBN:
養護教諭の役割と教育実践	
著者： 宍戸洲美	
出版社： 学事出版	
出版年：	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (35)	授業中発表等 (20)
参加度 (45)	
授業中課題35%・・・レポート・課題提出 授業中発表20%・・・グループワークと演習 参加度45%	

## 2017 Syllabus

科目名 **精神保健**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 加藤 直人

テーマ

学校における精神保健問題への対応について

授業の到達目標

・子どもの成長過程に伴う精神保健の諸問題に対する問題意識を持ち知識を得る。・養護教諭として関わる、精神保健の課題の背景にある心理的課題・生活問題への視点・相談・連携に関する基礎を身につける。

授業の概要

学校における精神保健の課題は、生徒の心の発達メカニズムと様々な生活の問題が複合的に関与していることを取り上げ概説する。事例を通じて、養護教諭として、精神保健ニーズへ対応することに必要な基本姿勢を学ぶ場とする。

準備学習(予習・復習)

事前学習として、指定テキスト『ルポ保健室』を通読しておくこと。事前学習をしていることを前提に、第1回目オリエンテーションを実施する。授業を通じて知る事例・資料から、問題の背景を読み解くスキルを獲得する意欲を向上させること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ライフサイクルにおける精神保健1:乳幼児期
- 第3回 ライフサイクルにおける精神保健2:学童期・思春期
- 第4回 ライフサイクルにおける精神保健3:思春期・青年期
- 第5回 相談対応の基本1:養護教諭に求められる精神保健のアセスメント(観察・気付き)
- 第6回 相談対応の基本2:養護教諭に求められる精神保健のプランニング(支援計画)
- 第7回 相談対応の基本3:養護教諭に求められる精神保健の連携・チームアプローチ(介入・支援実施)
- 第8回 学校で関わる精神保健的問題1:精神疾患
- 第9回 学校で関わる精神保健的問題2:発達障害・学習障害
- 第10回 学校で関わる精神保健的問題3:薬物依存症・摂食障害・自傷行為
- 第11回 学校で関わる精神保健的問題4:いじめ・非行
- 第12回 学校で関わる精神保健的問題5:児童虐待
- 第13回 学校で関わる精神保健的問題6:不登校
- 第14回 捕捉
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

事例性に基づいた講義・ワーク・ディスカッションを実施するため、出席・参加姿勢による評価を重視する。

教科書

ルポ保健室

著者: 秋山千佳

出版社: 朝日新書

出版年: 2016

ISBN: 9.78402E+12

子どもの精神障害

著者: 河合洋・山登敬之

出版社: 日本評論社

出版年: 2022

ISBN: 4535560978

参考書

養護教諭の精神保健術

著者: 清水將之

出版社: 北大路書房

出版年: 2013

ISBN: 9.78476E+12

心をつめる養護教諭たち

著者: カウンセリング研究会

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2012

ISBN: 9.78462E+12

魂の殺人 親は子どもに何をしたか

著者: A・ミラー著 山下公子訳

出版社: 新曜社

出版年: 1983

ISBN: 4788501732

ドラッグ問題をどう教えるか

著者: 寶田穂・大久保圭策 監修

出版社: 解放出版社

出版年: 2013

ISBN: 9.78476E+12

いじめ損なわれた関係を築きなおす 修復的対話というアプローチ

著者: 山下英三郎

出版社: 学苑社

出版年: 2010

ISBN: 9.78476E+12

愛着障害

著者: 岡田尊司

出版社: 光文社新書

出版年: 2011

ISBN: 9.78433E+12

スクールソーシャルワーカー養成テキスト

著者: 日本学校ソーシャルワーク学会

出版社: 中央法規

出版年: 2008

ISBN: 9.78481E+12

若者の貧困・居場所・セカンドチャンス

著者: 青砥恭 さいたまユースサポート

出版社: 太郎次郎社エディタス

出版年: 2015

ISBN: 9.78481E+12

発達障害の豊かな世界

著者: 杉山登志郎

出版社: 日本評論社

出版年: 2000

ISBN: 4535561559

子ども虐待 介入と支援のはざままで

著者: 小林美智子 松本伊智朗

出版社: 明石書店

出版年: 2007

ISBN: 9.78475E+12

#### 成績評価

試験・レポート（レポート 30%）

小テスト（ ）

授業中課題（10%）

授業中発表等（30%）

参加度（30%）

講義・ワーク・ディスカッション等、参加型学習方式とするため、授業を通じて習得した知識を基に、問題意識と議論に対する習熟度を評価の軸とする。

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習 I

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中島 登美子

テーマ

授業の到達目標

1.看護における研究の意義を理解する 2.看護研究のプロセスを知る 3.文献検討の意義と方法を理解し、自ら必要な文献が収集できる 4.研究デザインと研究方法について知る 5.データの収集と分析方法を知る 6.研究計画書の意義と立案について知る 7.研究論文の書き方を知る 8.研究における倫理を知る

授業の概要

看護研究に必要な基本的知識を理解する

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 看護における研究の意義
- 第2回 看護研究のプロセス
- 第3回 研究における倫理
- 第4回 研究の問い
- 第5回 文献検索と文献検討
- 第6回 研究デザイン・研究方法(1) 概念枠組み
- 第7回 研究デザイン・研究方法 実態調査研究
- 第8回 研究デザイン・研究方法 介入研究
- 第9回 研究デザイン・研究方法 分析
- 第10回 研究結果の記載と考察
- 第11回 研究デザイン・研究方法(2) 質的研究
- 第12回 グラウンデッドセオリーの概要
- 第13回 エスノグラフィー、現象学的研究法の概要
- 第14回 質的研究のまとめ方
- 第15回 研究成果の発表

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座別巻 看護研究

著者: 坂下玲子

出版社: 医学書院

出版年: 2016

ISBN: 978-4-260-02182

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

出席 2/3以上の参加がない場合、単位認定をしない

## 2017 Syllabus

科目名 看護教育学 I

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 梶谷 佳子		
テーマ		
授業の到達目標		
1.看護の対象への教育的支援について理解する。2.看護教育について理解する。		
授業の概要		
看護教育の歴史、看護の教育的機能、授業の構造化や教授学習過程について学ぶ。また、集団を対象とした教育方法や集団力学を学ぶ。		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
第1回	オリエンテーション、授業の進め方、看護の教育的機能	
第2回	教育に関連する概念や定義(学習、教育、指導等)	
第3回	看護の対象への教育	
第4回	患者教育のプロセス	
第5回	グループ学習①－グループ編成、課題設定	
第6回	グループ学習②－授業案の作成	
第7回	グループ学習③－教育方法の検討、教材作成	
第8回	グループ学習④－授業評価の媒体の作成	
第9回	グループ学習⑤－模擬授業の準備	
第10回	模擬授業と評価①	
第11回	模擬授業と評価②	
第12回	模擬授業と評価③	
第13回	看護教育の発達と看護教育制度	
第14回	キャリア開発と看護継続教育	
第15回	まとめ	
履修上の注意点		
模擬授業の教育内容等については、図書室で学習してください。		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験・レポート (30)	小テスト ( )	
授業中課題 (30)	授業中発表等 (20)	
参加度 (20)		



## 2017 Syllabus

科目名 実践看護学Ⅲ－1

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者	松本 賢哉・天野 博夫・奥野 信行・喜多 伸幸・鈴木 要子・常田 裕子・野島 敬祐・堀 妙子・マルティネス 真喜子・深山 つかさ・村上 節・望月 紀子
テーマ	

## 授業の到達目標

1.健康破綻をもたらす病態や疾患とその治療を理解する 2.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルについて理解する 3.健康に影響する生活環境の把握と健康な環境づくりについて理解する

## 授業の概要

さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護に必要な病態・治療についてライフサイクルを踏まえて理解する

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 がんとは がんの予防と検査
- 第2回 手術療法① がん事例を中心に
- 第3回 手術療法② がん事例を中心に
- 第4回 放射線療法・化学療法 がん事例を中心に
- 第5回 悪性腫瘍をもつ小児の看護 白血病
- 第6回 消化・吸収障害とは 肝・移植
- 第7回 糖代謝障害とは 糖尿病を中心に
- 第8回 内分泌疾患をもつ小児の看護 糖尿病
- 第9回 排泄機能障害とは 腎疾患を中心に
- 第10回 循環機能障害とは 心疾患を中心に
- 第11回 呼吸機能障害とは 呼吸器疾患を中心に
- 第12回 呼吸機能障害をもつ高齢者の看護
- 第13回 小児によくみられる腎・呼吸器疾患と治療 ネフローゼ・喘息
- 第14回 運動機能障害とは 脳神経系疾患を中心に
- 第15回 小児によくみられる循環器・筋・骨疾患と治療
- 第16回 泌尿器系の障害をもつ高齢者の看護
- 第17回 感覚器系の障害をもつ 高齢者の看護
- 第18回 感染症とは
- 第19回 感染症の小児の看護
- 第20回 認知症の診断と治療①
- 第21回 認知症の診断と治療②
- 第22回 高齢者の薬物療法
- 第23回 統合失調症患者の特徴と治療
- 第24回 気分障害患者の特徴と治療
- 第25回 アルコール依存症患者の特徴と治療
- 第26回 薬物療法、心理社会療法
- 第27回 生殖生理
- 第28回 周産期の診断と検査
- 第29回 地区診断①
- 第30回 地区診断② なお、外部講師を招いて講演会を行うことがある。

## 履修上の注意点

## 教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ

著者： 奈良間美保

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学

著者： 北島政樹

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

成人看護学 慢性期看護

著者： 鈴木久美

出版社： 南江堂

出版年：

ISBN：

老年看護学 概論と看護の実践

著者： 奥野茂代

出版社： ニューヴェルヒロカワ

出版年：

ISBN：

糖尿病食事療法のための食品交換表

著者： 日本糖尿病学会

出版社： 日本糖尿病協会

出版年：

ISBN：

これからの精神看護学

著者： 森千鶴

出版社： ピラール

出版年：

ISBN：

新体系看護学全書母性看護学①母性看護学概論ウイメンズヘルスト看護

著者： 新道幸恵

出版社： メジカルフレンド社

出版年：

ISBN：

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート（70）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 実践看護学演習Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者	松本 賢哉 奥野 信行 河原 宣子 神崎 光子 工藤 里香 鈴木 要子 常田 裕子 野島 敬祐 堀 妙子 マルティネス 真喜子 深山 つかさ 望月 紀子
テーマ	

## 授業の到達目標

1. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護(助産・公衆衛生看護含む)の場に応じたアセスメントの方法について理解できる。2. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護(助産・公衆衛生看護含む)の場に応じた看護技術を修得することができる。3. がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援看護、助産、公衆衛生看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。

## 授業の概要

実践看護学Ⅲ-2と対応しながら、さまざまな看護(助産・公衆衛生看護含む)の対象とその家族、多様な看護の場において必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 新生児期のアセスメントと看護②
- 第2回 低出生体重児の看護技術
- 第3回 統合失調症患者の地域生活支援
- 第4回 周産期の看護技術(実技演習:妊婦と褥婦のフィジカル系)
- 第5回 周産期の看護技術(実技演習:新生児と授乳系)
- 第6回 周産期の看護技術(実技演習:新生児と授乳系)
- 第7回 感染看護 在宅・臨床看護演習
- 第8回 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際①
- 第9回 入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習①
- 第10回 入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習②
- 第11回 排泄経路を変更した人への看護
- 第12回 在宅・臨床看護演習①(保健統計からみた地域の理解)
- 第13回 在宅・臨床看護演習②(保健統計からみた地域の理解)
- 第14回 在宅・臨床看護演習③(保健統計からみた地域の理解)
- 第15回 小児に特有の看護技術
- 第16回 小児の権利を守るための看護技術
- 第17回 小児に特有の症状に対する看護
- 第18回 がんの終末期の看護
- 第19回 入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習③
- 第20回 入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習④
- 第21回 在宅・臨床看護演習④(地域における健康課題と家族看護過程)
- 第22回 在宅・臨床看護演習⑤(地域における健康課題と家族看護過程)
- 第23回 在宅・臨床看護演習⑥(地域における健康課題と家族看護過程)
- 第24回 小児の終末期の看護
- 第25回 看取りと看護①
- 第26回 看取りと看護②
- 第27回 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際②
- 第28回 在宅・臨床看護演習⑦(地域における看護活動の実際)
- 第29回 在宅・臨床看護演習⑧(地域における看護活動の実際)
- 第30回 在宅・臨床看護演習⑨(地域における看護活動の実際) なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート(70)

小テスト( )



## 2017 Syllabus

科目名 看護倫理 I

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

授業の到達目標

1.看護倫理の重要概念であるケアリング、アドボカシー等について概念的実践的に説明できる。2.看護の場における看護職としての倫理的判断を導く原則や綱領を説明できる。3.患者の権利を尊重し、擁護するアドボケートとしての看護の役割を説明できる。4.看護の場における倫理問題とその解決の道筋を説明できる。

授業の概要

看護は社会制度・政策の枠内で、さらには実践現場の様々な制約のなかで提供されるものでもあるため、看護者が対象者の「求めに応じる」のは、思いの外難しく、看護者に期待される対象者の権利擁護の役割を果たしていくには、明確な倫理観が求められる。看護者の第三者的立場ではなく、当事者性(つまり、責任感)の獲得を目指す。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 看護倫理とは 看護実践と看護倫理 看護専門職と看護倫理 医療(生命)倫理と看護倫理(理原則・ケアリングの倫理) レポート提出「実習で体験した倫理問題」A4版1枚程度(1000字～1200字程度) \*これまでの実習のなかで、「患者さんの権利が損なわれているのでは」「これでは患者さんが気の毒だ」と感じたできごと、患者の背景情報や自分はその時どうしたかも、含めて記述すること \*2部作成し、1部提出、1部は手元に
- 第2回 患者の権利(リスボン宣言)看護者の倫理綱領(日本看護協会)倫理的問題分析と解決への道筋
- 第3回 看護倫理ワークショップ
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 全体発表 グループワークの成果発表 質疑応答 コメント
- 第7回 //
- 第8回 まとめ 権利擁護者としての看護師の役割

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

事前課題レポート(個人点) 10点 グループワーク発表(グループ点) 20点 グループワーク貢献(相互評価点) 10点 最終レポート 60点 「事前課題事例に関する、倫理的問題の分析と解決のためにとる行動」タイトルを考え、表紙をつけること/A4版 1～2枚(1400字～2000字程度) ワープロ使用のこと

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 V (看護)**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 松本 賢哉・神崎 光子・西村 美八・野島 敬祐・マルティネス 真喜子・深山 つかさ・望月 紀子

テーマ

授業の到達目標

1.さまざまな健康課題について、ライフサイクルと看護の場を踏まえてアセスメントすることができる 2.自らの学習上の課題を見出し、解決方法を考えて取り組むことができる

授業の概要

2回生までの学びを踏まえて、実践看護学実習に向けて事例検討を行い、自らの課題を明確化する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 妊婦事例看護過程演習
- 第2回 産褥・新生児期事例の看護過程演習①
- 第3回 産褥・新生児期事例の看護過程演習②
- 第4回 健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開①
- 第5回 健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開②
- 第6回 健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開③
- 第7回 精神障がいをもつ人と家族の事例展開①
- 第8回 精神障がいをもつ人と家族の事例展開②
- 第9回 精神障がいをもつ人と家族の事例展開③
- 第10回 地区活動計画と評価①
- 第11回 地区活動計画と評価②
- 第12回 地区活動計画と評価③
- 第13回 地区活動計画と評価④
- 第14回 地区活動計画と評価⑤
- 第15回 地区活動計画と評価⑥

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 看護管理学ⅡB

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員 10
履修条件	クラス指定
担当者 上澤 悦子	
テーマ	
助産実践のケア環境とチーム体制整備に関する看護実践能力を養う	
授業の到達目標	
1 日本および世界の母子保健の動向における助産のあり方を理解できる 2 我が国の母子保健制度と施策および助産業務を理解できる 3 施設における助産業務と地域母子保健の連携を理解できる 4 助産サービスの質の管理および改善の取り組みについて理解できる 5 周産期における医療の安全とリスクマネジメントの方法を理解できる 6 病院、診療所、助産所における助産管理の実践を理解できる	
授業の概要	
講義およびグループワーク	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 助産師の定義と業務・役割	
第2回 助産師が行うケアを支える理論	
第3回 助産実践の倫理	
第4回 周産期における質と安全の保証	
第5回 周産期におけるリスクマネジメント	
第6回 助産業務管理と地域母子保健	
第7回 院内助産システム	
第8回 助産サービスの質管理－病院・診療所	
第9回 助産サービスの質管理－助産所	
第10回 助産の歴史と助産師教育	
第11回 女性と子ども、家族の健康と人権	
第12回 日本の母子保健の動向	
第13回 世界の母子保健の動向	
第14回 わが国の母子保健制度と関連法	
第15回 保健師助産師看護師法とその他の助産師関連法	
第16回 テスト	
履修上の注意点	
教科書	
助産師基礎教育テキスト1 2016年版 助産概論	
著者： 山本あい子他	
出版社： 日本看護協会出版会	
出版年：	ISBN：
助産師基礎教育テキスト3 2016年版 周産期における医療の質と安全	
著者： 成田伸	
出版社： 日本看護協会出版会	
出版年：	ISBN：
助産師基礎教育テキスト2 2016年版女性の健康とケア	
著者： 吉沢豊予子	
出版社： 日本看護協会出版会	
出版年：	ISBN：
新版助産師業務要覧 I	
著者： 福井トシ子他	
出版社： 日本看護協会出版会	
出版年：	ISBN：

新版助産師業務要覧Ⅱ

著者： 福井トシ子他

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

国民衛生の動向

著者：

出版社：

出版年： 2015/2016

ISBN：

---

成績評価

試験・レポート（ 80 ）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ 20 ）

全回出席を原則とする

---



## 2017 Syllabus

科目名 国際看護学Ⅱ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 常田 裕子・河原 宣子・竹下 夏美・マルティネス 真喜子

テーマ

1) 研修をとおして国際看護・国際保健および国際協力の実際を知り、その重要性について理解することができる。2) 国際看護Ⅱの講義・研修全体をふまえて、多文化共生社会における看護師の役割について自分の意見を述べるすることができる。

授業の到達目標

1) 多文化共生社会における看護活動の展開方法について理解することができる。2) 海外研修をとおして国際看護・国際保健および国際協力の実際を知り、その重要性について理解することができる。3) 多文化共生社会における看護職の役割について自分なりの意見を述べるができる。

授業の概要

受講者全員が協力しながら下記に関する内容について、主体的に事前学習を進め、中間発表による情報共有及び意見交換を通して海外研修における学びにつなげる。1) オーストラリアの文化、2) オーストラリアの保健、医療、福祉、3) 病院、ナースングホーム、高齢者施設、レスパイトセンター等の保健・医療・福祉機関、4) オーストラリアの看護、5) 英会話等

準備学習(予習・復習)

本講義を通して学びを深めたいテーマ、選定した動機などについて各自で具体的に考えた上で、初回授業に臨んでください。また授業概要に記載されている1)～3)については、自身の学びを深めるために必要となる具体的に調べる内容を考えてきてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事前学習(1)
- 第3回 事前学習(2)
- 第4回 中間発表会(1)
- 第5回 中間発表会(2)
- 第6回 海外研修(1)
- 第7回 海外研修(2)
- 第8回 海外研修(3)
- 第9回 海外研修(4)
- 第10回 海外研修(5)
- 第11回 海外研修(6)
- 第12回 海外研修(7)
- 第13回 海外研修(8)
- 第14回 最終発表会(1)
- 第15回 最終発表会(2)

履修上の注意点

※海外研修は9月にオーストラリアゴールドコースト(10日間)を予定しており、別途費用が必要である。但し最低人数の10名に満たない場合は、中止となる場合がある。※国際看護学Ⅰ(必修科目、2回生後期)を履修し単位を取得していること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(20)

授業中発表等(50)

参加度(30)

## 2017 Syllabus

## 科目名 助産診断学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 春期集中	定員 10
履修条件	クラス指定

担当者 工藤 里香

## テーマ

周産期看護を根拠に基づいて計画的に実践するための基礎的な助産診断力を養う

## 授業の到達目標

1. リプロダクティブヘルス／リプロダクティブライツを理解し、説明することができる 2. 女性のライフサイクルにおけるウェルネスにもとづいた看護を考えることができる 3. ライフサイクルにおける周産期の特徴を理解し、周産期の健康の保持増進および異常の予防のための看護を考えることができる 4. 周産期の母児と家族の健康状態や健康課題・発達課題について、身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解し、診断ができる 5. 個人の特性および地域の特性に応じたニーズを診断し、看護を考えることができる

## 授業の概要

1. リプロダクティブヘルス／リプロダクティブライツの概念を理解し、女性の健康について学ぶ 2. 周産期における母児とその家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、ウェルネスの視点から助産診断の基礎を学ぶ

## 準備学習(予習・復習)

1. 既修得の看護理論について説明できるようにしておくこと 2. 既修得の周産期看護に関連する知識の復習を行ってから授業に臨むこと

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 助産診断学の概要 リプロダクティブヘルス／リプロダクティブライツ(1)
- 第2回 リプロダクティブヘルス／リプロダクティブライツ(2)
- 第3回 リプロダクティブヘルス／リプロダクティブライツ(3)
- 第4回 リプロダクティブヘルス／リプロダクティブライツ(4)
- 第5回 妊娠の生理(1)
- 第6回 妊娠の生理(2)
- 第7回 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠(1)
- 第8回 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠(2)
- 第9回 妊娠期の助産診断の特徴
- 第10回 妊娠期のフィジカルアセスメント
- 第11回 日常生活適応への看護
- 第12回 親になる準備への看護
- 第13回 分娩の生理
- 第14回 産婦の心理と家族関係 産婦の健康
- 第15回 分娩期の助産診断の特徴 分娩期のフィジカルアセスメント(1)
- 第16回 分娩期のフィジカルアセスメント(2)
- 第17回 分娩期の異常のアセスメントと看護(2)
- 第18回 分娩期の看護
- 第19回 分娩期の異常・偶発疾患と看護(1)
- 第20回 分娩期の異常・偶発疾患と看護(2)
- 第21回 産褥期の生理
- 第22回 産褥期のフィジカルアセスメント
- 第23回 新生児の適応生理
- 第24回 新生児期のフィジカルアセスメント
- 第25回 進行性変化と母乳育児
- 第26回 産褥期・新生児期のアセスメントと看護(1)
- 第27回 産褥期・新生児期のアセスメントと看護(2)
- 第28回 産褥期・新生児期のアセスメントと看護(3)
- 第29回 産褥期・新生児期のアセスメントと看護(4)
- 第30回 まとめ

## 履修上の注意点

1. 事前に指示された課題は必ず行ってから授業に臨むこと 2. グループワークでは、メンバー全員で協力して課題に取り組むこと 3. 再試験は行わない

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

助産師基礎教育テキスト4～7

著者:

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2018 ISBN:

新訂第4版 マタニティアセスメントガイド

著者: 吉沢 豊予子 他

出版社: 真興交易医書出版部

出版年: 2016 ISBN:

改訂2版 胎児心拍数モニタリング講座 大事なサインを見逃さない!

著者: 藤森 敬也

出版社: メディカ出版

出版年: 2011 ISBN:

今日の助産ーマタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版

著者: 北川 真理子 他

出版社: 南江堂

出版年: 2013 ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50% )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 10% )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 生徒指導論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 井ノ口 貴史	
テーマ 生徒指導の理論と実践を学ぶ	
授業の到達目標 生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題について具体的に学校現場で一般的に見られる生徒指導のあり方を事例を通して学ぶことを目的とする。	
授業の概要 生徒指導上、学校現場で養護教諭に期待される役割、学級担任のクラス経営の事例、生徒会指導についてを学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。	
内 容 第1回 生徒指導の領域と内容— いわゆる「教育困難校」の一日 第2回 生徒指導の意義 — 校務分掌と組織(生徒指導体制は?) 第3回 生徒指導の方法 — ゼロ・トレランス方式を考える 第4回 グループ討議:ゼロ・トレランス方式に賛成か反対か? 第5回 養護教諭の一日 — 養護教諭が生徒指導に果たす役割を考えてみよう 第6回 グループ討議:養護教諭は生徒指導場面でどのような役割を果たせるだろうか? 第7回 養護教諭の立場から、学校現場の生徒指導の在り方考える 第8回 グループ討議:いじめや不登校に対する指導を手がかりにして養護教諭の役割を考えよう 第9回 生徒指導提要を読む:学級担任・ホームルーム担任の指導 第10回 生徒指導提要を読む:特別活動における生徒指導 第11回 グループ討議:生徒を取り巻く社会と現実を考える 第12回 生徒指導提要を読む:個別の課題を抱える児童生徒の指導(喫煙・飲酒・薬物乱用) 第13回 生徒指導提要を読む:個別の課題を抱える児童生徒の指導(性に関する課題) 第14回 子どもの学校参加 — 問題行動(授業妨害や校則違反、いじめや暴力行為)を克服するための試み 第15回 ケーススタディ — 摂食障害の生徒とその保護者、学級担任に対し、どのようなアドバイスをすべきか?	
履修上の注意点	
教科書 生徒指導提要 著者: 文部科学省 出版社: 教育図書 出版年: 平成25年 ISBN: 参考書 授業内で紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト( ) 授業中課題(60) 授業中発表等(10) 参加度(30)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 看護学原論Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子・小坂橋 喜久代	
テーマ	
<p>これまでの学び、自らの経験を総括して、看護を通しての自立・共生・臨床智を活かした創造活動としての看護(学)について内省し探求する機会とする。改めて、実践科学の担い手として、社会の中での仕事の意味を考えることで、自らを発展させる能力と自己研鑽の必要性を確認し、職業人としての使命を自覚し涵養する。</p>	
授業の到達目標	
<p>1.保健医療福祉における看護の機能と看護活動のあり方について説明できる。2.社会政策やの変革の方向を理解し、看護を発展させていくことの重要性を説明できる。3.専門職としてのキャリア発達の過程や生涯学習の意義について説明できる。4.専門職としての自己学習、自己教育力の意義を説明できる。5.看護職の発展の方向性について自分なりの意見を説明できる。</p>	
授業の概要	
<p>卒業を控え、4年間の学習の振り返り、看護の専門性と機能・役割を再考する。看護専門職としての社会における役割を認識し、社会に出た後も自ら発展できる能力を養う素地を培う。そのために、看護を取り巻く社会や政策、自己の研鑽の必要性を確認し、また、看護の対象である人々の声に耳を傾け、看護職者に求められる使命を追究する。</p>	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	看護における法的側面1
第2回	看護における法的側面2
第3回	社会政策と看護政策
第4回	専門職としての看護組織(京都府看護協会ゲストスピーカー)
第5回	薬害被害について(ゲストスピーカー)
第6回	患者の立場から考える医療(ゲストスピーカー)
第7回	21世紀に求められる看護
第8回	まとめ
履修上の注意点	
<p>みなさんには、初めての授業を担当します、基礎看護学領域の、小坂橋です。4回生になり学習内容も深まるとともに、大きな疑問も出てきていることでしょうか。看護学原論Ⅱでは、1回生に入っところからの学びの総決算として、もう一度、看護の原点を問い直すという作業に取り組んでみたいと思います。授業概要と、授業の展開方法についてご案内します。有意義なグループワークを進めるために、事前学習課題を持ち寄ってください。＜展開の仕方＞・4回(各2コマ)に分けて授業展開します。・毎回のテーマについて、個人個人が事前学習とそのレポートを作成します。・事前学習課題のレポートを作成するときには、個人のサブテーマ(焦点となる課題)を決めて、なぜその課題を取り上げたのか、どのような疑問があるのか、提案したいことは何か、参考文献(インターネット情報も含む)、など具体的に述べてください。毎回のテーマと検討の視点を参考にしてください。しかし、独自の検討の視点を挙げてもらうことを大いに推奨します。・グループへの話題提供を行うとともに、ディスカッションの焦点課題を明示します。当日のグループワークにより、持ち寄ったレポートを検討し、課題を深め、グループとしての成果をまとめ、発表します。・実習体験からの疑問やマスコミあるいは社会の変化、社会のニーズ、広く看護を取り巻く状況についての情報を受けて、検討してみたいと思うことを、積極的に取り上げてみましょう。・グループ編成は、キャリアⅥのグループで行います。</p>	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート(60)	小テスト( )
授業中課題(40)	授業中発表等( )
参加度( )	
グループディスカッション、事前学習等を鑑みて総合的に評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中橋 苗代

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡田 純子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 信行

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野島 敬祐

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*f〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 マルティネス 真喜子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*g〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 望月 紀子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*h〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 深山 つかさ

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

a70104a358

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*ⅰ〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*j〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中島 登美子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*k〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*Ⅰ〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 竹下 夏美

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*m〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 神崎 光子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ &lt;\*n&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 工藤 里香

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*o〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*p〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上澤 悦子

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*q〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 富永 真己

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内 容

- 第1回 講義:看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ &lt;\*r&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

## 授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

## 授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( )



参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈\*s〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第23回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第24回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第25回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表、論文作成
- 第28回 研究発表、論文作成
- 第29回 研究発表、論文作成
- 第30回 研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( )

参加度 ( )

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

---

2017 Syllabus
---------------

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈a〉**

クラス	配当回生 学部4回生
-----	------------

講義期間 後期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 梶谷 佳子	
-----------	--

**テーマ**

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

**授業の到達目標**

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

**授業の概要**

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

**準備学習(予習・復習)**

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

**内 容**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

**履修上の注意点**

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

**教科書**

**参考書**

**成績評価**

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 70 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( )	
参加度 2/3以上	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <b>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中橋 苗代

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( )

参加度 2/3以上

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <c>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 岡田 純子

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( )

参加度 2/3以上

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <d>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 奥野 信行

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <e>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野島 敬祐

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( )

参加度 2/3以上

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈ⅴ〉**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 マルティネス 真喜子

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈g〉**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 望月 紀子

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( )

参加度 2/3以上

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈h〉**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 深山 つかさ

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <i>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

2017 Syllabus
---------------

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <j>**

クラス	配当回生 学部4回生								
講義期間 後期	定 員								
履修条件	クラス指定								
担当者 中島 登美子									
<p>テーマ</p> <p>これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。</p>									
<p>授業の到達目標</p> <p>1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。</p>									
<p>授業の概要</p> <p>これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。</p>									
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。</p>									
<p>内 容</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて  第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について  第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする  第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する  第6回 学習計画を実施する(1)  第7回 学習計画を実施する(2)  第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)  第9回 学習計画を実施する(3)  第10回 学習計画を実施する(4)  第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)  第12回 学習計画を実施する(5)  第13回 学習計画を実施する(6)  第14回 学習計画を実施する(7)  第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。</p>									
<p>履修上の注意点</p> <p>学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)</p>									
<p>教科書</p>									
<p>参考書</p>									
<p>成績評価</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">試験・レポート ( )</td> <td style="width: 50%;">小テスト ( )</td> </tr> <tr> <td>授業中課題 ( 70 )</td> <td>授業中発表等 ( 30 )</td> </tr> <tr> <td>参加度 ( )</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加度 2/3以上</td> <td></td> </tr> </table>		試験・レポート ( )	小テスト ( )	授業中課題 ( 70 )	授業中発表等 ( 30 )	参加度 ( )		参加度 2/3以上	
試験・レポート ( )	小テスト ( )								
授業中課題 ( 70 )	授業中発表等 ( 30 )								
参加度 ( )									
参加度 2/3以上									

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)<k>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀 妙子

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <I>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 竹下 夏美

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <m>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 神崎 光子

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <n>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 工藤 里香

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <o>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 常田 裕子

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 70 )  
 参加度 ( )  
 参加度 2/3以上

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <p>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上澤 悦子

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( )

参加度 2/3以上

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <q>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 富永 真己

## テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

## 授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

## 準備学習(予習・復習)

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。(現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。)

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( )

参加度 2/3以上

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <r>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 学習計画を実施する(1)
- 第7回 学習計画を実施する(2)
- 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1)
- 第9回 学習計画を実施する(3)
- 第10回 学習計画を実施する(4)
- 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2)
- 第12回 学習計画を実施する(5)
- 第13回 学習計画を実施する(6)
- 第14回 学習計画を実施する(7)
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( )

参加度 2/3以上

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <s>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
<b>授業の到達目標</b> 1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。	
<b>授業の概要</b> これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。	
<b>準備学習(予習・復習)</b>	
<b>内 容</b> 第1回 オリエンテーション 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて 第3回 看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する 第6回 学習計画を実施する(1) 第7回 学習計画を実施する(2) 第8回 実施を評価し、計画を修正する(1) 第9回 学習計画を実施する(3) 第10回 学習計画を実施する(4) 第11回 実施を評価し、計画を修正する(2) 第12回 学習計画を実施する(5) 第13回 学習計画を実施する(6) 第14回 学習計画を実施する(7) 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。	
<b>履修上の注意点</b>	
<b>教科書</b>	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価</b> 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 70 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( ) 参加度 2/3以上	

## 2017 Syllabus

## 科目名 看護教育学Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子	
テーマ	
1.看護継続教育 2.看護職のキャリア発達・開発	
授業の到達目標	
1.看護基礎教育・看護継続教育について理解する。 2.看護職のキャリア発達・開発と教育機会について理解する。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 オリエンテーション, 授業の進め方	
第2回 看護教育についての外観	
第3回 看護基礎教育	
第4回 キャリア発達・開発	
第5回 看護継続教育①－制度化された教育	
第6回 看護継続教育②－現任教育	
第7回 キャリア発達・開発につながる教育機会 グループによる課題学習①大学院, 海外留学, 現任教育, 資格取得(専門看護師, 認定看護師, 認定看護管理者等), 起業等	
第8回 グループによる課題学習②	
第9回 グループによる課題学習③	
第10回 グループによる課題学習④	
第11回 学習内容の共有－発表①	
第12回 学習内容の共有－発表②	
第13回 学習内容の共有－発表③	
第14回 看護教育の視点からのキャリア発達・開発	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
グループによる課題学習は, 図書館, インターネット等の情報を活用する。	
教科書	
参考書	
看護師のキャリア論	
著者: 藤原裕美子	
出版社: ライフサポート社	
出版年: 2007	ISBN:
キャリア・ダイナミクス	
著者: Schein, Edbar H.(二村敏子, 三善勝代訳)	
出版社: 白桃書房	
出版年: 1991	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (20%)	小テスト (0%)
授業中課題 (40%)	授業中発表等 (20%)
参加度 (20%)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 高度実践看護論

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀 妙子・梶谷 佳子	
テーマ	
<p>実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2. 実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅲ-1～5などで経験した事をもとに、臨地で行われていた看護を振り返り、高度実践看護のあり方について学ぶ。</p>	
授業の到達目標	
<p>1. 看護専門職の専門性を発展させていくことの必要性について説明できる 2. 専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理 していく必要性について説明できる 3. 高度実践看護を行うための基礎となる、様々な健康課題を有する患者の全身状 態の査定方法、および看護援助方法について説明できる 4. 高度実践看護を行うための基礎となる、看護技術を理解し実施できる 5. チーム医療における看護及び多職種役割を理解し、対象者を中心とした協働 のあり方について説明できる</p>	
授業の概要	
<p>高度実践看護に関する講義及びディスカッションを行うとともに、高度実践看護の実践を想定した、シミュレーション事例をグループで作成し、実際にシミュレーションを実施し、その評価を行う。</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>4回生前期までに学んだことを全て活用しながら行う授業です。実習を中心として学びの振り返りを必ず行ってから、参加して下さい。</p>	
内 容	
<p>第1回 オリエンテーション 高度実践看護とは  第2回 日本における高度実践看護師と専門看護師の教育制度・役割と機能  第3回 高度実践看護とチーム医療  第4回 専門看護師の活動の実際と課題  第5回 シミュレーション事例作成に関するオリエンテーション  第6回 シミュレーション事例の作成①  第7回 シミュレーション事例の作成②  第8回 シミュレーション事例の作成③  第9回 シミュレーション事例の作成④  第10回 シミュレーション事例の作成⑤  第11回 事例に対する看護演習①  第12回 事例に対する看護演習②  第13回 事例に対する看護演習③  第14回 事例に対する看護演習④  第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	
<p>この授業は、主体的に学ぶ姿勢を重視していますので、高度実践看護に対する関心を持って受講するように</p>	
教科書	
<p>使用しない  著者:  出版社:  出版年: ISBN:  参考書</p>	
<p>使用しない  著者:  出版社:  出版年: ISBN:</p>	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 50% )
参加度 ( 50% )	
特になし	



## 2017 Syllabus

## 科目名 助産技術学

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期集中	定員 10
履修条件	クラス指定

担当者 常田 裕子.上澤 悦子.神崎 光子.工藤 里香

## テーマ

周産期看護を根拠に基づいて計画的に実践する基礎的な助産技術を養う

## 授業の到達目標

1 周産期の健康の保持増進および異常の予防のために必要な助産を理解し、経過に沿った診断に基づいて実践できる 2 家族形成期にある母児および家族の発達課題について理解し、必要な助産を診断に基づいて実践できる 3 妊娠・分娩・育児期の母児と家族の健康状態、健康課題、発達課題を身体的、心理的、社会的側面から理解し、必要な助産を診断に基づいて実践できる 4 個人の特性および地域の特性に対応した健康のための環境づくりのニーズを診断し、それに基づいた支援を実践できる

## 授業の概要

周産期における母児と家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、妊娠・分娩・産褥の経過に沿った母児及び家族の健康問題と課題に関するニーズを満たす助産技術を学ぶ。

## 準備学習(予習・復習)

○既習得の周産期看護に関連する知識及び技術(バイタルサインの測定・正式・浣腸・導尿・ガウンテクニック・滅菌操作・手洗い・妊婦計測・レオポルド触診・乳房の観察等)の復習及び各回の授業に該当するテキスト・参考図書は事前に確認の上、授業に臨むこと ○授業で学習した各技術は、自己演習を通して確実に手技を習得すること

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 分娩経過と助産ケア(復習)
- 第2回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで)(1)
- 第3回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで)(2)
- 第4回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで)(3)
- 第5回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで)(4)
- 第6回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで)(5)
- 第7回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで):ロールプレイ(1)
- 第8回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで):ロールプレイ(2)
- 第9回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで):ロールプレイ(3)
- 第10回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで):ロールプレイ(4)
- 第11回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで):ロールプレイ(5)
- 第12回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで):ロールプレイ(6)
- 第13回 分娩介助方法(入院～分娩終了まで):ロールプレイ(7)
- 第14回 分娩監視装置の判読方法
- 第15回 分娩経過の診断と技術(事例検討:正常)(1)
- 第16回 分娩経過の診断と技術(事例検討:正常)(2)
- 第17回 模擬患者演習(1)
- 第18回 模擬患者演習(2)
- 第19回 分娩介助方法:ロールプレイ(上記演習時にVTRを撮影し、検討)
- 第20回 分娩経過の診断と技術(事例検討:異常)(1)
- 第21回 分娩経過の診断と技術(事例検討:異常)(2)
- 第22回 新生児蘇生法(基礎知識)
- 第23回 新生児蘇生法(実技:アセスメントと方法)
- 第24回 妊娠期～産褥期の継続的な看護(1)(産褥期における看護展開を含む)
- 第25回 妊娠期～産褥期の継続的な看護(2)(産褥期における看護展開を含む)
- 第26回 妊娠期～産褥期の継続的な看護(3)(産褥期における看護展開を含む)
- 第27回 産褥期の退院指導および継続看護(新生児訪問、地域連携含む)の方法
- 第28回 継続看護の事例検討
- 第29回 助産技術のまとめ(事例とその対応)
- 第30回 助産技術のまとめ(事例とその対応)なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある

## 履修上の注意点

全回出席が原則です。第2実習室での演習が中心となります。グループワーク及び演習では、受講者全員で協力しながら主体的に取り組むこと 実践看護学Ⅲ及び助産診断学の授業資料など授業に関連する資料は持参すること

## 教科書

助産師基礎教育テキスト2017年版第4巻

著者: 森恵美

出版社: 日本看護協会出版会

- 出版年： 2017 ISBN：  
 助産師基礎教育テキスト2017年版第6巻  
 著者： 横尾京子  
 出版社： 日本看護協会出版会  
 出版年： 2017 ISBN：  
 助産師基礎教育テキスト2017年版第7巻  
 著者： 遠藤俊子  
 出版社： 日本看護協会出版会  
 出版年： 2017 ISBN：  
 新生児蘇生法テキスト第3版  
 著者： 細野茂春(監修)  
 出版社： メジカルビュー社  
 出版年： 2016 ISBN：  
 今日の助産 改訂第3版  
 著者： 北村真理子ら  
 出版社： 南江堂  
 出版年： 2013 ISBN：
- 参考書
- 助産師基礎教育テキスト2017年版第1巻  
 著者： 山本あい子  
 出版社： 日本看護協会出版会  
 出版年： 2017 ISBN：  
 助産師基礎教育テキスト2017年版第2巻  
 著者： 吉沢豊予子  
 出版社： 日本看護協会出版会  
 出版年： 2017 ISBN：  
 助産師基礎教育テキスト2017年版第3巻  
 著者： 成田伸  
 出版社： 日本看護協会出版会  
 出版年： 2017 ISBN：  
 助産師基礎教育テキスト2017年版第5巻  
 著者： 町浦美智子  
 出版社： 日本看護協会出版会  
 出版年： 2017 ISBN：  
 胎児心拍数モニタリング集中トレーニング  
 著者： 池田智明  
 出版社： メディカ出版  
 出版年： 2010 ISBN：  
 最新産科学正常編改訂第22版  
 著者： 荒木勤  
 出版社： 文光堂  
 出版年： 2008 ISBN：  
 最新産科学異常編改訂第22版  
 著者： 荒木勤  
 出版社： 文光堂  
 出版年： 2012 ISBN：  
 プリンシプル産科婦人科学 2産科編第3版  
 著者： 武谷 雄二ら監修  
 出版社： メジカルビュー社  
 出版年： 2014 ISBN：

---

 成績評価

試験・レポート ( 100 )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 看護倫理Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件 「看護倫理Ⅰ」を修得済み	クラス指定
担当者 梶谷 佳子	
テーマ	
看護倫理Ⅰを踏まえ、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における倫理的課題について考察する。	
授業の到達目標	
1. 事例検討を通して、倫理観に基づく看護実践について考察する。 2. グループディスカッションにおいて、自身の看護倫理に関する考えを述べる事ができる。 3. ケアリング倫理について考える事ができる。	
授業の概要	
・3回生で学んだ内容を深めます。・日常的な看護実践で遭遇する倫理的な状況について察知し、深く考察することを目指します。・日常どこにでもある現象を看護倫理の視点で見つめることで、これまでの看護実践に意味を付加せる事ができます。	
準備学習(予習・復習)	
・これまでの実習の振り返りをします。・メディアで取り上げられている倫理的な課題について考察します。	
内 容	
第1回	看護者の倫理綱領について確認
第2回	実習や新聞やテレビやインターネットの情報を倫理的視点でまとめる
第3回	グループでテーマを取り上げて、倫理的検討を行う①
第4回	グループでテーマを取り上げて、倫理的検討を行う②
第5回	グループでテーマを取り上げて、倫理的検討を行う③
第6回	発表会でグループテーマ、ディスカッションの内容を報告する①
第7回	発表会でグループテーマ、ディスカッションの内容を報告する②
第8回	まとめ
履修上の注意点	
・グループディスカッションを重視しますので、積極的に参加してください。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20%)	授業中発表等 ( 30%)
参加度 ( 50%)	
・グループワーク参加度を重視しつつ発表、課題も合わせて評価します。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 医療リスクマネジメント

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山野 薫	
テーマ	・医療における安全とその管理の概要について。・理学療法士が臨床で対応するリスクマネジメントについて。
授業の到達目標	1. 医療における安全とその管理の概要を理解し説明できる。2. 医療の質を向上させることとリスクマネジメントの関係性について理解し説明できる。3. 各種治療におけるリスクおよび事故防止方法について理解し説明できる。4. 理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について理解し説明できる。
授業の概要	医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。
準備学習(予習・復習)	授業後にテキストや参考書で知識を深め、ノートの内容を充実させるため、補足しておくこと。
内 容	第1回 医療における安全とその管理の概要 第2回 医療の質とリスクマネジメントの関係 第3回 診療記録の共有(公開)とリスクマネジメント 第4回 医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因 第5回 チーム医療におけるリスクマネジメントのあり方 第6回 理学療法士の業務における感染症の概要と対策 第7回 理学療法士の業務における医療機器の安全管理 第8回 病院施設の管理体制(医療安全・感染症)と理学療法士の業務 第9回 単位認定試験
履修上の注意点	本授業は、理学療法士(医療職)の養成の一端を担っています。理学療法士(医療職)は、患者さんやその家族との信頼関係を構築することが何よりも重要です。それには、その人の誠実さが第一ですので、「繰り返し遅刻」、「授業中の私語」、「あかさな居眠り」等は厳しくチェックし、参加度20%に含めて成績に反映させます。
教科書	理学療法リスク管理・ビューポイント 著者： 丸山仁司(編集) 出版社： 文光堂 出版年： 2007 ISBN: 9.78483E+12
参考書	リハビリテーション リスク管理ハンドブック 著者： 亀田メディカルセンター(編集) 出版社： MEDICAL VIEW 出版年： 2008 ISBN: 9.78476E+12 在宅・訪問リハビリテーション リスク管理実践テキスト 著者： 石黒友康・他(監修) 出版社： 診断と治療社 出版年： 2009 ISBN: 9.78479E+12 リスク管理 その統合と解釈 著者： 嶋田智明・他(常任編集) 出版社： 文光堂 出版年： 2010 ISBN: 9.78483E+12
成績評価	試験・レポート (80%) 小テスト (実施しない)

授業中課題（実施しない）

授業中発表等（参考にする）

参加度（20%）

全授業回数の3分の2以上の出席がないものは、単位認定試験の受験資格を与えないものとする。忌引きや公休については、教務部に申請の上、科目担当者へ届け出ることとする。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 林正 健二	
テーマ	理学療法の実践に必要な、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を修得する。
授業の到達目標	1. 構造(解剖学)に関する知識を機能(生理学)に関連させる習慣を養う。2. 細胞、組織、器官に関する知識を統合して、生体特有の合目的性と恒常性を理解する。
授業の概要	事前に配付する予習用プリントとテキストで予習をした上で演習に臨む。講義ではなく演習なので、演習ではプリントとテキストに関連した質問を行うのでそれに答える。終了後、次回に前回の内容に関する小テストを行うので、復習も毎回必要である。
準備学習(予習・復習)	高校時代、理系の科目の予習をした経験が無い学生が多いので、どのように予習すればよいかは、演習中に解説する。1回につき1時間以上の予習時間が必要である。復習時間は理解の程度により自分で判断できる。
内 容	<p>第1回 細胞(人体を構成するしくみ1)</p> <p>第2回 組織(人体を構成するしくみ2)</p> <p>第3回 皮膚と膜(体や臓器を守るしくみ1)</p> <p>第4回 皮膚と膜(体や臓器を守るしくみ2)</p> <p>第5回 骨格系1(骨の構造と機能)</p> <p>第6回 骨格系2(頭蓋、胸郭、脊柱)</p> <p>第7回 骨格系3(上肢帯と上肢)</p> <p>第8回 骨格系4(骨盤と下肢)</p> <p>第9回 筋系1(筋の構造と機能)</p> <p>第10回 筋系2(頭部、頸部、胸部)</p> <p>第11回 筋系3(上肢、背部)</p> <p>第12回 筋系4(腹部、下肢)</p> <p>第13回 神経系1(神経系の構造と機能)</p> <p>第14回 神経系2(中枢神経系と末梢神経系)</p> <p>第15回 感覚器系1(視覚)</p> <p>第16回 感覚器系2(聴覚他)</p>

## 履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする

## 教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学

著者： 林正健二他

出版社：メディカ出版

出版年：2016

ISBN:

プロメテウス解剖学解剖学総論・運動器系

著者： 坂井建雄他訳

出版社：医学書院

出版年：2013

ISBN:

## 参考書

イラスト解剖学

著者： 松村譲児

出版社：中外医学社

出版年：2014

ISBN:

日本人体解剖学(上巻)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年: 2000

ISBN:

ギャング生理学

著者: 岡田泰伸監訳

出版社: 丸善出版

出版年: 2014

ISBN:

人体の構造と機能

著者: 林正健二他訳

出版社: 医学書院

出版年: 2016

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

中間・期末試験90%(4肢または5肢択一式の客観試験)、小テスト10%(主に穴埋め形式)

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 人体の構造と機能演習Ⅱ(呼吸・循環系、消化系など)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 林正 健二

## テーマ

理学療法の実践に必要な、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を修得する。

## 授業の到達目標

1. 構造(解剖学)に関する知識を機能(生理学)に関連させる習慣を養う。2. 細胞、組織、器官に関する知識を統合して、生体特有の合目的性および恒常性を理解する。

## 授業の概要

事前に配付する予習用プリントとテキストで予習をした上で演習に臨む。講義ではなく演習なので、予習は必須である。演習ではプリントとテキストに関連した質問を行うので、それに答える。終了後、次回に前回の内容に関する小テストを行うので、復習も毎回必要である。

## 準備学習(予習・復習)

授業の概要に述べた予習と復習の仕方は、実際の演習で確認できる。1回につき1時間以上の予習が必要であり、復習は理解の程度によって自分で判断できる。

## 内 容

- 第1回 血液の成分(血球、血漿、造血)
- 第2回 血液の機能(凝固、線溶、血液型)
- 第3回 循環器系(心臓の構造と機能)
- 第4回 循環器系(血管とリンパ系)
- 第5回 呼吸器系(鼻、咽頭、喉頭、肺)
- 第6回 呼吸器系(換気とガスの運搬、内呼吸と外呼吸、呼吸の調節)
- 第7回 消化器系(食欲と咀嚼・嚥下、口腔、歯、咽頭、食道)
- 第8回 消化器系(胃・小腸・肝臓・膵臓の構造と機能)
- 第9回 消化器系(消化と吸収、大腸の構造と機能)
- 第10回 泌尿器系(腎臓の機能と働き、尿管・膀胱・尿道と排尿の生理)
- 第11回 生殖器系(女性生殖器の構造と機能、性周期)
- 第12回 生殖器系(妊娠・出産、乳腺の構造と機能、男性生殖器の構造と機能)
- 第13回 内分泌系(視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体)
- 第14回 内分泌系(副腎、性腺、消化管、腎臓、胸腺、その他)
- 第15回 免疫系

## 履修上の注意点

演習中、私語と飲食は厳禁。欠席した場合、プリント配付の有無を友人に聞いて確認し、配付された場合は教員の研究室(E620)に取りに来る事。演習中は質問の時間が取れないので、毎回配付するアンケート用紙に記入して提出して下さい。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

## 教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 林正健二他

著者:

出版社: メディカ出版

出版年: 2016

ISBN:

## 参考書

イラスト解剖学

著者: 松村譲児

出版社: 中外医学社

出版年: 2014

ISBN:

日本人体解剖学(下巻)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年: 2000

ISBN:

ギャング生理学

著者： 岡田泰伸監訳

出版社： 丸善出版

出版年： 2014

ISBN:

人体の構造と機能

著者： 林正健二他訳

出版社： 医学書院

出版年： 2016

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

中間・期末試験90%(4肢又は5肢択一の客観試験)、小テスト10%(穴埋め形式)

---

## 2017 Syllabus

科目名 **運動学**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 甲斐 義浩	
テーマ	
四肢・体幹における関節の解剖学的構造とその運動について理解する。	
授業の到達目標	
1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。	
授業の概要	
解剖生理学で学んだ知識をベースにしなが、運動器を主とする障害学の基礎となる、人間の正常状態における身体運動のメカニズムについて理解を深める。具体的にはまず、身体運動を理解するために必要な力学、骨・関節・筋・神経系を中心とした運動器の構造と機能を教授し、その上で、上肢、下肢および体幹の各部位における運動学について概説する。	
準備学習(予習・復習)	
当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 キネシオロジーの基本原則(1)	
第3回 キネシオロジーの基本原則(2)	
第4回 骨関節の構造と機能(1)	
第5回 骨関節の構造と機能(2)	
第6回 骨格筋の構造と機能(1)	
第7回 骨格筋の構造と機能(2)	
第8回 肩関節複合体の構造と機能(1)	
第9回 肩関節複合体の構造と機能(2)	
第10回 肩関節複合体の構造と機能(3)	
第11回 肘・前腕複合体の構造と機能(1)	
第12回 肘・前腕複合体の構造と機能(2)	
第13回 手関節の構造と機能(1)	
第14回 手関節の構造と機能(2)	
第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
授業の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。	
教科書	
基礎運動学 第6版	
著者: 中村 隆一・他	
出版社: 医歯薬出版株式会社	
出版年: 2013	ISBN:
エッセンシャル・キネシオロジー 第2版	
著者: Mansfield PJ・他(著)弓岡光徳・他(訳)	
出版社: 南江堂	
出版年: 2015	ISBN:
参考書	
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第2版	
著者: 坂井建雄・他	
出版社: 医学書院	
出版年: 2011	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (100%)	小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **病理学(理学)**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 宮本 尚		
テーマ 疾病の成り立ち、徴候、予後について		
授業の到達目標 疾病の本質を探究する学問である「病理学」に関する正しい知識を身に付ける。		
授業の概要 病理学の概要、疾病の総論的解説、更に諸臓器の障害を引き起こす様々な疾病につき解説する。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 総論1-6:概要 第2回 総論7-8:免疫、炎症・感染症 第3回 総論4:腫瘍 第4回 総論11:老化 第5回 総論10:放射線障害 第6回 総論12:先天異常、奇形 第7回 各論1:循環器 第8回 各論2:呼吸器 第9回 各論3:消化器 第10回 各論4:神経系 第11回 各論5:運動器 第12回 各論6:泌尿器・生殖器 第13回 各論7:代謝・内分泌系 第14回 各論8:造血器 第15回 各論9:皮膚・感覚器		
履修上の注意点 3分の1以上の欠席を認めない(原則として)		
教科書 標準理学療法学・作業療法学「病理学」第3版 著者: 梶原博毅・横井豊治編 出版社: 医学書院 出版年: 2010 ISBN:		
参考書 カラーで学べる病理学 著者: 渡辺照男 出版社: ヌーベルヒロカワ 出版年: 平成21年 ISBN:		
成績評価 試験・レポート ( 80 ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 20 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 リハビリテーション概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之・富田 素子・中谷 謙・真下 いずみ・窓場 勝之

テーマ

「リハビリテーション」とは何か、その本質と仕組みの理解

授業の到達目標

リハビリテーション医学が、歴史的にどのように発展したかを考察することにより、リハビリテーションが医師や作業療法士などの異業種を包括したチームとして活動するチームアプローチであることを理解する。その中で、理学療法士がどのようにチーム活動に寄与できるかを考えながら、これから学んでいく理学療法についてその道しるべとなるよう全体像を形成する。

授業の概要

(富田素子・他／8回)リハビリテーション医学の定義と歴史を講義した上で、脳・脊髄・神経・運動器・外傷・内部障害・小児疾患などの障害に関する診断・検査・評価および治療プロセスについて学び、関連職との関わりについて教授する。(児玉隆之／7回)リハビリテーションの定義・理念・目的・歴史、障害の概念と分類、障害の心理・社会的側面、リハビリテーションのプロセス・段階・職種、リハビリテーションとチーム医療の関わりなど、リハビリテーションの現状を教授する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 リハビリテーション医学の歴史
- 第2回 リハビリテーション医学の定義・概念
- 第3回 リハビリテーション医学における理学療法①
- 第4回 リハビリテーション医学における理学療法②
- 第5回 リハビリテーション医学における作業療法①
- 第6回 リハビリテーション医学における作業療法②
- 第7回 リハビリテーション医学における言語聴覚療法①
- 第8回 リハビリテーション医学における言語聴覚療法②
- 第9回 リハビリテーションの概念・理念・定義
- 第10回 「健康と障害」の概念と分類
- 第11回 障害の心理、心理的・社会的問題と受容
- 第12回 リハビリテーション過程
- 第13回 リハビリテーションの諸段階
- 第14回 リハビリテーション専門職種とチームアプローチ
- 第15回 ADL, QOLの概念

履修上の注意点

講義資料は適宜配布する

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 保健医療福祉論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 窓場 勝之・並河 孝

テーマ

日本における保健医療福祉に関する政策・制度・法律についての基礎的理解

授業の到達目標

1. 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病予防のための活動を説明できる。2. 地域の保健医療福祉論政策について理解し、保健、医療、福祉の連携やその中で専門職が担う活動や役割を説明できる。

授業の概要

授業方法は座学やグループディスカッションを考えています。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 我が国での社会保険制度について
- 第2回 リハビリテーションにおける医療制度Ⅰ
- 第3回 リハビリテーションにおける医療制度Ⅱ
- 第4回 今後の医療保険制度について

履修上の注意点

教科書

参考となる書籍や文献などは授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (80)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

3分の1以上の欠席を認めない。

## 2017 Syllabus

## 科目名 理学療法概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 松尾 奈々

## テーマ

理学療法学および理学療法士の職能について基礎的な理解を促進する。

## 授業の到達目標

本講義では、理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、治療のプロセスや方法をはじめ、4年間のうちに習得する知識、技術の基礎となる事柄を学習する。

## 授業の概要

我が国の社会保障制度の概要、リハビリテーション医学および理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、障害評価や治療のプロセスおよび方法など、4年間の理学療法教育の基礎的事項を学習する。

## 準備学習(予習・復習)

教科書、参考書にとどまらず、興味のあるリハビリテーション関連書籍を読み、理解を深めて欲しい。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 リハビリテーションと理学療法—その歴史と思想—
- 第3回 理学療法の対象(日本の人口動態、障害の構造—ICIDHとICF—、対象)
- 第4回 理学療法の手段について(運動療法、ADL、義肢装具、物理療法)
- 第5回 理学療法の手段について(運動療法、ADL、義肢装具、物理療法)
- 第6回 理学療法士の関連職種と関連領域およびチーム医療について
- 第7回 理学療法士の関連職種と関連領域およびチーム医療について
- 第8回 施設基準と診療報酬、分野
- 第9回 世界の理学療法とリハビリテーションの情勢
- 第10回 理学療法士に関する法律
- 第11回 理学療法士の資質について考える
- 第12回 理学療法士の資質について考える
- 第13回 理学療法士の資質について共有する
- 第14回 理学療法士の資質について共有する
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

遅刻や欠席の際は、分かった時点で必ず担当教員に連絡すること。

## 教科書

シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト

著者: 細田多穂

出版社: 南江堂

出版年: 2013

ISBN: 9.78452E+12

## 参考書

リハビリテーションの思想—人間復権の医療を求めて

著者: 上田敏

出版社: 医学書院

出版年: 2004

ISBN:

リハビリテーション 新しい生き方を創る医学

著者: 上田敏

出版社: 講談社

出版年: 1996

ISBN:

ICF(国際生活機能分類)の理解と活用—一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか

著者: 上田敏

出版社: きょうされん

出版年: 2005

ISBN:



ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版

著者： 障害者福祉研究会

出版社： 中央法規出版

出版年： 2002

ISBN:

ICF(国際生活機能分類)活用の試み

著者： 国立特別支援教育総合研究所

出版社： ジアース教育新社

出版年： 2005

ISBN:

---

#### 成績評価

試験・レポート（80%）

小テスト（ ）

授業中課題（10%）

授業中発表等（ ）

参加度（10%）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。試験成績のみならず、レポート課題成績も成績評価に含まれる。連絡なき遅刻・欠席は参加度評価の対象となります。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 理学療法技術学入門演習 I (骨・関節の触察)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 純弥・松尾 奈々	

## テーマ

骨関節疾患の評価・治療ができるようになるために、機能解剖学と体表からの触診を演習形式で学習する。

## 授業の到達目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形を知る。2. 学習者が視診・触診を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形を認識する。3. 学習者が評価、治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得する。

## 授業の概要

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、骨・関節を中心にそれらの解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

## 準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 総論(運動方向、運動の軸と面、骨の名称、骨・関節の形、触診法)
- 第3回 骨の視診・触診(指骨、手根骨)
- 第4回 手関節の触診
- 第5回 骨の視診・触診(橈骨、尺骨、上腕骨)
- 第6回 肘関節の触診
- 第7回 骨の視診・触診(肩甲骨、鎖骨)
- 第8回 上肢帯と肩関節の触診
- 第9回 骨の視診・触診(脛骨、腓骨、足根骨)
- 第10回 足関節の触診
- 第11回 骨の視診・触診(大腿骨、膝蓋骨)
- 第12回 膝関節の触診
- 第13回 骨の視診・触診(寛骨)
- 第14回 股関節の触診
- 第15回 骨の視診・触診(脊柱)

## 履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリ着用は厳禁とする。パートナーを傷つけないように爪を短く切ること。いつでも実習に行ける服装で来ること。

## 教科書

改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢

著者: 林典雄

出版社: メジカルビュー

出版年: 2011

ISBN: 9.78476E+12

改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹

著者: 林典雄

出版社: メジカルビュー

出版年: 2011

ISBN: 9.78476E+12

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系

著者: 坂井建雄

出版社: 医学書院

出版年: 2011

ISBN: 9.78426E+12

## 参考書

---

成績評価

試験・レポート（50%）

小テスト（実技試験50%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 臨床基礎実習

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥 安彦 鉄平 小田 桐 匡 甲斐 義浩 兒玉 隆之 崎田 正博 白岩 加代子 濱出 茂治 堀江 淳 松尾 奈々 村田 伸 横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。2)対象者とのコミュニケーションをとることができる。  
3)医療従事者として責任および節度のある態度と行動を身につける。4)自身が  
目指す理学療法士像を具体化できる。5)理学療法士が勤務する施設の機能・概要を把握できる。6)学内での講義・実習の意義  
を理解し学習意欲を高める。

授業の概要

第一段階の「入門的」な実習であり、実習指導者の指導・教育のもと見学を中心とした実習を行う。本実習を通して、理学療法士が勤務する病院や施設が果たす社会的役割とその病院、施設における理学療法士の役割や機能の概要を把握する。また、医療従事者間の関係や医療従事者と患者・利用者との関係を見学し、コミュニケーションの重要性についても体験する。自分が目指すべき理学療法士のイメージを形づくり、以降の学習への動機づけとする。さらに理学療法士の業務内容と義務および責任について学び、社会人・保健医療専門職としてのあり方、資質についての理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。

第2回 現場実習

第3回 現場実習

第4回 現場実習

第5回 現場実習

第6回 現場実習

第7回 現場実習

第8回 現場実習

第9回 現場実習

第10回 現場実習

第11回 現場実習

第12回 現場実習

第13回 現場実習

第14回 現場実習

第15回 現場実習

第16回 現場実習

第17回 現場実習

第18回 現場実習

第19回 現場実習

第20回 現場実習

第21回 現場実習

第22回 現場実習

第23回 現場実習

第24回 現場実習

第25回 現場実習

第26回 現場実習

第27回 現場実習

第28回 現場実習

第29回 現場実習

第30回 実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\* a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村田 伸	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*b>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀江 淳	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*c>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。

準備学習(予習・復習)

事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義
- 第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション
- 第4回 1回生次の学び(1);全体講義
- 第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション
- 第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義
- 第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型
- 第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型
- 第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型
- 第10回 レポートの書き方(1);全体講義
- 第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション
- 第12回 グループ発表(1)
- 第13回 グループ発表(2)
- 第14回 グループ発表(3)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ

著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科

出版社: 学術研究出版/ブックウェイ

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*d>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\* e>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 甲斐 義浩

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。

準備学習(予習・復習)

事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義
- 第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション
- 第4回 1回生次の学び(1);全体講義
- 第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション
- 第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義
- 第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型
- 第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型
- 第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型
- 第10回 レポートの書き方(1);全体講義
- 第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション
- 第12回 グループ発表(1)
- 第13回 グループ発表(2)
- 第14回 グループ発表(3)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ

著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科

出版社: 学術研究出版/ブックウェイ

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*f>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 兒玉 隆之	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*g>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 崎田 正博	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*h>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 白岩 加代子	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*i>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*j>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小田桐 匡	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (理学) <\*k>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松尾 奈々	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前資料に目を通しておくこと。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 大学で理学療法を学ぶ(1);全体講義	
第3回 大学で理学療法を学ぶ(2);グループディスカッション	
第4回 1回生次の学び(1);全体講義	
第5回 1回生次の学び(2);グループディスカッション	
第6回 講義ノートの取り方(1);全体講義	
第7回 講義ノートの取り方(2);教科書中心型	
第8回 講義ノートの取り方(3);スライド中心型	
第9回 講義ノートの取り方(4);板書中心型	
第10回 レポートの書き方(1);全体講義	
第11回 レポートの書き方(2);グループディスカッション	
第12回 グループ発表(1)	
第13回 グループ発表(2)	
第14回 グループ発表(3)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ	
著者: 京都橘大学健康科学部理学療法学科	
出版社: 学術研究出版/ブックウェイ	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\* a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村田 伸	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*b>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀江 淳	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*c>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。

準備学習(予習・復習)

事前に資料に目を通しておくこと。

内 容

- 第1回 2回生次の学び(1);全体講義
- 第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション
- 第3回 3回生次の学び
- 第4回 4回生次の学び
- 第5回 情報リテラシー(1);全体講義
- 第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション
- 第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義
- 第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション
- 第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義
- 第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション
- 第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義
- 第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション
- 第13回 グループ発表(1)
- 第14回 グループ発表(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*d>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学)〈\*e〉**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 甲斐 義浩	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*f>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 兒玉 隆之	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*g>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 崎田 正博	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*h>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 白岩 加代子	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*i>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*j>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小田桐 匡	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(理学) <\*k>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松尾 奈々	
テーマ	
大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標	
1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)文章を読み、理解する 2)文章の書き方、レポート作成の基礎 3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) 4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) 5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)理学療法学に関心をもつ	
授業の概要	
前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で、グループディスカッションを通して、学生自身の自覚と責任を高める。	
準備学習(予習・復習)	
事前に資料に目を通しておくこと。	
内 容	
第1回 2回生次の学び(1);全体講義	
第2回 2回生次の学び(2);グループディスカッション	
第3回 3回生次の学び	
第4回 4回生次の学び	
第5回 情報リテラシー(1);全体講義	
第6回 情報リテラシー(2);グループディスカッション	
第7回 パワーポイントの作り方(1);全体講義	
第8回 パワーポイントの作り方(2);グループディスカッション	
第9回 プレゼンテーションの方法(1);全体講義	
第10回 プレゼンテーションの方法(2);グループディスカッション	
第11回 コミュニケーションスキル(1);全体講義	
第12回 コミュニケーションスキル(2);グループディスカッション	
第13回 グループ発表(1)	
第14回 グループ発表(2)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 医学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 宮本 尚	
テーマ	
医学概論: 医学が辿ってきた歴史を振り返る事で、最新の医療の成り立ちを知る	
授業の到達目標	
古代から最新の医療までを系統的に知る事で、臨床現場での医療関係者との円滑な連携、及び患者と家族への対人援助職としての役割の再認識、さらには日本が直面している超高齢者社会及び少子化社会での医療の方向性を学ぶ	
授業の概要	
[テキスト授業/全15回]	
準備学習(予習・復習)	

## 内 容

- 第1回 先史時代の医療～インドの医療(テキスト6～27ページ)  
 第2回 中国の医学～プレ・コロンビアの医学(テキスト27～46ページ)  
 第3回 エジプトの医学～ギリシャの医学(テキスト46～77ページ)  
 第4回 エルトリアの医療～ローマの医学(テキスト77～95ページ)  
 第5回 修道院とビザンチンの医学～アラビアの医学(テキスト95～110ページ)  
 第6回 大学の誕生～15世紀の医学(テキスト110～128ページ)  
 第7回 16世紀の医学(テキスト128～142ページ)  
 第8回 17世紀の医学～樽を叩く医者(テキスト142～159ページ)  
 第9回 巨人モルガーニ～動物の磁性(テキスト159～178ページ)  
 第10回 体の単位～パスツールの犬(テキスト178～201ページ)  
 第11回 無菌法～防衛の細胞(テキスト201～223ページ)  
 第12回 エンドウを研究する修道士～無意識の発見(テキスト223～241ページ)  
 第13回 アレルギー: ある不思議な物語～遺伝子の問題(テキスト241～269ページ)  
 第14回 臓器移植の時代～遠隔医療とバーチャル・リアリティー(テキスト269～297ページ)  
 第15回 アルツハイマー病～21世紀: 未来が待つ(テキスト297～313ページ)

## 履修上の注意点

過去の医療や医学が果たしてきた役割を学ぶ

## 教科書

## 医学の歴史

著者: ルチャーノ・ステルペローネ 著 小川 照 訳

出版社: 原書房

出版年:

ISBN:

## 参考書

## ホルモンハンター・アドレナリンの発見

著者: 石田三雄 著

出版社: 京都大学学術出版会

出版年:

ISBN:

## セレンディピティーと近代医学

著者: モートン・マイヤーズ 著 小林力 訳

出版社: 中央公論新社

出版年:

ISBN:

## 遺伝子医療革命

著者: フランシス・S・マイヤーズ 著 矢野真千子 訳

出版社: NHK出版

出版年:

ISBN:

輸血医ドニの人体実験

著者： ホリー・タッカー 著 寺西のぶ子 訳

出版社： 河出書房新社

出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

再試験:レポート提出(欠席回数も考慮する)

---

## 2017 Syllabus

科目名 **統計学基礎論(理学)**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 永井 宏達	
テーマ 統計学の基礎的な知識を修得する	
授業の到達目標 ・実生活において、目の前のデータを統計学的視点をもって捉えることができる。・調査報告や論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。・統計学的視点に基づいた、理論的思考能力を身につける。	
授業の概要 統計学の基本的知識を習得するための講義形式の授業に加え、グループワークを交えた演習形式のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。また、PCを使用した演習も実施する。	
準備学習(予習・復習) 各授業ごとに適宜指示する	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 研究のデザイン 第3回 統計のものさしと基本知識 第4回 有意水準と仮説 第5回 復習&連続データの差の検定(t検定) 第6回 連続データの差の検定(t検定) 演習 第7回 復習&あるなしデータの差の検定(カイニ乗検定) 第8回 あるなしデータの差の検定(カイニ乗検定) 演習 第9回 オッズ比とリスク比、相関と回帰 第10回 オッズ比とリスク比、相関と回帰 演習 第11回 分散分析 多変量解析 ノンパラメトリック検定 第12回 分散分析 演習 総合演習グループワーク 第13回 グループごとの統計調査プレゼンテーション① 第14回 グループごとの統計調査プレゼンテーション② 第15回 まとめ	
履修上の注意点 毎回の授業でグループごとに課題を課します。課題は次回の講義までにメールで提出してもらいます。	
教科書 「医療統計」わかりません！！ 著者： 五十嵐 中 出版社： 東京図書 出版年： 2010 ISBN: 4489020791	
参考書 統計学の図鑑 著者： 涌井良幸 出版社： 技術評論社 出版年： 2015 ISBN: 4774173312	
統計と確率ケーススタディ30 著者： 出版社： ニュートンプレス 出版年： 2014 ISBN: 4315519901	
成績評価 試験・レポート ( 50 ) 授業中課題 ( 20 ) 参加度 ( 10 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 20 )

a90101d210

毎回の課題の出来具合を成績評価に含めます。グループ発表の評価にはルーブリック等を使用します。内容は、授業中に教示します。授業中に発表or質問した班には、その度点数加算を行いますので、積極的に意見を述べて下さい。

---

## 2017 Syllabus

科目名 臨床心理学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

対人援助職に必要な臨床心理学の知識や考え方を身につける

授業の到達目標

対人援助職として人とかかわるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へかかわる存在になっていくのか、それぞれが、主体的に考えられるようになることを目指す。

授業の概要

いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。知識だけにとどまらず、自分が現場にコミットして、相手との関係の中で考える「臨床の知」としての思考力を身につける。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 臨床心理学とは何か
- 第3回 カウンセリングの基礎とロジャーズ①
- 第4回 カウンセリングの基礎とロジャーズ②
- 第5回 フロイトの精神分析理論(防衛機制)
- 第6回 フロイトの精神分析理論(転移)
- 第7回 記憶・学習・行動療法①
- 第8回 記憶・学習・行動療法②
- 第9回 その他の心理療法
- 第10回 対人援助職として必要な態度
- 第11回 発達理論(フロイト・エリクソン・ピアジェ)①
- 第12回 発達理論(フロイト・エリクソン・ピアジェ)②
- 第13回 心理検査(人格検査・知能検査)①
- 第14回 心理検査(人格検査・知能検査)②
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

履修上の注意点

欠席はしないようにしてください。毎回練習問題を解きながら進めますので、その都度内容は頭に入れるようにしてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト (20%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20%)



## 2017 Syllabus

## 科目名 人体の構造と機能実習 I (構造系)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期前半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 林正 健二	
テーマ	
骨・筋の触診と神経系の知識を統合して、神経系の診察の基礎を修得する。	
授業の到達目標	
触診の手技だけでなく、神経系の構造と機能を頭に描きつつ、論理的に考えを進めていく態度を身につける。	
授業の概要	
1)1年次に学修した、人体の構造と機能演習 I・II、運動学、理学療法技術学入門演習 I における神経系のより詳細な知識を学ぶ。2)上記の知識が理学療法士国家試験で、どのように出題されているかを確認する。	
準備学習(予習・復習)	
骨・筋の名称の復習が予習となる。復習は国家試験の既出問題を自分で解く。	

## 内 容

- 第1回 末梢神経系(脊髄神経)
- 第2回 上肢帯と肩関節の運動
- 第3回 肘関節と前腕の運動 I
- 第4回 肘関節と前腕の運動 II
- 第5回 手関節と手指の運動 I
- 第6回 手関節と手指の運動 II
- 第7回 下肢帯と股関節の運動 I
- 第8回 下肢帯と股関節の運動 II
- 第9回 膝関節の運動 I
- 第10回 膝関節の運動 II
- 第11回 足関節と足の運動 I
- 第12回 足関節と足の運動 II
- 第13回 頸椎の運動
- 第14回 胸椎と胸郭の運動
- 第15回 腰椎の運動
- 第16回 顔面と頸部の運動

## 履修上の注意点

予習と復習は必須です。実技が出来たかどうかの評価は正確に行ってください。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

## 教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学

著者： 林正健二他

出版社： メディカ出版

出版年： 2016

ISBN:

エッセンシャル・キネシオロジー

著者： 一 村田伸他訳

出版社： 南江堂

出版年： 2012

ISBN:

基礎運動学

著者： 中村隆一他

出版社： 医歯薬出版

出版年： 2013

ISBN:

プロメテウス解剖学解剖学総論・運動器系

著者： 坂井建雄他訳

出版社： 医学書院

出版年： 2013

ISBN:

## 参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭他

出版社： 南山堂

出版年： 2013

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

試験(4肢又は5肢択一式の客観試験)90%、小テスト10%

---

## 2017 Syllabus

科目名 人体の構造と機能実習Ⅱ(機能系)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林正 健二

テーマ

理学療法の実践に必要な人体の機能(生理学)を知る基本的検査を体験し、修得する。

授業の到達目標

1)身体診察の基本であるバイタルサインが測定出来る。2)循環器、呼吸器、運動器、神経系の機能検査の概要を理解出来る。

授業の概要

1)バイタルサインの測定は二人一組で練習する。2)呼吸機能検査、心電図、筋電図、筋力検査で実施可能な物は体験する。

準備学習(予習・復習)

1年生の時に学修した、生理学的事項の復習が予習となる。基準値を記憶しているかどうかを確認しておく。

内 容

- 第1回 脈拍測定
- 第2回 血圧測定、聴診器の使い方
- 第3回 心音聴取
- 第4回 心電図
- 第5回 呼吸の観察
- 第6回 呼吸音聴取
- 第7回 呼吸機能検査1(スパイロメーター、経皮的動脈血酸素飽和度測定)
- 第8回 呼吸機能検査2
- 第9回 筋力検査1(握力、背筋力測定)
- 第10回 筋力検査2
- 第11回 筋力検査3(筋電図)
- 第12回 神経系の診察1
- 第13回 神経系の診察2(脳波)
- 第14回 神経系の診察3
- 第15回 体成分分析
- 第16回 補遺

履修上の注意点

小テストと講義の後、実技を行う。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学

著者: 林正健二他

出版社: メディカ出版

出版年: 2016

ISBN:

参考書

フィジカルアセスメントガイドブック

著者: 山内豊明

出版社: 医学書院

出版年: 2005

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

試験(4肢又は5肢択一式の客観試験)90%、小テスト10%

## 2017 Syllabus

科目名 **運動生理学演習**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 甲斐 義浩・堀江 淳

テーマ

運動における神経系、筋骨格系、呼吸循環器系、代謝系の変化を理解し理学療法へ応用する。

授業の到達目標

本授業の目的は以下のこととする。・神経細胞の構造と情報伝達のメカニズムについて理解すること。・骨格筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解すること。・呼吸器系の解剖、生理学を復習し、運動時の呼吸器系の変化を理解すること。・循環器系の解剖、生理学を復習し、運動時の循環器系の変化を理解すること。・代謝、体温調節など生体における運動中の変化を理解すること。

授業の概要

講義による座学を中心とするが、測定方法などを理解する場合は実技、実習を取り入れていく。

準備学習(予習・復習)

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内 容

- 第1回 呼吸① 呼吸器の構造と機能、呼吸調節、血液ガスの解釈について学習する。
- 第2回 呼吸② 呼吸機能検査(フローボリューム検査と肺気量分画検査)の解釈と実際について学習する。
- 第3回 循環① 循環器の構造と機能、循環調節
- 第4回 循環② 運動時の心拍変動について学習する。
- 第5回 運動耐容能 酸素輸送系における循環応答(呼気ガス分析による酸素摂取量測定)の解釈と実際について学習する。
- 第6回 代謝 基礎代謝と運動時エネルギー代謝の理解する。
- 第7回 体温調節 体温、熱産生、熱放散の理解する。
- 第8回 運動を支配する機能[神経系]① 神経系総論
- 第9回 運動を支配する機能[神経系]② 神経細胞の構造と機能
- 第10回 運動を支配する機能[神経系]③ 膜電位(静止膜電位と活動電位)
- 第11回 運動を発現する機能[神経系]④ 興奮の伝導と伝達
- 第12回 運動を発現する機能[骨格筋]① 骨格筋の収縮メカニズム
- 第13回 運動を発現する機能[骨格筋]② 筋収縮のエネルギー
- 第14回 運動を発現する機能[骨格筋]③ 筋電図の基礎
- 第15回 総まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。

教科書

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第4版

著者: 岡田隆夫・他

出版社: 医学書院

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (90%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (10%)

期末試験の受験は堀江担当範囲、甲斐担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする。

## 2017 Syllabus

## 科目名 運動学演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 甲斐 義浩・幸田 仁志	
テーマ	
四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について理解する。	
授業の到達目標	
1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。	
授業の概要	
運動学の講義内容をもとにした演習を行う。身体運動を定量化する手法について学ぶとともに、四肢・体幹における運動の計測を通して正常な関節運動について理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。	
内 容	
第1回	手の構造と機能(1)
第2回	手の構造と機能(2)
第3回	手の構造と機能(3)
第4回	脊柱の構造と機能(1)
第5回	脊柱の構造と機能(2)
第6回	脊柱の構造と機能(3)
第7回	股関節の構造と機能(1)
第8回	股関節の構造と機能(2)
第9回	股関節の構造と機能(3)
第10回	膝関節の構造と機能(1)
第11回	膝関節の構造と機能(2)
第12回	膝関節の構造と機能(3)
第13回	足関節・足部の構造と機能(1)
第14回	足関節・足部の構造と機能(2)
第15回	総まとめ
履修上の注意点	
講義の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。	
教科書	
基礎運動学 第6版補訂	
著者: 中村 隆一・他	
出版社: 医歯薬出版株式会社	
出版年: 2013	ISBN:
エッセンシャル・キネシオロジー 第2版	
著者: Mansfield PJ・他(著)弓岡光徳・他(訳)	
出版社: 南江堂	
出版年: 2015	ISBN:
参考書	
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第2版	
著者: 坂井建雄(監訳)	
出版社: 医学書院	
出版年: 2011	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (100%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )

a90102a510

参加度 ( )

期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 臨床運動学演習

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 義浩・幸田 仁志

テーマ

生体力学の基礎を学び、重力環境下における姿勢や歩行のメカニズムを理解する。

授業の到達目標

1. 身体運動に関与する力学的要素(力, 加速度, 重心, モーメントなど)を理解できる。 2. 姿勢や歩行の力学的メカニズムについて理解できる。 3. 運動学習の理論について理解できる。

授業の概要

人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能、および生体力学的変数と臨床上的の問題との関係について解説する。

準備学習(予習・復習)

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内 容

- 第1回 生体力学の基礎(1)－身体に作用する力、重心について
- 第2回 生体力学の基礎(2)－床反力と重心の加速度について
- 第3回 生体力学の基礎(3)－関節モーメントについて
- 第4回 歩行の基礎(1)－歩行周期および相, 基本的な機能について
- 第5回 歩行の基礎(2)－歩き始めの歩行力学
- 第6回 歩行の基礎(3)－足関節および足部における歩行力学 1
- 第7回 歩行の基礎(4)－足関節および足部における歩行力学 2
- 第8回 歩行の基礎(5)－膝関節における歩行力学
- 第9回 歩行の基礎(6)－股関節における歩行力学
- 第10回 力の合成と分解について
- 第11回 仕事と力学的エネルギーについて
- 第12回 姿勢の基礎(1)－姿勢と安定性について
- 第13回 姿勢の基礎(2)－姿勢制御について
- 第14回 運動学習
- 第15回 総まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。

教科書

基礎運動学 第6版補訂

著者: 中村隆一・他

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2012

ISBN:

歩行分析 正常歩行と異常歩行 原著第2版

著者: Perry J(著), 武田功(訳)

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (100%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

## 2017 Syllabus

科目名 人間発達学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博・村田 伸

テーマ

人間の誕生から死に至るまでの生涯を発達という視点からとらえ、身体・心理両面における人間発達に関する基礎的知識を教授する。その際、人間が発達する上で欠かせない外界との関わりにも言及する。

授業の到達目標

1. 人間の胎生期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達の視点を理解する。  
機能、知的、心理的、社会的発達を理解する。

2. 身体や運動

授業の概要

発表形式の授業も含まれます。

準備学習(予習・復習)

ヒトの発達を学ぶことは、リハビリテーション対象者の回復を学ぶことと同等であるので、主体的に参加すること。

内 容

- 第1回 総論1:定義と目的、発達理論、発達の法則
- 第2回 総論2:定義と目的、発達理論、発達の法則
- 第3回 反射と運動1:中枢神経の階層性1
- 第4回 反射と運動2:中枢神経の階層性2
- 第5回 知覚・認知の発達1:胎児・新生児の知覚・認知
- 第6回 知覚・認知の発達2:乳幼児の知覚・認知
- 第7回 知覚・認知の発達3:学童の知覚・認知
- 第8回 知覚・認知の発達4:成人期以降の知覚・認知
- 第9回 運動発達1:新生児・乳幼児の運動発達1
- 第10回 運動発達2:新生児・乳幼児の運動発達2
- 第11回 運動発達3:新生児・乳幼児の運動発達3
- 第12回 社会性の発達1:乳幼児の社会性
- 第13回 社会性の発達2:学童の社会性
- 第14回 社会性の発達3:青年期・成人期の社会性
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

1/3以上の欠席で単位なし

教科書

リハビリテーションのための人間発達学

著者: 大城昌平

出版社: メディカルプレス

出版年:

ISBN: 9.78494E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (90%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (10%)



## 2017 Syllabus

科目名 検査・測定実習

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥・安彦 鉄平・小田 桐 匡・甲斐 義浩・兒玉 隆之・崎田 正博・白岩 加代子・濱出 茂治・堀江 淳・松尾 奈々・村田 伸・横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

- 1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。2)対象者とのコミュニケーションをとることができる。  
 医療従事者として責任および節度のある態度と行動を身につける。4)対象者に対して、基本的な評価項目を正しく実施できる。  
 5)基本的な評価結果を記録し、報告することができる 6)学内での講義・実習の意義を理解し学習意欲を高める。

授業の概要

基礎医学および疾病と障害に関する知識と「臨床基礎実習」の経験をふまえて、実習指導者の指導・教育のもと、理学療法士の評価・治療場面の見学のほか、初歩的な検査・測定の手順についても体験し、統合と解釈の重要性を理解する。本実習を通して、理学療法の対象者の障害の多様性を認識すると共に、疾病や障害に応じた評価および障害像の捉え方を学び、専門知識と技術の重要性について認識する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。

第2回 現場実習

第3回 現場実習

第4回 現場実習

第5回 現場実習

第6回 現場実習

第7回 現場実習

第8回 現場実習

第9回 現場実習

第10回 現場実習

第11回 現場実習

第12回 現場実習

第13回 現場実習

第14回 現場実習

第15回 現場実習

第16回 現場実習

第17回 現場実習

第18回 現場実習

第19回 現場実習

第20回 現場実習

第21回 現場実習

第22回 現場実習

第23回 現場実習

第24回 現場実習

第25回 現場実習

第26回 現場実習

第27回 現場実習

第28回 現場実習

第29回 現場実習

第30回 実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 20 )

実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 物理療法学演習 &lt;2回生&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 濱出 茂治・中野 英樹

## テーマ

物理療法の適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実習を通して学習し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図る。

## 授業の到達目標

物理療法における疼痛抑制、温熱、痙性抑制等の治療効果に関する基本的特性を実験によって修得する。

## 授業の概要

・治療機器の操作を理解する。・物理エネルギーがどのような影響を生体に与えるかを理解する。・多様な機能障害への臨床適用技術を修得する。

## 準備学習(予習・復習)

物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

## 内 容

- 第1回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(上肢)
- 第2回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(上肢)
- 第3回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(下肢)
- 第4回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(下肢)
- 第5回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(1)
- 第6回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(2)
- 第7回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(3)
- 第8回 水治療法における生体皮膚温度の測定実習(1)
- 第9回 水治療法における生体皮膚温度の測定実習(2)
- 第10回 光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(1)
- 第11回 光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(2)
- 第12回 電気療法における治療シミュレーション実習(1)
- 第13回 電気療法における治療シミュレーション実習(2)
- 第14回 牽引療法におけるシミュレーション実習(1)
- 第15回 牽引療法におけるシミュレーション実習(2)

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

テキスト物理療法学

著者： 濱出茂治

出版社： 医歯薬

出版年： 2016

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート (80%)

授業中課題 ( )

参加度 (20%)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **神経内科学〈Z〉**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 兒玉 隆之・久保山 哲彦

テーマ

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。

授業の到達目標

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、医師の見地から脳・脊髄・神経系学の症候学、診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に理学療法士の見地から中枢神経系疾患及び神経・筋疾患の特性と障害像について教授する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 脳の構造と機能
- 第2回 神経系の発生と分化について
- 第3回 神経伝達とシナプス可塑性
- 第4回 神経障害の分子機構
- 第5回 中枢神経障害とは
- 第6回 末梢神経障害とは
- 第7回 脳の高次機能
- 第8回 神経障害の治療
- 第9回 脳の局在機能について①
- 第10回 脳の局在機能について②
- 第11回 神経障害に対する理学療法評価の基本
- 第12回 脳外傷の理学療法
- 第13回 小脳障害の理学療法
- 第14回 Parkinson病の理学療法
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

中枢神経疾患の理学療法

著者： 千住秀明

出版社： 神陵文庫

出版年： 2013

ISBN： 978-4-915814-26

参考書

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

3分の1以上の欠席を認めない。

## 2017 Syllabus

## 科目名 理学療法技術学入門演習Ⅱ(筋・神経の触察)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 純弥・松尾 奈々	

## テーマ

筋・神経の機能解剖学を学び、検査・測定や治療に必要な触診を演習形式で学習する。

## 授業の到達目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形などの基礎知識を修得することができる。
2. 学習者が視診・触診を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形について認識できる。
3. 学習者が評価・治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得できる。

## 授業の概要

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、筋・神経の解剖学的知識を学び、それらに触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

## 準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション、総論(筋の形、触診法)
- 第2回 肩甲帯筋の触診
- 第3回 肩甲帯筋の触診
- 第4回 上腕筋の触診
- 第5回 上腕筋の触診
- 第6回 前腕筋の触診
- 第7回 前腕筋・手の内在筋の触診
- 第8回 頸筋・頭部の筋の触診
- 第9回 体幹筋の触診
- 第10回 体幹筋の触診
- 第11回 骨盤筋の触診
- 第12回 大腿筋の触診
- 第13回 大腿筋・下腿筋の触診
- 第14回 下腿筋の触診
- 第15回 足の内在筋の触診 なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある

## 履修上の注意点

実技を行いますので、臨床実習に行けるような身だしなみで参加すること。茶髪などやアクセサリなどの着用は禁止する。

## 教科書

改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢

著者: 林典雄

出版社: メジカルビュー

出版年: 2011

ISBN: 9.78476E+12

改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹

著者: 林典雄

出版社: メジカルビュー

出版年: 2011

ISBN: 9.78476E+12

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系

著者: 坂井建雄

出版社: 医学書院

出版年: 2011

ISBN: 9.78426E+12

## 参考書

成績評価

試験・レポート（50%）

小テスト（実技試験50%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法評価学総論**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小田桐 匡内藤 紘一

テーマ

理学療法評価を総論的に学習する。また形態測定および関節可動域の測定については技術的な学習も合わせて行う。

授業の到達目標

1. 障害モデルと生活モデルを説明できる。2. 理学療法における検査・測定、治療の流れを説明できる。3. 形態測定の方法と関節可動域の測定を実施できる。

授業の概要

理学療法における検査・測定、治療の流れを理解し、基本的な検査・測定の意義や手技について学習する。また、リハビリテーションの観点から障害評価を理解し、患者の問題を考える指標となる障害モデルについて学ぶ。

準備学習(予習・復習)

第6回～15回は授業前にその日に行う実技に関する小テスト(成績に含む)を行うので、事前に予習しておくこと。

内 容

- 第1回 臨床における診ること、聴くこと、触ること。臨床におけるコミュニケーション
- 第2回 障害モデルと生活モデルの歴史と理解。理学療法評価の意義
- 第3回 情報の収集と検査、測定について
- 第4回 動作分析、統合と解釈について
- 第5回 問題点の抽出と治療計画の設定、理学療法の間接評価と最終評価について
- 第6回 形態測定(肢長)
- 第7回 形態測定(周径)
- 第8回 関節可動域の測定の基礎(ゴニオメータの使用法、記録の方法など) 関節可動域の測定(肩甲帯)
- 第9回 関節可動域の測定(肩)
- 第10回 関節可動域の測定(肘・前腕)
- 第11回 関節可動域の測定(手・母指・指)
- 第12回 関節可動域の測定(股)
- 第13回 関節可動域の測定(膝・足・足部)
- 第14回 関節可動域の測定(足指・体幹)
- 第15回 関節可動域の測定(まとめ)

履修上の注意点

医療従事者として患者さんに接するのに相応しい身だしなみで受講すること。

教科書

リハビリテーション基礎評価学(PT・OT)ビジュアルテキスト

著者: 潮見泰藏、下田信明

出版社: 羊土社

出版年: 2014

ISBN: 4758107939

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (30)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

単位認定試験を受験するためには3分の2以上の出席を条件とする

## 2017 Syllabus

## 科目名 理学療法評価学総論実習

クラス	配当回生 学部2回生
-----	------------

講義期間 前期後半	定員
-----------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 松尾 奈々・小田桐 匡
-----------------

## テーマ

理学療法評価における検査測定の実際について学習する。理学療法評価を施行する上で必要な基礎的知識の理解と技術の習得を中心に、各種検査・評価を演習形式で教授する。

## 授業の到達目標

1. 各種検査・評価の意義や目的を説明することができる。2. 各種検査・評価の手順および注意点について説明することができる。3. 適した検査法が具体的に実施することができる。4. 各種検査・評価の結果が記録できる。

## 授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である徒手筋力検査法(MMT)をはじめとする理学療法評価の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

## 準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。※徒手筋力検査の予習として、各自テキストDVDを観た後、テキスト内のポイントとなる箇所(①患者体位、②セラピスト位置、③テスト、④患者への指示、⑤段階づけ)にチェックを入れること。講義開始時に予習状況の確認を行います。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション、神経学的検査:感覚検査(意義、目的)
- 第2回 神経学的検査:感覚検査(方法について)
- 第3回 神経学的検査:感覚検査(学生間での実習)
- 第4回 筋力検査(意義、目的)
- 第5回 粗大筋力検査
- 第6回 徒手筋力検査(原理について)
- 第7回 徒手筋力検査(肩関節)
- 第8回 徒手筋力検査(肩関節)
- 第9回 徒手筋力検査(肩甲骨)
- 第10回 徒手筋力検査(肩甲骨)
- 第11回 徒手筋力検査(肘関節、前腕)
- 第12回 徒手筋力検査(前腕、手関節)
- 第13回 徒手筋力検査(頸筋、頭部)
- 第14回 徒手筋力検査(頸筋、頭部、顔面)
- 第15回 徒手筋力検査(体幹)
- 第16回 徒手筋力検査(体幹)
- 第17回 徒手筋力検査(股関節)
- 第18回 徒手筋力検査(股関節)
- 第19回 徒手筋力検査(膝関節)
- 第20回 徒手筋力検査(足関節)
- 第21回 まとめ
- 第22回 まとめ
- 第23回 まとめ

## 履修上の注意点

実技の際の身だしなみや服装は、病院実習時に準ずること。

## 教科書

## 理学療法評価学

著者: 松澤正

出版社: 金原出版株式会社

出版年: 2014

ISBN:

## 新・徒手筋力検査法 原著第9版

著者: 津山直一、他

出版社: 協同医書出版社

出版年: 2014

ISBN: 9.78476E+12



参考書

運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版

著者： 林 典雄

出版社： メジカルビュー社

出版年： 2011

ISBN： 9.78476E+12

運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版

著者： 林 典雄

出版社： メジカルビュー社

出版年： 2012

ISBN： 9.78476E+12

---

成績評価

試験・レポート（60%）

小テスト（実技試験 40%）

授業中課題（0%）

授業中発表等（0%）

参加度（0%）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 理学療法評価学各論演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・松尾 奈々	

## テーマ

本講義は、理学療法の対象となる代表的な疾患の検査方法の意義と方法論を学び、各疾患の評価結果を踏まえた理学療法の流れについて学ぶ。

## 授業の到達目標

1. 各種検査を実施するにあたり解剖学、生理学、神経内科学などの基礎知識を整理することができる。2. 疾患・部位別の代表的な理学療法評価を理解することができる。3. 各種検査・評価の意義および目的や注意点を説明することができる。4. 各種検査における種類と方法を正しく理解することができる。

別に適した検査法が具体的に実施することができる。

査・評価の結果が記録できる。

なオリエンテーションができる。

としての基本的態度を身につけ、患者様に実践できる準備をする。

5. 疾患・部位
6. 各種検
7. 適切
8. 医療人

## 授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。

## 準備学習(予習・復習)

予習: テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習: 各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション、神経学的検査: 筋緊張検査
- 第2回 神経学的検査: 筋緊張検査
- 第3回 神経学的検査: 筋緊張検査
- 第4回 神経学的検査: 筋緊張検査
- 第5回 神経学的検査: 反射検査
- 第6回 神経学的検査: 反射検査
- 第7回 神経学的検査: 反射検査
- 第8回 協調性検査
- 第9回 協調性検査
- 第10回 神経障害系疾患の評価: 片麻痺機能検査
- 第11回 神経障害系疾患の評価: 片麻痺機能検査
- 第12回 神経障害系疾患の評価: 片麻痺機能検査
- 第13回 神経障害系疾患の評価: 片麻痺機能検査
- 第14回 神経障害系疾患の評価: 脳神経検査
- 第15回 神経障害系疾患の評価: 脳神経検査
- 第16回 神経障害系疾患の評価: 脳神経検査
- 第17回 神経障害系疾患の評価: 高次脳機能検査
- 第18回 神経障害系疾患の評価: 高次脳機能検査
- 第19回 神経障害系疾患の評価: 高次脳機能検査
- 第20回 神経障害系疾患の評価: 高次脳機能検査
- 第21回 平衡機能検査
- 第22回 平衡機能検査
- 第23回 平衡機能検査
- 第24回 平衡機能検査
- 第25回 運動器疾患の評価: 整形外科的検査(頸部・体幹疾患)
- 第26回 運動器疾患の評価: 整形外科的検査(上肢疾患)
- 第27回 運動器疾患の評価: 整形外科的検査(下肢疾患)
- 第28回 痛みの評価
- 第29回 痛みの評価
- 第30回 まとめ、記述テスト なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

実技の際の身だしなみや服装は、病院実習時に準ずること。

## 教科書

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経

著者： 医療情報科学研究所(編)

出版社： メディックメディア

出版年： 2011

ISBN： 9.7849E+12

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭、他(著)

出版社： 南山堂

出版年： 2010

ISBN： 9.78453E+12

片麻痺の運動療法

著者： S.Brunnstrom(著)、佐久間穰爾・他(訳)

出版社： 医歯薬出版株式会社

出版年： 1974

ISBN： 9.78426E+12

---

成績評価

試験・レポート (95)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (5)

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 理学療法評価学各論実習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期後半	定員
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・松尾 奈々	

## テーマ

本講義は、理学療法評価学各論演習で学んだ各種理学療法評価について、疾患および障害に適した検査・測定を選択できるようにする。また、評価方法について実習し、技術の習得や結果の解釈について学ぶ。また、学生同士で練習することで、対象者への配慮やリスク管理などについても理解する。

## 授業の到達目標

1. 各種疾患の障害メカニズムを説明することができる。2. 各種疾患の代表的評価項目を述べるができる。3. 各種疾患の評価手順に沿って実施することができる。4. 各種疾患とICFにもとづく障害の整理ができる。5. 対象者への配慮やリスク管理に留意して検査・測定を遂行することができる。

## 授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、各疾患ごとの病態に応じた評価の意義、またその目的を理解し、評価項目の抽出および治療行為に結び付けていく考え方について理解できるようにすることを目標とする。

## 準備学習(予習・復習)

予習: テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習: 各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第2回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第3回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第4回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第5回 運動器疾患(大腿骨頸部骨折)の障害像の理解と理学療法評価
- 第6回 運動器疾患(大腿骨頸部骨折)の障害像の理解と理学療法評価
- 第7回 運動器疾患(関節リウマチ)の障害像の理解と理学療法評価
- 第8回 運動器疾患(関節リウマチ)の障害像の理解と理学療法評価
- 第9回 運動器疾患(変形性関節症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第10回 運動器疾患(変形性関節症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第11回 運動器疾患(腰痛症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第12回 運動器疾患(腰痛症・肩関節周囲炎)の障害像の理解と理学療法評価
- 第13回 運動器疾患(肩関節周囲炎)の障害像の理解と理学療法評価
- 第14回 神経障害系疾患(小脳疾患)の障害像の理解と理学療法評価
- 第15回 神経障害系疾患(小脳疾患)の障害像の理解と理学療法評価
- 第16回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第17回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第18回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第19回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第20回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第21回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第22回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第23回 まとめ

## 履修上の注意点

授業日程の3分の2以上の出席が原則

## 教科書

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経

著者: 医療情報科学研究所(編)

出版社: メディックメディア

出版年: 2011

ISBN: 9.7849E+12

3日間で行う理学療法臨床評価プランニング

著者: 中山 恭秀

出版社: 南江堂

出版年: 2013

ISBN: 9.78452E+12

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭、他(著)

出版社： 南山堂

出版年： 2010

ISBN: 9.78453E+12

理学療法学ゴールド・マスター・テキスト1理学療法評価学

著者： 柳澤健(編)

出版社： MEDICAL VIEW

出版年： 2010

ISBN: 9.78476E+12

---

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 運動療法学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 甲斐 義浩・岩瀬 弘明	
テーマ	
理学療法の中核的な治療手段である運動療法について、その理論的背景と基本的技術を理解する。	
授業の到達目標	
1) 運動療法の目的について理解する。2) 運動療法を行う上でのリスク管理ができる。3) 運動療法の原理原則を理解する。4) 各種治療方法の目的を理解し、基本的技術を身につける。5) 運動療法学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。	
授業の概要	
理学療法の中核をなす「運動療法」を理解するために、これまでに学習した解剖学、運動学、生理学などの知識を統括しながら、運動療法に関する基礎知識と基本的技術を身につける。	
準備学習(予習・復習)	
これまでに学習した基礎科目(解剖学、運動学、生理学)の知識を整理したうえで講義に臨むこと。また、当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。	
内 容	
第1回	運動療法の概念(歴史、定義、理学療法における運動療法の位置づけ)
第2回	運動療法の基礎知識①
第3回	運動療法の基礎知識②
第4回	筋力維持・増強運動の原理について
第5回	筋力維持・増強運動の理論と方法
第6回	持久力の維持・向上運動の原理について
第7回	持久力の維持・向上運動の理論と方法
第8回	関節可動域制限に対する運動療法
第9回	実技:ストレッチング ー上肢①ー
第10回	実技:ストレッチング ー上肢②ー
第11回	実技:ストレッチング ー上肢③ー
第12回	実技:ストレッチング ー下肢①ー
第13回	実技:ストレッチング ー下肢②ー
第14回	実技:ストレッチング ー下肢③ー
第15回	総まとめ
履修上の注意点	
3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。講義の進行を妨げる行為や、受講態度に明らかな問題がある場合は受講をお断りします。	
教科書	
運動療法学―障害別アプローチの理論と実際	
著者:	市橋則明
出版社:	文光堂
出版年:	2014
ISBN:	4830645032
IDストレッチング 第2版	
著者:	鈴木重行・平野幸伸・鈴木敏和
出版社:	三輪書店
出版年:	2006
ISBN:	4895902390
参考書	
成績評価	
試験・レポート (100%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 物理療法学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 濱出 茂治	
テーマ	物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等の知識を理解する。さらに骨・関節、神経・筋疾患に対する臨床適用技術法を修得する。
授業の到達目標	1. 物理療法における評価方法および治療量の適切な決定基準を理解する。2. 疼痛症状、創傷、骨・関節障害、神経・筋障害等の病態を理解する。3. 治療リスクおよび事故防止方法を理解する。4. 基本的治療技術方法を理解する。
授業の概要	物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌などの知識を理解する。さらに種々の疾患における臨床適用方法を修得する。
準備学習(予習・復習)	物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習
内 容	<p>第1回 物理療法の歴史、定義、体系</p> <p>第2回 物理療法における評価法</p> <p>第3回 表在温熱療法Ⅰ：伝導熱、輻射熱、対流熱</p> <p>第4回 表在温熱療法Ⅱ：パラフィン浴、赤外線療法</p> <p>第5回 深部温熱療法Ⅰ：エネルギー変換熱(超短波、極超短波)</p> <p>第6回 深部温熱療法Ⅱ：エネルギー変換熱(超音波療法、低出力超音波療法)</p> <p>第7回 寒冷療法：冷却法、痙性抑制法、神経・筋促進法</p> <p>第8回 極低温療法：局部冷却、全身冷却</p> <p>第9回 水治療法：ハーバードタンク、過流浴、圧注法、交代浴、灌注法</p> <p>第10回 光線療法：紫外線、ソフトレーザー療法</p> <p>第11回 電気刺激療法Ⅰ：経皮的末梢神経電気刺激、高電圧刺激、干渉電流刺激</p> <p>第12回 電気刺激療法Ⅱ：神経・筋電気刺激、機能的電気刺激法</p> <p>第13回 牽引療法：四肢牽引、頸椎牽引、腰椎牽引</p> <p>第14回 電気診断：時間一強さ曲線作図法、誘発筋電図(M波、H波、F波、運動誘発電位)</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	1/3以上の欠席は認めない。
教科書	<p>テキスト物理療法学 ー基礎と臨床ー</p> <p>著者： 濱出茂治、烏野大</p> <p>出版社： 医歯薬出版</p> <p>出版年： 2016 ISBN： 9.78426E+12</p>
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 80 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 生活技術学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・岩瀬 弘明	
テーマ	
理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。	
授業の到達目標	
1. 基本的ADLと手段的ADLを説明できる。2. ADLの代表的な評価方法を実践できる。3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明できる。4. 疾患特有のADL障害を理解し、そのアプローチ方法を説明できる。	
授業の概要	
ADLの評価について講義および演習形式で学習する。また、補装具やADL自立に向けた基本的なアプローチに関しては、体験や実技を加えながら学習を進める。	
準備学習(予習・復習)	
予習: テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習: 各自の理解度に応じて復習を行う。	
内 容	
第1回	日常生活活動(ADL)の概念
第2回	ADLの評価の実際(BI)
第3回	ADLの評価の実際(FIM)
第4回	ADLの評価の実際(FIM)
第5回	手段的日常生活活動(IADL)の評価
第6回	補装具(杖と車いす)
第7回	起居・移動動作
第8回	身の回り動作
第9回	ADLを支援する機器
第10回	疾患別ADL(脳卒中)
第11回	疾患別ADL(脊髄損傷)
第12回	疾患別ADL(関節リウマチ)
第13回	疾患別ADL(大腿骨頸部骨折)
第14回	疾患別ADL(変形性関節症)
第15回	疾患別ADL(下肢切断)
履修上の注意点	
3分の2以上の出席をもって、成績判定を行う。実技の授業に関しては、実習と同等の身だしなみで参加をすること。	
教科書	
日常生活活動テキスト	
著者: 河元岩男・他偏	
出版社: 南江堂	
出版年: 2011	ISBN: 4524247084
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 90 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 10 )	
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。	



## 2017 Syllabus

## 科目名 運動器障害系理学療法学基礎演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 純弥・安彦 鉄平・幸田 仁志	
テーマ	
運動器障害系理学療法の基礎的な知識と技術の習得を促進	
授業の到達目標	
運動器系疾患に対する理学療法を実施するうえで必要な基礎知識を学び、基本的な治療手技を学ぶ。講義と実技を行う。	
授業の概要	
運動器系疾患に対する理学療法を実施するうえで必要な基礎知識を学び、基本的な治療手技を学ぶ。講義と実技を行う。	
準備学習(予習・復習)	
テキストや参考書を使用して、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。	

## 内 容

- 第1回 理学療法プロセスとは
- 第2回 理学療法プロセス(障害の階層性)
- 第3回 理学療法プロセス(情報収集～検査測定の意味)
- 第4回 理学療法プロセス(統合解釈～治療計画立案)
- 第5回 骨折に関する基礎知識
- 第6回 大腿骨頸部骨折の理学療法
- 第7回 大腿骨頸部骨折の理学療法実技
- 第8回 変形性股関節症の理学療法
- 第9回 変形性股関節症の理学療法実技
- 第10回 変形性膝関節症の理学療法
- 第11回 変形性膝関節症の理学療法実技
- 第12回 腰痛症の理学療法1
- 第13回 腰痛症の理学療法2
- 第14回 腰痛症の理学療法実技
- 第15回 腰部疾患の理学療法
- 第16回 腰部疾患の理学療法実技
- 第17回 肩関節疾患の理学療法1
- 第18回 肩関節疾患の理学療法2
- 第19回 肩関節疾患の理学療法実技
- 第20回 関節リウマチの理学療法
- 第21回 関節リウマチの理学療法実技
- 第22回 下肢骨折の理学療法
- 第23回 下肢骨折の理学療法実技
- 第24回 上肢骨折の理学療法
- 第25回 上肢骨折の理学療法実技
- 第26回 脊椎疾患の理学療法
- 第27回 脊椎疾患の理学療法実技
- 第28回 靭帯損傷の理学療法
- 第29回 靭帯損傷の理学療法実技
- 第30回 総括

## 履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリーの着用は厳禁です。いつでも実技が出来る服装で参加して下さい。

## 教科書

運動器障害系理学療法学改定2版

著者： 編集)高柳清美・中川法一・木藤伸宏

出版社： 南江堂

出版年： 2016

ISBN： 9.78452E+12

ここがポイント！整形外科疾患の理学療法改訂第2版

著者： 監修)富士武史

出版社： 金原出版

出版年： 2006

ISBN: 9.78431E+12

参考書

---

成績評価

試験・レポート (90%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (5%)

参加度 (5%)

授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 神経障害系理学療法学基礎演習 &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
-----	------------

講義期間 後期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 兒玉 隆之・小田桐 匡・中野 英樹
-----------------------

## テーマ

中枢性・末梢性神経障害に対する理学療法学を学ぶ。

## 授業の到達目標

脳血管疾患や神経変性疾患など、特に中枢神経疾患の病態を教授し、その障害に対する理学療法について、障害評価の方法、治療トレーニングの方法の視点から演習形式にて学習を進める。本科目は、解剖学、生理学、臨床医学の知識を土台に、その基礎的な臨床応用能力を習得することが目的である。

## 授業の概要

解剖学、生理学、臨床医学などで学んだ神経系の知識を基礎に、それらの損傷がもたらす中枢性疾患の病態を理解し、その障害に対する理学療法(評価方法や治療トレーニング)の知識を演習形式にて学習する。

## 準備学習(予習・復習)

神経障害学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

## 内 容

- 第1回 脳血管障害① 頭蓋内出血の発症機序とその症状
- 第2回 脳血管障害② 脳梗塞の発症機序とその症状
- 第3回 脳血管障害③ 身体に解放されるいわゆる“陽性徴候”
- 第4回 脳血管障害④ 身体から消えたいいわゆる“陰性徴候”
- 第5回 脳血管障害⑤ 高次脳機能障害「失語」
- 第6回 脳血管障害⑥ 高次脳機能障害「失行・失認」
- 第7回 脳血管障害⑦ 合併症
- 第8回 小脳の構造と機能①
- 第9回 小脳の構造と機能②
- 第10回 小脳の構造と機能③
- 第11回 小脳疾患の病態
- 第12回 小脳疾患に対する評価
- 第13回 小脳疾患に対する理学療法
- 第14回 小脳疾患に対するクリニカルリーズニング
- 第15回 大脳基底核の構造と機能①
- 第16回 大脳基底核の構造と機能②
- 第17回 視床の構造と機能①
- 第18回 視床の構造と機能②
- 第19回 脳幹の構造と機能①
- 第20回 脳幹の構造と機能②
- 第21回 大脳基底核障害のクリニカルリーズニング
- 第22回 大脳基底核疾患に対する評価
- 第23回 大脳基底核と理学療法: グループディスカッション
- 第24回 視床損傷のクリニカルリーズニング
- 第25回 脳幹損傷のクリニカルリーズニング
- 第26回 大脳深部損傷の理学療法: ディスカッション
- 第27回 脊髄&末梢神経の構造と機能①
- 第28回 脊髄&末梢神経の構造と機能②
- 第29回 脊髄&末梢神経損傷のクリニカルリーズニング
- 第30回 脊髄&末梢神経損傷の理学療法: ディスカッション

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題（10）

授業中発表等（）

参加度（10）

3分の1以上の欠席を認めない。

---

## 2017 Syllabus

科目名 検査・測定実習 &lt;ZR&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

授業の到達目標

1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。2)対象者とのコミュニケーションをとることができる。<sup>3)</sup>  
 医療従事者として責任および節度のある態度と行動を身につける。4)対象者に対して、基本的な評価項目を正しく実施できる。  
 5)基本的な評価結果を記録し、報告することができる 6)学内での講義・実習の意義を理解し学習意欲を高める。

授業の概要

基礎医学および疾病と障害に関する知識と「臨床基礎実習」の経験をふまえて、実習指導者の指導・教育のもと、理学療法士の評価・治療場面の見学のほか、初歩的な検査・測定の手順についても体験し、統合と解釈の重要性を理解する。本実習を通して、理学療法の対象者の障害の多様性を認識すると共に、疾病や障害に応じた評価および障害像の捉え方を学び、専門知識と技術の重要性について認識する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。

第2回 現場実習

第3回 現場実習

第4回 現場実習

第5回 現場実習

第6回 現場実習

第7回 現場実習

第8回 現場実習

第9回 現場実習

第10回 現場実習

第11回 現場実習

第12回 現場実習

第13回 現場実習

第14回 現場実習

第15回 現場実習

第16回 現場実習

第17回 現場実習

第18回 現場実習

第19回 現場実習

第20回 現場実習

第21回 現場実習

第22回 現場実習

第23回 現場実習

第24回 現場実習

第25回 現場実習

第26回 現場実習

第27回 現場実習

第28回 現場実習

第29回 現場実習

第30回 実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 20 )

実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 内部障害基礎論

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀江 淳宮本 尚

テーマ

臨床現場で内科学の知識を活用しながら、理学療法、合併症管理、リスク管理に応用する。

授業の到達目標

内科学の知識を活用しながら、理学療法、合併症管理、リスク管理に応用できる湯にする。医師のリハビリテーション処方箋が正確に理解できるようにする。チーム医療の一員としての共通の知識を身につける。

授業の概要

最新医学の知見を入れながら、教材も教科書にとどまらず、DVDによる視聴覚授業も取り入れていく。また、ロールプレイ等も随時取り入れていく。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習、復習をしておく

内 容

- 第1回 オリエンテーション、内科学概論、診断、治療、症候学とな何かを学ぶ
- 第2回 呼吸、循環器疾患について学ぶ
- 第3回 消化管、肝胆膵疾患について学ぶ
- 第4回 血液・造血器疾患、代謝性疾患について学ぶ
- 第5回 内分泌疾患、腎・泌尿器疾患について学ぶ
- 第6回 膠原病、アレルギー疾患、感染症について学ぶ
- 第7回 中毒性疾患、皮膚疾患について学ぶ
- 第8回 内科系疾患と障害学のかかわりについて学ぶ
- 第9回 循環器疾患と障害学のかかわりについて学ぶ-その1
- 第10回 循環器疾患と障害学のかかわりについて学ぶ-その2
- 第11回 呼吸器疾患と障害学のかかわりについて学ぶ-その1
- 第12回 呼吸器疾患と障害学のかかわりについて学ぶ-その2
- 第13回 代謝性疾患と障害学のかかわりについて学ぶ
- 第14回 腎疾患、膠原病と障害学のかかわりについて学ぶ
- 第15回 疾患から障害への展開(授業の総括)

履修上の注意点

教科書

標準理学療法学・作業療法学「内科学」

著者： 前田真治他

出版社： 医学書院

出版年： 2014

ISBN： 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (100)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

期末試験により評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **発達障害基礎論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博・岡本 茂

テーマ

小児疾患に関する診断と治療について学び、さらに小児疾患由来の障害とその障害像について把握する。

授業の到達目標

理学療法の対象となる小児疾患を理解する。小児疾患から生じる障害とその障害像を理解する。

授業の概要

前半は小児疾患について小児科医の見地から概説し、後半は小児疾患由来の障害について理学療法士の見地から概説する。

準備学習(予習・復習)

コツコツと復習を行ってください。

内 容

- 第1回 脳性麻痺について
- 第2回 進行性筋ジストロフィー症について
- 第3回 二分脊椎について
- 第4回 ダウン症候群について
- 第5回 精神発達遅滞について
- 第6回 低出生体重児・ハイリスク児について
- 第7回 発達障害(自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害)について
- 第8回 脳性麻痺の障害の障害について-1
- 第9回 脳性麻痺の障害の障害について-2
- 第10回 進行性筋ジストロフィー症の障害について
- 第11回 二分脊椎の障害について
- 第12回 ダウン症候群の障害について
- 第13回 精神発達遅滞の障害について
- 第14回 低出生体重児・ハイリスク児の障害について
- 第15回 自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害の障害像について

履修上の注意点

15回授業で3分の1以上の欠席で履修認可は不可

教科書

こどもの理学療法

著者: 千住秀明

出版社: 神陵文庫

出版年:

ISBN: 9.78492E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (90%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (10%)

前半と後半の2回に分けて試験を実施する。



## 2017 Syllabus

科目名 **運動器障害基礎論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 兼松 まどか・宮崎 純弥	
テーマ	
整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。	
授業の到達目標	
研究・臨床における理学療法と整形外科との関連の重要性について理解し、次に、整形外科臨床においてよく見られる、各種疾患における理学療法の要点を理解する。	
授業の概要	
まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。	
準備学習(予習・復習)	
テキストや参考書を使用して、各自の理解度に応じて予習・復習を行う。	
内 容	
第1回 総論 整形外科学とリハビリテーションの関連	
第2回 総論 整形外科学における診断法・検査法・治療法	
第3回 総論 整形外科疾病論 ①炎症性疾患	
第4回 総論 整形外科疾病論 ②代謝・内分泌性疾患	
第5回 総論 整形外科疾病論 ③骨・関節性疾患	
第6回 総論 整形外科疾病論 ④骨・軟部腫瘍	
第7回 総論 整形外科疾病論 ⑤神経・筋疾患	
第8回 各論 外傷性疾患 ①骨折	
第9回 各論 外傷性疾患 ②脊髄損傷	
第10回 各論 外傷性疾患 ③関節の損傷	
第11回 各論 外傷性疾患 ④腱・人体の損傷	
第12回 各論 外傷性疾患 ⑤末梢神経の損傷	
第13回 各論 外傷性疾患 ⑥スポーツ障害	
第14回 各論 外傷性疾患 ⑦熱傷と凍傷	
第15回 各論 外傷性疾患 ⑧切断と離断	
履修上の注意点	
教科書	
標準整形外科学	
著者： 中村利孝・松野丈夫	
出版社： 医学書院	
出版年： 2017	ISBN： 9.78426E+12
参考書	
整形外科学(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野シリーズ)	
著者： 立野勝彦	
出版社： 医学書院	
出版年：	ISBN：
成績評価	
試験・レポート ( 90 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 5 )
参加度 ( 5 )	
授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。	

## 2017 Syllabus

科目名 **精神障害基礎論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 川岸 久也・市田 忍・四方 公康	
テーマ	
適切な保健医療福祉活動を行うために必要な基本的な精神医学の知識を習得する。	
授業の到達目標	
理学療法士に必要な精神医学の基本を学ぶ。①症状を理解し、精神医学用語で説明できるようになる。②代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療などの基本事項を理解する。精神症状を合併した患者へのリハビリテーションを理解する。	
授業の概要	
レジュメに沿って、各事項について具体的な症例を交えながら説明する。各回の授業の最後で小テストを実施し、知識の整理に役立てる。最終的に期末テストを実施し、知識の確認を図る。	
準備学習(予習・復習)	
授業後、参考書などで知識を整理すること。	
内 容	
第1回	精神医学の歴史、異常とは何か、精神科症候学
第2回	内因性の精神障害—統合失調症
第3回	内因性の精神障害—気分障害
第4回	心因性の精神障害—神経症、トラウマ関連障害
第5回	物質関連障害—アルコール依存・中毒、薬物依存・中毒、器質性精神病—認知症
第6回	児童思春期の精神障害、摂食障害
第7回	てんかん、睡眠障害、精神科治療学
第8回	精神疾患・薬物療法の基礎
第9回	精神保健福祉とリハビリテーション
第10回	入院・外来の治療とリハビリテーション
第11回	地域生活支援について
第12回	精神科における身体リハビリテーション
第13回	眠剤および精神薬が身体に及ぼす影響
第14回	精神症状への環境調整
第15回	認知症状への対応
履修上の注意点	
授業はレジュメに沿って進めるが、知識を整理するうえで参考書があったほうが望ましい。	
教科書	
参考書	
精神医学 第4版(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)	
著者: 奈良 勲	
出版社: 医学書院	
出版年: 2015	ISBN: 4260024345
成績評価	
試験・レポート (70)	小テスト (0)
授業中課題 (15)	授業中発表等 (0)
参加度 (15)	

## 2017 Syllabus

科目名 **神経障害基礎論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 兒玉 隆之・久保山 哲彦

テーマ

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。

授業の到達目標

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、医師の見地から脳・脊髄・神経系学の症候学、診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に理学療法士の見地から中枢神経系疾患及び神経・筋疾患の特性と障害像について教授する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 脳の構造と機能
- 第2回 神経系の発生と分化について
- 第3回 神経伝達とシナプス可塑性
- 第4回 神経障害の分子機構
- 第5回 中枢神経障害とは
- 第6回 末梢神経障害とは
- 第7回 脳の高次機能
- 第8回 神経障害の治療
- 第9回 脳の局在機能について①
- 第10回 脳の局在機能について②
- 第11回 神経障害に対する理学療法評価の基本
- 第12回 脳外傷の理学療法
- 第13回 小脳障害の理学療法
- 第14回 Parkinson病の理学療法
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

中枢神経疾患の理学療法

著者： 千住秀明

出版社： 神陵文庫

出版年： 2013

ISBN： 978-4-915814-26

参考書

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

3分の1以上の欠席を認めない。

## 2017 Syllabus

## 科目名 中枢神経障害系理学療法学基礎演習

クラス	配当回生 学部2回生
-----	------------

講義期間 後期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 兒玉 隆之・小田桐 匡・中野 英樹
-----------------------

## テーマ

中枢性・末梢性神経障害に対する理学療法学を学ぶ。

## 授業の到達目標

脳血管疾患や神経変性疾患など、特に中枢神経疾患の病態を教授し、その障害に対する理学療法について、障害評価の方法、治療トレーニングの方法の視点から演習形式にて学習を進める。本科目は、解剖学、生理学、臨床医学の知識を土台に、その基礎的な臨床応用能力を習得することが目的である。

## 授業の概要

解剖学、生理学、臨床医学などで学んだ神経系の知識を基礎に、それらの損傷がもたらす中枢性疾患の病態を理解し、その障害に対する理学療法(評価方法や治療トレーニング)の知識を演習形式にて学習する。

## 準備学習(予習・復習)

神経障害学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

## 内 容

- 第1回 脳血管障害① 頭蓋内出血の発症機序とその症状
- 第2回 脳血管障害② 脳梗塞の発症機序とその症状
- 第3回 脳血管障害③ 身体に解放されるいわゆる“陽性徴候”
- 第4回 脳血管障害④ 身体から消えたいいわゆる“陰性徴候”
- 第5回 脳血管障害⑤ 高次脳機能障害「失語」
- 第6回 脳血管障害⑥ 高次脳機能障害「失行・失認」
- 第7回 脳血管障害⑦ 合併症
- 第8回 小脳の構造と機能①
- 第9回 小脳の構造と機能②
- 第10回 小脳の構造と機能③
- 第11回 小脳疾患の病態
- 第12回 小脳疾患に対する評価
- 第13回 小脳疾患に対する理学療法
- 第14回 小脳疾患に対するクリニカルリーズニング
- 第15回 大脳基底核の構造と機能①
- 第16回 大脳基底核の構造と機能②
- 第17回 視床の構造と機能①
- 第18回 視床の構造と機能②
- 第19回 脳幹の構造と機能①
- 第20回 脳幹の構造と機能②
- 第21回 大脳基底核障害のクリニカルリーズニング
- 第22回 大脳基底核疾患に対する評価
- 第23回 大脳基底核と理学療法: グループディスカッション
- 第24回 視床損傷のクリニカルリーズニング
- 第25回 脳幹損傷のクリニカルリーズニング
- 第26回 大脳深部損傷の理学療法: ディスカッション
- 第27回 脊髄&末梢神経の構造と機能①
- 第28回 脊髄&末梢神経の構造と機能②
- 第29回 脊髄&末梢神経損傷のクリニカルリーズニング
- 第30回 脊髄&末梢神経損傷の理学療法: ディスカッション

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題（10）

授業中発表等（）

参加度（10）

3分の1以上の欠席を認めない。

---

## 2017 Syllabus

科目名 公衆衛生学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 健一

テーマ

理学療法士に必要な公衆衛生の基礎的な知識を身につける。

授業の到達目標

公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を理解した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を身につける。地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について理解する。

授業の概要

公衆衛生学の中でも、とりわけ理学療法と関連が深い内容を抽出し、教授を行う。授業はオリジナルの資料に基づき行い、随時演習も取り入れる。

準備学習(予習・復習)

普段から日本の医療・保健における現状と問題点を気にかけること。

内 容

- 第1回 集団の健康の定義と社会医学の考え方
- 第2回 公衆衛生学の発展過程
- 第3回 人口統計の健康指標
- 第4回 疫学の定義、疫学の調査方法
- 第5回 環境保健・健康管理
- 第6回 地域保健・母子保健
- 第7回 成人保健・老人保健福祉
- 第8回 学校保健・産業保健

履修上の注意点

受け身姿勢で受講するのではなく、授業に積極的に参加すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 老年医学&lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子・宮本 尚

テーマ

超高齢化社会における高齢者の身体的・精神的特徴を理解し、対応策について学ぶ

授業の到達目標

高齢者が抱える問題について理解し、高齢者の身体的・精神的特徴に配慮した診療が実践できるための基礎的知識を獲得する

授業の概要

高齢者の様々な疾患の病態や治療について教授する

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 加齢と老化
- 第2回 老年症候群
- 第3回 骨・運動器疾患
- 第4回 神経疾患
- 第5回 循環器疾患
- 第6回 消化器疾患
- 第7回 精神疾患
- 第8回 廃用症候群
- 第9回 高齢者の環境
- 第10回 高齢者へのアプローチ
- 第11回 高齢者のリハビリテーション:総論
- 第12回 高齢者のリハビリテーション:各論
- 第13回 高齢者のリスク管理
- 第14回 高齢者の健康支援
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない(原則として)3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

標準理学療法学・作業療法学「老年期」

著者:

出版社: 医学書院

出版年: 最新版

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (80)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

## 科目名 画像診断学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 甲斐 義浩・田村 慶朗・久保山 哲彦・西川 仁史	
テーマ	
基本的な画像診断学の知識を習得する。	
授業の到達目標	
・画像診断のための各種検査法の原理と診断方法を理解する。・各領域における医用診断画像の読影法を学び、理学療法評価や治療プログラム遂行上の病態把握、リスク管理に欠かせない情報であることを理解する。・理学療法士に必要な画像の見方を習得する。	
授業の概要	
授業による座学と演習を中心とする。	
準備学習(予習・復習)	
当該科目における国家試験の過去問題において、どのような問題が出題されているか確認しておくこと。	
内 容	
第1回	正常関節における単純X線画像の読影: 上肢の関節①
第2回	正常関節における単純X線画像の読影: 上肢の関節②
第3回	正常関節における単純X線画像の読影: 下肢の関節①
第4回	正常関節における単純X線画像の読影: 下肢の関節②
第5回	正常関節における単純X線画像の読影: 脊柱
第6回	整形外科領域の画像の見方: 代表的な外傷性疾患について学ぶ
第7回	整形外科領域の画像の見方: 高齢者の4大骨折について学ぶ
第8回	整形外科領域の画像の見方: 変形性関節症と関節リウマチについて学ぶ
第9回	整形外科領域の画像の見方: 若年者とスポーツ障害について学ぶ
第10回	内部障害の画像の見方①
第11回	内部障害の画像の見方②
第12回	中枢神経疾患の画像の見方①
第13回	中枢神経疾患の画像の見方②
第14回	中枢神経疾患の画像の見方③
第15回	中枢神経疾患の画像の見方④
履修上の注意点	
講義の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。	
教科書	
参考書	
PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方	
著者: 中島雅美・中島喜代彦	
出版社: 医歯薬出版株式会社	
出版年: 2016	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (100%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	
定期試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。	



## 2017 Syllabus

科目名 スポーツ医学 &lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹・吉村 直心・北條 達也

テーマ

スポーツ障害系疾患の診断・治療とリハビリテーション

授業の到達目標

1. 代表的なスポーツ障害系疾患に関するリハビリテーションを理解する。2. スポーツ医学の幅広い見地から、さまざまなスポーツ障害に関する基礎知識を身につける。

授業の概要

医師(整形外科医・スポーツドクター)により、スポーツ障害の症候学、診断と治療、ドーピング等のスポーツ医学に係わる問題に関して概説する。さらに理学療法士により、代表的なスポーツ障害に対する障害像とリハビリテーションについて解説する。

準備学習(予習・復習)

事前に講義資料に目を通しておくこと。また専門用語等は確認しておくこと。

内 容

- 第1回 スポーツ医学概論
- 第2回 スポーツ外傷・障害総論(救急処置を含む)
- 第3回 スポーツ外傷・障害各論1;下肢
- 第4回 スポーツ外傷・障害各論2;上肢
- 第5回 スポーツ外傷・障害各論3;体幹・他
- 第6回 メディカルチェックとドーピング
- 第7回 アスレティックリハビリテーション1;概論
- 第8回 アスレティックリハビリテーション2;上肢(1)
- 第9回 アスレティックリハビリテーション3;上肢(2)
- 第10回 アスレティックリハビリテーション4;体幹(1)
- 第11回 アスレティックリハビリテーション5;体幹(2)
- 第12回 アスレティックリハビリテーション6;下肢(1)
- 第13回 アスレティックリハビリテーション7;下肢(1)
- 第14回 障害者・学童期・女性におけるスポーツ障害
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(60)

小テスト(30)

授業中課題( )

授業中発表等(5)

参加度(5)

## 2017 Syllabus

科目名 **スポーツ障害基礎論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹・吉村 直心・北條 達也

テーマ

スポーツ障害系疾患の診断・治療とリハビリテーション

授業の到達目標

1. 代表的なスポーツ障害系疾患に関するリハビリテーションを理解する。2. スポーツ医学の幅広い見地から、さまざまなスポーツ障害に関する基礎知識を身につける。

授業の概要

医師(整形外科医・スポーツドクター)により、スポーツ障害の症候学、診断と治療、ドーピング等のスポーツ医学に係わる問題に関して概説する。さらに理学療法士により、代表的なスポーツ障害に対する障害像とリハビリテーションについて解説する。

準備学習(予習・復習)

事前に講義資料に目を通しておくこと。また専門用語等は確認しておくこと。

内 容

- 第1回 スポーツ医学概論
- 第2回 スポーツ外傷・障害総論(救急処置を含む)
- 第3回 スポーツ外傷・障害各論1; 下肢
- 第4回 スポーツ外傷・障害各論2; 上肢
- 第5回 スポーツ外傷・障害各論3; 体幹・他
- 第6回 メディカルチェックとドーピング
- 第7回 アスレティックリハビリテーション1; 概論
- 第8回 アスレティックリハビリテーション2; 上肢(1)
- 第9回 アスレティックリハビリテーション3; 上肢(2)
- 第10回 アスレティックリハビリテーション4; 体幹(1)
- 第11回 アスレティックリハビリテーション5; 体幹(2)
- 第12回 アスレティックリハビリテーション6; 下肢(1)
- 第13回 アスレティックリハビリテーション7; 下肢(1)
- 第14回 障害者・学童期・女性におけるスポーツ障害
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

授業中課題 ( )

参加度 (5)

小テスト (30)

授業中発表等 (5)

## 2017 Syllabus

科目名 老年期障害基礎論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子・宮本 尚

テーマ

超高齢化社会における高齢者の身体的・精神的特徴を理解し、対応策について学ぶ

授業の到達目標

高齢者が抱える問題について理解し、高齢者の身体的・精神的特徴に配慮した診療が実践できるための基礎的知識を獲得する

授業の概要

高齢者の様々な疾患の病態や治療について教授する

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 加齢と老化
- 第2回 老年症候群
- 第3回 骨・運動器疾患
- 第4回 神経疾患
- 第5回 循環器疾患
- 第6回 消化器疾患
- 第7回 精神疾患
- 第8回 廃用症候群
- 第9回 高齢者の環境
- 第10回 高齢者へのアプローチ
- 第11回 高齢者のリハビリテーション:総論
- 第12回 高齢者のリハビリテーション:各論
- 第13回 高齢者のリスク管理
- 第14回 高齢者の健康支援
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない(原則として)3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

標準理学療法学・作業療法学「老年期」

著者:

出版社: 医学書院

出版年: 最新版

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (80)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅰ〈\*a〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 村田 伸

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 80 )

参加度 ( )

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <\* b>**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀江 淳

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 80 )

参加度 ( )

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅰ〈\*c〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 白岩 加代子

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 80 )

参加度 ( )

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安彦 鉄平

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 80 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( )

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I &lt;\*e&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 甲斐 義浩

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I &lt;\*g&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松尾 奈々

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I &lt;\*h&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I &lt;\*i&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 濱出 茂治

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I &lt;\*j&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I &lt;\*k&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <\*I>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小田桐 匡

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈\*a〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 村田 伸

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 80 )

参加度 ( )

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 20 )



## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法研究法Ⅱ <\*b>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀江 淳

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 80 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( )

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈\*c〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 白岩 加代子

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 80 )

参加度 ( )

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈\*d〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安彦 鉄平

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 80 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( )

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈\*e〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（ ）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 甲斐 義浩

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（ ）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ &lt;\*g&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松尾 奈々

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート（50）

小テスト（ ）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ &lt;\*h&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（ ）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ &lt;\*i&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 濱出 茂治

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ &lt;\*j&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ &lt;\*k&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ &lt;\*Ⅰ&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小田桐 匡

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 動作分析学演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 甲斐 義浩.中野 英樹

## テーマ

動作分析に必要な運動力学の原理を学び、重力環境下における基本動作の成り立ちについて理解を促進する。

## 授業の到達目標

1.動作分析のおおまかな流れを理解することができる。 2.動作分析に必要な運動力学の要素を理解することができる。  
 3.基本動作(立ち上がりや歩行など)の運動要素を理解し、説明することができる。4.3次元動作解析装置を用いた動作分析の基礎を理解することができる。

## 授業の概要

正常から逸脱した異常姿勢や異常歩行の原因と影響について力学的な視点から解説する。

## 準備学習(予習・復習)

臨床運動学演習で学んだ歩行の基礎を十分に復習して講義に臨むこと。

## 内 容

- 第1回 動作分析の進め方・まとめ方
- 第2回 制約条件下(膝関節固定)における歩行分析①
- 第3回 制約条件下(膝関節固定)における歩行分析②
- 第4回 制約条件下(足関節固定)における歩行分析①
- 第5回 制約条件下(足関節固定)における歩行分析②
- 第6回 片麻痺症例の歩行分析①
- 第7回 片麻痺症例の歩行分析②
- 第8回 変形性膝関節症症例の歩行分析①
- 第9回 変形性膝関節症症例の歩行分析②
- 第10回 歩行パラメーター(時間距離因子)の測定実習
- 第11回 寝返り動作の分析
- 第12回 起き上がり動作の分析①
- 第13回 起き上がり動作の分析②
- 第14回 立ち上がり動作の分析①
- 第15回 立ち上がり動作の分析②

## 履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

## 教科書

歩行分析 正常歩行と異常歩行 原著第2版

著者: Perry J(著), 武田功(訳)

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2012

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (50%)

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 運動療法学演習〈2回生〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小田桐 匡・岩瀬 弘明	
テーマ	
理学療法の中核的な治療手段である運動療法について、その基本的技術と実践遂行能力を修得する。	
授業の到達目標	
1) 各種治療方法の目的を理解し、基本的技術を身につける。2) 各疾患に対して適切な治療方法を選択し、その理由を説明することができる。3) 各疾患に対して適切な治療方法を選択し、実施できる。	
授業の概要	
理学療法の中核をなす「運動療法」を理解するために、運動療法学で学んだ知識に基いて、その基本的技術と方法論を理解する。また、実技を通して、運動療法の基本的な知識、技術、態度、実践遂行能力の体得を目指す。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 実技:ストレッチング ー頸部・体幹①ー	
第2回 実技:ストレッチング ー頸部・体幹②ー	
第3回 関節運動学と関節モビライゼーション①	
第4回 関節運動学と関節モビライゼーション②	
第5回 筋膜リリースの基礎	
第6回 全身調整運動	
第7回 リラクゼーション運動	
第8回 協調動作:協調動作のメカニズムを学習する	
第9回 協調動作の獲得に向けた運動療法:協調動作の向上を意図した各種運動療法の紹介と、その幾つかについて体験を通して学習する	
第10回 姿勢とバランス機能:姿勢保持やバランスの障害を考える上で基本となる理論や視点について学習する	
第11回 姿勢保持とバランスのための運動療法:姿勢保持やバランスを向上させるための基本的な運動療法について体験を通して学習する	
第12回 神経筋再教育と基本動作の習得①:神経筋教育は中枢神経障害等において重要な課題となる。神経筋再教育の方法や歴史、理論的背景について学習する	
第13回 神経筋再教育と基本動作の習得および運動学習①:神経筋再教育の幾つかについて実際に体験し学習を深める	
第14回 神経筋再教育と基本動作の習得および運動学習②:基本的動作に対する神経筋再教育について、実践的に学習する	
第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
座学と実技、演習を交えて行う。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。講義の進行を妨げる行為や、受講態度に明らかな問題がある場合は受講をお断りします。	
教科書	
IDストレッチング	
著者: 平野幸伸、鈴木敏和、鈴木重行	
出版社: 三輪書店	
出版年: 2006	ISBN: 4895902390
運動療法学—障害別アプローチの理論と実際	
著者: 市橋則明	
出版社: 文光堂	
出版年: 2014	ISBN: 4830645032
参考書	
成績評価	
試験・レポート (100)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 運動療法学演習 &lt;3回生&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	
テーマ 運動療法の方法論の理解と実践遂行能力の獲得	
授業の到達目標 ①運動療法の基本的知識と技術を身につける。②各疾患に対する運動療法プログラムを組み立てることができる。実践能力を培う。③運動療法の現状を理解し、今後の課題・展望について議論することができる。	
授業の概要 本講義では、「運動療法学」を基礎とし、運動療法の方法論について学習します。また疾患特性を考慮した運動療法プログラムの立案とそのリスク管理について解説します。さらには実技を通して、運動療法の実践能力を身につけます。	
準備学習(予習・復習) 関連する基礎知識や医学的知識(疾病, 病態を含む)および専門用語について十分に予習を行うこと。	
内 容 第1回 オリエンテーション／バランス障害に対する運動療法 第2回 協調性運動障害に対する運動療法 第3回 姿勢障害に対する運動療法 第4回 歩行障害に対する運動療法(1) 第5回 歩行障害に対する運動療法(2) 第6回 痛みに対する運動療法 第7回 水中運動療法 第8回 嚙下障害に対する運動療法 第9回 めまいに対する運動療法 第10回 ゲストスピーカーによる講義「臨床における運動療法Ⅱ」 第11回 症例検討(1) 第12回 症例検討(2) 第13回 症例検討(3) 第14回 症例検討(4) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 実習を取り入れながら進めることから、実習着に着替えて、受講してください。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。	
教科書	
参考書 運動療法学 著者： 市橋則明 出版社： 文光堂 出版年： 2008 ISBN: 運動療法大全 著者： キャロリン・キスナー, 他 出版社： ガイアブックス 出版年： 2008 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(60) 小テスト(15) 授業中課題(15) 授業中発表等(5) 参加度(5) 講義開始時に、基礎知識(国家試験レベル)の復習を目的とした確認テストを実施します。授業中課題として提出されたレポートを参考に評価を行います。	

## 2017 Syllabus

科目名 物理療法学演習 &lt;3回生&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 濱出 茂治・中野 英樹

## テーマ

物理療法の適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実習を通して学習し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図る。

## 授業の到達目標

物理療法における疼痛抑制、温熱、痙性抑制等の治療効果に関する基本的特性を実験によって修得する。

## 授業の概要

・治療機器の操作を理解する。・物理エネルギーがどのような影響を生体に与えるかを理解する。・多様な機能障害への臨床適用技術を修得する。

## 準備学習(予習・復習)

物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

## 内 容

- 第1回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(上肢)
- 第2回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(上肢)
- 第3回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(下肢)
- 第4回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(下肢)
- 第5回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(1)
- 第6回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(2)
- 第7回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(3)
- 第8回 水治療法における生体皮膚温度の測定実習(1)
- 第9回 水治療法における生体皮膚温度の測定実習(2)
- 第10回 光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(1)
- 第11回 光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(2)
- 第12回 電気療法における治療シミュレーション実習(1)
- 第13回 電気療法における治療シミュレーション実習(2)
- 第14回 牽引療法におけるシミュレーション実習(1)
- 第15回 牽引療法におけるシミュレーション実習(2)

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

テキスト物理療法学

著者： 濱出茂治

出版社： 医歯薬

出版年： 2016

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート (80%)

授業中課題 ( )

参加度 (20%)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 生活技術学演習

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 安彦 鉄平・村田 伸

## テーマ

本講義は、生活技術学で学んだ各種の日常生活動作の評価について、疾患別の検査・測定と、その結果の解釈について学ぶ。また、各疾患特有のADL障害の要因について理解し、その指導方法や理学療法プログラムについて学ぶ。

## 授業の到達目標

1. 疾患特有の機能障害とADL障害を理解し、説明できる。 2. 各疾患ごとにADL制限の要因を説明できる。 3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明、実施できる。

## 授業の概要

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

## 準備学習(予習・復習)

テキストや参考文献を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

## 内 容

- 第1回 脳血管障害者のADL(評価の実践:BI)
- 第2回 脳血管障害者のADL(評価の実践:FIM)
- 第3回 脳血管障害者のADL(動作分析)
- 第4回 脳血管障害者のADL(基本動作の指導)
- 第5回 脳血管障害者のADL(IADLの指導)
- 第6回 下肢運動器障害者のADL評価
- 第7回 下肢運動器障害者のADL評価(大腿骨頸部骨折)
- 第8回 下肢運動器障害者のADL評価(変形性股関節症)
- 第9回 下肢運動器障害者のADL評価(変形性膝関節症)
- 第10回 体幹運動器障害者のADL評価
- 第11回 体幹運動器障害者のADL評価(腰痛症)
- 第12回 その他の疾患による障害者のADL評価
- 第13回 その他の疾患による障害者のADL評価(関節リウマチ)
- 第14回 その他の疾患による障害者のADL評価(パーキンソン病)
- 第15回 その他の疾患による障害者のADL評価(下肢切断)

## 履修上の注意点

授業日程の3分の2以上の出席が原則。

## 教科書

疾患別日常生活活動学テキスト

著者:

出版社: 学術研究出版

出版年:

ISBN:

参考書

## 成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。



## 2017 Syllabus

## 科目名 義肢装具学演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 横山 茂樹・安彦 鉄平・坂本 明信・吉田 剛

## テーマ

義肢・装具に関する基礎と臨床

## 授業の到達目標

①義肢・装具の適応, 使用目的, 構成要素等の基礎知識を身につける. ②疾患別に対する義肢・装具, スプリント等の種類とチェックアウトについて説明できる.

## 授業の概要

本講義は, オムニバス形式にて演習と施設見学を組み合わせで展開する. 義肢装具士の講師を招いて, 義肢・装具の製作過程の実演および義肢制作過程の見学を行う.

## 準備学習(予習・復習)

講義範囲について, 事前にテキストを熟読しておいてください.

## 内 容

- 第1回 装具学総論
- 第2回 装具(頸部・体幹)
- 第3回 装具(下肢)1
- 第4回 装具(下肢)2
- 第5回 装具(下肢)3
- 第6回 装具(下肢)4
- 第7回 装具(上肢)1
- 第8回 装具(上肢)2
- 第9回 スプリント・自助具(1)
- 第10回 スプリント・自助具(2)
- 第11回 義肢学総論
- 第12回 断端管理と理学療法
- 第13回 義肢(上肢)1
- 第14回 義肢(上肢)2
- 第15回 義肢(上肢)3
- 第16回 義肢(下肢)1
- 第17回 義肢(下肢)2
- 第18回 義肢(下肢)3
- 第19回 義肢(下肢)4
- 第20回 義足装着時の異常歩行とその対策(1)
- 第21回 義足装着時の異常歩行とその対策(2)
- 第22回 義肢装具トピックス(1)
- 第23回 義肢装具トピックス(2)
- 第24回 機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学(1)
- 第25回 機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学(2)
- 第26回 義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別(1)
- 第27回 義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別(2)
- 第28回 簡易式短下肢装具作製実習(1)
- 第29回 簡易式短下肢装具作製実習(2)
- 第30回 まとめ

## 履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

## 教科書

義肢装具学テキスト

著者: 磯崎 弘司

出版社: 南江堂

出版年: 2013

ISBN: 978-4524268399

## 参考書

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

授業中課題 ( 20 )

参加度 ( 5 )

小テスト ( 20 )

授業中発表等 ( 5 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 内部障害系理学療法学基礎演習

クラス	配当回生 学部3回生
-----	------------

講義期間 前期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 堀江 淳・内藤 紘一
----------------

## テーマ

内部障害系(呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患)理学療法学の基礎的な知識、技術の理解を促進する。

## 授業の到達目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する解剖学、運動学、生理学(運動生理学)の知識を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理についての基礎的な知識、技術の習得を目標とする。

## 授業の概要

これまで学習した呼吸、循環の解剖、生理、運動学の知識を整理しつつ、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に対する理学療法の評価、治療の基礎を座学を中心として学習する。また、簡単な実習を通じて知識を深めていく。

## 準備学習(予習・復習)

臨床実習、国家試験対策として「覚える」ことを授業以外の学習の主眼とする。特に、自宅での復習を重視し、確認のための質疑応答を随時行う。

## 内 容

- 第1回 呼吸リハビリテーションと理学療法
- 第2回 呼吸器系の生理学、解剖学、運動学
- 第3回 呼吸リハビリテーションの対象疾患とその病態、治療
- 第4回 呼吸理学療法のための評価(問診、視診、聴診、触診、測定)
- 第5回 呼吸理学療法のための評価(運度耐容能評価)
- 第6回 呼吸理学療法のための治療プログラム
- 第7回 酸素療法と人工呼吸療法
- 第8回 循環器系の生理学、解剖学
- 第9回 心電図の診かた
- 第10回 心臓リハビリテーションの対象疾患とその病態、治療
- 第11回 循環器理学療法のための評価(リスクの層別化)
- 第12回 循環器理学療法のための治療プログラム
- 第13回 糖尿病の病態、検査、治療
- 第14回 糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
- 第15回 講義のまとめと最新トピックス なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

## 教科書

内部障害理学療法学

著者: 松尾善美

出版社: 羊土社

出版年: 2016

ISBN: 9.78476E+12

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (100)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

期末に実施する筆記試験にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは筆記試験を受験できない。出席点は減点方式とし、欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツ障害系理学療法学基礎演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	
テーマ スポーツ障害に対する評価と理学療法	
授業の到達目標 ①スポーツ動作のバイオメカニクスやスポーツ障害の疾患特性を十分に理解する。②スポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを説明できる。③スポーツ障害の予防に向けた取り組みを説明できる。	
授業の概要 部位別におけるスポーツ障害の発生機序、病態・疾病特性について解説します。さらにはスポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを実践できるように実技も取り入れながら講義を進めます。	
準備学習(予習・復習) 各回において、評価や治療・指導が実践できるレベルを目指します。このため事前に取り上げる疾患を告知しますので、疾患特性や病態等について、十分に予習しておいてください。さらに講義を行った範囲で確認テストを実施しますので、復習してください。	
内 容 第1回 スポーツ理学療法総論 第2回 スポーツ現場におけるメディカルチェック 第3回 足関節疾患(1);足関節外側側副靭帯損傷 第4回 足関節疾患(2);足関節外側側副靭帯損傷 第5回 足部疾患;足底腱膜炎/腓骨筋腱炎 第6回 下腿部疾患;アキレス腱断裂/脛骨疲労骨折 第7回 膝関節疾患(1);膝靭帯損傷 第8回 膝関節疾患(2);膝蓋大腿関節障害/腸脛靭帯炎/鷲足炎 第9回 腰部疾患(1);腰痛症 第10回 腰部疾患(2);腰痛症 第11回 肩関節疾患;肩関節脱臼/野球肩 第12回 肘関節疾患;野球肘/テニス肘 第13回 手関節疾患;TFCC/槌指 第14回 ゲストスピーカーによる講義「スポーツ現場に求められる理学療法」 第15回 まとめ	
履修上の注意点 実習着を着用して出席してください。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。	
教科書	
参考書 スポーツ外傷学 I～IV 著者: 黒沢 尚・他 編集 出版社: 医歯薬出版 出版年: 2001 ISBN: スポーツリハビリテーション 著者: コルト・他 出版社: 西村書店 出版年: 2006 ISBN: 4-89013-342-9	
成績評価 試験・レポート(60) 小テスト(20) 授業中課題(10) 授業中発表等(5) 参加度(5)	

## 2017 Syllabus

科目名 脊髄障害系理学療法学基礎演習

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 武田 功

テーマ

## 授業の到達目標

脊髄(疾患)損傷の講義は、単に病態像や身体障害の治療訓練のみを教授するのではなく、近年、高齢化から超高齢社会を迎えようとしている。そのため脊髄疾患の対象は多岐にわたってきた。すなわち、乳幼児から(超)高齢脊髄疾患まで幅広く、さらに多様化、重度化、重複化が進み社会のニーズの変化に伴い脊髄(疾患)損傷者自身のニーズも変化してきた。それはリハビリテーションの進歩に伴い、生存率を高め、通常余命を期待できるようになったことにある。また、理学療法においても従来のimpairmentレベルに偏重した理学療法の理念からdisabilityそしてhandicapに至るまでのチームアプローチを実現することが可能となったことにある。それをさらに前進させるため理学療法はそのチームの一員として全人間的な見地から社会生活を含めた生活者として生きる脊髄(疾患)損傷者の広範囲なアプローチに主眼をおき、その基礎的なことを教授する。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 脊髄損傷の理学療法概論
- 第2回 脊髄損傷の理学療法概論
- 第3回 脊髄損傷の理学療法に関する評価(1)
- 第4回 脊髄損傷の理学療法に関する評価(2)
- 第5回 脊髄損傷の高位診断
- 第6回 脊髄不全損傷とその特殊型
- 第7回 痙性麻痺の定義、概念、評価、治療
- 第8回 脊髄損傷に関する自律神経障害
- 第9回 回復期初期から後期における理学療法(1)
- 第10回 回復期初期から後期における理学療法(2)
- 第11回 回復期初期から後期における理学療法(3)
- 第12回 慢性期における理学療法(1)
- 第13回 慢性期における理学療法(2)
- 第14回 泌尿器系における理学療法
- 第15回 定期試験

## 履修上の注意点

## 教科書

脊髄損傷の理学療法(第2版)

著者: 武田 功・他

出版社: 医歯薬出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート(90)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(10)

次の項目で総合評価する。①出席は減点法(1回につき欠席-2点、遅刻-1点を減点) ②講義の質疑応答 ③提出物、④授業態度、⑤定期試験(2/3以上出席していること)以上の総合点とする。

## 2017 Syllabus

## 科目名 神経・筋疾患理学療法学演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 兒玉 隆之・演出 茂治	
テーマ	
神経筋変性疾患、脱髄性疾患および免疫性疾患に対する理学療法を理解を促進する。	
授業の到達目標	
神経筋変性疾患、脱髄性疾患および免疫性疾患の病態、それらに起因する障害、回復過程、予後に関する知識を学び、それらをもとにした障害の回復促進および増悪の予防に対する理学療法の基本原理と治療体系を修得することが目標となる。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
講義内容に関するレポート作成	
内 容	
第1回	オリエンテーション 神経筋疾患とは
第2回	ギラン・バレー症候群の病態
第3回	ギラン・バレー症候群の理学療法(演習)
第4回	ニューロパチーの病態
第5回	ニューロパチーの理学療法(演習)
第6回	腕神経叢麻痺の病態
第7回	腕神経叢麻痺の理学療法(演習)
第8回	顔面神経麻痺の病態および理学療法(演習)
第9回	パーキンソン病・パーキンソン症候群の病態
第10回	パーキンソン病・パーキンソン症候群の理学療法(演習)
第11回	運動ニューロン疾患の病態
第12回	運動ニューロン疾患の理学療法(演習)
第13回	脊髄小脳変性症の病態
第14回	脊髄小脳変性症の理学療法(演習)
第15回	多発性硬化症の病態および理学療法(演習)
履修上の注意点	
3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。	
教科書	
参考書	
理学療法ハンドブック 第1-3巻	
著者: 細田多穂,柳澤健 編	
出版社: 共同医書出版社	
出版年:	ISBN:
神経系理学療法実践マニュアル	
著者: 内山靖,臼田滋,潮見泰藏編	
出版社: 文光堂	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( 70 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 10 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 発達障害系理学療法学基礎演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 崎田 正博	
テーマ	
発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。	
授業の到達目標	
1) 正常運動発達を理解し、発達障害の異常発達との違いを明確にする。2) 理学療法の対象疾患の障害を理解する。3) 各疾患による障害の病態・発達及び複合障害を理解する。4) 代表的疾患についての基本的な評価・動作分析・治療を身につける。	
授業の概要	
発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	
事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加	
内 容	
第1回	乳幼児の正常運動発達(1)
第2回	乳幼児の正常運動発達(2)
第3回	乳幼児の正常運動発達と姿勢反射・反応(1)
第4回	乳幼児の正常運動発達と姿勢反射・反応(2)
第5回	姿勢反射・反応検査の技法: 原始反射
第6回	姿勢反射・反応検査の技法: 立ち直り反応・平衡反応
第7回	運動発達検査・評価(1)
第8回	運動発達検査・評価(2)
第9回	疾患別姿勢・運動分析とその記録(1)
第10回	疾患別姿勢・運動分析とその記録(2)
第11回	疾患別姿勢・運動分析とその記録(3)
第12回	疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(1)
第13回	疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(2)
第14回	疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(3)
第15回	まとめ
履修上の注意点	
3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。	
教科書	
こどもの理学療法	
著者: 千住秀明	
出版社: 神陵文庫	
出版年:	ISBN: 9.78492E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (70%)	小テスト (20%)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (10%)	

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子・堀江 淳・村田 伸

テーマ

ヘルスプロモーションの理念と実践について学ぶ

授業の到達目標

従来の理学療法に加え、疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的なヘルスプロモーション理学療法について学び、ヘルスプロモーションを推進するための理学療法の知識と技術を獲得する。

授業の概要

ヘルスプロモーションの定義を理解し、地域で生活する高齢者に対し病気やけがの予防、虚弱予防、介護予防の観点から、理学療法士ができる役割について学習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ヘルスプロモーション総論
- 第2回 高齢者の評価(総論)
- 第3回 高齢者の身体機能評価1
- 第4回 高齢者の身体機能評価2
- 第5回 高齢者の身体機能評価3
- 第6回 高齢者の認知機能、精神・心理機能およびQOLの評価
- 第7回 ヘルスプロモーションの実践(虚弱予防)
- 第8回 ヘルスプロモーションの実践(転倒予防)
- 第9回 ヘルスプロモーションの実践(認知症予防)
- 第10回 ヘルスプロモーションの実践(生活習慣病予防・改善)
- 第11回 行動科学とヘルスプロモーション
- 第12回 要介護高齢者のヘルスプロモーション
- 第13回 ヘルスプロモーションのための住環境整備
- 第14回 ヘルスプロモーション関係法規
- 第15回 ヘルスプロモーション研究の進め方

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践」

著者:

出版社: 南江堂

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )



## 2017 Syllabus

科目名 地域理学療法学基礎演習

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 白岩 加代子・村田 伸

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での理学療法士の役割を学習する。

授業の到達目標

地域理学療法学基礎演習で学んだ地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーションの分野で、地域社会に貢献できる理学療法士の育成をめざす。

授業の概要

地域社会における理学療法士の役割を体験できるような学外研修を中心に授業を行う予定

準備学習(予習・復習)

自分が住んでいる地域や育った環境での保険・福祉制度や地域理学療法の現状について調べてみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地域理学療法の考え方
- 第3回 学外研修(福祉・リハ関連機器)
- 第4回 学外研修(福祉・リハ関連機器)
- 第5回 障害者を取り巻く社会状況
- 第6回 介護保険制度の仕組み
- 第7回 介護保険制度における住宅改修
- 第8回 介護福祉制度における福祉用具のサービス
- 第9回 障害の捉え方
- 第10回 急性期から維持期における理学療法
- 第11回 維持期理学療法の実際(入所・通所サービス)
- 第12回 維持期理学療法の実際(訪問サービス)
- 第13回 障害予防への取り組み方
- 第14回 地域における活動紹介
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

地域理学療法学テキスト

著者:

出版社: 学術研究出版

出版年: 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 地域理学療法学応用演習

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 白岩 加代子・村田 伸

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での理学療法士の役割を学習する。

授業の到達目標

地域理学療法基礎演習で学んだ地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーションの分野で、地域社会に貢献できる理学療法士の育成をめざす。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地域包括ケアを地域リハビリテーションの必要性
- 第3回 リハビリテーションと自立支援
- 第4回 在宅介護での自立支援のあり方
- 第5回 連携とネットワークづくり
- 第6回 介護保険とリハビリテーションにおける課題と展望
- 第7回 通所・訪問リハビリテーションの実際と理学療法士の役割
- 第8回 地域における健康増進のための取り組み1
- 第9回 地域における健康増進のための取り組み2
- 第10回 学外研修(地域における住環境整備、地域事業への参加)
- 第11回 学外研修(地域における福祉用具の活用、地域事業への参加)
- 第12回 学外研修(訪問リハビリテーション、地域事業への参加)
- 第13回 学外研修(訪問リハビリテーション、地域事業への参加)
- 第14回 まとめ(意見交換、グループ発表)
- 第15回 まとめ(意見交換、グループ発表) なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 90 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 10 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 生活環境論

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 白岩 加代子・村田 伸		
テーマ		
障害を持つ人が自立した生活を送るのに必要となる環境整備の理論と実際について学ぶ。		
授業の到達目標		
障害を持つ人の生活環境整備の方法や障害を通して関係してくる法制度、福祉用具やユニバーサル・デザイン住宅について学ぶ。理学療法士として障害を持つ人が安心した生活を営むために必要な知識を習得し、アドバイスできるようになることが目標となる。		
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
第1回	オリエンテーション	
第2回	高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境	
第3回	学外研修(福祉用具・リハ関連機器について学ぶ)	
第4回	学外研修(福祉用具・リハ関連機器について学ぶ)	
第5回	福祉住環境コーディネーターの役割と機能	
第6回	福祉住環境整備の進め方	
第7回	福祉住環境整備の共通基本技術	
第8回	生活行為別にみた福祉住環境整備の手法	
第9回	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識	
第10回	障害別にみた福祉住環境	
第11回	福祉用具の意味と活用	
第12回	生活行為別にみた福祉用具の活用	
第13回	ケーススタディを用いた住宅改修1	
第14回	ケーススタディを用いた住宅改修2	
第15回	まとめ	
履修上の注意点		
3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。		
教科書		
生活環境学テキスト		
著者:		
出版社: 南江堂		
出版年: 2016		
ISBN:		
参考書		
成績評価		
試験・レポート ( 80 )	小テスト ( )	
授業中課題 ( 10 )	授業中発表等 ( )	
参加度 ( 10 )		

## 2017 Syllabus

## 科目名 臨床評価実習

クラス	配当回生 学部3回生
-----	------------

講義期間 後期集中	定員
-----------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 宮崎 純弥・安彦 鉄平・小田桐 匡・甲斐 義浩・兒玉 隆之・崎田 正博・白岩 加代子・濱出 茂治・堀江 淳・松尾 奈々・村田 伸・横山 茂樹
--

## テーマ

## 授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。2)医療専門職として責任および節度のある態度と行動をとることができる。3)基本的な理学療法の情報収集、評価方法の選択、検査・測定を正しく実施することができる。4)得られた評価結果から対応課題を抽出し、初歩的な治療プログラムを立案できる。5)理学療法の基本的な記録をすることができる。6)担当症例の評価報告書をまとめ、提出することができる。

## 授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、対象者に対する評価を中心とした実習を行う。対象者に応じた情報の収集、評価方法の選択、検査・測定の実施、結果の記録、統合と解釈、対応課題の抽出までの一連の評価過程を体験することにより、評価技術の習得のみならず、対応課題の解決を図る思考過程を学習する。一連の過程で得られた情報に基づき初歩的な治療プログラムの作成方法を学ぶ。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

第1回 オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する

第2回 現場実習

第3回 現場実習

第4回 現場実習

第5回 現場実習

第6回 現場実習

第7回 現場実習

第8回 現場実習

第9回 現場実習

第10回 現場実習

第11回 現場実習

第12回 現場実習

第13回 現場実習

第14回 現場実習

第15回 現場実習

第16回 現場実習

第17回 現場実習

第18回 現場実習

第19回 現場実習

第20回 現場実習

第21回 現場実習

第22回 現場実習

第23回 現場実習

第24回 現場実習

第25回 現場実習

第26回 現場実習

第27回 現場実習

第28回 現場実習

第29回 現場実習

第30回 実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 20 )

実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **運動器障害系理学療法学応用演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

運動器系疾患理学療法のより詳細な評価・治療を考え、臨床能力の向上を図る

授業の到達目標

運動器系疾患に対する理学療法を多角的に捉え、評価・治療を行う。より臨床に即した一連の理学療法を実践するにあたって、必要な運動器疾患の知識・解剖学的知識・運動学的知識を統合して捉えることが出来るようにする。

授業の概要

症例を通して、患者の全体像を把握して検査測定・問題点抽出・治療プログラム立案して実施するところまでを行う。

準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 姿勢の評価①
- 第3回 姿勢の評価②
- 第4回 下肢疾患の症例検討①
- 第5回 下肢疾患の症例検討②
- 第6回 下肢疾患の症例検討③
- 第7回 下肢疾患の症例検討④
- 第8回 上肢疾患の症例検討①
- 第9回 上肢疾患の症例検討②
- 第10回 上肢疾患の症例検討③
- 第11回 上肢疾患の症例検討④
- 第12回 脊椎疾患の症例検討①
- 第13回 脊椎疾患の症例検討②
- 第14回 脊椎疾患の症例検討③
- 第15回 総括 なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある

履修上の注意点

講義の前にテキストの指示された部分について最低でも3回は熟読し、分からない単語等は各自で調べておくこと。実技の出来る服装で参加すること。

教科書

運動機能障害症候群のマネジメント

著者： 監訳 竹井仁

出版社： 医歯薬出版

出版年： 2005

ISBN： 4263212851

参考書

成績評価

試験・レポート (80%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (5%)

参加度 (5%)

授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

## 2017 Syllabus

科目名 神経障害系理学療法学応用演習

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小田桐 匡・兒玉 隆之・濱出 茂治

テーマ

中枢性、末梢性の神経障害に対する理学療法について学びを一層深める

授業の到達目標

神経障害系理学療法学基礎演習で学んだ知識を基礎に、より臨床に近いレベルでの疾患の病態、障害のメカニズム(回復、予後を含む)、治療戦略に関する知識を演習形式にて指導する。さらに、研究的視点でそれらに対する理学療法に必要な専門的理論に対する思考過程の習熟を図る。

授業の概要

2回生で学んだ内容の復習を行いつつ、座学、グループ活動も含めた演習形式など多様な形態で進める。レポート課題も適宜行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 末梢性神経障害の病態
- 第2回 末梢性神経障害の評価
- 第3回 末梢性神経障害に対する理学療法
- 第4回 末梢性神経障害症例に対する臨床推論1
- 第5回 末梢性神経障害症例に対する臨床推論2
- 第6回 脳血管障害後の神経学的徴候について (主に痙縮、固縮のメカニズム)
- 第7回 脳血管障害患者の急性期における問題点および治療プログラム
- 第8回 脳血管障害患者の慢性期における問題点および治療プログラム
- 第9回 症例(CVA)に対する臨床推論
- 第10回 グループ演習
- 第11回 大脳基底核の情報処理特性とパーキンソン病
- 第12回 パーキンソン病の問題点と治療プログラム
- 第13回 小脳の情報処理特性と多系統委縮症
- 第14回 多系統委縮症の問題点と治療プログラム
- 第15回 症例(多系統委縮症、パーキンソン病)に対する臨床推論

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (85)

小テスト ( )

授業中課題 (10)

授業中発表等 ( )

参加度 (5)

## 2017 Syllabus

科目名 内部障害系理学療法学応用演習

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀江 淳・内藤 紘一

テーマ

内部障害系(呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患)理学療法学の高度な知識、技術の習得を促進する。

授業の到達目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術の習得を目標とする。

授業の概要

呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

教員作成資料、内部障害関連学術雑誌の抄読、理学療法士対象の関連勉強会、講習会への参加促進

内 容

- 第1回 COPDの病態
- 第2回 COPDにおける動的肺過膨張、薬物療法と理学療法
- 第3回 間質性肺炎や気管支拡張症の病態
- 第4回 間質性肺炎や気管支拡張症の理学療法
- 第5回 急性期(ICU、CCUなど)における呼吸、循環動態
- 第6回 急性期(ICU、CCUなど)における呼吸器疾患の病態、評価と治療
- 第7回 酸素療法、非侵襲的、侵襲的人工呼吸療法と理学療法
- 第8回 胸部、腹部外科術後における理学療法とリスク管理
- 第9回 心筋梗塞、狭心症における心臓リハビリテーション
- 第10回 急性期(ICU、CCUなど)における循環器疾患の病態、評価と治療
- 第11回 心臓血管外科術後における心臓リハビリテーションの評価と治療
- 第12回 回復期から慢性期における心臓リハビリテーションの評価と治療
- 第13回 II型糖尿病の病態、検査、治療
- 第14回 II型糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
- 第15回 講義のまとめと最新トピックス なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

内部障害理学療法学

著者: 松尾善美

出版社: 羊土社

出版年: 2016

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

授業中に課された課題の遂行能力、授業内容に関する発表会での完成度、実技授業への参加度にて総合的に評価する。



## 2017 Syllabus

科目名 **スポーツ障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	
テーマ スポーツ障害の再発防止に向けた理学療法	
授業の到達目標 ①スポーツ障害に関連する関節の機能不全や運動異常を説明できる。②スポーツ障害の再発防止に向けたアプローチを実践できる。	
授業の概要 スポーツ動作からみた障害発生要因について、さまざまな競技について検討するとともに、腰痛をはじめ股関節、膝関節および肩関節疾患に共通する体幹の機能評価およびアプローチ方法、自己管理の指導について実践的に解説します。	
準備学習(予習・復習) テキスト・資料を配付しますので、事前に熟読しておいてください。	
内 容 第1回 オリエンテーション／マルアライメント症候群に対する治療概念 第2回 アライメント評価(1) 第3回 アライメント評価(2) 第4回 メディカルチェック(1) 第5回 メディカルチェック(2) 第6回 メディカルチェック(3) 第7回 体幹の機能改善アプローチ 第8回 股関節の機能改善アプローチ 第9回 膝関節の機能改善アプローチ(1) 第10回 膝関節の機能改善アプローチ(2) 第11回 足関節の機能改善アプローチ 第12回 肩関節の機能改善アプローチ 第13回 スポーツ現場における障害予防教育(1) 第14回 スポーツ現場における障害予防教育(2) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 実技を交えながら行いますので、実習着に着替えて参加してください。スポーツ現場の見学実習も行います。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。	
教科書	
参考書 ファンクショナル・エクササイズ 著者： 川野哲英 出版社： ブックハウスHD 出版年： ISBN: リアライン・トレーニング 著者： 蒲田和芳 出版社： 講談社 出版年： 2014 ISBN: 978-4062806589	
成績評価 試験・レポート (40) 小テスト (20) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10)	

## 2017 Syllabus

科目名 脊髄障害系理学療法学応用演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 武田 功

テーマ

授業の到達目標

前期の脊髄障害系に関する基礎演習に続いて、後期では「脊髄障害系理学療法学応用演習」としてFunction/structureに偏重した理学療法の理念からActivities limitationそしてParticipationに至るまでの脊髄損傷理学療法の応用演習により社会生活を含めた生活者として生きる脊髄(疾患)損傷者の広範囲なアプローチに主眼をおき、それに加えて国家試験対策を含めた知識・技術を駆使できるよう教授する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 脊髄損傷の理学療法(治療訓練)
- 第2回 実習 I (含む国家試験対策)
- 第3回 実習 II (含む国家試験対策)
- 第4回 脊髄損傷の車いす訓練
- 第5回 実習(含む国家試験対策)
- 第6回 脊髄損傷の痙性麻痺の評価と治療
- 第7回 実習(含む国家試験対策)
- 第8回 脊髄損傷の褥瘡の評価と治療
- 第9回 脊髄損傷者の坐位バランスの評価
- 第10回 排尿・尿路障害(含む国家試験対策)
- 第11回 肺理学療法
- 第12回 実習 I (含む国家試験対策)
- 第13回 実習 II (含む国家試験対策)
- 第14回 脊髄損傷のスポーツ(概論)
- 第15回 脊髄損傷の性機能

履修上の注意点

教科書

脊髄損傷の理学療法(第2版)

著者: 武田 功・他

出版社: 医歯薬出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (90)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (10)

次の項目で総合評価する。

①試験90%:出欠は減点法(1回につき欠席-2点、遅刻

-1点を減点)②講義の質疑応答③提出物、④授業態度、⑤定期試験(2/3以上出席していること)以上の総合点とする。

## 2017 Syllabus

科目名 発達障害系理学療法学応用演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

発達障害における理学療法の応用的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

授業の到達目標

- 1) 脳性麻痺の多様な病態と異常発達を理解する。  
分析の視点を学ぶ。
- 2) 脳性麻痺の各病型別動作  
3) 重度障害の病態・発達及び複合障害を理解する。  
4) 応用的な評価・動作分析・治療を身につける。

授業の概要

実技を中心に実施します。

準備学習(予習・復習)

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内 容

- 第1回 脳性麻痺の概念: 脳性麻痺とは?
- 第2回 脳性麻痺の病型分類と麻痺分布
- 第3回 脳性麻痺の評価
- 第4回 脳性麻痺の評価(動作分析を中心に)①
- 第5回 脳性麻痺の評価(動作分析を中心に)②
- 第6回 脳性麻痺の治療(神経生理学的アプローチを中心に)①
- 第7回 脳性麻痺の治療(神経生理学的アプローチを中心に)②
- 第8回 脳性麻痺の評価(実習)①
- 第9回 脳性麻痺の評価(実習)②
- 第10回 脳性麻痺の評価、統合と解釈①
- 第11回 脳性麻痺の評価、統合と解釈②
- 第12回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(1)
- 第13回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(2)
- 第14回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(3)
- 第15回 まとめとテスト対策

履修上の注意点

1/3以上の欠席で単位なし

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30%)

参加度 (10%)

## 2017 Syllabus

科目名 老年期障害理学療法学演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子・村田 伸

テーマ

老人疾患の特徴や機能低下の特徴に合わせた理学療法について学ぶ。

授業の到達目標

加齢に伴う身体機能の変化や老化の特徴について学び、個々に合わせた対応策を考案できるようになることを目標とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

高齢者の動作分析や特徴などを観察してみる

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 老年期の特徴と老年期に生じやすい障害
- 第3回 廃用症候群
- 第4回 視覚・聴覚・言語障害
- 第5回 骨粗鬆症と骨折
- 第6回 脳血管障害
- 第7回 高次脳機能障害
- 第8回 認知症
- 第9回 関節リウマチ
- 第10回 パーキンソン病
- 第11回 内部障害
- 第12回 糖尿病
- 第13回 悪性新生物
- 第14回 切断
- 第15回 脊髄損傷

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

老年期障害理学療法学テキスト

著者:

出版社: 学術研究出版

出版年: 2016

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション理学療法学応用演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子.堀江 淳.村田 伸

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的にヘルスプロモーションを促進するための理学療法士の役割を学習する。

授業の到達目標

ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習で学んだ知識を活かし、より実践的な事項について学び、医療機関や地域の関係諸機関においても活躍できる理学療法士をめざす。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 生活習慣病予防のための運動処方
- 第2回 生活習慣病予防のための運動処方(運動指針と運動処方)
- 第3回 生活習慣病予防のための運動処方(効果的なウォーキング方法)
- 第4回 介護予防のための運動処方(介護予防と身体活動)
- 第5回 介護予防のための運動処方(骨粗鬆症の予防)
- 第6回 介護予防のための運動処方(転倒予防)
- 第7回 介護予防のための運動処方(認知症予防)
- 第8回 運動実施時の注意点(健康チェック)
- 第9回 運動実施時の注意点(環境と健康)
- 第10回 運動実施時の注意点(肥満者への運動指導)
- 第11回 運動実施時の注意点(腰・膝・肩に痛みがある人への運動指導)
- 第12回 運動実施時の注意点(筋力低下・虚弱高齢者への運動指導)
- 第13回 運動実施時の注意点(運動習慣の形成方法)
- 第14回 生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス
- 第15回 生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践」

著者:

出版社: 南江堂

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 90 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法技術学 I (運動器障害)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

運動器系疾患理学療法に関する治療・研究の方向性について紹介し、整形徒手理学療法の理論と技術を学ぶ

授業の到達目標

整形徒手理学療法(Kaltenborn-Evjenth Concept)の理論を理解し、基本的な技術を習得し、この基本的技術を患者に使用できるようにすることを目的とする。また、その過程で必要な学術論文が読めるようになることを目的とする。

授業の概要

講義形式とグループワークを行ってもらう

準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 整形徒手理学療法の理論
- 第3回 上肢の徒手療法1
- 第4回 上肢の徒手療法2
- 第5回 下肢の徒手療法1
- 第6回 下肢の徒手療法2
- 第7回 脊柱の徒手療法
- 第8回 まとめ
- 第9回 なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある

履修上の注意点

実技が可能な服装で参加すること。

教科書

整形徒手理学療法

著者： 富雅男・砂川勇監修

出版社： 医歯薬出版

出版年： 2011

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (80%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (15%)

参加度 (5%)

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法技術学Ⅱ(神経障害)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

授業の到達目標

神経科学の視点から認知、運動などの高次脳機能を理解するとともに、機能回復のために必要な、脳内神経ネットワークの再構築を神経基盤とする運動学習メカニズムに基づいた理学療法技術(神経リハビリテーション)を学ぶことを目的にする。

授業の概要

機能回復の促進、援助、さらに残存機能と代償機能を利用した理学療法技術を教授する。神経障害に対する訓練機器を応用した治療も学習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 神経リハビリテーションとは
- 第2回 運動学習とは①
- 第3回 運動学習とは②
- 第4回 神経障害に対する基本的な理学療法アプローチ
- 第5回 神経リハビリテーション(運動イメージ)について①
- 第6回 神経リハビリテーション(振動刺激)について②
- 第7回 神経リハビリテーション(ニューロフィードバック)について③
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

講義資料は適宜配布します。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法技術学Ⅲ(内部障害)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀江 淳

テーマ

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を、より深く探求する。より臨床的、かつ最新の治療、論理を学習する。

授業の到達目標

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を学び、臨床実習で活用できることを目標とする。また、より臨床的な内容に着目した知識、技術を習得することを目標とする。

授業の概要

教科書的な内容よりも、より臨床的な内容で授業を展開する。学術論文など最新のトピックスなども合わせて読み解く。

準備学習(予習・復習)

前期で学んだ内部障害系理学療法学基礎演習の内容を事前に復習しておく。

内 容

- 第1回 呼吸機能検査(肺気量分画)の技術と理論を学ぶ
- 第2回 呼吸機能検査(フローボリューム)の技術と理論を学ぶ
- 第3回 フィールド歩行テスト(6分間歩行距離テスト)の技術と理論を学ぶ
- 第4回 フィールド歩行テスト(シャトルウォーキングテスト)の技術と理論を学ぶ
- 第5回 心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ(最高酸素摂取量と嫌気性代謝作業閾値)
- 第6回 心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ(換気と循環)
- 第7回 運動処方の実際と理論を学ぶ
- 第8回 気道クリアランスを高める技術と理論(排痰手技)を学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 10 )

授業中の課題とその発表内容にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは発表を認めない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。



## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法技術学Ⅳ(スポーツ障害)**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

スポーツ障害に対するテーピング

授業の到達目標

①スポーツテーピングの使用目的・適応・種類・注意事項などを説明できる。②応急処置におけるテーピング固定を実践できる。  
③疾患特性を考慮したテーピングを施行することができる。

授業の概要

スポーツ障害に対する応急処置やテーピング法について実技を交えながら解説します。

準備学習(予習・復習)

スポーツ障害に関する基礎知識を復習しておいてください。

内 容

- 第1回 スポーツ障害総論
- 第2回 テーピング技術1(足関節)
- 第3回 テーピング技術2(足部)
- 第4回 テーピング技術3(膝関節)
- 第5回 応急処置(1)
- 第6回 応急処置(2)
- 第7回 症例検討(1)
- 第8回 症例検討(2)

履修上の注意点

軽装に着替えて参加してください。スポーツ現場における実践を行います。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

ファンクショナル・テーピング

著者: 川野哲英

出版社: ブックハウスHD

出版年: ISBN:

スポーツ理学療法

著者: 浦辺幸夫

出版社: 医歯薬出版

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

筆記試験および実技試験を行う

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法技術学Ⅴ(発達障害)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

各疾患別発達障害理学療法を症例を中心にディスカッション形式で授業を展開し、理学療法プロセスの思考を養う。

授業の到達目標

1)脳性麻痺の動作分析を学ぶ。

2)近年のトピック的な評価・治療を学ぶ。

3)発達障害の加齢による退行を学ぶ。

授業の概要

ディスカッション形式で実施します。

準備学習(予習・復習)

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内 容

- 第1回 痙直型脳性麻痺の近年の評価・治療
- 第2回 アトーゼ型脳性麻痺の近年の評価・治療
- 第3回 ジストニア型脳性麻痺の近年の評価・治療
- 第4回 失調型脳性麻痺の近年の評価・治療
- 第5回 症例1. ディスカッション
- 第6回 症例2. ディスカッション
- 第7回 症例3. ディスカッション
- 第8回 症例4. ディスカッション

履修上の注意点

1/3以上の欠席で単位なし

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習〈\*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 村田 伸

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( )

小テスト ( 70 )  
 授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法総合演習〈\*b〉**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )

小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習〈\*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 義浩

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )

小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )





## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習〈\*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )

小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習〈\*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( )

小テスト ( 70 )  
 授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習 &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小田桐 匡

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )

小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習〈\*g〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松尾 奈々

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )





## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習〈\*h〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( )

小テスト ( 70 )  
 授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習 &lt; \* i &gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法総合演習 <\*j>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀江 淳

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )

小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法総合演習 <\*k>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 安彦 鉄平

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )





## 2017 Syllabus

科目名 理学療法総合演習〈\*I〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 濱出 茂治

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、グループ編成
- 第2回 グループワーク1
- 第3回 グループワーク2
- 第4回 グループワーク3
- 第5回 グループワーク4
- 第6回 小テスト1
- 第7回 グループワーク5
- 第8回 グループワーク6
- 第9回 グループワーク7
- 第10回 グループワーク8
- 第11回 グループワーク9
- 第12回 小テスト2
- 第13回 グループワーク10
- 第14回 グループワーク11
- 第15回 グループワーク12
- 第16回 グループワーク13
- 第17回 グループワーク14
- 第18回 小テスト3
- 第19回 グループワーク15
- 第20回 グループワーク16
- 第21回 グループワーク17
- 第22回 グループワーク18
- 第23回 グループワーク19
- 第24回 小テスト4
- 第25回 グループワーク20
- 第26回 グループワーク21
- 第27回 グループワーク22
- 第28回 グループワーク23
- 第29回 グループワーク24
- 第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )小テスト ( 70 )  
授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 **理学療法管理学**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 濱出 茂治		
テーマ		
理学療法部門における管理運営者としての業務や他部門との連携の在り方について教授する。		
授業の到達目標		
理学療法部門における管理運営の在り方について学ぶ。		
授業の概要		
理学療法部門における人材育成や治療技術の向上を目的とした臨床研修教員、研究体制、さらに部門管理者としてのマネジメント理論について講義する。		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
第1回	オリエンテーション	
第2回	理学療法部門管理とは	
第3回	チームリーダーの役割	
第4回	医療保険制度	
第5回	介護保険制度	
第6回	回復期病棟における理学療法の役割	
第7回	通所ケアにおける理学療法の役割	
第8回	他部門との連携の在り方	
第9回	認定理学療法士制度	
第10回	専門理学療法士制度	
第11回	生涯教育としての理学療法の在り方	
第12回	理学療法とコミュニケーション	
第13回	研究と教育	
第14回	理学療法施設基準	
第15回	まとめ なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある	
履修上の注意点		
2/3以上の出席により、成績評価対象とする。		
教科書		
使用しない		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験・レポート (80%)	小テスト ( )	
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )	
参加度 (20%)		

## 2017 Syllabus

## 科目名 総合臨床実習Ⅰ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥・安彦 鉄平・小田桐 匡・甲斐 義浩・兒玉 隆之・崎田 正博・白岩 加代子・濱出 茂治・堀江 淳・松尾 奈々・村田 伸・横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。2)医療専門職として責任および節度ある態度と行動をとることができる。3)対象者の課題解決を図るための基本的な理学療法(評価から治療計画の立案、治療プログラムの実施までの一連の過程)を総合的に学ぶ。4)学生として必要な記録と報告ができる。5)症例報告書をまとめ、発表・提出することができる。

授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、学内で習得した専門知識と技術を基礎として、総合的な理学療法の実習を行う。複数の対象者に対して、それぞれに応じた評価、治療計画立案、治療といった一連の過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子(環境因子や個人因子、等)を考慮した理学療法の実践力を養う。さらにリハビリテーションチームの一員としての役割を自覚し、医療従事者として節度ある態度と協調性を身につける。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。

第2回 現場実習

第3回 現場実習

第4回 現場実習

第5回 現場実習

第6回 現場実習

第7回 現場実習

第8回 現場実習

第9回 現場実習

第10回 現場実習

第11回 現場実習

第12回 現場実習

第13回 現場実習

第14回 現場実習

第15回 現場実習

第16回 現場実習

第17回 現場実習

第18回 現場実習

第19回 現場実習

第20回 現場実習

第21回 現場実習

第22回 現場実習

第23回 現場実習

第24回 現場実習

第25回 現場実習

第26回 現場実習

第27回 現場実習

第28回 現場実習

第29回 現場実習

第30回 実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、担当患者の理学療法評価・問題点・治療目標・治療内容・効果判定などを報告する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 20 )

実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 総合臨床実習Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
-----	------------

講義期間 前期集中	定員
-----------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 宮崎 純弥・安彦 鉄平・小田桐 匡・甲斐 義浩・兒玉 隆之・崎田 正博・白岩 加代子・濱出 茂治・堀江 淳・松尾 奈々・村田 伸・横山 茂樹
--

## テーマ

## 授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。2)医療専門職として責任および節度ある態度と行動をとることができる。3)対象者の課題解決を図るための基本的な理学療法(評価から治療計画の立案、治療プログラムの実施までの一連の過程)を総合的に学ぶ。4)学生として必要な記録と報告ができる。5)症例報告書をまとめ、発表・提出することができる。

## 授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、学内で習得した専門知識と技術を基礎として、総合的な理学療法の実習を行う。対象者に対して、それぞれに応じた評価、治療計画立案、治療といった一連の過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子(環境因子や個人因子、等)を考慮した理学療法の実践力を養う。さらにリハビリテーションチームの一員としての役割を身につける。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

第1回 オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。

第2回 現場実習

第3回 現場実習

第4回 現場実習

第5回 現場実習

第6回 現場実習

第7回 現場実習

第8回 現場実習

第9回 現場実習

第10回 現場実習

第11回 現場実習

第12回 現場実習

第13回 現場実習

第14回 現場実習

第15回 現場実習

第16回 現場実習

第17回 現場実習

第18回 現場実習

第19回 現場実習

第20回 現場実習

第21回 現場実習

第22回 現場実習

第23回 現場実習

第24回 現場実習

第25回 現場実習

第26回 現場実習

第27回 現場実習

第28回 現場実習

第29回 現場実習

第30回 実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、担当患者の理学療法評価・問題点・治療目標・治療内容・効果判定などを報告する。

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 20 )

実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 English Communication I (心) <Ha>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 ティーグル, ジェームス

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Details will be given in class.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)
- 第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)
- 第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)
- 第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)
- 第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。Must not miss more than 4 classes to pass the course

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 15 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 45 )



## 2017 Syllabus

科目名 English Communication I (心) &lt;Hb&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 フリン, マイケル

## テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

## 授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

## 授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

## 準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

## 内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

## 履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

## 教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 55 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 45 )

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **English Communication I (心) <Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ソーソン, マーカス

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内 容

- 第1回 Introductions
- 第2回 Journal notebook, week one – Story Research
- 第3回 Week 2 Story Characters
- 第4回 Episode 3 Monsters – New words
- 第5回 Journal week 4 Quiz – Morning After
- 第6回 Acting Scene 5 Q and A
- 第7回 Natural pronunciation practice
- 第8回 Episode7 Acting scene with students and Teacher
- 第9回 Journals week 8 – Story Summary
- 第10回 Story Questions – Vocabulary Test
- 第11回 Final Journal Notebook week 10
- 第12回 Favorite Actor Report – Presentation
- 第13回 Final Story notes– Q and A
- 第14回 Heat wave Idioms and Dialogues
- 第15回 Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama

著者: Marcus Thorson

出版社: Sun Publishing

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

## 2017 Syllabus

科目名 **English Communication I (心) <Hd>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者	ハスカヴィル, プライアン
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 English Communication II (心) &lt;Ha&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 ティーグル, ジェームス

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Details will be given in class.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)  
 第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)  
 第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)  
 第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)  
 第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の前想をする)  
 第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)  
 第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)  
 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)  
 第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)  
 第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)  
 第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)  
 第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)  
 第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)  
 第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)  
 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。Must not miss more than 4 classes to pass the course

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (15)

参加度 (45)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 **English Communication II (心) <Hb>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 フリン, マイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 35 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 45 )

上記に加えて学期末英語テスト20% Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **English Communication II (心) <Hc>**

クラス	配当回生 学部1回生
-----	------------

講義期間 後期	定員 40
---------	-------

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 ソーソン, マーカス

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English

準備学習(予習・復習)

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内 容

- 第1回 Summer Holiday – Story Review
- 第2回 Journal week 1 Episode 12 The Convention
- 第3回 Story Summary Q and A
- 第4回 Episode 14 Blinddate
- 第5回 Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14
- 第6回 Acting Scene 5 Q and A
- 第7回 Independence Day – Acting scene
- 第8回 Journals week 7 Story Summary
- 第9回 Acting – New Girl Scene
- 第10回 Story Questions – Vocabulary Test
- 第11回 Final Journal Notebook week 10
- 第12回 Episode 19 Four Square
- 第13回 Final Story notes– Q and A
- 第14回 Final Episode Destiny – Reports – Presentations
- 第15回 Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama

著者: Marcus Thorson

出版社: Sun Publishing

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 **English Communication II (心) <Hd>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 ハスカヴィル, プライアン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Details will be given in class.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)
- 第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)
- 第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)
- 第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)
- 第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)
- 第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
- 第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 English Communication II (心) &lt;R&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	

担当者 杉山 泰

テーマ

Cultural Literacy(文化的基礎知識)を生かして学ぶ英語

授業の到達目標

「パン」や「アルバイト」が大和言葉の日本語でないことは誰でも知っているが、「フリーター」だとか「カンニング」を英語だと勘違いしてはならないだろうか。今は日本語は英語の基礎知識なしにはAKB48も正しい発音すらできない。筆記体の書き方から始まり、大学生として当然知っておくべき日英語対照基礎英文法を毎回教科書の問題と、プリントを仕上げることで学んでいきたい。

授業の概要

毎回が手作業なので、教科書と辞書を持ってきて授業中に教科書の問題を解き、応用のプリント問題を仕上げてもらう。翌週添削して返却する。

準備学習(予習・復習)

教科書の問題を自宅でやっておけば、毎回のプリントを仕上げる時間が短くなり、授業をスムーズに済ませることが可能となる。

内 容

- 第1回 自己紹介。文化的基礎知識の説明と「氏名カード」の記入。  
 第2回 Lesson 1 アルファベットの不思議(パスポートのサインとLanding cardへのサインを筆記体で書いてもらう)  
 第3回 Lesson 2 「私」からの発想(S+V+O構文による、現在/過去/未来の文)  
 第4回 Lesson 3 「動名詞構文」(Megafeps=Would you mind opening the window?)  
 第5回 Lesson 4 客観的存在表現There is構文(There is no problem of ...ing)  
 第6回 Lesson 5 The sooner, the better.の比較構文  
 第7回 Lesson 6 I am your mind reader. (S+V+C) 構文  
 第8回 Lesson 7 be動詞と「不定詞」構文(I am pleased to see you.構文)  
 第9回 Lesson 8 S+V+O構文と受動態(An A-bomb was dropped on Hiroshima.)  
 第10回 Lesson 9 英語の時制と受動態(A big earthquake hit the Fukushima Daiichi nuke stations on 11 March in 2011.)  
 第11回 Lesson 10 S+V+C構文と比較級(Rock is stronger than scissors. Scissors are stronger than paper. Paper is...どこがおかしい?)  
 第12回 Lesson 11 have動詞を用いた役に立つ表現(The room had a good view of Mt. Fuji.)  
 第13回 Lesson 12 現在完了形(Have you eaten deep-fried vegetables?)  
 第14回 Lesson 13 仮定法(If the world were a village of 100 people, ...)  
 第15回 Lesson 14 Why-Because theoryの英語表現(Why do Japanese women look so cute and young?)

履修上の注意点

毎回最後にプリントを配布し、仕上げてもらうので、辞書が必要。翌週添削し返却するので、プリントを提出していないと出席にならないので要注意。

教科書

Do You Know This?

著者: 杉山泰ほか

出版社: 朝日出版社

出版年: 2005年

ISBN:

参考書

「イギリス社会」入門

著者: コリン・ジョイス

出版社: NHK出版

出版年: 2011

ISBN:

英語化は愚民化

著者: 施光恒

出版社: 集英社新書

出版年: 2015

ISBN:



実践日本人の英語

著者： マーク・ピーターセン

出版社： 岩波新書

出版年： 2013

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

これに加えて、後期末英語テスト20%。毎回プリントを仕上げてもらうので、欠席した場合は必ず次週に「プリント」をもらい、仕上げて提出すること。その場合は遅れの出席として評価する場合がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy I (心) &lt;Ha&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 15 )

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy I (心) &lt;Hb&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) Shackleton's Epic Journey - A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する

第14回 Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy I (心) &lt;Hc&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 榎本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するために必要な文法演習も交えながら、速読、精読を行う。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。自宅学習としての速読の課題有り。

準備学習(予習・復習)

課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内 容

第1回 オリエンテーション、5文型と品詞

第2回 辞書の使い方

第3回 Chapter1

第4回 Chapter1

第5回 Chapter1

第6回 Chapter2

第7回 Chapter2

第8回 Chapter2

第9回 復習

第10回 Chapter4

第11回 Chapter4

第12回 Chapter4

第13回 Chapter5

第14回 Chapter5

第15回 復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用。

教科書

Issues for Today

著者: Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare

出版社: HEINLE CENGAGE Learning

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy I (心) &lt;Hd&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy I (心) &lt;R&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 泰

テーマ

基礎英語(Basic English)、特に「基礎動詞＋前置詞」というやさしい英語で日本文化を伝えよう

授業の到達目標

中学校で学んだ基礎英語(850語)で、日本文化を伝えることができる。基礎動詞(go/come,give/get,let/keep,put/take,make,have,do,sayなど)を徹底的に利用して、やさしい英語で自由に日本文化を伝える訓練をしていきたい。

授業の概要

教科書の問題を最初からやっていく。毎回「プリント」を配布して、解答してもらうので、毎回の参加が大事になる。

準備学習(予習・復習)

毎回プリントを提出し、その添削をして点数をつけて返却するので、返却されたプリントを次回までに完全なものにしておく必要がある。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 一語一文で英語は通じる。(No work, no money.のアジアの英語も役に立つ。Long time, no seeの意味は?)
- 第2回 Lesson 2 動詞+er=～する人、～する道具(I am a mind reader.=君の心が読めるんだ)
- 第3回 Lesson 3 動詞+...ing=(現在分詞と動名詞の違い=I am feeling well.とI gave up smoking.の違いは?)
- 第4回 Lesson 4 動詞+ed=過去分詞(I love fried rice and smoked salmon.とAn A-bomb was dropped on Hiroshima.)
- 第5回 Lesson 5 be動詞+形容詞(I am pleased to see you.とIt is pleasant to get all my credits.)
- 第6回 Lesson 6 InとOut(in controlとout of controlの違いは? 命令文Get in my car.とGet out of the room.の違いは?)
- 第7回 Lesson 7 OnとOff(Is the switch on? No, it's off.)
- 第8回 Lesson 8 Haveの構文(We had nothing to do with it.の構文)
- 第9回 Lesson 9 Comeの構文(Dinner is ready. I am coming.=今行きます=近づいていくニュアンス)
- 第10回 Lesson 10 Goの構文(Dinner is ready. I am going.=用事があるから出かけます=離れていくニュアンス)
- 第11回 Lesson 11 Takeの構文(I'll take this.=これください)
- 第12回 Lesson 12 Putの構文(Don't put off till tomorrow what you can do today.)
- 第13回 Lesson 13 Giveの構文(魔法の杖のGiveとGet=on/offやin/outを用いたイディオムの意味は?)
- 第14回 Lesson 14 Getの構文(基礎動詞=go-come / let-keep / put-take / give-get / make / have / do / sayを使いこなそう)
- 第15回 Lesson 15 Makeの構文(基礎動詞を用いて、履歴書で自己アピール文を書こう)

履修上の注意点

毎回教科書の説明と問題を仕上げた後で、プリントをやってもらう。授業への参加が重視される。

教科書

Putting Common Verbs to Work

著者: 鳥飼慎一郎

出版社: 朝日出版社

出版年: 2010

ISBN:

参考書

英語の壁

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 文春新書

出版年: 2003

ISBN:

日本語教のすすめ

著者: 鈴木孝夫

出版社: 新潮新書

出版年: 2009

ISBN:

J実践日本人の英語

著者： マーク・ピーターセン

出版社： 岩波新書

出版年： 2013

ISBN:

日本語は敬語があつて主語がないん

著者： 金谷武洋

出版社： 光文社新書

出版年： 2010

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20% )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

毎回の出席と毎回の提出物を最大限重視する。毎回授業に参加できない場合は、各自教科書の問題を自宅でやり、プリントをもらって提出すれば、遅れの出席として評価する場合がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy II (心) &lt;Ha&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 5 )

参加度 ( 15 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。



## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy II (心) &lt;Hb&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2017 Syllabus
---------------

科目名 English Literacy II (心) <Hc>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するために必要な文法演習も交えながら、速読、精読を行う。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。自宅学習としての速読の課題有り。

準備学習(予習・復習)

課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内 容

- 第1回 Chapter6
- 第2回 Chapter6
- 第3回 Chapter6
- 第4回 Chapter8
- 第5回 Chapter8
- 第6回 Chapter8
- 第7回 復習
- 第8回 Chapter11
- 第9回 Chapter11
- 第10回 Chapter11
- 第11回 Chapter11
- 第12回 Chapter12
- 第13回 Chapter12
- 第14回 Chapter12
- 第15回 復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用。

教科書

Issues for Today

著者: Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare

出版社: HEINLE CENGAGE Learning

出版年:

ISBN: 9.78111E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy II (心) &lt;Hd&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。  
 ・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
 ・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy II (心) &lt;R&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 杉山 泰	

テーマ

文化的基礎知識 (Cultural Literacy) を最大限活かしながら、基礎英語を利用して日本文化を発信していく。

授業の到達目標

日本人が海外に出る場合、まずパスポートが必要だ。このパスポートは北朝鮮を除いてあらゆる国で有効、と書かれている。国連加盟国は193か国、日本語だけでは理解できないことを知れば、第二外国語が必要になってくる。中学校で学んだ基礎英語だけで、日本のことをかなり紹介できる。発信型英語を学び、英語の楽しさを学んでもらう。

授業の概要

テキストの問題をやるだけでなく、毎回プリントを配布し、それを時間内に仕上げてもらおう。翌週添削し返却する。毎回辞書の持参が必要。

準備学習(予習・復習)

添削された「プリント」を毎回手直しておく必要がある。

内 容

- 第1回 英語で自己紹介。「氏名カード」の記入と英語で「履歴書」を書いてもらう。
- 第2回 Lesson 1 There is構文。(京都に何があるのか。京料理を説明できるか?)
- 第3回 Lesson 2 オノマトピア研究(「春の海ひねもすのたりのたりかな」を英語で訳せるか?)
- 第4回 Lesson 3 「こ・そ・あ・ど体系の日本語」の英訳は?
- 第5回 Lesson 4 能動態と受動態 (I am excited.とSumo is exciting.の違いは?)
- 第6回 Lesson 5 同格のthat (I have a feeling that...の構文)
- 第7回 Lesson 6 現在分詞と過去分詞(「現在進行形」と「受動態」と「現在完了形」)
- 第8回 Lesson 7 分詞構文(接続詞がなくても文がつながる)
- 第9回 Lesson 8 仮定法(起こりえないことのシュミレーションが可能)
- 第10回 Lesson 9 接続詞 (It is ...that...の3つの構文)
- 第11回 Lesson 10 形容詞の研究(光っ休のない日本語)
- 第12回 Lesson 11 動名詞構文 (I have fun visiting the U.K.構文)
- 第13回 Lesson 12 動詞+er=～する人(もの)構文
- 第14回 Lesson 13 前置詞と後置詞(て・に・を・はをどう訳すのか?)
- 第15回 Lesson 14 不定詞構文(日英語比較研究のまとめ)

履修上の注意点

毎回作業をやるので、参加できなかった学生は、必ずプリントをもらって、自宅で解答し、提出すること。添削して返却するので、60点以上なければ、遅れの出席にはならないので、要注意。

教科書

Eye Opening Facts

著者: 杉山 泰

出版社: 朝日出版社

出版年: 2005

ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか

著者: 鈴木孝夫

出版社: 新潮新書

出版年: 2009

ISBN:

沈みゆく大国アメリカ

著者: 包未果

出版社: 集英社新書

出版年: 2015

ISBN:

英語科は愚民化

著者： 施光恒

出版社： 集英社新書

出版年： 2015

ISBN:

日本語は敬語があつて主語がない

著者： 金谷 武洋

出版社： 光文社新書

出版年： 2010

ISBN:

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

これに加えて、後期末英語テスト20%。出席不足の学生は、教科書の問題を全てやって提出するか、プリントを全て仕上げ  
て提出すれば、遅れの出席として認める場合もある。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 アカデミックスキルズ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 西野 毅朗	

## テーマ

「学びの基礎力を高める」 本科目では、4年間の大学生活の基礎力を養います。大学での学びをより有意義なものにするための考え方や姿勢、大学で学ぶにあたって必要な基本的知識や基本的能力を養います。またこの科目では大学を卒業してからの社会生活も意識した指導を行います。

## 授業の到達目標

①高校までの学びと大学での学びの違いを説明できる。②ノートやメモをとる習慣をつくる。③わかりやすいレジュメが作成できる。④わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができる。⑤自らの主張を客観的根拠を伴って主張できるレポートが作成できる。⑥他者と協力し合い、高め合うことができる。⑦計画的に物事を進めることができるようになる。⑧自分の興味関心を元に探究し、他者の探求に学び、教養を深める。

## 授業の概要

この授業は、前半と後半で分かれています。前半は大学での学びの成果をより高めるための考え方や基本的な技法を学んでいただきます。後半は、前半学んだことを活かして、自らの興味関心を元に自ら探究し、他者と共に教養を深めていく探究活動をしていただきます。

## 準備学習(予習・復習)

毎回課題を出します。忘れずに持って来るようにしてください。きちんと行えば、半年間でかなり成長することができるはずです。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション —大学で学ぶとは？
- 第2回 ノートテイキング技法 —大学授業でのノートの取り方
- 第3回 リーディング技法 —本の探し方、読み方
- 第4回 レジュメ作成技法 —コンパクトなまとめ方
- 第5回 情報収集分析技法 —様々な情報収集と分析の方法
- 第6回 プレゼンテーション技法 —伝わる伝え方のポイント
- 第7回 レポート作成技法 —大学でのレポートの書き方
- 第8回 ディスカッション技法 —議論をし、高め合う力の向上
- 第9回 探究活動① 探究テーマの設定と探究計画の策定
- 第10回 探究活動② レジュメ作成
- 第11回 探究活動③ レジュメ修正①
- 第12回 探究活動④ レジュメ修正②
- 第13回 探究活動⑤ プレゼンテーション
- 第14回 探究活動⑥ レポート修正ディスカッション
- 第15回 総括—これまでの学び、これからの学び—

## 履修上の注意点

●とにかく出席しましょう。大変だと思いますが、やれば力がつきます。●課題はきちんとやりましょう。自分が困るだけでなく、他者に迷惑をかけてしまうからです。●困ったら、友達や教員に遠慮なく相談してください。●「わからない」「もやもやす」ということが多々あるはず。大学での学びは複雑なので、すぐに「わかった！」とならないことも多いものです。諦めず、自分なりに考えて、一歩踏み出しましょう。●授業内容は進捗に応じて変更したり、入れ替える場合があります。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

大学基礎講座改増版—充実した大学生活をおくるために

著者: 藤田哲也

出版社: 北大路書房

出版年: 2006

ISBN:

知へのステップ第3版—大学生からのスタディ・スキルズ

著者： 学習技術研究会

出版社： くろしお出版

出版年： 2011

ISBN:

ゼミで学ぶスタディスキル【改訂版】

著者： 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子

出版社： 北樹出版

出版年： 2013

ISBN:

大学生の学習テクニック第3版

著者： 森靖雄

出版社： 大月書店

出版年： 2014

ISBN:

アカデミック・スキルズ第2版—大学生のための知的技法入門

著者： 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦

出版社： 丸井工文社

出版年： 2012

ISBN:

スタートアップセミナー学習マニュアル なせば成る！

著者： 立松潔・大島武・下平裕介・山本陽史

出版社： 山形大学出版会

出版年： 2010

ISBN:

広げる和の世界 大学でのまなびのレッスン

著者： 北尾謙治他

出版社： ひつじ書房

出版年： 2005

ISBN:

知のナビゲーター

著者： 中澤務・森貴史・本村康哲

出版社： くろしお出版

出版年： 2007

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（0）

授業中課題（40）

授業中発表等（30）

参加度（30）

詳細は授業中に示します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究 I &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 龍一

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(濱田)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(濱田)
- 第3回 Tグループについて(濱田)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(菱田)
- 第8回 グループプロセス①(菱田)
- 第9回 グループプロセス②(青木)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(青木)
- 第11回 体験プログラム①(大久保)
- 第12回 体験プログラム②(大久保)
- 第13回 集団規範(ジェイムス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェイムス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェイムス)

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究 I &lt;\*b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 千恵	
テーマ 自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング	
授業の到達目標 心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。	
授業の概要 以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。	
準備学習(予習・復習) 各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。	
内 容 第1回 体験学習から学ぶことの意味(濱田) 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(濱田) 第3回 Tグループについて(濱田) 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西) 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西) 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西) 第7回 プロセスとコンテンツ(菱田) 第8回 グループプロセス①(菱田) 第9回 グループプロセス②(青木) 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(青木) 第11回 体験プログラム①(大久保) 第12回 体験プログラム②(大久保) 第13回 集団規範(ジェイムス) 第14回 集団における意志決定(ジェイムス) 第15回 リーダーシップ(ジェイムス)	
履修上の注意点 毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (30)	小テスト ( ) 授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究 I &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(濱田)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(濱田)
- 第3回 Tグループについて(濱田)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(菱田)
- 第8回 グループプロセス①(菱田)
- 第9回 グループプロセス②(青木)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(青木)
- 第11回 体験プログラム①(大久保)
- 第12回 体験プログラム②(大久保)
- 第13回 集団規範(ジェイムス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェイムス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェイムス)

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究 I &lt;\*d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 菱田 一仁	
テーマ 自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング	
授業の到達目標 心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。	
授業の概要 以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。	
準備学習(予習・復習) 各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。	
内 容 第1回 体験学習から学ぶことの意味(濱田) 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(濱田) 第3回 Tグループについて(濱田) 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西) 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西) 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西) 第7回 プロセスとコンテンツ(菱田) 第8回 グループプロセス①(菱田) 第9回 グループプロセス②(青木) 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(青木) 第11回 体験プログラム①(大久保) 第12回 体験プログラム②(大久保) 第13回 集団規範(ジェイムス) 第14回 集団における意志決定(ジェイムス) 第15回 リーダーシップ(ジェイムス)	
履修上の注意点 毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (30)	小テスト ( ) 授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究 I &lt;\* e&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(濱田)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(濱田)
- 第3回 Tグループについて(濱田)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(菱田)
- 第8回 グループプロセス①(菱田)
- 第9回 グループプロセス②(青木)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(青木)
- 第11回 体験プログラム①(大久保)
- 第12回 体験プログラム②(大久保)
- 第13回 集団規範(ジェイムス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェイムス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェイムス)

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究 I &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 青木 剛

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(濱田)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(濱田)
- 第3回 Tグループについて(濱田)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(菱田)
- 第8回 グループプロセス①(菱田)
- 第9回 グループプロセス②(青木)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(青木)
- 第11回 体験プログラム①(大久保)
- 第12回 体験プログラム②(大久保)
- 第13回 集団規範(ジェイムス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェイムス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェイムス)

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ〈\*a〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中西 龍一

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(濱田)
- 第2回 ジョハリの窓(濱田)
- 第3回 成長のためのフィードバック(濱田)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(菱田)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための要素(菱田)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(青木)
- 第10回 感情とのつきあい方(青木)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(大久保)
- 第12回 非言語コミュニケーション(大久保)
- 第13回 からだとことば(ジェイムス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェイムス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェイムス)

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 大久保 千恵

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(濱田)
- 第2回 ジョハリの窓(濱田)
- 第3回 成長のためのフィードバック(濱田)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(菱田)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための要素(菱田)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(青木)
- 第10回 感情とのつきあい方(青木)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(大久保)
- 第12回 非言語コミュニケーション(大久保)
- 第13回 からだとことば(ジェイムス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェイムス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェイムス)

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(濱田)
- 第2回 ジョハリの窓(濱田)
- 第3回 成長のためのフィードバック(濱田)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(菱田)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための要素(菱田)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(青木)
- 第10回 感情とのつきあい方(青木)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(大久保)
- 第12回 非言語コミュニケーション(大久保)
- 第13回 からだとことば(ジェイムス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェイムス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェイムス)

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)



## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 菱田 一仁

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(濱田)
- 第2回 ジョハリの窓(濱田)
- 第3回 成長のためのフィードバック(濱田)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(菱田)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための要素(菱田)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(青木)
- 第10回 感情とのつきあい方(青木)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(大久保)
- 第12回 非言語コミュニケーション(大久保)
- 第13回 からだとことば(ジェイムス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェイムス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェイムス)

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ &lt;\*e&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(濱田)
- 第2回 ジョハリの窓(濱田)
- 第3回 成長のためのフィードバック(濱田)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(菱田)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための要素(菱田)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(青木)
- 第10回 感情とのつきあい方(青木)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(大久保)
- 第12回 非言語コミュニケーション(大久保)
- 第13回 からだとことば(ジェイムス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェイムス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェイムス)

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ &lt; \* f &gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 青木 剛

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(濱田)
- 第2回 ジョハリの窓(濱田)
- 第3回 成長のためのフィードバック(濱田)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(菱田)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための要素(菱田)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(青木)
- 第10回 感情とのつきあい方(青木)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(大久保)
- 第12回 非言語コミュニケーション(大久保)
- 第13回 からだとことば(ジェイムス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェイムス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェイムス)

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 心理学研究法 I (概論)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 上北 朋子・田中 芳幸

## テーマ

心理学研究の方法論の概要、および量的データの心理統計学的解析の理解

## 授業の到達目標

心理学が目標とする「実証(データ)に基づく客観的な行動理解」を実現するための方法論について理解を深める。

## 授業の概要

心理学の方法論である、実験法、調査法、観察法などを理解するとともに、心理学における研究計画を身につける。またそれぞれの研究法において用いられる統計的方法(量的データへの分析方法の適用と解釈)についても理解を深める。

## 準備学習(予習・復習)

教科書や参考文献に示すものなど心理学研究法関連図書による自学自習、および、心理学関連の研究論文で実際に用いられている研究方法や統計学的解析方法への考察

## 内 容

- 第1回 心理学における実証的方法とは？
- 第2回 実験法①(概要の説明)
- 第3回 実験法②(実験計画の立案)
- 第4回 実験法③(実験における従属測定)
- 第5回 実験法④(操作チェック)
- 第6回 実験法⑤(実験データの統計解析)
- 第7回 調査法①(概要の説明)
- 第8回 調査法②(調査計画の立案)
- 第9回 調査法③(サンプリング)
- 第10回 調査法④(訪問面接調査の方法)
- 第11回 調査法⑤(調査データの統計解析)
- 第12回 観察法①(観察データの意義)
- 第13回 観察法②(観察法における測定)
- 第14回 観察法③(観察データの統計解析)
- 第15回 論文作成の方法

## 履修上の注意点

授業中の私語を慎む、スマートフォンの操作をしないなど、基本的な受講態度を守ってください。

## 教科書

Progress &amp; Application 心理学研究法

著者： 村井潤一郎

出版社：サイエンス社

出版年：

ISBN：

## 参考書

心理学研究法入門

著者： 南風原朝和 市川伸一 下山晴彦

出版社：東京大学出版会

出版年：

ISBN：

心理学マニュアル 要因計画法

著者： 後藤 宗理・中沢 潤・大野木 裕明 著

出版社：北大路書房

出版年：

ISBN：

心理学マニュアル 質問紙法

著者： 鎌原 雅彦・大野木 裕明・宮下 一博・中沢 潤 著

出版社：北大路書房

出版年：

ISBN：

心理学マニュアル 観察法

著者： 中沢 潤・南 博文・大野木 裕明 著

出版社： 北大路書房

出版年：

ISBN：

パソコンによるデータ分析

著者： 大西 正和 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 細谷 周史・田中 芳幸・藤原 勇

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 藤原 勇.田中 芳幸.細谷 周史	
テーマ	
心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成	
授業の到達目標	
心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。	
授業の概要	
小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。	
準備学習(予習・復習)	
本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。	
内 容	
第1回 実験演習のオリエンテーション	
第2回 錯視実験(1)概要説明	
第3回 錯視実験(2)実験の実施	
第4回 データ解析とレポートの説明	
第5回 鏡映描写実験(1)概要説明	
第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施	
第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施	
第8回 データ解析とレポートの説明	
第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明	
第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施	
第11回 データ解析とレポートの説明	
第12回 記憶実験(1)概要説明	
第13回 記憶実験(2)実験の実施	
第14回 記憶実験(3)実験の実施	
第15回 データ解析とレポートの説明	
履修上の注意点	
レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 50 )	

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子・坂本 久美・坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )



## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子・坂本 久美・坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;e&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 細谷 周史・田中 芳幸・藤原 勇

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;f&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 藤原 勇.田中 芳幸.細谷 周史

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 50 )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子・坂本 久美・坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;h&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上北 朋子・坂本 久美・坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I &lt;Ra&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I <Rb>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 錯視実験(1)概要説明
- 第3回 錯視実験(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 鏡映描写実験(1)概要説明
- 第6回 鏡映描写実験(2)実験の実施
- 第7回 鏡映描写実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 コミュニケーション実験(1)概要説明
- 第10回 コミュニケーション実験(2)実験の実施
- 第11回 データ解析とレポートの説明
- 第12回 記憶実験(1)概要説明
- 第13回 記憶実験(2)実験の実施
- 第14回 記憶実験(3)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学 I**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定 員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的領域の概説

授業の到達目標

心理学の歴史、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の概要

こころのはたらきを客観的、科学的に観察、解析することの重要性が、心理学、とりわけ実験心理学、基礎心理学において指摘されてきた。本講義では、情動、動機づけ、知覚、認知、学習、記憶、発達といった実験や観察によって明らかにされてきた心理機能について、わかりやすく概説する。これらの基礎心理学全般の基本的な知見を概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

準備学習(予習・復習)

テキストの熟読と講義ノートの復習

内 容

- 第1回 心理学とは
- 第2回 心理学の研究方法
- 第3回 実験心理学の歴史
- 第4回 こころの数量化、実験計画法
- 第5回 感覚と知覚
- 第6回 錯視と運動の知覚
- 第7回 感情と情動
- 第8回 動機づけと生得的行動
- 第9回 学習の基礎1:古典的条件づけとその理論
- 第10回 学習の基礎2:オペラント条件づけとその理論
- 第11回 遺伝と発達
- 第12回 こころの発達と成長
- 第13回 認知、記憶、思考
- 第14回 推論と意思決定
- 第15回 心理学の未来(社会の役に立つ心理学とは)

履修上の注意点

私語をしない等、常識的な態度で受講すること。

教科書

心理学概論(2版)

著者: 鈴木直人・青山謙二郎

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2014

ISBN:

参考書

心理学入門

著者: 渡邊芳之

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 心理学Ⅱ

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の到達目標

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の概要

過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

準備学習(予習・復習)

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。

内 容

第1回 心理学の目標

第2回 人間理解と心理学

第3回 心理学と社会生活とのつながり

第4回 これまでの心理学の取り組み(1) 実証科学としての心理学の確立

第5回 これまでの心理学の取り組み(2) 学習理論

第6回 これまでの心理学の取り組み(3) 認知理論

第7回 社会を理解するための心理学(1) 社会的相互作用としての人間行動

第8回 社会を理解するための心理学(2) 対人認知と印象形成

第9回 社会を理解するための心理学(3) 対人行動

第10回 社会を理解するための心理学(4) 集合行動

第11回 社会を理解するための心理学(5) 社会的認知理論

第12回 心理学の応用(1) 社会生活への応用

第13回 心理学の応用(2) 企業活動への応用(組織行動)

第14回 心理学の応用(3) 企業活動への応用(消費者行動)

第15回 心理学の応用(4) 環境配慮行動の促進

履修上の注意点

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。

教科書

参考書

心理学概論(第2版)

著者: 岡市廣成・鈴木直人(監修)

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験・レポート(50)

小テスト(50)

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度( )

毎回の授業の終了時に小テストを実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 心理統計学 I

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 前田 洋光

テーマ

基礎的な統計学の理解

授業の到達目標

基礎的な統計手法や概念について理解し、心理統計学Ⅱ以降で前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。

授業の概要

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の基礎的なテーマについて、講義形式と演習形式を併用しながら、理解を深めていく。

準備学習(予習・復習)

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内 容

- 第1回 イントロダクション:統計学の必要性について
- 第2回 尺度水準(Stevensの4つの尺度水準)
- 第3回 度数分布
- 第4回 さまざまな代表値
- 第5回 散布度
- 第6回 前半部分のまとめと確認
- 第7回 変数変換(標準得点と偏差値)
- 第8回 共分散とピアソンの相関係数(1)
- 第9回 共分散とピアソンの相関係数(2)
- 第10回 順位相関係数
- 第11回 クロス集計と連関係数
- 第12回 後半部分のまとめと確認
- 第13回 データ分析演習(1)
- 第14回 データ分析演習(2)
- 第15回 授業全体のまとめ

履修上の注意点

本科目は、知識を積み上げていくという性質のものです。そのため、遅刻・欠席によって各回の内容を修得できなければ、その後の授業を理解することが困難になっていきます。欠席したり、わからないことがあれば、いつでも質問にきてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本

著者: 吉田寿夫 著

出版社: 北大路書房

出版年:

ISBN:

よくわかる心理統計

著者: 山田剛史・村井潤一郎 著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 臨床心理学 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日比野 英子・濱田 智崇・松下 幸治

テーマ

臨床心理学の概論の理解

授業の到達目標

臨床心理学の基本的な理論・援助法・査定法について理解する。

授業の概要

臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理学の歴史
- 第3回 臨床心理学の主な学問分野
- 第4回 臨床心理学の基礎理論① 精神分析学
- 第5回 臨床心理学の基礎理論② 人間性心理学
- 第6回 臨床心理学の基礎理論③ 認知・行動理論
- 第7回 心の発達と心の病理① 乳幼児期の心と心のつまずき
- 第8回 心の発達と心の病理② 児童期・思春期の心理的問題
- 第9回 心の発達と心の病理③ 青年期の心と心の迷い
- 第10回 心の状態を測る—心理アセスメント—
- 第11回 心理アセスメントの方法
- 第12回 心の病の回復の援助① カウンセリング
- 第13回 心の病の回復の援助② 子どもの心理療法
- 第14回 心の病の回復の援助③ 問題行動の心理療法
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業中に紹介する専門書を最低3冊読んでみよう。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 (50)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 臨床心理学Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 龍一

テーマ

精神分析学派による主要な2つの人格理論についてその基礎を学ぶ

授業の到達目標

S.Freud による心理学的理論 (Psychosexual theory) 及び E.H.Erikson による心理社会的理論 (Psychosocial theory) について、その基礎を理解する。

授業の概要

臨床心理学の対象は、乳幼児から老人までその年齢を問わない。本講座では、臨床心理学の基礎的視座とも呼べるS.Freudによる心理学的理論 (Psychosexual theory) 及びE.H.Eriksonによる心理社会的理論 (Psychosocial theory) について講義していく。

準備学習(予習・復習)

毎回の講義内容の復習を中心に行うこと(1時間程度)

内 容

- 第1回 オリエンテーション/精神分析学
- 第2回 精神分析学 防衛機制
- 第3回 心理学的理論 口唇期 肛門期
- 第4回 心理学的理論 幼児性器期 潜在期
- 第5回 心理学的理論 成熟性器期 / まとめ
- 第6回 ケースから学ぶ精神分析
- 第7回 心理学的理論の視点からの自分史
- 第8回 心理社会的理論 第一の危機
- 第9回 心理社会的理論 第二の危機 第三の危機
- 第10回 心理社会的理論 第四の危機 第五の危機
- 第11回 心理社会的理論 第六の危機 第七の危機
- 第12回 心理社会的理論 第八の危機 / まとめ
- 第13回 ケースから学ぶ心理社会的理論
- 第14回 心理社会的理論の視点からの自分史
- 第15回 心理学的理論 心理社会的理論 まとめ

履修上の注意点

理由なく1/3以上欠席した学生は、不合格とします。

教科書

テキストは講義の最初に配付する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (100)

授業中課題 ( )

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

「まとめ」の回に小テストを2度行います。

## 2017 Syllabus

科目名 **こころとからだの臨床学Ⅱ <Z>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 龍一・安彦 鉄平・田中 芳幸・西本 泰久・松尾 奈々

テーマ

こころとからだを「心身一如」、ホリスティック(Holistic)な視点から捉える。

授業の到達目標

心と身体、そしてその関係について、各担当者により語られる様々な視点・視座を学び、全体として分かち難く結びつく心と身体についての理解を深める。

授業の概要

健康科学部、心理学科、理学療法学科、救急救命学科の3分野の教員によるオムニバス科目です。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(1)【安彦 鉄平】
- 第2回 運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(2)【安彦 鉄平】
- 第3回 運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(3)【安彦 鉄平】
- 第4回 心身のストレスに関する基礎理論【田中 芳幸】
- 第5回 ストレスへの対処【田中 芳幸】
- 第6回 ストレスマネジメントの実際【田中 芳幸】
- 第7回 様々なストレス(心理社会的ストレスを中心に)【中西 龍一】
- 第8回 ストレスと反応(こころとからだの結びつき)【中西 龍一】
- 第9回 心理療法と心理社会的ストレス【中西 龍一】
- 第10回 高齢者の救急医療【西本 泰久】
- 第11回 応急手当実施者のストレス【西本 泰久】
- 第12回 災害医療の問題点【西本 泰久】
- 第13回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション1【松尾 奈々】
- 第14回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション2【松尾 奈々】
- 第15回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション3【松尾 奈々】

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 60% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 ころとからだの健康科学 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 190
履修条件	クラス指定
担当者 坂本 敏郎・小田桐 匡・夏目 美樹・日比野 英子	
テーマ ころとからだの健康と臨床	
授業の到達目標 健康科学部の学びの目的とその基礎知識として、ころとからだの健康と臨床についての研究とその応用である実践活動への理解を深める。	
授業の概要 心理学科・理学療法学科・救急救命学科の教員がオムニバスで担当し、ころとからだの健康と臨床の研究と実践活動を紹介する。	
準備学習(予習・復習) 下欄に掲げた参考書のうち、興味ある本を1冊以上読むこと。	
内 容 第1回 オリエンテーション 心と外見の関係(日比野) 第2回 顔のよそおい—化粧の心理学—(日比野) 第3回 男の女の脳科学(坂本) 第4回 絆を育む感情の科学(坂本) 第5回 どうすれば人の行動は変わるのか(坂本) 第6回 脳障害者の心の世界:神経心理学へのいざない(小田桐) 第7回 伸び縮みする身体と心:切断者の幻肢痛および道具使用について(小田桐) 第8回 “自分”の身体と“他人”の身体:自己所属感と自己主体感(小田桐) 第9回 脳と運動(小田桐) 第10回 ニューロリハビリテーション(小田桐) 第11回 いのちの教育①いのちとは何故大切にしなければならないか(夏目) 第12回 いのちの教育②いのちを守るために必要なこと(夏目) 第13回 いのちを守る職業① 消防 救急 レスキュー(夏目) 第14回 いのちを守る職業② ドクターカー ドクターヘリ(夏目) 第15回 防災の話 京の都の防災(夏目)	
履修上の注意点 大きなサイズのクラスになるが、すべての受講生が静穏な環境で受講できるようマナーを守りましょう。	

## 教科書

## 参考書

## 心と脳

著者: 安西祐一郎

出版社: 岩波新書1331

出版年: 2011

ISBN: 9.784E+12

## 生存する脳:心と脳と身体の神秘

著者: アントニオ・R・ダマシオ

出版社: 講談社

出版年:

ISBN:

## ミラーニューロン

著者: ジャコモ・リゾラッティ&amp;コラド・シニガリア

出版社: 紀伊國屋書店

出版年:

ISBN:

脳の中の幽霊

著者: V.S.ラマチャンドラン

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

オムニバス科目であり、複数の教員が担当するので、欠席の場合に課題提出がなされていないと最終的な成績にマイナスの影響がおよびます。気を付けましょう。

---



## 2017 Syllabus

科目名 **こころとからだの健康科学Ⅱ**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 190

履修条件

クラス指定

担当者 中西 龍一・安彦 鉄平・田中 芳幸・西本 泰久・松尾 奈々

テーマ

こころとからだを「心身一如」、ホリスティック(Holistic)な視点から捉える。

授業の到達目標

心と身体、そしてその関係について、各担当者により語られる様々な視点・視座を学び、全体として分かち難く結びつく心と身体についての理解を深める。

授業の概要

健康科学部、心理学科、理学療法学科、救急救命学科の3分野の教員によるオムニバス科目です。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(1)【安彦 鉄平】
- 第2回 運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(2)【安彦 鉄平】
- 第3回 運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(3)【安彦 鉄平】
- 第4回 心身のストレスに関する基礎理論【田中 芳幸】
- 第5回 ストレスへの対処【田中 芳幸】
- 第6回 ストレスマネジメントの実際【田中 芳幸】
- 第7回 様々なストレス(心理社会的ストレスを中心に)【中西 龍一】
- 第8回 ストレスと反応(こころとからだの結びつき)【中西 龍一】
- 第9回 心理療法と心理社会的ストレス【中西 龍一】
- 第10回 高齢者の救急医療【西本 泰久】
- 第11回 応急手当実施者のストレス【西本 泰久】
- 第12回 災害医療の問題点【西本 泰久】
- 第13回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション1【松尾 奈々】
- 第14回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション2【松尾 奈々】
- 第15回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション3【松尾 奈々】

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 60% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 中国語 I (心理)

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 劉慶

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

[スクーリング授業/全15回] 短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中国と中国語の概説
- 第2回 発音A
- 第3回 発音B
- 第4回 発音C
- 第5回 発音D
- 第6回 第一課 単語と文法
- 第7回 第一課の表現練習
- 第8回 第二課 単語と文法
- 第9回 第二課の表現練習
- 第10回 第三課 単語と文法
- 第11回 第三課の表現練習
- 第12回 第四課 単語と文法
- 第13回 第四課の表現練習
- 第14回 総復習
- 第15回 ミニ発表

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 100% )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

## 2017 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ(心理)

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 劉慶

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

[スクーリング授業/全15回] 短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 前期の総復習
- 第2回 第五課 単語と文法
- 第3回 第五課の表現練習
- 第4回 第六課 単語と文法
- 第5回 第六課の表現練習
- 第6回 第七課 単語と文法
- 第7回 第七課の表現練習
- 第8回 第八課 単語と文法
- 第9回 第八課の表現練習
- 第10回 第九課 単語と文法
- 第11回 第九課の表現練習
- 第12回 第十課 単語と文法
- 第13回 第十課の表現練習
- 第14回 総復習
- 第15回 ミニ発表

履修上の注意点

教科書

毎回プリントを配る

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 100% )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

## 2017 Syllabus

科目名 女性とイメージ &lt;eL&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 志賀 亮一	
テーマ 私たち自身のジェンダーへの気づき	
授業の到達目標 ヨーロッパでは古来、家父長制社会が営まれてきた。絵画・彫刻など芸術をはじめとして、近現代のポスターやテレビCMまで、この社会の女性イメージは、上記家父長制の影響を色濃く示し、男性優位のジェンダー像を呈している。授業では、このイメージを母・妻・妖婦の3要素に集約したうえ、さまざまな視覚イメージをもとに個々の要素を詳説しつつ、各要素間の関係を明らかにし、その全体像を再構築する。あわせて、近現代の女性たちの業績をつうじて、このイメージに対する女性たちの反抗の足取りを跡づける。以上の学修を通じて、受講生は自らの課されているジェンダーの枠組みを自覚すること。	
授業の概要 [メディア授業／全15回]	
準備学習(予習・復習) 身近なジェンダー像の表出に日常注意を払うこと	
内 容 第1回 導入:視覚メディアにおける女性のイメージ 第2回 母親像1:子孫再生産の担い手 第3回 母親像2:究極の母親・聖母マリア——子孫再生産と男系血統の保障 第4回 母親像3:一家の母(マーテル・ファミリアス)と一家の父(パーテル・ファミリアス)——子孫再生産とジェンダー 第5回 妻像1:夫を補佐するもの 第6回 妻像2:男性を補佐するもの 第7回 妻像3:家内を管理するもの 第8回 妻像4:女・家内・私事 vs 男・社会・公事——社会的役割とジェンダー 第9回 妖婦像1:近代以前の妖婦像——伝説の妖婦たち 第10回 妖婦像2:近代の妖婦たち 第11回 妖婦像3:妖婦像の二重構造——魅惑するものと墮落させるもの 第12回 妖婦像4:ジェンダーの要としての妖婦像 第13回 女性たちの反抗1:男性に伍した女性たち 第14回 女性たちの反抗2:解放運動のイメージあれこれ 第15回 まとめ:解放の歴史	
履修上の注意点	
教科書 特に指定しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 女のイメージ 著者: G・デュビイ 編 出版社:(藤原書店) 出版年: ISBN: 聖母マリアの美術 著者: 諸川春樹・利倉隆 著 出版社:(美術出版社) 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(50%) 授業中課題( ) 参加度( )	小テスト(50%) 授業中発表等( )



## 2017 Syllabus

科目名 ヨーロッパの歴史 &lt;eL&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 南 直人	
テーマ ヨーロッパの歴史の基礎的理解をはかる	
授業の到達目標 16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。	
授業の概要 [メディア授業/全15回] 近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。	
準備学習(予習・復習) 近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと	
内 容 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム 第2回 近代世界システムの形成 第3回 ポルトガルのアジア進出 第4回 スペインの新大陸支配 第5回 ハプスブルク「世界帝国」の盛衰 第6回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(1) 第7回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(2) 第8回 イギリスの商業革命と大西洋貿易 第9回 英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争 第10回 産業革命とフランス革命の新解釈 第11回 大英帝国のヘゲモニー 第12回 19世紀ヨーロッパ社会 第13回 20世紀のヨーロッパ(1) 第14回 20世紀のヨーロッパ(2) 第15回 20世紀のヨーロッパ(3)	
履修上の注意点	
教科書 特に指定しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 世界システム論講義: ヨーロッパと近代世界 著者: 川北稔 出版社: (ちくま学芸文庫) 出版年: 2016/1/7 ISBN:	
大学で学ぶ西洋史 近現代 著者: 小山哲、他 出版社: (ミネルヴァ書房) 出版年: 2011 ISBN:	
インディアスの破壊についての簡潔な考察 著者: ラス・カサス 出版社: (岩波書店) 出版年: ISBN:	
成績評価	

a90201d410

試験・レポート (40%)

授業中課題 ( )

参加度 ( )

小テストは第2回、第7回、第12回の授業後に行う

---

小テスト (60%)

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 文学にみる京都

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とする作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に質問することもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料により授業の予習を行う。

準備学習(予習・復習)

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての調査を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 森鷗外「高瀬舟」①
- 第3回 森鷗外「高瀬舟」②
- 第4回 芥川龍之介「羅生門」①
- 第5回 芥川龍之介「羅生門」②
- 第6回 川端康成「美しさと哀しみと」①
- 第7回 川端康成「美しさと哀しみと」②
- 第8回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「山月記」
- 第9回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「藪の中」
- 第10回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」①
- 第11回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」②
- 第12回 森見登美彦「有頂天家族」①
- 第13回 森見登美彦「有頂天家族」②
- 第14回 森見登美彦「有頂天家族」③
- 第15回 まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後(映像資料の紹介中など)に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ( )

参加度 (20%)

期末レポート(内容と形式については授業中に説明する)を試験とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、授業内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。インターネット上の文章を紹介することなくコピー&ペースト(あるいはそうみなされる方法)していることが分かった場合は、コメントもレポートも評価対象外とする。



## 2017 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化 &lt;eL&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 田端 泰子・細川 涼一

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

授業の到達目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の概要

[メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

準備学習(予習・復習)

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

内 容

- 第1回 都城の変遷
- 第2回 平安京の成立
- 第3回 平安京に暮らす人々
- 第4回 院政期の京都
- 第5回 京一鎌倉をつなぐ人々
- 第6回 「このごろ都にはやるもの」ー南北朝期の京都
- 第7回 室町幕府の成立と京の都
- 第8回 土一揆の時代
- 第9回 京の商工業者
- 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都
- 第11回 小野小町伝説と京都
- 第12回 後白河院・源頼朝と山科
- 第13回 織田信長と京都
- 第14回 豊臣政権と京の町
- 第15回 元禄時代の京都

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社: 中央公論新社

出版年:

ISBN:

女性芸能の源流

著者: 脇田晴子

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

中世京都と祇園祭

著者: 脇田晴子

出版社: 中央公論新社

出版年:

ISBN:

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社： 中央公論社

出版年： ISBN:

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： ISBN:

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社： 山川出版社

出版年： ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 100% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

「授業中課題」は、第15回の授業後にレポートを課す。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 政治学概説

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	田代 和也	
テーマ	政治学に関する基礎知識の習得	
授業の到達目標	本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。	
授業の概要	政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 インTRODククシヨクン・選挙について</p> <p>第2回 投票行動・メディアと政治</p> <p>第3回 政治家</p> <p>第4回 日本政治史① ～戦後政治と55年体制～</p> <p>第5回 日本政治史② ～疑似政権交代・55年体制の崩壊～</p> <p>第6回 政党</p> <p>第7回 官僚制</p> <p>第8回 利益団体</p> <p>第9回 国会(議会)</p> <p>第10回 政策過程</p> <p>第11回 首相～強い首相と弱い首相～</p> <p>第12回 地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～</p> <p>第13回 地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に</p> <p>第14回 国際政治</p> <p>第15回 本講義のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>ポリティカル・サイエンス事始め</p> <p>著者： 伊藤光利</p> <p>出版社： 有斐閣</p> <p>出版年： 2012</p> <p>ISBN： 9.78464E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (100)</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>詳細については第一回のイントロダクシヨクンで説明する。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **経済学概説**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 今久保 幸生	
テーマ	
経済現象を認識する手段としての経済学を学ぶ	
授業の到達目標	
身の回りに始まり国や世界に至るまでの経済現象は、どれも、人々のくらしに密接に関わっている。こうした様々な経済現象を、経済学の概念や思考方法を学習しながら、自分自身で論理的に理解し、かつ考える力を身につける。	
授業の概要	
まず、現代の社会に生きる私たちになじみの様々な経済現象の内容を知り、その上で、それらの経済現象や、そこから生じる多様な経済問題－地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題など－に、経済学がどのように取り組んでいるかを学ぶ。授業は教科書に即して進められるが、教科書以外の説明も行われる。	
準備学習(予習・復習)	
教科書の予習・復習は必須である。少なくとも各1時間は費やすこと。	
内 容	
第1回	経済の成長と個人の成長
第2回	TPP－なぜ賛否両論になるのか
第3回	なぜギリシャを日本が助けなければならないのか
第4回	誰が、なぜ貧困なのか
第5回	日本の財政を考える
第6回	「大学生が多すぎる」?
第7回	今の医療でいいのか
第8回	廃棄物の値段はどう決まるか
第9回	イノベーションをどう促すか
第10回	効率と公平について
第11回	需要と供給の世界
第12回	経済全体を丸ごとつかむ!
第13回	社会をデザインする
第14回	増税も国債も同じこと?
第15回	まとめ:自立して生きるための経済学
履修上の注意点	
私語は厳禁です。部活や就活での欠席は、出席扱いとはしません。	
教科書	
教養としての経済学	
著者: 一橋大学経済学部	
出版社: 有斐閣	
出版年: 最新版	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 70 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 国際マーケティング論(心理)

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 近藤 文男

テーマ

日本企業の国際マーケティングの特徴について

授業の到達目標

国際マーケティングの概念について理解した上で、日本企業の持つ国際マーケティングの特徴を理解する。

授業の概要

講義の前半では、国際マーケティングについての一般的な理論について理解する。そのうえで、日本企業の代表的産業である家電産業のパナソニック、ソニーを中心として、化粧品産業の資生堂、小売業の代表ファミリーマート、中堅企業の大戸屋における国際マーケティングについて説明する。

準備学習(予習・復習)

授業に臨むにあたって、日常的に、新聞や雑誌を意識的に読み、そこから日本企業の動向、とりわけ、マーケティング活動についてできるだけ多くの知識を蓄積しておくよう心がける。最後に参考書を掲載してあるので、講義の前後でいいから、しっかり読むこと。

内 容

- 第1回 国際マーケティングとは何か、その概念について理解する。
- 第2回 国際マーケティングにおける商品戦略についての説明する。
- 第3回 国際マーケティングにおける価格戦略について説明する。
- 第4回 国際マーケティングにおける流通チャネル戦略について説明する。
- 第5回 三洋電機の対米輸出マーケティングについて説明する。
- 第6回 松下電器の対米輸出マーケティングについて説明する。
- 第7回 ソニーの対米輸出マーケティングについて説明する。
- 第8回 先進国市場を対象とする家電企業パナソニックのグローバル・マーケティングについて説明する。
- 第9回 新興国・中国市場における中堅外食企業大手屋と8番らーめんの国際マーケティングについて説明する。
- 第10回 新興国・中国市場における化粧品企業資生堂のグローバル・マーケティングについて説明する。
- 第11回 ASEAN市場のタイ・ベトナム・インドネシアにおける小売企業ファミリーマートのグローバル・マーケティングについて説明する。
- 第12回 新興国・中国市場におけるアパレル企業ユニクロのグローバル・マーケティングについて説明する。
- 第13回 新興国・インド市場における家電企業ソニーのグローバル・マーケティングについて説明する。
- 第14回 新興国・中国市場における家電企業パナソニックのグローバル・マーケティングについて説明する
- 第15回 日本企業の国際マーケティングについてのまとめ
- 第16回 試験

履修上の注意点

テキストと参考文献を掲載しているので、最低これだけは予習、復習をすること。マーケティングに関する科目や国際経営、広告論などの関連科目をできるだけ受講すること。マーケティングや国際経営に関する予備知識を持っていることを希望する。

教科書

日本企業のアジア・マーケティング戦略

著者: マーケティング史研究会編

出版社: 同文館

出版年: 2004年

ISBN: 9.7845E+12

参考書

日本企業の国際マーケティング

著者: 近藤文男

出版社: 有斐閣

出版年: 2004年

ISBN: 4-641-16199-2

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (70%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (0%)

成績評価は試験と小テストの総計で評価する。小テストは毎回の講義の最後の10分間で行う。ここでは講義で学んだこと、質問を中心に書く。



## 2017 Syllabus

## 科目名 高齢者のヘルスプロモーション

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 重森 健太・山野 薫	
テーマ	
<p>高齢者におけるヘルスプロモーションの理論と実践を講義し、現在の本邦での高齢者介護は介護保険制度を抜きにして進めないことから、介護保険との関係性について教授する。具体的には、高齢者の持つ身体的要因、精神的要因、環境側の要因について理解を深める。また、介護保険にかかわる職種の業務についても解説する。</p>	
授業の到達目標	
<p>1. 高齢者ヘルスプロモーションの概要を理解する。2. 高齢者ヘルスプロモーションと介護保険制度の関係性について理解する。3. 転倒予防・生活習慣病予防について理解する。4. 認知症におけるヘルスプロモーションについて理解する。</p>	
授業の概要	
<p>高齢者のヘルスプロモーションについて教授する。国家的目標である「介護予防」について、高齢者の身体的側面と精神的側面から講義する。加えて、介護保険制度との関係性について理解を深める。高齢者におけるヘルスプロモーションの具体的方法(転倒予防・生活習慣病予防・認知症予防)について解説する。</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>高齢者の心身の健康や介護問題に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題等の学習</p>	
内 容	
<p>第1回 オリエンテーション、ヘルスプロモーション総論(山野)  第2回 高齢者の評価(山野)  第3回 高齢者の身体機能Ⅰ(山野)  第4回 高齢者の身体機能Ⅱ(山野)  第5回 転倒予防(山野)  第6回 生活習慣病予防(山野)  第7回 要介護高齢者のヘルスプロモーション(山野)  第8回 ヘルスプロモーションのための住環境整備(山野)  第9回 脳科学から見た認知症(重森)  第10回 認知症の評価(重森)  第11回 軽度認知機能障害におけるヘルスプロモーション(重森)  第12回 高齢者の注意力や自発性へのアプローチ(重森)  第13回 高齢者の記憶障害へのアプローチ(重森)  第14回 高齢者の空間認知やボディイメージへのアプローチ(重森)  第15回 重度認知症におけるヘルスプロモーション(重森)</p>	
履修上の注意点	
<p>30分を超過しての遅刻は、出席として認めません。あからさまな午睡や私語は厳重に対応します。</p>	
教科書	
<p>理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション—理論と実践  著者： 日本ヘルスプロモーション理学療法学会(編集)  出版社： 南江堂  出版年： 2014 ISBN: 9.78452E+12</p>	
参考書	
<p>近赤外分光法による前頭前野計測  著者： 志村孚城(編集)  出版社： コロナ社  出版年： 2009 ISBN: 9.78434E+12</p>	
成績評価	
試験・レポート (80%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (20%)	
<p>参加度(20%)には、出席のほか、遅刻・私語などの授業態度も含まれ、成績評価に反映されます。</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 パーソナリティ心理学 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 千恵	

## テーマ

パーソナリティ(人格)心理学の基礎理論を学び、パーソナリティの発達や環境との関係、アセスメントについて理解する。

## 授業の到達目標

1. パーソナリティを理解するための代表的な理論を知り、パーソナリティとはなにかについて説明できるようになる 2. パーソナリティの発達について説明できるようになる 3. パーソナリティの測定方法について、概要を理解する 4. パーソナリティが対人関係に与える影響について理解する 5. パーソナリティの病理について学び、健康なパーソナリティとはどういうことか考えることができる

## 授業の概要

パワーポイントと配布資料を使った講義を行います。心理アセスメントを体験していただきます。

## 準備学習(予習・復習)

事前、事後学習として、ご自分が興味をもった関連図書を読んでください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション パーソナリティ心理学で学ぶこととは
- 第2回 パーソナリティ心理学の理論(1)
- 第3回 パーソナリティ心理学の理論(2)
- 第4回 パーソナリティ心理学の理論(3)
- 第5回 パーソナリティの発達(1)
- 第6回 パーソナリティの発達(2)
- 第7回 パーソナリティの発達(3)
- 第8回 パーソナリティ理解の方法 心理的アセスメント(1)
- 第9回 パーソナリティ理解の方法 心理的アセスメント(2)
- 第10回 パーソナリティ理解の方法 心理的アセスメント(3)
- 第11回 パーソナリティと対人関係
- 第12回 文化とパーソナリティ
- 第13回 パーソナリティと精神的健康(1)
- 第14回 パーソナリティと精神的健康(2)
- 第15回 まとめと学習のふりかえり

## 履修上の注意点

わからないことは自分で調べたり、積極的に質問したりしてください。授業で心理アセスメントの実習を行うことがあります。自分のパーソナリティについて客観的に考え、自己理解を深めるチャンスにしてください。

## 教科書

## 参考書

はじめて学ぶパーソナリティ心理学

著者: 小塩真司

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010

ISBN: 9.78462E+12

パーソナリティ心理学概論

著者: 二宮克美他編

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2012

ISBN: 7.8478E+11

性格心理学への招待【改訂版】

著者: 託摩武俊ほか

出版社: サイエンス社

出版年: 2003

ISBN: 4781910440



パーソナリティの心理学

著者： 岡田康伸ほか著

出版社： 有斐閣

出版年： 2013

ISBN: 9.78464E+12

人格心理学

著者： 大山泰宏

出版社： 放送大学教育振興会

出版年： 2015

ISBN: 9.7846E+11

---

成績評価

試験・レポート ( 70% )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30% )

毎回の授業で配布するリアクションペーパーを参加度の参考とします。

---

## 2017 Syllabus

科目名 家族の心理・社会学 &lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 宮井 研治

テーマ

家族機能の後退、家族の役割の見直し、果ては家族悪玉論まで、「家族」をめぐる論議は現代ほど活発な時代はないと言えるし、また、昔から繰り返されてきた命題ともいえる。それでもなぜ家族という形態はなくなるのかを、主にシステム論の立場から考えたい。

授業の到達目標

ジェノグラムや、システム論を用い考える中で、自身の家族も含め、「家族という形態」の持つ意味や必要性を理解する。

授業の概要

講義形式とエクササイズをすることによる授業参加。ペアワーク、ロールプレイを多用する。

準備学習(予習・復習)

エクササイズなどを通しての授業への積極的参加。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション。いまなぜ「家族」なのかを考える。
- 第2回 ジェノグラム① 自分の家族のジェノグラムを描いてみる。そこからイメージーションをふくらます。課題として自身の家族について知らなかったことを調べてくる。
- 第3回 ジェノグラム② 他人のジェノグラムを描く。インタビューをしてみる。ペアワーク。
- 第4回 システム論① システム論概論。その考え方を学ぶ。
- 第5回 システム論② システム論を使った家族理解。家族構造をいろいろなタームを使って考える。
- 第6回 家族をめぐる問題① 子育てをめぐること。児童虐待のどこ。
- 第7回 家族をめぐる問題② 引き継ぎ、児童をめぐる家族の問題についてー児童虐待についての対応ー
- 第8回 家族をめぐる問題③ 家族の高齢化の問題。介護をめぐる家族の問題。
- 第9回 家族のアセスメント あるジェノグラムを使って、そこからの見立てを考える。アセスメントとしてのサインズ・オブ・セイフティーアプローチの手法を紹介する。
- 第10回 サインズを使って自分の家族をアセスメントする。ペアワーク。
- 第11回 家族をめぐる心理療法① 家族療法 それ以前の心理療法との比較。
- 第12回 家族をめぐる心理療法② 家族療法から解決志向へ。
- 第13回 家族をめぐる心理療法③ 家族内のコミュニケーションに焦点をあてた心理療法の実際
- 第14回 解決に焦点を絞った心理療法のエクササイズによる体験。
- 第15回 まとめと確認。

履修上の注意点

携帯の取り扱いはずいぶんが、他の受講生に迷惑をかけない、不快感を与えない。これだけです。

教科書

家族理解入門

著者: 団士郎

出版社: 中央法規

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

家族が変わる子育てが変わるコミュニケーションのヒント

著者: 岡田隆介

出版社: 明石書店

出版年: 2011年

ISBN:

面接の技とコツ

著者: 宮井研治編

出版社: 明石書店

出版年: 2012年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (70%)

授業中課題 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子・坂本 久美・坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <b>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子・坂本 久美・坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 細谷 周史・田中 芳幸・藤原 勇

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤原 勇.田中 芳幸.細谷 周史

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ &lt;e&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子・坂本 久美・坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )



## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ &lt;f&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上北 朋子・坂本 久美・坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 細谷 周史・田中 芳幸・藤原 勇

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ &lt;h&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 藤原 勇.田中 芳幸.細谷 周史

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <Rb>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マウスの活動性の測定(1)概要説明
- 第3回 マウスの活動性の測定(2)実験の実施
- 第4回 データ解析とレポートの説明
- 第5回 マウスの学習実験(1)概要説明
- 第6回 マウスの学習実験(2)実験の実施
- 第7回 マウスの学習実験(3)実験の実施
- 第8回 データ解析とレポートの説明
- 第9回 ストループカラーワードテスト(1)概要説明
- 第10回 ストループカラーワードテスト(2)実験の実施
- 第11回 ストループカラーワードテスト(3)実験の実施
- 第12回 データ解析とレポートの説明
- 第13回 性格検査(1)概要説明
- 第14回 性格検査(2)実験の実施
- 第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 心理検査法Ⅰ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 田中 芳幸

## テーマ

心理検査法に関する基礎理論の理解、および心理検査施行における基本姿勢の検討

## 授業の到達目標

心理検査 (Psychological test) とは、心理査定 (Psychological assessment) を行うための方法の一つであり、「ひと」(client) を「全人的に理解しようとする活動」の一部である。そこで本講義では、(1)各種心理検査の信頼性と妥当性を含めた特徴、(2)心理検査の選び方や検査施行時の環境の整え方、(3)心理検査結果の報告やフィードバックの仕方などを学ぶとともに、(4)心理検査施行時の検査者の姿勢・態度について考えることも目的とする。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

各回の内容に該当する教科書の熟読、および、心理検査・心理査定・心理測定などの関連図書による自学自習を行うこと。

## 内 容

- 第1回 心理検査とはー心理検査と心理査定ー
- 第2回 心理検査開発の歴史的背景
- 第3回 心理検査の信頼性と妥当性
- 第4回 検査者の基本的姿勢・態度
- 第5回 「性格」理解のための諸理論
- 第6回 性格検査(1)質問紙法
- 第7回 性格検査(2)投影法
- 第8回 性格検査(3)作業検査法
- 第9回 知能検査(1)知能とは
- 第10回 知能検査(2)知能検査の種類
- 第11回 発達に関する諸検査
- 第12回 行動・社会性に関する諸検査
- 第13回 心理的な症状に関する諸検査
- 第14回 その他の心理検査
- 第15回 授業のまとめ

## 履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

## 教科書

## 図表で学ぶ心理テスト

著者： 長尾 博

出版社： ナカニシヤ出版

出版年：

ISBN：

## 参考書

## 心理臨床アセスメント入門ー心の治療のための臨床判断学ー

著者： 赤塚大樹・森谷寛之・豊田洋子・鈴木国文

出版社： 培風館

出版年：

ISBN：

## 心理測定への招待ー測定からみた心理学入門ー

著者： 市川伸一

出版社： サイエンス社

出版年：

ISBN：

## 各種心理検査の手引書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート (40%)

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **社会心理学 I**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 前田 洋光

テーマ

社会心理学という学問の基礎的な考え方を理解する。

授業の到達目標

理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。

授業の概要

社会心理学者Aronsonは、人間を「社会的動物 (The social animal)」と呼んだ。その言葉の通り、私たちは日常生活を営む上で、他者や社会から多大な影響を受けており、同時に他者や社会に多大な影響を及ぼしている。本講では、社会的認知や社会的影響の問題を中心に、様々な自己と他者のかかわりを、心理学的視点から論考していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 原因帰属
- 第3回 対人認知
- 第4回 対人魅力
- 第5回 性役割
- 第6回 社会的欲求
- 第7回 自尊感情
- 第8回 自己開示と自己呈示
- 第9回 対人不安と自己意識
- 第10回 態度
- 第11回 説得的コミュニケーション1: 受け手・送り手・メッセージ内容に着目した検討
- 第12回 説得的コミュニケーション2: 説得への抵抗と説得技法
- 第13回 言語的コミュニケーション
- 第14回 非言語的コミュニケーション
- 第15回 まとめと確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 発達心理学 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中村 和夫	
テーマ	
胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解	
授業の到達目標	
胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解	
授業の概要	
発達心理学についての基礎的知識と発達の見方が理解できること、および人間の発達上の重要なトピックスについて、それぞれの発達段階におけるその意味を理解するとともに、具体的なイメージをもつことができるようになること。	
準備学習(予習・復習)	
テキストによる予習と配布資料による復習	
内 容	
第1回 出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題	
第2回 ヒトの生理的早産と社会的存在としての人間	
第3回 新生児期の共鳴動作と新生児反射の意味	
第4回 乳児期の姿勢・運動、手指の操作性の発達	
第5回 前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達	
第6回 愛着理論と愛着の発達	
第7回 幼児期の表象的思考と話し言葉の発達	
第8回 こころの理論と他者の心の理解、自己抑制の発達	
第9回 児童期の内言と書き言葉の発達	
第10回 具体的操作の発達と9・10歳の節	
第11回 思春期の第二次性徴と自己意識的感情、形式的操作の発達	
第12回 青年期のアイデンティティの発達、アイデンティティ・ステータス	
第13回 時間的展望と親密性の発達、アイデンティティの拡散	
第14回 成人期のキャリア発達とジェネラティビティの発達	
第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
発達心理学関連図書による自学自習	
教科書	
よくわかる認知発達とその支援[第2版]	
著者: 子安 増生	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: 2016	ISBN: 9.78462E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (60)	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 ( )
参加度 (10)	
欠席が3分の1を超えると試験への受験を認めない。	



## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究 I &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎.上北 朋子.永野 光朗

## テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

## 授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

## 授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定 (以下、坂本担当分5回)
- 第2回 研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
- 第3回 研究論文のプレゼンテーション
- 第4回 研究論文の発表と内容についてのディスカッション
- 第5回 研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
- 第6回 広告効果測定という課題の理解 (以下、永野担当分5回)
- 第7回 研究課題の設定(広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案)
- 第8回 広告効果測定実験の実施①
- 第9回 広告効果測定実験の実施②
- 第10回 データ分析作業
- 第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 (以下、奈田担当分5回)
- 第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
- 第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
- 第14回 研究論文のプレゼンテーション①
- 第15回 研究論文のプレゼンテーション②

## 履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50% )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 50% )	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学基礎研究 I <\* b>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎.上北 朋子.田中 芳幸

## テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

## 授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

## 授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定 (以下、坂本担当分5回)
- 第2回 研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
- 第3回 研究論文のプレゼンテーション
- 第4回 研究論文の発表と内容についてのディスカッション
- 第5回 研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
- 第6回 広告効果測定という課題の理解 (以下、永野担当分5回)
- 第7回 研究課題の設定(広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案)
- 第8回 広告効果測定実験の実施①
- 第9回 広告効果測定実験の実施②
- 第10回 データ分析作業
- 第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 (以下、奈田担当分5回)
- 第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
- 第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
- 第14回 研究論文のプレゼンテーション①
- 第15回 研究論文のプレゼンテーション②

## 履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50% )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 50% )	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究Ⅰ〈\*c〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上北 朋子・田中 芳幸・前田 洋光

## テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

## 授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

## 授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定 (以下、坂本担当分5回)
- 第2回 研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
- 第3回 研究論文のプレゼンテーション
- 第4回 研究論文の発表と内容についてのディスカッション
- 第5回 研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
- 第6回 広告効果測定という課題の理解 (以下、永野担当分5回)
- 第7回 研究課題の設定(広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案)
- 第8回 広告効果測定実験の実施①
- 第9回 広告効果測定実験の実施②
- 第10回 データ分析作業
- 第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 (以下、奈田担当分5回)
- 第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
- 第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
- 第14回 研究論文のプレゼンテーション①
- 第15回 研究論文のプレゼンテーション②

## 履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (50%)	授業中発表等 ( )
参加度 (50%)	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究 I &lt;\* d&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 田中 芳幸.奈田 哲也.前田 洋光

## テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

## 授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

## 授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定 (以下、坂本担当分5回)
- 第2回 研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
- 第3回 研究論文のプレゼンテーション
- 第4回 研究論文の発表と内容についてのディスカッション
- 第5回 研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
- 第6回 広告効果測定という課題の理解 (以下、永野担当分5回)
- 第7回 研究課題の設定(広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案)
- 第8回 広告効果測定実験の実施①
- 第9回 広告効果測定実験の実施②
- 第10回 データ分析作業
- 第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 (以下、奈田担当分5回)
- 第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
- 第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
- 第14回 研究論文のプレゼンテーション①
- 第15回 研究論文のプレゼンテーション②

## 履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50% )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 50% )	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学基礎研究 I <\* e>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定 員

履修条件 クラス指定

担当者 前田 洋光・永野 光朗・奈田 哲也

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定 (以下、坂本担当分5回)
- 第2回 研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
- 第3回 研究論文のプレゼンテーション
- 第4回 研究論文の発表と内容についてのディスカッション
- 第5回 研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
- 第6回 広告効果測定という課題の理解 (以下、永野担当分5回)
- 第7回 研究課題の設定(広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案)
- 第8回 広告効果測定実験の実施①
- 第9回 広告効果測定実験の実施②
- 第10回 データ分析作業
- 第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 (以下、奈田担当分5回)
- 第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
- 第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
- 第14回 研究論文のプレゼンテーション①
- 第15回 研究論文のプレゼンテーション②

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50% )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 50% )	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究 I &lt;\*f&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎・永野 光朗・奈田 哲也

## テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

## 授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

## 授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定 (以下、坂本担当分5回)
- 第2回 研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
- 第3回 研究論文のプレゼンテーション
- 第4回 研究論文の発表と内容についてのディスカッション
- 第5回 研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
- 第6回 広告効果測定という課題の理解 (以下、永野担当分5回)
- 第7回 研究課題の設定(広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案)
- 第8回 広告効果測定実験の実施①
- 第9回 広告効果測定実験の実施②
- 第10回 データ分析作業
- 第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 (以下、奈田担当分5回)
- 第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
- 第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
- 第14回 研究論文のプレゼンテーション①
- 第15回 研究論文のプレゼンテーション②

## 履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (50%)	授業中発表等 ( )
参加度 (50%)	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究Ⅱ〈\*a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田中 芳幸・奈田 哲也・前田 洋光

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

内 容

第1回 ガイダンス/心理学基礎実験について (以下5回上北担当分)

第2回 実験の選定

第3回 実験場面の撮影①

第4回 実験場面の撮影②

第5回 実験映像編集

第6回 実験のテーマ説明、グループ決め (以下5回前田担当分)

第7回 実験デザインの決定、実験刺激の作成

第8回 データ収集、分析

第9回 分析の続き、プレゼン準備

第10回 プレゼン

第11回 健康心理学研究論文の検索 (以下5回田中担当分)

第12回 リサーチクエスションの設定から仮説の導出

第13回 研究方法の検討

第14回 研究計画のプレゼンテーション

第15回 各研究計画に関するディスカッション

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ( )

参加度 (50%)

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学基礎研究Ⅱ <\*b>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 前田 洋光・永野 光朗・奈田 哲也	
テーマ	
卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。	
授業の到達目標	
卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。	
授業の概要	
少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。	
準備学習(予習・復習)	
授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。	
内 容	
第1回 ガイダンス/心理学基礎実験について (以下5回上北担当分)	
第2回 実験の選定	
第3回 実験場面の撮影①	
第4回 実験場面の撮影②	
第5回 実験映像編集	
第6回 実験のテーマ説明、グループ決め (以下5回前田担当分)	
第7回 実験デザインの決定、実験刺激の作成	
第8回 データ収集、分析	
第9回 分析の続き、プレゼン準備	
第10回 プレゼン	
第11回 健康心理学研究論文の検索 (以下5回田中担当分)	
第12回 リサーチクエスションの設定から仮説の導出	
第13回 研究方法の検討	
第14回 研究計画のプレゼンテーション	
第15回 各研究計画に関するディスカッション	
履修上の注意点	
演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (50%)	授業中発表等 ( )
参加度 (50%)	
演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。	



## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究Ⅱ &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎・永野 光朗・奈田 哲也

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

内 容

第1回 ガイダンス/心理学基礎実験について (以下5回上北担当分)

第2回 実験の選定

第3回 実験場面の撮影①

第4回 実験場面の撮影②

第5回 実験映像編集

第6回 実験のテーマ説明、グループ決め (以下5回前田担当分)

第7回 実験デザインの決定、実験刺激の作成

第8回 データ収集、分析

第9回 分析の続き、プレゼン準備

第10回 プレゼン

第11回 健康心理学研究論文の検索 (以下5回田中担当分)

第12回 リサーチクエスションの設定から仮説の導出

第13回 研究方法の検討

第14回 研究計画のプレゼンテーション

第15回 各研究計画に関するディスカッション

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ( )

参加度 (50%)

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究Ⅱ &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎.上北 朋子.永野 光朗

## テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

## 授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

## 授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス/心理学基礎実験について (以下5回上北担当分)
- 第2回 実験の選定
- 第3回 実験場面の撮影①
- 第4回 実験場面の撮影②
- 第5回 実験映像編集
- 第6回 実験のテーマ説明、グループ決め (以下5回前田担当分)
- 第7回 実験デザインの決定、実験刺激の作成
- 第8回 データ収集、分析
- 第9回 分析の続き、プレゼン準備
- 第10回 プレゼン
- 第11回 健康心理学研究論文の検索 (以下5回田中担当分)
- 第12回 リサーチクエスションの設定から仮説の導出
- 第13回 研究方法の検討
- 第14回 研究計画のプレゼンテーション
- 第15回 各研究計画に関するディスカッション

## 履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( ) 小テスト ( )  
 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ( )  
 参加度 (50%)  
 演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究Ⅱ &lt;\*e&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎.上北 朋子.田中 芳幸

## テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

## 授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

## 授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス/心理学基礎実験について (以下5回上北担当分)
- 第2回 実験の選定
- 第3回 実験場面の撮影①
- 第4回 実験場面の撮影②
- 第5回 実験映像編集
- 第6回 実験のテーマ説明、グループ決め (以下5回前田担当分)
- 第7回 実験デザインの決定、実験刺激の作成
- 第8回 データ収集、分析
- 第9回 分析の続き、プレゼン準備
- 第10回 プレゼン
- 第11回 健康心理学研究論文の検索 (以下5回田中担当分)
- 第12回 リサーチクエスションの設定から仮説の導出
- 第13回 研究方法の検討
- 第14回 研究計画のプレゼンテーション
- 第15回 各研究計画に関するディスカッション

## 履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( ) 小テスト ( )  
 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ( )  
 参加度 (50%)  
 演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 心理学基礎研究Ⅱ &lt;\*f&gt;

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上北 朋子・田中 芳幸・前田 洋光

## テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究(特に実証研究)を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

## 授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

## 授業の概要

少人数生のクラスにおける演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし(1人の教員が担当し)、成果物(レポートもしくはプレゼンテーション等)を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス/心理学基礎実験について (以下5回上北担当分)
- 第2回 実験の選定
- 第3回 実験場面の撮影①
- 第4回 実験場面の撮影②
- 第5回 実験映像編集
- 第6回 実験のテーマ説明、グループ決め (以下5回前田担当分)
- 第7回 実験デザインの決定、実験刺激の作成
- 第8回 データ収集、分析
- 第9回 分析の続き、プレゼン準備
- 第10回 プレゼン
- 第11回 健康心理学研究論文の検索 (以下5回田中担当分)
- 第12回 リサーチクエスションの設定から仮説の導出
- 第13回 研究方法の検討
- 第14回 研究計画のプレゼンテーション
- 第15回 各研究計画に関するディスカッション

## 履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( ) 小テスト ( )  
 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ( )  
 参加度 (50%)  
 演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2017 Syllabus
---------------

科目名 English Communication Ⅲ(心)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 清水	
テーマ 英語力の向上と異文化を学ぶ	
授業の到達目標 英語力を養うと同時に異文化を理解することを目指す。	
授業の概要 総合的な英語運用能力を向上するための学習をする。	
準備学習(予習・復習) 詳細は授業で説明する。	
内 容	
第1回 Home Stay in Canada	
第2回 Home Stay in Australia	
第3回 Home Stay in Britain	
第4回 Internship in Singapore	
第5回 Home Stay in Ireland	
第6回 Internship Program in the USA	
第7回 Questions About Canada	
第8回 Questions About Australia	
第9回 Questions About Britain	
第10回 Questions About Singapore	
第11回 Questions About Ireland	
第12回 Applying for an Internship Program In Washington D.C.	
第13回 University and Dormitory Life In Sweden	
第14回 Volunteer Work in the Philippines	
第15回 Around the World on a Volunteer Ship	
履修上の注意点 私語は慎むこと。	
教科書  Let's Get Out of Japan! 著者: 川村義治 / Gavin Lynch 出版社: 南雲堂 出版年: 2015 ISBN: 9.78452E+12	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 50 )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 10 )	

## 2017 Syllabus

科目名 English Literacy III (心)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得する

授業の到達目標

英語力を養うと同時に読解力の向上を目指す。

授業の概要

平易な英語で書かれたミステリーを読んで総合的な英語運用能力を養う。

準備学習(予習・復習)

詳細は授業で説明する。

内 容

- 第1回 The Case of the Big Dipper
- 第2回 The Case of Death in the Air
- 第3回 The Case of the Happy Baby
- 第4回 The Case of the Uneasy Squirrel
- 第5回 The Case of the Dowager's Jewels
- 第6回 The Case of the Lobster Joint
- 第7回 The Case of the Dead Man's Medals
- 第8回 The Case of the Doubting Uncle
- 第9回 The Case of the Five Candidates
- 第10回 The Case of the Murdered Vocalist
- 第11回 The Case of the Suicide Note
- 第12回 The Case of the Railroad Crash
- 第13回 The Case of the Barbecue Murder
- 第14回 The Case of the Dropped Cuff Link
- 第15回 The Case of the Italian Grocer

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

Solve the Mystery and Improve Your English Reading Skills

著者: Donald J.Sobol / 吉村俊子 / 安田優 / 川畑彰

出版社: 英宝社

出版年:

ISBN: 9.78427E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理応用演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	
Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。	
授業の到達目標	
Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。	
授業の概要	
現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。	
準備学習(予習・復習)	
パソコンの基本スキル(入力、保存など)がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。	
内 容	
第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは 知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア	
第2回 知識科目対策・ソフトウェア、ファイル、ネットワーク基礎	
第3回 Wordの基本操作・社外文書作成	
第4回 Wordの基本操作・表作成	
第5回 知識科目対策・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方	
第6回 知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術	
第7回 実技問題演習	
第8回 実技問題演習	
第9回 知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術・ビジネス図解の基本・ビジネス文書の管理	
第10回 知識科目問題演習	
第11回 実技問題演習	
第12回 検定対策・模擬試験	
第13回 実技科目問題演習	
第14回 検定対策・模擬試験	
第15回 試験(知識科目+実技科目)	
履修上の注意点	
教科書	
日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応【FPT1043】	
著者： 富士通エフ・オー・エム(株)	
出版社： FOM出版	
出版年：	ISBN: 9.78489E+12
日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキストWord2010対応【FPT0535】	
著者： 富士通エフ・オー・エム(株)	
出版社： FOM出版	
出版年：	ISBN: 4893116371
参考書	
成績評価	
試験・レポート (50)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	

## 2017 Syllabus

科目名 心理学研究法Ⅱ(質的調査)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中村 和夫	
テーマ	
質的研究方法を理解し、一連の手続きを取得すること	
授業の到達目標	
インタビューや観察を通して得られたデータに基づいて、ボトムアップ的に研究領域に密着した理論や概念モデルを構成していく質的研究方法を理解し、一連の手続きを取得すること。	
授業の概要	
質的な研究方法として、具体的には、グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)に基づいて、データの収集(とくに、半構造化面接)、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論(ストーリーライン)の生成について、それらの手続き・方法を実習する。	
準備学習(予習・復習)	
とくに復習が重要	
内 容	
第1回	質的研究、質的心理学とは何か
第2回	グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)とは何か
第3回	インタビュー・観察によるデータ収集について
第4回	プロパティとディメンションによる概念把握について
第5回	ラベル名をつける——オープンコーディングについて
第6回	カテゴリーにまとめる——アクシャルコーディングについて
第7回	比較と理論的サンプリングについて
第8回	カテゴリーの関係をとらえる——セレクトティブコーディングについて
第9回	インタビューによるデータの収集
第10回	トランスクリプトの作成
第11回	オープンコーディング
第12回	アクシャルコーディング
第13回	セレクトティブコーディング
第14回	研究発表(前段の班)
第15回	研究発表(後段の班)と授業のまとめ
履修上の注意点	
欠席・遅刻は認めない。やむを得ぬ事情で欠席する(欠席した)場合には、事前に(事後に)理由を届け出ること。	
教科書	
質的研究方法ゼミナール増補版 グラウンデッドセオリーアプローチを学ぶ	
著者: 戈木クレイグヒル滋子 編	
出版社: 医学書院	
出版年: 2013	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 40 )
参加度 ( 30 )	



## 2017 Syllabus

科目名 **実験計画法**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上北 朋子・奈田 哲也	
テーマ 実験計画の基礎と実践	
授業の到達目標 この講義では、受講生が実験計画法の基礎を理解し、実際に実験を実施できるようになることを目標とする。	
授業の概要 知覚、記憶、学習、動機づけに関するテーマについて実験計画を立案し、データ収集、統計処理までを実践的に学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 心理統計の基礎的事項について復習をしておくこと。各自の選択テーマによって、必要な場合は資料およびデータ収集を授業時間以外に行う。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 実験計画法の基礎 第3回 実験計画法の実際(1) 第4回 実験計画法の実際(2) 第5回 1要因の実験計画の立案(1元配置) 第6回 実験実施 第7回 データ整理と解析 第8回 発表資料の作成 第9回 発表とディスカッション 第10回 2要因の実験計画の立案(2元配置) 第11回 実験実施 第12回 データ整理 第13回 データ解析 第14回 発表資料の作成 第15回 発表とディスカッション	
履修上の注意点 グループでの作業が中心となるため、授業への出席はもちろん、課題への積極的な参加が求められる。	
教科書	
参考書 よくわかる心理統計 著者： 山田剛史、村井潤一郎 出版社：ミネルヴァ書房 出版年： ISBN: SPSSのススメ 著者： 竹原卓真 出版社：北大路書房 出版年： ISBN:	
成績評価 試験・レポート(10) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等(50) 参加度(40)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 心理統計学Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 前田 洋光	
テーマ 推測統計学の理解	
授業の到達目標 心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、実際の心理学研究において頻繁に用いられる種々の統計解析について、具体的な問題を解きながら理解を深めていく。それによって、各分析手法の概念について理解することを、第一の目的とする。加えて、与えられたデータ分析し、適切な結論を導くことができる実践力を獲得することを目標とする。	
授業の概要 心理統計学Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算をおこなう演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。	
準備学習(予習・復習) 下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読	
内 容 第1回 イントロダクション:統計学の基礎の復習 第2回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(1) 第3回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(2) 第4回 統計的検定の基礎 第5回 t検定(1):対応のない場合のt検定 第6回 t検定(2):対応のある場合のt検定 第7回 一元配置分散分析(1):一要因被験者間検定 第8回 一元配置分散分析(2):多重比較 第9回 ノンパラメトリック検定(1) 第10回 ノンパラメトリック検定(2) 第11回 ここまでの確認とまとめ 第12回 データ分析演習(1) 第13回 データ分析演習(2) 第14回 データ分析演習(3) 第15回 授業全体のまとめ	
履修上の注意点	
教科書 本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 著者: 吉田 寿夫 出版社: 北大路書房 出版年: ISBN: よくわかる心理統計 著者: 山田 剛史・村井 潤一郎 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト (40) 授業中課題 (20) 授業中発表等 ( ) 参加度 (10)	

## 2017 Syllabus

科目名 知覚・認知心理学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 細谷 周史

テーマ

知覚心理学および認知心理学に関する基礎的な知識・考え方の理解

授業の到達目標

実験心理学、生理学の研究によって明らかにされてきた感覚、知覚、認知領域の心理学理論について理解する。ヒトや動物は環境内の刺激をどのように知覚し、認知するのかについて理解を深める。

授業の概要

ヒトを含む動物は、環境内の刺激(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)をどのように知覚し、認知しているのだろうか。動物の行動は、環境刺激を知覚、認知し、意志決定することにより表出される。講義の前半では、ヒトや動物が持つ感覚、知覚の特性を理解する。講義の後半では、感覚、知覚情報を動物がどのように理解、認知するかという情報処理システムについて解説する。動物による道具の使用、ヒトの言語、推論や意志決定など高次の認知機能についても解説する。

準備学習(予習・復習)

テキストを使用しないので、講義後にノートや配付プリントを復習して理解を深めておくこと。

内容

- 第1回 感覚、知覚とは？
- 第2回 錯視と恒常性
- 第3回 色覚と明るさの知覚
- 第4回 運動視と立体視
- 第5回 聴覚
- 第6回 嗅覚と味覚
- 第7回 知覚運動学習
- 第8回 時間と注意知覚
- 第9回 意識とは？ ワーキングメモリー
- 第10回 会話、発話
- 第11回 言語の理解(読み書きリテラシー)
- 第12回 思考と問題解決
- 第13回 意志決定
- 第14回 デザインの認知
- 第15回 メタ認知とこころの制御

履修上の注意点

授業内容の性質上、講義に出席して知覚現象を実際に体験しないと理解が困難なものが多いので、欠席しないようにすること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

知覚心理学の基礎

著者: 松田隆夫

出版社: 培風館

出版年:

ISBN:

認知心理学 ―知のアーキテクチャを探る―

著者: 道又爾 他

出版社: 有斐閣アルマ

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(60)

小テスト( )



## 2017 Syllabus

科目名 **感情心理学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美

テーマ

## 授業の到達目標

人や動物のこころのはたらきの重要な機能のひとつである感情・情動のメカニズムについて理解する。なぜ感情が生起するのか、感情と身体反応(脳の活動、生理反応、免疫反応)はどのような関係をもつのかについて理解を深める。

## 授業の概要

ヒトを含む動物は感情・情動という心理的機能を生得的に有している。情動は比較的短期の感情の動きと定義され、快と不快の情動に分類される。食欲や性欲などが充足された時には快の情動が生じ、恐怖、嫌悪、怒りなどは不快情動が生じる。本講義では、情動の起源、情動の分類、情動を制御する脳内機構、情動障害のメカニズムについて、ヒトや動物から得られた知見を紹介し、解説する。さらに、二個体以上の相互作用からなる行動、社会行動(攻撃行動、性行動、養育行動、愛着行動)の心理的メカニズムおよびそれを制御する脳内機構、神経内分泌機構についても解説する。

## 準備学習(予習・復習)

予復習は特に求めませんが、その分授業時間内で集中して取り組んで下さい。

## 内 容

- 第1回 感情とは?
- 第2回 情動と感情
- 第3回 情動理論
- 第4回 進化と情動
- 第5回 快の情動
- 第6回 快の情動と神経回路
- 第7回 不快の情動
- 第8回 不快の情動の神経回路
- 第9回 情動障害1
- 第10回 情動障害2
- 第11回 攻撃行動の基礎
- 第12回 つがい形成行動、愛着行動の基礎
- 第13回 養育行動の基礎
- 第14回 他個体の認知
- 第15回 こころの絆の形成

## 履修上の注意点

遅刻をしないで下さい。皆さんの主体的な取り組みに期待します。

## 教科書

感情と心理学

著者: 高橋雅延・谷口高士

出版社: 北大路書房

出版年: 2009

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 心理学史

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上村 晃弘

テーマ

近代心理学の成立以前から現代まで、心理学の歩んできた歴史について理解を深める。

授業の到達目標

心理学の成立についての関連領域からの影響や各領域の歴史、社会との関わりについて理解する。心理学における研究がどのような背景で生まれ、また以降にどのような影響を及ぼしたのかという因果関係について把握する。

授業の概要

心理学の歴史について、テキストを中心に資料や動画などを使用して講義する。

準備学習(予習・復習)

予習: あらかじめテキストを読んでおく。復習: テキスト、資料等を読んで理解の確認をすること。

内 容

- 第1回 序章 心理学史の方法論 終章 心理学史の現状と展望  
 第2回 第1章 19世紀の心理学 1 心理学の前史  
 第3回 第1章 19世紀の心理学 2 精神物理学とヴェントの実験心理学 3 ドイツにおける学派  
 第4回 第1章 19世紀の心理学 4 アメリカの心理学 第2章 20世紀の3大潮流とその批判 1 行動主義  
 第5回 第2章 20世紀の3大潮流とその批判 2 ゲシュタルト心理学 3 精神分析  
 第6回 第2章 20世紀の3大潮流とその批判 4 認知心理学 5 ヒューマニスティック心理学  
 第7回 第3章 心理学と社会 1 概説 2 初期における社会と心理学のコラボレーション 2-1 児童心理学 2-2 教育と心理学 2-3 法と心理学  
 第8回 第3章 心理学と社会 2-4 精神病と心理学 2-5 集団、産業、社会と心理学 3 心理学と社会とのさらなる関わり 3-1 社会心理学の二分化 3-2 個人差の理解の進展  
 第9回 第3章 心理学と社会 3-3 発達への視点・発達からの視点 3-4 個人差測定検査および臨床心理学の展開  
 第10回 第3章 心理学と社会 4 第二次世界大戦後の展開  
 第11回 第4章 日本の心理学史 1 前史 2 心理学という学範の成立  
 第12回 第4章 日本の心理学史 3 心理学の展開 4 制度化と展開 5 復興期の心理学  
 第13回 第5章 心理学史の見方 1 個人差への興味とその先駆者 2 実用的な知能検査の成立  
 第14回 第5章 心理学史の見方 3 知能検査の普及と変質 4 知能研究の広がり  
 第15回 第5章 心理学史の見方 5 争点としての知能 6 知能検査の歴史から学ぶこと

履修上の注意点

出席、授業態度などの平常点を重視する。単位認定には10回以上の出席が必要である。授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は厳禁とする。

教科書

流れを読む心理学史

著者: サトウタツヤ・高砂美樹

出版社: 有斐閣

出版年: 2003

ISBN: 4641121958

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30% )

授業中課題とは、第15回終了後の期末レポートのことを指す。

## 2017 Syllabus

科目名 **実験心理学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学実験の方法論と意義

授業の到達目標

行動や心を科学的に分析するための心理学実験の基礎について学ぶ。各自が研究に取り組む際に適切な手法を選択し、実験を実施出来るようになることを目標とする。

授業の概要

実証的な研究を行うときに、どのように変数を操作して行動を測定すればよいのか、また、統制すべきものは何かが問題になる。これらを様々な実験場面にあわせて、体系的に学習する。

準備学習(予習・復習)

教科書を読み、講義中に作成したノートを充実させる。

内 容

- 第1回 心理学実験の意義
- 第2回 実験法の基本
- 第3回 信頼性と妥当性
- 第4回 被験者間計画と被験者内計画
- 第5回 剰余変数の統制
- 第6回 カウンターバランスと無作為化
- 第7回 要因計画(1)要因と水準
- 第8回 要因計画(2)主効果と交互作用
- 第9回 実験計画の実際(1)
- 第10回 実験計画の実際(2)
- 第11回 実験計画の実際(3)
- 第12回 記述統計
- 第13回 推測統計(1)
- 第14回 推測統計(2)
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

パワーポイントのハンドアウトは配布しません。自筆ノートを作成してください。

教科書

心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし

著者: 高野陽太郎、岡隆

出版社: 有斐閣

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 (30)

授業中発表等 ( )

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

## 科目名 行動分析学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上北 朋子	
テーマ こころを理解するための行動分析学:基礎から応用まで	
授業の到達目標 こころを科学的にとらえる手法を提示した行動分析学の考え方を理解する。その上で、この理論が教育、医療、福祉、および子育ての場面でいかに活用されてきたのかを学ぶ。	
授業の概要 自分を理解し、他者を理解するには、まず人間の行動がどのようなものであるかについての知識が必要である。これまでの研究で得られた実証的事実やそれに基づく理論を解説し、それらが我々にとってどのような意味を持ち、夜会において機能しているかについて考える。	
準備学習(予習・復習) 授業後に教科書や参考書を読み、理解の不十分だった点を補うこと。	
内 容 第1回 行動分析学とは 第2回 行動分析学における行動の捉え方 第3回 行動のきっかけとなる環境変化 第4回 確立操作 第5回 レスポネント条件付け(1)成立過程 第6回 レスポネント条件付け(2)情動反応 第7回 レスポネント条件付け(3)消去と恐怖症の治療 第8回 オペラント条件付け(1)行動随伴生 第9回 オペラント条件付け(2)強化スケジュール 第10回 オペラント条件付け(3)消去 第11回 オペラント条件付け(4)オペラントクラスと行動次元 第12回 事例をもとにした機能分析 第13回 言語行動 第14回 模倣行動 第15回 迷信行動	
履修上の注意点 パワーポイントのハンドアウトは配布しない。自筆ノートを作成すること。	
教科書 行動の基礎 豊かな人間理解のために 著者: 小野浩一 出版社: 培風館 出版年: ISBN:	
参考書 行動分析 著者: 大河内浩人、武藤崇 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 80 ) 授業中課題 ( 10 ) 参加度 ( 10 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学Ⅱ

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 井上 裕樹

テーマ

パーソナリティ心理学への理解をさらに深めていく

授業の到達目標

臨床心理学の基礎となるパーソナリティ理論について学びつつ、人間への理解、自分とはいったい何者かということに対しても多面的な理解を深めていくことを目標とする。

授業の概要

パーソナリティの研究においては、それらがどのように形成され、変容していくのか、人格に関する諸理論を紹介しながら概説する。また簡易な検査や測定などの体験によって、自分自身についての理解も深めていく。

準備学習(予習・復習)

事前に配布するレジュメに目を通して授業に臨んでください。また、授業中に紹介する参考文献も積極的に読んでもらいたい。

内 容

- 第1回 パーソナリティという概念について
- 第2回 パーソナリティの 類型論と特性論
- 第3回 パーソナリティ発達の諸要因
- 第4回 パーソナリティの諸理論(1)
- 第5回 パーソナリティの諸理論(2)
- 第6回 パーソナリティの変化
- 第7回 パーソナリティと文化
- 第8回 発達とパーソナリティの形成(1)
- 第9回 発達とパーソナリティの形成(2)
- 第10回 人格と適応(1)
- 第11回 人格と適応(2)
- 第12回 パーソナリティ理解の方法(1)
- 第13回 パーソナリティ理解の方法(2)
- 第14回 パーソナリティ障害について
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

履修上の注意点

講義をしっかり聴き、学ぶ意志のあること。授業内で少人数グループでのディスカッションを適宜取り入れていくので、積極的に参加してもらいたい。また授業への受講態度の不適切な者には退出を求めることがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト ( )

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ( )

参加度 (20%)

授業内での発言、コメントカードへの記述など積極的な授業参加を評価します。

## 2017 Syllabus

科目名 対人援助論A

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 菅 佐和子	
テーマ	
授業の到達目標	
心理学的対人援助の基礎を学ぶ	
授業の概要	
心理学的対人援助の理論とスキルについて、その基礎となるC・ロジャーズによる「来談者中心法(Client centered therapy)」およびE・バーンによる「交流分析(Transactional Analysis)」の理論について理解する。また、ロジャーズがセラピストに求めた「受容」「共感」「自己一致」の態度や傾聴のスキル、バーンによる「交流」の視点を獲得する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 心理学的対人援助とは	
第2回 Rogersによる「来談者中心法」	
第3回 「来談者中心法」を考える	
第4回 「来談者中心法」とは	
第5回 「来談者中心法」をマイクロカウンセリングの視点から分析する	
第6回 「マイクロカウンセリング」基本的傾聴技法、質問技法	
第7回 「マイクロカウンセリング」言い換え技法、最小限お励まし、感情の同定	
第8回 「傾聴」とは	
第9回 来談者中心法 まとめ	
第10回 交流分析 交流分析とは	
第11回 交流分析 エゴグラム	
第12回 交流分析 やりとり分析	
第13回 交流分析 ゲーム・人生脚本	
第14回 交流分析 再決断療法(TA・ゲシュタルト)	
第15回 授業 まとめ	
履修上の注意点	
C・ロジャーズおよびE・バーン関連図書の講読。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 80 )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 対人援助論B

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松下 幸治.坂本 敏郎.菅 佐和子.殿谷 仁志.中西 龍一.日比野 英子	
テーマ	
心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について広く概観する。	
授業の到達目標	
「臨床の知」のみならず「科学」の視点も盛り込み、広く「人が人を援助するとはどういうことか」について考える。具体的には脳科学の視点からの貢献、母子臨床からの視点、コミュニティ・サポートの視点、心理療法からのアプローチについて、それぞれの観点から「人の役に立つ」営みについて考察を深めることができる。	
授業の概要	
松下を全15回のコーディネーターとし、5名の教員(坂本、日比野、菅、滝野、中西)との対話形式で対人援助についての議論を展開する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	オリエンテーション①～対人援助行為とは～
第2回	オリエンテーション②～対人援助の「光」と「影」～
第3回	心理学への興味とその後の展開
第4回	「臨床の知」と「科学の知」
第5回	治療的面接学と脳科学の出会い
第6回	乳幼児の発達～愛着を中心として～
第7回	母と子のユニット
第8回	「臨床乳児」と「被観察乳児」
第9回	対人援助論
第10回	個人開業の立場から
第11回	Perls.F.S.の背景
第12回	ゲシュタルト療法の実際
第13回	広く心理療法に通底するもの
第14回	まとめ①～「精神科心理臨床」と「日常的臨床」～
第15回	まとめ②～「良識」に基づいた「当たり前の行為」としての対人援助～

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

現実に介入しつつ心に関わる

著者： 田嶋誠一

出版社： 金剛出版

出版年： 2009年

ISBN： 978-7724-1103-5

嘘を生きる人妄想を生きる人—個人神話の創造と病—

著者： 武野俊弥

出版社： 新曜社

出版年： 2005年

ISBN： 4-7885-0960-1

ゲシュタルト療法入門

著者： 倉戸ヨシヤ(編)

出版社： 金剛出版

出版年： 2012年

ISBN： 978-7724-1281-0

愛着の発達

著者： 繁多進

出版社： 大日本図書

出版年： 1987年

ISBN: 4-477-12155-5

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50% )

毎回の講義の感想を自由に書いてもらう。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 カウンセリング

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大久保 千恵	
テーマ	
カウンセリングの理論についての基礎知識を習得し、カウンセリングの実践についての理解を深める	

## 授業の到達目標

ストレス社会と言われる現代社会では、多くの人が様々な問題で悩んでいます。そうした悩み解決の一つの方法として「カウンセリング」があります。本講義では、カウンセリングの基本的な知識を学び、実践現場の様子を知っていただきますが、カウンセリングの技法を用いた「話の聴き方」というのは、日常生活での人間関係を円滑にすることにも役立つものです。したがって、こころの問題やカウンセリングの技法について専門的な知識を習得していただくとともに、自己理解を深め、日常場面でも役立つことを目指します。

## 授業の概要

パワーポイントを用いて授業を行います。テキストは特に指定せず、毎回資料を配布します。授業の中で体験的なワークや、ロールプレイなども取り入れます。

## 準備学習(予習・復習)

社会で起きている「人のこころに関わる問題」に目を向けてください。授業後の復習をしっかり行い、疑問に思ったことやわからないことは自分で調べたり、積極的に質問をしたりするようにしてください。ご紹介した参考書籍を読んでみてください。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション カウンセリングとは カウンセリングの定義と目的  
 第2回 カウンセリングの理論と技法 I クライアント中心療法 ①カール・ロジャーズの生涯とクライアント中心療法  
 第3回 カウンセリングの理論と技法 I クライアント中心療法 ②クライアント中心療法の基本的な考え方  
 第4回 カウンセリングの理論と技法 I クライアント中心療法 ③クライアント中心療法の基本的な考え方  
 第5回 カウンセリングの理論と技法 II 精神分析的心理療法  
 第6回 カウンセリングの理論と技法 III 認知行動論的立場に立つカウンセリング ほか  
 第7回 カウンセリングの段階とプロセス ①カウンセリングの初期  
 第8回 カウンセリングの段階とプロセス ②カウンセリングの中期  
 第9回 カウンセリングの段階とプロセス ③カウンセリングの後期  
 第10回 カウンセリングの実践 ①医療におけるカウンセリング  
 第11回 カウンセリングの実践 ②学校におけるカウンセリング  
 第12回 カウンセリングの実践 ③発達臨床におけるカウンセリング  
 第13回 カウンセリングの実践 ④産業領域におけるカウンセリング  
 第14回 日常に役立つカウンセリング 認知療法・アサーショントレーニング  
 第15回 まとめと学習のふりかえり

## 履修上の注意点

授業中に意見や考えを求めることがあります。積極的なご発言を期待します。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

カウンセリングプロセスハンドブック

著者: 福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦 編

出版社: 金子書房

出版年: 2004

ISBN: 9.78476E+12

カウンセリング・心理療法の基礎

著者: 金沢吉展 編

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2007

ISBN: 9.78464E+12

新版 カウンセリングの話

著者： 平木典子

出版社： 朝日選書

出版年： 2004

ISBN: 9.78402E+12

新しいカウンセリングの技法

著者： 諸富祥彦

出版社： 誠信書房

出版年： 2014

ISBN: 9.78441E+12

カウンセリングを学ぶ 第2版 理論・体験・実習

著者： 佐治守夫・岡村達也・保坂了 編

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2007

ISBN: 9.78413E+12

---

成績評価

試験・レポート ( 70% )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30% )

授業各回のリアクションペーパーの内容を参加度の参考とします。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **グループワーク I <a>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松下 幸治.殿谷 仁志.山崎 貴子

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習(予習・復習)

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりません。 「自己の気づき」についてジャーナル(日誌)をつけることをお勧めします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ( )

参加度 (60%)

## 2017 Syllabus

科目名 **グループワーク I <c>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松下 幸治・殿谷 仁志・山崎 貴子

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習(予習・復習)

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりません。自己の気づきについてジャーナル(日誌)をつけることをお勧めします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ( )

参加度 (60%)



## 2017 Syllabus

科目名 **グループワーク I <e>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松下 幸治・殿谷 仁志・山崎 貴子

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習(予習・復習)

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりません。 「自己の気づき」についてジャーナル(日誌)をつけることをお勧めします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ( )

参加度 (60%)

## 2017 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松下 幸治.殿谷 仁志.山崎 貴子	
テーマ	
対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。	
授業の到達目標	
対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の間人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasyに基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。	
内 容	
第1回 「私」—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)	
第2回 振り返り(気づき)	
第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)	
第4回 振り返り(気づき)	
第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)	
第6回 振り返り(気づき)	
第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)	
第8回 振り返り(気づき)	
第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)	
第10回 振り返り(気づき)	
第11回 「自」と「他」の区別について	
第12回 他者化—alienateされた他者について	
第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて	
第14回 「会話」と「対話」	
第15回 「共感—empathyと同情—sympathyの相違点」についての概念化	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40% )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 60% )	

## 2017 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松下 幸治・殿谷 仁志・山崎 貴子

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の間人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内 容

- 第1回 「私」—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathyと同情—sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 60% )

## 2017 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <e>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期後半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松下 幸治.殿谷 仁志.山崎 貴子	
テーマ	
対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。	
授業の到達目標	
対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasyに基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。	
内 容	
第1回 「私」—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)	
第2回 振り返り(気づき)	
第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)	
第4回 振り返り(気づき)	
第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)	
第6回 振り返り(気づき)	
第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)	
第8回 振り返り(気づき)	
第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)	
第10回 振り返り(気づき)	
第11回 「自」と「他」の区別について	
第12回 他者化—alienateされた他者について	
第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて	
第14回 「会話」と「対話」	
第15回 「共感—empathyと同情—sympathyの相違点」についての概念化	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40% )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 60% )	

## 2017 Syllabus

科目名 コミュニティ心理学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 宮井 研治	
テーマ 地域社会に生かす臨床心理学	
授業の到達目標 人間を生活者として、環境を含めて理解し、その視点での心理的援助を学ぶ	
授業の概要 コミュニティ心理学の歴史的背景、基本的な発想、背景となるいくつかの理論、介入と援助について理解する。家庭や地域、学校教育、産業領域といった各分野での実践例にふれることを通じて、理解を深める。さらに、社会的文脈から人間の心理を理解できるようになり、さらに心理学を学んだ者として、自分自身が社会に対しどうかかわるかを考えることができるようになる。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 コミュニティ心理学とは何か・その概念と理念 第3回 コミュニティ心理学の歴史的背景 第4回 基本的発想(1)人と環境の適合を目指して 第5回 基本的発想(2)エンパワメントとサービス提供のあり方 第6回 背景となる理論(1)危機理論・ストレス理論等 第7回 背景となる理論(2)ソーシャルサポートをめぐって 第8回 介入と援助(1)危機介入・コンサルテーション 第9回 介入と援助(2)さまざまなアプローチ 第10回 子育て支援の実践から 第11回 DV対応における実践から 第12回 学校・教育における実践から 第13回 産業・職場における実践から 第14回 男性のための悩み相談の実践から 第15回 まとめ～学んだ皆さん自身の社会とのかかわりを考える	
履修上の注意点 毎回の授業内容を復習し、それに対する自分の考え方をまとめておく。行政やNPO団体、ボランティア団体などが行っている市民活動にも関心を向けておき、授業中に紹介した実践に関連するものについて調べてみる。自分が関心をもてるものには、余裕があれば参加してみる。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 そだちと臨床vol.1～12 著者: そだちと臨床編集委員会編 出版社: 明石書店 出版年: 2006年～20121年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート (70%) 授業中課題 ( ) 参加度 (30%) 場合によっては、小レポートの提出を求めます。	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **社会心理学Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 前田 洋光

テーマ

対人関係・対人行動・集団行動など、社会心理学の中心的テーマの概要を理解する

授業の到達目標

理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。

授業の概要

本講では、社会心理学Ⅰの内容を踏まえた上で、特に対人関係・集団行動を中心に論考していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 援助行動
- 第3回 攻撃行動
- 第4回 対人関係の諸相
- 第5回 恋愛
- 第6回 対人葛藤、社会的ジレンマ
- 第7回 孤独とソーシャルサポート
- 第8回 集団と個人
- 第9回 集団行動
- 第10回 リーダーシップ
- 第11回 群集行動
- 第12回 流言・デマ
- 第13回 流行
- 第14回 マスメディアの影響
- 第15回 まとめと確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 産業心理学 I (組織行動論) &lt;Z&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 石田 正浩	
テーマ	
組織における人に関する問題を理解する心理学的な視点を獲得する。	
授業の到達目標	
組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解し、説明できるようになる。	
授業の概要	
組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。	
準備学習(予習・復習)	
自分が所属している(した)集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。	
内 容	
第1回	組織行動論・組織心理学とは
第2回	ワーク・モチベーション1 基本概念、欲求階層理論
第3回	ワーク・モチベーション2 2要因理論と達成動機づけ
第4回	ワーク・モチベーション3 内発的動機づけ
第5回	ワーク・モチベーション4 公平理論・期待理論・目標設定理論
第6回	応用行動分析
第7回	ワークモチベーション理論と実践 目標管理・成果主義・ジョブデザイン
第8回	集団生産性1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
第9回	集団生産性2 シュタイナーの課題分類と生産性
第10回	集団生産性3 集団意思決定
第11回	リーダーシップ1 リーダーシップとは、特性論、行動論
第12回	リーダーシップ2 条件即応理論
第13回	リーダーシップ3 変革型リーダーシップ理論、LMX
第14回	組織ストレス1 組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
第15回	組織ストレス2 バーンアウト、ストレスの管理
履修上の注意点	
教科書	
特に指定しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版	
著者:	田中堅一郎編
出版社:	ナカニシヤ出版
出版年:	2011 ISBN:
新版 組織行動のマネジメント	
著者:	スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳
出版社:	ダイヤモンド社
出版年:	2009 ISBN:
心理学の世界 基礎編10 組織心理学	
著者:	古川久敬
出版社:	培風館
出版年:	2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート (60%)

授業中課題 (20%)

参加度 (20%)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 産業心理学Ⅱ(消費者行動論) &lt;Z&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

消費と広告の心理学

授業の到達目標

心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。

授業の概要

企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながらか考察する。

準備学習(予習・復習)

消費者としての自分自身のあり方を振り返り、その心理や行動についての素朴な疑問(なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか?なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか?)をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい。このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと。

内 容

- 第1回 消費者行動研究の目的と意義・消費者行動とマーケティング
- 第2回 消費者の購買意思決定過程①(EBMモデルの紹介)
- 第3回 消費者の購買意思決定過程②(ブランド選択過程を中心にして)
- 第4回 価格の心理学①(価格の心理的機能)
- 第5回 価格の心理学②(心理的財布理論・行動経済学)
- 第6回 広告の社会心理学①(広告効果モデル・広告の種類)
- 第7回 広告の社会心理学②(タレント・専門家起用広告)
- 第8回 広告の社会心理学③(恐怖喚起広告)
- 第9回 広告の社会心理学④(弱点開示広告・比較広告)
- 第10回 販売場面における説得のテクニック①(foot in the door techniqueなど)
- 第11回 販売場面における説得のテクニック②(Cialdiniの「影響力の武器」)
- 第12回 店舗内の消費者行動①(店舗内における行動のコントロール)
- 第13回 店舗内の消費者行動②(店舗内における販売促進の方法)
- 第14回 ブランドと消費者行動
- 第15回 まとめと確認

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。

教科書

新・消費者理解のための心理学

著者: 杉本徹雄編著

出版社: 福村出版

出版年: 2012

ISBN: 4571250401

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト (50%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

毎回の授業において小テストを実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 **発達心理学Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 奈田 哲也

テーマ

青年期以降(小学校高学年/思春期以降)における人間の発達の様相の理解

授業の到達目標

エリ・エス・ヴィゴツキーにより基本的枠組みが提唱された「高次心理機能の発達の文化-歴史的理論」について学び、人間の発達理解にとって、その理論の意義を理解できる。

授業の概要

最初に、ヴィゴツキーの生涯とその心理学理論の概略について説明をする。続いて、ヴィゴツキー理論を構成するよく知られた2つの重要な概念である「最近接発達の領域」と「内言」の概念を取り上げ、ヴィゴツキー理論の体系の中でこれらの概念が真に意味するところは何かについて解説をおこなう。

準備学習(予習・復習)

幅広く本を読み、自分が如何に形成されてきたかを考える。また、授業中に分からなかった事柄がでてきた場合は、インターネットや本を通して理解しておく。

内 容

- 第1回 ヴィゴツキーの生涯とその研究について
- 第2回 発達の文化-歴史的理論の概要
- 第3回 最近接発達の領域」の概念をめぐって
- 第4回 (1)問題の設定
- 第5回 (2)教授と最近接発達の領域と科学的概念の発達
- 第6回 (3)科学的概念の発達とは何が発達することか
- 第7回 (4)書き言葉の発達
- 第8回 (5)結論
- 第9回 「内言」の概念をめぐって
- 第10回 (1)問題の設定
- 第11回 (2)内言の意味の分析
- 第12回 (3)意味の作用とイメージの運動法則
- 第13回 (4)想像の発達
- 第14回 (5)まとめ
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

講義において分からない点ができたりした場合は、速やかに教員に質問し、理解するように努める。私語はしない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (10)

期末テストまたはレポート(70%)

## 2017 Syllabus

科目名 **学習心理学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

ヒトおよび動物の学習のメカニズムを理解する。

授業の到達目標

ヒトを含む動物が環境内の刺激をどのように学習し、記憶するのか、そのメカニズムを理解する。学習と記憶に関わる脳神経回路を学ぶことで、学習・記憶障害のメカニズムを理解する。

授業の概要

心理学において、“学習”とは、“経験による比較的永続的な行動の変容”と定義される。ヒトを含む動物は、環境内の様々な刺激から、餌のある場所、捕食者の足音や匂い、危険な場所など、様々な事象を学習し、記憶する。情動や社会行動が生得的な性質を持つものに対して、学習、記憶は経験によって獲得していく後発的な心理機能である。本講義では、様々な学習の種類（報酬学習、運動学習、逃避・回避学習、空間認知学習）とその理論を解説する。さらに学習・記憶を担う神経回路についても解析し、学習障害、記憶障害、認知障害が生起するメカニズムを紹介する。

準備学習(予習・復習)

テキストの熟読、講義ノートの復習、関連図書の精読

内 容

- 第1回 学習とは
- 第2回 馴化と鋭敏化
- 第3回 古典的条件づけの獲得
- 第4回 古典的条件づけの消去
- 第5回 オペラント条件づけの基礎
- 第6回 オペラント条件づけ(強化スケジュール)
- 第7回 消去と罰
- 第8回 随伴性
- 第9回 弁別と般化
- 第10回 運動学習
- 第11回 観察学習と概念学習
- 第12回 記憶と学習
- 第13回 学習障害
- 第14回 記憶障害
- 第15回 行動療法

履修上の注意点

遅刻をしない、講義中に私語をしないなど常識ある態度で受講して下さい。

教科書

学習の心理

著者： 実森正子・中島定彦

出版社：サイエンス社

出版年：2000

ISBN:

参考書

メイザーの学習と行動

著者：メイザー

出版社：二瓶社

出版年：2008

ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 教育心理学(心理)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

学校教育における子どもの発達と教育との関係の理解

授業の到達目標

教育心理学についての基礎的知識を理解すること。および子どもの発達にとって学校教育の持つ重要な意味を、学校での基本的教育活動との関係において理解できるようになること。

授業の概要

パワーポイントによる資料提示に沿って講義をする。

準備学習(予習・復習)

復習が重要

内 容

- 第1回 教育心理学の基本領域－教育とは何か、発達とは何か－
- 第2回 発達の規定要因
- 第3回 発達における初期経験の重要性、発達の可塑性
- 第4回 発達と教育の関係、発達のプロセス－ピアジェの知能の発達段階論－
- 第5回 発達のプロセス－フロイトの心理・性的発達段階論、エリクソンの心理・社会的発達段階論－
- 第6回 学習の基礎過程－連合説－
- 第7回 学習の基礎過程－認知説－
- 第8回 教科学習の前提
- 第9回 学習の動機づけ
- 第10回 知識獲得及び問題解決のメカニズム
- 第11回 発見学習と有意味受容学習
- 第12回 集団準拠評価
- 第13回 目標準拠評価
- 第14回 指導要録の実際と問題
- 第15回 その他学力以外の評価

履修上の注意点

欠席・遅刻はしないこと。

教科書

特に指定しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (80%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20%)

欠席が5回を超える場合には成績を評価しない(0点となる)。

## 2017 Syllabus

科目名 よそおいの心理学(心理) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 190
履修条件	クラス指定
担当者 日比野 英子	
テーマ 外見と心の関係	
授業の到達目標 本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかを理解し、さらに、福祉や医療の場でのこれらを用いたサポートの実践例についても理解を深める。	
授業の概要 以下のように、装いと化粧についての心理学各領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを用いた実践例を紹介するとともに臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。	
準備学習(予習・復習) 化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。	
内 容 第1回 オリエンテーション 外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針 第2回 装いの社会・心理的機能① 第3回 装いの社会・心理的機能② 第4回 顔について① 顔とは(乳幼児期における顔認知などから) 第5回 顔について② こども顔とおとな顔、女顔とお男顔 第6回 顔について③ 顔認知のステレオタイプ 第7回 化粧とは 化粧の文化誌、メーキャップの心理学 第8回 社会心理学における化粧研究 第9回 感情心理学・生理心理学における化粧研究① 第10回 感情心理学・生理心理学における化粧研究② 第11回 化粧とパーソナリティ 第12回 化粧の臨床的応用① 精神障害者を対象として 第13回 化粧の臨床的応用② 高齢者を対象として 第14回 化粧と装いの臨床的応用③ 身体障害者を対象として 第15回 まとめ 臨床心理学的視点からみたよそおいの意味 なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。	
履修上の注意点 受講生は、授業中のすべての配布資料をファイルしておくこと。定期試験に使用することがあります。	
教科書	
参考書 被服と化粧の社会心理学—人はなぜ装うのか 著者: 大坊郁夫・神山進他 出版社: 北大路書房 出版年: 1996年 ISBN: 978-4762820588 化粧行動の社会心理学 著者: 大坊郁夫他 出版社: 北大路書房 出版年: 2001年 ISBN: 4-7628-2226-4 個と向き合う介護 著者: 西本典良・日比野英子他 出版社: 誠信書房 出版年: 2006年 ISBN: 4-414-60137-1	
成績評価	

a90202g310

試験・レポート ( 50% )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50% )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 よそおいの心理学(教養) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 190
履修条件	クラス指定
担当者 日比野 英子	
テーマ 外見と心の関係	
授業の到達目標 本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかを理解し、さらに、福祉や医療の場でのこれらを用いたサポートの実践例についても理解を深める。	
授業の概要 以下のように、装いと化粧についての心理学各領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを用いた実践例を紹介するとともに臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。	
準備学習(予習・復習) 化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。	
内 容 第1回 オリエンテーション 外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針 第2回 装いの社会・心理的機能① 第3回 装いの社会・心理的機能② 第4回 顔について① 顔とは(乳幼児期における顔認知などから) 第5回 顔について② こども顔とおとな顔、女顔とお男顔 第6回 顔について③ 顔認知のステレオタイプ 第7回 化粧とは 化粧の文化誌、メーキャップの心理学 第8回 社会心理学における化粧研究 第9回 感情心理学・生理心理学における化粧研究① 第10回 感情心理学・生理心理学における化粧研究② 第11回 化粧とパーソナリティ 第12回 化粧の臨床的応用① 精神障害者を対象として 第13回 化粧の臨床的応用② 高齢者を対象として 第14回 化粧と装いの臨床的応用③ 身体障害者を対象として 第15回 まとめ 臨床心理学的視点からみたよそおいの意味 なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。	
履修上の注意点 受講生は、授業中のすべての配布資料をファイルしておくこと。定期試験に使用することがあります。	
教科書	
参考書 被服と化粧の社会心理学—人はなぜ装うのか 著者: 大坊郁夫・神山進他 出版社: 北大路書房 出版年: 1996年 ISBN: 978-4762820588 化粧行動の社会心理学 著者: 大坊郁夫他 出版社: 北大路書房 出版年: 2001年 ISBN: 4-7628-2226-4 個と向き合う介護 著者: 西本典良・日比野英子他 出版社: 誠信書房 出版年: 2006年 ISBN: 4-414-60137-1	
成績評価	

a90202g312

試験・レポート (50%)

授業中課題 ( )

参加度 (50%)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---



## 2017 Syllabus

科目名 産業心理学A(組織行動論)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 石田 正浩	
テーマ	
組織における人に関する問題を理解する心理学的な視点を獲得する。	
授業の到達目標	
組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解し、説明できるようになる。	
授業の概要	
組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。	
準備学習(予習・復習)	
自分が所属している(した)集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。	
内 容	
第1回	組織行動論・組織心理学とは
第2回	ワーク・モチベーション1 基本概念、欲求階層理論
第3回	ワーク・モチベーション2 2要因理論と達成動機づけ
第4回	ワーク・モチベーション3 内発的動機づけ
第5回	ワーク・モチベーション4 公平理論・期待理論・目標設定理論
第6回	応用行動分析
第7回	ワークモチベーション理論と実践 目標管理・成果主義・ジョブデザイン
第8回	集団生産性1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
第9回	集団生産性2 シュタイナーの課題分類と生産性
第10回	集団生産性3 集団意思決定
第11回	リーダーシップ1 リーダーシップとは、特性論、行動論
第12回	リーダーシップ2 条件即応理論
第13回	リーダーシップ3 変革型リーダーシップ理論、LMX
第14回	組織ストレス1 組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
第15回	組織ストレス2 バーンアウト、ストレスの管理
履修上の注意点	
教科書	
特に指定しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版	
著者:	田中堅一郎編
出版社:	ナカニシヤ出版
出版年:	2011 ISBN:
新版 組織行動のマネジメント	
著者:	スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳
出版社:	ダイヤモンド社
出版年:	2009 ISBN:
心理学の世界 基礎編10 組織心理学	
著者:	古川久敬
出版社:	培風館
出版年:	2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート (60%)

授業中課題 (20%)

参加度 (20%)

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 産業心理学B(消費者行動論)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 永野 光朗	
テーマ 消費と広告の心理学	
授業の到達目標 心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。	
授業の概要 企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながらか考察する。	
準備学習(予習・復習) 消費者としての自分自身のあり方を振り返り、その心理や行動についての素朴な疑問(なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか?なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか?)をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい。このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと。	
内 容 第1回 消費者行動研究の目的と意義・消費者行動とマーケティング 第2回 消費者の購買意思決定過程①(EBMモデルの紹介) 第3回 消費者の購買意思決定過程②(ブランド選択過程を中心にして) 第4回 価格の心理学①(価格の心理的機能) 第5回 価格の心理学②(心理的財布理論・行動経済学) 第6回 広告の社会心理学①(広告効果モデル・広告の種類) 第7回 広告の社会心理学②(タレント・専門家起用広告) 第8回 広告の社会心理学③(恐怖喚起広告) 第9回 広告の社会心理学④(弱点開示広告・比較広告) 第10回 販売場面における説得のテクニック①(foot in the door techniqueなど) 第11回 販売場面における説得のテクニック②(Gialdiniの「影響力の武器」) 第12回 店舗内の消費者行動①(店舗内における行動のコントロール) 第13回 店舗内の消費者行動②(店舗内における販売促進の方法) 第14回 ブランドと消費者行動 第15回 まとめと確認	
履修上の注意点 授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。	
教科書 新・消費者理解のための心理学 著者: 杉本徹雄編著 出版社: 福村出版 出版年: 2012 ISBN: 4571250401	
参考書	
成績評価 試験・レポート (50%) 授業中課題 ( ) 参加度 ( ) 毎回の授業において小テストを実施する。	小テスト (50%) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学特殊講義**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗・井上 裕樹・大久保 千恵・坂本 敏郎・宮井 研治

テーマ

心理学が社会において果たす役割の理解

授業の到達目標

・心理学が社会でどのように活かされているのかを理解する。・心理学を活かして社会に貢献する方法を考える。・卒業後の職業選択について具体的にイメージできる。

授業の概要

心理学的理論や技術が社会生活の向上のために利用されていることについて具体的な事例を通して理解する。このために大学および大学院で心理学を専門分野として学びの専門的知識を生かして業務を遂行している方をゲストスピーカーとして招聘し講演をしていただく。心理学科の学生にとって「心理学と社会の接点」を理解することは不可欠であり、このことは卒業後の将来的な指針を与えるうえでも不可欠である。

準備学習(予習・復習)

心理学に関連した職種や仕事について、基本的な情報を収集し理解しておくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の内容と進め方)
- 第2回 犯罪捜査と心理学(警察・科学捜査研究所担当者)
- 第3回 製品開発と心理学(企業・製品開発担当者)
- 第4回 営業企画と心理学(企業・営業企画担当者)
- 第5回 広告と心理学(企業・広告担当者)
- 第6回 企業のコンサルティング業務と心理学(企業・コンサルティング業務担当者)
- 第7回 臨床心理士の仕事(臨床心理士)
- 第8回 スクールカウンセラーの仕事(臨床心理士)
- 第9回 企業におけるカウンセラーの仕事(臨床心理士)
- 第10回 児童療育施設の仕事と心理学(臨床心理士)
- 第11回 児童養護施設の仕事と心理学(臨床心理士)
- 第12回 子どもの福祉と心理学(臨床心理士)
- 第13回 心理学における基礎研究(心理学基礎分野研究者)
- 第14回 リサーチ会社の仕事と心理学(調査会社担当者)
- 第15回 職業と心理学(人材資源開発担当者)

履修上の注意点

各回の授業終了後にレポートの提出を求める。ゲストスピーカーの都合で土曜日に開講される場合がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (50%)

各回の授業終了後にレポートの提出を求める。レポート提出が一定回数以下の場合には単位を取得できない。

## 2017 Syllabus

## 科目名 家族心理学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 宮井 研治	
テーマ	家族機能の後退、家族の役割の見直し、果ては家族悪玉論まで、「家族」をめぐる論議は現代ほど活発な時代はないと言えるし、また、昔から繰り返されてきた命題ともいえる。それでもなぜ家族という形態はなくなるのかを、主にシステム論の立場から考えたい。
授業の到達目標	ジェノグラムや、システム論を用い考える中で、自身の家族も含め、「家族という形態」の持つ意味や必要性を理解する。
授業の概要	講義形式とエクササイズをすることによる授業参加。ペアワーク、ロールプレイを多用する。
準備学習(予習・復習)	エクササイズなどを通しての授業への積極的参加。
内 容	<p>第1回 全体のオリエンテーション。いまなぜ「家族」なのかを考える。</p> <p>第2回 ジェノグラム① 自分の家族のジェノグラムを描いてみる。そこからイメージーションをふくらます。課題として自身の家族について知らなかったことを調べてくる。</p> <p>第3回 ジェノグラム② 他人のジェノグラムを描く。インタビューをしてみる。ペアワーク。</p> <p>第4回 システム論① システム論概論。その考え方を学ぶ。</p> <p>第5回 システム論② システム論を使った家族理解。家族構造をいろいろなタームを使って考える。</p> <p>第6回 家族をめぐる問題① 子育てをめぐること。児童虐待のどこ。</p> <p>第7回 家族をめぐる問題② 引き続き、児童をめぐる家族の問題についてー児童虐待についての対応ー</p> <p>第8回 家族をめぐる問題③ 家族の高齢化の問題。介護をめぐる家族の問題。</p> <p>第9回 家族のアセスメント あるジェノグラムを使って、そこからの見立てを考える。アセスメントとしてのサインズ・オブ・セイフティーアプローチの手法を紹介する。</p> <p>第10回 サインズを使って自分の家族をアセスメントする。ペアワーク。</p> <p>第11回 家族をめぐる心理療法① 家族療法 それ以前の心理療法との比較。</p> <p>第12回 家族をめぐる心理療法② 家族療法から解決志向へ。</p> <p>第13回 家族をめぐる心理療法③ 家族内のコミュニケーションに焦点をあてた心理療法の実際</p> <p>第14回 解決に焦点を絞った心理療法のエクササイズによる体験。</p> <p>第15回 まとめと確認。</p>
履修上の注意点	携帯の取り扱いはずいぶん、他の受講生に迷惑をかけない、不快感を与えない。これだけです。
教科書	
家族理解入門	
著者: 団士郎	
出版社: 中央法規	
出版年: 2013年	ISBN:
参考書	
家族が変わる子育てが変わるコミュニケーションのヒント	
著者: 岡田隆介	
出版社: 明石書店	
出版年: 2011年	ISBN:
面接の技とコツ	
著者: 宮井研治編	
出版社: 明石書店	
出版年: 2012年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (70%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 **社会調査法(社会心理調査)**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 藤原 勇	
テーマ	
社会調査法に関する基礎知識の習得	
授業の到達目標	
社会調査の意義や類型、歴史、調査倫理、方法など、社会調査の基本についてわかりやすく解説する。また、実際の多様な調査例を紹介することで、社会調査に対する理解を深める。	
授業の概要	
パワーポイントの資料をスクリーンに提示し、講義形式で授業を進める。	
準備学習(予習・復習)	
各回の授業内容に関して参考書等で予習することが望ましい。また、復習として、参考書内の前回の授業内容に相当する箇所を読み、理解を深めることが望ましい。	
内 容	
第1回 社会調査の目的と意義	
第2回 社会調査史	
第3回 調査倫理	
第4回 フィールドワーク	
第5回 質的調査と量的調査(1) 質問調査法(面接調査法、郵送調査法、留置調査法、集合調査法)	
第6回 質的調査と量的調査(2) 観察法(参与観察法、非参与観察法)、アクション・リサーチ	
第7回 質的調査と量的調査(3) パネル調査、コホート、ケース・スタディ	
第8回 実際の調査例(1) 行政調査(国勢調査、官庁統計)	
第9回 実際の調査例(2) 世論調査	
第10回 実際の調査例(3) マーケティング・リサーチ	
第11回 実際の調査例(4) インターネット調査	
第12回 実際の調査例(5) 聞き取り調査	
第13回 実際の調査例(6) 訪問調査	
第14回 資料・データの収集から分析へ	
第15回 社会調査に向けて	
履修上の注意点	
授業に対して自発的・積極的に取り組むこと。私語などの他の学生に迷惑になる行為は慎むこと。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
社会調査へのアプローチ	
著者: 大谷信介他	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: 2005年	ISBN: 9.78462E+12
よくわかる質的調査技法編	
著者: 谷富夫・芦田徹郎(編著)	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: 2005年	ISBN: 9.78462E+12
よくわかる社会調査法～基礎から統計分析まで～	
著者: 黒田宣代・東巧	
出版社: 大学教育出版	
出版年: 2006年	ISBN: 9.78489E+12

成績評価

試験・レポート ( 50% )

授業中課題 ( 30% )

参加度 ( 20% )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---



## 2017 Syllabus

科目名 **健康心理学〈2回生〉**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 田中 芳幸	
テーマ 健康心理学に関わる諸理論の理解	
授業の到達目標 健康心理学の基本的な知識を学び、心理・社会・身体的な要因が様々な心身の問題にどの様に関連しているのかを把握する。また、心身疾患やストレスへの予防および心身の健康の維持増進方法について、健康心理学的な視点に基づいて考察する。さらに、自分自身や他者の健康関連行動や生活習慣について考える機会とすることも目的とする。	
授業の概要 準備学習(予習・復習) 各回の内容に該当する教科書の熟読、および、健康心理学関連図書や関連論文による自学自習を行うこと。	
内 容 第1回 オリエンテーション 健康心理学とは&「健康」のとらえ方 第2回 健康心理学の基盤となる心理学理論 第3回 健康行動の諸理論と心身不調の予防 第4回 ストレスと健康 第5回 ストレスへの対処とストレス関連身体疾患 第6回 トランスセオレティカルモデルに基づくストレスマネジメント 第7回 パーソナリティ・生活習慣と健康 第8回 健康生成に役立つソーシャルサポートとヘルスケアシステム 第9回 発達段階に応じた健康教育 第10回 生活場面に応じた健康教育 第11回 健康心理学に基づくアセスメント 第12回 健康心理カウンセリングの理論 第13回 健康心理カウンセリングの実際 第14回 健康的な生活習慣の形成 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。	
教科書 新版健康心理学 著者： 野口京子 出版社： 金子書房 出版年： ISBN:	
参考書 健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり 著者： 島井哲史・長田久雄・小玉正博(編) 出版社： 有斐閣 出版年： ISBN:	
健康心理学概論(健康心理学基礎シリーズ1) 著者： 日本健康心理学会(編) 出版社： 実務教育出版 出版年： ISBN:	
健康心理アセスメント概論(健康心理学基礎シリーズ2) 著者： 日本健康心理学会(編) 出版社： 実務教育出版 出版年： ISBN:	

健康心理カウンセリング概論 (健康心理学基礎シリーズ3)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

健康教育概論 (健康心理学基礎シリーズ4J)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40% )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **健康心理学 <3回生>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 田中 芳幸	
テーマ	
健康心理学に関わる諸理論の理解	
授業の到達目標	
健康心理学の基本的な知識を学び、心理・社会・身体的な要因が様々な心身の問題にどの様に関連しているのかを把握する。また、心身疾患やストレスへの予防および心身の健康の維持増進方法について、健康心理学的な視点に基づいて考察する。さらに、自分自身や他者の健康関連行動や生活習慣について考える機会とすることも目的とする。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
各回の内容に該当する教科書の熟読、および、健康心理学関連図書や関連論文による自学自習を行うこと。	
内 容	
第1回 オリエンテーション 健康心理学とは&「健康」のとらえ方	
第2回 健康心理学の基盤となる心理学理論	
第3回 健康行動の諸理論と心身不調の予防	
第4回 ストレスと健康	
第5回 ストレスへの対処とストレス関連身体疾患	
第6回 トランスセオレティカルモデルに基づくストレスマネジメント	
第7回 パーソナリティ・生活習慣と健康	
第8回 健康生成に役立つソーシャルサポートとヘルスケアシステム	
第9回 発達段階に応じた健康教育	
第10回 生活場面に応じた健康教育	
第11回 健康心理学に基づくアセスメント	
第12回 健康心理カウンセリングの理論	
第13回 健康心理カウンセリングの実際	
第14回 健康的な生活習慣の形成	
第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。	
教科書	
新版健康心理学	
著者: 野口京子	
出版社: 金子書房	
出版年:	ISBN:
参考書	
健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり	
著者: 島井哲史・長田久雄・小玉正博(編)	
出版社: 有斐閣	
出版年:	ISBN:
健康心理学概論(健康心理学基礎シリーズ1)	
著者: 日本健康心理学会(編)	
出版社: 実務教育出版	
出版年:	ISBN:
健康心理アセスメント概論(健康心理学基礎シリーズ2)	
著者: 日本健康心理学会(編)	
出版社: 実務教育出版	
出版年:	ISBN:

健康心理カウンセリング概論 (健康心理学基礎シリーズ3)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

健康教育概論 (健康心理学基礎シリーズ4J)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40% )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究 I (心) &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究 I (心) &lt;\* b&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 日比野 英子

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

## 授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

## 履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ(心) &lt;\*c&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究 I (心) &lt;\* d&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中西 龍一

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

## 授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

## 履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30% )  
参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 40% )



## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ(心) &lt;\*e&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ(心)〈\*f〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松下 幸治

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究 I (心) &lt;\*g&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

## 授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

## 履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究 I (心) &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上北 朋子

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

## 授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

## 履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ(心) &lt;\*i&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 田中 芳幸

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究 I (心) &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 前田 洋光

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究 I (心) &lt;\*k&gt;

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 濱田 智崇

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

## 授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第15回 研究計画の発表と討論②

## 履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40% )

## 2017 Syllabus

科目名 心理検査法Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 青木 剛	
テーマ	
心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。	
授業の到達目標	
心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。	
授業の概要	
前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	
ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたるのが望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。	
内 容	
第1回	オリエンテーション
第2回	ロールシャッハ・テスト① ロールシャッハ・テストの被検
第3回	ロールシャッハ・テスト② 基礎技法
第4回	ロールシャッハ・テスト③ スコアリングの基礎知識(反応領域・反応決定因)
第5回	ロールシャッハ・テスト④ スコアリングの基礎知識(反応内容・形態水準)
第6回	ロールシャッハ・テスト⑤ スコアリング練習
第7回	ロールシャッハ・テスト⑥ スコアリング練習
第8回	ロールシャッハ・テスト⑦ 結果の整理・解釈
第9回	発達検査とは～子どもの姿をとらえる
第10回	やってみよう！新版K式発達検査①
第11回	やってみよう！新版K式発達検査②
第12回	やってみよう！ウェクスラー知能検査①
第13回	やってみよう！ウェクスラー知能検査②
第14回	その他の発達検査
第15回	まとめ～検査結果をどう生かしていくか
履修上の注意点	
ロールシャッハ・テストのスコアリング練習は、毎回の受講の前にあらかじめ2～3時間の予習を前提としているので、十分な準備をして出席すること。	
教科書	
参考書	
改訂新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究	
著者： 片口安史	
出版社： 金子書房	
出版年： 1987年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( 50% )	小テスト ( )
授業中課題 ( 25% )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 25% )	
上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。	



## 2017 Syllabus

科目名 心理検査法Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 室 紀子	
テーマ	
心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。	
授業の到達目標	
心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。	
授業の概要	
前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	
ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたるのが望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。	
内 容	
第1回	オリエンテーション
第2回	ロールシャッハ・テスト① ロールシャッハ・テストの被検
第3回	ロールシャッハ・テスト② 基礎技法
第4回	ロールシャッハ・テスト③ スコアリングの基礎知識(反応領域・反応決定因)
第5回	ロールシャッハ・テスト④ スコアリングの基礎知識(反応内容・形態水準)
第6回	ロールシャッハ・テスト⑤ スコアリング練習
第7回	ロールシャッハ・テスト⑥ スコアリング練習
第8回	ロールシャッハ・テスト⑦ 結果の整理・解釈
第9回	発達検査とは～子どもの姿をとらえる
第10回	やってみよう！新版K式発達検査①
第11回	やってみよう！新版K式発達検査②
第12回	やってみよう！ウェクスラー知能検査①
第13回	やってみよう！ウェクスラー知能検査②
第14回	その他の発達検査
第15回	まとめ～検査結果をどう生かしていくか
履修上の注意点	
ロールシャッハ・テストのスコアリング練習は、毎回の受講の前にあらかじめ2～3時間の予習を前提としているので、十分な準備をして出席すること。	
教科書	
参考書	
改訂新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究	
著者： 片口安史	
出版社： 金子書房	
出版年： 1987年	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( 50% )	小テスト ( )
授業中課題 ( 25% )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 25% )	
上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。	

## 2017 Syllabus

科目名 心理統計学Ⅲ(多変量解析)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

統計ソフトSPSSを用いておこなう多変量解析の修得

授業の到達目標

心理学データ解析で修得した内容を踏まえ、心理学研究において多用されている因子分析・重回帰分析をはじめとする種々の多変量解析を理解し、取得されたデータを適切に分析する能力を身につける。

授業の概要

各種の多変量解析の手法について適用事例を含めながら説明をし、模擬的なデータを使って各自でSPSSを用いて分析を行う。

準備学習(予習・復習)

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内 容

- 第1回 多変量解析とは
- 第2回 因子分析(理論の説明)
- 第3回 因子分析(適用例の紹介)
- 第4回 因子分析(演習)
- 第5回 重回帰分析(理論の説明)
- 第6回 重回帰分析(適用例の紹介)
- 第7回 重回帰分析(演習)
- 第8回 判別分析(理論の説明と適用例の紹介)
- 第9回 判別分析(演習)
- 第10回 クラスター分析(理論の説明と適用例の紹介)
- 第11回 クラスター分析(演習)
- 第12回 MDS(多次元尺度構成法)(理論の説明と適用例の紹介)
- 第13回 MDS(多次元尺度構成法)(演習)
- 第14回 総合演習①(データ収集)
- 第15回 総合演習②(データ分析)

履修上の注意点

教科書

使用しない(資料配付)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

SPSSとAmosによる心理・調査データ解析——因子分析・共分散構造分析まで

著者: 小塩真司

出版社: 東京図書

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ( )

参加度 (50%)

「授業中課題」は、スクーリング時に指示する。

## 2017 Syllabus

科目名 英書講読

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 ジェイムス 朋子	
テーマ	
心理学の英語文献の講読と理解	
授業の到達目標	
卒業研究あるいは大学院進学後に、英語の専門的な心理学文献を読みこなす力、理解する力、その理解を基に討議する力を養うことを目的とする。文献を読みこなすのに必要な、背景となる専門的知識や専門的語彙、さらに理論的なものの考え方や思考力なども身につけ、英書を実践的に読める力を身につける。	
授業の概要	
毎回の授業では、事前に提示された文献の該当箇所を各自購読し、理解してくること、担当者は発表の準備をしていくことが課される。グループ討議も課されるため、全回出席を原則とする。	
準備学習(予習・復習)	
授業前の文献の事前講読、理解のまとめの作成、およびグループ課題(必修)	
内 容	
第1回	イントロダクション:英語文献の読解基礎
第2回	課題①:“Caring for Children Following Crisis”の講読
第3回	課題①:“Caring for Children Following Crisis”の理解
第4回	課題①:“Caring for Children Following Crisis”の討議
第5回	課題②“Dream work, Dream-Telling and Mental Space”の講読
第6回	課題②“Dream work, Dream-Telling and Mental Space”の理解
第7回	課題②“Dream work, Dream-Telling and Mental Space”の討議
第8回	課題③“The Vicissitudes of Agression: It powers for good and harm”の講読
第9回	課題③“The Vicissitudes of Agression: It powers for good and harm”の理解
第10回	課題③“The Vicissitudes of Agression: It powers for good and harm”の討議
第11回	課題③“The Vicissitudes of Agression: It powers for good and harm”からの学び:攻撃性の心理学
第12回	課題④“The Key Psychodynamics of Femaile Personality Development:Phallivc Activeness and Safe Space”の講読
第13回	課題④“The Key Psychodynamics of Femaile Personality Development:Phallivc Activeness and Safe Space”の理解
第14回	課題④“The Key Psychodynamics of Femaile Personality Development:Phallivc Activeness and Safe Space”の討議
第15回	英語文献講読からの学び
履修上の注意点	
課題文献は事前に配布する。事前の個人課題とグループ課題が必修となること、また、全回出席が原則となる授業であることを留意すること。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (40%)	授業中発表等 (40%)
参加度 (20%)	
事前課題の達成度、授業中課題、および討議への参加度を総合して評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 **生理心理学**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 坂本 敏郎	
テーマ	
<p>こころや行動に関わる神経内分泌系(ホルモン)の働きを理解する。</p>	
授業の到達目標	
<p>中枢神経系である脳の作用だけでなく、末梢神経、性ホルモン、免疫系などのはたらきと、情動、ストレス、学習、認知などの心的機能との関係を理解する。さらに、生理心理学、行動神経科学に関わる、心理学的トピックを紹介する。</p>	
授業の概要	
<p>講義形式とする。パワーポイントスライドを提示し、資料を配付する。</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>配布プリントの熟読、講義ノートの復習、関連図書の精読</p>	
内 容	
<p>第1回 ガイダンス  第2回 神経系の情報伝達、中枢神経のはたらき  第3回 ホルモンによる情報伝達、内分泌器官  第4回 ホルモン分泌の神経調節 / 母親の認知機能の変化  第5回 ホメオスタシスと行動 / 父親の養育行動と脳の変化  第6回 性の決定と哺乳類の性分化 / 内分泌攪乱ホルモン  第7回 行動の周期性 / 精神疾患の性差  第8回 種内のコミュニケーション  第9回 遊びの重要性  第10回 個体の絆の形成とホルモン  第11回 ストレス応答と行動  第12回 女性がうつになりやすい理由 / 脳の性差  第13回 生育環境と行動  第14回 情動、学習、記憶とホルモン  第15回 脳と心の進化・まとめ</p>	
履修上の注意点	
<p>遅刻をしない、私語をしない等の常識ある態度で受講して下さい。</p>	
教科書	
<p>プリントを配布します。</p>	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
<p>脳とホルモンの行動学ー行動神経内分泌学への招待ー</p>	
著者:	近藤保彦他 編
出版社:	西村書店
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (60%)	小テスト ( )
授業中課題 (20%)	授業中発表等 ( )
参加度 (20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 **こころの脳科学**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上北 朋子	
テーマ	
我々の心や行動をつくる脳の仕組みについて学ぶ。	
授業の到達目標	
ヒトがどのように感じ、考え、行動するのかを神経科学の視点から理解することを目標とする。	
授業の概要	
神経科学の基礎的な事項を行動との関連に焦点をあてながら概説する。パワーポイントやプリントによる図解により、イメージしやすいよう工夫する。	
準備学習(予習・復習)	
ノートへの追加事項の書き込み、配布プリントの読み込みなど、復習を重視する。	
内 容	
第1回 オリエンテーション 心理学における脳科学の位置づけ	
第2回 脳の構造と機能(1) 骨格、膜	
第3回 脳の構造と機能(2) 大脳皮質	
第4回 脳の構造と機能(3) 大脳辺縁系	
第5回 情報の伝導	
第6回 情報の伝達	
第7回 中間まとめ	
第8回 神経伝達物質(1)	
第9回 神経伝達物質(2)	
第10回 学習と記憶	
第11回 視覚	
第12回 聴覚	
第13回 言語、社会性	
第14回 脳の障害と可塑性	
第15回 全体のまとめ	
履修上の注意点	
私語やスマートフォンの使用は慎んでください。	
教科書	
参考書	
神経科学テキスト 脳と行動	
著者: カールソン	
出版社: 丸善株式会社	
出版年:	ISBN:
神経科学 脳の探求	
著者: ベアー コノーズ パラディーソ	
出版社: 西村書店	
出版年:	ISBN:
脳神経科学 イラストレイテッド	
著者: 森寿 真鍋俊也 渡辺雅彦 岡野栄之 宮川剛	
出版社: 羊土社	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( 80 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )

参加度（20）  
期末試験を重視する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 心理的援助論A

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 菱田 一仁

テーマ

スクールカウンセリングを中心に、学校臨床についての知識を学ぶ。

授業の到達目標

スクールカウンセリングに関する知識のほか、学校現場での臨床活動の特徴、学校現場に関連する領域での臨床心理学的な働きについて学ぶ。

授業の概要

講義形式で行います。

準備学習(予習・復習)

積極的に出席するようにしてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・スクールカウンセリングとは
- 第2回 スクールカウンセリングの基礎知識①
- 第3回 スクールカウンセリングの基礎知識②
- 第4回 発達についての理解
- 第5回 学校での問題行動
- 第6回 発達検査について
- 第7回 スクールカウンセリングの実際①
- 第8回 スクールカウンセリングの実際②
- 第9回 保護者面接について①
- 第10回 保護者面接について②
- 第11回 教員とのコンサルテーション①
- 第12回 教員とのコンサルテーション②
- 第13回 他機関との連携(児童相談所)
- 第14回 他機関との連携(適応指導教室)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業には積極的に参加してください。

教科書

参考書

スクールカウンセリングの基礎と経験

著者: 馬場謙一 松本京介

出版社: 日本評論社

出版年: 2008

ISBN: 9.78454E+12

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 ( )

参加度 (60%)

## 2017 Syllabus

## 科目名 心理的援助論B

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 濱田 智崇	
テーマ	
心理的援助における「表現」との向き合い方について考える	
授業の到達目標	
心理的援助における「表現」について体験的に学ぶ。ここで言う「表現」には言語による表現も、描画や箱庭、遊戯療法の遊びと、いったものも含まれるが、そうした「表現」に援助者としてどう向きあうのかを考えていく。他者の内面を理解しようとすることは、必ずと自分自身の内面と向きあうことにもなる。そうした姿勢の中から体験的に学ぶことを目標とする。	
授業の概要	
この授業では主に風景構成法と箱庭療法、遊戯療法に関して取り上げる。まずそれぞれの技法の成り立ちや特徴を解説し、その後、実際に描いたり、作成したりするワークを行う。実際に自分が表現してみること、そしてそれを自分で分析してみること、で学びを深めていく。	
準備学習(予習・復習)	
実習・ワークの前に、講義の内容をよく理解しておかないと、せっかくの実習・ワークの体験を活かすことができなかつたり、他の受講者に迷惑をかけたりますので、よく理解しておいてください。	
内 容	
第1回 オリエンテーション(心理的援助における表現とは)	
第2回 心理療法における象徴的イメージとは	
第3回 箱庭療法とは	
第4回 箱庭を使ったワーク(1)	
第5回 箱庭を使ったワーク(2)	
第6回 箱庭療法の事例から学ぶ(1)	
第7回 箱庭療法の事例から学ぶ(2)	
第8回 心理療法における描画法	
第9回 風景構成法とは	
第10回 風景構成法実習(1)	
第11回 風景構成法実習(2)	
第12回 遊戯療法とは	
第13回 遊戯療法の実際	
第14回 遊戯療法の事例から学ぶ	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
講義の回に出席できていない(実習やワークに必要なことを理解できていない)場合、その後の実習やワークの回の受講を制限せざるを得ないこともありますので、気をつけてください。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
風景構成法—その基礎と実践	
著者: 皆藤章	
出版社: 誠信書房	
出版年: 1994	ISBN: 978-4414401691
風景構成法のしくみ: 心理臨床の実践知をことばにする	
著者: 佐々木玲仁	
出版社: 創元社	
出版年: 2012	ISBN: 978-4422115429



箱庭療法—基礎的研究と実践

著者： 木村晴子

出版社： 創元社

出版年： 1985

ISBN： 978-4422111032

箱庭療法の事例と展開

著者： 岡田 康伸(編)

出版社： 創元社

出版年： 2007

ISBN： 978-4422113647

遊戯療法の実際

著者： 河合 隼雄

出版社： 誠信書房

出版年： 2005

ISBN： 978-4414400212

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 30% )

参加度 ( 30% )

授業中や自宅でのレポート作成が主になります。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **犯罪心理学**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

犯罪心理学基礎理論の理解および矯正心理学の臨床心理学的理解

授業の到達目標

本講義においては、主に臨床心理学的な視点から、反社会的行動化としての犯罪を理解することをめざす。犯罪臨床領域では、特定の犯罪理論に依拠して統計的に犯罪を分析をすることよりも、多角的な観点から一人ひとりの犯罪者・非行少年の人格的特徴や問題性を理解し、矯正心理教育を模索する。臨床的援助としての犯罪防止および矯正心理教育の実際を理解することを目標とする。

授業の概要

授業では、講義、質疑応答、ディスカッション、簡単な演習を中心に展開する。それらの理解の確認のため、適宜小レポートや小テストを課す場合がある。

準備学習(予習・復習)

配布資料や参考文献を読み、授業の理解を深める。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 犯罪心理学とは
- 第2回 生物学的側面からみた犯罪
- 第3回 生物学的側面からみた犯罪
- 第4回 パーソナリティと犯罪
- 第5回 精神障害と犯罪
- 第6回 アディクションと犯罪
- 第7回 犯罪に関わる被害体験
- 第8回 日本における犯罪理論
- 第9回 犯罪プロファイリング
- 第10回 矯正施設における心理学の活用
- 第11回 犯罪者の更生と社会システム
- 第12回 行動療法
- 第13回 認知行動療法
- 第14回 力動的心理療法
- 第15回 事例からの学び

履修上の注意点

教科書

参考書

コンパクト犯罪心理学

著者: 河野荘子/岡本英生

出版社: 北大路書房

出版年: 2013

ISBN:

犯罪心理学—行動科学のアプローチ—

著者: C. R. バートル/A. M. バートル

出版社: 北大路書房

出版年: 2006

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40% )

授業中課題 ( レポート40% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20% )

## 2017 Syllabus

## 科目名 集団力動学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 ジェイムス 朋子	
テーマ 集団力動の理論とグループ・アプローチの基礎理解	
授業の到達目標 集団はその構造によりさまざまな特徴をもつ。臨床心理学では古くから、個人力動の特質と集団力動の特質、そしてその交叉の力動を活かして、対人援助にアプローチしてきた。その知見は、教育、医療、矯正など、多くの領域で活用されている。本講義では、集団力動の基本理論と実際を理解し、援助処方としてのグループ・アプローチの基礎を理解することを目標とする。	
授業の概要 授業では、講義、質疑応答、ディスカッション、簡単な演習を中心に展開する。それらの理解の確認のため、適宜小レポートや小テストを課す場合がある。	
準備学習(予習・復習) 配布資料や参考文献を読み、授業の理解を深める。	
内 容 第1回 イントロダクション—集団とは何か— 第2回 映画に見る集団力動 第3回 青年と集団 第4回 集団力動とは何か 第5回 グループ・サイズと機能:小演習 第6回 リーダーシップ 第7回 集団力動の実際 第8回 心の発達力学と集団 第9回 集団と対人関係 第10回 集団と家族・集団と学校 第11回 グループ・アプローチのあれこれ 第12回 グループ・ワーク:学校教育におけるグループ・ワークの例 第13回 グループ・ワーク:刑務所における心理教育グループ・ワークの例 第14回 グループ・カウンセリングと集団精神療法 第15回 事例による理解のまとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 人間理解のグループ・ダイナミクス 著者: 吉田道雄 出版社: ナカニシヤ出版 出版年: 2001 ISBN: 現代のエスプリ別冊 心の安全空間—家庭・地域・学校・社会— 著者: 小谷英文 出版社: 至文堂 出版年: 2006 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 40% ) 授業中課題 ( レポート40% ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 20% )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 広告心理学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 前田 洋光	
テーマ	
広告を科学的見地から理解する	
授業の到達目標	
広告の心理・社会的機能を、客観的な視点から論考することができる。	
授業の概要	
私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間(消費者)理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。	
準備学習(予習・復習)	
・日常生活において、さまざまな広告に接触すること ・下記参考書をはじめとする広告心理学に関連する書籍の講読	
内 容	
第1回 イントロダクション	
第2回 広告効果	
第3回 ブランドと広告	
第4回 メディアによる差異	
第5回 購買後効果と長期的効果	
第6回 広告表現と戦略:タレント起用広告	
第7回 広告表現と戦略:比較広告	
第8回 広告表現と戦略:ユーモア広告	
第9回 広告表現と戦略:その他の広告表現(性的表現・恐怖アピール等)	
第10回 POP広告	
第11回 公共広告	
第12回 インターネット広告	
第13回 プロダクトプレイスメント	
第14回 広告の倫理: 広告苦情	
第15回 まとめと確認	
履修上の注意点	
ある程度の心理学の知識を有している方が望ましい。	
教科書	
参考書	
広告心理	
著者: 仁科貞文ほか	
出版社: 電通	
出版年:	ISBN:
新・消費者理解のための心理学	
著者: 杉本徹雄(編)	
出版社: 福村出版	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (80%)	小テスト ( )
授業中課題 (20%)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 消費者コミュニケーション論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 前田 洋光	
テーマ	
現代社会における消費者行動の理解	
授業の到達目標	
現代における消費者コミュニケーションの意義・機能について、客観的な視点から理解することができる	
授業の概要	
消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものである。私たちは、このすべてのプロセスにおいて、他者とくちコミ情報を授受しあう、企業から情報を入手する、企業に苦情を伝える、Web上で情報交換をおこなう等、種々のコミュニケーション活動をおこなっている。本講では、これらの消費者をめぐるコミュニケーション活動に焦点をあて、そのプロセス・機能・役割について明らかにしていく。	
準備学習(予習・復習)	
・日常生活における消費者行動に注意を向ける・下記参考書をはじめとする関連書籍の講読	
内 容	
第1回 イントロダクション	
第2回 消費者間コミュニケーション①:他メディアとの効果差異を中心に	
第3回 消費者間コミュニケーション②:くちコミの受け手・メッセージ内容を中心に	
第4回 消費者間コミュニケーション③:くちコミの送り手に関する検討	
第5回 消費者間コミュニケーション④:Webくちコミ	
第6回 企業と消費者間のコミュニケーション①:消費者の問題認識	
第7回 企業と消費者間のコミュニケーション②:消費者の購買意思決定過程	
第8回 企業と消費者間のコミュニケーション③:購買意思決定を左右する種々の要因	
第9回 企業と消費者間のコミュニケーション④:不合理な消費者の購買意思決定	
第10回 企業と消費者間のコミュニケーション⑤:選択肢評価	
第11回 企業と消費者間のコミュニケーション⑥:消費者満足	
第12回 消費者とモノとのコミュニケーション①:モノの意味	
第13回 消費者とモノとのコミュニケーション②:被服心理学	
第14回 現代社会における消費者コミュニケーション:環境配慮行動	
第15回 まとめと確認	
履修上の注意点	
ある程度の心理学の知識を有している方が望ましい。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
消費者・コミュニケーション戦略	
著者: 田中洋・清水聡	
出版社: 有斐閣	
出版年:	ISBN:
新・消費者理解のための心理学	
著者: 杉本徹雄(編)	
出版社: 福村出版	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (80%)	小テスト ( )
授業中課題 (20%)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	



## 2017 Syllabus

科目名 **マーケティング調査演習**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

マーケティング遂行に必要な情報収集手段としての消費者調査

授業の到達目標

マーケティング遂行の手段としての「来街者調査」の企画立案, 実施, 結果の分析, 報告書の作成を自らが行うことで, 社会調査についての「体験的理解」を深めると同時に実務的・実践的スキルを身につける。

授業の概要

商店街など地域社会の活性化を目指してプランを立案する場合にしばしば行われる来街者調査(地域への来訪者を対象とした面接調査, 行動観察調査など)のプロセスを体験する。

準備学習(予習・復習)

商店街や店舗での販売促進の事例を収集し、その遂行のためにはどのような情報が必要になるのかを自分なりに考える。

内 容

- 第1回 来街者調査とは？
- 第2回 来街者調査の事例紹介
- 第3回 来街者調査の方法①(面接調査)
- 第4回 来街者調査の方法②(通行量調査)
- 第5回 質問紙の設計と調査計画の作成
- 第6回 来街者調査の実施①
- 第7回 来街者調査の実施②
- 第8回 来街者調査の実施③
- 第9回 来街者調査の実施④
- 第10回 来街者調査の実施⑤
- 第11回 来街者調査の実施⑥
- 第12回 データの入力
- 第13回 データの分析
- 第14回 調査結果の検討
- 第15回 調査報告書の作成

履修上の注意点

教科書

教科書はなし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ( )

参加度 (70%)

・10月または11月の土曜日及び日曜日に商店街などにおいて来街者調査を行う。また事前の現地への下見や事後の報告会なども実施する。・現地への交通費はすべて自己負担とする。・上記の詳細(調査実施場所など)については未定であるが決まり次第通知をする。・報告会については授業終了後の2月または3月に実施する予定である。これについても参加することを原則とする。

## 2017 Syllabus

## 科目名 環境心理学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 太子 のぞみ	
テーマ	
現実の様々な環境における人間の心理・行動についての知識や考え方を習得	
授業の到達目標	
本講義では、環境心理学の考え方を踏まえた上で、住環境や教育環境、対人社会環境、自然環境など様々なテーマについて論じる。受講者は環境心理学の概念や理論を知識として得て、さらに人間を取り巻く様々な環境を心理学の視点から把握できるように理解を深める。	
授業の概要	
一回もしくは二回の講義で一つのテーマについて講義を行う。また、講義に際して出欠をとる。講義の途中で小レポートを課し、数週間後に提出する必要がある。	
準備学習(予習・復習)	
講義で学習したことを踏まえた上で、身近な環境に対してよく注意を払うように心がけて、人間と環境の相互作用について考えてみましょう。	
内 容	
第1回	オリエンテーション
第2回	環境心理学の考え方
第3回	環境の認知①
第4回	環境の認知②
第5回	環境の評価①
第6回	環境の評価②
第7回	対人・社会環境①
第8回	対人・社会環境②
第9回	住環境
第10回	教育環境
第11回	職場環境①
第12回	職場環境②
第13回	犯罪環境
第14回	自然環境
第15回	まとめと理解の確認
第16回	試験
履修上の注意点	
質問があれば授業中だけでなく、授業前後に気軽にお越しください。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
環境心理学—人間と環境の調和のために(ライブラリ 実践のための心理学)	
著者:	羽生和紀
出版社:	サイエンス社
出版年:	2008年
	ISBN: 4781911943
環境心理学(朝倉心理学講座)	
著者:	佐古順彦・小西啓史
出版社:	朝倉書店
出版年:	2007年
	ISBN: 4254526725
成績評価	
試験・レポート(50)	小テスト( )



授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

成績は、試験50点、授業中に課される課題20点、出欠を含む参加度30点の合計得点を算出して評価を行う。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **社会心理学実験演習**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 前田 洋光

テーマ

グループで決定した研究テーマについて、実証研究を実施する

授業の到達目標

本講では、受講生をいくつかのグループに分け、グループ研究を実施していく。具体的には、グループごとに研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、調査によって収集されたデータを分析し、レポートにまとめる。こうした一連の研究プロセスを直接体験することによって、卒業研究で活用すべきスキルを習得していく。

授業の概要

社会心理学分野における実証研究を共同でおこなう。

準備学習(予習・復習)

授業内で作業が完了しない場合、授業時間外でもグループで議論する必要がある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(グループの決定)
- 第2回 研究テーマの決定と文献検索の方法
- 第3回 文献講読
- 第4回 仮説の設定
- 第5回 質問項目の設計
- 第6回 質問紙の設計
- 第7回 調査準備(印刷)
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データ入力
- 第10回 データ分析(基礎集計)
- 第11回 データ分析(仮説の検討)
- 第12回 データ分析(発展的検討)
- 第13回 レポートのまとめ方
- 第14回 結果のまとめと考察
- 第15回 プレゼンテーション

履修上の注意点

グループ作業が中心のため、遅刻・欠席は厳禁である。フリーライダーに対しても厳正に評価をおこなう。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 コーチング心理学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 本山 雅英	
テーマ	卒業後に企業で働くことを前提としていた講座である。企業活動における生産性向上に、コーチング、ファシリテーションがどう役立っているかを学ぶ。
授業の到達目標	企業におけるヒューマンマネジメント(人的資源管理)は、心理学の諸理論の援用により構成、運用されている。静的アプローチとしての人事制度設計には、主として動機づけ理論。目標管理を中心とした、動的アプローチにはコーチング、ファシリテーションなどの行動科学の考え方が援用されている。本講座では、コーチング、ファシリテーションが企業内でどう活用され、どのような効果をあげているかを理解し、心理学を学んだものが企業内で、それをどう活用すべきかのポイントを習得する。
授業の概要	連続した三日間の集中講義により、企業社会で求められているコーチングとファシリテーションの基本スキルを習得する。
準備学習(予習・復習)	
内容	<p>第1回 企業社会で期待される心理学とは? 大学で学ぶ心理学と、社会人が勉強したい心理学とのギャップ。企業が期待する「スキルとしての心理学」を理解しよう。</p> <p>第2回 コーチングの本質である、人の話をよく聴いて、仕事に役立てるスキル。例えば、モノが受ける営業マンになるためのヒヤリングにコーチングを活用する。良い人材を見つけるための採用面接に役立つコーチングを理解しよう。</p> <p>第3回 企業でよく使われている心理学の諸理論のうち、TA理論について理解する。TA理論が、企業での人材育成に使われる理由と、その活用法のポイントを理解する。</p> <p>第4回 TA理論の具体的な理解のため、エゴグラム分析を体験する。エリック・バーンの自我状態分析の考え方と、企業におけるその活用法を理解する。</p> <p>第5回 TA理論のうち、ストローク/ディスカウント分析について学ぶ。企業での一般的なストローク活用法や、ゲーミフィケーションと連動させて全社を活性化させた事例などを理解する。</p> <p>第6回 優良企業では従業員のキャリア開発についても熱心なトレーニングが行われている。代表的な援用理論である、エドガー・社員の自己成長のためのキャリア・アンカー理論について理解する。</p> <p>第7回 企業で行われている人材教育としてのコーチングの位置づけを理解する。なぜ企業がコーチングを必要としているか、他者に語り説得するスキルを習得する。</p> <p>第8回 他者への支援スキルとしてのコーチングにおける、他者理解のためのTA、エゴグラムの活用法を理解する。併せて、学生としてのコーチングの具体的な練習法を理解する。</p> <p>第9回 企業における組織活性化と動機づけ理論の関係を理解する。ハーツバーグの二要因理論と、マズローの五段階説のおさらいを兼ねる。</p> <p>第10回 ファシリテーションおよびチェンジエージェントという考え方を知り、企業における会議やミーティング時のファシリテーションの具体的な活用法を理解する。</p> <p>第11回 企業から期待されるファシリテーションの基本的なスキルと、そのトレーニングの方法を会する。</p> <p>第12回 企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。(1)</p> <p>第13回 企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。(2)</p> <p>第14回 目標管理とリーダーシップ、企業が求める人材へのコンピテンシー概念を理解し、その中でコーチングがどういう役割を果たしているのかを理解する。</p> <p>第15回 自分自身が学んだ心理学やカウンセリングを、自分の人生にどう役立てようとするかを考察する。エドガー・シャインのキャリアアンカーモデルを援用して、受講者自身のキャリアデザインを体験することで、その技法を習得する。</p>

## 履修上の注意点

## 教科書

大学生のためのコーチングとファシリテーションの心理学

著者: 本山雅英

出版社: 北大路書房

出版年: 2014年

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (50%)

授業中課題 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

a90203e750

参加度（50%）

第15回終了時に、レポート課題を課す。50%

---

## 2017 Syllabus

科目名 **メンタルヘルス・マネジメント**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 田中 芳幸・大久保 千恵	

## テーマ

こころもからだもウェルビーイングな生活を維持増進するために重要な諸理論と技法について学ぶ。

## 授業の到達目標

心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割をもつのかを心理学の側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄についての具体的な理解を深める。また、職場におけるメンタルヘルスの重要性について、事例を参照しながら講義する。さらに、人間性のネガティブな側面についてのみではなく、ポジティブな側面についても言及し、それらが心身の健康や疾病に対してどのような関わりをもつのかを考察する。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

ニュースや新聞記事などに目を向け、現代社会でおきているメンタルヘルス関連問題に関心をもっていただきたい。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション メンタルヘルスと心身の健康
- 第2回 心身のストレス反応と健康
- 第3回 ストレス緩和要因としてのコーピングと行動パターン
- 第4回 ストレスに強いパーソナリティ
- 第5回 社会への意識と心身の健康
- 第6回 楽観主義・完璧主義と心身の健康
- 第7回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (1)リラクゼーション
- 第8回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (2)問題解決と時間の節約
- 第9回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (3)認知への働きかけ
- 第10回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (4)自己主張(アサーション)と社会的スキル
- 第11回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (5)セルフ・マネジメント法
- 第12回 ストレス理論とメンタルヘルスマネジメント理論・技法のまとめ
- 第13回 勤労者におけるストレス関連問題 (1)社会における勤労者のメンタルヘルス問題の実態と対処
- 第14回 勤労者におけるストレス関連問題 (2)ハラスメント問題の実態と対処
- 第15回 勤労者におけるストレス関連問題 (3)勤労者への支援

## 履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

## 教科書

ストレス・マネジメント入門 自己診断と対処法を学ぶ 第2版

著者: 中野敬子 著

出版社: (金剛出版)

出版年: 2016

ISBN:

## 参考書

ストレスマネジメントと職場カウンセリング 主要な方法論とアプローチ

著者: 内山喜久雄 監訳

出版社: (川島書店)

出版年: 2002

ISBN:

健康の心理学 心と体の健康のために

著者: 春木豊ほか 著

出版社: (サイエンス社)

出版年: 2007

ISBN:

産業心理臨床入門

著者: CPI研究会

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年: 2006

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 30% )

授業中課題 ( 50% )

参加度 ( 20% )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 発達臨床心理学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 宮井 研治	
テーマ	人間の生にまつわるありとあらゆる事象を扱うことが可能な学問だと考えられるが、ここでは「児童福祉臨床」に関わることを中心に学ぶ。
授業の到達目標	参加する学生のそれぞれの立場に即した目標を獲得できること。たとえば、将来福祉現場を目指す学生には、ガイド的な役割を得られることが目標であろうし、ある学生にとっては将来の自分の子育てに役立てられることが目標になるであろう。
授業の概要	パワーポイントを使った講義を中心に、グループワークやロールプレイを多く取り入れたい。
準備学習(予習・復習)	身近な社会的事象に敏感になっておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人の発達 — いくつかの理論を踏まえて—ピアジェ、エリクソンなど。</p> <p>第3回 家族の成長と変化、そしてシステム — ミニューチン、アドラーなど。</p> <p>第4回 社会的養護 — 家族に代わるものとしての施設、里親の可能性と限界。</p> <p>第5回 人の発達に潜む危機① — 暴力としての児童虐待、DVなど。</p> <p>第6回 人の発達に潜む危機② — 社会の中ではやり言葉としての「発達障害」「愛着障害」などをとりあげる。</p> <p>第7回 人の発達に潜む危機③ — 老いと発達</p> <p>第8回 発達現場として「児童福祉施設」と、それと連携する「児童相談所」の成り立ちについて。</p> <p>第9回 発達臨床を支えるアセスメントの方法のいくつか。</p> <p>第10回 発達臨床に役立つ視点 — メタポジション、システム論など —</p> <p>第11回 人の発達を知るための道具としての「発達検査・知能検査」</p> <p>第12回 発達臨床をコミュニケーションの視点で考え、体験する。</p> <p>第13回 「わたしの育てられ方、家族、私の将来の子育て、あるいは子どもはほらないこと」についてのグループワーク。</p> <p>第14回 発達相談の実際</p> <p>第15回 まとめと確認</p>
履修上の注意点	携帯の取り扱いはずもがな、他の受講生に迷惑をかけない、不快感を与えない。これだけです。
教科書	<p>アセスメントの技とコツ</p> <p>著者： 川畑隆編著</p> <p>出版社： 明石書店</p> <p>出版年： 2015年 ISBN:</p> <p>参考書</p> <p>そだちと臨床vol.1～12</p> <p>著者： そだちと臨床編集委員会編</p> <p>出版社： 明石書店</p> <p>出版年： 2006年～2012年 ISBN:</p>
成績評価	<p>試験・レポート (70%) 小テスト ( )</p> <p>授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 (30%)</p>

## 2017 Syllabus

科目名 医療と生命の倫理

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鶴田 尚美

テーマ

生命倫理学の基本的問題

授業の到達目標

1. 生命倫理の基礎的な知識を習得する。2. 自分自身で倫理的問題について考える力を養う。

授業の概要

教科書は使用しない。毎回レジュメを配布し、それに基づいて授業を行う。

準備学習(予習・復習)

生命倫理に関わる問題はしばしばニュースで報道されるので、日頃からそういった情報をチェックしておくこと。

内 容

第1回 授業の概要説明、生命倫理学の成立

第2回 インフォームド・コンセント

第3回 医療情報

第4回 安楽死(1)

第5回 安楽死(2)

第6回 安楽死(3)

第7回 人工妊娠中絶(1)

第8回 人工妊娠中絶(2)

第9回 人工妊娠中絶(3)

第10回 生殖補助医療(1)

第11回 生殖補助医療(2)

第12回 出生前診断

第13回 脳死と臓器移植(1)

第14回 脳死と臓器移植(2)

第15回 授業のまとめと試験の説明

第16回 試験

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

はじめて学ぶ生命倫理

著者: 小林亜津子

出版社: 筑摩書房

出版年: 2011

ISBN: 978-4480688682

看護のための生命倫理

著者: 小林亜津子

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2010

ISBN: 978-4779504792

成績評価

試験・レポート (100)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

論述式の試験をおこなう。



## 2017 Syllabus

科目名 **ライフサイクル論(健康)**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 菱田 一仁

テーマ

カウンセリングなど、専門的なかわりの中で必要となる、現代のライフサイクルについての基本的な知識を身につける。

授業の到達目標

カウンセリングなどの場面で、実際にクライアントなど会い、専門的なかわりを行う上で必要となるライフサイクルについての知識を身につける。

授業の概要

映像資料なども使いながら、講義形式で行います。

準備学習(予習・復習)

授業内で身につけた知識をもとに、日常的に触れるもの(ドラマや映画など)についても、心理学的な視点で考えてもらえると面白いと思います。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・ライフサイクルとは
- 第2回 ライフサイクルの概観・ライフサイクルの色々
- 第3回 乳児期①
- 第4回 乳児期②
- 第5回 幼児期①
- 第6回 幼児期②
- 第7回 児童期①
- 第8回 児童期②
- 第9回 思春期
- 第10回 青年期
- 第11回 成人期①
- 第12回 成人期②
- 第13回 中年期
- 第14回 老年期
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業にはできる限り積極的に出席するようにしてください。

教科書

参考書

エピソードでつかむ 生涯発達心理学

著者: 岡本祐子 深瀬裕子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2013

ISBN: 9.78462E+12

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 ( )

参加度 (60%)

## 2017 Syllabus

科目名 **精神医学 I**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 川岸 久也	
テーマ	
精神疾患の症状を理解するための各種用語を最初に学び、その上で精神疾患の概要と基本的な対応法について理解する。	
授業の到達目標	
最初に精神医学の歴史と現状の概略について説明し、その後様々な精神疾患について、その成因、診断、治療法について理解する。本人や家族への支援について最新の知見と、当事者の視点も入れながら理解を深める。	
授業の概要	
授業は配布する資料を基に講義形式で進める。前半は、精神医学の歴史ならび用語を症例を通して説明し、後半から代表的な疾患について説明する。授業では、講義毎にレポートを課す。授業中の活発な発言を期待する。	
準備学習(予習・復習)	
授業後、専門用語の理解に努めること。	
内 容	
第1回	オリエンテーション、精神医学、精神医療の歴史
第2回	精神症候学 I (意識、知覚、思考、感情)～症例から学ぶ～
第3回	精神症候学 II (記憶、知能、意欲、自我意識)～症例から学ぶ～
第4回	状態像(神経衰弱状態、幻覚妄想状態、うつ状態、躁状態、緊張病症候群、錯乱状態、器質性症候群)
第5回	精神医学の概念～精神障害の概念と成因・分類について
第6回	診断の手順と方法～精神科医はどう考えるか
第7回	代表的な疾患について1 ～ 症状性を含む器質性精神障害
第8回	代表的な疾患について2 ～ 精神作用物質使用による精神および行動の障害
第9回	代表的な疾患について3 ～ 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害(1)
第10回	代表的な疾患について4 ～ 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害(2)
第11回	代表的な疾患について5～ 気分障害(1) うつ病
第12回	代表的な疾患について6～ 気分障害(2) 双極性障害
第13回	代表的な疾患について7 ～ 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(1)
第14回	精神症状と状態像～当事者の世界を理解する
第15回	心理検査と身体的検査、その利用方法と注意点
履修上の注意点	
授業中の活発な発言を期待する。	
教科書	
参考書	
精神疾患とその治療 第2版	
著者： 日本精神保健福祉士養成校協会	
出版社： 中央法規	
出版年： 2016	ISBN： 4805853123
成績評価	
試験・レポート (50%)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (20%)
参加度 (30%)	

## 2017 Syllabus

科目名 **精神医学Ⅱ**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 川岸 久也	
テーマ	
様々な精神疾患の概要と、基本的な対応法について理解する。	
授業の到達目標	
様々な精神疾患について、その成因、診断、治療法について理解する。治療については、薬物療法や心理的対応だけでなく、チーム医療としての各専門職種役割について学び、現状の精神科医療の中でなされていることを理解する。	
授業の概要	
授業は配布する資料を基に、講義形式を進める。前半は、前期に引き続き代表的な疾患について説明し、その後精神医学を支える社会資源や法律、そして治療法について説明する。授業では、講義毎にレポートを課す。授業中の活発な発言を期待する。期間中1回、精神病院の見学を予定している。	
準備学習(予習・復習)	
授業後、専門用語の理解に努めること。授業では、講義毎にレポートを課す。授業中の活発な発言を期待する。	
内 容	
第1回 代表的な疾患について8	神経症性障害、ストレス関連障害
第2回 代表的な疾患について9	解離性障害、身体表現性障害、パーソナリティ障害
第3回 代表的な疾患について10	パーソナリティ障害、摂食障害
第4回 代表的な疾患について11	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
第5回 代表的な疾患について12	発達障害(総論と知的障害)
第6回 代表的な疾患について13	発達障害(自閉症スペクトラム(1))
第7回 代表的な疾患について14	発達障害(自閉症スペクトラム(2))
第8回 代表的な疾患について15	発達障害(注意欠陥多動性障害)
第9回 代表的な疾患について16	発達障害(学習障害)、小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害
第10回 病院精神医療の実際	歴史と現状、司法精神医学、精神保健福祉法(入院形態、行動制限)、インフォームドコンセント
第11回 精神医療と関連機関との連携	
第12回 精神疾患と死	
第13回 てんかん	
第14回 精神科治療学 薬物療法・精神療法・心理療法	
第15回 病院見学	
履修上の注意点	
授業中の活発な発言を期待する。	
教科書	
参考書	
精神疾患とその治療 第2版	
著者： 日本精神保健福祉士養成校協会	
出版社： 中央法規	
出版年： 2016	ISBN： 4805853123
成績評価	
試験・レポート (50%)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (20%)
参加度 (30%)	

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\* a&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 日比野 英子

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

## 履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*b&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*d&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

## 履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*e&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松下 幸治

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )



## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*f&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中西 龍一

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

## 履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*g&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*h&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 菅 佐和子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*i&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 前田 洋光

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

## 履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*k&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 田中 芳幸

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ(心) &lt;\*I&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習(予習・復習)

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40% )  
 参加度 ( 30% )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30% )

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\* a&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日比野 英子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。



## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\*b&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\*c&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\*d&gt;

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\* e&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松下 幸治

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

## 授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

## 内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

## 履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心)〈\*f〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 龍一

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\*g&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 永野 光朗

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

## 授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

## 内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

## 履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\*h&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 菅 佐和子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\*i&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。



## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\*j&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 前田 洋光

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

## 授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

## 内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

## 履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心) &lt;\*k&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 田中 芳幸

## テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

## 授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

## 授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

## 準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

## 内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

## 履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (卒業論文70%)

小テスト ( )

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ(心)〈\*Ⅰ〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 卒業論文の構成
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導①
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(卒業論文70%)

小テスト( )

授業中課題(10%)

授業中発表等(10%)

参加度(10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命キャリア開発演習Ⅰ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる政治的・法的・社会的な知識と教養の修得

授業の到達目標

主体的な学習姿勢やマナーなどを身につけるとともに、学習の仕方を修得する。また、幅広い知識を身につけるだけでなく、いろいろな社会問題を多面的に見て、関連付けることのできる論理的思考力を養う。

授業の概要

大学で学修するための基本的な態度(主体的な学習姿勢、マナーなど)と学習能力(文献の探し方、読み方、書き方、意見のまとめ方、発表の仕方など)を身につけるとともに、将来救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や社会に関する基礎的な知識を修得する。社会に関する基礎的な知識としては、日本国憲法や戦後の政治・経済の変遷など、現代社会に関する基礎的な知識を演習形式で修得し、あわせて憲法およびその他の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

平日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、毎回出された問題を解く。

内 容

- 第1回 授業を受けるにあたっての注意事項の説明 勉強の仕方の説明
- 第2回 政治 民主政治の思想、議院内閣制と大統領制
- 第3回 行政 行政学の基礎理論、官僚制
- 第4回 法学 比較憲法、民法
- 第5回 憲法の基本原理 国民主権、平和主義、憲法改正
- 第6回 基本的人権 基本的人権の適用範囲・制約、幸福追求権、法の下での平等
- 第7回 国会 国権の最高機関、国会議員、立法府の活動
- 第8回 裁判所 違憲法令審査権、裁判所の組織と権能、裁判官の独立
- 第9回 国際政治 国際連盟と国際連合、国際社会と国際法
- 第10回 ミクロ経済 需要と供給、不完全競争市場、市場の失敗
- 第11回 マクロ経済 経済循環と国民所得、日銀の景気政策
- 第12回 国際経済 国際分業と国際経済、貿易政策
- 第13回 社会保障 日本の社会保障制度史、医療保険制度
- 第14回 現代社会の諸相 女性・家族問題、環境・エネルギー問題
- 第15回 レポートの作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 10 )

三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。ほぼ毎回小テストを実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命キャリア開発演習Ⅰ〈\*B〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる政治的・法的・社会的な知識と教養の修得

授業の到達目標

主体的な学習姿勢やマナーなどを身につけるとともに、学習の仕方を修得する。また、幅広い知識を身につけるだけでなく、いろいろな社会問題を多面的に見て、関連付けることのできる論理的思考力を養う。

授業の概要

大学で学修するための基本的な態度(主体的な学習姿勢、マナーなど)と学習能力(文献の探し方、読み方、書き方、意見のまとめ方、発表の仕方など)を身につけるとともに、将来救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や社会に関する基礎的な知識を修得する。社会に関する基礎的な知識としては、日本国憲法や戦後の政治・経済の変遷など、現代社会に関する基礎的な知識を演習形式で修得し、あわせて憲法およびその他の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

平日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、毎回出された問題を解く。

内 容

- 第1回 授業を受けるにあたっての注意事項の説明 勉強の仕方の説明
- 第2回 政治 民主政治の思想、議院内閣制と大統領制
- 第3回 行政 行政学の基礎理論、官僚制
- 第4回 法学 比較憲法、民法
- 第5回 憲法の基本原理 国民主権、平和主義、憲法改正
- 第6回 基本的人権 基本的人権の適用範囲・制約、幸福追求権、法の下での平等
- 第7回 国会 国権の最高機関、国会議員、立法府の活動
- 第8回 裁判所 違憲法令審査権、裁判所の組織と権能、裁判官の独立
- 第9回 国際政治 国際連盟と国際連合、国際社会と国際法
- 第10回 ミクロ経済 需要と供給、不完全競争市場、市場の失敗
- 第11回 マクロ経済 経済循環と国民所得、日銀の景気政策
- 第12回 国際経済 国際分業と国際経済、貿易政策
- 第13回 社会保障 日本の社会保障制度史、医療保険制度
- 第14回 現代社会の諸相 女性・家族問題、環境・エネルギー問題
- 第15回 レポートの作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 10 )

三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。ほぼ毎回小テストを実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命キャリア開発演習Ⅱ〈\*A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森原 則男

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的思考力を身につける

授業の到達目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的思考を身につけるとともに、公務員試験などをクリアするための基礎的な数学を学習する

授業の概要

基礎的な数学の演習、できる限り学生の活動を入れるつもりである

準備学習(予習・復習)

特になし

内 容

- 第1回 レディネス診断、授業についてのガイダンス、アイスブレイク等
- 第2回 救急救命士として必要な数学を学び直す
- 第3回 数について
- 第4回 量について
- 第5回 整数にまつわるエトセトラ
- 第6回 数と式、方程式にまつわるエトセトラ
- 第7回 速さにまつわるエトセトラ①
- 第8回 速さにまつわるエトセトラ②
- 第9回 濃度にまつわるエトセトラ①
- 第10回 濃度にまつわるエトセトラ②
- 第11回 関数にまつわるエトセトラ
- 第12回 図形にまつわるエトセトラ①
- 第13回 図形にまつわるエトセトラ②
- 第14回 総復習1
- 第15回 総復習2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

授業中課題とはノート提出のこと 小テストは宿題提出で代用することもある

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命キャリア開発演習Ⅱ〈\*B〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森原 則男

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的思考力を身につける

授業の到達目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的思考を身につけるとともに、公務員試験などをクリアーするための基礎的な数学を学習する

授業の概要

基礎的な数学の演習、できる限り学生の活動を入れるつもりである

準備学習(予習・復習)

特になし

内 容

- 第1回 レディネス診断、授業についてのガイダンス、アイスブレイク等
- 第2回 救急救命士として必要な数学を学び直す
- 第3回 数について
- 第4回 量について
- 第5回 整数にまつわるエトセトラ
- 第6回 数と式、方程式にまつわるエトセトラ
- 第7回 速さにまつわるエトセトラ①
- 第8回 速さにまつわるエトセトラ②
- 第9回 濃度にまつわるエトセトラ①
- 第10回 濃度にまつわるエトセトラ②
- 第11回 関数にまつわるエトセトラ
- 第12回 図形にまつわるエトセトラ①
- 第13回 図形にまつわるエトセトラ②
- 第14回 総復習1
- 第15回 総復習2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

授業中課題とはノート提出のこと 小テストは宿題提出で代用することもある

## 2017 Syllabus

科目名 **基礎解剖学**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西本 泰久

テーマ

授業の到達目標

正常な人体の形態と構造について学ぶ

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 概論
- 第2回 細胞・組織
- 第3回 骨格系
- 第4回 筋系
- 第5回 神経系
- 第6回 神経系(自律神経、伝導路)、感覚系
- 第7回 循環器系
- 第8回 血液、脈管系
- 第9回 呼吸器系
- 第10回 消化器系 I
- 第11回 消化器系 II
- 第12回 内分泌系
- 第13回 泌尿器系
- 第14回 生殖器系
- 第15回 発生

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 生理学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西本 泰久・藤野 和典

テーマ

授業の到達目標

基礎生理学・病態生理学

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回	生体システムⅠ	生体の構成、細胞の構造、体液の組成
第2回	生体システムⅡ	生体維持機能
第3回	神経系の機能Ⅰ	中枢神経系
第4回	神経系の機能Ⅱ	末梢神経系、運動、知覚
第5回	神経系の機能Ⅲ	自律神経系、感覚系
第6回	呼吸系の機能Ⅰ	気道、胸郭
第7回	呼吸系の機能Ⅱ	肺、酸・塩基平衡
第8回	循環器系の機能Ⅰ	循環システム
第9回	循環器系の機能Ⅱ	心臓
第10回	血液の機能Ⅰ	血球成分と血漿成分
第11回	血液の機能Ⅱ	止血線溶機能と凝固因子
第12回	消化系機能Ⅰ	消化管機能
第13回	消化系機能Ⅱ	肝・胆・膵機能
第14回	その他	泌尿器系、生殖系、内分泌系、免疫機能
第15回	まとめ	

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 病理学(救急)

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 川上 ゆかり

テーマ

授業の到達目標

身体的変化、組織学的変化から病気の原因、発症のメカニズムを知る。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 概論
- 第2回 先天異常と遺伝子異常
- 第3回 老化と死、細胞・組織の障害
- 第4回 代謝障害
- 第5回 循環障害
- 第6回 炎症、発熱
- 第7回 腫瘍
- 第8回 感染症
- 第9回 免疫
- 第10回 循環器系、血液、造血系
- 第11回 呼吸器系
- 第12回 消化器系
- 第13回 泌尿器系、生殖器系
- 第14回 脳・神経系・内分泌系
- 第15回 筋、骨・関節、感覚器系、熱傷

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座「病理学」

著者:

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (100)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

合否判定時、小テスト結果加味。

## 2017 Syllabus

科目名 生化学・微生物学

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鈴木 陽一

テーマ

生化学・微生物学

授業の到達目標

生命現象を分子から解明する。

授業の概要

生命現象を分子から解明する

準備学習(予習・復習)

講師指示テキスト及び救急救命士標準テキスト

内 容

- 第1回 生化学序論
- 第2回 生体のエネルギー代謝
- 第3回 糖質
- 第4回 脂質
- 第5回 タンパク質とアミノ酸
- 第6回 酵素・ホルモン・ビタミン
- 第7回 微生物序論
- 第8回 細菌の分類について
- 第9回 主なウイルスについて
- 第10回 感染症について
- 第11回 免疫学(その1)
- 第12回 免疫学(その2)
- 第13回 免疫学(その3)
- 第14回 生化学・微生物学・免疫学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

受講のマナー:学外の医師の講義である。実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。講師に対して失礼のない授業態度を期待する。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (100)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

出席100%で試験の受講が可能

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急医学総論 I (救急救命士の使命)

クラス	配当回生 学部1回生
-----	------------

講義期間 前期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 夏目 美樹
-----------

## テーマ

救急救命士の使命・基礎知識と代表的応急処置

## 授業の到達目標

救急救命士の使命, 救急医療体制の理解

## 授業の概要

救急救命士の業務遂行には、その社会的使命の理解や救急医療制度の理解、そして救急医学を中心とした医学全般の知識が必要となる。本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の体、心、くらしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置としての心肺蘇生法までを習得し、一連の講義を通して、職業としての救急救命士の具体的なイメージを持てるようにする。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション、医の倫理と生命論理
- 第2回 救急業務とは・救急業務の沿革
- 第3回 心肺蘇生法・病院前救護
- 第4回 科学的思考の基礎・人間と人間生活
- 第5回 救急救命士の役割と責任
- 第6回 救急医療体制とは
- 第7回 救急医療システムとは
- 第8回 メディカルコントロールとは
- 第9回 救急救命士に関する法規
- 第10回 救急活動要領について
- 第11回 救急活動要領について
- 第12回 死者の対応要領について
- 第13回 医療保険等について
- 第14回 消防救急の現状について
- 第15回 総括

## 履修上の注意点

第1回目の講義時にガイダンスを実施するので注意事項を遵守すること。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (100)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

受講態度が不良のもの、休みの回数が一定以上のものは成績評価を行わない。

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急医学総論Ⅱ(救急医療体制①)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 夏目 美樹	

## テーマ

プレホスピタルケアと救急救命

## 授業の到達目標

救急医療においては、医療機関での受診を待たず、少しでも発症時にさかのぼって医療が開始されなければならない。また救急現場での観察・応急処置と病院内での診断治療が、一貫して傷病者に提供される救急医療体制をつくる必要がある。このようなプレホスピタルケアの中心的な担い手である消防隊員としての救急救命士の役割と責務について学習する。さらに病院前救護の質を管理する事後検証についても理解を深める。また通常の救急医療体制での対応が困難となる災害発生時の、組織的な救命救急医療についても学習する。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 救急医療体制とは
- 第2回 人工呼吸と気道確保資機材
- 第3回 外傷処置
- 第4回 特定行為とは
- 第5回 大規模災害とは・トリアージとは
- 第6回 現場救護所の運営方法について
- 第7回 NBC災害とは・NBC災害対応要領について
- 第8回 国内の災害事例について
- 第9回 国外の災害事例について
- 第10回 ストレスマネジメント
- 第11回 救急活動事例と医事紛争
- 第12回 法医学総論・死体現象について
- 第13回 命を守る仕事
- 第14回 まとめ
- 第15回 総括

## 履修上の注意点

第1回目の講義時にガイダンスを実施するので注意事項を遵守すること。

## 教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( 100 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

受講態度が不良のもの、休みの回数が一定以上のものは成績評価を行わない。

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急救命実習Ⅰ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 関根 和弘、北小屋 裕、千田 いずみ、深澤 雄二、福岡 範恭	
テーマ 救急活動の基礎を学ぶ	
授業の到達目標 救急活動の基礎を学ぶ	
授業の概要 尊い人命を救助するための知識や技術を日常生活において実践して、自他の生命を尊重し、安全で健康な生活を営めるようにする。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなボランティアの精神を育てるとともに、医療人である救急救命士としての自覚を養う。一次救急処置の理論と基本的実技および、観察用資機材を用いた救急救命処置等の理論・技術について具体的な実習を通じて習得する。また、救急医療を担う医療施設および消防施設等の実地見学により救急救命の最前線の活動をイメージする。そのために通年講義実習のほか、夏期および春期学休期等に学外実習を実施する。	
準備学習(予習・復習) 翌週に実施する項目の課題(300文字～500文字にまとめる)を与える。その項目のテキストを熟読及びまとめること。その日の項目の実技が習得できない場合は、翌週の授業までに各班で全員が個人練習を実施すること。	
内 容	
第1回 第1回～3回 オリエンテーション、各個訓練(訓練礼式)	
第2回 第4回～6回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法、成人)、1人法、AED取扱い	
第3回 第7回～9回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法、成人・小児・乳児) 1人法・2人法、AED取り扱い、ポケットマスク使用法	
第4回 第10回～12回 一次救命処置(救急隊活動)、BVM(バックバルブマスク)の使用法	
第5回 第13回～15回 一次救命処置(救急隊活動)、気道閉塞の対応	
第6回 第16回～18回 器具を使用した人工呼吸(経鼻エア－ウエイ、経口エア－ウエイ)、酸素投与法	
第7回 第19回～21回 救急隊員が行う一次救命処置・救急隊活動	
第8回 第22回～24回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法)の効果測定	
第9回 第25回～27回 三角巾法・止血法・副子固定、徒手搬送法	
第10回 第28回～30回 三角巾法・止血法・副子固定、徒手搬送法	
第11回 第31回～33回 傷病者観察資機材の取扱い方法(聴診器、検眼灯、血圧計等)	
第12回 第34回～36回 搬送資機材の取扱い(メインストレッチャー、スクープストレッチャー、エアーストレッチャー)	
第13回 第37回～39回 外傷処置の固定 基本手技(JPTEC準拠)	
第14回 第40回～42回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠)	
第15回 第43回～45回 前期まとめ、水難実習におけるロープワーク	
第16回 第46回～49回 消防学校見学(学外) * 授業期間外	
第17回 第50回～52回 傷病者観察の基本1(外傷初療・JPTEC準拠の基本活動) 基本手技の徹底(ログロール、BB固定、ストレッチャーへの積載方法)	
第18回 第53回～55回 傷病者観察の基本1(外傷初療・JPTEC準拠の基本活動) ①緊急処置 ②ヘルメット離脱方法 ③立位BB、Fire-man Lift、Frat Lift ④KED	
第19回 第56回～58回 傷病者観察器具(心電図の基本を学ぶ) 心電図機器(除細動器)の使用法、各人への取り付け方法、心肺停止傷病者の心電図波形	
第20回 第59回～61回 傷病者観察器具(喉頭鏡、喉頭展開、異物除去) ダミーを用いた喉頭鏡の使用法、基本的手技	
第21回 第62回～64回 傷病者観察器具(喉頭鏡、喉頭展開、異物除去) 喉頭鏡使用による異物除去、吸引、BVM、酸素投与等の隊活動準拠	
第22回 第65回～67回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) 状況評価と初期評価 通信指令室からの情報聴取と確認	
第23回 第68回～70回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) 車内活動要領と病院報告 GUNBAやMISTの取得方法と報告要領	
第24回 第71回～73回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) シナリオにそった隊活動	
第25回 第74回～76回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) シナリオにそった隊活動	
第26回 第77回～79回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) まとめ	
第27回 第80回～82回 傷病者観察の基本2(内因性疾患傷病者への対応) 医療面接とコミュニケーション	
第28回 第83回～85回 傷病者観察の基本2(内因性疾患傷病者への対応) 状況評価から初期評価、重点観察	
第29回 第86回～88回 傷病者観察の基本2(内因性疾患傷病者への対応) 内因性疾患傷病者への隊活動(CPAでない傷病者対応、急変あり)	
第30回 第89回～91回 傷病者観察の基本2(内因性疾患傷病者への対応) 内因性疾患傷病者への隊活動 シナリオ開示訓練(CPAでない傷病者対応、急変あり) 第92回～110回 介護高齢者とコミュニケーション(学外) * 平常授業日外 第111回～113回 後期まとめ・総括 実技と講義の効果測定	

## 履修上の注意点

履修態度・頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。無断欠席は認めない。

## 教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者： 救急隊員用教本作成委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

改定2版JPTECガイドブック

著者： 一般社団法人JPTEC協議会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

参考書

---

成績評価

試験・レポート（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

成績評価は知識に関する試験に加え、実技試験を実施する。なお、試験の受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命実習(水難) &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 関根 和弘・福岡 範恭

テーマ

水難救助実習

授業の到達目標

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使つての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

準備学習(予習・復習)

講義と実習、特に実習は課題が習得できなければ次に進めない。

内 容

- 第1回 座学
- 第2回 実習1日目(プール)
- 第3回 実習2日目(プール)
- 第4回 実習3日目(プール)
- 第5回 筆記試験

履修上の注意点

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル

著者： 国士舘大学ウエルネス・リサーチセンター

出版社：

出版年：

ISBN：

改定第2版JPTECガイドブック

著者： 一般社団法人JPTEC協議会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )



## 2017 Syllabus

科目名 救急救命実習(水難) &lt;b&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 喜熨斗 智也

テーマ

水難救助実習

授業の到達目標

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使つての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

準備学習(予習・復習)

講義と実習、特に実習は課題が習得できなければ次に進めない。

内 容

- 第1回 座学
- 第2回 実習1日目(プール)
- 第3回 実習2日目(プール)
- 第4回 実習3日目(プール)
- 第5回 筆記試験

履修上の注意点

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル

著者： 国士舘大学ウエルネス・リサーチセンター

出版社：

出版年： ISBN：

改定第2版JPTECガイドブック

著者： 一般社団法人JPTEC協議会

出版社： へるす出版

出版年： 2015 ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命キャリア開発演習Ⅲ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 森原 則男

テーマ

数学における問題解決に挑戦します。救急救命士を目指すものに必要な数学的思考力・判断力を身につけます。

授業の到達目標

救急救命士を目指すものに必要な数学的思考力・判断力を身につけるとともに、公務員試験などをクリアーするための数学を学習する。

授業の概要

問題の解答を説明するのではなく、各時間のテーマに関する問題をグループ毎に考えてもらいます

準備学習(予習・復習)

特になし

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 数列・規則性の問題に挑戦
- 第3回 場合の数・順列・組合せの問題に挑戦
- 第4回 確率の問題に挑戦
- 第5回 判断推理①「嘘つき問題」に挑戦
- 第6回 判断推理②対応関係の問題に挑戦
- 第7回 判断推理③順序関係の問題に挑戦
- 第8回 判断推理④位置関係の問題に挑戦
- 第9回 判断推理⑤試合の勝敗問題に挑戦
- 第10回 判断推理⑥数量推理の問題に挑戦
- 第11回 図形問題①展開図の問題に挑戦
- 第12回 図形問題②軌跡の問題に挑戦
- 第13回 図形問題③分割・構成問題に挑戦
- 第14回 まとめと振り返り①
- 第15回 まとめと振り返り②

履修上の注意点

出席することが基本です。グループ学習ですので、協力し合って問題解決に挑戦してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命キャリア開発演習Ⅲ〈\*B〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 森原 則男

テーマ

数学における問題解決に挑戦します。救急救命士を目指すものに必要な数学的思考力・判断力を身につけます。

授業の到達目標

救命士を目指すものに必要な数学的思考力・判断力を身につけるとともに、公務員試験などをクリアするための数学を学習します。

授業の概要

問題の解答を説明するのではなく、各時間のテーマに関する問題をグループ毎に考えてもらいます。

準備学習(予習・復習)

特になし

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 数列・規則性の問題に挑戦
- 第3回 場合の数・順列・組合せの問題に挑戦
- 第4回 確率の問題に挑戦
- 第5回 判断推理①「嘘つき問題」に挑戦
- 第6回 判断推理②対応関係の問題に挑戦
- 第7回 判断推理③順序関係の問題に挑戦
- 第8回 判断推理④位置関係の問題に挑戦
- 第9回 判断推理⑤試合の勝敗の問題に挑戦
- 第10回 判断推理⑥数量推理の問題に挑戦
- 第11回 図形問題①展開図の問題に挑戦
- 第12回 図形問題②軌跡の問題に挑戦
- 第13回 図形問題③平面図形の分割・構成問題に挑戦
- 第14回 まとめと振り返り①
- 第15回 まとめと振り返り②

履修上の注意点

出席することが基本です。グループ学習ですので、協力し合って問題解決に挑戦してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(60)

小テスト(10)

授業中課題(10)

授業中発表等(10)

参加度(10)

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命キャリア開発演習Ⅳ〈\*A〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる幅広い知識を深め、教養を高める

授業の到達目標

救急救命士として活躍するために必要とされる幅広い知識と深い教養を修得しながら、いろいろなテーマについて論理的に考える能力を高め、文章や言葉で表現する能力を発展させる。

授業の概要

救急救命キャリア開発演習Ⅲに引き続き、救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力を発展させる。この授業では、現代の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などに関する知識をさらに深めるとともに、学習した内容から関心のあるテーマを自らの発表テーマとして決め、情報収集し、意見をまとめてプレゼンテーションを行う。また、学習内容を小論文としてまとめる。

準備学習(予習・復習)

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、発表・小論文のテーマについて自分で調べる。

内 容

- 第1回 政治 選挙制度、政党と政党政治
- 第2回 行政 地方自治、住民の権利、公務員制度
- 第3回 法学 罪刑法定主義、最近の法律の制定と改正
- 第4回 基本的人権 精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権、社会権、国務請求権
- 第5回 国会 国会の権限、衆議院の解散
- 第6回 内閣 内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
- 第7回 経済 金融政策、信用創造、為替相場と円高・円安
- 第8回 財政 財政の役割、財政政策、租税制度
- 第9回 経済事情 日本の経済事情、世界の経済事情、地域的経済統合
- 第10回 労働問題 雇用・失業対策
- 第11回 社会保障 少子・高齢化問題
- 第12回 現代社会の諸相 農業・食料問題、消費者問題
- 第13回 テーマの決定と発表(1)
- 第14回 テーマの決定と発表(2)
- 第15回 小論文の作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。12回の授業まではほぼ毎回小テストを実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命キャリア開発演習Ⅳ〈\*B〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる幅広い知識を深め、教養を高める

授業の到達目標

救急救命士として活躍するために必要とされる幅広い知識と深い教養を修得しながら、いろいろなテーマについて論理的に考える能力を高め、文章や言葉で表現する能力を発展させる。

授業の概要

救急救命キャリア開発演習Ⅲに引き続き、救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力を発展させる。この授業では、現代の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などに関する知識をさらに深めるとともに、学習した内容から関心のあるテーマを自らの発表テーマとして決め、情報収集し、意見をまとめてプレゼンテーションを行う。また、学習内容を小論文としてまとめる。

準備学習(予習・復習)

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、発表・小論文のテーマについて自分で調べる。

内 容

- 第1回 政治 選挙制度、政党と政党政治
- 第2回 行政 地方自治、住民の権利、公務員制度
- 第3回 法学 罪刑法定主義、最近の法律の制定と改正
- 第4回 基本的人権 精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権、社会権、国務請求権
- 第5回 国会 国会の権限、衆議院の解散
- 第6回 内閣 内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
- 第7回 経済 金融政策、信用創造、為替相場と円高・円安
- 第8回 財政 財政の役割、財政政策、租税制度
- 第9回 経済事情 日本の経済事情、世界の経済事情、地域的経済統合
- 第10回 労働問題 雇用・失業対策
- 第11回 社会保障 少子・高齢化問題
- 第12回 現代社会の諸相 農業・食料問題、消費者問題
- 第13回 テーマの決定と発表(1)
- 第14回 テーマの決定と発表(2)
- 第15回 小論文の作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。12回の授業まではほぼ毎回小テストを実施する。

## 2017 Syllabus

科目名 公衆衛生

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 公一・河野 令

テーマ

公衆衛生

授業の到達目標

社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解し、個体および集団をとりまく環境諸要因や地域社会における個人と集団の特性を予防医学的視点から修得する。

授業の概要

公衆衛生に関すること全般

準備学習(予習・復習)

指示テキスト及び救急救命士標準テキスト

内 容

- 第1回 公衆衛生総論
- 第2回 環境保健
- 第3回 産業保健
- 第4回 国際保健
- 第5回 感染症
- 第6回 食品保健・栄養
- 第7回 疫学
- 第8回 学校保健
- 第9回 人口・保健統計
- 第10回 老人保健
- 第11回 成人保健
- 第12回 地域保健
- 第13回 母子保健
- 第14回 口腔保健
- 第15回 精神保健
- 第16回 テスト

履修上の注意点

受講のマナー:学外の医師の講義である。実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。講師に対して失礼のない授業態度を期待する。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

医療・福祉系学生のための専門基礎科目 改訂2版

著者: 編集代表 河野 公一

出版社: 株式会社金芳堂

出版年: 2013

ISBN: 9.78477E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (100)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

成績評価は出席点・テスト100%とする。

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急疾病 I (呼吸器・循環器系総論)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小尾口 邦彦・福井 道彦	
テーマ	
呼吸器系・循環器系・神経系の解剖生理を学び、関連する疾病の理解と観察につなげる。	
授業の到達目標	
呼吸器系(総論)・循環器系(総論)・神経系の疾病の理解	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 呼吸器①解剖と生理1	
第2回 呼吸器②解剖と生理2	
第3回 呼吸器③呼吸器疾患の病態生理	
第4回 呼吸器④疾患の診断、問診・症状・理学所見、検査、喀血、呼吸困難、胸痛など	
第5回 循環器①解剖と生理1	
第6回 循環器②解剖と生理2	
第7回 循環器③病態生理、循環電気生理	
第8回 循環器④病態生理疾患の診断、問診・症状・理学所見、胸痛、呼吸困難、動機・不整脈、発熱	
第9回 神経系①解剖・生理1、脳神経	
第10回 神経系②解剖生理2、脊髄・末梢神経	
第11回 神経系③主要な神経症候、神経感染症、脳血管障害、脊髄疾患感覚系疾患、その他神経疾患	
第12回 神経系④脳血管障害、神経外傷学	
第13回 高齢者に特有の疾患① 原因と病態	
第14回 高齢者に特有の疾患② 高齢者をめぐる社会状況、観察・判断、処置・搬送	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
改訂第9版 救急救命士標準テキスト 上巻	
著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会	
出版社： 株式会社 へるす出版	
出版年： 2015	ISBN:
改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻	
著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会	
出版社： 株式会社 へるす出版	
出版年： 2015	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 50 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急疾病Ⅱ(呼吸器・循環器系各論)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 富士原 彰・大石 泰男・筈井 寛	
テーマ 循環器、呼吸器、消化器系の理解	
授業の到達目標 循環器系・呼吸器系・消化器系の疾病の理解	
授業の概要 循環器系・呼吸器系の救急疾病について主な疾患を取り上げてその特徴と応急処置などを詳しく学ぶ。循環器系は心不全、虚血性疾患、不整脈、先天性心疾患、心筋疾患など、呼吸器は呼吸不全、呼吸器感染症、気管支喘息、肺炎、肺血管疾患その他の疾患の病態、診断、処置などを習得する。また消化器系の疾患の病態についても理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 循環器系疾患各論①基本的な病態及び診断・検査方法、治療に用いる薬剤 第2回 循環器系疾患各論②心不全、虚血性心疾患 第3回 循環器系疾患各論③虚血性心疾患の救急医療 高血圧 第4回 循環器系疾患各論④不整脈 第5回 循環器系疾患各論⑤先天性心疾患、心臓弁膜症 第6回 循環器系疾患各論⑥心筋疾患、血管系疾患(動脈、静脈) 第7回 呼吸器系疾患各論①呼吸器感染症 第8回 呼吸器系疾患各論②気管支喘息とCOPD、肺腫瘍 第9回 呼吸器系疾患各論③間質性肺炎と周辺疾患、呼吸不全 第10回 呼吸器系疾患各論④肺血管疾患、胸膜・横隔疾患、その他の呼吸器疾患 第11回 消化器系疾患各論①食道・胃・十二指腸疾患 第12回 消化器系疾患各論②肝炎・肝硬変、肝腫瘍、胆石症 第13回 消化器系疾患各論③大腸・小腸疾患 第14回 消化器系疾患各論④腫瘍、腹痛、吐血・下血 第15回 消化器系疾患各論⑤腸閉塞・ヘルニア他	
履修上の注意点 受講のマナー:学外の医師の講義である。実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。講師に対して失礼のない授業態度を期待する。無断欠席は試験の受講を認めない。	
教科書 救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上下巻 著者: 出版社:へるす出版 出版年:2015 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート(20) 小テスト(30) 授業中課題(20) 授業中発表等(30) 参加度(0)	



## 2017 Syllabus

## 科目名 救急の検査

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 西本 泰久・竹下 仁	
テーマ	
授業の到達目標 救急疾患と臨床検査の関係を理解する。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 検査総論	
第2回 血液の基礎	
第3回 出血／失血性ショックと検査	
第4回 凝固異常(血栓・塞栓)と検査	
第5回 肺動脈塞栓症と検査	
第6回 黄疸と検査	
第7回 血液ガス分析検査(基礎)	
第8回 血液ガス分析検査(代謝性異常)	
第9回 血液ガス分析検査(呼吸性異常)	
第10回 糖尿病と検査	
第11回 胸部痛救急の検査	
第12回 心電図検査(基礎)	
第13回 心電図検査(心筋梗塞と不整脈)	
第14回 腹痛救急と検査	
第15回 まとめ(超音波・X線撮影・CT・MRI・内視鏡)	
第16回 試験	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
救急救命士標準テキスト	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急症候学 I (外傷①)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 久保山 一敏	
テーマ 外傷総論	
授業の到達目標 外傷総論を理解する	
授業の概要 救急外傷学の総論を学ぶ。外傷とは機械的外力により身体が形態的、機能的に障害を被ることであり、その種類や緊急度・重症度により適切な処置が異なる。そのためには外傷の原因・メカニズムや病態を理解しておく必要があり、多発外傷や特殊な傷病者に対する理解も必要となる。その上で、観察と応急処置などを習得する。	
準備学習(予習・復習) 標準テキストの予習・復習を各30分程度行う。	
内 容 第1回 外傷総論 外傷の定義と種類、疫学 第2回 出血と止血機構、創傷と感染 出血の種類と病態生理、創傷の治療機転 第3回 受傷機転、損傷の特徴 外傷別発生機序とそれらの特徴 第4回 多発外傷の病態と観察・処置 第5回 妊婦・小児・高齢者の外傷 特徴と観察・処置 第6回 外傷性ショックについて 原因と分類 第7回 ショックの病態生理 生体反応と重症度 第8回 観察と判断 第9回 重症度評価 状況評価と重症度評価のポイント 第10回 応急処置と搬送① 初期評価と応急処置 第11回 応急処置と搬送② 搬送時の注意点 第12回 外傷とトリアージ 第13回 多数傷病者対応 第14回 実例紹介 第15回 まとめ	
履修上の注意点 欠席・授業中のマナーは最終成績に反映させる。また「死」「感染症」の章も取り扱う。	
教科書 救急救命士標準テキスト 改訂第9版 第1巻～第5巻 著者： 出版社：へるす出版 出版年：2015 ISBN：	
参考書 改訂第2版JPTECガイドブック 著者： 出版社：へるす出版 出版年：2016 ISBN：	
成績評価 試験・レポート (50%) 小テスト (35%) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (15%) 小テストは、授業の進捗状況によって事前アナウンスのうえ適宜実施する。	

## 2017 Syllabus

科目名 救急医学総論Ⅲ(在宅医療)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宮本 尚.河原 宣子.千田 いずみ

テーマ

授業の到達目標

局所所見観察と在宅処置、看護、リスクマネジメントなどが理解できる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 生命倫理とは
- 第2回 安全管理とリスクマネジメント①
- 第3回 安全管理とリスクマネジメント②
- 第4回 観察(局所)①
- 第5回 観察(局所)②
- 第6回 観察(局所)③
- 第7回 接遇演習①
- 第8回 接遇演習②
- 第9回 感染症とは
- 第10回 消毒と滅菌について、清潔操作
- 第11回 看護について①
- 第12回 看護について②
- 第13回 在宅療養者に対する処置①
- 第14回 在宅療養者に対する処置②
- 第15回 在宅療養者に対する処置③/まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+11

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

受講態度が不良のもの、欠席回数が一定以上のものは成績評価を行わない。

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急医学総論Ⅳ(救急医療体制②)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 関根 和弘

## テーマ

救急現場活動に必要な知識と技術・コミュニケーション力

## 授業の到達目標

救急現場活動に必要なコミュニケーションスキル、救急隊等の編成や関連する法律・公務災害等についての理解

## 授業の概要

救急現場活動を行うために必要なコミュニケーションスキル、救急隊の編成、救急自動車装備、通信体制、搬送法や救急活動に関連する法律や公務災害・参事ストレスについて理解する。講義と実習の組み合わせで実施する。実習は、小グループでの班編成としてグループワークを実施する。グループ毎に発表をする。

## 準備学習(予習・復習)

前半は、改訂8版救急救命士標準テキスト第2版を使用する。中盤は資料を作成したものを前週に配布し、翌週に演習を行う。配布した資料を熟読しておくこと。

## 内 容

- 第1回 救急活動の概論(DVD閲覧における救急体制の理解、ディスカッション)
- 第2回 救急現場活動(救急医療システム、救急搬送システム、救急情報システム、概論)
- 第3回 救急現場活動(周産期医療、医療計画と救急救護体制、救急医療情報システム、各論)
- 第4回 救急現場活動(病院前救護体制、救急活動の基本)
- 第5回 救急現場活動(救急の無線交信と出場)
- 第6回 救急現場のコミュニケーションスキル(コミュニケーションスキルの概論)講義と実習
- 第7回 救急現場のコミュニケーションスキル(消防・救急における情報の伝達)講義と実習
- 第8回 救急現場のコミュニケーションスキル(医療面接)講義と実習
- 第9回 救急現場のコミュニケーションスキル(医療面接と情報伝達)講義と実習
- 第10回 救急行政と救急関連法規(メディカルコントロールと事後検証制度)
- 第11回 救急活動と法律問題(医療業務に係る体系、救急救命士の名称独占と業務独占について)
- 第12回 惨事ストレスマネージメント(救助救急隊員のための惨事ストレス対策)
- 第13回 救急現場等の安全管理(危険予知訓練:KYT)講義と実習
- 第14回 海外の病院前救護体制(米国・英国や仏国等と日本の病院前救護体制の違い)
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。

## 教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者: 救急隊員用教本作成委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2007

ISBN: 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN: 9.78489E+12

交通救助のテクニック

著者: 関根 和弘

出版社: イカロス出版

出版年: 2011

ISBN: 9.78486E+12

参考書

救急活動コミュニケーションスキル

著者： 坂本哲也/畑中哲生/松本尚

出版社： (株)メディカルサンエンス

出版年： 2009

ISBN： 9.7849E+12

惨事ストレスへのケア

著者： 松井 豊

出版社： (株)おうふう

出版年： 2009

ISBN： 9.78427E+12

はじめての医療面接

著者： 齊藤清二

出版社： 医学書院

出版年： 2000

ISBN： 4260138677

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

60%以上

---

## 2017 Syllabus

科目名 救急症候学Ⅱ(外傷②)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 久保山 一敏

テーマ

外傷各論、熱傷・化学損傷・電撃傷・雷撃傷・縊頸・絞頸・刺咬症

授業の到達目標

各部位の外傷、熱傷等の外因性損傷について理解する

授業の概要

救急外傷学の各論、および熱傷等の外因性損傷を学ぶ。外傷は受傷部位によってさまざまな特徴があり、各外因性損傷もそれぞれが顕著な特徴を持つ。それらを理解した上で初めて緊急度・重症度の判定が可能になり、適切な処置や現場活動が判断できる。これら救急救命士として欠かせない知識を習得する。

準備学習(予習・復習)

標準テキストの復習を30～60分行う

内 容

- 第1回 頭部外傷Ⅰ
- 第2回 " Ⅱ
- 第3回 顔面・頸部外傷Ⅰ
- 第4回 " Ⅱ
- 第5回 胸部外傷Ⅰ
- 第6回 " Ⅱ
- 第7回 腹部外傷Ⅰ
- 第8回 " Ⅱ
- 第9回 熱傷Ⅰ
- 第10回 " Ⅱ
- 第11回 化学損傷
- 第12回 電撃傷・雷撃傷
- 第13回 縊頸・絞頸
- 第14回 刺咬症(傷)
- 第15回 まとめ、テスト

履修上の注意点

欠席、授業中のマナーは最終成績に反映させる

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第9版

著者:

出版社: へるす出版

出版年: 2015

ISBN:

参考書

JPTECガイドブック 改訂第2版

著者:

出版社: へるす出版

出版年: 2016

ISBN:

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト (35%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (15%)

小テストは授業の進捗状況によって、事前アナウンスのうえ適宜行う

## 2017 Syllabus

科目名 **環境障害**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保山 一敏

テーマ

急性中毒学・環境障害

授業の到達目標

急性中毒学・熱中症や放射線障害などの環境障害を理解する。

授業の概要

標準テキストを中心に講義し、適宜参考資料を提示する。

準備学習(予習・復習)

標準テキストの復習を30～60分行うこと。

内 容

第1回 中毒総論

第2回 中毒各論 I

第3回 中毒各論 II

第4回 異物・溺水

第5回 熱中症・偶発性低体温症

第6回 放射線障害

第7回 その他の環境障害

第8回 まとめ・試験

履修上の注意点

欠席、授業中のマナーは最終成績に反映させる。

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト

著者:

出版社: へるす出版

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (60%)

小テスト (30%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (10%)

小テストは授業の進捗状況に従い、事前アナウンスの上適宜実施する。

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急救命実習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 関根 和弘.北小屋 裕.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭	
テーマ	
救急隊活動と救急救命士の基本手技・知識を学ぶ	
授業の到達目標	
救急隊活動と救急救命士の救急救命処置の基本を習得する	
授業の概要	
救急救命士として職務遂行にあたり1回生で修得した基本行動要領を基礎とした救急救命行為を用いた救急隊活動を行うために必要な基本処置および技術を理解し、習得することを目標とする。そのために通年講義実習のほか、夏期および春期学休期等に学外・学内実習を実施する。	
準備学習(予習・復習)	
救急救命標準テキストに準ずる	
内 容	
第1回 第1回～3回 ガイダンス、基本CPA対応活動	
第2回 第4回～6回 基本CPA対応活動	
第3回 第7回～9回 基本CPA対応活動	
第4回 第8回～12回 基本外傷処置	
第5回 第13回～15回 基本外傷処置	
第6回 第16回～18回 外傷処置総合	
第7回 第19回～21回 傷病者観察	
第8回 第22回～24回 傷病者観察	
第9回 第25回～27回 傷病者観察	
第10回 第28回～30回 傷病者観察	
第11回 第31回～33回 外傷シナリオ想定	
第12回 第34回～36回 外傷シナリオ想定	
第13回 第37回～39回 CPAシナリオ想定	
第14回 第40回～42回 CPAシナリオ想定	
第15回 第43回～45回 前期まとめ	
第16回 第46回～49回 総合演習、傷病者理解 * 授業期間外	
第17回 第50回～52回 集団災害、トリアージ	
第18回 第53回～55回 静脈ライン、静脈路確保準備	
第19回 第56回～58回 静脈路確保基本手技	
第20回 第59回～61回 静脈路確保基本手技	
第21回 第62回～64回 静脈路確保基本手技	
第22回 第65回～67回 静脈路確保基本手技	
第23回 第68回～70回 器具を使用した気道確保	
第24回 第71回～73回 器具を使用した気道確保	
第25回 第74回～76回 気管挿管基本手技	
第26回 第77回～79回 気管挿管基本手技	
第27回 第80回～82回 気管挿管基本手技	
第28回 第83回～85回 気管挿管基本手技	
第29回 第86回～88回 気管挿管基本手技	
第30回 第89回～91回 後期まとめ 第92回～110回 介護高齢者とコミュニケーション(学外) * 平常授業日外 第111回～113回 総括	

## 履修上の注意点

欠席は認めない。教員の指示指導に従えない場合は単位を取り消す場合がある。

## 教科書

JPTECガイドブック

著者： 一般社団法人JPTEC協議会

出版社： へるす出版

出版年： 2010

ISBN： 9.78489E+12



救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

改定第4版 救急隊員標準テキスト

著者： 救急隊員用教本作成委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2013

ISBN： 9.78489E+12

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

成績評価は知識に関する試験に加え、実技試験を実施する。なお、試験の受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 薬理学(救急) &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 天野 博夫

テーマ

日常生活と薬・救急医療と薬

授業の到達目標

「薬の働き」との関連から、人間の生理機能やその障害に関する理解を深める。日常生活と薬の存在に関して、「有効性」と「安全性」の意味を認識できる。

授業の概要

前半7回は薬理学に関する基本的な概念を中心に、後半は救急医療に関連の深い薬物の働きを中心に解説する。

準備学習(予習・復習)

その日の講義内容がこれまでに他の科目で学んだ事柄に関連していないかを思い出してみることが望ましい。

内 容

- 第1回 基礎知識の確認と整理1
- 第2回 基礎知識の確認と整理2
- 第3回 薬理作用の基礎・薬の作用点
- 第4回 薬物投与と薬物動態1
- 第5回 薬物投与と薬物動態2
- 第6回 自律神経系作用薬1
- 第7回 自律神経系作用薬2・ホルモン
- 第8回 薬物の有害作用
- 第9回 中毒
- 第10回 心肺蘇生の薬理
- 第11回 救急医療の薬理1
- 第12回 救急医療の薬理2
- 第13回 よく用いられる日常薬1
- 第14回 よく用いられる日常薬2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト 第2巻

著者:

出版社: へるす出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 100 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命特別実習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 関根 和弘・福岡 範恭	
テーマ 水難救助実習(海)	
授業の到達目標 1回生時のプール実習の特殊な救急活動に対する理解を深めた知識、技術を自然の中の水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、海に対する安全法と海の危険・生物、潮の流れ等を理解し資器材を使用しての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。	
授業の概要 水難事故に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から高度なものまでを実践する。	
準備学習(予習・復習) 1回生時のプール実習の基本的な手技・知識を実際の自然の海で実践するため、水難救助マニュアルの熟読復習が必須	
内 容 第1回 移動、オリエンテーション・講義(夜) 第2回 開校式、浜清掃、潮汐、パディシステム、シグナル、泳力確認、セルフレスキュー、PFD実習、搬送法、講義(夜) 第3回 潮汐、着衣泳、着衣泳のセルフレスキュー、シュノーケリング、シーカヤック、講義(夜) 第4回 潮汐、遠泳、チューブレスキュー、ボードレスキュー、スパイナルケア、歴史を学ぶ、講義(夜) 第5回 潮汐、総合訓練、浜清掃、閉講式、移動	
履修上の注意点 学外実習となるため時刻の厳守、社会人としての行動を期待する。体調管理は十分にしておくこと。担当教員の指示に従うことを原則とする。	
教科書 水難救助マニュアル 著者： 国士舘大学ウエルネスリサーチセンター 出版社： 出版年： ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート(30) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等(20) 参加度(50) 実習中の参加度を重視する	

## 2017 Syllabus

科目名 **救急救命特別実習 I <b>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 喜熨斗 智也

テーマ

水難救助実習(海)

授業の到達目標

1回生時のプール実習の特殊な救急活動に対する理解を深めた知識、技術を自然の中の水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、海に対する安全法と海の危険・生物、潮の流れ等を理解し資器材を使用しての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

水難事故に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から高度なものまでを実践する。

準備学習(予習・復習)

1回生時のプール実習の基本的な手技・知識を実際の自然の海で実践するため、水難救助マニュアルの熟読復習が必須

内 容

第1回 移動、オリエンテーション・講義(夜)

第2回 開校式、浜清掃、潮汐、パディシステム、シグナル、泳力確認、セルフレスキュー、PFD実習、搬送法、講義(夜)

第3回 潮汐、着衣泳、着衣泳のセルフレスキュー、シュノーケリング、シーカヤック、講義(夜)

第4回 潮汐、遠泳、チューブレスキュー、ボードレスキュー、スパイナルケア、歴史を学ぶ、講義(夜)

第5回 潮汐、総合訓練、浜清掃、閉講式、移動

履修上の注意点

学外実習となるため時刻の厳守、社会人としての行動を期待する。体調管理は十分にしておくこと。担当教員の指示に従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル

著者： 国士舘大学ウエルネスリサーチセンター

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート(30)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(20)

参加度(50)

実習中の参加度を重視する

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命特別実習Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹・千田 はずみ

テーマ

海外先進地の救急体制の視察

授業の到達目標

海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。

授業の概要

海外実習

準備学習(予習・復習)

事前学習では、日本の消防組織の仕組みと活動を理解し、相互の共通点や相違点を明らかにできるようにしておくこと。

内 容

- 第1回 事前学習及びガイダンス
- 第2回 海外視察
- 第3回 海外視察
- 第4回 海外視察
- 第5回 海外視察
- 第6回 海外視察
- 第7回 海外視察
- 第8回 事後報告会

履修上の注意点

事前学習およびガイダンスに不参加の学生は、海外視察には参加させないこともある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト ( )

授業中発表等 (20)

## 2017 Syllabus

## 科目名 危機管理論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 中田 敬司	
テーマ	危機管理、リスクマネジメント、トラブルシューティング、ダメージコントロール、情報管理
授業の到達目標	1. 危機管理の概念について、実践的意味を持つものであることを理解できる。2. ダリトメソッド(ダメージコントロール・リスクマネジメント・トラブルシューティング)の考え方を理解でき、自分自身の具体的な体験に基づいて説明できるようになる。3. リスクアセスメントについて、発生の可能性・結果の重要性からリスクの大きさ評価されることについて説明できる。4. 目的達成のための情報収集・整理・発信等管理の仕方や評価の方法について理解できる。5. 組織の中で危機管理体制が重要であることを理解できる。
授業の概要	危機管理の概念や組織目標達成に必要な要件について学び、どのような組織が生産性が高く組織目標達成につながっていくのか、また危機的状況を回避できるのか、過去の事例を検討し講義およびディスカッションを取り入れながら授業を実施する。
準備学習(予習・復習)	事前および事後学習にそれぞれ1時間。
内 容	<p>第1回 ガイダンス 危機管理論の講義が目指すものについての理解と授業の進め方や評価、スタートに当たってのティーアップを実施する。</p> <p>第2回 危機管理の概念と定義 危機管理のイメージ及び捉え方を学び、自分たちで定義を作成するとで危機管理の求めるものを理解する。</p> <p>第3回 ダリトメソッド 危機管理のわかりやすい考え方である、ダメージコントロール・リスクマネジメント・トラブルシューティングについて理解する。</p> <p>第4回 ダリトメソッド 危機管理のわかりやすい考え方である、ダメージコントロール・リスクマネジメント・トラブルシューティングについて理解する。</p> <p>第5回 ダリトメソッド ダメージコントロールの理解と事例研究</p> <p>第6回 リスクマネジメント リスクマネジメント及びリスクアセスメントと危機対策プラン作成</p> <p>第7回 企業・団体の危機事例検討①トラブルシューティングの理解と事例研究</p> <p>第8回 学んだ内容の整理と確認 第7回までの学習内容を振り返り整理する。</p> <p>第9回 パーソナリティ分析・リーダーシップスタイル 自分自身の特徴について理解し、組織活動における自分の役割や課題を確認する。</p> <p>第10回 危機管理と組織論 組織の定義や組織の原則の理解</p> <p>第11回 情報管理・情報の種類及び情報収集と評価・伝達 インフォメーションとインテリジェンスの違いおよび収集・評価・伝達について理解する。</p> <p>第12回 3C本部とネットワークセントリックオペレーション 危機対応の組織と情報管理戦術</p> <p>第13回 企業・団体の危機事例検討とシミュレーション② 事例に基づく危機管理シミュレーションを実施し実用レベルの考え方を身につける。</p> <p>第14回 企業・団体の危機事例検討とシミュレーション③ 事例に基づく危機管理シミュレーションを実施し実用レベルの考え方を身につける。</p> <p>第15回 学んだ内容の整理と確認 学習内容を整理し知識の定着を図る。</p>
履修上の注意点	授業出席・グループワークへの積極的参加が重要。
教科書	授業ごとにプリント配布。
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
危機管理のノウハウ1-3	
著者: 佐々 淳行	
出版社: PHP出版	
出版年:	ISBN:
成績評価	

a90402d310

試験・レポート ( 30 )

授業中課題 ( 40 )

参加度 ( )

小テスト ( 30 )

授業中発表等 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Aa&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )



## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ab&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ac&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ad&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ae&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Af&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ag&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ah&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 章彦	
テーマ 日本語運用能力の習得	
授業の到達目標 大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する	
授業の概要 テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。	
準備学習(予習・復習) 授業内で随時、指示していく	
内 容 第1回 概要説明 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名 第4回 文のしくみ 第5回 文章の要約 第6回 ディベート 第7回 原稿用紙の使い方 第8回 手紙と葉書① 第9回 手紙と葉書② 第10回 ビジネス文書 第11回 案内状 第12回 レポート小論文 第13回 論説文と批評文 第14回 プレゼンテーション 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 キャリアアップ 国語表現法 著者： 丸山顕徳 出版社： 嵯峨野書院 出版年： ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (25) 参加度 (25)	小テスト (25) 授業中発表等 (25)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ai&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )



## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Aj&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ak&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;AI&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 高木 彬

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Am&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 杉岡 歩美

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;An&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 尾添 陽平

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ao&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 貴之

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Ba&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bb>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )



## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bc&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bd>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Be>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bf&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bg&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bh&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bi&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bj&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )



## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bk&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <BI>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 高木 彬	
テーマ 日本語運用能力の習得	
授業の到達目標 大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する	
授業の概要 テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。	
準備学習(予習・復習) 授業内で随時、指示していく	
内 容 第1回 概要説明 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名 第4回 文のしくみ 第5回 文章の要約 第6回 ディベート 第7回 原稿用紙の使い方 第8回 手紙と葉書① 第9回 手紙と葉書② 第10回 ビジネス文書 第11回 案内状 第12回 レポート小論文 第13回 論説文と批評文 第14回 プレゼンテーション 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 キャリアアップ 国語表現法 著者：丸山顕徳 出版社：嵯峨野書院 出版年： ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (25) 参加度 (25)	小テスト (25) 授業中発表等 (25)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bm&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 杉岡 歩美

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bn&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 尾添 陽平

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現 I &lt;Bo&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 貴之

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Aa&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ab&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ac&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ad&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ae&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Af〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ag&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ah&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 橋本章彦

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ai&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Aj&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ak&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;AI&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 高木 彬

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Am&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 クラス指定

担当者 杉岡 歩美

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;An&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 クラス指定

担当者 尾添 陽平

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ao&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 クラス指定

担当者 佐藤 貴之

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Ba&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Bb>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bc&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Bd>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者 権藤 愛順		
テーマ なぜ教養は必要なのか		
授業の到達目標 教養の意義や価値について学んでいく。		
授業の概要 専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。		
準備学習(予習・復習) 授業内で随時、指示していく。		
内 容 第1回 概要説明 第2回 「私」を伝える(1) 第3回 「私」を伝える(2) 第4回 「私」を伝える(3) 第5回 1回生の私のアクション・プラン 第6回 友人に贈る言葉 第7回 哲学に触れてみよう 第8回 法律・政治学に触れてみよう 第9回 社会学に触れてみよう 第10回 経済学や経営学に触れてみよう 第11回 文学に触れてみよう 第12回 歴史学に触れてみよう 第13回 心理学・教育学に触れてみよう 第14回 数学や物理学に触れてみよう 第15回 化学や生物学に触れてみよう		
履修上の注意点		
教科書 スタートⅣ(教養ゼミテキスト) 著者: 出版社: 京都橘大学生協 出版年: 2017 参考書	ISBN:	
成績評価 試験・レポート (20) 授業中課題 (20) 参加度 (40)	小テスト ( ) 授業中発表等 (20)	



## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Be&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 30

履修条件 クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bf&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bg&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bh&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 橋本章彦

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bi&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bj&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bk&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;BI&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 高木 彬

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bm&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	杉岡 歩美	
テーマ	なぜ教養は必要なのか	
授業の到達目標	教養の意義や価値について学んでいく。	
授業の概要	<p>専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。</p>	
準備学習(予習・復習)	授業内で随時、指示していく。	
内 容	<p>第1回 概要説明  第2回 「私」を伝える(1)  第3回 「私」を伝える(2)  第4回 「私」を伝える(3)  第5回 1回生の私のアクション・プラン  第6回 友人に贈る言葉  第7回 哲学に触れてみよう  第8回 法律・政治学に触れてみよう  第9回 社会学に触れてみよう  第10回 経済学や経営学に触れてみよう  第11回 文学に触れてみよう  第12回 歴史学に触れてみよう  第13回 心理学・教育学に触れてみよう  第14回 数学や物理学に触れてみよう  第15回 化学や生物学に触れてみよう</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>スタートⅣ(教養ゼミテキスト)  著者:  出版社: 京都橘大学生協  出版年: 2017 ISBN:  参考書</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (20) 小テスト ( )  授業中課題 (20) 授業中発表等 (20)  参加度 (40)</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bn&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 尾添 陽平

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ &lt;Bo&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 貴之

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Aa>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Ab>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Ac&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (25)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Ad&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Ae>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )



## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング〈Af〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Ag>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング〈Ah〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Ai&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (25)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Aj&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Ak&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;AI&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高木 彬

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Am>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉岡 歩美

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )



## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;An&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾添 陽平

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Ao&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 貴之

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Ba&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (25)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Bb>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Bc&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (25)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Bd>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Be>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Bf>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )



## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Bg>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Bh&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Bi&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;Bj&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Bk>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング &lt;BI&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高木 彬

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Bm>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉岡 歩美

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 **アカデミックライティング <Bn>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 尾添 陽平

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )



## 2017 Syllabus

科目名 アカデミックライティング〈Bo〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 貴之

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 漢字・同音異義語・音訓と熟語
- 第3回 熟語の構造・四字熟語・仮名遣いと送り仮名
- 第4回 文のしくみ
- 第5回 文章の要約
- 第6回 ディベート
- 第7回 原稿用紙の使い方
- 第8回 手紙と葉書①
- 第9回 手紙と葉書②
- 第10回 ビジネス文書
- 第11回 案内状
- 第12回 レポート小論文
- 第13回 論説文と批評文
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ 国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 25 )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 25 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ &lt;Aa&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;Ab&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Ac〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;Ad&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Ae〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Af〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Ag〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;Ah&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 橋本章彦

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Ai〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Aj〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Ak〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈AI〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高木 彬

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Am〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 杉岡 歩美

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;An&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾添 陽平

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Ao〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 佐藤 貴之

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;Ba&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ &lt;Bb&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Bc〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ &lt;Bd&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Be〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートⅣ(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈B〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ &lt;Bg&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;Bh&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 橋本章彦

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Bi〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;BJ&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ &lt;Bk&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;BI&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高木 彬

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ&lt;Bm&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 杉岡 歩美

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 「私」を伝える(1)
- 第3回 「私」を伝える(2)
- 第4回 「私」を伝える(3)
- 第5回 1回生の私のアクション・プラン
- 第6回 友人に贈る言葉
- 第7回 哲学に触れてみよう
- 第8回 法律・政治学に触れてみよう
- 第9回 社会学に触れてみよう
- 第10回 経済学や経営学に触れてみよう
- 第11回 文学に触れてみよう
- 第12回 歴史学に触れてみよう
- 第13回 心理学・教育学に触れてみよう
- 第14回 数学や物理学に触れてみよう
- 第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ &lt;Bn&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾添 陽平

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 教養ゼミ〈Bo〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 佐藤 貴之

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

教養の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないかと。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習(予習・復習)

授業内で随時、指示していく。

内 容

第1回 概要説明

第2回 「私」を伝える(1)

第3回 「私」を伝える(2)

第4回 「私」を伝える(3)

第5回 1回生の私のアクション・プラン

第6回 友人に贈る言葉

第7回 哲学に触れてみよう

第8回 法律・政治学に触れてみよう

第9回 社会学に触れてみよう

第10回 経済学や経営学に触れてみよう

第11回 文学に触れてみよう

第12回 歴史学に触れてみよう

第13回 心理学・教育学に触れてみよう

第14回 数学や物理学に触れてみよう

第15回 化学や生物学に触れてみよう

履修上の注意点

教科書

スタートIV(教養ゼミテキスト)

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2017

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 松本 広美	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の習得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第3回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第4回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第5回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第6回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第7回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第8回 話しことば検定 模擬テスト 第9回 ～話す・聞くⅠ～ 話し手・聞き手 場面・内容 話の種類 話すときのポイント 聞くときのポイント 第10回 ～話す・聞くⅡ～ わかりやすい表現 正しく話す 豊かな表現 第11回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第12回 ～スピーチⅡ～ 自己PR発表1 第13回 ～スピーチⅢ～ 自己PR発表2 第14回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 内容を話す 聞きながら一緒に読む 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	

成績評価



試験・レポート (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 松本 広美	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の習得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第3回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第4回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第5回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第6回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第7回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第8回 話しことば検定 模擬テスト 第9回 ～話す・聞くⅠ～ 話し手・聞き手 場面・内容 話の種類 話すときのポイント 聞くときのポイント 第10回 ～話す・聞くⅡ～ わかりやすい表現 正しく話す 豊かな表現 第11回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第12回 ～スピーチⅡ～ 自己PR発表1 第13回 ～スピーチⅢ～ 自己PR発表2 第14回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 内容を話す 聞きながら一緒に読む 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 真知子	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の習得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第3回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第4回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第5回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第6回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第7回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第8回 話しことば検定 模擬テスト 第9回 ～話す・聞くⅠ～ 話し手・聞き手 場面・内容 話の種類 話すときのポイント 聞くときのポイント 第10回 ～話す・聞くⅡ～ わかりやすい表現 正しく話す 豊かな表現 第11回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第12回 ～スピーチⅡ～ 自己PR発表1 第13回 ～スピーチⅢ～ 自己PR発表2 第14回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 内容を話す 聞きながら一緒に読む 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 真知子	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の習得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第3回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第4回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第5回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第6回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第7回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第8回 話しことば検定 模擬テスト 第9回 ～話す・聞くⅠ～ 話し手・聞き手 場面・内容 話の種類 話すときのポイント 聞くときのポイント 第10回 ～話す・聞くⅡ～ わかりやすい表現 正しく話す 豊かな表現 第11回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第12回 ～スピーチⅡ～ 自己PR発表1 第13回 ～スピーチⅢ～ 自己PR発表2 第14回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 内容を話す 聞きながら一緒に読む 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	

成績評価

試験・レポート (0)  
授業中課題 (10)  
参加度 (30)

小テスト (40)  
授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 松岡 とお子	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の習得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第3回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第4回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第5回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第6回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第7回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第8回 話しことば検定 模擬テスト 第9回 ～話す・聞くⅠ～ 話し手・聞き手 場面・内容 話の種類 話すときのポイント 聞くときのポイント 第10回 ～話す・聞くⅡ～ わかりやすい表現 正しく話す 豊かな表現 第11回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第12回 ～スピーチⅡ～ 自己PR発表1 第13回 ～スピーチⅢ～ 自己PR発表2 第14回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 内容を話す 聞きながら一緒に読む 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	

成績評価



試験・レポート (0)  
授業中課題 (10)  
参加度 (30)

小テスト (40)  
授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 松岡 とお子	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え  
 第2回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音  
 第3回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現  
 第4回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語  
 第5回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き  
 第6回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形  
 第7回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例  
 第8回 話しことば検定 模擬テスト  
 第9回 ～話す・聞くⅠ～ 話し手・聞き手 場面・内容 話の種類 話すときのポイント 聞くときのポイント  
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ わかりやすい表現 正しく話す 豊かな表現  
 第11回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR  
 第12回 ～スピーチⅡ～ 自己PR発表1  
 第13回 ～スピーチⅢ～ 自己PR発表2  
 第14回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 内容を話す 聞きながら一緒に読む  
 第15回 総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2014

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( 0 )  
授業中課題 ( 10 )  
参加度 ( 30 )

小テスト ( 40 )  
授業中発表等 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーションⅡ〈a〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 堀 由紀

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション ～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度  
 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ  
 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い  
 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」  
 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方  
 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介  
 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表  
 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表  
 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック  
 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー  
 第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本  
 第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスマール・ビジネス文書の書き方  
 第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー  
 第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント  
 第15回 総復習

履修上の注意点

《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていない時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2016

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(15)

授業中課題(15)

授業中発表等(20)

参加度(50)

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーションⅡ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 堀 由紀	
テーマ コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする	
授業の到達目標 1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。	
授業の概要 基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション ～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー 第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本 第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスマール・ビジネス文書の書き方 第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー 第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント 第15回 総復習	
履修上の注意点 《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていない時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。	
教科書 好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション 著者： NPO法人 日本話しことば協会 出版社： 出版年： 2016 ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(15) 授業中課題(15) 授業中発表等(20) 参加度(50) 期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーションⅡ &lt;c&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	吉田 真知子	
テーマ	コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする	
授業の到達目標	1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。	
授業の概要	基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 オリエンテーション ～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度</p> <p>第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ</p> <p>第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い</p> <p>第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」</p> <p>第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方</p> <p>第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介</p> <p>第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表</p> <p>第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表</p> <p>第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック</p> <p>第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー</p> <p>第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本</p> <p>第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスマール・ビジネス文書の書き方</p> <p>第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー</p> <p>第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント</p> <p>第15回 総復習</p>	
履修上の注意点	<p>《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていない時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。</p>	
教科書	<p>好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション</p> <p>著者： NPO法人 日本話しことば協会</p> <p>出版社：</p> <p>出版年： 2016 ISBN：</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート(0) 小テスト(15)</p> <p>授業中課題(15) 授業中発表等(20)</p> <p>参加度(50)</p> <p>期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーションⅡ &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 真知子	
テーマ コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする	
授業の到達目標 1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。	
授業の概要 基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション ～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー 第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本 第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスマール・ビジネス文書の書き方 第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー 第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント 第15回 総復習	
履修上の注意点 《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていない時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。	
教科書 好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション 著者： NPO法人 日本話しことば協会 出版社： 出版年： 2016 ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(15) 授業中課題(15) 授業中発表等(20) 参加度(50) 期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーションⅡ〈e〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	松岡 とお子	
テーマ	コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする	
授業の到達目標	1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。	
授業の概要	基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 オリエンテーション ～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度</p> <p>第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ</p> <p>第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い</p> <p>第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」</p> <p>第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方</p> <p>第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介</p> <p>第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表</p> <p>第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表</p> <p>第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック</p> <p>第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー</p> <p>第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本</p> <p>第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスメール・ビジネス文書の書き方</p> <p>第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー</p> <p>第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント</p> <p>第15回 総復習</p>	
履修上の注意点	<p>《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていない時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。</p>	
教科書	<p>好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション</p> <p>著者： NPO法人 日本話しことば協会</p> <p>出版社：</p> <p>出版年： 2016 ISBN：</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート(0) 小テスト(15)</p> <p>授業中課題(15) 授業中発表等(20)</p> <p>参加度(50)</p> <p>期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーションⅡ〈f〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 松岡 とお子

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション ～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度  
 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ  
 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い  
 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」  
 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方  
 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介  
 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表  
 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表  
 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック  
 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー  
 第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本  
 第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスメール・ビジネス文書の書き方  
 第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー  
 第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント  
 第15回 総復習

履修上の注意点

《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていない時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙(講師がその場で手渡し)に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2016

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(15)

授業中課題(15)

授業中発表等(20)

参加度(50)

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ディーグル, ジェームス	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。Must not miss more than 4 classes to pass the course
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 15 )
授業中課題 ( 25 )	授業中発表等 ( 15 )
参加度 ( 45 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。	
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等) 第2回 単語、Part 2対策, Part 5対策 第3回 単語、Part 4対策, Part 7対策 第4回 単語、Part 2対策, Part 7対策 第5回 単語、Part 4対策, Part 7対策 第6回 単語、Part 2対策, Part 5対策 第7回 単語、Part 1対策, Part 5対策 第8回 単語、Part 2対策, Part 5対策 第9回 単語、Part 4対策, Part 6対策 第10回 単語、Part 2対策, Part 7対策 第11回 単語、Part 4対策, Part 7対策 第12回 リスニングPart3①、リーディングPart6 第13回 リスニングPart4①、リーディングPart7② 第14回 リスニングテスト演習及び解答解説 第15回 リーディングテスト解説続き	
履修上の注意点	
教科書 ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald 著者: ECC 出版社: ECC 出版年: 2016年 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 30 ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 30 ) 上記に加えて期末英語テスト20%	小テスト ( 20 ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)  
 第2回 Unit 1 (C) 出身地や仕事について話す。  
 第3回 Unit 1 (D) 人の名前と仕事について述べる。  
 第4回 Unit 2 (C) 家族とその年齢を表現する。  
 第5回 Unit 2 (D) 家族や友達について情報を与える。  
 第6回 Unit 3 (C) 衣服や持ち物について話す。  
 第7回 Unit 3 (D) 好きな持ち物を描写する。  
 第8回 前半の復習とまとめ  
 第9回 Unit 4 (C) 日課について話す。  
 第10回 Unit 4 (D) 週末にしていることを描写する。  
 第11回 Unit 5 (C) 余暇活動について話す。  
 第12回 Unit 5 (D) IT機器の使い方について話し合う。  
 第13回 Unit 6 (C) 自分の才能や能力を説明する。  
 第14回 Unit 6 (D) 留学や海外インターンについて話す。  
 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (60)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;d&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	川口 玲子	
テーマ	将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成	
授業の到達目標	TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標:発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標:主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。	
授業の概要	英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習)	英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等)</p> <p>第2回 Listening 対策:母音(1) Reading対策:文のエッセンス(1)</p> <p>第3回 Listening対策:リンキング Reading対策:チャンク・リーディング(1)</p> <p>第4回 復習</p> <p>第5回 Listening対策:子音(2) Reading対策:予測(1)</p> <p>第6回 Listening対策:音の脱落 Reading対策:まとめり毎の意味を捉える</p> <p>第7回 Listening対策:短縮形(2) Reading対策:スキミング(2)</p> <p>第8回 Listening対策:単語の音声変化(1) Reading対策:単語の意味を推測(2)</p> <p>第9回 Listening対策:復習(3) Reading対策:予測(2)</p> <p>第10回 Listening対策:Part1・2総合問題(2) Reading対策:主題文を見つける</p> <p>第11回 Part3演習</p> <p>第12回 Part4演習</p> <p>第13回 Part5演習</p> <p>第14回 Part6演習、Part7新形式を補助教材にて紹介</p> <p>第15回 模擬試験リスニングパート実施・解答・解説</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby</p> <p>著者: ECC</p> <p>出版社: ECC</p> <p>出版年: 2016年 ISBN:</p> <p>ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby 模試</p> <p>著者: ECC</p> <p>出版社: ECC</p> <p>出版年: 2014年 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート(30) 小テスト(20)</p> <p>授業中課題( ) 授業中発表等( )</p> <p>参加度(30)</p> <p>上記に加えて期末英語テスト20%</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;e&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	高居 佐紀	
テーマ	将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成	
授業の到達目標	TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標:発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標:主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。	
授業の概要	英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習)	英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等)</p> <p>第2回 Listening 対策:母音(1) Reading対策:文のエッセンス(1)</p> <p>第3回 Listening対策:リンキング Reading対策:チャンク・リーディング(1)</p> <p>第4回 復習</p> <p>第5回 Listening対策:子音(2) Reading対策:予測(1)</p> <p>第6回 Listening対策:音の脱落 Reading対策:まとめり毎の意味を捉える</p> <p>第7回 Listening対策:短縮形(2) Reading対策:スキミング(2)</p> <p>第8回 Listening対策:単語の音声変化(1) Reading対策:単語の意味を推測(2)</p> <p>第9回 Listening対策:復習(3) Reading対策:予測(2)</p> <p>第10回 Listening対策:Part1・2総合問題(2) Reading対策:主題文を見つける</p> <p>第11回 Part3演習</p> <p>第12回 Part4演習</p> <p>第13回 Part5演習</p> <p>第14回 Part6演習、Part7新形式を補助教材にて紹介</p> <p>第15回 模擬試験リスニングパート実施・解答・解説</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby</p> <p>著者: ECC</p> <p>出版社: ECC</p> <p>出版年: 2016年 ISBN:</p> <p>ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby 模試</p> <p>著者: ECC</p> <p>出版社: ECC</p> <p>出版年: 2014年 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート(30) 小テスト(20)</p> <p>授業中課題( ) 授業中発表等( )</p> <p>参加度(30)</p> <p>上記に加えて期末英語テスト20%</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ	
国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標	
・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。	
授業の概要	
・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習)	
授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。	
内 容	
第1回	オリエンテーション&Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第2回	Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Animal Families
第3回	Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第4回	Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル A Job for Children
第5回	Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する
第6回	Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル A Very Special Village
第7回	Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第8回	Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Uncovering the Past
第9回	Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature、(Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第10回	Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Zoo Dentists
第11回	Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica(Writing/Speaking) 旅程表を書く
第12回	Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル Volcano Trek
第13回	日本語を英語にしてみよう 1
第14回	日本語を英語にしてみよう 2
第15回	後半の復習とまとめ
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。	
教科書	
World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 10 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading,) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (30)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I A <h>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 櫃本 一美	
テーマ	国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。
授業の到達目標	・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。
授業の概要	・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動
準備学習(予習・復習)	小テストを頻繁に行う。授業中、自宅の課題は確実にこなすこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える</p> <p>第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」</p> <p>第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 仕事を描写する</p> <p>第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」</p> <p>第6回 Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する</p> <p>第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」</p> <p>第8回 前半の復習とまとめ</p> <p>第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する</p> <p>第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」</p> <p>第11回 Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature、(Writing/Speaking) 仕事内容について書く</p> <p>第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Zoo Dentists」</p> <p>第13回 Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica、(Writing/Speaking) 旅程表を書く</p> <p>第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」</p> <p>第15回 後半の復習とまとめ</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	<p>World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code</p> <p>著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase</p> <p>出版社: Cengage Learning</p> <p>出版年: 2015 ISBN: 978130508951-8</p>
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 40 )	小テスト ( )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 原 俊樹	
テーマ	国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。
授業の到達目標	・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。
授業の概要	・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動
準備学習(予習・復習)	授業中の指示に従うこと
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる</p> <p>第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」</p> <p>第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する</p> <p>第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」</p> <p>第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス</p> <p>第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」</p> <p>第8回 前半の復習とまとめ</p> <p>第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す</p> <p>第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」</p> <p>第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す</p> <p>第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Cheese-Rolling Races」</p> <p>第13回 Unit 6 (D): (Reading,) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く</p> <p>第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」</p> <p>第15回 後半の復習とまとめ</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。座っているだけにならないようにしなさい。辞書を活用しなさい。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 50 )	小テスト ( 15 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 15 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;j&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (30)

授業中課題 (25)

授業中発表等 ( )

参加度 (15)

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;k&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 スミス, ジョン	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Details will be given in class.	
内 容	
第1回 Orientation (オリエンテーション)	
第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)	
第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)	
第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)	
第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝について話す)	
第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)	
第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)	
第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)	
第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)	
第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)	
第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)	
第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)	
第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)	
第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)	
第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト (30)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (10)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;I&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) Shackleton's Epic Journey - A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する

第14回 Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I A <m>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ	国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。
授業の到達目標	・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。
授業の概要	・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動
準備学習(予習・復習)	授業中の指示に従うこと
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる</p> <p>第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」</p> <p>第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する</p> <p>第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」</p> <p>第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス</p> <p>第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」</p> <p>第8回 前半の復習とまとめ</p> <p>第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す</p> <p>第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」</p> <p>第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す</p> <p>第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Cheese-Rolling Races」</p> <p>第13回 Unit 6 (D): (Reading,) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く</p> <p>第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」</p> <p>第15回 後半の復習とまとめ</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	<p>World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code</p> <p>著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase</p> <p>出版社: Cengage Learning</p> <p>出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12</p>
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 10 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;n&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 スミス, ジョン	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト (30)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (10)
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;○&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 占部 幹也

テーマ

「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。

授業の概要

Pre-reading, Reading, Post-readingの3つのパートでリーディングスキルを効果的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit1 Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Team
- 第3回 Unit1 電流を流した金属で復活するサンゴ礁-インドネシア発
- 第4回 Unit2 "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source
- 第5回 Unit2 食糧難を救うじゃがいも-ペルー発
- 第6回 Unit3 Offices Use Ice to Cool Down and Save Power
- 第7回 Unit3 オフィスに氷の塊を置いて夏の省エネ-アメリカ発
- 第8回 Unit4 Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's
- 第9回 Unit4 運動がアルツハイマー予防に効果-イギリス発
- 第10回 Unit5 Egyptians Look Desert for Hot Residential Property
- 第11回 Unit5 サハラ砂漠を緑化して、増える人口に土地を確保-エジプト発
- 第12回 Unit6 College Students Feel Better After Screaming Together
- 第13回 Unit6 テスト勉強中のストレス、叫んで解消-アメリカ発
- 第14回 Unit7 Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Hearing Our World

著者: 小笠原真司 Pino Cutron

出版社: 南雲堂

出版年: 2010

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%



## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;p&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ディーグル, ジェームス	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝について話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。Must not miss more than 4 classes to pass the course
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 15 ) 授業中課題 ( 25 ) 授業中発表等 ( 15 ) 参加度 ( 45 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;q&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)  
 第2回 Unit 1 (C) 出身地や仕事について話す。  
 第3回 Unit 1 (D) 人の名前と仕事について述べる。  
 第4回 Unit 2 (C) 家族とその年齢を表現する。  
 第5回 Unit 2 (D) 家族や友達について情報を与える。  
 第6回 Unit 3 (C) 衣服や持ち物について話す。  
 第7回 Unit 3 (D) 好きな持ち物を描写する。  
 第8回 前半の復習とまとめ  
 第9回 Unit 4 (C) 日課について話す。  
 第10回 Unit 4 (D) 週末にしていることを描写する。  
 第11回 Unit 5 (C) 余暇活動について話す。  
 第12回 Unit 5 (D) IT機器の使い方について話し合う。  
 第13回 Unit 6 (C) 自分の才能や能力を説明する。  
 第14回 Unit 6 (D) 留学や海外インターンについて話す。  
 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I A <r>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	小川 享子	
テーマ	TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標	TOEICのリスニング・リーディングパートに対応できる語彙・文法力、リスニング力、読解力の養成を目的とする。	
授業の概要	TOEICテストの問題形式や出題傾向を念頭に置きながら、各パートの問題演習を行います。語彙については毎回単語テストを行うのでしっかりと準備をしていく必要があります。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICテストの模擬演習を行います。	
準備学習(予習・復習)	語彙、文法事項の予習復習。リスニング教材の聞き直し。	
内 容	<p>第1回 Unit 1 Travel</p> <p>第2回 Unit 2 Dining Out</p> <p>第3回 進度調整</p> <p>第4回 Unit 3 Media</p> <p>第5回 Unit 4 Entertainment</p> <p>第6回 進度調整</p> <p>第7回 Unit 5 Purchasing</p> <p>第8回 Unit 6 Client</p> <p>第9回 進度調整</p> <p>第10回 Unit 7 Recruiting</p> <p>第11回 Unit 8 Personnel</p> <p>第12回 進度調整</p> <p>第13回 模擬演習</p> <p>第14回 模擬演習</p> <p>第15回 模擬演習</p>	
履修上の注意点	3分の2の出席を必要とする。辞書を持っていくこと。	
教科書	<p>The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test</p> <p>著者： 早川幸治他</p> <p>出版社： 金星堂</p> <p>出版年： 2017</p> <p style="text-align: right;">ISBN: 9.78476E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (25%)</p> <p>授業中課題 (15%)</p> <p>参加度 (15%)</p> <p style="text-align: right;">小テスト (25%)</p> <p style="text-align: right;">授業中発表等 ( )</p> <p>上記に加えて期末英語テスト20%。試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I A <s>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	野口 博代	
テーマ	国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標	・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。	
授業の概要	・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習)	授業中の指示に従うこと	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる 第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」 第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する 第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」 第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス 第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」 第8回 前半の復習とまとめ 第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す 第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」 第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す 第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Cheese-Rolling Races」 第13回 Unit 6 (D): (Reading,) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く 第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」 第15回 後半の復習とまとめ	
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12	
参考書		
成績評価	試験・レポート (30) 小テスト (30) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;t&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ	
国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標	
・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。	
授業の概要	
・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習)	
授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。	
内 容	
第1回	オリエンテーション&Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第2回	Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Animal Families
第3回	Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第4回	Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル A Job for Children
第5回	Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する
第6回	Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル A Very Special Village
第7回	Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第8回	Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Uncovering the Past
第9回	Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature、(Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第10回	Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Zoo Dentists
第11回	Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica(Writing/Speaking) 旅程表を書く
第12回	Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル Volcano Trek
第13回	日本語を英語にしてみよう 1
第14回	日本語を英語にしてみよう 2
第15回	後半の復習とまとめ
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。	
教科書	
World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 10 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;u&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 原 俊樹	
テーマ ーコミュニケーションの道具としての英語を身につけるー	
授業の到達目標 基本的な英文の解釈(読解・聴解)や表現(作文・発話)を通して、また日本語・英語双方の表現方法の違いや文法的理解を「感性」ではなく「論理的」に考えて、国際人として世界的に活躍するために必須となる「伝達的手段としての英語」に必要な4技能の幅広い実践的な運用能力を習得することを目的とする。同時に医療従事者(co-medical)として専門課程で学ぶ知識への橋渡しになることを望んでいる。	
授業の概要 基本的には、テキストの各ユニットに沿って授業を展開する。習熟度・理解力を判断するための小テスト・実力テスト・課題も用意する。授業スケジュールは一応の目安として各回で学ぶ「学習重要ポイント」と考えてください。	
準備学習(予習・復習) 基本的な外国語を学ぶ体制になるように、予習・復習を確実にやりなさい。	
内 容 第1回 講義内容・テキストの利用法の説明、基礎力判定テスト 第2回 フォニックス(アルファベットや単語の発音) 英文の基本表現構造①: 述語動詞と態(能動態と受動態) 第3回 英文の基本表現構造②: 述語動詞と時制1 第4回 英文の基本表現構造③: 述語動詞と時制2 第5回 英文の基本表現構造④: 基本5文型(自動詞と他動詞) 第6回 英文の基本表現構造⑤: 文の要素・修飾語句・語の品詞 第7回 準動詞の用法①: 不定詞 第8回 準動詞の用法②: 動名詞 第9回 準動詞の用法3: 分詞 第10回 冠詞・名詞・代名詞 第11回 形容詞・副詞 第12回 前置詞と句 第13回 接続詞と節 第14回 関係詞 第15回 前期のまとめ・到達度の確認	
履修上の注意点	
教科書 LIFESAVER Basic English in Medical Situation 著者: Maki Inoue/Toshiya Sato 出版社: MACMILLANLANGUAGEHOUSE 出版年: 2005 ISBN: 9.78478E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (50%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%) 個人成績表を持たせるつもりです。	小テスト (20%) 授業中発表等 (10%)

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;v&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

医療やhealth careの題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit1 Colds, Flu and Folk Advice
- 第3回 Unit1 かぜ、インフルエンザ、その伝統療法の検証
- 第4回 Unit2 Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection
- 第5回 Unit2 マスクの着用で呼吸器系伝染病から身を守る
- 第6回 Useful Expressions1: Making an Appointment
- 第7回 Unit3 Drinking Beer Could Provide Health Benefits
- 第8回 Unit3 ビールと健康面の新たな追求
- 第9回 Unit4 Alcohol, the 'Asian Flush'and the Risk of Cancer
- 第10回 Unit4 アルコールと発ガンのリスク
- 第11回 Useful Expressions2: Forms,Medical History and Building
- 第12回 Unit5 Cancer May Soon Be World's Leading killer
- 第13回 Unit5 ガンはやがて世界の子音のトップに
- 第14回 Unit6 Insomnia不眠症 Useful Expressions3: Pains and Sensations
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Coregiver

著者: 近藤進 Gerald R.Gordon

出版社: 朝日出版社

出版年: 2010年

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;w&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等)
- 第2回 単語、Part 2対策, Part 5対策
- 第3回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第4回 単語、Part 2対策, Part 7対策
- 第5回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第6回 単語、Part 2対策, Part 5対策
- 第7回 単語、Part 1対策, Part 5対策
- 第8回 単語、Part 2対策, Part 5対策
- 第9回 単語、Part 4対策, Part 6対策
- 第10回 単語、Part 2対策, Part 7対策
- 第11回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第12回 リスニングPart3①、リーディングPart6
- 第13回 リスニングPart4①、リーディングPart7②
- 第14回 リスニングテスト演習及び解答解説
- 第15回 リーディングテスト解説続き

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて期末英語テスト20%



## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;x&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

小テストを頻繁に行う。授業中、自宅の課題は確実にこなすこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 仕事を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature、(Writing/Speaking) 仕事内容について書く

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) Journey to Antarctica、(Writing/Speaking) 旅程表を書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 978130508951-8

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

授業中課題 ( 20 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;y&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 清水	
テーマ	
国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標	
・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。	
授業の概要	
・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習)	
英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容	
第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第3回	Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」
第4回	Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 仕事を描写する
第5回	Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」
第6回	Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する
第7回	Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」
第8回	前半の復習とまとめ
第9回	Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第10回	Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」
第11回	Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature、(Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第12回	Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」
第13回	Unit 6 (D): (Reading) Journey to Antarctica、(Writing/Speaking) 旅程表を書く
第14回	Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」
第15回	後半の復習とまとめ
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 50 )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 10 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;z&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ	国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。
授業の到達目標	・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。
授業の概要	・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動
準備学習(予習・復習)	授業中の指示に従うこと
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる</p> <p>第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」</p> <p>第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する</p> <p>第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」</p> <p>第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス</p> <p>第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」</p> <p>第8回 前半の復習とまとめ</p> <p>第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す</p> <p>第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」</p> <p>第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す</p> <p>第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Cheese-Rolling Races」</p> <p>第13回 Unit 6 (D): (Reading,) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く</p> <p>第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」</p> <p>第15回 後半の復習とまとめ</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	<p>World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code</p> <p>著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase</p> <p>出版社: Cengage Learning</p> <p>出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12</p>
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 10 )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I A <Ha>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ディーグル, ジェームス	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝について話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。Must not miss more than 4 classes to pass the course
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 15 )
授業中課題 ( 25 )	授業中発表等 ( 15 )
参加度 ( 45 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;Hb&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) Shackleton's Epic Journey - A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する

第14回 Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;Hc&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 榎本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するために必要な文法演習も交えながら、速読、精読を行う。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。自宅学習としての速読の課題有り。

準備学習(予習・復習)

課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内 容

第1回 オリエンテーション、5文型と品詞

第2回 辞書の使い方

第3回 Chapter1

第4回 Chapter1

第5回 Chapter1

第6回 Chapter2

第7回 Chapter2

第8回 Chapter2

第9回 復習

第10回 Chapter4

第11回 Chapter4

第12回 Chapter4

第13回 Chapter5

第14回 Chapter5

第15回 復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用。

教科書

Issues for Today

著者: Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare

出版社: HEINLE CENGAGE Learning

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;Hd&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading,) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;R&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 杉山 泰

テーマ

英語が分かれば日本語も分かる ― 日英語対照をしながら学ぶ基礎英語

授業の到達目標

「原爆が落ちた」とか「山の音が聞こえた」「ビールが飲みたい」のように<主語>と<動詞>が曖昧なまま理解できる日本語になれていると、An atomic bomb was dropped.だとか、I heard the sound of the mountain. I want to drink beer.といった「主語」と「動詞」がきわめて論理的になりたっている英語的発想が分からない日本人が出てくる。そうした発想の違いを学んでいく。

授業の概要

教科書の問題を丁寧にやっていながら、毎回目英語の違いの小テスト「プリント」を仕上げ、退出してもらおう。翌週、添削して返却し、英語の発想について学んでもらう。

準備学習(予習・復習)

毎回問題を授業中にやっていくので、辞書と教科書が必要。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 日英語の違い。(I love you.構文と「あなたが好き」という形容詞構文の違い)  
 第2回 Lesson 2 「私」からの発想。(I have a good time.と「楽しい」)  
 第3回 Lesson 3 「命令文」(On your mark. Get set. Go. 主語がなければ命令文)  
 第4回 Lesson 4 「be動詞という曲者(1)」(なぜ、I am illness.と言えないのか?)  
 第5回 Lesson 5 「be動詞という曲者(2)」(なぜ、It is hard.と言えるのに、It is happy.と言えないのか?)  
 第6回 Lesson 6 「未来」を示す英語(なぜ、「先生、酒を飲みに行きますか」はWill you go for a drink?なのか?)  
 第7回 Lesson 7 「不定詞」構文(I have no need to hurry.とI have difficulty finding a job.の構文の違いは?)  
 第8回 Lesson 8 「現在完了形」構文(Have you eaten sushi?とDid you eat sushi?はどう違うのか?)  
 第9回 Lesson 9 「能動態」と「受動態」(I am excited.とFootball is exciting.はどう違うのか?)  
 第10回 Lesson 10 5W1Hで始まる疑問文(Do / Does / Did / Willの使い方がわかりますか?)  
 第11回 Lesson 11 「動名詞」構文(I enjoy driving a new car.のように動名詞を取る同氏は<Megafeps>です)  
 第12回 Lesson 12 「比較級」構文(The sooner, the better.という比較級が日本語にはなぜないのか?)  
 第13回 Lesson 13 「There is(are)」構文(新聞に多用されるThere is構文。「ある」と「いる」の違いを留学生に教えられるか?)  
 第14回 Lesson 14 「仮定法」構文(原子力発電所事故が起こりえないものであれば、だからこそ起こった時のシミュレーションが必要なのです)  
 第15回 Lesson 15 「て・に・を・は」と英語の前置詞(日本文学の英訳はなぜむずかしい?)

履修上の注意点

毎回、授業中に作業をやるので出席することが重要。欠席した場合、「プリント」をもらい、解答して提出すれば、遅れの出席とみなすこともある。

教科書

Discover English Grammar

著者: 杉山 泰

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006

ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか

著者: 鈴木孝夫

出版社: 岩波新書

出版年: 1999

ISBN:

日本語教室

著者: 大野晋

出版社: 岩波新書

出版年: 2002

ISBN:



日本語教のすすめ

著者： 鈴木孝夫

出版社： 新潮新書

出版年： 2009

ISBN:

英語化は愚民化

著者： 施光恒

出版社： 集英社新書

出版年： 2015

ISBN:

英語のツボ

著者： マーク・ピーターセン

出版社： 光文社文庫

出版年： 2011

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20% )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I A &lt;Tb&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 小川 享子		
テーマ	TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標	TOEICのリスニング・リーディングパートに対応できる語彙・文法力、リスニング力、読解力の養成を目的とする。	
授業の概要	TOEICテストの問題形式や出題傾向を念頭に置きながら、各パートの問題演習を行います。語彙については毎回単語テストを行うのでしっかりと準備をしていく必要があります。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICテストの模擬演習を行います。	
準備学習(予習・復習)	語彙、文法事項の予習復習。リスニング教材の聞き直し。	
内 容	第1回 Unit 1 Travel 第2回 Unit 2 Dining out 第3回 進度調整 第4回 Unit 3 Media 第5回 Unit 4 Entertainment 第6回 進度調整 第7回 Unit 5 Purchasing 第8回 Unit 6 Clients 第9回 進度調整 第10回 Unit 7 Recruiting 第11回 Unit 8 Personnel 第12回 進度調整 第13回 実践演習 第14回 実践演習 第15回 実践演習	
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。辞書を持ってくること。	
教科書	The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test 著者： 早川幸治他 出版社： 金星堂 出版年： 2017 ISBN： 9.78476E+12	
参考書		
成績評価	試験・レポート (25%) 小テスト (25%) 授業中課題 (15%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (15%)	
	上記に加えて学期末英語テスト20% 試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 15 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 占部 幹也		
テーマ	TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標	基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。	
授業の概要	英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習)	英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、Part 1対策、宿題説明</p> <p>第2回 単語、Part 3対策、Part 6対策</p> <p>第3回 進捗調整/Review/弱点強化</p> <p>第4回 単語、Part 3対策、Part 5対策</p> <p>第5回 進捗調整/Review/弱点強化</p> <p>第6回 単語、Part 3対策、Part 5対策</p> <p>第7回 進捗調整/Review/弱点強化</p> <p>第8回 単語、Part 1対策、Part 5対策</p> <p>第9回 進捗調整/Review/弱点強化</p> <p>第10回 単語、Part 3対策、Part 7対策</p> <p>第11回 進捗調整/Review/弱点強化</p> <p>第12回 リスニングPart3②、リーディングPart7①</p> <p>第13回 リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前総まとめ</p> <p>第14回 リーディングテスト演習及び解答解説</p> <p>第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試</p> <p>著者： 早川幸治+ロス・タロック</p> <p>出版社： 語研</p> <p>出版年： 2016年</p> <p>ISBN： 9.78488E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( 30 )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( 30 )</p> <p>上記に加えて期末英語テスト20%</p> <p>小テスト ( 20 )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I B <c>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 クーラン, コーリ	
テーマ	Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)
授業の到達目標	Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用する事ができる。)
授業の概要	·Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.
準備学習(予習・復習)	Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A) 名前を聞く・教える</p> <p>第3回 Unit 1 (B) スペルを聞く・教える</p> <p>第4回 Unit 2 (A) 出身・国籍について話す</p> <p>第5回 Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する</p> <p>第6回 Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す</p> <p>第7回 Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す</p> <p>第10回 Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する</p> <p>第11回 Unit 5 (A) インターネット利用について話す</p> <p>第12回 Unit 5 (B) 買い物をする</p> <p>第13回 Unit 6 (A) 職業・仕事について話す</p> <p>第14回 Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9.78052E+12</p> <p>Four Corners, 1, Workbook</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9.78052E+12</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( 30 ) 小テスト ( 20 )</p> <p>授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 20 )</p> <p>参加度 ( 30 )</p> <p>Tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.</p>

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標:発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標:主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、Reading対策:英文の読み方
- 第2回 Listening対策:子音(1) Reading対策:単語の意味を推測(1)
- 第3回 Listening対策:t/dの弱音化 Reading対策:スキヤニング(1)
- 第4回 Listening対策:Listening対策:母音(2) Reading対策:テーマの把握
- 第5回 Listening対策:短縮形(1) Reading対策:単語の位置と成り立ち
- 第6回 復習
- 第7回 Listening対策:ストレス・イントネーション Reading対策:文のエッセンス(2)
- 第8回 Listening対策:単語の音声変化(2) Reading対策:チャンクリーディング(2)
- 第9回 Listening対策:Part1・2総合問題(1) Reading対策:複雑な文章
- 第10回 Part3(会話問題)の問題形式、ポイントを学ぶ ※新形式は補助教材にて紹介
- 第11回 Part4(説明文問題)の問題形式、ポイントを学ぶ ※新形式は補助教材にて紹介
- 第12回 Part5(短文穴埋め問題)の問題形式、ポイントを学ぶ
- 第13回 模擬試験リーディングパート実施・解答
- 第14回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試

著者: 早川幸治+ロス+タロック

出版社: 語研

出版年: 2016年

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 高居 佐紀	
テーマ	
将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成	
授業の到達目標	
TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標:発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標:主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。	
授業の概要	
英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習)	
英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容	
第1回 オリエンテーション、Reading対策:英文の読み方	
第2回 Listening対策:子音(1) Reading対策:単語の意味を推測(1)	
第3回 Listening対策:t/dの弱音化 Reading対策:スキヤニング(1)	
第4回 Listening対策:Listening対策:母音(2) Reading対策:テーマの把握	
第5回 Listening対策:短縮形(1) Reading対策:単語の位置と成り立ち	
第6回 復習	
第7回 Listening対策:ストレス・イントネーション Reading対策:文のエッセンス(2)	
第8回 Listening対策:単語の音声変化(2) Reading対策:チャンクリーディング(2)	
第9回 Listening対策:Part1・2総合問題(1) Reading対策:複雑な文章	
第10回 Part3(会話問題)の問題形式、ポイントを学ぶ ※新形式は補助教材にて紹介	
第11回 Part4(説明文問題)の問題形式、ポイントを学ぶ ※新形式は補助教材にて紹介	
第12回 Part5(短文穴埋め問題)の問題形式、ポイントを学ぶ	
第13回 模擬試験リーディングパート実施・解答	
第14回 授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点	
教科書	
新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試	
著者: 早川幸治+ロス+タロック	
出版社: 語研	
出版年: 2016年	ISBN: 9.78488E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト (20)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (30)	
上記に加えて期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)</p> <p>第8回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)</p> <p>第9回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)</p> <p>第10回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)</p> <p>第11回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)</p> <p>第12回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)</p> <p>第13回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)</p> <p>第14回 Let's act in a play(演じてみよう)</p> <p>第15回 Review (復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。前期は、毎回、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 50 ) 授業中課題 ( 10 ) 授業中発表等 ( 10 ) 参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者	ハスカヴィル, プライアン
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;h&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 スミス, ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ソーソン, マーカス	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Details will be given in class.	
内 容	
第1回	Orientation (オリエンテーション)
第2回	Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)
第3回	Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)
第4回	Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)
第5回	Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝について話す)
第6回	Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)
第7回	Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)
第8回	Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回	Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)
第10回	Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)
第11回	Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)
第12回	Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)
第13回	Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)
第14回	Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)
第15回	Review 2 (後半の復習とまとめ)
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 25 )
授業中課題 ( 25 )	授業中発表等 ( 25 )
参加度 ( 25 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 マルヴィー, アラン	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Details will be given in class.	
内 容	
第1回 Orientation (オリエンテーション)	
第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)	
第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)	
第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)	
第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)	
第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)	
第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)	
第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)	
第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)	
第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)	
第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)	
第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)	
第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)	
第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)	
第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト ( )
授業中課題 (30)	授業中発表等 ( )
参加度 (40)	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;k&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 65 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;I&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フリン, マイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 55 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 45 )

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I B <m>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 40 ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( 10 ) 参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;n&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;O&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 占部 幹也		
テーマ	TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標	TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要	<p>日常生活や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。</p>	
内 容	<p>第1回 Unit 1 Computers and Society (コンピューター社会)  第2回 Unit 2 Business Transaction (ビジネス)  第3回 Unit 3 At the Office (オフィス)  第4回 Unit 4 Cars and Society (車社会)  第5回 Unit 5 Eating and Drinking (食生活)  第6回 Unit 6 Shopping (ショッピング)  第7回 Unit 7 Entertainment (娯楽)  第8回 Unit 8 Accidents &amp; Crimes (事故・犯罪)  第9回 Unit 9 Teaching &amp; Learning (教育・学問)  第10回 Unit 10 Medicine &amp; Hospitals (医療・病院)  第11回 Unit 11 Finance and Banks (金融・銀行)  第12回 Unit 12 Economy and Industry (経済・産業)  第13回 Unit 13 Geography and Travels (地理・旅行)  第14回 Unit 14 Weather and Climate (気象・気候)  第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>Total Strategy for the TOEIC Test  著者： 石井隆之  出版社： 成美堂  出版年： 2006年  ISBN： 9.78479E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( 30 )  授業中課題 ( 0 )  参加度 ( 30 )  上記に加えて学期末英語テスト20%</p> <p>小テスト ( 20 )  授業中発表等 ( 0 )</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;p&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 15 )

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I B <q>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 クーラン, コーリ	
テーマ	Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)
授業の到達目標	Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)
授業の概要	·Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.
準備学習(予習・復習)	Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A) 名前を聞く・教える</p> <p>第3回 Unit 1 (B) スペルを聞く・教える</p> <p>第4回 Unit 2 (A) 出身・国籍について話す</p> <p>第5回 Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する</p> <p>第6回 Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す</p> <p>第7回 Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す</p> <p>第10回 Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する</p> <p>第11回 Unit 5 (A) インターネット利用について話す</p> <p>第12回 Unit 5 (B) 買い物をする</p> <p>第13回 Unit 6 (A) 職業・仕事について話す</p> <p>第14回 Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9.78052E+12</p> <p>Four Corners, 1, Workbook</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9.78052E+12</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( 30 ) 小テスト ( 20 )</p> <p>授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 20 )</p> <p>参加度 ( 30 )</p> <p>Tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.</p>

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語 I B <r>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ヒエタラヒティ, エレキ	
テーマ Oral English with communication focus.	
授業の到達目標 Learn to speak about common topics such as sports, family and entertainment.	
授業の概要 You'll work on dialogue writing and performing projects with a partner. First, you write a conversation together with your partner. Then, your teacher checks your writing and gives you advice. Finally, you give a dialogue performance presentation to your teacher. You will be individually graded on your presentation. NOTE: THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH.	
準備学習(予習・復習) It will be a big help to do work at home, too. Especially when you practice your presentation. On this course you can earn bonus points for extra presentations done. Working at home will help you do that and earn a better grade.	
内 容 第1回 Class introduction. Getting to know each other. Start work on 1st topic "Food" 第2回 Continue work on "Food" 第3回 Finish "Food" 第4回 Start 2nd topic "Japan" 第5回 Finish "Japan" 第6回 Start 3rd topic "Shopping" 第7回 Finish "Shopping" 第8回 Start 4th topic "Music" 第9回 Finish "Music" 第10回 Start 5th topic "Transportation" 第11回 Finish "Transportation" 第12回 Start 6th topic "Work" 第13回 Finish "Work" 第14回 Start 7th topic "Family" 第15回 Finish "Family"	
履修上の注意点 Because of the bonus point system, the harder you work, the higher your final grade will be. You can work at your own pace (speed). You can write and perform the dialogue presentations at a faster pace than in the syllabus.	
教科書 none 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 100 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;s&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者	ハスカヴィル, プライアン
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 30 ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;t&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第9回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第10回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第11回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第12回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第13回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第14回 Let's act in a play(演じてみよう)
- 第15回 Review (復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。前期は、毎回、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 10 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( 50 )  
 授業中発表等 ( 10 )

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語 I B <u>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ソーソン, マーカス	
テーマ Acting English Drama	
授業の到達目標 This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.	
授業の概要 The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) B5 Notebook Journals will be required homework and research	
内 容 第1回 Introductions 第2回 Journal notebook, week one – Story Research 第3回 Week 2 Story Characters 第4回 Episode 3 Monsters – New words 第5回 Journal week 4 Quiz – Morning After 第6回 Acting Scene 5 Q and A 第7回 Natural pronunciation practice 第8回 Episode7 Acting scene with students and Teacher 第9回 Journals week 8 – Story Summary 第10回 Story Questions – Vocabulary Test 第11回 Final Journal Notebook week 10 第12回 Favorite Actor Report – Presentation 第13回 Final Story notes– Q and A 第14回 Heat wave Idioms and Dialogues 第15回 Final Papers and Discussion	
履修上の注意点 You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.	
教科書 Acting English Drama 著者: Marcus Thorson 出版社: Sun Publishing 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験・レポート ( 40 ) 授業中課題 ( 15 ) 参加度 ( 15 )	小テスト ( 15 ) 授業中発表等 ( 15 )





## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;w&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、Part 1対策、宿題説明
- 第2回 単語、Part 3対策、Part 6対策
- 第3回 進捗調整/Review/弱点強化
- 第4回 単語、Part 3対策、Part 5対策
- 第5回 進捗調整/Review/弱点強化
- 第6回 単語、Part 3対策、Part 5対策
- 第7回 進捗調整/Review/弱点強化
- 第8回 単語、Part 1対策、Part 5対策
- 第9回 進捗調整/Review/弱点強化
- 第10回 単語、Part 3対策、Part 7対策
- 第11回 進捗調整/Review/弱点強化
- 第12回 リスニングPart3②、リーディングPart7①
- 第13回 リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前総まとめ
- 第14回 リーディングテスト演習及び解答解説
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試

著者： 早川幸治+ロス・タロック

出版社： 語研

出版年： 2016年

ISBN： 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

上記に加えて期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;x&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 スミス, ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;y&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 フリン, マイケル	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Do assigned homework, preview and review textbook.	
内 容	
第1回 Orientation (オリエンテーション)	
第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)	
第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)	
第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)	
第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)	
第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)	
第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)	
第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)	
第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)	
第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)	
第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)	
第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)	
第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)	
第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)	
第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 55 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 45 )	
Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;z&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ファゼカシユ, パラージュ	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Details will be given in class.	
内 容	
第1回 Orientation (オリエンテーション)	
第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)	
第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)	
第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)	
第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)	
第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)	
第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)	
第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)	
第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)	
第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)	
第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)	
第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)	
第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)	
第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)	
第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 10 )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;Ha&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) People from around the World, (Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Last of the Woman Divers」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong, (Writing/Speaking) 様々なコミュニティの日常生活を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Moneky Business」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler, (Writing/Speaking) 旅行のアドバイス

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Beagle Patrol」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food, (Writing/Speaking) 食べ物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Dangerous Dinner」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Cheese-Rolling Races」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire, (Writing/Speaking) 旅行ブログを書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Machu Picchu」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 15 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;Hb&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フリン, マイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 55 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 45 )

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I B <Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ソーソン, マーカス

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内 容

- 第1回 Introductions
- 第2回 Journal notebook, week one – Story Research
- 第3回 Week 2 Story Characters
- 第4回 Episode 3 Monsters – New words
- 第5回 Journal week 4 Quiz – Morning After
- 第6回 Acting Scene 5 Q and A
- 第7回 Natural pronunciation practice
- 第8回 Episode7 Acting scene with students and Teacher
- 第9回 Journals week 8 – Story Summary
- 第10回 Story Questions – Vocabulary Test
- 第11回 Final Journal Notebook week 10
- 第12回 Favorite Actor Report – Presentation
- 第13回 Final Story notes– Q and A
- 第14回 Heat wave Idioms and Dialogues
- 第15回 Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama

著者: Marcus Thorson

出版社: Sun Publishing

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;Hd&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者	ハスカヴィル, プライアン
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations. (人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A): Meet People (初対面・自己紹介)</p> <p>第3回 Unit 1 (B/C): Ask For and Give Personal Information (個人の情報を求める、与える)</p> <p>第4回 Unit 2 (A/B): Talk About a Typical Day (典型的な一日について話す)</p> <p>第5回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival (祭り・祝いについて話す)</p> <p>第6回 Unit 3 (A/B): Ask For and Give Personal Travel Information (旅行情報を求める、与える)</p> <p>第7回 Unit 3 (C): Give Travel Advice (旅行についてアドバイスする)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A/B): Give a Recipe (レシピを説明する)</p> <p>第10回 Unit 4 (C): Talk About Diets (食事について話す)</p> <p>第11回 Unit 5 (A/B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities (日課を比較する)</p> <p>第12回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports (好きなスポーツについて話す)</p> <p>第13回 Unit 6 (A/B): Discuss Past Vacations (過去の休暇について話す)</p> <p>第14回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience (個人の体験を話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 30 ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 英語 I B &lt;R&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 杉山 泰	

テーマ

基礎英語 (Basic English)、特に「基礎動詞＋前置詞」というやさしい英語で日本文化を伝えよう

授業の到達目標

中学校で学んだ基礎英語(850語)で、日本文化を伝えることができる。基礎動詞 (go/come,give/get,let/keep,put/take,make,have,do,sayなど)を徹底的に利用して、やさしい英語で自由に日本文化を伝える訓練をしていきたい。

授業の概要

教科書の問題を最初からやっていく。毎回「プリント」を配布して、解答してもらうので、毎回の参加が大事になる。

準備学習(予習・復習)

毎回プリントを提出し、その添削をして点数をつけて返却するので、返却されたプリントを次回までに完全なものにしておく必要がある。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 一語一文で英語は通じる。(No work, no money.のアジアの英語も役に立つ。Long time, no see.の意味は?)
- 第2回 Lesson 2 動詞+er=～する人、～する道具(I am a mind reader.=君の心が読めるんだ)
- 第3回 Lesson 3 動詞+...ing=(現在分詞と動名詞の違い=I am feeling well.とI gave up smoking.の違いは?)
- 第4回 Lesson 4 動詞+ed=過去分詞(I love fried rice and smoked salmon.とAn A-bomb was dropped on Hiroshima.)
- 第5回 Lesson 5 be動詞+形容詞(I am pleased to see you.とIt is pleasant to get all my credits.)
- 第6回 Lesson 6 InとOut(in controlとout of controlの違いは? 命令文Get in my car.とGet out of the room.の違いは?)
- 第7回 Lesson 7 OnとOff(Is the switch on? No, it's off.)
- 第8回 Lesson 8 Haveの構文(We had nothing to do with it.の構文)
- 第9回 Lesson 9 Comeの構文(Dinner is ready. I am coming.=今行きます=近づいていくニュアンス)
- 第10回 Lesson 10 Goの構文(Dinner is ready. I am going.=用事があるから出かけます=離れていくニュアンス)
- 第11回 Lesson 11 Takeの構文(I'll take this.=これください)
- 第12回 Lesson 12 Putの構文(Don't put off till tomorrow what you can do today.)
- 第13回 Lesson 13 Giveの構文(魔法の杖のGiveとGet=on/offやin/outを用いたイディオムの意味は?)
- 第14回 Lesson 14 Getの構文(基礎動詞=go-come / let-keep / put- take / give-get / make / have / do / sayを使いこなそう)
- 第15回 Lesson 15 Makeの構文(基礎動詞を用いて、履歴書で自己アピール文を書こう)

履修上の注意点

毎回教科書の説明と問題を仕上げた後で、プリントをやってもらおう。授業への参加が重視される。

教科書

Putting Common Verbs to Work

著者: 鳥飼慎一郎

出版社: 朝日出版社

出版年: 2010

ISBN:

参考書

英語の壁

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 文春新書

出版年: 2003

ISBN:

日本語教のすすめ

著者: 鈴木孝夫

出版社: 新潮新書

出版年: 2009

ISBN:

J実践日本人の英語

著者： マーク・ピーターセン

出版社： 岩波新書

出版年： 2013

ISBN:

日本語は敬語があつて主語がないん

著者： 金谷武洋

出版社： 光文社新書

出版年： 2010

ISBN:

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20% )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

毎回の出席と毎回の提出物を最大限重視する。毎回授業に参加できない場合は、各自教科書の問題を自宅でやり、プリントをもらって提出すれば、遅れの出席として評価する場合がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **英語 I B <Tb>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定 員 40

履修条件 クラス指定

担当者 ヒエタラヒティ, エレキ

テーマ

Oral English with communication focus.

授業の到達目標

Learn to speak about common topics such as sports, family and entertainment.

授業の概要

You'll work on dialogue writing and performing projects with a partner. First, you write a conversation together with your partner. Then, your teacher checks your writing and gives you advice. Finally, you give a dialogue performance presentation to your teacher. You will be individually graded on your presentation. NOTE: THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH.

準備学習(予習・復習)

It will be a big help to do work at home, too. Especially when you practice your presentation. On this course you can earn bonus points for extra presentations done. Working at home will help you do that and earn a better grade.

内 容

- 第1回 Class introduction. Getting to know each other. Start work on 1st topic "Food"
- 第2回 Continue work on "Food"
- 第3回 Finish "Food"
- 第4回 Start 2nd topic "Japan"
- 第5回 Finish "Japan"
- 第6回 Start 3rd topic "Shopping"
- 第7回 Finish "Shopping"
- 第8回 Start 4th topic "Music"
- 第9回 Finish "Music"
- 第10回 Start 5th topic "Transportation"
- 第11回 Finish "Transportation"
- 第12回 Start 6th topic "Work"
- 第13回 Finish "Work"
- 第14回 Start 7th topic "Family"
- 第15回 Finish "Family"

履修上の注意点

Because of the bonus point system, the harder you work, the higher your final grade will be. You can work at your own pace (speed). You can write and perform the dialogue presentations at a faster pace than in the syllabus.

教科書

none

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 100 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ディーグル, ジェームス	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Details will be given in class.	
内 容	
第1回	Orientation (オリエンテーション)
第2回	Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)
第3回	Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回	Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)
第5回	Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の詳細を予測する)
第6回	Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)
第7回	Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回	Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回	Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)
第10回	Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回	Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)
第12回	Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)
第13回	Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回	Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回	Review 2 (後半の復習とまとめ)
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。Must not miss more than 4 classes to pass the course.	
教科書	
World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (20)	授業中発表等 (15)
参加度 (45)	
上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。	
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等) 第2回 単語、Part 1対策, Part 2対策, Part 6対策 第3回 単語、Part 4対策, Part 7対策 第4回 リスニングPart3②、リーディングPart7① 第5回 リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前まとめ 第6回 リーディングテスト演習及び解答解説 第7回 単語、Part 3対策, Part 5対策 第8回 単語、Part 4対策, Part 7対策 第9回 単語、Part 2対策, Part 6対策 第10回 進度調整/Review/弱点強化 第11回 単語、Part 3対策, Part 7対策 第12回 単語、Part 2対策, Part 6対策 第13回 単語、Part 4対策, Part 7対策 第14回 リスニングテスト演習及び解答解説 第15回 リーディングテスト解説	
履修上の注意点	
教科書 ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire 著者: ECC 出版社: ECC 出版年: 2016年 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート(30) 小テスト(20) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)  
 第2回 Unit 7 (C) 食習慣について話す。  
 第3回 Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。  
 第4回 Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。  
 第5回 Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。  
 第6回 Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。  
 第7回 Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。  
 第8回 前半の復習とまとめ  
 第9回 Unit 10 (C) 日課を話す(過去)。  
 第10回 Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。  
 第11回 Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。  
 第12回 Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。  
 第13回 Unit 12 (C) 計画について話し合う。  
 第14回 Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。  
 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等)
- 第2回 単語、Part 2対策, Part 5対策
- 第3回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第4回 リスニングPart3②、リーディングPart7①
- 第5回 リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前まとめ
- 第6回 リーディングテスト演習及び解答解説
- 第7回 単語、Part 2対策, Part 7対策
- 第8回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第9回 単語、Part 3対策, Part 5対策
- 第10回 進度調整/Review/弱点強化
- 第11回 単語、Part 1対策, Part 5対策
- 第12回 単語、Part 2対策, Part 7対策
- 第13回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第14回 リスニングテスト演習及び解答解説
- 第15回 リーディングテスト解説続き

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;e&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等)
- 第2回 単語、Part 2対策, Part 5対策
- 第3回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第4回 リスニングPart3②、リーディングPart7①
- 第5回 リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前まとめ
- 第6回 リーディングテスト演習及び解答解説
- 第7回 単語、Part 2対策, Part 7対策
- 第8回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第9回 単語、Part 3対策, Part 5対策
- 第10回 進度調整/Review/弱点強化
- 第11回 単語、Part 1対策, Part 5対策
- 第12回 単語、Part 2対策, Part 7対策
- 第13回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第14回 リスニングテスト演習及び解答解説
- 第15回 リーディングテスト解説続き

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;f&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 田中 美和子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション&Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
- 第2回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Danny's Challenge
- 第3回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
- 第4回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Traditional Silk-Making
- 第5回 Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A.、(Writing/Speaking) 食習慣について書く
- 第6回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Slow Food
- 第7回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第8回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Farley, the Red Panda
- 第9回 Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
- 第10回 Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル Making a Thai Boxing Champion
- 第11回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
- 第12回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Monarch Migration
- 第13回 英語を日本語にしてみよう 1
- 第14回 英語を日本語にしてみよう 2
- 第15回 復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。学生カードを忘れた場合には、その授業が終わるまでに、報告をしてください。なお、前期と同じように、遅刻3回で参加点-1となりますので、ご注意ください。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 20 )

上記に加えて学期末英語テスト20%が入ります。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;h&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A.、(Writing/Speaking) 食習慣について書く

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る

第12回 Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 原 俊樹	
テーマ	
国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標	
・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。	
授業の概要	
・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動 ・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習)	
授業内での指示に従うこと	
内 容	
第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第3回	Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」
第4回	Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る
第5回	Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」
第6回	Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第7回	Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」
第8回	前半の復習とまとめ
第9回	Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第10回	Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」
第11回	Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る
第12回	Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」
第13回	Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第14回	Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」
第15回	後半の復習とまとめ
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。座っているだけにならないようにしなさい。辞書を活用しなさい。	
教科書	
World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (40)	小テスト (15)
授業中課題 (10)	授業中発表等 ( )
参加度 (15)	
上記に加えて学期末英語テスト20%。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;J&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (25)

小テスト (25)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <k>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 スミス, ジョン	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)</p> <p>第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)</p> <p>第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)</p> <p>第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の詳細を予測する)</p> <p>第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)</p> <p>第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)</p> <p>第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)</p> <p>第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)</p> <p>第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)</p> <p>第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)</p> <p>第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート (30) 小テスト (20) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA&lt;I&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;m&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
 ・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 20 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;n&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 スミス, ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Details will be given in class.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)  
 第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)  
 第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)  
 第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)  
 第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の詳細を予測する)  
 第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)  
 第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)  
 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)  
 第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)  
 第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)  
 第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)  
 第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)  
 第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)  
 第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)  
 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;○&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ	
「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。	
授業の到達目標	
・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。	
授業の概要	
Pre-reading, Reading, Post-readingの3つのパートでリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。	
準備学習(予習・復習)	
英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容	
第1回	Unit8 Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales
第2回	Unit8 世界的な禁煙傾向、タバコ産業の将来は-キューバ発
第3回	Unit9 Global Warming Claiming Next Victim:Andes Water
第4回	Unit9 溶ける氷河におびやかされる人々の生活-ボリビア発
第5回	Unit10 Aborigines Still Rely on Bush Medicines for Remedies
第6回	Unit10 アボリジニの命の綱、伝統的な薬草医療-オーストラリア発
第7回	Unit11 African Farmers Seek Ways to Survive Droughts
第8回	Unit11 温暖化で干ばつ続き⇒早い、強い作物に栽培転換-ザンビア発
第9回	Unit12 Study:Fruity Cocktails May Be Good for Health
第10回	Unit12 フルーツカクテルで健康に？アルコールで抗酸化作用の効果アップか-アメリカ発
第11回	Unit13 Rising Seas May Force Island Nations to Evacuate
第12回	Unit13 住民を国外へ追いやる海面上昇-モルディブ発
第13回	Unit14 Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating
第14回	Unit15 Planned Chinese City wants all Eco-Friendly Power
第15回	総復習
履修上の注意点	
教科書	
Healing Our World	
著者： 小笠原 真司 Pino Cutrone	
出版社： 南雲堂	
出版年： 2010	ISBN： 9.78452E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (30)	小テスト (20)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (30)	
上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;p&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ディーグル, ジェームス	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	·Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)</p> <p>第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)</p> <p>第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)</p> <p>第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)</p> <p>第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)</p> <p>第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)</p> <p>第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)</p> <p>第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)</p> <p>第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)</p> <p>第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)</p> <p>第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。Must not miss more than 4 classes to pass the course
教科書	World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 20 ) 授業中発表等 ( 15 ) 参加度 ( 45 ) 上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;q&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)  
 第2回 Unit 7 (C) 食習慣について話す。  
 第3回 Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。  
 第4回 Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。  
 第5回 Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。  
 第6回 Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。  
 第7回 Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。  
 第8回 前半の復習とまとめ  
 第9回 Unit 10 (C) 日課を話す(過去)。  
 第10回 Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。  
 第11回 Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。  
 第12回 Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。  
 第13回 Unit 12 (C) 計画について話し合う。  
 第14回 Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。  
 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;r&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 小川 享子	
テーマ	
TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標	
前期に引き続き、TOEICのリスニング・リーディングパートに対応できる語彙・文法力、リスニング力、読解力の養成を目的とする。	
授業の概要	
TOEICテストの問題形式や出題傾向を念頭に置きながら、各パートの問題演習を行います。語彙については毎回単語テストを行うのでしっかりと準備をしていく必要があります。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICテストの模擬演習を行います。	
準備学習(予習・復習)	
語彙、文法事項の予習復習。リスニング教材の聞き直し。	
内 容	
第1回	Unit 9 Advertising
第2回	Unit 10 Meetings
第3回	進度調整
第4回	Unit 11 Finance
第5回	Unit 12 Office
第6回	進度調整
第7回	Unit 13 Daily Life
第8回	Unit 14 Sales & Marketing
第9回	進度調整
第10回	Unit 15 Events
第11回	進度調整
第12回	模擬演習
第13回	模擬演習
第14回	模擬演習
第15回	模擬演習
履修上の注意点	
3分の2の出席を必要とする。辞書を持ってくること。	
教科書	
The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test (前期から継続)	
著者:	早川幸治他
出版社:	金星堂
出版年:	2017
	ISBN: 9.78476E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (25%)	小テスト (25%)
授業中課題 (15%)	授業中発表等 ( )
参加度 (15%)	
上記に加えて学期末英語テスト20% 試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;s&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;t&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ	
国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標	
・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。	
授業の概要	
・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習)	
授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。	
内 容	
第1回	オリエンテーション&Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第2回	Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Danny's Challenge
第3回	Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第4回	Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Traditional Silk-Making
第5回	Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A.、(Writing/Speaking) 食習慣について書く
第6回	Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Slow Food
第7回	Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第8回	Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Farley, the Red Panda
第9回	Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第10回	Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル Making a Thai Boxing Champion
第11回	Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第12回	Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Monarch Migration
第13回	英語を日本語にしてみよう 1
第14回	英語を日本語にしてみよう 2
第15回	復習とまとめ
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。学生カードを忘れた場合には、その授業が終わるまでに、報告をしてください。なお、前期と同じように、遅刻3回で参加点-1となりますので、ご注意ください。	
教科書	
World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 10 )
参加度 ( 20 )	
上記に加えて学期末英語テスト20%が入ります。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;u&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 原 俊樹		
テーマ	英語を普段使いにしよう	
授業の到達目標	I Aと同様に基本的な英語の理解・表現に必要な語彙・文法的知識・語法を身につける。	
授業の概要	基本的にはテキストの各ユニットに沿って英語学習のための基礎力をつける。中学・高校で学んできたいわゆる「学校英作文法」を今一度体系的に確認・拡充する。	
準備学習(予習・復習)	予習・復習を確実にやりこなすこと。	
内 容	<p>第1回 テキスト前半部(I A範囲)の学習内容の整理と確認。基礎力判定テスト。</p> <p>第2回 英文の基本表現の確認Ⅰ:英文の成り立ち・主語と述語動詞・態・時制。</p> <p>第3回 英文の基本表現の確認Ⅱ:文の要素と5文型・修飾語句。</p> <p>第4回 叙法の確認:命令法・直説法・仮定法</p> <p>第5回 助動詞の用法1</p> <p>第6回 助動詞の用法2</p> <p>第7回 不定詞、動名詞と分詞</p> <p>第8回 話法1</p> <p>第9回 話法2</p> <p>第10回 比較:構文と級変化</p> <p>第11回 複雑な構造を持つ文の理解1:分詞構文</p> <p>第12回 複雑な構造を持つ文の理解2:接続語句と重文・複文</p> <p>第13回 否定:部分否定と全否定</p> <p>第14回 疑問詞と疑問文</p> <p>第15回 後期学習事項のまとめと確認</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>LIFESAVER Basic English in Medical Situation</p> <p>著者: Maki Inoue/ Toshiya Sato</p> <p>出版社: MACMILLANLANGUAGEHOUSE</p> <p>出版年: 2005 ISBN: 9.78478E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (40%) 小テスト (10%)</p> <p>授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%)</p> <p>参加度 (10%)</p> <p>上記に加えて学期末英語テスト20%</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;v&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

医療やhealth careの題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 unit7 The Mystery of Dreams and Dreaming
- 第2回 Unit7 夢のミステリー
- 第3回 Unit8 Headache
- 第4回 Unit8 頭痛
- 第5回 Useful Expressions4: Examination Language and General Exam Instructions
- 第6回 Unit9 Saving Preterm Babies with an idea from Nature
- 第7回 Unit9 カンガルーからヒントを得た未熟児看護法
- 第8回 Unit10 Looking for New Uses for spices in the Medical Lab
- 第9回 Unit10 スパイスの新たな医学的可能性
- 第10回 Useful Expressions5: Emergency Room
- 第11回 Unit11 Feeling No Pain: The World of Anesthesia
- 第12回 Unit11 麻酔の限界
- 第13回 Unit11 How Autoimmune Diseases Attack the Body's Defenses
- 第14回 Unit11 自己免疫疾患・ループスの検証 Useful Expressions6: Medication
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Caregiver

著者: 近藤進 Gerald R.Gordon

出版社: 朝日出版社

出版年: 2010

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;w&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等)
- 第2回 単語、Part 1対策, Part 2対策, Part 6対策
- 第3回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第4回 リスニングPart3②、リーディングPart7①
- 第5回 リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前まとめ
- 第6回 リーディングテスト演習及び解答解説
- 第7回 単語、Part 3対策, Part 5対策
- 第8回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第9回 単語、Part 2対策, Part 6対策
- 第10回 進度調整/Review/弱点強化
- 第11回 単語、Part 3対策, Part 7対策
- 第12回 単語、Part 2対策, Part 6対策
- 第13回 単語、Part 4対策, Part 7対策
- 第14回 リスニングテスト演習及び解答解説
- 第15回 リーディングテスト解説

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(30)

小テスト(20)

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;x&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A.、(Writing/Speaking) 食習慣について書く

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る

第12回 Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;y&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 清水	
テーマ 国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標 ・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。	
授業の概要 ・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」 第6回 Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A.、(Writing/Speaking) 食習慣について書く 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」 第8回 前半の復習とまとめ 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る 第12回 Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」 第15回 後半の復習とまとめ	
履修上の注意点 3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書 World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (40) 小テスト (10) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;z&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
 ・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 20 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;Ha&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ディーグル, ジェームス	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Details will be given in class.	
内 容	
第1回	Orientation (オリエンテーション)
第2回	Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)
第3回	Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回	Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)
第5回	Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)
第6回	Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)
第7回	Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回	Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回	Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)
第10回	Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回	Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)
第12回	Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)
第13回	Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回	Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回	Review 2 (後半の復習とまとめ)
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。Must not miss more than 4 classes to pass the course	
教科書	
World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 15 )
参加度 ( 45 )	
上記に加えて学期末英語テスト20%	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語ⅡA<Hb>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 清水	
テーマ	
国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標	
・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。	
授業の概要	
・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習)	
事前に英単語は調べておくこと。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports – Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す	
第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」	
第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る	
第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」	
第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す	
第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」	
第8回 前半の復習とまとめ	
第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す	
第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」	
第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る	
第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」	
第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる	
第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」	
第15回 後半の復習とまとめ	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。	
教科書	
World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (40)	小テスト (10)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (10)
参加度 (10)	
上記に加えて学期末英語テスト20%	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語ⅡA<He>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するために必要な文法演習も交えながら、速読、精読を行う。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。自宅学習としての速読の課題有り。

準備学習(予習・復習)

課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内 容

- 第1回 Chapter6
- 第2回 Chapter6
- 第3回 Chapter6
- 第4回 Chapter8
- 第5回 Chapter8
- 第6回 Chapter8
- 第7回 復習
- 第8回 Chapter11
- 第9回 Chapter11
- 第10回 Chapter11
- 第11回 Chapter11
- 第12回 Chapter12
- 第13回 Chapter12
- 第14回 Chapter12
- 第15回 復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用。

教科書

Issues for Today

著者: Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare

出版社: HEINLE CENGAGE Learning

出版年:

ISBN: 9.78111E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA&lt;Hd&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。  
 ・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
 ・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 10 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA&lt;R&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 杉山 泰

テーマ

Cultural Literacy(文化的基礎知識)を生かして学ぶ英語

授業の到達目標

「パン」や「アルバイト」が大和言葉の日本語でないことは誰でも知っているが、「フリーター」だとか「カンニング」を英語だと勘違いしてはならないだろうか。今は日本語は英語の基礎知識なしにはAKB48も正しい発音すらできない。筆記体の書き方から始まり、大學生として当然知っておくべき日英語対照基礎英文法を毎回教科書の問題と、プリントを仕上げることで学んでいきたい。

授業の概要

毎回が手作業なので、教科書と辞書を持ってきて授業中に教科書の問題を解き、応用のプリント問題を仕上げてもらう。翌週添削して返却する。

準備学習(予習・復習)

教科書の問題を自宅でやっておけば、毎回のプリントを仕上げる時間が短くなり、授業をスムーズに済ませることが可能となる。

内 容

- 第1回 自己紹介。文化的基礎知識の説明と「氏名カード」の記入。  
 第2回 Lesson 1 アルファベットの不思議(パスポートのサインとLanding cardへのサインを筆記体で書いてもらう)  
 第3回 Lesson 2 「私」からの発想(S+V+O構文による、現在/過去/未来の文)  
 第4回 Lesson 3 「動名詞構文」(Megafeps=Would you mind opening the window?)  
 第5回 Lesson 4 客観的存在表現There is構文(There is no problem of ...ing)  
 第6回 Lesson 5 The sooner, the better.の比較構文  
 第7回 Lesson 6 I am your mind reader. (S+V+C) 構文  
 第8回 Lesson 7 be動詞と「不定詞」構文(I am pleased to see you.構文)  
 第9回 Lesson 8 S+V+O構文と受動態(An A-bomb was dropped on Hiroshima.)  
 第10回 Lesson 9 英語の時制と受動態(A big earthquake hit the Fukushima Daiichi nuke stations on 11 March in 2011.)  
 第11回 Lesson 10 S+V+C構文と比較級(Rock is stronger than scissors. Scissors are stronger than paper. Paper is...どこがおかしい?)  
 第12回 Lesson 11 have動詞を用いた役に立つ表現(The room had a good view of Mt. Fuji.)  
 第13回 Lesson 12 現在完了形(Have you eaten deep-fried vegetables?)  
 第14回 Lesson 13 仮定法(If the world were a village of 100 people, ...)  
 第15回 Lesson 14 Why-Because theoryの英語表現(Why do Japanese women look so cute and young?)

履修上の注意点

毎回最後にプリントを配布し、仕上げてもらうので、辞書が必要。翌週添削し返却するので、プリントを提出していないと出席にならないので要注意。

教科書

Do You Know This?

著者: 杉山泰ほか

出版社: 朝日出版社

出版年: 2005年

ISBN:

参考書

「イギリス社会」入門

著者: コリン・ジョイス

出版社: NHK出版

出版年: 2011

ISBN:

英語化は愚民化

著者: 施光恒

出版社: 集英社新書

出版年: 2015

ISBN:

実践日本人の英語

著者： マーク・ピーターセン

出版社： 岩波新書

出版年： 2013

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

これに加えて、後期末英語テスト20%。毎回プリントを仕上げてもらうので、欠席した場合は必ず次週に「プリント」をもらい、仕上げて提出すること。その場合は遅れの出席として評価する場合がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡA &lt;Tb&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

前期に引き続き、TOEICのリスニング・リーディングパートに対応できる語彙・文法力、リスニング力、読解力の養成を目的とする。

授業の概要

TOEICテストの問題形式や出題傾向を念頭に置きながら、各パートの問題演習を行います。語彙については毎回単語テストを行うのでしっかりと準備をしていく必要があります。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICテストの模擬演習を行います。

準備学習(予習・復習)

語彙、文法事項の予習復習。リスニング教材の聞き直し。

内 容

- 第1回 Unit 9 Advertising
- 第2回 Unit 10 Meetings
- 第3回 進度調整
- 第4回 Unit 11 Finance
- 第5回 Unit 12 Offices
- 第6回 進度調整
- 第7回 Unit 13 Daily Life
- 第8回 Unit 14 Sales & Marketing
- 第9回 進度調整
- 第10回 Unit 15 Events
- 第11回 進度調整
- 第12回 模擬演習
- 第13回 模擬演習
- 第14回 模擬演習
- 第15回 模擬演習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくる。

教科書

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test (前期から継続)

著者: 早川幸治他

出版社: 金星堂

出版年: 2017

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (25%)

小テスト (25%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 ( )

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20% 試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 5 )

参加度 ( 15 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。	
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション、Part 5対策、宿題説明 第2回 単語、Part 3対策、Part 7対策 第3回 リスニングPart3①、リーディングPart6 第4回 リスニングPart4①、リーディングPart7② 第5回 リスニングテスト演習及び解答解説 第6回 リーディングテスト解説続き 第7回 単語、Part 3対策、Part 6対策 第8回 単語、Part 1対策、Part 5対策 第9回 単語、Part 3対策、Part 7対策 第10回 単語、Part 2対策、Part 5対策 第11回 単語、Part 4対策、Part 5対策 第12回 単語、Part 3対策、Part 7対策 第13回 模試前総まとめ 第14回 リーディングテスト演習及び解答 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点	
教科書 はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式対応 著者: 入江 泉 出版社: 旺文社 出版年: 2016 ISBN: 9.78401E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト (20) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 クーラン, コーリ	
テーマ	
Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)	
授業の到達目標	
Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用する事ができる。)	
授業の概要	
·Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習)	
Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.	
内 容	
第1回 Orientation (オリエンテーション)	
第2回 Unit 7 (A) 食事を描写する	
第3回 Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる	
第4回 Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する	
第5回 Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる	
第6回 Unit 9 (A) 今していることを述べる	
第7回 Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う	
第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)	
第9回 Unit 10 (A) 先週末について話す	
第10回 Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す	
第11回 Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する	
第12回 Unit 11 (B) 人の話に反応する	
第13回 Unit 12 (A) 予定について話す	
第14回 Unit 12 (B) 招待に応じる・断る	
第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)	
履修上の注意点	
教科書	
Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM	
著者:	Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:	Cambridge University Press
出版年:	2013
ISBN:	9.78052E+12
Four Corners, 1, Workbook	
著者:	Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:	Cambridge University Press
出版年:	2013
ISBN:	9.78052E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 20 )	小テスト ( 20 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 20 )	
上記に加えて学期末英語テスト20% In class tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、Part 1対策、宿題説明
- 第2回 単語、Part 3対策、Part 6対策
- 第3回 リスニングPart3①、リーディングPart6
- 第4回 リスニングPart4①、リーディングPart7②
- 第5回 リスニングテスト演習及び解答解説
- 第6回 リーディングテスト解説続き
- 第7回 単語、Part 3対策、Part 5対策
- 第8回 単語、Part 2対策、Part 5対策
- 第9回 単語、Part 1対策、Part 5対策
- 第10回 単語、Part 2対策、Part 5対策
- 第11回 単語、Part 4対策、Part 6対策
- 第12回 単語、Part 3対策、Part 7対策
- 第13回 模試前総まとめ
- 第14回 リーディングテスト演習及び解答解説
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式対応

著者: 入江 泉

出版社: 旺文社

出版年: 2016

ISBN: 9.78401E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;e&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、Part 1対策、宿題説明
- 第2回 単語、Part 3対策、Part 6対策
- 第3回 リスニングPart3①、リーディングPart6
- 第4回 リスニングPart4①、リーディングPart7②
- 第5回 リスニングテスト演習及び解答解説
- 第6回 リーディングテスト解説続き
- 第7回 単語、Part 3対策、Part 5対策
- 第8回 単語、Part 2対策、Part 5対策
- 第9回 単語、Part 1対策、Part 5対策
- 第10回 単語、Part 2対策、Part 5対策
- 第11回 単語、Part 4対策、Part 6対策
- 第12回 単語、Part 3対策、Part 7対策
- 第13回 模試前総まとめ
- 第14回 リーディングテスト演習及び解答解説
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式対応

著者: 入江 泉

出版社: 旺文社

出版年: 2016

ISBN: 9.78401E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション) Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第2回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第3回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第4回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第5回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第6回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第7回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第8回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第9回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第10回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第11回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第12回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第13回 Let's act in a play 2-1
- 第14回 Let's act in a play 2-2
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。学生カードを忘れた場合には、その授業が終わるまでに、報告をしてください。なお、前期と同じように、遅刻3回で参加点-1となりますので、ご注意ください。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ハスカヴィル, プライアン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Details will be given in class.

内 容

第1回 Orientation (オリエンテーション)

第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)

第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)

第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)

第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の前想をする)

第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)

第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)

第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)

第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)

第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)

第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)

第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)

第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)

第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)

第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 スミス, ジョン	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Please do all the homework, preview and review the textbook.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)</p> <p>第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)</p> <p>第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)</p> <p>第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)</p> <p>第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)</p> <p>第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)</p> <p>第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)</p> <p>第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)</p> <p>第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)</p> <p>第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)</p> <p>第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code 著者: Martin Milner, 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート (30) 小テスト (10) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ソーソン, マーカス	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Details will be given in class.	
内 容	
第1回	Orientation (オリエンテーション)
第2回	Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)
第3回	Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回	Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)
第5回	Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)
第6回	Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)
第7回	Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回	Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回	Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)
第10回	Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回	Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)
第12回	Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)
第13回	Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回	Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回	Review 2 (後半の復習とまとめ)
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 20 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 20 )	
上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;j&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 マルヴィー, アラン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Details will be given in class.

内 容

第1回 Orientation (オリエンテーション)

第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)

第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)

第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)

第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の詳細を予測する)

第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)

第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)

第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)

第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)

第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)

第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)

第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)

第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)

第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)

第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (25)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (35)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;k&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 55 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB&lt;I&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 フリン, マイケル	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Do assigned homework, preview and review textbook.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)</p> <p>第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)</p> <p>第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)</p> <p>第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)</p> <p>第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)</p> <p>第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)</p> <p>第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)</p> <p>第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)</p> <p>第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)</p> <p>第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)</p> <p>第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 35 ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 45 ) 上記に加えて学期末英語テスト20% Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;m&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Details will be given in class.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)  
 第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)  
 第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)  
 第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)  
 第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の詳細を予測する)  
 第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)  
 第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)  
 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)  
 第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)  
 第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)  
 第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)  
 第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)  
 第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)  
 第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)  
 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 20 )

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;n&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;0&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 占部 幹也		
テーマ	TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標	TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要	<p>日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。</p>	
内 容	<p>第1回 Unit 1 Entertainment 映画や音楽などの娯楽  第2回 Unit 2 Personnel 求人広告や社内人事  第3回 Unit 3 Office Work &amp; Supplies オフィス業務や備品など  第4回 Unit 4 Office Messages 電話やEメールなどのオフィスメッセージ  第5回 Unit 5 Eating Out ランチやパーティーなどの外食  第6回 Unit 6 Technology コンピューターなどの化学技術  第7回 Unit 7 Research &amp; Merchandise Development 調査研究や商品開発  第8回 Unit 8 Finance &amp; Budgets 銀行業務や経理などの財務  第9回 Unit 9 Purchases ショッピングや注文・出荷など  第10回 Unit 10 Manufacturing 工場管理や生産ラインなどの製造  第11回 Unit 11 Marketing &amp; Sales マーケティングや販売  第12回 Unit 12 Travel 交通機関や旅行関連  第13回 Unit 13 Contracts &amp; Negotiations 契約や交渉など  第14回 Unit 14 Housing &amp; Properties 住宅やビルなどの不動産 Unit 15 Health 医療や健康  第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition  著者： 塚野壽一 Rovert VanBenthuyzen  出版社： 成美堂  出版年： 2007 ISBN: 9.78479E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (30) 小テスト (20)  授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)  参加度 (30)  上記に加えて学期末英語テスト20%</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;p&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。  
 ・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
 ・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 5 )

参加度 ( 15 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;q&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 クーラン, コーリ	
テーマ	Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)
授業の到達目標	Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。)
授業の概要	·Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English
準備学習(予習・復習)	Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A) 食事を描写する</p> <p>第3回 Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる</p> <p>第4回 Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する</p> <p>第5回 Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる</p> <p>第6回 Unit 9 (A) 今していることを述べる</p> <p>第7回 Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A) 先週末について話す</p> <p>第10回 Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す</p> <p>第11回 Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する</p> <p>第12回 Unit 11 (B) 人の話に反応する</p> <p>第13回 Unit 12 (A) 予定について話す</p> <p>第14回 Unit 12 (B) 招待に応じる・断る</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **In this semester, performance in class counts as much as in-class tests and quizzes. **20% of your final grade will be determined by an English test given by the university.
教科書	<p>Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9.78052E+12</p> <p>Four Corners, 1, Workbook</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9.78052E+12</p>
参考書	
成績評価	
試験・レポート (20)	小テスト (20)
授業中課題 ( )	授業中発表等 (20)
参加度 (20)	

上記に加えて学期末英語テスト20%

In class tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

---

2017 Syllabus
---------------

科目名 **英語ⅡB** <r>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ヒエタラヒティ, エレキ	
テーマ Oral English with communication focus.	
授業の到達目標 Learn to speak about common topics such as sports, family and entertainment.	
授業の概要 You'll work on dialogue writing and performing projects with a partner. First, you write a conversation together with your partner. Then, your teacher checks your writing and gives you advice. Finally, you give a dialogue performance presentation to your teacher. You will be individually graded on your presentation. NOTE: THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH.	
準備学習(予習・復習) It will be a big help to do work at home, too. Especially when you practice your presentation. On this course you can earn bonus points for extra presentations done. Working at home will help you do that and earn a better grade.	
内 容 第1回 Class introduction. Getting to know each other. Start work on 1st topic "Sports" 第2回 Continue work on "Sports" 第3回 Finish "Sports" 第4回 Start 2nd topic "Home" 第5回 Finish "Home" 第6回 Start 3rd topic "Health" 第7回 Finish "Health" 第8回 Start 4th topic "Entertainment" 第9回 Finish "Entertainment" 第10回 Start 5th topic "Animals" 第11回 Finish "Animals" 第12回 Start 6th topic "Weather" 第13回 Finish "Weather" 第14回 Start 7th topic "The United States" 第15回 Finish "The United States"	
履修上の注意点 Because of the bonus point system, the harder you work, the higher your final grade will be. You can work at your own pace (speed). You can write and perform the dialogue presentations at a faster pace than in the syllabus.	
教科書 none 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( ) 上記に加えて学期末英語テスト20%	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 80 )

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;s&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者	ハスカヴィル, プライアン
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Details will be given in class.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)</p> <p>第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)</p> <p>第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)</p> <p>第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)</p> <p>第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)</p> <p>第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)</p> <p>第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)</p> <p>第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)</p> <p>第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)</p> <p>第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)</p> <p>第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 20 ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 30 ) 上記に加えて学期末英語テスト20%



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;t&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション) Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第2回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第3回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第4回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第5回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第6回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第7回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第8回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第9回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第10回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第11回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第12回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第13回 Let's act in a play 2-1
- 第14回 Let's act in a play 2-2
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%が入ります。

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語ⅡB <u>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ソーソン, マーカス	
テーマ Acting English Drama	
授業の到達目標 This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.	
授業の概要 The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) B5 Notebook Journals will be required homework and research	
内 容 第1回 Summer Holiday – Story Review 第2回 Journal week 1 Episode 12 The Convention 第3回 Story Summary Q and A 第4回 Episode 14 Blinddate 第5回 Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14 第6回 Acting Scene 5 Q and A 第7回 Independence Day – Acting scene 第8回 Journals week 7 Story Summary 第9回 Acting – New Girl Scene 第10回 Story Questions – Vocabulary Test 第11回 Final Journal Notebook week 10 第12回 Episode 19 Four Square 第13回 Final Story notes– Q and A 第14回 Final Episode Destiny – Reports – Presentations 第15回 Final Papers and Discussion	
履修上の注意点 You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.	
教科書 Acting English Drama 著者: Marcus Thorson 出版社: Sun Publishing 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験・レポート (40%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%) 上記に加えて学期末英語テスト20%	小テスト (10%) 授業中発表等 (10%)

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;v&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 高居 佐紀		
テーマ	TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標	TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要	<p>日常生活や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。</p>	
内 容	<p>第1回 Chapter 1 人物の動作、状態  第2回 Chapter 2 名詞の数え方  第3回 Chapter 3 5W1H の疑問文  第4回 Chapter 4 書き手と読み手の推測  第5回 Chapter 5 話し手と聞き手の推測  第6回 Chapter 6 名詞をつくる接頭辞  第7回 Chapter 7 周辺の状況  第8回 Chapter 8 読み手の次の行動を予測  第9回 Chapter 9 依頼の文に対する適切な答え  第10回 Chapter 10 パラフレーズに注意  第11回 Chapter 11 写真の細部に注目  第12回 Chapter 12 助動詞をおさえる  第13回 模擬試験  第14回 模擬試験  第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>Practical Tips for the TOEIC Test  著者： 杉田麻哉 Jeff Smith  出版社： 成美堂  出版年： 2010 ISBN: 9.78479E+12  新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試  著者： 早川幸治+ロス・タロック  出版社： 語研  出版年： 2016 ISBN: 9.78488E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (30) 小テスト (20)  授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)  参加度 (30)  上記に加えて学期末英語テスト20%</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;w&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、Part 5対策、宿題説明
- 第2回 単語、Part 3対策、Part 7対策
- 第3回 リスニングPart3①、リーディングPart6
- 第4回 リスニングPart4①、リーディングPart7②
- 第5回 リスニングテスト演習及び解答解説
- 第6回 リーディングテスト解説続き
- 第7回 単語、Part 3対策、Part 6対策
- 第8回 単語、Part 1対策、Part 5対策
- 第9回 単語、Part 3対策、Part 7対策
- 第10回 単語、Part 2対策、Part 5対策
- 第11回 単語、Part 4対策、Part 5対策
- 第12回 単語、Part 3対策、Part 7対策
- 第13回 模試前総まとめ
- 第14回 リーディングテスト演習及び解答
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式対応

著者: 入江 泉

出版社: 旺文社

出版年: 2016

ISBN: 9.78401E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;x&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 スミス, ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用する事ができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Martin Milner

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;y&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 フリン, マイケル	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Do assigned homework, preview and review textbook.	
内 容	
第1回 Orientation (オリエンテーション)	
第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)	
第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)	
第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)	
第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)	
第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)	
第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)	
第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)	
第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)	
第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)	
第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)	
第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)	
第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)	
第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)	
第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 35 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 45 )	
上記に加えて学期末英語テスト20% Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;z&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ファゼカシユ, パラージュ	
テーマ	
Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	
Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	
Details will be given in class.	
内 容	
第1回	Orientation (オリエンテーション)
第2回	Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)
第3回	Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回	Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)
第5回	Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の前想をする)
第6回	Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)
第7回	Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回	Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回	Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)
第10回	Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回	Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)
第12回	Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)
第13回	Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回	Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回	Review 2 (後半の復習とまとめ)
履修上の注意点	
3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	
World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code	
著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	
出版社: Cengage Learning	
出版年: 2015	ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 10 )	
上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;Ha&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

・コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動  
 ・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業内での指示に従うこと

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?, (Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Wild Animal Trackers」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Future Energy, (Writing/Speaking) 未来について語る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Solar Cooking」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Silk, (Writing/Speaking) 質と価値を評価する

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「How Your T-Shirt Can Make a Difference」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) The Secrets of Long Life, (Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Science of Stress」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements, (Writing/Speaking) 人類の偉大な業績について語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Spacewalk」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness, (Writing/Speaking) お金と幸福を評価する

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「The Missing Snows of Kilimanjaro」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 10 )

授業中発表等 ( 5 )

参加度 ( 15 )

上記に加えて学期末英語テスト20%。



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB &lt;Hb&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 フリン, マイケル	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Do assigned homework, preview and review textbook.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)</p> <p>第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)</p> <p>第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)</p> <p>第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)</p> <p>第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)</p> <p>第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)</p> <p>第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)</p> <p>第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)</p> <p>第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)</p> <p>第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)</p> <p>第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9.78131E+12
参考書	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 35 ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 45 ) 上記に加えて学期末英語テスト20% Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅡB<Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ソーソン, マーカス

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English

準備学習(予習・復習)

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内 容

- 第1回 Summer Holiday – Story Review
- 第2回 Journal week 1 Episode 12 The Convention
- 第3回 Story Summary Q and A
- 第4回 Episode 14 Blinddate
- 第5回 Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14
- 第6回 Acting Scene 5 Q and A
- 第7回 Independence Day – Acting scene
- 第8回 Journals week 7 Story Summary
- 第9回 Acting – New Girl Scene
- 第10回 Story Questions – Vocabulary Test
- 第11回 Final Journal Notebook week 10
- 第12回 Episode 19 Four Square
- 第13回 Final Story notes– Q and A
- 第14回 Final Episode Destiny – Reports – Presentations
- 第15回 Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama

著者: Marcus Thorson

出版社: Sun Publishing

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅡB&lt;Hd&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ハスカヴィル, プライアン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Details will be given in class.

内 容

第1回 Orientation (オリエンテーション)

第2回 Unit 7 (A/B): Talk About Personal Communication, Exchange Contact Information (コミュニケーション手段について話す、連絡先を交換する)

第3回 Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)

第4回 Unit 8 (A/B): Discuss Long-and Short-Term Plans (短期、長期計画について話す)

第5回 Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の詳細を予測する)

第6回 Unit 9 (A/B): Explain Preferences (好みを説明する)

第7回 Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)

第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)

第9回 Unit 10 (A/B): Compare Lifestyles (ライフスタイルを比較する)

第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)

第11回 Unit 11 (A/B): Interview for a Job (就職の面接をする)

第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の業績について話す)

第13回 Unit 12 (A/B): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)

第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)

第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9.78131E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅡB<R>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 杉山 泰	

テーマ

文化的基礎知識(Cultural Literacy)を最大限活かしながら、基礎英語を利用して日本文化を発信していく。

授業の到達目標

日本人が海外に出る場合、まずパスポートが必要だ。このパスポートは北朝鮮を除いてあらゆる国で有効、と書かれている。国連加盟国は193か国、日本語だけでは理解できないことを知れば、第二外国語が必要になってくる。中学校で学んだ基礎英語だけで、日本のことをかなり紹介できる。発信型英語を学び、英語の楽しさを学んでもらう。

授業の概要

テキストの問題をやるだけでなく、毎回プリントを配布し、それを時間内に仕上げてもらおう。翌週添削し返却する。毎回辞書の持参が必要。

準備学習(予習・復習)

添削された「プリント」を毎回手直しておく必要がある。

内 容

- 第1回 英語で自己紹介。「氏名カード」の記入と英語で「履歴書」を書いてもらう。
- 第2回 Lesson 1 There is構文。(京都に何があるのか。京料理を説明できるか?)
- 第3回 Lesson 2 オノマトピア研究(「春の海ひねもすのたりのたりかな」を英語で訳せるか?)
- 第4回 Lesson 3 「こ・そ・あ・ど体系の日本語」の英訳は?
- 第5回 Lesson 4 能動態と受動態(I am excited.とSumo is exciting.の違いは?)
- 第6回 Lesson 5 同格のthat(I have a feeling that...の構文)
- 第7回 Lesson 6 現在分詞と過去分詞(「現在進行形」と「受動態」と「現在完了形」)
- 第8回 Lesson 7 分詞構文(接続詞がなくても文がつながる)
- 第9回 Lesson 8 仮定法(起こりえないことのシュミレーションが可能)
- 第10回 Lesson 9 接続詞(It is ...that...の3つの構文)
- 第11回 Lesson 10 形容詞の研究(光っ休のない日本語)
- 第12回 Lesson 11 動名詞構文(I have fun visiting the U.K.構文)
- 第13回 Lesson 12 動詞+er=～する人(もの)構文
- 第14回 Lesson 13 前置詞と後置詞(て・に・を・はをどう訳すのか?)
- 第15回 Lesson 14 不定詞構文(日英語比較研究のまとめ)

履修上の注意点

毎回作業をやるので、参加できなかった学生は、必ずプリントをもらって、自宅で解答し、提出すること。添削して返却するので、60点以上なければ、遅れの出席にはならないので、要注意。

教科書

Eye Opening Facts

著者: 杉山 泰

出版社: 朝日出版社

出版年: 2005

ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか

著者: 鈴木孝夫

出版社: 新潮新書

出版年: 2009

ISBN:

沈みゆく大国アメリカ

著者: 包未果

出版社: 集英社新書

出版年: 2015

ISBN:

英語科は愚民化

著者： 施光恒

出版社： 集英社新書

出版年： 2015

ISBN:

日本語は敬語があつて主語がない

著者： 金谷 武洋

出版社： 光文社新書

出版年： 2010

ISBN:

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

これに加えて、後期末英語テスト20%。出席不足の学生は、教科書の問題を全てやって提出するか、プリントを全て仕上げ  
て提出すれば、遅れの出席として認める場合もある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅡB<Tb>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	ヒエタラヒティ, エレキ	
テーマ	Oral English with communication focus.	
授業の到達目標	Learn to speak about common topics such as sports, family and entertainment.	
授業の概要	You'll work on dialogue writing and performing projects with a partner. First, you write a conversation together with your partner. Then, your teacher checks your writing and gives you advice. Finally, you give a dialogue performance presentation to your teacher. You will be individually graded on your presentation. NOTE: THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH.	
準備学習(予習・復習)	It will be a big help to do work at home, too. Especially when you practice your presentation. On this course you can earn bonus points for extra presentations done. Working at home will help you do that and earn a better grade.	
内 容	<p>第1回 Class introduction. Start work on 1st topic "Sports"</p> <p>第2回 Continue work on "Sports"</p> <p>第3回 Finish "Sports"</p> <p>第4回 Start 2nd topic "Home"</p> <p>第5回 Finish "Home"</p> <p>第6回 Start 3rd topic "Health"</p> <p>第7回 Finish "Health"</p> <p>第8回 Start 4th topic "Entertainment"</p> <p>第9回 Finish "Entertainment"</p> <p>第10回 Start 5th topic "Animals"</p> <p>第11回 Finish "Animals"</p> <p>第12回 Start 6th topic "Weather"</p> <p>第13回 Finish "Weather"</p> <p>第14回 Start 7th topic "The United States"</p> <p>第15回 Finish "The United States"</p>	
履修上の注意点	Because of the bonus point system, the harder you work, the higher your final grade will be. You can work at your own pace (speed). You can write and perform the dialogue presentations at a faster pace than in the syllabus.	
教科書	none	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験・レポート ( )	小テスト ( )	
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 80 )	
参加度 ( )		
上記に加えて学期末英語テスト20%		

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。	
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等) 第2回 Unit1 第3回 Unit2 第4回 Unit3 第5回 Unit4 第6回 Unit6 第7回 Unit7 第8回 進度調整/Review/弱点強化 第9回 Unit10 第10回 Unit11 第11回 進度調整/Review/弱点強化 第12回 Unit14 第13回 模試前全体まとめ確認 第14回 Listening Section 解説続き 第15回 Reading Section 解説続き	
履修上の注意点	
教科書 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600 著者: 水本 篤/Mark D. Stafford 出版社: 桐原書店 出版年: 2015年 ISBN: 9.78434E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト (20) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 佐久間 浩司	
テーマ Introduction to business English	
授業の到達目標 一般の企業、金融機関等に就職する学生を念頭に、英語を通じてビジネス界のことを学び、またビジネスで使う英語の基本動作（たとえば英語のE-mailなど）の技術的なことも習得する。	
授業の概要 日本企業のHPを訪問し、各社が英語で自社をどのように紹介しているのか順番に発表する。また英字新聞経済記事を理解しながら、世界の経済金融動向を議論する。ビジネスコミュニケーションの技術論も2時間時間を割く。	
準備学習（予習・復習） 日本企業HPの各社の英語での紹介は順番に発表させるので、担当者はしっかりプレゼン資料を作り準備すること。発表は英語で行う。また英字新聞記事輪読も担当者はしっかり準備すること。	
内 容 第1回 イントロダクション 授業の進め方の説明と担当割り振り決め 第2回 企業のHP研究:トヨタ History + 英字新聞輪読 第3回 企業のHP研究:トヨタ 海外戦略 + 英字新聞輪読 第4回 企業のHP研究:京セラ History + 英字新聞輪読 第5回 企業のHP研究:京セラ 主要製品 + 英字新聞輪読 第6回 企業のHP研究:京都銀行 History + 英字新聞輪読 第7回 企業のHP研究:京都銀行 経営戦略と地域戦略 + 英字新聞輪読 第8回 企業のHP研究:宝酒造 History + 英字新聞輪読 第9回 企業のHP研究:宝酒造 海外戦略 + 英字新聞輪読 第10回 企業のHP研究:橘大学 History + 英字新聞輪読 第11回 企業のHP研究:ネスレ History + 英字新聞輪読 第12回 企業のHP研究:ネスレ 商品戦略 + 英字新聞輪読 第13回 ビジネス英語 E-mail 第14回 ビジネス英語 E-mail 第15回 総括まとめと理解度確認	
履修上の注意点 講義には10回以上出席すること。積極的な議論への参加や質問を歓迎します。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート（ ） 授業中課題（ ） 参加度（40）	小テスト（ ） 授業中発表等（60）



## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅢA <c>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	デーグル, ジェームス	
テーマ	Global Events and Topics	
授業の到達目標	Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others	
授業の概要	There will be various activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習)	This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.	
内 容	<p>第1回 Orientation</p> <p>第2回 People 1</p> <p>第3回 People 2</p> <p>第4回 Work, Rest, and Play 1</p> <p>第5回 Work, Rest, and Play 2</p> <p>第6回 Going Places 1</p> <p>第7回 Going Places 2</p> <p>第8回 Review</p> <p>第9回 Food 1</p> <p>第10回 Food 2</p> <p>第11回 Sports 1</p> <p>第12回 Sports 2</p> <p>第13回 Destinations</p> <p>第14回 Destinations 2</p> <p>第15回 Final Review</p>	
履修上の注意点		
教科書	World English 1 Student Book with Online Workbook1A	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN: 9.78131E+12	
参考書		
成績評価		
試験・レポート ( )	小テスト ( )	
授業中課題 (40)	授業中発表等 (30)	
参加度 (30)		

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 高居 佐紀	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。	
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等) 第2回 Unit1 第3回 Unit2 第4回 Unit3 第5回 Unit4 第6回 Unit6 第7回 Unit7 第8回 進度調整/Review/弱点強化 第9回 Unit10 第10回 Unit11 第11回 進度調整/Review/弱点強化 第12回 Unit14 第13回 模試前全体まとめ確認 第14回 Listening Section 解説続き 第15回 Reading Section 解説続き	
履修上の注意点	
教科書 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST1 GOAL500 著者: 水本 篤/Mark D. Stafford 出版社: 桐原書店 出版年: 2015年 ISBN: 9.78434E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート(30) 小テスト(20) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語ⅢA &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ 国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する	
授業の到達目標 グローバルに活躍するために、英語でのプレゼンテーションを訓練するコースです。この授業では、プレゼンテーションを数多く実践することを通して、英語力と表現力を身に付けます。発信するためのライティングとスピーキング、受容するためのリスニングとリーディングの英語四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで学びます。前期は、テーマに沿って論理的に、伝えたいことを自分なりに、英語で表現することができるようになることを目標とします。	
授業の概要 「自己紹介」など複数のテーマで、1人で英語プレゼンテーションを、前期に3回やります。ライティング2週間、スライド作成1週間、印刷とリハーサル1週間と、準備に4週間かけ、5週目に発表です。発表は全て英語です。授業内で準備が終わらない場合は、宿題です。実際にプレゼンを何度もやりながら、学んでいくので、やりがいがあります。ただ講義を聞いていたら良いというコースではなく、積極的に自分で発表準備をして、自分で発表をするコースです。グループでも発表をするので、クラスで仲良くあります。欠席する場合は、期限内に提出物を学内のPDドライブにパソコンを通して提出する必要があります。	
準備学習(予習・復習) 英語の発表原稿をライティングするのに2週間とってありますが、ライティングそのものに時間がかかるため、英語の文法学習としては、1年生で学んだ内容を復習して、参考書を読み、自主的に勉強する必要があります。また、英語の辞書が授業中のライティングに必要となりますので、必ず用意して下さい。また、プレゼンテーションにおいては、発音が大切になります。発音記号の読み方も復習しますので、辞書を調べる時は発音もチェックしましょう。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。	
内 容 第1回 プロジェクト①自己紹介:発表原稿ライティング(1) 第2回 プロジェクト①自己紹介:発表原稿ライティング(2) 第3回 プロジェクト①自己紹介:スライド作成 第4回 プロジェクト①自己紹介:印刷とリハーサル 第5回 第1回プレゼンテーション 第6回 プロジェクト②ニュース番組:発表原稿ライティング(1) 第7回 プロジェクト②ニュース番組:発表原稿ライティング(2) 第8回 プロジェクト②ニュース番組:スライド作成 第9回 プロジェクト②ニュース番組:印刷とリハーサル 第10回 第2回プレゼンテーション 第11回 プロジェクト③休暇の過ごし方:発表原稿ライティング(1) 第12回 プロジェクト③休暇の過ごし方:発表原稿ライティング(2) 第13回 プロジェクト③休暇の過ごし方:スライド作成 第14回 プロジェクト③休暇の過ごし方:印刷とリハーサル 第15回 第3回プレゼンテーション	
履修上の注意点 発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があり、遅れると加点されません。また、遅刻3回で参加度から-1となります。また、授業には英和辞書が必要ですので、これを忘れると参加度から-1、また授業態度が悪い場合、居眠りやおしゃべりなど授業態度が悪い場合は参加度から1~5点の減点となります。	
教科書 Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション 著者: 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子 出版社: センゲージラーニング株式会社 出版年: 2014 ISBN: 9.48486E+12	
参考書 1分間英語で自分のことを話してみる 著者: 浦島久 クライド・ダブンプート 出版社: (株)中経出版 出版年: 2012 ISBN: 9.78481E+12	
成績評価	

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

プレゼンのクラスでは、発表準備をする場合、そして発表を聞く場合、どちらもマナーが大切となります。クラス全体で良い雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、雰囲気を悪くするような授業態度は、かなり減点します。逆に、良い雰囲気を作るチームプレイには加点しますので、頑張ってください。

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;f&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 小川 享子		
テーマ TOEIC テスト受験の準備を介して、英語の読む力、文法力をアップしよう。		
授業の到達目標 スコアを伸ばす(少なくとも15点以上)。語彙力を増やす。文法力を身につける。目的に合わせて英文を読む力を養う。		
授業の概要 語彙小テスト、文法事項のまとめのあとPart5, 6, 7の演習問題をやる		
準備学習(予習・復習) 復習語彙・文法小テストの準備、語彙力をアップさせるためにも語彙を復習する		
内 容 第1回 Unit 1 Travel Part 5 時制 Part 6 時制 Part 7 読解演習 第2回 Unit 2 Dining Out Part 5 主述の一致 Part 6 時制 Part 7 読解演習 第3回 Unit 3 Media Part 5 能動態・受動態 Part 6 接続表現 Part 7 読解演習 第4回 Unit 4 Entertainment Part 5 動名詞・不定詞 Part 6 接続表現 Part 7 読解演習 第5回 Unit 5 Purchasing Part 5 代名詞 Part 6 代名詞 Part 7 読解演習 第6回 Unit 6 Clients Part 5 品詞 Part 6 代名詞 Part 7 読解演習 第7回 Unit 7 Recruiting Part 5 品詞 Part 6 語彙 Part 7 読解演習 第8回 Unit 8 Personnel Part 5 品詞 Part 6 語彙 Part 7 読解演習 第9回 Unit 9 Advertizing Part 5 比較 Part 6 文選択 Part 7 読解演習 第10回 Unit 10 Meetings Part 5 前置詞 Part 6 文選択 Part 7 読解演習 第11回 Unit 11 Finance Part 5 接続詞 Part 6 時制 Part 7 読解演習 第12回 Unit 12 Offices Part 5 接続詞・前置詞 Part 6 代名詞 Part 7 読解演習 第13回 模擬演習・まとめ 第14回 模擬演習・まとめ 第15回 時事英語にトライ		
履修上の注意点 3分の2以上の出席を必要とします。辞書を持ってくること。授業中に携帯電話を触ったり、見る者は成績から減点する。		
教科書 The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test 著者： 早川幸治他 出版社： 金星堂 出版年： 2017 ISBN： 9.78476E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート (25%) 小テスト (25%) 授業中課題 (15%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (15%) 上記に加えて学期末英語テスト20% 試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる		

2017 Syllabus
---------------

科目名 **英語ⅢA <g>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 山崎 清水	
テーマ 総合的な英語運用能力を習得	
授業の到達目標 基本的な観光英語を学習し日常会話が可能になる英語運用能力を習得することを目指す。	
授業の概要 海外旅行において最低限必要な会話を演習する。	
準備学習(予習・復習) 詳細は授業で説明する。	
内 容 第1回 出発準備と出国 第2回 アメリカ到着～入国審査 第3回 友人と再会 第4回 観光 第5回 観光 第6回 食事 第7回 観劇 第8回 体調不良の時 第9回 買い物 第10回 スポーツ観戦 第11回 アメリカ国内旅行～ワシントンDC 第12回 チェックイン 第13回 観光 第14回 観光 第15回 帰国	
履修上の注意点 私語は慎むこと。	
教科書 Let's Go Abroad! 著者： 西蔭浩子 / 荻野谷悦子 / 田村雅昭 / Thomas Dillon 出版社： センゲージラーニング 出版年： 2010 ISBN: 9.78486E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 50 ) 授業中課題 ( 20 ) 参加度 ( 10 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 20 )

2017 Syllabus
---------------

科目名 **英語ⅢA <h>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 久保田 美佳	
テーマ 時事英語への導入。	
授業の到達目標 比較的平易な英語で書かれた英文記事が読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。	
授業の概要 英文テキストの内容を正確に読み取る練習をします。また、付属の音源を使って英語の音とリズムに慣れる練習をします。	
準備学習(予習・復習) 語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けるようにして下さい。	
内 容 第1回 Introduction Chapter 1 Freeters and NEETS 第2回 Chapter 1 Freeters and NEETS 第3回 Chapter 2 Low Birth Rate 第4回 Chapter 2 Low Birth Rate 第5回 Chapter 3 Working Poor 第6回 Chapter 3 Working Poor 第7回 Review 第8回 Chapter 4 Net Cafe Refugee 第9回 Chapter 4 Net Cafe Refugee 第10回 Chapter 5 Loser Dog 第11回 Chapter 5 Loser Dog 第12回 Chapter 6 False Accusation 第13回 Chapter 6 False Accusation 第14回 Summary 第15回 Review	
履修上の注意点 単語テストを定期的に行うので、出席は大切です。	
教科書 Keywords for Japan Today 著者: Paul Stapleton 出版社: Gengage Learning 出版年: 2008 ISBN: 9.78486E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 20 ) 小テスト ( 80 ) 授業中発表等 ( ) 小テストや復習テストを定期的に行い習熟度をチェックして行きます。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEICリーディングに必要な語彙力および文法、読解力の育成を目的とする。	
授業の概要 Part 5に必要な文法項目の確認をしてから、問題を解く。また、Part6, 7に出題される様々な英語文書を読み、必要な情報をスピーディに読み取るためのスキルを習得していく。ペアワークを通じて理解を深め、スキルの定着を計る。語彙については事前に学習をして単語テストで確認をすることにより、リーディングのスピードアップを促す。終盤では実践演習を行う。	
準備学習(予習・復習) 予習・語彙学習をする(30分から1時間程度)。Webなどを利用して日頃から英語で情報を取り入れる習慣をつける。宿題として課されたリーディング問題に取り組む(30分から1時間程度)	
内 容 第1回 オリエンテーション(テキストの使い方、成績評価、宿題について) 第2回 文法問題と語彙問題 第3回 リーディングパートの時間配分 第4回 英文の基本構造を見抜く/ 表とフォーム 第5回 品詞問題 / チャット 第6回 形容詞と副詞 / 広告文 第7回 能動態と受動態 / Eメールと社内文書 第8回 動詞の時制 / ビジネスレター 第9回 接続詞と前置詞 / 記事 第10回 関係詞 / 複数パッセージ 第11回 接続副詞 / 照合が必要な設問 第12回 語彙問題 / NOTを含む設問 第13回 総合問題演習(1) 第14回 総合問題演習(2) 第15回 総合問題演習(3)	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくる。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさん問題を解くので集中力を持って授業に臨む。TOEIC自己目標スコアを設定して、必ず達成しましょう。	
教科書 Level-Up Trainer for the TOEIC Test Revised Edition 著者: Ayako Yokogawa 出版社: Cengage Learning 出版年: ISBN: 9.78486E+12	
参考書 TOEIC テスト書き込みドリルスコア650文法編 著者: 早川幸治 出版社: 桐原書店 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 30% ) 授業中課題 ( 30% ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 20% ) 上記に加えて学期末英語テスト20%	



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;J&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等)
- 第2回 Unit1
- 第3回 Unit2
- 第4回 Unit3
- 第5回 Unit4
- 第6回 Unit6
- 第7回 Unit7
- 第8回 進度調整/Review/弱点強化
- 第9回 Unit10
- 第10回 Unit11
- 第11回 進度調整/Review/弱点強化
- 第12回 Unit14
- 第13回 模試前全体まとめ確認
- 第14回 Listening Section 解説続き
- 第15回 Reading Section 解説続き

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST1 GOAL500

著者: 水本 篤/Mark D. Stafford

出版社: 桐原書店

出版年: 2015年

ISBN: 9.78434E+12

参考書

成績評価

試験・レポート(30)

小テスト(20)

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;k&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 櫃本 一美		
テーマ 実用的な英語のリーディングと文法の習得。		
授業の到達目標 基本的な文法を復習しながら、英文を正確に読み、また、英語で伝達できるようになる。		
授業の概要 テキストに加え、速読や文法のプリントに基づいて学習する。		
準備学習(予習・復習) 授業中、自宅での課題を確実にこなす。		
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 1)Unit1 2)品詞と文型 第3回 1)Unit1 2)品詞と文型 第4回 1)Unit1 2)品詞と文型 第5回 1)Unit1 2)品詞と文型 第6回 復讐 第7回 1)Unit2 2)動詞 第8回 1) Unit2 2)動詞 第9回 1)Unit2 2)動詞 第10回 1)Unit2 2)動詞 第11回 復習 第12回 1)Unit3 2)準動詞 第13回 1)Unit3 2)準動詞 第14回 1)Unit3 2)準動詞 第15回 復習		
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用する。		
教科書 Reading for today THEMES 1 著者: Lorraine C. Smith 出版社: CENGAGE Learning 出版年: ISBN: 9.78131E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート (40) 授業中課題 (30) 参加度 (30)	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;I&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 野口 博代	
テーマ 世界中で起こる様々な現代社会の問題を英語で考え議論する。	
授業の到達目標 世界の様々な現代社会の問題に関心を持ち、新聞、雑誌、ウェブサイトなどの英文記事を読んだり、その内容に関して英語で聞いたり議論することにより、英語の総合的な力の向上を目標とする。	
授業の概要 英文記事などを用いてのリーディング演習。各ユニットの問題に関するリスニング問題、また英語で議論することによるスピーキング練習を行う。ペアやグループによるアクティビティを行い、活発な授業参加を促す。	
準備学習(予習・復習) 各ユニットの英文は予習して、授業でのディスカッションに参加できるように準備しておくこと。授業外でも、新聞やインターネットなどを活用して英語のニュースに親しむ努力をすること。	
内 容 第1回 オリエンテーション。Unit 1 Cell Phones: Introduction 第2回 Unit 1 Reading, Listening 第3回 Unit 1 Discussion, Unit 2 'Freeters': Reading 第4回 Unit 2 Listening, Discussion 第5回 Unit 3 The Olympic Games: Reading, Listening 第6回 Unit 3 Discussion, Unit 4 Marriage: Reading 第7回 Unit 4 Listening, Discussion 第8回 Unit 5 Smoking and drinking: Reading 第9回 Unit 5 Listening, Discussion 第10回 Unit 6 English: Reading 第11回 Unit 6 Listening, Discussion 第12回 Unit 7 Exercise: Reading 第13回 Unit 7 Listening, Discussion 第14回 Review and Extra Activity 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点 単位取得には2/3以上の出席が必要。遅刻3回で欠席1回とみなす。30分以上の遅刻は欠席とみなす。座席指定をします。	
教科書 Which side are you on? -New Edition- 著者: Gillian Flaherty 出版社: 成美堂 出版年: 2017 ISBN: 9.78479E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (40%) 授業中課題 (30%) 参加度 (20%) 小テスト (0%) 授業中発表等 (10%) 上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、小テストに代わるものとして全て評価対象となる。参加度とは積極的な姿勢で授業に取り組む授業態度により評価される。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;m&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 原 俊樹		
テーマ 英語を普段使いに――一段上の英語理解		
授業の到達目標 基本的な英文の解釈(読解・聴解)や表現(作文・発話)を通して、また日本語と英語双方の表現方法・構造の違いや文法的な理解を、「感性」でなく「論理的」に考えて、国際人として世界的に活躍するために必須の「伝達手段としての英語」を身につけるのに必要な4技能の幅広い実践的な能力を習得する。また同時にMEDIA ENGLISHの特徴も考えて、普通に新聞や論文を理解する能力も身につける		
授業の概要 基本的にはテキストの各ユニットに沿って授業を展開する。習熟度・理解力を判断するための小テスト・実力テスト・課題も用意します。授業予定は、一応の目安として各回で学ぶ「学習重要ポイント」と考えてください。		
準備学習(予習・復習) 予習・復習を確実にすること		
内 容 第1回 講義内容・テキストの利用法を説明、基礎力判定テスト 第2回 フォニックス(アルファベットや単語の発音) 第3回 英文の基本構造Ⅰ:述語動詞と態 第4回 英文の基本構造Ⅱ:述語動詞と時制1 第5回 英文の基本構造Ⅲ:述語動詞と時制2 第6回 英文の基本構造Ⅳ:基本5文型(自動詞と他動詞) 第7回 英文の基本構造Ⅴ:文の要素・修飾語句・語と品詞 第8回 準動詞の用法1:不定詞 第9回 準動詞の用法2:動名詞 第10回 準動詞の用法3:分詞 第11回 冠詞・名詞・代名詞 第12回 形容詞・副詞 第13回 前置詞と句 第14回 接続詞と節 第15回 前記の学習内容のまとめ・到達度の確認		
履修上の注意点		
教科書 English through the News Media 2017 Edition 著者: Masami Takahashi/Noriko Itoh/ Richard Powell 出版社: Asahi Press 出版年: 2017 ISBN: 978425515604-0		
参考書		
成績評価 試験・レポート (50%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%)	小テスト (20%) 授業中発表等 (10%)	

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅢA <n>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 野口 博代		
テーマ		
世界中で起こる様々な現代社会の問題を英語で考え議論する。		
授業の到達目標		
世界の様々な現代社会の問題に関心を持ち、新聞、雑誌、ウェブサイトなどの英文記事を読んだり、その内容に関して英語で聞いたり議論することにより、英語の総合的な力の向上を目標とする。		
授業の概要		
英文記事などを用いてのリーディング演習。各ユニットの問題に関するリスニング問題、また英語で議論することによるスピーキング練習を行う。ペアやグループによるアクティビティを行い、活発な授業参加を促す。		
準備学習(予習・復習)		
各ユニットの英文は予習して、授業でのディスカッションに参加できるように準備しておくこと。授業外でも、新聞やインターネットなどを活用して英語のニュースに親しむ努力をすること。		
内 容		
第1回	オリエンテーション。Unit 1 Cell Phones: Introduction	
第2回	Unit 1 Reading, Listening	
第3回	Unit 1 Discussion, Unit 2 'Freeters': Reading	
第4回	Unit 2 Listening, Discussion	
第5回	Unit 3 The Olympic Games: Reading, Listening	
第6回	Unit 3 Discussion, Unit 4 Marriage: Reading	
第7回	Unit 4 Listening, Discussion	
第8回	Unit 5 Smoking and drinking: Reading	
第9回	Unit 5 Listening, Discussion	
第10回	Unit 6 English: Reading	
第11回	Unit 6 Listening, Discussion	
第12回	Unit 7 Exercise: Reading	
第13回	Unit 7 Listening, Discussion	
第14回	Review and Extra Activity	
第15回	授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点		
単位取得には2/3以上の出席が必要。遅刻3回で欠席1回とみなす。30分以上の遅刻は欠席とみなす。座席指定をします。		
教科書		
Which side are you on? -New Edition-		
著者: Gillian Flaherty		
出版社: 成美堂		
出版年: 2017		
ISBN: 9.78479E+12		
参考書		
成績評価		
試験・レポート (40%)	小テスト (0%)	
授業中課題 (30%)	授業中発表等 (10%)	
参加度 (20%)		
上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、小テストに代わるものとして全て評価対象となる。参加度とは積極的な姿勢で授業に取り組む授業態度により評価される。		

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;○&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 川口 玲子	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。	
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等) 第2回 Unit 1 Daily Life 第3回 Unit 2 Places 第4回 Unit 3 People 第5回 進度調整/Review/弱点強化 第6回 Unit 4 Travel 第7回 Unit 5 Business 第8回 Unit 6 Office 第9回 Unit 7 Technology 第10回 進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認 第11回 Listening Section実施+解説 第12回 Listening Section 解説続き 第13回 Reading Section実施+解説 第14回 Reading Section 解説続き 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点	
教科書 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600 著者: 水本 篤/Mark D. Stafford 出版社: 桐原書店 出版年: 2015年 ISBN: 9.78434E+12 はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式問題対応 著者: 入江 泉 出版社: 旺文社 出版年: 2016年 ISBN: 9.78401E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート(30) 小テスト(20) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢA &lt;p&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 原 俊樹		
テーマ どこでも使える英語力を身につける		
授業の到達目標 国際人として世界的に活躍するために必須の「伝達手段としての英語」を理解するために必要な4技能の幅広い実践的運営能力を身につける。また同時に医療従事者としても必要な英語力も身につけることを目標とする。		
授業の概要 基本的にはテキストの各ユニットに沿った形で授業を進める。習熟度・理解度を判断する小テスト・実力テスト・課題を用意する。授業予定は、あくまでも一応の目安で、各回の「重要学習ポイント」と考えてください。		
準備学習(予習・復習) 予習・復習を確実にこなすこと		
内 容 第1回 講義内容・テキストの利用法の説明 基礎力判定テスト 第2回 フォニックス(アルファベットと単語の発音) 第3回 英文の基本構造1:述語動詞と態 第4回 英文の基本構造2:時制表現1 第5回 英文の基本構造3:時制表現2 第6回 英文の基本構造4:基本5文型 第7回 英文の基本構造5:文の要素・修飾語句・語と品詞 第8回 準動詞の用法1:不定詞 第9回 準動詞の用法2:動名詞 第10回 準動詞の用法3:分詞 第11回 冠詞・名詞・代名詞 第12回 形容詞・副詞 第13回 前置詞と句 第14回 接続詞と節 第15回 前期の学習のまとめ・到達度の確認		
履修上の注意点		
教科書 Understanding Health Care 著者: Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ Akiko Sekiguchi [ほか] 出版社: Asahi Press 出版年: 2011 ISBN: 9.78426E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート (50%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%)	小テスト (20%) 授業中発表等 (10%)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語ⅢA &lt;R&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 杉山 泰	
テーマ	
基礎英語(Basic English)を学びながら俵万智の短歌を英訳していく。	
授業の到達目標	
中学時代に学んだ基礎英文法の知識さえあれば、俵万智の短歌も楽しく英訳できることを学んでいく。「主語なし日本語」で「時制のない日本語」をどうしたらS+V+O構文の英語にできるのか、毎回プリントを配り、英訳し、それを翌週に添削して返却する。最後に、自分が英訳した俵万智の英訳を、すべて提出してもらう。	
授業の概要	
毎回「プリント」を配布し、各自辞書を利用して英訳し、提出する。英訳する前に、「翻訳英文法」を教え、ポイントを指摘するので、毎回の参加が大切になる。	
準備学習(予習・復習)	
自宅では、添削して修正された英訳を、自分なりにもう一度最適と思われる英語に書き換える作業が必要。	

## 内 容

- 第1回 自己紹介(I am Japanese. I am from Nagasaki.)から始めよう。
- 第2回 「氏名カード」の提出。その際、翻訳しづらい日本語(「がんばれ日本」など)を10ほど上げて、英語に翻訳してもらう。
- 第3回 <be動詞>「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日
- 第4回 <be動詞>「寒いね」と言えば「寒いね」と答える人のいるあたたかさ
- 第5回 <主語と動詞>愛してる愛していない花びらの数だけ愛があればいいのに
- 第6回 <主語と動詞>焼肉とグラタンが好きという少女よ私はあなたのお父さんが好き
- 第7回 <過去形>この部屋で君と暮らしていた女の髪の長さを知りたいタベ
- 第8回 <未来の文>「三〇で俺は死ぬよ」と言う君とそれなら吾もそれまで生きん
- 第9回 <疑問文>ガーベラの首を両手で持ち上げておまえ一番好きなのは誰
- 第10回 <否定文>電話から少し離れてお茶を飲む聞いていないよと言うように飲む
- 第11回 <進行形>「また恋の歌作っているのか」と面白そうに心配そうに
- 第12回 <疑問文と冠詞>わが髪を三度切りたる美容師に「初めてですか」と聞かれて座る
- 第13回 <能動態と受動態>食べたいでもやせたいというコピーあり愛されたいでも愛したくない
- 第14回 <助動詞>思い出はミックスベジタブルのようだけれど解凍してはいけない
- 第15回 <全体のまとめ>これまで書き上げた、俵万智の短歌の英訳を再度推敲して全て仕上げ提出する。

## 履修上の注意点

4回生、5回生など卒業に必要な単位である場合、出席不足の学生は遅れても提出物を必ず仕上げ提出すること。最終的に遅れの出席として認める。

## 教科書

杉山「プリント」

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

英語対訳版サラダ記念日

著者: 俵万智・J・スタム訳

出版社: 河出文庫

出版年: 1989

ISBN:

チョコレート革命

著者: 俵万智

出版社: 河出書房新車

出版年: 1997

ISBN:



日本語で読む万葉集

著者： リービ英雄

出版社： 岩波新書

出版年： 2004

ISBN:

実践日本人の英語

著者： マーク・ピーターセン

出版社： 岩波新書

出版年： 2013

ISBN:

英文翻訳術

著者： 安西徹雄

出版社： ちくま学芸文庫

出版年： 1995

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20% )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

学部によっては、10回以上の出席がなければ、合格にならないので、欠席した場合も必ず、提出用のプリントを遅れても提出すること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢB &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 占部 幹也		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。		
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Unit1 第2回 Unit2 第3回 Unit3 第4回 Unit4 第5回 Unit5 第6回 進度調整/Review/弱点強化 第7回 Unit8 第8回 Unit9 第9回 進度調整/Review/弱点強化 第10回 Unit12 第11回 Unit13 第12回 Unit15 第13回 Listening Section実施+解説 第14回 Reading Section実施+解説 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト		
履修上の注意点		
教科書		
参考書 新形式対応問題 TOEICテスト直前対策模試 著者: 早川幸治+ロス・タロック 出版社: 語研 出版年: 2016年	ISBN: 9.78488E+12	
成績評価 試験・レポート (30) 授業中課題 ( ) 参加度 (30) 上記に加えて学期末英語テスト20%	小テスト (20) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語ⅢB &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ 国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する	
授業の到達目標 グローバルに活躍するために、英語でのプレゼンテーションを訓練するコースです。この授業では、プレゼンテーションを数多く実践することを通して、英語力と表現力を身に付けます。発信するためのライティングとスピーキング、受容するためのリスニングとリーディングの英語四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで学びます。前期は、テーマに沿って論理的に、伝えたいことを自分なりに、英語で表現することができるようになることを目標とします。	
授業の概要 「自己紹介」など複数のテーマで、1人で英語プレゼンテーションを、前期に3回やります。ライティング2週間、スライド作成1週間、印刷とリハーサル1週間と、準備に4週間かけ、5週目に発表です。発表は全て英語です。授業内で準備が終わらない場合は、宿題です。実際にプレゼンを何度もやりながら、学んでいくので、やりがいがあります。ただ講義を聞いていたら良いというコースではなく、積極的に自分で発表準備をして、自分で発表をするコースです。グループでも発表をするので、クラスで仲良くあります。欠席する場合は、期限内に提出物を学内のPDドライブにパソコンを通して提出する必要があります。	
準備学習(予習・復習) 英語の発表原稿をライティングするのに2週間とってありますが、ライティングそのものに時間がかかるため、英語の文法学習としては、1年生で学んだ内容を復習して、参考書を読み、自主的に勉強する必要があります。また、英語の辞書が授業中のライティングに必要となりますので、必ず用意して下さい。また、プレゼンテーションにおいては、発音が大切になります。発音記号の読み方も復習しますので、辞書を調べる時は発音もチェックしましょう。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。	
内 容 第1回 プロジェクト①自己紹介:発表原稿ライティング(1) 第2回 プロジェクト①自己紹介:発表原稿ライティング(2) 第3回 プロジェクト①自己紹介:スライド作成 第4回 プロジェクト①自己紹介:印刷とリハーサル 第5回 第1回プレゼンテーション 第6回 プロジェクト②ニュース番組:発表原稿ライティング(1) 第7回 プロジェクト②ニュース番組:発表原稿ライティング(2) 第8回 プロジェクト②ニュース番組:スライド作成 第9回 プロジェクト②ニュース番組:印刷とリハーサル 第10回 第2回プレゼンテーション 第11回 プロジェクト③休暇の過ごし方:発表原稿ライティング(1) 第12回 プロジェクト③休暇の過ごし方:発表原稿ライティング(2) 第13回 プロジェクト③休暇の過ごし方:スライド作成 第14回 プロジェクト③休暇の過ごし方:印刷とリハーサル 第15回 第3回プレゼンテーション	
履修上の注意点 発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があり、遅れると加点されません。また、遅刻3回で参加度から-1となります。また、授業には英和辞書が必要ですので、これを忘れると参加度から-1、また授業態度が悪い場合、居眠りやおしゃべりなど授業態度が悪い場合は参加度から1~5点の減点となります。	
教科書 Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション 著者: 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子 出版社: センゲージラーニング株式会社 出版年: 2014 ISBN: 9.48486E+12	
参考書 1分間英語で自分のことを話してみる 著者: 浦島久 クライド・ダブンプート 出版社: (株)中経出版 出版年: 2012 ISBN: 9.78481E+12	
成績評価	

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（30）

参加度（30）

プレゼンのクラスでは、発表準備をする場合、そして発表を聞く場合、どちらもマナーが大切となります。クラス全体で良い雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、雰囲気を悪くするような授業態度は、かなり減点します。逆に、良い雰囲気を作るチームプレイには加点しますので、頑張ってください。

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢB &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 松村 優子	
テーマ 英字新聞を読み・聴き、現代社会の様々な問題・現象を理解し、読解・リスニング・語彙を中心とした英語総合力を向上させることを目指す。	
授業の到達目標 1. 英字新聞ニュースの構造や表現などに慣れる。2. ニュースで扱われている現代社会の様々な問題に対する認識、関心を高める。3. ニュース・トピックに関する語彙力、聴解力、読解力、文法力などの総合力を伸ばす。	
授業の概要 各章について、以下の順通りに進める。1. Before Reading 1,2 [トピック提示、語彙問題]、2. 記事の読解、3. While Reading 1,2,3,4,5 [記事に関する読解問題]、4 After Reading 1,2,3 [英作文、語彙問題] さらに、発表形式も取り入れていく。	
準備学習(予習・復習) テキスト指定箇所の予習、復習をすること。重要語彙をノートにまとめておくこと。	
内 容 第1回 1回 Introduction (授業の概要や進め方などの説明も含む) 第2回 Unit 1 Study: DNA could determine if you're a night owl or early bird 研究: DNA が夜型か朝型かを定める可能性 第3回 Unit 2 How should Japan handle rise of 'minpaku'? 日本は「民泊」の増加にどう対処すべきか 第4回 Unit 3 New map symbols to help foreigners find their way 外国人の道案内に役立つ新しい地図記号 第5回 Unit 4 Hotels expand options for guests' health ホテル、宿泊客の健康に配慮したオプションを拡張 第6回 Unit 5 Universities seek to encourage good dietary habits among students 大学、学生の正しい食事習慣の奨励に努力 第7回 Unit 6 DiCaprio, pope discuss environment ディカプリオと法王、環境について議論 第8回 Unit 7 Icky roach-like robots might help in disasters 不快なゴキブリ型ロボットが災害に役立つ可能性 第9回 Unit 8 Plan to reorganize electronics makers may require review 電機メーカー再編計画、見直しが求められる可能性 第10回 Unit 9 More young people choose country life 田舎での生活を選ぶ若者が増加 第11回 Unit 10 Ichiro passes Rose with 4,257 career hits イチロー、通算4,257安打でローズ超え 第12回 プリントなど 第13回 プリントなど 第14回 復習、復習テスト 第15回 復習、復習テスト	
履修上の注意点 1. テキスト指定箇所を予習してきたことを前提に授業を進める。2. 1回の授業でテキスト1章のペースで進む予定であるが、学習状況により進め方の変更や調整もある。3. 学習状況によりUnitの順番を変えることもあるが、前期は10章まで進む予定である。	
教科書 Meet the World 2017—English through Newspapers メディアで学ぶ日本と世界 2017 著者: 若宥保彦 出版社: 成美堂 出版年: 2017 ISBN: 9.78479E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (0%) 小テスト (60%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (15%) 参加度 (15%) 小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢB &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 Unit1
- 第2回 Unit2
- 第3回 Unit3
- 第4回 Unit4
- 第5回 Unit5
- 第6回 進度調整/Review/弱点強化
- 第7回 Unit8
- 第8回 Unit9
- 第9回 進度調整/Review/弱点強化
- 第10回 Unit12
- 第11回 Unit13
- 第12回 Unit15
- 第13回 Listening Section実施+解説
- 第14回 Reading Section実施+解説
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試

著者: 早川幸治+ロス・タロック

出版社: 語研

出版年: 2016年

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢB &lt;f&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 小川 享子		
テーマ TOEIC テストの受験準備を通してリスニング力をアップしよう		
授業の到達目標 スコアを伸ばす(少なくとも15点以上)。語彙力を増やす。目的に合わせてリスニング問題の英文を速く読む力を養う。重要なポイントを聞き取る力を養う。		
授業の概要 予習語彙小テストリスニング問題の演習を行う		
準備学習(予習・復習) 語彙の学習。リスニング問題の聞き直し。		
内 容 第1回 Unit 1 Travel Part 1 人物の描写 Part 2 WH疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第2回 Unit 2 Dining Out Part 1 人物の位置 Part 2 WH疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第3回 Unit 3 Media Part 1 光景・受け身 Part 2 WH疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第4回 Unit 4 Entertainment Part 1 人物の動作 Part 2 WH疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第5回 Unit 5 Purchasing Part 1 人物の位置 Part 2 WH疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第6回 Unit 6 Clients Part 1 光景・現在進行形 Part 2 WH疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第7回 Unit 7 Recruiting Part 1 人物の動作 Part 2 Yes/No疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第8回 Unit 8 Personnel Part 1 人物の位置 Part 2 Yes/No疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第9回 Unit 9 Advertising Part 1 光景・位置関係の表現 Part 2 Yes/No疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第10回 Unit 10 Meetings Part 1 人物の動作・外見を表す表現 Part 2 付加疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第11回 Unit 11 Finance Part 1 人物の動作・言い換えのパターン Part 2 否定疑問文 続けてPart3, 4 の演習 第12回 Unit 12 Offices Part 1 光景・言い換えのパターン Part 2 依頼・許可 続けてPart3, 4 の演習 第13回 模擬演習・まとめ 第14回 模擬演習・まとめ 第15回 時事英語にトライ		
履修上の注意点 辞書を携帯すること。授業中に携帯を触った場合は成績より減点をする。		
教科書 The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test 著者: 早川幸治他 出版社: 金星堂 出版年: 2017 ISBN: 9.78476E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート (25%) 小テスト (25%) 授業中課題 (15%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (15%) 上記に加えて学期末英語テスト20% 試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。		



## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <g>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 クーラン, コーリ	
テーマ Travel English	
授業の到達目標 Learn the basics of travel English and survival English	
授業の概要 Follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their Travel English studies in their free time.	
内 容 第1回 Class introduction and preview an begin Unit 1 "Would you like some more?" 第2回 Finish Unit 1 第3回 Begin Unit 2 "What should we do first?" 第4回 Finish Unit 2 第5回 Begin Unit 3 "We're going to visit Chinatown" 第6回 Finish Unit 3 第7回 Review and reflection of Units 1 to 3 第8回 Begin Unit 4 "Are you good at skiing?" 第9回 Finish Unit 4 第10回 Begin Unit 5 "This one is cheaper" 第11回 Finish Unit 5 第12回 Begin Unit 6 "Don't forget your money!" 第13回 Finish Unit 6 第14回 Review and reflection of Units 4 to 6 第15回 Semester review and recap	
履修上の注意点 **You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **More than half of your grade will be based on your in-class performance.	
教科書 My First Passport 2 著者: Tanja McCandie 出版社: Oxford 出版年: 2006 ISBN: 9.78019E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) This will be a very fun class, but to get a good grade, you must do well on exams and quizzes as well as have good class performance	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語ⅢB <h>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ヒエタラヒティ, エレキ	
テーマ Oral English with Culture Content	
授業の到達目標 Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.	
授業の概要 - THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH - You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the world. Also, practical skills such as ordering food in a restaurant.	
準備学習(予習・復習) It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.	
内 容 第1回 Class introduction and preview excercises 第2回 Start Unit 1 "People" 第3回 Continue Unit 1 第4回 Finish Unit 1 第5回 Start Unit 2 "Work, Rest and Play" 第6回 Continue Unit 2 第7回 Finish Unit 2 第8回 Review and reflection on Units 1 and 2 第9回 Start Unit 3 "Going Places" 第10回 Continue Unit 3 第11回 Finish Unit 3 第12回 Start Unit 4 "Food" 第13回 Continue Unit 4 第14回 Finish Unit 4 第15回 Review and reflection on Units 3 and 4	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書 World English 1 著者: Martin Milner 出版社: Heinle, Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: World English 1: Printed Workbook 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢB &lt;i&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 溝部 芳子		
テーマ TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEICリスニングに必要なリスニングスキルの修得を目標とする。		
授業の概要 各パートの特徴を理解し、必要なスキルと語彙を確認した後、練習問題のリスニングをする。部分ディクテーションをして解答を確認後、スクリプトの音読やシャドーイングなどを通じて理解を深める。中盤以降は実践演習を行う。単語テスト、復習テストを随時行う。		
準備学習(予習・復習) 予習:語彙学習[30分から1時間程度] 復習:音声ダウンロードしてスクリプトを確認しながら聴く。同時シャドーイングを行う。[30分]		
内 容 第1回 Part 1の攻略ポイント 第2回 Part 2の攻略ポイント 第3回 Part3の攻略ポイント 第4回 全体を問う問題に強くなる 第5回 様々な疑問文の聴き取り 第6回 正解の言い換えパターン 第7回 頻出テーマ:注文確認・留守電メッセージ 第8回 頻出テーマ:スケジュール変更・交通情報 第9回 頻出テーマ:イベントへの誘い・交通機関のアナウンス 第10回 頻出テーマ:仕事の依頼・広告 第11回 頻出テーマ:求人と採用・ツアーの事前説明 第12回 頻出テーマ:トラブル処理・会議のスピーチ 第13回 総合問題演習(1) 第14回 総合問題演習(2) 第15回 総合問題演習(3)		
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの英語を聴くので集中力を持って授業に臨む。TOEIC自己目標スコアを設定して、必ず達成しましょう。		
教科書 Level-Up Trainer for the TOEIC Test Revised Edition 著者: Ayako Yokogawa 出版社: Cengage Learning 出版年: ISBN: 9.78486E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (30%) 参加度 (20%) 上記に加えて学期末英語テスト20%	小テスト (30%) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅢB &lt;J&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 Unit1
- 第2回 Unit2
- 第3回 Unit3
- 第4回 Unit4
- 第5回 Unit5
- 第6回 進度調整/Review/弱点強化
- 第7回 Unit8
- 第8回 Unit9
- 第9回 進度調整/Review/弱点強化
- 第10回 Unit12
- 第11回 Unit13
- 第12回 Unit15
- 第13回 Listening Section実施+解説
- 第14回 Reading Section実施+解説
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試

著者: 早川幸治+ロス・タロック

出版社: 語研

出版年: 2016年

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <k>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	ソーソン, マーカス	
テーマ	Acting English Drama	
授業の到達目標	This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.	
授業の概要	Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習)	Preview next lesson before each class and extra for tests.	
内 容	<p>第1回 Introductions, Class Objectives          第2回 Journals Homework #1 Introduction.          第3回 The Alien Truth – Story Research          第4回 Journals week 3 Pronunciation Pg. 5          第5回 Leaving Normal – Acting Scene.          第6回 Episode 5 Missing Q – A          第7回 Journals week 6 Kyle and Liz Scene          第8回 Episode 7 Riverdog – Acting          第9回 Story Review – Tell the story.          第10回 Episode 9 Heat Wave          第11回 Final Journals week 10          第12回 Presentations – Reports          第13回 Toy House – Acting Scene          第14回 Into the Woods          第15回 The Convention – Q and A</p>	
履修上の注意点	You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.	
教科書	Acting English Drama 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価	<p>試験・レポート (20) 小テスト (20)          授業中課題 (20) 授業中発表等 (20)          参加度 (20)</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <I>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 40

履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 スミス, ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

授業の到達目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の概要

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

準備学習(予習・復習)

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内 容

- 第1回 Self-introduction
- 第2回 Getting to know the teacher and classmates
- 第3回 Describing occupations
- 第4回 Talking about a work day and free time
- 第5回 Describing festivals and celebrations
- 第6回 Talking about favorite celebrities
- 第7回 Identify possessions
- 第8回 Giving travel advice
- 第9回 Food and favorite kinds of restaurants
- 第10回 Count and noncount nouns
- 第11回 Activities happening now
- 第12回 Favorite sports
- 第13回 Adventure holidays
- 第14回 Past vacation experiences
- 第15回 Summer plans and course review.

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

World English 1

著者: Martin Milner

出版社: Heinle Cengage

出版年: 2015

ISBN: 9.78129E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語ⅢB <m>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 フリン, マイケル	
テーマ Using English for Communication	
授業の到達目標 Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context	
授業の概要 This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) Do assigned homework, preview and review textbook.	
内 容	
第1回 Orientation	
第2回 Introductions	
第3回 Introducing others	
第4回 Exchanging personal information	
第5回 How do you spend your day?	
第6回 Work and school	
第7回 Daily schedules	
第8回 Review	
第9回 Meaning of colors	
第10回 Clothes shopping	
第11回 Making Comparisons	
第12回 Music	
第13回 Entertainment	
第14回 Invitations	
第15回 Review	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書	
Interchange I Student's Book A(fourth Edition)	
著者: Jack C. Richards	
出版社: Cambridge University Press	
出版年:	ISBN: 9.78052E+12
Interchange I Workbook Book A(4th Edition)	
著者: Jack C. Richards	
出版社: Cambridge University Press	
出版年:	ISBN: 9.78052E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (55)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (45)	
Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語ⅢB <n>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ヒエタラヒティ, エレキ	
テーマ Nursing English	
授業の到達目標 Learn the basics of healthcare English.	
授業の概要 #NAME?	
準備学習(予習・復習) It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.	
内 容 第1回 Class introduction and preview exercises 第2回 Start Unit 1 "Hospital Departments" 第3回 Finish Unit 1 第4回 Start Unit 2 "Application Forms" 第5回 Finish Unit 2 第6回 Start Unit 3 "Parts of the Body" 第7回 Finish Unit 3 第8回 Review and reflection of Units 1 to 3 第9回 Start Unit 4 "Illnesses" 第10回 Finish Unit 4 第11回 Start Unit 5 "Daily Routine" 第12回 Finish Unit 5 第13回 Start Unit 6 "Hospital Objects" 第14回 Finish Unit 6 第15回 Review and reflection of Units 4 to 6	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書 Vital Signs 著者: Morooka & Sugiura 出版社: Nan'un-do 出版年: 2009 ISBN: 9.78452E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.	



## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <○>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 スミス, ジョン

テーマ

授業の到達目標

This is a communication course that will practice listening and speaking skills with a nursing topic based content. Students will increase their confidence to use English by regular practice.

授業の概要

The teacher will use a popular text that has a variety of interesting activities to create a positive learning environment in the classroom. The four skills of English will be developed online with the opportunity to use online resources. The class will be taught only in English.

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Explanation of the course.
- 第2回 The hospital team.
- 第3回 In and around the hospital.
- 第4回 Hospital admissions.
- 第5回 Patient records.
- 第6回 Accidents and emergencies.
- 第7回 Giving instructions.
- 第8回 Pain.
- 第9回 Symptoms.
- 第10回 Caring for the elderly.
- 第11回 Transfer to a care home.
- 第12回 Nutrition.
- 第13回 Giving advice.
- 第14回 Diabetes
- 第15回 Plans for the summer break.

履修上の注意点

教科書

Nursing 1 (Oxford English for Careers)

著者: Tony Grice

出版社: Oxford University Press

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <p>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	クーラン, コーリ	
テーマ	Beginner level English for students of nursing.	
授業の到達目標	The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.	
授業の概要	Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises.	
準備学習(予習・復習)	In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.	
内 容	<p>第1回 Introductions and class explanation</p> <p>第2回 "The Nurse" printout</p> <p>第3回 Hospital departments</p> <p>第4回 Hospital departments</p> <p>第5回 Reasons for entering the nursing field</p> <p>第6回 Describing illness</p> <p>第7回 Review and recap of weeks 2 to 6</p> <p>第8回 Parts of the body and their functions</p> <p>第9回 Parts of the body and thier functions</p> <p>第10回 Illnesses</p> <p>第11回 Illnesses</p> <p>第12回 Symptoms of illness</p> <p>第13回 Video</p> <p>第14回 Review and recap of weeks 11 to 13</p> <p>第15回 Review and recap of course</p>	
履修上の注意点	**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **60%of your grade will be based on your in-class performance.**Text material prints will be given out only ONCE. If you lose them, you must photocopy the pages needed before the start of the next class.	
教科書	<p>Vital Signs 2</p> <p>著者: E. Morooka, T. Sugiura</p> <p>出版社: 南雲堂</p> <p>出版年: 2014</p> <p>ISBN: 978-4523177555</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( 40 )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( 30 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( 30 )</p>	
	Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.	

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語ⅢB &lt;R&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 杉山 泰	
テーマ 新聞英語を読みながら、英語構文と国際ニュースの理解の仕方を学ぶ	
授業の到達目標 TPPだとか、skypeを日本語に訳しているだろうか。smartphoneもCDも日本語に訳していない。逆に、「自衛隊」だとか「後方支援」、「専守防衛」といった日本語を英語に置き換えることははなはだむずかしい。literatureを「文学」、economicsを「経済」と日本語に翻訳した明治時代の日本人の偉大さを学びながら、最近の新聞英語を徹底的に日本語に翻訳する作業を行なう。国際情勢を学ぶことを最大の目標とする。	
授業の概要 毎回、やさしい英字新聞を提示して、それを日本語に翻訳してもらおう。日頃から新聞を読んでいれば、そうむずかしくはない。翻訳した日本語を添削して、翌週に返却する。毎回それをファイルして、国際情勢の知識を高めてもらう。	
準備学習(予習・復習) 毎回新聞英語を翻訳してもらおうので、辞書の持参が必要。	
内 容 第1回 自己紹介。「氏名カード」の記入。最近の10大ニュースを書いてもらう。 第2回 それぞれが書いた10大ニュースを英語に翻訳してもらう。 第3回 新聞英語の英文法と使用頻度の高い短い英単語を丸暗記してもらう。 第4回 英語の時制(新聞英語の中で、時制に注意すべき英文の翻訳実践) 第5回 完了形の英語(時間の幅がある場合の英文の翻訳実践) 第6回 不定詞の英語(未来志向の不定詞の英文の翻訳実践) 第7回 There is構文の英語(客観的存在表現の英文の翻訳実践) 第8回 比較級の英語(比較表現の英文の翻訳実践) 第9回 仮定法の英語(ありえないことの仮定をする英文の翻訳実践) 第10回 仮定法の英語(If節がない仮定をする英文の翻訳実践) 第11回 日本語に訳せない英語(日本語では表現できない英文の翻訳実践) 第12回 文化の違いを示している英語(文化の違いが明らかな英文の翻訳実践) 第13回 英字新聞で書かれているPrime Minister Shinzo Abeをどう考えるか？ 第14回 英字新聞で「紫式部」や「清少納言」はどうか翻訳されているのか？ 第15回 今年度の英字新聞に現れた新しい英語を10以上あげてその日本語訳を考える	

## 履修上の注意点

毎回英字新聞からの切り抜きをプリントして翻訳していくので、必ず辞書を持参すること。また、毎回添削返却するので、返却された答案用紙を必ずファイルしておくこと。

## 教科書

杉山「プリント」

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

「超基本」の英単語

著者: 尾崎哲夫

出版社: 角川新書

出版年: 2002

ISBN:

大世界史

著者: 池上彰・佐藤優

出版社: 文春新書

出版年: 2015

ISBN:

翻訳教室

著者： 鴻巣友季子

出版社： ちくまプリマー新書

出版年： 2013

ISBN:

英文翻訳術

著者： 安西徹男

出版社： ちくま学芸文庫

出版年： 1995

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20% )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

欠席した場合、「プリント」を自宅で仕上げ提出すれば、遅れとしての出席を認める場合がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 英語ビジネスコミュニケーション力の伸びは主にTOEICで測る。演習問題では70～80%以上の正答率を保持することを目標とする。	
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。テキストの設問を発展させ、解答理由の根拠を英語で述べたり、リーディングパッセージを要約して発表したり、一方通行ではないアクティブラーニングを行う。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等) 第2回 Unit2 Placesをテーマにした問題を学ぶ 第3回 進度調整/Review/弱点強化 第4回 Unit5 Businessをテーマにした問題を学ぶ 第5回 進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認 第6回 Listening Section 解説続き 第7回 Reading Section 解説続き 第8回 Unit8 Personnelをテーマにした問題を学ぶ 第9回 進度調整/Review/弱点強化 第10回 Unit11 Financesをテーマにした問題を学ぶ 第11回 進度調整/Review/弱点強化 第12回 Unit14 Healthをテーマにした問題を学ぶ 第13回 進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認 第14回 Listening Section 解説続き 第15回 Reading Section 解説続き	
履修上の注意点	
教科書 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST3 GOAL700 著者: 水本 篤/Mark D. Stafford 出版社: 桐原書店 出版年: 2015年 ISBN: 9.78434E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート(30) 小テスト(20) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 佐久間 浩司		
テーマ Introduction to business English		
授業の到達目標 一般の企業、金融機関等に就職する学生を念頭に、英語を通じてビジネス界のことを学ぶ。またビジネスで使う英語の基本動作（たとえば英語のE-mailなど）の技術的なことも習得する。		
授業の概要 日本企業のインターネット上のHPを訪問し、各社が英語で自社をどのように紹介しているのか学び、順番に発表する。また英字新聞経済記事を理解しながら、世界の経済金融動向を議論する。ビジネスコミュニケーションの技術論も2時間ほど時間を割く。		
準備学習(予習・復習) 日本企業HPの各社の紹介は順番に英語で発表させるので、担当者はしっかりプレゼン資料を作り準備すること。また英字新聞輪読の担当者はしっかり準備すること。		
内 容 第1回 インTRODククション 第2回 企業研究:近畿日本ツーリスト History + 英字新聞輪読 第3回 企業研究:近畿日本ツーリスト 観光強化策 + 英字新聞輪読 第4回 企業研究:島津製作所 History + 英字新聞輪読 第5回 企業研究:島津製作所 プロダクツ + 英字新聞輪読 第6回 企業研究:JR西日本 History + 英字新聞輪読 第7回 企業研究:JR西日本 観光強化策 + 英字新聞輪読 第8回 企業研究:大阪ガス History + 英字新聞輪読 第9回 企業研究:大阪ガス 海外戦略 + 英字新聞輪読 第10回 企業研究:ワコール History + 英字新聞輪読 第11回 企業研究:ワコール 海外戦略 + 英字新聞輪読 第12回 企業研究:グンゼ History + 英字新聞輪読 第13回 ビジネス英語: E-mail + 英字新聞輪読 第14回 ビジネス英語: E-mail + 英字新聞輪読 第15回 総括:まとめと理解度確認		
履修上の注意点 講義には10回以上出席すること。積極的な議論への参加や質問を歓迎します。		
教科書		
参考書		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 40 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 60 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 デイヴ・ゲル, ジェームス	
テーマ Global Events and Topics	
授業の到達目標 Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others	
授業の概要 There will be various activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.	
内 容 第1回 Orientation 第2回 Communication 1 第3回 Communication 2 第4回 The Future 1 第5回 The Future 2 第6回 Shopping For Clothes 1 第7回 Shopping For Clothes 2 第8回 Review 第9回 Lifestyles 1 第10回 Lifestyles 2 第11回 Achievements 1 第12回 Achievements 2 第13回 Consequences 1 第14回 Consequences 2 第15回 Final Review	
履修上の注意点	
教科書 World English 1 Student Book with Online Workbook 1B 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 9.78131E+12 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (30)	小テスト ( ) 授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;d&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 高居 佐紀		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。		
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等) 第2回 Unit2 Placesをテーマにした問題を学ぶ 第3回 進度調整/Review/弱点強化 第4回 Unit5 Businessをテーマにした問題を学ぶ 第5回 進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認 第6回 Listening Section 解説続き 第7回 Reading Section 解説続き 第8回 Unit8 Personnelをテーマにした問題を学ぶ 第9回 進度調整/Review/弱点強化 第10回 Unit11 Financesをテーマにした問題を学ぶ 第11回 進度調整/Review/弱点強化 第12回 Unit14 Healthをテーマにした問題を学ぶ 第13回 進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認 第14回 Listening Section 解説続き 第15回 Reading Section 解説続き		
履修上の注意点		
教科書 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600 著者: 水本 篤/Mark D. Stafford 出版社: 桐原書店 出版年: 2015年 ISBN: 9.78434E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート(30) 小テスト(20) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(30) 上記に加えて学期末英語テスト20%		



## 2017 Syllabus

## 科目名 英語ⅣA &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ 国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する	
授業の到達目標 グローバルに活躍するために、英語でのプレゼンテーションを訓練するコースです。この授業では、プレゼンテーションを数多く実践することを通して、英語力と表現力を身に付けます。発信するためのライティングとスピーキング、受容するためのリスニングとリーディングの英語四技能を、総合的に、プロジェクト・ベースで学びます。後期は、自分の個性を知り、その個性が活きるように、英語で表現することができるようになることを目標とします。	
授業の概要 「日本の魅力」など複数のテーマで、2分間以上(150 words~)のプレゼンテーションを、後期も3回やります。前期同様、準備に4週間かけ、5週目に発表です。発表は全て英語です。実際にプレゼンを何度もやりながら、後期は、できるだけ、発表原稿を見ないで発表する方法を学んでいきます。特に、発音やイントネーションに注意していきましょう。ただ講義を聞いていたら良いというコースではなく、積極的に自分で発表準備をして、自分で発表をするコースです。グループでも発表をするので、クラスで仲良くなります。欠席する場合は、期限内に提出物を学内のPDライブにパソコンを通して提出する必要があります。	
準備学習(予習・復習) 発表原稿のライティングには2週間とってありますが、授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外に自分でそれを補って下さい。また、後期は、プレゼンテーションの練習に時間をかけて、読めない単語が無いように、スムーズに英語の発音ができるようになることを目標の1つにしましょう。英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れておくもの良いでしょう。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。	
内 容 第1回 プロジェクト①日本の魅力:発表原稿ライティング1 第2回 プロジェクト①日本の魅力:発表原稿ライティング2 第3回 プロジェクト①日本の魅力:スライド作成 第4回 プロジェクト①日本の魅力:印刷とリハーサル 第5回 第1回プレゼンテーション 第6回 プロジェクト②日本の社会問題:発表原稿ライティング1 第7回 プロジェクト②日本の社会問題:発表原稿ライティング2 第8回 プロジェクト②日本の社会問題:スライド作成 第9回 プロジェクト②日本の社会問題:印刷とリハーサル 第10回 第2回プレゼンテーション 第11回 プロジェクト③未来の計画:発表原稿ライティング1 第12回 プロジェクト③未来の計画:発表原稿ライティング2 第13回 プロジェクト③未来の計画:スライド作成 第14回 プロジェクト③未来の計画:印刷とリハーサル 第15回 第3回プレゼンテーション	
履修上の注意点 発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があり、遅れると加点されません。また、遅刻3回で参加度から-1となります。また、授業には英和辞書が必要ですので、これを忘れると参加度から-1、また授業態度が悪い場合、居眠りやおしゃべりなど授業態度が悪い場合は参加度から1~5点の減点となります。	
教科書 Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション 著者: 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子 出版社: センゲージラーニング株式会社 出版年: 2014 ISBN: 9.48486E+12 参考書 「意味順」英語学習法 著者: 田地野彰 出版社: (株)ディスカバー・トゥエンティワン 出版年: 2011 ISBN: 9.7848E+12	
成績評価	

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

プレゼンのクラスでは、発表準備をする場合、そして発表を聞く場合、どちらもマナーが大切となります。クラス全体で良い雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、雰囲気を悪くするような授業態度は、かなり減点します。逆に、良い雰囲気を作るチームプレイには加点しますので、頑張ってください。

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;f&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

TOEIC テストの受験準備を通して英語読解力、文法力をアップしよう

授業の到達目標

スコアを伸ばす(少なくとも15点以上)。語彙力を増やす。文法力を増す。目的に合わせて英文を読む力を養う。

授業の概要

語彙・文法小テスト 文法事項のまとめのあとPart5, 6, 7の演習問題をする。

準備学習(予習・復習)

語彙・文法小テストの予習・復習する

内 容

- 第1回 Unit 1 Eating Out 動詞 Unit 2 Travel 動詞  
 第2回 Unit 3 Amusement 品詞 Unit 4 Meetings 分詞  
 第3回 Unit 5 Personnel 不定詞・動名詞 Unit 6 Shopping 不定詞・動名詞  
 第4回 Unit 7 Advertisement 仮定法 Unit 8 Daily Life 受動態  
 第5回 Unit 9 Office Work 代名詞 Unit 10 Business 数量詞・比較  
 第6回 Unit 11 Traffic 接続詞 Unit 12 Finance and Barking 前置詞  
 第7回 Unit 13 Media 語彙 Unit 14 Health and Welfare  
 第8回 模擬テスト演習・まとめ  
 第9回 模擬テスト演習・まとめ  
 第10回 模擬テスト演習・まとめ  
 第11回 模擬テスト演習・まとめ  
 第12回 模擬テスト演習・まとめ  
 第13回 模擬テスト演習・まとめ  
 第14回 時事英語を読む  
 第15回 時事英語を読む

履修上の注意点

辞書を必ず携帯する 授業中に携帯を触った場合、成績から減点する

教科書

Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test Level 1

著者: 北尾泰幸他

出版社: 朝日出版

出版年: 2017

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (25%)

小テスト (25%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 ( )

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20% 試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;g&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 山崎 清水		
テーマ 総合的な英語運用能力の向上		
授業の到達目標 英語運用能力を向上することを目指す。		
授業の概要 英語運用能力を養いながら日本や世界の観光名所をビデオで学ぶ。		
準備学習(予習・復習) 詳細は授業で説明する。		
内 容 第1回 Return of the Wilderness 第2回 Protected Holy Ground 第3回 Adriatic Beauty 第4回 The Miracle of an Angel 第5回 The Remembrance of That Day 第6回 Witness to the Choson Dynasty 第7回 500 Years of Glory 第8回 Wonders of Evolution 第9回 Taught by Nature 第10回 A Drama of Life and Death 第11回 Muslim and Christian Artistic Heritage 第12回 Magnificent National Monument 第13回 Memories of a Court Musician 第14回 Glorious History 第15回 The Lost World		
履修上の注意点 私語は慎むこと。		
教科書 Exploring World Heritage on DVD II 著者：塚野壽一 / Robert Van Benthuyzen 出版社：成美堂 出版年：2015 ISBN: 9.78479E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート (50) 授業中課題 (20) 参加度 (10)	小テスト ( ) 授業中発表等 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;h&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

時事英語への発展。

授業の到達目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事を読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

英文テキストの内容を正確に読み取る練習を続けます。テキスト付属の音源その他で英語の音とリズムに慣れる練習をします。

準備学習(予習・復習)

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けて下さい。

内 容

- 第1回 Chapter 7 Hikikomori
- 第2回 Chapter 7 Hikikomori
- 第3回 Chapter 8 Cults
- 第4回 Chapter 8 Cults
- 第5回 Chapter 9 Baby Boomers Retire
- 第6回 Chapter 9 Baby Boomers Retire
- 第7回 Review
- 第8回 Chapter 10 Immigration
- 第9回 Chapter 11 Telecommuting
- 第10回 Chapter 11 Telecommuting, Chapter 12 Buying Organs
- 第11回 Chapter 12 Buying Organs, Chapter 13 Surrogate Mother
- 第12回 Chapter 13 Surrogate Mother, Chapter 14 Baby Hatch
- 第13回 Chapter 14 Baby Hatch, Chapter 15 Eating Disorder
- 第14回 Chapter 15 Eating Disorder, Summary
- 第15回 Review

履修上の注意点

単語テストを定期的に行うので、出席は大切です。

教科書

Keywords for Japan Today

著者: Paul Stapleton

出版社: Cengage Learning

出版年: 2008

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 80 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

小テストや復習テストを定期的に行い習熟度をチェックします。

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEICリーディングに必要な語彙力および文法、読解力の育成を目的とする。	
授業の概要 TOEIC頻出の文法項目の再確認をしつつ、リーディングパートを量的にこなすことに主眼を置き、スピーディにしかも正確に英文を処理する力の育成をめざす。問題を解いた後、ペアワークで、構文の理解やキーセンテンスの確認などを行い、確実に英文を理解する力をつけて行く。終盤では総合演習を行い、適宜時事英語も扱う。	
準備学習(予習・復習) 語彙学習(予習・30分程度) リーディングタスク(宿題・40分程度)、日ごろから英語で情報を取り入れることを習慣化すること。	
内 容 第1回 TOEIC頻出英文法(1)動詞 第2回 TOEIC頻出英文法(2)品詞 第3回 TOEIC 頻出英文法(3)接続詞と前置詞 第4回 TOEIC頻出英文法(4)分詞 第5回 Part 5 (1) 第6回 Part 5 (2) 第7回 Part 6 第8回 Part 7 シングルパッセージ(1) 第9回 Part 7 シングルパッセージ(2) 第10回 Part 7 ダブルパッセージ 第11回 Part 7 トリプルパッセージ 第12回 これまでの学習事項の復習 第13回 総合問題演習(1) 第14回 総合問題演習(2) 第15回 総合問題演習(3)	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくること。TOEIC自己目標スコアを設定し、集中力を持って授業に臨むこと。	
教科書 公式TOEIC Listening & Reading 問題集1 著者: ETS 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 出版年: 2016 ISBN: 9.78491E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 30% ) 授業中課題 ( 30% ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 20% ) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;J&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等)
- 第2回 Unit2 Placesをテーマにした問題を学ぶ
- 第3回 進度調整/Review/弱点強化
- 第4回 Unit5 Businessをテーマにした問題を学ぶ
- 第5回 進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認
- 第6回 Listening Section 解説続き
- 第7回 Reading Section 解説続き
- 第8回 Unit8 Personnelをテーマにした問題を学ぶ
- 第9回 進度調整/Review/弱点強化
- 第10回 Unit11 Financesをテーマにした問題を学ぶ
- 第11回 進度調整/Review/弱点強化
- 第12回 Unit14 Healthをテーマにした問題を学ぶ
- 第13回 進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認
- 第14回 Listening Section 解説続き
- 第15回 Reading Section 解説続き

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600

著者: 水本 篤/Mark D. Stafford

出版社: 桐原書店

出版年: 2015年

ISBN: 9.78434E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;k&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 櫃本 一美		
テーマ 実用的な英語のリーディングと文法の習得。		
授業の到達目標 基本的な文法を復習しながら、英語で正確に読み、また、伝達できるようになる。		
授業の概要 テキストに加え、速読や文法のプリントに基づいて学習する。		
準備学習(予習・復習) 授業中、自宅での課題を確実にこなす。		
内 容 第1回 1)Unit4 2)接続詞 第2回 1)Unit4 2)接続詞 第3回 1)Unit4 2)接続詞 第4回 1)Unit4 2)関係詞 第5回 復習 第6回 1)Unit5 2)関係詞 第7回 1)Unit5 2)関係詞 第8回 1)Unit5 2)関係詞 第9回 1)Unit5 2)比較 第10回 復習 第11回 1)Unit6 2)比較 第12回 1)Unit6 2)仮定法 第13回 1)Unit6 2)仮定法 第14回 1)Unit6 2)仮定法 第15回 復習		
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用する。		
教科書 Reading for Today THEMES 著者: Lorraine C. Smith 出版社: CENGAGE Learning 出版年: 参考書	ISBN: 9.78131E+12	
成績評価 試験・レポート (40) 授業中課題 (30) 参加度 (30)	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	



## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;I&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 野口 博代	
テーマ 世界中で起こる様々な現代社会の問題を英語で考え議論する。	
授業の到達目標 世界の様々な現代社会の問題に関心を持ち、新聞、雑誌、ウェブサイトなどの英文記事を読んだり、その内容に関して英語で聞いたり議論することにより、英語の総合的な力の向上を目標とする。	
授業の概要 英文記事などを用いてのリーディング演習。各ユニットの問題に関するリスニング問題、また英語で議論することによるスピーキング練習を行う。ペアやグループによるアクティビティを行い、活発な授業参加を促す。	
準備学習(予習・復習) 各ユニットの英文は予習して、授業でのディスカッションに参加できるように準備しておくこと。授業外でも、新聞やインターネットなどを活用して英語のニュースに親しむ努力をすること。	
内 容 第1回 オリエンテーション。Unit 8 Divorce: Reading, Listening 第2回 Unit 8 Discussion, Unit 9 Cars: Reading 第3回 Unit 9 Listening, Discussion 第4回 Unit 10 Working parents: Reading, Listening 第5回 Unit 10 Discussion Unit 11 Computers: Reading 第6回 Unit 11 Listening, Discussion 第7回 Unit 12 Television: Reading, Listening 第8回 Unit 12 Discussion, Unit 13 Gambling: Reading 第9回 Unit 13 Listening, Discussion 第10回 Unit 14 Gender gap: Reading, Listening 第11回 Unit 14 Discussion, Unit 15 Cloning: Reading 第12回 Unit 15 Listening, Discussion 第13回 Extra Activity 第14回 Review and Extra Activity 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点 単位取得には2/3以上の出席が必要。遅刻3回で欠席1回とみなす。30分以上の遅刻は欠席とみなす。座席指定をします。	
教科書 Which side are you on? -New Edition- 著者: Gillian Flaherty 出版社: 成美堂 出版年: 2017 ISBN: 9.78479E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (40%) 授業中課題 (30%) 参加度 (20%) 小テスト (0%) 授業中発表等 (10%) 上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、小テストに代わるものとして全て評価対象となる。参加度とは積極的な姿勢で授業に取り組む授業態度により評価される。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;m&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 原 俊樹		
テーマ 一段上の英語力を身につけよ		
授業の到達目標 ⅢAと同様に、実践的な英語運用能力を身につける		
授業の概要 基本的には各ユニットに沿って授業を進める。		
準備学習(予習・復習) 予習・復習を確実にしてくること。		
内 容 第1回 テキスト前半部の学習内容の整理と確認 第2回 基礎力判定実力テスト 英文の基本表現の確認1: 英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方 第3回 英文の基本表現の確認2: 5文型 第4回 英文の基本表現の確認3: 文の要素・修飾語句 第5回 叙法 第6回 関係詞(関係代名詞と関係副詞) 第7回 助動詞の用法1 第8回 助動詞の用法2 第9回 話法 第10回 比較 第11回 否定 第12回 疑問 第13回 複雑な構造を持つ文の理解1: 接続語句と重文・複文 第14回 複雑な構造を持つ文の理解2: 分詞構文 第15回 後期のまとめ・到達度の確認		
履修上の注意点		
教科書 English through the News Media 2017 Edition 著者: MasamiTakahashi/ Noriko Itoh/ RichardPowell 出版社: Asahi Press 出版年: 2017 ISBN: 978425515604-0		
参考書		
成績評価 試験・レポート (50%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%)	小テスト (20%) 授業中発表等 (10%)	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;n&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 野口 博代	
テーマ 世界中で起こる様々な現代社会の問題を英語で考え議論する。	
授業の到達目標 世界の様々な現代社会の問題に関心を持ち、新聞、雑誌、ウェブサイトなどの英文記事を読んだり、その内容に関して英語で聞いたり議論することにより、英語の総合的な力の向上を目標とする。	
授業の概要 英文記事などを用いてのリーディング演習。各ユニットの問題に関するリスニング問題、また英語で議論することによるスピーキング練習を行う。ペアやグループによるアクティビティを行い、活発な授業参加を促す。	
準備学習(予習・復習) 各ユニットの英文は予習して、授業でのディスカッションに参加できるように準備しておくこと。授業外でも、新聞やインターネットなどを活用して英語のニュースに親しむ努力をすること。	
内 容 第1回 オリエンテーション。Unit 8 Divorce: Reading, Listening 第2回 Unit 8 Discussion, Unit 9 Cars: Reading 第3回 Unit 9 Listening, Discussion 第4回 Unit 10 Working parents: Reading, Listening 第5回 Unit 10 Discussion Unit 11 Computers: Reading 第6回 Unit 11 Listening, Discussion 第7回 Unit 12 Television: Reading, Listening 第8回 Unit 12 Discussion, Unit 13 Gambling: Reading 第9回 Unit 13 Listening, Discussion 第10回 Unit 14 Gender gap: Reading, Listening 第11回 Unit 14 Discussion, Unit 15 Cloning: Reading 第12回 Unit 15 Listening, Discussion 第13回 Extra Activity 第14回 Review and Extra Activity 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点 単位取得には2/3以上の出席が必要。遅刻3回で欠席1回とみなす。30分以上の遅刻は欠席とみなす。座席指定をします。	
教科書 Which side are you on? -New Edition- 著者: Gillian Flaherty 出版社: 成美堂 出版年: 2017 ISBN: 9.78479E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (40%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (20%) 上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、小テストに代わるものとして全て評価対象となる。参加度とは積極的な姿勢で授業に取り組む授業態度により評価される。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;○&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 川口 玲子	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。	
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 後期オリエンテーション/前期の復習 第2回 Unit8 Personnel 第3回 Unit9 Management 第4回 Unit10 Purchasing 第5回 Unit11 Finances 第6回 Unit12 Media 第7回 Unit13 Entertainment 第8回 Unit14 Health 第9回 Unit15 Restaurants 第10回 進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認 第11回 Listening Section実施+解説 第12回 Listening Section 解説続き 第13回 Reading Section実施+解説 第14回 Reading Section 解説続き 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト	
履修上の注意点	
教科書 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600 著者： 水本 篤/Mark D. Stafford 出版社： 桐原書店 出版年： 2015年 ISBN: 9.78434E+12 はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式問題対応 著者： 入江 泉 出版社： 旺文社 出版年： 2016年 ISBN: 9.78401E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 30 ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 30 ) 上記に加えて学期末英語テスト20%	小テスト ( 20 ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 英語ⅣA &lt;p&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 原 俊樹	
テーマ 一段上の英語の運営能力を身につける	
授業の到達目標 ⅢAと同様に、英語の理解・運用の能力を身につける。	
授業の概要 ⅢA同様に基本的にはテキストの各ユニットに沿って授業を進める 習熟度・理解度をみるための小テスト・実力テスト・課題を用意します	
準備学習(予習・復習) 予習・復習を確実にすること	
内 容 第1回 テキスト前半部(ⅢA範囲)の学習内容の整理と確認 第2回 基礎力判定テスト 英文の基本表現の確認1:英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方 第3回 英文の基本表現の確認2:5文型 第4回 英文の基本構造の確認3:文の要素と修飾語句 第5回 叙法:直説法・命令法・仮定法 第6回 関係詞:関係代名詞と関係副詞 第7回 助動詞の用法1 第8回 助動詞の用法2 第9回 話法 第10回 比較 第11回 否定 第12回 疑問 第13回 複雑な構造を持つ文の理解1:接続語句と重文・複文 第14回 複雑な構造を持つ文の理解2:分詞構文 第15回 後期のまとめ・到達度の確認	
履修上の注意点	
教科書 Understanding Health Care 著者: Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ etc. 出版社: Asahi Press 出版年: 2011 ISBN: 9.78426E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (50%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%)	小テスト (20%) 授業中発表等 (10%)

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語ⅣA &lt;R&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 杉山 泰	
テーマ 新聞英語を読みながら、英語構文と国際ニュースの理解の仕方を学ぶ	
授業の到達目標 TPPだとか、skypeを日本語に訳しているだろうか。smartphoneもCDも日本語に訳していない。逆に、「自衛隊」だとか「後方支援」、「専守防衛」といった日本語を英語に置き換えることははなはだむずかしい。literatureを「文学」、economicsを「経済」と日本語に翻訳した明治時代の日本人の偉大さを学びながら、最近の新聞英語を徹底的に日本語に翻訳する作業を行なう。国際情勢を学ぶことを最大の目標とする。	
授業の概要 毎回、やさしい英字新聞を提示して、それを日本語に翻訳してもらおう。日頃から新聞を読んでいれば、そうむずかしくはない。翻訳した日本語を添削して、翌週に返却する。毎回それをファイルして、国際情勢の知識を高めてもらう。	
準備学習(予習・復習) 毎回新聞英語を翻訳してもらおうので、辞書の持参が必要。	
内 容 第1回 自己紹介。「氏名カード」の記入。最近の10大ニュースを書いてもらう。 第2回 それぞれが書いた10大ニュースを英語に翻訳してもらう。 第3回 新聞英語の英文法と使用頻度の高い短い英単語を丸暗記してもらう。 第4回 英語の時制(新聞英語の中で、時制に注意すべき英文の翻訳実践) 第5回 完了形の英語(時間の幅がある場合の英文の翻訳実践) 第6回 不定詞の英語(未来志向の不定詞の英文の翻訳実践) 第7回 There is構文の英語(客観的存在表現の英文の翻訳実践) 第8回 比較級の英語(比較表現の英文の翻訳実践) 第9回 仮定法の英語(ありえないことの仮定をする英文の翻訳実践) 第10回 仮定法の英語(If節がない仮定をする英文の翻訳実践) 第11回 日本語に訳せない英語(日本語では表現できない英文の翻訳実践) 第12回 文化の違いを示している英語(文化の違いが明らかな英文の翻訳実践) 第13回 英字新聞で書かれているPrime Minister Shinzo Abeをどう考えるか？ 第14回 英字新聞で「清式部」や「清少納言」はどう翻訳されているのか？ 第15回 今年度の英字新聞に現れた新しい英語を10以上あげてその日本語訳を考える	

## 履修上の注意点

毎回英字新聞からの切り抜きをプリントして翻訳していくので、必ず辞書を持参すること。また、毎回添削返却するので、返却された答案用紙を必ずファイルしておくこと。

## 教科書

杉山「プリント」

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

「超基本」の英単語

著者: 尾崎哲夫

出版社: 角川新書

出版年: 2002

ISBN:

大世界史

著者: 池上彰・佐藤優

出版社: 文春新書

出版年: 2015

ISBN:

翻訳教室

著者： 鴻巣友季子

出版社： ちくまプリマー新書

出版年： 2013

ISBN:

英文翻訳術

著者： 安西徹男

出版社： ちくま学芸文庫

出版年： 1995

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20% )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

欠席した場合、「プリント」を自宅で仕上げ提出すれば、遅れとしての出席を認める場合がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語IVB &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 占部 幹也		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 英語ビジネスコミュニケーション力の伸びは主にTOEICで測る。演習問題では70～80%以上の正答率を保持することを目標とする。		
授業の概要 英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。テキストの設問を発展させ、解答理由の根拠を英語で述べたり、リーディングパッセージを要約して発表したり、一方通行ではないアクティブラーニングを行う。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Unit1 Daily Lifeをテーマにした問題を学ぶ 第2回 Unit3 Peopleをテーマにした問題を学ぶ 第3回 Unit4 Travelをテーマにした問題を学ぶ 第4回 Unit6 Officeをテーマにした問題を学ぶ 第5回 Listening Section実施+解説 第6回 Reading Section実施+解説 第7回 Unit7 Technologyをテーマにした問題を学ぶ 第8回 Unit9 Managementをテーマにした問題を学ぶ 第9回 Unit10 Purchasingをテーマにした問題を学ぶ 第10回 Unit12 Mediaをテーマにした問題を学ぶ 第11回 Unit13 Entertainmentをテーマにした問題を学ぶ 第12回 Unit15 Restaurantsをテーマにした問題を学ぶ 第13回 Listening Section実施+解説 第14回 Reading Section実施+解説 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト		
履修上の注意点		
教科書 はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式問題対応 著者: 入江 泉 出版社: 旺文社 出版年: 2016年 ISBN: 9.78401E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート ( 30 ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 30 ) 上記に加えて学期末英語テスト20%	小テスト ( 20 ) 授業中発表等 ( )	



## 2017 Syllabus

科目名 英語IVB &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ 国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する	
授業の到達目標 グローバルに活躍するために、英語でのプレゼンテーションを訓練するコースです。この授業では、プレゼンテーションを数多く実践することを通して、英語力と表現力を身に付けます。発信するためのライティングとスピーキング、受容するためのリスニングとリーディングの英語四技能を、総合的に、プロジェクト・ベースで学びます。後期は、自分の個性を知り、その個性が活きるように、英語で表現することができるようになることを目標とします。	
授業の概要 「日本の魅力」など複数のテーマで、2分間以上(150 words~)のプレゼンテーションを、後期も3回やります。前期同様、準備に4週間かけ、5週目に発表です。発表は全て英語です。実際にプレゼンを何度もやりながら、後期は、できるだけ、発表原稿を見ないで発表する方法を学んでいきます。特に、発音やイントネーションに注意していきましょう。ただ講義を聞いていたら良いというコースではなく、積極的に自分で発表準備をして、自分で発表をするコースです。グループでも発表をするので、クラスで仲良くなります。欠席する場合は、期限内に提出物を学内のPDライブにパソコンを通して提出する必要があります。	
準備学習(予習・復習) 発表原稿のライティングには2週間とってありますが、授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外に自分でそれを補って下さい。また、後期は、プレゼンテーションの練習に時間をかけて、読めない単語が無いように、スムーズに英語の発音ができるようになることを目標の1つにしましょう。英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れておくもの良いでしょう。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。	
内 容 第1回 プロジェクト①日本の魅力:発表原稿ライティング1 第2回 プロジェクト①日本の魅力:発表原稿ライティング2 第3回 プロジェクト①日本の魅力:スライド作成 第4回 プロジェクト①日本の魅力:印刷とリハーサル 第5回 プレゼンテーション1 第6回 プロジェクト②日本の社会問題:発表原稿ライティング1 第7回 プロジェクト②日本の社会問題:発表原稿ライティング2 第8回 プロジェクト②日本の社会問題:スライド作成 第9回 プロジェクト②日本の社会問題:印刷とリハーサル 第10回 プレゼンテーション2 第11回 プロジェクト③未来の計画:発表原稿ライティング1 第12回 プロジェクト③未来の計画:発表原稿ライティング2 第13回 プロジェクト③未来の計画:スライド作成 第14回 プロジェクト③未来の計画:印刷とリハーサル 第15回 プレゼンテーション3	
履修上の注意点 発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があり、遅れると加点されません。また、遅刻3回で参加度から-1となり、グループ発表で欠席すると参加度から-2となります。なお、授業には、英和辞書が必要です。	
教科書 Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション 著者: 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子 出版社: センゲージラーニング株式会社 出版年: 2014 ISBN: 9.48486E+12	
参考書 「意味順」英語学習法 著者: 田地野彰 出版社: (株)ディスカバー・トゥエンティワン 出版年: 2011 ISBN: 9.7848E+12	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( )	

授業中課題（40）

授業中発表等（30）

参加度（30）

プレゼンのクラスでは、発表準備をする場合、そして発表を聞く場合、どちらもマナーが大切となります。クラス全体で良い雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、雰囲気を悪くするような授業態度は、かなり減点します。逆に、良い雰囲気を作るチームプレイには加点しますので、頑張ってください。

---

## 2017 Syllabus

科目名 英語IVB &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 松村 優子	
テーマ 英字新聞を読み・聴き、現代社会の様々な問題・現象を理解し、読解・リスニング・語彙を中心とした英語総合力を向上させることを目指す。	
授業の到達目標 1. 英字新聞ニュースの構造や表現などに慣れる。2. ニュースで扱われている現代社会の様々な問題に対する認識、関心を高める。3. ニュース・トピックに関する語彙力、聴解力、読解力、文法力などの総合力を伸ばす。	
授業の概要 各章について、以下の順通りに進める。1. Before Reading 1,2 [トピック提示,語彙問題]、2. 記事の読解、3. While Reading 1,2,3,4,5 [記事に関する読解問題]、4 After Reading 1,2,3 [英作文, 語彙問題] さらに、発表形式も取り入れていく。	
準備学習(予習・復習) テキスト指定箇所の予習、復習をすること。重要語彙をノートにまとめておくこと。	
内 容 第1回 イントロダクション 第2回 Unit 11 Britain approves gene-editing experiments 英国、遺伝子編集実験を容認 第3回 Unit 12 Sports help bridge nations, cultural divides スポーツ、国や文化の隔たりを埋める助けに 第4回 Unit 13 70% of emergency calls to 119 considered needless 119番への緊急通報、70%が不必要とみなされる 第5回 Unit 14 University study finds a 'whitewashed' Hollywood 大学の研究、「白人化」されたハリウッドを発見 第6回 Unit 15 Downloaded music causing legal headache for wedding parties ダウンロードした音楽、披露宴で法的な頭痛の種に 第7回 Unit 16 Learning from wisdom, spirit of ninja 忍者の知恵と精神から学ぶ 第8回 Unit 17 Hong Kong's growing problem with plastic 香港で深刻化するプラスチックの問題 第9回 Unit 18 Brazil defends treasures of its 'Blue Amazon' ブラジル、「ブルーアマゾン」という宝を保護 第10回 Unit 19 3-D printers shape dreams 3Dプリンターが夢を形に 第11回 Unit 20 Obama moves to tighten gun control オバマ大統領、銃規制強化に動く 第12回 プリント等 第13回 プリント等 第14回 復習、復習テスト 第15回 復習、復習テスト	
履修上の注意点 1. テキスト指定箇所を予習してきたことを前提に授業を進める。2. 1回の授業でテキスト1章のペースで進む予定であるが、学習状況により進め方の変更や調整もある。3. 学習状況によりUnit の順番を変えることもあるが、後期は11章から20章まで進む予定である。	
教科書 Meet the World 2017—English through Newspapers メディアで学ぶ日本と世界 2017 著者: 若宥保彦 出版社: 成美堂 出版年: 2017 ISBN: 9.78479E+12 参考書	
成績評価 試験・レポート (0%) 小テスト (60%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (15%) 参加度 (15%) 小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。	

## 2017 Syllabus

科目名 英語IVB &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 Unit1 Daily Lifeをテーマにした問題を学ぶ
- 第2回 Unit3 Peopleをテーマにした問題を学ぶ
- 第3回 Unit4 Travelをテーマにした問題を学ぶ
- 第4回 Unit6 Officeをテーマにした問題を学ぶ
- 第5回 Listening Section実施+解説
- 第6回 Reading Section実施+解説
- 第7回 Unit7 Technologyをテーマにした問題を学ぶ
- 第8回 Unit9 Managementをテーマにした問題を学ぶ
- 第9回 Unit10 Purchasingをテーマにした問題を学ぶ
- 第10回 Unit12 Mediaをテーマにした問題を学ぶ
- 第11回 Unit13 Entertainmentをテーマにした問題を学ぶ
- 第12回 Unit15 Restaurantsをテーマにした問題を学ぶ
- 第13回 Listening Section実施+解説
- 第14回 Reading Section実施+解説
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式問題対応

著者: 入江 泉

出版社: 旺文社

出版年: 2016年

ISBN: 9.78401E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 **英語IVB <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	パスカヴィル, プライアン	
テーマ	Expressing More of Your Ideas in English	
授業の到達目標	The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.	
授業の概要	This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習)	If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.	
内 容	<p>第1回 introductions  第2回 classroom English  第3回 movies  第4回 television  第5回 work-A  第6回 work-B  第7回 health-A  第8回 health-B  第9回 love &amp; marriage  第10回 music  第11回 books  第12回 places in Japan  第13回 Japanese culture  第14回 talking about Japan  第15回 review</p>	
履修上の注意点	If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.	
教科書	<p>Let's Chat  著者: John Pak  出版社: EFL Press  出版年: 2007 ISBN: 4.58024E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( 20 )                      小テスト ( )  授業中課題 ( 40 )                              授業中発表等 ( )  参加度 ( 40 )</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 英語IVB &lt;f&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 小川 享子		
テーマ TOEIC テストの受験準備を通してリスニング力をアップしよう		
授業の到達目標 スコアを伸ばす(少なくとも15点以上)。語彙力を増やす。目的に合わせてリスニング問題の設問の英文を速く読む力を養う。		
授業の概要 語彙小テストのあと、リスニングセクションの問題を演習する		
準備学習(予習・復習) 語彙の予習復習 リスニング教材の聞き直し		
内 容 第1回 Unit 1 Eating Out: Parts 1, 2, 3, and 4 Unit 2 Travel: Parts 1, 2, 3, and 4 第2回 Unit 3 Amusement: Parts 1, 2, 3, and 4 Unit 4 Meetings: Parts 1, 2, 3, and 4 第3回 まとめ・進捗調整 第4回 Unit 5 Personnel: Parts 1, 2, 3, and 4 Unit 6 Shopping: Parts 1, 2, 3, and 4 第5回 Unit 7 Advertisement: Parts 1, 2, 3, and 4 Unit 8 Daily Life: Parts 1, 2, 3, and 4 第6回 まとめ・進捗調整 第7回 Unit 9 Office Work: Parts 1, 2, 3, and 4 Unit 10 Business: Parts 1, 2, 3, and 4 第8回 Unit 11 Traffic: Parts 1, 2, 3, and 4 Unit 12 Finance and Banking: Parts 1, 2, 3, and 4 第9回 まとめ・進捗調整 第10回 Unit 13 Media : Parts 1, 2, 3, and 4 Unit 14 Health and Welfare: Parts 1, 2, 3, and 4 第11回 まとめ・進捗調整 模擬テスト演習 第12回 模擬テスト演習 第13回 模擬テスト演習 第14回 時事英語を読む 第15回 時事英語を読む		
履修上の注意点 必ず辞書を携帯すること。授業中に携帯を触った場合は成績より減点をする。音声はDownloadによる教材なので、しない学生は成績より5点減点する		
教科書 Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test Level 1 著者: 北尾泰幸他 出版社: 朝日出版 出版年: 2017 ISBN: 9.78426E+12 参考書		
成績評価 試験・レポート (25%) 小テスト (25%) 授業中課題 (15%) 授業中発表等 ( ) 参加度 (15%) 上記に加えて学期末英語テスト20% 試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。授業中課題は宿題なども含む。参加度には授業中の発表が含まれる。		

2017 Syllabus
---------------

科目名 **英語IVB <g>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 クーラン, コーリ	
テーマ Travel English	
授業の到達目標 Continue to learn and improve on the basics of travel and survival English.	
授業の概要 **This course will be taught in English** We will continue to follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad.	
準備学習(予習・復習) Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their Travel English studies in their free time.	
内 容 第1回 Welcome back, fall semester preview, and begin Unit 7 "Do you want to go to a concert?" 第2回 Finish Unit 7 第3回 Begin Unit 8 "I have to study." 第4回 Finish Unit 8 第5回 Begin Unit 9 "Did you go on the rollercoaster?" 第6回 Finish Unit 9 第7回 Review and reflection of Units 7 to 9 第8回 Begin Unit 10 "I think I'm lost!" 第9回 Finish Unit 10 第10回 Begin Unit 11 "Have you been to Kyoto?" 第11回 Finish Unit 11 第12回 Begin Unit 12 "Are the hotdogs ready yet?" 第13回 Finish Unit 12 第14回 Review and reflection of Units 10 to 12 第15回 Review and recap of semester	
履修上の注意点 **You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **More than half of your grade will be based on your in-class performance.	
教科書 My First Passport 2 著者: Tanja McCandie 出版社: Oxford 出版年: 2006 ISBN: 9.78019E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 20 ) 小テスト ( 20 ) 授業中課題 ( 0 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( 30 ) In this semester, more emphasis will be put on in-class performance compared to the spring semester.	

## 2017 Syllabus

科目名 **英語IVB <h>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 ヒエタラヒティ, エレキ		
テーマ Oral English with Culture Content		
授業の到達目標 Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.		
授業の概要 - THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH - You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the world. Also, practical skills such as using basic verb tenses.		
準備学習(予習・復習) It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.		
内 容 第1回 Start Unit 5 "Sports" 第2回 Continue Unit 5 第3回 Finish Unit 5 第4回 Start Unit 6 "Destinations" 第5回 Continue Unit 6 第6回 Finish Unit 6 第7回 Review and reflection of Units 5 and 6 第8回 Start Unit 7 "Communication" 第9回 Continue Unit 7 第10回 Finish Unit 7 第11回 Start Unit 8 "Moving Forward" 第12回 Continue Unit 8 第13回 Finish Unit 8 第14回 Review and reflection of Units 7 and 8 第15回 Semester review and recap		
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.		
教科書 World English 1 著者: Martin Milner 出版社: Heinle, Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: World English 1: Printed Workbook 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書		
成績評価 試験・レポート (30) 授業中課題 (20) 参加度 (10) You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.	小テスト (30) 授業中発表等 (10)	



## 2017 Syllabus

科目名 英語IVB &lt;i&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 溝部 芳子		
テーマ TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEICリスニングに必要なリスニングスキルの修得を目標とする。		
授業の概要 各パートに必要なスキルの確認後、リスニング問題を量的にこなすことに主眼を置き、英語の音声情報を正確に処理する力の育成を目指す。頻出のビジネスシーン会話やアナウンスメントのシャドーイング、暗唱を行う。		
準備学習(予習・復習) 予習: 語彙学習(30分程度)。復習: 課題のリスニングタスクを行う(30分程度)。Web 等を利用して、身近なニュースを英語で聴く習慣をつける。		
内 容 第1回 オリエンテーション(テキストの使い方、宿題、成績評価について) 第2回 Part 1で必要なスキルの確認と問題演習 第3回 Part 2で必要なスキルの確認と問題演習 第4回 Part 2 問題演習・解説 第5回 Part 3で必要なスキルの確認と問題演習 第6回 Part 3 問題演習 第7回 Part 4で必要なスキルの確認と問題演習 第8回 Part 4 問題演習 第9回 身近なニュースを英語で聞く(1) 第10回 Part 1 実践練習・解説 第11回 Part 2 実践練習・解説 第12回 Part 3 実践練習・解説 第13回 Part 4 実践練習・解説 第14回 身近なニュースを英語で聞く(2) 第15回 復習(語彙とスキルのまとめ)		
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。TOEICの自己目標スコアを設定し、集中力を持って授業に臨んでください。		
教科書 公式TOEIC Listening & Reading 問題集1 著者: ETS 出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会 出版年: 2016 ISBN: 9.78491E+12		
参考書		
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 30% ) 授業中課題 ( 30% ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 20% ) 上記に加えて学期末英語テスト20%		

## 2017 Syllabus

科目名 英語IVB &lt;j&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 Unit1 Daily Lifeをテーマにした問題を学ぶ
- 第2回 Unit3 Peopleをテーマにした問題を学ぶ
- 第3回 Unit4 Travelをテーマにした問題を学ぶ
- 第4回 Unit6 Officeをテーマにした問題を学ぶ
- 第5回 Listening Section実施+解説
- 第6回 Reading Section実施+解説
- 第7回 Unit7 Technologyをテーマにした問題を学ぶ
- 第8回 Unit9 Managementをテーマにした問題を学ぶ
- 第9回 Unit10 Purchasingをテーマにした問題を学ぶ
- 第10回 Unit12 Mediaをテーマにした問題を学ぶ
- 第11回 Unit13 Entertainmentをテーマにした問題を学ぶ
- 第12回 Unit15 Restaurantsをテーマにした問題を学ぶ
- 第13回 Listening Section実施+解説
- 第14回 Reading Section実施+解説
- 第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版:新形式問題対応

著者: 入江 泉

出版社: 旺文社

出版年: 2016年

ISBN: 9.78401E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (20)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

## 2017 Syllabus

科目名 **英語IVB <k>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ソーソン, マーカス	
テーマ Acting English Drama	
授業の到達目標 This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.	
授業の概要 Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) Preview next lesson before each class and extra for tests.	
内 容 第1回 Introductions, Class Objectives 第2回 Journals Homework #1 Introduction. 第3回 The Alien Truth – Story Research 第4回 Journals week 3 Pronunciation Pg. 5 第5回 Leaving Normal – Acting Scene. 第6回 Episode 5 Missing Q – A 第7回 Journals week 6 Kyle and Liz Scene 第8回 Episode 7 Riverdog – Acting 第9回 Story Review – Tell the story. 第10回 Episode 9 Heat Wave 第11回 Final Journals week 10 第12回 Presentations – Reports 第13回 Toy House – Acting Scene 第14回 Into the Woods 第15回 The Convention – Q and A	
履修上の注意点 You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.	
教科書 Acting English Drama 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート (20) 授業中課題 (20) 参加度 (20)	小テスト (20) 授業中発表等 (20)



<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語IVB <m>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 フリン, マイケル	
テーマ Using English for Communication	
授業の到達目標 Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context	
授業の概要 This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) Do assigned homework, preview and review textbook.	
内 容	
第1回 Orientation and Summer vacation	
第2回 Your Family	
第3回 Typical families	
第4回 Making generalizations	
第5回 Sports	
第6回 Fitness	
第7回 Talking about quantity and frequency	
第8回 Review	
第9回 Leisure activities	
第10回 Weekends	
第11回 Vacations	
第12回 Your neighborhood	
第13回 Places	
第14回 Complaints	
第15回 Review	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書	
Interchange I Student's Book A(fourth Edition)	
著者: Jack C. Richards	
出版社: Cambridge University Press	
出版年:	ISBN: 9.78052E+12
Interchange I Workbook A(4th Edition)	
著者: Jack C. Richards	
出版社: Cambridge University Press	
出版年:	ISBN: 9.78052E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 0 )	小テスト ( 55 )
授業中課題 ( 0 )	授業中発表等 ( 0 )
参加度 ( 45 )	
Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.	

<b>2017 Syllabus</b>
----------------------

科目名 **英語IVB <n>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ヒエタラヒティ, エレキ	
テーマ Nursing English	
授業の到達目標 Learn the basics of healthcare English.	
授業の概要 #NAME?	
準備学習(予習・復習) It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.	
内 容 第1回 Start Unit 7 "Locations of Hospital Objects" 第2回 Finish Unit 7 第3回 Start Unit 8 "Hospital Directions and Instructions" 第4回 Finish Unit 8 第5回 Start Unit 9 "Directions (Outside the Hospital)" 第6回 Finish Unit 9 第7回 Review and reflection of Units 7 to 9 第8回 Start Unit 10 "Chatting with a Patient" 第9回 Finish Unit 10 第10回 Start Unit 11 "Taking a Medical History" 第11回 Finish Unit 11 第12回 Start Unit 12 "Hospital Procedures" 第13回 Finish Unit 12 第14回 Review and reflection of Units 10 to 12 第15回 Semester review and recap	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書 Vital Signs 著者: Morooka & Sugiura 出版社: Nan'un-do 出版年: 2009 ISBN: 9.78452E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (30) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.	



## 2017 Syllabus

科目名 英語IVB &lt;p&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 クーラン, コーリ	
テーマ Beginner level English for students of nursing.	
授業の到達目標 The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.	
授業の概要 Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.	
内 容 第1回 Review of materials covered in Semester 1 第2回 "Catching a cold" printout 第3回 Hospital routine 第4回 Hospital routine 第5回 Parts of the body 第6回 Parts of the body 第7回 Review and recap of weeks 2 to 6 第8回 "The pharmacist" printout 第9回 Hospital routine 第10回 Hospital routine 第11回 Hospital objects 第12回 Hospital objects 第13回 Count and no-count of hospital objects 第14回 Review and recap of weeks 11 to 13 第15回 Review and recap of course	
履修上の注意点 **You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **60% of your grade will be based on your in-class performance. **Text material prints will be given out only ONCE. If you lose them, you must photocopy the pages needed before the start of the next class. **There will be a heavier focus on medical procedure and medical vocabulary in this semester.	
教科書 Vital Signs 2 著者: V. Morooka, T. Sugiura 出版社: 南雲堂 出版年: 2014 ISBN: 978-4523177555	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( 40 ) 授業中課題 ( ) 参加度 ( 30 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 30 )
Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.	



## 2017 Syllabus

## 科目名 英語ⅣB &lt;R&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 杉山 泰	
テーマ 基礎英語(Basic English)をフルに活用して、日本人への外国人の質問(なぜ=Why)に答える	
授業の到達目標 「これください」をI'll take this.とはなかなか言えない。「私」を主語にして、自己主張をしないと、英語という言葉は機能しない。「ここはどこですか」にしてもWhere am I?と表現する。英語では常に「私」が必要となる。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」という主語なし日本語を話している日本人は、変身しないと英語は話せない。そのことを毎回プリントを英訳することで実践していきたい。	
授業の概要 「基礎英語文法」を15回にわたって学んでもらい、実際に毎回「プリント」を仕上げていくことで、中学校で学んだ英文法を整理してもらう。役に立つ表現(There is構文/ It is easy to構文 / 比較級構文 / 仮定法構文 / Why構文)を学んでいく。	
準備学習(予習・復習) 毎回プリントを仕上げてもらうので、辞書が必要。	
内 容 第1回 自己紹介。「氏名カード」の記入。 第2回 「私」からの発想(I need your credits.) 第3回 S+V+O構文=have動詞による役に立つ表現(Do you have a pain?) 第4回 英語的発想=S+V+O構文(I have a fever.=熱があります) 第5回 英語的発想=現在/過去/未来(Did you have much information?) 第6回 英語的発想=S+V+C構文(Where are you from?) 第7回 英語的発想=S+V+C構文(動詞+ingと動詞+ed構文) 第8回 There is構文=「～があります」という存在構文(英詩を書こう) 第9回 日本文学の英訳を再度日本語に訳そう(川端康成、村上春樹、石牟礼道子など) 第10回 There is 構文で高級な英語を作ろう(There is no way of stopping the leak of polluted water in the nuke stations.) 第11回 There is構文で俵万智を英訳する(愛している愛していない花びらの数だけ愛があればいいのに) 第12回 仮定法(ありえないことを仮定する)=シュミレーションが苦手な日本人 第13回 仮定法(もし世界が100人の村ならば)=各自ネットから英語でIf the world were a vilage of 100 peopleを引いてきて翻訳してもらう。 第14回 Why-Because thiry(なぜ日本人は漫画が好きなのですか)=外国人の質問に各自ユニークに答えてもらう。 第15回 英語的発想のまとめ。特に、外国人の日本人への質問にやさしい英語で各自答えてもらい、提出してもらう。	

## 履修上の注意点

毎回「プリント」を仕上げていくので、辞書を持参して参加することが大切。

## 教科書

杉山「プリント」

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

日本は世界で第何位?

著者: 岡崎大五

出版社: 新潮新書

出版年: 2007

ISBN:

ラーメン屋VSマクドナルド

著者: 竹中正治

出版社: 新潮新書

出版年: 2008

ISBN:

京都ぎらい

著者： 井上章一

出版社： 朝日新書

出版年： 2015

ISBN:

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20% )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( 20% )

参加度 ( 20% )

毎回作業をやるので、欠席した学生は「プリント」をもらい自宅で必ずやり、提出すること。その場合、遅れの出席として評価する  
場合がある。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チャシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

---

成績評価

試験・レポート（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（0%）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;h&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;主な機能&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;主な機能&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;主な機能&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;主な機能&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;主な機能&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;主な機能&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;主な機能&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;主な機能&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;主な機能&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;主な機能&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;主な機能&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;主な機能&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;k&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;主な機能&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チャシの作成 &lt;主な機能&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;主な機能&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;主な機能&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;主な機能&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;主な機能&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;主な機能&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;主な機能&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;主な機能&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;主な機能&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;主な機能&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;主な機能&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;I&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 井上 薫	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;m&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;主な機能&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;主な機能&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;主な機能&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;主な機能&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;主な機能&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;主な機能&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;主な機能&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;主な機能&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;主な機能&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;主な機能&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;主な機能&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;主な機能&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;n&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 井上 薫	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;O&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について
- 第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例
- 第3回 Word2010(1)基本操作 <<主な機能>>Wordの起動方法、画面構成、タイピング
- 第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 <<主な機能>>文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1) <<主な機能>>ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) <<主な機能>>脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) <<主な機能>>Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) <<主な機能>>ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2) <<主な機能>>関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成 <<主な機能>>グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 <<主な機能>>複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) <<主な機能>>PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) <<主な機能>>スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) <<主な機能>>画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;p&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 井上 薫	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;主な機能&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;主な機能&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;主な機能&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;主な機能&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;主な機能&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;主な機能&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;主な機能&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;主な機能&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;主な機能&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;主な機能&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;主な機能&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;主な機能&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年： ISBN：

情報倫理ハンドブック

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年： ISBN：

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;q&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;主な機能&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;主な機能&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;主な機能&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;主な機能&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;主な機能&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;主な機能&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;主な機能&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;主な機能&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;主な機能&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;主な機能&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;主な機能&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;主な機能&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;r&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 井上 薫	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;s&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;主な機能&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;主な機能&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;主な機能&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;主な機能&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;主な機能&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;主な機能&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;主な機能&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;主な機能&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;主な機能&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;主な機能&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;主な機能&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;主な機能&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;t&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 井上 薫	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;u&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;v&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 井上 薫	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;w&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;&lt;主な機能&gt;&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習 I &lt;x&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 井上 薫	
テーマ	現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。
授業の到達目標	Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。
授業の概要	学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。
準備学習(予習・復習)	・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習 I のオリエンテーション・学内システム(ActiveMailなど)について</p> <p>第2回 セキュリティと情報モラル 情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例</p> <p>第3回 Word2010(1)基本操作 &lt;主な機能&gt;Wordの起動方法、画面構成、タイピング</p> <p>第4回 Word2010(2) Wordの基本操作、チラシの作成 &lt;主な機能&gt;文章の保存・終了、書式、表の作成</p> <p>第5回 Word2010(3) レポート作成(1) &lt;主な機能&gt;ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷</p> <p>第6回 Word2010(4) レポートの作成(2) &lt;主な機能&gt;脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正</p> <p>第7回 Word2010(5) 小テスト Word(レポート作成)、小テストの実施</p> <p>第8回 Excel2010(1) Excelの基本操作、表作成(1) &lt;主な機能&gt;Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷</p> <p>第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1) &lt;主な機能&gt;ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数)</p> <p>第10回 Excel2010(3) 関数(2) &lt;主な機能&gt;関数の復習、シートの切り替え、IF関数</p> <p>第11回 Excel2010(4) グラフ作成 &lt;主な機能&gt;グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集</p> <p>第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3) EXCEL(表作成、計算式、関数、グラフ)、小テストの実施 &lt;主な機能&gt;複合グラフの作成、グラフの印刷</p> <p>第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1) &lt;主な機能&gt;PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト</p> <p>第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2) &lt;主な機能&gt;スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成</p> <p>第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3) &lt;主な機能&gt;画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表</p> <p>第16回 最終試験(課題)とまとめ</p>
履修上の注意点	・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

情報倫理ハンドブック

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 小西 康子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

試験・レポート（20%）

小テスト（30%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（30%）

参加度（0%）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 小西 康子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;f&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 小西 康子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;g&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ〈h〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 小西 康子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;i&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 小西 康子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

試験・レポート（20%）

小テスト（30%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（30%）

参加度（0%）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;j&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;k&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 小西 康子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

aks301a261

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;I&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 井上 薫

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート（20%）

小テスト（30%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（30%）

参加度（0%）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;m&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 小西 康子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;n&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 井上 薫

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;○&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 小西 康子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;p&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 井上 薫

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;q&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 小西 康子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;r&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 井上 薫

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;s&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;t&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定

担当者 井上 薫

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;u&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

aks301a271

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;v&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 井上 薫

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;w&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPDドライブよりUDドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

## 参考書

試験・レポート（20%）

小テスト（30%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（30%）

参加度（0%）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅱ &lt;x&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 井上 薫

## テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

## 授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

## 授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

## 準備学習(予習・復習)

・休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

## 内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り ・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。 ・情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き) 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 インターネットコミュニケーションⅠ ・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(3): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
- 第7回 小テスト データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 文書表現(1): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第9回 文書表現(2): ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 小テスト ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

## 履修上の注意点

・欠席の場合は「欠席連絡票」を提出すること。・欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。・授業に出席していても、授業態度が著しく悪い場合や、居眠り等明らかに授業に参加していない場合は欠席扱いとする。・公欠の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。

## 教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下(6回以上の欠席)の場合は原則、単位認定は不可

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本事情 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 河村 静江		
テーマ 日本語運用能力の向上		
授業の到達目標 日本語を用いたビジネス場面で必要となる表現・マナー・メールの書き方などの基礎を身に付ける。		
授業の概要 ビジネス敬語の理解・ビジネス会話・ビジネスメールの書き方を学ぶ。		
準備学習(予習・復習) 会話がスムーズにできるまで復習を行う。		
内 容 第1回 面接場面を意識した自己紹介 第2回 敬語の復習 第3回 ビジネスメール(1)「ビジネス会話」第5課「頼む・断る」 第4回 「ビジネス会話」第5課 第5回 聴解練習(1) 第5課・第6課「許可をもらう」 第6回 「ビジネス会話」第6課 第7回 ビジネスメール(2)「ビジネス会話」第6課 第8回 聴解練習(2)「ビジネス会話」第7課「アポイントをとる」 第9回 「ビジネス会話」第7課 第10回 ビジネスメール(3)「ビジネス会話」第8課「訪問する」 第11回 「ビジネス会話」第8課 第12回 聴解練習(3)確認「ビジネス会話」第8課 第13回 冠婚葬祭のマナー 第14回 ビジネスマナー 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 にほんごで働く! ビジネス日本語30時間 著者: 宮崎道子他 出版社: スリーエーネットワーク 出版年: 2009年 ISBN:		
しごとの日本語(メールの書き方編) 著者: 奥村真紀他 出版社: アルク 出版年: 2008年 ISBN:		
成績評価 試験・レポート (60%) 授業中課題 ( ) 参加度 (40%)	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 日本事情 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 河村 静江		
テーマ 日本語運用能力の向上		
授業の到達目標 日本語を用いたビジネス場面で必要となる表現・マナー・メールの書き方などの基礎を身に付ける。		
授業の概要 ビジネス敬語の理解・ビジネス会話・ビジネスメールの書き方を学ぶ。		
準備学習(予習・復習) 会話がスムーズにできるまで復習を行う。		
内 容 第1回 面接場面を想定した自己紹介 第2回 敬語の復習 第3回 ビジネスメール(1)「ビジネス会話」第5課「頼む・断る」 第4回 「ビジネス会話」第5課 第5回 聴解練習(1) 第6課「許可をもらう」 第6回 「ビジネス会話」第6課 第7回 ビジネスメール(2)「ビジネス会話」第6課 第8回 聴解練習(2)「ビジネス会話」第7課「アポイントをとる」 第9回 「ビジネス会話」第7課 第10回 ビジネスメール(3)「ビジネス会話」第8課「訪問する」 第11回 「ビジネス会話」第8課 第12回 聴解練習(3)「ビジネス会話」第8課 第13回 冠婚葬祭のマナー 第14回 ビジネスマナーのまとめ 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 にほんごで働く! ビジネス日本語30時間 著者: 宮崎道子他 出版社: スリーエーネットワーク 出版年: 2009年 ISBN:		
しごとの日本語(メールの書き方編) 著者: 奥村真紀他 出版社: アルク 出版年: 2008年 ISBN:		
成績評価 試験・レポート (60%) 授業中課題 ( ) 参加度 (40%)	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 日本事情Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 河村 静江		
テーマ 日本語運用能力の向上		
授業の到達目標 日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に付ける。		
授業の概要 ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。		
準備学習(予習・復習) 会話がスムーズにできるまで復習を行う。		
内 容 第1回 自己紹介してみよう 第2回 「ビジネスマナー」名刺交換・敬語の基本(1) 第3回 敬語の基本(2) 第4回 敬語を使って友人を紹介しよう 第5回 店員になってみよう 第6回 ビジネスマナー(1)・「ビジネス会話」第1課「紹介する」 第7回 「ビジネス会話」第1課 第8回 ビジネスマナー(2)・「ビジネス会話」第2課「挨拶」 第9回 「ビジネス会話」第2課 第10回 ビジネスマナー(3)・「ビジネス会話」第3課「電話」 第11回 「ビジネス会話」第3課 第12回 ビジネスマナー(4)・「ビジネス会話」第3課 第13回 「ビジネス会話」第4課「注意」 第14回 「ビジネス会話」第4課 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 しごとの日本語ビジネスマナー編 著者: 釜淵優子 出版社: アルク 出版年: 2008年 ISBN:		
にほんごで働く! ビジネス日本語30時間 著者: 宮崎道子 出版社: スリーエーネットワーク 出版年: 2009年 ISBN:		
成績評価 試験・レポート (60%) 授業中課題 ( ) 参加度 (40%)	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 日本事情Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 河村 静江		
テーマ 日本語運用能力の向上		
授業の到達目標 日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に付ける。		
授業の概要 ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。		
準備学習(予習・復習) 会話がスムーズにできるまで復習を行う。		
内 容 第1回 自己紹介してみよう 第2回 ビジネスマナー(1)敬語の基本(1) 第3回 敬語の基本(2) 第4回 敬語を使って友人を紹介しよう 第5回 店員になってみよう 第6回 ビジネスマナー(2)・「ビジネス会話」第1課「紹介する」 第7回 「ビジネス会話」第1課 第8回 ビジネスマナー(3)・「ビジネス会話」第2課「挨拶」 第9回 「ビジネス会話」第2課 第10回 ビジネスマナー(4)・「ビジネス会話」第3課「電話」 第11回 「ビジネス会話」第3課 第12回 ビジネスマナー(5)・「ビジネス会話」第3課 第13回 「ビジネス会話」第4課「注意」 第14回 「ビジネス会話」第4課 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 しごとの日本語ビジネスマナー編 著者: 釜淵優子 出版社: アルク 出版年: 2008年 ISBN:		
にほんごで働く! ビジネス日本語30時間 著者: 宮崎道子 出版社: スリーエーネットワーク 出版年: 2009年 ISBN:		
成績評価 試験・レポート (60%) 授業中課題 ( ) 参加度 (40%)	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 日本事情Ⅲ &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本語能力試験N1対策

授業の到達目標

日本語能力試験N1に合格することを目指し、決められた短時間で、能力試験の問題を解けるようにする。また、能力試験の問題集を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識(語彙・文法)、読解、聴解の能力の向上を目指していく。

授業の概要

演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生が説いたのちに、解説を担当者が行う。また、全4回に分けてN1語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も2回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。

準備学習(予習・復習)

N1語彙プリントを毎回配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内 容

- 第1回 授業説明・評価説明・第2回模試(聴解)
- 第2回 第2回目模試(言語知識・読解)
- 第3回 能力試験対策1(言語知識①読解①)／語彙小テスト1
- 第4回 能力試験対策2(言語知識②読解②聴解①)
- 第5回 能力試験対策3(言語知識③読解③)／語彙小テスト2
- 第6回 能力試験対策4(言語知識④読解④聴解②)
- 第7回 能力試験対策5(言語知識⑤読解⑤)／語彙小テスト3
- 第8回 能力試験対策6(言語知識⑥読解⑥聴解③)
- 第9回 能力試験対策7(言語知識⑦読解⑦)／語彙小テスト4
- 第10回 模試3回目(言語知識・読解)
- 第11回 模試3回目(聴解・フィードバック)
- 第12回 活動1
- 第13回 活動2
- 第14回 まとめテスト
- 第15回 前期終了時・留学終了時アンケート／フィードバック

履修上の注意点

\* 日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(20)

小テスト(25)

授業中課題(30)

授業中発表等(10)

参加度(15)

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。模試2回分の成績を「試験」として、各10点×2=計20点分に換算する。

## 2017 Syllabus

科目名 日本事情Ⅲ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担当者 佐野 裕子	
テーマ 日本語能力試験N1対策	
授業の到達目標 日本語能力試験N1に合格することを目指し、決められた短時間で、能力試験の問題を解けるようにする。また、能力試験の問題集を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識(語彙・文法)、読解、聴解の能力の向上を目指していく。	
授業の概要 演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生が説いたのちに、解説を担当者が行う。また、全4回に分けてN1語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も2回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。	
準備学習(予習・復習) N1語彙プリントを毎回配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。	
内 容 第1回 授業説明・評価説明・第2回模試(聴解) 第2回 第2回目模試(言語知識・読解) 第3回 能力試験対策1(言語知識①読解①)／語彙小テスト1 第4回 能力試験対策2(言語知識②読解②聴解①) 第5回 能力試験対策3(言語知識③読解③)／語彙小テスト2 第6回 能力試験対策4(言語知識④読解④聴解②) 第7回 能力試験対策5(言語知識⑤読解⑤)／語彙小テスト3 第8回 能力試験対策6(言語知識⑥読解⑥聴解③) 第9回 能力試験対策7(言語知識⑦読解⑦)／語彙小テスト4 第10回 模試3回目(言語知識・読解) 第11回 模試3回目(聴解・フィードバック) 第12回 活動1 第13回 活動2 第14回 まとめテスト 第15回 前期終了時・留学終了時アンケート／フィードバック	
履修上の注意点 * 日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。	
教科書 授業時配布プリント 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 授業時適宜紹介 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(20) 小テスト(25) 授業中課題(30) 授業中発表等(10) 参加度(15) 出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。模試2回分の成績を「試験」として、各10点×2=計20点分に換算する。	



## 2017 Syllabus

科目名 日本事情Ⅳ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担当者 佐野 裕子	
テーマ 日本語能力試験N1対策、N2復習	
授業の到達目標 日本語能力試験N1に合格することを目指し、N1問題集のうち、助詞や副詞、N3・N2レベルの語彙や文法などの復習問題を中心に解いていく。またこれらの問題を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識(語彙・文法)、読解、聴解の能力の向上を目指すしていく。	
授業の概要 主に演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生が説いたのちに、解説を担当者が行う。また、全4回に分けてN1語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も1回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。	
準備学習(予習・復習) N2語彙プリントを毎回配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。	
内 容 第1回 授業説明・評価説明／大学のマナー 第2回 生活のマナー 第3回 能力試験対策1(言語知識①読解①)／語彙小テスト1 第4回 能力試験対策2(言語知識②読解②) 第5回 能力試験対策3(言語知識③読解③)語彙小テスト2 第6回 能力試験対策4(言語知識④読解④) 第7回 能力試験対策5(言語知識⑤)／語彙小テスト3 第8回 模試1回目(言語知識・読解) 第9回 模試1回目(聴解・フィードバック) 第10回 能力試験対策6(言語知識⑥読解⑤)／語彙小テスト4 第11回 能力試験対策7(言語知識⑦読解⑥) 第12回 能力試験対策8(言語知識⑧) 第13回 能力試験対策9(言語知識⑨) 第14回 まとめテスト 第15回 後期終了時・留学終了時アンケート／フィードバック	
履修上の注意点 * 日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。	
教科書 授業時配布プリント 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 授業時適宜紹介 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート(45) 小テスト(20) 授業中課題(25) 授業中発表等(0) 参加度(10) 出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。模試の成績を「試験」として、10点分に換算する。	

## 2017 Syllabus

科目名 日本事情Ⅳ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担当者 佐野 裕子	
テーマ 日本語能力試験 N1対策	
授業の到達目標 2018年7月の日本語能力試験N1に合格することを目指し、助詞や副詞、N3・N2レベルの語彙や文法などの問題を中心に解いていく。またこれらの問題を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識(語彙・文法)、読解、聴解の能力の向上を目指していく。	
授業の概要 主に演習形式で日本語能力試験N2問題集を受講生が説いたのちに、解説を担当者が行う。また、全4回に分けてN2語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も1回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。	
準備学習(予習・復習) N2語彙プリントを毎回配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。	
内 容 第1回 授業説明・評価説明／大学のマナー 第2回 生活のマナー 第3回 能力試験対策1(言語知識①)／語彙小テスト1 第4回 能力試験対策2(言語知識②) 第5回 能力試験対策3(言語知識③)語彙小テスト2 第6回 能力試験対策4(言語知識④読解①) 第7回 能力試験対策5(言語知識⑤読解②)／語彙小テスト3 第8回 模試1回目(言語知識・読解) 第9回 模試1回目(聴解・フィードバック) 第10回 能力試験対策6(言語知識⑥読解③)／語彙小テスト4 第11回 能力試験対策7(言語知識⑦読解④) 第12回 能力試験対策8(言語知識⑧／読解⑤) 第13回 能力試験対策9(言語知識⑨／読解⑥) 第14回 まとめテスト 第15回 後期終了時・留学終了時アンケート／フィードバック	
履修上の注意点 * 日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。	
教科書 授業時配布プリント 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 授業時適宜紹介 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(45) 小テスト(20) 授業中課題(25) 授業中発表等(0) 参加度(10) 出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。模試の成績を「試験」として、10点分に換算する。	

## 2017 Syllabus

科目名 日本文化演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件 外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 古澤 夕起子		
テーマ 日本文化と京都		
授業の到達目標 日本文化について理解を深める		
授業の概要 京都の祭り、寺社、記念館などを見学する。見学先については、分担して事前学習を行う。また見学後は振り返り学習として各人が感想文を書き、グループ内で報告したあと提出する。		
準備学習(予習・復習) 概要に書いた通り、事前学習、事後学習そのものが評価の対象となる。		
内 容 第1回 オリエンテーション 事前学習 随心院について 第2回 小野小町について、百人一首に親しもう① 第3回 随心院の見学 第4回 随心院の感想、葵祭について 第5回 葵祭について、百人一首に親しもう② 第6回 葵祭の見学(雨天の場合、巡行は翌日なので授業になります) 第7回 葵祭の感想 第8回 森見登美彦「有頂天家族」を読もう① 第9回 森見登美彦「有頂天家族」を読もう② 第10回 森見登美彦(聖地)訪問 出町柳から下鴨神社 第11回 出町柳、下鴨神社などの感想 第12回 森見登美彦「有頂天家族」を読もう③ 第13回 能楽について 第14回 金剛流能楽堂「嘉祥閣」見学 第15回 「嘉祥閣」見学の感想、授業のまとめ		
履修上の注意点 隔週で学外授業を行うので、月曜日の1時間目も空けておくこと。		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 森見登美彦の京都ぐるぐる案内 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (60%) 参加度 (20%)	小テスト ( ) 授業中発表等 (20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 日本文化演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 辻本 千鶴		
テーマ 日本文化を体験する。		
授業の到達目標 日本文化について理解を深める。		
授業の概要 京都橘大学の日本文化に関するサークル活動を見学、体験する。事前学習としてその概要を調べ、事後(ふり返り)学習としてグループでの報告会を行う。合わせて、日本文学に親しむ機会(万葉集などの鑑賞の時間)も設ける。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 全体説明・茶道について 第2回 茶道裏千家サークル体験 第3回 振り返り学習・箏曲について 第4回 箏曲サークル体験 第5回 振り返り学習・弓道について 第6回 弓道サークル体験 第7回 振り返り学習・居合道について 第8回 居合道サークル体験 第9回 振り返り学習・書道について 第10回 書道サークル体験 第11回 振り返り学習・剣道について 第12回 剣道サークル体験 第13回 振り返り学習・和太鼓について 第14回 和太鼓体験 第15回 まとめ		
履修上の注意点 サークル訪問の日程(順番)は見学先の都合により変更されます。		
教科書 (使用しない。) 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 英語でよむ万葉集 著者: リービ英雄 出版社: 岩波新書 出版年: 2004年 ISBN: 4-00-430920-4 英語で読む啄木 著者: ロジャー・パルバース 出版社: 河出書房新社 出版年: 2015年 ISBN: 978-4-02377-9		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (60%) 参加度 (20%)	小テスト ( ) 授業中発表等 (20%)	

## 2017 Syllabus

科目名 教養入門 &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 200

履修条件 クラス指定

担当者 西野 毅朗・アンガス, ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・南 直人・禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「教養としての歴史」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

## 2017 Syllabus

科目名 教養入門 &lt;b&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人.アングス, ノーマン.河原 宣子.阪本 崇.西野 毅朗.禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「教養としての歴史」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

## 2017 Syllabus

科目名 教養入門 &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子・アンガス, ノーマン・阪本 崇・西野 毅朗・南 直人・禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「教養としての歴史」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

## 2017 Syllabus

科目名 教養入門 &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇.アングス, ノーマン.河原 宣子.西野 毅朗.南 直人.禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橋大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橋大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「教養としての歴史」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。



## 2017 Syllabus

科目名 教養入門 &lt;e&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 西野 毅朗・アンガス, ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・南 直人・禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「教養としての歴史」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

## 2017 Syllabus

科目名 教養入門&lt;f&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 200

履修条件 クラス指定

担当者 南 直人.アングス, ノーマン.河原 宣子.阪本 崇.西野 毅朗.禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橋大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橋大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「教養としての歴史」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

## 2017 Syllabus

科目名 教養入門 &lt;g&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子・アンガス, ノーマン・阪本 崇・西野 毅朗・南 直人・禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「教養としての歴史」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

## 2017 Syllabus

科目名 教養入門 &lt;h&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇.アングス, ノーマン.河原 宣子.西野 毅朗.南 直人.禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橋大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橋大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「教養としての歴史」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (0)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(日) &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 野村 幸一郎.安達 太郎.重松 恵美.林 久美子

テーマ

京都と日本文化

授業の到達目標

学内で文学作品や日本文化に関する講義を行った後、実際にそのテーマに関連する名所旧跡を見学することで理解を深めていく

授業の概要

毎回、1限目に学内で講義、2限目の間に移動し、3限目に見学を実施する予定である。グループ訳を行い、年度末には、グループでの発表を予定しているので、パワーポイントを用意しておくこと。

準備学習(予習・復習)

毎回、振り返りシートを課題として提出を求める予定である

内 容

- 第1回 概要説明(学内)
- 第2回 岩屋神社奥宮見学
- 第3回 琵琶湖疎水と日本の近代化(学内)
- 第4回 インクライン・無鄰庵見学
- 第5回 門跡寺院と文化(学内)
- 第6回 毘沙門堂見学
- 第7回 『平家物語』と六波羅(学内)
- 第8回 六波羅蜜寺見学
- 第9回 まとめ(グループ発表)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 60 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(書) &lt;b&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成・橋本 二三

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

京都から滋賀にかけての地域に残されている書道作品を見学し、書として鑑賞、分析するとどまらず、その書の歴史的・文化的背景についても学ぶ。

準備学習(予習・復習)

訪問する場所、施設について事前に各自で調べておくこと。

内 容

- 第1回 京都を中心とした書の歴史について
- 第2回 京都国立博物館見学(1)
- 第3回 京都国立博物館見学(2)
- 第4回 京都国立博物館見学(3)
- 第5回 近代の京都滋賀を地盤として活躍した書人について
- 第6回 京都市美術館見学(1)
- 第7回 京都市美術館見学(2)
- 第8回 東山に隣接する美術館博物館見学

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(歴) &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 尾下 成敏.王 衛明.小野 浩.後藤 敦史.増淵 徹.松浦 京子	
テーマ 「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー	
授業の到達目標 地域社会と大学および大学生の役割について考えるために、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、1 地域課題を発見する力、2 地域課題の解決法について考える力を身につける。	
授業の概要 この授業では、京都とその周辺の地域性を歴史の観点を重点に置いて追うことを目的としている。具体的には、講義や学外研究、報告会を通して、京都とその周辺の地域性を追うことになる。	
準備学習(予習・復習) 京都府・滋賀県の歴史遺産をなるべく見学すること、また京都・滋賀に関する本を少しでも多く読むこと。	
内 容 第1回 総論(京都の歴史遺産と歳時記など) 第2回 グループワークの説明と企画 第3回 学外研究、その1(葵祭りの見学) 第4回 学外研究、その1(葵祭りの見学) 第5回 学外研究、その2(京都市内の歴史遺産の見学) 第6回 学外研究、その2(京都市内の歴史遺産の見学) 第7回 研究入門ゼミ単位での学外研究に関する報告会 第8回 研究入門ゼミ単位での学外研究に関する報告会	
履修上の注意点 欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるので、この点をよく心得て欲しい。	
教科書 なし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 京都府の歴史散歩(全3冊) 著者: 京都府歴史遺産研究会 出版社: 山川出版社 出版年: 2011年 ISBN: 滋賀県の歴史散歩(全2冊) 著者: 滋賀県歴史散歩編集委員会 出版社: 山川出版社 出版年: 2008年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 30 ) 参加度 ( 30 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(遺) &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・一瀬 和夫・小林 裕子

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

学外見学によって地域歴史遺産を実見および体感したうえで、その歴史的成立背景や文化財的価値について討究する。

準備学習(予習・復習)

各自授業外で、洛東・湖国にある遺跡、博物館、資料館、美術館に足を運び、さまざまな文化財に触れること。またこれらに関する書籍を読み、その歴史的成立背景や文化財的価値について学ぶこと。

内 容

第1回 京都の祭りを知る①(葵祭・祇園祭・時代祭)

第2回 京都の祭りを知る②(葵祭・祇園祭・時代祭)

第3回 学外見学(建築遺産)

第4回 学外見学(考古遺産)

第5回 学外見学(美術遺産) I

第6回 学外見学(美術遺産) II

第7回 事後学習(研究発表)

第8回 事後学習(研究発表) ※なお、この授業では必要に応じて、特別講演会が行われることがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 60 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )



## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(国) &lt;e&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

山科や京都という歴史ある町の魅力と課題をさぐる

授業の到達目標

山科地域に生活する者としての視点を持ち、愛着を持って地域を観察する。地元の人とのコミュニケーションを通じて、地域が持つ歴史的な魅力、産業的魅力、住環境としての魅力を考え、同時に、どんな課題を抱えるかを研究する。全体を通じて、社会問題を観察する視点と問題の整理方法や解決方法などの方法論を身に着ける。

授業の概要

地域からの講師を招へいして、地元の方から教わったり、実際の地域の課題の現場を訪ねたりしながら、教室で魅力と課題を整理し議論して、各人ひとりひとりの視点で山科の魅力と課題を発表する。

準備学習(予習・復習)

山科地域の自然、歴史、文化、産業、教育などに関心を持ち、自分の足で歩いて観察することにより地域社会の在り方を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:山科基礎情報の習得(基礎情報とはなにか? 担当割り)
- 第2回 オリエンテーション:山科基礎情報の習得(基礎情報の発表と議論。フィールドワークの視点の洗い出し)
- 第3回 訪問:歴史と人の山科
- 第4回 訪問:産業と人の山科
- 第5回 訪問:社会施設とコミュニティーの山科
- 第6回 ゲストスピーカー
- 第7回 山科地域の魅力と課題の発表(1)
- 第8回 山科地域の魅力と課題の発表(2)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(経) &lt;f&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知りその解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域について調べ、情報を得、発表する。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

京都、とくに山科地域はどのような特性を持つ地域なのか、それが日本全国の中や世界との接点においてはどのように位置づけられるのかについて、総合的に学習をおこなう。各種の地域統計、メディアでの情報、地域で活躍する人々の話などを題材とし、実践的なグループ学習を通じて山科地域の特徴や課題を理解する。なお、以下の通りの講義計画を予定しているが、講師の都合等により順番やテーマを入れ替えることがある。

準備学習(予習・復習)

各自が居住する地域の社会に関心を持ち、京都市や山科区との比較ができるようにしておくこと。

内 容

- 第1回 地域を理解するための諸概念を学ぶ。特に、人口、財政、行政、産業などを中心に、地域の特性の見方や現状を理解する。
- 第2回 第1回を踏まえて、さまざまな資料から地域をめぐる論点を整理し、まとめる。
- 第3回 京都府・京都市の産業、企業、それらの歴史など地域特性を学ぶ。地域からのゲスト講師による講演を聴く。
- 第4回 京都市、特に山科地域の産業の特性や歴史、具体的活動を学ぶ。地域からのゲスト講師による講演を聴く。
- 第5回 地域企業の具体的活動や課題を学ぶ。地域から招いたゲストの講演を聴く。
- 第6回 第3,4,5回を踏まえて、地域の現状や特性について、レポートを作成する。
- 第7回 地域の経済と企業について具体的様相を学ぶ。特に山科地域の企業や産業について資料を見て、その存在や特色を調べる。
- 第8回 第7回を踏まえて、グループ単位でディスカッションをして内容をまとめ、それらを発表する。

履修上の注意点

ゲスト講師の調整等で、実施日程が後日発表になるので、掲示に注意すること。また、それに伴い内容にも若干の変更が生じる場合がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(都) &lt;g&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小辻 寿規

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

「地域」で学ぶという視点から地域でのフィールドワークを行うとともに、「地域」から学ぶという視点から地域で活動されている方々を大学にお招きしお話を聞くとともに、それをもとに地域の課題についてディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習)

当該科目以外の科目や、新聞・雑誌・インターネットなどから地域の課題についてつねに情報を仕入れておく。

内 容

- 第1回 ① 地域から課題を発見する方法について  
 第2回 ② ゲストを招き若者が参加するまちづくりの事例紹介及び教員とゲストのディスカッション  
 第3回 ③ ゲストを招き山科区清水焼団地の事例紹介(山科区)  
 第4回 ④ ③を受けての学生ディスカッション及び発表  
 第5回 ⑤ ゲストを招き京都における観光産業の検討  
 第6回 ⑥ ⑤を受けての学生ディスカッション及び発表  
 第7回 ⑦ ゲストを招き京都市で活躍するまちづくり実践者の話を聞く(住民+役所職員)  
 第8回 ⑧ ⑦を受けてのディスカッション及び発表

履修上の注意点

必修科目のため、遅刻及び欠席に関してはご注意ください。

教科書

知のフロンティア 生存をめぐる研究の現場

著者: 渡辺克典編、立命館大学生存学研究センター監修

出版社: ハーベスト社

出版年: 2017

ISBN:

参考書

文化政策と臨地まちづくり

著者: 織田直文

出版社: 水曜社

出版年: 2009

ISBN: 4880652180

知っとこ見とこ山科ガイド

著者: 木下達文

出版社: つむぎ出版

出版年: 2009

ISBN: 4876681643

京・まちづくり史

著者: 高橋康夫・中川理

出版社: 昭和堂

出版年: 2003

ISBN: 4812203147

京都・山科まちづくり物語

著者: 織田直文・廣川桃子・鈴木好美

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009

ISBN: 4771020809

地域再生 滋賀の挑戦

著者： 近江環人地域再生学座

出版社： 新評論

出版年： 2011

ISBN: 4794808887

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

教科書に関しては、出版が正式確定次第お知らせします。

---

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(救) &lt;h&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 関根 和弘

テーマ

過去の災害を知ること。その災害を、昔の人々はどのように知らせたかを学ぶことで、地域から学ぶ、地域を学ぶ。

授業の到達目標

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ -地域課題を知り、その解決法を考える-

授業の概要

前記「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

準備学習(予習・復習)

京都府、京都市・特に山科区や大津市の過去の災害をwebや新聞を通じて調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション、災害についての講義

第2回 地域の危険地区や危険な状況の観察や評価方法を伝授し、自ら調査する。

第3回 地域の今を知る。京都市消防局 山科消防署・消防団、京都橘大学学生消防団との協働実習

第4回 地域の今を知る。京都市消防局 山科消防署・消防団、京都橘大学学生消防団との協働実習

第5回 災害時の対応を学ぶ。過去の災害を探り、どのような行動を実施しどのような対応をするのかを学ぶ。

第6回 地域の今を知る。新聞や地域情報誌、webなどから山科・大津地域の過去の災害を探り、模造紙などにまとめる。

第7回 地域を数字で理解する。京都・大津市の地域統計を利用して、山科・大津地域が京都市や滋賀県のなかでどのような特徴を持つ地域なのかを数字から明らかにする。

第8回 まとめ。山科地域の現況と課題。課題に対する企画の立案をし、グループ毎に発表する。

履修上の注意点

前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者： 救急隊員用教本作成委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2015

ISBN： 9.78489E+12

参考書

未定

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート (50)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ( )

授業中発表等 (20)

成績評価は知識や課題に対するプレゼンテーションやグループ間での発表を考査する。またグループを代表しての共通演題のプレゼンテーションを実施する。なお、考査については、原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

---

2017 Syllabus
---------------

科目名 **地域課題研究(看) <i>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 通年集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松本 賢哉	
テーマ 他学部と統一テーマ	
授業の到達目標 他学部と統一テーマ	
授業の概要 山科・醍醐地区の地域を知り, 人々の暮らしと健康について考える	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 オリエンテーション「地域から学ぶ」意義について	
第2回 「地域を知る」ための方法論 アンケートのつくり方 インタビューの仕方	
第3回 山科・醍醐地区を知る① 自然環境 (地域を歩く)	
第4回 山科・醍醐地区を知る② 安全 (住民との会話から)	
第5回 山科・醍醐地区を知る③ 行政, 保健・医療・福祉サービス (データ分析・住民との会話から)	
第6回 山科・醍醐地区を知る④ 教育, レクリエーション	
第7回 山科・醍醐地区を知る⑤ この地域に暮らす人びと	
第8回 まとめ・発表	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(心) &lt;j&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日比野 英子・井上 裕樹・永野 光朗・濱田 智崇

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ ―地域課題を知り、その解決法を考える―

授業の到達目標

地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

心理的支援や地域の活性化など地域課題の解決に取り組む事例について、ゲストスピーカーを含め8名の担当者の講義を受講する。

準備学習(予習・復習)

他の科目や新聞・雑誌・インターネットなどから地域の課題について常に情報を仕入れておく。とくに地域の課題を解決した実践的事例(町おこし、地域内ネットワークの形成、環境問題の解決など)についても注意しておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・地域における課題とは？
- 第2回 地域における子育て支援の実践
- 第3回 地域における心理的支援①
- 第4回 地域における心理的支援②
- 第5回 地域と精神医療(病院担当者)
- 第6回 地方自治体における地域課題とその解決のための実践(行政担当者)
- 第7回 商店街活性化の事例紹介①(行政担当者または商店街担当者)
- 第8回 商店街活性化の事例紹介②(行政担当者または商店街担当者)

履修上の注意点

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ワークショップ 住民主体のまちづくりへの方法論

著者: 木下勇

出版社: 学芸出版社

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50% )



## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(理) &lt;k&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博・安彦 鉄平・小田桐 匡

テーマ

高齢化社会を迎えている我が国において、地域に根付いた医療とケアが益々必要となっている。そこで、京都・滋賀の地域医療の現状を把握し、今後の展望も含めた課題を提案する。

授業の到達目標

京都・滋賀地域で地域医療に携わる現職者から各分野(地域政策、訪問看護、訪問リハビリテーション)の現状を聞き、今後の課題を見出す。

授業の概要

前半は授業形式、後半はグループワーク

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 地域医療概論(オリエンテーション)
- 第2回 地域政策の現状
- 第3回 地域医療(訪問医療主体)の現状
- 第4回 地域の健康施策・訪問リハビリテーションの現状
- 第5回 グループワーク
- 第6回 グループワーク
- 第7回 グループワーク
- 第8回 課題の発表 なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

1/3以下の出席率で単位認定不可

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40%)

授業中発表等 ( 50%)

参加度 ( 10%)

グループワークでは、メンバーと積極的にディスカッションし、課題提案を行うこと。

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(児) &lt;I&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

子どもたちが育つ場としての山科地域の魅力と課題をさぐる。

授業の到達目標

山科地域における子どもたちの育ちについて、自然・歴史・文化・教育・産業などの面からとらえ、①子どもの健康、安全、環境面における魅力と課題を発見する力、②同じ地域にある大学として子どもや子育て家庭と交流し、教育・保育的な課題の解決法について考える力を身につける。具体的には、キャンパスを利用した子どもを対象とした活動を企画しこれを実施する。

授業の概要

地域の子どもたちと一緒に楽しめる活動について考察し、ちびっこランドの取り組み等において実際に企画運営する。次年度以降の専門領域の学びへとつながるよう、実施した企画の成果と課題をまとめ、研究発表会を行う。

準備学習(予習・復習)

地域における子どもが集まる公共空間を探し、実際に足を運び、どのような年齢層の子どもたちが、どのような活動をしているのか調査する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 山科地域をとらえる視点、フィールドワークの方法、計画づくり

第3回 山科地域の子どもと教育 「山科地域の子どもたち」ゲストスピーカー

第4回 子ども遊びを企画する ゲストスピーカー

第5回 学校フィールドワーク、地域ボランティア、地域の文化の調査、地域の子どもの実態調査などをまとめる。

第6回 子どもたちのための企画を考える

第7回 山科地域の魅力と課題の発表①

第8回 山科地域の魅力と課題の発表②

履修上の注意点

欠席者は事前に申し出ること。連絡の方法は授業初回に示す。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 25 )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 25 )

## 2017 Syllabus

科目名 地域課題研究(英) &lt;Ze&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐久間 浩司

テーマ

山科や京都という歴史ある町の魅力と課題をさぐる

授業の到達目標

山科地域に生活する者としての視点を持ち、愛着を持って地域を観察する。地元の人とのコミュニケーションを通じて、地域が持つ歴史的な魅力、産業的魅力、住環境としての魅力を考え、同時に、どんな課題を抱えるかを研究する。全体を通じて、社会問題を観察する視点と問題の整理方法や解決方法などの方法論を身に着ける。

授業の概要

地域からの講師を招へいして、地元の方から教わったり、実際の地域の課題の現場を訪ねたりしながら、教室で魅力と課題を整理し議論して、各人ひとりひとりの視点で山科の魅力と課題を発表する。

準備学習(予習・復習)

山科地域の自然、歴史、文化、産業、教育などに関心を持ち、自分の足で歩いて観察することにより地域社会の在り方を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:山科基礎情報の習得(基礎情報とはなにか? 担当割り)
- 第2回 オリエンテーション:山科基礎情報の習得(基礎情報の発表と議論。フィールドワークの視点の洗い出し)
- 第3回 訪問:歴史と人の山科
- 第4回 訪問:産業と人の山科
- 第5回 訪問:社会施設とコミュニティーの山科
- 第6回 ゲストスピーカー
- 第7回 山科地域の魅力と課題の発表(1)
- 第8回 山科地域の魅力と課題の発表(2)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 哲学概論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	安部 彰	
テーマ	哲学の広がりと深さを学ぶ。	
授業の到達目標	哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。	
授業の概要	哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 哲学とはなにか？</p> <p>第3回 哲学の問い</p> <p>第4回 哲学の問いの意味</p> <p>第5回 懐疑論</p> <p>第6回 懐疑論と自己</p> <p>第7回 経験論とカントの哲学</p> <p>第8回 カントの哲学——認識論と倫理学</p> <p>第9回 社会哲学</p> <p>第10回 実存主義</p> <p>第11回 分析哲学の展開</p> <p>第12回 現代哲学(1)——暴力と国家</p> <p>第13回 現代哲学(2)——社会哲学の再興と展開</p> <p>第14回 現代正義論</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>	
履修上の注意点	他者の受講する権利を侵害する行為(たとえば「私語」)には厳格に対処します。予習・復習については授業時に適宜指示します。初回授業時に、本授業についてより詳しい説明をおこなうので、履修を検討しているひとは必ず出席してください。	
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中課題 (100)</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>1)最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定する。2)出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない(つまり評価対象外とする)。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **哲学概論 <b>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員 200

履修条件

クラス指定

担当者 岩崎 豪人

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

授業の到達目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の概要

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

準備学習(予習・復習)

現代の諸問題を、自らの生き方との関係でとらえる習慣をつけておくこと。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 哲学とはなにか？
- 第3回 哲学の問い
- 第4回 哲学の問いの意味
- 第5回 懐疑論
- 第6回 自由と社会
- 第7回 自由と教育
- 第8回 社会と教育
- 第9回 社会哲学
- 第10回 労働と社会
- 第11回 社会と競争
- 第12回 現代哲学(1)
- 第13回 現代哲学(2)
- 第14回 現代正義論
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 哲学概論 &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 岩崎 豪人

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

授業の到達目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の概要

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

準備学習(予習・復習)

現代の諸問題を、自らの生き方との関係でとらえる習慣をつけておくこと。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 哲学とはなにか？
- 第3回 哲学の問い
- 第4回 哲学の問いの意味
- 第5回 懐疑論
- 第6回 自由と社会
- 第7回 自由と教育
- 第8回 社会と教育
- 第9回 社会哲学
- 第10回 労働と社会
- 第11回 社会と競争
- 第12回 現代哲学(1)
- 第13回 現代哲学(2)
- 第14回 現代正義論
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 倫理学概論 &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 200

履修条件 クラス指定

担当者 安部 彰

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

授業の到達目標

倫理的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の概要

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

準備学習(予習・復習)

予習・復習については授業時に適宜指示します。

内 容

- 第1回 イントロダクション——倫理学とは何か
- 第2回 倫理学の基礎
- 第3回 近代の倫理学
- 第4回 功利主義(1)——功利主義とは何か?
- 第5回 功利主義(2)——功利主義の意義と限界
- 第6回 義務論(1)——カントの倫理学
- 第7回 義務論(2)——義務論の意義と限界
- 第8回 義務論と功利主義の展開
- 第9回 自由主義
- 第10回 自由と責任
- 第11回 現代正義論(1)——その基本的発想
- 第12回 現代正義論(2)——平等主義と分配
- 第13回 現代正義論(3)——正義論への批判
- 第14回 正義論の展開
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

他者の受講する権利を侵害する行為(たとえば「私語」)には厳格に対処します。初回授業時に、本授業についてより詳しい説明をおこなうので、履修を検討しているひとは必ず出席してください。毎講義後の復習をつよく推奨する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (100)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

1)最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定する。2)出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない(つまり評価対象外とする)。

## 2017 Syllabus

科目名 倫理学概論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	岩崎 豪人	
テーマ	倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。	
授業の到達目標	倫理的な考え方を身につけることを目標とする。	
授業の概要	近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。	
準備学習(予習・復習)	応用倫理の各領域については、メディアでもしばしば話題となるので、日ごろからテレビや新聞、雑誌などの情報に注意しておくこと。	
内 容	<p>第1回 インTRODククション——倫理学とは何か</p> <p>第2回 倫理学の基礎</p> <p>第3回 近代の倫理学</p> <p>第4回 功利主義(1)——功利主義とは何か？</p> <p>第5回 功利主義(2)——功利主義の意義と限界</p> <p>第6回 義務論(1)——カントの倫理学</p> <p>第7回 義務論(2)——義務論の意義と限界</p> <p>第8回 義務論と功利主義の展開</p> <p>第9回 自由主義</p> <p>第10回 自由と責任</p> <p>第11回 現代正義論(1)——その基本的発想</p> <p>第12回 現代正義論(2)——平等主義と分配</p> <p>第13回 現代正義論(3)——正義論への批判</p> <p>第14回 正義論の展開</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>	
履修上の注意点	講義形式であるが、主体的に自らの問題意識を大事にして、講義内容を今後の生き方に活かしていくこと。毎講義後の復習をつよく推奨する。	
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( 50 )</p> <p>授業中課題 ( 30 )</p> <p>参加度 ( 20 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	



## 2017 Syllabus

## 科目名 日本人と宗教

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定

担当者 橋本 章彦

## テーマ

日本人はの宗教観の原理的性格を考える

## 授業の到達目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

## 授業の概要

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

## 準備学習(予習・復習)

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

## 内 容

- 第1回 宗教民俗学入門—日本人の宗教を考えるにあたって—
- 第2回 日本人の宗教観の原理的側面をさぐる(1)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第3回 日本人の宗教観の原理的側面をさぐる(2)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第4回 観音と地蔵(1) 観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
- 第5回 観音と地蔵(2) 野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
- 第6回 福の神と日本人—総論・京洛の福神信仰—
- 第7回 日本人としてのゴジラ—宗教民俗学からのアプローチ(1)
- 第8回 日本人としてのゴジラ—宗教民俗学からのアプローチ(2)
- 第9回 水神の制御と仏教的神(1)—寺院創建伝説に探る—
- 第10回 水神の制御と仏教的神(2)—寺院創建伝説に探る—
- 第11回 眼の霊力について考える—つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ 付・仏教の天眼通と明恵上人
- 第12回 盗む空海(1)—神話的空海の仏教伝承
- 第13回 盗む空海(2)—神話的空海の仏教伝承
- 第14回 日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
- 第15回 復習とまとめ

## 履修上の注意点

欠席のないように受講すること。また常に考えながら授業を受けてほしい。

## 教科書

授業内で提示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

宗教学

著者: 岸本英夫

出版社: 大明堂

出版年: 1991

ISBN:

宗教学入門

著者: 棚次正和・山中弘 編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2005

ISBN:

日本人の一生

著者： 吉田 清

出版社： 清文堂出版

出版年： 2009

ISBN:

宗教民俗学入門

著者： 宮家 準

出版社： 丸善

出版年： 2002

ISBN:

日本仏教と庶民信仰

著者： 五來 重

出版社： 大法輪閣

出版年： 2014

ISBN:

その他授業内で提示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

参加度とはコメントペーパーなどの授業ツールに対して積極的な姿勢を示しているかによる。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 ジェンダー研究

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 芝原 妙子	
テーマ	ジェンダーは人種、民族、階級、社会、文化、宗教とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点をを用いて今日的な課題を考える。
授業の到達目標	ジェンダーに関する基本的な概念を理解すると共に、ジェンダーの視点をを用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目的とする。
授業の概要	講義中心の授業である。テキストは用いず講義に必要な資料を適時配布する。その資料に基づいての予習と復習が講義の理解のために不可欠である。また講義の理解を深めるため映像資料を用いることがある。講義中に配布するコメント用紙への記入を求める。コメントの内容は評価の対象となる。
準備学習(予習・復習)	日常から授業内容に関連するメディア(新聞・雑誌・報道番組など)に目を通す。授業中に紹介された参考文献を読み進めること。講義の理解のためには配付した資料の予習と復習が必要である。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、ジェンダー史・ジェンダー研究の概観</p> <p>第2回 ジェンダー研究キー・コンセプト</p> <p>第3回 ジェンダーと家族 (1)</p> <p>第4回 ジェンダーと家族 (2)</p> <p>第5回 ジェンダーと法・社会規範</p> <p>第6回 ジェンダーと宗教</p> <p>第7回 ジェンダーと戦争</p> <p>第8回 ジェンダーと戦争</p> <p>第9回 ジェンダーと政治</p> <p>第10回 ジェンダーと平和運動</p> <p>第11回 ジェンダーと平和運動</p> <p>第12回 ジェンダーと労働・経済</p> <p>第13回 ジェンダーと経済・教育</p> <p>第14回 ジェンダーと表象文化</p> <p>第15回 ジェンダーとセクシュアリティー まとめ</p>
履修上の注意点	テキストを用いず、必要な資料を配付する。受講者は講義の内容を各自記録する必要がある。講義中は携帯電話・スマートホーンの電源を切る。講義の内容を写真に撮ることを禁止する。
教科書	
参考書	<p>女性の目からみたアメリカ史</p> <p>著者： エレン・キャロル・ディチュボイス、リン・ディメニル</p> <p>出版社： 明石書店</p> <p>出版年： 2009 ISBN:</p> <p>知らないで恥ずかしいジェンダー入門</p> <p>著者： 加藤秀一</p> <p>出版社： 朝日新聞社</p> <p>出版年： 2006 ISBN:</p>

Japanese Women and the Transnational Feminist Movement before World War II

著者: Taeko Shibahara

出版社: Temple University Press

出版年: 2014

ISBN:

アメリカ・ジェンダー研究入門

著者: 有賀夏紀、小檜山ルイ編

出版社: 青木書店

出版年: 2010

ISBN:

近代日本女性論の系譜

著者: 金子幸子

出版社: 不二出版

出版年: 1999

ISBN:

ジェンダーから世界を読むII

著者: 中野知律、越智博美編

出版社: 明石書店

出版年: 2008

ISBN:

ジェンダーで学ぶ社会学

著者: 伊藤公雄、牟田和恵編

出版社: 世界思想社

出版年: 2006

ISBN:

キーコンセプト ジェンダー・スタディーズ

著者: ジェイン・ピルチャー、イメルダ・ウイラハン 著

出版社: 新曜社

出版年: 2009

ISBN:

マンガでわかる男性学 ジェンダーレス時代を生きるために

著者: 水島新太郎

出版社: 行路社

出版年: 2016

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業中課題40%は、講義時に複数回提出を求めるコメントを意味する。試験は期末レポート試験を意味する。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 宗教学概論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 章彦	
テーマ 宗教と向き合うより良き方法を考える	
授業の到達目標 宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。	
授業の概要 以下の予定で授業を行う	
準備学習(予習・復習) 宗教の基礎を学ぶ	
内 容 第1回 総論Ⅰ 宗教と宗教学—宗教にどのようにアプローチするか— 第2回 総論Ⅱ 宗教をどのように定義するか 第3回 総論Ⅲ 宗教の構造と機能 第4回 総論Ⅳ 個人において宗教はどのように顕れるか—信仰ということ— 第5回 総論Ⅴ 宗教現象の諸相—祈るということ— 第6回 総論Ⅵ 宗教の人間観と世界観 第7回 各論Ⅰ(1) 仏教—釈迦とその後の展開— 第8回 各論Ⅰ(2) 仏教—日本仏教— 第9回 各論Ⅰ(3) 仏教教義の基礎 第10回 各論Ⅰ ユダヤ教とキリスト教 第11回 各論Ⅰ イスラーム 第12回 各論Ⅱ 道教と儒教 第13回 各論Ⅲ 民俗信仰—神道— 第14回 各論Ⅳ 新宗教—天理教と大本教など— 第15回 各論Ⅴ まとめ—宗教とどのように向き合うか	
履修上の注意点 「日本人と宗教」を同時に受講することが望ましい	
教科書 特に指定しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 宗教学 著者: 岸本英夫 出版社: 大明堂 出版年: 1961 ISBN: 宗教学入門 著者: 棚次正和、山中弘 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2005 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(50) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(50) *参加度は授業各回の理解状況と積極的姿勢を持って臨んでいるかどうかをリアクションペーパーなどで評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 **心理学概論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 200

履修条件

クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

心理学の諸分野に触れ基礎的な知識を身につける

授業の到達目標

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考える上でも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。

授業の概要

生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

準備学習(予習・復習)

普段の自分の生活と講義内容を結びつけて考えてみてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 「こころ」とは何か? 「心理学」とは何か?
- 第2回 こころとからだ～生きている上で実感すること
- 第3回 「動物」としての人間
- 第4回 「機械」としての人間～行動主義の心理学
- 第5回 学習と知能
- 第6回 認知と記憶
- 第7回 子どものこころの世界
- 第8回 こころの成長とは?
- 第9回 ライフサイクルから人生を考える
- 第10回 社会や集団を考える心理学
- 第11回 対人関係を考える心理学
- 第12回 パーソナリティとは?～自分の性格について考える
- 第13回 感情とは何か?～自分の感情に気づく
- 第14回 カウンセリングの基礎
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

履修上の注意点

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70%)

小テスト ( )

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業中課題(レポート)は抜き打ちで実施します。

## 2017 Syllabus

科目名 言語コミュニケーション論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 佐野 裕子		
テーマ	コミュニケーションを行う際に見られる言語の様々な役割を学ぶ	
授業の到達目標	日常あらゆる人が行うコミュニケーションにおいて、言語がどのような役割を担っているのかを知る 言語を客観的に捉える姿勢を身に付ける	
授業の概要	言語学の諸分野について講義を行い、その中でコミュニケーション上の言語の役割について説明していく 必要に応じ、感想などの提出を求める場合がある	
準備学習(予習・復習)	授業の復習は学期末だけでなく日常的に行うこと 授業の内容に照らして、自身のコミュニケーションをふり返ること	
内 容	<p>第1回 授業説明・評価説明・イントロダクション</p> <p>第2回 コミュニケーションとは</p> <p>第3回 言語の役割1</p> <p>第4回 言語の役割2</p> <p>第5回 文章・談話1</p> <p>第6回 文章・談話2</p> <p>第7回 語用論1</p> <p>第8回 語用論2</p> <p>第9回 語用論3</p> <p>第10回 ポライトネス1</p> <p>第11回 ポライトネス2</p> <p>第12回 ポライトネス3</p> <p>第13回 方言</p> <p>第14回 役割語</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合、また学期末のまとめにおける課題を未提出の場合は、評価の対象としない	
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>授業中適時提示</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (70)</p> <p>授業中課題 (15)</p> <p>参加度 (15)</p> <p>小テスト (0)</p> <p>授業中発表等 (0)</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 言語コミュニケーション論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 佐野 裕子		
テーマ	コミュニケーションを行う際に見られる言語の様々な役割を学ぶ	
授業の到達目標	日常あらゆる人が行うコミュニケーションにおいて、言語がどのような役割を担っているのかを知る 言語を客観的に捉える姿勢を身に付ける	
授業の概要	言語学の諸分野について講義を行い、その中でコミュニケーション上の言語の役割について説明していく 必要に応じ、感想などの提出を求めることがある	
準備学習(予習・復習)	授業の復習は学期末だけでなく日常的に行うこと 授業の内容に照らして、自身のコミュニケーションをふり返ること	
内 容	第1回 授業説明・評価説明・イントロダクション 第2回 コミュニケーションとは 第3回 言語の役割1 第4回 言語の役割2 第5回 文章・談話1 第6回 文章・談話2 第7回 語用論1 第8回 語用論2 第9回 語用論3 第10回 ポライトネス1 第11回 ポライトネス2 第12回 ポライトネス3 第13回 方言 第14回 役割語 第15回 まとめ	
履修上の注意点	出席回数が全授業の3分の2に満たない場合、また学期末のまとめにおける課題を未提出の場合は、評価の対象としない	
教科書	使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書	授業中適宜提示 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	試験・レポート (70) 小テスト (0) 授業中課題 (15) 授業中発表等 (0) 参加度 (15)	



## 2017 Syllabus

科目名 現代のメディアと表現 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 禧美 智章	
テーマ 宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」	
授業の到達目標 宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する	
授業の概要 「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う(なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある)。	
準備学習(予習・復習) 予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。	
内 容 第1回 宮崎駿の思想 第2回 「風の谷のナウシカ」読解(1) 第3回 「風の谷のナウシカ」読解(2) 第4回 「風の谷のナウシカ」読解(3) 第5回 「風の谷のナウシカ」読解(4) 第6回 「紅の豚」読解 第7回 「ハウルの動く城」読解 第8回 宮崎駿まとめ 第9回 細田守の演出 第10回 「サマーウォーズ」読解(1) 第11回 「サマーウォーズ」読解(2) 第12回 「サマーウォーズ」読解(3) 第13回 「おおかみこどもの雨と雪」読解 第14回 「バケモノの子」読解 第15回 まとめ	
履修上の注意点 講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。	
教科書 宮崎駿の地平 著者: 野村幸一郎 出版社: 白地社 出版年: Oct-10 ISBN: 4893591037	
参考書 サマーウォーズ 著者: 岩井恭平 出版社: 角川書店 出版年: Jul-09 ISBN: 4044288224	
おおかみこどもの雨と雪 著者: 細田守 出版社: 角川書店 出版年: Jun-12 ISBN: 978-4044288228	
バケモノの子 著者: 細田守 出版社: 角川書店 出版年: Jun-15 ISBN: 978-4041030004	

成績評価

試験・レポート ( 70 )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 現代のメディアと表現 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 禧美 智章	
テーマ 宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」	
授業の到達目標 宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する	
授業の概要 「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う(なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合があります)。	
準備学習(予習・復習) 予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。	
内 容 第1回 宮崎駿の思想 第2回 「風の谷のナウシカ」読解(1) 第3回 「風の谷のナウシカ」読解(2) 第4回 「風の谷のナウシカ」読解(3) 第5回 「風の谷のナウシカ」読解(4) 第6回 「紅の豚」読解 第7回 「ハウルの動く城」読解 第8回 宮崎駿まとめ 第9回 細田守の演出 第10回 「サマーウォーズ」読解(1) 第11回 「サマーウォーズ」読解(2) 第12回 「サマーウォーズ」読解(3) 第13回 「おおかみこどもの雨と雪」読解 第14回 「バケモノの子」読解 第15回 まとめ	
履修上の注意点 講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。	
教科書 宮崎駿の地平 著者: 野村幸一郎 出版社: 白地社 出版年: Oct-10 ISBN: 4893591037	
参考書 サマーウォーズ 著者: 岩井恭平 出版社: 角川書店 出版年: Jul-09 ISBN: 4044288224	
おおかみこどもの雨と雪 著者: 細田守 出版社: 角川書店 出版年: Jun-12 ISBN: 978-4044288228	
バケモノの子 著者: 細田守 出版社: 角川書店 出版年: Jun-15 ISBN: 978-4041030004	

成績評価

試験・レポート ( 70 )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習 I &lt;Aa&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 青木 寛史	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 授業中課題(40) 参加度(20)	小テスト(40) 授業中発表等( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習 I &lt;Ab&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 白井 安夫	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (20)	小テスト (40) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習 I &lt;Ac&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 鶴谷 直樹	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
<p>学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。</p>	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
<p>第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!</p> <p>第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数</p> <p>第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に</p> <p>第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度</p> <p>第5回 数の世界の不思議から文字へ</p> <p>第6回 展開、因数分解~文字式の計算</p> <p>第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解</p> <p>第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式</p> <p>第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題</p> <p>第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問</p> <p>第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数</p> <p>第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成</p> <p>第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値</p> <p>第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>	
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートII 京都橋のポートフォリオ	
著者: 京都橋大学	
出版社: 京都橋大学生協	
出版年: 2012	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	



## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Ad&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 池本 浩章

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Ae&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 巖樫 昌弘

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習 I &lt;Af&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 武田 春美	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 授業中課題(40) 参加度(20)	小テスト(40) 授業中発表等( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習 I &lt;Ag&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 富岡 康	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (20)	小テスト (40) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Ah&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 胡内 正男	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 授業中課題(40) 参加度(20)	小テスト(40) 授業中発表等( )

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Ai&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 狩野 秀樹

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Ba&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習 I &lt;Bb&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 白井 安夫	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 授業中課題(40) 参加度(20)	小テスト(40) 授業中発表等( )



## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Bc&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 鶴谷 直樹	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 授業中課題(40) 参加度(20)	小テスト(40) 授業中発表等( )

## 2017 Syllabus

科目名 **数学演習 I <Bd>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 池本 浩章	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (20)	小テスト (40) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Be&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 巖樫 昌弘

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Bf&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 武田 春美

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習 I &lt;Bg&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 富岡 康	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (20)	小テスト (40) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Bh&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 胡内 正男

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;Bi&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 狩野 秀樹	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (20)	小テスト (40) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 青木 寛史	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 授業中課題(40) 参加度(20)	小テスト(40) 授業中発表等( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 青木 寛史	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解~文字式の計算 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。	
教科書 スタートII 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト(40) 授業中課題(40) 授業中発表等( ) 参加度(20)	

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習 I &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Aa&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 青木 寛史	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
第1回	比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
第2回	比・比例・割合(2)～応用問題
第3回	論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
第4回	論理と集合(2)～命題と論理
第5回	論理と集合(2)～命題と論理
第6回	場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
第7回	場合の数と確率(3)～確率とその応用
第8回	平面図形(1)～平行線と角
第9回	平面図形(2)～円とその性質
第10回	平面図形(3)～合同と相似
第11回	図形と計量(1)～面積・三平方の定理
第12回	図形と計量(2)～応用問題
第13回	空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回	空間図形(2)～応用問題
第15回	まとめと到達度の確認
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ	
著者: 京都橋大学	
出版社: 京都橋大学生協	
出版年: 2012	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト (40)
授業中課題 (40)	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ab〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 白井 安夫	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
第1回	比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
第2回	比・比例・割合(2)～応用問題
第3回	論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
第4回	論理と集合(2)～命題と論理
第5回	論理と集合(2)～命題と論理
第6回	場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
第7回	場合の数と確率(3)～確率とその応用
第8回	平面図形(1)～平行線と角
第9回	平面図形(2)～円とその性質
第10回	平面図形(3)～合同と相似
第11回	図形と計量(1)～面積・三平方の定理
第12回	図形と計量(2)～応用問題
第13回	空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回	空間図形(2)～応用問題
第15回	まとめと到達度の確認
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ	
著者: 京都橋大学	
出版社: 京都橋大学生協	
出版年: 2012	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート( )	小テスト(40)
授業中課題(40)	授業中発表等( )
参加度(20)	

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ac〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 鶴谷 直樹

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Ad&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 池本 浩章

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Ae&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 巖樫 昌弘	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合 第4回 論理と集合(2)～命題と論理 第5回 論理と集合(2)～命題と論理 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用 第8回 平面図形(1)～平行線と角 第9回 平面図形(2)～円とその性質 第10回 平面図形(3)～合同と相似 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理 第12回 図形と計量(2)～応用問題 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積 第14回 空間図形(2)～応用問題 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書 スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ 著者： 京都橋大学 出版社： 京都橋大学生協 出版年： 2012 ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 40 ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 20 )	



## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Af〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 武田 春美	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
第1回	比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
第2回	比・比例・割合(2)～応用問題
第3回	論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
第4回	論理と集合(2)～命題と論理
第5回	論理と集合(2)～命題と論理
第6回	場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
第7回	場合の数と確率(3)～確率とその応用
第8回	平面図形(1)～平行線と角
第9回	平面図形(2)～円とその性質
第10回	平面図形(3)～合同と相似
第11回	図形と計量(1)～面積・三平方の定理
第12回	図形と計量(2)～応用問題
第13回	空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回	空間図形(2)～応用問題
第15回	まとめと到達度の確認
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ	
著者： 京都橋大学	
出版社： 京都橋大学生協	
出版年： 2012	ISBN：
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 数学演習Ⅱ〈Ag〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 富岡 康	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合 第4回 論理と集合(2)～命題と論理 第5回 論理と集合(2)～命題と論理 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用 第8回 平面図形(1)～平行線と角 第9回 平面図形(2)～円とその性質 第10回 平面図形(3)～合同と相似 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理 第12回 図形と計量(2)～応用問題 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積 第14回 空間図形(2)～応用問題 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書 スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ 著者： 京都橋大学 出版社： 京都橋大学生協 出版年： 2012 ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 40 ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ah〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 胡内 正男

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Ai&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 狩野 秀樹

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Ba&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Bb&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Bc&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 鶴谷 直樹	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
第1回	比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
第2回	比・比例・割合(2)～応用問題
第3回	論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
第4回	論理と集合(2)～命題と論理
第5回	論理と集合(2)～命題と論理
第6回	場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
第7回	場合の数と確率(3)～確率とその応用
第8回	平面図形(1)～平行線と角
第9回	平面図形(2)～円とその性質
第10回	平面図形(3)～合同と相似
第11回	図形と計量(1)～面積・三平方の定理
第12回	図形と計量(2)～応用問題
第13回	空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回	空間図形(2)～応用問題
第15回	まとめと到達度の確認
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ	
著者： 京都橋大学	
出版社： 京都橋大学生協	
出版年： 2012	ISBN：
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **数学演習Ⅱ <Bd>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 池本 浩章

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Be〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 巖樫 昌弘

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Bf〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 武田 春美

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Bg&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 富岡 康

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Bh&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 胡内 正男

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;Bi&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 狩野 秀樹	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合 第4回 論理と集合(2)～命題と論理 第5回 論理と集合(2)～命題と論理 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用 第8回 平面図形(1)～平行線と角 第9回 平面図形(2)～円とその性質 第10回 平面図形(3)～合同と相似 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理 第12回 図形と計量(2)～応用問題 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積 第14回 空間図形(2)～応用問題 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書 スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ 著者： 京都橋大学 出版社： 京都橋大学生協 出版年： 2012 ISBN： 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 40 ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 青木 寛史	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
第1回	比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
第2回	比・比例・割合(2)～応用問題
第3回	論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
第4回	論理と集合(2)～命題と論理
第5回	論理と集合(2)～命題と論理
第6回	場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
第7回	場合の数と確率(3)～確率とその応用
第8回	平面図形(1)～平行線と角
第9回	平面図形(2)～円とその性質
第10回	平面図形(3)～合同と相似
第11回	図形と計量(1)～面積・三平方の定理
第12回	図形と計量(2)～応用問題
第13回	空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回	空間図形(2)～応用問題
第15回	まとめと到達度の確認
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ	
著者： 京都橋大学	
出版社： 京都橋大学生協	
出版年： 2012	ISBN：
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 青木 寛史	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
第1回	比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
第2回	比・比例・割合(2)～応用問題
第3回	論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
第4回	論理と集合(2)～命題と論理
第5回	論理と集合(2)～命題と論理
第6回	場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
第7回	場合の数と確率(3)～確率とその応用
第8回	平面図形(1)～平行線と角
第9回	平面図形(2)～円とその性質
第10回	平面図形(3)～合同と相似
第11回	図形と計量(1)～面積・三平方の定理
第12回	図形と計量(2)～応用問題
第13回	空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回	空間図形(2)～応用問題
第15回	まとめと到達度の確認
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ	
著者： 京都橋大学	
出版社： 京都橋大学生協	
出版年： 2012	ISBN：
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 白井 安夫	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
第1回	比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
第2回	比・比例・割合(2)～応用問題
第3回	論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
第4回	論理と集合(2)～命題と論理
第5回	論理と集合(2)～命題と論理
第6回	場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
第7回	場合の数と確率(3)～確率とその応用
第8回	平面図形(1)～平行線と角
第9回	平面図形(2)～円とその性質
第10回	平面図形(3)～合同と相似
第11回	図形と計量(1)～面積・三平方の定理
第12回	図形と計量(2)～応用問題
第13回	空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回	空間図形(2)～応用問題
第15回	まとめと到達度の確認
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ	
著者: 京都橋大学	
出版社: 京都橋大学生協	
出版年: 2012	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト (40)
授業中課題 (40)	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	



## 2017 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ &lt;d&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅲ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	小西 康子	
テーマ	Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。	
授業の到達目標	Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』資格の取得をめざす。	
授業の概要	現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とする。	
準備学習(予習・復習)	パソコンの基本スキル(入力、保存など)がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは 知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体</p> <p>第2回 知識科目対策・ハードウェア、ソフトウェア</p> <p>第3回 Excelの基本操作・データ入力、修正、削除、コピー、オートフィル、書式設定、グラフ作成</p> <p>第4回 知識科目対策・ファイル、ネットワーク基礎</p> <p>第5回 知識科目対策・業務会計</p> <p>第6回 実務における表計算・相対参照、絶対参照、関数</p> <p>第7回 知識科目問題演習</p> <p>第8回 知識科目問題演習</p> <p>第9回 実務における表計算・複合グラフ、並べ替え、フィルタ、ピボットテーブル</p> <p>第10回 実技科目問題演習</p> <p>第11回 実技科目問題演習</p> <p>第12回 検定対策・模擬試験</p> <p>第13回 実技科目問題演習</p> <p>第14回 検定対策・模擬試験</p> <p>第15回 試験(知識科目+実技科目)</p>	
履修上の注意点		
教科書	日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター Excel2010対応【FPT1042】 著者： 富士通エフ・オー・エム(株) 出版社： FOM出版 出版年： ISBN: 9.78489E+12	
参考書		
成績評価	試験・レポート(50) 小テスト(0) 授業中課題(50) 授業中発表等(0) 参加度(0)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報処理演習Ⅳ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小西 康子	
テーマ	
Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。	
授業の到達目標	
Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。	
授業の概要	
現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。	
準備学習(予習・復習)	
パソコンの基本スキル(入力、保存など)がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。	
内 容	
第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは 知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア	
第2回 知識科目対策・ソフトウェア、ファイル、ネットワーク基礎	
第3回 Wordの基本操作・社外文書作成	
第4回 Wordの基本操作・表作成	
第5回 知識科目対策・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方	
第6回 知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術	
第7回 実技問題演習	
第8回 実技問題演習	
第9回 知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術・ビジネス図解の基本・ビジネス文書の管理	
第10回 知識科目問題演習	
第11回 実技問題演習	
第12回 検定対策・模擬試験	
第13回 実技科目問題演習	
第14回 検定対策・模擬試験	
第15回 試験(知識科目+実技科目)	
履修上の注意点	
教科書	
日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応【FPT1043】	
著者： 富士通エフ・オー・エム(株)	
出版社： FOM出版	
出版年：	ISBN: 9.78489E+12
日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキストWord2010対応【FPT0535】	
著者： 富士通エフ・オー・エム(株)	
出版社： FOM出版	
出版年：	ISBN: 4893116371
参考書	
成績評価	
試験・レポート (50)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	

## 2017 Syllabus

科目名 比較文化論(教養) &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

文化が分かれば自分がわかる／かわる

授業の到達目標

1. 世界の諸文化についての知識を深める。2. 世界で起こっている様々な問題の原因を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考える。3. 様々な文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得する。

授業の概要

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発する(2001年のアメリカでのテロ以来、それは単なるレトリックではなくなった)。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになれば——これがこの授業の最大の目標である。世界と自分を知るには知識と思考が必要だ。この授業はその手助けをすることを念頭におき、ビデオなども使いながら進めたい。受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心をもったテーマについてのペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。この科目では毎授業出席を取ります。欠席が6回以上になると単位が認められな

準備学習(予習・復習)

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせつせと読もう。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 韓国(1)
- 第3回 韓国(2)
- 第4回 中国(1)
- 第5回 中国(2)
- 第6回 インド(1)
- 第7回 インド(2)
- 第8回 インド(3)
- 第9回 イスラーム(1)
- 第10回 イスラーム(2)
- 第11回 イスラーム(3)
- 第12回 ヨーロッパ(1)
- 第13回 ヨーロッパ(2)
- 第14回 アメリカ
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(80)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(20)

## 2017 Syllabus

科目名 比較文化論(教養) &lt;b&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

文化が分かれば自分がわかる／かわる

授業の到達目標

1. 世界の諸文化についての知識を深める。2. 世界で起こっている様々な問題の原因を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考える。3. 様々な文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得する。

授業の概要

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発する(2001年のアメリカでのテロ以来、それは単なるレトリックではなくなった)。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになれば——これがこの授業の最大の目標である。世界と自分を知るには知識と思考が必要だ。この授業はその手助けをすることを念頭におき、ビデオなども使いながら進めたい。受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心をもったテーマについてのペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。この科目では毎授業出席を取ります。欠席が6回以上になると単位が認められな

準備学習(予習・復習)

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせつせと読もう。

内 容

第1回 イントロダクション

第2回 韓国(1)

第3回 韓国(2)

第4回 中国(1)

第5回 中国(2)

第6回 インド(1)

第7回 インド(2)

第8回 インド(3)

第9回 イスラーム(1)

第10回 イスラーム(2)

第11回 イスラーム(3)

第12回 ヨーロッパ(1)

第13回 ヨーロッパ(2)

第14回 アメリカ

第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(80)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(20)

## 2017 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論(人文) &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	岩本 真利絵	
テーマ	東アジアを題材とした異文化理解。	
授業の到達目標	本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国をおもな題材とし、現在の中国の文化とその歴史的背景の検討を通じて、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。	
授業の概要	授業は異なったテーマで1回ごとに完結する。基本的には、パワーポイントで年表や各種の写真、画像などと紹介しながら進める。そして、歴史的な史料や新聞記事などを適宜プリントで配布し、内容に関して受講者から意見を求める。	
準備学習(予習・復習)	何回か、小レポートを課す。これは、授業の復習のためのものであると同時に、成績の基本部分となる。	
内 容	第1回 ガイダンス 第2回 「爆買い」のこれから(中国における旅行の歴史と現在の旅行情報網) 第3回 日本の中国人留学生と中国の日本人留学生 第4回 PM2.5と環境破壊 第5回 中国人の衛生観念 第6回 金盾の中の楽園(中国の言論統制とネットビジネス) 第7回 社会主義と格差社会 第8回 五十六族共和?(中国の各地域の文化と言葉) 第9回 中華料理の変貌 第10回 韓国歴史ドラマの中の中国(近代以前の東アジア) 第11回 香港・マカオと台湾(近代以後の東アジア) 第12回 華僑・華人がつなぐ世界 第13回 漢文・漢字からの逃走(ひらがな・カタカナ・ハングルの成立) 第14回 中国語・韓国語でしゃべってみよう①(発音・単語編) 第15回 中国語・韓国語でしゃべってみよう②(文法・旅行会話編)	
履修上の注意点	参考書等は、授業中に適宜紹介する。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価	試験・レポート(80) 小テスト( )	
	授業中課題( ) 授業中発表等( )	
	参加度(20)	

## 2017 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論(人文) &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	岩本 真利絵	
テーマ	東アジアを題材とした異文化理解。	
授業の到達目標	<p>本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国をおもな題材とし、現在の中国の文化とその歴史的背景の検討を通じて、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。</p>	
授業の概要	<p>授業は異なったテーマで1回ごとに完結する。基本的には、パワーポイントで年表や各種の写真、画像などと紹介しながら進める。そして、歴史的な史料や新聞記事などを適宜プリントで配布し、内容に関して受講者から意見を求める。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>何回か、小レポートを課す。これは、授業の復習のためのものであると同時に、成績の基本部分となる。</p>	
内 容	<p>第1回 ガイダンス  第2回 「爆買い」のこれから(中国における旅行の歴史と現在の旅行情報網)  第3回 日本の中国人留学生と中国の日本人留学生  第4回 PM2.5と環境破壊  第5回 中国人の衛生観念  第6回 金盾の中の楽園(中国の言論統制とネットビジネス)  第7回 社会主義と格差社会  第8回 五十六族共和?(中国の各地域の文化と言葉)  第9回 中華料理の変貌  第10回 韓国歴史ドラマの中の中国(近代以前の東アジア)  第11回 香港・マカオと台湾(近代以後の東アジア)  第12回 華僑・華人がつなぐ世界  第13回 漢文・漢字からの逃走(ひらがな・カタカナ・ハングルの成立)  第14回 中国語・韓国語でしゃべってみよう①(発音・単語編)  第15回 中国語・韓国語でしゃべってみよう②(文法・旅行会話編)</p>	
履修上の注意点	<p>参考書等は、授業中に適宜紹介する。</p>	
教科書	<p>使用しない  著者:  出版社:  出版年: ISBN:  参考書</p>	
成績評価	<p>試験・レポート ( 80 )  授業中課題 ( )  参加度 ( 20 )</p> <p>小テスト ( )  授業中発表等 ( )</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 文化人類学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 本林 靖久	
テーマ	ブータンの文化を通して、異文化理解と人類の幸福とは何かについて学ぶ。
授業の到達目標	文化人類学の方法論を学びながら、ブータンという仏教王国に暮らすブータン人の生活様式を理解する。そのうえで、現代の日本人との比較を通して、国や国民の幸福のカタチを考察する。
授業の概要	私たちは多様な生活習慣のなかで生きている。その生活習慣がさまざまな文化を作り上げている。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに写しだされる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について、やさしく解説する。そのうえで、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていきたい。
準備学習(予習・復習)	テキストを読んでしっかり復習をしてください。
内 容	<p>第1回 文化人類学におけるフィールドワークの意義</p> <p>第2回 文化人類学における全体理解と比較理解</p> <p>第3回 異文化理解の心得</p> <p>第4回 異文化理解から学ぶ幸福</p> <p>第5回 アジアの国々とブータンの地勢</p> <p>第6回 ブータンのGNH(国民総幸福)</p> <p>第7回 民族と言語</p> <p>第8回 君主制と民主制</p> <p>第9回 GNHと環境政策</p> <p>第10回 人の一生と儀礼</p> <p>第11回 宗教文化と祭礼</p> <p>第12回 近代化と伝統文化</p> <p>第13回 難民問題と国際社会</p> <p>第14回 幸福論の実験国家</p> <p>第15回 まとめ—人類にとっての幸福とは—</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>ブータンと幸福論—宗教文化と儀礼—</p> <p>著者： 本林靖久</p> <p>出版社： 法蔵館</p> <p>出版年： 2006年 ISBN: 4-8318-5680-0</p>
参考書	<p>ブータン スタイル—仏教文化の国から—</p> <p>著者： 本林靖久</p> <p>出版社： 京都書院</p> <p>出版年： 1998年 ISBN:</p> <p>ブータンで本当の幸せについて考えてみました。「足るを知る」と経済成長は両立するのだろうか？</p> <p>著者： 本林靖久・高橋孝郎</p> <p>出版社： 阪急コミュニケーションズ</p> <p>出版年： 2013年 ISBN:</p>



ブータンに魅せられて

著者： 今枝由郎

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

秘境ブータン

著者： 中尾佐助

出版社： 岩波書店

出版年： 2011年

ISBN:

現代ブータンを知るための60章

著者： 平山修一

出版社： 明石書店

出版年： 2005年

ISBN:

ブータン、これでいいのだ

著者： 御手洗瑞子

出版社： 新潮社

出版年： 2012年

ISBN:

ブータン神秘の王国

著者： 西岡京治・西岡里子

出版社： NTT出版

出版年： 1998年

ISBN:

ブータン小・中学校歴史教科書 ブータンの歴史

著者： ブータン国王教育省教育部編

出版社： 明石書店

出版年： 2008年

ISBN:

ブータン王室はなぜこんなに愛されるのか

著者： 田中敏恵

出版社： 小学館

出版年： 2012年

ISBN:

未来国家ブータン

著者： 高野秀行

出版社： 集英社

出版年： 2012年

ISBN:

#### 成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

定期試験80% 授業出席(感想文提出)20%

## 2017 Syllabus

科目名 芸術と文化 &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 山本 善則

テーマ

芸術を知ることによって文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習(予習・復習)

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内 容

- 第1回 音楽の芸術表現1
- 第2回 音楽の芸術表現2
- 第3回 音楽の芸術表現3
- 第4回 情報化と価値観1
- 第5回 情報化と価値観2
- 第6回 情報化と価値観3
- 第7回 五感芸術1
- 第8回 五感芸術2
- 第9回 五感芸術3
- 第10回 表現者心理と聴衆者心理1
- 第11回 表現者心理と聴衆者心理2
- 第12回 表現者心理と聴衆者心理3
- 第13回 自然性と芸術の関係1
- 第14回 自然性と芸術の関係2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (50)

毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

## 2017 Syllabus

科目名 芸術と文化 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 山本 善則	
テーマ	
芸術を知ることによって文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。	
授業の到達目標	
主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。	
授業の概要	
授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。	
準備学習(予習・復習)	
授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。	
内 容	
第1回	音楽の芸術表現1
第2回	音楽の芸術表現2
第3回	音楽の芸術表現3
第4回	情報化と価値観1
第5回	情報化と価値観2
第6回	情報化と価値観3
第7回	五感芸術1
第8回	五感芸術2
第9回	五感芸術3
第10回	表現者心理と聴衆者心理1
第11回	表現者心理と聴衆者心理2
第12回	表現者心理と聴衆者心理3
第13回	自然性と芸術の関係1
第14回	自然性と芸術の関係2
第15回	まとめ
履修上の注意点	
私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (10)
授業中課題 (30)	授業中発表等 (10)
参加度 (50)	
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。	

## 2017 Syllabus

科目名 芸術と文化 &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 山本 善則

テーマ

芸術を知ることによって文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習(予習・復習)

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内 容

- 第1回 音楽の芸術表現1
- 第2回 音楽の芸術表現2
- 第3回 音楽の芸術表現3
- 第4回 情報化と価値観1
- 第5回 情報化と価値観2
- 第6回 情報化と価値観3
- 第7回 五感芸術1
- 第8回 五感芸術2
- 第9回 五感芸術3
- 第10回 表現者心理と聴衆者心理1
- 第11回 表現者心理と聴衆者心理2
- 第12回 表現者心理と聴衆者心理3
- 第13回 自然性と芸術の関係1
- 第14回 自然性と芸術の関係2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (50)

毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

## 2017 Syllabus

科目名 芸術と文化 &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 山本 善則

テーマ

芸術を知ることによって文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習(予習・復習)

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内 容

- 第1回 音楽の芸術表現1
- 第2回 音楽の芸術表現2
- 第3回 音楽の芸術表現3
- 第4回 情報化と価値観1
- 第5回 情報化と価値観2
- 第6回 情報化と価値観3
- 第7回 五感芸術1
- 第8回 五感芸術2
- 第9回 五感芸術3
- 第10回 表現者心理と聴衆者心理1
- 第11回 表現者心理と聴衆者心理2
- 第12回 表現者心理と聴衆者心理3
- 第13回 自然性と芸術の関係1
- 第14回 自然性と芸術の関係2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (50)

毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

## 2017 Syllabus

科目名 中国語 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 郭 まいか	
テーマ 中国語入門	
授業の到達目標 発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。	
授業の概要 教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。	
準備学習(予習・復習) 新しい単語は、必ず覚えてください。	
内 容 第1回 中国語について、授業について 第2回 発音1 母音 第3回 発音2 子音 第4回 発音3 鼻音 第5回 発音4 声調 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。) 第7回 練習 第8回 練習 第9回 第2課 ~する (大学へ行きます。) 第10回 練習 第11回 練習 第12回 第3課 ~したい (ウーロン茶を飲みたい。) 第13回 練習 第14回 練習 第15回 第1課~3課の復習 第16回 第4課 場所・時間+~する (レストランで何を食べますか。) 第17回 練習 第18回 練習 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。) 第20回 練習 第21回 練習 第22回 第4課~5課の復習 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。) 第24回 練習 第25回 練習 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。) 第27回 練習 第28回 練習 第29回 第6課~7課の復習 第30回 小テストの再テスト	

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（90）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（10）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 中国語 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 郭 まいか	
テーマ 中国語入門	
授業の到達目標 発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。	
授業の概要 教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。	
準備学習(予習・復習) 新しい単語は、必ず覚えてください。	
内 容 第1回 中国語について、授業について 第2回 発音1 母音 第3回 発音2 子音 第4回 発音3 鼻音 第5回 発音4 声調 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。) 第7回 練習 第8回 練習 第9回 第2課 ~する (大学へ行きます。) 第10回 練習 第11回 練習 第12回 第3課 ~したい (ウーロン茶を飲みたい。) 第13回 練習 第14回 練習 第15回 第1課~3課の復習 第16回 第4課 場所・時間+~する (レストランで何を食べますか。) 第17回 練習 第18回 練習 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。) 第20回 練習 第21回 練習 第22回 第4課~5課の復習 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。) 第24回 練習 第25回 練習 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。) 第27回 練習 第28回 練習 第29回 第6課~7課の復習 第30回 小テストの再テスト	

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書



---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（90）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（10）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 中国語 I &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 劉慶	
テーマ 中国語入門	
授業の到達目標 発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったたり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。	
授業の概要 教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。	
準備学習(予習・復習) 新しい単語は、必ず覚えてください。	
内 容 第1回 中国語について、授業について 第2回 発音1 母音 第3回 発音2 子音 第4回 発音3 鼻音 第5回 発音4 声調 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。) 第7回 練習 第8回 練習 第9回 第2課 ~する (大学へ行きます。) 第10回 練習 第11回 練習 第12回 第3課 ~したい (ウーロン茶を飲みたい。) 第13回 練習 第14回 練習 第15回 第1課~3課の復習 第16回 第4課 場所・時間+~する (レストランで何を食べますか。) 第17回 練習 第18回 練習 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。) 第20回 練習 第21回 練習 第22回 第4課~5課の復習 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。) 第24回 練習 第25回 練習 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。) 第27回 練習 第28回 練習 第29回 第6課~7課の復習 第30回 小テストの再テスト	

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 中国語 I &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 劉慶	
テーマ 中国語入門	
授業の到達目標 発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったたり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。	
授業の概要 教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。	
準備学習(予習・復習) 新しい単語は、必ず覚えてください。	
内 容 第1回 中国語について、授業について 第2回 発音1 母音 第3回 発音2 子音 第4回 発音3 鼻音 第5回 発音4 声調 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。) 第7回 練習 第8回 練習 第9回 第2課 ~する (大学へ行きます。) 第10回 練習 第11回 練習 第12回 第3課 ~したい (ウーロン茶を飲みたい。) 第13回 練習 第14回 練習 第15回 第1課~3課の復習 第16回 第4課 場所・時間+~する (レストランで何を食べますか。) 第17回 練習 第18回 練習 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。) 第20回 練習 第21回 練習 第22回 第4課~5課の復習 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。) 第24回 練習 第25回 練習 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。) 第27回 練習 第28回 練習 第29回 第6課~7課の復習 第30回 小テストの再テスト	

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 中国語 I &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 蒲 豊彦	
テーマ 中国語入門	
授業の到達目標 発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。	
授業の概要 教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。	
準備学習(予習・復習) 新しい単語は、必ず覚えてください。	
内 容 第1回 中国語について、授業について 第2回 発音1 母音 第3回 発音2 子音 第4回 発音3 鼻音 第5回 発音4 声調 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。) 第7回 練習 第8回 練習 第9回 第2課 ~する (大学へ行きます。) 第10回 練習 第11回 練習 第12回 第3課 ~したい (ウーロン茶を飲みたい。) 第13回 練習 第14回 練習 第15回 第1課~3課の復習 第16回 第4課 場所・時間+~する (レストランで何を食べますか。) 第17回 練習 第18回 練習 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。) 第20回 練習 第21回 練習 第22回 第4課~5課の復習 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。) 第24回 練習 第25回 練習 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。) 第27回 練習 第28回 練習 第29回 第6課~7課の復習 第30回 小テストの再テスト	

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（90）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（10）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 劉慶

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習(予習・復習)

新しい単語は、必ず覚えてください。

内 容

- 第1回 前期の復習  
 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)  
 第3回 練習  
 第4回 練習  
 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)  
 第6回 練習  
 第7回 練習  
 第8回 第8課～9課の復習  
 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)  
 第10回 練習  
 第11回 練習  
 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)  
 第13回 練習  
 第14回 練習  
 第15回 第10課～11課の復習  
 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)  
 第17回 練習  
 第18回 練習  
 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)  
 第20回 練習  
 第21回 練習  
 第22回 第12課～13課の復習  
 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)  
 第24回 練習  
 第25回 練習  
 第26回 第15課 状態補語 (彼は歩くのがはやい。)  
 第27回 練習  
 第28回 練習  
 第29回 第14課～15課の復習  
 第30回 小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)  
授業中課題(20)小テスト(60)  
授業中発表等(0)



参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担当者 劉慶		
テーマ 中国語入門		
授業の到達目標 前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。		
授業の概要 週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。		
準備学習(予習・復習) 新しい単語は、必ず覚えてください。		
内 容 第1回 前期の復習 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。) 第3回 練習 第4回 練習 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。) 第6回 練習 第7回 練習 第8回 第8課～9課の復習 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。) 第10回 練習 第11回 練習 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。) 第13回 練習 第14回 練習 第15回 第10課～11課の復習 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。) 第17回 練習 第18回 練習 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。) 第20回 練習 第21回 練習 第22回 第12課～13課の復習 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。) 第24回 練習 第25回 練習 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。) 第27回 練習 第28回 練習 第29回 第14課～15課の復習 第30回 小テストの再テスト		
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価 試験・レポート(0) 授業中課題(20)	小テスト(60) 授業中発表等(0)	

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 岩本 真利絵

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

中国語Ⅰの授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習(予習・復習)

新しい単語は、必ず覚えてください。

内 容

- 第1回 中国語Ⅰの復習  
 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)  
 第3回 練習  
 第4回 練習  
 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)  
 第6回 練習  
 第7回 練習  
 第8回 第8課～9課の復習  
 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)  
 第10回 練習  
 第11回 練習  
 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)  
 第13回 練習  
 第14回 練習  
 第15回 第10課～11課の復習  
 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)  
 第17回 練習  
 第18回 練習  
 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)  
 第20回 練習  
 第21回 練習  
 第22回 第12課～13課の復習  
 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)  
 第24回 練習  
 第25回 練習  
 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)  
 第27回 練習  
 第28回 練習  
 第29回 第14課～15課の復習  
 第30回 小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（90）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（10）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

---

## 2017 Syllabus

科目名 中国語Ⅲ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件 中国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 劉 慶	
テーマ 中国語中級	
授業の到達目標 中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。	
授業の概要 4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭で受け答えの練習を行いたい。プリントを使用するため、教科書を購入する必要はない。	
準備学習(予習・復習) 単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。	
内 容 第1回 発音の復習 第2回 第1課 中国の朝ご飯 第3回 会話(助動詞、方向補語等) 第4回 短文 第5回 練習 第6回 第2課 服装 第7回 会話(助動詞、兼語文等) 第8回 短文 第9回 練習 第10回 第1課～2課の復習 第11回 第3課 映画を見る 第12回 会話(完了、比較等) 第13回 短文 第14回 練習 第15回 第4課 割り勘 第16回 会話(受け身、比較等) 第17回 短文 第18回 練習 第19回 第3課～4課の復習 第20回 第5課 病気になる 第21回 会話(状態の持続等) 第22回 短文 第23回 練習 第24回 第6課 携帯電話 第25回 会話(～しながら等) 第26回 短文 第27回 練習 第28回 第5課～6課の復習 第29回 小テストの再テスト 第30回 全体の復習	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート(0)	小テスト(60)



## 2017 Syllabus

科目名 中国語Ⅳ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件 中国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 劉慶

テーマ

中国語中級

授業の到達目標

中国語Ⅲを継続する。中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の概要

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭での受け答えの練習を行いたい。プリントを配布するため、教科書を購入する必要はない。教科書のほかに、中国各地の新聞を使い、現在の社会事情なども見てみたい。

準備学習(予習・復習)

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第7課 大学生活
- 第3回 会話(疑問詞等)
- 第4回 短文
- 第5回 練習
- 第6回 第8課 恋愛事情
- 第7回 会話(～でさえ等)
- 第8回 短文
- 第9回 練習
- 第10回 第7課～8課の復習
- 第11回 第9課 感謝の表現
- 第12回 会話(動作の回数等)
- 第13回 短文
- 第14回 練習
- 第15回 第10課 一人っ子
- 第16回 会話(可能補語等)
- 第17回 短文
- 第18回 練習
- 第19回 第9課～10課の復習
- 第20回 第11課 若者と職業
- 第21回 会話(～のために等)
- 第22回 短文
- 第23回 練習
- 第24回 第12課 外国語の学習
- 第25回 会話(～の他に、使役等)
- 第26回 短文
- 第27回 練習
- 第28回 第11課～12課の復習
- 第29回 小テストの再テスト
- 第30回 全体の復習

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(0)

小テスト(60)





## 2017 Syllabus

科目名 韓国語 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 朴 恵貞	
テーマ	
韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。	
授業の到達目標	
①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得を目指す。②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。	
授業の概要	
このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。進捗については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。	
準備学習(予習・復習)	
1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。	
内 容	
第1回 授業の進め方について 韓国語とは？	
第2回 子音字と母音字<1>-1	
第3回 子音字と母音字<1>-2	
第4回 子音字と母音字<2>-1	
第5回 子音字と母音字<2>-2	
第6回 子音字と母音字<3>-1	
第7回 子音字と母音字<3>-2	
第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ①	
第9回 パッチム1	
第10回 パッチム2	
第11回 日本の地名・人名のハングル表記	
第12回 指定詞の表現	
第13回 実践会話と検定対策 1	
第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ②	
第15回 指定詞・疑問詞の表現	
第16回 指示詞の否定の表現	
第17回 漢数詞	
第18回 月日・曜日の表現	
第19回 存在詞・位置の表現	
第20回 実践会話と検定対策 2	
第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ③	
第22回 用言の「ハムニダ体」の表現	
第23回 助詞	
第24回 好き嫌いの表現	
第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現	
第26回 固有数詞	
第27回 実践会話と検定対策 3	
第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ④	
第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①	
第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②	
履修上の注意点	
成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること(詳細については第1回の授業で解説する)。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。	
教科書	
サクサクっと韓国語 改訂版	
著者: 金美華	
出版社: 白帝社	
出版年: 2017	
ISBN:	

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 韓国語 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 朴 恵貞	
テーマ	
韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。	
授業の到達目標	
①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得を目指す。②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。	
授業の概要	
このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。進捗については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。	
準備学習(予習・復習)	
1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。	
内 容	
第1回 授業の進め方について 韓国語とは？	
第2回 子音字と母音字<1>-1	
第3回 子音字と母音字<1>-2	
第4回 子音字と母音字<2>-1	
第5回 子音字と母音字<2>-2	
第6回 子音字と母音字<3>-1	
第7回 子音字と母音字<3>-2	
第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！①	
第9回 パッチム1	
第10回 パッチム2	
第11回 日本の地名・人名のハングル表記	
第12回 指定詞の表現	
第13回 実践会話と検定対策 1	
第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！②	
第15回 指定詞・疑問詞の表現	
第16回 指示詞の否定の表現	
第17回 漢数詞	
第18回 月日・曜日の表現	
第19回 存在詞・位置の表現	
第20回 実践会話と検定対策 2	
第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！③	
第22回 用言の「ハムニダ体」の表現	
第23回 助詞	
第24回 好き嫌いの表現	
第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現	
第26回 固有数詞	
第27回 実践会話と検定対策 3	
第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！④	
第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①	
第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②	

## 履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること(詳細については第1回の授業で解説する)。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

## 教科書

サクサクっと韓国語 改訂版

著者: 金美華

出版社: 白帝社

出版年: 2017

ISBN:

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 韓国語 I &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 崔 孝先

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

①韓国文字の発音と読み、書きの中心。②自己紹介と会話を目指す。③韓国語能力試験1級にでてくる単語と文法の学習 ④動画を見ながら聞き取り練習。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。それから日本語と韓国語が文法的にどれほど似ているか、学べば学ぶほど驚くでしょう。当然母国語と近い韓国語が学生のみなさんにとって、いかに学びやすい外国語であるかがわかり、楽しくなるはずですが、また、文字の発音を効果的に抑えるために、流行の韓国の歌、料理のレシピ旅行、美容などなどの動画を見ながらの授業となりますので、お互い楽しみながら学んでいきましょう。

準備学習(予習・復習)

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通れるようなテストです。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(各自、韓国語混ぜての自己紹介とこれからの授業の方針)  
 第2回 基本文字(母音子10文字の音と書き) + ソウル観光の動画  
 第3回 基本文字(子音子14文字の音と書き) + 歌「熊三匹」(映画『プールハウス』の中)  
 第4回 文字の組み合わせ + 「トクポキ」レシピと動画  
 第5回 複母音子11文字の音と書き) + K Popの動画  
 第6回 基本文字(複子音子5文字の音と書き) + 文字の組み合わせ  
 第7回 パッチム① + 歌で読みと聞き練習  
 第8回 パッチム②  
 第9回 期末テストの会話暗唱に当たる<自己紹介>文を作成し、発音練習  
 第10回 パソコン教室に移動し<自己紹介>の韓国文章をwordで打ち込む。それから、韓国のサイトの開き方、閲覧の仕方を紹介。  
 第11回 (2部)1課 + 数字①  
 第12回 2課 + 韓国のお餅(動画)  
 第13回 3課 + 数字②  
 第14回 3課復習 + 韓国の代表的な民謡「アリラン」習う  
 第15回 4課 + 練習問題  
 第16回 4課の復習 + 会話「買い物」  
 第17回 5課 + 練習問題  
 第18回 5課の復習 + 「豆腐なべ」レシピと動画  
 第19回 6課 + 練習問題  
 第20回 6課の復習 + 会話「ホテルにて」  
 第21回 7課 + 練習問題  
 第22回 7課の復習 + 長文1 訳  
 第23回 長文1 + きれいな肌作り(動画)  
 第24回 長文2  
 第25回 長文2 + ブサン観光(動画)  
 第26回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題  
 第27回 キムチ作りのレシピと動画の聞き取り  
 第28回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題  
 第29回 映画鑑賞  
 第30回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題

履修上の注意点

教科書

韓国語 これ一冊で終わり  
 著者: 金 文洙・崔 孝先  
 出版社: 文芸林  
 出版年: Mar-15

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 韓国語 I &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 崔 孝先

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

①韓国文字の発音と読み、書きの中心。②自己紹介と会話を目指す。③韓国語能力試験1級にでてくる単語と文法の学習。④動画を見ながら聞き取り。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。それから日本語と韓国語が文法的にどれほど似ているか、学べば学ぶほど驚くでしょう。当然母国語と近い韓国語が学生のみなさんにとって、いかに学びやすい外国語であるかがわかり、楽しくなるはずです。また、文字の発音を効果的に抑えるために、流行の韓国の歌、料理のレシピ、旅行、美容などなどの動画を見ながらの授業となりますので、お互いに楽しみながら学んで行きましょう。

準備学習(予習・復習)

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通れるほどのテストです。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(各自、韓国語を混ぜての自己紹介とこれからの授業の方針)  
 第2回 基本文字(母音子10文字の音と書き) + ソウル観光の動画  
 第3回 基本文字(子音子14文字の音と書き) + 歌「熊三匹」(映画『プールハウス』の中)  
 第4回 文字の組み合わせ + 「トクポキ」レシピと動画  
 第5回 複母音子11文字の音と書き) + K Popの動画  
 第6回 基本文字(複子音子5文字の音と書き) + 文字の組み合わせ  
 第7回 パッチム① + 歌で読みと聞き練習  
 第8回 パッチム②  
 第9回 期末テストの会話暗唱に当たる<自己紹介>文を作成し、発音練習。  
 第10回 パソコン教室に移動し<自己紹介>の韓国文章をwordで打ち込む。それから、韓国のサイトの開き方、閲覧の仕方を紹介。  
 第11回 (2部)1課 + 数字①  
 第12回 2課 + 韓国のお餅(動画)  
 第13回 3課 + 数字②  
 第14回 3課復習 + 韓国の代表的な民謡「アリラン」習う  
 第15回 4課 + 練習問題  
 第16回 4課の復習 + 会話「買い物」  
 第17回 5課 + 練習問題  
 第18回 5課の復習 + 「豆腐なべ」レシピと動画  
 第19回 6課 + 練習問題  
 第20回 6課の復習 + 会話「ホテルにて」  
 第21回 7課 + 練習問題  
 第22回 7課の復習 + 長文1 訳  
 第23回 長文1 + きれいな肌作り(動画)  
 第24回 長文2  
 第25回 長文2 + ブサン観光(動画)  
 第26回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題  
 第27回 キムチ作りのレシピと動画の聞き取り  
 第28回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題  
 第29回 映画鑑賞  
 第30回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題

履修上の注意点

教科書

韓国語 これ一冊で終わり  
 著者: 金 文洙・崔 孝先  
 出版社: 文芸林  
 出版年: Mar-15

ISBN:



---

成績評価

試験・レポート (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 朴 惠貞	
テーマ	
韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。	
授業の到達目標	
①自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。 ②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。	
授業の概要	
このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進捗については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。	
準備学習(予習・復習)	
1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。 2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。 3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。	
内 容	
第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①	
第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②	
第3回 「へヨ体」1	
第4回 代名詞の縮約形1	
第5回 「へヨ体」2	
第6回 代名詞の縮約形2	
第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①	
第8回 「へヨ体」3	
第9回 実践会話と検定対策 4	
第10回 「へヨ体」の過去形	
第11回 接続詞の表現	
第12回 時刻の表現	
第13回 一日のスケジュール	
第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②	
第15回 助詞、疑問詞	
第16回 実践会話と検定対策 5	
第17回 変則活用1	
第18回 変則活用1の過去形	
第19回 変則活用2	
第20回 変則活用2の過去形、副詞1	
第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③	
第22回 進行形、希望の表現	
第23回 長文を読んでみよう!	
第24回 尊敬の表現	
第25回 特別な尊敬語の表現	
第26回 副詞2、勧誘・意志の表現	
第27回 実践会話と検定対策 6	
第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④	
第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①	
第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②	

## 履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること(詳細については第1回の授業で解説する)。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

## 教科書

サクサクっと韓国語 改訂版

著者: 金美華

出版社: 白帝社

出版年: 2017

ISBN:

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 朴 惠貞	
テーマ	
韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。	
授業の到達目標	
①自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。 ②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。	
授業の概要	
このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進捗については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。	
準備学習(予習・復習)	
1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。 2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。 3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。	
内 容	
第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①	
第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②	
第3回 「へヨ体」1	
第4回 代名詞の縮約形1	
第5回 「へヨ体」2	
第6回 代名詞の縮約形2	
第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①	
第8回 「へヨ体」3	
第9回 実践会話と検定対策 4	
第10回 「へヨ体」の過去形	
第11回 接続詞の表現	
第12回 時刻の表現	
第13回 一日のスケジュール	
第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②	
第15回 助詞、疑問詞	
第16回 実践会話と検定対策 5	
第17回 変則活用1	
第18回 変則活用1の過去形	
第19回 変則活用2	
第20回 変則活用2の過去形、副詞1	
第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③	
第22回 進行形、希望の表現	
第23回 長文を読んでみよう!	
第24回 尊敬の表現	
第25回 特別な尊敬語の表現	
第26回 副詞2、勧誘・意志の表現	
第27回 実践会話と検定対策 6	
第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④	
第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①	
第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②	

## 履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること(詳細については第1回の授業で解説する)。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

## 教科書

サクサクっと韓国語 改訂版

著者: 金美華

出版社: 白帝社

出版年: 2017

ISBN:

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 崔 孝先	
テーマ	
楽しく効果的に韓国語を学ぶ。	
授業の到達目標	
前期の続きで、文法を抑えたと同時に聞き取りと会話練習。韓国語能力試験中級以上の実力を目指す。	
授業の概要	
韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝える。この際、韓国のいろんなジャンルの動画をみながら聞き取りと会話の練習をする。また、韓国語能力試験問題中級の問題紙を配り、文法・聞き取り・会話の練習を並行する。	
準備学習(予習・復習)	
予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し繰り返しますので、授業時、集中すればだれでも通れるようなテストです。	
内 容	
第1回	オリエンテーションとテキスト1課から7課までの要約説明
第2回	長文3 + 会話8「初めまして」
第3回	長文3 + 慶州観光(動画)
第4回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第5回	長文4 + 会話10「電話」
第6回	長文4 + 夏の肌管理(動画)
第7回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第8回	長文5 + 会話11「道を尋ねる」
第9回	長文5 + 韓国の多世帯現状(動画)
第10回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第11回	期末テスト用韓国作文作り
第12回	期末テスト用韓国作文の発音練習
第13回	長文6 + 会話12「趣味」
第14回	長文6 + 韓国の保存食(動画)
第15回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第16回	長文7 + 会話14「買い物」
第17回	長文7 + 天然パク(動画)
第18回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第19回	韓国ニュースの日本語訳と聞き取り
第20回	「元旦になぜお雑煮をたべるの?」(動画)
第21回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 + 会話15「メール」
第22回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 + 会話16「病院にて」
第23回	韓国小説訳 + 会話18「空港にて」
第24回	韓国小説訳 + お雑煮作り(動画)
第25回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 + 会話19「レストランで」
第26回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 + 会話20「友達に会いに」
第27回	韓国ドラマの聞き取り(動画)
第28回	韓国ドラマの聞き取り(動画)
第29回	冬キムチ作り(動画)
第30回	映画鑑賞

履修上の注意点

教科書

韓国語 これ一冊で終わり

著者: 金 文洙・崔 孝先

出版社: 文芸林

出版年: Mar-15

ISBN:

参考書

---

成績評価

試験・レポート (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ &lt;d&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 崔 孝先	
テーマ	
楽しく効果的に韓国語を学ぶ。	
授業の到達目標	
前期の続きで、文法を抑えると同時に会話練習。韓国語能力試験中級以上の実力をを目指す。	
授業の概要	
韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝える。この際、韓国のいろんなジャンルの動画をみながら聞き取りと会話の練習をする。また、韓国語能力試験問題中級の問題紙を配り、文法・聞き取り・会話の練習を並行する。	
準備学習(予習・復習)	
予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、授業時、集中すればだれでも通れるようなテストです。	
内 容	
第1回	オリエンテーションとテキスト1課から7課までの要約説明
第2回	長文3 + 会話8「初めまして」
第3回	長文3 + 慶州観光(動画)
第4回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第5回	長文4 + 会話10「電話」
第6回	長文4 + 夏の肌管理(動画)
第7回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第8回	長文5 + 会話11「道を尋ねる」
第9回	長文5 + 韓国の多世帯現状(動画)
第10回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第11回	期末テスト用韓国作文作り
第12回	期末テスト用韓国作文の発音練習
第13回	長文6 + 会話12「趣味」
第14回	長文6 + 韓国の保存食(動画)
第15回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第16回	長文7 + 会話14「買い物」
第17回	長文7 + 天然パク(動画)
第18回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第19回	韓国ニュースの日本語訳と聞き取り
第20回	「元旦になぜお雑煮をたべるの?」(動画)
第21回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 + 会話15「メール」
第22回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 + 会話16「病院にて」
第23回	韓国小説訳 + 会話18「空港にて」
第24回	韓国小説訳 + お雑煮作り(動画)
第25回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 + 会話19「レストランで」
第26回	韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 + 会話20「友達に会いに」
第27回	韓国ドラマの聞き取り(動画)
第28回	韓国ドラマの聞き取り(動画)
第29回	冬キムチ作り(動画)
第30回	映画鑑賞

履修上の注意点

教科書

韓国語 これ一冊で終わり

著者: 金 文洙・崔 孝先

出版社: 文芸林

出版年: Mar-15

ISBN:

参考書



---

成績評価

試験・レポート (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

---

## 2017 Syllabus

科目名 韓国語Ⅲ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件 韓国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の習熟

授業の到達目標

①初・中級レベルの韓国語会話運用能力の獲得を目指す。②いろいろなシチュエーションでの多様な表現ができるように実践力を身につける。

授業の概要

様々な状況や話題に必要な語彙と表現を学び、ペアワークやグループワークなどの色々な会話練習を通して会話運用能力を高めながら生きた韓国語を楽しく学んでいきたい。また、CDやDVD・動画などの各種視聴覚資料を用いて韓国語を聞き取る力も向上させていくが、その際には、韓国の文化・社会などにも触れていく。進捗については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて 緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習(予習・復習)

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 辞書を用いて作文をしてみる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について、お互いのことを知ろう！
- 第2回 指定詞の「ハムニダ体」の表現、指定詞の「ハムニダ体」の否定表現
- 第3回 用言の「ハムニダ体」の表現、用言の「ハムニダ体」の否定表現
- 第4回 存在詞の「ハムニダ体」の表現、疑問詞の表現
- 第5回 読んでみよう！①
- 第6回 指示、所有、位置表現
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！①
- 第8回 用言の「ヘヨ体」の表現①
- 第9回 用言の「ヘヨ体」の表現②
- 第10回 用言の「ヘヨ体」の否定表現
- 第11回 指定詞、存在詞の「ハムニダ体」の過去形の表現
- 第12回 用言の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形の表現
- 第13回 用言の変則活用形の表現①、文法①
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！②
- 第15回 指定詞の「ヘヨ体」の表現と否定表現、文法②
- 第16回 読んでみよう！②
- 第17回 漢数詞の応用、文法③
- 第18回 固有数詞の応用
- 第19回 用言の変則活用形の表現②、文法④
- 第20回 理由・原因・丁寧なお願い・勧誘表現
- 第21回 願望・目的・逆説表現、文法⑤
- 第22回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！③
- 第23回 注文してみよう！、尊敬表現・特殊な尊敬語の表現
- 第24回 推量・推測・比較・感嘆表現
- 第25回 読んでみよう！③
- 第26回 尊敬表現の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形、禁止表現
- 第27回 病気の症状を説明してみよう！、提案・順序表現
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！④
- 第29回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ①
- 第30回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ②

履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること(詳細については第1回の授業で解説する)。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

キャンパス韓国語

著者： 曹美庚その他

出版社： 白帝社

出版年： 2015

ISBN:

参考書

適宜、資料配布 \* 必ず、辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 韓国語Ⅳ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件 韓国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 朴 惠貞	
テーマ 韓国語の習熟	
授業の到達目標 ①中級レベルの韓国語会話運用能力の獲得を目指す。②いろいろなシチュエーションでの多様な表現ができるように実践力を身につける。	
授業の概要 様々な状況や話題に必要な語彙と表現を学び、ペアワークやグループワークなどの色々な会話練習を通して会話運用能力を高めながら生きた韓国語を楽しく学んでいきたい。また、CDやDVD・動画などの各種視聴覚資料を用いて韓国語を聞き取る力も向上させていくが、その際には、韓国の文化・社会などにも触れていく。進捗については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて 緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。	
準備学習(予習・復習) 1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 辞書を用いて積極的に作文をしてみる。4. 韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。	
内 容 第1回 夏休みの自由談話、「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習① 第2回 「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習② 第3回 計画・予定・許可・承諾表現 第4回 意思表現、形容詞の連体形の表現 第5回 作文をしてみよう！① 第6回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！① 第7回 可能・不可能と能力の有無を表す表現、動作の進行表現 第8回 条件・選択表現、用言の変則活用形の表現① 第9回 理想のタイプについて話してみよう！ 経験表現 第10回 動詞の連体形の表現 第11回 読解をしてみよう！① 第12回 買い物をしてみよう！用言の変則活用形の表現② 第13回 意図・許可表現、色についての表現 第14回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！② 第15回 道案内をしてみよう！ 授受表現 第16回 丁寧な要請・状況の説明・方向表現 第17回 作文をしてみよう！② 第18回 当為・禁止表現 第19回 確認・感嘆表現、用言の変則活用形の表現③ 第20回 日韓の文化の類似点・相違点について、韓国語で話してみよう！ 第21回 読解をしてみよう！② 第22回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！③ 第23回 推量・推測・同時動作の表現 第24回 作文をしてみよう！③ 第25回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！① 第26回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！② 第27回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！③ 第28回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！④ 第29回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ① 第30回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ②	
履修上の注意点 成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること(詳細については第1回の授業で解説する)。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。	
教科書 キャンパス韓国語 著者： 曹美庚その他	

出版社：白帝社

出版年：2015

ISBN:

参考書

適宜、資料配布 \* 必ず、辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 15 )

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 フランス語 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 志賀 亮一	
テーマ フランス語の基礎(その1)	
授業の到達目標 フランス語文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。	
授業の概要 「講義による説明 → 音声と筆記による反復練習 → 練習問題+小テスト」というサイクルで、ひとつ一つの項目を着実に学ぶ。なお、音声による反復練習の齋には、クラス全員に聞こえるようしっかり発声することが望まれる。	
準備学習(予習・復習) 初習外国語なので予習はかなり困難。むしろ、各回終了ごとに10-20分程度復習する(ex.通学帰りの車中でその日のノートを読み返す)ことが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと。	
内 容	
第1回 講義「フランス語とはどんな言語か？」+授業の進め方	
第2回 フランス語のアルファベット:文字の呼び方と筆記体	
第3回 発音記号と発音の仕方①:母音	
第4回 発音記号と発音の仕方②:鼻母音と子音	
第5回 名詞の変化:性と数	
第6回 不定冠詞の変化①	
第7回 不定冠詞の変化②・練習問題+小テスト	
第8回 定冠詞の変化①	
第9回 定冠詞の変化②・練習問題+小テスト	
第10回 品質形容詞の変化①	
第11回 品質形容詞の変化②・練習問題+小テストリーダー	
第12回 不規則動詞 etre の直説法現在①	
第13回 不規則動詞 etre の直説法現在②・疑問文と否定文	
第14回 不規則動詞 etre の直説法現在③・練習問題+小テスト	
第15回 第1章リーダー不規則動詞 avoir の直説法現在①	
第16回 不規則動詞 avoir の直説法現在②・練習問題+小テスト	
第17回 第一群規則動詞の直説法現在①	
第18回 第一群規則動詞の直説法現在②・練習問題+小テスト	
第19回 第2章リーダー+基数形容詞	
第20回 指示形容詞の変化①	
第21回 指示形容詞の変化②・練習問題+小テスト	
第22回 所有形容詞の変化①	
第23回 所有形容詞の変化②・練習問題+小テスト	
第24回 不規則動詞 pouvoir の直説法現在①	
第25回 不規則動詞 pouvoir の直説法現在②・練習問題+小テスト	
第26回 不規則動詞 vouloir の直説法現在①	
第27回 不規則動詞 vouloir の直説法現在②・練習問題+小テスト	
第28回 命令法①	
第29回 命令法②・練習問題+小テスト	
第30回 第3章リーダー	

## 履修上の注意点

## 教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本

著者: 中山真彦

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 100 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 フランス語Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 フランス語Ⅰを修得済み、 もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 志賀 亮一	
テーマ フランス語の基礎(その2)	
授業の到達目標 フランス語Ⅰについて、フランス語の発音と文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。	
授業の概要 フランス語Ⅰと同様、「講義による説明 → 音声と筆記による反復練習 → 練習問題＋小テスト」のサイクルで、各事項を直実に身につける。	
準備学習(予習・復習) 初習外国語なので、文法の予習はかなり困難。むしろ、フランス語Ⅰと同様、各回終了ごとに10-20分程度復習することが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと	
内 容 第1回 不規則動詞 aller の直説法現在と命令法① 第2回 不規則動詞 aller の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト 第3回 不規則動詞 venir の直説法現在と命令法① 第4回 不規則動詞 venir の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト 第5回 不規則動詞 faire の直説法現在と命令法① 第6回 不規則動詞 faire の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト 第7回 非人称表現(etre と avoir)① 第8回 非人称表現(etre と avoir)②・練習問題＋小テスト 第9回 非人称表現(天候)① 第10回 非人称表現(天候)②・練習問題＋小テスト 第11回 非人称表現(falloi ほか)① 第12回 非人称表現(falloi ほか)②・練習問題＋小テスト 第13回 第4章のリーダー 第14回 不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法① 第15回 不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト 第16回 不規則動詞 devoir の直説法現在と命令法 第17回 不規則動詞 voir の直説法現在 第18回 不規則動詞 devoir, voir 練習問題＋小テスト 第19回 形容詞・副詞の比較級① 第20回 形容詞・副詞の比較級② 第21回 形容詞・副詞の比較級③・練習問題＋小テスト 第22回 形容詞・副詞の最上級① 第23回 形容詞・副詞の最上級② 第24回 形容詞・副詞の最上級③・練習問題＋小テスト 第25回 関係代名詞 qui 第26回 関係代名詞 que 第27回 第5章リーダー 第28回 第二群規則動詞の直説法現在と命令法① 第29回 第二群規則動詞の直説法現在と命令法③・練習問題＋小テスト 第30回 疑問形容詞	

## 履修上の注意点

## 教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本

著者: 中山真彦

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書



---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 100 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

---

## 2017 Syllabus

科目名 **ドイツ語 I <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 久下 泰弘	
テーマ ドイツ語入門その1	
授業の到達目標 ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得 その1	
授業の概要 このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。	
準備学習(予習・復習) CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。	
内 容	
第1回 授業の進め方について、辞書の話	
第2回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音	
第3回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現	
第4回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現	
第5回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」動詞の現在人称変化(規則変化)	
第6回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」語順、定動詞の位置	
第7回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」自己紹介	
第8回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」	ことば、君はなに読派?!
第9回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
第10回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
第11回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	格の用法 職業、身分をたづねるとき
第12回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	～するのが好きです、 塩について
第13回 Lektion3「ヴァイーン市街で」	人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
第14回 Lektion3「ヴァイーン市街で」	命令形
第15回 Lektion3「ヴァイーン市街で」	名詞の複数形、非人称表現
第16回 Lektion3「ヴァイーン市街で」	場所をたづねるとき、クールな都
第17回 Lektion4「ハンブルクで買い物」	定冠詞類
第18回 Lektion4「ハンブルクで買い物」	不定冠詞類
第19回 Lektion4「ハンブルクで買い物」	否定冠詞
第20回 Lektion4「ハンブルクで買い物」	身につけるもの、家族をあらわす表現 買い物をするとき、ハンスと太郎 名前のあれこれ
第21回 Lektion5「バーゼルで」	前置詞と格
第22回 Lektion5「バーゼルで」	前置詞と名詞の融合形
第23回 Lektion5「バーゼルで」	人称代名詞の3格と4格、その語順
第24回 Lektion5「バーゼルで」	行きかたをたづねるとき、ドライな数 三・さん
第25回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第26回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第27回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第28回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第29回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第30回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	

## 履修上の注意点

## 教科書

ブーメラン・エルエー

著者: 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社: 朝日出版社

出版年: 2015

ISBN: 9.78426E+12

## 参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010

ISBN: 9.78481E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( )

授業出席重視。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **ドイツ語 I <b>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 久下 泰弘	
テーマ ドイツ語入門その1	
授業の到達目標 ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得 その1	
授業の概要 このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。	
準備学習(予習・復習) CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。	
内 容	
第1回 授業の進め方について、辞書の話	
第2回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音	
第3回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現	
第4回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現	
第5回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」動詞の現在人称変化(規則変化)	
第6回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」語順、定動詞の位置	
第7回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」自己紹介	
第8回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」	ことば、君はなに読派?!
第9回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
第10回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
第11回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	格の用法 職業、身分をたづねるとき
第12回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	～するのが好きです、 塩について
第13回 Lektion3「ヴィーン市街で」	人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
第14回 Lektion3「ヴィーン市街で」	命令形
第15回 Lektion3「ヴィーン市街で」	名詞の複数形、非人称表現
第16回 Lektion3「ヴィーン市街で」	場所をたづねるとき、クールな都
第17回 Lektion4「ハンブルクで買い物」	定冠詞類
第18回 Lektion4「ハンブルクで買い物」	不定冠詞類
第19回 Lektion4「ハンブルクで買い物」	否定冠詞
第20回 Lektion4「ハンブルクで買い物」	身につけるもの、家族をあらわす表現 買い物をするとき、ハンスと太郎 名前のあれこれ
第21回 Lektion5「バーゼルで」	前置詞と格
第22回 Lektion5「バーゼルで」	前置詞と名詞の融合形
第23回 Lektion5「バーゼルで」	人称代名詞の3格と4格、その語順
第24回 Lektion5「バーゼルで」	行きかたをたづねるとき、ドライな数 三・さん
第25回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第26回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第27回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第28回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第29回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第30回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	

## 履修上の注意点

## 教科書

ブーメラン・エルエー

著者: 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社: 朝日出版社

出版年: 2015

ISBN: 9.78426E+12

## 参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010

ISBN: 9.78481E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( )

授業出席重視。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅱ <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者	久下 泰弘	
テーマ	ドイツ語入門その2	
授業の到達目標	ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得 その2ドイツ語検定5級合格を指標として	
授業の概要	このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。	
準備学習(予習・復習)	CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。	
内 容	<p>第1回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」語法の助動詞、未来形</p> <p>第2回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文</p> <p>第3回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞</p> <p>第4回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」 チケットをかうとき、 森鷗外とドイツ ドイツ留学の先駆者</p> <p>第5回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化</p> <p>第6回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化</p> <p>第7回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較</p> <p>第8回 Lektion 7 「レストランで食事」 料理を注文するとき 負のエネルギー 核から各へ</p> <p>第9回 Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形</p> <p>第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形</p> <p>第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞</p> <p>第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造 過去を語るとき(現在完了) 天職 思いの強さが生み出すもの</p> <p>第13回 Lektion9 「ヴァイマルで」過去形</p> <p>第14回 Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞</p> <p>第15回 Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞</p> <p>第16回 Lektion9 「ヴァイマルで」 過去を語るとき(過去形) マイスター 縦と横</p> <p>第17回 Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句</p> <p>第18回 Lektion10 「冬休みに」関係代名詞</p> <p>第19回 Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉</p> <p>第20回 Lektion10 「冬休みに」 予定を言うとき 祭り 西と東</p> <p>第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形</p> <p>第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法</p> <p>第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式</p> <p>第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式</p> <p>第29回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明</p> <p>第30回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明</p>	

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー

著者: 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社: 朝日出版社

出版年: 2015

ISBN: 9.78426E+12

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010

ISBN: 9.78481E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( )

出席重視

---

## 2017 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅱ <b>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者	久下 泰弘	
テーマ	ドイツ語入門その2	
授業の到達目標	ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得 その2ドイツ語検定5級合格を指標として	
授業の概要	このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。	
準備学習(予習・復習)	CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。	
内 容	<p>第1回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」語法の助動詞、未来形</p> <p>第2回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文</p> <p>第3回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞</p> <p>第4回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」 チケットをかうとき、 森鷗外とドイツ ドイツ留学の先駆者</p> <p>第5回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化</p> <p>第6回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化</p> <p>第7回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較</p> <p>第8回 Lektion 7 「レストランで食事」 料理を注文するとき 負のエネルギー 核から各へ</p> <p>第9回 Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形</p> <p>第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形</p> <p>第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞</p> <p>第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造 過去を語るとき(現在完了) 天職 思いの強さが生み出すもの</p> <p>第13回 Lektion9 「ヴァイマルで」過去形</p> <p>第14回 Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞</p> <p>第15回 Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞</p> <p>第16回 Lektion9 「ヴァイマルで」 過去を語るとき(過去形) マイスター 縦と横</p> <p>第17回 Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句</p> <p>第18回 Lektion10 「冬休みに」関係代名詞</p> <p>第19回 Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉</p> <p>第20回 Lektion10 「冬休みに」 予定を言うとき 祭り 西と東</p> <p>第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形</p> <p>第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法</p> <p>第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式</p> <p>第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式</p> <p>第29回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明</p> <p>第30回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明</p>	

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー

著者: 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社: 朝日出版社

出版年: 2015

ISBN: 9.78426E+12

参考書



アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010

ISBN: 9.78481E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 40 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( )

出席重視

---

## 2017 Syllabus

科目名 歴史学入門

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹・小野 浩

テーマ

歴史学の方法と視点

授業の到達目標

歴史学の学問としての方法論を知るとともに、多様な視点から事象を理解する姿勢を身につける

授業の概要

前半は世界史分野の教員、後半は日本史分野の教員が担当し、歴史学を学ぶ上で必要な学問的方法論についての理解を深める。授業においてはとくに日本と異文化の接触・交流の視点や、文献史学以外の学問研究の視点に留意するとともに、史料を的確に読む重要性について徹底的に講義する。

準備学習(予習・復習)

参考文献は適宜紹介するので、その精読を期待する

内 容

- 第1回 日本と西アジア文化の接点は？
- 第2回 前近代のイスラム世界は日本をどうとらえていたかーマルコ・ポーロ以前ー
- 第3回 鎌倉時代の一枚の文書から
- 第4回 法隆寺の香木
- 第5回 近代日本と西アジア・イスラム世界 その1 イラン
- 第6回 近代日本と西アジア・イスラム世界 その2 アラブ
- 第7回 近代日本と西アジア・イスラム世界 その3 トルコ
- 第8回 歴史学はどのような学問か
- 第9回 歴史研究の素材と手順
- 第10回 真正な史料は真実を伝えるか
- 第11回 史料を論理的に読むー「魏志倭人伝」の世界への理解ー
- 第12回 伝達されるものと伝達されないものー情報は無条件に拡散するかー
- 第13回 事実の追求と事象の評価との関係
- 第14回 歴史叙述はどう変わるか
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (35)

小テスト (35)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

## 科目名 京都講座 I

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 永田 信一		
テーマ	京都の複合する遺跡から京都の歴史と文化を探る。	
授業の到達目標	考古資料をもとに京都の地下の文化財に触れ、京文化の根源を学び、探り、理解し、考えてみる。そして京都の遺跡からわかる歴史を前提に京文化の表現方法の取得に向う。	
授業の概要	平安京以前から現代まで、時系列で複合する京都の遺跡を紹介する。適宜、歩き探りながら京文化を理解できる文献資料を読み解く。	
準備学習(予習・復習)	日本史の概説を読み解くこと。配布資料を熟読すること。歩いて文化財を確認すること。	
内 容	<p>第1回 京都の文化財ガイダンス。(地下の文化財と地上の文化財)</p> <p>第2回 平安京以前の京都(旧石器時代→奈良時代)</p> <p>第3回 長岡京(短命の都)</p> <p>第4回 平安京の創設(平安京の構造と街路)</p> <p>第5回 平安宮の遺跡と遺物(大内裏の構造)</p> <p>第6回 羅城門と東寺、西寺(平安京の南辺)</p> <p>第7回 平安京右京(平安前期・中期の遺跡)</p> <p>第8回 平安京左京(平安後期の遺跡)</p> <p>第9回 平安京の変質(郊外地への進展)</p> <p>第10回 中世京都の成立(鎌倉・室町時代)</p> <p>第11回 近世京都の始まり(安土桃山時代→江戸時代初期)</p> <p>第12回 伏見城と城下町</p> <p>第13回 江戸時代の京都</p> <p>第14回 遺跡が語る京都の近代化</p> <p>第15回 京都市考古資料館の見学(学外授業)</p>	
履修上の注意点	授業中、他人への迷惑行為のある場合は欠席とします。	
教科書	適宜プリントを配布する。	
	著者:	
	出版社:	
	出版年:	ISBN:
参考書	使用しない	
	著者:	
	出版社:	
	出版年:	ISBN:
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( 10 )	
	授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 10 )
	参加度 ( 40 )	
	授業中に課題を設け、レポートの提出を求める。出席も重要視する。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 京都講座Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 熊谷 昭宏	
テーマ	京都が舞台となっている小説を読む。
授業の到達目標	①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とする作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。
授業の概要	前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に質問することもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料により授業の予習を行う。
準備学習(予習・復習)	①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての調査を行う。
内 容	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 森鷗外「高瀬舟」①</p> <p>第3回 森鷗外「高瀬舟」②</p> <p>第4回 芥川龍之介「羅生門」①</p> <p>第5回 芥川龍之介「羅生門」②</p> <p>第6回 川端康成「美しさと哀しみと」①</p> <p>第7回 川端康成「美しさと哀しみと」②</p> <p>第8回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「山月記」</p> <p>第9回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「藪の中」</p> <p>第10回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」①</p> <p>第11回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」②</p> <p>第12回 森見登美彦「有頂天家族」①</p> <p>第13回 森見登美彦「有頂天家族」②</p> <p>第14回 森見登美彦「有頂天家族」③</p> <p>第15回 まとめとレポート指導</p>
履修上の注意点	大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後(映像資料の紹介中など)に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。
教科書	
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート (50%)</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中課題 (30%)</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 (20%)</p> <p>期末レポート(内容と形式については授業中に説明する)を試験とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、授業内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。インターネット上の文章を紹介することなくコピー&amp;ペースト(あるいはそうみなされる方法)していることが分かった場合は、コメントもレポートも評価対象外とする。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化 I &lt;eL&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 田端 泰子・細川 涼一	
テーマ 京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々	
授業の到達目標 ”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。	
授業の概要 [メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。	
準備学習(予習・復習) 京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。	
内 容 第1回 都城の変遷 第2回 平安京の成立 第3回 平安京に暮らす人々 第4回 院政期の京都 第5回 京一鎌倉をつなぐ人々 第6回 「このごろ都にはやるもの」ー南北朝期の京都 第7回 室町幕府の成立と京の都 第8回 土一揆の時代 第9回 京の商工業者 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都 第11回 小野小町伝説と京都 第12回 後白河院・源頼朝と山科 第13回 織田信長と京都 第14回 豊臣政権と京の町 第15回 元禄時代の京都	

## 履修上の注意点

## 教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社: 中央公論新社

出版年:

ISBN:

女性芸能の源流

著者: 脇田晴子

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

中世京都と祇園祭

著者: 脇田晴子

出版社: 中央公論新社

出版年:

ISBN:

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社： 中央公論社

出版年： ISBN:

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： ISBN:

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社： 山川出版社

出版年： ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 100% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

「授業中課題」は、第15回の授業後にレポートを課す。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 京都の歴史・文化Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 仲田 順和		
テーマ	京都の文化財を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。	
授業の到達目標	文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。	
授業の概要	この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学术交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー形式で行われる。	
準備学習(予習・復習)	積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること	
内 容	<p>第1回 京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。</p> <p>第2回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)〈その1〉</p> <p>第3回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)〈その2〉</p> <p>第4回 文化財にふれる(醍醐寺霊宝館見学・学外授業)</p> <p>第5回 醍醐寺所蔵の文化財について〈その1〉</p> <p>第6回 醍醐寺所蔵の文化財について〈その2〉</p> <p>第7回 現代に生きる山岳信仰〈その1〉</p> <p>第8回 現代に生きる山岳信仰〈その2〉</p> <p>第9回 信仰行事にふれる(柴灯護摩見学・学外授業)</p> <p>第10回 日本人の生活の中に生きる仏教</p> <p>第11回 日本人の根底に流れる仏教の影響</p> <p>第12回 桃山文化にふれる(醍醐寺三宝院見学・学外授業)</p> <p>第13回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)〈その1〉</p> <p>第14回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)〈その2〉</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>特になし</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>特になし</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート ( 40 )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( 40 )</p> <p>小テスト ( 20 )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 文学と京都

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である万城目学と森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とし、学生(主に大学生)が登場する作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では、京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では、万城目学と森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に対して質問をすることもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料によって授業の予習を行う。

準備学習(予習・復習)

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての調査を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 梶井基次郎「檸檬」①
- 第3回 梶井基次郎「檸檬」②
- 第4回 三島由紀夫「金閣寺」
- 第5回 川端康成「古都」①
- 第6回 川端康成「古都」②
- 第7回 万城目学「鴨川ホルモー」①
- 第8回 万城目学「鴨川ホルモー」②
- 第9回 万城目学『ホルモー六景』より「もっちゃん」
- 第10回 森見登美彦「太陽の塔」
- 第11回 森見登美彦「四畳半神話大系」①
- 第12回 森見登美彦「四畳半神話大系」②
- 第13回 森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」①
- 第14回 森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」②
- 第15回 まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後(映像資料の紹介中など)に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ( )

参加度 (20%)

期末レポートを試験(内容と形式については授業中に説明する)とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問や授業中内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。インターネット上の文章を紹介することなくコピー&ペースト(あるいはそうみなされる方法)していることが分かった場合は、コメントもレポートも評価対象外とする。



## 2017 Syllabus

科目名 日本国憲法 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	
テーマ	
日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得	
授業の到達目標	
日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。	
授業の概要	
日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	日本国憲法の位置づけ
第2回	日本国憲法の3大原則
第3回	日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
第4回	日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
第5回	日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
第6回	日本国憲法の人権(信教の自由)
第7回	日本国憲法の人権(表現の自由)ー表現の自由とプライバシーー
第8回	日本国憲法の人権(表現の自由)ー検閲と事前抑制ー
第9回	日本国憲法の人権(経済的自由)
第10回	日本国憲法の人権(社会権)
第11回	日本国憲法の人権(手続的保証、そのほかの権利)
第12回	日本国憲法の統治(三権分立、議会)
第13回	日本国憲法の統治(内閣と議会)
第14回	日本国憲法の統治(裁判所)
第15回	到達度確認試験、復習
第16回	総まとめ
履修上の注意点	
各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。	
教科書	
いま日本国憲法は〔第5版〕: 原点からの検証	
著者:	小林武、三並敏克編
出版社:	法律文化社
出版年:	2011
ISBN:	978-4589033529
参考書	
憲法 第6版	
著者:	芦部信喜著、高橋和之補訂
出版社:	岩波書店
出版年:	2015
ISBN:	978-4000227995
ポケット六法 平成29年版	
著者:	山下 友信他編
出版社:	有斐閣
出版年:	2016
ISBN:	978-4641009172
憲法判例百選1 第6版(別冊ジュリスト 217)	
著者:	長谷部 恭男他編
出版社:	有斐閣
出版年:	2013
ISBN:	978-4641115170

憲法判例百選2 第6版(別冊ジュリスト 218)

著者: 長谷部 恭男他編

出版社: 有斐閣

出版年: 2013

ISBN: 978-4641115187

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

受講生数、授業の進捗などにより、若干の修正を行う可能性がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本国憲法 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	
テーマ	
日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得	
授業の到達目標	
日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。	
授業の概要	
日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	日本国憲法の位置づけ
第2回	日本国憲法の3大原則
第3回	日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
第4回	日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
第5回	日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
第6回	日本国憲法の人権(信教の自由)
第7回	日本国憲法の人権(表現の自由)ー表現の自由とプライバシーー
第8回	日本国憲法の人権(表現の自由)ー検閲と事前抑制ー
第9回	日本国憲法の人権(経済的自由)
第10回	日本国憲法の人権(社会権)
第11回	日本国憲法の人権(手続的保証、そのほかの権利)
第12回	日本国憲法の統治(三権分立、議会)
第13回	日本国憲法の統治(内閣と議会)
第14回	日本国憲法の統治(裁判所)
第15回	到達度確認試験、復習
第16回	総まとめ
履修上の注意点	
各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。	
教科書	
「いま日本国憲法は〔第5版〕: 原点からの検証」	
著者:	小林武、三並敏克
出版社:	法律文化社
出版年:	2011
ISBN:	978-4589033529
参考書	
憲法 第6版	
著者:	芦部信喜著、高橋和之補訂
出版社:	岩波書店
出版年:	2015
ISBN:	978-4000227995
ポケット六法 平成29年版	
著者:	山下 友信他編
出版社:	有斐閣
出版年:	2016
ISBN:	978-4641009172
憲法判例百選1 第6版(別冊ジュリスト 217)	
著者:	長谷部 恭男他編
出版社:	有斐閣
出版年:	2013
ISBN:	978-4641115170

憲法判例百選2 第6版(別冊ジュリスト 218)

著者: 長谷部 恭男他編

出版社: 有斐閣

出版年: 2013

ISBN: 978-4641115187

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

受講生数、授業の進捗などにより、若干の修正を行う可能性がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本国憲法 &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)－表現の自由とプライバシー－
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)－検閲と事前抑制－
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅱ《憲法編》

著者: 高乗正臣・奥村文男編著

出版社: 成文堂

出版年: 2017年

ISBN:

参考書

憲法 第6版

著者: 芦部信喜

出版社: 岩波書店

出版年: 2015年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (30)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

## 2017 Syllabus

科目名 日本国憲法 &lt;d&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)－表現の自由とプライバシー－
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)－検閲と事前抑制－
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅱ《憲法編》

著者: 高乗正臣・奥村文男編著

出版社: 成文堂

出版年: 2017年

ISBN:

参考書

憲法 第6版

著者: 芦部信喜

出版社: 岩波書店

出版年: 2015年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト (30)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

## 2017 Syllabus

科目名 日本国憲法 &lt;e&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 秋期集中	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	
テーマ	
日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得	
授業の到達目標	
日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。	
授業の概要	
日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	日本国憲法の位置づけ
第2回	日本国憲法の3大原則
第3回	日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
第4回	日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
第5回	日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
第6回	日本国憲法の人権(信教の自由)
第7回	日本国憲法の人権(表現の自由)ー表現の自由とプライバシーー
第8回	日本国憲法の人権(表現の自由)ー検閲と事前抑制ー
第9回	日本国憲法の人権(経済的自由)
第10回	日本国憲法の人権(社会権)
第11回	日本国憲法の人権(手続的保証、そのほかの権利)
第12回	日本国憲法の統治(三権分立、議会)
第13回	日本国憲法の統治(内閣と議会)
第14回	日本国憲法の統治(裁判所)
第15回	到達度確認試験、復習
第16回	総まとめ
履修上の注意点	
各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。	
教科書	
いま日本国憲法は〔第5版〕: 原点からの検証	
著者:	小林武、三並敏克編
出版社:	法律文化社
出版年:	2011
ISBN:	978-4589033529
参考書	
憲法 第6版	
著者:	芦部信喜著、高橋和之補訂
出版社:	岩波書店
出版年:	2015
ISBN:	978-4000227995
ポケット六法 平成29年版	
著者:	山下 友信他編
出版社:	有斐閣
出版年:	2016
ISBN:	978-4641009172
憲法判例百選1 第6版(別冊ジュリスト 217)	
著者:	長谷部 恭男他編
出版社:	有斐閣
出版年:	2013
ISBN:	978-4641115170

憲法判例百選2 第6版(別冊ジュリスト 218)

著者: 長谷部 恭男他編

出版社: 有斐閣

出版年: 2013

ISBN: 978-4641115187

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

受講生数、授業の進捗などにより、若干の修正を行う可能性がある。

---



## 2017 Syllabus

科目名 法学概論 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 将文	
テーマ 現代社会と法の関わりを考察する	
授業の到達目標 日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。	
授業の概要 毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。	
準備学習(予習・復習) 常日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。	
内 容 第1回 現代社会と法 第2回 人権と法 第3回 政治と法 第4回 司法と法 第5回 行政活動と法 第6回 雇用社会と法 第7回 消費者と法 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回分) 第9回 事故と法 第10回 医療と法 第11回 家族と法 第12回 犯罪と法 第13回 裁判と法 第14回 国際社会と法 第15回 まとめとテスト②(第9回～第14回分)	
履修上の注意点 皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 プラクティス法学実践教室 I《法学・民法・刑法編》第5版 著者: 高乗正臣・奥村文男編著 出版社: 成文堂 出版年: 2015年 ISBN:	
法学六法 著者: 池田真朗・宮島司 出版社: 信山社 出版年: 2016年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 80 ) 授業中課題 ( )	小テスト ( 10 ) 授業中発表等 ( )

参加度（10）

受講生の数、授業の進捗などにより、割合（%）が若干調整されることがある。三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **法学概論 I <b>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 実千代	
テーマ 現代社会と法の関わりを考察する	
授業の到達目標 日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。	
授業の概要 毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 現代社会と法 第2回 人権と法 第3回 政治と法 第4回 司法と法 第5回 行政活動と法 第6回 雇用社会と法 第7回 消費者と法 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回分) 第9回 事故と法 第10回 医療と法 第11回 家族と法 第12回 犯罪と法 第13回 裁判と法 第14回 国際社会と法 第15回 まとめとテスト②(第9回～第14回分)	
履修上の注意点 新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みることに。	
教科書 ポケット六法 著者： 出版社：有斐閣 出版年：2017 ISBN：	
参考書 法と現代社会 著者：中川淳(編) 出版社：世界思想社 出版年： ISBN：	
新・なるほど公法入門 著者：村上英明・小原清信(編) 出版社：法律文化社 出版年： ISBN：	
民事法入門 著者：野村豊弘 出版社：有斐閣 出版年： ISBN：	

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 90 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

授業中にテストを2回実施し(六法の持込可能)、成績評価を行う。

---

## 2017 Syllabus

科目名 法学概論Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 将文	
テーマ 現代社会と法の関わりを考察する	
授業の到達目標 日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。本講義では、法学概論Ⅰと異なった内容・分野を展開していく。	
授業の概要 毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。	
準備学習(予習・復習) 常日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。	
内 容 第1回 現代社会と法 第2回 人権と法 第3回 社会保障と法 第4回 行政救済と法 第5回 企業活動と法 第6回 労働者と法 第7回 情報と法 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回分) 第9回 契約と法 第10回 住居と法 第11回 財産と法 第12回 金融と法 第13回 事故と法 第14回 家族と法 第15回 まとめとテスト②(第9回～第14回分)	
履修上の注意点 皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みる。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 法学六法 著者: 池田真朗・宮島司 出版社: 信山社 出版年: 2016年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート(80) 小テスト(10) 授業中課題( ) 授業中発表等( ) 参加度(10) 受講生の数、授業の進度などにより、割合(%)が若干調整されることがある。三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。	

## 2017 Syllabus

科目名 法学概論Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定

担当者 近藤 実千代

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。本講義では、法学概論Ⅰと異なった内容・分野を展開していく。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 現代社会と法
- 第2回 人権と法
- 第3回 社会保障と法
- 第4回 行政救済と法
- 第5回 企業活動と法
- 第6回 労働者と法
- 第7回 情報と法
- 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回分)
- 第9回 契約と法
- 第10回 住居と法
- 第11回 財産と法
- 第12回 金融と法
- 第13回 事故と法
- 第14回 家族と法
- 第15回 まとめとテスト②(第9回～第14回分)

履修上の注意点

新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みることに。

教科書

ポケット六法

著者:

出版社: 有斐閣

出版年: 2017

ISBN:

参考書

法と現代社会

著者: 中川淳(編)

出版社: 世界思想社

出版年:

ISBN:

新・なるほど公法入門

著者: 村上英明・小原清信(編)

出版社: 法律文化社

出版年:

ISBN:

民事法入門

著者: 野村豊弘

出版社: 有斐閣

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 90 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

授業中に2回テストを実施し(六法の持込可能)、成績を評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 政治学概論 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	田代 和也	
テーマ	政治学に関する基礎知識の習得	
授業の到達目標	本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。	
授業の概要	政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 インTRODククシヨン・選挙について</p> <p>第2回 投票行動・メディアと政治</p> <p>第3回 政治家</p> <p>第4回 日本政治史① ～戦後政治と55年体制～</p> <p>第5回 日本政治史② ～疑似政権交代・55年体制の崩壊～</p> <p>第6回 政党</p> <p>第7回 官僚制</p> <p>第8回 利益団体</p> <p>第9回 国会(議会)</p> <p>第10回 政策過程</p> <p>第11回 首相～強い首相と弱い首相～</p> <p>第12回 地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～</p> <p>第13回 地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に</p> <p>第14回 国際政治</p> <p>第15回 本講義のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>ポリティカル・サイエンス事始め</p> <p>著者： 伊藤光利</p> <p>出版社： 有斐閣</p> <p>出版年： 2012</p> <p>ISBN： 9.78464E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (100)</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>詳細については第一回のイントロダクションで説明する。</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 政治学概論 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 田代 和也	
テーマ 政治学に関する基礎知識の習得	
授業の到達目標 本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。	
授業の概要 政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 イントロダクション・選挙について 第2回 投票行動・メディアと政治 第3回 政治家 第4回 日本政治史① ～戦後政治と55年体制～ 第5回 日本政治史② ～疑似政権交代・55年体制の崩壊～ 第6回 政党 第7回 官僚制 第8回 利益団体 第9回 国会(議会) 第10回 政策過程 第11回 首相～強い首相と弱い首相～ 第12回 地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～ 第13回 地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に 第14回 国際政治 第15回 本講義のまとめ 第16回 定期試験	
履修上の注意点	
教科書 ポリティカル・サイエンス事始め 著者： 伊藤光利 出版社： 有斐閣 出版年： 2012 ISBN： 9.78464E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (100) 小テスト ( ) 授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 詳細については第一回のイントロダクションで説明する。	

## 2017 Syllabus

科目名 政治学概論Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 田代 和也		
テーマ	政治学体系の理解	
授業の到達目標	本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。	
授業の概要	本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 民主政治の起源</p> <p>第3回 民主政治の変容</p> <p>第4回 福祉と政治</p> <p>第5回 議院内閣制</p> <p>第6回 大統領制</p> <p>第7回 選挙制度①(小選挙区制度と大選挙区制度)</p> <p>第8回 選挙制度②(比例代表と各国の選挙制度)</p> <p>第9回 選挙制度③(選挙制度と政策)</p> <p>第10回 議会制度と政党</p> <p>第11回 政策過程と官僚・利益集団</p> <p>第12回 世論とマスメディア</p> <p>第13回 地方自治①(制度と機能)</p> <p>第14回 地方自治②(現代行政の課題)</p> <p>第15回 民主政治のこれから</p> <p>第16回 定期試験</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>危機の二十年</p> <p>著者: E.H.カー</p> <p>出版社: 岩波書店</p> <p>出版年: 2011</p> <p>ISBN: 9.784E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (100)</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>詳細は第一回のイントロダクションで説明する。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 政治学概論Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 田代 和也		
テーマ 政治学体系の理解		
授業の到達目標 本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。		
授業の概要 本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 イン트로ダクション 第2回 民主政治の起源 第3回 民主政治の変容 第4回 福祉と政治 第5回 議院内閣制 第6回 大統領制 第7回 選挙制度①(小選挙区制度と大選挙区制度) 第8回 選挙制度②(比例代表と各国の選挙制度) 第9回 選挙制度③(選挙制度と政策) 第10回 議会制度と政党 第11回 政策過程と官僚・利益集団 第12回 世論とマスメディア 第13回 地方自治①(制度と機能) 第14回 地方自治②(現代行政の課題) 第15回 民主政治のこれから 第16回 定期試験		
履修上の注意点		
教科書 危機の二十年 著者: E.H.カー 出版社: 岩波書店 出版年: 2011	ISBN: 9.784E+12	
参考書		
成績評価 試験・レポート(100) 授業中課題( ) 参加度( ) 詳細は第一回のイントロダクションで説明する。	小テスト( ) 授業中発表等( )	

## 2017 Syllabus

科目名 民法

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 実千代	
テーマ	
民法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得	
授業の到達目標	
1. 日常生活の各場面において、民法の関連や位置付けを理解する。2. 法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。 3. 初歩的な問題発見能力と処理能力を身につける。	
授業の概要	
日常生活の各場面において、事例を用いながら、民法の基本的な制度とその背景にある考え方について講義する。講義時には、毎回レジュメや参考資料を配布し、これに沿って講義する。	
準備学習(予習・復習)	
普段から、新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意するよう心掛けておくこと。授業後は、各制度について解説を試み、関連する法改正や判決のニュースがあれば、チェックしておく。	
内 容	
第1回 民法の基本原則	
第2回 意思表示(詐欺・強迫など)	
第3回 未成年者と高齢者の契約	
第4回 代理制度	
第5回 契約総論	
第6回 債務不履行責任	
第7回 まとめとテスト①(第1回～第6回)	
第8回 債権回収①(物的担保と抵当権)	
第9回 債権回収②(人的担保と保証人)	
第10回 不法行為責任	
第11回 婚姻	
第12回 離婚	
第13回 親子	
第14回 遺言と相続	
第15回 まとめとテスト②(第8回～第14回)	
履修上の注意点	
受講時には、必ず小型の六法を持参すること。	

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

民事法入門

著者: 野村 豊弘

出版社: 有斐閣

出版年:

ISBN:

民法への招待

著者: 池田真朗

出版社: 税務経理協会

出版年:

ISBN:

新・キーワード民法

著者: 中田邦博・高嶋英弘

出版社: 法律文化社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 90 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

授業中に2回テストを実施し(六法の持込可能)、成績を評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 行政法

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	近藤 実千代	
テーマ	行政法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得	
授業の到達目標	1.日常生活の各場面において、行政法の関連や位置づけを理解する。2.現代の行政体制について、しくみを学び、問題意識をもつ。3.法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。	
授業の概要	毎講義レジュメまたは参考資料を配布し、これに沿って講義する。小テストや課題の扱いについては、適宜に説明する。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 行政法の領域と基本原理 第2回 行政主体と行政機関 第3回 行政作用の一般理論 第4回 行政活動(1)(行政立法・行政計画) 第5回 行政活動(2)(行政処分の効力) 第6回 行政活動(3)(行政処分の裁量) 第7回 行政活動(4)(行政指導・行政契約) 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回) 第9回 行政による強制手段 第10回 情報公開と個人情報保護 第11回 行政不服審査法 第12回 行政事件訴訟法(1)(訴訟の種類) 第13回 行政事件訴訟法(2)(訴訟要件) 第14回 国家補償制度 第15回 まとめとテスト(第9回～第14回)	
履修上の注意点	新聞やテレビ等のニュースに注意を払い、社会問題について留意すること。	
教科書	ポケット六法 著者: 出版社: 有斐閣 出版年: 2017 ISBN:	
参考書	行政法のエッセンス 著者: 櫻井敬子 出版社: 学陽書房 出版年: ISBN:	
	はじめての行政法 著者: 石川敏行ほか 出版社: 有斐閣 出版年: ISBN:	
	ブリッジブック行政法 著者: 宇賀克也 出版社: 信山社 出版年: ISBN:	
成績評価		

試験・レポート ( )

小テスト ( 90 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 10 )

授業中に2回テストを実施し(六法の持込可能)、成績を評価する。

---

## 2017 Syllabus

科目名 人権と教育 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 井手 幸喜	
テーマ	
<p>授業の到達目標</p> <p>今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。</p>	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
<p>第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－</p> <p>第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－</p> <p>第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解</p> <p>第4回 人権の変容－戦前期まで－</p> <p>第5回 人権に対する戦後の理解</p> <p>第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10カ年計画－</p> <p>第7回 同和教育とは</p> <p>第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－</p> <p>第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－</p> <p>第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－</p> <p>第11回 同和教育の功罪</p> <p>第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－</p> <p>第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－</p> <p>第14回 まとめ－教育実践と教材－</p> <p>第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－</p>	
履修上の注意点	
教科書	
特になし	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
参考書	
特になし	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	



## 2017 Syllabus

科目名 人権と教育 &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 井手 幸喜		
テーマ		
<p>授業の到達目標</p> <p>今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。</p>		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
<p>第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－</p> <p>第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－</p> <p>第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解</p> <p>第4回 人権の変容－戦前期まで－</p> <p>第5回 人権に対する戦後の理解</p> <p>第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10カ年計画－</p> <p>第7回 同和教育とは</p> <p>第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－</p> <p>第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－</p> <p>第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－</p> <p>第11回 同和教育の功罪</p> <p>第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－</p> <p>第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－</p> <p>第14回 まとめ－教育実践と教材－</p> <p>第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－</p>		
履修上の注意点		
教科書		
特になし		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
参考書		
特になし		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
成績評価		
試験・レポート ( )	小テスト ( )	
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )	
参加度 ( 30 )		

## 2017 Syllabus

科目名 国際関係入門

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 久保田 裕次	
テーマ 国際政治学における歴史と理論	
授業の到達目標 国際関係を主要な研究対象の一つとする国際政治学が、学問体系としてどのように誕生したのか、どのような理論を構築してきたのかを理解する。また、近代以降の主に東アジアの国際関係に関する歴史について学び、現在の国際関係への理解を深める。	
授業の概要 国際政治学に関する理論を概説することで、国際関係の見方を提示する。また、近現代東アジアの国際関係に関する歴史を概観し、国際関係の具体的な構造・展開を講義する。	
準備学習(予習・復習) シラバスに掲載されている参考文献を読み、配付資料で復習を行うこと。	
内 容 第1回 イントロダクション—国際政治学の誕生 第2回 国際政治学の理論(1) 第3回 国際政治学の理論(2) 第4回 近代ヨーロッパ主権国家体制の成立(1) 第5回 近代ヨーロッパ主権国家体制の成立(2) 第6回 前近代の東アジア世界(1) 第7回 前近代の東アジア世界(2) 第8回 近代東アジア世界と国民国家 第9回 第一次世界大戦と現代化 第10回 冷戦という国際システム 第11回 東アジアにおける冷戦 第12回 国際政治経済 第13回 越境的世界(1) 第14回 越境的世界(2) 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 使用しない。授業時に配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 東アジア国際政治史 著者: 川島真、服部龍二 出版社: 名古屋大学出版会 出版年: 2007 ISBN: 9.78482E+12 国際政治学 著者: 中西寛、石田淳、田所昌幸 出版社: 有斐閣 出版年: 2013 ISBN: 9.78464E+12 ハンドブック近代日本外交史 著者: 簗原俊洋、奈良岡聰智 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2016 ISBN: 9.78462E+12	
成績評価	

試験・レポート（60）

小テスト（ ）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

適宜出席をとる。期末試験を受験するためには、8割以上の出席率が必要。

---

## 2017 Syllabus

科目名 行政学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 国と地域の行政に関する制度と実際の両面を探る	
授業の到達目標 1) 身近なところから行政の働きと仕組みに関心をもてるようになる 2) 国家の統治機構のなかの行政分野を制度的歴史的に理解できるようにする 3) 地方自治体や地方公務員の実際を分析し地域公共政策について考察できるようにする	
授業の概要 教科書(真淵勝『行政学案内』)を丁寧に読み、そこから発展的に調べることをメインとするので、毎回教科書を携行すること	
準備学習(予習・復習) 新聞や総合雑誌のなかの行政に関わる記事(インターネットも活用可)を読むようにすること。行政や公務員に関する文学作品、映画などを紹介するので、それを楽しみながら、かつ、理論と照らして、考えることなど、自主的な課題に挑戦すること。	
内 容 第1回 はじめに—行政にまつわるトピックス、あるいは、政治学や法学との関係について— 第2回 学修方法の提示—行政学を学ぶための補助教材の紹介。文学や映画、各種メディアの紹介、自主課題について— 第3回 行政学の歴史(ここからは教科書必携) 第4回 国家公務員と天下りなど 第5回 内閣制度と首相の指導力 第6回 国の中央省庁はいま 第7回 予算制度と編成過程 第8回 行政改革はどのようにすすんだか 第1回ミニテスト 第9回 中央と地方、国と地域の関係・・・このあたりでうまくタイミングがあれば、京都府庁舎(現存日本最古)の見学など、地方行政の現場学外授業を予定。 第10回 地方財政論 第11回 大都市行政と市町村合併 第12回 官僚制とは何か 第13回 第2回ミニテスト 行政責任の種類とあり方 第14回 日本における行政システムの特徴 第15回 まとめ—いまの日本の行政、とくに地域公共政策に必要なものとは— 日本の行政に関わる映像などを活用する	

## 履修上の注意点

はじめに、前回の復習ミニテストを行うので遅れないように気をつけること

## 教科書

行政学案内第2版

著者: 真淵勝

出版社: 滋学社出版

出版年: 2014

ISBN: 9.7849E+12

## 参考書

行政学〔新板〕

著者: 西尾勝

出版社: 有斐閣

出版年: 2001

ISBN:

Next教科書シリーズ 行政学

著者: 外山公美ほか

出版社: 弘文堂

出版年: 2011

ISBN:

行政学

著者: 真淵勝

出版社: 有斐閣

出版年: 2009

ISBN:

公共経済学

著者： 林正義ほか

出版社： 有斐閣

出版年： 2010

ISBN:

身近な公共政策論—マイクロ行政学入門

著者： 安章浩ほか

出版社： 学陽書房

出版年： 2010

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（30）

小テスト（40）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

レポート課題は、行政への参加をしてみた結果についてを企画中。たとえば、自分が関心をもつ計画や政策・制度設計へのパブリックコメントを行なってみる実践的なものなど。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **くらしと経済**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 200

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

経済現象を認識する手段としての経済学を学ぶ

授業の到達目標

身の回りに始まり国や世界に至るまでの経済現象は、どれも、人々のくらしに密接に関わっている。こうした様々な経済現象を、経済学概念や思考方法を学習しながら、自分自身で論理的に理解し、かつ考える力を身につける。

授業の概要

まず、現代の社会に生きる私たちになじみの様々な経済現象の内容を知り、その上で、それらの経済現象や、そこから生じる多様な経済問題—地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題など—に、経済学がどのように取り組んでいるかを学ぶ。授業は教科書に即して進められるが、教科書以外の説明も行われる。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習は必須である。少なくとも各1時間は費やすこと。

内 容

- 第1回 経済の成長と個人の成長
- 第2回 TPP—なぜ賛否両論になるのか
- 第3回 なぜギリシャを日本が助けなければならないのか
- 第4回 誰が、なぜ貧困なのか
- 第5回 日本の財政を考える
- 第6回 「大学生が多すぎる」?
- 第7回 今の医療でいいのか
- 第8回 廃棄物の値段はどう決まるか
- 第9回 イノベーションをどう促すか
- 第10回 効率と公平について
- 第11回 需要と供給の世界
- 第12回 経済全体を丸ごとつかむ!
- 第13回 社会をデザインする
- 第14回 増税も国債も同じこと?
- 第15回 まとめ:自立して生きるための経済学

履修上の注意点

私語は厳禁です。部活や就活での欠席は、出席扱いとはしません。

教科書

教養としての経済学

著者: 一橋大学経済学部

出版社: 有斐閣

出版年: 最新版

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 70 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 会計学概論

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 河野 充央		
テーマ	貸借平均の原理と経済活動をマネジメントする会計の役割を学ぶ	
授業の到達目標	財務諸表の構造と仕組みを理解する	
授業の概要	テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある。	
準備学習(予習・復習)	復習に重点をおいてもらいたい。	
内 容	第1回 ガイダンス 会計的思考について 第2回 財務諸表について 第3回 貸借対照表とは1 第4回 貸借対照表とは2 第5回 貸借対照表とは3 第6回 貸借対照表とは4 第7回 損益計算書とは1 第8回 損益計算書とは2 第9回 損益計算書とは3 第10回 損益計算書とは4 第11回 キャッシュフロー計算書とは1 第12回 キャッシュフロー計算書とは2 第13回 財務諸表を読む1 第14回 財務諸表を読む2 第15回 講義全体のまとめ	
履修上の注意点	私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって、これ以上の迷惑はありません。	
教科書	これだけは知っておきたい会計の基本と常識 著者： 出版社：フォレスト出版 出版年： ISBN： 参考書 グロービスMBAアカウンティング 著者： グロービス経営大学院 出版社：ダイヤモンド社 出版年： ISBN： 最新財務諸表論 著者： 武田隆二 出版社：中央経済社 出版年： ISBN：	
成績評価	試験・レポート（40） 小テスト（10） 授業中課題（10） 授業中発表等（ ） 参加度（40）	

## 2017 Syllabus

科目名 **福祉とボランティア <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	高原 正興	
テーマ	社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方	
授業の到達目標	社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。	
授業の概要	社会学の一分野としての「福祉」と「ボランティア」について、基本的な考え方や知識を学び、福祉制度への理解を深める中で、一人ひとりがどのように共生社会づくりに関われるかを考える。また、教育の基本である「人間の尊厳」への気づきと理解を深める。なお、本科目は教員免許状取得に必須となる「介護等体験」の前提科目に位置づけられている。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 社会学とその一分野としての福祉・社会福祉・ボランティア・生涯教育・社会教育の定義</p> <p>第2回 社会福祉の歴史(日本の場合1 概要と明治期まで)</p> <p>第3回 社会福祉の歴史(日本の事例 石井十次と孤児院)</p> <p>第4回 社会福祉の歴史(日本の場合2 大正期～現在)</p> <p>第5回 社会福祉の歴史(英国の場合)</p> <p>第6回 地域社会(学)と地域福祉・社会教育・生涯教育の考え方</p> <p>第7回 社会学とボランティア活動について(総論)</p> <p>第8回 社会学とボランティアについて(各論 委嘱ボランティアや教育ボランティア等の活動について)</p> <p>第9回 子ども夜回りボランティア(地域における実践的ボランティア活動)</p> <p>第10回 住民参加とは何か(社会学の主要論点)</p> <p>第11回 夕張市と住民参加(住民参加型のまちづくりにおける現状と課題)</p> <p>第12回 社会福祉協議会の役割</p> <p>第13回 山科区社会福祉協議会(地域の福祉力:地域における社会福祉活動について)</p> <p>第14回 まとめ1(レポート総括と山科区社協からのコメント)</p> <p>第15回 まとめ2(コミュニティ問題、社協の今後、ボランティア活動)</p>	
履修上の注意点	ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習・準備すること。	
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート(40) 小テスト( )</p> <p>授業中課題(40) 授業中発表等( )</p> <p>参加度(20)</p> <p>授業中課題はレポートとボランティア体験レポートの2種類である。</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 **福祉とボランティア <b>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	

担当者 高原 正興

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

授業の到達目標

社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の概要

社会学の一分野としての「福祉」と「ボランティア」について、基本的な考え方や知識を学び、福祉制度への理解を深める中で、一人ひとりがどのように共生社会づくりに関われるかを考える。また、教育の基本である「人間の尊厳」への気づきと理解を深める。なお、本科目は教員免許状取得に必須となる「介護等体験」の前提科目に位置づけられている。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 社会学とその一分野としての福祉・社会福祉・ボランティア・生涯教育・社会教育の定義
- 第2回 社会福祉の歴史(日本の場合1 概要と明治期まで)
- 第3回 社会福祉の歴史(日本の事例 石井十次と孤児院)
- 第4回 社会福祉の歴史(日本の場合2 大正期～現在)
- 第5回 社会福祉の歴史(英国の場合)
- 第6回 地域社会(学)と地域福祉・社会教育・生涯教育の考え方
- 第7回 社会学とボランティア活動について(総論)
- 第8回 社会学とボランティアについて(各論 委嘱ボランティアや教育ボランティア等の活動について)
- 第9回 子ども夜回りボランティア(地域における実践的ボランティア活動)
- 第10回 住民参加とは何か(社会学の主要論点)
- 第11回 夕張市と住民参加(住民参加型のまちづくりにおける現状と課題)
- 第12回 社会福祉協議会の役割
- 第13回 山科区社会福祉協議会(地域の福祉力:地域における社会福祉活動について)
- 第14回 まとめ1(レポート総括と山科区社協からのコメント)
- 第15回 まとめ2(コミュニティ問題、社協の今後、ボランティア活動)

履修上の注意点

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習・準備すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(40)

小テスト( )

授業中課題(40)

授業中発表等( )

参加度(20)

授業中課題はレポートとボランティア体験レポートの2種類である。

## 2017 Syllabus

科目名 **社会学概論 I <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 松田 いりあ	
テーマ	現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く
授業の到達目標	現代日本は20世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく。
授業の概要	自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 はじめに:この授業の概要の説明</p> <p>第2回 社会学とは何か(1):社会とは</p> <p>第3回 社会学とは何か(2):近代社会とは</p> <p>第4回 社会学とは何か(3):現代社会とは</p> <p>第5回 家族をめぐる社会学(1):家族を定義することの困難</p> <p>第6回 家族をめぐる社会学(2):現代家族をめぐる諸問題</p> <p>第7回 ジェンダーをめぐる社会学</p> <p>第8回 自己(自我)をめぐる社会学</p> <p>第9回 仕事をめぐる社会学</p> <p>第10回 地域をめぐる社会学</p> <p>第11回 国家をめぐる社会学</p> <p>第12回 グローバル化をめぐる社会学</p> <p>第13回 メディアと情報化をめぐる社会学(1):メディアの歴史的展開</p> <p>第14回 メディアと情報化をめぐる社会学(2):現代社会とメディア</p> <p>第15回 まとめ:この授業の総括</p>
履修上の注意点	授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと
教科書	<p>社会学理論と社会システム</p> <p>著者: 三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著</p> <p>出版社: ミネルヴァ書房</p> <p>出版年: 2009 ISBN: 9.78462E+12</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( 70 )</p> <p>授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **社会学概論 I <b>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 松田 いりあ	
テーマ	現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く
授業の到達目標	現代日本は20世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく。
授業の概要	自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 はじめに:この授業の概要の説明</p> <p>第2回 社会学とは何か(1):社会とは</p> <p>第3回 社会学とは何か(2):近代社会とは</p> <p>第4回 社会学とは何か(3):現代社会とは</p> <p>第5回 家族をめぐる社会学(1):家族を定義することの困難</p> <p>第6回 家族をめぐる社会学(2):現代家族をめぐる諸問題</p> <p>第7回 ジェンダーをめぐる社会学</p> <p>第8回 自己(自我)をめぐる社会学</p> <p>第9回 仕事をめぐる社会学</p> <p>第10回 地域をめぐる社会学</p> <p>第11回 国家をめぐる社会学</p> <p>第12回 グローバル化をめぐる社会学</p> <p>第13回 メディアと情報化をめぐる社会学(1):メディアの歴史的展開</p> <p>第14回 メディアと情報化をめぐる社会学(2):現代社会とメディア</p> <p>第15回 まとめ:この授業の総括</p>
履修上の注意点	授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと
教科書	<p>社会学理論と社会システム</p> <p>著者: 三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著</p> <p>出版社: ミネルヴァ書房</p> <p>出版年: 2009 ISBN: 9.78462E+12</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( 70 )</p> <p>授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p>

## 2017 Syllabus

科目名 **社会学概論Ⅱ**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	松田 いりあ	
テーマ	現代日本社会の諸問題に関する社会学的想像力の習得	
授業の到達目標	現在の日本では高度経済成長期につちかわれた「自明性」がもたらした副作用ともいべき問題に対峙している。この授業では社会の「あたりまえ」という感覚の崩壊や空洞化の前に立ちすくむのではなく、新たな「自明性」の再構築あるいはバージョンアップを社会学的な知識と方法を通じて探究する。	
授業の概要	近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着を目指す。企業、行政、コミュニティなどそれぞれの現場でのプロフェッショナルにこそ、日常業務と(社会学的)知識との間を往還が重要であることを授業を通じて実感してもらうことが目標である。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 はじめに:この授業の概要の説明</p> <p>第2回 家族関係の現在</p> <p>第3回 友人関係の現在</p> <p>第4回 学校・教育の現在</p> <p>第5回 親密性の現在</p> <p>第6回 記憶の現在</p> <p>第7回 ポピュラー文化の現在(1):ファン・オーディエンスの変容</p> <p>第8回 ポピュラー文化の現在(2):コンテンツのグローバル化</p> <p>第9回 情報技術の現在(1):インターネットの文化的前提</p> <p>第10回 情報技術の現在(2):SNSの可能性と限界</p> <p>第11回 情報技術の現在(3):アーキテクチャとしての重要性</p> <p>第12回 現代社会と社会学(1):認識をめぐる問題</p> <p>第13回 現代社会と社会学(2):実存をめぐる問題</p> <p>第14回 現代社会と社会学(3):コミュニケーションをめぐる問題</p> <p>第15回 まとめ:この授業の総括</p>	
履修上の注意点	授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと	
教科書	<p>社会理論と社会システム</p> <p>著者: 三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著</p> <p>出版社: ミネルヴァ書房</p> <p>出版年: 2009 ISBN: 9.78462E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( )</p> <p>授業中課題 (30)</p> <p>参加度 ( )</p> <p>小テスト (70)</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Aa&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Ab&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Ac&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Ad&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 堀越 昭夫

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Ae&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

## 科目名 時事問題研究 &lt;Ga&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 畑山 博史	
テーマ	
現役の新聞記者による生きたニュースの研究と理解。簡潔明瞭なレポート執筆力の向上	
授業の到達目標	
社会、政経、国際、文化芸能、スポーツのあらゆるジャンルに目配りできる社会性の育成。自己表現をしっかりと発揮できるレポート執筆力の育成	
授業の概要	
担当者自身が執筆監修したタイムリーな新聞記事を基にリアルな時事問題を考え、同級生とディスカッションし、自身の意見をレポートでまとめる。授業は資料配布とレポートまとめが1週ごとに入れ替わる。	
準備学習(予習・復習)	
授業前週に起こったニュースを新聞、テレビ、ネットなどでチェックし、自身が興味を持てる物をピックアップしておく	
内 容	
第1回	授業計画の説明。第1回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。
第2回	第1回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。
第3回	第2回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。
第4回	第2回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。
第5回	第3回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。
第6回	第3回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。
第7回	折り返し点につき、第4回教材新聞配布。時間内に各自レポートをまとめる短時間簡潔のトレーニング。
第8回	第5回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。
第9回	第5回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。
第10回	第6回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。
第11回	第6回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。
第12回	第7回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。
第13回	第7回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。年末につき、1年のニュース回顧研究。
第14回	第8回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。年始につき新年のトレンドなどの研究。
第15回	第6回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。最終回につき、ニュースの流れのまとめ。
履修上の注意点	
自分の関心のあるジャンルだけで良いから、普段から新聞、テレビ、ネットなどで幅広くニュース感覚を養っておくこと。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (60)	小テスト (0)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (10)
参加度 (20)	



## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Ba&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Bb&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Bc&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Bd&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 クラス指定

担当者 堀越 昭夫

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Be&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習)

随時授業内で指示していく

内 容

- 第1回 授業計画の説明
- 第2回 アメリカ大統領選
- 第3回 TPP問題
- 第4回 北方領土問題
- 第5回 南シナ海問題
- 第6回 ISおよびヨーロッパの難民問題
- 第7回 年金問題
- 第8回 原発
- 第9回 憲法改正問題
- 第10回 沖縄普天間基地移設問題
- 第11回 アベノミックス
- 第12回 格差問題
- 第13回 日本と中国
- 第14回 日本とASEAN
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらかじめ授業内で告知する予定である。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 時事問題研究 &lt;Gc&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 畑山 博史	
テーマ	現役の新聞記者による生きたニュースの研究と理解。簡潔明瞭なレポート執筆力の向上
授業の到達目標	社会、政経、国際、文化芸能、スポーツのあらゆるジャンルに目配りできる社会性の育成。自己表現をしっかりと発揮できるレポート執筆力の育成
授業の概要	担当者自身が執筆したタイムリーな新聞記事をもとにリアルな時事問題を考え、同級生とディスカッションし、自身の意見をレポートでまとめます。授業は資料配布とレポートまとめが1週ごとに入れ替わります。
準備学習(予習・復習)	授業前週に起こったニュースを新聞、テレビ、ネットなどでチェックし、自身が興味を持てる物をピックアップしておく
内 容	<p>第1回 授業計画の説明。第1回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第2回 第1回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第3回 第2回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第4回 第2回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第5回 第3回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第6回 第3回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第7回 折り返し点につき、第4回教材新聞配布。時間内に各自レポートをまとめる短時間簡潔のトレーニング。</p> <p>第8回 第5回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第9回 第5回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第10回 第6回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第11回 第6回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。受講生からの時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第12回 第7回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。</p> <p>第13回 第7回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。年末につき、1年のニュース回顧研究。</p> <p>第14回 第8回教材新聞の配布。記事内容解説。受講生から出された時事的テーマの研究と説明。年始につき新年のトレンドなどの研究。</p> <p>第15回 第8回配布新聞に基づいて執筆されたレポートの回収、内容に基づき班分け。討議後にレポートの修正、最終提出。最終回につき、ニュースの流れのまとめ。</p>
履修上の注意点	自分の関心のあるジャンルだけで良いから、普段からニュース感覚を養っておくこと。
教科書	使用しない
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	使用しない
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート (60)	小テスト (0)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (10)
参加度 (20)	



## 2017 Syllabus

科目名 **経済学概論 I <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 現代日本経済をめぐる諸問題	
授業の到達目標 バブル崩壊後の90年代不況、女性労働、労働問題など、現代日本経済をめぐる諸問題について学ぶ	
授業の概要 以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習) 講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度	

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 経済学とは何か
- 第2回 90年代不況(1)不良債権処理の10年
- 第3回 90年代不況(2)不良債権処理の10年
- 第4回 90年代不況(3)ケーススタディ・日本長期信用銀行
- 第5回 90年代不況(4)ケーススタディ・山一証券
- 第6回 中小企業問題
- 第7回 女性労働(1)均等法誕生
- 第8回 女性労働(2)均等法その後
- 第9回 女性労働(3)卵子の老化、育児支援
- 第10回 労働問題(1)過労死・過労自殺
- 第11回 労働問題(2)残業代ゼロ制度
- 第12回 労働問題(3)派遣労働
- 第13回 労働問題(4)ネットカフェ難民
- 第14回 労働問題(5)ブラック企業
- 第15回 労働問題(6)ブラックバイト

## 履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁 出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁 向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる

## 教科書

## 参考書

## 日本の宿題

著者: NHK「日本の宿題」プロジェクト

出版社: NHK出版

出版年: 2001年

ISBN:

## 中小企業が日本経済を救う

著者: 森靖雄

出版社: 大月書店

出版年: 2004年

ISBN:

## ワーキング・プア

著者: デイヴィッド・K・シプラー

出版社: 岩波書店

出版年: 2007年

ISBN:

今日、ホームレスになった

著者： 増田明利

出版社： 新風舎

出版年： 2006年

ISBN:

フリーター漂流

著者： 松宮健一

出版社： 旬報社

出版年： 2006年

ISBN:

若者が働くとき

著者： 熊沢誠

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2006年

ISBN:

派遣村

著者： 宇都宮健児・湯浅誠編

出版社： 岩波書店

出版年： 2009年

ISBN:

15歳のワークルール

著者： 道幸哲也

出版社： 旬報社

出版年： 2007年

ISBN:

反貧困

著者： 湯浅誠

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

派遣のリアル

著者： 門倉貴史

出版社： 宝島社

出版年： 2007年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

---

## 2017 Syllabus

科目名 **経済学概論 I <b>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 現代日本経済をめぐる諸問題	
授業の到達目標 バブル崩壊後の90年代不況、女性労働、労働問題など、現代日本経済をめぐる諸問題について学ぶ	
授業の概要 以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習) 講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度	

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 経済学とは何か
- 第2回 90年代不況(1)不良債権処理の10年
- 第3回 90年代不況(2)不良債権処理の10年
- 第4回 90年代不況(3)ケーススタディ・日本長期信用銀行
- 第5回 90年代不況(4)ケーススタディ・山一証券
- 第6回 中小企業問題
- 第7回 女性労働(1)均等法誕生
- 第8回 女性労働(2)均等法その後
- 第9回 女性労働(3)卵子の老化、育児支援
- 第10回 労働問題(1)過労死・過労自殺
- 第11回 労働問題(2)残業代ゼロ制度
- 第12回 労働問題(3)派遣労働
- 第13回 労働問題(4)ネットカフェ難民
- 第14回 労働問題(5)ブラック企業
- 第15回 労働問題(6)ブラックバイト

## 履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁 出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁 向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる

## 教科書

## 参考書

## 日本の宿題

著者: NHK「日本の宿題」プロジェクト

出版社: NHK出版

出版年: 2001年

ISBN:

## 中小企業が日本経済を救う

著者: 森靖雄

出版社: 大月書店

出版年: 2004年

ISBN:

## ワーキング・プア

著者: デイヴィッド・K・シプラー

出版社: 岩波書店

出版年: 2007年

ISBN:

今日、ホームレスになった

著者： 増田明利

出版社： 新風舎

出版年： 2006年

ISBN:

フリーター漂流

著者： 松宮健一

出版社： 旬報社

出版年： 2006年

ISBN:

若者が働くとき

著者： 熊沢誠

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2006年

ISBN:

派遣村

著者： 宇都宮健児・湯浅誠編

出版社： 岩波書店

出版年： 2009年

ISBN:

15歳のワークルール

著者： 道幸哲也

出版社： 旬報社

出版年： 2007年

ISBN:

反貧困

著者： 湯浅誠

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

派遣のリアル

著者： 門倉貴史

出版社： 宝島社

出版年： 2007年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

---

## 2017 Syllabus

科目名 **経済学概論Ⅱ**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ	
戦後日本経済の歩みについて学ぶ	
授業の到達目標	
敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでの、戦後日本経済の歩みについて学ぶ	
授業の概要	
以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習)	
講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度	
内 容	
第1回 戦後日本経済の概観	
第2回 特需景気	
第3回 もはや戦後ではない	
第4回 金の卵	
第5回 エネルギー革命	
第6回 所得倍増計画	
第7回 公害	
第8回 列島改造	
第9回 ドルショックと石油ショック	
第10回 日米経済摩擦	
第11回 分割民营	
第12回 バブル経済	
第13回 プラザ合意	
第14回 外国人労働者	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁 出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁 向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる	

教科書

参考書

医学者は公害事件で何をしてきたのか

著者： 津田敏秀

出版社： 岩波書店

出版年： 2004年

ISBN:

民営化で誰が得をするのか

著者： 石井陽一

出版社： 平凡社

出版年： 2007年

ISBN:

JR福知山線事故の本質

著者： 山口栄一

出版社： NTT出版

出版年： 2007年

ISBN:

<研修生>という名の奴隷労働

著者：「外国人労働者問題とこれからの日本」編集委員会

出版社：花伝社

出版年：2009年

ISBN:

外国人研修生殺人事件

著者：安田浩一

出版社：七つ森書館

出版年：2007年

ISBN:

集団就職の時代

著者：加瀬和俊

出版社：青木書店

出版年：1997年

ISBN:

戦後50年 そのとき日本は 第4巻、第6巻

著者：NHK取材班

出版社：NHK出版

出版年：1996年

ISBN:

「移民列島」ニッポン

著者：藤巻秀樹

出版社：藤原書店

出版年：2012年

ISBN:

高度成長

著者：武田晴人

出版社：岩波書店

出版年：2008年

ISBN:

検証 バブル失政

著者：軽部謙介

出版社：岩波書店

出版年：2015年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

---



## 2017 Syllabus

科目名 **健康に生きる I**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 200

履修条件 クラス指定

担当者 堀 妙子.河原 宣子.松本 賢哉

テーマ

健康について、様々な視点から学ぶ事により、自分自身の健康に関心を持ち、健康に生きるための方法を考える。

授業の到達目標

1. 健康とは何かを理解する 2. 健康に対して関心を持つことができる 3. 健康に生きるための方法を考える事ができる

授業の概要

健康についてや日本人によくみられる病気についてそしてそれを講義で学ぶとともに、自分自身の実際の生活の振り返りも行い、健康に生きるという事について考える授業です。

準備学習(予習・復習)

授業中に配布する資料をもとに、復習をしながら授業にのぞむ事。予習等が必要な場合には、事前に連絡をするので、その指示にしたがって予習を行う事

内 容

- 第1回 オリエンテーション 健康とは
- 第2回 日本人の健康の特徴
- 第3回 心の健康(1) 心のはたらき
- 第4回 心の健康(2) ストレスと健康
- 第5回 心の健康(3) 大学生の心の問題
- 第6回 人間のからだの仕組み
- 第7回 青年期の健康 性感染症
- 第8回 成人期の健康 がん
- 第9回 老年期の健康 認知症
- 第10回 環境と健康
- 第11回 食生活と健康
- 第12回 喫煙と健康
- 第13回 飲酒と健康
- 第14回 運動と健康
- 第15回 まとめ 小テスト

履修上の注意点

受講時は、他者の迷惑となるような行動をとらない事

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 60% )

授業中課題 ( 40% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 健康に生きるⅡ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定

担当者 西 彰子・中村 一郎

## テーマ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。

## 授業の到達目標

1. 健康と栄養の関連を理解する。2. 食の安全性に関心を持つ。3. 健康的な食生活を志向する。

## 授業の概要

健康を食の視点から考察する。はじめに、栄養素と健康について解説する。次に、最近話題となっている健康情報について考察する。最後に自らの食生活を顧みて健康的な食生活を営むための基本的知識を整理する。

## 準備学習(予習・復習)

日頃から食に関連する事項に関心を持ち、様々な情報を入手してほしい。次に、その事項に対して疑問を持ち、本当にそうなのかよく考えてほしい。その疑問を授業で検証しよう。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 健康と栄養 (西)
- 第2回 健康と栄養 -糖質と糖類- (西)
- 第3回 健康と栄養 -脂肪とコレステロールとDHA- (西)
- 第4回 健康と栄養 -アミノ酸とたんぱく質- (西)
- 第5回 健康と栄養 -ミネラルと骨密度- (西)
- 第6回 健康と栄養 -ビタミンと美容- (西)
- 第7回 健康と栄養 -色と食品- (西)
- 第8回 健康と食トピックス 一体に良い脂肪、悪い脂肪- (中村)
- 第9回 健康と食トピックス -疲労と食品- (中村)
- 第10回 健康と食トピックス -腸内細菌と健康- (中村)
- 第11回 健康と食トピックス -老化と食品- (中村)
- 第12回 健康と食生活 -ダイエット- (西)
- 第13回 健康と食生活 -運動と食べ方- (西)
- 第14回 健康と食生活 -ストレス- (西)
- 第15回 まとめ (西)

## 履修上の注意点

①積極的に授業に参加すること。②毎回出席することが望ましく、1/3以上の欠席では評価が極めて低い。③授業中のミニ課題も評価対象としていることに留意。④授業中の飲食、私語、スマホ、メールなどのマナー違反は厳禁。

## 教科書

三訂 栄養と健康

著者： フードスペシャリスト協会編

出版社： 建帛社

出版年： 2015年

ISBN: 9.78477E+12

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (70)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

## 2017 Syllabus

## 科目名 健康に生きるⅢ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 田中 芳幸	
テーマ	精神的な「健康」(メンタルヘルス)の概要とその維持増進に役立つ心理学・行動科学理論の理解
授業の到達目標	個人の「健康」について精神的な側面(メンタルヘルス)を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されている様々なメンタルヘルスの理論や、その歴史的背景を学び、現代人が健康に生活するうえでのメンタルヘルスの重要性を理解する。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされる様々な理論・技法についても考察する。
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	教科書や参考文献に示すものなどといった心理学・医療行動科学関連図書や講義中に配布する資料による自学自習、および、講義内容を踏まえての自分自身の心身の健康への考察
内 容	<p>第1回 オリエンテーション 「健康」の捉え方</p> <p>第2回 メンタルヘルスの関連学問領域</p> <p>第3回 パーソナリティと健康</p> <p>第4回 パーソナリティやメンタルヘルスの測定方法</p> <p>第5回 ストレスのメカニズムと健康</p> <p>第6回 ストレスへの対処</p> <p>第7回 様々なストレスマネジメント技法</p> <p>第8回 社会・集団とメンタルヘルス</p> <p>第9回 様々な健康関連行動</p> <p>第10回 健康関連行動と生活習慣</p> <p>第11回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅰ：認知・学習心理学の視点から</p> <p>第12回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅱ：学習・行動心理学の視点から</p> <p>第13回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅲ：精神分析学の視点から</p> <p>第14回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅳ：人間性心理学の視点から</p> <p>第15回 健康に生きるⅢ(メンタルヘルス)のまとめ</p>
履修上の注意点	授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。
教科書	<p>医療の行動科学Ⅰ 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー</p> <p>著者： 山田 富美雄(編)</p> <p>出版社： 北大路書房</p> <p>出版年： ISBN:</p>
参考書	<p>健康と暮らしに役立つ心理学</p> <p>著者： 金政 祐司・大竹 恵子</p> <p>出版社： 北樹出版</p> <p>出版年： ISBN:</p> <p>新版健康心理学</p> <p>著者： 野口 京子</p> <p>出版社： 金子書房</p> <p>出版年： ISBN:</p>
成績評価	<p>試験・レポート (50%)</p> <p>授業中課題 (30%)</p> <p>参加度 (20%)</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>

## 2017 Syllabus

科目名 体育理論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	新野 守	
テーマ	体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える	
授業の到達目標	①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。	
授業の概要	近代スポーツの成立と変遷を、文化的・社会的背景を視野に入れて講義する。	
準備学習(予習・復習)	日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 体育科教育 第3回 前近代スポーツ 第4回 イギリスのスポーツ教育 第5回 アメリカのスポーツ教育 第6回 アジアのスポーツ 第7回 日本の学校体育 第8回 子どもの遊び 第9回 スポーツ部活動 第10回 女性スポーツ 第11回 職場スポーツ 第12回 生涯スポーツ 第13回 オリンピック 第14回 プロスポーツ 第15回 まとめ 第16回 試験	
履修上の注意点	新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てください。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょうか。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。	
教科書	特になし	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
スポーツと教育の歴史		
著者: 成田十次郎		
出版社: 不昧堂出版		
出版年: 1988	ISBN:	
スポーツとは何か		
著者: 玉木 正之		
出版社: 講談社新書		
出版年: 1999	ISBN:	
成績評価		
試験・レポート ( 100 )	小テスト ( )	
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )	

aky801d410

参加度 ( )

評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、初回のオリエンテーションや補足説明、到達度検証の時間に確認すること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 体育理論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	新野 守	
テーマ	体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える	
授業の到達目標	①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。	
授業の概要	近代スポーツの成立と変遷を、文化的・社会的背景を視野に入れて講義する。	
準備学習(予習・復習)	日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 体育科教育 第3回 前近代スポーツ 第4回 イギリスのスポーツ教育 第5回 アメリカのスポーツ教育 第6回 アジアのスポーツ 第7回 日本の学校体育 第8回 子どもの遊び 第9回 スポーツ部活動 第10回 女性スポーツ 第11回 職場スポーツ 第12回 生涯スポーツ 第13回 オリンピック 第14回 プロスポーツ 第15回 まとめ 第16回 試験	
履修上の注意点	新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てください。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょうか。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。	
教科書	特になし 著者： 出版社： 出版年： ISBN： 	
参考書	スポーツと教育の歴史 著者： 成田十次郎不 出版社： 不味堂出版 出版年： 1988 ISBN： 	
	スポーツとは何か 著者： 玉木 正之 出版社： 講談社新書 出版年： 1999 ISBN： 	
成績評価	試験・レポート ( 100 ) 授業中課題 ( )	
	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

参加度（ ）

評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、初回のオリエンテーションや補足説明、到達度検証の時間に確認すること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 体育理論 &lt;c&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	新野 守	
テーマ	体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える	
授業の到達目標	①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。	
授業の概要	近代スポーツの成立と変遷を、文化的・社会的背景を視野に入れて講義する。	
準備学習(予習・復習)	日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 体育科教育 第3回 前近代スポーツ 第4回 イギリスのスポーツ教育 第5回 アメリカのスポーツ教育 第6回 アジアのスポーツ 第7回 日本の学校体育 第8回 子どもの遊び 第9回 スポーツ部活動 第10回 女性スポーツ 第11回 職場スポーツ 第12回 生涯スポーツ 第13回 オリンピック 第14回 プロスポーツ 第15回 まとめ 第16回 試験	
履修上の注意点	新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てください。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょうか。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。	
教科書	特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 スポーツと教育の歴史 著者: 成田十次郎 出版社: 不味堂出版 出版年: 1988 ISBN: スポーツとは何か 著者: 玉木 正之 出版社: 講談社新書 出版年: 1999 ISBN:	
成績評価	試験・レポート ( 100 ) 授業中課題 ( )	
	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	



参加度（ ）

評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、初回のオリエンテーションや補足説明、到達度検証の時間に確認すること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 スポーツコース I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 45
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ 生涯スポーツとしてのバレーボール	
授業の到達目標 ①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。	
授業の概要 ①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7、8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト(サーブ他)とルールテストを行う。	
準備学習(予習・復習) 規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。	
内 容 第1回 ガイダンス(授業の目標、内容、方法、評価などの説明) 第2回 チーム編成(体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける) 第3回 練習①基礎的な練習とゲーム(パス、スパイク、ブロック、サーブ) 第4回 練習②基礎的な練習とゲーム(セッターとセンターの固定) 第5回 練習③リーグ戦 第6回 練習④リーグ戦 第7回 練習⑤リーグ戦 第8回 チーム再編 第9回 練習①応用的な練習とゲーム(レシーブ・トス・スパイクの連続) 第10回 練習②応用的な練習とゲーム(速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ) 第11回 練習③リーグ戦 第12回 練習④リーグ戦 第13回 練習⑤リーグ戦 第14回 実技・ルールテスト① 第15回 実技・ルールテスト②	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 バレーボール 著者: 小磯靖紀著 出版社: ベースボールマガジン社 出版年: 2014年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト(20) 授業中課題(30) 授業中発表等( ) 参加度(50) ①参加活動(50)は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動(30)は技能や体力、協調性を含む。③小テスト(20)は実技・ルールテストを含む。	

## 2017 Syllabus

科目名 スポーツコース I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 45
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ 生涯スポーツとしてのバレーボール	
授業の到達目標 ①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。	
授業の概要 ①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7、8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト(サーブ他)とルールテストを行う。	
準備学習(予習・復習) 規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。	
内 容 第1回 ガイダンス(授業の目標、内容、方法、評価などの説明) 第2回 チーム編成(体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける) 第3回 練習①基礎的な練習とゲーム(パス、スパイク、ブロック、サーブ) 第4回 練習②基礎的な練習とゲーム(セッターとセンターの固定) 第5回 練習③リーグ戦 第6回 練習④リーグ戦 第7回 練習⑤リーグ戦 第8回 チーム再編 第9回 練習①応用的な練習とゲーム(レシーブ・トス・スパイクの連続) 第10回 練習②応用的な練習とゲーム(速攻とバックアタック、カバリングとポジションチェンジ) 第11回 練習③リーグ戦 第12回 練習④リーグ戦 第13回 練習⑤リーグ戦 第14回 実技・ルールテスト① 第15回 実技・ルールテスト②	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 バレーボール 著者: 小磯靖紀著 出版社: ベースボールマガジン社 出版年: 2014年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト(20) 授業中課題(30) 授業中発表等( ) 参加度(50) ①参加活動(50)は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動(30)は技能や体力、協調性を含む。③小テスト(20)は実技・ルールテストを含む。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツコース I &lt;ラクト&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	
テーマ	フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット	
授業の到達目標	ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。	
授業の概要	JR・京阪山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります	
準備学習(予習・復習)	授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます(学生証提示)『学生生活の手引き』-(課外活動)を参照	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)</p> <p>第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較</p> <p>第4回 マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ</p> <p>第5回 ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり</p> <p>第6回 ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや? 正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について</p> <p>第7回 有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて</p> <p>第8回 エアロビクス I: 踏み台昇降ステップ台でのオリエンテーション。理論、種類、実践。敏捷性、巧緻性(器用さ)の向上</p> <p>第9回 無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」</p> <p>第10回 自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に</p> <p>第11回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第12回 腹部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、コアトレーニング</p> <p>第13回 ヨガ: 紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。</p> <p>第14回 脚部ひきしめ体操: 脚筋群、臀部を強化、スクワット</p> <p>第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動と体脂肪測定</p>	
履修上の注意点	実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。	
教科書	<p>教室でハンドアウト(プリント)を配布する</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>日本食品標準成分表</p> <p>著者:</p> <p>出版社: 出版社は問いません</p> <p>出版年: 最新版 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>(技能20%) (態度20%)</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 45
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ 生涯スポーツとしてのバレーボール	
授業の到達目標 ①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。	
授業の概要 ①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7、8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト(サーブ他)とルールテストを行う。	
準備学習(予習・復習) 規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。	
内 容 第1回 ガイダンス(授業の目標、内容、方法、評価などの説明) 第2回 チーム編成(体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける) 第3回 練習①基礎的な練習とゲーム(パス、スパイク、ブロック、サーブ) 第4回 練習②基礎的な練習とゲーム(セッターとセンターの固定) 第5回 練習③リーグ戦 第6回 練習④リーグ戦 第7回 練習⑤リーグ戦 第8回 チーム再編 第9回 練習①応用的な練習とゲーム(レシーブ・トス・スパイクの連続) 第10回 練習②応用的な練習とゲーム(速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ) 第11回 練習③リーグ戦 第12回 練習④リーグ戦 第13回 練習⑤リーグ戦 第14回 実技・ルールテスト① 第15回 実技・ルールテスト②	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 バレーボール 著者: 小磯靖紀著 出版社: ベースボールマガジン社 出版年: 2014年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト(20) 授業中課題(30) 授業中発表等( ) 参加度(50) ①参加活動(50)は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動(30)は技能や体力、協調性を含む。③小テスト(20)は実技・ルールテストを含む。	

## 2017 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 45
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ 生涯スポーツとしてのバレーボール	
授業の到達目標 ①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。	
授業の概要 ①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7、8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト(サーブ他)とルールテストを行う。	
準備学習(予習・復習) 規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。	
内 容 第1回 ガイダンス(授業の目標、内容、方法、評価などの説明) 第2回 チーム編成(体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける) 第3回 練習①基礎的な練習とゲーム(パス、スパイク、ブロック、サーブ) 第4回 練習②基礎的な練習とゲーム(セッターとセンターの固定) 第5回 練習③リーグ戦 第6回 練習④リーグ戦 第7回 練習⑤リーグ戦 第8回 チーム再編 第9回 練習①応用的な練習とゲーム(レシーブ・トス・スパイクの連続) 第10回 練習②応用的な練習とゲーム(速攻とバックアタック、カバリングとポジションチェンジ) 第11回 練習③リーグ戦 第12回 練習④リーグ戦 第13回 練習⑤リーグ戦 第14回 実技・ルールテスト① 第15回 実技・ルールテスト②	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 バレーボール 著者: 小磯靖紀著 出版社: ベースボールマガジン社 出版年: 2014年 ISBN:	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト(20) 授業中課題(30) 授業中発表等( ) 参加度(50) ①参加活動(50)は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動(30)は技能や体力、協調性を含む。③小テスト(20)は実技・ルールテストを含む。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツコースⅡ〈ラクト〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	
テーマ	フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と筋力アップ	
授業の到達目標	ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。	
授業の概要	JR・京阪山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。	
準備学習(予習・復習)	授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます(学生証提示)『学生生活の手引き』-(課外活動)を参照	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)</p> <p>第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較</p> <p>第4回 筋力アップの実践: 筋持久力、筋力向上の理論と実践。白筋と赤筋とは</p> <p>第5回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第6回 無酸素運動: 筋肉づくりの栄養・理論を学び筋力をつける</p> <p>第7回 エアロビクス: ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践</p> <p>第8回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第9回 サークットトレーニング: 部屋でできる運動プログラム</p> <p>第10回 体幹エクササイズ: バランスボール、ストレッチボールを使ってインナーマッスルを強化する</p> <p>第11回 ヨガ: 紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。</p> <p>第12回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第13回 コアトレーニング: 腹筋群・背筋群を強化する。体幹のトレーニング</p> <p>第14回 脚部強化運動 脚筋群・臀部を強化する。脚部を引き締める運動</p> <p>第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動。体脂肪測定</p>	
履修上の注意点	実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。	
教科書	<p>教室でハンドアウト(プリント)を配布する</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>日本食品標準成分表</p> <p>著者:</p> <p>出版社: 出版社は問いません</p> <p>出版年: 最新版 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート(0) 小テスト(0)</p> <p>授業中課題(0) 授業中発表等(0)</p> <p>参加度(60)</p> <p>(技能20%) (態度20%)</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツコースⅢ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 45
履修条件	クラス指定
担当者 宇部 一	
テーマ	
スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	
バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	
バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。	
準備学習(予習・復習)	
スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	
第1回	授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
第2回	バレーボールの基礎技能(パス、サービス)
第3回	バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム
第4回	グルーピング、チームでの練習の取り組み
第5回	リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
第6回	リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習)
第7回	リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
第8回	バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
第9回	バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング)
第10回	バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム
第11回	グルーピング、チームでの練習の取り組み
第12回	リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
第13回	リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用)
第14回	リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
第15回	バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ
履修上の注意点	
積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート(10)	小テスト(5)
授業中課題(5)	授業中発表等(20)
参加度(60)	
授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。	



## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツコースⅢ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 45
履修条件	クラス指定
担当者 宇部 一	
テーマ	
スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	
バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	
バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。	
準備学習(予習・復習)	
スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	
第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など	
第2回 バレーボールの基礎技能(パス、サービス)	
第3回 バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム	
第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み	
第5回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)	
第6回 リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習)	
第7回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)	
第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ	
第9回 バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング)	
第10回 バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム	
第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み	
第12回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)	
第13回 リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用)	
第14回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)	
第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ	
履修上の注意点	
積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート(10)	小テスト(5)
授業中課題(5)	授業中発表等(20)
参加度(60)	
授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツコースⅢ &lt;c&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 45
履修条件	クラス指定
担当者 宇部 一	
テーマ	
スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	
バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	
バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。	
準備学習(予習・復習)	
スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	
第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など	
第2回 バレーボールの基礎技能(パス、サービス)	
第3回 バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム	
第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み	
第5回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)	
第6回 リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習)	
第7回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)	
第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ	
第9回 バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング)	
第10回 バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム	
第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み	
第12回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)	
第13回 リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用)	
第14回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)	
第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ	
履修上の注意点	
積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート(10)	小テスト(5)
授業中課題(5)	授業中発表等(20)
参加度(60)	
授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツコースⅢ〈ラクト〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	
テーマ	フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と柔軟性の向上	
授業の到達目標	ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、柔軟性向上プログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。	
授業の概要	JR・京阪山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。	
準備学習(予習・復習)	授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます(学生証提示)『学生生活の手引き』-(課外活動)を参照	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)</p> <p>第2回 ストレッチⅠ 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第3回 体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデータとの比較</p> <p>第4回 マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ</p> <p>第5回 ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり</p> <p>第6回 ストレッチⅡ：スタティックストレッチとは。体前屈で良い結果をだす</p> <p>第7回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動</p> <p>第8回 エアロビクスⅠ ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践</p> <p>第9回 ストレッチⅢ：ストレッチで柔軟性を向上する</p> <p>第10回 ペアストレッチ：ペアになってストレッチを実践する</p> <p>第11回 自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に</p> <p>第12回 ボールストレッチ：バランスボールを使ったストレッチ</p> <p>第13回 ヨガ：紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。</p> <p>第14回 肩こり・腰痛体操：柔軟・筋力不足の肩こり、腰痛を解消する</p> <p>第15回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動</p>	
履修上の注意点	実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。	
教科書	<p>教室でハンドアウト(プリント)を配布する</p> <p>著者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年： ISBN：</p>	
参考書	<p>日本食品標準成分表</p> <p>著者：</p> <p>出版社： 出版社は問いません</p> <p>出版年： 最新版 ISBN：</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>(技能20%) (態度20%)</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ〈a〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	宇部 一	
テーマ	スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。	
準備学習(予習・復習)	スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	<p>第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。</p> <p>第2回 バドミントンの基礎技術練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)</p> <p>第3回 バドミントンの基礎技術練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)</p> <p>第4回 シングルのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム</p> <p>第5回 シングルの戦術とリーグ戦形式ゲーム</p> <p>第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解</p> <p>第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術</p> <p>第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)</p> <p>第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショートなど)</p> <p>第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)</p> <p>第11回 シングルのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第14回 チーム対抗形式でのゲーム</p> <p>第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ</p>	
履修上の注意点	積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。	
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート(10) 小テスト(5)</p> <p>授業中課題(5) 授業中発表等(20)</p> <p>参加度(60)</p> <p>授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ〈b〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	宇部 一	
テーマ	スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。	
準備学習(予習・復習)	スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	<p>第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。</p> <p>第2回 バドミントンの基礎技術練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)</p> <p>第3回 バドミントンの基礎技術練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)</p> <p>第4回 シングルのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム</p> <p>第5回 シングルの戦術とリーグ戦形式ゲーム</p> <p>第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解</p> <p>第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術</p> <p>第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)</p> <p>第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショートなど)</p> <p>第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)</p> <p>第11回 シングルのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第14回 チーム対抗形式でのゲーム</p> <p>第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ</p>	
履修上の注意点	積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。	
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート(10) 小テスト(5)</p> <p>授業中課題(5) 授業中発表等(20)</p> <p>参加度(60)</p> <p>授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツコースⅣ &lt;c&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	宇部 一	
テーマ	スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。	
準備学習(予習・復習)	スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	<p>第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。</p> <p>第2回 バドミントンの基礎技術練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)</p> <p>第3回 バドミントンの基礎技術練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)</p> <p>第4回 シングルのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム</p> <p>第5回 シングルの戦術とリーグ戦形式ゲーム</p> <p>第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解</p> <p>第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術</p> <p>第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)</p> <p>第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショットなど)</p> <p>第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)</p> <p>第11回 シングルのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第14回 チーム対抗形式でのゲーム</p> <p>第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ</p>	
履修上の注意点	積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。	
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート(10) 小テスト(5)</p> <p>授業中課題(5) 授業中発表等(20)</p> <p>参加度(60)</p> <p>授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 スポーツコースⅣ〈ラクト〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	
テーマ	フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット	
授業の到達目標	ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。	
授業の概要	JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります	
準備学習(予習・復習)	授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます(学生証提示)『学生生活の手引き』-(課外活動)を参照	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)</p> <p>第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデータとの比較</p> <p>第4回 マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ</p> <p>第5回 ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり</p> <p>第6回 ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや? 正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について</p> <p>第7回 有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて</p> <p>第8回 エアロビクスⅠ: ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践</p> <p>第9回 無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」</p> <p>第10回 自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に</p> <p>第11回 ヨガ: 紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。</p> <p>第12回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第13回 腹部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、コアトレーニング</p> <p>第14回 脚部ひきしめ体操: 脚筋群、臀部を強化、スクワット</p> <p>第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動。体脂肪測定</p>	
履修上の注意点	実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。	
教科書	<p>教室でハンドアウト(プリント)を配布する</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>日本食品標準成分表</p> <p>著者:</p> <p>出版社: 出版社は問いません</p> <p>出版年: 最新版 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート(0) 小テスト(0)</p> <p>授業中課題(0) 授業中発表等(0)</p> <p>参加度(60)</p> <p>(技能20%) (態度20%)</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 地球生命論

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 秋期集中	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 趙 哲済		
テーマ	生命の発生から人類が進化・発展して現在に至った地球と生物の歴史の基礎的理解	

## 授業の到達目標

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解することを目標にする。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づいたものであるから、層序と地層の対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震、土石流などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて学習する。

## 授業の概要

人類史を含む地球と生物の歴史、およびそれらの証拠となる化石や考古遺物を理解するために必要な地層学の基礎事項について、スライドを用いた講義を主体に行うとともに、スライド内容を資料として配布する。なお、授業の進捗状況により、内容を一部変更する場合がある。

## 準備学習(予習・復習)

授業が終わるまでに、大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、兵庫県立人と自然の博物館、国立科学博物館などの、自然と人間の歴史をテーマとする施設を見学しておくこと。参考書3-10の中から1冊を読んでおくこと。

## 内 容

- 第1回 先カンブリア時代(1) 地球の年代区分、地球と月の形成、生命の発生と化学進化
- 第2回 先カンブリア時代(2) 原核生物と真核生物、細菌の光合成による遊離酸素の発生、全球凍結、多細胞生物の出現、地球の構造と大陸の移動
- 第3回 古生代(1) 骨格をもった多細胞生物・脊椎動物の出現、コケ類・地衣類の水辺への進出、シダ植物の上陸と繁栄
- 第4回 古生代(2) 魚類の繁栄、硬骨魚類から両生類への進化、最初に上陸した動物、生物の5大大量死(大量絶滅)事件
- 第5回 中生代(1) 超大陸パンゲア、アンモナイト類の進化、羊膜類、爬虫類の大分類、恐竜、空の爬虫類・古鳥類、海の爬虫類
- 第6回 中生代(2) 日本列島の中生代爬虫類、裸子植物から被子植物への景観変遷、中生代末の大量死
- 第7回 新生代(1) ヒマラヤ山脈とモンスーン気候、環南極海流、氷河時代と無氷河時代、日本海と日本列島の成立
- 第8回 新生代(2) 哺乳類の系統と進化、被子植物がもたらした霊長類進化への影響
- 第9回 新生代(3) 長鼻類の繁栄、霊長類の進化
- 第10回 第四紀(1) 第四紀とは、層序学の基礎、氷期と間氷期の編年、酸素同位体比、火山灰編年
- 第11回 第四紀(2) 氷期の景観、鮮新統・更新統(大阪層群・古琵琶湖層群を中心にして)、遺存種(レリク)
- 第12回 人類の進化(1) 人類の系統、猿人、華奢型猿人、頑丈型猿人、年代の調べ方
- 第13回 人類の進化(2) 原人、石器の発達、第1次出アフリカ、火の使用、旧人、原人のレリク
- 第14回 人類の進化(3) 遺伝子情報からみる分子系統、新人、第2次出アフリカ、東～東南アジア・日本列島の新人、石器の文化、抽象的思考(言語と芸術の発生)
- 第15回 人類の進化(4) 晩氷期以降の古気候・古地理変遷、定住・農耕・牧畜、地球温暖化、活断層(黄檗断層)、狂牛病、核エネルギー、地球の未来

## 履修上の注意点

授業中に問いかけをすることがあるので、積極的な応答を期待する。ただし、授業に関係のない私語は慎むこと。疑問点があれば授業の最後に質問を受ける。また、質問用紙に書いて提出してもよい。

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

地球生物学

著者: 池谷仙之・北里洋

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2004年

ISBN: 4-13-062711-2



## 人類紀自然学

著者： 人類紀自然学編集委員会

出版社： 共立出版

出版年： 2007年

ISBN： 978-4-320-

## リズムカルな地球の変動

著者： 増田富士雄

出版社： 岩波書店

出版年： 1993年

ISBN： 4-00-007903-4

## 生命の逆襲

著者： 福岡伸一

出版社： 朝日新聞出版

出版年： 2013年

ISBN： 978-4-02-

## 進化の大爆発…動物のルーツを探る

著者： 大森昌衛

出版社： 新日本出版社

出版年： 2000年

ISBN： 4-406-02756-4

## 「退化」の進化学

著者： 犬塚則久

出版社： ブルーボックス

出版年： 2006年

ISBN： 4-06-257537-X

## 人類進化の700万年

著者： 三井誠

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2005年

ISBN： 4-06-149805-3

## 人類がたどってきた道

著者： 海部陽介

出版社： NHKブックス

出版年： 2005年

ISBN： 4-14-091028-3

## 気候変動はなぜ起こるのか

著者： ウォーレス・ブロッカー

出版社： ブルーボックス

出版年： 2006年

ISBN： 4-320-04682-X

## 古代文明と気候変動

著者： ブライアン・ファイガン

出版社： 河出書房新社

出版年： 2005年

ISBN： 4-309-25192-7

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 35 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 45 )

参加度と授業の中で行う基礎事項に関する小テストで評価する。授業中課題の提出は自由。

## 2017 Syllabus

科目名 地球環境論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 南 聡一郎	
テーマ 地球環境問題を解決させる方法と主体	
授業の到達目標 ・地球環境問題に取り組むことの重要性を理解する。・環境政策とはどんなものなのかということを理解する。・環境政策は、どのように決まり、誰が主体となって実施するのかを理解する。・地球環境問題に関する国際的などりくみ、国内や地域でのとりくみ、そしてその連携を理解する。	
授業の概要 本講義では、実際の環境問題の解決のためにどんなことが必要か、どんな人や組織が関わるのかということを中心に講義する。特に、環境問題の解決に不可欠な環境運動と市民活動・NGO/NPOについて重点的に講義を行う。テーマとして、主に地球温暖化問題と公害問題について学ぶ。また、環境問題は経済活動が原因として発生するので、環境問題の解決には経済学の知恵が欠かせない。環境税や環境評価といった環境経済学の手法についても学んでいく。	
準備学習(予習・復習) きちんと復習をしてノートを仕上げてください。テレビの環境番組などを見れば、興味がわき理解がわくのおすすめです。	
内 容 第1回 環境問題とは/環境問題の種類と主な環境事件 第2回 国連地球サミット(1992年)の意義 第3回 地球温暖化問題入門<映画:『不都合な真実』放映> 第4回 温暖化問題のメカニズムと影響 第5回 地球温暖化を巡る国際的などりくみ(条約) 第6回 二酸化炭素排出を減らす ~ごみと廃棄物編~ 第7回 二酸化炭素排出を減らす ~乗り物編~ 第8回 公害問題を学ぶ(1) 水俣病 第9回 公害問題を学ぶ(2) 大気汚染公害 第10回 公害問題を学ぶ(3) 公害地域の再生 第11回 エネルギーと環境問題 第12回 オーフス条約-環境政策の市民参加を定めた条約 第13回 環境経済学で環境問題を解決させる~前編~ 第14回 環境経済学で環境問題を解決させる~後編~ 第15回 持続可能な社会をめざして	
履修上の注意点 実習、就活などによる欠席は、申告があったものは考慮します。	

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

不都合な真実

著者: アル・ゴア

出版社: ランダムハウス講談社

出版年: 2007

ISBN: 427000181X

改訂版ごみの環境経済学

著者: 坂田 裕輔

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009

ISBN: 4771021074

地球温暖化の政治学

著者： 竹内啓二

出版社： 朝日新聞社

出版年： 1998

ISBN: 4022597046

環境経済学 新版

著者： 宮本憲一

出版社： 岩波書店

出版年： 2007

ISBN: 4000224816

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 地球環境論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 南 聡一郎	
テーマ 地球環境問題を解決させる方法と主体	
授業の到達目標 ・地球環境問題に取り組むことの重要性を理解する。・環境政策とはどんなものなのかということを理解する。・環境政策は、どのように決まり、誰が主体となって実施するのかを理解する。・地球環境問題に関する国際的などりくみ、国内や地域でのとりくみ、そしてその連携を理解する。	
授業の概要 本講義では、実際の環境問題の解決のためにどんなことが必要か、どんな人や組織が関わるのかということを中心に講義する。特に、環境問題の解決に不可欠な環境運動と市民活動・NGO/NPOについて重点的に講義を行う。テーマとして、主に地球温暖化問題と公害問題について学ぶ。また、環境問題は経済活動が原因として発生するので、環境問題の解決には経済学の知恵が欠かせない。環境税や環境評価といった環境経済学の手法についても学んでいく。	
準備学習(予習・復習) きちんと復習をしてノートを仕上げてください。テレビの環境番組などを見れば、興味がわき理解がわくのおすすめです。	
内 容 第1回 環境問題とは/環境問題の種類と主な環境事件 第2回 国連地球サミット(1992年)の意義 第3回 地球温暖化問題入門<映画:『不都合な真実』放映> 第4回 温暖化問題のメカニズムと影響 第5回 地球温暖化を巡る国際的などりくみ(条約) 第6回 二酸化炭素排出を減らす ~ごみと廃棄物編~ 第7回 二酸化炭素排出を減らす ~乗り物編~ 第8回 公害問題を学ぶ(1) 水俣病 第9回 公害問題を学ぶ(2) 大気汚染公害 第10回 公害問題を学ぶ(3) 公害地域の再生 第11回 エネルギーと環境問題 第12回 オーフス条約-環境政策の市民参加を定めた条約 第13回 環境経済学で環境問題を解決させる~前編~ 第14回 環境経済学で環境問題を解決させる~後編~ 第15回 持続可能な社会をめざして	
履修上の注意点 実習、就活などによる欠席は、申告があったものは考慮します。	

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

不都合な真実

著者: アル・ゴア

出版社: ランダムハウス講談社

出版年: 2007

ISBN: 427000181X

改訂版ごみの環境経済学

著者: 坂田 裕輔

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009

ISBN: 4771021074

地球温暖化の政治学

著者： 竹内啓二

出版社： 朝日新聞社

出版年： 1998

ISBN: 4022597046

環境経済学 新版

著者： 宮本憲一

出版社： 岩波書店

出版年： 2007

ISBN: 4000224816

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 エコロジー研究 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 環境と開発の総合的研究	
授業の到達目標 日本における山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ。	
授業の概要 毎回配付する資料にもとづき、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度。	

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本の自然保護(1)尾瀬
- 第3回 日本の自然保護(2)富士山
- 第4回 山と森林の自然保護(1)白神山地
- 第5回 山と森林の自然保護(2)国有林の危機
- 第6回 山と森林の自然保護(3)林業政策の大転換
- 第7回 川の自然保護(1)川の文化
- 第8回 川の自然保護(2)四万十川
- 第9回 川の自然保護(3)四万十川、琵琶湖
- 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
- 第11回 日本の世界遺産(1)屋久島
- 第12回 日本の世界遺産(2)知床
- 第13回 日本のエコツーリズム(沖縄)
- 第14回 世界のエコツーリズム(コスタリカ、ガラパゴス諸島)
- 第15回 レイチェル・カーゾン

## 履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁 出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁 向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる

## 教科書

## 参考書

日本の自然保護  
著者： 石川徹也  
出版社： 平凡社  
出版年： 2001年

ISBN:

シカと日本の森林  
著者： 依光良三編  
出版社： 築地書館  
出版年： 2011年

ISBN:

富士山を汚すのは誰か  
著者： 野口 健  
出版社： 角川書店  
出版年： 2008年

ISBN:

富士山の光と影

著者： 渡辺豊博

出版社： 清流出版

出版年： 2014年

ISBN:

森は海の恋人

著者： 畠山重篤

出版社： 北斗出版

出版年： 1994年

ISBN:

四万十川・歩いて下る

著者： 多田 実

出版社： 築地書館

出版年： 1995年

ISBN:

宝の海を取り戻せ

著者： 松橋隆司

出版社： 新日本出版社

出版年： 2008年

ISBN:

沈黙の春

著者： レイチェル・カーソン

出版社： 新潮社

出版年： 1974年

ISBN:

プロジェクトX第6巻

著者： NHKプロジェクトX制作班編

出版社： NHK出版

出版年： 2001年

ISBN:

世界遺産・知床がわかる本

著者： 中側 元

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN:

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 エコロジー研究 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 環境と開発の総合的研究	
授業の到達目標 日本における山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ	
授業の概要 毎回配付する資料にもとづき、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習) 講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度。	

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本の自然保護(1)尾瀬
- 第3回 日本の自然保護(2)富士山
- 第4回 山と森林の自然保護(1)白神山地
- 第5回 山と森林の自然保護(2)国有林の危機
- 第6回 山と森林の自然保護(3)林業政策の大転換
- 第7回 川の自然保護(1)川の文化
- 第8回 川の自然保護(2)四万十川
- 第9回 川の自然保護(3)四万十川、琵琶湖
- 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
- 第11回 日本の世界遺産(1)屋久島
- 第12回 日本の世界遺産(2)知床
- 第13回 日本のエコツーリズム(沖縄)
- 第14回 世界のエコツーリズム(コスタリカ、ガラパゴス諸島)
- 第15回 レイチェル・カーゾン

## 履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁、出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁 向上心を持って授業に集中する、必ずメモをとる

## 教科書

## 参考書

日本の自然保護  
著者： 石川徹也  
出版社： 平凡社  
出版年： 2001年

ISBN:

シカと日本の森林  
著者： 依光良三編  
出版社： 築地書館  
出版年： 2011年

ISBN:

富士山を汚すのは誰か  
著者： 野口 健  
出版社： 角川書店  
出版年： 2008年

ISBN:



富士山の光と影

著者： 渡辺豊博

出版社： 清流出版

出版年： 2014年

ISBN:

森は海の恋人

著者： 畠山重篤

出版社： 北斗出版

出版年： 1994年

ISBN:

四万十川・歩いて下る

著者： 多田 実

出版社： 築地書館

出版年： 1995年

ISBN:

宝の海を取り戻せ

著者： 松橋隆司

出版社： 新日本出版社

出版年： 2008年

ISBN:

沈黙の春

著者： レイチェル・カーソン

出版社： 新潮社

出版年： 1974年

ISBN:

プロジェクトX第6巻

著者： NHKプロジェクトX制作班編

出版社： NHK出版

出版年： 2001年

ISBN:

世界遺産・知床がわかる本

著者： 中川 元

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

科目名 自然の探求 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 岡野 淳一	
テーマ	現在の生物の多様さは数十億年の月日をかけて形成されてきたが、近年、人間活動による生物多様性の急激な減少が危惧されている。本講義では、生態学の基礎を学びながら、生物多様性とはなにかを理解する。またその応用として、生態系の保全についても考えていく。
授業の到達目標	生態学の基礎を習得し、生物多様性の意味を理解する。また、その理解を通じて生態系の保全について自分なりの考えを持つ。
授業の概要	生物多様性の構成要素である、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性について生態学的視点から解説していく。
準備学習(予習・復習)	基本的には予習なく授業内で理解できるよう講義するため、授業後の復習をしっかりと行うこと。また、新聞などのメディアで野生生物に関するニュースがあれば、授業内容と照らし合わせ自分なりに考えてみる事が望まれる。
内 容	<p>第1回 授業ガイダンス～生態系とは何か</p> <p>第2回 生態系の恩恵</p> <p>第3回 生態系を調べる・「種」とは何か？</p> <p>第4回 種多様性1</p> <p>第5回 種多様性2</p> <p>第6回 種多様性3</p> <p>第7回 種多様性4</p> <p>第8回 生態系の多様性1</p> <p>第9回 生態系の多様性2</p> <p>第10回 外来種1</p> <p>第11回 外来種2</p> <p>第12回 外来種3</p> <p>第13回 遺伝的多様性1</p> <p>第14回 遺伝的多様性2</p> <p>第15回 テスト</p>
履修上の注意点	疑問などがあればその都度、遠慮なく質問してください。また、授業中に質問をすることがあり、評価対象となります。間違っても積極的に答えた場合、評価します。
教科書	
参考書	<p>生物多様性と生態学</p> <p>著者： 宮下直・井鷲裕司・千葉聡</p> <p>出版社： 朝倉書店</p> <p>出版年： 2012 ISBN: 4254171501</p> <p>生物多様性のしくみを解く</p> <p>著者： 宮下 直</p> <p>出版社： 工作舎</p> <p>出版年： 2014 ISBN: 4875024568</p>
成績評価	<p>試験・レポート ( 50 )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( 50 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>

## 2017 Syllabus

科目名 地理学概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 中西 和子

テーマ

地理学の成立を学び、世界・日本の諸地域について理解を深める。あわせて、地理教育に関する諸問題について考える。

授業の到達目標

「地理学」は他の研究分野とどのように異なり、どのように類似するのか考え、「地理学的発想」および「地理学的手法」を取得する。さらに上記を踏まえ、現代社会に必要な地理知識について検証する力を養う。

授業の概要

教科書は指定せず、配布プリントにて行うものとする。パワーポイントも使用するが、一部、全体でのディスカッション含む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション:いままでの地理で習ったこと、覚えていますか?—“ジャングル大帝レオ”って、正しいですか?  
 第2回 地理学と地図1 人は何故、地図を描くのか—“文字”が先か“地図”が先か?  
 第3回 地理学と地図2 日本で最初の地図とそれから—何を何に描いたのか?  
 第4回 地理学と地図3 地理学の必殺技!“地図化する”ということ  
 第5回 地理学の成立と展開1 王子様の必須科目!—ヘカタイオスからアレクサンダーの東方遠征  
 第6回 地理学の成立と展開2 教養人の必須科目へ—エデンの園と新世界発見  
 第7回 地理学の成立と展開3 近代地理学の成立—「環境決定論」と「環境可能論」の仁義なき戦い  
 第8回 日本における地理学の成立  
 第9回 新しい(?)「環境決定論」—『銃・病原菌・鉄』  
 第10回 アジア諸地域と人びとの暮らし ギョーザは主食?それともおかず?  
 第11回 ヨーロッパ諸地域と人びとの暮らし ショコラティエは、夏、何やってるの?  
 第12回 現代の日本の諸地域と人びとの暮らし1 日本の農業の不思議について  
 第13回 現代の日本の諸地域と人びとの暮らし2 大都市の“電力”の不思議について  
 第14回 かつての街道と現代の高速道路—地理条件と社会条件、勝つのはどっち?  
 第15回 「地理教育」の問題点—どうして“地理嫌い”が多いの?

履修上の注意点

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(40)

小テスト( )

授業中課題(10)

授業中発表等( )

参加度(50)

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従來說など既往の研究をまとめるだけでなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

## 2017 Syllabus

## 科目名 生活の中の数学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 西村 徳寿	
テーマ	自然や実生活のなかに数学が深く関わっていることを知り、数学への興味・関心を高め、市民としての数学的リテラシーを培う。
授業の到達目標	数学が関わっている具体的な事象や場面に隠されている法則性やパターンを分析・考察することを通じて、論理的な思考力や判断力を身につけ、実社会で数学を活用しようとする姿勢を育む。
授業の概要	小中高の算数・数学の内容を自然や生活との関わりという視点で捉え直しつつ、現代数学の内容にもふれながら、数学の楽しさや面白さを実感できるような内容にしたい。高校までの数学が苦手であった学修者にも配慮をしながら授業を進める。
準備学習(予習・復習)	授業中に授業内容に関連した書籍を紹介する。授業中課題にとりくむ際の参考資料として活用して欲しい。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション ネットショッピングの秘密など</p> <p>第2回 1次関数で考えるスマホ料金</p> <p>第3回 斜面の運動から2次関数へ</p> <p>第4回 瞬間の速さを捉える！ 微分・積分</p> <p>第5回 オウムガイとアワビの数学 相似・指数関数</p> <p>第6回 ねずみ講やサラ金から身を守るために 指数関数</p> <p>第7回 ローンの返済 片対数グラフの活用</p> <p>第8回 放射能の数学</p> <p>第9回 統計に騙されないためにⅠ(記述統計)</p> <p>第10回 統計に騙されないためにⅡ(推測統計)</p> <p>第11回 確率とは何か? 「確率の実験」</p> <p>第12回 確率の利用「宝くじの値打ちは？」</p> <p>第13回 一筆書きの数学「グラフ理論」</p> <p>第14回 トポロジー「コーヒーカップとドーナツは同じ形？」</p> <p>第15回 フラクタル「カリフラワーの表面積は求められるのか？」</p>
履修上の注意点	・授業終了後、リフレクションペーパーに質問や授業の感想を求めることがある。・授業中の課題の中から小テストを実施する。・座席指定を行う。
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
参考書	<p>教科書では教えてくれない! ほんとうに使える数学 基礎編</p> <p>著者: 芳沢 光雄</p> <p>出版社: 実業之日本社</p> <p>出版年: 2014 ISBN: 978-4408335131</p> <p>意味がわかれば数学の風景が見えてくる</p> <p>著者: 野崎昭弘, 伊藤潤一, 何森仁, 小澤健一</p> <p>出版社: ベレ出版; 改訂合本版</p> <p>出版年: 2011 ISBN: 978-4860642976</p>
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( 30% )</p> <p>授業中課題 ( 50% ) 授業中発表等 ( )</p>



## 2017 Syllabus

科目名 物理学基礎 &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 富岡 康

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の概要

運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 物体の運動
- 第2回 力のつりあい(1)
- 第3回 力のつりあい(2)
- 第4回 運動の法則(1)
- 第5回 運動の法則(2)
- 第6回 仕事とエネルギー(1)
- 第7回 仕事とエネルギー(2)
- 第8回 仕事とエネルギー(3) -力のモーメント
- 第9回 温度と熱
- 第10回 仕事と熱エネルギー
- 第11回 電気(1)
- 第12回 電気(2)
- 第13回 波動
- 第14回 音波
- 第15回 光波

履修上の注意点

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい物理

著者: 金原 稔

出版社: 実教出版

出版年: 2009年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

## 2017 Syllabus

科目名 **物理学基礎 <b>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 富岡 康

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の概要

運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 物体の運動
- 第2回 力のつりあい(1)
- 第3回 力のつりあい(2)
- 第4回 運動の法則(1)
- 第5回 運動の法則(2)
- 第6回 仕事とエネルギー(1)
- 第7回 仕事とエネルギー(2)
- 第8回 仕事とエネルギー(3) -力のモーメント
- 第9回 温度と熱
- 第10回 仕事と熱エネルギー
- 第11回 電気(1)
- 第12回 電気(2)
- 第13回 波動
- 第14回 音波
- 第15回 光波

履修上の注意点

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい物理

著者: 金原 稔

出版社: 実教出版

出版年: 2009年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)



## 2017 Syllabus

科目名 化学基礎 &lt;a&gt;

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 富岡 康		
テーマ	私たちの日常生活において利用されている様々な物質(マクロ)の変化を微視的(ミクロ)な目で見ていく。	
授業の到達目標	私たちは化学変化を利用して生活している。その変化は決して偶発的なものでなく必然性があり、その必然性を知ることで、化学変化を利用することができる。文明をこのように進化させてきた化学を深く学ぶことにより、化学に興味を持つとともに、今後化学を活かして様々な可能性にチャレンジできることを目的とする。	
授業の概要	化学の基礎概念を教材に沿い丁寧に解説するとともに、日常生活への化学の利用を具体例をあげ解説する。	
準備学習(予習・復習)	必ず、前回の復習をすること。予習はしなくて良い。	
内 容	<p>第1回 なぜ化学を学ぶか。物質は何からできているか。</p> <p>第2回 物質の最小単位について・・・原子・イオン・分子</p> <p>第3回 原子とイオン</p> <p>第4回 分子の形はどうして決まるか・・・電子軌道</p> <p>第5回 異性体と立体構造</p> <p>第6回 物質の三態・・・固体・液体・気体</p> <p>第7回 溶液について(1)</p> <p>第8回 溶液について(2)</p> <p>第9回 化学変化はなぜ起こるか</p> <p>第10回 触媒・化学平衡</p> <p>第11回 酸と塩基(1)</p> <p>第12回 酸と塩基(2)</p> <p>第13回 酸化と還元</p> <p>第14回 日常の中の化学(1)</p> <p>第15回 日常の中の化学(2)</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>新化学「もの」を見る目</p> <p>著者： 大野惇吉 安井伸郎他</p> <p>出版社： 三共出版</p> <p>出版年： 2015年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (0%)</p> <p>授業中課題 (20%)</p> <p>参加度 (40%)</p> <p>小テスト (40%)</p> <p>授業中発表等 (0%)</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 化学基礎 &lt;b&gt;

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 200

履修条件

クラス指定

担当者 富岡 康

テーマ

私たちの日常生活において利用されている様々な物質(マクロ)の変化を微視的(ミクロ)な目で見ていく。

授業の到達目標

私たちは化学変化を利用して生活している。その変化は決して偶発的なものでなく必然性があり、その必然性を知ることで、化学変化を利用することができる。文明をこのように進化させてきた化学を深く学ぶことにより、化学に興味を持つとともに、今後化学を活かして様々な可能性にチャレンジできることを目的とする。

授業の概要

化学の基礎概念を教材に沿い丁寧に解説するとともに、日常生活への化学の利用を具体例をあげ解説する。

準備学習(予習・復習)

必ず、前回の復習をすること。予習はしなくて良い。

内 容

- 第1回 なぜ化学を学ぶか。物質は何からできているか。
- 第2回 物質の最小単位について・・・原子・イオン・分子
- 第3回 原子とイオン
- 第4回 分子の形はどうして決まるか・・・電子軌道
- 第5回 異性体と立体構造
- 第6回 物質の三態・・・固体・液体・気体
- 第7回 溶液について(1)
- 第8回 溶液について(2)
- 第9回 化学変化はなぜ起こるか
- 第10回 触媒・化学平衡
- 第11回 酸と塩基(1)
- 第12回 酸と塩基(2)
- 第13回 酸化と還元
- 第14回 日常の中の化学(1)
- 第15回 日常の中の化学(2)

履修上の注意点

教科書

新化学「もの」を見る目

著者： 大野惇吉 安井伸郎他

出版社： 三共出版

出版年： 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

## 2017 Syllabus

科目名 生物学基礎 &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 200

履修条件 クラス指定

担当者 富岡 康

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

準備学習(予習・復習)

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジメを予習しておくこと。

内 容

- 第1回 細胞生物学(1) 細胞の構造と役割
- 第2回 細胞生物学(2) 細胞を構成する物質-1
- 第3回 細胞生物学(3) 細胞を構成する物質-2
- 第4回 細胞生物学(4) エネルギー、酵素、代謝
- 第5回 細胞生物学(5) エネルギー獲得
- 第6回 遺伝(1)メンデル遺伝学とその後
- 第7回 遺伝(2)DNAと遺伝におけるその役割
- 第8回 遺伝(3)DNAからタンパク合成まで
- 第9回 発生と老化(1)
- 第10回 発生と老化(2)
- 第11回 脳の構造と機能
- 第12回 がん
- 第13回 食と健康(1)
- 第14回 食と健康(2)
- 第15回 感染と免疫

履修上の注意点

教科書

やさしい基礎生物学 第2版

著者: 南雲 保 編

出版社: 羊土社

出版年: 2014年

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

## 2017 Syllabus

科目名 **生物学基礎 <b>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 富岡 康		
テーマ	専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。	
授業の到達目標	高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。	
授業の概要	生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。	
準備学習(予習・復習)	毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジメを予習しておくこと。	
内 容	第1回 細胞生物学(1) 細胞の構造と役割 第2回 細胞生物学(2) 細胞を構成する物質-1 第3回 細胞生物学(3) 細胞を構成する物質-2 第4回 細胞生物学(4) エネルギー、酵素、代謝 第5回 細胞生物学(5) エネルギー獲得 第6回 遺伝(1)メンデル遺伝学とその後 第7回 遺伝(2)DNAと遺伝におけるその役割 第8回 遺伝(3)DNAからタンパク合成まで 第9回 発生と老化(1) 第10回 発生と老化(2) 第11回 脳の構造と機能 第12回 がん 第13回 食と健康(1) 第14回 食と健康(2) 第15回 感染と免疫	
履修上の注意点		
教科書	やさしい基礎生物学 第2版 著者：南雲 保 編 出版社：羊土社 出版年：2014年	
参考書	ISBN: 9.78476E+12	
成績評価	試験・レポート (0%) 授業中課題 (20%) 参加度 (40%)	
	小テスト (40%) 授業中発表等 (0%)	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 石田 恵子

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)
- 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)
- 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業
- 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)
- 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業
- 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)
- 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)
- 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)
- 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業
- 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)
- 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上での提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <b>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中村 純	
テーマ	
大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。	
授業の到達目標	
①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得	
授業の概要	
自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。	
準備学習(予習・復習)	
週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。	
内 容	
第1回	オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)
第2回	自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)
第3回	先輩体験談を聴こう① ※合同授業
第4回	大学生生活の目標設定①(解説とワーク)
第5回	大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)
第6回	大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)
第7回	PROGテスト解説会 ※合同授業
第8回	目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)
第9回	目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)
第10回	目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)
第11回	先輩体験談を聴こう② ※合同授業
第12回	大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)
第13回	大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)
第14回	大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)
第15回	半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)
履修上の注意点	
授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上での提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。	
教科書	
授業でワークブックを配布する	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( 50 )	
本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <c>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小川 明美	

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)
- 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)
- 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業
- 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)
- 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業
- 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)
- 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)
- 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)
- 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業
- 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)
- 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上で提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <d>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 加輪上 有里	

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)
- 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)
- 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業
- 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)
- 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業
- 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)
- 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)
- 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)
- 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業
- 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)
- 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上で提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <e>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹中 美貴	

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)
- 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)
- 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業
- 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)
- 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業
- 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)
- 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)
- 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)
- 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業
- 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)
- 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上で提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I** <付>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 石田 恵子

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)  
 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)  
 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業  
 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)  
 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)  
 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)  
 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業  
 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)  
 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)  
 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)  
 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業  
 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)  
 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)  
 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)  
 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上での提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <g>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 中村 純	

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)
- 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)
- 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業
- 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)
- 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業
- 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)
- 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)
- 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)
- 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業
- 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)
- 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上で提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <h>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小川 明美	

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)
- 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)
- 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業
- 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)
- 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業
- 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)
- 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)
- 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)
- 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業
- 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)
- 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上で提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <i>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 加輪上 有里	

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)  
 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)  
 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業  
 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)  
 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)  
 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)  
 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業  
 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)  
 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)  
 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)  
 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業  
 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)  
 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)  
 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)  
 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上での提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアゼミ I <j>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹中 美貴	

テーマ

大学生生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解 ②大学生生活の目標設定とプラン策定 ③卒業後の目標設定 ④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定等の解説を行い、課題として授業内外でのワークと授業内でのプレゼンテーションを課す。また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習(予習・復習)

週毎の目標・予定をきちんとたて、実践すること。KT-note上で出される課題を通じて、予復習を行うこと。また多読百遍～文学部多読プログラム～もしっかりと習慣的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と概要、課題とKT-note利用の説明) 自分史作成ワーク①(解説とワーク)
- 第2回 自分史作成ワーク②(プレゼンテーション)
- 第3回 先輩体験談を聴こう① ※合同授業
- 第4回 大学生生活の目標設定①(解説とワーク)
- 第5回 大学生生活の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第6回 大学生生活の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第7回 PROGテスト解説会 ※合同授業
- 第8回 目標実現のためのプランニング①(解説とワーク)
- 第9回 目標実現のためのプランニング②(プレゼンテーション前半)
- 第10回 目標実現のためのプランニング③(プレゼンテーション後半)
- 第11回 先輩体験談を聴こう② ※合同授業
- 第12回 大学卒業後の目標設定①(解説とワーク)
- 第13回 大学卒業後の目標設定②(プレゼンテーション前半)
- 第14回 大学卒業後の目標設定③(プレゼンテーション後半)
- 第15回 半期を振り返って(解説とワーク、プレゼンテーション)

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーションが基本サイクルの授業である。したがって、欠席は厳格に取り扱う。また、課題はすべてKT-note上での提出となるので、使いこなせるように触ってみておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

本科目は学習習慣を身につけ、目標をもった大学生生活を送ることを目的とした授業である。そのためには「授業でのワークとプレゼンテーション」「課題の提出」は重大要素であるため、授業欠席や課題未提出については厳格に取り扱う。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座 I <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	山脇 康彦	
テーマ	夢・目標に向かってキャリア・デザインを考えるきっかけとする	
授業の到達目標	世の中にどんなビジネスがあるのか、また、これからの企業経営に求められる人材について理解する。加えて、話題の現代用語などについても理解を深める。	
授業の概要	講義を中心に、適宜、演習などを交えて進める	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キャリア開発と大学生活</p> <p>第3回 キャリア開発に向けて①(自分を知る)</p> <p>第4回 キャリア開発に向けて②(社会を知る)</p> <p>第5回 衣料品やペットボトル飲料を私たちが手にするまでのしくみ</p> <p>第6回 会社のしくみ、いろいろな職種</p> <p>第7回 &lt;演習&gt;机上インターンシップ体験(営業企画体験)</p> <p>第8回 社会人基礎力を磨く(言葉遣い、考える力、伝える力など)</p> <p>第9回 求められる資質、人材像①(学生の思い、企業の思い)</p> <p>第10回 求められる資質、人材像②(現役面接担当者的話から)</p> <p>第11回 &lt;演習&gt;伝える力(文章力)を磨く</p> <p>第12回 インターネット社会を知る</p> <p>第13回 いろいろな働き方とキャリア開発(公務員、NPOほか)</p> <p>第14回 私のキャリアデザイン</p> <p>第15回 まとめ(総括)</p>	
履修上の注意点	①日ごろから日本経済新聞や業界地図などに目をとおしておく ②日常の買い物で感動したこと、ガッカリしたことをメモしておく	
教科書	使用しません	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
日本の優良企業パーフェクトガイドブック2018年度版		
著者: 日経HR		
出版社: 日本経済新聞出版社		
出版年:	ISBN: 9.78453E+12	
成績評価		
試験・レポート ( )	小テスト ( )	
授業中課題 (60)	授業中発表等 ( )	
参加度 (40)		

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座 I <b>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	山脇 康彦	
テーマ	夢・目標に向かってキャリア・デザインを考えるきっかけとする	
授業の到達目標	世の中にどんなビジネスがあるのか、また、これからの企業経営に求められる人材について理解する。加えて、話題の現代用語などについても理解を深める。	
授業の概要	講義を中心に、適宜、演習などを交えて進める	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 キャリア開発と大学生活</p> <p>第3回 キャリア開発に向けて①(自分を知る)</p> <p>第4回 キャリア開発に向けて②(社会を知る)</p> <p>第5回 衣料品やペットボトル飲料を私たちが手にするまでのしくみ</p> <p>第6回 会社のしくみ、いろいろな職種</p> <p>第7回 &lt;演習&gt;机上インターンシップ体験(営業企画体験)</p> <p>第8回 社会人基礎力を磨く(言葉遣い、考える力、伝える力など)</p> <p>第9回 求められる資質、人材像①(学生の思い、企業の思い)</p> <p>第10回 求められる資質、人材像②(現役面接担当者的話から)</p> <p>第11回 &lt;演習&gt;伝える力(文章力)を磨く</p> <p>第12回 インターネット社会を知る</p> <p>第13回 いろいろな働き方とキャリア開発(公務員、NPOほか)</p> <p>第14回 私のキャリアデザイン</p> <p>第15回 まとめ(総括)</p>	
履修上の注意点	①日ごろから日本経済新聞や業界地図などに目をとおしておく ②日常の買い物で感動したこと、ガッカリしたことをメモしておく	
教科書	使用しません	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	日本の優良企業パーフェクトガイドブック2018年度版	
著者:	日経HR	
出版社:	日本経済新聞出版社	
出版年:	ISBN: 9.78453E+12	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( )	
	授業中課題 ( 60 ) 授業中発表等 ( )	
	参加度 ( 40 )	



## 2017 Syllabus

## 科目名 キャリア開発演習Ⅰ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 地域政策—公務員の仕事	
授業の到達目標	1.地域政策を担う地方公共団体の仕組みと現状を理解する。2.地方公務員が担う地方行政の特質と機能を、自らが働くことを想定しつつ、具体的に知る。3.公務員になるための公務員試験の特色を知り、チャレンジするための心構えとスケジュールづくりを行う。
授業の概要	公務員試験を受験することを前提として、受験しようとする地方自治体を選んで、自発的に研究を行う。個人の地道な積み上げが基本だが、刺激を与えるためグループ化が進むような学修方法も検討する予定。
準備学習(予習・復習)	公務員試験のための授業外学習が不可欠なので、生協などの情報を事前に調べ、そのセミナーなどを活用すること。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、自己紹介 教科書を前半は使うので事前に用意すること 憲法、民法、行政法、政治学概論ⅠⅡ、行政学、経済学などの受講(予定)科目を聞き、各人の学習スタンスを確認する</p> <p>第2回 地域政策の概要 志望動機にどう関わるか</p> <p>第3回 地方行政とは何か 志望動機に関係して考える</p> <p>第4回 地方自治制度の理解 地方財政や公務員制度の特質などまず何か一つに詳しくなるようにする</p> <p>第5回 地方公務員のイメージと実際の働くすがた(1) 世間的印象と実体との乖離の理由を考える</p> <p>第6回 地方公務員のイメージと実際の働くすがた(2) 地方公務員というキャリアと民間企業キャリアとの関係</p> <p>第7回 公務員になるための基礎知識チェック① 元号と西暦、大きな数字、都道府県と政令指定都市</p> <p>第8回 公務員になるための基礎知識チェック② 地方自治の基本</p> <p>第9回 公務員になるための基礎知識チェック③ 憲法と行政法、地方自治法</p> <p>第10回 時事的ニュースをもとに、地域課題に向き合う公務員のあり型を考える①</p> <p>第11回 時事的ニュースをもとに、地域課題に向き合う公務員のあり型を考える②</p> <p>第12回 地方公務員に必要な政治学的・行政学的知識</p> <p>第13回 会計検査院、国税庁、労働基準監督署などを例に公務員のイメージを具体化する(1)</p> <p>第14回 会計検査院、国税庁、労働基準監督署などを例に公務員のイメージを具体化する(2)</p> <p>第15回 まとめ—これからの公務員試験勉強のスケジュールづくり—</p>
履修上の注意点	マイ自治体というテーマでレポートを作成してもらう予定なので、地元の自治体のニュースをスクラップしたり、現地訪問するようにすること。

## 教科書

## 参考書

公務員試験 現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本 2017年度

著者： 大賀 英徳

出版社： 実務教育出版

出版年： 2015 ISBN： 9.78479E+12

コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践

著者： 中川幾郎編著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011 ISBN：

コミュニティデザイナー—人がつながるしくみをつくる

著者： 山崎亮

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011 ISBN：

地域主権時代の新しい公共: 希望を拓くNPOと自治・協働改革

著者: 今瀬政司

出版社: 学芸出版社

出版年: 2011

ISBN:

地方自治ことばの基礎知識 キーワードを通して地域主権を考える

著者: 兼子仁

出版社: ぎょうせい

出版年: 2010

ISBN:

教育の職業的意義ー若者、学校、社会をつなぐ

著者: 本田由紀

出版社: 筑摩書房

出版年: 2009

ISBN:

大学センターのぶっちゃけ話ー知的現場主義の就職活動ー

著者: 沢田健太

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2011

ISBN:

大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法

著者: 松本茂他

出版社: 玉川大学出版部

出版年: 2007

ISBN:

公務員試験のカラクリ

著者: 大原暲

出版社: 光文社

出版年: 2011

ISBN:

肚が据わった公務員になる!

著者: 中野雅至

出版社: 朝日新聞出版

出版年: 2014

ISBN: 9.78402E+12

---

#### 成績評価

試験・レポート (20)

小テスト (40)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

数回ミニテスト(問題を事前に提示する)を行うので、欠席がちな学生は友達にテストがあることを教えてもらうようにすること。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ〈教職〉**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定

担当者 西村 徳寿

テーマ

教職に就くにあたって求められる基本的な数学の力を育てる。

授業の到達目標

教員採用試験に出題される数学の問題が解けるように、数Ⅰや数Aの復習と問題演習等を通じて、判断力、推理力、思考力を養う。

授業の概要

教材は教員採用試験の過去問題等、判断力、推理力、思考力を養う問題を取り扱う。授業進行は以下の2通りのどちらかの方法で行う予定。ケース1:前半は各自で解いてから後半は授業者が講評と解説を行う。ケース2:前半は各自で解いてからグループ毎に教え合い、後半は解法をグループ毎に発表し合う。

準備学習(予習・復習)

\*数Ⅰと数Aの内容を復習し、わからない点を質問してほしい。

内 容

- 第1回 教員採用試験の問題のレベルと傾向
- 第2回 教員採用試験の過去問から 都道府県別①
- 第3回 教員採用試験の過去問から 都道府県別②
- 第4回 教員採用試験の過去問から 都道府県別③
- 第5回 教員採用試験の過去問から 都道府県別④
- 第6回 教員採用試験の過去問から 都道府県別⑤
- 第7回 教員採用試験の過去問から 都道府県別⑥
- 第8回 教員採用試験の過去問から 都道府県別⑦
- 第9回 教員採用試験の過去問から 分野別①
- 第10回 教員採用試験の過去問から 分野別②
- 第11回 教員採用試験の過去問から 分野別③
- 第12回 教員採用試験の過去問から 分野別④
- 第13回 教員採用試験の過去問から 分野別⑤
- 第14回 教員採用試験 模擬授業や面接に向けて
- 第15回 教員採用試験 これまでの授業を振り返っての成果と課題をまとめる

履修上の注意点

\*集中して思考する力を養うために数分間の認知トレーニングテストを行う場合もあります。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

関野喬のパターンでわかる判断推理 まるごと講義生中継 第4版(公務員試験 まるごと講義生中継シリーズ)

著者: TAC公務員講座、関野 喬

出版社: TAC出版

出版年: 2013

ISBN: 978-4813248729

関野喬のパターンでわかる数的推理 まるごと講義生中継 第4版(公務員試験 まるごと講義生中継シリーズ)

著者: TAC公務員講座、関野 喬

出版社: TAC出版

出版年: 2013

ISBN: 978-4813248712

関野喬のパターンでわかる空間把握・資料解釈 まるごと講義生中継 第3版(公務員試験 まるごと講義生中継シリーズ)

著者: TAC公務員講座、関野 喬

出版社: TAC出版

出版年: 2013

ISBN: 978-4813248736

CD付 コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング

著者: 宮口 幸治

出版社: 三輪書店

出版年: 2015

ISBN: 978-4895905060

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。

---

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	小倉 寿雄	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。	
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます	
授業の概要	講義 グループ討議 発表の流れで理解を深めていきます。	
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと	
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 社会人の基礎力</p> <p>第3回 私の価値観(キャリア)を考える①</p> <p>第4回 私の価値観(ミッションステートメント)を考える②</p> <p>第5回 人生の目的・自己表現</p> <p>第6回 少子高齢化・今後の日本を考える</p> <p>第7回 グローバル経済を考える</p> <p>第8回 企業エントリーシート・履歴書</p> <p>第9回 ゲストスピーカー(就職支援リクナビ)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第12回 ケーススタディ(総合教育課)予定</p> <p>第13回 ケーススタディ(キャリアセンター)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ(キャリアメイト活動報告)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (0%)</p> <p>授業中課題 (50%)</p> <p>参加度 (30%)</p> <p>小テスト (0%)</p> <p>授業中発表等 (20%)</p> <p>毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <b>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	堀越 昭夫	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。	
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます	
授業の概要	講義 グループ討議 発表の流れで理解を深めていきます。	
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと	
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 社会人の基礎力</p> <p>第3回 私の価値観(キャリア)を考える①</p> <p>第4回 私の価値観(ミッションステートメント)を考える②</p> <p>第5回 人生の目的・自己表現</p> <p>第6回 少子高齢化・今後の日本を考える</p> <p>第7回 グローバル経済を考える</p> <p>第8回 企業エントリーシート・履歴書</p> <p>第9回 ゲストスピーカー(就職支援リクナビ)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第12回 ケーススタディ(総合教育課)予定</p> <p>第13回 ケーススタディ(キャリアセンター)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ(キャリアメイト活動報告)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (0%)</p> <p>授業中課題 (50%)</p> <p>参加度 (30%)</p> <p>小テスト (0%)</p> <p>授業中発表等 (20%)</p> <p>毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <c>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	小倉 寿雄	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。	
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます	
授業の概要	講義 グループ討議 発表の流れで理解を深めていきます。	
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと	
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 社会人の基礎力</p> <p>第3回 私の価値観(キャリア)を考える①</p> <p>第4回 私の価値観(ミッションステートメント)を考える②</p> <p>第5回 人生の目的・自己表現</p> <p>第6回 少子高齢化・今後の日本を考える</p> <p>第7回 グローバル経済を考える</p> <p>第8回 企業エントリーシート・履歴書</p> <p>第9回 ゲストスピーカー(就職支援リクナビ)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第12回 ケーススタディ(総合教育課)予定</p> <p>第13回 ケーススタディ(キャリアセンター)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ(キャリアメイト活動報告)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (0%)</p> <p>授業中課題 (50%)</p> <p>参加度 (30%)</p> <p>小テスト (0%)</p> <p>授業中発表等 (20%)</p> <p>毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <d>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	堀越 昭夫	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。	
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます	
授業の概要	講義 グループ討議 発表の流れで理解を深めていきます。	
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと	
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 社会人の基礎力</p> <p>第3回 私の価値観(キャリア)を考える①</p> <p>第4回 私の価値観(ミッションステートメント)を考える②</p> <p>第5回 人生の目的・自己表現</p> <p>第6回 少子高齢化・今後の日本を考える</p> <p>第7回 グローバル経済を考える</p> <p>第8回 企業エントリーシート・履歴書</p> <p>第9回 ゲストスピーカー(就職支援リクナビ)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第12回 ケーススタディ(総合教育課)予定</p> <p>第13回 ケーススタディ(キャリアセンター)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ(キャリアメイト活動報告)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (0%)</p> <p>授業中課題 (50%)</p> <p>参加度 (30%)</p> <p>小テスト (0%)</p> <p>授業中発表等 (20%)</p> <p>毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります</p>	



## 2017 Syllabus

## 科目名 キャリアデザイン入門 &lt;G&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定

担当者 小倉 寿雄

## テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

## 授業の到達目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとて重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

## 授業の概要

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。(4)スケジュールを変更することもあります。

## 準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
- 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
- 第3回 これからの学生生活を考える
- 第4回 私の価値観を考える①
- 第5回 私の価値観を考える②
- 第6回 人生の目的・目標①
- 第7回 人生の目的・目標②
- 第8回 人生の目的・目標③
- 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
- 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
- 第11回 ケーススタディ①
- 第12回 ゲストスピーカー
- 第13回 ケーススタディ②
- 第14回 ケーススタディ③
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <f>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	堀越 昭夫	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。	
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます	
授業の概要	講義 グループ討議 発表の流れで理解を深めていきます。	
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと	
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 社会人の基礎力</p> <p>第3回 私の価値観(キャリア)を考える①</p> <p>第4回 私の価値観(ミッションステートメント)を考える②</p> <p>第5回 人生の目的・自己表現</p> <p>第6回 少子高齢化・今後の日本を考える</p> <p>第7回 グローバル経済を考える</p> <p>第8回 企業エントリーシート・履歴書</p> <p>第9回 ゲストスピーカー(就職支援リクナビ)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー(企業)予定</p> <p>第12回 ケーススタディ(総合教育課)予定</p> <p>第13回 ケーススタディ(キャリアセンター)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ(キャリアメイト活動報告)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (0%) 小テスト (0%)</p> <p>授業中課題 (50%) 授業中発表等 (20%)</p> <p>参加度 (30%)</p> <p>毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間	その他	定員 200
履修条件	キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定
担当者	(閉講:開⇒閉)	
テーマ	大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。</li> <li>・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。</li> </ul>	
授業の概要	授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各单元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。	
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出	
内 容	<p>第1回 ガイダンス・プレテスト</p> <p>第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I</p> <p>第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II</p> <p>第4回 基礎国語③ 文章力育成 I</p> <p>第5回 基礎国語④ 文章力育成 II</p> <p>第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III</p> <p>第7回 基礎数学① 四則混合計算からの総復習</p> <p>第8回 基礎数学② 単位変換、速さの計算等の総復習</p> <p>第9回 基礎数学③ 速さに関する問題 I</p> <p>第10回 基礎数学④ 速さに関する問題 II</p> <p>第11回 基礎数学⑤ 金銭に関する問題 I</p> <p>第12回 基礎数学⑥ 金銭に関する問題 II</p> <p>第13回 基礎数学⑦ 場合の数・確率</p> <p>第14回 基礎数学⑧ 資料の整理・集合</p> <p>第15回 基礎数学⑨ 推論・ファイナルテスト</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>イングオリジナルテキスト</p> <p>著者: 株式会社イング</p> <p>出版社: 株式会社イング</p> <p>出版年: 2016年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (40)</p> <p>授業中課題 (40)</p> <p>参加度 ( )</p> <p>小テスト (20)</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 200
履修条件 キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定

担当者 濱田 剛

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

授業の到達目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
- ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各單元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
- 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
- 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
- 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
- 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
- 第7回 基礎数学① 四則混合計算からの総復習
- 第8回 基礎数学② 単位変換、速さの計算等の総復習
- 第9回 基礎数学③ 速さに関する問題 I
- 第10回 基礎数学④ 速さに関する問題 II
- 第11回 基礎数学⑤ 金銭に関する問題 I
- 第12回 基礎数学⑥ 金銭に関する問題 II
- 第13回 基礎数学⑦ 場合の数・確率
- 第14回 基礎数学⑧ 資料の整理・集合
- 第15回 基礎数学⑨ 推論・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者: 株式会社イング

出版社: 株式会社イング

出版年: 2016年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <d>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定
担当者	籠田 彰宏・森本 哲夫	
テーマ	大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。</li> <li>・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。</li> </ul>	
授業の概要	授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各單元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。	
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出	
内 容	<p>第1回 ガイダンス・プレテスト</p> <p>第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I</p> <p>第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II</p> <p>第4回 基礎国語③ 文章力育成 I</p> <p>第5回 基礎国語④ 文章力育成 II</p> <p>第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III</p> <p>第7回 基礎数学① 速さに関する問題 I</p> <p>第8回 基礎数学② 速さに関する問題 II</p> <p>第9回 基礎数学③ 金銭に関する問題 I</p> <p>第10回 基礎数学④ 金銭に関する問題 II</p> <p>第11回 基礎数学⑤ 場合の数・確率</p> <p>第12回 基礎数学⑥ 資料の整理・集合</p> <p>第13回 基礎数学⑦ 推論</p> <p>第14回 基礎数学⑧ 総合演習 I</p> <p>第15回 基礎数学⑨ 推論・ファイナルテスト</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>イングオリジナルテキスト</p> <p>著者： 株式会社イング</p> <p>出版社： 株式会社イング</p> <p>出版年： 2016年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( 40 )</p> <p>小テスト ( 20 )</p> <p>授業中課題 ( 40 )</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 キャリア開発講座Ⅳ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 濱田 剛	
テーマ	多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する
授業の到達目標	就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。
授業の概要	授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出
内 容	<p>第1回 ガイダンス・プレテスト</p> <p>第2回 SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語</p> <p>第3回 就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係</p> <p>第4回 コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題</p> <p>第5回 自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎</p> <p>第6回 伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用</p> <p>第7回 非言語分野① 計算・計数の総復習</p> <p>第8回 非言語分野② 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表</p> <p>第9回 非言語分野③ 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算</p> <p>第10回 非言語分野④ 仕事算、年齢算、濃度算</p> <p>第11回 非言語分野⑤ 場合の数、確率</p> <p>第12回 非言語分野⑥ 集合、ブラックボックス</p> <p>第13回 非言語分野⑦ 資料の整理、長文読み取り</p> <p>第14回 非言語分野⑧ 推論</p> <p>第15回 非言語分野⑨ 物の流れと比率・ファイナルテスト</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>イングオリジナルテキスト</p> <p>著者： 株式会社イング</p> <p>出版社： 株式会社イング</p> <p>出版年： 2016 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( 40 ) 小テスト ( 20 )</p> <p>授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 キャリア開発講座Ⅳ &lt;c&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	濱田 剛	
テーマ	多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する	
授業の到達目標	就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。	
授業の概要	授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。	
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出	
内 容	<p>第1回 ガイダンス・プレテスト</p> <p>第2回 SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語</p> <p>第3回 就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係</p> <p>第4回 コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題</p> <p>第5回 自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎</p> <p>第6回 伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用</p> <p>第7回 非言語分野① 計算・計数の総復習</p> <p>第8回 非言語分野② 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表</p> <p>第9回 非言語分野③ 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算</p> <p>第10回 非言語分野④ 仕事算、年齢算、濃度算</p> <p>第11回 非言語分野⑤ 場合の数、確率</p> <p>第12回 非言語分野⑥ 集合、ブラックボックス</p> <p>第13回 非言語分野⑦ 資料の整理、長文読み取り</p> <p>第14回 非言語分野⑧ 推論</p> <p>第15回 非言語分野⑨ 物の流れと比率・ファイナルテスト</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>イングオリジナルテキスト</p> <p>著者： 株式会社イング</p> <p>出版社： 株式会社イング</p> <p>出版年： 2016年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (40)</p> <p>授業中課題 (40)</p> <p>参加度 ( )</p> <p>小テスト (20)</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 キャリア開発講座Ⅳ &lt;d&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	箆田 彰宏・森本 哲夫	
テーマ	多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する	
授業の到達目標	就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。	
授業の概要	授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。	
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出	
内 容	第1回 ガイダンス・プレテスト 第2回 SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語 第3回 就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係 第4回 コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題 第5回 自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎 第6回 伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用 第7回 非言語分野① 計算・計数の総復習 第8回 非言語分野② 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表 第9回 非言語分野③ 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算 第10回 非言語分野④ 仕事算、年齢算、濃度算 第11回 非言語分野⑤ 場合の数、確率 第12回 非言語分野⑥ 集合、ブラックボックス 第13回 非言語分野⑦ 資料の整理、長文読み取り 第14回 非言語分野⑧ 推論 第15回 非言語分野⑨ 物の流れと比率・ファイナルテスト	
履修上の注意点		
教科書	イングオリジナルテキスト 著者： 株式会社イング 出版社： 株式会社イング 出版年： 2016年 ISBN:	
参考書		
成績評価	試験・レポート (40) 小テスト (20) 授業中課題 (40) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( ) 授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。	



## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 小倉 寿雄	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます
授業の概要	実際の企業の仕事を理解してもらおう。インターシップについて理解してもらおうことで企業が求める人材に成長してもらおう。
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 人生の目的・目標</p> <p>第3回 雇用の仕組み 正社員 非正規社員</p> <p>第4回 日本の産業を考える 製造業</p> <p>第5回 日本の産業を考える 小売り・流通</p> <p>第6回 日本の産業を考える サービス 外食</p> <p>第7回 就職する会社とは組織とは</p> <p>第8回 就活に必要なコミュニケーション能力</p> <p>第9回 ゲストスピーカー (大津市役所)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー (就職支援マイナビ)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー (就職支援アイデム)予定</p> <p>第12回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第13回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ (キャリアメイトプレゼン)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (20)
参加度 (30)	
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 200
履修条件	クラス指定
担当者 堀越 昭夫	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます
授業の概要	実際の企業の仕事を理解してもらおう。インターシップについて理解してもらおうことで企業が求める人材に成長してもらおう。
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 人生の目的・目標</p> <p>第3回 雇用の仕組み 正社員 非正規社員</p> <p>第4回 日本の産業を考える 製造業</p> <p>第5回 日本の産業を考える 小売り・流通</p> <p>第6回 日本の産業を考える サービス 外食</p> <p>第7回 就職する会社とは組織とは</p> <p>第8回 就活に必要なコミュニケーション能力</p> <p>第9回 ゲストスピーカー (大津市役所)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー (就職支援マイナビ)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー (就職支援アイデム)予定</p> <p>第12回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第13回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ (キャリアメイトプレゼン)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (20)
参加度 (30)	
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 小倉 寿雄	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます
授業の概要	実際の企業の仕事を理解してもらおう。インターシップについて理解してもらおうことで企業が求める人材に成長してもらおう。
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 人生の目的・目標</p> <p>第3回 雇用の仕組み 正社員 非正規社員</p> <p>第4回 日本の産業を考える 製造業</p> <p>第5回 日本の産業を考える 小売り・流通</p> <p>第6回 日本の産業を考える サービス 外食</p> <p>第7回 就職する会社とは組織とは</p> <p>第8回 就活に必要なコミュニケーション能力</p> <p>第9回 ゲストスピーカー (大津市役所)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー (就職支援マイナビ)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー (就職支援アイデム)予定</p> <p>第12回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第13回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ (キャリアメイトプレゼン)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (20)
参加度 (30)	
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <d>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 堀越 昭夫	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます
授業の概要	実際の企業の仕事を理解してもらおう。インターシップについて理解してもらおうことで企業が求める人材に成長してもらおう。
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 人生の目的・目標</p> <p>第3回 雇用の仕組み 正社員 非正規社員</p> <p>第4回 日本の産業を考える 製造業</p> <p>第5回 日本の産業を考える 小売り・流通</p> <p>第6回 日本の産業を考える サービス 外食</p> <p>第7回 就職する会社とは組織とは</p> <p>第8回 就活に必要なコミュニケーション能力</p> <p>第9回 ゲストスピーカー (大津市役所)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー (就職支援マイナビ)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー (就職支援アイデム)予定</p> <p>第12回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第13回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ (キャリアメイトプレゼン)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (20)
参加度 (30)	
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <G>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者	小倉 寿雄	
テーマ	企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。	
授業の到達目標	①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。	
授業の概要	企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。*スケジュールを変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション 講義の進め方</p> <p>第2回 人生の目的・目標(振り返り)</p> <p>第3回 日本の雇用の仕組みを考える</p> <p>第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①</p> <p>第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②</p> <p>第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③</p> <p>第7回 三回生の向けての取り組み①</p> <p>第8回 職種を考える</p> <p>第9回 ゲストスピーカー①</p> <p>第10回 ゲストスピーカー②</p> <p>第11回 三回生に向けての取り組み②</p> <p>第12回 三回生に向けての取り組み③</p> <p>第13回 ケーススタディ</p> <p>第14回 目標と時間管理</p> <p>第15回 全体まとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>参考書</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (0%) 小テスト (0%)</p> <p>授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%)</p> <p>参加度 (40%)</p> <p>出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <f>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 200
履修条件	クラス指定
担当者 堀越 昭夫	
テーマ	就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して 自分で考え 人に伝える練習をします。
授業の到達目標	就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます
授業の概要	実際の企業の仕事を理解してもらおう。インターシップについて理解してもらおうことで企業が求める人材に成長してもらおう。
準備学習(予習・復習)	時事問題に対する情報収集 ニュースに関心を持つこと
内 容	<p>第1回 スタートアップ講義の概要と評価方法</p> <p>第2回 人生の目的・目標</p> <p>第3回 雇用の仕組み 正社員 非正規社員</p> <p>第4回 日本の産業を考える 製造業</p> <p>第5回 日本の産業を考える 小売り・流通</p> <p>第6回 日本の産業を考える サービス 外食</p> <p>第7回 就職する会社とは組織とは</p> <p>第8回 就活に必要なコミュニケーション能力</p> <p>第9回 ゲストスピーカー (大津市役所)予定</p> <p>第10回 ゲストスピーカー (就職支援マイナビ)予定</p> <p>第11回 ゲストスピーカー (就職支援アイデム)予定</p> <p>第12回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第13回 ゲストスピーカー (企業)予定</p> <p>第14回 ケーススタディ (キャリアメイトプレゼン)予定</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート (0)	小テスト (0)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (20)
参加度 (30)	
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません 出席が足りないと確実に不合格になります	



## 2017 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅳ &lt;Gb&gt;

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	野村 幸一郎	
テーマ	世界から見た日本と日本文化——クールジャパンと日本のアニメーション	
授業の到達目標	<p>グローバル化が進行するこれからの時代を生きていくために、私たちは今、外国人とコミュニケーションをとり、ともに生き、働いていくような、「共生力」が求められている。この授業では、留学生とともにグループワークやディスカッション、学外研修を行うことを通じて、これからの時代に必要とされる、国際感覚を養っていく。</p>	
授業の概要	<p>日本のアニメーションは今や、世界的なコンテンツ産業に成長しつつあり、特に東アジアの青少年少女たちは、アニメを通じて日本を理解している。アニメや漫画は、グローバルな視点から見た時、現代日本の一部を構成していると言ってよい。留学生とともに学ぶこの授業では、海外から見た見た日本文化という観点から、クール・ジャパン・ジャパニメーションを考えていく。外国人留学生とともに学んでいくことで、今まで気付かなかった日本や日本人の姿を発見することになる。日本人が海外の人たちにどう見られているのか学んでいくことで、受講生たちがそれぞれに「共生」の道筋を発見するよう、指導していくつもりである。</p>	
準備学習(予習・復習)	授業で取り上げるアニメ作品はなるべく事前に視聴しておくこと。	
内 容	<p>第1回 クールジャパンの構造 アジアの中の日本アニメ  第2回 近代化と失われた日本人の信仰 『となりのトトロ』はなぜなつかしいのか？  第3回 学外授業 伏見稲荷  第4回 グループワーク 伏見稲荷見学の振り返り  第5回 京アニが描く現代の若者像(1) 『涼宮ハルヒの憂鬱』  第6回 京アニが描く現代の若者像(2) 『クラナド』  第7回 京アニが描く現代の若者像(3) 『けいおん！』  第8回 京アニが描く現代の若者像(4) 『Free！』  第9回 京アニが描く現代の若者像(5) 『中二病でも恋がしたい』  第10回 京アニが描く現代の若者像(6) 『響け！ ユーフォニアム』  第11回 学外見学 宇治上神社 平等院  第12回 グループワーク 宇治上神社 平等院 振り返り  第13回 バブルの行方 『有頂天家族』の弁天  第14回 学外研修 東山 六道珍皇寺・清水寺  第15回 グループワーク 東山 六道珍皇寺・清水寺</p>	
履修上の注意点	<p>グループワークには積極的に参加すること。学外見学の拝観料は大学負担だが交通費は個人負担になる。見学は水曜日1、2限目に行う予定。1限目にほかの授業が入っている場合は、欠席してもかまわない。ただし、グループワークまでに個人で見学に行くこと(拝観料は個人負担になるので注意)。</p>	
教科書	<p>京アニを読む  著者： 野村幸一郎  出版社： 新典社  出版年： 2016 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 ( 60 ) 授業中発表等 ( )  参加度 ( 40 )</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 インターンシップA(ビジネス) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 笹田 彰宏	

テーマ

「自立」「共生」「臨床の知」を土台として、将来社会に出ることをクリアに意識させ、学習意欲を高めるきっかけとする。単位認定型ISの受講を前提としたプレ科目と位置付ける。

授業の到達目標

次年度に参加するインターンシップ時に必要な力をグループワークやロールプレイング、ゲームなどを通して養う。・社会に出たときに必須となるコミュニケーション能力の向上・インターンシップ参加時の履歴書、ESについて考える。・かっているようで、わかっていなかった自分の探求を通して自己の将来像を形作る。

授業の概要

授業計画に沿って、社会人基礎力を学び、インターンシップ事前演習を実践していく。そのために、本講義は1, 2回生推奨の講座であり、履修希望者の定員は50名とする。講義内で、受講者全員がポートフォリオを作成し、一方的ではなくツウエイでの講義を目指す。また、IS報告会の運営スタッフを受講者の中から選出し、課外での活動をメインにIS報告会の準備を行う。その他の課外活動として、フィールドワークや社会見学を実施したり、外部講師を招聘し、講演を行う場合もある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 【9/21(木)】 概要説明、ガイダンス
- 第2回 【9/28(木)】 アイスブレイク(自己紹介など、アイスブレイク用グループワーク)
- 第3回 【10/5(木)】 IS報告会の運営に向けて
- 第4回 【10/12(木)】 自己分析(特別プログラムで自己の客観視をはかる)
- 第5回 【10/19(木)】 レクチャ(インターンシップ、働くとは)
- 第6回 【10/26(木)】 ゲストスピーカーによる講演(企業について)
- 第7回 【11/2(木)】 履歴書 エントリーシートについて(IS参加の動機などを掘り下げる)
- 第8回 【11/7(火)】 IS報告会での運営の報告、体験談についての感想をシェア
- 第9回 【11/16(木)】 スキルアッププログラム(コミュニケーション)
- 第10回 【11/30(木)】 スキルアッププログラム(ロジカルシンキング)
- 第11回 【12/7(木)】 ロールプレイング(挨拶・電話対応・名刺交換・その他)実際の場面を想定して接遇対応などを準備
- 第12回 【12/14(木)】 ロールプレイング(挨拶・電話対応・名刺交換・その他)実際の場面を想定して接遇対応などを準備
- 第13回 【12/21(木)】 インターンシップフォーマット作成(専用プログラムにより、インターンシップのプラスイメージを作成)
- 第14回 【1/11(木)】 インターンシップフォーマット完成(実際の体験談を聞き、より具体的な内容に洗練する)
- 第15回 【1/18(木)】 試験

履修上の注意点

授業で出した課題の提出

教科書

クリティカル・シンキング

著者: 樋口 裕一

出版社: 学研教育出版

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 インターンシップA(ビジネス) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定

担当者 籠田 彰宏

テーマ

「自立」「共生」「臨床の知」を土台として、将来社会に出ることをクリアに意識させ、学習意欲を高めるきっかけとする。単位認定型ISの受講を前提としたプレ科目と位置付ける。

授業の到達目標

次年度に参加するインターンシップ時に必要な力をグループワークやロールプレイング、ゲームなどを通して養う。・社会に出たときに必須となるコミュニケーション能力の向上・インターンシップ参加時の履歴書、ESについて考える。・かっているようで、わかっていなかった自分の探求を通して自己の将来像を形作る。

授業の概要

授業計画に沿って、社会人基礎力を学び、インターンシップ事前演習を実践していく。そのために、本講義は1, 2回生推奨の講座であり、履修希望者の定員は50名とする。講義内で、受講者全員がポートフォリオを作成し、一方的ではなくツウエイでの講義を目指す。また、IS報告会の運営スタッフを受講者の中から選出し、課外での活動をメインにIS報告会の準備を行う。その他の課外活動として、フィールドワークや社会見学を実施したり、外部講師を招聘し、講演を行う場合もある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 【9/21(木)】 概要説明、ガイダンス
- 第2回 【9/28(木)】 アイスブレイク(自己紹介など、アイスブレイク用グループワーク)
- 第3回 【10/5(木)】 IS報告会の運営に向けて
- 第4回 【10/12(木)】 自己分析(特別プログラムで自己の客観視をはかる)
- 第5回 【10/19(木)】 レクチャ(インターンシップ、働くとは)
- 第6回 【10/26(木)】 ゲストスピーカーによる講演(企業について)
- 第7回 【11/2(木)】 履歴書 エントリーシートについて(IS参加の動機などを掘り下げる)
- 第8回 【11/7(火)】 IS報告会での運営の報告、体験談についての感想をシェア
- 第9回 【11/16(木)】 スキルアッププログラム(コミュニケーション)
- 第10回 【11/30(木)】 スキルアッププログラム(ロジカルシンキング)
- 第11回 【12/7(木)】 ロールプレイング(挨拶・電話対応・名刺交換・その他)実際の場面を想定して接遇対応などを準備
- 第12回 【12/14(木)】 ロールプレイング(挨拶・電話対応・名刺交換・その他)実際の場面を想定して接遇対応などを準備
- 第13回 【12/21(木)】 インターンシップフォーマット作成(専用プログラムにより、インターンシップのプラスイメージを作成)
- 第14回 【1/11(木)】 インターンシップフォーマット完成(実際の体験談を聞き、より具体的な内容に洗練する)
- 第15回 【1/18(木)】 試験

履修上の注意点

授業で出した課題の提出

教科書

クリティカル・シンキング

著者: 樋口 裕一

出版社: 学研教育出版

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈初等〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 千葉 和子

テーマ

自ら教職につくための確かな見通しを持ち、教育実践の力量を培う。

授業の到達目標

教職を志す者は、今日の学校教育における課題を主体的に考察し、認識を深め、自らの資質・能力を高める必要がある。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、その課題解決に向けて考察し、学校教育の現状認識を深め課題克服を主体的に考える力を培うようにする。

授業の概要

今日の学校教育をめぐる状況とその課題を考察し、学校教育の現状について理解と認識を深め、自らの実践を主体的に考え表出しようとする。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページ・新聞に記載されている教育関係の記事・教育専門月刊誌などを読むようにする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 教育(学校)の役割
- 第2回 学校教育の役割
- 第3回 教師に求められる資質と能力
- 第4回 教員の役割・仕事・学習指導
- 第5回 学習指導要領の特色
- 第6回 教師の仕事と生徒指導①
- 第7回 教師の仕事と生徒指導②
- 第8回 現在の教育課題
- 第9回 学習指導要領の改訂
- 第10回 学級と学校の運営
- 第11回 生きる力と確かな学力
- 第12回 授業づくり 指導案作成
- 第13回 全学年、全教科の指導内容とその概要①
- 第14回 全学年、全教科の指導内容とその概要②
- 第15回 目指す教師像

履修上の注意点

課題意識を持って臨むこと。振り返りを大事にすること。

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年： ISBN:

小学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN:

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年： ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(なし)

小テスト(なし)



## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈中等〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

学校教育実践論Ⅰ

授業の到達目標

これからの教職を志す者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身につける必要があります。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につけることを目標とします。

授業の概要

今日の学校教育をめぐる基本的課題を多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、自らの実践を主体的に考え、発表する。基本的なことを学び、それをもとに関連した課題について考え、グループで討議し深める。グループで討議した内容を全体で報告する。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを日頃から見しておくこと。一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌など読んでおくこと

内 容

- 第1回 授業の説明等(教職を志す資質・能力及び教員採用試験)イントロダクション
- 第2回 教師の求められる資質・能力
- 第3回 ワークショップ
- 第4回 教育観について
- 第5回 ワークショップ
- 第6回 今日的な教育課題
- 第7回 ワークショップ
- 第8回 学習指導の在り方
- 第9回 ワークショップ
- 第10回 児童生徒の問題行動について
- 第11回 ワークショップ
- 第12回 これからの人権教育
- 第13回 ワークショップ
- 第14回 都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容
- 第15回 ワークショップのまとめ

履修上の注意点

・授業中の飲食および携帯電話の使用、その他講義に支障があることは禁止。・欠席については、事前・事後に必ず連絡すること。(欠席届の提出)・講義は教員採用試験を受験する人、教員になる人を前提に行います。しかし、それら該当しない人の受講も可能ですので、申し出てください。

教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN:

中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN:

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 15 )

授業における課題のレポート, 授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼a〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 一柳 敦子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけでなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---



## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I &lt;幼b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼c〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 中島 裕子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけでなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I &lt;幼d&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼e〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---



## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけでなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼g〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 須藤 智代子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけでなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼h〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 吉田 裕子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼i〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 白井 昌子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---



## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 辻 啓子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し 将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内 容

第1回	発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係	
第2回	発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係	
第3回	発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係	
第4回	発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係	
第5回	発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係	
第6回	発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係	
第7回	発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係	
第8回	発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係	
第9回	素敵な保育者になるために①・実習を振り返って自分を見つめる。その1 意見交流	振り返りシートによる
第10回	素敵な保育者になるために②・実習を振り返って自分を見つめる。その2 レポート作成	自己課題に関する
第11回	素敵な保育者になるために③・子どもの豊かな体験のために。その1 師)	(ゲスト講
第12回	素敵な保育者になるために④・子どもの豊かな体験のために。その2 カッション	実技交流やディス
第13回	素敵な保育者になるために⑤・保育者としての自覚に向けて。その1 振り返り総括する。	全ての実習を振り
第14回	素敵な保育者になるために⑥・保育者としての自覚に向けて。その2 授業による実習報告会等	2回生との合同
第15回	素敵な保育者になるために⑦・まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回で予定)	

履修上の注意点

・実技による教材研究だけでなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

保育所保育指針解説

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN： 9.78458E+12

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

著者： 内閣府・文科省・厚労省

成績評価

試験・レポート（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅱ〈初等〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 千葉 和子

テーマ

自ら、教職につくための確かな見通しを持ち、教育の意義と目的を明らかにするための理論の構築を目指す。

授業の到達目標

「生きる力」という概念は変化の激しい社会において益々重要度を増すことから、「生きる力」を形成する「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。教職を志願する者は、単に学習指導要領の改善点の知識を獲得するだけでなく改定の趣旨や背景、法制の改正なども踏まえて認識し、教師としての力量を高めることが大事である。教師として採用された後も、学習指導要領を始め、国レベルの答申や通知、報告などを断続的に理解し、社会の変化に対応する資質と能力を身に付けることを目標とする。

授業の概要

学習指導要領の法制上の位置づけや教育課程を編成する際の基準等を理解する。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを見る。新聞に記載されている教育関係の記事・教育専門月刊誌などを読む。

内 容

- 第1回 教育の意義と目的
- 第2回 教育課程の意義
- 第3回 教育課程の編成と評価
- 第4回 教師の役割と仕事
- 第5回 学習指導要領の特色
- 第6回 初等科教科教育法 外国語(英語)・英語活動 道徳教育
- 第7回 総合的な学習の時間と特別活動
- 第8回 特別支援と生徒指導
- 第9回 学習指導要領・その変遷
- 第10回 学級と学校の運営
- 第11回 学力と学習指導
- 第12回 指導案づくり 教材研究
- 第13回 学級経営について
- 第14回 全学年、全教科の指導内容
- 第15回 望ましい教師を目指す

履修上の注意点

課題意識を持って臨むこと。振り返りを大事にすること。

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年： ISBN：

小学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート(なし)

小テスト(なし)

授業中課題(70)

授業中発表等(15)

参加度(15)

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総合的な成績評定を行う。

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅱ〈中等〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 廣瀬 忠愛	
テーマ	
学校教育実践論Ⅱ	

## 授業の到達目標

今回の学習指導要領改訂において、「生きる力」という概念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく、改訂の趣旨及び背景（例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など）も含めて理解し、教師としての実践力として身につけることが大切である。また、将来教師として採用された後も、学習指導要領をはじめ、国レベルで出される答申や通知、報告等を歴史的視点で継続的に理解し、時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることなどを目標とする。

## 授業の概要

学習指導要領の法令上の位置づけや教育課程を編成する際の基準性等を理解する。

## 準備学習（予習・復習）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

## 内 容

- 第1回 授業の説明等、イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領の改善点
- 第3回 教育課程の編成、教育課程の意義、教育課程の概念など
- 第4回 教育課程とその基準、教育課程に関する法制など
- 第5回 教育課程編成の一般方針
- 第6回 内容等の取扱いに関する共通的事項
- 第7回 授業時数に関する知識1
- 第8回 授業時数に関する知識2
- 第9回 指導計画の作成
- 第10回 教育課程実施上の配慮事項1
- 第11回 教育課程実施上の配慮事項2
- 第12回 教育課程実施上の配慮事項3
- 第13回 道徳、外国語
- 第14回 総合的な学習の時間、特別活動
- 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

・授業中の飲食および携帯電話の使用、その他講義に支障があることは禁止。・欠席については、事前・事後に必ず連絡すること。（欠席届の提出）・講義は教員採用試験を受験する人、教員になる人を前提に行います。しかし、それら該当しない人の受講も可能ですので、申し出てください。

## 教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

参考書

---

#### 成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）

授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 産業心理学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 200
履修条件	クラス指定

担当者 永野 光朗

## テーマ

企業活動への心理学の応用

## 授業の到達目標

心理学基礎分野の知見を生かして産業における諸問題の解決に役立てるための視点と知識を備え、問題解決能力を育成するために、以下の3点を達成目標とする。・「心理学の応用」という視点について理解できる。・「組織行動」の仕組みについて心理学の立場から理解できる。・「消費者行動」の仕組みについて心理学の立場から理解できる。

## 授業の概要

高度に発達し複雑化・巨大化した現代の産業社会を構成している基本単位はいまでもなく「個々の人間」であり、産業活動の効率化や、そこで生じる問題の解決をはかるためには、人間の行動や心理についての中立的で客観的な理解が欠かせない。産業心理学はこのような課題を達成するための研究分野である。産業場面での人間の行動を「組織行動」と「消費者行動」という2つの側面からとらえたうえで考察を行う。

## 準備学習(予習・復習)

つねに人事、消費、組織といったキーワードを中心にした産業活動に関心を持つこと。とくに興味を持ったものについては記録をしておくこと。

## 内 容

- 第1回 心理学の方法と目的
- 第2回 産業場面への「心理学の応用」について
- 第3回 産業心理学の歴史、目的と今日的課題
- 第4回 社会・集団と課題達成行動
- 第5回 社会・集団と意思決定
- 第6回 組織とリーダーシップ
- 第7回 消費者行動とマーケティング
- 第8回 消費者の購買意思決定過程①(購買意思決定モデル)
- 第9回 消費者の購買意思決定過程②(購買動機)
- 第10回 消費者の購買意思決定過程③(ブランド選択課程)
- 第11回 価格の心理学①(心理的財布理論)
- 第12回 価格の心理学②(行動経済学)
- 第13回 店舗内の消費者行動①(店舗内における行動のコントロール)
- 第14回 店舗内の消費者行動②(店舗内における販売促進の方法)
- 第15回 まとめと確認

## 履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。授業中の睡眠についても雰囲気や阻害する行為として注意します。

## 教科書

## 参考書

新・消費者理解のための心理学

著者： 杉本徹雄編著

出版社： 福村出版

出版年： 2012

ISBN： 4571250401

## 成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( 50 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

毎回の授業において小テストを実施する。単位については授業内に実施する試験(小テストを含む)の合計点が一定の点数以上であることを要件にする。正当な理由がある場合を除き追試験や追加のレポートなどは一切実施しない。

## 2017 Syllabus

## 科目名 広告と消費の心理学

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	200
履修条件	クラス指定	
担当者 前田 洋光		
テーマ	現代社会における消費者行動の理解	
授業の到達目標	<p>・さまざまな消費行動を、客観的な視点から論考することができる。・消費者の特性を理解した上で、マーケティング戦略との対応を考えることができる。・消費という題材を通して、人間理解を深めることができる。</p>	
授業の概要	<p>消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものであり、その行動は、消費者の個人内要因や環境からの外的要因など、多様な要因から影響を受けている。この授業では、消費者のブランド選択に関する意思決定や情報処理、価格判断など、幅広くトピックを取り上げ、消費者を取り巻く問題を論考していく。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>・日常生活における消費者行動に注意を向ける・下記参考書をはじめとする関連書籍の講読</p>	
内 容	<p>第1回 イントロダクション:消費者行動とは?  第2回 消費者の購買意思決定過程(1):消費者の問題認識と情報探索、多属性態度モデル  第3回 消費者の購買意思決定過程(2):購買意思決定を左右する要因  第4回 消費者の購買意思決定過程(3):不合理な購買意思決定  第5回 消費者満足  第6回 モノの意味と保有  第7回 広告効果  第8回 ブランドと広告  第9回 POP広告  第10回 プロダクトプレイスメント  第11回 公共広告  第12回 くちコミの概略  第13回 くちコミの効果を左右する要因(1)  第14回 くちコミの効果を左右する要因(2)  第15回 まとめと確認</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>使用しない  著者:  出版社:  出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>新・消費者理解のための心理学  著者: 杉本徹雄(編)  出版社: 福村出版  出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート(70) 小テスト( )  授業中課題(30) 授業中発表等( )  参加度( )</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅲ〈初等〉

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 千葉 和子	
テーマ	
教育的論理形成と具体的な教育実践及び評価	
授業の到達目標	
教育を目指す者に求められる専門的力量的中心課題は、児童生徒理解に基づく学級づくり・集団及び個別指導の力量形成である。学校教育に対する基本認識を深め推進していくうえでの知識・技術・能力・態度を身に着ける。	
授業の概要	
教育原理・教育心理・教育行政等の理論を学ぶと同時に、それらの理論が具現化された実際の教育活動についての理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
文部科学省のホームページ、一般の新聞に記載されている教育関係の記事、教育月刊誌などを読む。	
内 容	
第1回	オリエンテーション 今、教師に求められる力
第2回	現在の学校の状況
第3回	教育課程の一般方針
第4回	様々な教育方法に関わる基本的な考え方
第5回	論作文
第6回	学習指導要領の改訂とその経過
第7回	学校教育改革
第8回	授業力を高める視点
第9回	指導案の作成
第10回	学校・学級の経営
第11回	初等科教科教育法 外国語(英語)・英語活動 道徳教育
第12回	特別支援教育
第13回	特別支援教育
第14回	教育時事
第15回	教職教養のポイント
履修上の注意点	
課題意識を持って臨むこと。振り返りを大事にすること。	
教科書	
小学校学習指導要領	
著者： 文部科学省	
出版社： 東京書籍	
出版年：	ISBN：
小学校学習指導要領解説総則編	
著者： 文部科学省	
出版社： 東洋館出版社	
出版年：	ISBN：
参考書	
成績評価	
試験・レポート(なし)	小テスト(なし)
授業中課題(70)	授業中発表等(15)
参加度(15)	
授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総合的な評定を行う。	



## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅲ〈中等〉

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

客観的論理と主体的な教育実践

授業の到達目標

中央教育審議会答申は、教育の専門家としての確かな力量を具体的に「子ども理解力」「児童・生徒指導力」「集団指導の力」「学級づくりの力」「学習指導・授業づくりの力」「教材解釈の力」などを掲げている。教職を目指す学生・院生は、これらの知識や技能を身につけることはもちろんのこと、これらに加えて客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された具体的な教育実践について、発信できる資質や能力を身につけることである。

授業の概要

客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された教育実践についての表現力を身につける。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、本授業の構成要素等について
- 第2回 教師論について
- 第3回 学習指導について①(確かな学力・学習意欲・学習習慣・探究的な学習の重視)
- 第4回 学習指導について②(学力向上・読書指導・言語活動の充実・体験活動の重視)
- 第5回 生徒指導について(生徒理解・自己肯定感・コミュニケーション能力)
- 第6回 生徒指導について(いじめ・教師と生徒の信頼関係・規範意識・社会性)
- 第7回 学級経営について
- 第8回 道徳指導について
- 第9回 人権教育について
- 第10回 進路指導について
- 第11回 キャリア教育について
- 第12回 地域や保護者の信頼について
- 第13回 家庭・地域の教育力について
- 第14回 安全教育について
- 第15回 体育・健康教育について

履修上の注意点

・授業中の飲食および携帯電話の使用、その他講義に支障があることは禁止。・欠席については、事前・事後に必ず連絡すること。(欠席届の提出)・講義は教員採用試験を受験する人、教員になる人を前提に行います。しかし、それら該当しない人の受講も可能ですので、申し出てください。

教科書

(中等)中学校学習指導要領本体

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

(中等)中学校学習指導要領解説総則編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 70 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( 15 )

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総合的な成績評定を行う。



## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅳ〈初等〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 千葉 和子

テーマ

「生きる力」を育む教育実践

授業の到達目標

教職を目指す者は、その専門職としての力量を高めることが求められている。専門的力量の大半は授業力である。児童の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針にのっとり、各教科の目標や内容は計画的に意図し取り組まれていることを理解する。また、各教科の特性、及びその系統性を理解し、指導の基礎・基本の力量を身に付ける。

授業の概要

「生きる力」をどのように育んでいくのかを教育実践・授業づくりを通して理解する。指導の根底にある学習指導要領、教育理論、教師の使命感、児童の現状等の理解は教育の重要な条件である。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページ、一般の新聞に記載されている教育関係の記事、教育月刊誌などを読む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 教師の力量
- 第2回 学習指導要領について
- 第3回 特色のある学校教育活動
- 第4回 学校教育づくり
- 第5回 論作文
- 第6回 学習指導について 教科の指導カリキュラムマネジメント
- 第7回 学校教育目標・学校評価・授業評価
- 第8回 指導案作成
- 第9回 指導案作成
- 第10回 生徒指導について
- 第11回 生徒指導について 人権について
- 第12回 特別活動
- 第13回 教職教養のポイント
- 第14回 教育時事
- 第15回 信頼される教師

履修上の注意点

課題意識を持って臨むこと。振り返りを大事にすること。

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年： ISBN:

小学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版

出版年： ISBN:

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年： ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート(なし)

小テスト(なし)

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート, 授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅳ〈中等〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

教育サイクル(PDCA)の理解と「指導と評価の一体化」について

授業の到達目標

学校の教育活動は、PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら、生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また、各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

授業の概要

各教科等の目標・内容等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、本授業の構成要素等について
- 第2回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編①
- 第3回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編②
- 第4回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編③
- 第5回 授業づくりについて
- 第6回 授業づくりの必要事項について
- 第7回 学習指導計画案作成①
- 第8回 授業設計について
- 第9回 学習指導計画案作成②
- 第10回 授業中の大切なことについて
- 第11回 学習指導計画案作成③
- 第12回 授業の評価と授業の改善(指導と評価の一体化)
- 第13回 中教審(報告)から評価規準作成の参考資料
- 第14回 教育評価の基本的用語
- 第15回 目標に準拠した評価」について

履修上の注意点

・授業中の飲食および携帯電話の使用、その他講義に支障があることは禁止。・欠席については、事前・事後に必ず連絡すること。(欠席届の提出)・講義は教員採用試験を受験する人、教員になる人を前提に行います。しかし、それら該当しない人の受講も可能ですので、申し出てください。

教科書

(中等)中・高等学校学習指導要領専門教科の解説編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 (70)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

## 2017 Syllabus

## 科目名 救急救命基礎講義 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
政治の常識①	
授業の到達目標	
卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。	
授業の概要	
第1回の授業は、a・bクラス合同でオリエンテーションともに公務員試験を模擬体験し、第2回以降は、数学と政治の授業を隔週で実施する。政治の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。	
準備学習(予習・復習)	
各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。	
内 容	
第1回 合同:オリエンテーション&公務員試験問題の体験	
第2回 数の世界の不思議から文字へ	
第3回 政治:国家とはなにか?——その思想と原則	
第4回 文字式の計算を図で考えよう~展開、因数分解、平方完成、解の公式	
第5回 政治:人権——原理と歴史	
第6回 数の世界の拡張~有理数、無理数、正負の数	
第7回 政治:いろいろな政治制度	
第8回 量の世界の探求~密度、濃度、速度	
第9回 政治:日本国憲法	
第10回 方程式の活用~一次・連立・二次方程式	
第11回 政治:憲法と人権①	
第12回 不等式とその活用	
第13回 政治:憲法と人権②	
第14回 比・比例・割合	
第15回 政治:まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
授業毎にプリント配付	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 80 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義Ⅱ

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

経済の常識①

授業の到達目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の概要

第1回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学&政治・経済の総合テストを実施する。経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

準備学習(予習・復習)

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

内 容

- 第1回 場合の数
- 第2回 経済:経済体制
- 第3回 順列・組み合わせ
- 第4回 経済:経済理論①
- 第5回 確率
- 第6回 経済:経済理論②
- 第7回 平面図形の基礎
- 第8回 経済:経済理論③
- 第9回 相似
- 第10回 経済:戦後の日本経済
- 第11回 図形の計量
- 第12回 経済:その分野別問題
- 第13回 空間図形
- 第14回 政治:まとめ
- 第15回 合同:まとめのテスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 20 )

小テスト ( 30 )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究 I <a>**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 久野 勤・柳本 周介

テーマ

正課授業と課外授業との連動による反復学習を実現し、就活実践力を養成する。

授業の到達目標

今後の就活実践力を養い、社会人として活躍するための基礎になる力を身に付け、抽象的な言葉を具体的にし、自分の特徴を表現する。

授業の概要

社会人に向けて、必要となる実践的なスキルや経験値を身に付けながら自己理解を深め各業界・企業について学習します。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 就職活動の現状～進め方・仕事とは？
- 第2回 業界企業の研究方法1
- 第3回 業界企業の研究方法2
- 第4回 業界企業の研究方法3
- 第5回 自己PR1 作成のための基本
- 第6回 自己PR2 実践
- 第7回 志望動機1 作成のための基本
- 第8回 志望動機2 実践
- 第9回 先入観・固定概念からの脱却～人事の視点
- 第10回 就活の常識・非常識～採用現場の本音
- 第11回 グループディスカッションのルール～実践
- 第12回 グループディスカッション実践
- 第13回 ブラッシュアップ
- 第14回 集団面接実践1
- 第15回 集団面接実践2

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( )

課外授業の参加状況を加味する。



## 2017 Syllabus

## 科目名 キャリア開発研究Ⅰ〈救急〉

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	山崎 将文	
テーマ	消防官・警察官・自衛官など公安系の職に求められる知識と能力の修得	
授業の到達目標	公務員、特に公安職とはどのようなものかを知るとともに、消防官・警察官・自衛官などに求められる知識と能力の修得と自らの職業観の育成と開発	
授業の概要	消防官・警察官・自衛官など公務員に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発のために、各職種の仕事内容について講義や講演を通して学ぶ。公務員の形態としての公安職の特徴と、求められる知識や能力について講義を通じて学び、消防官・警察官・自衛官など具体的な職種の業務について、現役者の講演などを通じて深く理解する。	
準備学習(予習・復習)	常日頃から公務員に関するニュースや新聞記事を見るとともに、ワークシートや論文の作成などの課題を出された場合には必ず授業前に完成しておく。	
内 容	<p>第1回 公務員とはどのような者か？ 公務員概念、全体の奉仕者としての公務員</p> <p>第2回 公務員の種類と公安職の位置づけ 特別職公務員と一般職公務員、国家公務員と地方公務員、現業公務員と非現業公務員</p> <p>第3回 公務員の勤務関係 特別権力関係、国家公務員法・地方公務員法における勤務関係</p> <p>第4回 公務員の権利 身分保障の権利、給与請求権など財産に関する権利、労働基本権の制限</p> <p>第5回 公務員の義務 法令及び上司の命令に従う義務、信用失墜行為の禁止、秘密を守る義務など</p> <p>第6回 公安職の仕事内容と採用試験 消防官・警察官・自衛官の仕事の内容と採用試験の概要</p> <p>第7回 公安職人事担当者講演会(1) 消防官人事担当者の講演</p> <p>第8回 公安職人事担当者講演会(2) 警察官人事担当者の講演</p> <p>第9回 公安職人事担当者講演会(3) 自衛官人事担当者の講演</p> <p>第10回 ワークシート(1) ワークシート記入</p> <p>第11回 ワークシート(2) ワークシート発表と質疑応答</p> <p>第12回 面接試験対策講座(1) 面接試験に対する対策</p> <p>第13回 面接試験対策講座(2) 模擬面接と面接の指導</p> <p>第14回 論文試験対策講座(1) 論文の作成</p> <p>第15回 論文試験対策講座(2) 論文の添削と指導</p>	
履修上の注意点	皆勤を目指すとともに、授業に積極的に参加する。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	必要な場合に適宜紹介する	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価	試験・レポート(60) 小テスト(20)	
	授業中課題(10) 授業中発表等( )	
	参加度(10)	
	公安職を含めた公務員に関する小テストを三回か四回実施する。	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅱ <Ga>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	今久保 幸生	
テーマ	グローバル経済とグローバル企業・上場企業の研究	
授業の到達目標	グローバル経済とグローバル企業・一時上場企業の動向を把握させた上で、経済や企業のグローバル化のもとで不可欠となる、グループ活動のなかで個人が主体的・能動的に課題に取り組む力を身につけさせる。	
授業の概要	経済のグローバル化、グローバル企業・一部上場企業の動向について講義で概観したあと、いくつかの調査研究グループを編成してグループ発表と討論を実施するとともに、グループワークによる特定課題に関する取り組みを行わせる。可能であれば、グローバル企業で活躍されているビジネスマンに、その豊かな経験を伺う機会も設けたい。	
準備学習(予習・復習)	グループ発表の場合もグループワークの場合も、テーマに関する、専時事問題であれ経済や企業の根本問題であれ、グループ構成員全員がそれぞれ独自の解答を提示しうよう、新聞、雑誌などあらゆる媒体が提示する情報にがむしゃらに取り組んで、問題感覚を研ぎ澄ましておくこと。これが必ず主体的な対応力を持つ自己形成に役立つからである。	
内 容	<p>第1回 授業の狙いや進め方のガイダンスとグループ編成など</p> <p>第2回 経済のグローバル化1</p> <p>第3回 経済のグローバル化2</p> <p>第4回 経済のグローバル化3</p> <p>第5回 グローバル企業・一部上場企業の展開</p> <p>第6回 グローバル企業・一部上場企業実務経験者による講義</p> <p>第7回 グループ発表と討論1</p> <p>第8回 グループ発表と討論2</p> <p>第9回 グループ発表と討論3</p> <p>第10回 グループ発表と討論4</p> <p>第11回 グループワーク1</p> <p>第12回 グループワーク2</p> <p>第13回 グループワーク3</p> <p>第14回 グループワーク4</p> <p>第15回 グローバル企業・一部上場企業への就職について(まとめ)</p>	
履修上の注意点	私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。	
教科書	用いない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	未定	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価	試験・レポート ( ) 小テスト ( )	
	授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( 70 )	
	参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅱ <Gb>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	野村 幸一郎	
テーマ	グローバル化の中の日本とアジア	
授業の到達目標	日本と中国・ASEANの関係を経済の観点から考えていく	
授業の概要	<p>グローバル化が進む世界状況の中でヒト・モノ・カネの往来がますます盛んになりつつある。日本人学生と留学生が合同で実施するこの授業では、グループワークを中心に、日本とアジアの関係を学び、留学生の知恵を借りながら、「メイド・イン・ジャパン」をさらにグローバル化していく方法を考えていく。併せてダブルトラックの形で、100年前に日本人が体験した明治のグローバル化についても学んでいく。</p>	
準備学習(予習・復習)	授業で配布するプリントは事前に読んでくること。	
内 容	<p>第1回 グループ分けと概要説明  第2回 現代日本のグローバル化(1)テーマ 日本経済のグローバル化  第3回 現代日本のグローバル化(2) グループワーク  第4回 明治のグローバル化(1) 学外研修 寺町界隈  第5回 明治のグローバル化(2) 振り返り学習(学内)  第6回 現代日本のグローバル化(3)テーマ 日本経済と中国  第7回 現代日本のグローバル化(4) グループワーク  第8回 明治のグローバル化(3) 学外研修 蹴上・無鄰菴  第9回 明治のグローバル化(4) 振り返り学習(学内)  第10回 現代日本のグローバル化(5)テーマ 日本経済とASEAN  第11回 現代日本のグローバル化(6)グループワーク  第12回 明治のグローバル化(5) 学外研修 京都鉄道博物館  第13回 明治のグローバル化(6) 振り返り学習(学内)  第14回 現代日本のグローバル化(7)テーマ これからの世界と私たちのキャリア形成(1)  第15回 これからの世界と私たちのキャリア形成(8)グループワーク</p>	
履修上の注意点	<p>学外見学は水曜日の1, 2限で実施する。見学料は大学負担になるが交通費は個人の負担になる。水曜日の1限目にほかの授業が入っている場合は、学外見学は欠席することになるが、かならずグループワークで個人で見学に行っておくこと。この場合見学料は個人負担になるので注意すること。</p>	
教科書	<p>使用しない  著者:  出版社:  出版年: ISBN:  参考書</p>	
成績評価	<p>試験・レポート ( ) 小テスト ( )  授業中課題 (60) 授業中発表等 ( )  参加度 (40)</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅲ <Ga>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	吉田 斉・竹内 淳	
テーマ	就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成	
授業の到達目標	就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。	
授業の概要	授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。	
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出	
内 容	<p>第1回 ガイダンス・プレテスト</p> <p>第2回 言語分野① 語彙・読解総合演習Ⅰ</p> <p>第3回 言語分野② 語彙・読解総合演習Ⅱ</p> <p>第4回 言語分野③ 文章力養成 発展編Ⅰ</p> <p>第5回 言語分野④ 文章力養成 発展編Ⅱ</p> <p>第6回 言語分野⑤ 文章力養成 発展編Ⅲ</p> <p>第7回 非言語分野① SPI重要単元発展編 計算・計数Ⅰ</p> <p>第8回 非言語分野② SPI重要単元発展編 計算・計数Ⅱ</p> <p>第9回 非言語分野③ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅰ</p> <p>第10回 非言語分野④ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅱ</p> <p>第11回 非言語分野⑤ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅲ</p> <p>第12回 非言語分野⑥ SPI以外の筆記試験対策Ⅰ</p> <p>第13回 非言語分野⑦ SPI以外の筆記試験対策Ⅱ</p> <p>第14回 非言語分野⑧ SPI以外の筆記試験対策Ⅲ</p> <p>第15回 非言語分野⑨ SPI以外の筆記試験対策Ⅳ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>イングオリジナルテキスト</p> <p>著者： 株式会社イング</p> <p>出版社： 株式会社イング</p> <p>出版年： 2013年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (40)</p> <p>授業中課題 (40)</p> <p>参加度 ( )</p> <p>小テスト (20)</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	
	授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅲ <Gb>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	久野 勤・濱田 剛	
テーマ	就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成	
授業の到達目標	就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。	
授業の概要	授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。	
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出	
内 容	<p>第1回 ガイダンス・プレテスト</p> <p>第2回 言語分野① 語彙・読解総合演習Ⅰ</p> <p>第3回 言語分野② 語彙・読解総合演習Ⅱ</p> <p>第4回 言語分野③ 文章力養成 発展編Ⅰ</p> <p>第5回 言語分野④ 文章力養成 発展編Ⅱ</p> <p>第6回 言語分野⑤ 文章力養成 発展編Ⅲ</p> <p>第7回 非言語分野① SPI重要単元発展編 計算・計数Ⅰ</p> <p>第8回 非言語分野② SPI重要単元発展編 計算・計数Ⅱ</p> <p>第9回 非言語分野③ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅰ</p> <p>第10回 非言語分野④ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅱ</p> <p>第11回 非言語分野⑤ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅲ</p> <p>第12回 非言語分野⑥ SPI以外の筆記試験対策Ⅰ</p> <p>第13回 非言語分野⑦ SPI以外の筆記試験対策Ⅱ</p> <p>第14回 非言語分野⑧ SPI以外の筆記試験対策Ⅲ</p> <p>第15回 非言語分野⑨ SPI以外の筆記試験対策Ⅳ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>イングオリジナルテキスト</p> <p>著者： 株式会社イング</p> <p>出版社： 株式会社イング</p> <p>出版年： 2013年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (40)</p> <p>小テスト (20)</p> <p>授業中課題 (40)</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( )</p> <p>授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅳ <Ga>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定

担当者 吉田 斉・竹内 淳

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職筆記試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 言語分野① SPI WEBテスト対策Ⅰ
- 第3回 言語分野② SPI WEBテスト対策Ⅱ
- 第4回 言語分野③ SPI WEBテスト対策Ⅲ
- 第5回 言語分野④ SPI 模試式実践演習Ⅰ
- 第6回 言語分野⑤ SPI 模試式実践演習Ⅱ
- 第7回 非言語分野① SPI WEBテスト対策Ⅰ
- 第8回 非言語分野② SPI WEBテスト対策Ⅱ
- 第9回 非言語分野③ SPI WEBテスト対策Ⅲ
- 第10回 非言語分野④ SPI 模試式実践演習Ⅰ
- 第11回 非言語分野⑤ SPI 模試式実践演習Ⅱ
- 第12回 非言語分野⑥ SPI 模試式実践演習Ⅲ
- 第13回 非言語分野⑦ SPI以外 模試式実践演習Ⅰ
- 第14回 非言語分野⑧ SPI以外 模試式実践演習Ⅱ
- 第15回 非言語分野⑨ SPI以外 模試式実践演習Ⅲ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅳ <Gb>**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 久野 勤・森本 哲夫

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職筆記試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 言語分野① SPI WEBテスト対策Ⅰ
- 第3回 言語分野② SPI WEBテスト対策Ⅱ
- 第4回 言語分野③ SPI WEBテスト対策Ⅲ
- 第5回 言語分野④ SPI 模試式実践演習Ⅰ
- 第6回 言語分野⑤ SPI 模試式実践演習Ⅱ
- 第7回 非言語分野① SPI WEBテスト対策Ⅰ
- 第8回 非言語分野② SPI WEBテスト対策Ⅱ
- 第9回 非言語分野③ SPI WEBテスト対策Ⅲ
- 第10回 非言語分野④ SPI 模試式実践演習Ⅰ
- 第11回 非言語分野⑤ SPI 模試式実践演習Ⅱ
- 第12回 非言語分野⑥ SPI 模試式実践演習Ⅲ
- 第13回 非言語分野⑦ SPI以外 模試式実践演習Ⅰ
- 第14回 非言語分野⑧ SPI以外 模試式実践演習Ⅱ
- 第15回 非言語分野⑨ SPI以外 模試式実践演習Ⅲ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

## 2017 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅵ**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 秋期集中 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 濱田 剛

テーマ

非言語分野に特化し、就職筆記試験に対応し得る知識の習得と実践力を、短期集中で養う。

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。とりわけ非言語分野は、筆記試験において点差が開く分野であり、本分野の克服無くして筆記試験の突破は困難である。非言語分野に特化、集中して学ぶことにより、一気に本番の筆記試験に対応し得る能力を養成することを目的とする。

授業の概要

就職筆記試験における非言語分野を、基礎から応用発展まで単元ごとに演習中心に学習。後半5コマは本番レベルの問題を、模試、解答解説を繰り返し実施する。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎数学 四則混合計算から総復習
- 第3回 非言語分野① 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
- 第4回 非言語分野② 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
- 第5回 非言語分野③ 仕事算、年齢算、濃度算
- 第6回 非言語分野④ 場合の数、確率
- 第7回 非言語分野⑤ 集合、ブラックボックス
- 第8回 非言語分野⑥ 資料の整理、長文読み取り
- 第9回 非言語分野⑦ 推論
- 第10回 非言語分野⑧ 領域、物の流れと比率
- 第11回 非言語分野⑨ 徹底答練Ⅰ
- 第12回 非言語分野⑩ 徹底答練Ⅱ
- 第13回 非言語分野⑪ 徹底答練Ⅲ
- 第14回 非言語分野⑫ 徹底答練Ⅳ
- 第15回 非言語分野⑬ 徹底答練Ⅴ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 救急救命将来講座 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 mitei.mitei1.mitei2.mitei3	
テーマ	
政治の常識①	
授業の到達目標	
卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。	
授業の概要	
第1回の授業は、a・bクラス合同でオリエンテーションともに公務員試験を模擬体験し、第2回以降は、数学と政治の授業を隔週で実施する。政治の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。	
準備学習(予習・復習)	
各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。	
内 容	
第1回 合同:オリエンテーション&公務員試験問題の体験	
第2回 数の世界の不思議から文字へ	
第3回 政治:国家とはなにか?——その思想と原則	
第4回 文字式の計算を図で考えよう~展開、因数分解、平方完成、解の公式	
第5回 政治:人権——原理と歴史	
第6回 数の世界の拡張~有理数、無理数、正負の数	
第7回 政治:いろいろな政治制度	
第8回 量の世界の探求~密度、濃度、速度	
第9回 政治:日本国憲法	
第10回 方程式の活用~一次・連立・二次方程式	
第11回 政治:憲法と人権①	
第12回 不等式とその活用	
第13回 政治:憲法と人権②	
第14回 比・比例・割合	
第15回 政治:まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
授業毎にプリント配付	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( 80 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 救急救命将来講座Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 mitei.mitei1.mitei2.mitei3

テーマ

経済の常識①

授業の到達目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の概要

第1回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学&政治・経済の総合テストを実施する。経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

準備学習(予習・復習)

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

内 容

- 第1回 場合の数
- 第2回 経済:経済体制
- 第3回 順列・組み合わせ
- 第4回 経済:経済理論①
- 第5回 確率
- 第6回 経済:経済理論②
- 第7回 平面図形の基礎
- 第8回 経済:経済理論③
- 第9回 相似
- 第10回 経済:戦後の日本経済
- 第11回 図形の計量
- 第12回 経済:その分野別問題
- 第13回 空間図形
- 第14回 政治:まとめ
- 第15回 合同:まとめのテスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( 30 )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 教職入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 岩本 賢治	
テーマ	
教職(教師)には、どのような資質・能力・役割が求められているのか	

## 授業の到達目標

本授業では、教師の職務内容、教師の役割のあり方、その歴史の変遷などの理解を通じて、教師としての資質及び教師の果たすべき役割について多角的に考察する。また、適宜、教職への意欲を向上させ、進路選択に有効となる内容も組み込んでいく。(1) 教科指導、特別活動、道徳・総合的な学習の時間の各分野にわたる教師の職務について、その概要を理解する。(2) 教師の職務の特質・役割、教師の権利と責任について、その概要を理解する。(3) 教育の諸問題について、自分の意見を持ち、グループで意見を交流し、意見表明ができる。

## 授業の概要

教育とは何か、学校とは何か、その中で教師の果たす役割とその意義はどこにあるかを教師の一日をつづりながら考えていきたい。学校を舞台にした映画とテレビドラマから代表的な3作品を視聴し、子どもたちにとって学校とは何かを考える。さらに教育領域としての総合的な学習の時間や道徳の時間を取りあげ、最近の教育動向とともに講義する。最後に学校教育を支える教育行政の役割を中心に、特に子どもの貧困化からくる諸問題と就学援助制度の果たす役割を考える。

## 準備学習(予習・復習)

教育や保育、子どもの現状についての新聞報道やテレビのドキュメンタリーなどを積極的に見て考えるようにする。授業の後で、その日の授業で自分が考えたことなどを振り返り、疑問点などがあれば調べて深めていく努力をする。

## 内 容

- 第1回 学校とは—講義のガイダンスと今日の教育問題の概説。グループ分けをするので、かならず出席のこと。
- 第2回 教師の一日①—朝の会から終わりの会まで。生活指導
- 第3回 教師の一日②—教師の話し術と授業づくり。教科指導
- 第4回 教師の一日③—保健室から見た学校と子どもたち
- 第5回 教師の一日④—特別な支援を要する子どもたち
- 第6回 物語のなかの教師①—テレビドラマ「3年B組金八先生」の視聴と分析
- 第7回 物語のなかの教師②—映画「学校」(前半)の視聴と分析
- 第8回 物語のなかの教師③—映画「学校」(後半)の視聴と分析
- 第9回 物語のなかの教師④—映画「フリーダムライターズ」の視聴と分析
- 第10回 教師のしごと①—道徳の教科化と『私たちの道徳』
- 第11回 教師のしごと②—道徳・総合的な学習の時間とシティズンシップ教育
- 第12回 教師のしごと③—子どもの貧困と就学援助制度
- 第13回 教師と教育行政①—教育基本法全面改正と学校教育
- 第14回 教師と教育行政②—教育委員会、教員評価、教員研修
- 第15回 授業のまとめ

## 履修上の注意点

・グループでの討論と発表を行うので、出席を重視する。・現代の教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

## 教科書

授業中に配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 70 )

授業中課題 ( 15 )

授業中発表等 ( 15 )

参加度 ( )

小テスト 第15回にそれまでの講義の要点を確認します。授業中課題 各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の内容で評価します。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の積極性で評価します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 教育心理学 &lt;a&gt;

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

授業の到達目標

中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の概要

中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当てて、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

準備学習(予習・復習)

予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内 容

- 第1回 発達とは何か
- 第2回 発達段階と発達課題
- 第3回 学習のメカニズム
- 第4回 記憶のメカニズム
- 第5回 学習への動機づけと学力形成
- 第6回 授業の心理学
- 第7回 学習指導と評価
- 第8回 欲求不満とその解消
- 第9回 個人差の理解・その1(知的能力)
- 第10回 個人差の理解・その2(性格)
- 第11回 学級の心理学
- 第12回 不応とカウンセリング
- 第13回 発達障害・その1(自閉症スペクトラム障害)
- 第14回 発達障害・その2(学習障害とADHD)
- 第15回 まとめの課題

履修上の注意点

予習の必要はないが、復習については、毎時間、配布資料を基に、講義内容の整理・確認をすること。

教科書

やさしい発達と学習

著者: 外山紀子・外山美樹

出版社: 有斐閣

出版年: 2010

ISBN: 9.78464E+12

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (70%)

小テスト (30%)

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 教育心理学 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 南 憲治	
テーマ 中等教育段階の子どもの発達と教育	
授業の到達目標 中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。	
授業の概要 中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当てて、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。	
準備学習(予習・復習) 予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。	
内 容 第1回 発達とは何か 第2回 発達段階と発達課題 第3回 学習のメカニズム 第4回 記憶のメカニズム 第5回 学習への動機づけと学力形成 第6回 授業の心理学 第7回 学習指導と評価 第8回 欲求不満とその解消 第9回 個人差の理解・その1(知的能力) 第10回 個人差の理解・その2(性格) 第11回 学級の心理学 第12回 不応とカウンセリング 第13回 発達障害・その1(自閉症スペクトラム障害) 第14回 発達障害・その2(学習障害とADHD) 第15回 まとめの課題	
履修上の注意点 予習の必要はないが、復習については、毎時間、配布資料を基に、講義内容の整理・確認をすること。	
教科書 やさしい発達と学習 著者: 外山紀子・外山美樹 出版社: 有斐閣 出版年: 2010 ISBN: 9.78464E+12	
参考書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (70%) 授業中課題 ( ) 参加度 ( )	小テスト (30%) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 教育原論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 真佐樹	
テーマ 教育の基本問題と教育改革	
授業の到達目標 そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。	
授業の概要 教師は何のために教え、子どもはなぜ学校で学ぶのか、といった永遠の問いとしての教育の理念・歴史・思想をふまえ、発達と教育の関係、内容・方法など教育実践における基本的単位の意義を考察する。そして、教科指導や生活指導、教養教育と職業(専門)教育などの領域に関する位置づけ、教育制度にかかわる公共性の意義や改革問題、接続問題や進路問題、教師専門職の在り方などについて概観する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 導入 教育とは何か 第2回 人間理解と教育の考え方 第3回 人間の成長・発達と教育 第4回 教育思想の生成と展開 第5回 教育制度と学校の役割 第6回 近代社会と学校(1) 近代学校の誕生 第7回 近代社会と学校(2) 自由か統制か 戦時期と戦間期 第8回 戦後日本と教育(1) 戦後教育改革 第9回 戦後日本と教育(2) 経済成長と教育 第10回 現代日本と教育改革(1) 「第3の教育改革」と学校 第11回 現代日本と教育改革(2) 21世紀の教育・学校 第12回 世界の教育・学校(1) 欧米編 第13回 世界の教育・学校(2) アジア編 第14回 現代社会に生きる子どもと教育・教育の課題 第15回 まとめ 未来社会の教育・学校のあり方を考える	
履修上の注意点 様々な教育書を意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたづなりふれ、人間の理解を深めることを期待する。	
教科書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 新・教育学 著者: 南新・佐々木・吉岡 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2009 ISBN: 9.78462E+12 西洋の教育の歴史 著者: 山崎英則 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2010 ISBN: 9.78462E+12	
成績評価 試験・レポート(60) 小テスト( )	





## 2017 Syllabus

科目名 教育原論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 森 枝美	
テーマ 教育の基本問題と教育改革	
授業の到達目標 そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。	
授業の概要 教師は何のために教え、子どもはなぜ学校で学ぶのか、といった永遠の問いとしての教育の理念・歴史・思想をふまえ、発達と教育の関係、内容・方法など教育実践における基本的単位の意義を考察する。そして、教科指導や生活指導、教養教育と職業(専門)教育などの領域に関する位置づけ、教育制度にかかわる公共性の意義や改革問題、接続問題や進路問題、教師専門職の在り方などについて概観する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 導入 教育とは何か 第2回 人間理解と教育の考え方 第3回 人間の成長・発達と教育 第4回 教育思想の生成と展開 第5回 教育制度と学校の役割 第6回 近代社会と学校(1) 近代学校の誕生 第7回 近代社会と学校(2) 自由か統制か 戦時期と戦間期 第8回 戦後日本と教育(1) 戦後教育改革 第9回 戦後日本と教育(2) 経済成長と教育 第10回 現代日本と教育改革(1) 「第3の教育改革」と学校 第11回 現代日本と教育改革(2) 21世紀の教育・学校 第12回 世界の教育・学校(1) 欧米編 第13回 世界の教育・学校(2) アジア編 第14回 現代社会に生きる子どもと教育・教育の課題 第15回 まとめ 未来社会の教育・学校のあり方を考える	
履修上の注意点 様々な教育書を意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたづなりふれ、人間の理解を深めることを期待する。	
教科書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業中に紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート(60%) 小テスト( ) 授業中課題(20%) 授業中発表等(20%) 参加度( ) 最終時間に試験を課する。授業出席と授業中の発表ならびにレスポンスカードを総合的に評価する。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 道徳教育の理論と方法

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 秋期集中	定員	
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定	
担当者 岩本 賢治		
テーマ		
学校教育における道徳教育の可能性		
授業の到達目標		
押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。		
授業の概要		
道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。		
準備学習(予習・復習)		
現代の道徳教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。		
内 容		
第1回 道徳とは何か		
第2回 中学生期の発達の特徴		
第3回 道徳教育の歴史(明治～大正)		
第4回 道徳教育の歴史(戦後)		
第5回 全面主義と特設主義		
第6回 他の教科と道徳教育の関連		
第7回 道徳教育と特別活動		
第8回 道徳教育と総合学習		
第9回 道徳の内容の理解		
第10回 家庭、地域と道徳教育		
第11回 道徳の時間の年間計画		
第12回 道徳の時間の教材研究		
第13回 道徳の時間の指導案づくり		
第14回 道徳教育の実践と評価の方法		
第15回 まとめ		
履修上の注意点		
時事的な話題として取り上げられる、教育問題や現代の青少年の精神状況や行動の特徴などに絶えず、関心を払うこと。		
教科書		
中学校学習指導要領解説 道徳編		
著者: 文部科学省		
出版社: 日本文教出版		
出版年:	ISBN:	
参考書		
その都度指示する		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験・レポート (40)	小テスト (15)	
授業中課題 (15)	授業中発表等 (15)	
参加度 (15)		

## 2017 Syllabus

## 科目名 教育制度論

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間	秋期集中	定員
履修条件	教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者	小田 義隆	
テーマ	現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。	
授業の到達目標	現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。	
授業の概要	現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。	
準備学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を熟読して参加すること(予習60分)。テキストの該当箇所を熟読し理解を深めるべく復習する(復習60分)。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 I 憲法・教育基本法制 ①憲法の教育条項</p> <p>第3回 I 憲法・教育基本法制 ②教育基本法の制定と改正</p> <p>第4回 I 憲法・教育基本法制 ③国際教育法</p> <p>第5回 II 学校制度 ①初等・中等教育制度</p> <p>第6回 II 学校制度 ②就学奨励制度</p> <p>第7回 II 学校制度 ③教科書制度</p> <p>第8回 II 学校制度 ④学校の組織運営</p> <p>第9回 III 教育行政制度 ①中央教育行政組織</p> <p>第10回 III 教育行政制度 ②教育委員会制度の創設</p> <p>第11回 III 教育行政制度 ③教育委員会制度の展開</p> <p>第12回 IV 教職員法制 ①教員養成・免許制度</p> <p>第13回 IV 教職員法制 ②教員採用制度</p> <p>第14回 IV 教職員法制 ③教員研修制度</p> <p>第15回 IV 教職員法制 ④教員評価制度</p>	
履修上の注意点	講義を通じ、または自主的に発見した課題について、教育関係の雑誌、情報等で問題の所在と改革の課題を学習研究し、中間または最終的なレポートにまとめることが望ましい。	
教科書	<p>現代教育制度論 第4刷</p> <p>著者： 土屋基規編</p> <p>出版社： ミネルヴァ書房</p> <p>出版年： ISBN:</p>	
参考書	<p>現代教育法概説</p> <p>著者： 平原・室井・土屋 共</p> <p>出版社： 学陽書房</p> <p>出版年： ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート ( 70 )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( 30 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 教育課程論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 森 枝美	
テーマ 教育課程の構造と実践	
授業の到達目標 ・教育課程の編成に関する基本的な理論と具体的な方法・日本における教育課程の歴史の変遷・教育課程編成における教育評価の意義と課題 以上3点について理解し、自らの実践に活かす手がかりを見いだすことができる。	
授業の概要 教育課程の意義、果たす役割、および、教育課程に関わる基本的な概念について理解し、教育課程編成、授業づくりに関わる基礎的知識を身につけるとともに、授業づくりやカリキュラム・マネジメントのために必要な力量の基礎を養う。	
準備学習(予習・復習)	

## 内 容

- 第1回 教育課程とは何か  
 第2回 教育課程を編成するための構成要件  
 第3回 近代日本における教育課程の歴史  
 第4回 学習指導要領の変遷(1)経験主義と系統主義  
 第5回 学習指導要領の変遷(2)教育の現代化  
 第6回 学習指導要領の変遷(3)「ゆとり」への転換から生きる力の重視へ  
 第7回 国際学力調査と教育課程  
 第8回 教育課程と授業づくり  
 第9回 教科書の位置付けと採択システム  
 第10回 総合的な学習の時間について(中等)  
 第11回 今日的な課題への挑戦(中等)  
 第12回 教育評価の理論  
 第13回 多様な評価方法  
 第14回 教育課程の評価とその役割  
 第15回 授業のまとめ

## 履修上の注意点

講義で扱った内容をふまえてその後の講義を進めるため、復習をするとともに、不明な点があれば質問すること。

## 教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

高等学校学習指導要領解説 総則編

著者: 文部科学省

出版社: 東山書房

出版年:

ISBN:

中学校学習指導要領解説 総則編

著者: 文部科学省

出版社: ぎょうせい

出版年:

ISBN:

よくわかる教育課程

著者: 田中耕治編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009年

ISBN:

新しい時代の教育課程(第3版)

著者: 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵

出版社: 有斐閣

出版年: 2011年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 70 )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 特別活動論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ	
特別活動の具体的な事例を考察し、ワークショップを通して学ぶ。	
授業の到達目標	
特別活動の事例を理解し、指導計画を作成すること、体験することを目的とする。	
授業の概要	
特別活動が示す領域を理解し、その後、学級活動の指導、行事に関わる指導、安全指導について学ぶ。特に安全指導では、ワークショップを取り入れる。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mailはある程度使えることが望ましい。	
準備学習(予習・復習)	
母校に行く機会を作り、各種行事に関する職員会議資料を見せてもらおうと良い。想像以上に綿密に計画が立てられていることが分かるだろう。また、それを参考に自分で計画を立ててみるのも勉強になるだろう。	
内 容	
第1回	特別活動とは 特別活動が扱う領域を学習指導要領で確認する。
第2回	学級活動 1 日常生活。当番活動、係り活動、教科係り、プロジェクトチーム。学級開き(ゲーム、why-becausegame、流れ)、学級取め、どう言い返すのワーク(データ収集)、掃除指導、席替え、班長会議、連絡カード
第3回	学級活動 2 学級行事。転入生を迎える、転校生を送り出す、進路指導、進路宣言、安全指導
第4回	その他 学芸行事/体育大会/学年行事/学校行事/儀式など 担任の仕事
第5回	課題作成 遠足指導の実践計画 遠足指導の実践計画を作成する。
第6回	遠足指導の実践計画を作成する。(アイデア出し)
第7回	遠足指導の実践計画を作成する。(実地調査)
第8回	遠足指導の実践計画を作成する。(まとめ)
第9回	課題回収 お礼状の書き方指導
第10回	特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(理論)
第11回	特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(実践)
第12回	特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(質疑応答)
第13回	特別授業まとめ 授業を受けて、自分の課題、学んだことについての文章を書く。今村先生にお礼状を書く。
第14回	特別授業まとめ 特別授業の講義を受けての体験作文を書く。
第15回	まとめ 特別活動論を振り返りながら評価する。書き込み回覧作文で振り返る。最終課題の提示。
履修上の注意	
出席くんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。なお、出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。	
教科書	
特になし	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
高等学校学習指導要領解説 特別活動編	
著者: 文部科学省	
出版社: 海文堂出版	
出版年:	ISBN:
中学校学習指導要領解説 特別活動編	
著者: 文部科学省	
出版社: ぎょうせい	
出版年:	ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

レポートは読んでいただくものである。指示に従い、書式に従い丁寧に仕上げること。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 教育方法論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 梅本 裕	
テーマ ＜授業をつくる＞方法への理解とイメージを育む	
授業の到達目標 教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。	
授業の概要 80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。	
準備学習(予習・復習) 自分の追求する免許教科の学習指導要領を手元に置き、熟読すると共に、授業において常に参照できるようにしておくこと。	
内 容 第1回 「あの坂の名は？」:社会科における発信型の授業と学力とは何か？ 第2回 「見たこと作文」:子どもが＜動く＞授業の条件とは？ 第3回 「木の葉の駅で」:発問の構造 第4回 「発電所はどこにあるか？」:教授行為とは何か？ 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての＜指示・発問・説明・応答・調整＞ 第6回 「お化け屋敷で算数を」:こどもたちの理解の構造をさぐる 第7回 「絵を描くのは苦手です」:教育内容と方法の開発論理 第8回 「声を育てる音楽の授業」:＜雰囲気の良い授業＞の構造は？ 第9回 「世界とつながる、深く調べる」:タブレット端末の教育的活用法 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」:言語技術としての＜分析ツールを教える＞国語の授業 第11回 「琵琶湖で学ぶ」:総合学習とは何か？ 第12回 授業づくりの記号論的構造:＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞ 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」:授業の機能とICTの活用 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」:イメージをそだてる授業の構造 第15回 まとめ-＜授業をつくる＞方法への理解とイメージ	
履修上の注意点 単位認定には3分の2以上の出席が前提となる。実習などで欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。	
教科書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( 50 ) 授業中課題 ( 50 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( )	



## 2017 Syllabus

科目名 教育相談

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

授業の到達目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の概要

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、教育相談の意義：“今なぜ教育相談？”
- 第2回 教育相談の機能と限界
- 第3回 教育相談の歩み
- 第4回 教育相談の事例検討(1)不登校、いじめ等
- 第5回 教育相談の事例検討(2)対人恐怖、神経症等
- 第6回 ストレスマネジメント
- 第7回 教育相談に役立つ基礎的理論と技法(1)精神分析論(フロイト)
- 第8回           "                           (2)自己理論 (ロジャーズ)
- 第9回           "                           (3)行動理論、論理療法
- 第10回          "                           (4)交流分析、ゲシュタルト理論他
- 第11回 人間理解とカウンセリングマインド
- 第12回 人間関係づくりのエクササイズ
- 第13回 望ましいコミュニケーションのために
- 第14回 まとめと復習
- 第15回 試験

履修上の注意点

教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウオッチング(いろいろな人がいるなー！)に努める。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右します。

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語科教育法 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定

担当者 中井 弘一

## テーマ

「実践的指導力」の育成:英語授業の構成力、展開力

## 授業の到達目標

・中学校・高等学校の英語科担当教員に必要とされる英語授業の基礎的な知識を得る・実践的な英語指導の素地・基盤知識を身に付ける

## 授業の概要

テキストの英語授業展開の各章項目について学生による発表を行い、その発表をもとに何が大切なことかを話し合う。質疑応答や話し合いを通して、教育実習に赴くための英語授業・英語指導に関する素地・基盤知識を身に付ける。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 第1章 英語科授業構成の基礎知識 中学校・高等学校学習指導要領・小学校外国語学習指導要領  
 第2回 第1章 英語科授業構成の基礎知識 シラバス、英語教員の役割  
 第3回 第5章 英語科授業の展開 指導案と授業の進め方・学習指導案の書き方  
 第4回 第2章 教材を見る視点(教材研究) 語彙・文構造の面からの分析、学習者の要因、学習心理  
 第5回 第2章 教材を見る視点(教材研究) 談話・文体・文章構成の面からの分析  
 第6回 第2章 教材を見る視点(教材研究) 文化理解の面からの分析発音練習(破裂音2)  
 第7回 第3章 教材を使う視点 学習者に応じた教材の選択  
 第8回 第3章 教材を使う視点 技能に応じた教材の選択  
 第9回 第3章 教材を使う視点 教材を見る視点  
 第10回 第4章 英語科授業構成の考え方 中・長期的な目標設定の重要性  
 第11回 第4章 英語科授業構成の考え方 伝統的な英語科授業構成  
 第12回 第4章 英語科授業構成の考え方 タスク中心の英語科授業構成発音練習(側音)  
 第13回 第4章 英語科授業構成の考え方 求められる統合型の英語科授業構成  
 第14回 第5章 英語科授業の展開 授業で行うアクティビティ・基本的指導技術  
 第15回 英語授業展開で大切なこと

## 履修上の注意点

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

## 教科書

New Crown English Series New Edition(Book1, 2, 3)

著者:

出版社: 三省堂

出版年:

ISBN:

現代英語教授法総覧

著者: 田崎清忠 編著

出版社: 大修館書店

出版年: 1995

ISBN:

担当教員による授業中配付資料

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

小学校学習指導要領解説 外国語活動編

著者: 文科省

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2008

ISBN:

中学校学習指導要領解説 外国語編

著者： 文科省

出版社： 開隆堂出版社

出版年： 2008

ISBN:

高等学校学習指導要領解説 外国語編

著者： 文科省

出版社：

出版年： 2009

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 中井 弘一	
テーマ 「実践的指導力」の育成: 授業実践力、指導案作成、模擬授業	
授業の到達目標 ・外国語習得について歴史的に思考錯誤されてきた教授法の長所・短所を理解する・それぞれの教授法の根拠となったメカニズムを理解し、実際の授業で応用できるようにする	
授業の概要 歴史的に思考錯誤されてきた外国語教授法の流れを概観し、それぞれの教授法に基づいている言語習得のメカニズムを理解する。それぞれの教授法を基にした模擬授業を通して、学習指導要領がめざす英語力育成にそのメカニズムを実際の授業の学習活動にどのように応用・活用するのかを探る。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 外国語教授法概観・オリエンテーション(英語教員に求められる資質能力) 第2回 文法訳読法の理解 第3回 模擬授業1: 学校英語教育における文法訳読法の実際 第4回 オーディオ・リンガル・メソッドの理解 第5回 模擬授業2: 学校英語教育におけるオーディオ・リンガル・メソッド応用の実際 第6回 オーラル・メソッドの理解 第7回 模擬授業3: 学校英語教育におけるオーラル・メソッド応用の実際 第8回 トータル・フィジカル・リスポンズ・ジャズチャンツの理解 第9回 模擬授業4: 学校英語教育におけるトータル・フィジカル・リスポンズ・ジャズチャンツ応用の実際 第10回 ヒューマニスティック・アプローチの理解 第11回 模擬授業5: 学校英語教育におけるヒューマニスティック・アプローチ応用の実際 第12回 認知学習理論の理解 第13回 模擬授業6: 学校英語教育における認知学習理論応用の実際 第14回 ナチュラル・アプローチの理解・タスク・ベースの活動の理解 第15回 模擬授業7: 学校英語教育におけるナチュラル・アプローチの理解・タスク・ベースの活動の実際	
履修上の注意点 数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。	

## 教科書

New Crown English Series New Edition(Book 1, 2, 3)

著者:

出版社: 三省堂

出版年:

ISBN:

新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践

著者: 三浦省吾・深沢清治編著

出版社: ミネルバ書房

出版年: 2009年

ISBN:

## 参考書

中学校学習指導要領解説外国語編

著者:

出版社: 開隆堂出版社

出版年: 2008年

ISBN:

高等学校学習指導要領解説 外国語編

著者:

出版社: 開隆堂出版社

出版年: 2009年

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 英語科教育法Ⅲ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	
履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定	
担当者 梅本 裕		
テーマ 「実践的指導力」の育成:英語授業の構成力、展開力		
授業の到達目標 ・中学校・高等学校の英語科担当教員に必要とされる基本的な知識を得る・教育現場での実践的な英語指導法を身につける		
授業の概要 英語科教育法IIの履修と並行し、英語授業・英語指導に関する素地・基盤知識をもとに、コミュニケーション能力育成のための4領域の指導はどうあるべきかなど、実践的な知識と指導技術を、模擬授業を行ったりして体得させるようにする。また、チームティーチング、評価、授業案作成など実践的な課題を取り上げる。		
準備学習(予習・復習) なるべく多くの英文を読むこと。多読が英語学力の基礎である。		
内 容 第1回 第6章 英語科評価の新動向 教育測定とデータの解釈・さまざまな評価の種類 第2回 第6章 英語科評価の新動向 観点別評価の考え方と進め方・新しい評価 第3回 中学校の模擬授業(1)授業研究(1年生の教科書) 第4回 中学校の模擬授業(2)授業研究(2年生の教科書) 第5回 中学校の模擬授業(3)授業研究(2年生の教科書・第4回の続きの教材を扱って) 第6回 中学校の模擬授業(4)授業研究(3年生の教科書) 第7回 高等学校の模擬授業(1)授業研究(コミュニケーション英語Ⅰ) 第8回 高等学校の模擬授業(2)授業研究(コミュニケーション英語Ⅰ・第7回と異なるレッスンを扱って) 第9回 高等学校の模擬授業(3)授業研究(英語表現Ⅰ) 第10回 高等学校の模擬授業(4)授業研究(英語表現Ⅰ・第9回と異なるレッスンを扱って) 第11回 第7章 開発する視点とその方法 教材の開発・カリキュラムの開発・テストの開発 第12回 第8章 これからの英語教育と英語教師に求められる力 海外の動向から 第13回 第8章 これからの英語教育と英語教師に求められる力 日本の最近動向から 第14回 第8章 これからの英語教育と英語教師に求められる力 これからの英語教師に求められる資質と能力 第15回 教育実習に向けて ALTとのチームティーチングの在り方		
履修上の注意点 毎回、授業に必要な学習用具をきちんと持参すること。筆記具や辞書、参考書以外の持参物は授業時に指示する。なお、授業は、当然、定刻に始めるので遅刻をしないこと。		

## 教科書

New Crown English Series NewEdition(Book1, 2, 3)

著者:

出版社: 三省堂

出版年:

ISBN:

新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践

著者: 三浦省吾・深沢清治編著

出版社: ミネルバ書房

出版年: 2009

ISBN:

担当教員による授業中配付資料

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

小学校学習指導要領解説 外国語活動編

著者: 文科省

出版社: 東洋館出版社

出版年：2008

ISBN:

中学校学習指導要領解説 外国語編

著者： 文科省

出版社： 開隆堂出版社

出版年：2008

ISBN:

高等学校学習指導要領解説 外国語編

著者： 文科省

出版社:

出版年：2009

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( )

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 国語科教育法 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ 国語科授業の基本的な指導法に触れる	
授業の到達目標 学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。具体的には、漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な参加を期待する。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。	
準備学習(予習・復習) 「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。	
内 容	
第1回 国語科って何? 授業ガイダンス。学習指導要領では? どんな力をつける教科なの? 国語科教育の歴史 学習権宣言	
第2回 国語の授業を作る基礎。発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方。	
第3回 メモ指導。聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法。	
第4回 漢字指導 1. 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント	
第5回 漢字指導 2. 自作漢字学習教材の相互評価 四字熟語でポン たほいや 簡単な学習ゲーム論。	
第6回 読書指導 1. 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション。	
第7回 読書指導 2. 「書き込み回覧作文」による評価 和綴じ本づくり。	
第8回 作文指導 1. 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方。	
第9回 作文指導 2. アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価。	
第10回 作文指導 3. 「書き込み回覧作文」による評価 テスト問題のつくり方。	
第11回 小テストと定期考査。国語科で行うテストについて、具体的に考え、実際に作ってみる。	
第12回 音読/プレゼン指導。滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際。	
第13回 句会方式による指導。句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト。	
第14回 小テストと定期考査と採点方法。第11回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。	
第15回 国語科教育法1を評価する。「書き込み回覧作文」による国語科教育法1の評価。	

## 履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。出席君と掲示板へ授業後の課題提出を合わせて、出席をカウントすることを理解すること。

## 教科書

まともな日本語教えない勘違いだらけの国語教育

著者: 有元秀文

出版社: 合同出版

出版年:

ISBN:

いちばんやさしい教える技術

著者: 向後千春

出版社: 永岡書店

出版年:

ISBN:

実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版

著者: 中原國明・大熊徹編

出版社: 教育出版

出版年:

ISBN:



## 白石範孝の国語授業の教科書

著者： 白石範孝

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN:

## 参考書

## 中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者： 石川晋・平山雅一

出版社： 学事出版

出版年： ISBN:

## みんな言葉を持っていた

著者： 柴田保之

出版社： オクムラ書店

出版年： ISBN:

## 一斉指導10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年： ISBN:

## 新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN:

## 読書で遊ぼうアニメーション

著者： モセラット・サルト

出版社： 柏書房

出版年： ISBN:

## プレイフル・ラーニング

著者： 上田信行×中原淳

出版社： 三省堂

出版年： ISBN:

## 授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN:

## これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本

著者： 八木正一・上條晴夫

出版社： 学事出版

出版年： ISBN:

## 奇跡の教室

著者： 伊藤氏貴

出版社： 小学館

出版年： ISBN:

## 白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： ISBN:

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( 10 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

出席さんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

## 2017 Syllabus

## 科目名 国語科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ 実技教科としての国語科のあり方を探る	
授業の到達目標 教師が「教科書を読んで板書して解説して」という国語科を脱却し、学習者が主体的に学びに参加する国語科の授業を構築するための観点と方法を手に入れることを目的とする。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として「模擬授業」「教材作り」「学習ゲーム」などの活動を行う。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。	
準備学習(予習・復習) 「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。	
内 容	
第1回 国語科と教材作り 授業ガイダンス。夏休みの課題の相互評価。ワークシートの実例から、教材とは何かを考える。学習班づくり。発問とは何か？	
第2回 国語科を実技教科として考える。学習ゲーム、ワークシート、資料集作り、辞書作り、アンソロジーノート、対義語でポン、和綴じ本作りなど。	
第3回 学習ゲームの実際。辞書しり取り、たほいや、why-becauseゲーム、無関係ゲーム、ディベート、J1百人一首など。人生名言集。	
第4回 ワークシートの実際。短編問題集、漢字学習、言語事項学習など。実際にゲームを作ってみる スピーチテスト。	
第5回 指導案の書き方 1。授業のビデオを見て、その授業の指導案を書いてみる。	
第6回 指導案の書き方 2。指導案の相互評価。	
第7回 定番教材の指導 韻文。中学校の定番教材として扱われる韻文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。	
第8回 定番教材の指導 散文。中学校の定番教材として扱われる散文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。	
第9回 定番教材の指導 古典。中学校の定番教材として扱われる古典の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。	
第10回 作成教材の検討 1。定番教材として提出した教材を実際に使って、定期考査を作る。	
第11回 国語教育の現在 1。メディアリテラシー教育。メディア断食、CMの分析、番組作りなど。	
第12回 国語教育の現在 2。コンピュータと国語。タッチタイプ、ブログ、デジタルストーリーテリング、読書感想文など。	
第13回 作成教材の検討 2。第10回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。評価／評定指導。評価とは何か、評価から評定への実際。	
第14回 模擬授業 1 5分程度の模擬授業を全員が行う。	
第15回 模擬授業 2 5分程度の模擬授業を全員が行う。国語科教育法2のまとめ。	

## 履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

## 教科書

## 教師のための「教える技術」

著者： 向後千春

出版社： 明治図書

出版年：

ISBN：

## 白石範孝の国語授業の教科書

著者： 白石範孝

出版社： 東洋館出版

出版年：

ISBN：

スペシャリスト直伝 中学校国語科授業成功の極意

著者： 池田修

出版社： 明治図書

出版年：

ISBN：

参考書

読書で遊ぼうアニメーション

著者： モセラット・サルト

出版社： 柏書房

出版年：

ISBN：

プレイフル・ラーニング

著者： 上田信行×中原淳

出版社： 三省堂

出版年：

ISBN：

授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本

著者： 八木正一・上條晴夫

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

奇跡の教室

著者： 伊藤氏貴

出版社： 小学館

出版年：

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は面白い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者： 石川晋・平山雅一

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

みんな言葉を持っていた

著者： 柴田保之

出版社： オクムラ書店

出版年：

ISBN：

一斉指導10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）

小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 40 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 30 ）

グループで行う模擬授業と、個人で行う模擬授業を評価では重点とします。準備、実際、まとめとそれぞれを丁寧に取り組むこと。また、出席さんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

## 2017 Syllabus

## 科目名 国語科教育法Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 渡邊 久暢	
テーマ 中等国語科教育の実践的な学習指導の研究	
授業の到達目標 中学校・高等学校における国語科授業の構成、実施、評価にかかわる知識、能力を身につける。特に、教材研究、授業計画、授業分析の実際を通して力量を高める。	
授業の概要 高等学校における「国語総合」の学習指導案を作成し、その模擬授業を行うことを通して、上記の目標を達成する。活動を通して、力を培う形式で行う。指導案はパソコン室で作成する。模擬授業を主たる評価の対象とする。	
準備学習(予習・復習) 指定テキストを購入し、事前課題(別途指示)を期日までに提出した上で授業に臨むこと。	
内 容 第1回 事前課題の理解度を確認する試験 第2回 中学校・高等学校国語科教育の目標と内容―平成20年版学習指導要領から―① 読むこと 第3回 中学校・高等学校国語科教育の目標と内容―平成20年版学習指導要領から―② 書くこと・話すこと・聞くこと 第4回 新しい学習指導要領 第5回 学習指導案作成のポイントと評価の仕方 第6回 文学的文章の学習指導① 第7回 文学的文章の学習指導② 第8回 文学的文章の学習指導③ 第9回 文学的文章の学習指導④ 第10回 模擬授業に向けた指導案の作成① 第11回 模擬授業に向けた指導案の作成② 第12回 模擬授業に向けた指導案の作成③ 第13回 模擬授業 第14回 模擬授業 第15回 ふりかえり	
履修上の注意点 事前課題は必ず期日までに提出すること。集中講義の三日間は毎日課題の提出が求められる。	
教科書 今求められる学力と学びとは コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影 著者： 石井英真 出版社： 日本標準 出版年： 2015 ISBN: 9.78482E+12 学びとは何か 著者： 今井むつみ 出版社： 岩波新書 出版年： 2016 ISBN: 9.784E+12 教育をよみとく 著者： 田中耕治他 出版社： 有斐閣 出版年： 2017 ISBN: 9.78464E+12	
参考書 国語科授業づくり入門 著者： 堀 裕嗣 出版社： 明治図書 出版年： 2014 ISBN: 9.78418E+12	

教室における読みのカリキュラム設計

著者： 八田幸恵

出版社： 日本標準

出版年： 2015

ISBN: 9.78482E+12

---

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 30 )

事前課題、授業中に出された課題、指定された教材での模擬授業を、主たる評価の対象とする。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 社会科教育法 I

クラス	配当回生 学部3回生
-----	------------

講義期間 前期	定員
---------	----

履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定
-------------------------	-------

担当者 岩本 賢治
-----------

## テーマ

まず、「社会科は暗記するだけ」という考え方を捨てましょう。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを探ることがこの授業のテーマです。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためには何が必要か考えていきます。

## 授業の到達目標

中学校社会科の授業を自ら構成し、「学習指導案」の形で表現できる。このためには、「社会科の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。

## 授業の概要

前半は講義を中心に、社会科について概略を学ぶ。その際、これまでに議論されていることや、現在も課題とされていることなどについて話し合いたい。後半は設定した課題に取り組む形で、発表や互いに交流する機会を持ちたい。

## 準備学習(予習・復習)

高等学校(社会科・地歴科・公民科)の復習、特に履修していない科目などについては教科書を準備して少しずつ復習する。社会科の内容は時事問題も含まれるので、新聞やTVでニュースに注意する。また、授業で扱った社会事象や社会問題を復習する。このようなことを、毎日1時間程度行う。

## 内 容

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 社会科について 成立から現在まで 経験主義と系統主義 ゆとりと学力低下
- 第3回 社会科で育てる資質・能力、学力とは？ 公民的資質と社会認識「理解する」と「覚える」
- 第4回 社会科と評価 相対評価と絶対評価 観点別学習状況
- 第5回 国際学力調査を踏まえたこれからの社会科の課題
- 第6回 中学校社会科の単元計画と授業(地域学習を手がかりに)
- 第7回 中学校社会科の3つの分野と単元構成
- 第8回 発表「私の住んでいる地域のようす」
- 第9回 地理的分野の目標・内容 ① 世界の様々な地域
- 第10回 地理的分野の目標・内容 ② 日本の様々な地域
- 第11回 歴史的分野の目標・内容 ① 歴史のとらえ方～中世の日本
- 第12回 歴史的分野の目標・内容 ② 近世の日本～現代の日本と世界
- 第13回 公民的分野の目標・内容 ① 私たちと現代社会、私たちと経済
- 第14回 公民的分野の目標・内容 ② 私たちと政治、私たちと国際社会の諸課題
- 第15回 授業のまとめ 模擬授業の作り方

## 履修上の注意点

図書館などにある授業実践を記録した書籍などに触れるようにしてほしい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( 40 )
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 15 )
参加度 ( 15 )	

小テスト 第5回、第10回、第15回に講義内容に関する小テストを実施します。授業中課題 各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等 毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明する。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

## 2017 Syllabus

## 科目名 社会科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 岩本 賢治	
テーマ	
中等社会科の目標、内容、方法について、教材分析と授業づくりを通じて基本的な理解を深める。	
授業の到達目標	
1 中等社会科の目標、内容、方法に関する基本的な理解を深めるために、中学校・高等学校の社会科の歴史とすぐれた社会科実践の分析を行う中で、教材づくりの視点と方法を学ぶ。2 中等社会科の授業案づくりを作成して、実践力を身につける。	
授業の概要	
中等社会科について戦後社会科の誕生から現在までの学習指導要領の歴史、民間の社会科実践のあゆみ、中学校教科書論、教材論、社会科の授業案を作成する。	
準備学習(予習・復習)	
高等学校の復習、特に履修していない科目などについては教科書を準備して少しずつ復習する。社会科の内容は時事問題も含まれるので、新聞やTVでニュースに注意する。また、授業で扱った社会事象や社会問題を復習する。このようなことを、毎日1時間程度行う。	
内 容	
第1回	戦後の中等社会科のあゆみ(1)ー公民教育構想と初期社会科の誕生、問題解決学習と初期社会科実践、初期社会科教科書の内容
第2回	戦後の中等社会科のあゆみ(2)ー1955年版学習指導要領から1977年版学習指導要領まで、系統学習と歴史・地理学習、民間社会科(歴教協と教科研)の実践、生産労働実践と系統的歴史・地理学習、中等社会科カリキュラムと高校の現代社会
第3回	戦後の中等社会科のあゆみ(3)ー1989年版学習指導要領と社会科解体、生活科と高校の地歴科・公民科、1998年版学習指導要領と総合的学習の開始、社会科の総合性と総合学習論
第4回	戦後社会科教育史から学ぶー社会科における問題解決学習と系統学習、課題探究型社会科学学習、総合型の人権学習、平和教育と環境教育
第5回	民間社会科実践史から学ぶ(1)中学校社会科の授業づくりと学カ一安井俊夫の戦争学習実践
第6回	民間社会科実践史から学ぶ(2)中学校歴史学習ー安井俊夫『子どもと学ぶ歴史の授業』から『子どもが動く社会科』へ、発言を引き出す授業
第7回	民間社会科実践史から学ぶ(3)高校日本史の授業づくりと学カ一加藤公明実践、「近世アイヌの実像に迫る」実践、『考える日本史』ー討論型日本史学習、加藤の授業ビデオ視聴
第8回	日本とアメリカの歴史教育の比較ー渡邊雅子論文、高校世界史学習ー難波達興のアメリカ史実践
第9回	社会科教材づくりの視点と方法(1)教育内容と教材の区分、中学校の教科書分析、安井俊夫の授業づくり論
第10回	社会科教材づくりの視点と方法(2)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、授業構想と教材研究
第11回	社会科教材づくりの視点と方法(3)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案づくり
第12回	社会科教材づくりの視点と方法(4)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第13回	社会科教材づくりの視点と方法(5)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第14回	社会科教材づくりの視点と方法(6)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第15回	中等社会科の歴史と実践のまとめ
履修上の注意点	
1. この授業は出席を重視するので注意すること。2. 授業の中でグループワークを通じて、意見形成、意見表明を求めらるので、自分なりの考えを持ち、表現できるよう努めること。	
教科書	
参考書	
授業の中で指示する。	
著者:	
出版社:	
出版年:	
ISBN:	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 70 )	授業中発表等 ( 15 )
参加度 ( 15 )	

1. 各授業の最後に短いレポートを書きます(学習指導案および模擬授業を含む)。
  2. 毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明する。
  3. 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。
-



## 2017 Syllabus

## 科目名 社会科教育法Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定
担当者 岩本 賢治	
テーマ 模擬授業の計画と実践を通して、教材研究や教科指導の力を養う。	
授業の到達目標 教育実習での研究授業(公開授業)を念頭において、「学習指導案(細案)」を作成することができる。授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。協力して授業実践を行うことを通して、授業研究や授業改善の方法を知る。	
授業の概要 小集団または個人によって教材を開発し、学習指導案を作成する。さらに模擬授業実践を行い、それを検討するまでを行う。	
準備学習(予習・復習) 社会科の授業の教材や教具として利用できないかを考えるという視点を常にもつ。普段から小中学生でもわかるような話し方を意識する。各授業での発表について、内容や方法を検討し、感想や意見を交換できるよう準備しておく。	
内 容 第1回 授業の目標と進め方について 第2回 授業づくりと教材研究の方法 ① 学習指導要領と教科書 第3回 授業づくりと教材研究の方法 ② 教材と教具 発問と指示 第4回 地理的分野の授業分析 第5回 歴史的分野の授業分析 第6回 公民的分野の授業分析 第7回 模擬授業と講評、相互評価 ①地理的分野 第1グループ 第8回 模擬授業と講評、相互評価 ②地理的分野 第2グループ 第9回 模擬授業と講評、相互評価 ③地理的分野 第3グループ 第10回 模擬授業と講評、相互評価 ④歴史的分野 第4グループ 第11回 模擬授業と講評、相互評価 ⑤歴史的分野 第5グループ 第12回 模擬授業と講評、相互評価 ⑥歴史的分野 第6グループ 第13回 模擬授業と講評、相互評価 ⑦公民的分野 第7グループ 第14回 模擬授業と講評、相互評価 ⑧公民的分野 第8グループ 第15回 まとめ 模擬授業の振り返りと自己評価	
履修上の注意点 教育委員会などでは、地域の優秀な指導案を収集・公開しています。地域によって形式なども異なるので、教育実習を意識し、あらかじめ確認しておきましょう。	
教科書	
参考書 授業中に指示をする。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 70 ) 授業中発表等 ( 15 ) 参加度 ( 15 ) 1. 各授業の最後に短いレポートを書きます。2. 毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明します。3. 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。	

## 2017 Syllabus

科目名 **社会科教育法Ⅳ**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ  
履修可

クラス指定

担当者 本庄 豊

テーマ

地理教育の内容理解と授業づくり

授業の到達目標

中等社会科の地理分野を中心に、中学校学習指導要領(地理的分野の目標、内容)、中学校の地理的分野の教科書構成を検討し、生徒の興味・関心を引き出しながら、地理的な見方や考え方を培うための地理的分野の教材開発と授業づくりの方法を学ぶ。

授業の概要

系統地理分野から地形図学習、地図学習、世界と日本の地形、環境問題、エネルギー問題を取り上げ教材構成と授業手法の検討を行う。地誌の分野では、世界の諸地域からアフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカを取り上げ、グループで模擬授業を行い、授業研究を行う。また、日本の諸地域では、受講者が個人で学習テーマを設定して授業をつくり、模擬授業を行う。

準備学習(予習・復習)

新聞やニュースなど時事的な問題を地理学習のなかでどう扱うかを常に考え、アンテナを貼っておくこと。

内 容

- 第1回 生徒が楽しく地形図学習と地図学習をする教材と授業方法を考える  
 第2回 生徒が楽しく世界の気候・日本の気候を学ぶことができる教材を考える。  
 第3回 地域統計に関する情報収集の仕方と主題図の作成と読解の手法を学ぶ。  
 第4回 【共同研究1】現代世界の環境問題／エネルギー問題について教材研究をする。  
 第5回 地球環境問題・エネルギー問題について教材構成と授業手法を検討する。  
 第6回 「世界の諸地域(1)ーアフリカ: 地下資源に恵まれたアフリカが貧しいのはなぜか」の授業を体験し、授業づくりの手法を学ぶ。  
 第7回 【共同研究2】世界の諸地域(2)アジア州とヨーロッパ州ー食べ物を教材にした授業を考える  
 第8回 食べ物を教材にした地理の模擬授業と授業研究  
 第9回 【共同研究3】世界の諸地域(3)北アメリカ州ー移民から見てくるアメリカ社会を教材研究  
 第10回 アメリカ合衆国を教材にした模擬授業と教材研究  
 第11回 【共同研究4】日本の諸地域の範囲で、学生一人ひとりが学習テーマを設定して授業をつくる。  
 第12回 模擬授業と合評会(1)グループ①  
 第13回 模擬授業と合評会(2)グループ②  
 第14回 模擬授業と合評会(3)グループ③  
 第15回 身近な地域の調査ーコンビニエンスストアを取り上げ、商業店舗の立地要件を学ぶ。

履修上の注意点

欠席が3回をこえる場合は原則として単位認定しない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 60 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 書道科教育法 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 西村 大輔	
テーマ	
講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。	
授業の到達目標	
高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあつては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。	
授業の概要	
①高等学校芸術科書道の現状理解や指導案作成、指導方法等についての講義。②指導案(細案)及び年間指導計画の作成。③作成した指導案に基づく模擬授業及び相互講評。	
準備学習(予習・復習)	
模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。	
内 容	
第1回	基本的な内容の講義Ⅰ(①高等学校芸術科書道についての概説、②指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第2回	基本的な内容の講義Ⅱ(①高等学校芸術科書道についての概説、②指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第3回	授業の基本についての実践(短時間での模擬授業)
第4回	模範授業(指導者による授業)
第5回	模擬授業Ⅰ(指導案略案に基づく短時間での模擬授業及び講評)
第6回	模擬授業Ⅱ(指導案略案に基づく短時間での模擬授業及び講評)
第7回	模擬授業①(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第8回	模擬授業②(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第9回	模擬授業③(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第10回	模擬授業④(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第11回	模擬授業⑤(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第12回	模擬授業⑥(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第13回	模擬授業⑦(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第14回	模擬授業⑧(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第15回	模擬授業⑨(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
履修上の注意点	
教科書	
書Ⅰ(文部科学省検定済教科書)	
著者: 高木聖雨	
出版社: 光村書店	
出版年: 2016	ISBN: 9.7849E+12
参考書	
高等学校学習指導要領	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート(0)	小テスト(0)
授業中課題(40)	授業中発表等(40)
参加度(20)	
レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 書道科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 西村 大輔	
テーマ	
講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。	
授業の到達目標	
高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあつては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。	
授業の概要	
①高等学校芸術科書道の現状理解や指導案作成、指導方法等についての講義。②指導案(細案)及び年間指導計画の作成。③作成した指導案に基づく模擬授業及び相互講評。	
準備学習(予習・復習)	
模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。	
内 容	
第1回	発展的な内容の講義Ⅰ(①高等学校芸術科書道についての現状と課題、②書道Ⅱ・Ⅲを含めた指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第2回	発展的な内容の講義Ⅱ(①高等学校芸術科書道についての現状と課題、②書道Ⅱ・Ⅲを含めた指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第3回	模擬授業①(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第4回	模擬授業②(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第5回	模擬授業③(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第6回	模擬授業④(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第7回	模擬授業⑤(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第8回	模擬授業⑥(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第9回	模擬授業⑦(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第10回	模擬授業⑧(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第11回	模擬授業⑨(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第12回	模擬授業⑩(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第13回	模擬授業⑪(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第14回	模擬授業⑫(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第15回	模擬授業⑬(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
履修上の注意点	
教科書	
書Ⅰ(文部科学省検定済教科書)	
著者: 高木聖雨	
出版社: 光村書店	
出版年: 2016	ISBN: 9.7849E+12
参考書	
高等学校学習指導要領	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート(0)	小テスト(0)
授業中課題(40)	授業中発表等(40)
参加度(20)	
レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 地歴科教育法 I

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定	
担当者 井ノ口 貴史		
テーマ		
地歴科教育の意義・課題と授業方法		
授業の到達目標		
高校地歴科分野の学習内容とその変遷を分析することにより、現代史学習や現代の課題を学ぶことが求められていることを理解する。また、子どもの授業参加を創り出す方法について学ぶ。		
授業の概要		
教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。		
準備学習(予習・復習)		
新聞やTVニュース、小説や映画などにふれ、歴史や地理についての関心を深めて欲しい		
内 容		
第1回 学習指導要領をよむ:21世紀の中等社会科の重要課題は何か		
第2回 授業の作り方:教材研究をどう進めるか		
第3回 授業の作り方:教材をどう作るか		
第4回 学習指導案の作り方:先輩の学習指導案と授業づくりに学ぶ		
第5回 地理の導入教材を作る:仮説実験授業でイスラームのイメージをつくる		
第6回 世界史の導入教材を作る:ギリシア世界		
第7回 授業プランをつくる:古代中国史の学習を素材にして		
第8回 新聞記事を導入にして現代史の授業を作る		
第9回 模擬授業と学習指導案の検討		
第10回 導入教材の作成と模擬授業(1)		
第11回 導入教材の作成と模擬授業(2)		
第12回 導入教材の作成と模擬授業(3)		
第13回 導入教材の作成と模擬授業(4)		
第14回 導入教材の作成と模擬授業(5)		
第15回 模擬授業の振り返り		
履修上の注意点		
教科書		
社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり		
著者: 井ノ口貴史・倉持祐二		
出版社: 三学出版		
出版年: 2015年	ISBN:	
参考書		
中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』		
著者: 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編		
出版社: 学文社		
出版年: 2014年	ISBN:	
成績評価		
試験・レポート (0%)	小テスト (0%)	
授業中課題 (60%)	授業中発表等 (10%)	
参加度 (30%)		

## 2017 Syllabus

科目名 地歴科教育法Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ  
履修可

クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科の授業づくりと模擬授業

授業の到達目標

現職教師の授業づくりの方法を学ぶとともに、教科書をもとに実際に授業を作って、模擬授業と授業研究をする。

授業の概要

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

準備学習(予習・復習)

全国の著名な実践家の授業実践報告を読んだり、民間の教育研究団体の研究会に参加して、現場で授業づくりをおこなっている教師の生の声を聞いて欲しい。

内 容

第1回 同時代史の授業づくりと実践報告を検討する

第2回 模擬授業と授業研究(1)

第3回 模擬授業と授業研究(2)

第4回 模擬授業と授業研究(3)

第5回 模擬授業と授業研究(4)

第6回 模擬授業と授業研究(5)

第7回 模擬授業と授業研究(6)

第8回 模擬授業と授業研究(7)

第9回 模擬授業と授業研究(8)

第10回 模擬授業と授業研究(9)

第11回 模擬授業と授業研究(10)

第12回 模擬授業と授業研究(11)

第13回 模擬授業と授業研究(12)

第14回 模擬授業と授業研究(13)

第15回 模擬授業と授業研究(14)

履修上の注意点

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―

著者： 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社：学文社

出版年：2014年

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (30%)

## 2017 Syllabus

## 科目名 公民科教育法 I

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定	
担当者 井ノ口 貴史		
テーマ 公民科教育の意義・内容・課題		
授業の到達目標 多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な 公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を追体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。		
授業の概要 新聞の切り抜きをもとにした「社会科通信」づくりを通して、現代の社会が抱える諸問題を教材化させ、授業づくりの方法論、学習指導案の書き方、授業評価の方法を実践的に学ぶ。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 学習指導要領のもとでの公民科の位置づけとそれを具体化する授業づくりを考える 第2回 「日本国憲法の成立」の授業づくりを通して学習指導案の書き方を学ぶ 第3回 身近なものを教材化する－コンビニから戦後の小売業を考える 第4回 身近なものを教材化する－コンビニから情報化社会を考える 第5回 身近なものを教材化する－コンビニから食糧自給を考える 第6回 メディアリテラシー：今日のニュースや国際紛争・事件をどのように教材化するか 第7回 新聞で学ぶ現代の社会－「9. 11」からイラク戦争を教材化する 第8回 新聞で学ぶ現代の社会－「9. 11」以降の実践記録の特徴を検討する 第9回 経済分野の授業：経済学入門をどう教材化するか 第10回 経済分野の授業：絵本『レモンをお金にかえる方』を教材化する 第11回 憲法の授業をつくる：日米安保条約と沖縄 第12回 憲法の授業をつくる：冷戦終結と日米安保条約 第13回 模擬授業と授業研究(1) 第14回 模擬授業と授業研究(2) 第15回 模擬授業と授業研究(3)		
履修上の注意点 人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をする。新聞を読み、時事問題に留意すること		
教科書 中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き― 著者： 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編 出版社：学文社 出版年：2014年 ISBN: 参考書		
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト( ) 授業中課題(60) 授業中発表等(10) 参加度(30)		

## 2017 Syllabus

科目名 公民科教育法Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ  
履修可

クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

公民科教育の内容理解と授業づくり

授業の到達目標

模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実際を学ぶ。

授業の概要

「現代社会」「政治経済」「倫理」の中から個人で模擬授業を行い、授業後、授業研究を行う。また、学生が小グループでカリキュラム開発や教材開発を行い、模擬授業を行って、授業研究会を組織する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 学習指導案を検討する:食糧問題の授業づくり
- 第2回 生命倫理に関する授業を作る:ディベートの手法を学ぶ
- 第3回 倫理の授業をつくる:尾崎豊を教材に青年期の授業をつくる
- 第4回 模擬授業と授業研究(1):第1グループ
- 第5回 模擬授業と授業研究(2):第2グループ
- 第6回 模擬授業と授業研究(3):第3グループ
- 第7回 模擬授業と授業研究(4):第4グループ
- 第8回 共同研究1:「民主政治の基本原則と日本国憲法」単元の授業案を考える
- 第9回 模擬授業と授業研究(5):第5グループ
- 第10回 模擬授業と授業研究(6):第6グループ
- 第11回 共同研究2:「現代の経済」単元の授業案を考える
- 第12回 共同研究3:「現代の国際政治」単元の授業案を考える
- 第13回 「民主政治の基本原則と日本国憲法」の模擬授業
- 第14回 「現代の経済」単元の模擬授業
- 第15回 「現代の国際政治」の模擬授業

履修上の注意点

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をすること。新聞を読み、時事問題に留意すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題(60)

授業中発表等(10)

参加度(30)



## 2017 Syllabus

## 科目名 生徒・進路指導

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定
担当者 井ノ口 貴史	
テーマ 生徒指導とそれを支える生活指導	
授業の到達目標 生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題、クラス経営や生徒会づくりの具体的な指導事例、生徒の学校参加の事例、進路指導の在り方を学ぶことを目的とする。	
授業の概要 基本的には、学校現場で見られる事象を紹介し、それについて学生が意見表明をすることを授業の柱にする。授業の中で提示される具体的な事例や資料をもとに、小グループで検討・意見交換をし、全体の場で交流した後に重要ポイントを抽出する。また、事例研究では、具体的な事例に現場教師がどのようにかかわっているかを読み解き、レポートとして提出を義務づける。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 生徒指導の領域と内容:いわゆる「教育困難校」の1日 第2回 学校がどんな組織で運営されているか—校務分掌と組織(生徒指導体制?) 第3回 生徒指導の方法—ゼロ・トレランス方式を考える 第4回 子どもの学校参加の考え方を学ぶ 第5回 「いじめ」事象における生徒指導のあり方 第6回 事例研究「いじめ」事象が疑われる生徒に対する担任教師の指導のあり方を検討する 第7回 生徒指導提要を読む(1):生徒指導の意義と原理 第8回 生徒指導提要を読む(2):生徒会活動やホームルーム活動が生徒指導に果たす役割を考える 第9回 生徒指導提要を読む(3):個別の課題を抱える児童生徒への指導をどうするか 第10回 生徒指導提要を読む(4):生徒指導に関する法制度を知る 第11回 キャリア教育の理念を学ぶ:目標、進路指導の定義、中学校におけるキャリア教育の特徴 第12回 高校での進路指導の考え方を学ぶ:職業教育の考え方、3年間を見通した指導計画の在り方 第13回 グループ討議:高校時代の進路学習を振り返って、どのような進路指導が必要と考えるか 第14回 事例研究:「カンニング」疑惑を指導した教師の対応を生徒指導の観点から検討する 第15回 事例研究:「部活動における体罰」事例を教職員の連携という視点から検討する	
履修上の注意点 新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。	
教科書 生徒指導提要 著者: 文部科学省 出版社: 出版年: 平成22年 ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト( ) 授業中課題(60) 授業中発表等(10) 参加度(30)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 教育実習 I

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 集中	定 員
履修条件 教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定
担当者 岩本 賢治	
テーマ 実りのある教育実習	
授業の到達目標 学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。	
授業の概要 教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③生徒の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ○第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。 第2回 ○第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。	
履修上の注意点 公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。「教育実習Ⅱ」を参照	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 50 ) 参加度 ( 50 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 教育実習Ⅱ(3回生枠)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 集中 定員

履修条件 教育実習受講許可者のみ  
登録可 クラス指定

担当者 岩本 賢治

テーマ

実りある教育実習(教育実習事前指導)

授業の到達目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の概要

教育実習に向けて、教師として必要な資質、教師の社会的役割について講義、教育実習校決定までの手続きについてのガイダンスをする。その上で、3回生には、教育実習を終えた4回生の実習体験及び研究授業の報告会に参加させ、教育実習に向けての準備をさせる。また、各学校で行われる公開研究会に参加させ、現場教師の授業づくりや授業方法をまなばせる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて  
 第2回 教員の資質について・教育実習の実態について―実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・教育実習受講資格について(内規)  
 第3回 ビデオによる教育実習の観察指導  
 第4回 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答  
 第5回 教育実習の心得  
 第6回 現場教員による講演  
 第7回 教育実習直前指導  
 第8回 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う  
 第9回 【実習】第1週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。  
 第10回 【実習】第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれ役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動等に参加することを望む。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )  
 授業中課題(50)  
 参加度(50)

小テスト( )  
 授業中発表等( )

## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(中等) &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 岩本 賢治	
テーマ 教職課程における総まとめ	
授業の到達目標 大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。	
授業の概要 学生は、履修カルテを読み返して4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導、)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、履修カルテを読み解いて到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーションー本演習の目的と計画、履修カルテを読み返し自分の課題を明らかにする。 第2回 子ども理解ー中学生・高校生を取り巻く社会の現状(グループ討論、発表) 第3回 学級経営ー学級活動・ホームルーム活動の組織作りと指導(グループ討議、クラス討議) 第4回 学校行事・生徒会活動の指導(学校現場の調査、グループ討議、クラス討議) 第5回 事例研究(生徒指導):いじめ問題への教師の対応(グループ討議と発表、クラス討議) 第6回 事例研究(教育相談):不登校傾向の生徒への担任の関わり方(グループ討議と発表、クラス討議) 第7回 学校現場での進路指導・キャリア教育の在り方(グループ討議、クラス討議) 第8回 各教科(国語科、英語科、社会科、地歴・公民科)の指導力について考える(指導に当たる教員による講義とグループ討論) 第9回 学校訪問:公立高等学校等を訪問し、授業参観を行う。 第10回 学校訪問:公立高等学校等を訪問し、授業研究会に参加する。 第11回 学校訪問:私立中学校等を訪問し、現場教師から生徒指導の現状を聞く。 第12回 学校訪問:私立中学校等を訪問し、現場教師から特別活動の実践報告を聞く。 第13回 学校訪問での学習成果について研究協議(グループ討議と発表) 第14回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論) 第15回 教師の社会的役割について考え、履修カルテのまとめをする。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 授業で指示をする。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 40 ) 授業中発表等 ( 30 ) 参加度 ( 30 ) 授業中課題 各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等 毎時間、教育問題について新聞記事などからレポートします。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。	

## 2017 Syllabus

科目名 教職実践演習(中等) &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 本庄 豊	
テーマ	
教職課程における総まとめ	
授業の到達目標	
<p>大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。</p>	
授業の概要	
<p>学生は、履修カルテを読み返して4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導、)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、履修カルテを読み解いて到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。</p>	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
<p>第1回 オリエンテーションー本演習の目的と計画、履修カルテを読み返し自分の課題を明らかにする。  第2回 子ども理解ー中学生・高校生を取り巻く社会の現状(グループ討論、発表)  第3回 学級経営ー学級活動・ホームルーム活動の組織作りと指導(グループ討議、クラス討議)  第4回 学校行事・生徒会活動の指導(学校現場の調査、グループ討議、クラス討議)  第5回 事例研究(生徒指導):いじめ問題への教師の対応(グループ討議と発表、クラス討議)  第6回 事例研究(教育相談):不登校傾向の生徒への担任の関わり方(グループ討議と発表、クラス討議)  第7回 学校現場での進路指導・キャリア教育の在り方(グループ討議、クラス討議)  第8回 各教科(国語科、英語科、社会科、地歴・公民科)の指導力について考える(指導に当たる教員による講義とグループ討論)  第9回 学校訪問:公立高等学校等を訪問し、授業参観を行う。  第10回 学校訪問:公立高等学校等を訪問し、授業研究会に参加する。  第11回 学校訪問:私立中学校等を訪問し、現場教師から生徒指導の現状を聞く。  第12回 学校訪問:私立中学校等を訪問し、現場教師から特別活動の実践報告を聞く。  第13回 学校訪問での学習成果について研究協議(グループ討議と発表)  第14回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)  第15回 教師の社会的役割について考え、履修カルテのまとめをする。</p>	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
授業で指示をする。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	
<p>授業中課題 各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等 毎時間、教育問題について新聞記事などからレポートします。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 集中	定員	
履修条件 教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定	
担当者 岩本 賢治		
テーマ 実りある教育実習(教育実習事前指導)		
授業の到達目標 教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする		
授業の概要 教育実習直前指導で実習での心構えと授業観察の要点指導、学習指導案の添削等、個別指導を行う。また、実習後の事後指導として教育実習報告会を行い、3回生へのアドバイスや質問に答える交流会を行う。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて 第2回 教員の資質について・教育実習の実態についてー実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・教育実習受講資格について(内規) 第3回 ビデオによる教育実習の観察指導 第4回 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答 第5回 教育実習の心得 第6回 現場教員による講演 第7回 教育実習直前指導 第8回 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う 第9回 【実習】第1週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。 第10回 【実習】第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれ 役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。		
履修上の注意点 公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動等に参加することを望む。		
教科書		
参考書		
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (50) 参加度 (50)	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 教職実践演習(養護)

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 佐藤 浩子	
テーマ	
養護教諭として教育現場における教育実践について演習しながら学ぶ	
授業の到達目標	
大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、学校保健に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。	
授業の概要	
学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と養護実習を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の4点である。1. 児童生徒の理解(①児童生徒の発達と健康、②児童生徒を取り巻く社会と環境)、2. 健康問題支援、3. コミュニケーション(①学校における養護教諭の役割、②地域・保護者との関係)、4. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 4年間の学習を振り返る	
第2回 児童生徒の理解－児童生徒の発達と健康、児童生徒を取り巻く社会の実態と変化(グループ討議、クラス討論)	
第3回 健康問題を知る－健康観察(グループ討議、クラス討論)	
第4回 健康問題を知る－学校健康診断(グループ討議、クラス討論)	
第5回 健康問題支援－急性疾患や事故への対応(グループ討議、クラス討論)	
第6回 健康問題支援－事故への対応と救急処置(グループ討議、クラス討論)	
第7回 健康問題支援－慢性疾患・障害を持つ児童生徒への関わり(グループ討議、クラス討論)	
第8回 健康問題支援－メンタルヘルス(グループ討議、クラス討論)	
第9回 健康問題支援－健康相談の活動(グループ討議、クラス討論)	
第10回 学校衛生における養護教諭の役割(グループ討議、クラス討論)	
第11回 保健教育の実践(グループ討議、クラス討論)	
第12回 「保健室だより」の検討と作成(グループ討議、クラス討論)	
第13回 教職員と養護教諭の連携	
第14回 地域・保護者と養護教諭の連携	
第15回 養護教諭の役割－養護教諭の資質の吟味と確認	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (40)	授業中発表等 (15)
参加度 (45)	
授業中課題40%・・・レポート30%、授業中課題の提出10% 授業中発表15% 参加度 45%	

## 2017 Syllabus

科目名 生涯学習概論 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	
テーマ 生涯学習・社会教育の基礎的理解	
授業の到達目標 生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。	
授業の概要 わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。	
準備学習(予習・復習) 身近な学習施設について見聞を広げておくこと	
内 容 第1回 生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する 第2回 明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。 第3回 昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。 第4回 戦後の社会教育行政の法制と行政的特質について解説する。 第5回 公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。 第6回 社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。 第7回 女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。 第8回 女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。 第9回 少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する 第10回 青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を交えて解説する 第11回 青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。 第12回 多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める 第13回 学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。 第14回 障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。 第15回 これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。	
履修上の注意点 私語を慎むこと。	
教科書 使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 授業で指示 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート（50%） 小テスト（ ） 授業中課題（ ） 授業中発表等（ ） 参加度（50%） 参加度の中には授業でのコメント、小課題へのとり組みも含まれる	



## 2017 Syllabus

科目名 生涯学習概論 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	
テーマ 生涯学習・社会教育の基礎的理解	
授業の到達目標 生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。	
授業の概要 わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。	
準備学習(予習・復習) 日本の近代史について高校教科書を読んでおくこと。身近な社会教育施設(公民館、図書館、博物館等)を最低一度は訪ねてみる。	
内 容 第1回 生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する 第2回 明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。 第3回 昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。 第4回 戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。 第5回 公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。 第6回 社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。 第7回 女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。 第8回 女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。 第9回 少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する 第10回 青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を交えて解説する 第11回 青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。 第12回 多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める 第13回 学校支援地域本部、PTAなどの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。 第14回 障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。 第15回 これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。	
履修上の注意点 私語は極力慎むこと。	
教科書 使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 授業で指示 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート (50%) 授業中課題 ( ) 参加度 (50%) 参加度にはコメントや授業での小課題も含まれる	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 図書館概論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	司書課程の導入科目として、公共図書館とそれに関連した事項について概観する。
授業の到達目標	司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 図書館の現状と動向 図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。</p> <p>第2回 図書館の構成要素と機能 図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。</p> <p>第3回 図書館の社会的意義(ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む) ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。</p> <p>第4回 知的自由と図書館(図書館の自由に関する宣言等) アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。</p> <p>第5回 図書館の歴史 古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。</p> <p>第6回 公立図書館の成立と展開 我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。</p> <p>第7回 館種別図書館と利用者のニーズ(その1) 学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。</p> <p>第8回 館種別図書館と利用者のニーズ(その2) 国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。</p> <p>第9回 図書館職員の役割と資格 図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。</p> <p>第10回 図書館の類縁機関・関係団体(文書館を含む) 類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。</p> <p>第11回 図書館の課題と展望 直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。</p> <p>第12回 外国の図書館 アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。</p> <p>第13回 これからの図書館 生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。</p> <p>第14回 公共図書館をめぐる諸問題 サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。</p> <p>第15回 図書館を支える力 図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。</p>
履修上の注意点	
教科書	
図書館概論	
著者: 塩見昇	
出版社: 日本図書館協会	
出版年: 2015	ISBN: 4-8204-1417-9
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (70)	授業中発表等 ( )
参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

## 科目名 図書館概論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	
司書課程の導入科目として、公共図書館とそれに関連した事項について概観する。	
授業の到達目標	
司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。	
授業の概要	
図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	図書館の現状と動向 図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。
第2回	図書館の構成要素と機能 図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。
第3回	図書館の社会的意義(ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む) ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。
第4回	知的自由と図書館(図書館の自由に関する宣言等) アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。
第5回	図書館の歴史 古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。
第6回	公立図書館の成立と展開 我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。
第7回	館種別図書館と利用者のニーズ(その1) 学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。
第8回	館種別図書館と利用者のニーズ(その2) 国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。
第9回	図書館職員の役割と資格 図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。
第10回	図書館の類縁機関・関係団体(文書館を含む) 類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。
第11回	図書館の課題と展望 直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。
第12回	外国の図書館 アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。
第13回	これからの図書館 生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。
第14回	公共図書館をめぐる諸問題 サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。
第15回	図書館を支える力 図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。
履修上の注意点	
教科書	
図書館概論	
著者: 塩見昇	
出版社: 日本図書館協会	
出版年: 2015	ISBN: 4-8204-1417-9
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (70)	授業中発表等 ( )
参加度 (30)	

## 2017 Syllabus

科目名 図書館制度・経営論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	
図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。	
授業の到達目標	
図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。	
授業の概要	
図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 図書館法(逐条解説) 1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。	
第2回 他館種の図書館に関する法律等(学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。	
第3回 図書館サービス関連法規(子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等) 図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。	
第4回 図書館政策(国、地方公共団体) 国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。	
第5回 公共機関・施設の経営方法(マーケティング、危機管理を含む) 新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。	
第6回 図書館の組織・職員(組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携) 図書館の組織の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。	
第7回 図書館の施設・設備(その1) 図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。	
第8回 図書館の施設・設備(その2) 図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。	
第9回 図書館のサービス計画と予算の確保 図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。	
第10回 図書館業務・サービスの調査と評価 調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。	
第11回 図書館の管理形態の多様化 図書館のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。	
第12回 図書館業務の理論と実際(その1) パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。	
第13回 図書館業務の理論と実際(その2) テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。	
第14回 図書館協力とネットワークの形成 図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。	
第15回 図書館経営の課題 図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 70 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 図書館制度・経営論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	
図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。	
授業の到達目標	
図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。	
授業の概要	
図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 図書館法(逐条解説) 1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。	
第2回 他館種の図書館に関する法律等(学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。	
第3回 図書館サービス関連法規(子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等) 図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。	
第4回 図書館政策(国、地方公共団体) 国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。	
第5回 公共機関・施設の経営方法(マーケティング、危機管理を含む) 新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。	
第6回 図書館の組織・職員(組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携) 図書館の組織の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。	
第7回 図書館の施設・設備(その1) 図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。	
第8回 図書館の施設・設備(その2) 図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。	
第9回 図書館のサービス計画と予算の確保 図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。	
第10回 図書館業務・サービスの調査と評価 調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。	
第11回 図書館の管理形態の多様化 図書館のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。	
第12回 図書館業務の理論と実際(その1) パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。	
第13回 図書館業務の理論と実際(その2) テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。	
第14回 図書館協力とネットワークの形成 図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。	
第15回 図書館経営の課題 図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 70 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 図書館情報技術論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 米谷 優子	
テーマ	現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける
授業の到達目標	情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっている。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。
授業の概要	情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。
準備学習(予習・復習)	普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと
内 容	<p>第1回 授業の概要と授業計画 情報技術と社会</p> <p>第2回 図書館における情報技術の活用</p> <p>第3回 図書館業務システム</p> <p>第4回 コンピュータに関する基礎知識</p> <p>第5回 コンピュータに関する基礎知識2</p> <p>第6回 コンピュータネットワークに関する基礎知識</p> <p>第7回 データベースとその仕組み</p> <p>第8回 検索エンジンとその仕組み</p> <p>第9回 電子資料の管理と活用</p> <p>第10回 インターネット上の情報発信</p> <p>第11回 情報社会と情報管理・セキュリティ</p> <p>第12回 情報社会と情報管理・セキュリティ2</p> <p>第13回 デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題</p> <p>第14回 情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス</p> <p>第15回 まとめ(試験を含む)</p>
履修上の注意点	上記計画は、理解度その他の理由によって変更することがある
教科書	<p>図書館情報技術論</p> <p>著者： 斎藤ひとみ・二村健</p> <p>出版社：学文社</p> <p>出版年：2012 ISBN：9.78476E+12</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート (65) 小テスト ( )</p> <p>授業中課題 (25) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 (10)</p> <p>3分の2以上の出席ならびに演習課題提出を、まとめの試験の受験の要件とする</p>

## 2017 Syllabus

科目名 図書館情報技術論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 米谷 優子	
テーマ	現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける
授業の到達目標	情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっている。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。
授業の概要	情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。
準備学習(予習・復習)	普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと
内 容	<p>第1回 授業の概要と授業計画 情報技術と社会</p> <p>第2回 図書館における情報技術の活用</p> <p>第3回 図書館業務システム</p> <p>第4回 コンピュータに関する基礎知識</p> <p>第5回 コンピュータに関する基礎知識2</p> <p>第6回 コンピュータネットワークに関する基礎知識</p> <p>第7回 データベースとその仕組み</p> <p>第8回 検索エンジンとその仕組み</p> <p>第9回 電子資料の管理と活用</p> <p>第10回 インターネット上の情報発信</p> <p>第11回 情報社会と情報管理・セキュリティ</p> <p>第12回 情報社会と情報管理・セキュリティ2</p> <p>第13回 デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題</p> <p>第14回 情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス</p> <p>第15回 まとめ(試験を含む)</p>
履修上の注意点	上記計画は、理解度その他の理由によって変更することがある
教科書	<p>図書館情報技術論</p> <p>著者： 齋藤ひとみ・二村健</p> <p>出版社：学文社</p> <p>出版年：2012 ISBN：9.78476E+12</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート (65) 小テスト ( )</p> <p>授業中課題 (25) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 (10)</p> <p>3分の2以上の出席ならびに演習課題提出を、まとめの試験の受験の要件とする</p>

## 2017 Syllabus

科目名 図書館情報資源特論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 明定 義人

テーマ

児童資料の評価力をつける。

授業の到達目標

児童サービス論で詳しく紹介できなかった様々な分野の児童資料について学習することで、児童資料の評価力をつける。

授業の概要

児童サービス論の概要を学んだ者に、一人ひとりの発達の違いや好奇心に対応した様々な内容や分野が児童資料にあることを知らせるとともに、実際に数多くの資料を紹介し、受講生にも読むことを課題とします。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 児童資料のひろがり 物語や絵本から実用書、ゲームの攻略本まで、子どもを対象にした児童資料は多様化し続けている。同時に「子ども向け」と「大人向け」のボーダレス化も進んでいる。児童資料のひろがりを紹介する
- 第2回 絵本1—挿絵から絵本へ 絵本の歴史をたどることで、挿絵から絵本への転換を解説する。読み継がれてきた絵本が「絵」と「文」の相乗効果による魅力を持ち得ていることを解説する。
- 第3回 絵本2—表現としてのひろがり 絵本は子どものものだけではない。作者や出版社が想定している読者は乳幼児から大人まで幅広い。そのひろがりメディアとしての絵本の「子ども離れ」の側面について紹介する。
- 第4回 児童文学1—童話から創作へ 児童文学の歴史を解説し、大正期に発行された「赤い鳥」などの童話の時代から、昭和期までの代表的な作品をその時代背景とともに解説する。
- 第5回 児童文学2—児童文学批評 清水真砂子『子どもの本の現在』が日本の児童文学に問いかけたことを中心に、日本の児童文学を考えるとともに、90年代から現在につながるアダルトチルドレンと児童文学との関係、外国の児童文学についてもふれる。
- 第6回 科学読み物1—歴史 日本の科学読み物の歴史は、明治時代の数年前から始まり、大正デモクラシーの時期に数多く出版される。その背景について解説し、第二次世界大戦とそれ以降の科学読み物についても紹介する。また、教育との関わりのなかでの科学読み物についても考える。
- 第7回 科学読み物2—科学読み物とは 科学読み物は、科学的に考えることの楽しさやすばらしさを伝えるものであるが、「科学読み物」のなかには「自然は美しい」「自然と親しくなろう」「自然界の不思議」といった類のものもある。その違いを解説する。
- 第8回 知識の絵本・資料集・事典 「知識の絵本」の出版は月刊誌が発行されていることもあり、また「調べ学習」がひろがったことで、出版点数は多い。それらのなかから高い評価を受けている絵本を紹介する。児童向け資料集においても、統計をグラフにして説明をすることがあるが、グラフを比べることにより、よりよいグラフについて考える。事典についても紹介する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )



## 2017 Syllabus

## 科目名 図書館施設論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人.政木 哲也	
テーマ	
図書館施設のあり方について考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、建築における機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。	
授業の到達目標	
市民が自由に資料(情報)を利用し、有意義な時間を過ごす快適空間としての役割も求められている図書館施設のあり方について考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、建築における機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。	
授業の概要	
必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。代表的かつ具体的な事例を複数取り上げ、実地でも施設を確認することで様々な角度から図書館建築に関する知識を修得する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	図書館活動を支える施設とは これまでの図書館が果たしてきた役割を考え、市民が求める図書館像の変遷とともに図書館施設がどのように変わりつつあるのかを説明
第2回	図書館運営方針と図書館建築計画
第3回	図書館建築の設計について 図書館建築に必要な機能について解説し、デザイン、全体計画、動線計画や各部計画について詳しく解説する。
第4回	図書館建築の設計事例 近年の代表的な図書館を中心に様々な図書館建築の事例に触れる。
第5回	館内環境の計画(家具、環境要素、サイン計画など)
第6回	図書館の設備と維持、防火対策や避難計画について 図書館に用いられる一般的な設備形式、防火対策や二方向避難について建築基準法などを参照しながら確認していく。
第7回	実際の図書館を見学し、館長の話聞く 実際に使われている図書館を見学し、館長の話聞くことによって 図書館が市民にどのように使われているのか、また改善したいことなども率直に聞く。
第8回	見学後の評価とまとめ 授業では学生達が見学前と見学後の印象や意見が変わったかどうか、互いに議論を進める中で、「図書館とは何か」について深く考える場とする
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 50 )	
施設見学は必要条件である。	

## 2017 Syllabus

科目名 図書館サービス概論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹島 昭雄	
テーマ	現在行われている図書館のさまざまなサービスを論理的に紹介し、サービスに通底する原理を明らかにするとともに、サービスに関する知識や技術を効果的に修得することを目標とする。
授業の到達目標	高度情報化社会にあつて、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。
授業の概要	館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。
準備学習(予習・復習)	毎回配布するプリントを熟読するとともに、各回のテーマについて参考文献を事前に読んでおく。
内 容	<p>第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務</p> <p>第2回 図書館サービスの変遷</p> <p>第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能</p> <p>第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類</p> <p>第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本</p> <p>第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク</p> <p>第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス</p> <p>第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力</p> <p>第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス</p> <p>第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス</p> <p>第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス</p> <p>第12回 図書館ネットワーク協力和類縁機関等との連携</p> <p>第13回 図書館サービスと著作権①</p> <p>第14回 図書館サービスと著作権②</p> <p>第15回 図書館サービス、現代の課題</p>
履修上の注意点	成績については出席状況を参考とするので、欠席の場合は事前又は事後に理由を添えて報告すること。また、中間小テストと期末試験は必ず受験すること。
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート (40)	小テスト (40)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 図書館サービス概論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹島 昭雄	
テーマ	現在行われている図書館のさまざまなサービスを論理的に紹介し、サービスに通底する原理を明らかにするとともに、サービスに関する知識や技術を効果的に修得することを目標とする。
授業の到達目標	高度情報化社会にあつて、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。
授業の概要	館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。
準備学習(予習・復習)	毎回配布するプリントを熟読するとともに、各回のテーマについて参考文献を事前に読んでおく。
内 容	<p>第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務</p> <p>第2回 図書館サービスの変遷</p> <p>第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能</p> <p>第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類</p> <p>第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本</p> <p>第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク</p> <p>第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス</p> <p>第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力</p> <p>第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス</p> <p>第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス</p> <p>第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス</p> <p>第12回 図書館ネットワーク協力和類縁機関等との連携</p> <p>第13回 図書館サービスと著作権①</p> <p>第14回 図書館サービスと著作権②</p> <p>第15回 図書館サービス、現代の課題</p>
履修上の注意点	成績については出席状況を参考とするので、欠席の場合は事前又は事後に理由を添えて報告すること。また、中間小テストと期末試験は必ず受験すること。
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート (40)	小テスト (40)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	

## 2017 Syllabus

科目名 情報サービス論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。
授業の到達目標	インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。
授業の概要	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	情報サービスの概要 情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える
第2回	情報サービスの基礎(1) レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明
第3回	情報サービスの基礎(2) カレントアウェアネス、オンライン検索、CD-ROM利用のサービスなどについて説明
第4回	情報サービスの展開 読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス(館独自の二次資料作成も含めて)、図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)について説明
第5回	情報源の種類と評価 印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明
第6回	情報ニーズへの対応(1) 情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明
第7回	情報ニーズへの対応(2) レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明
第8回	情報の検索と回答(1) 検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能 VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる
第9回	情報の検索と回答(2)および情報サービスの管理 検索の実行、回答の提供と評価について説明 情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明
第10回	事実検索の情報源(1) 辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明 (データベース等の情報原も含む)
第11回	事実検索の情報源(2) 歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明
第12回	事実検索の情報源(3) 地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明
第13回	文献検索の情報源 書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明
第14回	電子メディアの活用 大学で使えるデータベースやCD-ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる
第15回	発信型情報サービスの意義と方法 パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 80 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 情報サービス論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。
授業の到達目標	インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。
授業の概要	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	情報サービスの概要 情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える
第2回	情報サービスの基礎(1) レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明
第3回	情報サービスの基礎(2) カレントアウェアネス、オンライン検索、CD-ROM利用のサービスなどについて説明
第4回	情報サービスの展開 読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス(館独自の二次資料作成も含めて)、図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)について説明
第5回	情報源の種類と評価 印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明
第6回	情報ニーズへの対応(1) 情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明
第7回	情報ニーズへの対応(2) レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明
第8回	情報の検索と回答(1) 検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能 VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる
第9回	情報の検索と回答(2)および情報サービスの管理 検索の実行、回答の提供と評価について説明 情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明
第10回	事実検索の情報源(1) 辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明 (データベース等の情報原も含む)
第11回	事実検索の情報源(2) 歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明
第12回	事実検索の情報源(3) 地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明
第13回	文献検索の情報源 書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明
第14回	電子メディアの活用 大学で使えるデータベースやCD-ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる
第15回	発信型情報サービスの意義と方法 パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 80 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	

## 2017 Syllabus

科目名 児童サービス論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。
授業の到達目標	公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさん児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。
授業の概要	児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 発達と学習における読書の役割 児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。</p> <p>第2回 児童サービスの意義と概要 これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する</p> <p>第3回 児童資料の特色と選択1 絵本 絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつがれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。</p> <p>第4回 児童資料の特色と選択2 創作児童文学と詩 「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえ詩の本もたくさん紹介する。</p> <p>第5回 児童資料の特色と選択3 昔話・伝承文学、知識の本 最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。</p> <p>第6回 児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通 主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。</p> <p>第7回 児童資料コレクションの形成と管理 児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。</p> <p>第8回 児童サービスの業務1 資料提供サービス 資料提供の意義、貸出の意義、フロアワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。</p> <p>第9回 児童サービスの業務2 情報サービス 情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。</p> <p>第10回 児童サービスの業務3 乳幼児サービス ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。</p> <p>第11回 児童サービスの業務4 ヤングアダルト・サービス 子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。</p> <p>第12回 児童サービスの方法・技術 1 読み聞かせ、ストーリーテリング 児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。</p> <p>第13回 児童サービスの方法・技術 2 ブックトーク、書評、ブックリスト ブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。</p> <p>第14回 児童サービスの展開(運営、施設と設備、児童図書館員の役割) 児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。</p> <p>第15回 学校、家庭、地域との連携・協力 学校図書館の活動(公共図書館との相違点を含む)、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性と今後のあり方について解説する。</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 児童サービス論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。
授業の到達目標	公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさん児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。
授業の概要	児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	発達と学習における読書の役割 児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。
第2回	児童サービスの意義と概要 これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する
第3回	児童資料の特色と選択1 絵本 絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつがれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。
第4回	児童資料の特色と選択2 創作児童文学と詩 「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するというをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえ詩の本もたくさん紹介する。
第5回	児童資料の特色と選択3 昔話・伝承文学、知識の本 最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。
第6回	児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通 主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。
第7回	児童資料コレクションの形成と管理 児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。
第8回	児童サービスの業務1 資料提供サービス 資料提供の意義、貸出の意義、フロアワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。
第9回	児童サービスの業務2 情報サービス 情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。
第10回	児童サービスの業務3 乳幼児サービス ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。
第11回	児童サービスの業務4 ヤングアダルト・サービス 子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。
第12回	児童サービスの方法・技術 1 読み聞かせ、ストーリーテリング 児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。
第13回	児童サービスの方法・技術 2 ブックトーク、書評、ブックリスト ブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。
第14回	児童サービスの展開(運営、施設と設備、児童図書館員の役割) 児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。
第15回	学校、家庭、地域との連携・協力 学校図書館の活動(公共図書館との相違点を含む)、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性和今後のあり方について解説する。
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )





## 2017 Syllabus

## 科目名 情報サービス演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	
テーマ	情報サービスの中心となるレファレンスサービス演習や新たな情報発信サービスであるパスファインダーの作成
授業の到達目標	情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。
授業の概要	情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。
準備学習(予習・復習)	大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみる。また、図書館HPを閲覧し、「文献検索/電子コンテンツ」「役立つリンク集」をみて、自大学がどのような有料データベースを導入しているか、どのようなデータベースにリンクをはっているかを知る。
内 容	<p>第1回 演習 情報サービスの設計 1(総論)</p> <p>第2回 演習 情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)</p> <p>第3回 演習 情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)</p> <p>第4回 演習 レファレンスインタビューの技法と実際</p> <p>第5回 演習 各種情報源の選択－質問分析と回答1 事実調査(言葉・歴史を調べる)</p> <p>第6回 演習 各種情報源の選択－質問分析と回答2 事実調査(地名・人名を調べる)</p> <p>第7回 演習 各種情報源の選択－質問分析と回答3 演習(グループ)発表</p> <p>第8回 演習 各種情報源の選択－質問分析と回答4 事実調査(統計・法令をしらべる)</p> <p>第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答5 事実調査(その他)</p> <p>第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答6 文献調査(図書)</p> <p>第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答7 文献調査(雑誌)</p> <p>第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答8 文献調査(新聞)</p> <p>第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答9 演習(グループ発表)</p> <p>第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)</p> <p>第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)</p>
履修上の注意点	「グループ演習」や「個人演習」で、検索方法等がわからない場合は積極的に質問すること。やむを得ず授業を欠席するときは「欠席届」を提出すること。演習では図書館を利用するが、大きな声で会話するなど他の利用者の迷惑になるようなことをしないこと。
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート(50)	小テスト( )
授業中課題(10)	授業中発表等(20)
参加度(20)	
演習科目なので、普段の授業に取り組む態度、グループ演習の結果発表態度などに50%評価を与える。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報サービス演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	
テーマ	
情報サービスの中心となるレファレンスサービス演習や新たな情報発信サービスであるパスファインダーの作成	
授業の到達目標	
情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。	
授業の概要	
情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。	
準備学習(予習・復習)	
大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみる。また、図書館HPを閲覧し、「文献検索/電子コンテンツ」「役立つリンク集」をみて、自大学がどのような有料データベースを導入しているか、どのようなデータベースにリンクをはっているかを知る。	
内 容	
第1回 演習 情報サービスの設計 1(総論)	
第2回 演習 情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)	
第3回 演習 情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)	
第4回 演習 レファレンスインタビューの技法と実際	
第5回 演習 各種情報源の選択－質問分析と回答1 事実調査(言葉・歴史を調べる)	
第6回 演習 各種情報源の選択－質問分析と回答2 事実調査(地名・人名を調べる)	
第7回 演習 各種情報源の選択－質問分析と回答3 演習(グループ)発表	
第8回 演習 各種情報源の選択－質問分析と回答4 事実調査(統計・法令をしらべる)	
第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答5 事実調査(その他)	
第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答6 文献調査(図書)	
第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答7 文献調査(雑誌)	
第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答8 文献調査(新聞)	
第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答9 演習(グループ発表)	
第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)	
第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。	
履修上の注意点	
「グループ演習」や「個人演習」で、検索方法等がわからない場合は積極的に質問すること。やむを得ず授業を欠席するときは「欠席届」を提出すること。演習では図書館を利用するが、大きな声で会話するなど他の利用者の迷惑になるようなことをしないこと。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 50 )	小テスト ( )
授業中課題 ( 10 )	授業中発表等 ( 20 )
参加度 ( 20 )	
演習科目なので、普段の授業に取り組む態度、グループ演習の結果発表態度などに50%評価を与える。	

## 2017 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 米谷 優子	
テーマ	
情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する	
授業の到達目標	
情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。	
授業の概要	
メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。	
準備学習(予習・復習)	
積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。	
内 容	
第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価	
第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース	
第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索	
第4回 検索エンジンによる情報検索演習	
第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索	
第6回 図書情報検索演習	
第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索	
第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習	
第9回 人物情報・団体情報の検索	
第10回 人物情報・団体情報の検索演習	
第11回 統計情報・地理的情報の検索	
第12回 統計情報・地理的情報の検索演習	
第13回 法律情報等の検索	
第14回 法律情報等の検索演習	
第15回 まとめ(試験を含む)	
履修上の注意点	
教科書	
未定	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価	
試験・レポート (45)	小テスト ( )
授業中課題 (45)	授業中発表等 ( )
参加度 (10)	
演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。	

## 2017 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 米谷 優子	
テーマ	
情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する	
授業の到達目標	
情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。	
授業の概要	
メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。	
準備学習(予習・復習)	
積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。	
内 容	
第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価	
第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース	
第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索	
第4回 検索エンジンによる情報検索演習	
第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索	
第6回 図書情報検索演習	
第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索	
第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習	
第9回 人物情報・団体情報の検索	
第10回 人物情報・団体情報の検索演習	
第11回 統計情報・地理的情報の検索	
第12回 統計情報・地理的情報の検索演習	
第13回 法律情報等の検索	
第14回 法律情報等の検索演習	
第15回 まとめ(試験を含む)	
履修上の注意点	
教科書	
未定	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価	
試験・レポート (45)	小テスト ( )
授業中課題 (45)	授業中発表等 ( )
参加度 (10)	
演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。	

## 2017 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ &lt;c&gt;

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 春期集中

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し、確かな検索戦略を立てて実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習(予習・復習)

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (45)

小テスト ( )

授業中課題 (45)

授業中発表等 ( )

参加度 (10)

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

## 2017 Syllabus

科目名 図書館情報資源概論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹島 昭雄	
テーマ	
公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知り、その収集と管理のあり方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。	
授業の到達目標	
公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。	
授業の概要	
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。	
準備学習(予習・復習)	
復習として配布資料を熟読するとともに、各授業のテーマについて事前に参考文献を読んでおくこと。	
内 容	
第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。	
第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。	
第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。	
第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。	
第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。	
第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。	
第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。	
第8回 図書館業務と情報資源に関する知識 (主な著者に関する基礎知識を含む)。	
第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。	
第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。	
第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。	
第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質	
第13回 科学技術分野の情報源とその特質	
第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。	
第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。	
履修上の注意点	
成績には授業参加度を考慮するので、欠席の場合は事前か事後に報告すること。	
教科書	
参考書	
図書館情報資源概論	
著者: 馬場俊明	
出版社: 日本図書館協会	
出版年: 2012	ISBN: 9.78482E+12
成績評価	
試験・レポート ( 80 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	
出席回数が5回以下の者は、成績不可とする。	

## 2017 Syllabus

科目名 図書館情報資源概論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹島 昭雄	
テーマ	
公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知り、その収集と管理のあり方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。	
授業の到達目標	
公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。	
授業の概要	
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。	
準備学習(予習・復習)	
復習として配布資料を熟読するとともに、各授業のテーマについて事前に参考文献を読んでおくこと。	
内 容	
<p>第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。</p> <p>第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。</p> <p>第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。</p> <p>第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。</p> <p>第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。</p> <p>第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。</p> <p>第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。</p> <p>第8回 図書館業務と情報資源に関する知識 (主な著者に関する基礎知識を含む)。</p> <p>第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。</p> <p>第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。</p> <p>第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。</p> <p>第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質</p> <p>第13回 科学技術分野の情報源とその特質</p> <p>第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。</p> <p>第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。</p>	
履修上の注意点	
成績には授業参加度を考慮するので、欠席の場合は事前か事後に報告すること。	
教科書	
参考書	
<p>図書館情報資源概論</p> <p>著者: 馬場俊明</p> <p>出版社: 日本図書館協会</p> <p>出版年: 2012 ISBN: 9.78482E+12</p>	
成績評価	
試験・レポート ( 80 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 20 )	
出席回数が5回以下の者は、成績不可とする。	



## 2017 Syllabus

科目名 情報資源組織論 &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 川瀬 綾子	
テーマ	
図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。	
授業の到達目標	
図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報資源の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。	
授業の概要	
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。	
準備学習(予習・復習)	
本講では極めて専門的な内容を学ぶ。従って、事前に教科書の該当部分は勿論のこと、『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』の該当箇所を精読した上で受講すること。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。日頃から大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPAC、カード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。	
内 容	
第1回	情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
第2回	情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
第3回	資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
第4回	書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC, MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
第5回	コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
第6回	目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
第7回	記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
第8回	記述の単位と順序/記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
第9回	記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
第10回	記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
第11回	主題目録法 主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
第12回	分類法の基礎(1) 分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
第13回	分類法の基礎(2) 列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
第14回	主題目録作成の実際 「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
第15回	まとめと補足 情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明
履修上の注意点	
一回一回の授業はすべて関連していて、前回の授業の上に、次回の授業が展開されるので、欠席は極力しないように。取り付きにくく分りにくい授業内容が一層理解し難くなるので注意すること。	
教科書	
改訂 情報資源組織論	
著者: 田窪 直規	
出版社: 樹村房	
出版年: 2016年	ISBN: 978488367259-2
参考書	
成績評価	
試験・レポート (90%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (10%)	

## 2017 Syllabus

科目名 情報資源組織論 &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 川瀬 綾子	
テーマ	
図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。	
授業の到達目標	
図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報資源の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。	
授業の概要	
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。	
準備学習(予習・復習)	
本講では極めて専門的な内容を学ぶ。従って、事前に教科書の該当部分は勿論のこと、「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」の該当箇所を精読した上で受講すること。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。日頃から大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPAC、カード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。	
内 容	
第1回	情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
第2回	情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
第3回	資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
第4回	書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC, MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
第5回	コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
第6回	目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
第7回	記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
第8回	記述の単位と順序/記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
第9回	記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
第10回	記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
第11回	主題目録法 主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
第12回	分類法の基礎(1) 分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
第13回	分類法の基礎(2) 列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
第14回	主題目録作成の実際 「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
第15回	まとめと補足 情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明
履修上の注意点	
一回一回の授業は関連していて、前回の授業内容の上に次回の授業が展開されるので、欠席は極力しないように。とりつきにくく、わかりにくい授業内容が一層理解し難くなるので、注意すること。	
教科書	
改訂 情報資源組織論	
著者: 田窪 直規	
出版社: 樹村房	
出版年: 2016年	ISBN: 9.78488E+12
参考書	
成績評価	
試験・レポート (90%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (10%)	

## 2017 Syllabus

科目名 情報資源組織演習 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	
テーマ	多様な情報資源(図書館資料)に関する書誌データ、メタデータの作成
授業の到達目標	多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
授業の概要	主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。
準備学習(予習・復習)	京都橘大学図書館OPACや、CiNii-BOOKS、NDL-OPACなどを検索し、検索結果のデータを見ること。また、図書実物と検索結果のデータを見比べてみる。
内 容	<p>第1回 書誌データ作成 1 (総則)</p> <p>第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)</p> <p>第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)</p> <p>第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)</p> <p>第5回 書誌データ作成 5 (注記)</p> <p>第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)</p> <p>第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)</p> <p>第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)</p> <p>第9回 書誌データ作成 9 (標目について)</p> <p>第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)</p> <p>第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)</p> <p>第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)</p> <p>第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)</p> <p>第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)</p> <p>第15回 書誌データ管理・検索システムの構築</p>
履修上の注意点	「書誌データ作成」など、この授業は今まで経験のない演習である。授業中、不明な点があればそのつど質問すること。やむをえず授業欠席する場合は、「欠席届」を提出すること。
教科書	
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( 確認試験 50% )</p> <p>小テスト ( 20% )</p> <p>授業中課題 ( 10% )</p> <p>授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 ( 20% )</p> <p>演習科目なので、授業中の成果や授業に取り組む態度に50%の評価を与える。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 情報資源組織演習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	
テーマ	多様な情報資源(図書館資料)に関する書誌データ、メタデータの作成
授業の到達目標	多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
授業の概要	主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。
準備学習(予習・復習)	京都橘大学図書館OPACや、CiNii-BOOKS、NDL-OPACなどを検索し、検索結果のデータを見ること。また、図書実物と検索結果のデータを見比べてみる。
内 容	<p>第1回 書誌データ作成 1 (総則)</p> <p>第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)</p> <p>第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)</p> <p>第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)</p> <p>第5回 書誌データ作成 5 (注記)</p> <p>第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)</p> <p>第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)</p> <p>第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)</p> <p>第9回 書誌データ作成 9 (標目について)</p> <p>第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)</p> <p>第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)</p> <p>第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)</p> <p>第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)</p> <p>第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)</p> <p>第15回 書誌データ管理・検索システムの構築</p>
履修上の注意点	「書誌データ作成」など、この授業は今まで経験のない演習である。授業中、不明な点があればそのつど質問すること。やむをえず授業欠席する場合は、「欠席届」を提出すること。
教科書	
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート ( 確認試験 50% )</p> <p>授業中課題 ( 10% )</p> <p>参加度 ( 20% )</p> <p>演習科目なので、授業中の成果や授業に取り組む態度に50%の評価を与える。</p> <p>小テスト ( 20% )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報資源組織演習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 川瀬 綾子	
テーマ	
図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法を中心に、件名法も含めて、その知識と技法を学ぶ。	
授業の到達目標	
NDC10版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。	
授業の概要	
多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
予習として教科書を精読し、その章のポイントは何かを整理しておく。復習には特に重点をおき、教科書の例題の分類記号や件名(統制語)について、NDCやBSHを使って確認する。余力があれば教科書の演習問題にチャレンジする。できるだけ数多くの事例を実践することにより、スキルアップをはかる。また大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識的に見ること。	
内 容	
第1回 主題分析とその表示 情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明	
第2回 基本件名標目表の概略 基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明	
第3回 基本件名標目表による件名作業 細目の用い方、件名規程の説明	
第4回 演習とまとめ ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る	
第5回 日本十進分類法(NDC)の概略 NDCの構成を説明	
第6回 日本十進分類法による分類作業 一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明	
第7回 分類記号付与の実際 分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる	
第8回 演習とまとめ	
第9回 分類記号付与の実際/人文科学(2類、1類) これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明	
第10回 分類記号付与の実際/人文科学(7類、8類、9類)	
第11回 演習とまとめ	
第12回 分類記号付与の実際/社会科学(3類)	
第13回 分類記号付与の実際/自然科学(4類)、技術(5類)	
第14回 分類記号付与の実際/産業(6類)、総記(0類)	
第15回 図書記号・別置記号の付与;演習とまとめ	
履修上の注意点	
一回一回の授業の積み重ねが大事なので、欠席はしないこと。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート (50%)	小テスト (20%)
授業中課題 (10%)	授業中発表等 ( )
参加度 (20%)	
授業に積極的に参加する姿勢(出席率、課題発表等)を重視する。授業の中間(第8回)及び授業最終日に理解度を確認するためのテストを行う。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報資源組織演習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 川瀬 綾子	
テーマ	図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法を中心に、件名法も含めて、その知識と技法を学ぶ。
授業の到達目標	NDC10版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。
授業の概要	多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。
準備学習(予習・復習)	予習として教科書を精読し、その章のポイントは何かを整理しておく。復習には特に重点をおき、教科書の例題の分類記号や件名(統制語)について、NDCやBSHを使って確認する。余力があれば教科書の演習問題にチャレンジする。出来るだけ多くの事例を実践することにより、スキルアップをはかる。また大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識的に見ることに。
内 容	<p>第1回 主題分析とその表示 情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明</p> <p>第2回 基本件名標目表の概略 基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明</p> <p>第3回 基本件名標目表による件名作業 細目の用い方、件名規程の説明</p> <p>第4回 演習とまとめ ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る</p> <p>第5回 日本十進分類法(NDC)の概略 NDCの構成を説明</p> <p>第6回 日本十進分類法による分類作業 一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明</p> <p>第7回 分類記号付与の実際 分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる</p> <p>第8回 演習とまとめ</p> <p>第9回 分類記号付与の実際/人文科学(2類、1類) これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明</p> <p>第10回 分類記号付与の実際/人文科学(7類、8類、9類)</p> <p>第11回 演習とまとめ</p> <p>第12回 分類記号付与の実際/社会科学(3類)</p> <p>第13回 分類記号付与の実際/自然科学(4類)、技術(5類)</p> <p>第14回 分類記号付与の実際/産業(6類)、総記(0類)</p> <p>第15回 図書記号・別置記号の付与;演習とまとめ</p>
履修上の注意点	一回一回の授業の積み重ねが大事なので、欠席はしないこと。
教科書	<p>資料組織演習：書誌ユーティリティ、コンピュータ目録</p> <p>著者：北克一、村上泰子</p> <p>出版社：エム・ビー・エー</p> <p>出版年：2017年出版予定 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験・レポート (50%) 小テスト ( )</p> <p>授業中課題 (40%) 授業中発表等 ( )</p> <p>参加度 (10%)</p> <p>授業中に行う課題も評価の対象となります。欠席の無いようにしてください。</p>

## 2017 Syllabus

科目名 図書館実習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 明定 義人

テーマ

それまでの図書館学で学んだことを図書館現場で実習することにより、現実に対応できる能力を獲得する。

授業の到達目標

それまでの図書館学で学んだことを図書館現場で実習することを通じて、仕事をより深く理解し、今日の図書館が抱える課題についても問題意識を深めることが期待される。

授業の概要

図書館に関する科目で得た知識・技術を元にして、事前・事後学習の指導を受けつつ公立図書館業務を経験させる。実習は公立図書館で5日間(40時間)を基礎とする。実習の内容は下記の内容を中心にすえつつ順序等については実習館の都合にあわせる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 事前ガイダンス
- 第2回 実習先による図書館施設見学と概略説明
- 第3回 貸出・返却業務および配架作業
- 第4回 レファレンス業務およびリクエスト処理等
- 第5回 選書・発注作業および資料整理技術の実際を学ぶ
- 第6回 図書館行事(お話し会や講演会等)補助作業および館長の話(まとめ)
- 第7回 学生からの報告と評価①
- 第8回 学生からの報告と評価②

履修上の注意点

実習館ごとに、運営・サービス内容に違いがあるので、事前に複数の図書館を見学しておくことが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50 )

実習終了後に提出されたレポートを、授業中課題として評価する。

## 2017 Syllabus

## 科目名 学校経営と学校図書館

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村岡 益子	
テーマ	
学校図書館の理念と意義を学校教育の抱える課題の中に位置づけて理解する。	
授業の到達目標	
今日の学校教育の諸課題をふまえ、学校図書館の教育的意義及び司書教諭の果たすべき任務について 理解し、意欲的・創造的に活動する司書教諭をめざす。	
授業の概要	
当科目が講義科目全体の総論的な位置づけであることを踏まえ、まず学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。次に教師として、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と職務を明確にし、校内の協力体制づくり、司書教諭としての研修の重要性にふれる。さらに、学校図書館メディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的理解を図る。	
準備学習(予習・復習)	
授業後は、テキストと配布資料で復習をしておくこと。	
内 容	
第1回	学校図書館の理念と教育的意義
第2回	生涯学習社会・知識基盤社会と学校図書館
第3回	学校図書館の発展と課題
第4回	教育行政と学校図書館
第5回	学校図書館法と関係法令
第6回	教育サービスとしての学校図書館施策
第7回	学校経営組織における学校図書館
第8回	学校図書館のマネジメント・サイクル
第9回	司書教諭の任務と役割
第10回	学校内の協力体制と司書教諭の職務
第11回	学校図書館メディアの構築と管理
第12回	学校図書館活動の対象と領域
第13回	学校図書館活動の内容と方法
第14回	「読む力」と「読書へのアニマシオン」
第15回	学校図書館が築くネットワーク
履修上の注意点	
母校を訪問し、無償で図書館ボランティアを体験させてもらう。また、必要な事前学習については、適宜指示する。	
教科書	
学校経営と学校図書館	
著者： 中村百合子	
出版社： 樹村房	
出版年： 2015	ISBN： 4-88367-251-6
参考書	
学校図書館・司書教諭講習資料〔第7版〕	
著者： 全国学校図書館協議会	
出版社： 全国学校図書館協議会	
出版年： 2012	ISBN： 4-7933-0087-5
成績評価	
試験・レポート（50）	小テスト（ ）
授業中課題（20）	授業中発表等（0）
参加度（30）	
出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。	



## 2017 Syllabus

## 科目名 学校図書館メディアの構成

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村岡 益子	
テーマ	
学校図書館メディアの構成に必要な実務的知識を得る。	
授業の到達目標	
学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成と、学校図書館メディアの専門職である司書教諭としての基本的な知識を獲得する。	
授業の概要	
まず初めに、高度情報社会における学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種類と特性について説明し、理解を図る。次に、より優れたメディアの構築について、さらにメディアの組織化の意義と展開について講義し、必要に応じて演習や実習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
授業後に、テキストと配布資料で復習をしておくこと。	
内 容	
第1回	高度情報社会における学校図書館メディア
第2回	学校図書館におけるメディアの種類と特性
第3回	学校図書館メディア構築のための基本
第4回	学校図書館メディアの選択と収集方針(評価方法を含む)
第5回	学校図書館メディアの選択のための情報源と発注
第6回	情報ファイル資料の構築
第7回	学校図書館メディアの維持と発展(更新・廃棄を含む)
第8回	学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
第9回	学校図書館メディアの配架
第10回	学校図書館メディアの組織化の新しい展開
第11回	学校図書館メディアの目録
第12回	学校図書館メディアの目録法
第13回	学校図書館メディアの主題索引法
第14回	特別な支援のための学校図書館メディア
第15回	学校図書館メディアの充実と提供
履修上の注意点	
小・中・高・大学の図書館及び公共図書館へ足を運ぶ。また、必要な事前学習については、適宜指示する。	
教科書	
学校図書館メディアの構成	
著者:	小田光宏
出版社:	樹村房
出版年:	2016
ISBN:	4-88367-252-3
参考書	
学校図書館・司書教諭講習資料〔第7版〕	
著者:	全国学校図書館協議会
出版社:	全国学校図書館協議会
出版年:	2012
ISBN:	4-7933-0087-5
成績評価	
試験・レポート ( 50 )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 0 )
参加度 ( 30 )	
出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。	

## 2017 Syllabus

## 科目名 学習指導と学校図書館

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村岡 益子	
テーマ	
<p>学習センター機能としての学校図書館は、教科学習や読書などと関連付けて活用されることが重要である。司書教諭は教師として、また多様なメディアの専門家として、その役割を果たすことが求められている。学校教育の目標と結びついた学習指導において学校図書館の活用を考えていく。</p>	
授業の到達目標	
<p>学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。教科学習における担当教諭と司書教諭のコラボレーション、学習情報センターとしての学校図書館利用指導などについて事例を研究し、実際に自分で指導計画を作成する。情報リテラシー育成の一端を担う学校図書館活用の理論と実践のつながりを理解する。</p>	
授業の概要	
<p>講義中心であるが、課題をこなし、それに基づいた討論を行う。学習指導計画を実際に作成し、学校図書館を活用した授業を考える。最後に筆記試験を行う。</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>授業後に、テキストと配布資料で復習をしておくこと。</p>	
内 容	
<p>第1回 オリエンテーションとビデオ視聴『司書教諭の役割』  第2回 学校教育と学校図書館  第3回 主体的な学習を支える学校図書館  第4回 メディア活用能力育成とその方法  第5回 メディア活用能力育成の計画と評価  第6回 レファレンスサービスと情報サービス  第7回 学校図書館メディアの活用—レファレンスブックの利用  第8回 情報サービスの新しい展開  第9回 インターネット情報源の利用  第10回 情報の利用とまとめ方  第11回 ビデオ視聴『図書館を生かす学校は変わる』  第12回 調べ学習の事例(1)  第13回 調べ学習の事例(2)  第14回 学校図書館活用を組み込んだ学習指導計画の作成  第15回 学習指導計画の発表と討議、まとめと筆記試験</p>	
履修上の注意点	
<p>教育学、教科教育法の授業を履修した人は復習しておくこと。また、必要な、事前学習については、適宜指示する。</p>	
教科書	
<p>学習指導と学校図書館  著者： 斎藤康則  出版社： 樹村房  出版年： 2016 ISBN： 4-88367-253-0</p>	
参考書	
<p>学校図書館・司書教諭講習資料  著者： 全国学校図書館協議会  出版社： 全国学校図書館協議会  出版年： 2012 ISBN： 4-7933-0087-5</p>	
成績評価	
試験・レポート (50)	小テスト ( )
授業中課題 (20)	授業中発表等 (0)
参加度 (30)	
<p>出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 読書と豊かな人間性

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 明定 義人

テーマ

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。

授業の到達目標

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。また、学校図書館における読書教育の方策についての知識と理解を獲得する。子どもを本好きにするために何が出来るか、読書教育と環境について考える

授業の概要

子どもの読書の意義について理解を深め、読書資料をジャンルごとに解説し、子供を本好きにするためのさまざまな技術や方法についても学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 子どもの読書の現状
- 第2回 子どもの読書と人間形成
- 第3回 学校教育における読書
- 第4回 発達段階と読書
- 第5回 小学生、中学生、高校生の読書
- 第6回 読書指導の実際
- 第7回 子どもを読書に誘う方法(1)読み聞かせとストーリーテリング
- 第8回 子どもを読書に誘う方法(2)ブックトーク
- 第9回 子どもを読書に誘う方法(3)朝の読書 ほか
- 第10回 読書資料の種類と活用(1)絵本
- 第11回 読書資料の種類と活用(2)児童文学 ほか
- 第12回 読書資料の種類と活用(3)昔話・伝承文学、知識の本
- 第13回 読書活動における司書教諭の役割、「図書館の自由」と「読書の秘密」
- 第14回 生涯学習への読書、家庭・地域・公共図書館との連携、協力
- 第15回 子ども読書活動の推進
- 第16回 試験

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(レポート 40)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(30)

参加度(30)

## 2017 Syllabus

## 科目名 情報メディアの活用

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	米谷 優子	
テーマ	存在するさまざまなメディアの特色を理解した上で、学校教育への活用を論じる。そして、児童生徒の情報リテラシーの育成について学ぶ。	
授業の到達目標	司書教諭資格取得希望者、もしくは教職希望者が、情報メディアを授業で活用することを目標において行う講義である。実践に役立つ知識とスキルを身につけ、情報メディアの活用を目的とした教材の制作も行う。また、グループワークを取り入れ、コミュニケーションスキルの向上も図る。	
授業の概要	現代社会におけるさまざまなメディアの特色を理解し、実際に学校教育に活用することができるような知識の習得をめざす。また著作権の問題やメディアに潜む「負」の要素を認識すると共に、併せて児童生徒への指導方法についても考える。	
準備学習(予習・復習)	まず、自身が図書館をはじめとする情報源に親しむこと。また、司書教諭の科目は全てが関連し合っている。学校図書館や司書教諭について総合的に把握することができるよう、他の科目で学んだことも復習しておくこと。	
内 容	<p>第1回 情報メディアの発達と変化:情報社会と人間</p> <p>第2回 学校教育における情報メディア、高度情報社会における図書館の役割</p> <p>第3回 情報メディアの特性と選択</p> <p>第4回 視聴覚メディアの活用・事例の紹介</p> <p>第5回 電子メディアの活用・事例の紹介</p> <p>第6回 学校図書館におけるコンピュータの利用</p> <p>第7回 情報活用能力、メディアリテラシー</p> <p>第8回 教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第9回 情報検索の仕組みと実際:データベースを用いて</p> <p>第10回 情報検索の仕組みと実際:インターネットを用いて</p> <p>第11回 インターネットの利用:ネチケット、フィルタリング</p> <p>第12回 インターネット:情報の発信</p> <p>第13回 プレゼンテーションと情報の評価</p> <p>第14回 情報メディアと著作権およびテスト</p> <p>第15回 テストの確認と自己評価</p>	
履修上の注意点	授業は講義のほか、演習も含む。情報検索演習はコンピュータの基本操作能力を前提として進める。授業中の課題は締切や形式等の指示を守って提出すること。なお、授業計画は理解度その他の理由によって変更することがある。授業で紹介する資料およびURLへは各自で閲覧やアクセスを行っておいください。	
教科書	<p>情報メディアの活用</p> <p>著者: 「シリーズ学校図書館学」編集委員会</p> <p>出版社: 全国学校図書館協議会</p> <p>出版年: 2010 ISBN: 9.78448E+12</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート (60)</p> <p>授業中課題 (30)</p> <p>参加度 (10)</p> <p>3分の1以上欠席した場合は失格とする</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( )</p>	

## 2017 Syllabus

## 科目名 博物館学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小林 裕子	
テーマ 博物館理解のための基礎	
授業の到達目標 博物館に関する基礎的知識を理解し、博物館の現状と問題点を学び、その解決法を考える。	
授業の概要 受講生に現代の博物館、美術館が抱える問題点について理解させ、今後のあり方について考えさせる。さらに経験をふまえた展示や運営などの具体的な事例について講義する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 博物館学の目的・方法・構成 博物館学の目的・方法・構成を学ぶ。授業の進め方についてのガイダンスを兼ねる。 第2回 博物館学史 博物館学の歴史について学ぶ 第3回 博物館とは何か① 博物館の定義と種類(館種、設置者別、法的区分等)を学ぶ 第4回 博物館とは何か② 博物館の目的と機能を学ぶ 第5回 博物館の歴史と現状① 我が国の博物館・美術館 第6回 博物館の歴史と現状② 欧米の博物館・美術館1 第7回 博物館の歴史と現状③ 欧米の博物館・美術館2 第8回 博物館の歴史と現状④ 中国の博物館 第9回 博物館の歴史と現状⑤ 韓国の博物館 第10回 博物館の歴史と現状⑥ 博物館、美術館の問題—展覧会について 第11回 博物館の歴史と現状⑦ 博物館、美術館の問題—収集について 第12回 学芸員の役割① 学芸員の定義・役割について学ぶ 第13回 学芸員の役割② 学芸員の実態について学ぶ 第14回 博物館関係法令 博物館関係法令について学ぶ 第15回 まとめ 21世紀の博物館、美術館のあり方 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。	
履修上の注意点 本講義では座席指定制とする。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (10)	小テスト (50) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

## 科目名 博物館教育論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	

## テーマ

博物館という場のなかで、博物館資料素材を起点とした利用者へのよりよい教育シーンを探っていく

## 授業の到達目標

これまで日本の博物館では、収集資料重視の偏重があったため、館の使命の中に教育という側面がおろそかにされてきた。ところが、近年、利用者を重視する博物館運営にウエイトが増しており、普及部門の活動の中でも教育が必要不可欠な存在となってきた。本論では、博物館における教育展開の多方面にわたる手法と利用者の多様性を提示することで、よりよいカリキュラムの構築について考えてみたい。

## 授業の概要

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践的な諸事例や方法を知り、それを展開する博物館がいかなる社会的存在となり得るかを探り、博物館機能の中に教育が参画できる基礎的な方策を立てることの能力を養う。

## 準備学習(予習・復習)

博物館行われている活動に接する

## 内 容

- 第1回 学びの意義(博物館の社会的存在感)
- 第2回 【博物館教育の意義と理念】①コミュニケーションの場として博物館教育
- 第3回 ②博物館機能の1つとしての教育的意義
- 第4回 ③展示開発の中での教育担当者として役割
- 第5回 ④博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等)
- 第6回 ⑤博物館教育の方針と評価
- 第7回 【博物館の利用と学び】①博物館の利用実態と利用者の博物館体験
- 第8回 ②校外学習の場、アウトリーチの場としての博物館活動と利用方法
- 第9回 ③博物館における有効な学びの特性ーハンズ・オン、ワークショップの展開
- 第10回 【博物館教育の実際】①国立民族学博物館の見学
- 第11回 ②キッズプラザ大阪の見学
- 第12回 ③学校教育に生かす活動(展示ストーリー、収蔵資料と学習指導要領の関係)
- 第13回 ④博物館教育活動の企画案の作成
- 第14回 ⑤博物館教育活動の実施案の作成
- 第15回 ⑥博物館展示教育のカリキュラム案の作成 ※なお、この授業ではゲストスピーカーによる特別講演会を実施することがある。

## 履修上の注意点

博物館見学のマナーを留意しながら、博物館と接する。

## 教科書

造形ワークショップの広がり

著者: 高橋陽一編

出版社: 武蔵野美術大学出版局

出版年: 2011

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 博物館情報・メディア論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	

## テーマ

メディアの意味を理解しつつ、視聴覚メディアの活用能力を磨く

## 授業の到達目標

博物館などの文化施設における視聴覚メディアの利用は、単なる視聴覚機器の時代から、デジタルテクノロジーを活用したマルチメディア時代へと大きく転換してきている。それに伴い、運営に携わるスタッフにもそれらを抵抗なく使いこなしていく能力が求められてきている。視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

## 授業の概要

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

## 準備学習(予習・復習)

文化施設で開催される講演会やシンポジウム・映画鑑賞会などに出席したり、テーマパーク等のメディア技術の観察などを行うこと。

## 内 容

- 第1回 メディアの意義 今日、我々にとって様々なメディアは生活に不可欠となっており、文化施設等でも日常的に使用している。基本的なメディアの意義を説明する。
- 第2回 メディアの歴史と発展 これまで人類が創造してきた広い意味でのメディアの歴史を紐解きながら、それが博物館等でのどのように利用されてきたかを説明する。
- 第3回 メディアの未来とICT社会 メディアは日々進化しており、ここでは最新のメディア機器とそれに関わる博物関東でのICT社会について説明する。
- 第4回 メディアと認知心理学 情報を発信すれば良いのではなく、最も重要なのがどう認知するかである。認知心理学の理論から、主に記憶と認知の構造を説明する。
- 第5回 メディアの利用とその影響 博物館にかぎらず、メディアの利用には気をつけなくてはならない点がある。過去の活用例をもとに、その影響力について説明する。
- 第6回 博物館におけるメディアの利用 博物館において、利用者や職員が使う様々なメディアについて、その全体像について説明する。
- 第7回 視聴覚情報メディア機器の活用(静止画) おもに従来から使用されてきたスライドやOHPなど静止画を中心とする具体的な機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第8回 視聴覚情報メディア機器の活用(動画) ここでは教育用に利用されてきたフィルムやビデオテープなどの動画を中心とする機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第9回 デジタル型視聴覚情報メディアについて 今日では、パソコンを含むデジタル型視聴覚情報メディアが利用されている。ここでは一般的な機器やインターネット等についての説明を行う。
- 第10回 デジタル機器とデータベース 情報コンテンツのデジタル化が一般化する中で、デジタルデータベース(=デジタルアーカイブ)をどのように構築し、利用するかを説明する。
- 第11回 ドキュメンテーションとシソーラス デジタル環境におけるドキュメンテーションづくりについて、とくに既製分類のない博物館におけるシソーラスのあり方について説明する。
- 第12回 博物館と著作権 博物館における知的財産権との関係の中で、とくに著作権を中心に日常業務に必要な事柄(著作権処理等を含む)について説明を行う。
- 第13回 情報管理と情報公開 おもにホームページ等への公開と管理を中心として、情報の管理形式とその公開について、ネットワークシステム論と併せて説明を行う。
- 第14回 学生によるプレゼンテーション(1) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。
- 第15回 学生によるプレゼンテーション(2) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

## 履修上の注意点

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※上記に関連して、山科地域を一つの地域博物館と仮定して、情報の取り上げ方の例とする。

## 教科書

## 山科ガイド

著者: 木下達文

出版社: つむぎ出版

出版年: 2008

ISBN:

## 参考書

---

成績評価

試験・レポート（0）

授業中課題（30）

参加度（40）

特に出席を重視する。

小テスト（0）

授業中発表等（30）

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 博物館経営論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	
テーマ	
社会に役立つ博物館とは	
授業の到達目標	
現代の博物館は非常に多様化しており、また経営方法も変わってきた。一方で、財政的にも厳しくなっているため、従来の経営方法では立ちゆかなくなってきた。したがって、これからの学芸員は経営感覚が必須といわれるようになってきた。そこで、本講座を通じて経営的視点をもつ人材の養成を行う。	
授業の概要	
博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)に関する基礎的能力を養う。	
準備学習(予習・復習)	
できるだけ機会をつかっていろいろな博物館を見学したり活動に参加してほしい。また、広報誌やガイドブックを参考にそれぞれの博物館の特徴や社会サービスの内容を知ること。	
内 容	
第1回	ミュージアムマネジメントの概念と必要性 ここでは、ミュージアムマネジメントとは何かということから、なぜ博物館において「経営」的視点が必要になってきたのかということについて解説する。
第2回	博物館の行財政(経営とその種類) 近年、独立行政法人や指定管理者制度の導入によりその経営のあり方は大きく変化した。ここでは、そうした行財政制度の基本を説明する。
第3回	博物館の設置(主体) 国や自治体のみならず、多様な市立博物館が今日たくさん設置されている。ここでは、設置主体毎の特徴をおおまかに説明していく。
第4回	博物館の施設・設備(ユニバーサル化を含む) そもそも博物館がどのように計画・設置されるのかというプロセスと同時に、博物館に必要な施設設備について解説する。
第5回	博物館の組織と職員 博物館にとっての組織のあり方と同時に、学芸員を含む様々な職務スタッフについての概要を海外と比較しながら説明を行う。
第6回	博物館の使命と計画と評価 博物館は「何のために存在するのか」を常に自身および他者に問わなければならない。その使命と実施評価の方法について説明する。
第7回	博物館倫理(行動規範) 博物館は公益活動を行うところであり、コレクションを持つという特色がある。業務の特色をふまえた行動規範について解説する。
第8回	博物館の危機管理 東日本大震災の調査記録等を素材としながら、博物館の様々な事故とそれに対応する管理体制およびリカバリー等について解説する。
第9回	ミュージアムマーケティング 社会には様々な娯楽があり、年々利用者獲得が難しくなっている。ここでは、博物館の市場および利用者獲得のためのマネジメントを考える。
第10回	博物館と市民参画(友の会、ボランティア等) 博物館をとりまく支援組織のあり方が変化している。おもに友の会と文化ボランティア活動についての概要を説明する。
第11回	博物館とサービス(ミュージアムショップ・レストラン等) 博物館は法の定義にもあるように、レクリエーションの場でもある。ここでは、博物館サービスとしてのショップとレストラン等のあり方を考える。
第12回	博物館と地域連携 博物館はもはや単独経営では成り立たなくなっている。地域連携や博学連携などを例にあげながら、博物館の新たな役割について説明する。
第13回	博物館の財務(資金調達) これまでの博物館は一定の予算枠で活動を行うことが多かった。寄付に関する法律が変わっていくことで、今後の資金調達のあり方を考える。
第14回	特別講義 これまで博物館経営を行ってきた人、あるいは学芸員としての実績がある人をお招きし、その経験的視点からのケーススタディを考える。
第15回	博物館の見学 実際に博物館の現場を訪れ、展示だけでなく経営的な視点から博物館の運営状況、スタッフ、ショップ・レストランに至るまで観察を行う。
履修上の注意	
教科書	
ひろがる日本のミュージアム	
著者: 千地万造・木下達文編	
出版社: 晃洋書房	
出版年: 2007	ISBN:
参考書	
新しい博物館学	
著者: 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	
出版社: 芙蓉書房出版	

成績評価

試験・レポート（50）

小テスト（0）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（30）

学外授業や特別講師の授業は先方の都合により日程が前後します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 博物館資料論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

博物館資料の収集保管・調査研究・整理活動の方法

授業の到達目標

博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。

授業の概要

博物館における調査研究と資料公開の方法、すなわち、博物館資料の収集・調査研究・展示の方法を理解する。博物館資料の種類(文献・考古・民俗・自然史など)ごとに、その特徴と研究方法、博物館での研究と公開の方法を解説する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 博物館資料には、どんなものがあるか
- 第2回 博物館資料の収集方法
- 第3回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第4回 遺跡博物館の展示方法
- 第5回 博物館資料の調査研究① 考古資料(1)
- 第6回 博物館資料の調査研究② 考古資料(2)
- 第7回 博物館資料の調査研究③ 民俗資料
- 第8回 博物館資料の調査研究④ 歴史資料
- 第9回 博物館資料の調査研究⑤ 美術資料
- 第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第11回 博物館資料の調査研究⑥ 自然史資料
- 第12回 博物館資料の調査報告書・図録の編集
- 第13回 博物館学芸員による資料収集・調査研究活動(講演会)
- 第14回 博物館資料の調査研究展示普及活動の課題
- 第15回 まとめとスライド

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 60 )

小テスト ( )

授業中課題 ( 40 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 博物館資料保存論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

博物館資料の保存に向けた加工法と劣化予防対策の実際を学ぶ

授業の到達目標

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う

授業の概要

博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ

準備学習(予習・復習)

博物館を見学するとき、展示照明や空調、収蔵施設の位置といったものに注意することを心がける。

内 容

- 第1回 資料保存の意義
- 第2回 文化財保存における国内外の状況①
- 第3回 文化財保存における国内外の状況②
- 第4回 資料の状態調査・現状把握
- 第5回 資料の修復・修理
- 第6回 資料の梱包と輸送1
- 第7回 資料の梱包と輸送2
- 第8回 博物館資料の保存環境事例1
- 第9回 博物館資料の保存環境事例2
- 第10回 学外授業① 博物館資料の保存環境事例3
- 第11回 地域文化資源の保存と活用事例1
- 第12回 地域文化資源の保存と活用事例2
- 第13回 学外授業② 地域文化資源の保存と活用事例3
- 第14回 環境保全と博物館
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

文化財の保存環境

著者： 東京文化財研究所編

出版社： 中央公論美術出版

出版年： 2011

ISBN： 9.78481E+12

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 45 )

授業中発表等 ( 10 )

参加度 ( 45 )

## 2017 Syllabus

## 科目名 博物館展示論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 木下 達文

## テーマ

展示メディアの理解と創造

## 授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

## 授業の概要

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

## 準備学習(予習・復習)

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心を持ち社会を見つめてみる。

## 内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

## 履修上の注意点

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※グループワークを主体として授業を進めるため、オリエンテーションを除き欠席は3回までとしているのと、後半は授業外の調整や制作作業(かなり大変です)などがあるため、良く考えて履修をすること。

## 教科書

## 参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年：1996

ISBN:

イベント講座

著者： 日本イベント産業振興協会

出版社： 日本イベント産業振興協会

出版年：2004

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（0）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（30）

参加度（40）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

---

## 2017 Syllabus

科目名 博物館実習 I &lt;a&gt;

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢・宇野 日出生

テーマ

博物館資料の取り扱い方・研究のための資料化

授業の到達目標

実習 I では、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の概要

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
- 第2回 実測図の意味と線画を描く基礎的練習
- 第3回 実測図の作成①
- 第4回 実測図の作成②
- 第5回 解説図の作成
- 第6回 拓本の作成
- 第7回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第8回 【事後指導1】実習総括
- 第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
- 第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第11回 古文書の解読と整理(冊子を中心に)
- 第12回 古文書の解読と整理(冊子を中心に)
- 第13回 古文書の解読と整理(状を中心に)
- 第14回 古文書の解読と整理(状を中心に)
- 第15回 事後指導2】実習総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 60 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 博物館実習 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期後半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	五十川 伸矢・宇野 日出生	
テーマ	博物館資料の取り扱い方・研究のための資料化	
授業の到達目標	実習 I では、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。	
授業の概要	考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説</p> <p>第2回 実測図の意味と線画を描く基礎的練習</p> <p>第3回 実測図の作成①</p> <p>第4回 実測図の作成②</p> <p>第5回 解説図の作成</p> <p>第6回 拓本の作成</p> <p>第7回 見学実習① 学外授業 博物館参観</p> <p>第8回 【事後指導1】実習総括</p> <p>第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方</p> <p>第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観</p> <p>第11回 古文書の解読と整理(冊子を中心に)</p> <p>第12回 古文書の解読と整理(冊子を中心に)</p> <p>第13回 古文書の解読と整理(状を中心に)</p> <p>第14回 古文書の解読と整理(状を中心に)</p> <p>第15回 事後指導2】実習総括</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験・レポート ( )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( 40 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( 60 )</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定 員 40
履修条件	クラス指定

担当者 一瀬 和夫・戸花 亜利州・宮本 純二

テーマ

博物館における資料の取り扱いと展示開発とともに借用、梱包、輸送の技術

授業の到達目標

実習Ⅱでは、資料台帳カード作成と展示・体験学習のプランニングを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の修得を目指す。

授業の概要

講義形式で進めながら適宜資料を用いる。また、撮影の基礎(中判カメラの使用方法やライティング等)についても講義する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導、取り扱い資料に関する概説(民俗資料・美術工芸資料)
- 第2回 民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、写真撮影)
- 第3回 民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、画像処理)
- 第4回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第5回 民俗資料展示・体験学習の原案検討
- 第6回 民俗資料展示企画書作成、展示場平面図作成
- 第7回 体験学習企画書作成
- 第8回 【事後指導1】実習総括
- 第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導、展示環境の基礎
- 第10回 美術工芸資料(軸装、卷子・折本・冊子)の取り扱い
- 第11回 美術工芸資料(彫刻)の取り扱い
- 第12回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第13回 撮影の基礎、中判カメラを用いた撮影
- 第14回 美術品の梱包、展示・図録編集作業
- 第15回 【事後指導2】実習総括

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外授業を行います。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫・戸花 亜利州・宮本 純二	
テーマ	
博物館における資料の取り扱いと展示開発とともに借用、梱包、輸送の技術	
授業の到達目標	
実習Ⅱでは、資料台帳カード作成と展示・体験学習のプランニングを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の修得を目指す。	
授業の概要	
講義形式で進めながら適宜資料を用いる。また、撮影の基礎(中判カメラの使用法やライティング等)についても講義する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導、取り扱い資料に関する概説(民俗資料・美術工芸資料)	
第2回 民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、写真撮影)	
第3回 民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、画像処理)	
第4回 見学実習① 学外授業 博物館参観	
第5回 民俗資料展示・体験学習の原案検討	
第6回 民俗資料展示企画書作成、展示場平面図作成	
第7回 体験学習企画書作成	
第8回 【事後指導1】実習総括	
第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導、展示環境の基礎	
第10回 美術工芸資料(軸装、卷子・折本・冊子)の取り扱い	
第11回 美術工芸資料(彫刻)の取り扱い	
第12回 見学実習② 学外授業 博物館参観	
第13回 撮影の基礎、中判カメラを用いた撮影	
第14回 美術品の梱包、展示・図録編集作業	
第15回 【事後指導2】実習総括	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

## 科目名 博物館実習Ⅲ &lt;a&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	
テーマ	博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。
授業の到達目標	博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつつじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。
授業の概要	現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。
準備学習(予習・復習)	実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。
内 容	<p>第1回 写真機(カメラ)の構造 博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。</p> <p>第2回 博物館における資料撮影について 博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。</p> <p>第3回 写真機の取り扱い フローニカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。</p> <p>第4回 写真展の考え方 撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。</p> <p>第5回 資料撮影の実際(1) 撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。</p> <p>第6回 資料撮影の実際(2) 1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。</p> <p>第7回 写真パネルの制作(1) 撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。</p> <p>第8回 写真パネルの制作(2) 写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンペーンボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。</p> <p>第9回 図録編集の実務(1) 博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。</p> <p>第10回 図録編集の実務(2) 編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。</p> <p>第11回 レプリカ資料の制作(1) 博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。</p> <p>第12回 レプリカ資料の制作(2) ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。</p> <p>第13回 写真展示の実際(1) 自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。</p> <p>第14回 写真展示の実際(2) 写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。</p> <p>第15回 バリエーション(自己評価・他者評価) 自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。</p> <p>第16回 【実習直前ガイダンス】 実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導</p> <p>第17回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第18回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第19回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第20回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第21回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ</p>
履修上の注意点	※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※レプリカ実習はレプリカ会社の都合により土曜日に行う(日程は早めに連絡する)。
教科書	

参考書

博物館学実習マニュアル

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2002

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

特に出席を重視する

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 博物館実習Ⅲ &lt;b&gt;

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	
テーマ	博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。
授業の到達目標	博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつうじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。
授業の概要	現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。
準備学習(予習・復習)	実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。
内 容	<p>第1回 写真機(カメラ)の構造 博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。</p> <p>第2回 博物館における資料撮影について 博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。</p> <p>第3回 写真機の取り扱い フローニカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。</p> <p>第4回 写真展の考え方 撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。</p> <p>第5回 資料撮影の実際(1) 撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。</p> <p>第6回 資料撮影の実際(2) 1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。</p> <p>第7回 写真パネルの制作(1) 撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。</p> <p>第8回 写真パネルの制作(2) 写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンペーンボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。</p> <p>第9回 図録編集の実務(1) 博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。</p> <p>第10回 図録編集の実務(2) 編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。</p> <p>第11回 レプリカ資料の制作(1) 博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。</p> <p>第12回 レプリカ資料の制作(2) ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。</p> <p>第13回 写真展示の実際(1) 自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。</p> <p>第14回 写真展示の実際(2) 写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。</p> <p>第15回 バリエーション(自己評価・他者評価) 自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。</p> <p>第16回 【実習直前ガイダンス】 実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導</p> <p>第17回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第18回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第19回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第20回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第21回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ</p>
履修上の注意点	※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※レプリカ実習はレプリカ会社の都合により土曜日に行う(日程は早めに連絡する)。
教科書	

参考書

博物館学実習マニュアル

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2002

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

特に出席を重視する

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

---

## 2017 Syllabus

科目名 生涯学習概論Ⅱ

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本と世界の生涯学習

授業の到達目標

生涯学習を世界的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。

授業の概要

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。

準備学習(予習・復習)

授業中配布・紹介した文献を読み、世界の動向や教育改革の動きについて敏感になる。

内 容

- 第1回 ハンブルク宣言の意味するもの
- 第2回 イギリスにおける大学拡張
- 第3回 成人教育の成立と現在
- 第4回 ドイツにおける民衆大学
- 第5回 市民大学の現在
- 第6回 有給教育休暇の理念と制度
- 第7回 職業資格と生涯学習
- 第8回 社会的教育学の成立と青少年教育
- 第9回 高齢社会と生涯学習
- 第10回 多文化共生と生涯学習
- 第11回 世界と日本の環境・まちづくり学習
- 第12回 エコミュージアムと市民の学習
- 第13回 アジアの生涯学習 中国
- 第14回 アジアの生涯学習 韓国
- 第15回 まとめ 可能であれば学外授業を予定

履修上の注意点

高校の世界史教科書の近代以降を自習しておくこと。授業中のディスカッションに積極的に参加すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の大学危機

著者: 潮木守一

出版社: 中央公論新社

出版年: 2004

ISBN: 4-12-101764-1

現代世界の生涯学習

著者: 新海英行／牧野篤

出版社: 大学教育出版

出版年: 2002

ISBN: 4-88730-477-3

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 50% )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 50% )

## 2017 Syllabus

## 科目名 社会教育計画 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	
テーマ 学習者の理解と学習課題の把握	
授業の到達目標 社会教育計画策定の前提として、地域に暮らす多様な学習者を理解し、生活課題と学習課題をさぐることを狙いとする。	
授業の概要 講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。	
準備学習(予習・復習) 市町村の社会教育政策に関心を持つ。授業中に提示する参考文献を読む。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 婦人教育から女性の学習へ 第3回 女性が働くことと学び 女性施設の役割 第4回 子育て支援政策の現在 第5回 子育てに関わる学びとネットワークづくり 第6回 今日の青少年教育施設 第7回 子どもと地域 プレイパークの現在 第8回 エイジングはよくないことか？高齢者の可能性 第9回 教育と文化の主体としての高齢者 第10回 高齢社会と共生の課題 第11回 障害者の学習のあゆみ 第12回 障害者の自己表現と社会教育 第13回 障害者の自立支援と社会教育 第14回 マイノリティと共生の課題 第15回 企画・考察の交流とまとめ	
履修上の注意点 コメントシートを活用し、自分の意見を表現する。配布プリントおよびVTRを教材とする。	
教科書 使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 未定 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 50 ) 参加度 ( 50 ) 社会教育計画 I もしくは社会教育計画 II のいずれかで、必ず企画立案を行うようにする。	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )



## 2017 Syllabus

## 科目名 社会教育計画Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	
テーマ	
地域・学校の直面する課題と社会教育の役割について考える。	
授業の到達目標	
様々な実践事例を素材として、地域社会における学校教育と社会教育の協力と社会教育独自の役割を考える。また学級・講座の企画力を養う。	
授業の概要	
講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。	
準備学習(予習・復習)	
地域社会と学校および社会教育施設の関係について、自分の体験にもとづいて考えること。授業中提示した参考文献を読むこと。	
内 容	
第1回	オリエンテーション 社会教育の場としての学校
第2回	小学校における施設開放
第3回	学社連携の実際
第4回	開かれた小学校とは？地域のおとなの役割について
第5回	校区社会教育の事例から可能性を探る
第6回	総合型地域スポーツクラブと部活動について考える
第7回	中学校におけるキャリア教育について、事例検討
第8回	キャリア教育と地域の役割について考える
第9回	高等学校と地域社会の関わりについて考える
第10回	青年の学習と新しい高等学校の役割
第11回	青年の自立支援のための施設と事業
第12回	大学開放の歴史と現在
第13回	権利としての職業教育・訓練
第14回	多文化共生社会と社会教育の課題—在日外国人の学習権保障—
第15回	企画ないしはテーマ研究の発表・交流
履修上の注意点	
コメントシートを活用し、自分の意見を表現する。※この授業は、必要に応じて学外授業を行うことがあります。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
未定	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 50 )	授業中発表等 ( )
参加度 ( 50 )	
社会教育計画Ⅰもしくは社会教育計画Ⅱのいずれかで、必ず企画立案を行うようにする。	

## 2017 Syllabus

科目名 **社会教育演習**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

社会教育における学習方法の理解と習得

授業の到達目標

小集団による話し合い、調査など社会教育実践における主要な学習方法を習得する。

授業の概要

受講生の関心にもとづいたテーマを設定し、グループワークやアクティビティによる学習プログラムを共同で構築する訓練を行う。

準備学習(予習・復習)

日頃から様々な問題に関心を持ち、自分の意見をまとめるようにする。また他者の意見に耳を傾けるようにする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 語ってみよう、自分のこと、地域のこと 1
- 第3回 語ってみよう、自分のこと、地域のこと 2
- 第4回 ゲーム、スポーツなどによる親睦・交流
- 第5回 郷土料理を通じて知る地域
- 第6回 調理実習の企画
- 第7回 調理実習の準備
- 第8回 調理実習の実施
- 第9回 学習のふりかえり
- 第10回 地域社会教育の調査1
- 第11回 地域社会教育の調査2
- 第12回 調査結果の発表準備
- 第13回 発表と交流
- 第14回 発表と交流
- 第15回 全体のまとめと評価

履修上の注意点

参加し、自己表現することが原則。なお、希望人数が多数の時には、社会教育主事補資格取得希望者を優先する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( 70 )

## 2017 Syllabus

科目名 **社会教育課題研究**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	
テーマ 京都市を中心とした施設・職員調査	
授業の到達目標 地域の社会教育調査の方法を習得し、社会教育関係施設の課題を考える。	
授業の概要 京都市を中心とした身近な市町村の社会教育関連施設について、グループに分かれて訪問調査を行う。小集団による学習に習熟し、コミュニケーション能力を高め、プレゼンテーションの経験を積む。	
準備学習(予習・復習) 日頃から地域の学習・文化施設について関心を持つ。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 京都市の社会教育の特徴 第3回 京都市の青少年教育施設について 第4回 京都市の児童館について 第5回 京都市の成人の教育施設について1 第6回 京都市の成人の教育施設について2 第7回 社会教育と地域福祉施設について(社会福祉協議会訪問予定) 第8回 調査のグルーピング 第9回 調査のグルーピング 第10回 フィールドワーク 1 第11回 フィールドワーク 2 第12回 調査結果のまとめ1 第13回 調査結果のまとめ2 第14回 発表と交流 第15回 全体のまとめと評価	
履修上の注意点 社会教育演習を履修していることが望ましい。※この授業は、必要に応じて学外授業を行うことがある。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( 70 )	

## 2017 Syllabus

科目名 日本語教授法 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	中川 裕子	
テーマ	日本語教育概論	
授業の到達目標	日本語教育を理解する上で必要な基礎知識を身につける。	
授業の概要	日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。	
準備学習(予習・復習)	日本語教育関係の文献を数多く読む。日本語教育関係のみならず、文化、日常生活に関する様々なものに多く接する。異文化理解に関する文献や、メディアからの情報に接する。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。	
内 容	<p>第1回 日本語教育の現状</p> <p>第2回 日本語教育現場の実際と日本語教育に従事する人々の役割</p> <p>第3回 日本語教育の歴史①</p> <p>第4回 日本語教育の歴史②</p> <p>第5回 日本語教育の歴史③</p> <p>第6回 外国語教授法①(文法訳読法、直接法)</p> <p>第7回 外国語教授法②(オーディオリンガルメソッド)</p> <p>第8回 外国語教授法③(コミュニカティブアプローチ他)</p> <p>第9回 日本語教育の内容①(初級で扱う文型)</p> <p>第10回 日本語教育の内容②(入門期の発音指導)</p> <p>第11回 日本語教育の内容③(入門期の文字、語彙の指導範囲とその方法)</p> <p>第12回 日本語教育の内容④(指導の手順、指導の流れ)</p> <p>第13回 日本語教育の内容⑤(指導準備、指導内容の知識の整理)</p> <p>第14回 日本語教育の内容⑥(指導案作成～実践へ)、言語の習得</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	三分の二以上の出席が原則。	
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>新・はじめての日本語教育 基本用語事典</p> <p>著者: 高見澤孟監修</p> <p>出版社: アスク</p> <p>出版年: 2004 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (30%)</p> <p>授業中課題 (30%)</p> <p>参加度 (10%)</p> <p>小テスト (10%)</p> <p>授業中発表等 (20%)</p>	

## 2017 Syllabus

科目名 日本語教授法Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	中川 裕子	
テーマ	日本語教育概論	
授業の到達目標	日本語教育の現場で必要となる、基礎知識を身につける。	
授業の概要	<p>コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン、教材選択の基礎知識(種類、特徴)、日本語指導の方法、日本語指導の内容、評価法、異文化理解と日本事情を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>日本語教育関係の文献を数多く読む。基本的な用語を理解する。外国語教授法に関する文献を数多く読む。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。提出物の一つである課題ノート(日本語指導の方法に関する)に取り組む。</p>	
内 容	<p>第1回 コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン  第2回 教材論①(教材の種類と特徴—初級、中級、上級)  第3回 教材論②(教材の種類と特徴—技能別、学習者別)  第4回 教材論③(視聴覚教材、絵教材作成練習、教具の使用法)  第5回 日本語指導の内容①(初級の指導内容)  第6回 日本語指導の内容②(指導のプロセスと指導案)  第7回 日本語指導の内容③(練習方法の種類とその具体的指導方法)  第8回 日本語指導の内容④(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法)  第9回 日本語指導の内容⑤(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法)  第10回 日本語指導の内容⑥(中級の会話指導)  第11回 日本語指導の内容⑦(中級の文型指導、作文指導)  第12回 日本語指導の内容⑧(中級～上級の読解指導、教材作成)  第13回 日本語指導の内容⑨(異文化理解と日本事情)  第14回 評価法  第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	三分の二以上の出席が原則。	
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者:  出版社:  出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>新・はじめての日本語教育 基本用語事典  著者: 高見澤孟監修  出版社: アスク  出版年: 2004 ISBN:</p> <p>日本語の教え方ABC  著者: 寺田和子他  出版社: アルク  出版年: 2001 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート (30%) 小テスト (10%)  授業中課題 (30%) 授業中発表等 (20%)  参加度 (10%)</p>	



## 2017 Syllabus

## 科目名 日本語教授法Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 佐野 裕子	
テーマ	
初級レベル(主に初級前期)の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。	
授業の到達目標	
これまで「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」において学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、英語などの媒介語を使用しない直接法で初級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。	
授業の概要	
初級レベル(主に初級前期)の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、日本語初級文型の導入の仕方を学ぶ。授業は講義形式ではなく、毎回1～2名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。	
準備学習(予習・復習)	
自分が担当しない課でも、必ず文型の意味や導入、応用練習を考えること。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。特に本学に交換留学で来ている留学生とは、交流に勤めることを推奨する。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。	
内 容	
第1回	ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課の決定
第2回	初級指導概説(初級の学習目標と指導の流れ)
第3回	初級指導概説(文型の定着方法と教案の作り方)
第4回	模擬授業1(みんなの日本語初級Ⅰ1課と2課前半)
第5回	模擬授業2(みんなの日本語初級Ⅰ2課後半と3課)
第6回	模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅰ4課と5課前半)
第7回	模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅰ4課と5課前半)
第8回	模擬授業5(みんなの日本語初級Ⅰ7課と8課前半)
第9回	模擬授業1～5の振り返り
第10回	模擬授業6(みんなの日本語初級Ⅰ8課後半と9課)
第11回	模擬授業7(みんなの日本語初級Ⅰ10課と11課前半)
第12回	模擬授業8(みんなの日本語初級Ⅰ11課後半と12課)
第13回	模擬授業9(みんなの日本語初級Ⅰ13課と14課前半)
第14回	模擬授業10(みんなの日本語初級Ⅰ14課後半と15課)
第15回	模擬授業6～10の振り返り、まとめ
履修上の注意点	
「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を履修済みまたは今年度履修登録しており、かつ日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している、文学部日本語日本文学科の学生を主な対象としている。*単なる卒業単位取得のための履修は認めない。基本的に「日本語教授法Ⅲ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。	
教科書	
みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊	
著者: スリーエーネットワーク	
出版社: スリーエーネットワーク	
出版年: 2012	ISBN: 9.78488E+12
参考書	
授業時適宜紹介	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート(25)	小テスト(0)
授業中課題(20)	授業中発表等(40)
参加度(15)	

ask703d110

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、模擬授業の改善教案やフィードバックシートを提出しない場合も、成績評価の対象としない。

---



## 2017 Syllabus

## 科目名 日本語教授法Ⅳ

クラス	配当回生	学部3回生
-----	------	-------

講義期間 後期	定員	50
---------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	佐野 裕子
-----	-------

## テーマ

初級後期・初中級レベルの授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

## 授業の到達目標

これまで学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、初級後期・初中級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。

## 授業の概要

授業は講義形式ではなく、毎回毎回1～2名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。また、大阪大学日本語日本文化教育センター(大阪大学CJLC)での授業見学に、11月の各自の都合の良い日に参加する。あわせて中級指導の概説も簡単に行う。

## 準備学習(予習・復習)

自分が担当しない課でも、必ず文型の意味や導入、応用練習を考えること。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。特に本学に交換留学で来ている留学生とは、交流に勤めることを推奨する。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課決定
- 第2回 前期模擬授業の反省点と課題
- 第3回 模擬授業1(みんなの日本語初級Ⅱ 26課と27課前半)
- 第4回 模擬授業2(みんなの日本語初級Ⅱ 27課後半と28課)
- 第5回 大阪大学CJLC授業見学のガイダンス(予定)
- 第6回 模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅱ 29課と30課前半)
- 第7回 模擬授業4(みんなの日本語初級Ⅱ 30課後半と31課)
- 第8回 応用練習の方法の振り返り
- 第9回 模擬授業5(みんなの日本語初級Ⅱ 32課と33課前半)
- 第10回 模擬授業6(みんなの日本語初級Ⅱ 33課後半と34課)
- 第11回 模擬授業7(みんなの日本語初級Ⅱ 35課と36課前半)
- 第12回 模擬授業8(みんなの日本語初級Ⅱ 36課後半と37課)
- 第13回 中級授業概説1(中級レベルの概説)
- 第14回 中級授業概説2(中級教材検討)
- 第15回 教育実習報告会(予定)

## 履修上の注意点

「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語教授法Ⅲ」を履修済みまたは今年度履修登録しており、かつ日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している、文学部日本語日本文学科の学生を主な対象としている。\*単なる卒業単位取得のための履修は認めない。基本的に「日本語教授法Ⅳ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

## 教科書

みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊

著者: スリーエーネットワーク

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2013

ISBN: 9.78488E+12

## 参考書

授業時に適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート (25)

授業中課題 (20)

参加度 (15)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

ask703d250

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、模擬授業の改善教案やフィードバックシート、大阪大学CJLC授業見学レポートを提出しない場合も、成績評価の対象としない。

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 日本語教材研究

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件 日本語教授法Ⅰ～Ⅳ履修済みであること	クラス指定	
担当者 佐野 裕子		
テーマ		
日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ。		
授業の到達目標		
初級教材、中上級教材を分析し、初級と中上級との相違点や扱われる内容の違いを理解する。年代の異なる教材を分析し、年代による日本語教授観、教材内容変化を把握する。		
授業の概要		
授業は、講義形式ではなく、学生の発表を主体とした討議形式によって行い、補足として各レベルおよび技能での大まかな授業の流れについての説明を行う。前半はグループ形式で教材を分析しその内容を発表してもらい、後半は個人で特定のレベルを対象として教材作成を行ってもらう。		
準備学習(予習・復習)		
自分が担当しない教材についても、必ず教材研究を行うことが望ましい。地域の日本語教室への見学や参加などを自主的に行うこと。		
内 容		
第1回	ガイダンス 授業方針・評価方法説明・担当教材の決定	
第2回	教材分析の方法1(学習段階と到達目標)	
第3回	教材分析の方法2(教材分析の観点)	
第4回	初級教材(『日本語初歩』『初級日本語 げんき』)の分析・発表・討論1	
第5回	初級教材(『新文化初級日本語』『みんなの日本語初級』)の分析・発表・討論2	
第6回	初級教材(『まるごと 日本のことばと文化 初級1・2』)の分析・発表・討論3	
第7回	初中級教材(『できる日本語 初中級編』)の分析・発表・討論1	
第8回	中上級教材(『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解 中上級』)の分析・発表・討論1	
第9回	中上級教材(『日本語上級話者への道』)の分析・発表・討論2	
第10回	中上級教材(『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』)の分析・発表・討論3	
第11回	中上級教材(『話す・書くにつながる！ 日本語読解中級』)の分析・発表・討論4	
第12回	教材作成実習(学習段階・学習項目の検討) 1	
第13回	教材作成実習(教材の選定) 2	
第14回	教材作成実習(教育実習用教材の作成) 3	
第15回	教材作成実習(教育実習用教材の作成) 4	
履修上の注意点		
*「日本語教授法」Ⅰ～Ⅳをはじめとする、日本語教員養成課程科目の大部分が履修済みである学生を対象としている。日本語教員養成課程科目を履修していない学生に対しては、原則として履修を認めない。		
教科書		
授業時配布プリント		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
授業時適宜紹介		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験・レポート (40)	小テスト (0)	
授業中課題 (10)	授業中発表等 (30)	
参加度 (20)		
出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、発表や教材作成実習の課題を提出しない場合も、成績評価の対象としない。		

## 2017 Syllabus

## 科目名 日本語教育実習

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件 日本語教材研究も同時に登録すること	クラス指定	
担当者 佐野 裕子・中川 裕子・mitei		
テーマ 日本語教育の授業見学、教案作成、教壇実習。		
授業の到達目標 実際に日本語の授業の計画(教案作成、教材開発など)、実践、批判を行うことができる。		
授業の概要 この授業においては教員はあくまでアドバイザーであり、学生に主体的に教案作成、教材開発を行ってもらう。事前授業における教員との個別指導は、原則週1～2回とする。		
準備学習(予習・復習) 円滑に実習が行えるよう、教材の選定や教案の作成を計画的に行うことが重要である。少なくとも夏休み中に教案の草案を完成させておくように。教案の作成について相談がある場合は、必ずオフィスアワーなどを利用し指導を求めること。その際、必ず事前にアポイントメントをとること。教員からの連絡に常に注意を払うこと。不定期に行われるガイダンスなどの授業を最優先とし、授業に参加すること。		
内 容 第1回 第1回実習ガイダンス 海外実習、国内実習の概要説明・実習先決定調査(5月中旬～下旬) 第2回 第2回実習ガイダンス 実習担当クラス(指導教師)の決定(7月上旬予定) 第3回 第3回実習ガイダンス 実習の授業計画(9月中旬予定) 第4回 教案・教材作成(夏休み期間中) 第5回 事前授業 教案・教材の提出・教員との個別指導(10月) 第6回 大阪大学CJLC授業見学ガイダンス(10月中旬) 第7回 大阪大学CJLC授業見学(10月下旬) 第8回 国内実習(12月上旬から中旬予定) 第9回 海外実習(12月下旬予定) 第10回 実習報告書作成(1月中旬から1月下旬予定) 第11回 事後授業 実習報告会[実習の感想や反省などを発表]、実習報告書などの課題提出(1月下旬予定)		
履修上の注意 日本語教員養成課程に関する大部分の科目を履修した学生を対象としている。特に「日本語教授法」Ⅰ～Ⅳと「日本語教材研究」の計5科目を履修していない学生の受講は許可しない。		
教科書 授業時配布プリント 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 授業時適宜紹介 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
成績評価 試験・レポート(0) 小テスト(0) 授業中課題(30) 授業中発表等(55) 参加度(15) 実習ガイダンス(全3回を予定、ただし海外実習参加者は増える可能性あり)、大阪大学CJLC授業見学とガイダンス、事前・事後授業に「すべて」出席することが単位認定の要件である。特に事前事業、教育実習期間中の指導教員による授業見学に欠席した場合は、ただちに実習参加許可を取り消し、単位認定の対象としない。		

## 2017 Syllabus

科目名 教職入門(特例)

クラス 配当回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 足立 登志也・吉田 裕子

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

授業の到達目標

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校づくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。

授業の概要

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

準備学習(予習・復習)

教育を巡る様々なできごとや教育改革の報道に注目する。

内 容

- 第1回 この2日間の授業の進め方 ～KJ法・ブレインストーミング～
- 第2回 (最近の)子ども論
- 第3回 教育とは
- 第4回 教師の役割
- 第5回 保幼小連携教育の現状と課題
- 第6回 保幼小の保育・教育をつなぐ生活科という教科
- 第7回 日本の教師の生き方と現状
- 第8回 教師の権利と責任
- 第9回 「教育」と「保育」
- 第10回 幼稚園教育の基本から
- 第11回 子どもを取り巻く現状と保育者の専門性
- 第12回 子どもの視点から保育者の専門性にせまる(事例研究)
- 第13回 子どもの視点から保育者の専門性にせまる(事例研究)
- 第14回 社会の変化に対応した保育者の専門性
- 第15回 社会の変化に対応した保育者の専門性(ワークショップ)

履修上の注意点

教科書

参考書

「幼稚園教育要領解説」

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

足立 登志也／授業中課題(30%)、授業中発表(30%)、参加度(40%) 吉田 裕子／授業中課題(40%)、授業中発表(40%)参加度(20%) ※上記を100%に換算して成績評価を行う。

## 2017 Syllabus

科目名 **教育制度論(特例)**

クラス	配当回生
講義期間 秋期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 古田 薫	
<b>テーマ</b> 現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。	
<b>授業の到達目標</b> 現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的事項および教育改革の現状について理解し、教育と社会の関係の中から課題を発見して自ら考察することを目標とする。	
<b>授業の概要</b> 現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。	
<b>準備学習(予習・復習)</b> 授業時間に指示された課題を行い、次の回の授業で提出すること。提出物にはコメントを付けて返却する。その他、新聞やニュースで教育関係の話題をに関心を持ち、自身の仕事との関係を考察してみる。	
<b>内 容</b> 第1回 オリエンテーション:教育制度の基礎知識 第2回 I 憲法・教育基本法制 ①教育法規の体系 第3回 I 憲法・教育基本法制 ②憲法と憲法・教育基本法制 第4回 I 憲法・教育基本法制 ③教育基本法 第5回 II 教育行政制度 ①教育行政組織とその職務権限 第6回 II 教育行政制度 ②教育委員会制度 第7回 III 学校制度 ①学校体系および学校の設置と管理・運営 第8回 III 学校制度 ②学校評価 第9回 III 学校制度 ③教育課程 第10回 III 学校制度 ④就学前教育制度 第11回 IV 教員に関する制度 ①教員免許制度 第12回 IV 教員に関する制度 ②教員の身分と義務 第13回 IV 教員に関する制度 ③教員の任免と研修 第14回 IV 教育を受ける権利の保障 ①義務教育制度 第15回 IV 教育を受ける権利の保障 ②特別支援教育	
<b>履修上の注意点</b> 小テストを3回実施します。自分の理解度を確認し、わからないことは調べたり質問したりしましょう。	
<b>教科書</b>	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価</b>	
試験・レポート ( 50 )	小テスト ( 30 )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 10 )
参加度 ( 10 )	

## 2017 Syllabus

科目名 **教育課程論(特例)**

クラス	配当回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 森 枝美	
テーマ 教育課程の構造と実践	
授業の到達目標 ・教育課程の編成に関する基本的な理論と具体的な方法・教育課程編成における教育評価の意義と課題 について理解し、自らの実践に活かす手がかりを見いだすことができる。	
授業の概要 教育課程の意義、果たす役割、および、教育課程に関わる基本的な概念について理解し、教育課程編成に関わる基礎的知識を身につけるとともに、保育計画の作成や、カリキュラム・マネジメントのために必要な力量の基礎を養う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 教育課程とは何か 第2回 教育課程を編成するための構成要件 第3回 学習指導要領 幼稚園教育要領の変遷 第4回 幼稚園教育要領における「教育課程」 第5回 長期指導計画の作成 第6回 短期指導計画の作成 第7回 教育評価 第8回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 よくわかる教育課程 著者： 田中耕治編著 出版社： ミネルヴァ書房 出版年： 2009 ISBN:	
新しい時代の教育課程 第3版 著者： 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 出版社： 有斐閣 出版年： 2011 ISBN:	
幼稚園教育要領解説 著者： 文部科学省 出版社： フレーベル社 出版年： 2008 ISBN:	
成績評価 試験・レポート (40%) 授業中課題 (30%) 参加度 ( )	小テスト ( ) 授業中発表等 (30%)

## 2017 Syllabus

## 科目名 保育内容演習(言語) I (特例)

クラス	配当回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 伊藤 美和子	
テーマ こどものことばに関する現代的問題、教育的課題、支援方法について学ぶ。	
授業の到達目標 以下の点について理解を深める。(1)乳幼児におけることばの発達(2)ことばをはじめとした幼児期の表現の独自性(3)幼児期における表現と保育の基本原理	
授業の概要 授業の目的に沿って講義するとともに、乳幼児に直接・間接にかかわる現場の保育者が受講生の中心であることを考慮し、授業の半分ほどは受講生の発表にあてたい。発表の内容は、乳幼児のことばに関するその人の発見が望ましいが、それに限らず、各自の保育経験のなかで、子どもの表現とその保育について「眼が拓かれた」事例、問題と感じられた事例とその考察を報告されたい。その歳、受講生のあいだで討論しやすいように、何歳児クラスのどの時期の事例であるかを明記してほしい。授業初日に発表資料(A4サイズ)を提出すること。(大学の方で全員分の印刷をおこなう)。	
準備学習(予習・復習) 上記の発表資料を準備すること。	
内 容 第1回 オリエンテーション。受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(1) 第2回 受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(2) 第3回 受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(3) 第4回 現代社会におけることばの問題、教育的課題 第5回 子どものことばの発達と特徴:詩的言語と論理的言語 第6回 論理的言語を育む言語教育実践(1) 第7回 論理的言語を育む言語教育実践(2) 第8回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 絵本で育てる情報分析力—論理的に考える力を引き出す 著者: 三森ゆりか 出版社: 一声社 出版年: 2002 ISBN: 978-4870771710 日本人は論理的に考えることが本当に苦手なのか 著者: 山祐嗣 出版社: 新曜社 出版年: 2015 ISBN: 978-4788514522	
成績評価 試験・レポート( ) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等(50) 参加度(50) 受講生が提出した発表資料と2日目の課題発表をもとに評価する。	



## 2017 Syllabus

科目名 教育方法論(特例)

クラス

配当回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梅本 裕

テーマ

&lt;授業をつくる&gt;ことへのイメージを育む

授業の到達目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の概要

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

準備学習(予習・復習)

教育問題を取り上げたテレビ番組や教師や学校を主題とするドラマを見てみよう。その中で授業がそのように伝えられ、描かれているかに留意しなさい。

内 容

- 第1回 鉛筆対談:授業づくりにおける教材の機能
- 第2回 発電所はどこにあるか(その1):授業記録の方法
- 第3回 発電所はどこにあるか(その2):授業と教授行為の分析方法
- 第4回 木の葉の駅:教材解釈と発問づくりの方法
- 第5回 「絵を描くのは苦手です」:教育内容構成における<制限>の意味
- 第6回 カノンで遊ぶ:ICTの活用技法
- 第7回 5円玉の秘密:教授行為の構造
- 第8回 これからの授業づくりの課題:ICTと協同的な学び

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **こども理解 I (特例)**

クラス 配当回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 橋川 喜美代

テーマ

実践で子どもたちと向き合う大切さ

授業の到達目標

こども理解の基盤となる言動の意味、発達の把握や遊び課題の読み取り、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討し、理解を深める。

授業の概要

こども理解は幼児教育の目標・内容・方法・評価の全体構造を把握するための基盤である。多様な子どもの行為に関する意味理解を深め、子どもの発達と保育実践の在り方との連関を問うため、子どもの発達の見方にとどまらず、カウンセリングマインドやケア、家庭や保護者との信頼関係を築く大切さなども視野に入れ、実際の具体的な実践事例を通して検討していく。

準備学習(予習・復習)

現場での保育を振り返り省察する機会を大切にすること

内 容

- 第1回 保育者に求められるこども理解とは
- 第2回 こども理解の様々な視点と基本的特性
- 第3回 こども理解と指導計画
- 第4回 こども理解と子育て支援
- 第5回 絵本が描く子どもの世界
- 第6回 絵本が描く保育者像
- 第7回 園生活と絵本
- 第8回 授業のまとめ

履修上の注意点

各自で独自のシミュレーションを重ねるような学習活動の発展を期待する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)

小テスト ( )

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **福祉と養護(特例)**

クラス

配当回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

現代社会における社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護を理解する。

授業の到達目標

社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と役割、制度の実施体系および、施設養護の実際について理解する。

授業の概要

主として講義形式となるが、グループワークも一部取り入れる予定である。

準備学習(予習・復習)

授業時に紹介した本を読む。

内 容

- 第1回 現代社会における社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史の変遷
- 第2回 現代社会における社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史の変遷
- 第3回 社会福祉と児童家庭福祉の役割
- 第4回 社会福祉と児童家庭福祉の役割
- 第5回 各制度の法体系・行財政と実施機関
- 第6回 社会的養護の仕組みと実施体系
- 第7回 社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等(家庭養護と施設養護)
- 第8回 社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等(家庭養護と施設養護)
- 第9回 児童家庭福祉の現状と課題
- 第10回 児童家庭福祉の現状と課題
- 第11回 児童家庭福祉の現状と課題
- 第12回 児童家庭福祉の現状と課題
- 第13回 施設養護の実際
- 第14回 施設養護の実際
- 第15回 全体の振り返りと授業内レポート

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 70 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 相談支援(特例)

クラス	配当回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山口 陽子・村井 琢哉	
テーマ 現代社会における家庭支援のあり方と関係機関との連携 保育相談支援の理論と実践	
授業の到達目標 保育を必要とする家庭、福祉課題(貧困・虐待・病気や障害)を抱える家庭、また地域での子育て支援における相談支援について必要な知識と支援の視点について具体的な事例から学んでいく。そして支援に必要な関係機関との連携について学ぶ。保護者支援の意義や基本を学び保育相談支援の実際について理解を深める。	
授業の概要 視聴覚教材を活用した事例や実践から学ぶ。第4回・第16回に講義内レポート試験を実施する。保育相談支援の実際と保護者支援の方法を具体的事例から学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 授業の計画のキーワードについて事前に調べておく	
内 容 第1回 家庭支援の意義と役割について(前半8回:村井) 第2回 保育を必要とする家庭での事例から【キーワード】就労 保育料・諸費 給食・弁当 参観 役員 第3回 福祉課題を抱える家庭での事例から【キーワード】貧困 虐待 障害 ひとり親 第4回 家庭支援の意義と役割についてレポート試験 第5回 多様な支援の展開と関係機関の連携について 第6回 フォーマルな関係機関での連携について【キーワード】児童相談所 要保護児童対策地域協議会 児童発達支援センター 第7回 インフォーマルな地域での支援について【キーワード】NPO 民生児童委員 第8回 多様な支援の展開と関係機関の連携について 第9回 保育と保育相談支援(後半8回:山口) 第10回 相談支援の実際 第11回 保育相談支援の方法と技術 第12回 保育相談支援の進め方と連携 第13回 事例の概要と展開 第14回 事例検討 第15回 事例検討 第16回 まとめと理解度調査(後半部分:山口)	
履修上の注意点	
教科書 保育所保育指針解説書 著者: 厚生労働省編 出版社: フレーベル館 出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価 試験・レポート( ) 授業中課題( ) 参加度( ) 村井 琢哉/授業中課題(100%) 山口 陽子/授業中課題(50%)、参加度(50%) ※上記を100%に換算して成績評価を行う。	小テスト( ) 授業中発表等( )

## 2017 Syllabus

科目名 **保健と食と栄養(特例)**

クラス	配当回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 齋藤 洋子・小川 亜紀	
<b>テーマ</b> 子どもの発育に応じた栄養と食生活(小川) 子どもの身体と心の健康について、健康増進及び疾病の予防について学びを深める。また、乳幼児の保育環境・衛生管理について理解を深める。(齋藤)	
<b>授業の到達目標</b> 1. 子どもの健康状態の把握、子どもの病気と予防について知識を深める。2. 子どもの心の健康について知識を深め二次障害を防ぐ。3. より良い保育環境、安全と衛生管理について知識を深める。4. 子どもの保健の今日的課題と知識を習得する 栄養の基礎知識と子どもの発達を理解し、子どもの栄養と食生活を学ぶ。(小川)	
<b>授業の概要</b> 子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。子どもの発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。(小川) 乳幼児の身体・疾病の特徴と発育発達について、特に乳児にウェイトを置いて学び、集団保育の環境整備について、教科書とプリントの資料ですすめる。(齋藤)	
<b>準備学習(予習・復習)</b> 事前に教科書を読んで授業に臨むこと。(齋藤)	
<b>内 容</b> 第1回 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(小川) 第2回 食事摂取基準と献立作成・調理の基本(小川) 第3回 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活(小川) 第4回 幼児期・学童期の心身の発達と食生活(小川) 第5回 食育の基本1: 食育の意義、計画、評価(小川) 第6回 食育の基本2: 地域の関係機関や職員間の連携と食生活指導、保護者への支援(小川) 第7回 疾病、体調不良・障害、食物アレルギーのある子どもへの対応(小川) 第8回 まとめ 第9回 子どもの健康と保健の意義(齋藤) 第10回 子どもの疾病と保育①健康状態の把握・症状と対処法(齋藤) 第11回 子どもの疾病と保育②予防接種(齋藤) 第12回 子どもの心の健康と精神保健(齋藤) 第13回 保育環境整備と衛生管理(齋藤) 第14回 母子保健対策と保育(齋藤) 第15回 保育所をとりまく安心・安全の環境整備(齋藤) 第16回 まとめ(齋藤)	
<b>履修上の注意点</b>	
<b>教科書</b> 子どもの保健 I (齋藤) 著者: 遠藤郁夫 他 編集 出版社: 学建書院 出版年: ISBN: 最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～(小川) 著者: 飯塚美和子他 出版社: 学建書院 出版年: ISBN:	
<b>参考書</b> よくわかる子どもの保健 著者: 竹内義博・大矢紀昭 編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: ISBN:	
<b>成績評価</b> 試験・レポート ( ) 小テスト ( )	

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

試験(60%)、小テスト(10%)、授業中課題(10%)、参加度(20%)(小川) 授業中課題(100%)レポート課題で評価する。(齋藤)

---

## 2017 Syllabus

## 科目名 乳児保育(特例)

クラス	配当回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定

担当者 古橋 紗人子

## テーマ

①乳児保育の理念と役割 ②乳児保育の現状と課題。 ③3歳未満児の発達と保育内容。 ④乳児保育の実際。 ⑤乳児保育における連携

## 授業の到達目標

3歳未満児の保育を行うについて、乳児保育の理念と役割、歴史的変遷を学ぶ。保育所、乳児院等の乳児保育の現状と課題及び、3歳未満児の発達を学ぶことにより生活と遊びについて理解する。保育課程に基づく指導計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等についても学び、更に保護者や関係機関の連携についても学ぶ。

## 授業の概要

乳児保育の概念と意義を把握し乳児保育の歴史と現状について理解を深める。誕生前後の脳の成長発達を学ぶことから赤ちゃんは、なぜかわいいか考える。また母子関係、養護と教育の一体化の重要性、3歳未満児の成長発達の特徴と保育課題を把握するとともに、乳児保育担当者としての心がまえ、保育観を確立するために保育の原理や知識、技術の基礎を演習形態で学ぶ。

## 準備学習(予習・復習)

予習:教科書の「ケーススタディー」P14、P108、P136、P146、基本的な問題点と具体的な対処方法を考察し簡潔に記述する。復習:第2回振り返り小テスト 第15回振り返り試験をしますのでノートをまとめておくこと。

## 内 容

- 第1回 1.乳児保育の理念と役割 (1)乳児保育の理念と歴史的変遷 (2)乳児保育の役割と機能:「乳児保育のなかった頃」
- 第2回 2.乳児保育の現状と課題 (1)保育所における乳児保育の意義:「乳児保育の語意の理解と実際」
- 第3回 2.乳児保育の現状と課題 (2)乳児院における乳児保育:「保育所・乳児院における乳児保育」
- 第4回 2.乳児保育の現状と課題 (3)家庭的保育等における乳児保育:「家庭的保育事業における乳児保育」
- 第5回 2.乳児保育の現状と課題 (4)乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場:予習P14「赤ちゃんからのシグナル」
- 第6回 3.3歳未満児の発達と保育内容 (1)乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり:「発達の8区分について」
- 第7回 3.3歳未満児の発達と保育内容 (2)6か月未満児の発達と保育内容:予習「人見知りと担当制保育」
- 第8回 3.3歳未満児の発達と保育内容 (3)6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容:実習「調乳・授乳・離乳食」「沐浴とオムツ交換」
- 第9回 3.3歳未満児の発達と保育内容 (4)1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容:「連絡帳の書き方」
- 第10回 3.3歳未満児の発達と保育内容 (5)2歳児の発達と保育内容:「排せつの自立と清潔のしつけ」
- 第11回 4.乳児保育の実際 (1)保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価:予習「特定の保育士との関わり」「保育課程に基づく個別指導計画」
- 第12回 4.乳児保育の実際 (2)一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境:「乳児の遊び」絵本・ふれ合い遊び・造形遊び
- 第13回 4.乳児保育の実際 (3)職員間の協働:予習「母子健康手帳に何が書いてあるの」
- 第14回 5.乳児保育における連携 (1)保護者・医療機関・家庭的保育室等:「地域子育て支援等との連携」
- 第15回 5.「乳児保育」のまとめと振り返り:試験

## 履修上の注意

・原則、全出席とし欠席は、1回欠席すると5点減点。グループ討議・発表や実習態度を評価します。積極的態で楽しく学ぶことをモットーとします。

## 教科書

赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力ー保育所・家庭で役立つ

著者: 古橋紗人子

出版社: 保育出版社

出版年: 2014

ISBN:

保育所保育指針解説書

著者: 厚生省労働省編

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

シードブック 乳児保育 第4版 科学的観察力と優しい心

著者： 川原佐公 古橋紗人子

出版社： 建帛社

出版年： 2016

ISBN:

参考書

乳児保育-科学的観察食と優しい心

著者： 川原佐公・古橋紗人子

出版社： 建帛社

出版年： 2012

ISBN:

0, 1, 2歳児の連絡帳の書き方

著者： 川原佐公・古橋紗人子他

出版社： ひかりのくに

出版年： 2013

ISBN:

月刊 保育とカリキュラム

著者：

出版社： ひかりのくに

出版年： 2016

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( 20 )

授業中課題 ( 20 )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( )

---



## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) &lt;Ma&gt;

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

仮名作品制作研究と書美論と書道史学の諸問題の研究

授業の到達目標

より確実に多様な書表現の完成および書学書道史の深い理解

授業の概要

自身の意図に基づいた作品制作と論文作成に向けた適確な資料整理と組み立て方の取得

準備学習(予習・復習)

研究は授業以外が重要な準備時間となるので専念して学習したい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究テーマ選定と進め方
- 第3回 研究テーマに沿った全体像をつかむ
- 第4回 研究テーマの分析・詳細な資料収集
- 第5回 資料に基づいた調査研究
- 第6回 調査資料の整理と考察
- 第7回 作品制作準備・臨書
- 第8回 作品制作の課題設定・臨書によるアウトラインづくり
- 第9回 作品制作課題の考察・多様な臨書
- 第10回 作品制作課題の周辺について
- 第11回 作品形式の研究
- 第12回 作品題材の下調べ
- 第13回 題材と形式の統合
- 第14回 研究テーマの発表
- 第15回 作品制作の概要発表

履修上の注意点

授業に向かうための周知な準備と鍛錬が必要である。

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 30 )

授業での積極的な取り組み、出席率を総合的に評価したい。

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) &lt;Mb&gt;

クラス	配当回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野村 幸一郎	
テーマ 村上春樹後期作品を読む	
授業の到達目標 ねじ巻き鳥クロニクル 読解	
授業の概要 村上春樹の文学に描かれた無意識の構造について、ねじ巻き鳥クロニクルを手がかりに考えていく	
準備学習(予習・復習) 授業内で指示する	
内 容 第1回 全体の説明 第2回 ねじ巻き鳥クロニクル、第1部を読む(1) 第3回 ねじ巻き鳥クロニクル、第1部を読む(2) 第4回 ねじ巻き鳥クロニクル、第1部を読む(3) 第5回 ねじ巻き鳥クロニクル、第1部を読む(4) 第6回 ねじ巻き鳥クロニクル、第2部を読む(1) 第7回 ねじ巻き鳥クロニクル、第2部を読む(2) 第8回 ねじ巻き鳥クロニクル、第2部を読む(3) 第9回 ねじ巻き鳥クロニクル、第2部を読む(4) 第10回 ねじ巻き鳥クロニクル、第3部を読む(1) 第11回 ねじ巻き鳥クロニクル、第3部を読む(2) 第12回 ねじ巻き鳥クロニクル、第3部を読む(3) 第13回 ねじ巻き鳥クロニクル、第3部を読む(4) 第14回 ねじ巻き鳥クロニクルとオウム事件 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (100) 参加度 ( )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後)〈Ma〉

クラス 配当回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

仮名作品制作研究と書美論と書道史学の諸問題の研究

授業の到達目標

より確実に多様な書表現の完成および書学書道史の深い理解

授業の概要

自身の意図に基づいた作品制作と論文作製に向けた適確な資料整理と組み立て方の取得

準備学習(予習・復習)

研究は授業以外が重要な準備時間となるので専念して学習したい。

内 容

- 第1回 ガイダンスと作品論文の進捗の確認
- 第2回 研究テーマの章立てとその内容
- 第3回 研究テーマの章ごとの発表①・制作作品の概要
- 第4回 発表①に対する質疑応答と問題点の確認
- 第5回 研究テーマの章ごとの発表②・制作作品の構成
- 第6回 発表②に対する質疑応答と問題点の確認・多様な作品構成の提示
- 第7回 研究テーマの章ごとの発表③・制作作品の初校
- 第8回 発表③に対する質疑応答と問題点の確認・作品合評
- 第9回 研究テーマ全体の発表
- 第10回 制作作品の発表と批評
- 第11回 研究テーマの深化と問題点の整理
- 第12回 研究テーマの沿った論文の完成
- 第13回 制作作品の合評会
- 第14回 研究論文と制作作品の要旨の整理
- 第15回 確かな研究と制作とは

履修上の注意点

授業に向かうためには周到な準備が必要である。制作と研究が双方疎かにならないように計画的に授業に臨むことが大切である

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 40 )

参加度 ( 30 )

授業での積極的な取り組み、出席率を総合的に評価したい。

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後)〈Mb〉

クラス	配当回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 野村 幸一郎	
テーマ 村上春樹『海辺のカフカ』を読む	
授業の到達目標 村上春樹が描いた無意識の構造を分析する	
授業の概要 『海辺のカフカ』を中心に読解を進める	
準備学習(予習・復習) 授業内で指示する	
内 容 第1回 はじめに 第2回 村上春樹『海辺のカフカ』とエディプスコンプレックス(1) 第3回 村上春樹『海辺のカフカ』とエディプスコンプレックス(2) 第4回 村上春樹『海辺のカフカ』とエディプスコンプレックス(3) 第5回 村上春樹『海辺のカフカ』とエディプスコンプレックス(4) 第6回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた暴力(1) 第7回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた暴力(2) 第8回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた暴力(3) 第9回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた暴力(4) 第10回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた無意識(1) 第11回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた無意識(1) 第12回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた無意識(2) 第13回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた無意識(3) 第14回 村上春樹『海辺のカフカ』に描かれた無意識(4) 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 (40) 参加度 (20)	小テスト ( ) 授業中発表等 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 歴史学・文化財学研究方法論 I &lt;M&gt;

クラス	配当回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 増淵 徹	
テーマ 日本史の研究方法の諸問題	
授業の到達目標 博士課程前期1回生の授業であり、受講生それぞれの研究課題を聞いたうえで、それに応じての修士論文作成のための大まかな方法論と史料操作の方法などを中心に授業を進める。	
授業の概要 修士論文作成までのプロセスを自覚化させるとともに、大学院生としての史料の収集方法、先行研究との対峙化、レジュメ作成方法、論文作成方法など徹底して討議する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 各人の研究テーマを聞き、質疑応答をする。 第2回 研究会レジュメ作成方法 第3回 研究会報告(1) 第4回 研究会報告(2) 第5回 各人の研究会課題の報告-1 第6回 各人の研究会課題の報告-2 第7回 各人の研究会課題の報告-3 第8回 各人の研究会課題の報告-4 第9回 日本史の方法論-1 第10回 日本史の方法論-2 第11回 日本史の方法論-3 第12回 日本史の方法論-4 第13回 日本史の方法論-5 第14回 各人の修論作成までの予定を聞き、質疑応答をする。 第15回 全体の総括 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験・レポート ( ) 授業中課題 ( 50 ) 参加度 ( 30 )	小テスト ( ) 授業中発表等 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 観光文化振興策 I &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光資源としての地域資源を発掘し情報発信する。

授業の到達目標

地域資源の発掘や、データベース管理、情報発信について十分な知識と技術を修得する。

授業の概要

基礎知識を修得後、演習中心に進める。

準備学習(予習・復習)

その都度指示する。

内 容

- 第1回 授業の概要を理解する。
- 第2回 方法論としてのデジタルアーカイブ1
- 第3回 方法論としてのデジタルアーカイブ2
- 第4回 デジタル化の基礎1
- 第5回 デジタル化の基礎2
- 第6回 情報取得についての知識1
- 第7回 情報取得についての知識2
- 第8回 情報取得についての知識3
- 第9回 デジタルアーカイブの構成1
- 第10回 デジタルアーカイブの構成2
- 第11回 デジタルアーカイブの構成3
- 第12回 地域資料の収集1
- 第13回 地域資料の収集2
- 第14回 地域資料の収集3
- 第15回 前期まとめと報告

履修上の注意点

授業時間外での様々な調査等が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの構築と技法

著者： 谷口知司他

出版社： 晃陽書房

出版年： 2014

ISBN:

参考書

適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

3分の2以上の出席が必要です。

## 2017 Syllabus

科目名 観光文化振興策Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光資源としての地域資源を発掘し情報発信する。

授業の到達目標

地域資源の発掘や、データベース管理、情報発信について十分な知識と技術を修得する。

授業の概要

基礎知識を修得後、演習中心に進める。

準備学習(予習・復習)

その都度指示する。

内 容

- 第1回 写真・動画の基礎1
- 第2回 写真・動画の基礎2
- 第3回 写真・動画の基礎3
- 第4回 写真・動画の基礎4
- 第5回 インタビューの技法1
- 第6回 インタビューの技法2
- 第7回 インタビューの技法3
- 第8回 観光情報データベースの構成1
- 第9回 観光情報データベースの構成2
- 第10回 観光情報データベースの構成3
- 第11回 観光情報データベースの構成4
- 第12回 情報発信の基礎1
- 第13回 情報発信の基礎2
- 第14回 情報発信の基礎3
- 第15回 後期まとめと報告

履修上の注意点

授業時間外での様々な調査等が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの構築と技法

著者： 谷口知司他

出版社： 晃陽書房

出版年： 2014

ISBN:

参考書

適宜指示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

3分の2以上の出席が必要です。

## 2017 Syllabus

科目名 会計学 I &lt;M&gt;

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ	
授業の到達目標 企業活動の本質を資金の流れに基づいて理解する	
授業の概要 財務諸表の構造と体系的な会計の仕組みの研究	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 ガイダンス:会計の仕組み・財務諸表の機能	
第2回 損益計算書の構造	
第3回 費用・収益の認識と測定	
第4回 棚卸資産・固定資産の原価処理	
第5回 営業費会計	
第6回 貸借対照表の構造	
第7回 債権・有価証券	
第8回 複合金融商品・棚卸資産	
第9回 固定資産・繰延資産	
第10回 引当金	
第11回 流動負債・固定負債	
第12回 純資産の構造	
第13回 利益処分	
第14回 キャッシュフロー計算の意義と構造	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
情報化社会における管理会計の役割	
著者: 河野充央	
出版社: 税務経理協会	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 60 )
参加度 ( 40 )	



## 2017 Syllabus

科目名 文化経済 I &lt;M&gt;

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

文化政策を経済学的視点から分析する

授業の到達目標

文化政策の様々な領域の現在の課題を理解する 経済学的思考法を政策学に応用する方法を身につける

授業の概要

近年、政府による政策の全てにおいて、経済的なリターンがあるかどうかという基準が適用されることが多い。文化政策も例外ではない。本講義では、デイヴィッド・スロスビーの提唱する経済的価値と文化的価値の二分法に注意しながら、文化政策を経済学的視点から見た場合、そこにいかなる意義と課題があるのかを検討していく。

準備学習(予習・復習)

教科書の該当箇所を事前に熟読し、疑問点、論点をまとめておくこと。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン:文化政策の領域
- 第2回 政策過程
- 第3回 芸術政策
- 第4回 文化産業
- 第5回 文化遺産(1)
- 第6回 文化遺産(2)
- 第7回 都市再生、地域発展と文化
- 第8回 観光
- 第9回 国際経済における文化
- 第10回 文化多様性
- 第11回 芸術教育
- 第12回 経済発展と文化
- 第13回 知的財産
- 第14回 文化統計
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミ形式で授業を進めるため、欠席することのないようにしてほしい。

教科書

文化政策の経済学

著者: デイヴィッド・スロスビー

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2014

ISBN: 9.78462E+12

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 70 )

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 文化経済Ⅱ〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 阪本 崇	
テーマ 「コスト病」の経済学	
授業の到達目標 「コスト病」の理解を通じて現在の経済・社会が抱える問題を把握し、それに対して経済学的視点から解決方法を提案することができるようになる。	
授業の概要 文化経済学における最大の理論的貢献とも言えるW.J.ボーモルの「コスト病」を、その発見の背景、理論構成を学んだ上で、現代の社会におけるその意義について学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 原則として、毎回、文献を指定するので、それを熟読した上で疑問点、論点などをまとめておくこと。	
内 容 第1回 イントロダクション:「コスト病」とは 第2回 W.J.ボーモル:その人物像と経済学 第3回 コスト病の背景(1):第2次世界大戦後のアメリカ経済 第4回 コスト病の背景(2):トフラー『文化の消費者』の描く社会 第5回 コスト病の背景(3):ボーモル=ボーエン『舞台芸術:芸術と経済のジレンマ』の発見 第6回 コスト病の理論(1):停滞部門 第7回 コスト病の理論(2):停滞部門と発展部門の未来 第8回 コスト病の理論(3):停滞部門と経済発展 第9回 コスト病の理論(4): 第10回 コスト病をめぐる議論(1):停滞部門は存在するか? 第11回 コスト病をめぐる議論(2):量と質の関係をいかに捉えるか? 第12回 コスト病にいかに向き合うか(1):使い捨てとセルフ・サービス 第13回 コスト病にいかに向き合うか(2):新しい公共部門の役割 第14回 コスト病にいかに向き合うか(3):コスト恐怖症を超えて 第15回 まとめ	
履修上の注意点 ゼミ形式で授業を進めるため、欠席することのないようにしてほしい。	
教科書 指定しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業中に指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( ) 小テスト ( ) 授業中課題 ( 30 ) 授業中発表等 ( 70 ) 参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 マネジメント研究の方法と倫理 &lt;M&gt;

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ マネジメント研究に関する研究計画の明確化と研究倫理の理解	
授業の到達目標 ・各自のマネジメント研究に関する研究計画を明確にするとともに、研究計画に沿って必要な文献調査や資料研究、研究発表、論文作成等を行うことができるよう、基礎的な研究能力を涵養する。・研究を進めるにあたって不可欠な倫理原則について学習し、研究倫理の原則や指針を遵守しつつ研究を展開する力を身につける。	
授業の概要 研究計画の考え方についての解説するとともに、各自の研究計画について一般的な指導を行う。また、研究倫理の原則や指針について学習する。	
準備学習(予習・復習) 必要な報告などの準備	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 研究計画について(1) 大学院における研究とは 第3回 研究計画について(2) 研究の種別と方法 第4回 研究計画書についての概説(3) 研究計画とは 第5回 研究計画書についての概説(4) 研究計画書作成上の留意点 第6回 図書館ガイダンス(予定)データベースの活用等 第7回 研究計画書の指導(1) 第8回 研究計画書の指導(2) 第9回 研究倫理について(1) 研究倫理の概要、責任ある研究活動 第10回 研究倫理について(2) 研究活動面における倫理問題 第11回 研究倫理について(3) 研究発表面における倫理問題 第12回 研究倫理について(4) 研究活動と社会の関わり 第13回 研究計画書の指導(3) 第14回 研究計画書の指導(4) 第15回 講義全体のまとめ	
履修上の注意点	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 研究計画書の考え方 著者: 妹尾堅一郎 出版社: ダイヤモンド社 出版年: 1999年 ISBN: 9.78448E+12 福祉教育はいかにあるべきか 著者: 二木立 出版社: 勁草書房 出版年: 2013年 ISBN: 9.78433E+12 人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック 著者: 眞嶋俊造・奥田太郎・河野哲也 出版社: 慶應大学出版会 出版年: 2015年 ISBN: 9.78477E+12	

科学の健全な発展のために

著者： 日本学術振興会

出版社： 丸善出版

出版年： 2015年

ISBN: 9.78462E+12

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 マーケティング論〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 今井 まりな	
テーマ マーケティング・マネジメント	
授業の到達目標 マーケティング・マネジメントに関する基礎概念を理解するとともに、各概念がなぜ必要とされてきたか、その背景について考察できる。	
授業の概要 テキストの輪読を通じて、マーケティング・マネジメントの主要な論点に関する検討を行う。	
準備学習(予習・復習) 輪読の担当者は、担当箇所に関する報告資料をあらかじめ作成する必要がある。また、報告資料の作成にあたっては、指定しているテキスト以外に、関連する文献を参照する必要がある。	
内 容 第1回 マーケティング・マネジメントの基本枠組み 第2回 製品と価格のマネジメント 第3回 流通チャネルとプロモーションのマネジメント 第4回 マーケティング組織のデザイン 第5回 マーケティング資源の配分 第6回 事業の定義 第7回 消費者の理解 第8回 競争構造の理解 第9回 取引関係の理解 第10回 プロセスとしての競争 第11回 産業のライフサイクル 第12回 チャネル資産のマネジメント 第13回 顧客関係のマネジメント 第14回 ブランドのマネジメント 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 ゼミナールマーケティング入門 著者： 石井淳蔵, 嶋口充輝, 栗木契, 余田拓郎 出版社： 日本経済新聞出版社 出版年： 2013 ISBN: 978-4532134396	
参考書 現代マーケティング論 著者： 高嶋克義, 桑原秀史 出版社： 有斐閣 出版年： 2008 ISBN: 978-4641123434	
成績評価 試験・レポート (40) 小テスト ( ) 授業中課題 (60) 授業中発表等 ( ) 参加度 ( )	

## 2017 Syllabus

科目名 イノベーションマネジメント論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 西村 成弘

テーマ

知的財産管理とイノベーション

授業の到達目標

イノベーションの議論において特許をはじめとする知的財産が扱われることは多いがその管理(マネジメント)が問題にされることは少ない。本講義では、受講者が知的財産管理という新たな視角からイノベーションを論じられるようになること、あるいはそのような視角から現代企業経営を分析する専門的能力を会得することを獲得目標にする。

授業の概要

テキストの輪読を中心に進める。

準備学習(予習・復習)

講義での発表・討論のために、事前に各回の輪読範囲を読んでおくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト輪読(1)序章「日本の特許管理形成史を考える意義」
- 第3回 テキスト輪読(2)第1章「GEの国際経営と特許管理」
- 第4回 テキスト輪読(3)第2章「日本における電球事業と特許管理」
- 第5回 テキスト輪読(4)第3章「技術導入と特許管理の発生」
- 第6回 テキスト輪読(5)第4章「国際特許管理契約の締結」(前半)
- 第7回 テキスト輪読(6)第4章「国際特許管理契約の締結」(後半)
- 第8回 テキスト輪読(7)第5章「技術移転と技術交流」
- 第9回 テキスト輪読(8)第6章「日本企業による特許管理の展開(1)」
- 第10回 テキスト輪読(9)第7章「日本企業による特許管理の展開(2)」
- 第11回 テキスト輪読(10)第8章「日本企業による特許管理の展開(3)」
- 第12回 テキスト輪読(11)第9章「日米開戦と敵産処分」
- 第13回 テキスト輪読(12)第10章「占領政策と特許」
- 第14回 テキスト輪読(13)第11章「間接的な管理から直接的な管理へ」
- 第15回 まとめ討論

履修上の注意点

主体的・積極的な出席と討論への貢献を求む

教科書

国際特許管理の日本的展開

著者: 西村成弘

出版社: 有斐閣

出版年: 2016

ISBN: 9.78464E+12

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (40)

参加度 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **アントレプレナーシップ論 <M>**

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ アントレプレナーシップの国際比較	
授業の到達目標 アントレプレナーシップをマクロ的・歴史的視点から把握し、グローバル経済下においてアントレプレナーシップが果たす役割・使命を検討する。一般的なアントレプレナーシップ理論については受講者が事前・事後学習でサーベイすることを前提に、本講義ではアントレプレナーシップをグローバル化において把握する視点を会得することが期待される。	
授業の概要 テキストの輪読を中心に進める。	
準備学習(予習・復習) 授業での発表・討論のために、輪読範囲を事前に読了しておくこと。また、日ごろからアントレプレナーシップに関する新聞記事等に目を配っておくこと。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 テキスト輪読(1)第1章「序章」 第3回 テキスト輪読(2)第2章「ビジネス・ヒストリーと企業理論」 第4回 テキスト輪読(3)第3章「企業家精神」 第5回 テキスト輪読(4)第4章～第6章(第1次産業革命期の企業) 第6回 テキスト輪読(5)第7章・第8章(ビッグ・ビジネスの誕生) 第7回 テキスト輪読(6)第9章(各国の経済成長とアントレプレナーシップ) 第8回 テキスト輪読(7)第10章(大企業の形成) 第9回 テキスト輪読(8)第11章・第12章(ヨーロッパと日本の企業成長) 第10回 テキスト輪読(9)第13章・第14章(戦後アメリカ企業の成長) 第11回 テキスト輪読(10)第15章～第18章(ソ連、日本、ヨーロッパ、韓国、アルゼンチンの経済発展と企業家精神) 第12回 テキスト輪読(11)第19章・第20章(グローバル企業) 第13回 テキスト輪読(12)第21章・第22章(1990年代以降のアメリカ、日本とヨーロッパ) 第14回 テキスト輪読(13)第23章(中国とインドのアントレプレナーシップ) 第15回 まとめ討論	
履修上の注意点 主体的・積極的な出席と討論への貢献を求む	
教科書 ビジネス・ヒストリー 著者: F・アマトーリ&A・コリー 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2014 ISBN: 9.78462E+12	
参考書	
成績評価 試験・レポート (60) 授業中課題 ( ) 参加度 ( )	小テスト ( ) 授業中発表等 (40)

## 2017 Syllabus

科目名 公共経営論〈M〉

クラス	配当回生	大学院1回生
講義期間 前期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 阪本 崇		
テーマ 文化政策と公共経営		
授業の到達目標 1) 公共部門の機能と役割についての基礎的な知識をみにつける 2) 文化政策を事例に近年の公共部門の変化について理解する		
授業の概要 本講義では、財政学をベースに公共部門の役割について学んだ上で、文化政策を事例として取り上げ、政府の機能に関する認識の変化と、近年の公共部門のあり方の変化について学ぶ。文献購読を中心に進めるが、希望に応じて受講生による研究発表を行うこととする。		
準備学習(予習・復習) 各回の授業で文献を指定するので、事前に読んでおくことが必要である。		
内 容 第1回 インTRODクシヨ 第2回 公共部門の機能と役割(1): 財政の3機能 第3回 公共部門の機能と役割(2): 予算原則と財政民主主義 第4回 公共部門の機能と役割(3): 市場の失敗と政府介入 第5回 文化政策(1): 文化政策の領域 第6回 文化政策(2): 文化政策と政策過程 第7回 文化政策(3): 文化産業 第8回 文化政策(4): 文化遺産と都市再生 第9回 文化政策(5): 知的財産 第10回 公共経営の変貌(1): 自治体文化行政と行政改革 第11回 公共経営の変貌(2): 基礎自治体の広域化と新しい市民活動の台頭 第12回 公共経営の変貌(3): 日本型NPMと指定管理者制度 第13回 公共経営の変貌(4): 「新しい公共」への注目 第14回 公共経営の変貌(5): 行政評価と政策過程 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書		
参考書 行政改革と文化創造のイニシアティブー新しい共創の模索 著者: 小林真理(編) 出版社: 美学出版 出版年: 2013 ISBN: 490207835X 文化政策の経済学 著者: デイヴィッド・スロスビー 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2014 ISBN: 4623070697		
成績評価 試験・レポート(60) 小テスト( ) 授業中課題( ) 授業中発表等(40) 参加度( )		



## 2017 Syllabus

科目名 公共政策 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

社会問題の予防に関する公共政策の展開上の諸問題

授業の到達目標

1.現代日本における社会問題の特徴を理解する 2.それらの社会問題の予防対策の現状について学習する 3.それらの社会問題の背景を理解する

授業の概要

上記の到達目標に沿って、レジュメ・プリント・視聴覚教材などを使用して講義を展開し、適宜討論の機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

テキストの予習・復習に努めつつ、日頃からマスメディアを通じて社会問題に関心をもつ。

内 容

- 第1回 社会問題と公共政策・序論(定義・方法・関係性の病理)
- 第2回 少年法の概要
- 第3回 少年非行の実態・統計・処遇
- 第4回 少年非行の分析と公共政策のあり方
- 第5回 自殺対策基本法の概要
- 第6回 自殺の実態・統計・予防対策(ビデオ鑑賞を含む)
- 第7回 自殺の分析と公共政策のあり方
- 第8回 いじめ防止対策推進法の概要
- 第9回 いじめの実態・統計・処遇(ビデオ鑑賞を含む)
- 第10回 いじめの分析と公共政策のあり方
- 第11回 ホームレス自立支援法の概要
- 第12回 ホームレスの実態・統計・支援(ビデオ鑑賞を含む)
- 第13回 ホームレスの分析と公共政策のあり方
- 第14回 児童虐待防止法の概要と児童虐待の現状
- 第15回 その他の公共政策の概要(ストーカー・DVなど)

履修上の注意点

履修する大学院生のニーズに応じてシラバスを多少変更することがある。

教科書

関係性の社会病理

著者: 高原正興・矢島正見

出版社: 学文社

出版年: 2016

ISBN: 7620-2633-1

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (20%)

参加度 (60%)

小テスト ( )

授業中発表等 (20%)

## 2017 Syllabus

科目名 文化施設マネジメント〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

ミュージアム・マネジメントに関する政策研究

授業の到達目標

これからの日本の文化政策においてミュージアムの存在意義を見直し新たな役割を見いだしていくような活動が求められている。この授業を通じて、既存の事業活動等をきちんと見つめつつ、その中から課題をみつけ新たな提案をしていくことで、現状認知、課題設定、政策立案に対応できる能力を身につける。

授業の概要

より実践的な政策立案と授業内で実施できる簡単な政策実施を行う。

準備学習(予習・復習)

身近な文化政策の状況とその評価を考える訓練をしておいて欲しい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・政策研究について
- 第2回 ミュージアム政策の考え方
- 第3回 ミュージアムの課題について
- 第4回 ミュージアム・マネジメントとテーマ研究
- 第5回 ミュージアム政策企画
- 第6回 ミュージアム政策の事例研究
- 第7回 ミュージアム政策コンペティション
- 第8回 ミュージアムの政策調査研究
- 第9回 ミュージアムの政策調査設計
- 第10回 ミュージアムの現状確認(現場調査)※期間中に調査を行う
- 第11回 ミュージアムの政策分析
- 第12回 新たなミュージアム政策の立案
- 第13回 新たなミュージアム政策の具体化
- 第14回 新たなミュージアム政策に関する記録
- 第15回 総括

履修上の注意点

※授業の進行具合によって多少変更をする場合もある。※授業の性格上、集中して調査などを行う場合があるが、その際は受講生の都合を考慮して日程を決めていきたい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (20)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

とくに出席を重視する。

小テスト ( )

授業中発表等 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 看護理論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中島 登美子

## テーマ

看護理論および周辺諸理論を体系的に理解し看護実践への活用をめざす。この活用に向けて、看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。広範囲理論であるロイ適応理論により、これら理論の実践への活用をより具体的に理解する。また、自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察したうえで、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。

## 授業の到達目標

1 看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。2 主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。3 広範囲理論であるロイ適応モデルの理論構築、重要概念及び看護の実践/研究/教育への適用における具体的な活用について理解する。4 自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察して、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内容

- 第1回 学びの希望、講義の進め方、看護理論/諸理論に関する文献の活用の留意点、看護理論の実践における活用上の課題、
- 第2回 看護理論の哲学的基盤とその発達、看護理論の構造、看護理論の構成要素
- 第3回 守備範囲、看護理論の分析・評価、看護理論の看護実践/教育/研究への活用、専門的な分野における看護理論の適用とその活用
- 第4回 看護理論/看護モデルと関連する諸理論
- 第5回 看護理論/看護モデルの分類とその概括(1) プレゼンテーション(1)
- 第6回 看護理論/看護モデルの分類とその概括(2) プレゼンテーション(2)
- 第7回 看護理論/看護モデルの分類とその概括(3) プレゼンテーション(3)
- 第8回 看護理論/看護モデルの分類とその概括(4) プレゼンテーション(4)
- 第9回 広範囲理論の成り立ち、ロイ適応モデル概観、理論構築の背景、哲学的基盤
- 第10回 ロイ適応モデル重要概念(人間、環境、健康、看護)
- 第11回 ロイモデル看護過程、看護理論と看護過程との関係および実践への具体的な活用の仕方
- 第12回 ロイモデル(看護の実践/研究への適用、各専門領域における活用、評価)
- 第13回 自らの関心ある領域における看護理論及び諸理論の具体的な活用(1)の検討
- 第14回 自らの関心ある領域における看護理論及び諸理論の具体的な活用(2)の検討
- 第15回 看護理論に対する研究的な課題とアプローチ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

レポート40%、プレゼンテーション内容ディスカッション状況40%、参加態度と出席20%、から総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 看護研究〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中島 登美子

テーマ

看護における研究の意義と役割について理解するとともに、看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究プロセス、研究倫理について修得する。看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について理解し、特に看護実践における研究を展開するうえで必要となる、多様な研究方法を具体的に理解する。

授業の到達目標

1 看護における研究の意義と役割について理解できる。2 看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究方法の活用、論理的問題について理解できる。3 2を通し、実践に結びついた具体的な研究方法の展開について具体的に理解できる。4 看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について理解できる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 看護学の発展と科学的アプローチについて文献検索し、看護研究の外観を学ぶ
- 第2回 看護研究における倫理的配慮について、事例を通して意見交換をする
- 第3回 倫理委員会の目的と役割
- 第4回 文献レビュー
- 第5回 研究の問いと研究デザイン
- 第6回 量的研究の研究デザイン
- 第7回 量的研究の実例 実験研究、質問紙調査研究の計画と分析
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 量的データのまとめ方
- 第11回 質的研究法の研究デザイン
- 第12回 グラウンデッドアプローチ
- 第13回 エスノグラフィーによるデータ収集方法
- 第14回 現象学的解釈法
- 第15回 質的研究のまとめ方

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

レポート50%, 討論および授業への参加態度50%, から総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 コンサルテーション論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 新道 幸恵・木村 里美・吉田 智美

## テーマ

高度実践看護職は、ケアの対象者に直接かかわるだけでなく、看護職を含むケア提供者に対しても「相談」機能を果たす。その効果的な方法を体験的に学習するとともに、コンサルテーションの概念、プロセスや実践モデル、コンサルタントの役割等の知識を習得し課題を探究する。また、管理、教育的支援、コミュニケーション、評価等の機能をもって、かかわる人々の主体性や独自性を尊重しつつ、自らの専門性と他職種との連携について探究する。

## 授業の到達目標

CNS等の高度実践看護者にとって重要な役割のひとつである相談(コンサルテーション)は、働く組織を知り、マネジメント力を発揮しながら、高度実践力によってモデルとしての役割を示すことで、効果を上げる。そこで、この授業においてはコンサルテーションについての概念を理解し、その実践を可能にする方法論を学ぶと同時に、組織へのアプローチやマネジメント力等をコンサルテーションにどのように活用するかを理解することを目標とする。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 コンサルテーションとは(ガイダンス、学習の意義と専門看護師の役割)
- 第2回 コンサルテーション概論①(コンサルテーションの概念と歴史的背景)
- 第3回 コンサルテーション概念(スーパービジョンとプロセス/コンサルテーション)
- 第4回 コンサルテーション概論③(コミュニケーション技法と文化のかかわり)
- 第5回 コンサルタントの役割と機能、コンサルタントに必要な教育
- 第6回 コンサルテーションのプロセスとコンサルテーションモデル
- 第7回 コンサルテーション・コンサルタントに関する文献レビュー
- 第8回 医療分野におけるコンサルテーションの実践①
- 第9回 医療分野におけるコンサルテーションの実践①
- 第10回 医療分野におけるコンサルテーションの実践②
- 第11回 医療分野におけるコンサルテーションの実践②
- 第12回 医療分野におけるコンサルテーションの実践③(組織変革の推進)
- 第13回 医療分野におけるコンサルテーションの実践③(組織変革の推進)
- 第14回 マネジメントの活用
- 第15回 CNSのエンパワメント

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

レポート50%, 討論および授業への参加態度50%, から総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 看護倫理論 &lt;M&gt;

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子.mitei

テーマ

看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的な課題とアプローチおよび看護倫理に関する組織的な取り組みについても理解する。

授業の到達目標

1 看護倫理の意義とその必要性について理論的、社会的な見地から考察する。2 伝統的倫理学と近代的倫理学の概括から理論的基盤に基づき、倫理の「倫理」の概念、原則、倫理的なジレンマについて理解する。3 生命倫理の考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地から、そのあり様を理解する。4 看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義について理解する。5 看護倫理を実践していく上で必要なコンピテンシー、方法について理解出来る。6 医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高める。専門看護師をめざすものについては、その領域に関する倫理的なジレンマについて考察を深める。7 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、看護倫理に関する組織的な取り組みについて理解する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 学修内容の確認、学修希望、看護倫理に関して体験した問題、感じていること
- 第2回 看護倫理の意義とその必要性、医療倫理に対する社会からの要請
- 第3回 伝統的倫理学と近代的倫理学
- 第4回 「倫理」の概念、倫理の原則、倫理と法律との関係、倫理的なジレンマ
- 第5回 生命倫理に対する考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地
- 第6回 看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義
- 第7回 看護実践における倫理的なコンピテンシー；倫理的な感受性、倫理的判断
- 第8回 看護実践における倫理的なコンピテンシー；倫理的なジレンマへの調整等アプローチ、アサーション能力
- 第9回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討(2)
- 第10回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討(2)
- 第11回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討(3)
- 第12回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例のプレゼンテーションと討論(1)
- 第13回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についてプレゼンテーションと討論(2)
- 第14回 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、研究倫理の取り組み、組織上の取り組み
- 第15回 看護倫理の今後の課題と取り組み. まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 40 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 実践看護基礎学特別研究 &lt;Ma&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 梶谷 佳子

## テーマ

看護の本質と目的・対象論・実践への方法論の観点から、院生の抱える研究課題について、適切なプロセス、研究倫理に基づき研究を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

## 授業の到達目標

1.看護の本質と目的、対象論、方法論の見地から、院生の持つ問題意識を明確にする。2.先行研究を考察し、研究課題を絞り込む。3.その事象の課題解決を目指した研究計画を立案する。4.一連の課程において研究の倫理の重要性を理解し、研究倫理委員会の審査を受ける。5.研究計画に基づき研究を遂行し、十分な考察を加えて修士論文としてまとめる。6.論文を発表し適切な評価を行う。

## 授業の概要

1.研究課題の明確化 2.文献検討 3.研究テーマの決定 4.研究計画立案 5.研究倫理審査申請 6.研究に必要な準備学修、プレテスト 7.研究データの収集 8.データの集計 9.データの分析 10.データの考察 11.論文作成 12.論文の発表

## 準備学習(予習・復習)

限られた研究期間なので、計画的に取り組んでください。

## 内 容

- 第1回 研究テーマの決定
- 第2回 研究計画立案(1)
- 第3回 研究計画立案(2)
- 第4回 研究計画立案(3)
- 第5回 研究倫理審査申請(1)
- 第6回 研究倫理審査申請(1)
- 第7回 研究に必要な学修、プレテスト
- 第8回 研究データの収集(1)
- 第9回 研究データの収集(2)
- 第10回 研究データの収集(3)
- 第11回 研究データの収集(4)
- 第12回 研究データの収集(5)
- 第13回 研究データの集計(1)
- 第14回 研究データの集計(2)
- 第15回 研究データの集計(3)
- 第16回 研究データの集計(4)
- 第17回 研究データの分析(1)
- 第18回 研究データの分析(2)
- 第19回 研究データの分析(3)
- 第20回 研究データの分析(4)
- 第21回 結果の考察(1)
- 第22回 結果の考察(2)
- 第23回 結果の考察(3)
- 第24回 結果の考察(4)
- 第25回 論文作成(1)
- 第26回 論文作成(2)
- 第27回 論文作成(3)
- 第28回 論文作成(4)
- 第29回 論文作成(5)
- 第30回 論文発表

## 履修上の注意点

テキストは適宜、提示します。

## 教科書

## 参考書

h701011410

成績評価

試験・レポート ( 70 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 15 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 15 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習Ⅱ(成人・精神)〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人と家族の健康課題

授業の到達目標

1.慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解する方法を説明できる。2.慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法について自らの考えを述べる事ができる。3.在宅で療養する身体障害者とその家族のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法について自らの考えを述べる事ができる。

授業の概要

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解し、効果的な看護実践方法を探求する。特に、在宅で療養する身体障害者のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法を探究する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討
- 第2回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討
- 第3回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討①
- 第4回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討②
- 第5回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討③
- 第6回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法に関する文献的検討
- 第7回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討①
- 第8回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討②
- 第9回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討③
- 第10回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討④
- 第11回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討①
- 第12回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討②
- 第13回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討①
- 第14回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討②
- 第15回 発表、まとめ

履修上の注意点

授業内容に関連する文献の講読

教科書

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 (70)

参加度 ( )

小テスト ( )

授業中発表等 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 老年看護学 I &lt;M&gt;

クラス	配当回生	大学院1回生
講義期間 前期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 沼本 教子		
テーマ		
高齢者看護を実践するうえで必要な理論と看護の役割		
授業の到達目標		
高齢者看護を実践するうえで重要となる自己の高齢者観について追及する。さらに、高齢者の看護実践において発生する現象を分析し、援助の発展につなげるための基礎となる概念および理論を探求する。これらの学習を通して、老年看護を担う高度実践家としての役割について考える。		
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
内 容		
第1回	老年期における発達課題および高齢者の健康の概念に関する理論を学び、高齢者の生活を支援するための援助者としてのあり方を探求する。	
第2回	"	
第3回	高齢者看護を実践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど	
第4回	"	
第5回	"	
第6回	"	
第7回	"	
第8回	"	
第9回	高齢者看護を実践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など	
第10回	"	
第11回	"	
第12回	"	
第13回	老年専門看護師としての役割と機能について学ぶ。さらに老年専門看護師の活動の現状について探求し、自己の老年専門看護師としての役割について考える。	
第14回	"	
第15回	高齢者看護実践における課題と今後の展望について探求する。	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験・レポート ( )	小テスト ( )	
授業中課題 ( 30 )	授業中発表等 ( 30 )	
参加度 ( 40 )		

## 2017 Syllabus

科目名 老年看護学Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

高齢者の生活を支援する保健医療福祉制度・政策およびサポートシステムの現状

授業の到達目標

高齢者が健康な生活を送れるよう支援するために、世界・日本における高齢者の保健医療福祉制度・政策の現状について学び、日本における保健医療福祉制度・政策の課題について探究する。また高齢者の健康生活を支援するためのサポートシステムの現状と今後の課題について探求する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 高齢者の健康生活を支援するために必要な社会資源およびサポートシステムの現状について学ぶ。  
 第2回 //  
 第3回 諸外国および日本における高齢者保健医療福祉制度・政策に関する歴史的変遷、諸外国と日本の共通点、相違点について学び、今後の課題について探求する。  
 第4回 //  
 第5回 高齢者の自律した健康生活を支援するための看護職としてのケアマネジメントの役割とプロセスについて学ぶ。  
 第6回 //  
 第7回 施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。  
 第8回 //  
 第9回 //  
 第10回 //  
 第11回 健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。  
 第12回 //  
 第13回 //  
 第14回 //  
 第15回 老年看護における保健医療福祉システムの今後の課題について探求する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習 I (老年) &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

認知症高齢者および介護家族の理解と専門的な看護援助

授業の到達目標

認知症高齢者および介護する家族が生活者としての権利や尊厳を守られ、高齢者が今まで培ってきた生き方や生活機能を重視し、より質の高い健康生活を送れるよう支援するために、認知症高齢者の理解を深め、専門的な看護について実証的に検討する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。
- 第2回 //
- 第3回 認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。
- 第4回 //
- 第5回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 //
- 第13回 認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。
- 第14回 //
- 第15回 認知症高齢者および含家族に関する看護実践の研究の動向と課題について考察する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習Ⅱ(老年)〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

高齢者の健康課題と介護施設における専門的な看護援助

授業の到達目標

介護施設において健康課題をもつ高齢者とその家族に対し専門関連領域の理論等を活用した生活環境および生活行動の調整、健康行動の変容をめざした実践的なアセスメント、看護援助について探究する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。

第2回 //

第3回 介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。

第4回 //

第5回 介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。

第6回 //

第7回 高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。

第8回 //

第9回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。

第10回 //

第11回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 施設で暮らす高齢者とその家族の健康課題に対する老年専門看護についての研究の動向と課題について考察する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 実践看護応用学課題研究 &lt;Ma&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子

## テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習(老年)において高齢者およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

## 授業の到達目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。2.研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認を受ける。3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や関に向けて考察する。5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 研究課題の指導
- 第2回 研究課題の指導
- 第3回 研究課題の指導
- 第4回 研究課題の指導
- 第5回 研究課題の指導
- 第6回 研究課題の指導
- 第7回 研究課題の指導
- 第8回 研究課題の指導
- 第9回 研究課題の指導
- 第10回 研究課題の指導
- 第11回 研究課題の指導
- 第12回 研究課題の指導
- 第13回 研究課題の指導
- 第14回 研究課題の指導
- 第15回 研究課題の指導

## 履修上の注意点

## 教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

## 2017 Syllabus

科目名 実践看護応用学課題研究 &lt;Mb&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習(精神)において精神病症状をもった人およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

授業の到達目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。 2.研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認をうける。 3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。 4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や関に向けて考察する。 5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 研究課題の指導  
 第2回 研究課題の指導  
 第3回 研究課題の指導  
 第4回 研究課題の指導  
 第5回 研究課題の指導  
 第6回 研究課題の指導  
 第7回 研究課題の指導  
 第8回 研究課題の指導  
 第9回 研究課題の指導  
 第10回 研究課題の指導  
 第11回 研究課題の指導  
 第12回 研究課題の指導  
 第13回 研究課題の指導  
 第14回 研究課題の指導  
 第15回 研究課題の指導

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 ( )

課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

## 2017 Syllabus

科目名 実践看護応用学実習(老年) &lt;M&gt;

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、専門看護師として活動できる看護実践能力の形成・向上を図る。そのために施設で暮らしている健康課題をもつ高齢者(認知症高齢者を含む)とその家族に対し、専門的老年看護の実践、スタッフや他職種への教育、相談、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整などに研究的視点をもって臨み、また老年看護活動を創意工夫・変革するため実践的研究に取り組む。

授業の到達目標

1) 介護施設を利用し生活する高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。2) 認知症高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。3) 高齢者と家族の関係調整に関する実践・相談・教育、コーディネーションなどの能力を身につける。4) 高齢者ケアにおける看護活動・組織の検討と関係調整に必要なコーディネーション、リーダーシップを発揮する能力を身につける。5) 高齢者ケアにおける看護スタッフへの教育・相談の企画・実践・評価およびコンサルテーション、リーダーシップを発揮する能力を身につける。6) 高齢者ケアにおける倫理的課題について関係者間での倫理的調整に必要な能力を身につける。7) 高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的実態的研究課題を見出し研究的能力を育成する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 課 題 1) 施設における老年看護の事例、認知症高齢者の看護の事例について、看護実践を行いケースレポートを作成する。(目標1.2.3) 2) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護管理実践を行い、看護組織・機関における高齢者ケアに関する実践的・実態的課題についてレポートを1例作成する。(目標4) 3) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護活動計画、スタッフ教育、相談、調整、コンサルテーションを行い論述するレポートを1例作成する。(目標5) 4) 病院・施設における実習において倫理的な問題・葛藤について倫理的調整、コーディネーションについて論述するレポートを1例作成する。(目標3,6) 5) 1)~5)のレポートのうち一つについては、高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的・実態的研究としてまとめる。(目標7)

----- 実習単位:10単位 実習時期:1年次後期~2年次前期・後期 実習施設・期間:各自の関心領域を中心に、高度な実践知識・スキルの修得、専門看護師の役割・機能などの内容を網羅した実習計画を作成し、実習する。実習期間は1施設最低4週間とし全体で10週間以上を目安とするが、各自の専門的看護実践のための技術や能力の修得度によって調整する。注:①実習期間は、専門看護師として院生の能力開発強化の必要性を考慮し決める。②認知症高齢者の看護実践を体験する場合は、必要に応じ医療施設・介護施設・在宅での実習を継続して行う。

----- 実習の進め方: 1) 実習目標にもとづき個別行動目標を明確にし、実習計画を立てる、さらに教員、指導者を交えて検討する。2) 日々の実習記録を記載する。また、複雑な事例に関する臨床判断、実践的知識、他者との関係性、自己の気持ちや感情などについて、丁寧に記述し、経験の意味を考察する。3) 高齢者や家族に対する倫理的配慮を行うと共に、予測される倫理的課題について指導者やスタッフと調整する。4) 週1回定期的なカンファレンスにおいて、教員、実習指導者の助言をうけ、専門看護実践に関する自己評価を行うと共に、実習計画を修正する。スーパービジョン: 1) 実習中は、担当教員より週1回のスーパービジョンを受ける。スーパービジョンは、実習施設におけるベットのサイドおよび大学での両方を併用する。2) 実習施設では、適宜カンファレンスを行い、実習指導者(専門看護師レベルに相当する看護職)や他の看護職などから、助言・フィードバックを受ける。 学習方法:臨床実習、文献学習、学生プレゼンテーション

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

実習計画の作成(個別行動目標)、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価



## 2017 Syllabus

科目名 周産期看護学〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 遠藤 俊子・上澤 悦子

## テーマ

マタニティサイクルにある母子とその家族の健康問題をめぐる今日的话题をとりあげ、周産期看護援助に関するあり方を学ぶ。安全で質の高い実践を行うためには、周産期医療に関する最新のガイドラインについて学び、周産期看護援助をエビデンスに基づき実施する方法を習得する。また、FIGO,ICM等グローバルスタンダードを意識しながらのありかたを学ぶ。更に、母子とその家族の援助を組織的に展開することを学ぶ。

## 授業の到達目標

1 周産期のプライマリ・ヘルスケアをエビデンスに基づき検討する。2 周産期にある母子とその家族への査定に必要なアセスメント力と必要なケア、緊急時対応能力を獲得する。3 周産期医療における倫理的課題に対応できる基礎力をつける 4 周産期医療チームにおける看護の役割を明確にしながらか多職種協働を推進できる力を獲得する

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 周産期のプライマリ・ヘルスケア 国内外の周産期医療提供に関するガイドラインを集積し検討をする  
 第2回 //  
 第3回 周産期の母子とその家族の健康問題査定のためのアセスメント 上記のガイドラインをもとにアセスメントツールの検討を行う  
 第4回 //  
 第5回 周産期の正常性を維持・促進するためのエビデンスとケア  
 第6回 //  
 第7回 //  
 第8回 //  
 第9回 救急時における看護の役割  
 第10回 //  
 第11回 周産期における倫理的課題 救急搬送事例を用いて、9-12回の検討を深める  
 第12回 //  
 第13回 周産期医療チームにおける調整とリスクマネジメント  
 第14回 //  
 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 50 )  
 参加度 ( 50 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 女性健康看護学〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上澤 悦子・工藤 里香	
テーマ	思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の健康をめぐる今日的な問題を理解し、女性看護学の方向性を考察する。
授業の到達目標	1 ライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)にある女性の健康をめぐる今日的话题を取り上げ女性の健康問題を多角的に捉える。2 女性の健康問題を解決する援助に必要な知識を最新のエビデンスに基づいて学び、ケアの在り方を考察する。3 保健政策、男女共同参画社会政策を学び、社会組織的・政策的な側面から女性の健康の保証にむけた女性医療・看護ケアの方向性を考察する。4 母子とその家族の援助を組織的に展開する基礎理論や母子保健行政について学ぶ。
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、ウィメンズヘルスの基礎概念と活用されている理論</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 女性の健康と妊孕性、不妊治療の現状と課題および看護援助</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 わが国の思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康問題と支援の現状</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 性差の観点からみた女性のライフサイクルを通じた身体・心理・社会的変化と健康問題</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 //</p> <p>第12回 ドメスティックバイオレンスおよび乳幼児虐待への課題とその対応</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 女性の健康への保健施策と諸制度、今後の課題</p> <p>第15回 //</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 20 )	授業中発表等 ( 50 )
参加度 ( 30 )	

## 2017 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習 I (周産期) &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 遠藤 俊子・神崎 光子

テーマ

周産期における母子と家族のプライマリーケアにかかわる看護介入モデルを活用し、質の高いケアの提供の在り方を理解する。

授業の到達目標

1 母子とその家族の生活を基盤とした健康支援を行うためのアセスメントとケア計画、評価方法を検討する。2 周産期の母子援助に関する有益な看護理論を活用し、質の高い看護実践のあり方を理解する。3 周産期における複雑かつ困難事例を用いて、妊産婦と家族への相談・助言・教育のスキルを学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 妊産婦の健康診査と正常性を維持するためのアセスメントおよび保健指導の検討  
 第2回 //  
 第3回 //  
 第4回 //  
 第5回 妊産婦とその家族に必要なケアを親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討  
 第6回 //  
 第7回 //  
 第8回 //  
 第9回 //  
 第10回 //  
 第11回 分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびに家族間調整、バースプランの活用、分娩ケアの在り方の検討  
 第12回 //  
 第13回 //  
 第14回 //  
 第15回 //  
 第16回 エビデンスに基づく母乳育児支援のための諸活動  
 第17回 //  
 第18回 //  
 第19回 産褥期の母子とその家族の家族アセスメントとケア  
 第20回 //  
 第21回 地域周産期システムと医師および保健師、ソーシャルワーカーとの協働  
 第22回 //  
 第23回 //  
 第24回 //  
 第25回 //  
 第26回 周産期の家族に関わる心理・社会的問題とその援助  
 第27回 //  
 第28回 //  
 第29回 //  
 第30回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 (20)

小テスト ( )  
 授業中発表等 (50)



## 2017 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅱ(周産期)〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 遠藤 俊子・上澤 悦子

テーマ

周産期における妊産婦とその子どもと家族へのプライマリーケアを踏まえ、異常の診断、救急処置への対応について、他職種との協働をも含めたケアの提供方法を学ぶ。

授業の到達目標

1 周産期医療施設における妊産婦、新生児、家族の状況に応じた質の高いケアを探求する。2 周産期救急時の対応ができる知識、技術を獲得する。3 周産期救急や社会的に複雑な事例に対応する実践、相談、調整、倫理調整能力を獲得する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 わが国と諸外国の妊産婦ケア、安心・安全な医療提供のための健診のあり方とハイリスク妊産婦・新生児の実態を知り、異常の早期発見や搬送のあり方を再認識する。

第2回 //

第3回 //

第4回 //

第5回 事例を通して、妊娠合併症をもつ妊産婦と家族への支援の具体例を検討する。PIH、妊娠糖尿病、心疾患、自己免疫疾患、血液疾患、婦人科疾患、精神・神経疾患、母子感染症、多胎、早期産、切迫早産

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第9回 //

第10回 //

第11回 分娩異常の事例から出産時の産婦ケアの在り方を具体的に検討する。娩出力の異常、胎児および付属物の異常、産道の異常・分娩時裂傷 産科DIC、羊水塞栓症、HELLP症候群、産科出血の対応、産科手術の介助

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 周産期医療におけるME機器の活用 分娩監視装置、超音波診断

第16回 //

第17回 //

第18回 //

第19回 新生児蘇生の実際

第20回 //

第21回 産褥期における母子と家族への支援の実際、倫理調整を含む 産褥うつ病を発生した事例、緊急帝王切開になった事例 子どもを亡くした母子とその家族の事例等

第22回 //

第23回 //

第24回 //

第25回 //

第26回 NICUにおける家族への援助と連携

第27回 //

第28回 //

第29回 周産期医療システム内でのマネジメントと法や諸制度の活用への理解を深める

第30回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

h701014050

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 30 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特別研究 &lt;Ma&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 神崎 光子

テーマ

自分自身の体験を基に、講義や演習等で得られた知識を活用して、自己の研究課題に対する看護研究を実施する中で、看護研究の実践能力を身につける

授業の到達目標

- |                  |               |                |
|------------------|---------------|----------------|
| 1. 研究課題を見出す事ができる | 2. 研究計画が作成できる | 4. 研究結果の分析ができる |
| 3. 研究が実施できる      | 5. 研究論文が作成できる | 6. 論文の内容を発表できる |

授業の概要

講義・演習で学習した事を基に、研究計画を立案し、実施する。研究計画にそって、得られたデータの分析を行い、論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 研究指導(1)
- 第2回 研究指導(2)
- 第3回 研究指導(3)
- 第4回 研究指導(4)
- 第5回 研究指導(5)
- 第6回 研究指導(6)
- 第7回 研究指導(7)
- 第8回 研究指導(8)
- 第9回 研究指導(9)
- 第10回 研究指導(10)
- 第11回 研究指導(11)
- 第12回 研究指導(12)
- 第13回 研究指導(13)
- 第14回 研究指導(14)
- 第15回 研究指導(15)

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 100 )

授業中発表等 ( )

参加度 ( )

課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

## 2017 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特別研究 &lt;Mb&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

自分自身の体験を基に、講義や演習等で得られた知識を活用して、自己の研究課題に対する看護研究を実施することを通じて看護研究の実践能力を身につける

授業の到達目標

1 看護の課題を研究課題にすることができる 2 先行文献レビューを行い、研究計画書の作成ができる 3 倫理的課題をクリアし、フィールド開拓ができる 4 データの収集ができる 5 結果の分析を行い、考察する 6 論理的一貫性のある研究論文の作成ができる 7 適切な発表を行い、看護学実践に寄与する

授業の概要

ゼミ形式で行い、個別指導と組み合わせる。主指導教員ならびに副指導教員の指導を受け、計画書作成時、倫理審査時、論文作成時などに全員での検討会を設け、着実に構成していく。

準備学習(予習・復習)

次回までの課題を明確にして、自己学習に励む。フィールドの調整など調整能力の獲得に努める。

内 容

第1回 研究テーマの設定のために、課題整理と先行研究の文献等を読み込む。

第2回 同上

第3回 同上(ゼミ)

第4回 研究方法の設定と準備

第5回 同上

第6回 同上

第7回 研究計画書の作成(ゼミ)

第8回 同上 修正

第9回 同上

第10回 発表会(研究計画書)と意見集約

第11回 研究計画書の修正と倫理委員会準備

第12回 同上

第13回 同上

第14回 研究フィールド調整

第15回 同上

第16回 データ収集 と 結果分析(方法論による相違はある)

第17回 同上

第18回 同上

第19回 同上

第20回 同上

第21回 結果の分析

第22回 同上

第23回 同上

第24回 同上

第25回 結果の記述と、考察、論文化

第26回 同上

第27回 論文の予備審査

第28回 結果、考察の修正や加筆

第29回 抄録と発表の準備

第30回 論文ならび発表の振りかえり(評価)

履修上の注意点

主指導者と詳細な打ち合わせをしながら進める

教科書

参考書



成績評価

試験・レポート（論文80）

授業中課題（10）

参加度（）

論文の評価(審査基準に依る)と発表や授業中の課題

---

小テスト（）

授業中発表等（10）

## 2017 Syllabus

科目名 広域看護学特別研究 &lt;Ma&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小板橋 喜久代

テーマ

特論、演習での学びを基盤として、看護管理学領域における院生の研究課題について、一連の研究プロセスを通して、修士論文をまとめる。

授業の到達目標

1.研究課題に関連する先行研究・文献について検討を加え、研究課題を明確にする。2.研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認を受ける。3.研究計画に基づき、十分な倫理的配慮のもと研究を遂行する。4.得られた結果をもとに十分に考察を加え、修士論文をまとめる。5.修士論文について、効果的なプレゼンテーションを考え、発表する。6.1～5の一連の研究プロセスを通して、研究を遂行できる基礎能力を身につける。

授業の概要

研究課題の明確化、文献検討、研究テーマの決定、研究計画立案、研究倫理審査委員会への申請、研究の実施、データの収集、データの分析、データに基づく考察、修士論文の作成、論文の発表

準備学習(予習・復習)

自らの研究課題・テーマに沿って、主体的に学習を進める。

内 容

- 第1回 研究課題の明確化
- 第2回 研究課題の明確化
- 第3回 文献の収集と検討
- 第4回 文献の収集と検討
- 第5回 研究テーマの決定
- 第6回 研究テーマに適した方法、倫理的配慮の検討の検討
- 第7回 研究テーマに適した方法、倫理的配慮の検討の検討
- 第8回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第9回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第10回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第11回 研究協力依頼とデータ収集
- 第12回 データ収集
- 第13回 データ収集
- 第14回 データ分析
- 第15回 データ分析
- 第16回 データ分析
- 第17回 データ分析
- 第18回 データに基づく考察
- 第19回 データに基づく考察
- 第20回 データに基づく考察
- 第21回 論文作成
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 論文作成
- 第27回 論文の発表資料の作成
- 第28回 論文の発表資料の作成
- 第29回 論文の発表資料の作成
- 第30回 論文の発表

履修上の注意点

研究課題・テーマに関する文献等の情報収集につとめる。

教科書

参考書

h701015310

成績評価

試験・レポート (70%)

授業中課題 ( )

参加度 (15%)

小テスト ( )

授業中発表等 (15%)

---

## 2017 Syllabus

科目名 広域看護学特別研究 &lt;Mb&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 新道 幸恵

テーマ

修士論文の完成

授業の到達目標

修士論文の課題探索、研究計画書の作成、倫理審査申請書の作成、データ収集、データ分析、論文作成を経て、論文を完成させる。

授業の概要

看護管理学特論における学習を基に、修士論文を仕上げるためのプロセスに必要な知識や技術を積極的に習得する。

準備学習(予習・復習)

文献を幅広く探索し、深く読み、指導教員との面談を主体的、計画的にうけ、論文完成の努力をする。

内 容

- 第1回 研究課題の探索
- 第2回 研究課題の探索
- 第3回 研究方法論の探索
- 第4回 研究方法論の探索
- 第5回 研究計画書の作成
- 第6回 研究計画書の作成
- 第7回 研究計画書の作成
- 第8回 研究計画書の審査を受ける準備
- 第9回 倫理審査申請書の作成
- 第10回 倫理審査申請書の作成
- 第11回 研究データ収集のための事前準備、関連スキルの学習
- 第12回 研究データ収集のための準備、関連スキルの学習
- 第13回 研究データの収集及びデータ分析
- 第14回 研究データの収集及びデータ分析
- 第15回 研究データの収集及びデータ分析
- 第16回 研究データの収集及びデータ分析
- 第17回 結果のまとめ
- 第18回 結果のまとめ
- 第19回 結果の考察
- 第20回 結果の考察
- 第21回 結果の考察
- 第22回 論文の作成
- 第23回 論文の作成
- 第24回 論文の作成
- 第25回 公開発表の準備
- 第26回 公開発表の準備
- 第27回 公開発表
- 第28回 論文の見直し
- 第29回 学会発表などの準備
- 第30回 総まとめ

履修上の注意点

研究論文作成プロセスの全過程において、多くの文献や関係者の支援を積極的に受けて、優れた論文作成にベストを尽くすこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( )

ゼミの参加状況を参考に成果物である論文で評価する。

---

小テスト ( )

授業中発表等 ( )

## 2017 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント〈M〉**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 梶谷 佳子・四日 順子・林正 健二

## テーマ

対象(個人/集団)の健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断し、医療および看護の必要性を的確・迅速に判断できる、この一連のアセスメントに必要な知識・技術を修得する。このために、系統的全体的な対象の身体診査についての的確な方法を修得する。また、それらのデータを統合して解釈・判断し、複雑な対象の健康状態について、優先度もふくめ、全体的な見地からアセスメントが適切にできるために、臨床的、統合的な知識およびクリティカルシンキングスキルの活用を修得する。

## 授業の到達目標

1 対象の生理的心理社会的な健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断することの意義を看護実践の視点から理解できる。2 対象を生理的な全体としてアセスメントするための系統的な方法が理解できる。3 身体診査(フィジカルイグザミネーション)の方法がわかり、実施できる。4 3で得られたデータを統合し対象の健康状態/生命・生活過程における複雑な状況を、全体的な見地からの確にアセスメントすることができ、看護実践に活用できる。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 対象にとってフィジカルアセスメントの持つ意義, フィジカルアセスメントに必要な知識、技術、看護におけるフィジカルアセスメント
- 第2回 対象を全体的な見地からアセスメントするための診査方法、スクリーニング、システムレビュー、観察法、測定法、問診、聴診、打診、視診、触診、対象による診査の留意点
- 第3回 身体的系統的診査(イグザミネーション)とは、
- 第4回 頭部、頸部、感覚器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第5回 胸部(心臓・血管系)の診査とそのデータの判定;聴診、打診、心電図測定
- 第6回 胸部(呼吸器系)の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第7回 胸部(乳房)の診査とそのデータの判定;打診、視診、触診
- 第8回 腹部の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第9回 腹部・泌尿器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第10回 生殖器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第11回 骨・筋肉系の診査とそのデータの判定;打診、視診、触診
- 第12回 神経系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第13回 フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断
- 第14回 フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断
- 第15回 看護における臨床判断, 全人的な見地からのフィジカルアセスメントとその臨床での活用

## 履修上の注意点

DVDや視聴覚教材を効果的に用いて理解を深めて下さい。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 60 )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 臨床薬理学〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 信行・天野 博夫・西谷 葉子・山崎 武俊

## テーマ

対象の病態の回復への促進に向けた薬物療法について、薬剤の選択、管理等、その過程の臨床判断を含む知識および技術を修得する。薬物が人間におよぼす影響を薬物動態として理解し、病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解する。そのうえで、救急処置、また、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が出会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできるために必要な知識、技術を修得する。

## 授業の到達目標

1 薬物が人間におよぼす影響を、薬物動態(からだと薬の機能、動き、体の反応)として理解できる。2 病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解できる。3 救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が出会う多面的な薬物との問題がわかる。4 対象が出会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできる

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内容

- 第1回 人間と薬物;薬とは何か,人間にとって薬の持つ意味,医療における薬物療法,薬と毒  
 第2回 からだにおける薬の働き;薬理作用,容量と反応,受容体と薬理作用,薬物作用点  
 第3回 からだにおける薬の動き①;薬物の投与経路と体循環,薬物の吸収と代謝・組織への分布,薬物の排泄  
 第4回 からだにおける薬の動き②;薬物送達システム,治療薬物モニタリング,薬物動態パラメータ,からだと薬の反応;からだと薬の反応に影響を与える因子,薬物相互作用とからだ  
 第5回 病態における薬物療法(1)神経,精神,循環,血液の働きに対応した薬物療法  
 第6回 病態における薬物療法(2)体液・電解質,ホルモン免疫,炎症,感染症に対応した薬物療法  
 第7回 病態における薬物療法(3)消化・吸収・代謝,呼吸の働きに対応した薬物療法  
 第8回 病態における薬物療法(4)悪性腫瘍,中毒に対応した薬物療法  
 第9回 病態における薬物療法(5)エイジング(妊婦,高齢者,小児),漢方医学に対応した薬物療法  
 第10回 薬物療法を受ける対象のからだ(細胞・分子レベル)と心理社会的な影響をアセスメントの意味,薬物療法を有効にする人間全体としての反応としての臨床判断の方法と対象が出会う多面的な薬物の問題  
 第11回 救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択  
 第12回 慢性疾患の管理に必要な薬剤  
 第13回 モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助  
 第14回 対象が出会う多面的な薬物との問題に対応した適切なモニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理  
 第15回 対象が有効な薬物療法を受け、回復への促進が継続的に進められる医療体制づくり、医療職者の連携システムの在り方,医薬品開発時のプロセスと倫理

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート(60)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度(40)

## 2017 Syllabus

科目名 病態生理学 &lt;M&gt;

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 信行・林正 健二

テーマ

対象の病態を全体的、統合的に的確に理解するために必要な知識を修得する。対象が示している徴候や症候から、その対象に起きている生理・生化学的なからだの仕組みおよび、変調である病態をエビデンスに基づいて適切に判断でき、その過程を通し、対象におきている病態について、今後の見通しも含めて統合的に理解することができる知識と技術を修得する。

授業の到達目標

1 からだの仕組みにおける生命維持のメカニズムについて、生理・生化学的な見地からエビデンスと共に理解できる。2 からだの仕組みの異常状態である病態について、どのようなメカニズムによりその異常が起こるか、その種類や程度に対する検査法や診断についてエビデンスと共に理解できる。3 その病態における修復、改善のため治療法について理解でき、看護ケアの根拠との関連を考察する。4 対象におきている病態をそのメカニズムと共に、今後の見通しも含めて統合的にとらえることができる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(1)細胞の働き, 筋, 神経系, 体温調節, 感覚系のはたらき  
 第2回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(2)体液バランスと腎機能, 内分泌の調節  
 第3回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(3)呼吸, 循環, 消化吸収, 代謝, 免疫, 血液のはたらき  
 第4回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1)糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例  
 第5回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1)糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例  
 第6回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1)糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例  
 第7回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1)糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例  
 第8回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(2)慢性呼吸不全, 心不全をきたしている事例  
 第9回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(2)慢性呼吸不全, 心不全をきたしている事例  
 第10回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(2)慢性呼吸不全, 心不全をきたしている事例  
 第11回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(3)骨粗しょう症から骨折をきたした事例  
 第12回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(3)骨粗しょう症から骨折をきたした事例  
 第13回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(3)骨粗しょう症から骨折をきたした事例  
 第14回 対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。急激に発生したクリティカルな病態のメカニズムをもつ事例における検討  
 第15回 対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。慢性的複合的な病態のメカニズムをかかえる事例の検討

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (60)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (20)

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 次世代育成看護学実習Ⅱ(周産期)〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上澤 悦子・神崎 光子

テーマ

講義・演習で学んだ理論・知識・技術を実践に応用・統合し、母性看護専門看護師として活動するための能力形成を図る。専門看護師としての役割機能の視点を持ちながら、周産期ケアの質向上のための変革を担う力を育てる。

授業の到達目標

高度医療施設におけるプライマリケア提供部門における妊産婦と子どもとその家族の支援を妊娠中から一貫したケア提供システムにおける看護実践をアセスメントする。正常性の維持や予防的ケアが実践できる能力を高める。また、異常への移行事例等を中心に、専門領域スタッフからの相談、スタッフへの教育活動を実践する。多職種との調整や倫理調整の機能を学ぶ。周産期ケア改善のために組織における看護活動をアセスメントし、改善に資する企画立案、実施、評価やその調整プロセス等を学ぶ。さらに、施設で行っている事例検討会やデータの整理・分析を通して、周産期看護の質改善へのアプローチを学ぶ。加えて、政策参加のための取り組みに発展させることを学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内容

第1回 実習目標 1 身体的あるいは心理社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子ども、その家族のケアを事例中心に高度実践看護師としての実践を行う。事例のもつ状況により、調整、倫理調整の機能を果たす。2 正常性を維持する予防的ケアの重要性やスキルを獲得する。3 実習指導者である専門看護師とともにスタッフからの相談、教育や周産期医療チームへの調整の機能を果たす。4 実習施設で行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへの参加を通じて、周産期看護の質の確保への取り組みを学ぶ。5 母子救急、とりわけ新生児の救急搬送に関する実践とその後の母子へのケアについての在り方を学ぶ。6 実習施設で行っている実践評価に関する検討に参画し、アウトカム指標に関する学びを深め、同時に政策参加の取り組みにまで関与する機会をもつ。実習時期 2年次 実習施設 プラマリーヘルスケアを担う周産期医療施設:昭和大学横浜市北部病院(マタニティハウス)と4A病棟、NICU 総合周産期母子医療センターである昭和大学病院(NICU) 実習指導者 上記施設の母性看護CNSならびに卓越した能力をもつ助産師・医師 昭和大学横浜市北部病院 日下富美代 常田裕子 佐藤陽子(CNS) 医療安全管理体制 実習要項参照

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度( )

実習中課題〈実技・レポート〉(50%)参加度(50%)実習状況、実践結果の自己評価、他者評価、課題レポートなどで総合的に評価

## 2017 Syllabus

## 科目名 実践看護応用学実習 I (精神) &lt;M&gt;

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松本 賢哉	
テーマ	専門看護師を役割モデルとしながら、高度実践、調整、患者および家族への倫理調整、院内や病棟看護師の教育及び臨床研究指導、コンサルテーションに関わる活動を学び、精神看護専門看護師としての役割と機能を果たす能力を習得する。
授業の到達目標	(段階的に進めていく。段階1として目標1、段階2として2~4、段階3として5~7とする) 1. 精神看護専門看護師の役割と機能について、その実際を知り、自己の課題を考察することができる。2. 精神看護専門看護師が実践する看護の対象への直接的ケアの特徴を理解し、自らの看護援助を検討することができる。3. 精神看護専門看護師が行う調整を必要とする問題、調整する際の留意点、具体的方法を知り、自己の調整能力の課題を明確にすることができる。4. 精神看護専門看護師がかかわる精神症状をもつ人とその周囲に関する倫理的問題およびその対応・調整について知り、自己の倫理観を振り返ることができる。5. 精神看護専門看護師が行う院内及び病棟看護師に対する教育的な関わり及び精神看護の質の向上のための教育活動について、実際の活動を理解し、その効果进行评估するための視点をもつことができる。6. 精神看護専門看護師が実施・指導している研究活動の目的・内容について知り、研究的な視点で実践をとらえることができる。7. 精神看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴とその方法の実際を理解し、技術習得に向けた自己の課題を明確にすることができる。
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	精神看護学演習 I において学習した内容を参考に、援助対象者を設定した上で、精神看護専門看護師に必要とされる機能と役割を効果的に習得できるように、学生が実習計画を立てる(約1か月)。実習目標に沿い、評価及び修正をしながら段階的に進めていく。
第2回	まず、病院内の精神看護専門看護師の活動に同行し、精神看護専門看護師の役割と機能(実践・調整・倫理調整・教育・相談・研究)について参加観察し、自己の課題を明らかにする。病院内で精神看護専門看護師が関わっている精神科診断・治療の場面に参加観察する。(約2週間)
第3回	次に、患者を1~2名受け持ち、直接ケアを実施し評価する。また、必要時はケースカンファレンスを開催し、多職種との調整を行う。また、倫理調整についても実施する。(約3週間)
第4回	精神看護専門看護師が関わっている教育、研究及びコンサルテーション活動に参画または一部を実施し、その方法及び効果を評価する視点を養う。(実習後半が望ましいが、実習期間を通して機会を検討する)
第5回	参加観察した事柄について、カンファレンスの中で精神看護専門看護師や教員とディスカッションし、理解を深める。
第6回	実習日ごとに、精神看護専門看護師の役割と機能である、実践、教育、調整、相談、研究、倫理調整のうち、実習した内容を記録し、その内容を分析した後、精神看護専門看護師が果たす役割と機能の側面から科学的に考察する。
第7回	適宜、精神看護専門看護師や病棟スタッフ(看護師、医師、臨床心理士、精神保健福祉士等)からの指導・助言を得るとともに、チームとの連携・調整を行いながら実習をすすめる。また、教員及び精神看護専門看護師、医師からのスーパーバイズを受け、振り返りを行う。特に診断・治療の場面においては、医師からのスーパーバイズを受ける。
第8回	カンファレンスは学生主体で実施し、主体的に精神看護専門看護師および教員とディスカッションをして、精神看護専門看護師の役割と機能について探求する。
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	
実習計画の作成(個別行動目標)、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価する。	

## 2017 Syllabus

科目名 実践看護応用学実習Ⅱ－2(精神)〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松本 賢哉

## テーマ

講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、専門看護師として訪問看護活動ができる看護実践能力の形成・向上を図る。そのために地域で訪問看護を活用しながら生活している精神病患者をもつ人とその家族に対し、専門的な精神看護の実践、スタッフや他職種への教育、相談、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整などに創意工夫をしながら取り組む。

## 授業の到達目標

1. 訪問看護を利用し、地域で生活する複雑多様な健康課題・生活状況にある精神病患者をもつ人とその家族を包括的にアセスメントし、対象者のセルフケア能力を高め、QOLの維持・向上を目指したケアを実践することができる。2. 訪問看護を利用し、地域で生活する複雑多様な健康課題・生活状況にある精神病患者をもつ人とその家族の関係調整に関して、ケアを調整することができる。3. 精神病患者をもつ人の訪問看護における看護スタッフへの教育・相談の企画・実践およびコンサルテーションのプロセスに参画し、実施したことを評価できる。4. 地域で生活する精神病患者をもつ人とその家族の尊厳を守り、倫理的課題について分析する。さらにその課題の解決に向けて介入計画を立て実施する。5. 看護、他職種スタッフ等に対する教育・相談の企画・実践・評価の一連のプロセスに参画及び実践を通して、自身の教育能力、リーダーシップ能力を育成する。6. 地域で訪問看護を利用し生活する精神病患者をもつ人とその家族のケアの実践に関する課題を見出し、その解決に向けた実践に取り組む。

## 授業の概要

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 訪問看護ステーションのスタッフに同行し訪問看護活動を実施する。  
 第2回 生活の場で精神病患者をもつ人および家族への援助活動を2～3事例継続して実施する。(週2～3日、約3～4ヶ月)  
 第3回 演習Ⅰ-2で学んだ援助プログラムを対象に合わせて具体的に計画し実施する。  
 第4回 実施した援助の効果を安定した社会生活を営むための視点から評価する。  
 第5回 実施した援助の効果を文献等を活用しつつ、科学的視点から評価する。  
 第6回 訪問看護ステーションのスタッフから指導・助言を得るとともに、多職種カンファレンス等に参加し、地域でサポートする多職種との連携・調整を行いながら、実習を進める。実習場所: 訪問看護ステーション及び精神科病院の訪問看護部門

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート( )

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等( )

参加度( )

実習計画の作成(個別行動目標)、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価する。

## 2017 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特論Ⅱ(周産期)〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 遠藤 俊子・上澤 悦子

テーマ

次世代を育成する女性と家族をライフサイクルに沿って身体的、心理・社会的側面から包括的に理解する。

授業の到達目標

1 次世代を育成する女性と家族の健康生活および健康問題についてライフサイクルの視点から理解する。2 生殖内分泌学的知識や遺伝学的知識、周産期医学的知識、さらに発達や愛着理論など専門的知識体系を習得する。3 専門知識体系による対象理解を基に、マタニティサイクルにある女性と家族の健康問題や生活、発達課題などを多角的かつ的確に理解する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 次世代を育成する女性を取り巻く家族・社会・環境の変化および経済についての理解  
 第2回 〃  
 第3回 母性健康科学の考え方、日本における母性概念、リプロダクティブヘルス/ライツ、愛着や親役割理論、発達危機理論などの理解  
 第4回 〃  
 第5回 健康な女性に成長するための思春期への理解  
 第6回 〃  
 第7回 成熟期女性の健康課題への理解  
 第8回 〃  
 第9回 周産期の生殖内分泌学、遺伝学  
 第10回 〃  
 第11回 妊産婦とその子ども、家族の発達と関係への理解  
 第12回 〃  
 第13回 更年期・老年期女性の健康課題への理解  
 第14回 〃  
 第15回 〃

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( 20 )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 看護実践研究方法論 &lt;D&gt;

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 登美子・富永 真己	
テーマ	
授業の到達目標	
1. 看護における多様な研究方法論の特徴をふまえ、研究方法論が抱える課題を理解する。2. ヘルスケアの質改善等につながる研究の理論的基盤と方法論について学ぶ。	
授業の概要	
医療および看護における研究の重要性を理解し、多様な研究方法論の特徴をふまえ、研究方法論が抱える課題を検討し、今日、看護に求められているヘルスケアやヘルスケアシステムの質改善につながる研究方法を修得するため、ヘルスケアの質改善等に資した国内外の研究論文をもとに、ケアのアウトカムを明らかにする研究の理論的基盤と方法論について学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	看護研究における研究方法について、研究デザインの多様性と研究方法論が抱える課題
第2回	看護研究における概念枠組、研究の理論的基盤と研究方法論
第3回	アウトカムズモデル・サブストラクションを用いた研究論文の批評と研究方法論の検討
第4回	〃
第5回	ヘルスケアの質改善にアウトカムリサーチを適用する課題と有用性
第6回	子どもと家族に関する研究の理論的基盤と研究方法論
第7回	子どもと家族に関する成果指標抽出の課題と測定方法の妥当性
第8回	子どもと家族に関する研究論文をもとにヘルスケアの質を改善する方略について検討
第9回	労働職場環境特性と労働者の職業性ストレスに関する研究の理論的基盤と多変量解析を用いた量的研究方法論
第10回	〃
第11回	労働者のストレス等に関する研究成果をもとに、ヘルスケアの質を改善する方略について検討
第12回	〃
第13回	リラクゼーション等に関する研究の理論的基盤と研究方法論
第14回	〃
第15回	リラクゼーション等の研究論文をもとにヘルスケアの質を改善する方略について検討
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 ( 40 )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 30 )	



## 2017 Syllabus

## 科目名 実践看護基礎学特論演習 &lt;D&gt;

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小坂橋 喜久代・梶谷 佳子・竹下 夏美	

## テーマ

関連する学際領域の知見も踏まえて、看護学の基盤となる理論を見なおす。看護学の実証研究に必要な方法論を開発し、臨床へのトランスレーションをめざした体系的なエビデンスの構築を探索する

## 授業の到達目標

1. 看護実践の基盤となる看護技術や教育方法を実証的に明らかにする必要性を理解する。2. 質の高い看護実践を保証するために、介入モデルとその検証方法の開発に取り組むことができる。3. 得られた知見を有機的につなぎ、体系的なエビデンスの生成と理論化に取り組むことができる。

## 授業の概要

質の高い看護実践を保証していくために、看護実践の基盤となる看護技術や教育方法を実証的に明らかにし、それらを再構築して、本質から実践へと有機的につなぎ、理論的、体系的なエビデンスの生成をめざす。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 実践看護基礎学特論演習イントロダクション
- 第2回 看護学および看護実践の核となる概念を問い直す
- 第3回 看護の対象である「健康を目指して生きる人間」への考察(1)
- 第4回 看護の対象である「健康を目指して生きる人間」への考察(2)
- 第5回 その人に備った能力を発見し引き出すための取り組み(1)
- 第6回 その人に備った能力を発見し引き出すための取り組み(2)
- 第7回 看護実践のエビデンスを解くための先行文献のクリティークと課題の発見(1)
- 第8回 看護実践のエビデンスを解くための先行文献のクリティークと課題の発見(2)
- 第9回 看護実践における技術の適用の問題
- 第10回 基礎看護学における研究方法の検討(1)
- 第11回 基礎看護学における研究方法の検討(2)
- 第12回 これからの看護の流れー看護療法の開発ーリラクゼーション法
- 第13回 これからの看護の流れー看護療法の開発ータッチ・マッサージ手技
- 第14回 実践看護学と適切な自己防衛
- 第15回 (総括)学びを通しての自己変容
- 第16回 看護実践能力の発達と看護職業アイデンティティの形成
- 第17回 看護実践能力開発のためのプログラム開発ーナラティブアプローチ
- 第18回 看護実践能力開発のためのプログラム開発ーリフレクション
- 第19回 看護技術修得に向けた学習について
- 第20回 看護実践能力向上のための事例開発、シミュレーション開発
- 第21回 看護実践の質に影響する要素について、文献講読を通じて分析を行い、看護実践の評価方法や実証的研究方法についての学びを考察
- 第22回 看護場面のアセスメントやリフレクティブを通じて分析を行い、看護実践のエビデンスの生成方法について考察
- 第23回 看護実践の場における自己、患者、状況との関係を考察し、看護実践家やケアギバーに求められる看護行為の要素や看護職の感情労働について検討
- 第24回 看護実践の質の向上や臨床での有効なケア提供及びその能力開発における課題に関する自己の問題意識の抽出
- 第25回 看護実践に関連する自己の課題に関連づけながら、信頼性と妥当性のある実証的デザインの研究活動方法について検討
- 第26回 文化的ケアの多様性と普遍性
- 第27回 民俗医療システムとヘルスケアシステム
- 第28回 伝承される民間療法～東南アジアにおける文化的価値観と生活様式
- 第29回 文化および民俗に対応したケア～特にリプロダクティブヘルスのありよう
- 第30回 多様な医療システムにおける文化的ケアの意味

## 履修上の注意点

自分自身の問題意を深める姿勢を持って自律的に取り組む。常に、社会のニーズを先取りし、臨床の改革を進めるリーダーとしての責任を自覚して研究にとりくむ。

## 教科書

## 参考書

---

成績評価

試験・レポート ( 30 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

課題レポートの提出を求める

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 実践看護応用学特論演習 &lt;D&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子・河原 宣子・富永 真己・松本 賢哉

テーマ

授業の到達目標

1. 老年症候群を有する高齢者、地域で生活する療養者および精神保健上の課題をもつ人々に対する看護介入方法と支援システムの必要性について考究する。2. 慢性疾患や精神疾患を抱える人々の質の高い療養生活を支援するための介入モデルの開発とその検証方法の開発に取り組むことができる。

授業の概要

慢性疾患や精神疾患、老年症候群を有する人々および精神保健上の課題をもつ人々が質の高い入院・入所生活や地域生活を営めるようなヘルスケアシステムが求められている。このような健康課題をもつ個人や家族、集団に対して、質の高い療養生活を支援するための介入モデルの開発とその検証方法、支援システムについて探求する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 「老いること」に関する哲学的考察:歴史的な脈を踏まえて考察  
 第2回 //  
 第3回 生涯発達論をもとにした老年期のとらえ方について考察  
 第4回 //  
 第5回 生涯発達を支える老年看護のあり方と課題について考察  
 第6回 //  
 第7回 高齢者の終末期をめぐる医療・看護モデルの再構築について考察  
 第8回 //  
 第9回 高齢者ケアを担う連携・協働(医療・福祉チームワークのあり方、課題)について考察  
 第10回 //  
 第11回 在宅療養者とその家族における支援システムについて国内外の文献から考究  
 第12回 文献検討を踏まえ、在宅療養者の療養生活継続を可能にするための看護ケアについて家族看護の視点から事例検討  
 第13回 地域における災害時要援護者対策に関する支援システムについて国内外の文献から考究  
 第14回 文献検討と上記の検討内容を踏まえ、災害への減災ならびに災害時要援護者対策の支援システムについて事例検討を通して考察  
 第15回 //  
 第16回 疾病予防と看護:第一次、第二次、第三次予防の概念を踏まえ、人々の健康、中でも精神保健に焦点をあて、看護職の役割について探究  
 第17回 精神疾患と危険因子:精神保健について問題を抱える人々に関し、精神疾患の頻度と危険因子から考察  
 第18回 精神健康の測定尺度と評価:精神保健について問題を抱える人々へのアプローチ方法として、精神健康の測定尺度とその評価について考察  
 第19回 第一次予防の科学的根拠と対策:精神保健の第一次予防について、労働者に焦点をあて、科学的根拠に基づく保健対策について探究  
 第20回 第二次、三次予防の科学的根拠と対策:精神保健の第二次、三次予防について、労働者に焦点をあて、科学的根拠に基づく保健対策と看護職の役割について探究  
 第21回 精神の健康問題を抱えている人や家族の問題を文献検討  
 第22回 精神の健康問題を抱えている人の地域生活支援について文献検討  
 第23回 病状評価・社会生活技能に関する評価方法について事例検討を通して考察  
 第24回 精神の健康問題を抱えている人の地域生活を継続するための支援を考察  
 第25回 精神の健康問題を抱えている人とその家族への介入方法について事例検討を通して考察  
 第26回 悪性疾患を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア介入モデルについて国内外の文献から考究  
 第27回 生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア介入モデルについて国内外の文献から考究  
 第28回 文献検討の結果から、セルフケア介入モデルの課題の明確化および課題の適切性を検討  
 第29回 悪性疾患や生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア能力に焦点を当てた介入モデルの課題を解決するための方法論を検討  
 第30回 悪性疾患や生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア能力に焦点を当てた介入モデルについて事例検討を通して探究

履修上の注意点

教科書

参考書

---

成績評価

試験・レポート ( 30 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 40 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅰ〈Da〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小坂橋 喜久代

テーマ

## 授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

## 授業の概要

1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 ガイダンス 合同
- 第2回 取り組みたい研究分野 研究疑問 合同セッション①
- 第3回 文献の整理し、研究背景のまとめ
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 研究背景の報告会 合同セッション②
- 第11回 研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 研究計画(案)の報告会 合同セッション③
- 第21回 研究計画書 作成
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 //
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 研究計画書の発表 合同セッション④

## 履修上の注意点

各自の課題に沿って、研究テーマを絞り込んでいきます。社会的・あるいは看護学上の課題に照らして、問題の関心を絞り込んでいってください。

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

課題に沿ったレポートとプレゼンテーションを重要視します。

---

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅰ〈Db〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス 合同
- 第2回 取り組みたい研究分野 研究疑問 合同セッション①
- 第3回 文献の整理し、研究背景のまとめ
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 研究背景の報告会 合同セッション②
- 第11回 研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 研究計画(案)の報告会 合同セッション③
- 第21回 研究計画書 作成
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 //
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 研究計画書の発表 合同セッション④

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 特別研究 I &lt;Dc&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

博士論文研究計画書の作成

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス 合同
- 第2回 取り組みたい研究分野 研究疑問 合同セッション①
- 第3回 文献の整理し、研究背景のまとめ
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 研究背景の報告会 合同セッション②
- 第11回 研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 研究計画(案)の報告会 合同セッション③
- 第21回 研究計画書 作成
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 //
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 研究計画書の発表 合同セッション④

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

h701510813

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅰ〈Dd〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス 合同
- 第2回 取り組みたい研究分野 研究疑問 合同セッション①
- 第3回 文献の整理し、研究背景のまとめ
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 研究背景の報告会 合同セッション②
- 第11回 研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 研究計画(案)の報告会 合同セッション③
- 第21回 研究計画書 作成
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 //
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 研究計画書の発表 合同セッション④

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ &lt;Da&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

## 授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

## 授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

## 準備学習(予習・復習)

研究計画書の作成から研究倫理委員会の審査に向けて、研究方法を確定していきます。現時点で得られる関連資料を精査して、進めてください

## 内 容

- 第1回 データ収集と分析
- 第2回 "
- 第3回 "
- 第4回 "
- 第5回 "
- 第6回 "
- 第7回 "
- 第8回 "
- 第9回 "
- 第10回 "
- 第11回 結果の論述
- 第12回 "
- 第13回 "
- 第14回 "
- 第15回 "
- 第16回 "
- 第17回 "
- 第18回 "
- 第19回 "
- 第20回 "
- 第21回 分析・考察して論文全体の作成
- 第22回 "
- 第23回 "
- 第24回 "
- 第25回 "
- 第26回 "
- 第27回 "
- 第28回 "
- 第29回 "
- 第30回 "

## 履修上の注意点

教科書

参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ &lt;Dc&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 新道 幸恵

テーマ

## 授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

## 授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 データ収集と分析
- 第2回 //
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 結果の論述
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 //
- 第21回 分析・考察して論文全体の作成
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 //
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 //

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 50 )



## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅰ(2回生枠) &lt;Da&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小坂橋 喜久代

テーマ

各自の設定した研究課題を探求するために、研究計画を構築するとともに、具体的な研究実施に向けた方法論を追求する

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

○概要:1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 研究計画書の発表 合同セッション④
- 第2回 研究計画書 修正と完成
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 研究計画書 公開発表会
- 第12回 //
- 第13回 最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 //
- 第21回 倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 //

履修上の注意点

計画遂行のために、仕事と研究の時間を振り分けて、有効な取り組みを進める

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者:

h701511010

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007

ISBN:

身体の中からストレスを見る

著者: 日本比較内分泌学会

出版社: 学会出版センター

出版年: 2000

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 50 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅰ(2回生枠)〈Db〉

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

○概要:1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 研究計画書の発表 合同セッション④
- 第2回 研究計画書 修正と完成
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 研究計画書 公開発表会
- 第12回 //
- 第13回 最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 //
- 第21回 倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者:

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅰ(2回生枠) &lt;Dc&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

○概要:1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 研究計画書の発表 合同セッション④
- 第2回 研究計画書 修正と完成
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 研究計画書 公開発表会
- 第12回 //
- 第13回 最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 //
- 第21回 倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者:

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅰ(2回生枠) &lt;Dd&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

○概要:1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 研究計画書の発表 合同セッション④
- 第2回 研究計画書 修正と完成
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 研究計画書 公開発表会
- 第12回 //
- 第13回 最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 //
- 第21回 //
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 データ収集開始の準備
- 第26回 //
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者:

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅰ(2回生枠) &lt;De&gt;

クラス	配当回生 大学院2回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 新道 幸恵	
テーマ 博士論文のための研究計画書の作成	
授業の到達目標 看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。	
授業の概要 ○概要:1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会(中間発表会)をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。	
準備学習(予習・復習) 国内外の関連文献を十分に読み、各自のテーマと関連づけてプレ全できるようにする	
内 容 第1回 研究計画書の発表 合同セッション④ 第2回 研究計画書 修正と完成 第3回 // 第4回 // 第5回 // 第6回 // 第7回 // 第8回 // 第9回 // 第10回 // 第11回 研究計画書 公開発表会 第12回 // 第13回 最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出 第14回 // 第15回 // 第16回 // 第17回 // 第18回 // 第19回 // 第20回 // 第21回 倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始 第22回 // 第23回 // 第24回 // 第25回 // 第26回 研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化 第27回 // 第28回 // 第29回 // 第30回 //	
履修上の注意点 時間変更については担当教員と事前に協議して決める 参考テキストは必要に応じて紹介する	
教科書	
参考書 The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)	

h701511015

著者:

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(3回生枠) &lt;Da&gt;

クラス 配当回生 大学院3回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

○概要:特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表 合同セッション①  
 第2回 //  
 第3回 博士論文の作成、予備審査準備  
 第4回 //  
 第5回 //  
 第6回 //  
 第7回 //  
 第8回 //  
 第9回 //  
 第10回 //  
 第11回 予備審査  
 第12回 //  
 第13回 博士論文の修正・洗練  
 第14回 //  
 第15回 //  
 第16回 //  
 第17回 //  
 第18回 //  
 第19回 //  
 第20回 //  
 第21回 博士論文の修正と最終提出  
 第22回 //  
 第23回 //  
 第24回 //  
 第25回 //  
 第26回 博士論文 公開発表会/最終審査  
 第27回 //  
 第28回 論文作成過程 合同セッション②  
 第29回 //  
 第30回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者:

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(3回生枠) &lt;Db&gt;

クラス 配当回生 大学院3回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

○概要:特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表 合同セッション①

第2回 //

第3回 博士論文の作成、予備審査準備

第4回 //

第5回 //

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第9回 //

第10回 //

第11回 予備審査

第12回 //

第13回 博士論文の修正・洗練

第14回 //

第15回 //

第16回 //

第17回 //

第18回 //

第19回 //

第20回 //

第21回 博士論文の修正と最終提出

第22回 //

第23回 //

第24回 //

第25回 //

第26回 博士論文 公開発表会/最終審査

第27回 //

第28回 論文作成過程 合同セッション②

第29回 //

第30回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者:

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(3回生枠) &lt;Dc&gt;

クラス 配当回生 大学院3回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 新道 幸恵

テーマ

データ収集、分析、論文作成

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

○概要:特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習(予習・復習)

積極的に指導教員とコンタクトを取り、計画の遂行を円滑に進める

内 容

第1回 博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表 合同セッション①

第2回 //

第3回 博士論文の作成、予備審査準備

第4回 //

第5回 //

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第9回 //

第10回 //

第11回 予備審査

第12回 //

第13回 博士論文の修正・洗練

第14回 //

第15回 //

第16回 //

第17回 //

第18回 //

第19回 //

第20回 //

第21回 博士論文の修正と最終提出

第22回 //

第23回 //

第24回 //

第25回 //

第26回 博士論文 公開発表会/最終審査

第27回 //

第28回 論文作成過程 合同セッション②

第29回 //

第30回 //

履修上の注意点

データ収集の経過報告を指導教員に適宜行うこと

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者:

出版社: American Nurses Association

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(3回生枠) &lt;Dd&gt;

クラス 配当回生 大学院3回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小板橋 喜久代

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

○概要:特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表 合同セッション①  
 第2回 //  
 第3回 博士論文の作成、予備審査準備  
 第4回 //  
 第5回 //  
 第6回 //  
 第7回 //  
 第8回 //  
 第9回 //  
 第10回 //  
 第11回 予備審査  
 第12回 //  
 第13回 博士論文の修正・洗練  
 第14回 //  
 第15回 //  
 第16回 //  
 第17回 //  
 第18回 //  
 第19回 //  
 第20回 //  
 第21回 博士論文の修正と最終提出  
 第22回 //  
 第23回 //  
 第24回 //  
 第25回 //  
 第26回 博士論文 公開発表会/最終審査  
 第27回 //  
 第28回 論文作成過程 合同セッション②  
 第29回 //  
 第30回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者:

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )

授業中課題 ( )

参加度 ( 50 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 50 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 **健康科学特論 I <M>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎・兒玉 隆之・中村 和夫・日比野 英子・宮崎 純弥・村田 伸

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方の創出を目的とする健康科学の研究について理解を深め、今後の課題を検討し、受講生自身の研究テーマ・課題を探究する。

授業の概要

3名の担当者が、それぞれの分野の最新の知見や自身の研究について紹介し、受講生と討論して、健康科学の今後の課題を探究する。坂本は健康に生きてゆくために必要な生物学的基盤について、村田は高齢者の健康支援の方法について、日比野は社会適応について身体の外見と心理面との関係に注目した研究を、それぞれ紹介する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 脳と行動の性分化、性差
- 第2回 生育環境におけるストレスと神経内分泌機構
- 第3回 精神疾患と脳
- 第4回 情動と記憶の神経機構
- 第5回 コミュニケーションと絆の神経機構
- 第6回 高齢者の身体的特性
- 第7回 高齢者の認知・心理的特性
- 第8回 高齢者の介護予防対策
- 第9回 高齢者の転倒予防対策
- 第10回 高齢者の認知症予防対策
- 第11回 心の健康と外見の関係
- 第12回 精神障害者へのよそおいの支援
- 第13回 高齢者へのよそおいの支援
- 第14回 身体障害者へのよそおいの支援
- 第15回 唇裂口蓋裂患者への医療の補助としての化粧

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Ma&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

修士論文作成のための健康科学研究に取り組む。

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

関連する先行研究の文献等を収集し、内容を理解する。

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Mb&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 菅 佐和子

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Mc&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松下 幸治

## テーマ

臨床心理学領域における、カウンセリング、イメージ療法や教育臨床動作法など、個人および集団に対する心理療法をテーマとした研究指導を行う。テーマの構想や内容をリスニング、ディスカッションや文献精読などを通して、専門領域での独自性・独創性のある研究として明確化・具体化できるよう指導する。

## 授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

## 授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

## 準備学習(予習・復習)

各人のテーマに沿った論文、文献等の精読および論文作成。

## 内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

## 履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )

授業中課題 ( 30 )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 40 )

各人のテーマに沿った積極的な発表およびディスカッションへの参加度を総合評価する

---

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Md&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中西 龍一

テーマ

研究テーマの探求

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )





## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Me&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Mf&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Mg&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 **健康科学特別研究 I <Mh>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 日比野 英子

テーマ

心身の健康と新しい生き方の創造

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

院生自身の研究を実践するのであるから、自主的自律的に計画を実行すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )

小テスト ( )





## 2017 Syllabus

科目名 **健康科学特別研究 I <Mi>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

慢性閉塞性肺疾患患者の運動制限因子、早期発見遅延要因の解明

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

英語論文の読解に慣れておくこと。研究方法の基礎的な知識を習得しておくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

無断欠席厳禁

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )  
参加度 ( 40 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Mj&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

運動器系障害、特に脊柱の障害に対する理学療法の効果について研究する

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立す

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

必要となる文献を事前に読んでおくこと

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

欠席を1/3以下にしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )  
参加度 ( 40 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Mk&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 村田 伸

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;MI&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

運動器疾患における発症機序とその障害予防

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

文献等には事前に目を通して、議論する点を検討しておいてください。

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

全体の3分の1以上の出席を求めます。さらに授業以外でも積極的な学習態度を求めます。

教科書

参考書

成績評価



試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )  
参加度 ( 40 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Mm&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究 I &lt;Mn&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス (合同)
- 第2回 研究テーマについて発表、討論 (合同)
- 第3回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第4回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第5回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第6回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第7回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第8回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第9回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
- 第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
- 第21回 研究計画書の作成
- 第22回 研究計画書の作成
- 第23回 研究計画書の作成
- 第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請(合同)
- 第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
- 第28回 予備調査・パイロット実験等
- 第29回 予備調査・パイロット実験等
- 第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
授業中課題 ( 30 )

小テスト ( )  
授業中発表等 ( 30 )



## 2017 Syllabus

科目名 **健康科学特論Ⅱ <M>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 村田 伸・白岩 加代子・田中 芳幸・中西 龍一・日比野 英子・堀江 淳

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方の創出を目的とした健康科学の現状を把握する。

授業の概要

“健康”を、身体的・心理的・社会的視点からとらえて、現代社会における“健康”を取り巻く現状と問題点を明確にする。その上で健康の維持・増進に向けての科学的手法を用いた研究報告を供覧しつつ、様々なアプローチについても紹介する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 健康を脳から捉える
- 第2回 脳機能状態としてのResting state networkからみた健康
- 第3回 ヒトの共感脳システムと行為の意図について
- 第4回 慢性的な痛みやストレスと、脳の関連について
- 第5回 脳の健康について(ニューロフィードバックを用いて)
- 第6回 健康に関する生物-心理-社会モデル
- 第7回 健康心理学の概観Ⅰ 本邦における健康心理学の発展
- 第8回 健康心理学の概観Ⅱ 健康心理学研究の最近の動向
- 第9回 心身のストレスおよび健康関連行動と精神的な健康
- 第10回 well-beingからみた精神的な健康観
- 第11回 ころへの言葉によるアプローチと身体からのアプローチ
- 第12回 ゲシュタルト療法入門
- 第13回 ゲシュタルト療法のボディーワーク からだとの対話(ミニワーク)1
- 第14回 ゲシュタルト療法のボディーワーク からだとの対話(ミニワーク)2
- 第15回 自らが体験したボディーワークのふり返りと討論

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

## 2017 Syllabus

科目名 研究倫理学特論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鶴田 尚美・山崎 先也

テーマ

授業の到達目標

健康科学分野における倫理の諸問題について、生命倫理、および研究倫理の観点から理解を深め、高度専門職業人、研究者としての倫理的自覚を修得すること。

授業の概要

少子高齢化、核家族化、個人主義など多様な価値観によって、小児から成人、高齢者に至るまで、あらゆる世代の心身に関する健康的、社会的倫理問題が表在化している。高度専門職業人は、これら諸問題を理解した上で、新たな価値を創出するための行動が求められる。本講義では、生命倫理、研究倫理の両面からの視点で、倫理の基礎、社会的状況から研究に至るまでの幅広い倫理に関する知識を教授する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 生命倫理の成立と歴史、その概要
- 第2回 社会の中の生命倫理～知る権利(インフォームドコンセント)～
- 第3回 社会の中の生命倫理～生命の始まりと倫理(出生前診断、生殖補助医療)～
- 第4回 社会の中の生命倫理～生命の始まりと倫理(遺伝子診断、遺伝子治療)～
- 第5回 社会の中の生命倫理～死の概念(脳死と移植医療)～
- 第6回 社会の中の生命倫理～死の概念(尊厳死、安楽死)～
- 第7回 社会の中の生命倫理～死の概念(終末期医療)～
- 第8回 現代社会と研究倫理
- 第9回 研究計画における研究倫理
- 第10回 研究倫理とプライバシーの保護、および個人情報の保護
- 第11回 研究倫理委員会と利益相反委員会
- 第12回 研究成果の公表と研究倫
- 第13回 ヒトゲノム・遺伝子解析に関する研究における倫理
- 第14回 ヒトを対象とした疫学研究における研究倫理
- 第15回 動物実験における研究倫理

履修上の注意点

教科書

参考書

シリーズ生命倫理学 第4巻 終末期医療

著者: 安藤泰至・高橋都 編

出版社: 丸善出版

出版年:

ISBN:

シリーズ生命倫理学 第5巻 安楽死・尊厳死

著者: 斐克則・谷田憲俊 編

出版社: 丸善出版

出版年:

ISBN:

シリーズ生命倫理学 第15巻 医学研究

著者: 笹栗俊之・武藤香織 編

出版社: 丸善出版

出版年:

ISBN:

生命倫理と医療倫理 改定3版

著者： 伏木信次他 編

出版社： 金芳堂

出版年： 2014

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 80 )

小テスト ( 0 )

授業中課題 ( 0 )

授業中発表等 ( 0 )

参加度 ( 20 )

---



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学研究法特論 I &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 甲斐 義浩・堀江 淳

テーマ

理学療法研究に必要な基礎的な知識および統計手法を理解し実践する。

授業の到達目標

研究テーマの立案、研究へ向けての準備について理解する。データの解析とその解釈の方法について理解する、データの公表方法、注意点を理解することとする。

授業の概要

本専攻で研究を進め、高度専門職業人、研究者として自立するために必要となる基本的な研究方法を学ぶ。具体的には、研究テーマの立案から研究準備、統計解析方法とその解釈、研究成果の公表までを実例を交えながら教授していく。特に、研究に欠かせない統計的解析法に重点を置いて授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

基本的なエクセルの操作方法は習得しておくこと。

内 容

- 第1回 健康科学研究の基本的要素について
- 第2回 研究倫理と研究倫理委員会、研究計画書の作成
- 第3回 情報収集の方法と整理
- 第4回 研究テーマの立案と研究デザインの構築
- 第5回 学会抄録、学会発表の技法、および論文の書き方
- 第6回 データ尺度の理解と活用
- 第7回 記述統計の理解と解釈、およびその活用
- 第8回 パラメトリック検定と種々の統計手法
- 第9回 ノンパラメトリック検定と種々の統計手法
- 第10回 クロス集計表とカイニ乗検定
- 第11回 平均の差の検定
- 第12回 相関と回帰分析
- 第13回 影響因子の抽出(重回帰分析、ロジスティック回帰分析)
- 第14回 分散分析とPost-hoc検定、共分散分析
- 第15回 健康科学における研究～臨床への展開～(まとめ)

履修上の注意点

無断欠席は厳禁！

教科書

参考書

医療系データのとり方・まとめ方

著者： 対馬栄輝、石田水里

出版社： 東京図書

出版年：

ISBN：

成績評価

試験・レポート (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学研究法特論Ⅱ &lt;M&gt;

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 前田 洋光・中村 和夫	
テーマ	

## 授業の到達目標

修士論文をはじめとする学術論文に必要な量的・質的データの解析法を理解することができる。

## 授業の概要

前半では、量的研究において一般的に用いられる種々のデータ解析法について、統計ソフト(SPSSおよびAMOS)を使用し、各自の研究に応用できる実践的な力を養成していく。具体的には、因子分析、重回帰分析、クラスタ分析、パス解析、構造方程式モデリング等を取り上げる。後半では、当事者の語る言葉の背後にある内面的な意味の世界とその変容過程を把握する研究方法として、代表的な質的研究方法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)について解説をする。

## 準備学習(予習・復習)

基礎的なSPSSの操作を習得しておくこと。

## 内 容

- 第1回 多変量解析に関する説明
- 第2回 因子分析、クラスタ分析
- 第3回 重回帰分析、パス解析
- 第4回 構造方程式モデリング(理論の説明と適用例の紹介)
- 第5回 構造方程式モデリング(多母集団同時分析の適用)
- 第6回 構造方程式モデリング(パーセル化の適用)
- 第7回 総合演習:構造方程式モデリング
- 第8回 総合演習:プレゼンテーションとディスカッション
- 第9回 質的研究方法とは
- 第10回 グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)の概要
- 第11回 インタビューによるデータ収集
- 第12回 プロパティとディメンション
- 第13回 ラベルの抽出、カテゴリーの抽出
- 第14回 パラダイム、カテゴリー関連図
- 第15回 ストーリーラインによる内面的な「意味のシステム」の構造の理解

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

SPSSとAmosによる心理・調査データ解析第2版

著者: 小塩真司

出版社: 東京図書

出版年: 2011

ISBN:

Q&Aで知る統計データ解析—DOs and DON'Ts

著者: 繁樹算男・森敏昭

出版社: サイエンス社

出版年: 2008

ISBN:

共分散構造分析 Amos編—構造方程式モデリング

著者: 豊田秀樹

出版社: 東京図書

出版年: 2007

ISBN:

質的研究法ゼミナール—グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ—第2版

著者： 戈木クレイグヒル滋子

出版社： 医学書院

出版年： 2013

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート ( 40 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 30 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 脳科学特論 &lt;M&gt;

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保山 哲彦.坂本 敏郎.児玉 隆之

テーマ

こころとからだの働きの基盤となる脳機能について概観する。

授業の到達目標

感覚、運動、情動、動機づけなどに関する脳機能を基盤にした、学習機構、社会的行動等について、神経生物学のおよび神経生理学的側面から理解する。

授業の概要

脳機能を解剖学的・生理学的・行動学的視点から理解することを基礎に、高次脳機能に関して脳機能の局在とその発現機構を学び最新の研究報告やレビュー等の分析を行い基礎知識を修得する。さらに感覚運動制御、動機づけなどの機能を神経生理学的・神経内分泌学的に解明するための方法論を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中枢神経系、末梢神経系、神経内分泌系
- 第2回 ニューロン内の信号伝導(イオンの流入と活動電位)
- 第3回 ニューロン間の情報伝達(神経伝達物質と受容体)
- 第4回 知覚の神経回路(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚)
- 第5回 動機づけに関わる神経回路とホルモン(飲水、摂食、生殖、睡眠)
- 第6回 脳機能の局在とその障害① -前頭葉-
- 第7回 脳機能の局在とその障害② -頭頂葉-
- 第8回 脳機能の局在とその障害③ -後頭葉および側頭葉-
- 第9回 脳機能の局在とその障害④ -小脳-
- 第10回 脳機能障害への治療アプローチ
- 第11回 脳機能を神経生理学的に捉える-ニューロンの電気的活動-
- 第12回 認知学習・運動学習と脳
- 第13回 運動実行時・運動イメージ時の脳機能状態
- 第14回 情動惹起時の脳機能状態
- 第15回 脳機能を捉えるための方法論およびまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

ギャング生理学原著24版

著者: 岡田泰伸 監訳

出版社: 丸善出版

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 **健康心理学特論 <M>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 手塚 洋介

テーマ

## 授業の到達目標

健康心理学が、心理学と医学一般との応用的な領域にあたる学問分野であることから、心身の健康に関する多種多様な問題について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを包括的に理解できるようになる。

## 授業の概要

健康を生物心理社会モデルでとらえる素養を養い、健康の維持増進や心身疾患の予防に対する健康心理学的支援についても学習を深める。生活習慣病やメンタルヘルスマネジメントなど現代社会で注目される諸問題を取り上げ、その健康心理学的な理解と研究および支援の方法について論考する。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 健康心理学とは
- 第2回 健康心理学の基礎理論
- 第3回 健康維持の生理学的メカニズム
- 第4回 ストレスと健康
- 第5回 健康とパーソナリティ
- 第6回 健康行動と生活習慣の形成
- 第7回 健康行動と疾病予防
- 第8回 生活習慣病の予防と健康心理学
- 第9回 ソーシャルサポートとヘルスケアシステム
- 第10回 健康心理アセスメントの方法
- 第11回 健康教育の場と方法
- 第12回 健康心理カウンセリングの基本
- 第13回 健康心理学の将来展望
- 第14回 健康心理学と心身医学の視点
- 第15回 授業全体のまとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

## 成績評価

試験・レポート ( 70 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 15 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 15 )

## 2017 Syllabus

科目名 **精神医学特論 <M>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 杉本 二郎

テーマ

授業の到達目標

主な精神疾患について、医療、看護、福祉と連携し、適切な理解と援助ができるよう、その症状・経過・診断・治療など基本的なことがらを理解する。

授業の概要

代表的な精神疾患について、実際の症例をあげて紹介し、診断のみならず、精神科治療の実際について基本的な流れを解説する。また、精神医学の最近のトピックについても紹介する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 精神医学とは何か
- 第2回 統合失調症(1)
- 第3回 統合失調症(2)
- 第4回 気分障害(1)
- 第5回 気分障害(2)
- 第6回 様々な不安障害(1)(パニック障害、強迫性障害、恐怖症など)
- 第7回 様々な不安障害(2)(身体表現性障害、適応障害、PTSDなど)
- 第8回 産褥期精神障害(マタニティーブルー、産後鬱病、産後精神病)
- 第9回 小児期の精神障害(発達障害など)
- 第10回 青年期の精神障害(パーソナリティ障害、摂食障害など)
- 第11回 壮年期の精神障害(アルコール依存、ストレス)
- 第12回 老年期の精神障害(認知症、鬱病など)
- 第13回 精神科診断の実際
- 第14回 精神科治療の実際
- 第15回 日本の精神科医療

履修上の注意点

教科書

精神医学ハンドブック 第7版—医学・保険・福祉の基礎知識

著者: 山下格

出版社: 日本評論社

出版年: 2010

ISBN: 453598333X

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

授業中課題 (0)

参加度 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

## 2017 Syllabus

科目名 **精神薬理学特論 <M>**

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹内 孝治	
テーマ 基礎および中枢・精神薬理学	
授業の到達目標 薬理学の基礎を学んだ後、様々な中枢・精神疾患(神経症、気分障害、統合失調症、不眠症、癲癇、パーキンソン病、アルツハイマー・認知症、偏頭痛など)の病態とこれら疾患に対する薬物療法を理解する。	
授業の概要 薬物療法を理解するためには、疾患の病態、適切な治療薬、それらの治療薬がなぜ効果を示すかを学ぶことが必要である。本特論では、薬理学の基礎的知識を学んだ後、様々な中枢・精神疾患の病態とこれら疾患に対する薬物療法を概説する。具体的には、抗鬱薬、抗不安薬、精神安定薬、鎮静薬、睡眠薬、睡眠導入薬、定型・非定型抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗アルツハイマー病薬および抗癲癇薬などの作用機序に加えて、これら薬剤の副作用や有害性も教授する。	
準備学習(予習・復習) 授業内容を復習を通じて理解する。疑問があれば次回の講義日に質問する。	
内 容 第1回 薬理学の概論(薬理学とは?、薬物療法の目的、薬の効き方) 第2回 薬の作用と作用機序(薬物受容体、作動薬、拮抗薬、副作用) I 第3回 薬の作用と作用機序(薬物受容体、作動薬、拮抗薬、副作用) II 第4回 生理活性物質(生理活性アミン、神経性アミノ酸など) 第5回 中枢神経系の基礎的知識(構造と機能、神経伝達物質) 第6回 気分障害(鬱病、躁病)の病態と薬物療法(抗鬱薬) I 第7回 気分障害(鬱病、躁病)の病態と薬物療法(抗鬱薬) II 第8回 統合失調症の病態と薬物療法 I 第9回 統合失調症の病態と薬物療法 II 第10回 神経症、不眠症、心身症の病態と薬物療法 第11回 パーキンソン病の病態と薬物療法 第12回 癲癇(てんかん)の病態と薬物療法 第13回 アルツハイマー・認知症の病態と薬物療法 第14回 脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)の病態と薬物療法 第15回 偏頭痛の病態と薬物療法、全講義に対する質疑応答	
履修上の注意点 基礎的事項に関する理解を徹底する。疑問点は積極的に質問する。	
教科書	
参考書 医療薬学I.病態と薬物治療(1): 神経、内分泌・循環器 著者: 井上圭三 監修 出版社: 東京化学同人 出版年: 2000 ISBN: 80791166X わかりやすい薬理学 著者: 安原 一、小口勝司(編) 出版社: ヌーベルヒロカワ 出版年: 2014 ISBN: 9.78486E+12 最新基礎薬理学 著者: 竹内孝治、岡淳一郎(編) 出版社: 廣川書店 出版年: 2013 ISBN: 9.78457E+12	
成績評価	

h90101d810

試験・レポート (50)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

---



## 2017 Syllabus

科目名 生活支援学特論〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 村田 伸・白岩 加代子

テーマ

授業の到達目標

地域の概念を理解し、地域社会で自立した生活を営むために必要な支援法について理解し、自らの考えを主張できる。

授業の概要

地域社会生活に必要な支援法や障害予防への取り組みについて議論する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 授業のオリエンテーション、生活支援学とは
- 第2回 地域で生活することとは
- 第3回 地域における支援体制
- 第4回 障害予防の視点
- 第5回 安全で快適な暮らしについて考える
- 第6回 介護保険と生活支援
- 第7回 住環境整備1
- 第8回 住環境整備2
- 第9回 生活を支える福祉用具1
- 第10回 生活を支える福祉用具2
- 第11回 運動を習慣化させるためには
- 第12回 行動変容と多理論統合モデル
- 第13回 在宅におけるヘルスプロモーション
- 第14回 地域における障害予防への取り組み
- 第15回 学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 50 )

## 2017 Syllabus

科目名 **運動機能制御学特論 <M>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 横山 茂樹・崎田 正博

テーマ

運動機能制御のメカニズムとその機能・活動障害

授業の到達目標

運動機能制御に関わるメカニズムを理解するとともに、機能・活動障害との関連性を学修する。

授業の概要

運動感覚の特性について理解を深めるとともに、立位や歩行動作といった姿勢・基本動作に関わる制御機構について論考する。さらに転倒に起因する心理的・認知的・神経生理的側面の要因について、運動機能制御の視点から捉えて、そのメカニズムを検討する。

準備学習(予習・復習)

事前資料は熟読すること。講義中の議論を踏まえて、復習しておくこと。

内 容

- 第1回 感覚器系と運動感覚(1);関節感覚
- 第2回 感覚器系と運動感覚(2);筋感覚
- 第3回 感覚器系と運動感覚(3);皮膚感覚・他
- 第4回 運動感覚と中枢神経系機能
- 第5回 運動感覚と姿勢保持
- 第6回 運動感覚と身体運動
- 第7回 歩行メカニズムと運動感覚(1);正常歩行
- 第8回 歩行メカニズムと運動感覚(2);異常歩行
- 第9回 観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動制御の関連—身体機能的側面から—
- 第10回 観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動制御の関連—心理、認知的側面から—
- 第11回 観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動制御の関連—神経生理的側面から—
- 第12回 生活習慣病と転倒の関連性について
- 第13回 転倒危険因子改善プログラムのエビデンス① 運動プログラムを中心に
- 第14回 転倒危険因子改善プログラムのエビデンス② 心理・認知プログラムを中心に
- 第15回 転倒危険因子改善プログラムのエビデンス③ 動物実験モデルを中心に

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 30 )

参加度 ( 20 )

日程の3分の2以上の出席を求めます。

## 2017 Syllabus

科目名 発達障害特論 &lt;M&gt;

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠・大久保 千恵

テーマ

近年、本邦において認知されてきた軽度発達障害、とりわけ、高機能広汎性発達障害(HFPDD)、注意欠陥・多動症候群(ADHD)や学習障害(LD)を中心に、臨床心理学、発達心理学および障害児教育学などの関連分野から学際的接近を図る。また、単に、理論を学ぶだけではなく、実際に何らかの障害を有し、生活や学習に困難を生じている障害児・者に対する臨床的実践力の形成を目指す。具体的には、アセスメント、教育的面接法など総合的・包括的な支援のあり方について文献購読の精読や議論により探求する。

授業の到達目標

発達障害について臨床心理学、発達心理学および障害児保育・教育学などの関連分野から学際的接近を図る。

授業の概要

乳幼児期から児童期、青年期における発達障害について学ぶ。その際、単に、理論を学ぶだけではなく、実際に何らかの障害を有し、生活や学習に困難を生じている障害児・者に対する臨床的実践力の形成をめざす。具体的には、アセスメント、教育的面接法など総合的・包括的な支援のあり方について、文献の精読や議論により探求する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 発達障害とは
- 第2回 発達障害児・者の理解と心理的援助(1) —注意欠陥・多動性障害—
- 第3回 発達障害児・者の理解と心理的援助(2) —広汎性発達障害—
- 第4回 発達障害児・者の理解と心理的援助(3) —学習障害—
- 第5回 発達障害と他の障害 —精神障害との関連—
- 第6回 乳幼児期における発達障害の理解(1)—社会性の発達とその危機—
- 第7回 乳幼児期における発達障害の理解(2)—社会性発達のプロセススケール—
- 第8回 乳幼児期における発達障害の理解(3)—子どもの障害と発達援助の方法—
- 第9回 乳幼児期における発達障害の理解(4)—プロセススケールを用いた障害児保育—
- 第10回 乳幼児期における発達障害の理解(5)—発達障害の事例の検討—
- 第11回 特別支援教育とは—教育現場における発達障害—
- 第12回 青年期における発達障害の理解と心理的援助(1)—高機能広汎性発達障害の理解—
- 第13回 青年期における発達障害の理解と心理的援助(2)—高機能広汎性発達障害の支援—
- 第14回 家族の障害理解、受容および家族への心理的支援とは
- 第15回 援助者への心理的支援とは

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

授業の積極的参加度、発表内容および試験の総合評価とする。

## 2017 Syllabus

科目名 生活機能障害理学療法学特論 I &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 白岩 加代子・堀江 淳

## テーマ

加齢に伴う身体・精神・認知機能の変化と特性を理解し、高齢者の障害予防につながる対策について内部障害を中心に考える

## 授業の到達目標

高齢者の生活機能障害予防につながる対策について考案できるようになる。また、内部障害に対するリハビリテーションにつながる対策ができるようになる

## 授業の概要

加齢に伴う身体機能、心理・精神機能の変化が生活機能へ及ぼす影響について検討し、障害予防につながる対処法を考察する。また、高齢者特有に見られる疾患、特に、呼吸器疾患、循環器疾患などによる内部障害に着目し、理解を深める。さらに、生活機能障害に対する評価とその分析、アプローチ方法について学習する。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 加齢による身体機能の変化と特性
- 第2回 加齢による心理・精神機能の変化と特性
- 第3回 高齢者の身体機能評価および分析(演習)
- 第4回 高齢者の心理・精神機能およびQOLの評価と分析(演習)
- 第5回 老化による姿勢制御の変化から生活機能に及ぼす影響について考える
- 第6回 生活機能障害を有する高齢者に対する臨床的対処法
- 第7回 転倒予防の考え方と具体的な取り組み
- 第8回 呼吸器疾患とその障害の臨床的特徴
- 第9回 呼吸器疾患における生活機能障害の評価と分析(演習)
- 第10回 呼吸器疾患における生活機能障害の多次元的アプローチの展開
- 第11回 循環器疾患とその障害の臨床的特徴
- 第12回 循環器疾患における生活機能障害の評価と分析(演習)
- 第13回 循環器疾患における生活機能障害の多次元的アプローチの展開
- 第14回 代謝性疾患と生活機能障害の臨床的特徴とその評価と分析、多次元的アプローチの展開
- 第15回 加齢に伴う生活機能障害の捉え方と今後の展望(まとめ)

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション

著者： 日本ヘルスプロモーション理学療法学会 編集

出版社： 南江堂

出版年：

ISBN：

## 成績評価

試験・レポート ( 50 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 20 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 生活機能障害理学療法学特論Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 白岩 加代子・山野 薫・崎田 正博

テーマ

授業の到達目標

地域在住高齢者および障害者のADLとQOLの向上をはかる上で、理学療法を推進するためのリーダーとして活躍できるような実践的能力の基礎理論を習得し、それらの評価方法・解析方法アプローチ法を学修する。

授業の概要

地域在住高齢者の障害予防や健康維持・向上に対する取り組みや障害者の生活活動における動作の問題点抽出、身体的支援および環境支援における評価・解析・介入方法を学修する。また、障害者や高齢者に必要な福祉用具や自助具の理解と工夫を学修する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 高齢者や障害者を取り巻く社会状況について
- 第2回 住環境整備の役割と進め方
- 第3回 住環境整備の基本技術と手法
- 第4回 生活行為別にみた生活機能障害に対する環境支援や整備
- 第5回 障害別にみた生活機能障害に対する臨床的対処法
- 第6回 生活機能障害における生体力学(バイオメカニクス)の基礎理論
- 第7回 補装具を用いた座位姿勢・立位・歩行の生体力学的解析(演習)
- 第8回 補装具を用いた座位姿勢・立位・歩行の解析結果の解釈と問題点の抽出
- 第9回 日常生活用具やシーティングを用いた臥位・座位の生体力学的解析(演習)
- 第10回 日常生活用具やシーティングを用いた臥位・座位の解析結果と問題点の抽出
- 第11回 家屋内における生活機能障害の改善を目的とした福祉用具の活用
- 第12回 障害別にみた生活機能の改善に必要な介入手段の実践(演習)
- 第13回 屋外環境における問題点の捉え方および改善方法
- 第14回 生活機能改善を目的とした屋外における環境整備の実践(演習)
- 第15回 学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

生活環境学テキスト

著者: 村田伸・岡本加奈子・北島栄二 編集

出版社: 南江堂

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

## 2017 Syllabus

科目名 **運動器障害理学療法学特論 I <M>**

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹・演出 茂治	
テーマ 運動器疾患における機能障害に関する評価および治療	
授業の到達目標 運動器は、身体活動を遂行する上で常に重力下の影響を受けている。このため筋や関節に機械的ストレスを受けて、さまざまな機能障害が引き起こされる。本科目では、運動器障害による姿勢や運動連鎖の視点から身体運動の特性を理解した上で、運動器障害に対する評価から解析方法および効果的な理学療法について学修する。	
授業の概要 重力の影響を受ける姿勢や各関節や肢体間の運動連鎖が全身の身体運動に与える影響について理解する。さらには、運動器障害の評価手法や解析方法とその解釈、治療法と効果判定に関する研究方法論について指導する。	
準備学習(予習・復習) 事前に配布する資料を熟読しておいてください。	
内 容 第1回 オリエンテーション・運動の概念と原理 第2回 運動器障害の障害モデル 第3回 運動器障害と異常姿勢(アライメント計測)に関する評価(演習) 第4回 運動器障害と異常運動(関節角度・関節モーメント)に関する評価(演習) 第5回 運動器障害と異常関節運動(筋力)に関する評価(演習) 第6回 解析方法と結果の解釈 第7回 運動器障害と運動療法(1);体幹 第8回 運動器障害と運動療法(2);四肢 第9回 運動器障害に対する電気診断学的病態評価と解析(演習) 第10回 運動器障害に対する誘発筋電図による評価と解析(演習) 第11回 筋萎縮および関節拘縮に対する物理療法 第12回 筋・骨格系疼痛症状に対する物理療法 第13回 創傷に対する物理療法 第14回 運動機能再建を目的とした物理療法 第15回 討論;運動器障害における理学療法の課題	
履修上の注意点 全体の3分の2以上の出席を求めます。	
教科書	
参考書 運動機能障害症候群のマネジメントー理学療法評価・MSBアプローチ・ADL指導 著者: Shirley A. Sahrmann 出版社: 医歯薬出版 出版年: 2005 ISBN: 続運動機能障害症候群のマネジメントー頸椎・胸椎・肘・手・膝・足 著者: Shirley A. Sahrmann 出版社: 医歯薬出版 出版年: 2013 ISBN: 物理療法臨床判断ガイドブック 著者: 木村貞治 編集 出版社: 文光堂 出版年: 2007 ISBN:	
成績評価 試験・レポート ( 60 )	小テスト ( )



## 2017 Syllabus

科目名 **運動器障害理学療法学特論Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生	大学院1回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者	宮崎 純弥・甲斐 義浩	
テーマ	運動器系障害理学療法の評価・分析と治療について検討する。	
授業の到達目標	運動器障害、特に脊柱および四肢の関節障害に対する評価及び解析方法を学び、さらに効果的な理学療法について学修する。	
授業の概要	運動器障害を解剖学的視点と運動学的視点から捉え、定量的評価を行い、その結果を解釈したうえで、原因を追究し運動器障害が身体機能に及ぼす影響について学修し、議論する。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 講義のオリエンテーション・運動器障害の概念について</p> <p>第2回 脊柱の運動器障害に対する評価(Spinal Mouseを使用した姿勢分析)(演習)</p> <p>第3回 脊柱の運動器障害に対する評価(筋電図を使用した筋機能分析)(演習)</p> <p>第4回 脊柱の運動器障害に対する評価(重心動揺計を使用したバランス能力分析)(演習)</p> <p>第5回 解析方法と結果の解釈</p> <p>第6回 腰椎すべり・分離症に対する理学療法</p> <p>第7回 胸郭出口症候群に対する理学療法</p> <p>第8回 上肢関節(肩・肘・手関節)のバイオメカニクス</p> <p>第9回 上肢の3次元関節運動の測定(演習)</p> <p>第10回 上肢の3次元関節運動の解析</p> <p>第11回 上肢関節疾患に対する理学療法</p> <p>第12回 下肢関節(股・膝・足関節)のバイオメカニクス</p> <p>第13回 下肢の3次元関節運動の測定と解析(演習)</p> <p>第14回 下肢関節疾患に対する理学療法</p> <p>第15回 講義まとめ、学生によるプレゼンテーション</p>	
履修上の注意点	欠席は1/3以下にしてください。	
教科書		
参考書	<p>理学療法のクリティカルパス 上巻</p> <p>著者: David C.Saidoff</p> <p>出版社: エルゼビア・ジャパン</p> <p>出版年: 2008 ISBN:</p> <p>筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版</p> <p>著者: Donald A.Neumann</p> <p>出版社: 医歯薬出版</p> <p>出版年: 2012 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験・レポート ( 70 )</p> <p>授業中課題 ( )</p> <p>参加度 ( 10 )</p> <p>小テスト ( )</p> <p>授業中発表等 ( 20 )</p>	



## 2017 Syllabus

科目名 脳機能障害理学療法学特論 I &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 児玉 隆之・村田 伸

テーマ

授業の到達目標

我々は日常生活のあらゆる場面において認知機能を必要とする。しかし、加齢や脳卒中などの疾病によりその機能が低下した場合、さまざまな障害が引き起こされる。本科目では、それらの障害がもたらす身体的・心理的・社会的側面の変化を理解するための理論を習得し、それらの評価方法・解析方法・アプローチ法を学修する。

授業の概要

認知機能の仕組みを理解することを基本に、それらが障害されることで引き起こされる病態(認知症、高次脳機能障害など)や、日常生活上での問題(転倒など)について理解する。評価における研究手法の基礎を習得し、実験の計画・実施、データの解析・解釈、研究成果の発表方法に関する指導を行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 授業のオリエンテーション、認知機能と身体・心理機能との関連
- 第2回 事象関連電位の神経生理学的基盤
- 第3回 認知・行動機能・情報処理と事象関連電位
- 第4回 ヒトの認知機能の評価方法(事象関連電位から考える)
- 第5回 認知機能を事象関連電位を用いて計測する①(演習)
- 第6回 認知機能を事象関連電位を用いて計測する②(演習)
- 第7回 解析方法と結果の解釈
- 第8回 高次脳機能障害への介入方法
- 第9回 注意課題と脳血流動態の計測(演習)
- 第10回 注意課題と脳血流動態(要介護高齢者の特徴)
- 第11回 解析方法と結果の解釈
- 第12回 認知機能・注意機能評価方法の検証・開発
- 第13回 認知症予防の介入方法(運動療法)
- 第14回 認知症予防の介入方法(運動療法以外の取り組み)
- 第15回 脳機能障害の捉え方と今後の展望(まとめ)

履修上の注意点

教科書

参考書

事象関連電位—事象関連電位と神経情報科学の発展

著者: 丹羽真一・鶴紀子 編

出版社: 新興医学出版社

出版年: ISBN:

健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方

著者: 田口貞善 監修

出版社: 講談社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 脳機能障害理学療法学特論Ⅱ〈M〉

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 村田 伸・弓岡 光徳

テーマ

授業の到達目標

脳機能障害、とくに脳血管障害やパーキンソン病による身体障害の特徴を理解し、身体障害の評価から解析方法、およびその効果的な理学療法について学修する。

授業の概要

脳機能障害から生じる身体障害の評価方法を整理し、効果的な評価の視点を理解する。また、脳機能障害から生じる身体障害に対する運動学的視点からの理学療法を考察し、ファシリテーションテクニックについても議論する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 授業のオリエンテーション、脳機能障害から生じる身体障害の特徴
- 第2回 脳機能障害から生じる身体障害の評価(視覚による歩行分析)(演習)
- 第3回 脳機能障害から生じる身体障害の評価(歩行分析装置を用いた評価)(演習)
- 第4回 脳機能障害から生じる身体障害の評価(生活機能の評価)(演習)
- 第5回 解析方法と結果の解釈
- 第6回 脳機能障害から生じる身体障害の簡易的評価の開発1
- 第7回 脳機能障害から生じる身体障害の簡易的評価の開発2
- 第8回 学生によるプレゼンテーション、障害評価のまとめ
- 第9回 脳機能障害から生じる身体障害の理学療法の考え方
- 第10回 運動学と神経筋促通手技(ファシリテーションテクニック)(演習)
- 第11回 脳機能障害から生じる歩行障害に対する理学療法テクニック1
- 第12回 脳機能障害から生じる歩行障害に対する理学療法テクニック2
- 第13回 脳機能障害から生じるADL障害に対する理学療法テクニック1
- 第14回 脳機能障害から生じるADL障害に対する理学療法テクニック2
- 第15回 学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

ペリー歩行分析 正常歩行と異常歩行原著第2版

著者: Jacquelin Perry 著/武田功 監訳

出版社: 医歯薬出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験・レポート(30)

小テスト( )

授業中課題( )

授業中発表等(20)

参加度(50)

## 2017 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学特論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

授業の到達目標

心理学においてこれまでに検討されてきたさまざまなパーソナリティ理論について理解し、多様な人間理解の視点およびそれに基づく査定法の基本を身につける。また、臨床心理学的な立場からのパーソナリティ査定や、変化を援助するために必要な視点についても学び、パーソナリティ理解を深める。

授業の概要

さまざまなパーソナリティ理論の概観とパーソナリティの発達や病理などの諸側面の見立てについて学習し、プレゼンテーションやグループ討議、査定法の演習、事例を用いた面接技法演習などを交えて学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション: パーソナリティ理解の重要性
- 第2回 パーソナリティとは(概論)
- 第3回 パーソナリティ理論の基礎: 類型論・特性論
- 第4回 パーソナリティ理論と臨床: 力動的アプローチと人間性アプローチ
- 第5回 パーソナリティ理論と臨床: 認知行動的アプローチ
- 第6回 パーソナリティ査定: 質問紙法と投影法
- 第7回 パーソナリティと発達
- 第8回 パーソナリティと防衛
- 第9回 パーソナリティと感情
- 第10回 パーソナリティと同一化
- 第11回 パーソナリティと関係
- 第12回 パーソナリティとセルフエスティーム
- 第13回 パーソナリティと病因
- 第14回 パーソナリティ査定の実際
- 第15回 査定面接

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( )  
 授業中課題 ( 30 )  
 参加度 ( 30 )

小テスト ( )  
 授業中発表等 ( 40 )

## 2017 Syllabus

科目名 **発達心理学特論 <M>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

L.S.Vygotskyの「発達の文化-歴史的理論」について学ぶ。

授業の到達目標

L.S.Vygotskyによって提唱された「発達の文化-歴史的理論」について、その本質的な内容について理解を深める。

授業の概要

L.S.Vygotskyによって提唱された「発達の文化-歴史的理論」について講義をする。Vygotskyの「発達の文化-歴史的理論」は、「人間の高次心理機能は言葉によって媒介されている」という命題をその中心に置くものだが、講義では、人間の高次心理機能の発達を理解するにあたってこの命題がなぜ重要なのか、その方法論的な意義について明らかにする。とくに言語的思考を取り上げて、言語的思考とそれに支えられた心理諸機能のシステムの発達について、その具体的な様相と特徴を明らかにする。

準備学習(予習・復習)

特に、事前に当該文献の当該箇所を読んで授業に臨むこと。

内 容

- 第1回 L.S.Vygotsky: その生涯と業績
- 第2回 高次心理機能の言葉による媒介
- 第3回 高次心理機能の社会的起源
- 第4回 発生的・発達の・歴史的アプローチ
- 第5回 初期ヴィゴツキー理論における意識論の特徴
- 第6回 心理学の危機の歴史的意味
- 第7回 なぜ言葉なのか
- 第8回 なぜ概念的思考なのか
- 第9回 なぜ「最近接発達の領域」なのか
- 第10回 なぜ感情なのか
- 第11回 なぜ内言の意味なのか
- 第12回 なぜ想像なのか
- 第13回 なぜ文化-歴史的理論なのか
- 第14回 人間の具体的心理学
- 第15回 ヴィゴツキー理論の現代的意味

履修上の注意点

基本的に欠席・遅刻は認めない。やむを得ぬ事情で欠席する(欠席した)場合には、事前に(事後に)理由を申し出ること。

教科書

授業において指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

欠席が目立った場合には成績を評価しない(0点とする)。

## 2017 Syllabus

科目名 認知心理学特論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 川上 正浩

テーマ

授業の到達目標

広く認知心理学の知識を獲得したうえで、特に単語認知や記憶の過程を中心に、実験の計画を通して認知心理学実験を主体的に体験することを授業の目的とする。

授業の概要

認知心理学では、人間をコンピュータのような情報処理システムであるとみなし、人間の知的行動の特徴を明らかにしようとしている。ここでいう知的行動とは、自分の周囲のさまざまな世界を知る、わかる、ことを指している。本授業では、特に単語認知や記憶の過程を中心に、こうしたトピックに関する講義や実験を通して、認知心理学を実践的に学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン: 認知心理学とは
- 第2回 情報処理という考え方
- 第3回 知覚の成立過程
- 第4回 記憶のモデル(1)
- 第5回 記憶のモデル(2)
- 第6回 概念と知識(1)
- 第7回 概念と知識(2)
- 第8回 思考の過程(1)
- 第9回 思考の過程(2)
- 第10回 言語情報の処理(1)
- 第11回 言語情報の処理(2)
- 第12回 日本語情報処理の特殊性
- 第13回 実験の立案(1)
- 第14回 実験の立案(2)
- 第15回 総合討論

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (25)

授業中課題 ( )

参加度 (50)

小テスト ( )

授業中発表等 (25)

## 2017 Syllabus

科目名 学習・行動分析学特論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

科学的な検証により明らかになった行動の原理が、心理的諸問題の解決にどのように応用されているかについて学ぶ

授業の到達目標

動物の行動や学習に関する理論を基盤に、家庭、教育、医療現場におけるさまざまな問題の解決に対する行動分析学の実例を学び、方法論を身につける。

授業の概要

動物の行動が経験によってどのように形成され、変容するかについての理論を取り扱う。「レスポナント条件づけ」「オペラント条件づけ」「観察学習」等の諸理論を、具体的な実験を紹介しながら解説する。

準備学習(予習・復習)

各回の講義内容について教科書および参考書、事前配布プリントなどを予習しておくこと。

内 容

- 第1回 学習理論と行動分析学の概要説明
- 第2回 生得的行動と馴化
- 第3回 古典的条件づけの基本原理
- 第4回 古典的条件づけの理論と実験的研究
- 第5回 オペラント条件づけの基本原理
- 第6回 オペラント条件づけの理論と実験的研究
- 第7回 刺激性制御
- 第8回 刺激等価性
- 第9回 観察学習と模倣
- 第10回 行動分析と心理療法
- 第11回 言語行動
- 第12回 ルール支配行動
- 第13回 子どもの応用行動分析 家庭および教育現場における事例
- 第14回 成人の応用行動分析 医療および福祉における事例
- 第15回 応用行動分析学と倫理

履修上の注意点

受け身で受講するのではなく、内容について積極的なディスカッションを行うようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

授業中の積極的な発言や議論の内容についても評価の対象とします。

## 2017 Syllabus

科目名 **組織心理学特論 <M>**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 石田 正浩

テーマ

組織における人間理解の新旧の知見を考察する

授業の到達目標

組織心理学およびその基礎となる社会心理学の諸概念・理論と新たな研究動向を学び、現在の組織を生きる人間の心理・行動上の問題への対処を考える理論的な視点を獲得する

授業の概要

組織心理学のオーソドックスなテーマがどのように発展してきているのか、新しい学術論文の記事をピックアップし、従来の諸理論と新たな展開を解説し、今後の展望を含めて理論的および実践的意義を議論する。

準備学習(予習・復習)

次の時間に扱うテキストを配布するので、それを読んで自分の考えを整理してくる。

内 容

- 第1回 導入、組織心理学の新たな問題群の整理
- 第2回 性格と適性、心理テスト
- 第3回 ワークモチベーション1 内容理論の展開
- 第4回 ワークモチベーション2 内発的動機づけと自己決定理論
- 第5回 ワークモチベーション3 期待理論と目標設定理論
- 第6回 ワークモチベーション4 他者志向動機づけと動機づけの文化的考察
- 第7回 コミットメント1 ワークコミットメントの全体像
- 第8回 コミットメント2 組織コミットメントを中心としたコミットメント研究の動向
- 第9回 組織ストレス1 基本概念と新動向
- 第10回 組織ストレス2 ストレス・マネジメント
- 第11回 集団生産性1 集団パフォーマンス
- 第12回 集団生産性2 集団意思決定
- 第13回 リーダーシップ1 古典的理論の展開
- 第14回 リーダーシップ2 新動向
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 30 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 40 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **社会心理学特論〈M〉**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 前田 洋光

テーマ

近年における社会心理学の諸研究から、自らの研究を発展させる。

授業の到達目標

社会心理学の新しい研究に対して理解を深め、自身の修士論文をはじめとする研究を発展させる視点を養う。

授業の概要

以下に示したテーマについて講義を行うとともに、講義内容に対して発言を求め、討論をおこないながら進めていく。事前学習として、各回の授業内容について国内外の論文等を提示する。それらを読んでおき、議論に耐える知識を身につけておくことが求められる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 イントロダクション、現代における社会心理学の研究動向
- 第2回 社会的認知
- 第3回 社会的感情
- 第4回 自動性と無意識
- 第5回 身体化された認知
- 第6回 自己
- 第7回 二重過程理論
- 第8回 欺瞞的コミュニケーション
- 第9回 対人関係
- 第10回 社会的公正
- 第11回 信頼
- 第12回 ステレオタイプ・偏見・差別
- 第13回 集団討議
- 第14回 社会的ネットワーク
- 第15回 進化論的視点

履修上の注意点

基礎的な社会心理学の知識を有すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)



## 2017 Syllabus

科目名 応用社会心理学特論 &lt;M&gt;

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

「応用」という観点からの心理学研究の理解

授業の到達目標

社会心理学研究の成果を社会生活の向上のために利用するための応用的観点や方法論を習得する。

授業の概要

心理学は社会におけるさまざまな問題の解決に利用されている。企業組織、マーケティング、環境問題、交通問題など、その内容は多岐にわたり、それらの多くの研究の基礎を形成しているのが社会心理学であるが、この講義では社会心理学をベースにした応用研究を順次紹介しながら、心理学を現実的な問題解決に利用するための視点や実践力を身につける。

準備学習(予習・復習)

産業や社会生活に関して心理学研究を踏まえた問題解決の事例を出来る限り収集しておく。

内 容

- 第1回 社会心理学研究の応用とは？
- 第2回 社会心理学研究を応用するための方法
- 第3回 社会心理学研究の応用事例①(組織行動)
- 第4回 社会心理学研究の応用事例②(マーケティング)
- 第5回 社会心理学研究の応用事例③(消費者保護)
- 第6回 社会心理学研究の応用事例④(交通行動)
- 第7回 社会心理学研究の応用事例⑤(環境問題)
- 第8回 社会心理学研究の応用事例⑥(ボランティア行動)
- 第9回 社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案①(組織行動)
- 第10回 社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案②(マーケティング)
- 第11回 社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案③(消費者保護)
- 第12回 社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案④(交通行動)
- 第13回 社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案⑤(環境問題)
- 第14回 社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案⑥(ボランティア行動)
- 第15回 総合討論

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 20 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 臨床心理学特論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 通年 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・菅 佐和子・松下 幸治

テーマ

授業の到達目標

臨床心理学の主要理論および実践論・技法論を理解する

授業の概要

広く臨床心理学すなわち精神力動モデル、認知行動モデル、人間性心理学モデルを概観し、担当教員それぞれの理論的背景に基づいた心理臨床学的実践論・技法論を教授する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 心理療法の本質とは何か
- 第2回 精神力動モデル・認知行動モデル・人間性心理学モデルの起源と発展経過(1)
- 第3回 精神力動モデル・認知行動モデル・人間性心理学モデルの起源と発展経過(2)
- 第4回 学派の枠を越えて重視される基本的技法
- 第5回 「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(1)医療・看護・保健・リハビリ領域
- 第6回 「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(2)教育領域
- 第7回 「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(3)司法・福祉領域
- 第8回 「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(4)産業領域
- 第9回 分析心理学と元型(archetype)
- 第10回 治療的援助行為の「光」と「影」
- 第11回 無意識の神話産生機能
- 第12回 個人神話(personal myth)と神話付与者としての治療者
- 第13回 布置(constellation)を読む
- 第14回 治療者の姿勢としてのタブラ・ラサ(tabula rasa)
- 第15回 個性化の過程と全体性(wholeness)への道
- 第16回 人間性心理学とゲシュタルト療法
- 第17回 ゲシュタルト療法の基礎的理論
- 第18回 コンタクトが生じる境界
- 第19回 ゲシュタルト療法が指す神経症
- 第20回 「今・ここ(here and now)」中心のセラピー、ゲシュタルト療法の過程
- 第21回 ゲシュタルト療法による症例検討1(個人セラピー)
- 第22回 ゲシュタルト療法による症例検討2(グループセラピー)
- 第23回 ゲシュタルト療法を体験する(ミニワーク)
- 第24回 力動的心理療法の主要概念
- 第25回 力動的アセスメント
- 第26回 臨床的態度
- 第27回 治療構造論
- 第28回 自由連想
- 第29回 転移と抵抗
- 第30回 徹底操作

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート(40)

授業中課題( )

参加度(30)

小テスト( )

授業中発表等(30)

## 2017 Syllabus

科目名 臨床心理学面接特論 &lt;M&gt;

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 菅 佐和子・松下 幸治	
テーマ	
授業の到達目標	臨床心理学の理論に基づき、具体的な面接技法を習得する
授業の概要	臨床心理学的諸理論に基づき、より実践的な面接技法を教授する。ロールプレイを重視し、実際にカウンセラー体験およびクライアント体験を通して実践の場で治療的に活かせる面接技法を体得する。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 自分がクライアントの立場にたって考える</p> <p>第2回 望ましい応答/望ましくない応答</p> <p>第3回 クライアントの年代ごとの特徴を理解する---さまざまな発達理論を踏まえて</p> <p>第4回 幼児期・児童期を対象とする面接技法---遊戯療法</p> <p>第5回 思春期(中学生)を対象とする面接技法---中学生の「むずかしさ」</p> <p>第6回 事例論文を読み、ロールプレイを行う</p> <p>第7回 思春期(高校生)を対象とする面接技法</p> <p>第8回 事例論文を読み、ロールプレイを行う</p> <p>第9回 中学生と高校生の違いを理解する---言葉の成熟度</p> <p>第10回 青年期(大学生世代)を対象とする面接技法</p> <p>第11回 事例論文を読み、ロールプレイを行う</p> <p>第12回 高校生と大学生世代の違いを理解する---自己認識の深まり</p> <p>第13回 中年期~高齢期を対象とする面接技法---自分より年長者と向き合うとき</p> <p>第14回 事例論文を読み、ロールプレイを行う</p> <p>第15回 ここまでの「まとめ」と「振り返り」</p> <p>第16回 面接における基本的心得---その質の向上のために</p> <p>第17回 治療理論モデルの簡単な整理と「よくなる」ことについて</p> <p>第18回 援助目的論と専門家の役割</p> <p>第19回 治療者の聞く「耳」と患者の「耳」---心の声が聞こえやすくなるために</p> <p>第20回 生きた「人」として面接に臨む---心の生き場としての面接</p> <p>第21回 治療学としての休養学---休み上手にさす工夫</p> <p>第22回 記述不能としての面接の本質---「心」の相互活性化に向けて</p> <p>第23回 治療者の「心」の伝え方と相互人間化</p> <p>第24回 「心の整理」としての面接---“ありのままの自分”とその治療的意義</p> <p>第25回 体験過程と体験様式</p> <p>第26回 体験様式と体験内容</p> <p>第27回 「創造の病」と「創造による治癒」</p> <p>第28回 イメージ面接と「自由にして保護された空間」</p> <p>第29回 イメージ技法のさまざまな展開</p> <p>第30回 「面接論」のまとめと振り返り</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート ( 30 )	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( 30 )
参加度 ( 40 )	

## 2017 Syllabus

科目名 臨床心理査定演習 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 日比野 英子, 岩知道 志郎, 田中 芳幸

テーマ

臨床心理査定に関する理論や査定者としての態度の検討、理解、および査定技法の演習

授業の到達目標

心理的援助の方針決定や援助過程およびその効果の評価に関する情報収集のために実施される臨床心理査定の、理論モデルおよび種々の査定技法について学び、実践的な活用力を身に着けることを目的とする。

授業の概要

臨床心理査定の理論モデルや倫理的留意事項の理解を深めて、つぎに面接・観察・調査・心理検査等の技法について、実際に学ぶ。特に、検査法の質問紙法、知能検査・発達検査、投映法について詳しく学ぶ。

準備学習(予習・復習)

参考書としてあげたもの等の臨床心理査定に関する図書や各種心理検査マニュアルの熟読、および、演習した査定に関する自分なりの解釈や論考。

内 容

- 第1回 臨床心理査定概論
- 第2回 臨床心理行為全般における臨床心理査定
- 第3回 面接・観察・調査による臨床心理査定
- 第4回 臨床心理査定における心理検査の意義と限界
- 第5回 質問紙法に基づく心理検査の信頼性と妥当性
- 第6回 質問紙法に基づく心理検査の標準化
- 第7回 質問紙法に基づく心理検査の実際① YG性格検査など
- 第8回 質問紙法に基づく心理検査の実際② MMPIなど
- 第9回 臨床心理査定結果の報告
- 第10回 臨床心理査定における心理検査実施上の留意事項と倫理
- 第11回 知能検査と発達検査
- 第12回 WISC知能検査の知能観と特色、実施法
- 第13回 WISCの実施法の実際
- 第14回 WISCの集計と結果の解釈
- 第15回 新版K式発達検査2001の考え方と特色
- 第16回 新版K式発達検査2001の実施法
- 第17回 新版K式発達検査2001の集計法と結果の分析
- 第18回 新版K式発達検査2001の事例①
- 第19回 新版K式発達検査2001の事例②
- 第20回 知能検査・発達検査と発達相談
- 第21回 投映法の定義と分類・特徴
- 第22回 PFスタディ絵画欲求不満テストの基礎理論と実施法
- 第23回 PFスタディ絵画欲求不満テストの結果の処理と実施法
- 第24回 パウムテストの解釈と事例検討
- 第25回 ロールシャッハ・テストの実施法
- 第26回 ロールシャッハ・テストのさまざまな分析システム
- 第27回 ロールシャッハ・テストの片口法記号化
- 第28回 ロールシャッハ・テストの事例と記号化
- 第29回 ロールシャッハ・テストの解釈①カテゴリーとカテゴリー比率の解釈
- 第30回 ロールシャッハ・テストの解釈②継列分析

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎み、討議や演習に積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

h90101f910

試験・レポート ( 50 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 20 )

---

## 2017 Syllabus

科目名 臨床心理基礎実習 &lt;M&gt;

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中西 龍一・松下 幸治	
テーマ 臨床心理学実践の基礎的スキルを学ぶ	
授業の到達目標 面接実習、グループ体験、査定、学外研修と心理臨床家に求められる必要な基礎的スキル、体験、知見の獲得を目指す。また、臨床心理業務に携わるために必要な基本的感性を種々の感受性訓練を通して体験的に学ぶ。	
授業の概要 実習、体験、見学と内容は多義にわたるが、いずれも心理臨床家にとって不可欠なものである。心理療法の基礎となる傾聴技法をロールプレイによる実習形式で徹底的に体得するとともに、グループワークを通して学生個々が自己援助的内省を活性化でき、自己の気づきを高める。また以下の授業の他に受講生には、心理臨床センターのインターク陪席、インタークカンファレンス、ケースカンファレンスへの参加が求められる。	
準備学習(予習・復習) 十分な復習が必要となります。	
内 容 第1回 第1-2回 傾聴することの意味とは 第2回 第3-4回 面接をリードする四つのポイント(視線、身体言語、声、言語的追跡)とは 第3回 第5-6回 ロールプレイ(記録を映像に残す)とふり返り(映像記録を再生して) 第4回 第7-8回 面接に構造を与えるための質問とは 第5回 第9-10回 ロールプレイ(記録を映像に残す)とふり返り(映像記録を再生して) 第6回 第11-12回 最小限の励まし、言い換えと確認とは 第7回 第13-14回 ロールプレイ(記録を映像に残す)とふり返り(映像記録を再生して) 第8回 第15-16回 傾聴技法を用いた面接実習 インターク面接のロールプレイ 第9回 第17-18回 傾聴技法を用いた面接実習 コンサルテーションのロールプレイ 第10回 第19-20回 自己に気づく(構成的グループエンカウンター、及びSSTの体験) 第11回 第21-22回 自己に気づく(ゲシュタルトグループの体験) 第12回 第23-24回 心理臨床の実際 学外見学(医療) 第13回 第25-26回 心理臨床の実際 学外見学(医療)のふり返り 第14回 第27-28回 心理臨床の実際 学外見学(司法) 第15回 第29-30回 心理臨床の実際 学外見学(司法)のふり返り 第16回 第31-32回 「臨床心理行為」の基本的姿勢 第17回 第33-34回 マイクロカウンセリングの実践 第18回 第35-36回 要約技法—要約と歪曲 第19回 第37-38回 感情の反映—感情と情動への応答 第20回 第39-40回 意味の反映と焦点のあてかた 第21回 第41-42回 積極技法と対決技法 第22回 第43-44回 心理査定概説 第23回 第45-46回 心理査定の実践 第24回 第47-48回 イメージグループと体験様式の理解 第25回 第49-50回 「注意固定的」「外界志向的」姿勢から「内界志向的構え」の形成へ 第26回 第51-52回 「イメージ直面段階」から「イメージ体験段階」への変容 第27回 第53-54回 「イメージ受容段階」とイメージの自己治癒力 第28回 第55-56回 「中核的イメージ体験」の創造性と危険性 第29回 第57-58回 「臨床心理行為」の有害性と副作用 第30回 第59-60回 関わり技法に関するまとめと振り返り	
履修上の注意点 基本的に全回出席が求められます。	
教科書	
参考書	

成績評価

試験・レポート (20)

授業中課題 (0)

参加度 (80)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

## 2017 Syllabus

科目名 **ロールシャッハ事例研究〈M〉**

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 日比野 英子

テーマ

ロールシャッハ法による体験過程の分析

授業の到達目標

ロールシャッハ・テストのさまざまな事例において、被験者の体験過程・葛藤解決過程・表象形成過程を捉えることによって、動的なパーソナリティ理解を目指す。

授業の概要

第5回の授業までは、継列分析についての理解を深め、異なる病理水準の事例のロールシャッハ反応の記号化と量的分析・継列分析について学び、その後を受講生が授業外で施行した事例を基に、スコアリング・量的分析・継列分析の結果を発表し、指導者を中心に検討し、総合的解釈を行う。発表者は、分析と解釈をまとめて報告書として提出する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ロールシャッハ法継列分析
- 第2回 神経症水準の事例のスコアリングと量的分析
- 第3回 神経症水準の事例の継列分析
- 第4回 境界的人格構造の事例のスコアリングと量的分析
- 第5回 境界的人格構造の事例の継列分析
- 第6回 事例1の発表とスコアリングの検討
- 第7回 事例1の量的分析と継列分析
- 第8回 事例2の発表とスコアリングの検討
- 第9回 事例2の量的分析と継列分析
- 第10回 事例3の発表とスコアリングの検討
- 第11回 事例3の量的分析と継列分析
- 第12回 事例4の発表とスコアリング
- 第13回 事例4の量的分析と継列分析
- 第14回 事例5の発表とスコアリング
- 第15回 事例5の量的分析と継列分析

履修上の注意点

受講生は、授業の前に自身でロールシャッハテストを実施して、そのデータを記号化・解釈してから授業に臨むようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (40)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (40)



## 2017 Syllabus

科目名 分析心理学特論 &lt;M&gt;

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松下 幸治

テーマ

分析心理学の理論および心理臨床実践を理解する。

授業の到達目標

C.G.Jungが提唱した分析心理学について概観し、その実践的有用性を理解する。

授業の概要

ともすれば治療者自身が「空想虚言症(pseudologia phantastica)」的になり、被援助者を自らの自己中心的な空想から意のままに操ってしまう危険性について考える。すなわち、治療者の歪んだ空想(fantasy)からではなく生きた想像(imagination)によってのみ被援助者の自己治癒力は活性化されるという臨床的事実を理解する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 C.G.Jungと分析心理
- 第2回 元型(archetype)について
- 第3回 布置(constellation)を読む
- 第4回 完全性(perfection)と全体性(wholeness,totality)
- 第5回 タイプ論—外向と内向、4つの心理機能
- 第6回 個人的無意識と普遍的無意識
- 第7回 夢分析の実際
- 第8回 「個性化の過程(purocess of individuation)」について
- 第9回 治療者の影(shadow)
- 第10回 空想(fantasy)と想像(imagination)
- 第11回 個人神話(personal myth)の創造と病
- 第12回 「記号的意味解釈」と「象徴的意味解釈」
- 第13回 神話付与としての解釈
- 第14回 「死と再生」のモチーフ
- 第15回 正しさのもつ破壊性、偽りにひそむ創造性

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (30)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

## 2017 Syllabus

科目名 思春期臨床心理学特論 &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 菅 佐和子

テーマ

授業の到達目標

思春期を対象とする心理療法の方法論を学ぶ。

授業の概要

思春期は、子供から大人への過渡期であり、心身の急激な発達・変化の時期である。そのためさまざまな不適応現象が生じやすい。しかし、子供を対象とする遊戯療法にも大人を対象とする言語交流にも適応しにくいという、きわめて対応のむづかしい時期である。この時期に適した心理療法の方法論を具体例を通して習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ライフサイクルにおける思春期の位置づけ
- 第2回 pubertyとしての思春期/adolescenceとしての思春期
- 第3回 遊戯療法か言語交流(カウンセリング)かという二分法を脱却する
- 第4回 非言語的アプローチ/非言語的アプローチの併用技法
- 第5回 思春期の若者を取り巻く家庭・学校の様相
- 第6回 家庭におけるストレスを理解する
- 第7回 第二反抗期をめぐって
- 第8回 学校におけるストレスを理解する
- 第9回 「いじめ」について考える
- 第10回 事例研究を通して学ぶ(「いじめ」の事例)
- 第11回 事例研究を通して学ぶ(不登校の事例)
- 第12回 事例研究を通して学ぶ(心身症の事例)
- 第13回 事例研究を通して学ぶ(対人恐怖の事例)
- 第14回 事例研究を通して学ぶ(摂食障害の事例)
- 第15回 「まとめ」と「振り返り」

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 40 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 30 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 30 )

## 2017 Syllabus

科目名 **グループアプローチ特論 <M>**

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 龍一

テーマ

グループアプローチ心理学

授業の到達目標

セラピーグループを形成し展開するための知識と技法の習得を目的とする。

授業の概要

一般的なグループの形成、成長といったグループプロセスの理論、およびさまざまなグループの展開技法を学んだ後、実際にグループを体験することで学びを確かなものとする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 臨床心理学におけるグループとは
- 第2回 療法的因子と対人学習
- 第3回 グループの凝集性
- 第4回 グループセラピストの基本的課題
- 第5回 グループセラピストの役割
- 第6回 グループセラピストの技法
- 第7回 グループプロセスとは
- 第8回 グループ構築の実際1(グループ構成の諸原則)
- 第9回 グループ構築の実際2(グループの構造)
- 第10回 グループの形成的段階 初期
- 第11回 グループの形成的段階 中期
- 第12回 グループの形成的段階 後期 終結
- 第13回 グループ共通の問題を解決するには
- 第14回 様々なグループ
- 第15回 グループを体験する

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 30 )

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 ( 50 )

参加度 ( 20 )

## 2017 Syllabus

科目名 **健康科学特別研究Ⅱ <Ma>**

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

修士論文作成のための研究指導を行います。

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

試験、レポート、小テストには、修士論文のための研究、論文作成も含まれます。

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ〈Mb〉

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mc&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1-18回 データ収集
- 第2回 第19-30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31-39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40-42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43-45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46-72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73-80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81-83回 修士論文の修正
- 第9回 第84-86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87-90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ〈Md〉

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ〈Me〉

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (10)

参加度 (20)



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mf&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1-18回 データ収集
- 第2回 第19-30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31-39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40-42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43-45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46-72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73-80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81-83回 修士論文の修正
- 第9回 第84-86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87-90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mg&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1-18回 データ収集
- 第2回 第19-30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31-39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40-42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43-45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46-72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73-80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81-83回 修士論文の修正
- 第9回 第84-86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87-90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mh&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1-18回 データ収集
- 第2回 第19-30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31-39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40-42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43-45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46-72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73-80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81-83回 修士論文の修正
- 第9回 第84-86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87-90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mi&gt;

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀江 淳

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mj&gt;

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

小テスト ( )

授業中課題 ( )

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mk&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 村田 伸

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 70 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 10 )

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;MI&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (10)

## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mm&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 兒玉 隆之

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1－18回 データ収集
- 第2回 第19－30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31－39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40－42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43－45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46－72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81－83回 修士論文の修正
- 第9回 第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87－90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート ( 70 )

授業中課題 ( )

参加度 ( 20 )

小テスト ( )

授業中発表等 ( 10 )



## 2017 Syllabus

科目名 健康科学特別研究Ⅱ &lt;Mn&gt;

クラス 配当回生 大学院2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 第1-18回 データ収集
- 第2回 第19-30回 データ入力と統計処理
- 第3回 第31-39回 結果の分析・考察
- 第4回 第40-42回 修士論文の骨子の作成
- 第5回 第43-45回 中間発表(合同)
- 第6回 第46-72回 修士論文の執筆
- 第7回 第73-80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
- 第8回 第81-83回 修士論文の修正
- 第9回 第84-86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
- 第10回 第87-90回 研究発表と討論(合同)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (70)

授業中課題 ( )

参加度 (20)

小テスト ( )

授業中発表等 (10)

## 2017 Syllabus

## 科目名 臨床心理実習〈M〉

クラス	配当回生 大学院2回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	

## テーマ

## 授業の到達目標

学内実習および学外(病院・学校)実習において実際に事例を担当し、心理査定・心理面接・集団療法・インテークカンファレンスでの討論・ケースカンファレンスでの事例報告と討論等を実践的に学ぶ。実際の事例担当については臨床心理士教員によるスーパーヴィジョンを受け、自身の課題と向き合う。受講生は学内実習の担当事例について事例報告を執筆し、その報告は『京都橋大学心理臨床センター心理相談研究』(紀要)に掲載される。なお、以下の授業計画は、学内外の実習機関や担当事例の都合により順序が前後する可能性がある。

## 授業の概要

学内実習および学外(病院・学校)実習において実際に事例を担当し、心理査定・心理面接・集団療法・インテークカンファレンスでの討論・ケースカンファレンスでの事例報告と討論等を実践的に学ぶ。実際の事例担当については臨床心理士教員によるスーパーヴィジョンを受け、自身の課題と向き合う。受講生は学内実習の担当事例について事例報告を執筆し、その報告は『京都橋大学心理臨床センター心理相談研究』(紀要)に掲載される。なお、以下の授業計画は、学内外の実習機関や担当事例の都合により順序が前後する可能性がある。

## 準備学習(予習・復習)

## 内 容

- 第1回 第1-2回 オリエンテーション・学内実習と学外実習の事前指導  
 第2回 第3-4回 インテーク・カンファレンスへの参加・討論①  
 第3回 第5-6回 学内実習とスーパーヴィジョン  
 第4回 第7-8回 学外実習とスーパーヴィジョン  
 第5回 第9-10回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論②  
 第6回 第11-12回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論③  
 第7回 第13-14回 学内実習とスーパーヴィジョン  
 第8回 第15-16回 学外実習とスーパーヴィジョン  
 第9回 第17-18回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論④  
 第10回 第19-20回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑤  
 第11回 第21-22回 学内実習とスーパーヴィジョン  
 第12回 第23-24回 学外実習とスーパーヴィジョン  
 第13回 第25-26回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑥  
 第14回 第27-28回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑦  
 第15回 第29-30回 学内実習とスーパーヴィジョン  
 第16回 第31-32回 学外実習とスーパーヴィジョン  
 第17回 第33-34回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑧  
 第18回 第35-36回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑨  
 第19回 第37-38回 学内実習とスーパーヴィジョン  
 第20回 第39-40回 学外実習とスーパーヴィジョン  
 第21回 第41-42回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑩  
 第22回 第43-44回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑪  
 第23回 第45-46回 学内実習とスーパーヴィジョン  
 第24回 第47-48回 学外実習とスーパーヴィジョン  
 第25回 第49-50回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑫  
 第26回 第51-52回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑬  
 第27回 第53-54回 学内実習とスーパーヴィジョン  
 第28回 第55-56回 学外実習とスーパーヴィジョン  
 第29回 第57-58回 インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告・討論⑭  
 第30回 第59-60回 年間担当事例報告

## 履修上の注意点

## 教科書

## 参考書

臨床心理実習論

著者: 大塚義孝・岡堂哲雄・東山紘久・下山晴彦 監修

h90102g110

出版社：誠信書房

出版年：

ISBN：

---

成績評価

試験・レポート（20）

授業中課題（ ）

参加度（50）

小テスト（ ）

授業中発表等（30）

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語 I &lt;a&gt;

クラス	配当回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ	
日本語運用能力の向上	
授業の到達目標	
生活全般および大学での学習活動に必要な理解力、表現力を身につける。	
授業の概要	
ACTFL-OPI(全米外国語教育協会 口頭表現能力測定) advance(上級)からSuperior(超級)の口頭表現能力をめざす。スピーチ、ロールプレー、ディスカッション、朗読練習などの活動を通して、必要な表現方法を身につける。	
準備学習(予習・復習)	
次回の授業内容のプリントを配布するので予習すること。学習内容の復習問題を配布するので取り組むこと。スピーチ課題の準備をすること。学期内で3回実施する朗読練習のための準備や練習をすること。	

## 内 容

- 第1回 詳細な情景描写  
 第2回 自分の国の行事紹介  
 第3回 困った状況への対応と交渉  
 第4回 構成を考えた簡潔で分かりやすい説明(場所の紹介)  
 第5回 複雑な内容をわかりやすく伝える 朗読練習①  
 第6回 場面、状況に適した説明  
 第7回 異なる視点から意見を述べる 論理的な説明の方法  
 第8回 抽象的で複雑な制度を説明する 段落ごとの話題を明示する  
 第9回 討論(理由を述べて反論する 説得力のある話し方)  
 第10回 相談と助言(因果関係の説明 社会的な話題の論理的説明) 朗読練習②  
 第11回 他の人の話を引用して詳細に描写する  
 第12回 複眼的視点で意見を述べる(異なる意見を尊重した話し方)  
 第13回 朗読練習③  
 第14回 発表活動  
 第15回 まとめ

## 履修上の注意点

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

日本語上級話者への道-きちんと伝える技術と表現

著者: 荻原稚佳子他

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2005

ISBN:

日本語超級話者へのかけはし-きちんと伝える技術と表現

著者: 荻原稚佳子他

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2007

ISBN:

1日10分の発音練習

著者: 河野俊之他

出版社: くろしお出版

出版年: 2004

ISBN:

中上級向け日本語教材 日本文化を読む

著者： 京都日本語教育センター

出版社： アルク

出版年： 2012

ISBN:

上級者向け日本語教材 日本文化を読む

著者： 京都日本語教育センター

出版社： アルク

出版年： 2008

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート（20%）

小テスト（20%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（30%）

参加度（10%）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語 I &lt;b&gt;

クラス	配当回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ 日本語を話す力を伸ばす	
授業の到達目標 1. 上級の会話能力をつける 2. ディスカッションに慣れる 3. 様々な発表ができる	
授業の概要 1対1の会話から多数を前にしての発表、またディスカッションなど、さまざまな口頭練習を行う。	
準備学習(予習・復習) 発表原稿を作り、発表の準備をする。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 好きなシーンを話す① 第3回 好きなシーンを話す② 第4回 好きなシーンを話す③ 発表 第5回 困った状況を伝えて交渉する① 第6回 困った状況を伝えて交渉する② 第7回 異なる視点から意見を言う① 第8回 異なる視点から意見を言う② 第9回 ディスカッション① 第10回 ディスカッション② 第11回 ディスカッション③ 第12回 ディスカッション④ 第13回 意見発表① 第14回 意見発表② 第15回 期末試験	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業中適宜指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (20) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。まお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。	

## 2017 Syllabus

科目名 日本語Ⅱ &lt;a&gt;

クラス	配当回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ	
日本語運用能力の向上	
授業の到達目標	
生活全般および大学での学習活動に必要な、理解力、表現力を身につける。	
授業の概要	
ACTFL-OPI(全米外国語教育協会 口頭表現能力測定) Advance(上級)以上の口頭表現能力をめざす。スピーチ、ディスカッション、ロールプレーなどの活動を通して、必要な表現を身につける。	
準備学習(予習・復習)	
次回の授業内容のプリントを配布するので予習すること。学習内容の復習問題を配布するので取り組むこと。スピーチ課題などの準備をすること。	
内容	
第1回 授業概要説明 今の自分の力を確認する 場面に応じた自己紹介の方法	
第2回 構成を考えた話し方(町の様子を話す)	
第3回 順序や手順の説明(動作の流れの説明、ゲームや料理などの手順の説明)	
第4回 比較して良さを伝える(商品説明)	
第5回 分かりやすい言葉への言い換え 自動詞と他動詞の使い分け	
第6回 ストーリー説明(接続表現の効果的な使い方)	
第7回 出来事をわかりやすく伝える。感情を生き生き伝える	
第8回 社会的な話題を論理的に話す	
第9回 理由や背景とともに自分の考えを説明する	
第10回 具体的な数値を示して社会の動きを説明する(グラフや表のわかりやすい説明)	
第11回 心情を表す表現を使いこなす 感情的にならずに気持ちを客観的に示す	
第12回 相談と助言(不満に対して異なる視点を示す 相手に同調して話を聞く)	
第13回 朗読練習	
第14回 発表活動	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
日本語上級話者への道—きちんと伝える技術と表現	
著者: 荻原稚佳子他	
出版社: スリーエーネットワーク	
出版年: 2005	ISBN:
日本語超級話者へのかけはし—きちんと伝える技術技術と表現	
著者: 荻原稚佳子他	
出版社: スリーエーネットワーク	
出版年: 2008	ISBN:
1日10分の発音練習	
著者: 河野俊之他	
出版社: くろしお出版	
出版年: 2004	ISBN:

中上級向け日本語教材 日本文化を読む

著者： 京都日本語教育センター編

出版社： アルク

出版年： 2012

ISBN:

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

---

成績評価

試験・レポート (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (10%)

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

---



## 2017 Syllabus

科目名 日本語Ⅱ &lt;b&gt;

クラス	配当回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ 日本語を聞く力を伸ばす	
授業の到達目標 1. 講義で使われる語彙、表現を身につける。2. ドキュメンタリー番組の視聴になれる。3. 聞き取った内容をまとめる力をつける。	
授業の概要 1. 講義の聞き取りを行い、使用されている語彙や表現を理解し、運用できるものを増やす。2. ドキュメンタリー番組を視聴し、タスクに答えるとともに内容についてディスカッションを行ったり、意見文を書いたりする。	
準備学習(予習・復習) 語彙の意味を調べ、覚える。意見文をまとめる。	
内 容 第1回 オリエンテーション アカデミックジャパニーズ① 第2回 アカデミックジャパニーズ② 第3回 アカデミックジャパニーズ③ 第4回 アカデミックジャパニーズ④ 第5回 アカデミックジャパニーズ⑤ 第6回 ドキュメンタリー番組① 第7回 アカデミックジャパニーズ⑥ 第8回 アカデミックジャパニーズ⑦ 第9回 アカデミックジャパニーズ⑧ 第10回 ドキュメンタリー番組② 第11回 アカデミックジャパニーズ⑨ 第12回 アカデミックジャパニーズ⑩ 第13回 ドキュメンタリー番組③ 第14回 期末試験 第15回 授業ふりかえり	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 授業中適宜指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (20) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 ( ) 参加度 (30) 出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。まお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。	

## 2017 Syllabus

科目名 日本語Ⅲ &lt;a&gt;

クラス	配当回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ	
日本語運用能力の向上	
授業の到達目標	
映像教材、聴解教材及びニュースを通して、社会一般で扱われる内容が理解できることをめざす。また、それに必要となる基本的文法を理解し、運用できることをめざす。	
授業の概要	
講義、対談、日常会話、ニュースなどの聴解練習を通し、語彙、文法、表現の特徴などの基本を理解する。それらを踏まえて、日本語能力試験N1レベルで求められる、社会の幅広い場面での聴解能力を身につける。	
準備学習(予習・復習)	
予習： 次回の授業内容のプリントを事前配布するので取り組んでおく。復習： 授業で扱った語彙や文法、表現などの復習問題に取り組む。	
内 容	
第1回	授業概要説明、今の自分の力を知る(ニュースを聞く、まとまった話を聞く)
第2回	映像教材(15分程度)の理解
第3回	聴解教材(対談、会話など)の理解
第4回	ニュースの内容の聞き取り
第5回	聴解教材(講義内容)の理解
第6回	映像教材(15分程度)の理解
第7回	ニュースの内容の聞き取り
第8回	聴解教材(対談、会話など)の理解
第9回	映像教材(15分程度)の理解
第10回	聴解教材(講義など)の理解
第11回	ニュースの内容の聞き取り
第12回	聴解教材(対談、会話など)の理解
第13回	映像教材(15分程度)の理解
第14回	ニュースの内容の聞き取り
第15回	まとめ
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
留学生のためのアカデミックジャパニーズ 聴解 中上級	
著者: 東京外国語大学留学生日本語教育センター	
出版社: スリーエーネットワーク	
出版年: 2014	ISBN:
留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 上級	
著者: 東京外国語大学留学生日本語教育センター	
出版社: スリーエーネットワーク	
出版年: 2015	ISBN:
ニュースの日本語聴解50	
著者: 瀬川由美他	
出版社: スリーエーネットワーク	
出版年: 2010	ISBN:

成績評価

試験・レポート（30%）

小テスト（30%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（10%）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語Ⅲ &lt;b&gt;

クラス	配当回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ 日本語を話す力を伸ばす	
授業の到達目標 1. 場面や意図に合わせた口頭表現能力をつける。2. 談話構成に注意した話し方ができるようになる。3. 短い発表ができるようになる。	
授業の概要 1. 場面や意図に合わせた語彙、表現を学習し、実際にどのような会話ができるか考え、実践する。2. 身近なトピックについて発表する練習をする。	
準備学習(予習・復習) 1. 語彙、表現を調べ、覚える。2. 発表原稿を完成し、発表の準備をする。	
内 容 第1回 オリエンテーション 縮約形等 第2回 会話の表現 第3回 『日本語生中継 中上級』1. 伝言 第4回 『日本語生中継 中上級』2. 許可 第5回 『日本語生中継 中上級』4. 情報、判断を伝える 第6回 『日本語生中継 中上級』5. 依頼 第7回 スピーチ準備 第8回 『日本語生中継 中上級』6. 文句 第9回 『日本語生中継 中上級』7. 提案 第10回 スピーチ 第11回 インタビュー準備 第12回 インタビュー実施 第13回 インタビューまとめ、練習 第14回 インタビュー発表 第15回 期末試験	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 授業中適宜指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験・レポート (20) 小テスト ( ) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) 出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。まお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。	

## 2017 Syllabus

科目名 日本語Ⅳ &lt;a&gt;

クラス	配当回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ	
日本語運用能力の向上	
授業の到達目標	
生活全般および大学での学習に必要な基礎的な理解力、表現力を身につける。	
授業の概要	
大学での勉強や生活に必要な、基本的な聴解能力の向上に重点を置く。映像教材、聴解教材、ニュースなどを通して、基本的な語彙、表現、文法などを身につける。	
準備学習(予習・復習)	
予習: 次回授業で扱う内容のプリントを配布するので、その問題に取り組む。復習: 授業で扱った内容の復習問題を配布するのでそれに取り組む。	
内 容	
第1回 今の自分の力を確認する。説明内容の聞き取り、会話内容の聞き取り練習。	
第2回 数量、形状の聞き取り。カタカナ語の聞き取り。	
第3回 順序・手順に関する聞き取り。まとまりのある内容の聞き取り。	
第4回 ニュース①(事件、事故、気象情報)	
第5回 ニュース②(経済)	
第6回 ニュース③(社会一般)	
第7回 ニュース④(政治)	
第8回 ニュース⑤(科学技術)	
第9回 ニュース⑥(医療、福祉)	
第10回 ニュース⑦(医療、福祉)	
第11回 ニュース⑧(教育)	
第12回 ニュース⑨(文化)	
第13回 ニュース⑩(身近な話題)	
第14回 発表活動	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
ニュースで学ぶ日本語パートⅡ	
著者: 堀歌子他	
出版社: 凡人社	
出版年: 1998	ISBN:
ニュースの日本語聴解50	
著者: 瀬川由美他	
出版社: スリーエーネットワーク	
出版年: 2010	ISBN:
中級からはじめるニュースの日本語聴解40	
著者: 瀬川由美他	
出版社: スリーエーネットワーク	
出版年: 2013	ISBN:
成績評価	

試験・レポート（30%）

小テスト（10%）

授業中課題（30%）

授業中発表等（20%）

参加度（10%）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

---

## 2017 Syllabus

科目名 日本語Ⅳ &lt;b&gt;

クラス	配当回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ 日本語を聞く力を伸ばす	
授業の到達目標 1. 自然なスピードの会話を聞き取る力をつけると同時に語彙、表現を増やす。2. ニュースを聞き取る力をつける。	
授業の概要 会話とニュースのCDを聞き、様々なタスクに答える。	
準備学習(予習・復習) 語彙の意味を調べ、覚える。	

## 内 容

- 第1回 オリエンテーション 『日本語生中継 中上級』1. 伝言  
 第2回 『日本語生中継 中上級』3. 許可  
 第3回 『日本語生中継 中上級』4. 情報  
 第4回 『日本語生中継 中上級』5. 依頼  
 第5回 『日本語生中継 中上級』6. 文句  
 第6回 『日本語生中継 中上級』7. 提案  
 第7回 中間試験  
 第8回 『ニュースの日本語 聴解40』①  
 第9回 『ニュースの日本語 聴解40』②  
 第10回 『ニュースの日本語 聴解40』③  
 第11回 『ニュースの日本語 聴解40』④  
 第12回 『ニュースの日本語 聴解40』⑤  
 第13回 『ニュースの日本語 聴解40』⑥  
 第14回 期末試験  
 第15回 授業ふりかえり

## 履修上の注意点

## 教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 参考書

授業中適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

## 成績評価

試験・レポート (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ( )

参加度 (20)

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。まお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。

## シラバス

講義名称 課題研究 I &lt;Mg&gt;

クラス 配当回生 大学院 1 回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

文化政策と公共経営に関する研究

授業の到達目標

院生の研究テーマ決定を指導し、かつアカデミック・ライティングのスキルをも学ばせることにより、院生が計画的に調査・研究を進められるようにする。

授業の概要

院生がそれぞれの研究成果や報告等を発表し、それを前提にして、討論と指導を行う。文化政策をはじめ様々な領域での公共経営に関する具体的な課題に取り組みながら、「マネジメント研究の方法と倫理」において学ぶ研究手法とも連携して、文献検索や資料調査などそれぞれの領域に応じた研究調査の方法を実践の中で修得するとともに、アカデミック・ライティングのスキルを身につけ、課題研究 II 以降で各自が行う研究の準備を進める。

準備学習（予習・復習）

研究報告の要請に素早く対応できるよう地震の研究活動をすすめる必要がある。

内容

院生が、文化政策等の諸領域における公共経営に関する調査・研究の成果を順次発表し、これを受けて、討論と指導を行う。

履修上の注意点

幅広い視野を養うため、他の受講生の研究領域についても積極的に関与することが必要である。

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート 小テスト

授業中課題 30 授業中発表等 40

参加度 30



## シラバス

講義名称 助産学実習

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 工藤 里香.上澤 悦子.神崎 光子.常田 裕子

## テーマ

母子看護活動における助産師の役割ならびに社会的責任を理解し、周産期にある母児ならびにその家族の尊厳と権利を擁護しながら、ニーズに応じた看護を実践できる能力を養う

## 授業の到達目標

1 周産期にある母児とその家族について妊娠・分娩・産褥経過に沿ってアセスメントし、健康の増進、疾病予防に必要な看護を実践できる 1) 妊婦と胎児の妊娠経過をアセスメントし、看護が実践できる 2) 産婦と胎児の分娩経過をアセスメントし、看護が実践できる 3) 産婦の産褥経過をアセスメントし、看護が実践できる 4) 新生児の子宮外生活の適応をアセスメントし、看護が実践できる 5) 母児とその家族の退院後の生活をアセスメントし、育児支援が実践できる 6) 一か月健診における母児とその家族をアセスメントし、看護が実践できる 2 母子看護活動における医療・社会資源、チーム医療のあり方について理解し、保健医療福祉サービスの継続性（連携）について考えることができる 3 産科救急の特徴と救急処置ならびに産科手術の特徴と介助方法を理解できる 4 助産師としての倫理観、看護観を述べることができる

## 授業の概要

周産期看護を根拠に基づいて計画的に実践し、妊娠期・分娩期・産褥期の看護過程の展開を行う

## 準備学習（予習・復習）

実践看護学Ⅲ-5、助産診断学、助産技術学、看護管理学ⅡB 等で指定したテキストや参考書の他、周産期関連の書籍を用いて知識をまとめた上で実習に臨むこと

## 内容

【実習期間】 6月1日～7月31日（分娩介助が10例に達しない場合は、実習期間を延長する） 【実習内容】 1 10例の分娩介助 2 間接介助、新生児介助 3 産褥期の看護過程の展開 4 1例の妊娠期から1か月健診までの継続事例の受け持ち 5 カンファレンス 1) 実習病院において、適宜カンファレンスを実施する 2) 学内カンファレンスは、実習期間中に2回実施する（実習状況により開催日程を変更することがある） 6 レポート：実習総括として、レポートを作成する

## 履修上の注意点

1 教員が必要と認めた場合は補習講義を行うことがある 2 再実習は行わない

教科書	著者	出版社	出版年
使用しない			

参考書	著者	出版社	出版年
助産師基礎教育テキスト1～7	遠藤俊子 他	日本看護協会出版	2017
新訂第4版 マタニティアセスメントガイド	吉沢豊予子 他	真興交易(株)医書出版部	2016
改訂2版 胎児心拍数モニタリング講座 大事なサインを見逃さない！	藤森敬也	メディカ出版	2011
今日の助産-マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版	北川真理子 他	南江堂	2013

---

成績評価

試験・レポート

授業中課題

参加度

小テスト

授業中発表等

## シラバス

講義名称 課題研究Ⅱ &lt;Mg&gt;

クラス 配当回生 大学院 1 回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

文化政策と公共経営に関する研究

授業の到達目標

院生の研究テーマ決定を指導し、かつアカデミック・ライティングのスキルをも学ばせることにより、院生が計画的に調査・研究を進められるようにする。

授業の概要

院生がそれぞれの研究成果や報告等を発表し、それを前提にして、討論と指導を行う。修士論文の作成に向け、各自の研究課題を設定したうえで、課題研究Ⅰにおける実践によって修得した調査研究方法を活用して、資料収集を行う。とくに、各自の研究課題に深く関連する先行研究について、調査、検討し、リサーチ・クエスチョンを明確にするとともに、それに適した研究方法について明らかにする。

準備学習（予習・復習）

日常から資料の収集・整理等を実践的に行うことが必要である。

内容

院生が、文化政策等の諸領域における公共経営に関する調査・研究の成果を順次発表し、これを受けて、討論と指導を行う。

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

成績評価

試験・レポート

小テスト

授業中課題 30

授業中発表等 40

参加度 30

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <a>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	梶谷 佳子
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <b>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	中橋 苗代
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <c>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	岡田 純子
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <d>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	奥野 信行
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <e>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	野島 敬祐
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----



## シラバス

講義名称	総合看護学実習 < f >
------	---------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	マルティネス 真喜子
-----	------------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <g>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	望月 紀子
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <h>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	深山 つかさ
-----	--------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <i>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	松本 賢哉
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <j>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	中島 登美子
-----	--------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <k>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	堀 妙子
-----	------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <1>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	竹下 夏美
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <m>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	神崎 光子
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----



## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <n>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	工藤 里香
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <o>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	常田 裕子
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <p>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	上澤 悦子
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <q>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	富永 真己
-----	-------

## テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

## 授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

実習内容は、担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <r>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	その他	定員
------	-----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	(閉講：開⇒閉)
-----	----------

テーマ
-----

## 授業の到達目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。  
3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 授業の概要

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	総合看護学実習 <s>
------	-------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	その他	定員
------	-----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	(閉講：開⇒閉)
-----	----------

テーマ
-----

## 授業の到達目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。  
3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

## 授業の概要

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

## 準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

## 内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称 課題研究(リサーチ・プロジェクト)Ⅲ &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院 2 回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小森 治夫,今久保 幸生,北村 義典,木下 達文,河野 良平,小暮 宣雄,阪本 崇,松本 正富

## テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究

## 授業の到達目標

院生が研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする

## 授業の概要

院生が研究成果を順次発表し、討論と指導を行う 博士前期課程 1 回生と合同で行う 月 2 回（原則、第 2 水曜日、第 4 土曜日）に、2 コマ分を使い、研究会方式で運営する

## 準備学習（予習・復習）

## 内容

院生が、建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究の成果を発表し、討論と指導を行う

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート

小テスト

授業中課題 30

授業中発表等 40

参加度 30

## シラバス

講義名称 課題研究(リサーチ・プロジェクト)IV &lt;M&gt;

クラス 配当回生 大学院 2 回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小森 治夫,今久保 幸生,北村 義典,木下 達文,河野 良平,小暮 宣雄,阪本 崇,松本 正富

## テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究

## 授業の到達目標

院生が研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする

## 授業の概要

院生が研究成果を順次発表し、討論と指導を行う 博士前期課程 1 回生と合同で行う 月 2 回（原則、第 2 水曜日、第 4 土曜日）に、2 コマ分を使い、研究会方式で運営する

## 準備学習（予習・復習）

## 内容

院生が、建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究の成果を発表し、討論と指導を行う

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート

小テスト

授業中課題	30	授業中発表等	40
-------	----	--------	----

参加度	30
-----	----



## シラバス

講義名称	実践看護学実習 I
------	-----------

クラス	配当回生	学部 2 回生
-----	------	---------

講義期間	前期集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	深山 つかさ.岡田 純子.奥野 信行.梶谷 佳子.神崎 光子.工藤 里香.竹下 夏美.常田 裕子.中橋 苗代.野島 敬祐. 松本 賢哉.マルティネス 真喜子.望月 紀子
-----	---

テーマ
-----

## 授業の到達目標

実践看護学 I ・実践看護学演習 I での学習を踏まえ、高齢者施設をフィールドとして、主として日常生活援助を実施し、発達段階や人間の基本的ニーズ、健康レベルに応じた看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ。また、実習での体験を通して、自らの看護観を養う。

## 授業の概要

1.根拠に基づいた援助を提供するための情報を探索し、活用できる。2.対象の状態を配慮した日常生活援助を計画し、指導のもとで実施できる。3.実施した援助内容を評価し記録できる。4.対象と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。5.対象の権利、プライバシーや情報の保護に配慮できる。6.ケアチームメンバーの一員として自覚と責任をもち、適切なコミュニケーションをとることができる。7.自己の看護の向上に向けて、実習での体験を振り返り、自己を洞察し、看護観を自らの言葉で説明できる。

## 準備学習（予習・復習）

## 内容

授業内容 実習は、介護老人保健施設で 2 週間行う。一人の対象を受け持ち、対象に適した日常生活援助を計画し、指導者・教員と共に実施する。

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度
-----

## シラバス

講義名称	養護実習(事前・事後指導を含む)
------	------------------

クラス	配当回生	学部4回生
-----	------	-------

講義期間	集中	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	佐藤 浩子
-----	-------

テーマ

実りある養護実習（養護実習事前・事後指導）

授業の到達目標

（獲得目標）教育課程の総決算として、教育現場で実習を行い、養護教諭としての専門的知識の習得と技術を磨き、教職に関する実践的研究的能力と態度を養い、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内容

第1回（事前指導） 養護実習事前ガイダンス ・養護実習をはじめるにあたっての準備と関係書類作成 ・養護実習訪問指導までの流れ 第2回 養護実習事前指導 ・養護実習の意義と実態について ・養護実習の心得・心構えについて ・実習校事前訪問・事前打ち合わせについて ・養護実習内容について（定期健康診断・研究授業・実習日誌の書き方など） 第3回 養護実習事前指導 養護実習内容について 第4回 養護教諭の職務と実際について 第5回 養護実習反省会 養護実習体験報告を受けてのグループ討議・実践交流 養護実習

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、児童教育学科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティア活動などに積極的に参加する。

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	50%	授業中発表等
-------	-----	--------

参加度	50%
-----	-----

## シラバス

講義名称	実践看護学実習Ⅲ－１・２
------	--------------

クラス	配当回生	学部3回生
-----	------	-------

講義期間	後期集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	奥野 信行.河原 宣子.野島 敬祐.マルティネス 真喜子
-----	------------------------------

テーマ	
-----	--

## 授業の到達目標

実践看護学Ⅰ～Ⅲ・Ⅰ・Ⅱ、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。 1.特定の健康課題を有する対象者とその家族への看護を実践するための基礎的能力を培う。 2.特定の健康課題を有する対象者とその家族への看護実践を通して、看護の専門性を考察し、多職種との協働の重要性を学ぶ。

## 授業の概要

1.特定の健康課題を有する対象者とその家族の権利や尊厳、価値観、信条を尊重し、援助的関係を形成することができる。 2.特定の健康課題を有する対象者とその家族を多面的・全体的に捉え、病気や治療によってどのような影響を受けているか査定できる。 3.特定の健康課題を有する対象者とその家族に関心を向け、必要な看護が実践できる。 4.特定の健康課題を有する対象者とその家族が活用できる社会資源について説明できる。 5.入院から退院支援を含めたチーム医療における看護及び他職種の役割を理解し、対象者を中心とした連携と協働

## 準備学習（予習・復習）

## 内容

実習内容 1.実習期間 4週間 2.実習時間 原則として、8:30～16:00（9:00～16:30）。ただし、受け持ち対象等の状況により、更する場合もある。 3.受け持ちの対象者 特定の健康課題を有する対象者を1名から3名程度受け持つ。 4.実習場所 病棟および対象に対して看護実践活動が展開されている様々な場所で実習を行う。（例：手術室、集中治療室など外来、検査室、リハビリテーション室、栄養指導室、継続看護室、透析室など） 5.行動目標 1)特定の健康課題を有する対象者とその家族の権利や尊厳、価値観

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

a70103d710

試験・レポート

授業中課題

参加度

小テスト

授業中発表等

## シラバス

講義名称	養護実習（3回生枠）
------	------------

クラス	配当回生	学部3回生
-----	------	-------

講義期間	集中	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	佐藤 浩子
-----	-------

テーマ

実りある養護実習（養護実習事前指導）

授業の到達目標

（獲得目標）学校保健活動における養護教諭の職務の実態、養護実習体験報告などから、養護実習についてのイメージを膨らませて実習に臨み、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内容

教職課程ガイドランス ・教員の適性・資質について ・教育職員免許取得の心構えについて 第1回 養護実習事前指導 ・養護実習内諾依頼について ・養護実習の意義と計画について ・養護実習の準備と心構えについて 第2回 養護実習反省会 実習体験報告から学ぶ。グループ討議・実践交流  
（4－3回生合同開催）第3回 養護実習事前指導 ・養護実習の内容について(実習の流れ・プロセスと心得、実習記録など) ・実習校への事前訪問、事前打ち合わせについて ・養護実習の目標と計画について

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、4回生や児童教育科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティア活動などに積極的に参加する。

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

成績評価

試験・レポート	0	小テスト	0
授業中課題	50	授業中発表等	0
参加度	50		

## シラバス

講義名称	実践看護学実習Ⅲ－3
------	------------

クラス	配当回生	学部3回生
-----	------	-------

講義期間	後期集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	堀 妙子
-----	------

## テーマ

健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う。

## 授業の到達目標

1.小児に特有な疾患の病態生理を説明できる 2.小児の発達段階に応じた日常生活援助の方法を説明できる 3.小児の発達段階に応じた処置やケアの方法を説明できる 4.小児及び家族を理解するために必要な情報収集の方法を説明できる 5.小児及び家族を理解するために必要な情報が収集できる 6.収集した情報をもとに健康課題を査定する方法を説明できる 7.収集した情報をもとに健康課題を査定できる 8.査定した結果から個別性に応じた看護援助を考える方法を説明できる 9.査定した結果から個別性に応じた看護援助を考えられる 10.安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施する方法を説明できる 11.安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施できる 12.実施した自己の看護実践を評価する方法を説明できる 13.実施した自己の看護実践を評価できる 14.対象となる小児及びその家族を尊重した行動をとることができる

## 授業の概要

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ・1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりその看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う。

## 準備学習（予習・復習）

実習オリエンテーションで事前学習に関する説明を行う

## 内容

実習概要 1. 医療施設で患児を1名（状況により複数）受け持ち、看護過程を展開する 2. 小児専門病院及び重症心身障がい児施設の見学実習

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度

## シラバス

講義名称	実践看護学実習Ⅲ－４
------	------------

クラス	配当回生	学部３回生
-----	------	-------

講義期間	後期集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	松本 賢哉
-----	-------

テーマ	
-----	--

## 授業の到達目標

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりその看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」精神に障害をもつ対象者とのかかわりを通して、個人及びその家族への理解を深める。さらに、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に活かし、対象者とかかわるための基礎的実践能力を養う。

## 授業の概要

精神に障害をもつ人及びその家族への理解を深め、対象者とかかわるための基礎的能力を養う。 1. 対象者を身体的、心理的、社会的な存在として理解する。 2. 援助的な対人関係の基本的技法を学ぶ。 3. 対象者のセルフケアに焦点をあてて看護過程を展開する。 4. 精神保健医療福祉における看護職の役割と地域生活支援のあり方を学ぶ。

## 準備学習（予習・復習）

## 内容

・主として医療施設で２週間行う。 ・患者を一人受け持ち、セルフケアへの援助を中心として看護過程を展開する。 ・受け持ち患者とのかかわりについてプロセスレコードを作成し、分析を行う。 ・リハビリテーションや地域生活支援を理解するために、デイケアなどにおいても実習を行う。 ・学びを共有するために、適宜カンファレンスを行う。 ※詳細については、実習要項を参照すること

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	50	授業中発表等
-------	----	--------





## シラバス

講義名称	実践看護学実習Ⅲ－5		
クラス	配当回生	学部3回生	
講義期間	後期集中	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	神崎 光子.工藤 里香.常田 裕子		

テーマ

ライフサイクルにおける周産期の母児への看護実践を通して、生涯発達の視点から母児とその家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う

授業の到達目標

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ・1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりその看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」 ライフサイクルにおける周産期（妊娠、分娩、産褥（新生児）各期）にある母児の看護実践を通じて、生涯発達の視点から周産期にある母児とその家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う。

授業の概要

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族を生理的、心理的、社会的な側面から総合的に理解し、母子や家族の状況に応じたセルフケア能力が獲得でき、育児の準備と実践ができるよう、チームの一員として支援する。

準備学習（予習・復習）

妊娠期から産褥期までの看護展開に必要な知識や技術の復習を行い実習に臨むこと。

内容

マタニティサイクルにある母子とその家族の看護を学ぶ 1 実習場所 産科病棟(産褥室、新生児室、分娩室)および産科外来 2 実習体制 1) 病院実習では、産褥（新生児）期にある母子あるいは入院中の妊婦を 1 例 以上受け持ち、看護を実践する。 受け持ち事例の選定基準 ①原則として正常経過をたどる母子と帝王切開の母子 ②感染症事例は除く ③状態の安定している妊婦 ※いずれも臨床指導者、教員の合議により選定し、 受け持ち妊産婦の承諾得られた事例とする 2) 産科外来 妊婦健

履修上の注意点

実習上知り得た情報は、ナースステーション以外では、一切口外しないこと。実習中の記録の取り扱い、管理を充分に行うこと。風邪など感染症に罹患した場合、実習参加が不可となる場合がある。そのため、実習前、実習中の健康管理を充分に留意すること。

教科書

著者

出版社

出版年

参考書

著者

出版社

出版年

成績評価

試験・レポート

小テスト

授業中課題 10

授業中発表等 10

参加度 80

## シラバス

講義名称	プライマリケア実習 I
------	-------------

クラス	配当回生	学部 2 回生
-----	------	---------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	堀 妙子,岡田 純子,河原 宣子,富永 真己,中橋 苗代,西村 美八,松本 賢哉,深山 つかさ,望月 紀子
-----	---

テーマ

地域で暮らしている人々の生活場面を実際に知り、人々を取り巻く環境と健康の関係について考える

授業の到達目標

1.地域・産業・学校の場の特性を理解するための方法が説明できる 2.地域・産業・学校の場で生活する人々の健康課題を査定する方法が説明できる 3.地域・産業・学校の場で生活する人々の健康課題の特徴を説明できる 4.保健医療福祉における看護の役割について説明できる 5.保健医療福祉における様々な職種との協働と連携の必要性を説明できる 6.様々な価値観・信条や生活背景をもつ人と接し、その人々を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守する事ができる 7.自己の実践を振り返り、今後の課題を見出す事ができる

授業の概要

看護の対象となる人々が生活している地域・産業・学校の場をとおり、それぞれがおかれている環境を理解したうえで、健康課題を査定し、根拠に基づいた看護援助を実践する基礎的な能力を養う。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。

内容

プライマリファミリー（山科区）1 週間 産業・学校 1 週間 学内演習も含めて 2 週間行う \* 詳細は実習要項参照 なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

履修上の注意点

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

成績評価

試験・レポート

小テスト

授業中課題

授業中発表等

参加度

## シラバス

講義名称	プライマリケア実習Ⅱ
------	------------

クラス	配当回生	学部3回生
-----	------	-------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	深山 つかさ.岡田 純子.中橋 苗代.堀 妙子.松本 賢哉.望月 紀子
-----	-------------------------------------

## テーマ

生活の営みの中で人々の健康生活を支えるための看護活動（PFの訪問活動、訪問看護ステーション、デイケア・デイサービスセンターまたは地域包括支援センターにおける看護活動）の体験を通して、地域の保健医療福祉機関の看護職の役割と関係職種との連携、さらに地域における保健福祉行政の政策のあり方について学ぶ。

## 授業の到達目標

1.プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助方法と看護職の役割について理解する。 1) プライマリーファミリーの生活をより深く知り、健康の維持・増進のために必要な看護を考えることができる。 2) プライマリーファミリーとの援助的な対人関係を築くためのコミュニケーションについて考えることができる。 2.個人および家族の生活を把握し、健康状態との関連を考察するとともに、対象の生活の営みに即した地域での看護活動の展開方法を説明できる。 3.地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標から健康課題を把握し、課題解決に必要な看護援助方法を説明できる。 4.地域における看護職、関係機関および関係職種の機能・役割について説明できる。 5.保健・医療・福祉などの専門職および地域の人々との協働活動の意義、地域における保健福祉行政の政策のあり方について理解できる。

## 授業の概要

生活の営みの中で人々の健康生活を支えるための看護活動（PFの訪問活動、訪問看護ステーション、デイケア・デイサービスセンターまたは地域包括支援センターにおける看護活動）の体験を通して、地域の保健医療福祉機関の看護職の役割と関係職種との連携、さらに地域における保健福祉行政の政策のあり方について学ぶ。

## 準備学習（予習・復習）

プライマリーファミリー、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、デイケア・デイサービス施設の概要と関連法規について事前に学習しておくこと。

## 内容

実習期間および場所は、プライマリーファミリー(1週間)、訪問看護ステーション(1週間)、デイケア・デイサービスまたは地域包括支援センター(1週間)、計3週間とする。 \*詳細は、実習要項参照のこと

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
地域療養を支えるケア	臺有桂・石田千絵・山下留理子	メディカ出版	

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート

授業中課題

参加度

小テスト

授業中発表等

## シラバス

講義名称 プライマリケア実習Ⅲ

クラス

配当回生

学部4回生

講義期間

通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者

松本 賢哉.岡田 純子.奥野 信行.梶谷 佳子.上澤 悦子.神崎 光子.工藤 里香.竹下 夏美.常田 裕子.富永 真己.中島 登美子.中橋 苗代.野島 敬祐.堀 妙子.マルティネス 真喜子.深山 つかさ.望月 紀子

テーマ

## 授業の到達目標

人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対して総合的・継続的・全人的に対応する地域の政策と機能について理解し、健康に関する社会問題を解決するための政策形成過程を学ぶ。

## 授業の概要

1.プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助(実践)への評価を行い、地域に共通する健康課題を明らかにするとともに、解決するための方法を検討できる。 2.地域に暮らす人々の尊厳ある生活を継続するために、その営みに即した必要な支援を構築する方法を説明できる。 3.地域の保健・医療・福祉サービスや地域のインフォーマルサービスなど多様な社会資源を用いて、個人や地域の特性に対応した看護援助や健康環境づくりについて説明できる。 4.地域に暮らす人々の健康に関する社会問題を明らか

## 準備学習（予習・復習）

プライマリーファミリー、地域包括支援センター、地域介護予防推進センター、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護支援事業所、ディケア、ディサービスの概要と関連法規について事前に学習しておくこと

## 内容

授業内容 実習期間および場所は、プライマリーファミリー(2日間)および、地域包括支援センター・地域介護予防推進センター・居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護支援事業所・ディケア・ディサービス(5日間)とする。 \*詳細は、実習要項参照のこと

## 履修上の注意点

教科書

著者

出版社

出版年

参考書

著者

出版社

出版年

## 成績評価

試験・レポート

小テスト

授業中課題

授業中発表等

参加度





## シラバス

講義名称	ライフサイクル論実習
------	------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	通年集中	定員
------	------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	堀 妙子,松本 賢哉,深山 つかさ,望月 紀子
-----	-------------------------

## テーマ

地域で生活している高齢者や乳幼児と接し成長発達の特徴に関して学ぶ

## 授業の到達目標

地域で生活するさまざまな発達段階の人と関わり、人の成長発達・健康・生活・環境の視点から対象を理解し、その健康課題を査定するために必要な基礎的能力を養う。

## 授業の概要

1.地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達に応じた身体的変化、認知や感情、心理社会的変化を理解し、説明できる。 2.地域で暮らす乳幼児や高齢者の日常生活の様子、環境について理解し説明できる。 3.地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達・生活・環境と健康課題の関係について説明できる。 4.地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。 5.地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、相手を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守できる。

## 準備学習（予習・復習）

実習ガイダンスの際に説明を行う

## 内容

授業内容 学内演習（高齢者疑似体験、子どもの日常生活の世話） 老人クラブの活動に参加 保育園での実習 京あんしん子ども館見学実習 ライフサイクル論実習のまとめ \*全てを含め 1 週間の実習を行う \*詳細は実習要項参照

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	小テスト
---------	------

授業中課題	授業中発表等
-------	--------

参加度	
-----	--

講義名称	卒業研究（理） <a>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	村田 伸		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください、</p>		

内容	
第1回	オリエンテーション
第2回	卒業論文発表準備（1）
第3回	卒業論文発表準備（2）
第4回	卒業論文発表準備（3）
第5回	卒業論文発表準備（4）
第6回	卒業論文発表準備（5）
第7回	卒業論文発表準備（6）
第8回	卒業論文発表準備（7）
第9回	卒業論文発表準備（8）
第10回	卒業論文発表準備（9）
第11回	卒業論文発表準備（10）
第12回	卒業論文発表準備 検討会
第13回	卒業論文発表準備（11）
第14回	卒業論文発表準備（12）
第15回	卒業論文発表準備（13）
第16回	卒業論文発表準備（14）
第17回	卒業論文発表準備（15）
第18回	卒業論文発表準備（16）
第19回	卒業論文発表会（1）
第20回	卒業論文発表会（2）
第21回	卒業論文発表会（3）
第22回	卒業論文発表会（4）
第23回	卒業論文発表会（5）
第24回	卒業論文発表会（6）
第25回	卒業論文作成（1）
第26回	卒業論文作成（2）
第27回	卒業論文作成（3）
第28回	卒業論文作成（4）
第29回	卒業論文作成（5）

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称 卒業研究（理） &lt;b&gt;

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内容

第1回 オリエンテーション

第2回 卒業論文発表準備（1）

第3回 卒業論文発表準備（2）

第4回 卒業論文発表準備（3）

第5回 卒業論文発表準備（4）

第6回 卒業論文発表準備（5）

第7回 卒業論文発表準備（6）

第8回 卒業論文発表準備（7）

第9回 卒業論文発表準備（8）

第10回 卒業論文発表準備（9）

第11回 卒業論文発表準備（10）

第12回 卒業論文発表準備 検討会

第13回 卒業論文発表準備（11）

第14回 卒業論文発表準備（12）

第15回 卒業論文発表準備（13）

第16回 卒業論文発表準備（14）

第17回 卒業論文発表準備（15）

第18回 卒業論文発表準備（16）

第19回 卒業論文発表会（1）

第20回 卒業論文発表会（2）

第21回 卒業論文発表会（3）

第22回 卒業論文発表会（4）

第23回 卒業論文発表会（5）

第24回 卒業論文発表会（6）

第25回 卒業論文作成（1）

第26回 卒業論文作成（2）

第27回 卒業論文作成（3）

第28回 卒業論文作成（4）

第29回 卒業論文作成（5）

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） <c>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	甲斐 義浩		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください、</p>		

内容	
第1回	オリエンテーション
第2回	卒業論文発表準備（1）
第3回	卒業論文発表準備（2）
第4回	卒業論文発表準備（3）
第5回	卒業論文発表準備（4）
第6回	卒業論文発表準備（5）
第7回	卒業論文発表準備（6）
第8回	卒業論文発表準備（7）
第9回	卒業論文発表準備（8）
第10回	卒業論文発表準備（9）
第11回	卒業論文発表準備（10）
第12回	卒業論文発表準備 検討会
第13回	卒業論文発表準備（11）
第14回	卒業論文発表準備（12）
第15回	卒業論文発表準備（13）
第16回	卒業論文発表準備（14）
第17回	卒業論文発表準備（15）
第18回	卒業論文発表準備（16）
第19回	卒業論文発表会（1）
第20回	卒業論文発表会（2）
第21回	卒業論文発表会（3）
第22回	卒業論文発表会（4）
第23回	卒業論文発表会（5）
第24回	卒業論文発表会（6）
第25回	卒業論文作成（1）
第26回	卒業論文作成（2）
第27回	卒業論文作成（3）
第28回	卒業論文作成（4）
第29回	卒業論文作成（5）



- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） <d>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	崎田 正博		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。</p>		

内容	
第1回	オリエンテーション
第2回	卒業論文発表準備（1）
第3回	卒業論文発表準備（2）
第4回	卒業論文発表準備（3）
第5回	卒業論文発表準備（4）
第6回	卒業論文発表準備（5）
第7回	卒業論文発表準備（6）
第8回	卒業論文発表準備（7）
第9回	卒業論文発表準備（8）
第10回	卒業論文発表準備（9）
第11回	卒業論文発表準備（10）
第12回	卒業論文発表準備 検討会
第13回	卒業論文発表準備（11）
第14回	卒業論文発表準備（12）
第15回	卒業論文発表準備（13）
第16回	卒業論文発表準備（14）
第17回	卒業論文発表準備（15）
第18回	卒業論文発表準備（16）
第19回	卒業論文発表会（1）
第20回	卒業論文発表会（2）
第21回	卒業論文発表会（3）
第22回	卒業論文発表会（4）
第23回	卒業論文発表会（5）
第24回	卒業論文発表会（6）
第25回	卒業論文作成（1）
第26回	卒業論文作成（2）
第27回	卒業論文作成（3）
第28回	卒業論文作成（4）
第29回	卒業論文作成（5）

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

## 成績評価

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

## 成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） <e>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	白岩 加代子		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。</p>		
内容			
第1回	オリエンテーション		
第2回	卒業論文発表準備（1）		
第3回	卒業論文発表準備（2）		
第4回	卒業論文発表準備（3）		
第5回	卒業論文発表準備（4）		
第6回	卒業論文発表準備（5）		
第7回	卒業論文発表準備（6）		
第8回	卒業論文発表準備（7）		
第9回	卒業論文発表準備（8）		
第10回	卒業論文発表準備（9）		
第11回	卒業論文発表準備（10）		
第12回	卒業論文発表準備 検討会		
第13回	卒業論文発表準備（11）		
第14回	卒業論文発表準備（12）		
第15回	卒業論文発表準備（13）		
第16回	卒業論文発表準備（14）		
第17回	卒業論文発表準備（15）		
第18回	卒業論文発表準備（16）		
第19回	卒業論文発表会（1）		
第20回	卒業論文発表会（2）		
第21回	卒業論文発表会（3）		
第22回	卒業論文発表会（4）		
第23回	卒業論文発表会（5）		
第24回	卒業論文発表会（6）		
第25回	卒業論文作成（1）		
第26回	卒業論文作成（2）		
第27回	卒業論文作成（3）		
第28回	卒業論文作成（4）		
第29回	卒業論文作成（5）		

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。



講義名称	卒業研究（理） < f >		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	小田桐 匡		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。</p>		

## 内容

第1回	オリエンテーション
第2回	卒業論文発表準備（1）
第3回	卒業論文発表準備（2）
第4回	卒業論文発表準備（3）
第5回	卒業論文発表準備（4）
第6回	卒業論文発表準備（5）
第7回	卒業論文発表準備（6）
第8回	卒業論文発表準備（7）
第9回	卒業論文発表準備（8）
第10回	卒業論文発表準備（9）
第11回	卒業論文発表準備（10）
第12回	卒業論文発表準備（11）
第13回	卒業論文発表準備（12）
第14回	卒業論文発表準備（13）
第15回	卒業論文発表準備（14）
第16回	卒業論文発表準備（15）
第17回	卒業論文発表準備（16）
第18回	卒業論文発表準備（17）
第19回	卒業論文発表準備（18）
第20回	卒業論文発表準備（19）
第21回	卒業論文発表準備（20）
第22回	卒業論文発表準備（21）
第23回	卒業論文発表準備（22）
第24回	卒業論文発表準備（23）
第25回	卒業論文発表準備（24）
第26回	卒業論文発表準備（25）
第27回	卒業論文発表準備（26）
第28回	卒業論文発表準備（27）
第29回	卒業論文発表準備（28）

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） <g>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	松尾 奈々		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください、</p>		
内容			
第1回	オリエンテーション		
第2回	卒業論文発表準備（1）		
第3回	卒業論文発表準備（2）		
第4回	卒業論文発表準備（3）		
第5回	卒業論文発表準備（4）		
第6回	卒業論文発表準備（5）		
第7回	卒業論文発表準備（6）		
第8回	卒業論文発表準備（7）		
第9回	卒業論文発表準備（8）		
第10回	卒業論文発表準備（9）		
第11回	卒業論文発表準備（10）		
第12回	卒業論文発表準備 検討会		
第13回	卒業論文発表準備（11）		
第14回	卒業論文発表準備（12）		
第15回	卒業論文発表準備（13）		
第16回	卒業論文発表準備（14）		
第17回	卒業論文発表準備（15）		
第18回	卒業論文発表準備（16）		
第19回	卒業論文発表会（1）		
第20回	卒業論文発表会（2）		
第21回	卒業論文発表会（3）		
第22回	卒業論文発表会（4）		
第23回	卒業論文発表会（5）		
第24回	卒業論文発表会（6）		
第25回	卒業論文作成（1）		
第26回	卒業論文作成（2）		
第27回	卒業論文作成（3）		
第28回	卒業論文作成（4）		
第29回	卒業論文作成（5）		

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） <h>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	宮崎 純弥		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。</p>		
内容			
第1回	オリエンテーション		
第2回	卒業論文発表準備（1）		
第3回	卒業論文発表準備（2）		
第4回	卒業論文発表準備（3）		
第5回	卒業論文発表準備（4）		
第6回	卒業論文発表準備（5）		
第7回	卒業論文発表準備（6）		
第8回	卒業論文発表準備（7）		
第9回	卒業論文発表準備（8）		
第10回	卒業論文発表準備（9）		
第11回	卒業論文発表準備（10）		
第12回	卒業論文発表準備 検討会		
第13回	卒業論文発表準備（11）		
第14回	卒業論文発表準備（12）		
第15回	卒業論文発表準備（13）		
第16回	卒業論文発表準備（14）		
第17回	卒業論文発表準備（15）		
第18回	卒業論文発表準備（16）		
第19回	卒業論文発表会（1）		
第20回	卒業論文発表会（2）		
第21回	卒業論文発表会（3）		
第22回	卒業論文発表会（4）		
第23回	卒業論文発表会（5）		
第24回	卒業論文発表会（6）		
第25回	卒業論文作成（1）		
第26回	卒業論文作成（2）		
第27回	卒業論文作成（3）		
第28回	卒業論文作成（4）		
第29回	卒業論文作成（5）		

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年



---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） < i >		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	兒玉 隆之		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。 論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください、</p>		

内容	
第1回	オリエンテーション
第2回	卒業論文発表準備（1）
第3回	卒業論文発表準備（2）
第4回	卒業論文発表準備（3）
第5回	卒業論文発表準備（4）
第6回	卒業論文発表準備（5）
第7回	卒業論文発表準備（6）
第8回	卒業論文発表準備（7）
第9回	卒業論文発表準備（8）
第10回	卒業論文発表準備（9）
第11回	卒業論文発表準備（10）
第12回	卒業論文発表準備（11）
第13回	卒業論文発表準備（12）
第14回	卒業論文発表準備（13）
第15回	卒業論文発表準備（14）
第16回	卒業論文発表準備（15）
第17回	卒業論文発表準備（16）
第18回	卒業論文発表準備（17）
第19回	卒業論文発表準備（18）
第20回	卒業論文発表準備（19）
第21回	卒業論文発表準備（20）
第22回	卒業論文発表準備（21）
第23回	卒業論文発表準備（22）
第24回	卒業論文発表準備（23）
第25回	卒業論文発表準備（24）
第26回	卒業論文発表準備（25）
第27回	卒業論文発表準備（26）
第28回	卒業論文発表準備（27）
第29回	卒業論文発表準備（28）

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） <j>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	堀江 淳		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。</p>		
内容			
第1回	オリエンテーション		
第2回	卒業論文発表準備（1）		
第3回	卒業論文発表準備（2）		
第4回	卒業論文発表準備（3）		
第5回	卒業論文発表準備（4）		
第6回	卒業論文発表準備（5）		
第7回	卒業論文発表準備（6）		
第8回	卒業論文発表準備（7）		
第9回	卒業論文発表準備（8）		
第10回	卒業論文発表準備（9）		
第11回	卒業論文発表準備（10）		
第12回	卒業論文発表準備 検討会		
第13回	卒業論文発表準備（11）		
第14回	卒業論文発表準備（12）		
第15回	卒業論文発表準備（13）		
第16回	卒業論文発表準備（14）		
第17回	卒業論文発表準備（15）		
第18回	卒業論文発表準備（16）		
第19回	卒業論文発表会（1）		
第20回	卒業論文発表会（2）		
第21回	卒業論文発表会（3）		
第22回	卒業論文発表会（4）		
第23回	卒業論文発表会（5）		
第24回	卒業論文発表会（6）		
第25回	卒業論文作成（1）		
第26回	卒業論文作成（2）		
第27回	卒業論文作成（3）		
第28回	卒業論文作成（4）		
第29回	卒業論文作成（5）		

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） <k>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	安彦 鉄平		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。</p>		
内容			
第1回	オリエンテーション		
第2回	卒業論文発表準備（1）		
第3回	卒業論文発表準備（2）		
第4回	卒業論文発表準備（3）		
第5回	卒業論文発表準備（4）		
第6回	卒業論文発表準備（5）		
第7回	卒業論文発表準備（6）		
第8回	卒業論文発表準備（7）		
第9回	卒業論文発表準備（8）		
第10回	卒業論文発表準備（9）		
第11回	卒業論文発表準備（10）		
第12回	卒業論文発表準備 検討会		
第13回	卒業論文発表準備（11）		
第14回	卒業論文発表準備（12）		
第15回	卒業論文発表準備（13）		
第16回	卒業論文発表準備（14）		
第17回	卒業論文発表準備（15）		
第18回	卒業論文発表準備（16）		
第19回	卒業論文発表会（1）		
第20回	卒業論文発表会（2）		
第21回	卒業論文発表会（3）		
第22回	卒業論文発表会（4）		
第23回	卒業論文発表会（5）		
第24回	卒業論文発表会（6）		
第25回	卒業論文作成（1）		
第26回	卒業論文作成（2）		
第27回	卒業論文作成（3）		
第28回	卒業論文作成（4）		
第29回	卒業論文作成（5）		



- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	卒業研究（理） <1>		
クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	後期	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	濱出 茂治		
テーマ	卒業論文の作成・発表		
授業の到達目標	<p>①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。 ②研究成果を理解した上で、論考することができる。 ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。 ④論文作成過程を理解し、実践できる。</p>		
授業の概要	<p>ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。</p>		
準備学習（予習・復習）	<p>研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。</p>		
内容			
第1回	オリエンテーション		
第2回	卒業論文発表準備（1）		
第3回	卒業論文発表準備（2）		
第4回	卒業論文発表準備（3）		
第5回	卒業論文発表準備（4）		
第6回	卒業論文発表準備（5）		
第7回	卒業論文発表準備（6）		
第8回	卒業論文発表準備（7）		
第9回	卒業論文発表準備（8）		
第10回	卒業論文発表準備（9）		
第11回	卒業論文発表準備（10）		
第12回	卒業論文発表準備 検討会		
第13回	卒業論文発表準備（11）		
第14回	卒業論文発表準備（12）		
第15回	卒業論文発表準備（13）		
第16回	卒業論文発表準備（14）		
第17回	卒業論文発表準備（15）		
第18回	卒業論文発表準備（16）		
第19回	卒業論文発表会（1）		
第20回	卒業論文発表会（2）		
第21回	卒業論文発表会（3）		
第22回	卒業論文発表会（4）		
第23回	卒業論文発表会（5）		
第24回	卒業論文発表会（6）		
第25回	卒業論文作成（1）		
第26回	卒業論文作成（2）		
第27回	卒業論文作成（3）		
第28回	卒業論文作成（4）		
第29回	卒業論文作成（5）		

- 第 30 回 卒業論文作成 (6)  
第 31 回 卒業論文作成 (7)  
第 32 回 卒業論文作成 (8)  
第 33 回 卒業論文作成 (9)  
第 34 回 卒業論文作成 (10)  
第 35 回 卒業論文作成 (11)  
第 36 回 卒業論文作成 (12)  
第 37 回 卒業論文作成 (13)  
第 38 回 卒業論文作成 (14)  
第 39 回 卒業論文作成 (15)  
第 40 回 卒業論文作成 (16)  
第 41 回 卒業論文作成 (17)  
第 42 回 卒業論文作成 (18)  
第 43 回 卒業論文作成 (19)  
第 44 回 卒業論文作成 (20)  
第 45 回 総括  
第 46 回  
第 47 回  
第 48 回  
第 49 回  
第 50 回  
第 51 回  
第 52 回  
第 53 回  
第 54 回  
第 55 回  
第 56 回  
第 57 回  
第 58 回  
第 59 回  
第 60 回

---

履修上の注意点

---

教科書

著者

出版社

出版年

---

参考書

著者

出版社

出版年

---

**成績評価**

試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

---

**成績評価方法の備考**

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力，ディスカッション能力で構成します。

講義名称	実践看護学Ⅱ		
クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	奥野 信行.岡田 純子.梶谷 佳子.小淵 岳恒.中橋 苗代.野島 敬祐.堀 妙子.松本 賢哉.マルティネス 真喜子.深山 つかさ		

テーマ

#### 授業の到達目標

実践看護学Ⅰを踏まえ、さまざまな看護（助産含む）の対象と家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

#### 授業の概要

1. 急性期・回復期・リハビリテーション期の健康レベルの考え方を理解する。 2. 健康レベルとライフサイクルを踏まえ、根拠に基づいた計画的な看護実践の基礎を理解する。 3. 特定の健康課題に対応する実践能力を養う。

#### 準備学習（予習・復習）

#### 内容

第1回	科目ガイダンス, 事例「橘薫の一生」の説明, 健康レベルの概念, 健康レベルと看護過程, 急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助①-急性期の看護の特徴
第2回	科目ガイダンス, 事例「橘薫の一生」の説明, 健康レベルの概念, 健康レベルと看護過程, 急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助①-急性期の看護の特徴
第3回	急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助②-看護の実際 救急時の看護①: 救急看護（助産含む）の特徴
第4回	急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助②-看護の実際 救急時の看護①: 救急看護（助産含む）の特徴
第5回	救急時の看護②: 救急看護の実際 救急時の看護③: 受傷・発症から入院まで
第6回	救急時の看護②: 救急看護の実際 救急時の看護③: 受傷・発症から入院まで
第7回	入院時の看護①: 病歴聴取・全身状態の観察* 入院時の看護②: 実施する看護についての説明と同意
第8回	入院時の看護①: 病歴聴取・全身状態の観察* 入院時の看護②: 実施する看護についての説明と同意
第9回	疼痛ケアと精神的ケア, 家族へのケア, 対人関係プロセス①: コミュニケーション
第10回	疼痛ケアと精神的ケア, 家族へのケア, 対人関係プロセス①: コミュニケーション
第11回	対人関係プロセス②: 精神状態のアセスメント 対人関係プロセス③: 精神状態のアセスメント・介入
第12回	対人関係プロセス②: 精神状態のアセスメント 対人関係プロセス③: 精神状態のアセスメント・介入
第13回	薬法, 感染予防①②: 無菌操作, ガウンテクニック, 医療廃棄物の取り扱い, スタンダードプリコーション, 手指培養実験
第14回	薬法, 感染予防①②: 無菌操作, ガウンテクニック, 医療廃棄物の取り扱い, スタンダードプリコーション, 手指培養実験
第15回	薬法, 感染予防①②: 無菌操作, ガウンテクニック, 医療廃棄物の取り扱い, スタンダードプリコーション, 手指培養実験
第16回	検査を受ける患者の看護①: 生体検査 検査を受ける患者の看護②③④: 画像診断, 心電図等等
第17回	検査を受ける患者の看護①: 生体検査 検査を受ける患者の看護②③④: 画像診断, 心電図等等
第18回	検査を受ける患者の看護①: 生体検査 検査を受ける患者の看護②③④: 画像診断, 心電図等等
第19回	検査を受ける患者の看護①: 生体検査 検査を受ける患者の看護②③④: 画像診断, 心電図等等
第20回	検査を受ける患者の看護⑤: 放射線と放射線を使用する検査の理解 検査を受ける患者の看護⑥: 放射線と放射線を使用する検査の理解-演習
第21回	検査を受ける患者の看護⑤: 放射線と放射線を使用する検査の理解 検査を受ける患者の看護⑥: 放射線と放射線を使用する検査の理解-演習
第22回	検査を受ける患者の看護⑦: 検体検査(1), 検査を受ける患者の看護⑧: 検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨: 採血 ER 入室時の看護過程 与薬

- 第 23 回 検査を受ける患者の看護⑦：検体検査(1)、検査を受ける患者の看護⑧：検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨：採血 ER 入室時の看護過程 与薬
- 第 24 回 検査を受ける患者の看護⑦：検体検査(1)、検査を受ける患者の看護⑧：検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨：採血 ER 入室時の看護過程 与薬
- 第 25 回 与薬の看護①：与薬の基本、与薬の看護②：特に小児看護における与薬
- 第 26 回 与薬の看護①：与薬の基本、与薬の看護②：特に小児看護における与薬
- 第 27 回 与薬の看護③：注射、与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法、与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
- 第 28 回 与薬の看護③：注射、与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法、与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
- 第 29 回 与薬の看護③：注射、与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法、与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
- 第 30 回 与薬の看護③：注射、与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法、与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
- 第 31 回 与薬の看護③：注射、与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法、与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
- 第 32 回 周手術期の看護の特徴：危機理論、ストレスコーピング等
- 第 33 回 周手術期の看護の特徴：危機理論、ストレスコーピング等
- 第 34 回 術前の看護過程 身体・精神面の評価と準備、観察・アセスメント
- 第 35 回 術前の看護過程 身体・精神面の評価と準備、観察・アセスメント
- 第 36 回 術中の看護①、術中の看護②
- 第 37 回 術中の看護①、術中の看護②
- 第 38 回 術中の看護①、術中の看護②
- 第 39 回 導尿・浣腸
- 第 40 回 導尿・浣腸
- 第 41 回 術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
- 第 42 回 術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
- 第 43 回 術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
- 第 44 回 術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
- 第 45 回 術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
- 第 46 回 慢性期看護
- 第 47 回 慢性期看護
- 第 48 回 慢性期看護
- 第 49 回 回復期・リハビリテーション期～退院までの看護
- 第 50 回 回復期・リハビリテーション期～退院までの看護
- 第 51 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 52 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 53 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 54 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 55 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 56 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 57 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 58 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 59 回 周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
- 第 60 回 まとめ

## 履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開	武井麻子	医学書院	最新刊
--------------------------------	------	------	-----

系統看護学講座別巻. 臨床外科看護総論	矢永勝彦&小路美喜子編	医学書院	最新刊
---------------------	-------------	------	-----

系統看護学講座別巻, 臨床外科看護各論	北島政樹&江川幸二編	医学書院	最新刊
---------------------	------------	------	-----

系統看護学講座専門分野Ⅱ, 成人看護学[3], 循環器	上塚芳郎他著	医学書院	最新刊
-----------------------------	--------	------	-----

成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝編	ヌーヴェルヒロカワ	最新刊
--------------	--------	-----------	-----

## 成績評価

試験・レポート	90	小テスト
---------	----	------

授業中課題	10	授業中発表等
-------	----	--------

参加度

## 成績評価方法の備考



講義名称	実践看護学Ⅲ－2		
クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	前期集中	定員	
履修条件	クラス指定		
担当者	松本 賢哉.奥野 信行.神崎 光子.常田 裕子.野島 敬祐.堀 妙子.マルティネス 真喜子.深山 つかさ.望月 紀子		
テーマ			

#### 授業の到達目標

実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-1を踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護を理解する。同時に、看護活動の場の多様性を認識し、看護の専門性を考察する。

#### 授業の概要

1.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルに応じた看護を理解する。2.がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、急激な健康破綻と回復過程にある人々への看護、慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々への看護、終末期にある人々への看護、感染症看護、家族支援看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。

#### 準備学習（予習・復習）

#### 内容

第1回	診断・治療期のがん看護①
第2回	診断・治療期のがん看護①
第3回	診断・治療期のがん看護②
第4回	診断・治療期のがん看護②
第5回	小児を対象とした看護の特徴
第6回	小児を対象とした看護の特徴
第7回	小児と家族が疾病から受ける影響
第8回	小児と家族が疾病から受ける影響
第9回	外来受診・入院する小児とその家族への看護
第10回	外来受診・入院する小児とその家族への看護
第11回	障がいのある小児とその家族への看護
第12回	障がいのある小児とその家族への看護
第13回	消化・吸収障害ももつ人への看護
第14回	消化・吸収障害ももつ人への看護
第15回	消化器疾患をもつ小児の看護 鎖肛その他
第16回	消化器疾患をもつ小児の看護 鎖肛その他
第17回	糖代謝障害をもつ人への看護
第18回	糖代謝障害をもつ人への看護
第19回	排泄機能障害とは 腎疾患をもつ人の看護
第20回	排泄機能障害とは 腎疾患をもつ人の看護
第21回	循環機能障害をもつ人への看護
第22回	循環機能障害をもつ人への看護
第23回	呼吸機能障害をもつ人への看護
第24回	呼吸機能障害をもつ人への看護
第25回	小児によくみられる腎・呼吸器疾患の看護
第26回	小児によくみられる腎・呼吸器疾患の看護
第27回	運動機能障害をもつ人への看護

第 28 回	運動機能障害をもつ人への看護
第 29 回	小児によくみられる循環器・筋・骨疾患をもつ小児の看護
第 30 回	小児によくみられる循環器・筋・骨疾患をもつ小児の看護
第 31 回	筋・骨格系の障害をもつ高齢者の看護
第 32 回	筋・骨格系の障害をもつ高齢者の看護
第 33 回	摂食・嚥下障害をもつ高齢者の看護
第 34 回	摂食・嚥下障害をもつ高齢者の看護
第 35 回	認知症の人とその家族の看護
第 36 回	認知症の人とその家族の看護
第 37 回	高齢者の性と QOL
第 38 回	高齢者の性と QOL
第 39 回	看取りと看護
第 40 回	看取りと看護
第 41 回	小児の終末期の看護
第 42 回	小児の終末期の看護
第 43 回	高齢者の終末期ケア
第 44 回	高齢者の終末期ケア
第 45 回	神経症性障害患者の看護
第 46 回	神経症性障害患者の看護
第 47 回	統合失調症患者の看護
第 48 回	統合失調症患者の看護
第 49 回	精神障がい者の地域生活支援の実際①
第 50 回	精神障がい者の地域生活支援の実際①
第 51 回	精神障がい者の地域生活支援の実際②
第 52 回	精神障がい者の地域生活支援の実際②
第 53 回	地区活動の展開①
第 54 回	地区活動の展開①
第 55 回	地区活動の展開②
第 56 回	地区活動の展開②
第 57 回	地区看護活動の実際①
第 58 回	地区看護活動の実際①
第 59 回	地区看護活動の実際②
第 60 回	地区看護活動の実際② ※なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

---

 履修上の注意点

※なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

---

教科書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

---

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

---

成績評価

試験・レポート 70

小テスト

授業中課題

授業中発表等

参加度 30

---

成績評価方法の備考

講義名称	EAP I <a >
------	------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	前期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	エリス, メグ.西村 友美.マルヴィー, アラン
-----	--------------------------

テーマ	
-----	--

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第 1 回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第 2 回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第 3 回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第 4 回	Establishing group work structures
第 5 回	Intro to video class & teacher
第 6 回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第 7 回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第 8 回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第 9 回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal: discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

- 第 24 回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第 25 回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第 26 回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第 27 回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第 28 回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第 29 回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第 30 回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion
- 第 31 回 Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods
- 第 32 回 Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion
- 第 33 回 Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now
- 第 34 回 Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities
- 第 35 回 Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences
- 第 36 回 Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion
- 第 37 回 Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports
- 第 38 回 Class set book — activities
- 第 39 回 Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations
- 第 40 回 Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences
- 第 41 回 Review (1) and Mid-term speaking tests
- 第 42 回 Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)
- 第 43 回 Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions
- 第 44 回 Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 45 回 Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects
- 第 46 回 Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information
- 第 47 回 Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities
- 第 48 回 Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion
- 第 49 回 Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies
- 第 50 回 Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion
- 第 51 回 Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans
- 第 52 回 Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans
- 第 53 回 Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions
- 第 54 回 Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion
- 第 55 回 Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking
- 第 56 回 Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion
- 第 57 回 Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons
- 第 58 回 Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences
- 第 59 回 Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives
- 第 60 回 Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion
- 第 61 回 Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint
- 第 62 回 Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion
- 第 63 回 Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation
- 第 64 回 Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles
- 第 65 回 Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions
- 第 66 回 Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion
- 第 67 回 Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress
- 第 68 回 Class set book - activities
- 第 69 回 Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
X-reading Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP I <b>
------	-----------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	前期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	末澤 奈津子.タット, クリスティナ.マルヴィー, アラン
-----	-------------------------------

テーマ
-----

Foundation period course
--------------------------

授業の到達目標
---------

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要
-------

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)
--------------

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容
----

第 1 回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第 2 回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第 3 回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第 4 回	Establishing group work structures
第 5 回	Intro to video class & teacher
第 6 回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第 7 回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第 8 回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第 9 回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal: discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation



- 第 24 回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第 25 回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第 26 回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第 27 回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第 28 回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第 29 回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第 30 回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion
- 第 31 回 Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods
- 第 32 回 Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion
- 第 33 回 Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now
- 第 34 回 Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities
- 第 35 回 Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences
- 第 36 回 Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion
- 第 37 回 Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports
- 第 38 回 Class set book — activities
- 第 39 回 Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations
- 第 40 回 Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences
- 第 41 回 Review (1) and Mid-term speaking tests
- 第 42 回 Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)
- 第 43 回 Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions
- 第 44 回 Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 45 回 Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects
- 第 46 回 Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information
- 第 47 回 Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities
- 第 48 回 Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion
- 第 49 回 Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies
- 第 50 回 Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion
- 第 51 回 Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans
- 第 52 回 Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans
- 第 53 回 Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions
- 第 54 回 Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion
- 第 55 回 Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking
- 第 56 回 Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion
- 第 57 回 Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons
- 第 58 回 Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences
- 第 59 回 Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives
- 第 60 回 Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion
- 第 61 回 Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint
- 第 62 回 Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion
- 第 63 回 Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation
- 第 64 回 Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles
- 第 65 回 Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions
- 第 66 回 Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion
- 第 67 回 Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress
- 第 68 回 Class set book - activities
- 第 69 回 Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
X-reading Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP I <c>
------	-----------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	前期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	エリス, メグ.大久保 友博.ツァオ, ドン.ドール, モーガン
-----	----------------------------------

テーマ	
-----	--

Foundation period course
--------------------------

授業の到達目標
---------

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要
-------

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)
--------------

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容
----

第 1 回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第 2 回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第 3 回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第 4 回	Establishing group work structures
第 5 回	Intro to video class & teacher
第 6 回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第 7 回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第 8 回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第 9 回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal: discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

- 第 24 回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第 25 回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第 26 回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第 27 回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第 28 回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第 29 回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第 30 回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion
- 第 31 回 Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods
- 第 32 回 Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion
- 第 33 回 Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now
- 第 34 回 Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities
- 第 35 回 Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences
- 第 36 回 Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion
- 第 37 回 Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports
- 第 38 回 Class set book — activities
- 第 39 回 Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations
- 第 40 回 Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences
- 第 41 回 Review (1) and Mid-term speaking tests
- 第 42 回 Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)
- 第 43 回 Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions
- 第 44 回 Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 45 回 Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects
- 第 46 回 Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information
- 第 47 回 Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities
- 第 48 回 Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion
- 第 49 回 Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies
- 第 50 回 Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion
- 第 51 回 Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans
- 第 52 回 Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans
- 第 53 回 Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions
- 第 54 回 Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion
- 第 55 回 Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking
- 第 56 回 Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion
- 第 57 回 Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons
- 第 58 回 Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences
- 第 59 回 Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives
- 第 60 回 Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion
- 第 61 回 Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint
- 第 62 回 Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion
- 第 63 回 Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation
- 第 64 回 Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles
- 第 65 回 Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions
- 第 66 回 Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion
- 第 67 回 Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress
- 第 68 回 Class set book - activities
- 第 69 回 Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
X-reading Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP I <d>
------	-----------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	前期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	弥永 啓子.タット, クリスティナ.ドール, モーガン
-----	-----------------------------

テーマ	
-----	--

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第 1 回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第 2 回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第 3 回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第 4 回	Establishing group work structures
第 5 回	Intro to video class & teacher
第 6 回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第 7 回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第 8 回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第 9 回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal: discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation



- 第 24 回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第 25 回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第 26 回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第 27 回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第 28 回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第 29 回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第 30 回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion
- 第 31 回 Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods
- 第 32 回 Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion
- 第 33 回 Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now
- 第 34 回 Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities
- 第 35 回 Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences
- 第 36 回 Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion
- 第 37 回 Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports
- 第 38 回 Class set book — activities
- 第 39 回 Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations
- 第 40 回 Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences
- 第 41 回 Review (1) and Mid-term speaking tests
- 第 42 回 Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)
- 第 43 回 Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions
- 第 44 回 Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 45 回 Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects
- 第 46 回 Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information
- 第 47 回 Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities
- 第 48 回 Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion
- 第 49 回 Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies
- 第 50 回 Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion
- 第 51 回 Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans
- 第 52 回 Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans
- 第 53 回 Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions
- 第 54 回 Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion
- 第 55 回 Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking
- 第 56 回 Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion
- 第 57 回 Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons
- 第 58 回 Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences
- 第 59 回 Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives
- 第 60 回 Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion
- 第 61 回 Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint
- 第 62 回 Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion
- 第 63 回 Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation
- 第 64 回 Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles
- 第 65 回 Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions
- 第 66 回 Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion
- 第 67 回 Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress
- 第 68 回 Class set book - activities
- 第 69 回 Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
X-reading Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP I <e>
------	-----------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	前期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	ツァオ, ドン.西村 友美.マルヴィー, アラン
-----	--------------------------

テーマ	
-----	--

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第 1 回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第 2 回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第 3 回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第 4 回	Establishing group work structures
第 5 回	Intro to video class & teacher
第 6 回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第 7 回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第 8 回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第 9 回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal: discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

- 第 24 回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第 25 回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第 26 回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第 27 回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第 28 回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第 29 回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第 30 回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion
- 第 31 回 Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods
- 第 32 回 Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion
- 第 33 回 Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now
- 第 34 回 Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities
- 第 35 回 Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences
- 第 36 回 Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion
- 第 37 回 Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports
- 第 38 回 Class set book — activities
- 第 39 回 Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations
- 第 40 回 Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences
- 第 41 回 Review (1) and Mid-term speaking tests
- 第 42 回 Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)
- 第 43 回 Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions
- 第 44 回 Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 45 回 Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects
- 第 46 回 Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information
- 第 47 回 Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities
- 第 48 回 Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion
- 第 49 回 Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies
- 第 50 回 Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion
- 第 51 回 Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans
- 第 52 回 Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans
- 第 53 回 Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions
- 第 54 回 Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion
- 第 55 回 Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking
- 第 56 回 Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion
- 第 57 回 Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons
- 第 58 回 Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences
- 第 59 回 Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives
- 第 60 回 Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion
- 第 61 回 Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint
- 第 62 回 Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion
- 第 63 回 Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation
- 第 64 回 Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles
- 第 65 回 Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions
- 第 66 回 Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion
- 第 67 回 Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress
- 第 68 回 Class set book - activities
- 第 69 回 Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
X-reading Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP I < f >
------	-------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	前期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	エリス, メグ.末澤 奈津子.ドール, モーガン.西村 友美
-----	--------------------------------

テーマ	
-----	--

Foundation period course
--------------------------

授業の到達目標
---------

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要
-------

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)
--------------

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容
----

第 1 回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第 2 回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第 3 回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第 4 回	Establishing group work structures
第 5 回	Intro to video class & teacher
第 6 回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第 7 回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第 8 回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第 9 回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal: discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation



- 第 24 回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第 25 回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第 26 回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第 27 回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第 28 回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第 29 回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第 30 回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion
- 第 31 回 Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods
- 第 32 回 Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion
- 第 33 回 Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now
- 第 34 回 Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities
- 第 35 回 Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences
- 第 36 回 Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion
- 第 37 回 Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports
- 第 38 回 Class set book — activities
- 第 39 回 Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations
- 第 40 回 Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences
- 第 41 回 Review (1) and Mid-term speaking tests
- 第 42 回 Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)
- 第 43 回 Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions
- 第 44 回 Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 45 回 Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects
- 第 46 回 Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information
- 第 47 回 Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities
- 第 48 回 Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion
- 第 49 回 Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies
- 第 50 回 Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion
- 第 51 回 Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans
- 第 52 回 Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans
- 第 53 回 Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions
- 第 54 回 Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion
- 第 55 回 Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking
- 第 56 回 Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion
- 第 57 回 Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons
- 第 58 回 Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences
- 第 59 回 Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives
- 第 60 回 Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion
- 第 61 回 Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint
- 第 62 回 Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion
- 第 63 回 Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation
- 第 64 回 Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles
- 第 65 回 Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions
- 第 66 回 Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion
- 第 67 回 Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress
- 第 68 回 Class set book - activities
- 第 69 回 Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
X-reading Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP I <g>
------	-----------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	前期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	大久保 友博.タット, クリスティナ.ツァオ, ドン.ドール, モーガン
-----	--------------------------------------

テーマ	
-----	--

Foundation period course
--------------------------

授業の到達目標
---------

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要
-------

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)
--------------

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容
----

第 1 回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第 2 回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第 3 回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第 4 回	Establishing group work structures
第 5 回	Intro to video class & teacher
第 6 回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第 7 回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第 8 回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第 9 回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal: discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar & vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjectives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

- 第 24 回 Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion
- 第 25 回 Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals
- 第 26 回 Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion
- 第 27 回 Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns
- 第 28 回 Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal
- 第 29 回 Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets
- 第 30 回 Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion
- 第 31 回 Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods
- 第 32 回 Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion
- 第 33 回 Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now
- 第 34 回 Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities
- 第 35 回 Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences
- 第 36 回 Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion
- 第 37 回 Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports
- 第 38 回 Class set book — activities
- 第 39 回 Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations
- 第 40 回 Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences
- 第 41 回 Review (1) and Mid-term speaking tests
- 第 42 回 Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)
- 第 43 回 Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions
- 第 44 回 Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 45 回 Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects
- 第 46 回 Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information
- 第 47 回 Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities
- 第 48 回 Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion
- 第 49 回 Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies
- 第 50 回 Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion
- 第 51 回 Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans
- 第 52 回 Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans
- 第 53 回 Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions
- 第 54 回 Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion
- 第 55 回 Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking
- 第 56 回 Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion
- 第 57 回 Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons
- 第 58 回 Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences
- 第 59 回 Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives
- 第 60 回 Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion
- 第 61 回 Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint
- 第 62 回 Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion
- 第 63 回 Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation
- 第 64 回 Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles
- 第 65 回 Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions
- 第 66 回 Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion
- 第 67 回 Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress
- 第 68 回 Class set book - activities
- 第 69 回 Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
X-reading Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP II <a>
------	------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	後期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	エリス, メグ.西村 友美.マルヴィー, アラン
-----	--------------------------

テーマ	
-----	--

### Bridging period to Academic English (EAP III)

#### 授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

#### 授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

#### 準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

#### 内容

- |        |   |
|--------|---|
| 第 1 回  | Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion                        |
| 第 2 回  | Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview  |
| 第 3 回  | Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular     |
| 第 4 回  | Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading                            |
| 第 5 回  | Grammar and Writing Intro — outline & expectations  |
| 第 6 回  | Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio  |
| 第 7 回  | Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion                                       |
| 第 8 回  | Unit 2: Express yourself, General listening — small talk  |
| 第 9 回  | Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet                    |
| 第 10 回 | Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion   |
| 第 11 回 | Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice                           |
| 第 12 回 | Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words |
| 第 13 回 | Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion  |
| 第 14 回 | Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview   |
| 第 15 回 | Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses  |
| 第 16 回 | Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion   |
| 第 17 回 | Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.  |
| 第 18 回 | Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words                                |
| 第 19 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)                       |
| 第 20 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)                            |
| 第 21 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)                               |
| 第 22 回 | Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion  |
| 第 23 回 | Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.                  |



- 第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100–200 words
- 第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar
- 第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion
- 第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview
- 第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past
- 第 34 回 Reading: Class set book — activities
- 第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100–200 words Edit grammar
- 第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar — present perfect tense; discussion
- 第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program
- 第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.
- 第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.
- 第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100–200 words, edit grammar
- 第 43 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Speaking test
- 第 44 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Written test
- 第 45 回 Language review & Writing assessment task
- 第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice
- 第 47 回 Grammar: Review / test Units 1–10
- 第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100–200 words
- 第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion
- 第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions
- 第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'
- 第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion
- 第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.
- 第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar
- 第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion
- 第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program
- 第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers
- 第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion
- 第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.
- 第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion
- 第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture
- 第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past
- 第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion
- 第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.
- 第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion
- 第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations
- 第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book – activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 – simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal – how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – at the airport; grammar – modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening – interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – participial adjectives; grammar – indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice – discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 – simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar – comparisons with ‘as....as’; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening – discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion – expressions for celebrations; grammar – would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 – simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine – interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self-evaluation from week 1 to week 15

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

## X-reading (前期から継続使用)

## Reading Power 2 (前期から継続使用)

未定 1 冊

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	40	授業中発表等	20
参加度	20		

## 成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP II <b>
------	------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	後期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	末澤 奈津子.タット, クリスティナ.マルヴィー, アラン
-----	-------------------------------

テーマ	
-----	--

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第 1 回	Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar – simple present & continuous; discussion
第 2 回	Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
第 3 回	Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
第 4 回	Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第 5 回	Grammar and Writing Intro — outline & expectations
第 6 回	Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第 7 回	Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
第 8 回	Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
第 9 回	Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
第 10 回	Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
第 11 回	Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第 12 回	Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第 13 回	Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
第 14 回	Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
第 15 回	Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
第 16 回	Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
第 17 回	Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
第 18 回	Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第 19 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
第 20 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
第 21 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
第 22 回	Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
第 23 回	Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.

- 第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100–200 words
- 第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar
- 第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion
- 第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview
- 第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past
- 第 34 回 Reading: Class set book — activities
- 第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100–200 words Edit grammar
- 第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar — present perfect tense; discussion
- 第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program
- 第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.
- 第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.
- 第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100–200 words, edit grammar
- 第 43 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Speaking test
- 第 44 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Written test
- 第 45 回 Language review & Writing assessment task
- 第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice
- 第 47 回 Grammar: Review / test Units 1–10
- 第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100–200 words
- 第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion
- 第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions
- 第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'
- 第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion
- 第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.
- 第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar
- 第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion
- 第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program
- 第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers
- 第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion
- 第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.
- 第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion
- 第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture
- 第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past
- 第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion
- 第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.
- 第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion
- 第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations
- 第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book – activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 – simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal – how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – at the airport; grammar – modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening – interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – participial adjectives; grammar – indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice – discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 – simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar – comparisons with ‘as....as’; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening – discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion – expressions for celebrations; grammar – would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 – simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine – interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self-evaluation from week 1 to week 15

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

## X-reading (前期から継続使用)

## Reading Power 2 (前期から継続使用)

未定 1 冊

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	40	授業中発表等	20
参加度	20		

## 成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP II <c>
------	------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	後期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	エリス, メグ, 大久保 友博, ツァオ, ドン, ドール, モーガン
-----	-------------------------------------

テーマ	
-----	--

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第 1 回	Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
第 2 回	Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
第 3 回	Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
第 4 回	Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第 5 回	Grammar and Writing Intro — outline & expectations
第 6 回	Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第 7 回	Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
第 8 回	Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
第 9 回	Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
第 10 回	Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
第 11 回	Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第 12 回	Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第 13 回	Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
第 14 回	Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
第 15 回	Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
第 16 回	Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
第 17 回	Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
第 18 回	Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第 19 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
第 20 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
第 21 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
第 22 回	Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
第 23 回	Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.



- 第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100–200 words
- 第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar
- 第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion
- 第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview
- 第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past
- 第 34 回 Reading: Class set book — activities
- 第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100–200 words Edit grammar
- 第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar — present perfect tense; discussion
- 第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program
- 第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.
- 第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.
- 第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100–200 words, edit grammar
- 第 43 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Speaking test
- 第 44 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Written test
- 第 45 回 Language review & Writing assessment task
- 第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice
- 第 47 回 Grammar: Review / test Units 1–10
- 第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100–200 words
- 第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion
- 第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions
- 第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'
- 第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion
- 第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.
- 第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar
- 第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion
- 第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program
- 第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers
- 第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion
- 第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.
- 第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion
- 第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture
- 第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past
- 第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion
- 第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.
- 第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion
- 第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations
- 第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book – activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 – simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal – how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – at the airport; grammar – modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening – interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – participial adjectives; grammar – indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice – discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 – simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar – comparisons with ‘as....as’; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening – discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion – expressions for celebrations; grammar – would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 – simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine – interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self-evaluation from week 1 to week 15

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

## X-reading (前期から継続使用)

## Reading Power 2 (前期から継続使用)

未定 1 冊

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	40	授業中発表等	20
参加度	20		

## 成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP II <d>
------	------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	後期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	弥永 啓子, タット, クリスティナ, ドール, モーガン
-----	-------------------------------

テーマ	
-----	--

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

- |        |   |
|--------|---|
| 第 1 回  | Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion                        |
| 第 2 回  | Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview  |
| 第 3 回  | Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular     |
| 第 4 回  | Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading                            |
| 第 5 回  | Grammar and Writing Intro — outline & expectations  |
| 第 6 回  | Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio  |
| 第 7 回  | Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion                                       |
| 第 8 回  | Unit 2: Express yourself, General listening — small talk  |
| 第 9 回  | Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet                    |
| 第 10 回 | Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion   |
| 第 11 回 | Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice                           |
| 第 12 回 | Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words |
| 第 13 回 | Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion  |
| 第 14 回 | Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview   |
| 第 15 回 | Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses  |
| 第 16 回 | Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion   |
| 第 17 回 | Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.  |
| 第 18 回 | Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words                                |
| 第 19 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)                       |
| 第 20 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)                            |
| 第 21 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)                               |
| 第 22 回 | Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion  |
| 第 23 回 | Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.                  |

- 第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100–200 words
- 第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar
- 第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion
- 第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview
- 第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past
- 第 34 回 Reading: Class set book — activities
- 第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100–200 words Edit grammar
- 第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar — present perfect tense; discussion
- 第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program
- 第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.
- 第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.
- 第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100–200 words, edit grammar
- 第 43 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Speaking test
- 第 44 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Written test
- 第 45 回 Language review & Writing assessment task
- 第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice
- 第 47 回 Grammar: Review / test Units 1–10
- 第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100–200 words
- 第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion
- 第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions
- 第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'
- 第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion
- 第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.
- 第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar
- 第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion
- 第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program
- 第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers
- 第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion
- 第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.
- 第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion
- 第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture
- 第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past
- 第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion
- 第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.
- 第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion
- 第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations
- 第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book – activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 – simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal – how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – at the airport; grammar – modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening – interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – participial adjectives; grammar – indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice – discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 – simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar – comparisons with ‘as....as’; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening – discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion – expressions for celebrations; grammar – would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 – simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine – interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self-evaluation from week 1 to week 15

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

X-reading (前期から継続使用)

Reading Power 2 (前期から継続使用)

未定 1 冊

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	40	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP II <e>
------	------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	後期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	ツァオ, ドン.西村 友美.マルヴィー, アラン
-----	--------------------------

テーマ	
-----	--

### Bridging period to Academic English (EAP III)

#### 授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

#### 授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

#### 準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

#### 内容

- |        |   |
|--------|---|
| 第 1 回  | Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion                        |
| 第 2 回  | Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview  |
| 第 3 回  | Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular     |
| 第 4 回  | Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading                            |
| 第 5 回  | Grammar and Writing Intro — outline & expectations  |
| 第 6 回  | Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio  |
| 第 7 回  | Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion                                       |
| 第 8 回  | Unit 2: Express yourself, General listening — small talk  |
| 第 9 回  | Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet                    |
| 第 10 回 | Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion   |
| 第 11 回 | Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice                           |
| 第 12 回 | Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words |
| 第 13 回 | Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion  |
| 第 14 回 | Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview   |
| 第 15 回 | Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses  |
| 第 16 回 | Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion   |
| 第 17 回 | Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.  |
| 第 18 回 | Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words                                |
| 第 19 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)                       |
| 第 20 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)                            |
| 第 21 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)                               |
| 第 22 回 | Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion  |
| 第 23 回 | Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.                  |



- 第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100–200 words
- 第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar
- 第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion
- 第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview
- 第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past
- 第 34 回 Reading: Class set book — activities
- 第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100–200 words Edit grammar
- 第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar — present perfect tense; discussion
- 第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program
- 第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.
- 第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.
- 第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100–200 words, edit grammar
- 第 43 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Speaking test
- 第 44 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Written test
- 第 45 回 Language review & Writing assessment task
- 第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice
- 第 47 回 Grammar: Review / test Units 1–10
- 第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100–200 words
- 第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion
- 第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions
- 第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'
- 第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion
- 第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.
- 第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar
- 第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion
- 第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program
- 第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers
- 第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion
- 第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.
- 第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion
- 第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture
- 第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past
- 第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion
- 第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.
- 第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion
- 第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations
- 第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book – activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 – simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal – how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – at the airport; grammar – modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening – interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – participial adjectives; grammar – indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice – discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 – simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar – comparisons with ‘as....as’; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening – discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion – expressions for celebrations; grammar – would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 – simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine – interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self-evaluation from week 1 to week 15

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

## X-reading (前期から継続使用)

## Reading Power 2 (前期から継続使用)

未定 1 冊

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	40	授業中発表等	20
参加度	20		

## 成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称 EAP II &lt; f &gt;

クラス

配当回生

学部 1 回生

講義期間

後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者

エリス, メグ.末澤 奈津子.ドール, モーガン.西村 友美

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

- 第 1 回 Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
- 第 2 回 Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
- 第 3 回 Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
- 第 4 回 Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
- 第 5 回 Grammar and Writing Intro — outline & expectations
- 第 6 回 Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
- 第 7 回 Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
- 第 8 回 Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
- 第 9 回 Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
- 第 10 回 Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
- 第 11 回 Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
- 第 12 回 Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
- 第 13 回 Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
- 第 14 回 Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
- 第 15 回 Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
- 第 16 回 Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
- 第 17 回 Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
- 第 18 回 Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
- 第 19 回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
- 第 20 回 TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
- 第 21 回 TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
- 第 22 回 Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
- 第 23 回 Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.

- 第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100–200 words
- 第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar
- 第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion
- 第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview
- 第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past
- 第 34 回 Reading: Class set book — activities
- 第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100–200 words Edit grammar
- 第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar — present perfect tense; discussion
- 第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program
- 第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.
- 第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.
- 第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100–200 words, edit grammar
- 第 43 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Speaking test
- 第 44 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Written test
- 第 45 回 Language review & Writing assessment task
- 第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice
- 第 47 回 Grammar: Review / test Units 1–10
- 第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100–200 words
- 第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion
- 第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions
- 第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'
- 第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion
- 第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.
- 第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar
- 第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion
- 第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program
- 第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers
- 第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion
- 第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.
- 第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion
- 第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture
- 第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past
- 第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion
- 第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.
- 第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion
- 第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations
- 第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book – activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 – simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal – how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – at the airport; grammar – modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening – interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – participial adjectives; grammar – indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice – discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 – simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar – comparisons with ‘as....as’; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening – discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion – expressions for celebrations; grammar – would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 – simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine – interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self-evaluation from week 1 to week 15

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

## X-reading (前期から継続使用)

## Reading Power 2 (前期から継続使用)

未定 1 冊

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	40	授業中発表等	20
参加度	20		

## 成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

講義名称	EAP II <g>
------	------------

クラス	配当回生	学部 1 回生
-----	------	---------

講義期間	後期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	大久保 友博, タット, クリスティナ, ツァオ, ドン, ドール, モーガン
-----	---

テーマ	
-----	--

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. \* Classes will be conducted in English only.

準備学習 (予習・復習)

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

- |        |   |
|--------|---|
| 第 1 回  | Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar – simple present & continuous; discussion                        |
| 第 2 回  | Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview  |
| 第 3 回  | Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular     |
| 第 4 回  | Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading                            |
| 第 5 回  | Grammar and Writing Intro — outline & expectations  |
| 第 6 回  | Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio  |
| 第 7 回  | Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion                                       |
| 第 8 回  | Unit 2: Express yourself, General listening — small talk  |
| 第 9 回  | Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet                    |
| 第 10 回 | Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion   |
| 第 11 回 | Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice                           |
| 第 12 回 | Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words |
| 第 13 回 | Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion  |
| 第 14 回 | Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview   |
| 第 15 回 | Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses  |
| 第 16 回 | Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion   |
| 第 17 回 | Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.  |
| 第 18 回 | Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words                                |
| 第 19 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)                       |
| 第 20 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)                            |
| 第 21 回 | TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)                               |
| 第 22 回 | Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion  |
| 第 23 回 | Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.                  |



- 第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100–200 words
- 第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
- 第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
- 第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
- 第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
- 第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar
- 第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion
- 第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview
- 第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past
- 第 34 回 Reading: Class set book — activities
- 第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
- 第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100–200 words Edit grammar
- 第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar — present perfect tense; discussion
- 第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program
- 第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.
- 第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations
- 第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.
- 第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100–200 words, edit grammar
- 第 43 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Speaking test
- 第 44 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review: Written test
- 第 45 回 Language review & Writing assessment task
- 第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice
- 第 47 回 Grammar: Review / test Units 1–10
- 第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100–200 words
- 第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion
- 第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions
- 第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'
- 第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion
- 第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.
- 第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar
- 第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion
- 第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program
- 第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers
- 第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion
- 第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.
- 第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion
- 第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture
- 第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past
- 第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion
- 第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.
- 第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar
- 第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion
- 第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations
- 第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book – activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 – simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal – how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – at the airport; grammar – modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening – interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion – participial adjectives; grammar – indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice – discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 – simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar – comparisons with ‘as....as’; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening – discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion – expressions for celebrations; grammar – would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 – simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine – interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self-evaluation from week 1 to week 15

## 履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

X-reading (前期から継続使用)

Reading Power 2 (前期から継続使用)

未定 1 冊

参考書	著者	出版社	出版年
-----	----	-----	-----

## 成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	40	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments, Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.